

# 日本医科大学研究業績年報

第 51 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 51



平成 16 ( 2004 ) 年度

April 2004    March 2005

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 51 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 51

平成 16 ( 2004 ) 年度

April 2004—March 2005

# ま え が き

学長 荒 木 勤

どの大学にあっても、高度な教育研究を推進する「知の拠点」として専門教育、質の高い研究を推進発展させることに全力を注いでおります。本学において、教育研究を巡る状況はこれまでになく大きく、そして急速に変化しています。本学の研究も、ただ本学内だけで行う研究から脱皮し、他の大学研究機関や研究所との連携を促進しなければなりません。また、同時に産学官の有機的な連携のもと、大きな仕事に取り組むことが重要となります。本学で遂行された知的創造活動や成果を社会に還元することが必要となります。社会のニーズも考慮された研究成果が大いに評価される時代となりました。

「知」の拠点として大学における研究の重要性が一層増していくなか、個性豊かな国際的競争力にも打ち克つ、質の高い研究が求められます。本学における研究成果が知の創造と活用にどのようにつながってゆくのかを検証すべきです。研究から生み出される成果は知的財産の取得、育成、活用へと発展させていかねばなりません。このことが社会貢献の一つとして有意義であることを忘れてはならないと思います。

このような観点から、2004年度の日本医科大学医学研究業績年報をみてみました。

年々論文数が増えております。2004年度もその傾向は顕著でした。また、英文論文が増えていることは大変嬉しいことです。研究分野の幅も広がっていることがうかがわれます。しかし、研究の評価は論文の数ではありません。研究論文の質です。深さです。この業績集から研究の質の向上、深さを知るすべを知りません。各々の研究の評価は第三者に委ねることも必要でしょう。その事によりインパクトファクターの高いジャーナルへの投稿、採用といった研究室が質の高い研究をめざしていることもうかがえ知り得ます。社会貢献を念頭においた研究が益々増えてゆくことを期待する次第です。

終わりに、この業績年報の編集にご尽力下さいました鈴木秀典研究委員会委員長に謝意を表します。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学 .....	1
[心理学] .....	1
[文化人類学] .....	2
[経済学] .....	2
[人文社会学演習] .....	3
2. 自然科学 .....	4
[数 学] .....	4
[物理学] .....	4
[化 学] .....	5
[生物学] .....	7
3. 外国語 .....	11
[英 語] .....	11
[ドイツ語] .....	12
4. スポーツ科学 .....	14
[スポーツ科学] .....	14

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座 .....	19
2. 解剖学第二講座 .....	22
3. 生理学第一講座 .....	25
4. 生理学第二講座 .....	29
5. 生化学第一講座 .....	32
6. 生化学第二講座 .....	36
7. 薬理学講座 .....	41
[薬理学] .....	41
[臨床薬理センター] .....	43
8. 病理学第一講座 .....	44
9. 病理学第二講座 .....	51
10. 微生物学・免疫学講座 .....	59
11. 衛生学・公衆衛生学講座 .....	65
12. 法医学講座 .....	68
13. 医療管理学講座 .....	71
14. 基礎医学共同研究利用施設 .....	74
[実験動物管理室] .....	74
[中央電子顕微鏡研究施設] .....	75
[情報科学センター] .....	77

### 〔3〕臨床医学

1. 内科学第一講座	83
[ 付属病院第1内科 ( 一般内科, 循環器内科, 肝臓内科 ) ]	83
[ 付属病院老人科 ]	100
[ 第二病院内科 ( 内科, 循環器科, 神経内科 ) ]	104
[ 多摩永山病院内科, 循環器内科 ]	106
2. 内科学第二講座	109
[ 付属病院第2内科 ( 神経内科, 腎臓内科 ) ]	109
[ 付属病院リウマチ科 ]	123
3. 内科学第三講座	127
[ 付属病院第3内科 ( 血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科 ) ]	127
4. 内科学第四講座	143
[ 付属病院呼吸器内科 ]	143
5. 精神医学講座	152
[ 付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ]	152
[ 付属病院東洋医学科 ]	162
6. 小児科学講座	164
[ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]	164
7. 放射線医学講座	175
[ 付属病院放射線科 ]	175
[ 第二病院放射線科 ]	185
[ 多摩永山病院放射線科 ]	187
[ 千葉北総病院放射線科 ]	188
8. 皮膚科学講座	190
[ 付属病院皮膚科・多摩永山病院皮膚科・千葉北総病院皮膚科 ]	190
[ 第二病院皮膚科 ]	198
9. 外科学第一講座	201
[ 付属病院第1外科 ( 消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科 ) ]	201
[ 多摩永山病院外科 ( 消化器外科・乳腺外科・一般外科 ) ]	231
[ 多摩永山病院消化器科 ]	237
[ 千葉北総病院外科 ]	250
10. 外科学第二講座	255
[ 付属病院第2外科 ( 内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科 ) ・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]	255
[ 第二病院外科 ( 外科, 心臓血管外科 ) ]	271
11. 脳神経外科学講座	274
[ 付属病院脳神経外科 ]	274
[ 第二病院脳神経外科 ]	292
[ 多摩永山病院脳神経外科 ]	295
[ 千葉北総病院脳神経外科 ]	297

12.	整形外科学講座	302
	[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科 ]	302
13.	産婦人科学講座	310
	[ 付属病院女性診療科・産科 ]	310
	[ 第二病院女性診療科・産科 ]	316
	[ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]	320
	[ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]	323
14.	耳鼻咽喉科学講座	326
	[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]	326
15.	泌尿器科学講座	340
	[ 付属病院泌尿器科 ]	340
	[ 第二病院泌尿器科 ]	344
	[ 多摩永山病院泌尿器科 ]	346
16.	眼科学講座	347
	[ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]	347
	[ 千葉北総病院眼科 ]	351
17.	麻酔科学講座	353
	[ 付属病院麻酔科 ]	353
	[ 第二病院麻酔科 ]	360
	[ 多摩永山病院麻酔科 ]	362
	[ 千葉北総病院麻酔科 ]	363
18.	救急医学講座	367
	[ 付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急部・ 多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック ]	367
	[ 第二病院救命救急部 ]	377
	[ 多摩永山病院救命救急センター ]	380
	[ 千葉北総病院救命救急センター ]	382
19.	形成外科学講座	389
	[ 付属病院形成外科・美容外科 ]	389
	[ 第二病院形成外科 ]	398
	[ 千葉北総病院形成外科 ]	400
20.	付属病院付置施設等	402
	[ 付属病院遺伝診療科 ]	402
	[ 付属病院集中治療室 ]	403
	[ 付属病院病理部 ]	410
	[ 付属病院中央検査部 ]	417
	[ 付属病院薬剤部 ]	419
	[ 付属病院生理機能センター ]	422

[ 付属病院看護部 ] .....	424
[ 付属病院放射線科技師室 ] .....	426
[ 付属病院ME部 ] .....	428
[ 日本医科大学腎クリニック ] .....	429
[ ワクチン療法研究施設 ] .....	429
21. 第二病院付置施設等 .....	431
[ 第二病院消化器病センター ] .....	431
[ 第二病院病理部 ] .....	436
[ 第二病院中央検査室 ] .....	439
[ 第二病院薬剤科 ] .....	440
[ 第二病院看護部 ] .....	441
22. 多摩永山病院付置施設等 .....	442
[ 多摩永山病院病理部 ] .....	442
[ 多摩永山病院中央検査室 ] .....	446
[ 多摩永山病院薬剤科 ] .....	446
[ 多摩永山病院看護部 ] .....	448
[ 多摩永山病院放射線科技師室 ] .....	448
23. 千葉北総病院付置施設等 .....	450
[ 千葉北総病院内科 ] .....	450
[ 千葉北総病院集中治療室 ] .....	457
[ 千葉北総病院リハビリテーション科 ] .....	460
[ 千葉北総病院病理部 ] .....	461
[ 千葉北総病院中央検査室 ] .....	466
[ 千葉北総病院薬剤科 ] .....	467
[ 千葉北総病院中央画像検査室 ] .....	468
[ 千葉北総病院歯科 ] .....	470
[ 千葉北総病院看護部 ] .....	471
〔4〕付置研究施設	
1. 老人病研究所 .....	475
[ 病理学部門 ] .....	475
[ 生化学部門 ] .....	478
[ 免疫部門 ] .....	483
[ 疫学部門 ] .....	485
[ 分子生物学部門 ] .....	488
[ 生体応答学部門 ] .....	490
〔5〕その他	
1. 教育推進室 .....	493
付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....	499
1. 平成16年度科学研究費補助金交付決定一覧 .....	499
2. 平成16年度文部科学省研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況 .....	507

3 . 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況 .....	507
4 . 平成16年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況 .....	508
5 . 平成16年度各種補助金の交付状況一覧 [ 内訳 ].....	510
6 . 平成16年度補助・委託一覧 .....	512
7 . 平成16年度学術賞受賞一覧 .....	527
8 . 平成16年度知的財産一覧（特許権）.....	531



## 〔 1 〕 基 礎 科 学

# 1. 人文科学・社会科学

## [ 心理学 ]

### 研究概要

本年度はコラージュ療法と投映描画法テストバッテリーの臨床的研究と啓蒙活動に加えて、医療管理学教室高柳和江助教授、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻の西出和彦助教授、岡本和彦講師らとの共同研究「空間認知と不安、気分・感情状態との関連について」を行い論文にまとめた。また学生相談室が開室以来10年目となり記念すべき年となった。

1. 日本医科大学基礎科学紀要に原著論文「空間認知と不安気分・感情状態との関連について」を発表した。
2. 「カウンセリングプロセスハンドブック」福島・田上・沢崎・諸富監修・編集金子書房に事例研究「不登校の中学3年生女子が高校受験するまで」を執筆した。
3. 日本心理臨床学会において「投映描画法テストの読み方 - 星と波描画テストを中心として - 」を鈴木康明氏と金丸隆太氏と共同で発表した。
4. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動を本年度も行った。東京コラージュ療法研究会を5回行った。今年度は東京コラージュ療法研究会の代表・世話人を中心に、5月は「30歳男性の境界例」を杉浦が、7月は「鬱と同一性障害を抱えて来談した22歳男性のコラージュ・描画テスト」を東京家政大学の近喰ふじ子氏が、9月は「両親から虐待を受けた一女性」を服部臨床心理研究室の服部令子氏が、11月は参加者の木下悦子氏から提供された「水遊びにこだわる知的障害・29歳の男性コラージュ」を京都文教の森谷寛之氏が、2月は「ブロック技法を介した場面緘黙児の精神療法過程」を入江クリニックの入江茂氏がそれぞれ発表した。また7月にはスイスからブルーノ・リーネル氏を講師に招き、投映描画法テストバッテリーセミナーを開催し、その他、藤沢市教育委員会、川崎市教育委員会、千葉県子どもと親のサポートセミナー、明治安田生命こころの健康財団のセミナー、早稲田心理臨床研修会、日本カウンセリング学会の研修会で講師を、日本心理臨床学会で座長を務めた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 杉浦京子，武内愛美，角館奈緒子，高柳和江<sup>1)</sup>，高橋寛汰<sup>2)</sup>，西出和彦<sup>3)</sup>，岡本和彦<sup>3)</sup>，西本 悠<sup>3)</sup>，柳澤壮一郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学医療管理学，<sup>2)</sup>日本医科大学，<sup>3)</sup>東京大学大学院工学系研究科建築学専攻): 空間認知と不安、気分・感情状態との関連について。日本医科大学基礎科学紀要 2005；(34)：51-74。

#### 著書

- 1) 杉浦京子：〔分担〕第IV部 事例研究 事例3 不登校の中学3年生女子が高校受験するまで。カウンセリングプロセスハンドブック（福島脩美，田上不二夫，沢崎達夫，諸富祥彦），2004；pp366-376，金子書房。
- 2) 杉浦京子：〔指導〕表現療法へのアプローチ。ビジュアル心理学入門（松原達哉 監修），2004；株式会社サン・エデュケーショナル。

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 近喰ふじ子，杉浦京子，森谷寛之，中村勝治，川瀬久美子，山本映子，鷹村アヤ子，西村善文，末松弘之，入江 茂，服部令子（<sup>1)</sup>東京家政大学，<sup>2)</sup>日本医科大学，<sup>3)</sup>京都文教大学，<sup>4)</sup>中村心理カウンセリング，<sup>5)</sup>メン

タルサポートオフィスひととき,<sup>6)</sup> 広島県立保健福祉大学,<sup>7)</sup> スクールカウンセラー,<sup>8)</sup> 西九州大学社会福祉学部,<sup>9)</sup> 川村学園女子大学,<sup>10)</sup> 入江クリニック, 服部心理相談室): 「全国のコラージュ療法研究会における活動報告から今後のコラージュ療法のあり方を探る」. 日本心理臨床学会, 2004. 9.

(2) ポスターセッション:

- 1) 杉浦京子, 鈴木康明, 金丸隆太 (<sup>1)</sup> 日本医科大学, <sup>2)</sup> 国土館大学, <sup>3)</sup> 茨城大学): 投映描画法テストの読み方その1: 星と波描画テストを中心として. 日本心理臨床学会, 2004. 9.

(3) 指定討論:

- 1) 新見秀和, 久松睦典, 杉浦京子, 山口素子 (<sup>1)</sup> 佛教大学学生相談室, <sup>2)</sup> 立命館大学心理・教育相談センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学, <sup>4)</sup> 神戸女学院大学): 描画法における解釈行為について. 日本箱庭療法学会, 2004. 10.

## [ 文化人類学 ]

### 研究概要

文化・文明の構造と機能, 人間の行動原理と文化・文明との関連性, 生活の豊かさの本質, 現代社会における宗教的精神性の意義, 日本人の心, 理想的社会像等について究明している.

### 研究業績

#### 論文

(1) 研究ノート:

- 1) 伊藤末博: 美しき日本: 日本を愛でる. 日医大基礎科学紀要 2004; (34): 113-125.

## [ 経済学 ]

### 研究概要

経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し, これまでの研究を継続, 発展させてきた.

従来から実施してきた電子マネーに関する研究に関して, 今年度はとくに理論的研究に重点を置き, 電子マネーを切り口に「貨幣」について考察し, 電子マネーの貨幣論的位置づけを明らかにすることに務めた.

また, 日本経済・世界経済の現状把握のための研究会では, 一昨年来日本の雇用に関する調査研究をすすめているが, 今年度は日本の雇用喪失を東アジア, とりわけ中国の台頭との係わりでとらえ, 現状と課題を明らかにした. その際, 現代のリーディング産業である電機・電子産業の技術的特性に着目し, 日本の電機メーカーの海外シフトと中国の台頭をもたらした背景を明らかにしている. その成果は, 研究会での発表, シンポジウムなどで公表してきたが, 現在報告書にまとめているところである.

現在では, 北東アジアを中心に日本企業を中心とする企業内・間ネットワークの形成が進んでおり, 電機・電子産業だけでなく自動車産業にも広がりつつある. その現状把握を進めているところである.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 三輪春樹: 日本企業の海外展開と雇用. 情報サービス産業における人材開発・育成と雇用管理に関する調査研究報告書 2005; 9-37.

## [ 人文社会学演習 ]

### 研究概要

「人間はいかにして主観的な自我によって対象を対象に即して認識できるのか」というテーマを追及している。このテーマを総仕上げである博士論文の準備稿として、ヘーゲルの著書『精神現象学』の研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 総説：

- 1) 黒崎 剛：「無限性」はいかなる存在学を基礎づけるのか：ヘーゲル『精神現象学』における「無限性」論の研究。日本医科大学基礎科学紀要 2004；34：11-49。

## 2. 自然科学

### [ 数学 ]

#### 研究概要

階層近似を越えた本来の  $O(N)$  スピン系や、多様体上の場の理論の分析、特に anomaly についての数学的考察を進めている。(渡辺)

2変数 Kantorovich 型不等式の、各領域の間の同値性について研究した。また、numerical range と operator norm の関係を考察した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Giga M, Furuta T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Tokyo University of Science): Order preserving inequalities and related operator functions. Archives of Inequalities and Applications 2004 ; 2 ( 1 ): 113-122 .
- 2) Watanabe H : Triviality of hierarchical  $O(N)$  Spin model in four dimensions with large  $N$  . journal of Statistical Physics 2004 ; 115 : 1669-1713 .

##### (2) 綜説：

- 1) Watanabe H : Triviality of hierarchical  $O(N)$  model in four dimensions . 数理解析研究所 講義録 2004 ; 1386 : 237-246 .
- 2) 渡辺 浩 : 0 と . 別冊 数理科学 「微積分の広がり」 2004 ; 12-16 .
- 3) 渡辺 浩 : 数理解析 : 無限自由度の数理 . 数学ガイドンス ( 日本評論社 ) 2005 ; 118-123 .

##### (3) 研究報告書：

- 1) Giga M : Some extensions of Kantorovich type inequalities . 数理解析研究所講義録 2004 ; 1359 : pp30-37 .

##### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 渡辺 浩 : 4次元階層的  $O(N)$  模型の繰り込み群解析 . 研究集会「非可換微分幾何学と数理解析」 慶應義塾大学日吉キャンパス, 2004 . 11 .

##### (2) 一般講演：

- 1) Giga M : The equivalence on Kantorovich type inequalities . The 7th Workshop on Numerical Ranges and Numerical Radii ( The University of Coimbra, Portugal ), 2004 . 7 .
- 2) Giga M : The equivalence among three Kantorovich type inequalities . 作用素論における作用素不等式の役割 ( Role of Operator Inequalities in Operator Theory ), 2004 . 12 .

### [ 物理学 ]

#### 研究概要

1) フロンティア分子軌道が、ミオシンによる ATP 加水分解の初期過程を示唆するという結果を得ているが、その発展的な研究を行っている。非経験的分子軌道法の時間を含めた動的な拡張を目的に手法の開発を進めている。(香川)

2) タンパク質の構造機能相関を解明するために、分子の振動状態に着目した理論的研究手法の開発を行っている。Fermi の黄金則を Condon 近似すると振動波動関数の重なり積分が現れるが、この積分値を具体的に算出する公式を導出した。この公式は、調和振動子近似の範囲で、Wilson の G 行列と F 行列を用いた形となっており、Line Shape Function を記述したものである。前年度予測した、まだ3次元構造のわかっていない T-Cell Receptor の構造を、より信頼性のある計算を行うことによってリファインした。(菊地)

3) 初期の予想通りには議論が進まないが、成分フォークモデル+ポテンシャルモデル(：ハイブリッドのポテンシャル)に基づき、比較的質量の重い中間子の中でも、相対論的效果を出来るだけ抑えて良い近似で予測したいので、低いレベルの質量を議論、計算中である。(三浦)

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Itoh C<sup>1)</sup>, Miura K, Watanabe T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Meiji-Gakuin Univ. ,<sup>2)</sup> Asia Univ. ): Hyperfine Structure of Heavy Quarkonia in Hamiltonian Light-front QCD . 亜細亜大学学術文化紀要 2005 ; (6) : 1-19 .

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 鈴木里史<sup>1)</sup>, 香川 浩, 森 和英<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> WCSC ): 液相分子の ab initio brownian dynamics - 研究提案 - . 2004 年度 WCSC 研究発表会, 2004 . 6 .
- 2) 中川洋子<sup>1)</sup>, 菊地浩人, 清水真澄<sup>1)</sup>, 栗林秀樹<sup>1)</sup>, 渡邊恵理<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 微生物学・免疫学 ): HIV 外被糖蛋白 gp160 に特異的な細胞傷害性 T 細胞の認識特異性に関する新たな知見 . 日本免疫学会, 2004 . 12 .

## [ 化学 ]

### 研究概要

石田：

シリカゲル TLC に関する研究

- (1) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), および他の金属の三成分分離
- (2) 塩類 - 有機溶媒 - 水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

菅原：

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成および不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中：

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

- (1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン, 電子移動反応中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究
- (2) 生体内微量元素等と疾患, 環境等との関連

永井：

2, 2'-ビピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究
- (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田：

シリカゲルTLC, CMセルロースTLCおよびゼオライトTLCに関する研究

- (1) 塩類水溶液 - 有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動
- (2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討
- (3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明
- (4) 塩類水溶液系におけるアルカリ土類金属の吸着挙動と分離  
貴金属元素の分離および定量に関する研究
- (1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構
- (2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Takeda Y, Ishida K, Hasegawa T<sup>1)</sup>, Katoh A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Chemistry, Tokyo Gakuji University, <sup>2)</sup> Department of Applied Chemistry, Faculty of Engineering, Seikei University ): Thin-layer chromatographic behavior and separation of alkaline earth metals on silica gel in aqueous sodium perchlorate solution . Journal of Chromatography A 2004 ; 1049 : 233-236 .
- 2) 武田洋一, 石田宏二 : カルボキシメチルセルロース - 塩化ナトリウム水溶液系における希土類元素の薄層クロマトグラフィーとイットリウムの特異的分離 . 分析化学 2004 ; 53 ( 7 ): 729-734 .
- 3) 武田洋一, 石田宏二 : カルボキシメチルセルロース - 硝酸ナトリウム水溶液系における希土類元素の薄層クロマトグラフィーとイットリウムの分離 . 分析化学 2004 ; 53 ( 11 ): 1325-1328 .

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 田中幹夫, 三木瑛一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 立教大理学部 ): LSIMS マスペクトルで観測された[RuX<sub>2</sub>(bpy)<sub>2</sub>] ( X=Cl and CN ) の電子移動反応 . 第52回質量分析総合討論会, 2004 .
- 2) 武田洋一, 石田宏二, 長谷川正<sup>1)</sup>, 加藤明良<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京学芸大学教育学部, <sup>2)</sup> 成蹊大学工学部 ): シリカゲル - 過塩素酸ナトリウム水溶液系におけるアルカリ土類金属の薄層クロマトグラフィーと分離 . 日本化学会 第85春季年会, 2005 . 3 .

## [ 生物学 ]

### 研究概要

本教室では現在、動物発生学、微生物生理学、植物環境生態学など、生物学の異なる専門分野で個別の研究が行われている。各研究の概要は以下の通りである。

1) 再生医学の基礎研究として、アフリカツメガエルを実験材料にして、消化管再構築の分子機構の解明を目指している。特に、独自に開発した小腸の遺伝子導入培養系を用いて、MMP-11による上皮アポトーシス誘導機構の解析、上皮幹細胞を制御する間葉由来因子の解明に焦点をあてて免疫組織化学的手法により研究を進めている。消化管形成に関わる遺伝子の機能解析を進めるため、トランスジェニックガエルを用いた研究も開始した。(岡)

2) すでに報告されている海産無脊椎動物の発生過程(主にウニ類)の再検討を行った。また昨年に引き続き、ウニ類の体腔細胞(4種類存在)の培養、機能、由来などの検討を継続した。(関)

3) カロテノイド色素に関して、物理化学的性質、紅色光合成細菌の色素分析と色素の生理学的性質、ゲノム配列が発表されたシアノバクテリアを中心に色素の同定と生合成遺伝子の機能発現などを研究している。また5年ほど取り組んでいた好塩細菌の色素の化学構造を決定し機能を議論した(国際、国内共同研究)。生理活性脂質データベースLIPID<sub>BANK</sub> for Webのカロテノイド部門責任者としてデータ追加・更新をしている。他大学の大学院学生や若手の研究者などに対する研究指導も行っている。(高市)

4) 変動環境への植物の適応について、北極圏に生育する多年生植物をモデルとして研究している。北極圏は、温暖化の影響が最も大きいと危惧されるため、そこに生育する植物の生態に関する基礎データの収集は、気候変化に対する生態系の反応予測の上でも重要である。プレフォーマーシオンの意義、フェノロジーに影響を与える環境要因、発芽特性、病原菌類の生存への影響などについて、野外観察データの解析と実験を行っている。(西谷)

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Akimoto S<sup>1)</sup>, Yamazaki I<sup>1)</sup>, Murakami A<sup>2)</sup>, Takaichi S, Mimuro M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Hokkaido Univ. ,<sup>2)</sup> Kobe Univ. ,<sup>3)</sup> Kyoto Univ. ): Ultrafast excitation relaxation dynamics and energy transfer in the siphonaxanthin-containing green alga *Codium fragile*. Chem Phys Lett 2004 ; 390 (1-3): 45-49 .
- 2) Buchholz DR<sup>1)</sup>, Ishizuya-Oka A, Shi Y-B<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> NIH): Spatial and temporal expression pattern of a novel gene in the frog *Xenopus laevis* : correlations with adult intestinal epithelial differentiation during metamorphosis . Gene Expr Patterns 2004 ; 4 (3): 321-328 .
- 3) Jung DO<sup>1)</sup>, Achenbach LA<sup>1)</sup>, Kar EA<sup>1)</sup>, Takaichi S, Madigan MT<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Southern Illinois Univ. ): A gas vesiculate planktonic strain of the purple-nonsulfur bacterium *Rhodospirillum rubrum* isolated from Lake Fryxell, Dry Valleys, Antarctica . Arch Microbiol 2004 ; 182 (2-3): 236-243 .
- 4) Takaichi S, Maoka T<sup>1)</sup>, Akimoto N<sup>2)</sup>, Sorokin D<sup>3, 4)</sup>, Banciu H<sup>4)</sup>, Kuenen JG<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Research Inst. Production Development ,<sup>2)</sup> Kyoto Univ. ,<sup>3)</sup> Russian Academy Science ,<sup>4)</sup> Delft Univ. Technology ): Two novel yellow pigments natronochrome and chloronatronochrome from the natrono (alkali) philic sulfur-oxidizing bacterium *Thiobacillus versutus* strain ALJ 15 . Tetrahedron Lett 2004 ; 45 (45): 8303-8305 .
- 5) Yatsunami R<sup>1)</sup>, Takaichi S, Nakamura S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Inst. Technology ): Isolation of *crfI* homolog from extremely halophilic archaeon *Haloarcula japonica* strain TR-1 . Nucleic Acids Symposium Series 2004 ; 48 : 193-194 .
- 6) Banciu H<sup>1)</sup>, Sorokin DY<sup>1, 2)</sup>, Rijpstra WIC<sup>3)</sup>, Damste JSS<sup>3)</sup>, Galinski EA<sup>4)</sup>, Takaichi S, Muyzer G<sup>1)</sup>, Kuenen JG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Delft Univ. Technology ,<sup>2)</sup> Russian Academy Science ,<sup>3)</sup> NIOZ ,<sup>4)</sup> Rheinische Friedrich-Wil-



helms Univ. ,<sup>5)</sup> Babes-Bolyai Univ. ): Fatty acid, compatible solute and pigment composition of obligately chemolithoautotrophic alkaliphilic sulfur-oxidizing bacteria from soda lakes . FEMS Microbiol Lett 2005 ; 243 ( 1 ): 181-187 .

7) Takaichi S , Mochimaru M<sup>1)</sup> , Maoka T<sup>2)</sup> , Katoh H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Komazawa Univ. , <sup>2)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. , <sup>3)</sup> Univ. Tokyo ): Myxol and 4-ketomyxol 2 , -fucosides, not rhamnosides, from *Anabaena* sp. PCC 7120 and *Nostoc punctiforme* PCC 73102, and proposal for the biosynthetic pathway of carotenoids . Plant Cell Physiol 2005 ; 46 ( 3 ): 497-504 .

8) Tsuchiya T<sup>1)</sup> , Takaichi S , Misawa N<sup>2)</sup> , Maoka T<sup>1)</sup> , Miyashita H<sup>1)</sup> , Mimuro M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Univ. , <sup>2)</sup> Marine Biotechnology Inst. , <sup>3)</sup> Research Inst. Production Development ): The cyanobacterium *Gloeobacter violaceus* PCC 7421 uses bacterial-type phytoene desaturase in carotenoid biosynthesis . FEBS Lett 2005 ; 579 ( 10 ): 2125-2129 .

## (2) 綜説 :

1) Ishizuya-Oka A : Epithelial-connective tissue cross-talk is essential for regeneration of intestinal epithelium . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ): 13-18 .

## (3) 研究報告書 :

1) 岡 敦子 : 消化管上皮の再構築に関わる結合組織由来因子の機能的解析 . 平成 14 ~ 16 年度科学研究費補助金 ( 基盤研究 ( C ) ( 2 ) ) 研究成果報告書 2005 ; pp1-66 .

## 著 書

1) Ishizuya-Oka A , Amano T<sup>1)</sup> , Fu L<sup>1)</sup> , Shi Y-B<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> NIH ): [ 分担 ] Regulation of apoptosis by extracellular matrix during postembryonic development in *Xenopus laevis* . When Cells Die II : A Comprehensive Evaluation of Apoptosis and Programmed Cell Death ( Lockshin RA, Zakeri Z Eds ), 2004 ; pp123-141 , John Wiley & Sons, Inc. .

## 学会発表

### (1) 追加分一般講演 :

1) 秋本誠志<sup>1)</sup> , 山崎 巖<sup>1)</sup> , 村上明男<sup>2)</sup> , 高市真一 , 三室 守<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 北海道大・工 , <sup>2)</sup> 神戸大学・内海環境教育研究センター , <sup>3)</sup> 京都大学・地球環境学堂 ): シフォナキサンチン-クロロフィル *a/b*-タンパク質におけるカロテノイドの励起緩和 . 日本化学会第 84 春季年会 , 2004 . 3 .

### (2) 特別講演 :

1) 岡 敦子 : 消化管上皮再生の分子機構 . 第 72 回日本医科大学医学会総会 , 2004 . 9 .

### (3) 招待講演 :

1) 岡 敦子 : 消化管上皮幹細胞を制御する間葉由来因子の解析 . 第 1 回日本消化管学会総会 , 2005 . 1 .

### (4) 教育講演 :

1) 高市真一 : カロテノイドの IUPAC-IUB 命名規則の変更 : “ Key to Carotenoids ” から “ Carotenoids Handbook ” へ . 第 18 回カロテノイド研究会談話会 , 2004 . 9 .

### (5) シンポジウム :

1) 高市真一 : 陸上植物 , シアノバクテリア , 緑色硫黄細菌 , 紅色細菌のカロテノイド生合成経路と遺伝子 . 北海道大学低温研研究集会 「 光合成色素の代謝 」 , 2004 . 11 .

2) 土屋 徹<sup>1)</sup> , 高市真一 , 宮下英明<sup>1)</sup> , 三室 守<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都大・地球環境学堂 ): 光合成色素合成系から見た *Gloeobacter violaceus* の特徴 . 北海道大学低温研研究集会 「 光合成色素の代謝 」 , 2004 . 11 .

(6) ワークショップ:

- 1) Akimoto S<sup>1)</sup>, Ohmae M<sup>1)</sup>, Yokono M<sup>1)</sup>, Yamazaki I<sup>1)</sup>, Satoh S<sup>1)</sup>, Tanaka A<sup>1)</sup>, Murakami A<sup>2)</sup>, Takaichi S, Higuchi T<sup>3)</sup>, Mimuro M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Hokkaido Univ, <sup>2)</sup>Kobe Univ, <sup>3)</sup>Kyoto Univ. ): Ultrafast relaxation dynamics of carotenoids in pigment-protein complexes probed by time-resolved fluorescence spectroscopy. PS 2004 Light-Harvesting Systems Workshop (Quebec), 2004. 8.

(7) 一般講演:

- 1) Yoshii Y<sup>1)</sup>, Suda S<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Inouye I<sup>4)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup>Univ. Fukui, <sup>2)</sup>Univ. Ryukyus, <sup>3)</sup>Kyoto Pharmaceutical Univ., <sup>4)</sup>Univ. Tsukuba ): Diversity of carotenoids in the Prasinophyceae, primitive members of green plants. 13th International Congress on Photosynthesis (Montreal), 2004. 8.
- 2) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup>Komazawa Univ. ): Carotenoids and carotenogenesis pathway in the cyanobacteria *Anabaena* sp. PCC 7120 and *Nostoc punctiforme* PCC 73102. 13th International Congress on Photosynthesis (Montreal), 2004. 8.
- 3) Ishizuya-Oka A, Ueda S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dokkyo Univ. Sch. Med. ): Shh/BMP-4 signaling is involved in development of intestinal epithelium originating from stem cells during *Xenopus* larval-to-adult remodeling. 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists (Kyoto), 2004. 8.
- 4) Nishitani S, Masuzawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Shizuoka Univ. ): Germination characteristics of Arctic *Polygonum viviparum* in Ny-Alesund, Svalbard. Third International Symposium on the Arctic Research (Tokyo), 2005. 2.
- 5) 高市真一, 眞岡孝至<sup>1)</sup>, Herbert RA<sup>2)</sup>, Gall A<sup>3)</sup>, Cogdell RJ<sup>3)</sup>, Robert B<sup>4)</sup>, Schwabe S<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>京都薬科大, <sup>2)</sup>Univ. Dundee, <sup>3)</sup>Univ. Glasgow, <sup>4)</sup>CEA-Saclay, <sup>5)</sup>Int. Blue Holes Foundation ): 紅色光合成細菌: カロテノイド, 吸収エネルギー, 進化. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー XII, 2004. 6.
- 6) 鍋田 誠<sup>1)</sup>, 原田二郎<sup>1)</sup>, 高市真一, 三沢典彦<sup>2)</sup>, 永島賢治<sup>1)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 嶋田敬三<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>都立大・理・生物, <sup>2)</sup>海洋バイオテクノロジー研 ): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* における -カロテン蓄積株の作成. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー XII, 2004. 6.
- 7) 三室 守<sup>1)</sup>, 秋本誠志<sup>2)</sup>, 村上明男<sup>3)</sup>, 高市真一, 山崎 巖<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>京都大・地球環境学堂, <sup>2)</sup>北海道大・工, <sup>3)</sup>神戸大・内海域環境教育研究センター ): 緑藻ミルにおける光捕獲のための戦略 - カロテノイドの新しい電子状態の利用. 第26回日本光医学・光生物学会, 2004. 7.
- 8) 西谷里美, 増沢武弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>静岡大・理・生物 ): 越冬条件がムカゴトラノオの発芽と成長に及ぼす影響. 第51回日本生態学会, 2004. 8.
- 9) 高市真一, 持丸真里<sup>1)</sup>, 眞岡孝至<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>駒澤大・文・自然, <sup>2)</sup>京都薬科大 ): シアノバクテリア *Anabaena* と *Nostoc* のカロテノイドと生合成経路. 第18回カロテノイド研究会談話会, 2004. 9.
- 10) 高市真一, 持丸真里<sup>1)</sup>, 眞岡孝至<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>駒澤大・文・自然, <sup>2)</sup>京都薬科大 ): シアノバクテリア *Anabaena variabilis* ATCC 29413 のカロテノイドと生合成経路. 日本植物学会第68回大会, 2004. 9.
- 11) 吉井幸恵<sup>1)</sup>, 高市真一, 眞岡孝至<sup>2)</sup>, 須田彰一郎<sup>3)</sup>, 関口弘志<sup>4)</sup>, 中山 剛<sup>1)</sup>, 井上 勲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>筑波大・生物, <sup>2)</sup>京都薬科大, <sup>3)</sup>琉球大, <sup>4)</sup>海洋バイオテクノロジー研 ): プラシノ藻 *Nephroselmis* 属におけるカロテノイド分布とその進化的意義. 日本植物学会第68回大会, 2004. 9.
- 12) 生澤昌之<sup>1)</sup>, 清水克彦<sup>2)</sup>, 安増茂樹<sup>1)</sup>, 井内一郎<sup>1)</sup>, 岡 敦子 ( <sup>1)</sup>上智大学・生命研, <sup>2)</sup>広島県産科技研 ): アフリカツメガエル消化管の再構築における転写因子 TH/bZip の機能解析. 第75回日本動物学会大会, 2004. 9.
- 13) 八波利恵<sup>1)</sup>, 高市真一, 中村 聡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京工業大・生命理工 ): 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* strain TR-1 からの CrtI ホモログをコードする遺伝子のクローニング. 第31回核酸化学シンポジウム, 2004. 11.
- 14) 東條元昭<sup>1)</sup>, 西谷里美: スパールパル諸島ニールスに生息するムカゴトラノオの生存に及ぼす黒穂病菌感染の影響. 第27回極域生物シンポジウム, 2004. 12.
- 15) 鍋田 誠<sup>1)</sup>, 原田二郎<sup>2)</sup>, 高市真一, 三沢典彦<sup>3)</sup>, 永島賢治<sup>1)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 嶋田嶋三<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>都立大・理・生物,

- 2) 立命館大・理工, 3) 海洋バイオテクノロジー研): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* を用いた環状カロテノイドの生体内酸化障害防止機能の評価. 第46回日本植物生理学会年会, 2005. 3.
- 16) 片山光徳<sup>1)</sup>, 高市真一, 池内昌彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大・総合文化 ): *Synechocystis* sp. PCC 6803 の強光照射により誘導されるカロテノイド蓄積に関わるフィトクロム様タンパク質. 第46回日本植物生理学会年会, 2005. 3.
- 17) 高市真一, 持丸真里<sup>1)</sup>, 眞岡孝至<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 駒澤大・文・自然, <sup>2)</sup> 生産開発研 ): シアノバクテリウム *Anabaena variabilis* ATCC 29413 のカロテノイド生合成経路と遺伝子. 第46回日本植物生理学会年会, 2005. 3.
- 18) 土屋 徹<sup>1)</sup>, 高市真一, 三沢典彦<sup>2)</sup>, 眞岡孝至<sup>3)</sup>, 宮下英明<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都大・地球環境学堂, <sup>2)</sup> 海洋バイオテクノロジー研, <sup>3)</sup> 生産開発研 ): ラン藻 *Gloeobacter violaceus* PCC 7421 のカロテノイド生合成に関わる遺伝子の解析. 第46回日本植物生理学会年会, 2005. 3.
- 19) 持丸真里<sup>1)</sup>, 増川 一<sup>2)</sup>, 高市真一 ( <sup>1)</sup> 駒澤大・文・自然, <sup>2)</sup> 神奈川大・理 ): *Anabaena* sp. PCC 7120 の遺伝子破壊株作成によるカロテノイド生合成経路の解析. 第46回日本植物生理学会年会, 2005. 3.
- 20) 中村敏枝<sup>1)</sup>, 西谷里美, 可知直毅<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 都立大・理・生物 ): ヒガンバナの成長解析. 第52回日本生態学会, 2005. 3.
- 21) 東條元昭<sup>1)</sup>, 西谷里美 ( <sup>1)</sup> 大阪府大・農 ): 高緯度北極のムカゴトラノオに発生する黒穂病菌 *Microbotryum bistortarum* の宿主生存に及ぼす影響と形態的特徴. 平成17年度日本植物病理学会大会, 2005. 3.

## 3 . 外国語

### [ 英語 ]

#### 研究概要

The English Department used its limited space in the NMS curriculum to provide what training it could in the four major language skill areas. *Our Stolen Future* by Theo Colborn et al. provided the source materials on endocrine disrupters for instruction in academic reading and writing skills, while commercially available texts were used for the listening and speaking components of the first-year program. Training in academic writing continued into the first term of the second year and was augmented with an introduction to English for medical professionals. In addition, the first-year students were offered a seminar course on media English, and the second-year students a series of lectures on “ Women Writers in 19th- and 20th-century Britain and America ” and “ William Shakespeare's *Romeo and Juliet* ” .

The Department continued to pursue both linguistic and literary research and contributed to several publications in the 2004 academic year.

In the linguistic field, the third in a series of books identifying and classifying the grammatical and lexical misconceptions that commonly occur in Japanese students ’ English writing was published, as was a paper on our continued research into the nature of English academic writing by Japanese university-level students, which focused this time on the influences of their writing experiences in both Japanese and English. Research was conducted and presented on the gap between the scope of rhetorically oriented English writing textbooks and the needs of Japanese students unaccustomed to the hierarchical sentence organization of paragraphs in written English. The Department was also involved in the compiling and editing of materials from the American Heart Association's annual conference in New Orleans, Louisiana in November, 2004.

“ Body, Medicine and Culture ” has been the main theme of the Department's literary research over the last few years. Research on the depiction of violated bodies in tragic Tudor Interludes was launched and is expected to be the topic of future publications. Articles published during the 2004 academic year include one on Audre Lorde's experience of breast cancer ( based on research carried out in 2003 ) and another on the pedagogical use of literary texts in university English classes. Work was also carried out on the political interpretation of Jonathan Swift's Irish tracts and of Maria Edgeworth's Irish fiction.

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) 西川純恵 : 大学における英文アカデミック・ライティング教育の方向性 : 医科大学生の日英語のライティング学習経験との関連から . 日本医科大学基礎科学紀要 2004 ; 34 : 77-94 .
- 2) 中村哲子 : 英語教育における文学教材の新たな可能性 : スタインバックの *Of Mice and Men* を教材として . 慶應義塾外国語教育研究 2005 ; 1 : 157-176 .

##### (2) インタビュー記事 :

- 1) ミントン TD : EJ Interviews : BBC Journalists Jonathan Head . The Voice of EJ ( English Journal ) 2004 ; 35-50 .

(3) 記事 :

- 1) ミントン TD : Learning, Improving, 日本人の間違いだらけの英文法完全治療クリニック . English Journal 2004 ; 4月-3月各月2ページ .
- 2) ミントン TD : <Special Feature> British English Inside Out : アメリカ英語とどこが違う? クイーンズ・イングリッシュ大研究 . English Journal 2004 ; (12月号) : 21-26, 31 .

著 書

- 1) Nakamura T , Fellows J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Cambridge University) : [ 編集 ] *Annual Bibliography of English Language and Literature for 2003*. Vol. 78 , 2004 ; Published by Maney Publishing for the Modern Humanities Research Association .
- 2) ミントン T , 山口俊治 : [ 共著 ] 『英単語 Make It : アドバンスト・コース』, 2004 ; pp1-645 , 語学春秋社 .
- 3) ミントン T : [ 自著 ] 『ここがおかしい日本人の英文法 III』, 2004 ; pp1-220 , 研究社 .
- 4) 中村哲子 : [ 分担 ] 乳癌との闘い = 再生へのプロセス : オードリー・ロードの拓いた道 . 『腐敗と再生 : 身体医文化論 III』(小菅隼人編) , 2004 ; pp326-345 , 慶應義塾大学出版会 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 中村哲子 : The Injured Ladyの行方 : Swift から Edgeworth へ . 海保眞夫先生記念慶應シンポジウム , 2004 . 10 .

(2) ワークショップ :

- 1) 中村哲子 : 見せしめ/抵抗の violated bodies : 悲劇的インターロードを中心に . 身体医文化論研究会 , 2005 . 3 .

(3) 一般講演 :

- 1) Nakamura T : Uneasiness over the Hybrid Nation in Maria Edgeworth's *Ennui* . IASIL Japan , 2004 . 10 .
- 2) Nishikawa S : An Examination of EFL/ESL Writing Textbooks for Japanese University Students . 7th Annual Temple University Applied Linguistics Colloquium , 2005 . 2 .

## [ ドイツ語 ]

### 研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く「Kommunikativer Sprachunterricht」が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個人的活動について言えば、国信はドイツ古典主義芸術理論について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 安藤 勉：オーストリア皇太子F・フェルディナントの来日事情：サラエボ事件の二十一年前．日独文化交流史研究 2004；6

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 国信浩洋：ルートヴィヒ・リース：本郷における生活について．日本独学史学会，2004．12．
- 2) 安藤 勉：ホーエンベルガーという画家：ウィーン分離派第二代会長の日本像．日本独学史学会，2004．12．

## 4. スポーツ科学

### [ スポーツ科学 ]

#### 研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。

1. 運動前日にラットの下肢筋に超短波を照射することが、骨格筋の熱ショックタンパク質を増加させ、運動による筋損傷を抑制することを明らかにした（伊藤超短波株式会社との共同研究）。
2. メロンより注出したSuperoxide dismutaseを大量に含むオキシカインの投与が、ギブス固定による骨格筋萎縮を抑制することを明らかにし、このオキシカインの作用について特許を申請した（コンビ株式会社との共同研究）。
3. 持久的運動トレーニングが肝細胞のストレス耐性を高め、酸化ストレス負荷時の細胞生存率を上昇させることを、初代培養肝細胞を用いた実験系により明らかにした（日本体育大学との共同研究）。

武藤：以下の項目について研究を行った。

1. マルチメジャー（特許申請）を使用しての高齢者生活活動力バッテリーテストを開発し、その信頼性と妥当性を明らかにした。さらに測定値の標準化を進め、バッテリーテストの一般化を推進した。
2. 日常運動を行っていない高齢者を対象に、2カ月間の運動教室参加による生活活動力に及ぼす影響を検討した。その結果、日常運動していない高齢者にとっては、短期間の定期的な運動でも生活活動力向上に効果があることが明らかになった。
3. 発展途上にあるカンボジアの青少年の体格および体力、生活習慣等の調査研究を継続的に行っている。今年度はシエムリアップと首都であり都市であるプノンペンにおいて調査を行い、今後のカンボジアの体育・健康教育を支援する基礎的資料を得るため分析を進めている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mikami T, Sumida S<sup>1)</sup>, Ishibashi Y<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka Gakuin Univ. , <sup>2)</sup>Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School ): Endurance exercise training inhibits activity of plasma GOT and liver caspase-3 of rats exposed to stress by induction of heat shock protein 70 . J. Appl. Physiol 2004 ; 96 : 1776-1781 .
- 2) 渡部 隼二 <sup>1)</sup>, 武藤 三千代, 増田 敬子<sup>1)</sup>, 小林 勉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>日本工業大学 ): 高齢者における生活活動力の測定法に関する研究 . 運動とスポーツの科学 2004 ; 10 ( 1 ): 19-26 .

##### (2) 研究報告：

- 1) 増田 敬子<sup>1)</sup>, 渡部 隼二 <sup>1)</sup>, 武藤 三千代, 三村 由紀<sup>2)</sup>, 山口 由子<sup>1)</sup>, 渡部 月子<sup>1)</sup>, 日高 潤子<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>防衛大学校, <sup>3)</sup>目白大学 ): 高齢者の生活活動力テストの検討：10mジグザグ歩行時間測定 . 運動とスポーツの科学 2004 ; 10 ( 1 ): 69-74 .

##### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Mikami T, Nagata K<sup>1)</sup>, Ohno M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University ): Electrically stimulated muscle contraction attenuates muscle atrophy caused by hindlimb-sus-

pension . 9th Annual Congress European College of Sport Science ( France ), 2004 . 7 .

- 2) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 増田敬子<sup>1)</sup>, 小林 勉<sup>2)</sup>, 白石まりも<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>日本工業大学, <sup>3)</sup>二松学舎大学): 高齢者生活活動力テストについて: 立ち上がり時間測定 . 日本体育学会第55回大会, 2004 . 9 .
- 3) 増田敬子<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 小林 勉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>日本工業大学): 高齢者生活活動能力テストについて: 10mジグザグ歩行時間測定 . 日本体育学会第55回大会, 2004 . 9 .
- 4) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 増田敬子<sup>1)</sup>, 小林 勉<sup>2)</sup>, 衣笠竜太<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>日本工業大学, <sup>3)</sup>日本体育大学): 高齢者生活活動能力テストについて: ボール移動時間測定 . 日本体育学会第55回大会, 2004 . 9 .
- 5) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>日本医科大学衛生学・公衆衛生学): 高齢者における2カ月間の運動教室参加の効果について . 第63回日本公衆衛生学会総会, 2004 . 10 .
- 6) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代 (<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学): 高齢者における運動群と非運動群の比較 . 第63回日本公衆衛生学会総会, 2004 . 10 .



## 〔 2 〕 基 礎 医 学

# 1. 解剖学第一講座

## 研究概要

今年度の解剖学第一講座は、下記分子解剖学的研究を展開し、医学の発展に寄与する研究体制づくりを進めた。

- (1) 胎盤の分子解剖学：新規のIgG輸送体と考えられる、ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内のII型Fc受容体-小胞の解析、栄養膜細胞層の解析を進めた。形態学的解析（森助手、倉澤研究生）と共に、細胞の単離培養（石川（朋）助手、羅助手、後藤助教授）、PCR（ポストドクター三嶋）、プロテオミクス解析（石川（朋））を開始した（産婦人科学講座・竹下俊行教授、石川 源助手、生化学第一講座・西野武士教授、片山 映助手、米国オハイオ州立大学医学部生理細胞生物学講座・John M. Robinson教授、自治医科大学産婦人科学講座・松原茂樹教授、鈴木光明教授、解剖学講座・屋代 隆教授、宮崎大学医学部病理学第二講座・片岡寛章教授との共同研究）。
- (2) パイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：生きた細胞でのFc受容体-小胞やカベオラの可視化および解析を行うために、三嶋、大学院生川東が中心となり、GFP融合分子発現ベクター作製、トランスフェクション、細胞培養を行った。
- (3) RNAiを用いた機能形態解析と臨床応用：大学院生・水口が中心となり、肝疾患に関するRNAiの臨床応用のための基盤研究を継続した（外科学第一講座・田尻 孝教授との共同研究）。
- (4) 生殖細胞特異的分子TEX101の解析：三嶋、森、瀧澤助手が中心となり、新規分子TEX101に関して生殖腺分化過程における発現解析を行った（順天堂大学大学院環境医学研究所・荒木慶彦助教授との共同研究）。

平成16年4月1日付けで三嶋拓也（平成16年3月日本医科大学大学院修了）がポストドクターに採用され大学院時代の研究をさらに展開すると共に、川東 豊（平成12年日本医科大学卒）が大学院生として加わった。瀧澤は、解剖学第二講座の主任教授代行を務めた。

## 研究業績

### 論文

(1) Photogravure :

- 1) Takizawa T, Robinson John M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Physiology and Cell Biology, Ohio State Univ. , Columbus, OH 43210, USA ): Thin is better : ultrathin cryosection immunocytochemistry . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ((5)): 306-307 .
- 2) 葉山惟信<sup>1)</sup>, 林 耕次<sup>1)</sup>, 野本英嗣<sup>1)</sup>, 橋本康司<sup>1)</sup>, 羽田朋人<sup>1)</sup>, 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 東園和哉<sup>1)</sup>, 引間高太<sup>1)</sup>, 久金翔<sup>1)</sup>, 菱村祐介<sup>1)</sup>, 森 美貴, 瀧澤敬美, 石川朋子, 羅 善順, 後藤 忠, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 医学部学生 ): 表皮デスモゾーム : 分子解剖学での免疫蛍光顕微鏡実習から . 日医大医学会誌 2005 ; 1 ((1)): 2-3 .

### 著書

- 1) 中村澄夫<sup>1)</sup>, 山口正視<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 神奈川歯科大学, <sup>2)</sup> 千葉大学真菌医学研究センター ): [ 分担 ] 5節 細胞化学 . 電顕入門ガイドブック ([ 社 ] 日本顕微鏡学編), 2004 ; pp85-92, 学会出版センター .

### 学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Robinson John M<sup>1)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup> Dept. Physiol. and Cell Biol. , Ohio State Univ. : Ultrathin cryosections for high resolution immunofluorescence and correlative microscopy ( B-4 Ultrastructure and Immunocytochemistry ). 8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy and 60th Annual Meeting of the Japanese

Society of Microscopy ( Kanazawa, Japan ), 2004 . 6 .

- 2) 瀧澤俊広, 三嶋拓也, 高山 剛<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, Anderson Clark L<sup>3)</sup>, Robinson John M<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Obstet. and Gynecol., Jichi Med. Sch., <sup>2)</sup>Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch., <sup>3)</sup>Dept. Int. Med., Ohio State Univ., <sup>4)</sup>Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ. ): 凍結超薄切片・免疫細胞化学を用いた胎盤 IgG 輸送機構の解析 ( S27 最近の凍結技法による細胞組織学的解析応用 ). 第 110 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005 . 3 .

(2) 一般講演 :

- 1) Ishikawa T, Mori M, Kitoh J<sup>1)</sup>, Takizawa T, Yamashita K ( <sup>1)</sup>Nagoya Univ. ): Three-dimensional observations of hepatic histological architectures by computer-assisted reconstruction from serial sections in house musk shrews and mice . 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists and 109th Annual Meeting of Japanese Association of Anatomists ( Kyoto, Japan ), 2004 . 8 .
- 2) Luo Shan-S, Sugimoto K, Fujii S, Yamashita K, Takizawa T : In situ expression of heat shock proteins in rat arterial endothelial cells . 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists and 109th Annual Meeting of Japanese Association of Anatomists ( Kyoto, Japan ), 2004 . 8 .
- 3) Takizawa T, Igarashi S<sup>1)</sup>, Yasuda Y<sup>2)</sup>, Uchiwa H<sup>1)</sup>, Brysk H<sup>3)</sup>, Robinson John M<sup>4)</sup>, Yamamoto K<sup>2)</sup>, Brysk Miriam M<sup>3)</sup>, Horikoshi T<sup>1)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup>Cosmetics Laboratory, Kanebo Ltd, <sup>2)</sup>Dept. Pharmacol., Kyushu Univ. Fac. Dent., <sup>3)</sup>Dept. Dermatol., Univ. Texas Med., <sup>4)</sup>Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ. ): Cathepsin D is an important enzyme during epidermal desquamation . 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists and 109th Annual Meeting of Japanese Association of Anatomists ( Kyoto, Japan ), 2004 . 8 .
- 4) Takizawa T, Robinson John M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ. ): Immunofluorescence and correlative microscopy using ultrathin cryosections . 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists and 109th Annual Meeting of Japanese Association of Anatomists ( Kyoto, Japan ), 2004 . 8 .
- 5) Takizawa T, Anderson Clark L<sup>1)</sup>, Robinson John M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Int. Med., Ohio State Univ., <sup>2)</sup>Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ. ): A novel Fc gamma RIIB-defined IgG-containing compartment in placental endothelium . 10th International Federation of Placental Associations Meeting and Placenta Association of the America Conference 2004 ( Asilomar, CA, USA ), 2004 . 9 .
- 6) Mishima T, Takayama T<sup>1)</sup>, Ishikawa G<sup>2)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Matsubara S<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Robinson John M<sup>3)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup>Dept. Obstet. and Gynecol., Jichi Med. Sch., <sup>2)</sup>Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch., <sup>3)</sup>Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ. ): Fetal endothelial cells in full-term placenta, but not in first trimester placenta, express Fc gamma RIIB2 mRNA . IX International Congress of Reproductive Immunology ( Hakone, Japan ), 2004 . 10 .
- 7) 高山 剛<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup>自治医科大学産婦人科学講座 ): 初期胎盤に胎児型 Fc 受容体は発現しているが, II 型 Fc 受容体は発現していない . 第 56 回日本産婦人科学会総会, 2004 . 4 .
- 8) 瀧澤俊広, 高山 剛<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup>, 佐藤郁夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>自治医科大学産婦人科学講座 ): 胎盤における母体から胎児への免疫グロブリン輸送機構 : II 型 Fc 受容体を含む新しい細胞内小器官の発見 . 第 56 回日本産婦人科学会総会, 2004 . 4 .
- 9) 吉村明修<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 国信浩洋<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広, 後藤 忠, 明樂重夫<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>4)</sup>, 新田 隆<sup>4)</sup>, 宮下次廣<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>教育推進室, <sup>2)</sup>ドイツ語, <sup>3)</sup>産婦人科学, <sup>4)</sup>外科学第 2, <sup>5)</sup>放射線医学 ): 学生による授業評価トライアル中間解析結果 . 第 72 回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 10) 森 美貴, 石川 源<sup>1)</sup>, 倉澤剛太郎, 後藤 忠, 片岡寛章<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科

学,<sup>2)</sup>宮崎大学医学部病理学第二講座): ヒト胎盤絨毛における細胞性栄養膜(ラングハンス細胞)の分布様式について. 第45回日本組織細胞化学会学術集会, 2004. 10.

- 11) Nurmamat B<sup>1)</sup>, 山本直之<sup>1)</sup>, 薛 昊罡<sup>1)</sup>, 克力木 古麗尼沙<sup>1)</sup>, 楊 春英<sup>1)</sup>, 吉本正美<sup>1)</sup>, 澤井信彦<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)解剖学第2)</sup>: スズキ型硬骨魚類ティラピアの半円堤中心核の線維連絡. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 12) 後藤 忠, 石川朋子, 羅 善順, 森 美貴, 瀧澤敬美, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)教育推進室)</sup>: 日本医科大学における分子解剖学全授業のアンケート調査. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 13) 三嶋拓也, 金 紅<sup>1,3)</sup>, 森 美貴, 瀧澤敬美, 高山 剛<sup>2)</sup>, 鈴木光明<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>2)</sup>, 木下勝之<sup>1)</sup>, 荒木慶彦<sup>3)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)順天堂大学医学部産婦人科学講座, 2)自治医科大学産婦人科学講座, 3)順天堂大学環境医学研究所)</sup>: 新生児期のマウス生殖細胞における TES101 reactive protein (TES101RP) の発現. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 14) 森 美貴, 石川 源<sup>1)</sup>, 倉澤剛太郎, 後藤 忠, 片岡寛章<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)産婦人科学, 2)宮崎大学医学部病理学第二講座)</sup>: ヒト胎盤絨毛における栄養膜細胞層の連続性について. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 15) 水口義昭<sup>1)</sup>, 三嶋拓也, 川東 豊, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)外科学第1)</sup>: TGF beta receptor II に対する RNAi による肝障害抑制効果の形態学的検討. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 16) 石川朋子, 羅 善順, 片山 映<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 後藤 忠, 竹下俊行<sup>2)</sup>, Robinson John M<sup>3)</sup>, 西野武士<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)日本医科大学学生化学第1, 2)同産婦人科学, 3)Dept. Physiology and Cell Biology, Ohio State Univ.</sup>: ヒト胎盤終末絨毛の血管内皮細胞のプロテオミクス解析: 第1報. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 17) 楊 春英<sup>1)</sup>, 薛 昊罡<sup>1)</sup>, 山本直之<sup>1)</sup>, 吉本正美<sup>1)</sup>, 伊藤博信<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)解剖学第2)</sup>: スズキ型硬骨魚類ティラピアの糸球体核前部の線維連絡. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 18) 羅 善順, 石川朋子, 森 美貴, 石川 源<sup>1)</sup>, 後藤 忠, 竹下俊行<sup>1)</sup>, Robinson John M<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)日本医科大学産婦人科学, 2)Dept. Physiology and Cell Biology, Ohio State Univ.</sup>: CD31 イムノビーズによるヒト満期産胎盤終末絨毛からの胎児血管内皮細胞の単離. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.
- 19) 薛 昊罡<sup>1)</sup>, 山本直之<sup>1)</sup>, 楊 春英<sup>1)</sup>, 伊藤博信<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>(1)解剖学第2)</sup>: 硬骨魚類イトウダいの小脳の出力. 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3.

## 2. 解剖学第二講座

### 研究概要

解剖学第二講座の研究は、比較形態学を土台とした肉眼解剖学と神経解剖学の領域を中心に研究展開してきた。これは人間の病気の多くが進化の歪みに起因していると考えられるためである。ヒトの進化上の特徴は「大脳化」と「直立二足歩行」であるといえる。大脳化の影響は胎児にまでおよび、その結果は産科や婦人科などの問題となっている。ヒトはその解決策として生理的早産の道を選んだが、そのため新生児や小児科領域の問題が新たに生じた。急速な大脳新皮質の発達、精神科や脳外科領域で生ずる問題の原因となっている。直立二足歩行は整形外科領域の問題をはじめ、多くの分野で問題を生じている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。解剖学実習のご遺体に観察される成人の異常構造 (variation) や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検討も行なっている。特に、運動器系 (筋肉と骨格)、循環器系、肝臓の門脈系、泌尿器系 (特に腎臓)、末梢神経系などを研究の中心においている。

神経解剖学の分野では、系統発生と進化を土台とした比較神経学を主体としている。研究の基本的なアイデアは、全ての脊椎動物の脳は共通の基本設計に基づいて形成され、各々の種が獲得した生態的地位によって修飾されている、というものである。これまで、種に特有な脳構造をその種のもつ生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。これまでに、大脳新皮質の進化の解明、特に無層性皮質の成立証明、二つ以上の異なる種類の情報 (特に視覚と一般体性感覚) の脳内での関連機構の解明、各種感覚系上行路の系統発生的な解析、脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、視床下部の進化、中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性感覚投射の解析と機能の解明などに重点を置いて研究展開してきた。通常のスズル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による神経線維の解析、標識法を用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行なっている。これらの業績を背景に、今後は神経制御やホルモン制御による生体制御機構について、新しいイメージング技法も交え、新たな研究体制として構築する予定である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Xue H-G, Yang C-Y, Ito H: The anterograde and retrograde axonal transport of biotinylated dextran amine and biocytin in the nervous system of teleosts. *Brain Research Protocols* 2004; 13 (2): 106-114.
- 2) Xue H-G, Yamamoto N, Yang C-Y, Imura K, Ito H: Afferent connections of the corpus cerebelli in holocentrid teleosts. *Brain Behav. Evol* 2004; 64 (4): 242-258.
- 3) Xue H-G, Yang C-Y, Luo S-S, Hamada Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Orthopedic Surgery, School of Medicine, Yamaguchi University ): Anatomical and radiological studies on degenerative changes of the ulnar wrist. *Information* 2004; 7 (6): 767-770.
- 4) Deguchi T<sup>1)</sup>, Suwa H<sup>2)</sup>, Yoshimoto M, Kondoh H<sup>1,2)</sup>, Yamamoto N ( <sup>1)</sup>Osaka University, <sup>2)</sup>ERATO Kondoh Differentiation Project ): Central connection of the optic, oculomotor, trochlear and abducens nerves in medaka, *Oryzias latipes*. *Zoological Science* 2004; 22: 321-332.

- 5) Kage T<sup>1)</sup>, Takeda H<sup>2)</sup>, Yasuda T<sup>1)</sup>, Maruyama K<sup>1)</sup>, Yamamoto N, Yoshimoto M, Araki K<sup>3)</sup>, Inohaya K<sup>4)</sup>, Okamoto H<sup>3)</sup>, Yasumatsu S<sup>5)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Ito H, Ishikawa Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Radiological Science, <sup>2)</sup> University of Tokyo, <sup>3)</sup> National Research Institute of Aquaculture, <sup>4)</sup> Tokyo Institute of Technology, <sup>5)</sup> Sophia University ): Morphogenesis and regionalization of the medaka embryonic brain . J. Comp. Neurol 2004 ; 476 : 219-239 .
- 6) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Kage T<sup>1)</sup>, Yamamoto N, Yoshimoto M, Yasuda T<sup>1)</sup>, Matsumoto A<sup>1)</sup>, Maruyama K<sup>1)</sup>, Ito H ( <sup>1)</sup> National Institute of Radiological Science ): Axonogenesis in the medaka embryonic brain . J. Comp. Neurol 2004 ; 476 : 240-253 .
- 7) Yang C-Y, Yoshimoto M, Xue H-G, Yamamoto N, Imura K, Sawai N, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Ito H ( <sup>1)</sup> Division of Biology, Institute of Radiological Science ): Fiber connections of the lateral valvular nucleus in a percomorph teleost, tilapia (*Oreochromis niloticus*) . J. Comp. Neurol 2004 ; 474 : 209-226 .
- 8) Kerem G, Yoshimoto M, Yamamoto N, Yang C-Y, Xue H-G, Ito H : Somatotopic organization of the trigeminal ganglion cells in a cichlid fish, *Oreochromis (tilapia) niloticus* . Brain Behav. Evol 2005 ; 65 ( 2 ): 109-126 .

## 著 書

- 1) 伊藤博信, 内山博之<sup>1)</sup>, 山本直之 ( <sup>1)</sup> 鹿児島大学 ): [ 翻訳 ] 機能的神経科学, 2004 ; シュプリンガー・フェアラーク東京 .
- 2) 田沼久美子 : [ 分担 ] 第2章 血流マッサージの考え方 . デンタル・メディカルスタッフのためのリハビリメイク入門 ( かづきれいこ, 田上順次編 ), 2004 ; pp24-24, 医歯薬出版 .
- 3) 齋藤敏之, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 田 秀蘭<sup>3)</sup>, 萩原万里子<sup>4)</sup>, 福富隆志<sup>5)</sup>, 宮川国久<sup>6)</sup>, 薬師寺史厚<sup>7)</sup>, 山本直之, 吉本正美 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup> 日本大学歯学部麻酔科, <sup>3)</sup> 医療公社東京都東部病院麻酔科, <sup>4)</sup> 都立豊島病院内科, <sup>5)</sup> 国立がんセンター乳腺外科, <sup>6)</sup> 同放射線診断科, <sup>7)</sup> 都立墨東病院内科 ): [ 共著 ] 実践・解剖学 ( 齋藤敏之 編著 ), 2004 ; 克誠堂出版 .
- 4) 田沼久美子, 田沼 裕<sup>1)</sup>, 南 和文<sup>2)</sup>, 吉田 匠<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝京大・医・解剖学教室, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院・整形外科, <sup>3)</sup> 吉田鍼灸院 ): [ 共著 ] これならわかる要点解剖学, 2004 ; 南山堂 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Yamamoto N : Auditory connections in cyprinid teleosts ( Comparative Neurology of the Auditory System ). 16th International Congress of IFAA ( 第109回日本解剖学会総会 )( Kyoto ), 2004 . 8 .
- 2) 吉本正美 : 硬骨魚類の一般臓性感覚 . 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005 . 3 .

### (2) セミナー :

- 1) 伊藤博信 : Relationship between brain morphology and ecological niche in teleosts . Riken Brain Science Institute Forum , 2004 . 4 .

### (3) 一般講演 :

- 1) Yoshimoto M, Yamamoto N, Ito H : Fiber connections of the nucleus preglomerulosus pars commissuralis in a percomorph teleost, Tilapia . 16th International Congress of IFAA ( 第109回日本解剖学会総会 )( Kyoto ), 2004 . 8 .
- 2) Saito T, Steinke H<sup>1)</sup>, Schmidt W<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Ito H ( <sup>1)</sup> Dept. of Anatomy, Leipzig University ): Analysis of nerve running of the posterior rami of the spinal nerve by transparent specimen . 16th International Congress of IFAA ( Kyoto ), 2004 . 8 .

- 3) Nishimura Y, Watanabe S, Motoda N, Ide H, Gyotoku K, Asakawa M, : Morphometric study of kidney volume in Japanese adults . 16th International Congress of the IFAA ( Kyoto ), 2004 . 8 .
- 4) Saigusa H<sup>1)</sup>, Kokawa T<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>2)</sup>, Tanuma K, Iwasaki C<sup>1)</sup>, Aino I<sup>1)</sup>, Saigusa M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>First Dept. of Anatomy, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Private Practice, Oral and Maxillofacial Surgery, Texas ): Morphological and physiological studies for protrusive and retrusive movements of human tongue . 16th International Congress of the IFAA ( Kyoto ), 2004 . 8 .
- 5) Sawai N, Ito H : Identifications of projections from the area dorsalis telencephali pars medialis and pars posterioris to the hypothalamus in a teleost, *Oreochromis niloticus* . 16th International Congress of the IFAA ( Kyoto, Japan ), 2004 . 8 .
- 6) Yamamoto N, Ito H : Toral recipient parts of preglomerular nucleus in cyprinid teleosts . 24th Annual JB Johnston Club Meeting ( SanDiego, USA ), 2004 . 10 .
- 7) Yamamoto N : Fiber connections of the torus semicircularis in carp and goldfish . Society for Neuroscience 2004 ( Sandiego, USA ), 2004 . 10 .
- 8) Saito T, Steinke H<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Yamamoto N (<sup>1)</sup>Dept. of Anatomy, Leipzig University ): Membranous Rezius fiber as a barrier to the spread of anesthetic solution . The annual meeting of the American Society of the Anesthesiologists ( Las Vegas ), 2004 . 10 .
- 9) Saigusa H<sup>1)</sup>, Aino I<sup>1)</sup>, Nakamura T<sup>1)</sup>, Tanuma K (<sup>1)</sup>Department of Otolaryngology ): Pathological study for the mechanism of " LCA - pull " surgery . The 4th East Asian Conference on Phonosurgery ( Kyoto ), 2004 . 12 .
- 10) 山本直之 : コイ科魚類の隆起前核の下行性聴覚神経路 . 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学学会大会 , 2004 . 9 .
- 11) 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信 : スズキ型魚類テラピアの糸球体前核交連部の線維連絡 . 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学学会大会 , 2004 . 9 .
- 12) Xue H-G, 山本直之, 楊 春英, 伊藤博信 : 硬骨魚類コイの三叉神経感覚核の出力 . 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学学会大会 , 2004 . 9 .
- 13) Sawai N, Ito H : Major portions of the dorsal telencephalon projecting to the hypothalamus in a teleost, *Oreochromis niloticus* . 第27回日本神経科学学会・第47回日本神経化学学会合同大会 , 2004 . 9 .
- 14) 石川裕二<sup>1)</sup>, 山本直之, 吉本正美, 伊藤博信, 保田隆子<sup>1)</sup>, 丸山耕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): メダカ脳の神経回路形成 : 脊椎動物の神経路形成の共通性 . 第27回日本神経科学学会・第47回日本神経化学学会合同大会 , 2004 . 9 .
- 15) 楊 春英, 薛 昊罡, 山本直之, 吉本正美, 伊藤博信, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第1 ): スズキ型硬骨魚類テラピアの糸球体核前部の線維連絡 . 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会 , 2005 . 3 .
- 16) 薛 昊罡, 山本直之, 楊 春英, 伊藤博信, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第1 ): 硬骨魚類イトウダイの小脳の出力 . 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会 , 2005 . 3 .
- 17) Nurmatamat B, 山本直之, 薛 昊罡, 克力木 古麗尼沙, 楊 春英, 吉本正美, 澤井信彦, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第1 ): スズキ型硬骨魚類テラピアの半円堤中心核の線維連絡 . 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会 , 2005 . 3 .
- 18) 三枝英人<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 浅川光夫 (<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉学, <sup>2)</sup>帝京大学医学部解剖学教室 ): 反回神経の逆行性神経線維解析的研究 . 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会 , 2005 . 3 .
- 19) 澤井信彦 : 真骨魚類の終脳の1次視覚野 : 線維連絡による亞領域の同定 . 第110回日本解剖学会総会・全国学術集会 , 2005 . 3 .
- 20) 松本真司<sup>1)</sup>, 吉本正美, 小林牧人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際基督教大・理・生物 ): キンギョ網膜の成長における終神経の関与 . 動物学会関東支部大会 , 2005 . 3 .

### 3. 生理学第一講座

#### 研究概要

本年度はレーザーキャプチャー法により標識細胞を採取する方法を実用化し、米国科学アカデミー紀要と米国内分泌学会誌に発表した。これらの論文を含め、今年度も分子生物学、形態学、細胞生理学から行動生理学にまたがる多彩な論文を何れも評価の高い国際雑誌に公表することができた。学部教育では引き続き少人数の実習を重視し、基礎配属では新たに熱心な学生を2名を迎え、また国際学会に帯同して施設見学を行わせることができた。科学研究費補助金では一昨年提出の「適応脳」、昨年「脂溶性シグナル分子」と不首尾が続いた特定領域研究の新規発足がついに採択され、「性分化機構」のうち脳の性分化研究班のとりまとめと広報を担当することになった。この他基盤研究(C)の3件と萌芽研究1件が新規採択され、基盤研究(B)と(C)、若手研究の継続課題3件に加え、計8件の研究課題が進行中である。発足来、分野研究計画委員会委員を務めている日本学術振興会日米科学協力事業「脳研究」分野では、「脳の発生分化と情動・認知機構の解析」が第2年度を迎えた。研究室の多くが今年度も国内外の招待講演に招かれ、生殖生理学の各方面で成果を公表する機会を与えられた。また、内分泌攪乱化学物質の評価法が定まり、産総研との共同研究成果の発表に至ったことも今年度の成果として特筆される。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Rho JY<sup>1)</sup>, Wada-kiyama Y, Onishi Y<sup>1)</sup>, Kiyama R<sup>1)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup>Research Center for Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology ): Expressional Regulation of Neuronal and Cancer-Related Genes by Estrogen in Adult Female Rats . *Endocrine Research* 2004 ; 30 ( 2 ): 257-267 .
- 2) Terasaka S<sup>1,2)</sup>, Aita Y<sup>1)</sup>, Inoue A<sup>1,3)</sup>, Hayashi S<sup>3)</sup>, Nishigaki M<sup>4)</sup>, Aoyagi K<sup>4)</sup>, Sasaki H<sup>4)</sup>, Wada-Kiyama Y, Sakuma Y, Akiba S<sup>5)</sup>, Tanaka J<sup>6)</sup>, Sone H<sup>6)</sup>, Yonemoto J<sup>6)</sup>, Tanji M<sup>7)</sup>, Kiyama R<sup>1,7)</sup> ( <sup>1)</sup>Research Institute for Biological Resources and Functions, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology , <sup>2)</sup>SciMedia Ltd , <sup>3)</sup>Division of Endocrinology, Saitama Cancer Center Research Institute , <sup>4)</sup>Genetics Division, National Cancer Center Research Institute , <sup>5)</sup>Innovation Research Center, Nissui Pharmaceutical Co. , Ltd. , <sup>6)</sup>Endocrine Disruptors&Dioxin Research Project, National Institute for Environmental Studies , <sup>7)</sup>InfoGenes Co. , Ltd. ) : Using a Customized DNA Microarray for Expression Profiling of the Estrogen-Responsive Genes to Evaluate Estrogen Activity among Natural Estrogens and Industrial Chemicals . *Environmental Health Perspectives Toxicogenomics* 2004 ; 112 ( 7 ): 773-782 .
- 3) Watanabe M , Sakuma Y , Kato M : High Expression of the R-Type Voltage-Gated Ca<sup>2+</sup> Channel and Its Involvement in Ca<sup>2+</sup> -Dependent Gonadotropin-Releasing Hormone Release in GT1-7 Cells . *Endocrinology* 2004 ; 145 ( 5 ): 2375-2383 .
- 4) Nishitani S , Moriya T , Kondo Y , Sakuma Y , Shinohara K : Induction of Fos immunoreactivity in oxytocin neurons in the paraventricular nucleus after female odor exposure in male rats : effects of sexual experience . *Cellular and Molecular Neurobiology* 2004 ; 24 : 283-291 .
- 5) Hasegawa T<sup>1)</sup>, Toga S<sup>2)</sup>, Morita M<sup>2)</sup>, Narumi T<sup>1)</sup>, Uesaka N ( <sup>1)</sup>Department of Mechanical and Production Engineering, Faculty of Engineering, Niigata University , <sup>2)</sup>Graduate School of Science and Technology, Niigata University ) : Micro-Flow Control and Micropump by Applying Electric Fields through a Porous Membrane . *JSME International Journal* 2004 ; 47 ( 3 ): 557-563 .



- 6) Parhar IS, Ogawa S, Sakuma Y : Laser-captured single digoxigenin-labeled neurons of gonadotropin-releasing hormone types reveal a novel Gprotein-coupled receptor ( Gpr54 ) during maturation in cichlid fish . *Endocrinology* 2004 ; 145 ( 8 ): 3613-3618 .
- 7) Xiao K, Kondo Y, Sakuma Y : Sex-specific effects of gonadal steroids on conspecific odor preference in the rat . *Hormones and Behavior* 2004 ; 46 ( 3 ): 356-361 .
- 8) Oriyasa C, Sakuma Y : Sex and region-specific regulation of oestrogen receptor beta in the rat hypothalamus . *Journal of Neuroendocrinology* 2004 ; 16 ( 6 ): 964-969 .
- 9) Parhar IS, Ogawa S, Sakuma Y : Three GnRH receptor types in laser captured single cells of the cichlid pituitary display cellular and functional heterogeneity . *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 2005 ; 102 ( 6 ): 2204-2209 .
- 10) Seki R<sup>1)</sup>, Okamura T<sup>1)</sup>, Maruyama T<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Ide T<sup>1)</sup>, Kage M<sup>3)</sup>, Sata M<sup>1)</sup>, Uesaka N ( <sup>1)</sup> Second Department of Internal Medicine, Kurume University School , <sup>2)</sup> Institute of Health Science, Kyushu University , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Kurume University School ): Quantitative studies on the impaired filterability of erythrocytes from patients with liver cirrhosis . *J. Jpn. Soc. Biorheol* 2005 ; 19 ( 1 ): 50-59 .
- 11) 佐久間康夫 : 視床下部機能の性差 . *ブレインメディカル* 2004 ; 16 ( 2 ): 64-71 .
- 12) 佐久間康夫 : GnRHニューロンの細胞生理学的研究の急展開 . *日本生殖内分泌学会誌* 2004 ; 9 : 74-77 .
- 13) 近藤保彦, 肖 凱, 佐久間康夫 : 性指向性決定の神経内分泌学的基盤 : ラットを用いた行動生理学的モデル . *日本性研究会議会報* 2004 ; 16 : 2-12 .
- 14) 近藤保彦, 佐久間康夫 : 性指向性決定の生物学 . *性差と医療* 2005 ; 2 : 189-193 .
- 15) 折笠千登世, 佐久間康夫 : 性ホルモン受容体の脳内分布 ; エストロゲン受容体ベータの発現における性差 . *性差と医療* 2005 ; 2 ( 2 ): 161-165 .
- 16) 佐久間康夫 : ゴナドトロピンとGnRH . *Annual Review 内分泌, 代謝2005* 2005 ; 179-184 .

## 著 書

- 1) 近藤保彦 : [ 翻訳 ] ウサギの行動・モルモットの正常行動と異常行動の臨床的意義 . *エキゾチックアニマル臨床シリーズ vol. 7 行動学* ( 斉藤 徹・霍野晋吉 ), 2004 ; pp71-95, インターズー .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) Parhar IS : Genomic and nongenomic estrogenic actions on GnRH neurons . the 5th Asia Pacific IBRO School of Neuroscience ( Bangkok, Thailand ), 2004 . 12 .

### (2) シンポジウム :

- 1) Parhar IS : GnRH molecules and receptors : Development and functional significance . *International Symposium on Instinctive Brain Mechanisms Underlying the Basis of Life* ( Tokyo ), 2005 . 1 .
- 2) 近藤保彦, 肖 凱, 佐久間康夫 : 性嗜好性の神経内分泌機序 . 第81回日本生理学会大会, 2004 . 6 .
- 3) 加藤昌克, 佐久間康夫 : GnRHニューロンに発現する膜電位依存性カルシウムチャネル . 第27回日本神経科学大会, 2004 . 9 .

### (3) 一般講演 :

- 1) Parhar IS : Genomic And Nongenomic Estrogenic Actions In Laser-Captured GnRH Neurons . 19th Scientific Meeting of the Malaysian Society Pharmacology and Physiology ( Malaysia ), 2004 . 5 .
- 2) Imamura H<sup>1)</sup>, Kondo M<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Xiao K, Kondo Y, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Department of Psychology, Meiji University ): Involvement of The Ventromedial Hypothalamus In Sexual Motivation of Female Rats .

- Society for Behavioral Neuroendocrinology (Lisbon), 2004. 7.
- 3) Kondo S<sup>1)</sup>, Taniuchi T<sup>1)</sup>, Kondo Y ( <sup>1)</sup>Department of Psychology, Kanazawa University. ): Effect of Estrogen on Discrimination Learning of Male Sexual Odors In Female Rats . Society for Behavioral Neuroendocrinology (Lisbon), 2004. 7.
  - 4) Nishitani S<sup>1)</sup>, Moriya T<sup>1)</sup>, Kondo Y, Sakuma Y, Shinohara K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Translational Medical Sciences Nagasaki University ): Female odor-induced expression of c-Fos protein in oxytocinergic neurons in the paraventricular nucleus in male rats . Effects of sexual experience. International Symposium on Olfaction and Taste (Kyoto, Japan), 2004. 8.
  - 5) Kondo Y, Xiao K, Sakuma Y : Temporal changes in sexual partner preference in male rats after androgen deprivation . Society for Neuroscience, the 34th Meeting (San Diego), 2004. 10.
  - 6) Yamada K<sup>1)</sup>, Kondo Y, Kondo M<sup>1)</sup>, Imamura H<sup>1)</sup>, Uchiaka S<sup>1)</sup>, Xiao K, Sakuma Y ( <sup>1)</sup>Department of Psychology, Mejiro University ): The Ventromedial Hypothalamus And Midbrain Central Gray Regulate Sexual Preference And Motivation In The Female Rat . Society for Neuroscience (USA), 2004. 10.
  - 7) Kiyama Y, Kato M<sup>1)</sup>, Onishi Y<sup>1)</sup>, Kiyama R<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>RIBRF, AIST, ): A Conserved Regulatory Element in the Mammalian b-Globin Promoters . 46th Ash Annual Meeting and Exposition (San Diego), 2004. 12.
  - 8) 渡部美穂, 加藤昌克, 佐久間康夫: GnRHニューロン株細胞 (GT1-7細胞) に発現するR型およびL型電位依存性カルシウムチャネルのGnRH分泌への関与 . 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
  - 9) 上坂伸宏, 小山哲司<sup>1)</sup>, 丸山 徹<sup>2)</sup>, 関 律子<sup>3)</sup>, オーレアエドガー<sup>4)</sup>, 塩 栄夫<sup>5)</sup>( <sup>1)</sup>司測研, <sup>2)</sup>九大・医・第一内科, <sup>3)</sup>久留米大・医・第二内科, <sup>4)</sup>オクラホマ大・化学工学・物質科学部, <sup>5)</sup>守山市民病院 ): 新しい定量的赤血球変形態測定装置の完成 . 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
  - 10) 木山裕子, 魯 禎妍<sup>1)</sup>, 木山亮一<sup>2)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>韓国生物科学・生物工学研究所, <sup>2)</sup>産総研, 糖鎖工学研究センター ): 雌ラットにおけるエストロゲン応答遺伝子の発現抑制 . 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
  - 11) 濱田知宏, 和田 木山裕子, 佐久間康夫: ラットエストロゲン受容体遺伝子プロモーター活性部位の検討 . 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
  - 12) 肖 凱, 近藤保彦, 千葉篤彦<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>上智大学・生命研 ): 雌ラット性嗜好性におけるアンドロゲン投与の効果 . 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
  - 13) 折笠千登世, 佐久間康夫: ラットエストロゲン受容体ベーターのリガンドによる脳領域特異的抑制調節 . 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
  - 14) 西谷正太<sup>1)</sup>, 守屋孝洋, 近藤保彦, 佐久間康夫, 篠原一之<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>長崎大学医歯薬総合研究科 ): 雌ラットの匂いが雄性ラット室傍核Oxytocinニューロンに及ぼす影響: 雄性ラットの性経験の有無による反応性の違い . 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
  - 15) 濱田知宏, 和田 木山裕子, 佐久間康夫: エストロゲン受容体プロモーターでGFPを発現するトランスジェニックラット . 第27回日本神経科学大会, 2004. 9.
  - 16) 丸山 徹<sup>1)</sup>, 船越亜弥<sup>2)</sup>, 武田誠子<sup>2)</sup>, 川床須美子<sup>2)</sup>, 長谷由美子<sup>2)</sup>, 高垣欣也<sup>3)</sup>, 上坂伸宏, 藤野武彦<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>九大健康センター科学, <sup>2)</sup>レオロジー機能食品研究所, <sup>3)</sup>東洋新薬 ): 松樹皮抽出物(フラノバール)がヒト赤血球の変形体能と循環に及ぼす作用 . 日本レオロジー学会, 日本バイオレオロジー学会, 2004. 9.
  - 17) 近藤佐和<sup>1)</sup>, 谷内 通<sup>1)</sup>, 近藤保彦 ( <sup>1)</sup>金沢大学・文・心理 ): メスラットによる雄の性的活性度の嗅覚弁別におけるエストロゲン投与の影響 . 日本動物心理学会第64回大会, 2004. 9.
  - 18) 山田一夫<sup>1)</sup>, 内赤さやか<sup>1)</sup>, 近藤美智子<sup>1)</sup>, 今村華子<sup>1)</sup>, 肖 凱, 近藤保彦, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>目白大学・心理 ): 雌ラットの性的動機づけにおける視床下部腹内測核の関与 . 日本動物心理学会第64回大会, 2004. 9.
  - 19) 近藤保彦, 肖 凱, 佐久間康夫: 雄ラット去勢後, 一過性に発現する雌型性嗜好性の内分泌機序 . 日本動物心理学会第64回大会, 2004. 9.

- 20) 加藤 愛<sup>1,2)</sup>, 大西芳秋<sup>1)</sup>, 木山裕子, 木山亮一<sup>1,2)</sup> (<sup>1)</sup>産総研・生物機能工学, <sup>2)</sup>筑波大学・人間総合科学):  
ジヌクレオソームDNAライブラリーを用いたクロマチン形成機構の解析 第27回日本分子生物学会年会, 2004.12.
- 21) 木山亮一<sup>1)</sup>, 加藤 愛<sup>1)</sup>, 大西芳秋<sup>1)</sup>, 木山裕子 (<sup>1)</sup>産総研・生物機能工学): ペントDNA, クロマチン構造,  
そして転写調節. 第27回日本分子生物学会年会, 2004.12.
- 22) 佐藤好恵<sup>1)</sup>, 勝沼るり<sup>1)</sup>, 黒崎礼子<sup>1)</sup>, 山田一夫<sup>1)</sup>, 肖 凱, 近藤保彦, 佐久間康夫 (<sup>1)</sup>目白大学・心理):  
雌ラットの視床下部腹内測核損傷による性的動機づけの低下. 第15回日本病態生理学会, 2005.1.

## 4. 生理学第二講座

### 研究概要

本年度もストレス反応機構，摂食調節機構に関する研究を始めとする研究成果が生まれた．主な欧文原著論文の内容は以下の如くである．

大学院生の関野は，拘束，フットショック，心理ストレスによる摂食抑制にはCRF（corticotropin releasing factor）のタイプ1型受容体とタイプ2型受容体が関与していることを明らかにした．この結果はCRFの過剰分泌がその病態に強く関与していると考えられている神経性食欲不振症の治療法を開発する上で極めて重要なものである．大畠は新規CRFファミリーペプチドであり共にCRF2型受容体のリガンドであるurocortin 2とurocortin 3の運動活動量への影響を検討し，両者の抑制作用間に差異があることを明らかにし，CRF2型受容体のリガンドの作用発現機構の複雑さが示された．洲鎌はインターロイキン18ノックアウト・マウスを用い，インターロイキン18がマイクログリアを活性化し神経変性を促進することを明らかにした．

現在，グレリンの脂肪蓄積作用やgrowth hormone releasing factor発現促進作用の機序の解明，ストレス反応機構におけるCRFファミリーペプチドの役割の解明などの研究が進行中である．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shimizu Y<sup>1)</sup>, Sugama S, DeGiorgio L. A<sup>1)</sup>, Cho B. P<sup>1)</sup>, Joh T. H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Weil Medical College of Cornell University ): Cell-type specific signal transduction and gene regulation via mitogen-activated protein kinase pathway in catecholaminergic neurons by restraint stress . Neuroscience 2004 ; 129 : 831-839 .
- 2) Sugama S , Wirz S. A<sup>1)</sup>, Barr A. M<sup>1)</sup>, Conti B<sup>1)</sup>, Bartfai T<sup>1)</sup>, Shibasaki T ( <sup>1)</sup>The Scripps Research Institute ): Interleukin-18 null mice show diminished microglial activation and reduced dopaminergic neuron loss following acute 1-methyl-4-phenyl-1, 2, 3, 6-tetrahydropyridine treatment . Neuroscience 2004 ; 128 : 451-458 .
- 3) Yang L<sup>1)</sup>, Sugama S , Mischak R. P<sup>1)</sup>, Kiaei M<sup>1)</sup>, Bizat N<sup>1)</sup>, Brouillet E<sup>1)</sup>, Joh T. H<sup>1)</sup>, Beal M. F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Wel Medical College of Cornell University ): A novel systemically active caspase inhibitor attenuates the toxicities of MPTP, malonate, and 3 NP in vivo . Neurobiol Dis 2004 ; 17 : 250-259 .
- 4) Ohata H , Shibasaki T : Effects of urocortin 2 and 3 on motor activity and food intake in rats . Peptides 2004 ; 25 ( 10 ): 1703-1709 .
- 5) Sekino A , Ohata H , Mano-Otagiri A , Arai K , Shibasaki T : Both corticotropin-releasing factor receptor type 1 and type 2 are involved in stress-induced inhibition of food intake in rats . Psychopharmacology 2004 ; 176 ( 1 ): 30-38 .
- 6) Hotta M<sup>1)</sup>, Ohawada R<sup>2)</sup>, Katakami H<sup>3)</sup>, Shibasaki T , Hizuka N<sup>2)</sup>, Takano K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Health Services Center, National Graduate Institute for Policy Studies , <sup>2)</sup>Department of Medicine, Institute of Clinical Endocrinology, Tokyo Women's Medical University , <sup>4)</sup>Department of Medicine, Miyazaki University, School of Medicine ): Plasma levels of intact and degraded ghrelin and their responses to glucose infusion in anorexia nervosa . J Clin Endocrinol Metab 2004 ; 89 ( 11 ): 5707-5712 .
- 7) Mano-Otagiri A , Shibasaki T : Distribution of urocortin 2 and urocortin 3 in rat brain . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ): 358-359 .

(2) 綜説：

- 1) 根本崇宏, 芝崎 保：消化管による食欲の調節：脳と消化管の内分泌的關係．内分泌・糖尿病科 2004；18(5)：491-498．
- 2) 大畠久幸, 芝崎 保：視床下部と摂食障害．BRAIN MEDICAL 2004；16(2)：43-48．
- 3) 眞野あすか, 芝崎 保：グレリン受容体遺伝子改変動物．日本臨床 2004；62(9)：347-350．
- 4) 丸 栄一, 洲鎌秀永, 芝崎 保：てんかんの病態生理：抑制から発作へ．神経研究の進歩 2004；48(6)：917-927．
- 5) 新井桂子, 芝崎 保：中枢神経におけるインスリン作用：食欲調節．内分泌・糖尿病科 2005；20(2)：143-149．

(3) 研究報告書：

- 1) 小田切あすか, 根本崇宏, 芝崎 保：グレリン/growth hormone secretagogue 受容体 (GHSR) 発現抑制トランスジェニックラットを用いた成長・エネルギー代謝調節機構におけるGHSRの役割に関する検討．平成14年度財団法人成長科学協会研究年報 2004；27：pp129-135．
- 2) 根本崇宏, 眞野あすか, 芝崎 保：褐色細胞腫由来細胞株におけるUrocortin2およびUrocortin3の作用の解析．ACTH RELATED PEPTIDES 2004；15：pp5-12．
- 3) 芝崎 保, 大畠久幸, 関野あずさ, 眞野あすか, 根本崇宏：神経性食欲不振症の摂食行動異常におけるCRFファミリーペプチドの役割．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成16年度総括・分担研究報告書 2005；pp30-34．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 眞野あすか：Urocortin 2, 3の中枢神経系及び末梢組織での分布と作用．第77回日本内分泌学会学術総会, 2004.6．
- 2) 芝崎 保, 大畠久幸, 関野あずさ, 眞野あすか, 根本崇宏：CRFファミリーペプチドから見た中枢性摂食異常症の神経内分泌学的病態．第31回日本神経内分泌学会, 2004.10．

(2) 一般講演：

- 1) Hotta M<sup>1)</sup>, Ohwada R<sup>2)</sup>, Katakami H<sup>3)</sup>, Shibasaki T, Hizuka N<sup>2)</sup>, Takano K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Hlth Srvs Ctr, Natl Grad Inst For Policy Studies, <sup>2)</sup>Dept. of Med, Inst of Clin Endocrinol, Tokyo Women's Med. Univ., <sup>3)</sup>Dept. of Med., Miyazaki Univ., Sch. of Med. ): Evaluation of plasma levels of intact ghrelin and its degraded forms in anorexia nervosa . 86th Annual Meeting of The Endocrine Society ( New Orleans ), 2004 . 6 .
- 2) Ohwada R<sup>1)</sup>, Hotta M<sup>2)</sup>, Katakami H<sup>3)</sup>, Shibasaki T, Hizuka N<sup>2)</sup>, Takano K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Med., Inst of Clin Endocrinol, Tokyo Women's Med. Univ., <sup>2)</sup>Hlth Svcs Ctr, Ntnl Grad Inst for Policy Studies, <sup>3)</sup>Dept. of Med., Miyazaki Univ., Sch. of Med. ): The effect of intravenous glucose infusion on plasma levels of intact and degraded ghrelin in anorexia nervosa . 86th Annual Meeting of The Endocrine Society ( New Orleans ), 2004 . 6 .
- 3) Sugama S, Wang N, Ohata H, Shibasaki T : Induction of Interleukin-18 in circulation by immobilization stress . 34th Society for Neuroscience ( San Diego ), 2004 . 10 .
- 4) Wang N, Sugama S, Conti B<sup>1)</sup>, Bartfai T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Shibasaki T ( <sup>1)</sup>Dept. of Neuropharmacology, The Scripps Research Institute, <sup>2)</sup>Dept. of Neurosurgery, Nippon Medical School ): A Study of Interleukin-18 in rodent pituitary . 34th Society for Neuroscience ( San Diego ), 2004 . 10 .
- 5) 大畠久幸, 洲鎌秀永, 芝崎 保：IL-18のラット脳室内投与による活動量および摂食量に及ぼす影響．第77回日本内分泌学会学術総会, 2004.6．
- 6) 関野あずさ, 山内直子, 眞野あすか, 大野英人<sup>1)</sup>, 加藤郁夫<sup>2)</sup>, 矢内原千鶴子<sup>2)</sup>, 芝崎 保 ( <sup>1)</sup>三菱化学ヤトロ

- ン, <sup>2)</sup>矢内原研究所): Urocortin 2 (Ucn 2) 及び Ucn 3 の radioimmunoassay (RIA) の確立およびそれらの血中濃度. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 7) 眞野あすか, 根本崇宏, 関野あずさ, 稲田詩乃, 大阪寿雅<sup>1)</sup>, 周東祐仁<sup>2)</sup>, 杉原 仁<sup>2)</sup>, 及川眞一<sup>2)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>国立健康・栄養研究所, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第3): グレリン受容体発現抑制トランスジェニックラットにおけるエネルギー代謝調節機構について. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 8) 原田嘉夫: NMDA および non-NMDA グルタミン酸受容体の脊髄1次求心性脱分極への寄与. 第81回日本生理学会大会, 2004. 6.
- 9) 洲鎌秀永, 大畠久幸, 王 寧, 芝崎 保: 拘束ストレスにおける組織特異的インターロイキン18発現. 第81回日本生理学会, 2004. 6.
- 10) 洲鎌秀永, 大畠久幸, 王 寧, 芝崎 保: ストレスとLPS投与によるインターロイキン18発現調節. 第77回日本内分泌学会, 2004. 6.
- 11) 王 寧, 洲鎌秀永, 芝崎 保: ストレプトゾトシン誘発糖尿病マウスにおけるインターロイキン18発現調節. 第77回日本内分泌学会, 2004. 6.
- 12) 根本崇宏, 眞野あすか, 稲田詩乃, 関野あずさ, 山内直子, 芝崎 保: PC12細胞におけるCRFファミリーペプチドの作用. 第77回日本内分泌学会, 2004. 6.
- 13) 根本崇宏, 関野あずさ, 稲田詩乃, 山内直子, 眞野あすか, 芝崎 保: 初代培養下垂体・副腎細胞におけるUrocortin2の分泌および発現の調節. 第31回日本神経内分泌学会, 2004. 10.
- 14) 眞野あすか, 山内直子, 関野あずさ, 稲田詩乃, 根本崇宏, 大野英人<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>三菱化学ヤトロン): Urocortin 2の正中隆起における免疫活性について. 第31回日本神経内分泌学会, 2004. 10.
- 15) 関野あずさ, 眞野あすか, 稲田詩乃, 根本崇宏, 山内直子, 芝崎 保: 雌ラットの性周期に伴う視床下部室傍核および扁桃体中心核のcorticotropin-releasing factor (CRF) mRNA 発現の変化. 第31回日本神経内分泌学会, 2004. 10.

## 5. 生化学第一講座

### 研究概要

本教室では、近年情報伝達や病態などに広くかかわっている活性酸素種などの生成と制御機能を中心として、タンパク質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因などに取り組んでいる。それらの中心は金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質であり、分子生物学的手法、分光光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1) 低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素についてはX線結晶解析による三次元構造の解析結果を基に、発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行っている。X線結晶解析では、さらに高分解能および種々の阻害剤との複合体の解析を行って特異な反応機構の解析を進めている。さらに変異体のトランスジェニックマウスを作成し、その生理・病理的役割の解明を進めている。

2) 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質と予想されるHBP23に関して、大量発現系の構築を行い、その変異体の作成とその性質の検討を引き続き行った。また、病理・生理的解明をモデルマウスなどを用いて進めている。

3) 上記以外の金属を有するタンパク質の分光学的研究とともに、さらにプロテオミクス法と結びつけ、新しい金属タンパク質の網羅的検索を行っている。大腸菌における亜鉛タンパク質の検索に続き、現在、鉄タンパク質の検索をヒト培養細胞を用いて行っている。さらにこれに関連し、胎盤等のヒトの病態解析も行っている。また、好熱菌由来の特異な鉄イオウ蛋白質の物理化学的性質の解析も進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kounosu A, Li Z<sup>1)</sup>, Cospert NJ<sup>1)</sup>, Scott RA<sup>1)</sup>, Imai T<sup>2)</sup>, Urushiyama A<sup>2)</sup>, Iwasaki T ( <sup>1)</sup> University of Georgia, <sup>2)</sup> Rikkyo University ): Engineering a three-cysteine, one-histidine ligand environment into a new hyperthermophilic archaeal Rieske-type [2Fe-2S] ferredoxin from *Sulfolobus solfataricus*. *J. Biol. Chem* 2004 ; 279 : 12519-12528 .
- 2) Fukunari A<sup>1)</sup>, Okamoto K, Nishino T, Eger BT<sup>2)</sup>, Pai EF<sup>2)</sup>, Kamezawa M<sup>1)</sup>, Yamada I<sup>1)</sup>, Kato N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Pharma Corporation, <sup>2)</sup> University of Toronto, <sup>3)</sup> Hiroshima University ): Y-700{1-[3-Cyano-4-(2,2-dimethylpropoxy) phenyl]-1H-pyrazole-4-carboxylic Acid} : A Potent Xanthine Oxidoreductase Inhibitor with Hepatic Excretion. *J. Pharmacol. Exp. Ther* 2004 ; 311 : 519-528 .
- 3) Kajisa T<sup>1)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup>, Igarashi K<sup>1)</sup>, Katayama A, Nishino T, Samejima M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Tokyo ): Characterization and Molecular Cloning of Cellobiose Dehydrogenase from the Brown-Rot Fungus *Coniophora puteana*. *J. Biosci. Bioeng* 2004 ; 98 ( 1 ): 57-63 .
- 4) Kawasaki S<sup>1)</sup>, Ishikura J<sup>1)</sup>, Chiba D<sup>1)</sup>, Nishino T, Niimura Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo University of Agriculture ): Purification and characterization of an H<sub>2</sub>O-forming NADH oxidase from *Clostridium Aminovalericum* : existence of an oxygen-detoxifying enzyme in an obligate anaerobic bacteria. *Arch Microbiol* 2004 ; 181 : 324-330 .
- 5) Leimkuhler S<sup>1)</sup>, Stokert AL<sup>2)</sup>, Igarashi K<sup>3)</sup>, Nishino T, Hille R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Potsdam, <sup>2)</sup> Ohio State University, <sup>3)</sup> University of Tokyo ): The role of active site glutamate residues in catalysis of *Rhodobacter*

capuslatus xanthine dehydrogenase . J. Biol. Chem 2004 ; 279 : 40437-40444 .

- 6) Iwasaki T , Kounosu A , Kolling DRJ<sup>1)</sup> , Crofts AR<sup>1)</sup> , Dikanov SA<sup>1)</sup> , Jin A<sup>2)</sup> , Imai T<sup>2)</sup> , Urushiyama A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Illinois at Urbana-Champaign , <sup>2)</sup> Rikkyo University ) : Characterization of the pH-dependent resonance Raman transitions of archaeal and bacterial Rieske [2Fe-2S] proteins . J. Am. Chem. Soc 2004 ; 126 : 4788-4789 .
- 7) Iwasaki T , Kounosu A , Uzawa T<sup>1)</sup> , Samoilova RI<sup>2)</sup> , Dikanov SA<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Osaka Kyoiku University , <sup>2)</sup> University of Illinois at Urbana-Champaign ) : Orientation-selected 15N HYSCORE detection of weakly coupled nitrogens around the archaeal Rieske [2Fe-2S] center . J. Am. Chem. Soc 2004 ; 126 : 13902-13903 .
- 8) Dikanov SA<sup>1)</sup> , Shubin AA<sup>2)</sup> , Kounosu A , Iwasaki T , Samoilova RI<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Illinois at Urbana-Champaign , <sup>2)</sup> Russian Academy of Science ) : A comparative, two-dimensional 14N ESEEM characterization of reduced [2Fe-2S] clusters in hyperthermophilic archaeal high- and low-potential Rieske-type proteins . J. Biol. Inorg. Chem 2004 ; 9 : 753-767 .
- 9) Uchiyama T<sup>1)</sup> , Kounosu A , Sato T<sup>1)</sup> , Tanaka N<sup>1)</sup> , Iwasaki T , Kumasaka T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Institute of Technology ) : Crystallization and preliminary X-ray diffraction studies of the hyperthermophilic archaeal sulfoxide having the unique Rieske [2Fe-2S] cluster environment . Acta Crystallogr. Sect. D 2004 ; 60 : 1487-1489 .
- 10) Maru Y<sup>1)</sup> , Nishino T , Kakinuma K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women ' s Medical University , <sup>2)</sup> University of Tokyo ) : Expression of Nox genes in rat organs, mouse oocytes, and sea urchin eggs . The Journal of Sequencing and Mapping 2005 ; 00 : 1-6 .
- 11) Iwasaki T , Kounosu A , Tao Y<sup>1)</sup> , Li Z<sup>1)</sup> , Shokes JE<sup>1)</sup> , Cosper NJ<sup>1)</sup> , Imai T<sup>2)</sup> , Urushiyama A<sup>2)</sup> , Scott RA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Georgia , <sup>2)</sup> Rikkyo University ) : Rational design of a mononuclear metal site into the archaeal Rieske-type protein scaffold . J. Biol. Chem 2005 ; 280 : 9129-9134 .

(2) 総説 :

- 1) 岡本 研 , 桑原慶充 , 西野朋子 , 西野武士 : キサンチン脱水素酵素から酸化酵素への蛋白質構造・機能の変換分子機構 : 蛋白質のコンフォメーションとリレー系 . 蛋白質・核酸・酵素 2004 ; 49 : 625-633 .

著 書

- 1) 川本 進<sup>1)</sup> , 西野朋子 , 西野武士 ( <sup>1)</sup> 千葉大学 ) : [ 共著 ] バキュロウイルス/昆虫細胞系によるタンパク質の発現精製とその解析 . ゲノミクスプロテオミクスの新展開 : 生物情報の解析と応用 ( 今中忠行 ) , 2004 ; pp561-566 , ( 株 ) エヌ・ティー・エス .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 西野武士 : 尿酸生成酵素の構造 , 機能 , 調節と阻害剤 . 第38回日本痛風・核酸代謝学会総会 , 2005 . 2 .

(2) 招待講演 :

- 1) 西野武士 : キサンチン脱水素酵素から酸化酵素への変換と活性酸素生成の分子機構 . 第26回日本フリーラジカル学会学術集会 , 2004 . 6 .

(3) シンポジウム :

- 1) Nishino T : Mechanism and a possible physiological role of switching from xanthine dehydrogenase to oxidase . 文部科学省科学研究費特定領域研究「金属が関与するセンサーとスイッチのケミカルバイオロジー」第4回公開シンポジウム , 2004 . 10 .



(4) ワークショップ:

- 1) 峯 克也<sup>1)</sup>, 片山 映, 西野武士, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 村田知昭<sup>1)</sup>, 大坪保雄<sup>2)</sup>, 進 純郎<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科学, <sup>2)</sup>大宮中央総合病院産婦人科, <sup>3)</sup>葛飾赤十字産院産婦人科): ヒト胎盤プロテオームマップの作成. 第28回日本産婦人科栄養・代謝研究会, 2004. 8.

(5) 一般講演:

- 1) Iwasaki T, Kounosu A, Dikanov SA<sup>1)</sup>, Ohmori D<sup>2)</sup>, Hayashi-Iwasaki Y<sup>3)</sup>, Jin A<sup>4)</sup>, Imai T<sup>4)</sup>, Urushiyama A<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> University of Illinois at Urbana-Champaign, <sup>2)</sup> Juntendo University, <sup>3)</sup> Nagaoka Institute of Technology, <sup>4)</sup> Rikkyo University): Characterization of the pH-dependent transitions of archaeal high- and low-potential Rieske-type proteins. The 1st Pacific-Rim International Conference on Protein Science (Yokohama, Japan), 2004. 4.
- 2) Uchiyama T<sup>1)</sup>, Kounosu A, Sato T<sup>1)</sup>, Ueno G<sup>2)</sup>, Yamamoto M<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Kumasaka T<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> Tokyo Institute of Technology, <sup>2)</sup> RIKEN/SPring-8): Crystal structure of sulredoxin, a Rieske protein from *Sulfolobus tokodaii*. The 8th International Conference on Biology and Synchrotron Radiation (BSR2004) (Himeji, Japan), 2004. 9.
- 3) Mine K<sup>1)</sup>, Katayama A, Matsumura T, Nishino T, Kuwabara Y<sup>1)</sup>, Ishikawa G<sup>1)</sup>, Otsubo Y<sup>2)</sup>, Shin S<sup>3)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Omiya Chuo Sogo Hospital, <sup>3)</sup> Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital): Proteome Analysis of Human Placenta. 10th International Federation of Placenta Associations Meeting (USA), 2004. 9.
- 4) 西野朋子, 川口裕子, 岡本 研, 堀 弘幸<sup>1)</sup>, 松村智裕, 西野武士 (<sup>1)</sup>愛媛大学): 安定な脱水素酵素として発現したラットキサンチン酸化還元酵素の性質. 第77回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 5) Iwasaki T, Kounosu A, Imai T<sup>1)</sup>, Urushiyama A<sup>1)</sup>, Ohmori D<sup>2)</sup>, Shokes JE<sup>3)</sup>, Cosper NJ<sup>3)</sup>, Li Z<sup>3)</sup>, Scott RA<sup>3)</sup>, Dikanov SA<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Rikkyo University, <sup>2)</sup> Juntendo University, <sup>3)</sup> University of Georgia, <sup>4)</sup> University of Illinois at Urbana-Champaign): Characterization of the pH-dependent transitions of archaeal Rieske-type [2Fe-2S] proteins. 第77回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 6) Uchiyama T<sup>1)</sup>, Kounosu A, Sato T<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Kumasaka T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Institute of Technology): Crystal structure of the hyperthermophilic archaeal sulredoxin variant, CLCA, having the unique Rieske [2Fe-2S] cluster environment without any disulfide linkage. 第77回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 7) Kounosu A, Ohmori D<sup>1)</sup>, Aoshima M<sup>2)</sup>, Iwasaki T (<sup>1)</sup> Juntendo University, <sup>2)</sup> University of Tokyo): Heterologous expression and EPR analysis of the membrane-bound FeS subunit of archaeal respiratory complex II. 第77回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 8) Okamoto K, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Yamaguchi Y<sup>2)</sup>, Matsumura T, Hille R<sup>3)</sup>, Eger BT<sup>4)</sup>, Pai EF<sup>4)</sup>, Nishino T (<sup>1)</sup> Fuji Yakuhin Co. Ltd., <sup>2)</sup> Jikei University of Medicine, <sup>3)</sup> Ohio State University, <sup>4)</sup> University of Toronto): Mechanism of hydroxylation reaction of bovine milk xanthine oxidoreductase. 第77回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 9) 峯 克也<sup>1)</sup>, 片山 映, 西野武士, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 大坪保雄<sup>2)</sup>, 進 純郎<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科学, <sup>2)</sup>大宮中央総合病院産婦人科, <sup>3)</sup>葛飾赤十字産院産婦人科): ヒト胎盤のプロテオーム解析. 第56回日本産科婦人科学会学術講演会, 2004. 4.
- 10) 加藤信介<sup>1)</sup>, 青木正志<sup>2)</sup>, 糸山泰人<sup>2)</sup>, 阿部靖子, 西野武士, 加藤雅子<sup>1)</sup>, 朝山光太郎<sup>3)</sup>, 粟屋 昭<sup>4)</sup>, 平野朝雄<sup>5)</sup>, 大浜栄作<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>鳥取大学, <sup>2)</sup>東北大学, <sup>3)</sup>産業医科大学, <sup>4)</sup>科学技術振興機構, <sup>5)</sup> Montefiore Medical Center): 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) とそのモデル動物とにおけるレドックスシステムの解析. 第45回日本神経病理学会総会学術研究会, 2004. 5.
- 11) 岡本 研, 松本浩二<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>(株)富士薬品): キサンチン酸化還元酵素の反応中間体結晶構造. 生体

高分子科学研究会，2004．7．

- 12) 五十嵐圭日子<sup>1)</sup>，吉田 誠<sup>1)</sup>，鮫島正浩<sup>1)</sup>，西野武士<sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院農学生命科学研究科)</sup>: 部位特異的変異を導入したセロピオース脱水素酵素における電子鎖反応の解析．第54回日本木材学会大会，2004．8．
- 13) 五十嵐圭日子<sup>1)</sup>，吉田 誠<sup>1)</sup>，鮫島正浩<sup>1)</sup>，西野武士<sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院農学生命科学研究科)</sup>: セロピオース脱水素酵素の電子鎖反応．平成16年度日本生物工学会大会，2004．9．
- 14) 草野輝男，西野朋子，岡本 研，西野武士: 牛乳に存在するキサントニン脱水素酵素/酸化酵素変換システムの同定．第77回日本生化学会大会，2004．10．
- 15) 川口裕子，岡本 研，西野朋子，浅井亮介，松村智裕，西野武士: ラットキサントニン酸化還元酵素とその変異体の結晶化と解析．第77回日本生化学会大会，2004．10．
- 16) 浅井亮介，西野朋子，岡本 研，西野武士: キサントニン酸化酵素型として発現しスーパーオキシドを多量に産生する変異酵素．第77回日本生化学会大会，2004．10．
- 17) 阿部靖子，松村智裕，西野武士: ラットHBP23の構造と機能．第77回日本生化学会大会，2004．10．
- 18) 西野武士: 活性酸素生成酵素の構造と機能の解明．第3回タンパク3000プロジェクト公開シンポジウム，2004．11．
- 19) 岡本 研，松本浩二<sup>1)</sup>，山口雄一郎<sup>2)</sup>，松村智裕，Hille R<sup>3)</sup>，Eger BT<sup>4)</sup>，Pai EF<sup>4)</sup>，西野武士<sup>(<sup>1)</sup>(株)富士薬品，<sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学，<sup>3)</sup>オハイオ州立大学，<sup>4)</sup>トロント大学)</sup>: キサントニン脱水素酵素におけるモリブデン水酸化反応中間体の構造と反応機構．第42回日本生物物理学会，2004．12．
- 20) 五十嵐圭日子<sup>1)</sup>，吉田 誠<sup>1)</sup>，鮫島正浩<sup>1)</sup>，西野武士<sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院農学生命科学研究科)</sup>: セロピオース脱水素酵素におけるドメイン間のインタラクション．第55回日本木材学会大会，2005．3．

## 6. 生化学第二講座

### 研究概要

遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析、細胞治療、遺伝子診療も含めた、ゲノム医学の包括的トランスレーショナルリサーチを目指している。HIVベクターは、エイズの遺伝子治療を目的にわれわれが開発したレトロウイルスベクターの一種であるが、最近では遺伝病を含めた幅広い疾患の治療用ベクターとして期待されている。ウイルスゲノムと周囲の遺伝子との相互作用を阻止し、挿入変異による発癌の可能性を低下させる insulator を組み込んだ新しいHIVベクターを作製した。安全なウイルスベクターとして期待されながら効率の高い作製法が無いため実用化が遅れているアデノ随伴ウイルス(AAV)ベクターの改良を進めている。これまでの2型サブタイプに加え、1, 5, 7, 8型のAAVベクターの作製、濃縮、精製法を確立した。これらの新しいサブタイプベクターはマウスの生体内での、組織特異性や免疫原性が大きく異なっており、それぞれのベクターの至適条件を検討している。

遺伝性異染性白質ジストロフィー(MLD)の原因酵素であるアリルスルファターゼ(ASA)の発現分泌に、最近、sulfataseの活性化酵素として同定されたformylglycine generating enzyme(FGE)が、必須であることを培養細胞およびマウス肝臓の実験から明らかにした。ヒト脳組織ではFGEの発現が極めて低いことから、ヒトの遺伝子治療ではASA/FGE同時発現ベクターが必要であると考えられる。

抗血管新生因子による遺伝子治療が、移植臓器癌や、自己発生白血病の治療に有効であることを示した。

常染色体優性の遺伝病である血管型エーラスダンロス症候群を対象に、siRNAによる異常遺伝子の発現抑制と、転写因子遺伝子導入による正常遺伝子の発現上昇を組み合わせた新しい遺伝子治療プロトコルを提案した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kato K<sup>1)</sup>, Igarashi T, Yoshino S<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup>リウマチ科): Human immunodeficiency virus vector mediated intra-articular expression of angiostatin inhibits progression of collagen-induced arthritis in mice . Rheumatol. Int 2004 ; Epub .
- 2) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Watanabe A, Migita M, Shimada T ( <sup>1)</sup>形成外科学): Chondrogenic and osteogenic differentiation of adipose-derived stem cells isolated from GFP transgenic mice . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 4 ): 240-241 .
- 3) Noro T<sup>1)</sup>, Miyake K, Suzuki-Miyake N, Igarashi T, Uchida E<sup>2)</sup>, Misawa T<sup>1)</sup>, Yamazaki Y<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup>Department of Surgery, Jikei University School of Medicine, Tokyo , <sup>2)</sup>Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Adeno-associated viral vector mediated expression of endostatin inhibits tumor growth and metastasis in an orthotopic pancreatic cancer model in hamsters . Cancer Res 2004 ; 64 : 7486-7490 .
- 4) Takinami H<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Orimo H, Hamatani R<sup>2)</sup>, Fukushi-Irie M<sup>2)</sup>, Ishikawa I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Hard Tissue Engineering ( Periodontology ), Graduate School, Tokyo Medical and Dental University , <sup>2)</sup>Department of Food and Nutrition, Japan Women's University ): The mutant ( F310L and V365I ) tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene from hypophosphatasia . Journal of Medical and Dental Sciences 2004 ; 51 : 67-74 .
- 5) Watanabe A<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Mizuki T<sup>1)</sup>, Tanosaki S<sup>1)</sup>, Shimada T, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Hematology, Department of Internal Medicine ): Near-triploidy and near-tetraploidy in hematological ma-

- lignancies and mutation of the p53 gene . Clin. Lab. Haem 2004 ; 26 : 25-30 .
- 6) Kashiwakura Y<sup>1)</sup>, Tamayose K<sup>2)</sup>, Iwabuchi K<sup>3)</sup>, Hirai Y, Shimada T, Matsumoto K<sup>4)</sup>, Nakamura T<sup>4)</sup>, Watanabe M<sup>5)</sup>, Oshimi K<sup>2)</sup>, Daida H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Cardiology, Juntendo University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine , <sup>3)</sup> Institute for Environmental and Gender-Specific Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine , <sup>4)</sup> Division of Molecular Regenerative Medicine, Course of Advanced Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine , <sup>5)</sup> Department of Urology, Okayama University Graduate School of Medicine and Dentistry ): Hepatocyte growth factor receptor is a coreceptor for adeno-associated virus type 2 infection . J. Virol 2005 ; 79 ( 1 ): 609-614 .
- 7) Watanabe H<sup>1)</sup>, Takinami H<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Orimo H, Hamatani R<sup>2)</sup>, Ishikawa I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Hard Tissue Engineering ( Periodontology ), Graduate School, Tokyo Medical and Dental University , <sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University ): Characterization of the mutant ( A115V ) tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene from adult-type hypophosphatasia . Biochemical and Biophysical Research Communications 2005 ; 327 : 124-129 .
- 8) Miyake K, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Miyake N, Dan K<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Division of Hematology/Oncology, Department of Internal Medicine ): Antiangiogenic gene therapy of myeloproliferative disease developed in transgenic mice expressing P230 bcr/abl . Gene Ther 2005 ; 12 ( 6 ): 541-545 .
- 9) 島田 隆 : 癌の遺伝子治療 : 現状と課題 . Biotherapy 2004 ; 18 : 259-265 .
- 10) 島田 隆 : 遺伝子治療 : 臨床研究の現状と基礎研究の方向性 . 実験医学 2004 ; 22 : 131-138 .
- 11) 渡邊 淳 : 「 遺伝医療チームに参画する看護職 」 遺伝専門医の立場から . 日本遺伝看護研究会誌 2004 ; 2 ( 1 ): 31-37 .
- 12) 小川 令 : GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪組織由来幹細胞から骨・軟骨・脂肪細胞への分化誘導実験系の確立 . 日形会誌 2004 ; 24 : 625-633 .
- 13) 島田 隆 : 遺伝子治療とは何か . 分子リウマチ 2005 ; 2 ( 1 ): 55-64 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 折茂英生 : 医学教育における栄養学的重要性 . 日本医科大学医学会第113回例会 , 2004 . 5 .

##### (2) ワークショップ :

- 1) 渡邊 淳, 程久美子<sup>1)</sup>, 和田敬仁<sup>2)</sup>, 福嶋義光<sup>2)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 東京大学理学部 , <sup>2)</sup> 信州大学付属病院遺伝子診療部 ): 血管型 Ehlers-Danlos syndrome type IV ( EDSIV ) における治療アプローチの可能性 . 第49回日本人類遺伝学会 , 2004 . 10 .
- 2) 池島三与子, 島田 隆 : オリゴヌクレオチドによる遺伝子修復におけるミスマッチ修復の関与 . Workshop on DNA Repair, Recombination and Mutagenesis 2005 , 2005 . 1 .

##### (3) 一般講演 :

- 1) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Watanabe A, Migita M<sup>2)</sup>, Shimada T, Hyakusoku H<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics ): Chondrogenic, osteogenic and adipogenic differentiation of adipose tissue derived cells isolated from GFP transgenic mice . 49th Annual Meeting of the Plastic Surgery Research Council ( Ann Arbor, Michigan ), 2004 . 6 .
- 2) Su S, Watanabe A, Yamamoto M, Shimada S : Mutation frequency of the p53 cDNA introduced by the retroviral vector . The 7th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy ( Minneapolis ), 2004 . 6 .
- 3) Kinoshita H, Hisayasu S, Watanabe A, Suzuki S, Shimada T : Targeted gene delivery to selected liver segments by isolated hepatic perfusion with clamping of the portal vein . The 7th Annual Meeting of the

- American Society of Gene Therapy ( Minneapolis ), 2004 . 6 .
- 4 ) Kawabata K<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>2)</sup>, Fukunaga Y, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics , <sup>2)</sup> Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine ): An ex vivo gene therapy approach for metachromatic leukodystrophy using neural progenitor cells . The 7th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy ( Minneapolis ), 2004 . 6 .
  - 5 ) Takakusaki Y, Hisayasu S, Watanabe A, Shimada T : Modification of the expression vector for systemic gene therapy of MLD . The 7th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy ( Minneapolis ), 2004 . 6 .
  - 6 ) Hirai Y, Takahashi H<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Histological and functional evaluation of AAV vector mediated gene therapy of Fabry knockout mice . 3rd European conference and practical course ( Genopole-Ervy, France ), 2004 . 6 .
  - 7 ) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Watanabe A, Hanawa H, Sato S<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches ): Comparison of stromal cells harvested from murine fat and bone marrow . 2nd International Fat Applied Technology Society ( Pittsburgh ), 2004 . 10 .
  - 8 ) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery ): Bone marrow regeneration using fat - for the treatment of fibroblastic bone marrow diseases - . 2nd International Fat Applied Technology Society ( Pittsburgh ), 2004 . 10 .
  - 9 ) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Watanabe A, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery ): Adipose-derived stem cells harvested from GFP transgenic mice . 7th Tissue Engineering Society International ( Lausanne ), 2004 . 10 .
  - 10 ) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery ): Bone marrow regeneration using adipose-derived stromal cells . 7th Tissue Engineering Society International ( Lausanne ), 2004 . 10 .
  - 11 ) Goseki-Sone M<sup>1)</sup>, Sogabe N<sup>1)</sup>, Fukushi-Irie M<sup>1)</sup>, Mizoi L<sup>1)</sup>, Orimo H, Suzuki T<sup>2)</sup>, Nakamura H<sup>3)</sup>, Orimo H<sup>4)</sup>, Hosoi T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute for Gerontology , <sup>3)</sup> Department of Chemistry, Gakushuin University , <sup>4)</sup> Health Science University , <sup>5)</sup> Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center ): Functional genomics of tissue-nonspecific alkaline phosphatase . 26th Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research ( Seattle, USA ), 2004 . 10 .
  - 12 ) Watanabe A, Tei K<sup>1)</sup>, Wada T<sup>2)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> 東京大学理学部 , <sup>2)</sup> 信州大学付属病院遺伝子診療部 ): RNAi mediated gene therapy for dominantly inherited vascular Ehlers-Danlos syndrome ( EDSIV ) . 54th Annual meeting of the American Society of Human Genetics ( Toronto, Canada ), 2004 . 10 .
  - 13 ) Kurai T, Takakusaki Y, Kitagawa R, Yamamoto M, Hisayasu S, Hirai Y, Shimada T : AAV vector mediated co-expression of FGE with ASA for gene therapy of metachromatic leukodystrophy . 54th Annual meeting of the American Society of Human Genetics ( Toronto, Canada ), 2004 . 10 .
  - 14 ) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Migita M<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics ): A new concept for the treatment of fibroblastic bone marrow diseases-Bone marrow regeneration using stem cells- . The 46th Annual Meeting of the American Society of Hematology ( San Diego ), 2004 . 12 .
  - 15 ) Inokuchi K<sup>1)</sup>, Inami M<sup>1)</sup>, Wang Y<sup>1)</sup>, Watanebe A<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Tanosaki S<sup>1)</sup>, Shimada T, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology/Oncology, Department of Internal Medicine ): The DCC heterozygote reduces the latency period and changes the disease phenotype of myeloproliferative disease in p230BCR/ABL-ex-

pressing mice . The 46th Annual Meeting of the American Society of Hematology ( San Diego, California ), 2004 . 12 .

- 16) Su S, Watanabe A, Yamamoto M, Shimada T : Genomic stability of the p53 sequence transferred by a retroviral vector . The 10th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy , 2004 . 8 .
- 17) Takakusaki Y, Hisayasu S, Watanabe A, Shimada T : Utility of formylglycine generating enzyme for expression of functional arylsulfatase A : Implications for gene therapy of MLD . The 10th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy , 2004 . 8 .
- 18) Kawabata K<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine ) : An ex vivo gene therapy approach for metachromatic leukodystrophy using neural progenitor cells . The 10th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy , 2004 . 8 .
- 19) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>1,2)</sup>, 右田 真<sup>1,2)</sup>, 大木由加志<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 附属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 小児科学) : 日本医科大学付属病院における遺伝診療 : 小児科から遺伝診療科へ . 第107回日本小児科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 20) 藤本美津夫<sup>1)</sup>, 大槻マミ太郎<sup>1)</sup>, 中川秀己<sup>1)</sup>, 斎藤 心<sup>2)</sup>, 旗持 淳<sup>3)</sup>, 渡邊 淳<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 自治医大医皮膚科, <sup>2)</sup> 同外科学消化器・一般外科学部門, <sup>3)</sup> 独協医大医皮膚科, <sup>4)</sup> 日本医科大学付属病院遺伝診療科) : 血管型エーラス・ダンロス症候群の遺伝子診療経験 . 第103回日本皮膚科学会総会, 2004 . 4 .
- 21) 折茂英生, 島田 隆 : リン酸化合物のヒト組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子発現に及ぼす影響 . 第58回日本栄養・食糧学会大会, 2004 . 5 .
- 22) 渡辺裕子<sup>1,2)</sup>, 千葉弘子<sup>1,2)</sup>, 鈴木由美<sup>1,2)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 附属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 同看護部) : 筋緊張ジストロフィー遺伝子診断施行において自己決定に差異を呈した2例 . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 23) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>1,2)</sup>, 右田 真<sup>1,2)</sup>, 渡辺裕子<sup>1,3)</sup>, 鈴木由美<sup>1,3)</sup>, 千葉弘子<sup>1,3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 附属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 小児科学, <sup>3)</sup> 附属病院看護部) : 日本医科大学付属病院における独立した臨床遺伝医療部門開設への課題 . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 24) 山下浩美<sup>1)</sup>, 玉井真理子<sup>1)</sup>, 和田敬仁<sup>1)</sup>, 古庄知己<sup>1)</sup>, 福嶋義光<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 信州大学附属病院遺伝子診療部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院遺伝診療科) : エーラス・ダンロス症候群 (血管型) の遺伝カウンセリング : 遺伝子変異が検出された2症例へのかかわり . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 25) 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ) : 脂肪組織由来幹細胞を用いた骨髄再生の試み : 造血管疾患の治療をめざして . 第7回日本組織工学会, 2004 . 7 .
- 26) 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 右田真<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 形成外科学, <sup>2)</sup> 小児科学 ) : 脂肪組織由来幹細胞を用いた脂肪再生におけるドナーの性差による検討 . 第7回日本組織工学会, 2004 . 7 .
- 27) 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ) : GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪由来幹細胞と骨髄由来幹細胞の各種間葉系細胞への分化誘導および比較検討 . 第7回日本組織工学会, 2004 . 7 .
- 28) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 平井幸彦 ( <sup>1)</sup> 附属病院遺伝診療科 ) : 「色覚特性」を題材とした医学部早期における遺伝医学教育 . 第36回日本医学教育学会大会, 2004 . 7 .
- 29) 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ) : 脂肪から採取した間葉系細胞による骨髄再生 : 造血管疾患の治療に向けて . 第72回日本医科大学医学会, 2004 . 9 .
- 30) 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 形成外科学 ) : 脂肪再生における性差の検討 : 脂肪組織由来幹細胞を用いて . 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004 . 10 .
- 31) 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ) : 脂肪組織由来細胞を用いた骨髄再生 . 第13

- 回日本形成外科学会基礎学術集会，2004．10．
- 32) 折茂英生，志村俊郎<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>(<sup>1)</sup>教育推進室)</sup>: 日本の医学部・医科大学における栄養学教育：全国アンケート調査より．第26回日本臨床栄養学会総会・第25回日本臨床栄養協会総会 第II回大連合大会，2004．10．
- 33) 高草木幸子，北川 亮，倉井年幸，久安早苗，渡邊 淳，島田 隆：異染性ロイコジストロフィー（MLD）の遺伝子治療におけるスルファターゼ活性化酵素の有効性．第49回日本人類遺伝学会，2004．10．
- 34) 池島三与子，島田 隆：遺伝子修復アッセイのための微量SNP検出方法の開発．第27回日本分子生物学会年会，2004．12．
- 35) 小川 令<sup>1)</sup>，水野博司<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>(<sup>1)</sup>形成外科学)</sup>: GFPトランスジェニックマウス脂肪組織由来幹細胞を用いた骨及び骨髄再生．第4回日本再生医療学会，2005．3．
- 36) 小川 令<sup>1)</sup>，埴 秀樹，平井幸彦，倉井年幸，藤村樹里<sup>2)</sup>，渡邊 淳，水野博司<sup>1)</sup>，佐藤 茂<sup>3)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>(<sup>1)</sup>形成外科学，<sup>2)</sup>小児科学，<sup>3)</sup>中央電子顕微鏡施設)</sup>: 脂肪組織由来幹細胞と骨髄由来幹細胞の比較検討．第4回日本再生医療学会，2005．3．
- 37) 小川 令<sup>1)</sup>，渡邊 淳，久安早苗，池島三与子，百束比古<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>(<sup>1)</sup>形成外科学)</sup>: ケロイドの網羅的遺伝子解析．第11回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会，2005．3．
- (4) 追加パネルディスカッション：
- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科): 日本医科大学付属病院遺伝診療科：院内の啓蒙について．第1回全国遺伝子医療部門連絡会議，2003．9．

## 7. 薬理学講座

### [ 薬理学 ]

#### 研究概要

当講座では、内因性生理活性物質および薬物と生体の相互作用について、神経伝達を修飾、制御する物質を中心に研究し、新しい作用機序に基づいた薬物開発の基盤となりうる神経機構の解明を目指している。主な研究の概要と16年度の進行状況は以下のとおりである。

#### 1. 精神神経疾患の神経基盤の解明

精神神経疾患動物モデルを作製し、神経伝達の異常を分子生物学、行動科学、電気生理学的に解析している。16年度はヒトにおける精神神経疾患研究の基礎的データとして利用するため、サル組織を用いてタキキニン受容体をクローニングし、その脳内分布を定量的に検討した。

電気生理学的手法を用いて、記憶学習や情動に関する海馬におけるシナプスの神経伝達効率の変化を内因性および外因性の修飾因子との関連で検討している。

また新たな研究手段として、fMRI等を用いた画像解析法が現在までに発展してきており、これを取り入れたヒトを対象とした研究も開始している。

#### 2. GABA シナプス伝達の修飾機構の解明

小脳における抑制性神経伝達の修飾機構について検討している。16年度は小脳ブルキンエ細胞で観察されるGABA作動性抑制性伝達の増強がプリン作動性受容体を介してシナプス前性と後性の2つの機構で起こることを見出した。

#### 3. 痛みの発症・持続機構の解明

神経因性疼痛の発症に関わる神経回路の可塑的变化を解明することを目指している。16年度はグリア細胞株由来神経栄養因子の補充による疼痛緩和効果が、どのような機構に基づくのかを網羅的に解析するためにDNAアレイ分析を行い、いくつかの情報伝達系候補分子を見出した。現在これらの分子群の役割を動物モデルで検討中である。

#### 4. 細胞周期阻害分子p21の細胞分化に伴う細胞内局在制御機構の解明

16年度は、p21の核移行シグナルを抑制する分子としてBrp2分子を同定し、p21を細胞質に局在させる機構を明らかにした。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

1) Asada M, Ohmi K<sup>3)</sup>, Delia D<sup>4)</sup>, Enosawa S<sup>3)</sup>, Suzuki S<sup>3)</sup>, Yuo A<sup>2)</sup>, Suzuki H, Mizutani S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> International Medical Center of Japan, <sup>3)</sup> National Children's Medical Research Center, <sup>4)</sup> Istituto Nazionale Tumori, Italy ): Brp2 functions as a cytoplasmic retention protein for p21 during monocyte differentiation. Mol. Cell. Biol. 2004; 24 ( 18 ): 8236-8243.

2) Satake S<sup>1, 2)</sup>, Saitow F, Rusakov D<sup>1, 2)</sup>, Konishi S<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Kagaku Institute of Life Sciences, <sup>2)</sup> CREST, JST ): AMPA receptor-mediated presynaptic inhibition at cerebellar GABAergic synapses : a



characterization of molecular mechanisms . Eur. J. Neurosci 2004 ; 19 ( 9 ) : 2464-2474 .

- 3) Amaya F<sup>1)</sup>, Shimosato G<sup>1)</sup>, Nagano M, Ueda M<sup>1)</sup>, Hashimoto S<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Suzuki H, Tanaka M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Prefectural University of Medicine ): NGF and GDNF differentially regulate TRPV1 expression that contributes to development of inflammatory thermal hyperalgesia . Eur. J. Neurosci 2004 ; 20 ( 9 ) : 2303-2310 .
- 4) Saitow F, Murakoshi T, Suzuki H, Konishi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Waseda University ): Metabotropic P2Y purinoceptor-mediated presynaptic and postsynaptic enhancement of cerebellar GABAergic transmission . J. Neurosci 2005 ; 25 ( 8 ) : 2108-2116 .
- 5) Harada N<sup>1)</sup>, Nemoto K<sup>1)</sup>, Okamura T, Ninomiya N<sup>1)</sup>, Suzuki H, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine ): Effects of cannabinoids on colonic muscle contractility and tension in guinea pigs . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ) : 43-51 .
- 6) 塔依尔 阿不都哈德尔 : 神経因性疼痛モデルにおける疼痛関連行動と神経損傷の相関に関する検討 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ) : 399-407 .

## (2) 綜説 :

- 1) Murakoshi T, Nagano M, Suzuki H : Research on fear / anxiety . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 2 ) : 82-83 .
- 2) 鈴木秀典 : 神経因性疼痛と神経栄養因子 . 日本歯科麻酔学会雑誌 2004 ; 32 ( 2 ) : 169-174 .
- 3) 鈴木秀典 : サブスタンスPとタキキニンファミリー . アレルギーと神経ペプチド 2005 ; 1 : 37-44 .
- 4) 鈴木秀典 : 痛み研究の最近の進歩 . 日医大医会誌 2005 ; 1 ( 1 ) : 33 .

## (3) 研究報告書 :

- 1) 鈴木秀典 : 新規抗不安薬の標的としてのタキキニン作動性神経機構に関する研究 . 財団法人薬理研究会 平成15年度助成研究報告 2004 ; 41 : pp26-30 .

## 学会発表

### (1) ワークショップ :

- 1) 浅田 穰, 湯尾 明<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 水谷修紀<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国際医療セ研・血液, <sup>2)</sup> 東京医歯大・院・発生発達病態 ): BRAP2 ( IMP ) によるp21Cip1の細胞質局在 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics ): Neurogenic differentiation of adipose-derived stromal cells isolated from GFP transgenic mice . The Joint Meeting of the " Tissue Engineering Society International " and the " European Tissue Engineering Society " ( Lausanne, Switzerland ), 2004 . 10 .
- 2) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics ): Neurogenic differentiation of adipose-derived stem cells isolated from GFP transgenic mice . 4th Asia Pacific symposium on Neural regeneration ( Osaka, Japan ), 2004 . 12 .
- 3) 浅田 穰, 水谷修紀<sup>1)</sup>, 湯尾 明<sup>2)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup> 東京医歯大・院・発生発達病態, <sup>2)</sup> 国際医療セ研・血液 ): BRAP2によるp21の細胞質局在と細胞分化 . 第77回日本生化学会大会, 2004 . 10 .
- 4) 浅田 穰, 水谷修紀<sup>1)</sup>, Delia D<sup>2)</sup>, 湯尾 明<sup>3)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup> 東京医歯大・院・発生発達病態, <sup>2)</sup> Inst. Nazl. Tumori, Italy, Dept. Exp. Oncol. , <sup>3)</sup> 国際医療セ研・血液 ): BRAP2/IMPはp21Cip1の細胞質保持タンパクとして機能する . 第27回日本分子生物学会大会, 2004 . 12 .
- 5) 藤村樹里, 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>3)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup> 形成外科学, <sup>2)</sup> 中央電子顕微鏡施設, <sup>3)</sup> 小児科学 ): GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪組織由来幹細胞の神経系細胞への分化誘導 . 第4回日本再生医療学会総会, 2005 . 3 .

- 6) 小川 令<sup>1)</sup>, 埜 秀樹<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>2)</sup>, 倉井年幸<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 脂肪組織由来間葉系幹細胞と骨髄由来間葉系幹細胞の比較検討. 第4回日本再生医療学会総会, 2005. 3.

## [ 臨床薬理センター ]

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 阿曾亮子, 廣田 薫, 大橋和史: 医学生自身が被験者となる臨床薬理学実習の教育効果: 腎臓に作用する薬物を用いた作用(薬効)評価と安全性. 第25回日本臨床薬理学会年会, 2004. 9.
- 2) 阿曾亮子, 廣田 薫, 大橋和史: 日本医科大学付属4病院薬物治験審査委員会(IRB)年間報告(平成15年度). 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.

## 8. 病理学第一講座

### 研究概要

基礎的な研究としては、肺臓、腎臓、消化器、眼、皮膚を中心に行なわれた。肺臓では、間質性肺炎における epimorphin, Foxf-1, FGF, FGFR の役割、急性・慢性好酸球性肺炎、悪性中皮腫の電顕的研究、腎臓では、実験的糸球体腎炎への VEGF の治療効果、腎癌における COX2 の役割、腎尿細管硝子滴変性の電顕、ANCA 関連糸球体腎炎の予後因子、糸球体上皮の nestin 発現、尿管結紮と逆向性腎内流路、移植腎と血管、消化器では、胃癌と COX2、胃粘膜の ghrelin 発現と pylori 菌、胃炎・胃潰瘍と prostaglandin E、眼では眼球発生と epimorphin、角膜創傷治療と MMP12/prostaglandin E、皮膚では keratoacanthoma における弾性線維排泄などが報告された。方法論として電顕的免疫組織化学の新抗原賦活法が報告された。

診断病理学に関連して、「特異性間質性肺炎の診断と治療の手引き」、「臨床研修必携 CPC レポート作成マニュアル」、「小病変へのアプローチ；肺と甲状腺」が著書として、ループス腎炎病理新分類、薬剤性肺障害、肺気腫病変、特異性器質化肺炎、腎糸球体と VEGF などが総説として発表された。これらは、社会的ニーズに沿ったものであり、今後、ますますその必要性が増すことが予想される。

学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も活発に行われた。各種間質性肺炎、小型肺癌、肺の良悪性病変、肺腺癌と cortactin, cofilin、非小細胞癌と CD171、肺動脈血栓塞栓症、壊死性糸球体腎炎、Wegener 肉芽腫症、ループス腎炎、POEMS 症候群、後腹膜線維腫、骨肉腫などの報告が行われた。現在、CPC をはじめ臨床各科との多くの症例検討会が行われている。その中から問題点を抽出し、研究、報告することが、今日の病理医には強く求められている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Dai W<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Namimatu S<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 附属病院病理部, <sup>3)</sup> 老人病研究所病理部門 ): A new antigen retrieval method using citraconic anhydride for immunoelectron microscopy : localization of surfactant pro-protein C ( pro SP-C ) in the type II alveolar cells . J Submicrosc Cytol 2004 ; 36 (( 3-4 )) : 219-224 .
- 2) Tatsuguchi A, Matsui K<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>2)</sup>, Gudis K<sup>2)</sup>, Tsukui T<sup>2)</sup>, Kishida T<sup>2)</sup>, Fukuda Y, Sugisaki Y<sup>3)</sup>, Tokunaga A<sup>4)</sup>, Tajiri T<sup>4)</sup>, Sakamoto C<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 富山医科薬科大学第 1 病理, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学第 3, <sup>3)</sup> 同附属病院病理部, <sup>4)</sup> 同外科学第 1 ): Cyclooxygenase-2 expression correlates with angiogenesis and apoptosis in gastric cancer tissue . Human Pathol 2004 ; 35 : 488-495 .
- 3) Hashimoto Y<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Matuzawa I<sup>1)</sup>, Sato S<sup>2)</sup>, Ishizaki M, Imura N<sup>3)</sup>, Akimoto M<sup>3)</sup>, Hara S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 泌尿器科学, <sup>2)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup> Dept. of Public Helth, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University ): Cyclooxygenase-2 expression and relationship to tumour progression in human renal cell carcinoma . Histopathol 2004 ; 44 : 353-359 .
- 4) Shimizu A, Masuda Y, Mori T, Kitamura H, Ishizaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y : Vascular Endothelial Growth Factor165 Resolves Glomerular Inflammation and Accelerates Glomerular Capillary Repair in Rat Anti-GBM glomerulonephritis . J Am Soc Nephrol 2004 ; 15 ( 10 ) : 2655-2665 .
- 5) Tatsuguchi A, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Tsukui T<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第 3, <sup>2)</sup> 附属病院病理部 ): Effect of *Helicobacter pylori* infection on

ghrelin expression in human gastric mucosa . Am J Gastroenterol 2004 ; 99 : 2121-2127 .

- 6) Takei H<sup>1)</sup>, Komada Y<sup>1)</sup>, Kitamura H, Hayama N<sup>1)</sup>, Osawa H<sup>1)</sup>, Furukawa T<sup>1)</sup>, Hasegawa O<sup>1)</sup>, Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): Aneurysmal subarachnoid hemorrhage in a patient with Wegerner ' s glaucomatosis . Clin Exp Nephrol 2004 ; 8 (3): 274-278 .
- 7) Takebayashi K<sup>1)</sup>, Aso Y<sup>1)</sup>, Kitamura H, Sakurai Y<sup>2)</sup>, Wakabayashi S<sup>1)</sup>, Inukai T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Medicine, Koshigaya Hospital, Dokkyo University School of Medicine, Tokyo, <sup>2)</sup>Kasukabe Syuwa Hospital, Kasukabe): Microscopic polyangiitis presenting with liver dysfunction preceding rapidly progressive necrotizing glomerulonephritis . South Med J 2004 ; 97 (9): 911-914 .
- 8) Ohashi A, Ishizaki M, Kawano S<sup>1)</sup>, Fukuda Y (<sup>1)</sup>皮膚科学): Mechanism of transepithelial elimination of elastic fibers in keratoacanthoma . Pathol Int 2004 ; 54 : 585-594 .
- 9) Sato S<sup>1)</sup>, Kitamura H, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Inoue K<sup>1)</sup>, Wakamatu K, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>老人病研究所病理部門): Occurrence of hyaline droplets in renal biopsy specimens : an ultrastructural study . Med Mol Morphol 2005 ; 38 : 63-71 .
- 10) Hirai K<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Fukushima M<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Kawashima T<sup>1)</sup>, Okada D<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Prognostic significance of the tumor suppressor gene maspin in non-small cell lung cancer . Ann Thorac Surg 2005 ; 79 (1): 248-253 .
- 11) Gudis K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A, Wada K<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): Microsomal prostaglandin E synthase ( mPGES )-1, mPGES-2 and cytosolic PGES expression in human gastritis and gastric ulcer . Lab Invest 2005 ; 85 : 225-236 .
- 12) Mochimaru H<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Fukuda Y, Kudoh S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): Clinical differences between acute and chronic eosinophilic pneumonia . Respirol 2005 ; 10 : 76-85 .
- 13) Terasaki Y, Fukuda Y, Suga M<sup>1)</sup>, Ikeguchi N<sup>2)</sup>, Takeya M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大学医学部呼吸器内科, <sup>2)</sup>同病理): Epimorphin expression in interstitial pneumonia . Respir Res 2005 ; 6 (1): 6 .
- 14) 吉村明修<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>2)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup>, 坂本静樹<sup>4)</sup>, 猪口孝一<sup>2)</sup>, 中込明裕<sup>3)</sup>, 金子朋広<sup>4)</sup>, 田村秀人<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>4)</sup>, 森 修<sup>5)</sup>, 川本雅司, 杉崎祐一<sup>6)</sup>, 田村浩一<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>内科学第3, <sup>3)</sup>内科学第1, <sup>4)</sup>内科学第2, <sup>5)</sup>病理学第2, <sup>6)</sup>付属病院病理部): 心筋虚血, 脾腫, 汎血球 (減少) を呈し呼吸不全で死亡した不明熱の1例 . 内科 2004 ; 93 (4): 753-765 .

## (2) 綜説 :

- 1) 長田道夫<sup>1)</sup>, 榎野博史<sup>2)</sup>, 秋草文四郎<sup>3)</sup>, 今井裕一<sup>4)</sup>, 北村博司, 重松秀一<sup>5)</sup>, 杉崎徹三<sup>6)</sup>, 城 謙輔<sup>7)</sup>, 田口尚<sup>8)</sup>, 中野正明<sup>9)</sup>, 中林公正<sup>10)</sup>, 横山 仁<sup>11)</sup>, 山口 裕<sup>12)</sup>(<sup>1)</sup>筑波大学大学院人間総合科学研究科, <sup>2)</sup>岡山大学大学院医歯学総合研究科, <sup>3)</sup>松戸市立病院病理科, <sup>4)</sup>愛知医科大学腎臓膠原病内科, <sup>5)</sup>信州大学医学部第一病理学, <sup>6)</sup>昭和大学医学部腎臓内科, <sup>7)</sup>国立病院機構千葉東病院臨床研究センター, <sup>8)</sup>長崎大学大学院医歯学総合研究科, <sup>9)</sup>新潟大学医学部保健学科, <sup>10)</sup>杏林大学医学部第一内科, <sup>11)</sup>金沢大学医学部血液浄化療法部, <sup>12)</sup>東京慈恵会医科大学病理部): ループス腎炎病理診断の新しい分類 : ISN/RPS 2003年改訂分類の要点と診断マニュアル . 日本腎臓学会誌 2004 ; 46 (5): 383-395 .
- 2) 田島廣之<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 川本雅司, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 土屋真一<sup>3)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup>放射線医学・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>付属病院病理部): 画像診断ライブラリー : 小型肺癌の画像診断と細胞・組織診断 . 日本医事新報 2004 ; (4198): 53-56 .
- 3) 川本雅司 : 肺癌 : 疾患概念「特集 : 良・悪性境界病変の画像診断」. 臨床画像 2004 ; 20 (12): 1356-1363 .
- 4) 清水 章 : 腎微小血管系の傷害と腎疾患の進展, ならびに血管内皮増殖因子 ( VEGF ) による糸球体硬化進展

の制御．炎症と免疫 2004 ; 12 : 710-717 .

- 5) 福田 悠：特発性器質化肺炎 Cryptogenic organizing pneumonia ( COP ) / Bronchiolitis obliterans organizing pneumonia ( BOOP ). 病理と臨床 2004 ; 22 : 1302-1303 .
- 6) 中山智子, 福田 悠：薬剤性肺炎の病理組織像．特集：薬剤性肺障害．分子呼吸器病 2004 ; 8 : 470-475 .
- 7) 福田 悠：肺気腫病変の病理．東京都医師会雑誌 2005 ; 58 : 118-124 .

### (3) 研究報告書：

- 1) 田村浩一<sup>1)</sup>, 井内康輝<sup>2)</sup>, 堤 寛<sup>3)</sup>, 鬼島 宏<sup>4)</sup>, 羽場礼次<sup>5)</sup>, 川本雅司, 村田哲也<sup>6)</sup>, 下 正宗<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学, <sup>3)</sup> 藤田保健衛生大学医学部第一病理学, <sup>4)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, <sup>5)</sup> 香川大学医学部付属病院病理部, <sup>6)</sup> JA 三重厚生連鈴鹿中央総合病院中央検査科, <sup>7)</sup> 東京民主医療機関連合会東葛病院臨床病理科・検査科): 第93回日本病理学会総会ワークショップ報告：新医師臨床研修制度におけるCPC研修, 研修目標と方略のあり方．病理と臨床 2004 ; 22 ( 8 ): pp859-859 .
- 2) 中山智子, 福田 悠：間質性肺炎早期線維化巣における FGF10, FGFR, Foxf1 の発現についての研究．厚生労働科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患研究班．平成15年度報告書 2005 ; pp141-145 .

### (4) 症例報告：

- 1) Fukushima M<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Nakajima Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第2): Primitive neuroectodermal tumor/Ewing's sarcoma with long-term follow-up . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2005 ; 53 ( 2 ): 97-101 .
- 2) 平松久弥子<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 林 宏紀<sup>1)</sup>, 鈴木 学<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 坂根 学<sup>2)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 川本雅司, 福田 悠, 木田厚瑞<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第4, <sup>2)</sup> リウマチ科): リウマチ性関節炎に伴う間質性肺炎の急性増悪に対する治療中に両側気胸, 肺アスペルギローマを合併した1例：CPC 日常臨床から学ぶ．The Lung perspectives 2004 ; 12 ( 3 ): 238-243 .
- 3) 清水 章：腎生検所見から何を学ぶか, 腎障害の進展を腎生検にて追跡しえたPOEMS症候群の1例, 病理側の考え方．腎と透析 2004 ; 56 : 887-895 .
- 4) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 國松淳和<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 松本亜紀<sup>3)</sup>, 福田 悠, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>4)</sup>, 岸田浩<sup>5)</sup>, 山岡淳一<sup>6)</sup>, 功刀しのぶ, 根井貴仁<sup>3)</sup>, 吉村明修<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第2, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 内科学第4, <sup>4)</sup> 内科学第3, <sup>5)</sup> 内科学第1, <sup>6)</sup> 皮膚科学): 胃癌術後に嚥下障害と顔面・手指に紅斑を呈した1例．内科 2005 ; 95 ( 2 ): 350-361 .

### 著 書

- 1) 田島廣之<sup>1)</sup>, 川本雅司, 福成信博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学放射線医学, <sup>2)</sup> 伊藤病院外科画像診断部): [ 編集 ] 小病変へのアプローチ；肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 隈崎達夫, 土屋眞一監修, 田島廣之, 川本雅司, 福成信博編集 ), 2004 ; 学際企画 .
- 2) 川本雅司: [ 分担 ] 症例をみる前に：野口分類とその周辺の病理組織学的事項．小病変へのアプローチ；肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 隈崎達夫, 土屋眞一監修, 田島廣之, 川本雅司, 福成信博編集 ), 2004 ; pp20-21, 学際企画 .
- 3) 川本雅司, 松原美幸<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 放射線医学): [ 分担 ] CTNB細胞診の人工的变化とCTNB後の手術標本における線維化の評価法．小病変へのアプローチ；肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 隈崎達夫, 土屋眞一監修, 田島廣之, 川本雅司, 福成信博編集 ), 2004 ; pp22-23, 学際企画 .
- 4) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 川本雅司(<sup>1)</sup> 放射線医学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): [ 分担 ] GGO主体の病変：AAH．小病変へのアプローチ；肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 隈崎達夫, 土屋眞一監修, 田

- 島廣之, 川本雅司, 福成信博編集), 2004 ; pp24-25, 学際企画 .
- 5) 川本雅司, 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>付属病院病理部): [ 分担 ] GGO 主体の病変 : BAC in AAH ( 63 歳, 女性 ). 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 隈崎達夫, 土屋眞一監修, 田島廣之, 川本雅司, 福成信博編集 ), 2004 ; pp26-27, 学際企画 .
  - 6) 川本雅司 : [ 分担 ] 病理解剖の概要とチェックポイント . 臨床研修必携 CPC レポート作成マニュアル ( 田村浩一編 ), 2004 ; pp35-38, 南江堂 .
  - 7) 川本雅司 : [ 分担 ] 肉眼所見の取りかたと所見記載用紙への記入 . 臨床研修必携 CPC レポート作成マニュアル ( 田村浩一編 ), 2004 ; pp39-42, 南江堂 .
  - 8) 川本雅司 : [ 分担 ] 臓器の切り出し . 臨床研修必携 CPC レポート作成マニュアル ( 田村浩一編 ), 2004 ; pp51-53, 南江堂 .
  - 9) 工藤翔二<sup>1)</sup>, 阿部庄作<sup>2)</sup>, 山口悦郎<sup>2)</sup>, 貫和敏博<sup>2)</sup>, 海老名雅仁<sup>2)</sup>, 杉山幸比古<sup>2)</sup>, 中田紘一郎<sup>2)</sup>, 吉澤靖之<sup>2)</sup>, 折津 愈<sup>2)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 福田 悠, 山口哲生<sup>2)</sup>, 千田金吾<sup>2)</sup>, 谷口博之<sup>2)</sup>, 近藤康博<sup>2)</sup>, 長井苑子<sup>2)</sup>, 北市正則<sup>2)</sup>, 伊藤春海<sup>2)</sup>, 田口善夫<sup>2)</sup>, 井上哲郎<sup>2)</sup>, 小橋陽一郎<sup>2)</sup>, 野間恵之<sup>2)</sup>, 林 清二<sup>2)</sup>, 井上義一<sup>2)</sup>, 清水信義<sup>2)</sup>, 河野修興<sup>2)</sup>, 津田富康<sup>2)</sup>, 菅 守隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>本学以外の施設): [ 編集 ] 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き ( 日本呼吸器学会びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会 ), 2004 ; pp1-89, 南江堂 .
  - 10) 高橋昌巳<sup>1)</sup>, 一幡良利<sup>1)</sup>, 石崎正通, 渡理英二<sup>2)</sup>, 川角 浩<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>筑波技術大学・衛生, <sup>2)</sup>日本医科大学微生物学・免疫学, <sup>3)</sup>日本医学技術専門学校): [ 分担 ] 微生物学用語小辞典 第3版, 2004 ; 医学出版社 .
  - 11) 松原美幸<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>放射線医学): [ 分担 ] GGO 主体の病変 : 野口の Type A . 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp28-29, 学際企画 .
  - 12) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>付属病院病理部): [ 分担 ] GGO を伴う病変 : 野口の Type B . 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp30-31, 学際企画 .
  - 13) 松原美幸<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>放射線医学): [ 分担 ] GGO を伴う病変 : 野口の Type C ( 53 歳, 男性 ). 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp32-33, 学際企画 .
  - 14) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>放射線医学): [ 分担 ] GGO を伴う病変 : 野口の Type C ( 72 歳, 男性 ). 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp34-35, 学際企画 .
  - 15) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>付属病院病理部): [ 分担 ] GGO を伴う病変 : 野口の Type C ( 67 歳, 男性 ). 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp36-37, 学際企画 .
  - 16) 川本雅司, 松原美幸<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>放射線医学): [ 分担 ] 小結節性病変 : 野口の Type D . 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp38-39, 学際企画 .
  - 17) 松原美幸<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>放射線医学): [ 分担 ] 小結節性病変 : 野口の Type E . 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp40-41, 学際企画 .
  - 18) 田島廣之<sup>1)</sup>, 川本雅司, 松原美幸<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>付属病院病理部): [ 分担 ] 小結節性病変 : 野口の Type F . 小病変へのアプローチ ; 肺と甲状腺 : 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 ( 田島廣之, 川本雅司, 福成信博 ), 2005 ; pp42-43, 学際企画 .

- 19) 川本雅司, 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): [ 分担 ] 小結節性病変: Mucinous ("colloid") adenocarcinoma. 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp44-45, 学際企画.
- 20) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 病理学第2): [ 分担 ] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 扁平上皮癌. 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp46-47, 学際企画.
- 21) 松原美幸<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 放射線医学): [ 分担 ] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: カルチノイド (非定型). 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp48-49, 学際企画.
- 22) 川本雅司, 松原美幸<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 放射線医学): [ 分担 ] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 転移性肺腫瘍 (72歳, 男性). 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp50-51, 学際企画.
- 23) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 土屋眞一, 川本雅司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線医学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 病理学第2): [ 分担 ] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 転移性肺腫瘍 (72歳, 女性). 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp52-53, 学際企画.
- 24) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 川本雅司, 阿部 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線医学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): [ 分担 ] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 過誤腫とクリプトコッカス症. 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp54-55, 学際企画.
- 25) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司, 田島廣之<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 放射線医学): [ 分担 ] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 結核. 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp56-57, 学際企画.
- 26) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司, 田島廣之<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 放射線医学): [ 分担 ] GGOを呈し, 腺癌と鑑別を要する細胞が出現する非腫瘍性疾患: びまん性間質性肺炎. 小病変へのアプローチ; 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関 (田島廣之, 川本雅司, 福成信博), 2005; pp58-59, 学際企画.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 川本雅司: 創傷治癒と癒着の病理. 第2回術後癒着防止研究会, 2004. 7.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 川本雅司, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線医学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 病理学第2): CTガイド下肺穿刺生検・細胞診 (CTNBC) による末梢型小型肺病変診断の重要性と有用性. (各領域における癌境界病変の細胞診の現状と問題点: 画像・内視鏡診断との接点). 第45回日本臨床細胞学会総会, 2004. 7.

##### (3) セミナー:

- 1) 川本雅司, 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線医学): 小型肺癌の画像診断と細胞診 (我々は何をみているのか? ビギナーのための画像診断と細胞診). 第63回日本医学放射線学会学術集会, 2004. 4.

##### (4) ワークショップ:

- 1) 川本雅司, 田村浩一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): 大学病院における従来型CPC簡略化の実例 (新医師臨床研修制度におけるCPC研修 研修目標と方略のあり方). 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
- 2) 川本雅司: 指定討論者 (末梢小型肺腺癌の細胞診). 第45回日本臨床細胞学会総会, 2004. 7.
- 3) 川本雅司: あなたの見ている標本は本当に肺大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) ですか? (肺大細胞神経内分泌の細胞像と鑑別診断). 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.

- 4) 石崎正通, 北村博司, 益田幸成, 山中宣昭, 杉崎祐一: 系球体上皮細胞におけるNestinの発現. 第3回日本腎病理協会研究会, 2005. 1.
- (5) 一般講演:
- 1) Ishii Y<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>2)</sup>, Kubata K<sup>2)</sup>, Fuchinoue S<sup>1)</sup>, Teraoka S<sup>1)</sup>, Shimizu A ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo women's Medical University, Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Dokkyo University School of Medicine, Tochigi): Injury and subsequent loss of peritubular capillaries in the development of chronic allograft nephropathy. The 20th International Congress of The Transplantation Society ( Vienna ), 2004. 9.
  - 2) 竹内真吾<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川本雅司 ( <sup>1)</sup> 外科学第2): 孤立性転移性肺腫瘍として再発した直腸悪性黒色腫の1例. 第129回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2004. 2.
  - 3) 益田幸成, 北村博司, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部): UUOモデルにおける逆行投与による物質の動態. 第47回日本腎臓学会総会, 2004. 5.
  - 4) 滝澤憲一<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 宮田 朗<sup>1)</sup>, 桃井貴裕<sup>1)</sup>, 本間英恵<sup>1)</sup>, 手塚晶人<sup>1)</sup>, 安藤岳史<sup>3)</sup>, 石川 源<sup>4)</sup>, 川本雅司, 中村 隆<sup>5)</sup>, 五十嶋一成<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学学生, <sup>2)</sup> 同内科学第1, <sup>3)</sup> 同麻酔科学, <sup>4)</sup> 同産婦人科学診療科, <sup>5)</sup> 中村病院, <sup>6)</sup> 自衛隊中央病院): 中高年登山者の基礎疾患と日常トレーニングの実態: 北アルプス山岳診療所の調査報告. 日本登山医学シンポジウム, 2004. 5.
  - 5) 宮崎麻理子<sup>1)</sup>, 小林朋子<sup>1)</sup>, 須金紀雄<sup>1)</sup>, 大森千春<sup>1)</sup>, 高橋典明<sup>1)</sup>, 橋本 修<sup>1)</sup>, 赤柴恒人<sup>1)</sup>, 堀江孝至<sup>1)</sup>, 中山智子 ( <sup>1)</sup> 日本大学医学部内科学講座呼吸器内科): 関節リウマチ発症時に胸腔鏡下肺生検でBOOPと診断した1例. 日本呼吸器学会関東地方会, 2004. 5.
  - 6) 北村博司, 益田幸成, 石崎正通, 杉崎裕一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部): ANCA関連腎炎における予後推定因子の組織学的検討. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
  - 7) 益田幸成, 北村博司, 石崎正通, 杉崎裕一<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部): ラットUUOモデルにおける逆行投与による物質の動態. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
  - 8) 藤永周一郎<sup>1)</sup>, 高田 大<sup>1)</sup>, 村上仁彦<sup>2)</sup>, 大友義之<sup>1)</sup>, 赤司修二<sup>1)</sup>, 北村博司 ( <sup>1)</sup> 埼玉県小児医療センター腎臓科, <sup>2)</sup> 同病理部): 短期少量投与のIVCY療法にて組織像が改善した増殖性(4型)ループス腎炎の2例. 第71回関東小児腎研究会, 2004. 6.
  - 9) 石崎正通, 尾碇憲子<sup>1)</sup>, 川村有葉, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 都立駒込病院眼科): 眼組織形成とEpimorphinの発現-免疫組織学的検討. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
  - 10) 康 徳東, 功刀しのぶ, 益田幸成, 福田 悠: 悪性中皮腫にみられた細胞外基質の電顕的検討. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
  - 11) 中山智子, 石崎正通, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 病理学第2): 間質性肺炎早期線維化巣におけるFGF-10, FGF-R, Fox f1の発現についての検討. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
  - 12) 功刀しのぶ, 中山智子, 川本雅司, 福田 悠: 気管支腔内にポリープ状に発生したSialadenoma papilliferumの1例. 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
  - 13) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 小津千佳<sup>2)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 大久保公祐<sup>2)</sup>, 中山智子, 川本雅司, 田村浩一<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 鈴木恒道<sup>4)</sup>, 八木聡明<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 福田 悠, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学第2, <sup>2)</sup> 同耳鼻咽喉科学, <sup>3)</sup> 同付属病院病理部, <sup>4)</sup> 東京警察病院病理部): 全経過47年の頭蓋・顔面骨肉腫の1剖検例. 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
  - 14) 原田明希摩<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 川本雅司, 三島拓也<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2, <sup>2)</sup> 解剖学第1): 肺腺癌におけるCortactinの発現検討とその分子生物学的意義. 第63回日本癌学会総会, 2004. 9.



- 15) 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 原田明希摩<sup>1)</sup>, 川本雅司, 三島拓也<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>解剖学第1): 肺腺癌におけるCofilinの発現の検討と分子生物学的意義. 第63回日本癌学会総会, 2004. 9.
- 16) 平井恭二<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原田明希摩<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川本雅司(<sup>1)</sup>外科学第2): ヒト非小細胞癌におけるL1 adhesion molecule (CD171)の発現とその臨床的意義について. 第63回日本癌学会総会, 2004. 9.
- 17) 康 徳東, 功刀しのぶ, 益田幸成, 福田 悠: 悪性中皮腫にみられたFLS膠原細線維の検討. 第72回日本医科大学医学学会総会, 2004. 9.
- 18) 石崎正通, 川村有葉, 尾崎憲子<sup>1)</sup>, 福田 悠(<sup>1)</sup>都立駒込病院眼科): 眼発生過程におけるEpimorphinの発現. 第72回日本医科大学医学学会総会, 2004. 9.
- 19) 李 卿<sup>1)</sup>, 中台亜里<sup>1)</sup>, 石崎正通, 森本兼曩<sup>2)</sup>, Krensky AM<sup>3)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup>大阪大学医学部環境医学教室, <sup>3)</sup>Division of Immunology and Transplantation Biology, Stanford University School of Medicine, Stanford, CA, USA): 有機リン農薬DDVPによるヒトNK細胞内のPerforin, Granzyme A, Granulysin発現量への影響. 第11回免疫毒性学会学術大会, 2004. 9.
- 20) 金子朋広<sup>1)</sup>, 飯塚美穂<sup>1)</sup>, 斉藤京子<sup>1)</sup>, 高田大輔<sup>1)</sup>, 鎌野千佐子<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 北村博司, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 長期に観察しえたパラプロテイン血症に合併したimmunotactoid腎症の1例. 第34回日本腎臓学会東部学術大会, 2004. 10.
- 21) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 橋本和政<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 岸雄一郎<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 北村博司, 飯野靖彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科学第2): 免疫吸着及びエンドキサンパルス療法が著効した高齢発症のループス腎炎の1例. 第34回日本腎臓学会東部学術大会, 2004. 10.
- 22) 大石篤朗<sup>1)</sup>, 遠藤陽子<sup>1)</sup>, 南学正臣<sup>1)</sup>, 藤乗 泰<sup>1)</sup>, 野入英世<sup>1)</sup>, 藤田敏郎<sup>1)</sup>, 宇崎 宏<sup>2)</sup>, 遠藤久子<sup>2)</sup>, 北村博司(<sup>1)</sup>東京大学医学部腎臓内分泌内科, <sup>2)</sup>同病理部): ネフローゼ症候群を契機に発見された後腹膜線維症. 第38回東京腎生検カンファランス, 2004. 10.
- 23) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 載 威<sup>1)</sup>, 並松茂樹<sup>2)</sup>, 石崎正通(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>付属病院病理部): II型肺胞上皮細胞のサーファクタントproprotein Cの局在: シトラコン酸の抗原賦活化による新しい免疫電顕法を用いて. 第40回日本海面医学会学術研究会, 2004. 10.
- 24) 松井洋法<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 石崎正通, 小原澤秀彰<sup>1)</sup>, 鈴木久晴<sup>1)</sup>, 志和利彦<sup>1)</sup>, 高橋 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院眼科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 正常ラット網膜毛細血管の超微構造の形態学的観察: 血管細胞間結合様式. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2004. 11.
- 25) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 北村博司, 石崎正通, 若松恭子, 安達彰子<sup>1)</sup>, 井上京子<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電顕施設): 尿細管間質の毛細血管基底膜の層状増殖. 第36回日本臨床電子顕微鏡学総会, 2004. 11.
- 26) 尾崎憲子<sup>1)</sup>, 石崎正通, 川村有葉, 福田 悠, 村上喜三雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立駒込病院眼科): 水晶体および角膜の形成とEpimorphin. 第109回日本眼科学会総会, 2005. 3.
- 27) 岩波美陽<sup>1)</sup>, 石崎正通, 福田 悠, 高橋 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>眼科学): 角膜創傷治癒過程におけるMMP-12の発現. 第109回日本眼科学会総会, 2005. 3.
- 28) 川村有葉, 石崎正通, 高橋 浩<sup>1)</sup>, 福田 悠(<sup>1)</sup>眼科学): 角膜創傷治癒過程におけるプロスタグランジンE合成酵素の発現および局在. 第109回日本眼科学会総会, 2005. 3.
- (6) 展示発表:
- 1) 恩田直美<sup>1)</sup>, 竹間友紀<sup>1)</sup>, 杼窪 寛<sup>1)</sup>, 羽田圭佑<sup>1)</sup>, ジュラットトホテ, 富樫真由子, 塚田克也<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>医学部第3学年, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 肺動脈血栓塞栓症の吸引療法に関する臨床病理学的検討. 第72回日本医科大学医学学会総会, 2004. 9.

## 9. 病理学第二講座

### 研究概要

現在、病理学第二講座では主に消化器疾患につき有効な診断法と治療法の開発を目的に研究を行なっている。

1. 消化器腫瘍の増殖，進展機序の研究と治療への応用：膵臓癌と消化管の癌（食道，胃，大腸癌）において培養癌細胞，実験動物モデル，ヒト病理組織標本などを用いて検討を行なっている。特に腫瘍細胞と間質細胞の細胞外基質，細胞増殖因子，接着因子と受容体の発現を免疫組織化学染色法，in situ hybridization法，real-time PCRと遺伝子導入法などの分子病理学的手法を用いて総合的に研究している。細胞増殖因子では線維芽細胞増殖因子（FGF）ファミリーのFGF-7/KGFとその受容体のKGFR，細胞外基質では小型ロイシンリッチプロテオグリカンのファミリーのlumicanについて主に研究を行っている。これら細胞外基質や増殖因子の作用機構について，細胞骨格や細胞内シグナル伝達系との関連に注目し，細胞内情報発現の調節機構の解明を試みている。

2. 膵炎の発症，進展における細胞増殖因子の役割の研究：急性および慢性膵炎の病態の増悪と，組織の再生による回復過程に関与する細胞増殖因子と細胞外基質の発現と局在を，形態学的また遺伝子レベルで解析し，それらの発現の制御や膵臓幹細胞同定・分化誘導による治療の可能性について検討している。

3. 腫瘍，炎症性疾患，変性疾患における血管，リンパ管の増殖機序の検討：腫瘍の増殖，転移や肉芽組織の形成には新生血管とリンパ管が重要な役割を果たしている。これらの血管，リンパ管の増殖，分化や動脈硬化症の進展には細胞外基質や細胞増殖因子が関与しており，その制御について研究を行っている。現在，血管内皮細胞増殖因子のVEGFファミリーによる血管内皮細胞増殖の制御と，リンパ管の特異的マーカーのD2-40などを用いてリンパ管の局在と役割について検討している。

本年度に導入されたマルチモード顕微鏡などの最新機器と，共同研究の発展により研究レベルは向上しているが，未だ消化器疾患の診断，治療につながる成果を得るまでには至っていない。今後の尚一層の努力が必要と考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kato S<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Togashi A<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Matsuda N<sup>1)</sup>, Yamada N, Naito Z, Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Sex differences in mucosal response to Helicobacter pylori infection in the stomach and variation in interleukin-8, COX-2 and trefoil factor family 1 gene expression . Aliment Pharmacol Ther 2004 ; 20 ( 1 ): 17-24 .
- 2) Tanno M<sup>1)</sup>, Nakajima A<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Naito Z, Yoshino S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Joint Disease and Rheumatism ): Effect of general anesthesia on the abnormal immune response in patients with rheumatoid arthritis . Clin Exp Rheumatol 2004 ; 22 : 727-732 .
- 3) Kurban G, Ishiwata T, Kudo M, Yokoyama M, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital ): Expression of keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR2 IIIb ) in human uterine cervical cancer . Oncology Rep 2004 ; 11 : 987-991 .
- 4) Kusafuka K<sup>1, 2, 3, 4)</sup>, Ishiwata T, Sugisaki Y<sup>5)</sup>, Takemura T<sup>4)</sup>, Kusafuka M<sup>1, 2, 3)</sup>, Hisha H<sup>1, 2, 3, 6)</sup>, Ikehara S<sup>1, 2, 3, 6, 7)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Transplantation for Regeneration Therapy, Sponsored by Otsuka Pharmaceutical Co, Ltd, Kansai Medical University , <sup>2)</sup>Regeneration Center for Intractable Diseases, Kansai Medical University , <sup>3)</sup>Center for Cancer Therapy, Kansai Medical University , <sup>4)</sup>Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center , <sup>5)</sup>Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital , <sup>6)</sup>The First De-

- partment of Pathology, Kansai Medical University , <sup>7)</sup> Transplantation Center, Kansai Medical University ): Lumican expression is associated with the formation of mesenchyme-like elements in salivary pleomorphic adenomas . *J Pathol* 2004 ; 203 : 953-960 .
- 5) Ishiwata S<sup>1,2)</sup>, Ozawa Y<sup>1)</sup>, Katayama J<sup>1)</sup>, Kaneko S<sup>1)</sup>, Shindo H<sup>1)</sup>, Tomioka Y<sup>1)</sup>, Ishiwata T , Asano G , Ikegawa S<sup>2)</sup>, Mizugaki M<sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University Hospital , <sup>2)</sup> Department of Bioanalytical Pharmaceutics, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki University , <sup>3)</sup> Department of Clinical Pharmaceutics, Tohoku Pharmaceutical University ): Elevated expression level of 60-kDa subunit of tRNA-guanine transglycosylase in colon cancer . *Cancer Lett* 2004 ; 212 : 113-119 .
  - 6) Mori O<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>2)</sup>, Yamazaki M<sup>3)</sup>, Komiyama T<sup>3)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurology , <sup>3)</sup> Department of Neurology, Hatsuishi Hospital ): A Pre-senile Case of Limbic Encephalitis and Cerebellar Degeneration, with Subacute Onset of Progressive Dementia . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 6 ) : 412-416 .
  - 7) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Yokoyama M , Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital ): The effect of cellular proliferative activity on recurrence and local tumour extent of localized giant cell tumour of tendon sheath . *J Hand Surg* 2004 ; 29 ( 6 ) : 604-607 .
  - 8) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Matubara M<sup>2)</sup>, Yokoyama M , Naito Z , Maeda S<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital , <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital ): Fine needle aspiration cytology of primary epithelioid sarcoma. A report of 2 cases . *Acta Cytol* 2004 ; 48 ( 3 ) : 391-6 .
  - 9) Fukuhara M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>1)</sup>, Naito Z , Ishiwata T ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Reexpression of Reduced VEGF Activity in Liver Metastases of Experimental Pancreatic Cancer . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 3 ) : 155-164 .
  - 10) Machida T<sup>1)</sup>, Kameyama K , Onda M , Naito Z , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Characteristic localisation of denatured high-density lipoprotein ( HDL ) at the periphery of a lipid core in human atherosclerotic lesions . *Pathology* 2005 ; 37 : 32-39 .
  - 11) Yoshino M<sup>1)</sup>, Ishiwata T , Watanabe M<sup>1)</sup>, Komine O<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Insitute of Gastroenterology, Nippon Medical School Second Hospital ): Keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR2 IIIb ) expression in normal colorectal epithelial cells and differentiated type of colorectal cancer . *Oncology Rep* 2005 ; 13 : 247-252 .
  - 12) Katsuta M<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kudo M , Ishiwata T , Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ( Department of Surgery I ) , Graduate School of Medicine ): Correlation of hypoxia inducible factor-1 with lymphatic metastasis via vascular endothelial growth factor-C in human esophageal cancer . *Exp Mol Pathol* 2005 ; 78 : 123-130 .
  - 13) Shinji S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ishiwata T , Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ and Biological Regulation ( Department of Surgery I ) , Graduate School of Medicine ): Different expression levels of lumican in human carcinoid tumor and neuroendocrine cell carcinoma . *Int J Oncol* 2005 ; 26 : 873-880 .
  - 14) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Arima Y<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>1)</sup>, Katsuno A<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ and Biological Regulation ( Department of Surgery I ) , Graduate School of Medicine ): Changes to levels of serum neuron-specific enolase in a patient with small cell carcinoma of the pancreas . *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2005 ; 12 : 93-98 .
  - 15) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 大腸

早期癌に対する内視鏡治療後の再発 早期大腸癌の臨床病理学的検討と治療方針．消化器科 2004；38(4)：365-372．

(2) 総説：

- 1) Naito Z：The Role of Small Leucine-rich Proteoglycan (SLRP) Family in Pathological Lesions and Cancer Cell Growth．J Nippon Med Sch 2005；72(3)：137-145．
- 2) 片山博徳<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，横山宗伯，内藤善哉<sup>(1)</sup>多摩永山病院病理部)：術中迅速診断における細胞診材料に対する迅速免疫染色の応用．Med Technol 2005；33(6)：597-603．
- 3) 前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，内藤善哉，横山宗伯<sup>(1)</sup>多摩永山病院病理部)：穿刺材料の塗布法とそれらが細胞診に与える影響．病理と臨床 JST 2005；23(6)：611-614．

(3) 症例報告：

- 1) 内藤善哉：閉塞性黄疸で発症した膵胆道疾患の1症例．日本臨床細胞学会東京都支部会報 2004；22：28-29．
- 2) 川野陽一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，秋丸琉甫<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>(1)</sup>外科学第1)：早期胃癌に十二指腸カルチノイドが併存した1切除例．J Nippon Med Sch 2004；71(3)：198-202．
- 3) 片山博徳<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，原 博<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，志村俊郎<sup>2)</sup>，横山宗伯，内藤善哉<sup>(1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>脳神経外科学)：術中迅速診断に細胞診および免疫染色が有用であった膠芽腫(肥胖細胞型)の1例．日本臨床細胞学会雑誌 2004；43(5)：331-334．
- 4) 上田純志<sup>1)</sup>，赤須東樹<sup>1)</sup>，北川 亘<sup>1)</sup>，田中久美<sup>1)</sup>，軸園智雄<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>1)</sup>，横山宗伯，土屋眞一<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：内腔上皮が扁平上皮である嚢胞を合併する甲状腺乳頭癌の1例．日本臨床外科学会雑誌 2004；65(10)：2817-2817．
- 5) 東 直行<sup>1)</sup>，吉野公二<sup>1)</sup>，木村陽一<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>，北川泰之<sup>2)</sup>，横山宗伯<sup>(1)</sup>皮膚科学，<sup>2)</sup>整形外科学)：前腕部に巨大腫瘤を呈した悪性線維性組織球腫の1例．Skin Cancer 2004；19(2)：224-228．
- 6) 磯部宏昭<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，志村俊郎<sup>2)</sup>，横山宗伯，内藤善哉<sup>(1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>脳神経外科学)：術中迅速細胞診が有用であった毛様細胞性星細胞腫の1例．日本臨床細胞学会雑誌 2005；44(2)：69-71．

著 書

- 1) Ishiwata T：〔分担〕Immunohistochemical and in situ hybridization analysis of lumican in colorectal carcinoma．Handbook of Immunohistochemistry and In situ hybridization of human carcinomas, Volume 2 (M. A. Hayat)，2005；pp237-243，Elsevier Academic Press．
- 2) 内藤善哉：〔分担〕細胞診，特殊染色関連項目(正診率，色素排除試験，ズダンIII染色，硝子化など)．医学大辞典(伊藤正男・井村裕夫・高久史磨)，2004；p1362，医学書院．
- 3) 横山宗伯：〔自著〕連載：これだけは理解してほしい 看護に必要な検査と検査値．「准看護師 資格試験」2004年4月号～2005年3月号，2004；医学芸術社．
- 4) 内藤善哉：〔分担〕第2章 診断 「乳房組織の病理検索マニュアル」．別冊・医学の歩み 乳腺疾患(伊藤良則，戸井 雅和)，2004；pp116-118，医歯薬出版株式会社．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 川本雅司<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>2)</sup>，松原美幸<sup>3)</sup>，恩田宗彦，田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1，<sup>2)</sup>放射線医学，<sup>3)</sup>付属病院病理部)：CTガイド下針穿刺生検・細胞診(CTNB)による末梢型小型肺病変診断の重要性と有用性(各領域における癌境界病変の細胞診の現状と問題点)．第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会)，2004．5．

- 2) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 北川泰之<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>(1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup> 同整形外科): 穿刺吸引細胞診を軟部腫瘍診療にどう活用するか? 軟部腫瘍細胞診を一般化するために(シンポジウム2 特殊領域での細胞診). 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 5.
- 3) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部): 浸潤性星細胞腫の細胞像: びまん性浸潤部を中心に(特殊領域での細胞診). 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 5.
- 4) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部): リンパ節の穿刺吸引細胞診(FNAC): 悪性リンパ腫のFNACとその今日的意義 (特殊領域での細胞診). 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 5.
- 5) 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯, 石渡俊行, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第1): 膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMT)の細胞像: IPMT由来浸潤癌との鑑別を中心に(膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMT)の細胞診). 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
- 6) 町田 稔<sup>1)</sup>, 森山紀之<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 横山宗伯, 内藤善哉, 清水昭夫<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>3)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, <sup>2)</sup> 創価大学工学部, <sup>3)</sup> 日本医科大学放射線医学): 変性IV型コラーゲンと光感受性物質の会合-微弱光照射による血管新生, 細胞増殖制御の基礎研究. 第64回日本医学放射線学会学術集会, 2005. 2.
- (2) パネルディスカッション:
- 1) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科): LCM+RT-PCR法による大腸癌術前生検および手術標本での5-FU代謝関連酵素mRNA発現量の比較. 第59回日本消化器外科学会, 2004. 7.
- (3) ワークショップ:
- 1) 松田範子<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第1): 肝癌の背景肝組織中のIL-8, COX-2, HGF mRNA発現と病理学的血管因子. 第15回日本消化器癌発生学会総会, 2004. 8.
- 2) 亀山孝二, 町田 稔<sup>1)</sup>, 清水昭夫<sup>2)</sup>, 手塚 潔, 恩田宗彦, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, <sup>2)</sup> 創価大学工学部): 動脈硬化病変の疎水・酸性環境のコラーゲン(type IV)破壊変性と脂質蓄積状態での会合モデルを用いた解析(動脈硬化の病態). 第45回日本脈管学会総会, 2004. 10.
- 3) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 清水昭夫<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>3)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 森山紀之<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, <sup>2)</sup> 創価大学工学部, <sup>3)</sup> 日本医科大学放射線科ハイテクリサーチセンター): 血管新生, 細胞増殖に関わる変性IV型コラーゲンと光感受性物質会合-微弱光照射による病態の評価と誘導制御の基礎研究(動脈硬化の病態). 第45回日本脈管学会総会, 2004. 10.
- 4) 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>2)</sup>, 渡会泰彦<sup>2)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): 閉塞性黄疸の画像と細胞診 (消化器領域における画像診断と細胞診). 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
- (4) 一般講演:
- 1) Ishiwata T, Yoshino M<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Komine O<sup>1)</sup>, Fujii T, Kawahara K, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup> Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Second Hospital, <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Second Hospital): Expression and the role of keratinocyte growth factor receptor (KGF2R/FGFR2-IIIb) in human colorectal cancer. 12th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry (San Diego), 2004. 7.
- 2) Ishiwata T, Kudo M, Kawamoto Y, Fujii T, Kawahara K, Naito Z: Expression of nestin in rat L-argi-

- nine-induced pancreatitis . Joint Meeting of the 11th Meeting of the International Association of Pancreatology and the 35th Annual Meeting of the Japan Pancreas Society ( Sendai ), 2004 . 7 .
- 3) Yoshino M<sup>1)</sup>, Ishiwata T , Watanabe M<sup>1)</sup>, Bo H<sup>1)</sup>, Komazaki T<sup>1)</sup>, Matumoto K<sup>2)</sup>, Naito Z , Shibuya T<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Insitute of Gastroenterology, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Second Hospital ): Expression and localization of keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR2IIb ) in colorectal cancer . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis ( Sapporo ), 2004 . 8 .
  - 4) Shinji S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Seya T<sup>2)</sup>, Ishiwata T , Naito Z , Sugisaki Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Surgery for Organ and Biological Regulation ( Department of Surgery I, Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital , <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology ): Lumican expression in human neuroendocrine tumor . 12th United European Gastroenterology Week 2004 ( Prague ), 2004 . 9 .
  - 5) Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>2)</sup>, Katsuta M<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Ishiwata T , Naito Z , Ishiwata S<sup>3)</sup>, Ikegawa S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital , <sup>2)</sup> Surgery for Organ and Biological Regulation ( Department of Surgery I ), Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki University ): USP14/TGT60kDa expression in human colorectal carcinoma . 12th United European Gastroenterology Week 2004 ( Prague ), 2004 . 9 .
  - 6) Seya T<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>2)</sup>, Yokoi K<sup>2)</sup>, Ishikawa N<sup>2)</sup>, Horiba K<sup>2)</sup>, Kanazawa Y<sup>2)</sup>, Yamada T<sup>2)</sup>, Takahashi Y<sup>2)</sup>, Koizumi M<sup>2)</sup>, Shirakawa T<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Ishiwata T (<sup>1)</sup> Surgery for Organ and Biological Regulation ( Department of Surgery I, Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital , <sup>3)</sup> Division of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital ): Expression of EMMPRIN, matrix metalloproteinase-9 and type IV collagen in colorectal cancer with/without liver metastasis . 12th United European Gastroenterology Week 2004 ( Prague ), 2004 . 9 .
  - 7) Shinji S<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Seya T<sup>2)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Tsuruta H<sup>1)</sup>, Matuda A<sup>1)</sup>, Katsuta M<sup>1)</sup>, Teranishi N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ishiwata T , Yokoyama M , Naito Z (<sup>1)</sup> Surgery for Organ and Biological Regulation ( Department of Surgery I, Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital ): Micrometastasis in node negative colorectal carcinoma by immunohistochemical diagnosis with CK20 . 19th International Society for Digestive Surgery ( Yokohama ), 2004 . 12 .
  - 8) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Hando K<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Yanagida Y<sup>1)</sup>, Yokoyama M , Naito Z (<sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital ): FNA Cytology on Breast Tumor - The Utility and the Cautionary Important Points on Diagnosis . The Eleventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology ( Chonburi, Thailand ), 2005 . 1 .
  - 9) Handou K<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Yamagata Y<sup>1)</sup>, Kawano K<sup>1)</sup>, Akiyama H<sup>1)</sup>, Yokoyama M , Naito Z (<sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital ): Correlation with Biological Markers, Cytological Features and Prognosis in Invasive Breast Cancer - First Report . The Eleventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology ( Chonburi, Thailand ), 2005 . 1 .
  - 10) Yokoyama M , Matsubara M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Kitagawa Y<sup>3)</sup>, Takeuchi T<sup>3)</sup>, Ito H<sup>3)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> Department of Orthopedic Surgery ): Is Fine Needle Aspiration Cytology of Bone Tumors useful? . The Eleventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology ( Chonburi, Thailand ), 2005 . 1 .

- 11) Yanagida Y<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Handou K<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>2)</sup>, Yokoyama M, Naito Z ( <sup>1</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> Department of Chest Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Three Cases of Lung Tumor Only by Intraoperative Rapid Cytology . The Eleventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology ( Chonburi, Thailand ), 2005 . 1 .
- 12) Fujiwara Y, Asakawa K<sup>1)</sup>, Yokoyama M, Ishikawa A, Kimata R<sup>2)</sup>, Kimura G<sup>2)</sup>, Naito Z, Sugisaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2</sup> Department of Urology, Nippon Medical School Hospital ): Two Rare Cases of Neuroendocrine Carcinoma ( Small Cell Carcinoma ), Diagnosed by Urine Cytology . The Eleventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology ( Chonburi, Thailand ), 2005 . 1 .
- 13) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 外科学第1 ): 胃粘膜 IL-8, COX2, HGF, TFF1 遺伝子発現と胃癌発生高危険粘膜の特徴とピロリ除菌による癌発生予防 . 第76回日本胃癌学会総会, 2004 . 3 .
- 14) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 森山雄吉<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 第二病院消化器病センター, <sup>2</sup> 同病理部 ): 大腸癌における keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR2IIIb ) の発現と局在 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 15) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 第二病院消化器病センター ): Keratinocyte growth factor receptor ( KGFR ) 遺伝子発現の抑制による大腸癌細胞の増殖抑制効果 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 16) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 神田智洋<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 外科学第1, <sup>2</sup> 第二病院消化器病センター ): 残胃粘膜における IL-8, COX2 遺伝子発現からみた癌発生高危険粘膜の特徴とヘリコバクター・ピロリ (HP) 除菌治療による残胃の癌発生予防の可能性 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 17) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 石渡俊行, 大秋美治<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2</sup> 外科学第1, <sup>3</sup> 千葉北総病院病理部 ): ヒト胃癌におけるルミカンの発現と腸上皮化生 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 18) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 付属病院外科学第1, <sup>2</sup> 千葉北総病院外科 ): カルチノイドにおける Lumican の発現意義 . 第104回日本外科学会総会, 2004 . 4 .
- 19) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 恩田宗彦, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 放射線医学・ハイテクリサーチセンター ): 動脈硬化モデルにおけるヘマトポルフィリンを用いた光散乱計測 . 第63回日本医学放射線学会, 2004 . 4 .
- 20) 佐藤春明<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 付属病院病理部 ): Tubulolobular carcinoma の細胞像 . 第45回 日本臨床細胞学会総会 ( 春期大会 ), 2004 . 5 .
- 21) 永井祥子<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 付属病院病理部 ): 男性乳腺に発生した Invasive micropapillary carcinoma の1例 . 第45回 日本臨床細胞学会総会 ( 春期大会 ), 2004 . 5 .
- 22) 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 横山宗伯, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 付属病院病理部, <sup>2</sup> 病理学第1 ): 乳腺における診断困難例 ( とくに乳腺線維腺腫 ) とその対処法 . 第45回 日本臨床細胞学会総会, 2004 . 5 .
- 23) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 外科学第1 ): 肝癌切除後の予後予測の試み : 切除組織の IL-8, COX-2, HGF mRNA 発現と線維化との関連 . 第40回 日本肝臓学会総会, 2004 . 6 .
- 24) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 石渡俊行, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 外科学第1, <sup>2</sup> 付属病院病理部 ): 食道癌における HIF-1 , VEGF-A, VEGF-C

発現の臨床病理学的検討．第58回日本食道学会学術集会，2004．6．

- 25) 進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>2)</sup>，瀬谷知子<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，石渡俊行，横山宗伯，内藤善哉，杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>千葉北総病院外科，<sup>3)</sup>付属病院病理部)：Neuroendocrine cell tumorにおけるlumicanの発現．第93回日本病理学会総会，2004．6．
- 26) 勝田美和子<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内藤善哉，石渡俊行，横山宗伯，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：食道癌におけるHIF-1，VEGF，iNOS，p53の発現と臨床病理学的因子との関連．第93回日本病理学会総会，2004．6．
- 27) 前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，劉 愛民<sup>2)</sup>，内藤善哉(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設)：放射線誘発性が推定される脳原発骨肉腫の1例．第93回 日本病理学会総会，2004．6．
- 28) 横山宗伯，小津千佳<sup>1)</sup>，横島一彦<sup>1)</sup>，中溝宗永<sup>1)</sup>，大久保公祐<sup>1)</sup>，中山智子<sup>2)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，田村浩一<sup>3)</sup>，杉崎祐一<sup>3)</sup>，鈴木恒道<sup>4)</sup>，八木聡明<sup>1)</sup>，恩田宗彦，石渡俊行，福田 悠<sup>2)</sup>，内藤善哉(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科，<sup>2)</sup>同病理学第1，<sup>3)</sup>同病理部，<sup>4)</sup>東京警察病院病理部)：全経過47年の頭蓋・顔面骨肉腫の1剖検例．第93回 日本病理学会総会，2004．6．
- 29) 細根 勝<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，内藤善哉(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部)：高齢者の胸水中に発生し，緩徐な臨床経過を示したリンパ形質細胞性リンパ腫(LPL)-Primary Effusion Lymphoma(PEL)の範疇か．第93回 日本病理学会総会，2004．6．
- 30) 吉野雅則<sup>1)</sup>，石渡俊行，渡辺昌則<sup>1)</sup>，工藤光洋，川原清子，手塚 潔，横山宗伯，森山雄吉<sup>1)</sup>，内藤善哉(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)：大腸癌細胞における線維芽細胞増殖因子受容体(KGFR / FGFR2IIIb)の発現と局在．第93回 日本病理学会総会，2004．6．
- 31) 吉野雅則<sup>1)</sup>，石渡俊行，渡辺昌則<sup>1)</sup>，小峰 修<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，内藤善哉，森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)：大腸癌における線維芽細胞増殖因子受容体の発現とその意義．第59回 日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 32) 相本隆幸<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，張 一光<sup>1)</sup>，内藤善哉，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：Clinical benefit からみた膵癌に対するGemcitabine術後補助療法の功罪．第59回 日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 33) 勝田美和子<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，柏原 元<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内藤善哉，石渡俊行，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：食道癌における血管新生関連蛋白の発現と臨床病理学的因子との検討．第59回日本消化器外科学会，2004．7．
- 34) 中村慶春<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，相本隆幸<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，川本聖郎<sup>1)</sup>，横室茂樹<sup>1)</sup>，有馬保生<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1)：先天性胆道拡張症における分流手術後16年目に遺残膵内胆管内に発生した胆管癌の1切除例．第59回日本消化器外科学会，2004．7．
- 35) 進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>2)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，高崎秀明<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>2)</sup>，菅 隼人<sup>1)</sup>，鶴田宏之<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，勝田美和子<sup>1)</sup>，寺西宣央<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，石渡俊行，内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>千葉北総病院外科)：Stage I，II大腸癌リンパ節微小転移の検出とその臨床的意義．第61回大腸癌研究会，2004．7．
- 36) 加藤俊二<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，松田範子<sup>1)</sup>，神田智洋<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，内藤善哉，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：Helicobacter pylori(HP)の既感染をともなわない胃癌症例の解析．第63回 日本癌学会学術総会，2004．9．
- 37) 瀬谷知子<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，内藤善哉，石渡俊行，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>3)</sup>，高橋由至<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>2)</sup>，山下精彦<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1，<sup>3)</sup>千葉北総病院病理部)：大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN，MMP-9，IV型コラーゲンの発現．第63回 日本癌学会学術総会，2004．9．
- 38) 勝田美和子<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，柏原 元<sup>1)</sup>，高橋 健<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内藤



- 善哉, 石渡俊行, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 食道扁平上皮癌のリンパ節転移巣における HIF-1, VEGF-C の発現. 第63回 日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 39) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 丸山弘<sup>2)</sup>, 二見良平<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科, <sup>3)</sup>付属病院病理部): 食道扁平上皮癌の予後と p53, HIF-1, VEGF-A, VEGF-C, iNOS 蛋白の発現との検討. 第63回 日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 40) 松田範子<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝癌の病理学的血管因子と背景肝組織中の IL-8, COX-2, HGF mRNA 発現との関連. 第63回 日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 41) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊二<sup>3)</sup>, 池川繁男<sup>3)</sup>, 石渡俊行(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>2)</sup>同千葉北総病院外科, <sup>3)</sup>近畿大学薬学部): 大腸癌における USP14/TGT60kDa 発現の臨床的意義. 第46回日本消化器病学会総会, 2004. 10.
- 42) 秋山裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 内藤善哉(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 体腔液細胞診陽性例における原発巣推定の為の免疫組織学的検討. 第43回 日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
- 43) 浅川一恵<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 横山宗伯(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>同泌尿器科): 尿細胞診にて推定し得た神経内分泌腫瘍症例. 第43回 日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
- 44) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 原 博<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 阿部久美子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 秋山裕美<sup>1)</sup>, 内藤善哉(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): フローサイトメトリー併用・FNA 材料から推定診断し得たリンパ形質細胞性リンパ腫の1例. 第43回 日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
- 45) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 東 敬子<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>, 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>同外科): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の免疫組織化学および電顕的検索. 第36回 日本電子顕微鏡学会, 2004. 11.
- 46) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 松島申治<sup>3)</sup>, 山本英希<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>多摩永山病院外科): 神経内分泌的特徴を有する肺大細胞癌: LCNEC と LCCND との区別. 第36回 日本電子顕微鏡学会, 2004. 11.
- 47) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科, <sup>3)</sup>同病理部): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 48) 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 石川紀行<sup>2)</sup>, 金澤義一<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 高橋由至<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科, <sup>3)</sup>同病理部): 大腸癌肝転移症例における EMMPRIN, MMP-9, IV 型コラーゲンの発現. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 49) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討. 第62回大腸癌研究会, 2005. 1.
- 50) 寺西宣央<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 横山宗伯, 内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1): 進行大腸癌における簇出と臨床病理学的因子についての検討. 第62回大腸癌研究会, 2005. 1.

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学・免疫学講座では、「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などに関連した研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。感染症学および感染免疫学：

[A] HIV に対する免疫応答の検討とワクチン開発： P18-特異的 TCR 発現トランスジェニックマウス (Tg) に P18-組み換えワクチニアを腹腔内接種したところ、粘膜上皮内リンパ球が活性化し卵巣内でのウイルス制御を担うことを発見した。P18を含む HIV-env 蛋白および TLR9 を刺激する CpG モチーフを含む 2 種のプラスミドを金コロイドに膠着させ遺伝子銃を用いて皮内接種すると、P18 特異的キラー T 細胞が誘導されることを見いだした。また Nef 遺伝子欠損 HIV を樹状細胞に感染させると脂質抗原提示分子である CD1a 分子の発現が低下することを観察し、その機序の解析を試みた。HIV/SIV に感受性のある CD4 および CD4/CD8 陽性 T 細胞株を樹立した。

[B] 皮膚・粘膜組織における基本免疫系の解明： 初乳中のマクロファージは IL-4 の添加により樹状細胞に分化しその表面に発現した DC-SIGN を介して HIV が感染伝播する可能性を見いだした。V 1V 1T 細胞の株化に成功し、その認識抗原の解析に着手した。

[C] ピロリ菌ウレアーゼに対する抗体の中には、ウレアーゼ活性を増強させ菌体の胃粘膜面への生着を助長するものがあることを発見した。

[D] ウイルス感染機序：機械的刺激により樹状細胞上のウイルスレセプター発現が変動し被感染能が変化することを見いだした。

腫瘍免疫学：

[A] 腫瘍抗原の同定：弱酸抽出法によって得られた腫瘍抗原は、ペプチド結合を含まず脂質分子を含有する可能性があることを解明し、この高原を付与した異型樹状細胞により CD1d 分子拘束性を有する NKT 細胞が誘導される事実を見いだした。

[B] 粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：腫瘍抗原を粘膜アジュバントであるコレラトキシンとともに経口投与すると、全身免疫のみならず粘膜内に腫瘍特異的キラー T 細胞が誘導され、強い抗腫瘍作用を発揮することを見いだした。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Kuribayashi H, Wakabayashi A, Shimizu M, Kaneko H<sup>1)</sup>, Norose Y, Nakagawa Y, Wang J<sup>2)</sup>, Kumagai Y, Margulies DH<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Molecular Biology Section, Laboratory of Immunology, NIAID, NIH ): Resistance to viral infection by intraepithelial lymphocytes in HIV-1 P18-I10-specific T-cell receptor transgenic mice. *Biochem. Biophys. Res. Com.* 2004 ; 316 ( 2 ): 356-363 .
- 2) Iida T<sup>1)</sup>, Kuwata T<sup>2)</sup>, Ui M<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Miura T<sup>2)</sup>, Ibuki K<sup>2)</sup>, Takahashi H, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Imanishi J<sup>1)</sup>, Hayami M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology, Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>2)</sup> Laboratory of Viral Pathogenicity, Institute for Virus Research, Kyoto University ): Augmentation of antigen-specific cytokine responses in the early phase of vaccination with a live-attenuated simian/human immunodeficiency chimeric virus expressing IFN-gamma. *Arch. Virol.* 2004 ; 149 ( 4 ): 743-757 .

- 3) Hidaka C , Norose Y , Nakagawa Y , Shimizu M , Takahashi M , Owaki A , Nohtomi K<sup>1)</sup> , Toda M<sup>2)</sup> , Kusagawa S<sup>1)</sup> , Sakaguchi M<sup>2)</sup> , Kudo S<sup>3)</sup> , Takebe Y<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> AIDS Research Center, National Institute of Infectious Diseases , <sup>2)</sup> Division of Immunology, National Institute of Infectious Diseases , <sup>3)</sup> Forth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Dermal dendritic cells sensitized with plasmid DNA encoding immunostimulatory sequence by gene gun efficiently prime murine HIV-1-specific CD8<sup>+</sup> cytotoxic T lymphocytes . *Biomed. Res.* 2004 ; 25 ( 2 ) : 83-91 .
- 4) Ishii R , Nakagawa Y , Shimizu M , Tanaka S<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Second Department of Surgery, Nippon Medical School ): In vivo priming of natural killer T cells by dendritic cells pulsed with hepatoma-derived acid-eluted substances . *Cancer Immunol. Immunother.* 2004 ; 53 ( 5 ) : 383-390 .
- 5) Kageyama G<sup>1)</sup> , Kawano S<sup>1)</sup> , Kanagawa S<sup>1)</sup> , Kondo S<sup>1)</sup> , Sugita M , Nakanishi T<sup>2)</sup> , Shimizu A<sup>2)</sup> , Kumagai S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biomedical Informatics, Clinical Pathology and Immunology, Kobe University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Clinical Pathology, Osaka Medical School ): Effect of mutated transporters associated with antigen processing 2 on characteristic major histocompatibility complex binding peptides, analysis of electrospray ionization tandem mass spectrometry . *Rapid Commun. Mass Spectrom.* 2004 ; 18 ( 9 ) : 995-1000 .
- 6) Ohkuni H<sup>1)</sup> , Todome Y , Watanabe Y , Ishikawa T , Takahashi H , Kannari Y<sup>1)</sup> , Kato H<sup>2)</sup> , Uchiyama T<sup>2)</sup> , Saito H<sup>3)</sup> , Fischetti VA<sup>4)</sup> , Zabriskie J<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Clinical La. Medca Japan Co. Ltd , <sup>2)</sup> Tokyo Women's Medical University , <sup>3)</sup> National Children's Medical Research Center , <sup>4)</sup> Rockefeller University ): Studies of recombinant streptococcal pyrogenic exotoxin B/cysteine protease ( rSPE B/SCP ) in the skin of guinea pigs the release of histamine from cultured mast cells and basophilic leukocytes I . *Indian J. Med. Res.* 2004 ; 119 ( suppl ) : 33-36 .
- 7) Das H<sup>1)</sup> , Sugita M , Brenner MB<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School ): Mechanisms of V delta1 gamma-delta T cell activation by microbial components . *J. Immunol.* 2004 ; 172 ( 11 ) : 6578-6586 .
- 8) Shinya E , Owaki A , Shimizu M , Takeuchi J , Kawashima T , Hidaka C , Satomi M , Watari E , Sugita M , Takahashi H : Endogenously expressed HIV-1 nef down-regulates antigen-presenting molecules, not only class I MHC but also CD1a, in immature dendritic cells . *Virology* 2004 ; 326 ( 2 ) : 79-89 .
- 9) Hiasa Y<sup>1)</sup> , Takahashi H , Shimizu M , Nuriya H<sup>1)</sup> , Takashima-Kohara K<sup>1)</sup> , Tanaka T<sup>1)</sup> , Horiike N<sup>2)</sup> , Onji M<sup>2)</sup> , Kohara M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Cell Biology, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science , <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Ehime University School of Medicine ): Major histocompatibility complex class-I presentation impaired in transgenic mice expressing hepatitis C virus structural proteins during dendritic cell maturation . *J. Med. Virol.* 2004 ; 74 ( 11 ) : 253-261 .
- 10) Satomi M , Shimizu M , Shinya E , Watari E , Owaki A , Hidaka C , Ichikawa M , Takeshita T<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ): Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN . *J. Infect. Dis.* 2005 ; 191 ( 2 ) : 174-181 .
- 11) Iizumi T , Yamanishi S , Kumagai Y , Ngata K<sup>2)</sup> , Kamiya S<sup>3)</sup> , Hirota K<sup>1)</sup> , Watanabe E , Sakamoto C<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Infectious Disease, Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine ): Augmentation of *Helicobacter pylori* urease activity by its specific IgG antibody : implications for bacterial colonization enhancement . *Biomed. Res.* 2005 ; 26 ( 1 ) : 35-42 .
- 12) Watari E , Shimizu M , Takahashi H : Langerhans cells stimulated by mechanical stress are susceptible to measles virus infection . *Intervirol.* 2005 ; 48 ( 2 ) : 145-152 .

13) 古川清憲<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>, 野呂瀬嘉彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>麻酔科学): 新しい手術時手指消毒法: フラッシングから手揉み洗いへ. J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (3): 190-197 .

(2) 総説:

- 1) 杉田昌彦: 結核免疫の新しい考え方. 感染症と化学療法 2004 ; 7 (1): 19-21 .
- 2) 高橋秀実: AIDS病態形成に関する新たな視点. 日本エイズ学会誌 2004 ; 6 (2): 91-96 .
- 3) 高橋秀実: 感染症における様々な症候の本体. 国際歯科学士会日本部会雑誌 2004 ; 35 (1-2): 10-15 .
- 4) 高橋秀実: 細菌毒素に対する免疫応答と症状. ドクターサロン 2004 ; 48 (8): 596-600 .
- 5) 杉田昌彦: 結核脂質抗原の認識とワクチン開発. 最新医学 2004 ; 59 (8): 149-153 .
- 6) 高橋秀実: サイトカイン: AIDS病態とサイトカイン. 医学の歩み 2004 ; 29 (10): 191-194 .
- 7) 杉田昌彦: CD1分子の細胞内輸送と脂質抗原提示. Molecular Medicine臨時増刊号(免疫2005)2004 ; 41 : 84-89 .
- 8) 杉田昌彦: 結核菌脂質を認識する新しい免疫システム. 呼吸 2005 ; 24 (2): 97-98 .
- 9) 高橋秀実: 自然免疫と獲得免疫の基礎: 樹状細胞を介したウイルス特異的キラーT細胞の誘導. 最新医学 2005 ; 60 (3): 556-565 .
- 10) 杉田昌彦: 結核免疫の新しい考え方: 結核菌脂質に対する免疫応答. 総合臨床 2005 ; (3): 621-622 .
- 11) 杉田昌彦: CD1: 結核菌脂質に応答する新しい感染防御システム. 最新医学 2005 ; 60 (3): 519-528 .

(3) 研究報告書:

- 1) Takahashi H, Fujimoto C, Nakagawa Y: Polyriboinosinic Polyribocytidylic Acid [Poly (I : C)]/TLR3 Signaling Allows Class I Processing of Exogenous Protein and Induction of HIV-specific CD8<sup>+</sup> CTLs. 日米医学協力委員会年次報告 2004 ; pp131-132 .
- 2) 高橋秀実: HIV 特異的CTL 認識応答の解析と制御: ウイルスペプチドによるCTLの抑制と破壊. 文部科学省科学研究費補助金特定領域研究報告 2004 ; pp136-141 .
- 3) 高橋秀実: 母乳細胞によるDC-SIGNを介したHIV-1感染伝搬の可能性. 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業: HIV感染予防に関する研究班報告 2005 ; pp81-87 .

著 書

- 1) 高橋昌巳<sup>1)</sup>, 一幡良利<sup>2)</sup>, 石崎正通<sup>3)</sup>, 渡理英二, 川角 浩<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>桜雲会, <sup>2)</sup>筑波技術短期大学, <sup>3)</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>4)</sup>日本医学技術専門学校): [分担] 微生物学用語小事典(第3版), 2004 ; pp1-406, 医学出版社 .

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 高橋秀実: 粘膜免疫とアレルギー. 第60回小児アレルギー研究会, 2004 . 6 .
- 2) 杉田昌彦: 表皮ランゲルハンス細胞に発現したCD1a分子の機能. 山梨大学学術講演会, 2004 . 11 .
- 3) 高橋秀実: 新たな未病への挑戦: 現代免疫学的視点からみた疾病の本態に関する洞察. 第11回日本未病システム学会総会, 2005 . 1 .
- 4) 杉田昌彦: BCGは何故効くのか. 日本ピーシージー特別講演, 2005 . 1 .
- 5) 高橋秀実: 腸管におけるinnate immunity. 第38回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 2005 . 1 .
- 6) 高橋秀実: 免疫学の最新情報: 新たな医学をめざして. 平成16年度自己治癒力研究会総会, 2005 . 2 .
- 7) 高橋秀実: 粘膜免疫とアレルギー. 第16回多摩小児アレルギー臨床懇話会, 2005 . 3 .

(2) シンポジウム:

- 1) Sugita M: BCG induced activation of CD1-restricted T cells in vivo. The Awaji International Forum on Infection and Immunity (Awaji, Japan), 2004 . 8 .

- 2) Takahashi H : Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN . The 17th Joint Scientific Meeting of AIDS ( Kyoto, Japan ), 2004 . 12 .
  - 3) Sugita M : CD1-dependent T cell immunity to microbial lipids . Symposium of the 34th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology , 2004 . 12 .
  - 4) Takahashi H : Control of HIV-1-specific acquired immunity by modulation of innate immunity . 第18回日本エイズ学会総会 , 2004 . 12 .
  - 5) 杉田昌彦 : 結核菌脂質抗原の認識とワクチン開発 . 第14回感染研シンポジウム , 2004 . 5 .
  - 6) 杉田昌彦 : CD1 : 結核感染防御を担う新たな免疫システム . 第32回BCG・BRM療法研究会シンポジウム , 2004 . 7 .
  - 7) 杉田昌彦 : CD1 : 結核菌感染防御を担う新しい免疫システム . 第28回阿蘇シンポジウム , 2004 . 7 .
  - 8) 杉田昌彦 : CD1・脂質抗原提示系が担う生体防御機構の研究 : その現状と未来 . 京都大学ウイルス研究所学術講演会 , 2004 . 10 .
  - 9) 高橋秀実 : 腫瘍制御のための新たな視点 : 内在する基本免疫システムの活性化について . 日本ホリスティック医学シンポジウム2004 , 2004 . 11 .
- (3) セミナー :
- 1) 高橋秀実 : 皮膚・消化管における新たな免疫システムの概念 . 平成16年度第11回北区医師会学術講演会 , 2004 . 8 .
  - 2) 高橋秀実 : 体表面の免疫を活性化する薬物・嗜好品と今後の医療 . 平成16年度第11回北区医師会学術講演会 , 2004 . 8 .
  - 3) 高橋秀実 : 臨床医のための免疫学の基礎 . 平成16年度第65回練馬区医師会学術講演会 , 2004 . 9 .
  - 4) 高橋秀実 : 東洋医学入門 . 平成16年度丸子祭講演会 , 2004 . 10 .
  - 5) 高橋秀実 : 免疫学の新たな潮流 . 平成16年度群馬県医師会学術講演会 , 2005 . 3 .
- (4) 一般講演 :
- 1) Fujimoto C , Nakagawa Y , Takahashi H : Polyriboinosinic Polyribo-cytidylic Acid ( Poly ( I : C ) ) / TLR3 signalling allows class I processing of exogenous protein and induction of HIV-1 gp120-specific CD8<sup>+</sup> CTLs . Japan-US Cooperative Medical Science Program : FASEB annual meeting 2004 ( Washington, USA ), 2004 . 4 .
  - 2) Kumagai Y , Yanagihara T , Norose Y , Moro I<sup>1)</sup> , Nanno M<sup>2)</sup> , Ymanishi S , Iizumi T , Murakami M<sup>3)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Dentistry, Nihon University , <sup>2)</sup> Yakult Central Institute for Microbiological Research , <sup>3)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School ): Age-dependent decrease of polymeric Ig receptor expression and IgA elevation in ddY mice : A possible cause of IgA nephropathy . 12th International Congress of Immunology ( Montreal, Canada ), 2004 . 7 .
  - 3) Hidaka C , Saito T , Tada K , Kaneko A , Shimizu M , Watanabe E , Shinya E , Takahashi H : Orally administered risedronate can commit Vgamma2Vdelta2 T cells to IFN-gamma secreting effectors in patients with osteoporosis . 12th International Congress of Immunology ( Montreal, Canada ), 2004 . 7 .
  - 4) Wakabayashi A , Nakagawa Y , Nishiyama Y , Watanabe Y , Goto R , Kumagai Y , Takahashi H : Induction of ovalbumin-specific cytotoxic cells in both intestinal intraepithelial lymphocytes and spleen cells by oral administration of ovalbumin plus Cholera toxin . 12th International Congress of Immunology ( Montreal, Canada ), 2004 . 7 .
  - 5) Takahashi H , Fujimoto C , Watanabe E , Shimizu M , Owaki A , Watari E , Nakagawa Y : Polyriboinosinic Polyribo-cytidylic Acid ( Poly ( I : C ) ) / TLR3 signalling mediates cross-presentation of exogenous protein via MHC class I and primes HIV-specific CD8<sup>+</sup> CTLs . 12th International Congress of Immunology ( Montreal, Canada ), 2004 . 7 .
  - 6) Shinya E , Owaki A , Shimizu M , Takeuchi J , Kawashima T , Hidaka C , Satomi M , Watari E , Sugita M ,

- Takahashi H : HIV-1 Nef down-regulates CD1a as well as class I MHC surface expression in immature dendritic cells . 12th International Congress of Immunology ( Montreal, Canada ), 2004 . 7 .
- 7) Goto R , Kim Y , Nakagawa Y , Sugiyama H , Shimizu M , Wakabayashi A , Kuribayashi H , Takeshita T<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ): Induction of murine natural killer T-like cells by immunization with syngeneic thymoma cells expressing genetically-encoded embryonic alpha-fetoprotein gene . 12th International Congress of Immunology ( Montreal, Canada ), 2004 . 7 .
  - 8) Ishii R , Shimizu M , Nakagawa Y , Enomoto Y , Shimizu K<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Second Department of Surgery ): Dendritic cells pulsed with hepatoma-derived acid-eluted substances primed natural killer T cells in vivo . 12th International Congress of Immunology ( Montreal, Canada ), 2004 . 7 .
  - 9) Takahashi H , Ishii R , Shimizu M , Wakabayashi A , Goto R , Sugiyama H , Nakagawa Y : In vivo priming of NKT cells by dendritic cells pulsed with hepatoma-derived acid-eluted substances . 第34回日本免疫学会総会 , 2004 . 12 .
  - 10) Shinya E , Owaki A , Shimizu M , Watanabe E , Yamanishi S , Satomi M , Hidaka C , Watari E , Takahashi H : HIV-1 augmented ( IL ) -12p70 production but inhibited phenotypic maturation of LPS stimulated-dendritic cells . 第34回日本免疫学会総会 , 2004 . 12 .
  - 11) 野呂瀬嘉彦 , 大脇敦子 , 新谷英滋 , 熊谷善弘 , 高橋秀実 , 青砥泰二<sup>1)</sup> , 園部一成<sup>1)</sup> , 篠山明宏<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院中央検査部 ): 緑膿菌 DNA 型別解析における RAPD 法の有用性 . 第72回日本医科大学医学会総会 , 2004 . 9 .
  - 12) 高橋めぐみ , 渡理英二 , 新谷英滋 , 高橋秀実 : 麻疹ウイルス変異株の持続感染細胞株の樹立とその解析 . 第52回日本ウイルス学会総会 , 2004 . 11 .
  - 13) 栗林秀樹 , 若林あや子 , 清水真澄 , 金子礼志 , 野呂瀬嘉彦 , 中川洋子 , 熊谷善弘 , 高橋秀実 : HIV-1 P18-I10 特異的な CTL の T 細胞レセプターを発現したトランスジェニックマウスにおける粘膜上皮内リンパ球による感染抵抗性の解析 . 第52回日本ウイルス学会総会 , 2004 . 11 .
  - 14) 渡理英二 , 清水真澄 , 飯泉 匡 , 山西慎吾 , 高橋めぐみ , 高橋秀実 : 機械的刺激によって活性化した培養 Langerhans 様細胞における麻疹ウイルス感受性について . 第52回日本ウイルス学会総会 , 2004 . 11 .
  - 15) 斉藤尚紀<sup>1)</sup> , 高橋めぐみ , 赤畑 渉<sup>1)</sup> , 清水真澄 , 日高千鶴乃 , 新谷英滋 , 伊吹謙太郎<sup>1)</sup> , 三浦智行<sup>1)</sup> , 速水正憲<sup>1)</sup> , 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 京都大学・ウイルス研 ): 霊長類における CD1d 分子の保存性の解析と SIV/HIV 感受性 . 第52回日本ウイルス学会総会 , 2004 . 11 .
  - 16) 中川洋子 , 菊地浩人<sup>1)</sup> , 清水真澄 , 栗林秀樹 , 渡辺恵理 , 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 物理学 ): HIV 外被糖蛋白 gp160 に特異的な細胞傷害性 T 細胞の認識特異性に関する新たな知見 . 第34回日本免疫学会総会 , 2004 . 12 .
  - 17) 若林あや子 , 守屋慶一 , 中川洋子 , 野呂瀬嘉彦 , 熊谷善弘 , 高橋秀実 : OVA 経口免疫による小腸上皮間リンパ球における OVA 特異的な CTL の誘導と OVA 発現腫瘍に対する成長抑制効果 . 第34回日本免疫学会総会 , 2004 . 12 .
  - 18) 渡理英二 , 清水真澄 , 飯泉 匡 , 八木幸恵 , 高橋めぐみ , 高橋秀実 : 機械的刺激によって活性化した培養ランゲルハンス様細胞における麻疹ウイルスの感受性について . 第34回日本免疫学会総会 , 2004 . 12 .
  - 19) 熊谷善弘 , 柳原 剛 , 野呂瀬嘉彦 , 山西慎吾 , 飯泉 匡 , 渡辺恵理 , 高橋秀実 : 加齢 ddy マウスの血中 IgA 濃度の上昇は , poly-Ig receptor 発現不全による粘膜面での IgA 分泌能の低下に原因する . 第34回日本免疫学会総会 , 2004 . 12 .
  - 20) 渡辺嘉之 , 中川洋子 , 大脇敦子 , 榎本 豊 , 新谷英滋 , 渡理英二 , 野呂瀬嘉彦 , 高橋秀実 , 広松賢治 , 矢野郁也 , 杉田昌彦 : マウスにおける CD1-脂質抗原提示系の構築と解析 . 第34回日本免疫学会総会 , 2004 . 12 .
  - 21) 日高千鶴乃 , 渡辺恵理 , 清水真澄 , 山西慎吾 , 里見操緒 , 新谷英滋 , 高橋秀実 : CD4 陽性 NKT 細胞による HIV-1 感染拡大の可能性 . 第18回日本エイズ学会総会 , 2004 . 12 .
  - 22) 佐々木恵<sup>1)</sup> , 倉藤昌子<sup>1)</sup> , 山内沙織<sup>1)</sup> , 上村明子<sup>1)</sup> , 金子栄子<sup>1)</sup> , 古川清憲<sup>2)</sup> , 野呂瀬嘉彦 ( <sup>1)</sup> 付属病院看護部 ,

- 2) 外科学第1): 手術時手洗いの「揉み洗い方」への変更に伴う基礎的検討．第20回日本環境感染学会総会，2005．2．
- 23) 松下恵美子<sup>1)</sup>，磯由美子<sup>1)</sup>，高野淑子<sup>1)</sup>，竹原典子<sup>1)</sup>，渋谷満寿美<sup>1)</sup>，倉藤昌子<sup>1)</sup>，藤田昌久<sup>1)</sup>，新城靖子<sup>1)</sup>，野呂瀬嘉彦<sup>(1)</sup> 附属病院看護部): 擦式手指消毒ミスの実態調査．第20回日本環境感染学会総会，2005．12．

## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

各スタッフの研究内容は継続して進められ、それらを学会あるいは学術論文として発表している。主な研究内容は、

- ・携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究（平成16年度科学研究費補助金基盤研究（C））、禁煙が健康に及ぼす影響に関する研究（喫煙科学研究財団補助金）（川田智之）
- ・環境化学因子シアンの解毒酵素であるメルカプトビルビン酸硫黄転移酵の構造と機能との関連および多様性に関する研究：生体内一酸化硫黄の発生機構と生理作用、メルカプト乳酸システインジスルフィド尿症の発症機序および分子疫学的研究（永原則之）
- ・ウイルス肝炎地域流行の30余年にわたる追跡研究、および定期的運動習慣をもつ地域在住者の健康調査（若山葉子）
- ・免疫系酵素グランザイム3に対するモノクローナル抗体の作製とその性質の解析（稲垣弘文）
- ・パーフォリンノックアウトマウスを用いた、有機リン農薬による免疫機能低下機序の解明（平成16年度科学研究費補助金基盤研究（C））、森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明：環境免疫学的視点から（農林水産省研究費）（李 卿）
- ・コチニンを指標にした喫煙のバイオロジカルモニタリングと地域における禁煙介入研究（勝又聖夫）
- ・生体の免疫系におけるグランザイム3の役割の解明（その検出方法と基質特異性の検討）（平田幸代）
- ・鉛中毒で活性低下するポルフォピリノーゲン合成酵素の酵素学的、分子生物学的研究（澤田典里）
- ・大気汚染物質が呼吸器に及ぼす健康影響に関する実験的および疫学的研究（李 英姫）

さまざまな環境医科学、衛生学・公衆衛生学領域の中から、各人の興味に従い、社会医学に寄与するための研究テーマを選んで、調査研究をすすめた。ラボ解析のみでなくフィールド調査もバランスよく加わり、人を対象とした予防医学本来の研究が増えつつある。明確で息の長い「研究目的」を設定し、一時的な興味や流行でテーマが右往左往することのないように注意すべきである。各自の研究をすすめるためには、外部研究資金の獲得が求められるので、その点での講座主任としてのサポートもしてゆきたいと考える。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kawada T : Risk factors and prevalence of asthma or atopic dermatitis in young children by a questionnaire survey . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ) : 167-171 .
- 2) Kawada T : Smoking-induced leukocytosis can persist after the cessation of smoking . Arch Med Res 2004 ; 35 ( 3 ) : 246-250 .
- 3) Kato K<sup>1)</sup>, Nakatani Y<sup>2)</sup>, Kanno H<sup>3)</sup>, Inayama Y<sup>2)</sup>, Ijiri R<sup>1)</sup>, Nagahara N , Miyake T<sup>1)</sup>, Tanaka M<sup>1)</sup>, Ito Y<sup>4)</sup>, Aida N<sup>5)</sup>, Tachibana K<sup>6)</sup>, Sekido K<sup>7)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Pathology, Kanagawa Children's Medical Center , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Yokohama City University, School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Yokohama City University School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Oral Pathology, Kanagawa Dental College , <sup>5)</sup> Division of Radiology, Kanagawa Children's Medical Center , <sup>6)</sup> Division of Endocrinology, Kanagawa Children's Medical Center , <sup>7)</sup> Division of Neurosurgery, Kanagawa Children's Medical Center ) : Possible linkage between specific histological structures and aberrant reactivation of the Wnt pathway in adamantinomatous craniopharyngioma . J. Pathol 2004 ; 203 ( 3 ) : 814-821 .



- 4) Kawada T : Health practices and survival among middle-aged residents in Japan : A ten-year follow-up cohort study in Gunma 9 towns' study . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 4 ): 242-251 .
- 5) Kawada T : Comparison of daily life habits and health examination data between smokers and ex-smokers suggest that ex-smokers acquire several healthy-lifestyle practices . Arch Med Res 2004 ; 35 ( 4 ): 329-333 .
- 6) Li Q , Hirata Y , Kawada T , Minami M : Elevated frequency of sister chromatid exchanges of lymphocytes in sarin-exposed victims of the Tokyo sarin disaster 3 years after the event . Toxicology 2004 ; 201 ( 1-3 ): 209-217 .
- 7) Sasazawa Y<sup>1)</sup> , Kawada T , Kiryu Y<sup>2)</sup> , Suzuki S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Children Welfare, Takasaki University of Health and Welfare , <sup>2)</sup> Ministry of Health, Labour and Welfare , <sup>3)</sup> Gunma Health Promotion Center ) : The relationship between traffic noise and insomnia among adult Japanese women . J Sound Vib 2004 ; 277 ( 3 ): 547-557 .
- 8) Nagahara N , Sawada N , Nakagawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute for Organic Chemistry, Darmstadt University of Technology ) : Affinity label of a catalytic site, Cysteine<sup>247</sup> in rat mercaptopyruvate sulfurtransferase by chloropyruvate as an analog of a substrate. *In* special section on : Proteomics and Post-genomics . Biochimie 2004 ; 86 ( 9-10 ): 723-729 .
- 9) Nagahara N , Sreeja VG , Li Q , Shimizu T , Tsuchiya T<sup>1)</sup> , Fujii-Kuriyama Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Medicine, Research Center for Molecular Medical Science , <sup>2)</sup> Center for Tsukuba Advanced Research Alliance, University of Tsukuba ) : A point mutation in a silencer element markedly reduces promoter activity of the human mercaptopyruvate sulfurtransferase gene . Biochim Biophys Acta 2004 ; 1580 ( 3 ): 176-184 .
- 10) Li Q , Nakadai A , Takeda K<sup>1)</sup> , Kawada T ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, Juntendo University School of Medicine ) : Dimethyl 2, 2-dichlorovinyl phosphate ( DDVP ) markedly inhibits activities of natural killer cells, cytotoxic T lymphocytes and lymphokine-activated killer cells *via* the Fas-ligand/Fas pathway in perforin-knockout ( PKO ) mice . Toxicology 2004 ; 204 ( 1 ): 41-50 .
- 11) Li Q , Dong C<sup>1)</sup> , Deng A<sup>1)</sup> , Katsumata M , Nakadai A , Kawada T , Okada S<sup>1)</sup> , Clayberger C<sup>1)</sup> , Krensky Alan M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics Stanford University School of Medicine ) : Hemolysis of Erythrocytes by Granulysin-Derived Peptides but Not by Granulysin . Antimicrob. Agents Chemother 2005 ; 49 ( 1 ): 388-397 .
- 12) Sawada N , Nagahara N , Sakai T<sup>1)</sup> , Nakajima Y<sup>1)</sup> , Minami M , Kawada T ( <sup>1)</sup> Occupational poisoning Center, Tokyo Rosai Hospital ) : The activation mechanism of human porphobilinogen synthase by 2-mercaptoethanol : intrasubunit transfer of a reserve zinc ion and coordination with three cysteines in the active center . J Biol Inorg Chem 2005 ; 10 ( 2 ): 199-207 .

(2) 綜説 :

- 1) 川田智之, 鈴木庄亮<sup>1)</sup>, 笹澤吉明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬産業保健推進センター , <sup>2)</sup>高崎健康福祉大学 ) : 騒音の睡眠影響に関するこれまでの研究と今後の課題 . 航空環境研究 2005 ; ( 特別号 ): 11-15 .

著 書

- 1) 川田智之 : [ 分担 ] 産業保健 . シンプル衛生公衆衛生学 ( 鈴木庄亮 , 久道 茂 編 ) , 2005 ; 南江堂 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 大塚俊昭 : 企業の中での健康管理 : 社員健康管理におけるイベント心電計の使用経験 ( シンポジウム題 ; 在宅医療と家庭用心電図 ) . 第2回心電図伝送システム研究会 , 2005 . 2 .

(2) パネルディスカッション：

- 1) 川田智之, 稲垣弘文, 笹澤吉明<sup>1)</sup>, 田村祐司<sup>2)</sup>, 鈴木庄亮<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>高崎健康福祉大学, <sup>2)</sup>東京海洋大学, <sup>3)</sup>群馬産業保健推進センター): 環七沿いのホテルで収録した道路交通騒音の睡眠影響. 第21回睡眠環境学会, 2004. 12.

(3) 一般講演：

- 1) Nagahara N, Yoshii T : The catalytic site, persulfide in rat mercaptopyruvate sulfurtransferase resists oxidative stress . 第77回日本生化学会大会, 2004 . 10 .
- 2) Nagahara N, Yoshii T : Bromopyruvate tags arginine 187, a substrate binding site, to inactivate rat mercaptopyruvate sulfurtransferase . 第77回日本生化学会大会, 2004 . 10 .
- 3) Sawada N, Nagahara N, Nakajima Y<sup>1)</sup>, Sakai T<sup>1)</sup>, Kawada T (<sup>1)</sup>Occupational poisoning Center, Tokyo Rosai Hospital ): Activation mechanism of human porphobilinogen synthase by reducing agents . 第77回日本生化学会大会, 2004 . 10 .
- 4) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Li Q, Nagahara N, Kawada T : Granzyme 3 enzymatic activity on synthetic substrates . 第77回日本生化学会大会, 2004 . 10 .
- 5) Inagaki H, Hirata Y, Shimizu T, Li Q, Kawada T : Monoclonal antibodies against human granzyme 3 . 第77回日本生化学会大会, 2004 . 10 .
- 6) 川田智之, 中台亜里, 稲垣弘文, 李 卿, 平田幸代, 勝又聖夫, 永原則之: 職域における「死の3ないし4重奏」危険因子保有者割合からみた労災保険2次健診の意義. 第77回日本産業衛生学会, 2004. 4.
- 7) 李 卿, 中台亜里, 川田智之: Perforin Knockout マウスを用いて有機リン農薬によるNK, CTL及びLAK活性低下の機序を検討する. 第77回日本産業衛生学会, 2004. 4.
- 8) 中台亜里, 李 卿, 川田智之: 有機リン農薬によるChlorpyrifosによる細胞死. 第77回日本産業衛生学会, 2004. 4.
- 9) 李 卿, 中台亜里, 石崎正通<sup>1)</sup>, 森本兼曩<sup>2)</sup>, Krensky Alan M<sup>3)</sup>, 川田智之 (<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>2)</sup>大阪大学医学部社会環境医学, <sup>3)</sup>Department of Pediatrics, Stanford University ): 有機リン農薬DDVPによるヒトNK細胞内のPerforin, Granzyme A, Granulysin発現量への影響. 第11回免疫毒性学会学術大会, 2004. 9.
- 10) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 植田悠紀子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>県立長崎シーボルト大学看護栄養学部看護学科): ウイルス肝炎流行地域住民の予後の検討. 第63回日本公衆衛生学会総会, 2004. 10.
- 11) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之, 高橋修和<sup>1)</sup>, 深沢幸枝<sup>2)</sup>, 上田美穂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>社会福祉法人孝慈会, <sup>2)</sup>山梨県早川町): 喫煙状況の評価指標. 第63回日本公衆衛生学会総会, 2004. 10.
- 12) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之, 高橋修和<sup>1)</sup>, 深沢幸枝<sup>2)</sup>, 上田美穂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>社会福祉法人孝慈会, <sup>2)</sup>山梨県早川町): 住民健診時における喫煙の健康問題への取り組み(その2). 第63回日本公衆衛生学会総会, 2004. 10.
- 13) 李 卿, 中台亜里, 松島弘樹<sup>1)</sup>, 宮崎良文<sup>2)</sup>, 川田智之, 森本兼曩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大阪大学医学部社会環境医学): フォトンチッドのヒトNK細胞機能への影響. 第75回日本衛生学会総会, 2005. 3.
- 14) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 李 卿, 永原則之, 川田智之: FRETSライブラリを用いたヒトGranzyme 3の基質特異性の解析. 日本薬学会第125年会, 2005. 3.
- 15) 平田紀美子, 勝又聖夫, 鈴木博子, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液の採取時間やタバコ煙曝露状況が唾液中Cotinine濃度に及ぼす影響. 日本薬学会第125年会, 2005. 3.

## 12. 法医学講座

### 研究概要

#### 1. 臨床法医中毒学

急性薬毒物中毒の疑われる救急患者の緊急薬毒物分析法を開発し、GC/MS, LC/MS等を用いた高精度の分析システムの開発に取り組んでいる。また、毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたTetrodotoxin等の微量毒物検出法の開発にも取り組んでいる。

#### 2. トリカプト毒に関する研究

トリカプト毒について、急性中毒のみならず、長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等についても実験的研究を行っている。同時にLC/MS, GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法について開発、検討している。

#### 3. アルコール代謝

アルコール代謝の鍵酵素であるADH1・ADH3の寄与とその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討している。また、アルコール感受性の性差・個体差、アルコール関連障害の機序を培養細胞およびノックアウトマウスを用いて研究している。

さらに、生体への影響について、培養心筋細胞内小器官および分子レベルで検討している。

#### 4. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・救急医学等と共同研究を行っている。

#### 5. 法医学実務的研究

平成15年6月より千葉県警察の司法解剖を受託している（法医学解剖室が本学に整備されるまで、当分の間日本大学医学部法医学解剖室を借用）ので、剖検例にかかわる具体的問題を研究・検討している。また、死後変化の病理組織学的検討、死後経過時間推定に関する実務的研究、骨からの年齢推定に関する検討等を行っている。さらに、剖検例以外にも刑事・民事にかかわる事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Imaizumi M<sup>1)</sup>, Saito Y<sup>1)</sup>, Ban K<sup>1)</sup>, Wada H<sup>1)</sup>, Hayashida M, Jinno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Toyohashi Univ. of Technology): In-Valve Sample Preparation Cartridge Designed for Microcolumn Liquid Chromatography. Chromatographia 2004; 60((11/12)): 619-623.
- 2) Wada K, Nihira M, Hayakawa H, Tomita Y, Hayashida M, Ohno Y: Effects of long-term administration of aconitine on electrocardiogram and tissue concentrations of aconitine and its metabolites in mice. Forensic Science International 2005; 148(2005): 21-29.
- 3) 安藤絵美<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 山田丈士, 大野曜吉(<sup>1)</sup>日本医科大学): タイ国覚醒剤依存者毛髪中メタンフェタミン, アンフェタミンのGC/MSによる分析. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2004; 39((3)): 168-179.
- 4) 玉造吉樹<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 崔 范来, 早川秀幸<sup>2)</sup>, 仁平 信, 長谷場健, 平川慶子, 真下啓子, 飯酒盃勇<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学教室, <sup>3)</sup>日本大学医学部社会医学講座法医学部門): 3次元CTが運転者の特定に役立った2人乗りバイク事故. 法医学の実際と研究 2004; 47: 109-112.

5) 早川秀幸<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 崔 范来, 仁平 信, 長谷場健, 富田ゆかり, 平川慶子, 飯酒孟勇<sup>2)</sup>, 向井敏二<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 聖マリアンナ医科大学法医学教室, <sup>2)</sup> 日本大学医学部社会医学講座法医学部門): 散弾銃による殺人事例.  
法医学の実際と研究 2004; 47: 79-83.

6) 長谷場健: 研究「アルコールの医学と法的諸問題」. 賠償科学 2005; 32: 30-39.

(2) 座談会:

1) 野村好弘<sup>1)</sup>, 山口斉昭<sup>2)</sup>, 平沼高明<sup>3)</sup>, 杉田雅彦<sup>4)</sup>, 小林国彦<sup>5)</sup>, 伊藤文夫<sup>6)</sup>, 塩崎 勤<sup>7)</sup>, 大野曜吉, 平岩幸一<sup>8)</sup>, 小嶋 亨<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup> 明治学院大学法学部教授, <sup>2)</sup> 日本大学商学部助教授, <sup>3)</sup> 第一東京弁護士会・弁護士, 昭和大学医学部客員教授, <sup>4)</sup> 静岡弁護士会・弁護士, <sup>5)</sup> 前埼玉県がんセンター呼吸科医長, 埼玉医科大学呼吸器内科助教授, <sup>6)</sup> 損害保険料率算出機構, <sup>7)</sup> 弁護士・法政大学大学院法務研究科教授, <sup>8)</sup> 福島県立医科大学教授, <sup>9)</sup> 広島大学医学部教授): 判例診断「末期がん患者の家族に対する不告知と診療契約上の付随義務違反」. 賠償科学 2005; 32: 125-157.

2) 平沼高明<sup>1)</sup>, 小賀野晶一<sup>2)</sup>, 安齋真一<sup>3)</sup>, 黒木宣夫<sup>4)</sup>, 伊藤文夫<sup>5)</sup>, 杉田雅彦<sup>6)</sup>, 塩崎 勤<sup>7)</sup>, 大野曜吉(<sup>1)</sup> 第一東京弁護士会・弁護士, 昭和大学医学部客員教授, <sup>2)</sup> 千葉大学大学院専門法務研究科教授, <sup>3)</sup> 秋田大学医学部助教授, <sup>4)</sup> 東邦大学医学部佐倉病院助教授, <sup>5)</sup> 損害保険料率算出機構, <sup>6)</sup> 静岡弁護士会・弁護士, <sup>7)</sup> 弁護士・法政大学大学院法務研究科教授): 判例診断「医薬品添付文書に記載のある副作用の出現に対する対応と医師の過失」. 賠償科学 2005; 32: 158-178.

(3) その他:

1) 大野曜吉, 仁平 信: 特集 法医学: 医療における危機管理と薬毒物分析: 救急医療と法医学の接点. 科学 2004; 74 ((11)): 1327-1329.

著 書

1) Saito Y<sup>1)</sup>, Hayashida M, Jinno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Toyohashi Univ. of Technology): [分担] Sample preparation for the analysis of drugs in biological fluids. Drug Monitoring and Clinical Chemistry: Handbook of Analytical Separations, Vol. 5 (G. Hempel (Ed.)), 2004; pp11-14, Elsevier Science B. V. .

学会発表

(1) その他:

1) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>1)</sup>, 胡 志奇<sup>1)</sup>, 平川慶子(<sup>1)</sup>形成外科学): ハイドロゲルの注入による豊胸術後合併症例の摘出術の開発. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.

(2) 招待講演:

1) 平川慶子: NMRスペクトルデータを用いたメタボローム解析の病態解析・診断技術への応用. ADME-WORKS/ModelBuilder V2.0発表セミナー; 創薬, ADME-T予測から病態解析・診断まで(東京会場), 2005. 2.

2) 平川慶子: NMRスペクトルデータを用いたメタボローム解析の病態解析・診断技術への応用. ADME-WORKS/ModelBuilder V2.0発表セミナー; 創薬, ADME-T予測から病態解析・診断まで(大阪会場), 2005. 2.

(3) 一般講演:

1) Wada K, Nihira M, Hayakawa H<sup>1)</sup>, Tomita Y, Hayashida M, Ohno Y (<sup>1)</sup> Dept. of Legal Medicine, St. Marianna University School of Medicine): Effects of Chronic Aconitine Administration on its Concentration in Liver, Kidney, Heart, and Blood of Mice. 2004 FBI Laboratory Symposium on Forensic Toxicology and Joint Meeting of the Society of Forensic Toxicologists (SOFT) & The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT)(ワシントンD. C.), 2004. 8.

2) Hayakawa H<sup>1)</sup>, Nihira M, Hayashida M, Sagi M<sup>1)</sup>, Mukai T<sup>1)</sup>, Ohno Y (<sup>1)</sup> Dept. of Legal Medicine, St. Marianna University School of Medicine): Influence of Putrefaction and Watery Circumstances on The Con-

centrations of Aconitine in Tissues . 2004 FBI Laboratory Symposium on Forensic Toxicology and Joint Meeting of the Society of Forensic Toxicologists (SOFT) & The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT)(ワシントンD. C. ), 2004 . 8 .

- 3) 仁平 信, 林田真喜子, 和田健太郎, 大野曜吉, 早川秀幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学): 救急入院患者からのコカエチレン検出例 . 日本法中毒学会第23年会, 2004 . 4 .
- 4) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子 (<sup>1)</sup>形成外科学): 各種注入材料を使用した注入異物合併症患者の治療に関するストラテジー . 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 5) 和田健太郎, 仁平 信, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 富田ゆかり, 林田真喜子, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学): アコニチン慢性投与による臓器・血液中のアコニチン及び代謝物の濃度変化と心電図への影響について . 第88次日本法医学会総会, 2004 . 6 .
- 6) 林田真喜子, 仁平 信, 富田ゆかり, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 和田健太郎, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学): アコニチン・テトロドトキシン混合投与マウスにおける生体内薬物動態と相互作用について . 第88次日本法医学会総会, 2004 . 6 .
- 7) 真下啓子, 長谷場健, 大野曜吉: エタノール曝露後の培養心筋細胞ミトコンドリア巨大化のflow cytometryによる解析 . 第88次日本法医学会総会, 2004 . 6 .
- 8) 平川慶子, 小池 薫<sup>1)</sup>, 有福和紀<sup>2)</sup>, 安藤一郎<sup>3)</sup>, 植草協子, 藤原正子<sup>2)</sup>, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>東北大学大学院医学系研究科医科学専攻麻酔・救急医学分野, <sup>2)</sup>日本電子データム株式会社, <sup>3)</sup>ドゥ・サイエンス): in vitro自動メタボローム解析用PCソフトウェア-ALICE2 for Matabolome . 第32回日本磁気共鳴医学会大会, 2004 . 9 .
- 9) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>1)</sup>, 平川慶子 (<sup>1)</sup>形成外科学): 豊胸目的で注入されたハイドロゲルに対する摘出手術の開発 . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 10) 河原理子<sup>1)</sup>, 平川慶子, 百束比古<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>形成外科学): 当施設における生体内埋入異物診断システムについて . 第27回日本美容外科学会, 2004 . 10 .
- 11) 玉造吉樹<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 崔 范来, 和田健太郎, 早川秀幸<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第3学年, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学教室): 3次元CTが運転者の特定に役立った2人乗りバイク事故 . 第73回日本法医学会関東地方会, 2004 . 11 .
- 12) 奥澤次郎<sup>1)</sup>, 仁平 信, 平川慶子, 林田真喜子, 崔 范来, 和田健太郎, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>日本医科大学第3学年): 高度焼損死体の凝血塊からのエタノール・COの測定 . 第73回日本法医学会関東地方会, 2004 . 11 .
- 13) 平川慶子, 小池 薫<sup>1)</sup>, 有福和紀<sup>2)</sup>, 植草協子, 藤原正子<sup>2)</sup>, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>東北大学大学院医学系研究科医科学専攻麻酔・救急医学分野, <sup>2)</sup>日本電子データム株式会社): 300MHzNMR装置およびPC用処理ソフトウェアを用いたNMRメタボロームによる病態解析 . 第43回NMR討論会, 2004 . 11 .
- 14) 有福和紀<sup>1)</sup>, 平川慶子, 小池 薫<sup>2)</sup>, 植草協子, 藤原正子<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>日本電子データム株式会社, <sup>2)</sup>東北大学大学院医学系研究科医科学専攻麻酔・救急医学分野): メタボローム解析用PCソフトウェアの開発: ALICE2 for Metabolome . 第43回NMR討論会, 2004 . 11 .
- 15) 長谷場健, 真下啓子, 杉本淳一<sup>1)</sup>, 佐藤茂生<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>ニッカウヰスキー生産技術センター): ウィスキーの熟成は酪酐およびアルコール代謝にどのような影響をおよぼすか . 第25回アルコール医学生物学研究会, 2005 . 3 .

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

医療管理学教室は基礎医学であるが、臨床とのつながりの強い社会医学としての位置づけで発展してきた。教室全体のテーマは医療の質で、医療提供者、医療消費者および社会の視点での研究をしてきた。

医師国家試験の必須問題で38%が医療管理学の範疇になり、その存在感が増してきた。社会的発言の機会も増してきた。厚生労働省をはじめ地方自治体の各種委員会に委嘱され、放送大学で「患者による医療」講座など、社会教育で患者中心の医療の実現に寄与している。

学部教育では3年生の基礎配属で患者体験、腎透析患者の精神安寧の実験を行った。4年生の授業ではブループリントに沿い、教室独自のカリキュラムを作成した。OSCEにあわせて、医療面接には模擬患者による授業を行った。また、日本医科大学独自の模擬患者（Simulated Patient）を養成し、39人が学長から終了証を授与された。OSCE実施直前にはOSCEの面接教官全員にOSCEの実際についてのワークショップを行い、標準的な面接を行えるように取り組んできた。BSLではヴァーチャル患者体験による医療情報収集実習を行い、医師としての自覚を高めるユニークな授業を展開した。

客員教授の木村は、福祉用具の開発の研究を行い多くの論文を発表した。

高柳はNBM研究で、患者のQOLを高める研究を行なった。顧客価値を高める医療、DPCという新しい医療制度について研究した。また精神安寧をはかる医療環境について、東京大学工学部建築科と共同研究を行った。

太田は平成14年度から継続の厚生労働科学研究の助成を受けてリハビリ病院機能評価スタンダードを作成し、その検証を行う研究を行った。

研究生の王国辰は中国と日本のリハビリテーションの比較研究を行い、萩原由希子はハーバード大学大学院公衆衛生学でストレスと精神安寧についての研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 高柳和江：NBMからみた無脾症胎児診断を受けた母親の妊娠継続の無益性の検討。日本臨床死生学会 2004；9(1)：58-64。
- 2) 杉浦京子<sup>1)</sup>、竹内愛美<sup>1)</sup>、角館奈緒子<sup>1)</sup>、高柳和江、西出和彦<sup>2)</sup>、岡本和彦<sup>2)</sup>、西本 悠<sup>2)</sup>、柳沢壮一郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>心理学、<sup>2)</sup>東京大学大学院工学系研究科建築学専攻)：空間認知と不安、気分・感情状態との関連について。日本医科大学基礎科学紀要 2004；34：51-74。
- 3) 高柳和江：専門医認定制機構加盟の主要な学会の設立目的と事業活動に関する分析：英米の内科、外科学会との比較を通して。病院管理 2005；42(1)：67-73。

##### (2) 綜説：

- 1) 高柳和江：人。日本醫事新報 2004；4174：92-92。
- 2) 高柳和江：OSCE「信頼される医師」の態度評価。アポロニア21 2004；124：98-99。
- 3) 高柳和江：ひまわりシェルによるヒヤリハット・医療事故要因分析 ひまわりシェル分析で根本原因分析が可能に。月刊ナースマネージャー 2004；6(1)：45-48。
- 4) 高柳和江：病医院「待合室」で「癒し」の空間を実現。CLINIC magazine 2004；31(35)：34-37。
- 5) 高柳和江：ひまわりシェルによるヒヤリハット・医療事故要因分析 システムを変える、プロセスを簡素化する。月刊ナースマネージャー 2004；6(2)：63-65。

- 6) 高柳和江：患者・医師関係．アポロニア21 2004；125：98-99．
- 7) 高柳和江：医療の質と患者安全管理/根本原因分析．東京都医師会雑誌 2004；57(5)：50-57．
- 8) 高柳和江：ひまわりシェルによるヒヤリハット・医療事故要因分析 報告書の書き方．月刊ナースマネージャー 2004；6(3)：77-80．
- 9) 高柳和江：真空調理．アポロニア21 2004；6(3)：77-80．
- 10) 高柳和江：病院を「不思議の国」から「癒しの国」に変えてみたい．NIC Healthcare Partner 2004；1(4)：2-4．
- 11) 高柳和江：医療と癒しは生活に出会えるか．別冊総合ケア 2004；1：29-42．
- 12) 高柳和江：ひまわりシェルによるヒヤリハット・医療事故要因分析 EBMに基づく分析を行うこと．月刊ナースマネージャー 2004；6(4)：68-69．
- 13) 高柳和江：言葉と光．アポロニア21 2004；127：98-99．
- 14) 高柳和江：ひまわりシェルによるヒヤリハット・医療事故要因分析 要因の書き方．月刊ナースマネージャー 2004；6(5)：71-75．
- 15) 高柳和江：ヘルスリテラシー．アポロニア21 2004；128：96-97．
- 16) 高柳和江：「危機管理(クライシス・マネジメント)」と「被害の限局・被害者救済(コンセクエンス・マネジメント)」．アポロニア21 2004；129：100-101．
- 17) 高柳和江：コミュニティのネットワークを保ちながら医療現場を機能させる クライシス・マネジメントとコンセクエンス・マネジメント．CLINIC magazine 2004；31(40)：35-38．
- 18) 高柳和江：E-Hospital インターネットで見える医療情報の図書館．アポロニア21 2004；130：100-101．
- 19) 高柳和江：ひまわりシェルによるヒヤリハット・医療事故要因分析「要因」「認知」「分析」「対策」のプロセスを理解する．月刊ナースマネージャー 2004；6(7)：62-65．
- 20) 高柳和江：コンバージョンの可能性を問う：いかにして都市ホテルを医療施設として再生したか．トイレ研究会誌 2004；3：4-7．
- 21) 高柳和江：高齢者の安全で癒しのある環境．老年看護 2004；11(6)：70-76．
- 22) 高柳和江：ロールモデルの日：敬老の日を変えよう．アポロニア21 2004；131：100-101．
- 23) 高柳和江：笑いで健康．全国老人連合会誌 2004；289：6-6．
- 24) 高柳和江：環境への適応力を決定づける「特性不安」 危険への対応力．アポロニア21 2004；132：100-101．
- 25) 高柳和江：質評価としての同僚評価：外傷の救急医療の研究委員会EMSQの方法．J Nippon Med Sch 2004；71(6)：371-378．
- 26) 高柳和江：スイスの医療事情．アポロニア21 2005；133：100-101．
- 27) 高柳和江：DPC時代の顧客満足．医薬ジャーナル社 2005；41(2)：126-132．
- 28) 高柳和江：スイスの患者の権利．アポロニア21 2005；134：100-101．
- 29) 高柳和江：模擬患者．アポロニア21 2005；135：100-101．

## 著 書

- 1) 高柳和江：〔自著〕生き方のコツ，2004；飛鳥新社．
- 2) 高柳和江，田村浩一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部)：〔共著〕研修医としての心構え．臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル，2004；南江堂．
- 3) 高柳和江，田村浩一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部)：〔共著〕家族の心理を考えた対応．臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル，2004；南江堂．
- 4) 高柳和江：〔共著〕日ごろの努力の病院上位．日経病院ランキング(日本経済新聞社)，2004；日本経済新聞社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 高柳和江：患者安全は癒しの原則．第2回日本医療マネジメント学会高知県地方会，2004．8．
- 2) 高柳和江：癒しの環境．MCL 抗加齢医学セミナー，2004．9．
- 3) 高柳和江：顧客主導の医療に向けて：医療の基本はいやしです．新潟県病院協会，2004．12．
- 4) 高柳和江：お笑い癒し．日本私立医科大学協会関東地区連絡協議会，2005．1．

### (2) 一般講演：

- 1) 高柳和江：要因分析の重要性とひまわりシェル分析．第54回日本病院学会学術総会，2004．5．
- 2) 高柳和江，木村哲彦：脊髄損傷患者における盲腸ポート手術．第41回日本リハビリテーション医学会学術総会，2004．6．
- 3) 高柳和江，飯野靖彦：医療面接の評価者の教育について．第36回日本医学教育学会総会・大会，2004．7．
- 4) 正木幸喜<sup>1)</sup>，中村裕希<sup>1)</sup>，吉沢奈央<sup>2)</sup>，浅井聖子<sup>2)</sup>，高柳和江<sup>3)</sup>，木村 健<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>青梅市立総合病院外科，<sup>2)</sup>青梅市立総合病院看護部，<sup>3)</sup>日本医科大学医療管理学，<sup>4)</sup>アイオワ大学医学部外科)：脊髄損傷患者における盲腸ポート手術．第59回日本消化器外科学会学術総会，2004．7．
- 5) 高柳和江：医療経済からみた熱傷：包括医療方式の影響．第42回日本病院管理学会学術総会，2004．11．



## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [ 実験動物管理室 ]

#### 研究概要

実験動物管理室では、実験動物飼育室の維持管理業務の一環として、施設の微生物学的統御を行い、清浄度維持のため飼育管理方法を検討・改善している。特にSPFバリア領域については、定期的に微生物学的モニタリングを行うことによって、各飼育室の衛生状態を把握し、清浄度の維持および感染防御対策の指標としている。

研究面では新しい疾患モデル動物の開発や特性の解析を行い、人の疾患モデルとしての有用性の検討や生物学的検定に応用している。

WBN/Kob ratの雄は3ヶ月齢で肺炎を、9ヶ月齢で糖尿病を発症する非肥満の2型糖尿病モデル動物である。このラットに、レプチン受容体の異常により肥満を起こす突然変異遺伝子 (*Lepr<sup>fa</sup>*) を導入したコンジェニック系は、N13世代に達しWBN/Kob- (*Lepr<sup>fa</sup>*) ラットとして確立した。このホモ個体では、雄だけでなく、雌においても3ヶ月齢で尿糖陽性個体が認められ、雄における糖尿病発症時期の早期化だけでなく、雌においても糖尿病発症させることが明らかとなった。また、長期飼育では、糖尿病発症時期の早期化により合併症の重篤化が認められた。現在、発症の機構および糖尿病性合併症の病態について、さらに詳細に検索を行っている。

植物の抽出物には種々の生理活性物質が含まれており、漢方やアロマセラピーとして利用されている。これらを含めた補完代替医療が注目されているが、医学的検証が不十分なものが多いため、疾患モデル動物や摘出臓器を用いたバイオアッセイ法により評価を試みている。本年度は、木酢液を中心に、抗ヒスタミン薬様作用および抗糖尿病作用について検討を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nakayama M<sup>1)</sup>, Kawai N<sup>1)</sup>, Iino M<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K ( <sup>1)</sup> Chiba Institute of Technology): Effect of plasma proteins on ultrasound-induced molecular degradations. Bulletin de la société Franco-Japonaise des sciences Vétérinaires 2004; 15 (1): 1-12.
- 2) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 佐藤健司<sup>1)</sup>, ムワナタンブエ・ミランガ<sup>2)</sup>, 鈴木晟幹<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都府立大・人間環境・食品科学, <sup>2)</sup> 感染研・ハンセン病リサーチセンター, <sup>3)</sup> 臨床福祉専・基礎医学): がんの補完代替医療としてのサメ軟骨. 臨床福祉ジャーナル 2004; 1 (1): 45-50.

##### 著書

- 1) 七戸和博, 菅沼眞澄: [ 分担 ] 第4章線虫類. パラサイト (内田明彦, 佐伯英治), 2005; pp17-31, メディカグループ.

##### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Shichinohe K, Shimizu-Suganuma M, Ishii N<sup>2)</sup>, Suzuki S<sup>3)</sup>, Asano G<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Kinshasa University, <sup>2)</sup> National Institute of Infectious Diseases, <sup>3)</sup> Medical Welfare College, <sup>4)</sup> Hakujuikai General Hospital): Buruli and the ulcers under the tropics. 第45回日本熱帯医学会, 2004. 10.
- 2) 手塚 進, 浦山利巳, 山崎邦広, 秋元敏雄, 佐久間康夫: 日本医科大学 SPF 動物飼育施設における感染予防と

- 感染動物の隔離飼育について．第38回日本実験動物技術者協会総会，2004．5．
- 3) 浦山利巳，手塚 進，山崎邦広，秋元敏雄，佐久間康夫：日本医科大学SPF動物飼育施設における環境中の微生物検査について．第38回日本実験動物技術者協会総会，2004．5．
- 4) 秋元敏雄，石崎正通<sup>1)</sup>，佐藤 茂<sup>2)</sup>，仲間一雅<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1，<sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設，<sup>3)</sup>(株)サイエンス・サービス)：WBN/Kob-Leprfa コンジェニック系ラットにおける腎臓の病理組織学的検索．第51回日本実験動物学会総会，2004．5．
- 5) 浅田忠利<sup>1)</sup>，菅沼眞澄，若林正生<sup>1)</sup>，鳥越宏美<sup>1)</sup>，七戸和博(<sup>1)</sup>日獣大・応用生命科学・動物科学科・動物栄養学)：各種木酢液の抗ヒスタミン作用の比較．第58回日本栄養・食糧学会大会，2004．5．
- 6) 山崎邦広，浦山利巳，手塚 進，秋元敏雄，佐久間康夫：基礎医学動物室SPF飼育エリアにおける微生物モニタリングおよび空中落下細菌検査，緑膿菌を対象とした環境検査について(第7報)．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 7) 秋元敏雄，石崎正通<sup>1)</sup>，仲間一雅<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1，<sup>2)</sup>(株)サイエンス・サービス)：WBN/Kobラットに肥満遺伝子(Leprfa)を導入した肥満2型糖尿病モデルの確立とその特性について．第21回日本疾患モデル学会総会，2004．11．
- 8) 菅沼眞澄，浅田忠利<sup>1)</sup>，七戸和博(<sup>1)</sup>日獣大・応用生命科学・動物科学科・動物栄養学)：木酢液の抗ヒスタミン作用．第54回日本アレルギー学会，2004．11．
- 9) 秋元敏雄，石崎正通<sup>1)</sup>，仲間一雅<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1，<sup>2)</sup>(株)サイエンス・サービス)：WBN/Kob-fatty コンジェニック系ラットの25ヶ月齢における腎病変について．第19回日本糖尿病動物研究会年次学術集会，2005．2．
- 10) 緑川貴之<sup>1)</sup>，中西統子<sup>1)</sup>，河原井英樹<sup>1)</sup>，福永典隆<sup>1)</sup>，森 有加<sup>1)</sup>，飯野正昭<sup>1)</sup>，菅沼眞澄，七戸和博(<sup>1)</sup>千工大・工・生命環境科学・生体システム学)：超音波処理赤血球のDDS化における処理条件の影響．第30回日仏獣医学会研究例会，2005．3．
- 11) 梶ヶ山俊充<sup>1)</sup>，久保田典<sup>1)</sup>，藍 優子<sup>1)</sup>，柳田華那<sup>1)</sup>，浅田忠利<sup>1)</sup>，友田弥生<sup>2)</sup>，菅沼眞澄，七戸和博(<sup>1)</sup>日獣大・応用生命科学・動物科学科・動物栄養学)：アロキサン糖尿病マウスを用いた植物抽出液の糖尿病に対する効果の検討．第30回日仏獣医学会研究例会，2005．3．

## [ 中央電子顕微鏡研究施設 ]

### 研究概要

本研究施設の業務は主なものとして5つあげられる．

1. 電子顕微鏡に関する研究ならびに技術指導：自主学習学生や研究者が対象である．
2. ヒト組織の電子顕微鏡診断：付属4病院より年間200余検体を受け付けており，第二内科・小児科・第一内科・脳神経外科・呼吸器内科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・整形外科・第一外科などから提出されている．
3. 研究：生検材料や実験動物を用いて診断のための新しい電顕的指標を見出し，診断電顕が臨床に役立つことを目的とした研究をしている．
4. 電顕技術開発：ウーロン茶抽出物を固定剤に混入することにより，従来観察が困難であった腸杯状細胞の分泌様式を明確にし，また白血球百分率を光顕のそれと比較して電顕による有用性を報告した．
5. 共同研究ならびに技術指導：学内外より年間150検体を受け付けている．技術提供は本施設の特徴の一つであり，基礎・臨床問わず依頼があれば試料作製～電顕所見までの研究補助を目的とするシステムをとっている．年度により異なるが，今年度基礎医学では病理学・薬理学・実験動物室へ，そして臨床では小児科学・眼科学・皮膚科学・内科学(三内)・救命救急センター・付属病院病理部・生命科学研究センターへの技術提供を行った．またこの中で技術提供から共同研究になることや，また解剖学第一のように学生講義や研究目的のために本施設の電子顕微鏡を使用する例もある．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Hashimoto Y<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Matsuzawa I<sup>1)</sup>, Sato S, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Imura N<sup>3)</sup>, Akimoto M<sup>3)</sup>, Hara S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> 1st Dept. of Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Dept. of Public Health, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University ): Cyclooxygenase-2 expression and relationship to tumour progression in human renal cell carcinoma. *Histopathology* 2004 ; 44 : 353-359 .
- 2) Omi T<sup>1)</sup>, Bjerring P<sup>2)</sup>, Sato S, Kawana S<sup>3)</sup>, Hankins R. W. <sup>4)</sup>, Honda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Queen's Square Medical Center, <sup>2)</sup> Dept. of Dermatology, Aarhus University, Aarhus, Denmark, <sup>3)</sup> Dept. of Dermatology, <sup>4)</sup> Third Diagnostic Division, Health Sciences Res. Institute ): 420 nm intense continuous light therapy for acne. *J Cosmet Laser Ther* 2004 ; 6 : 156-162 .
- 3) Sato S : Ultrastructural and morphometric studies of normal rat hepatocytes. *J. Submicrosc. Cytol* 2004 ; 36 (( 2 )): 131-140 .
- 4) Sato S, Kitamura H<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Adachi A, Sasaki Y, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Inoue K, Wakamatsu K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup> 1st Dept. of Pathology ): Occurrence of hyaline droplets in renal biopsy specimens : an ultrastructural study. *Med Mol Morphol* 2005 ; 38 : 63-71 .
- 5) Dai W, Sato S, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Wakamatsu K<sup>1)</sup>, Namimatsu S<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> 1st Dept. of Pathology, <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology ): A new antigen retrieval method using citraconic anhydride for immunoelectron microscopy : localization of surfactant pro-protein C ( proSP-C ) in the type II alveolar epithelial cells. *J. Submicrosc. Cytol* 2005 ; 36 (( 3-4 )): 219-224 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演 :

- 1) Liu AM, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Hospital ): Gastrointestinal stromal tumors ( GISTs ): an ultrastructural and immunohistochemical study of eight cases. 8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy ( 8APEM ) ( Kanazawa, Japan ), 2004 . 6 .
- 2) Liu AM, Sugisaki Y, Hosone M<sup>1)</sup>, Namimatsu S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Hospital ): Anaplastic large cell lymphoma of 3 cases. A comparative study of flow cytometry analysis, immunohistochemistry and electron microscopy. International Academy of Pathology, Hong Kong Division 13th Annual Scientific Meeting ( Hong Kong ), 2004 . 11 .
- 3) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Sasaki Y, Sato S, Inoue K, Egawa S<sup>1)</sup>, Oguro T<sup>2)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Chiba Hokusoh Hospital ): Ultrastructural study of human chromosomes by transmission electron microscopy. The 36th Annual Meeting of Clinical Electron Microscopy Society of Japan, 2004 . 11 .
- 4) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 劉 愛民, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 放射線誘発性が推定される脳原発骨肉腫の1例. 第93回日本病理学会総会, 2004 . 6 .
- 5) 佐藤 茂, 戴 威, 並松茂樹<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第1 ): II型肺胞上皮細胞のサーファクタントproprotein Cの局在: シトラコン酸の抗原賦活化による新しい免疫電顕法を用いて. 第40回日本界面医学会学術研究会, 2004 . 10 .
- 6) 松村豪一<sup>1)</sup>, 小口幸輝<sup>1)</sup>, 広畑泰久, 佐藤 茂, 高橋常雄<sup>2)</sup>, 上田眞太郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 聖学院大学人間福祉学科, <sup>2)</sup> 神奈川歯科大学人体構造学講座, <sup>3)</sup> 上田老人医学研究所 ): クロサンショウウオ幼生呼吸器の発生的・形態学

的研究．第40回日本界面医学会学術研究会，2004．10．

- 7) 佐佐木喜広，佐藤 茂，安達彰子，杉崎祐一：小腸杯細胞のムチン分泌とアクチン細線維の関係．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．
- 8) 松井洋法<sup>1)</sup>，佐藤 茂，石崎正通<sup>2)</sup>，小原澤英彰<sup>1)</sup>，鈴木久晴<sup>1)</sup>，志和利彦<sup>1)</sup>，高橋 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院眼科，<sup>2)</sup>病理学第1): 正常ラット網膜毛細血管の超微構造の形態学的観察：血管細胞間結合様式．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．
- 9) 佐藤 茂，北村博司<sup>1)</sup>，石崎正通<sup>1)</sup>，若松恭子<sup>1)</sup>，佐佐木喜広<sup>1)</sup>，安達彰子<sup>1)</sup>，井上京子<sup>1)</sup>，杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第1): 尿管間質の毛細血管基底膜の層状増生．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．
- 10) 東 敬子<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，劉 愛民，松島申治<sup>2)</sup>，山本英希<sup>2)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>，杉崎祐一，内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>病理学第2): 神経内分泌的特徴を有する肺大細胞癌：LCNECとLCCNDとの区別．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．
- 11) 松村豪一<sup>1)</sup>，小口幸輝<sup>1)</sup>，広畑泰久，佐藤 茂，上田眞太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科，<sup>2)</sup>上田老人医学研究所): クロサンショウウオ呼吸器の発生学的並びに電子顕微鏡的研究．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．
- 12) 安達彰子，佐藤 茂，佐佐木喜広，井上京子，海津聖彦<sup>1)</sup>，前田美穂<sup>1)</sup>，福永慶隆<sup>1)</sup>，杉崎祐一(<sup>1)</sup>付属病院小児科): 小児白血病患者末梢血の電子顕微鏡観察：光顕による白血球百分率算定との比較．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．
- 13) 劉 愛民，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，東 敬子<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>2)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>3)</sup>，杉崎祐一(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>病理学第2): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の免疫組織化学及び電顕的検索．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．
- 14) 並松茂樹<sup>1)</sup>，佐藤 茂，ガジザデ・モハマッド，杉崎祐一(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 無水シトラコン酸(CCA)による抗原賦活化：抗原賦活時における加熱処理は抗原を失活させるか．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2004．11．

## [ 情報科学センター ]

### 研究概要

1993年に基礎医学部分のみのLANでインターネット接続を開始し，94年より手作りLANで千駄木地区の臨床部分を接続して，なんとか日本医科大学からインターネットへのメール交換，Webの公開を開始した．2004年は記念すべき10年目であったが忘却していた．IT世界はDog yearで10年前の事を覚えていることも難しい．一般には1996年の広域学術ネットワークの完成が本学でのインターネット利用の開始と理解されている．現在，利用者，端末数ともに4000強の数となっており，メール，インターネットの普及に関しては十分な物となっている．この間，学生用PCの設置，リテラシー授業の開始と拡がっているが，世間の技術発展，普及には追従しきれていない．常に通信速度の不足，学生のPCの不足，不適切なネットワーク利用に悩まされている．

2005年4月から個人情報保護法が施行され，情報環境の保持，運営については大きな責務が発生しているが，本学における情報ポリシーの確立は，必ずしも時代に対応する状況ではない．システムが大きくなると，荷が重くなる事で，保守の泥沼に落ちこむ事の例かもしれぬ．今後運営の変革も必要であろう．

しかしながら，実は2004年はITが本学の教育へのより具体的な貢献が開始された年として記憶されよう．

CBTをベースに医学教育学会への発表の機会を持ち，その証として残すことができた．また試行利用してきたInstruction Management System (IMS)であるJenzabarも正規利用者となり，学生からは好感を持って迎えられている．今後はIMSを含め，マルチメディア環境や教育情報データベースなどを通じて教育環境の情報化支援が大きな責務，貢献となるう．

また、センター基本姿勢として「情報科学を通じての生命科学研究への貢献」をより活発化することも課題である。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 河野貴美子：脳波に現れる瞑想法の差異．催眠と科学 2004；19(1)：50-54．
- 2) 近喰ふじ子<sup>1)</sup>，河野貴美子，吾郷晋浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京家政大学，<sup>2)</sup>文京学院大学)：日本版-POMS (Profile of Mood States) とコラージュ作品との照合：気分プロフィール検査の改善と非改善の分類からの検討．東京家政大学附属臨床相談センター紀要 2005；5(1)：65-70．

#### (2) 研究報告書：

- 1) Kawano K：Changes in EEGs and Other Physiological Indicators while Listening to Healing Music．J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2004；22(2)：pp378-382．
- 2) Kawano K, Sasaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Japan Society of Speed Reading Education)：EEGs and Other Physiological Changes with Progression of Reading Speed．J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2005；23(1)：pp174-178．
- 3) 河野貴美子：日本人と欧米人における数感覚の差異．珠算春秋 2004；50(1)：pp2-12．
- 4) 河野貴美子：脳の限りない可能性を考える．サトルエネルギー学会誌 2004；9(2)：pp17-25．
- 5) 河野貴美子：脳内計算処理過程における日本人と欧米人の差異．臨床脳波 2004；46(12)：pp785-790．

### 著書

- 1) 河野貴美子：〔監修〕脳を鍛えるそろばんドリル，2004；日本文芸社．

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) Kawano K, Yamamoto M<sup>1,2)</sup>, Kokubo H<sup>2)</sup>, Chen W<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences，<sup>2)</sup>International Research Institute)：Statistical Analysis of EEGs of a Receiver in a Remote Perception Experiment．国際気功科学研討会，2004．11．

#### (2) パネルディスカッション：

- 1) 河野貴美子，久保田競<sup>1)</sup>，中野敏雄<sup>2)</sup>，岡久泰大<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本福祉大学，<sup>2)</sup>大東文化大学，<sup>3)</sup>全国珠算教育連盟)：明日への指標：いま，為すべきこと．全国珠算研究集会，2005．3．

#### (3) セミナー：

- 1) 河野貴美子：脳波からみた思考・意識・心．ライフウェア研究会，2004．6．

#### (4) 一般講演：

- 1) Kawano K：Changes in EEGs and Other Physiological Indicators while Listening to Healing Music．International Conference on Mind Body Science：Physical and Physiological Approach，2004．8．
- 2) 近喰ふじ子<sup>1)</sup>，河野貴美子，吾郷晋浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京家政大学，<sup>2)</sup>文京学院大学)：コラージュ制作における身体内言語の脳内メカニズム(1) 青年期(男性，女性)の検討．日本心身医学会学術講演会，2004．6．
- 3) 渡部 昇，河野貴美子，滋野恭子，奥重秀彦，志村俊郎<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室，<sup>2)</sup>外科学第2)：CBT トライアル実施のためのPCシステム運用の諸問題．日本医学教育学会，2004．7．
- 4) 近喰ふじ子<sup>1)</sup>，河野貴美子，吾郷晋浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京家政大学，<sup>2)</sup>文京学院大学)：コラージュ制作と身体内言語の脳内活動．芸術療法学会，2004．10．
- 5) 渡部 昇，河野貴美子，滋野恭子，奥重秀彦，伊藤高司：学生用標準PCシステム：現行環境2年目の課題．日本医療情報学会，2004．11．

- 6) 河野貴美子, 近喰ふじ子<sup>1)</sup>, 吾郷晋浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京家政大学, <sup>2)</sup>文京学院大学): コラージュ制作における心理状態変化と脳波. 日本臨床神経生理学会, 2004. 11.
- 7) 河野貴美子, 佐々木豊文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>NBS日本速読教育連盟): 速読熟達過程における脳波等生理指標変化. 生命情報科学シンポジウム, 2005. 2.

## 〔 3 〕 臨 床 医 学

# 1. 内科学第一講座

## [ 付属病院第 1内科 ( 一般内科, 循環器内科, 肝臓内科 ) ]

### 研究概要

内科学第一教室では循環器病学, 肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的, 基礎的研究を行った。

循環器病学では, 不整脈に関する研究として, 心拍変動周波数解析などの数理学的手法, 薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈, 突然死発生との関連の検討, 抗不整脈薬の電気生理学的作用, 臨床効果の検討, 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療, 失神患者における自律神経機能の評価, 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患, 心筋疾患に関する研究として, 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium, 心筋虚血の検出, 虚血性心疾患における圧受容体反射, 急性心筋梗塞後の左室リモデリング, 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連, 虚血心筋保護法の検討, 虚血性心疾患, 心筋疾患における成長因子, 細胞増殖因子の検討, 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討。

肝臓病学では, 門脈圧亢進症の病態, 薬物療法に関する検討, 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態, SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生, 慢性肝疾患における肺循環異常, 二次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化と NO の関係。

糖尿病学では, 冠動脈疾患とインスリン抵抗性, 糖尿病患者における自律神経機能, 無症候性心筋虚血の病態を検討している。

再生医学の臨床応用は2002年より開始され, 首都圏で初めて「骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患 (慢性閉塞性動脈硬化症・ピュルガー病・糖尿病性壊疽) への血管再生療法」の臨床応用に成功した。また重症心不全, 虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法も2003年より始まった。さらに日本獣医畜産大学との共同研究で免疫抑制剤不要の夢の治療法となるバイオ人工臓の開発も研究中である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Zreiqat J, Takayama M, Sato N, Takano T: Chewed Aspirin Alone Is More Effective than Combined Administration of Oral Antiplatelets for Acute Inhibition of Platelet Aggregation in Normal Subjects. *Jpn J App; Physiol* 2004; 34 (2): 101-108.
- 2) Miyamoto M, Yasutake M, Takano H, Takagi H, Takagi G, Mizuno H<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Plastic Surgery, <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Therapeutic Angiogenesis by Autologous Bone Marrow Cell Implantation for Refractory Chronic Peripheral Arterial Disease Using Assessment of Neovascularization by <sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin ( TF ) Perfusion Scintigraphy. *Cell Transplant* 2004; 13 (4): 429-437.
- 3) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Morita N, Iwasaki Y, Hayashi M, Ohmura K, Kato T, Takano T: Successful Radiofrequency Catheter Ablation of an Anteroseptal ( Superoparaseptal ) Atrioventricular Accessory Pathway From the Left Ventricular Outflow Tract. *PACE* 2004; 27 (5): 668-670.
- 4) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Tanaka K, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Manual aspiration thrombectomy with a standard PTCA guiding catheter for treatment of acute massive pulmonary thromboembolism. *Radiat Med* 2004; 22 (3): 168-172.



- 5) Tanaka K , Sato N , Yamamoto T , Akutsu K , Fujii M , Takano T : Measurement of end-tidal carbon dioxide in patients with cardiogenic shock treated using a percutaneous cardiopulmonary assist system . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ): 160-166 .
- 6) Sano J<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Takano T , Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Chibahokuso Hospital, Department of Cardiology ): Effects of green tea intake on the development of coronary artery disease . Circ J 2004 ; 68 ( 7 ): 665-670 .
- 7) Ueshima K<sup>1)</sup>, Fukami K<sup>1)</sup>, Hiramori K<sup>1)</sup>, Hosoda S<sup>2)</sup>, Kishida H , Kato K<sup>3)</sup>, Fujita T , Tsutani K<sup>4)</sup>, Sakuma A<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>Second Department of Internal Medicine, Iwate Medical University , <sup>2)</sup>Sakakibara Heart Institute , <sup>3)</sup>Cardiovascular Institute , <sup>4)</sup>Department of Pharmacoeconomics, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, University of Tokyo , <sup>5)</sup>Organization for Pharmaceutical Safety and Research ): Is angiotensin-converting enzyme inhibitor useful in a Japanese population for secondary prevention after acute myocardial infarction? A final report of the Japanese Acute Myocardial Infarction Prospective ( JAMP ) study . Am Heart J 2004 ; 148 ( 2 ): 1-8 .
- 8) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y , Ogawa T<sup>2)</sup>, Ohtsuka T , Seimiya K , Takano T ( <sup>1)</sup>Department of Medicine, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital , <sup>2)</sup>Division of Cardiology, Department of Medicine, Hakujuikai Memorial General Hospital ): Ongoing Myocardial Damage in Chronic Heart Failure is Related to Activated Tumor Necrosis Factor and Fas/Ligand System . Circ J 2004 ; 68 ( 8 ): 747-750 .
- 9) Akutsu K , Nejima J , Kiuchi K , Sasaki K<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup>, Tanaka K , Takano T ( <sup>1)</sup>外科学第2 ): Effects of the patent false lumen on the long-term outcome of type B acute aortic dissection . Eur J Cardiothorac Surg 2004 ; 26 ( 2 ): 359-366 .
- 10) Yanagida E<sup>1)</sup>, Shoji S<sup>3)</sup>, Hirayama Y , Yoshikawa F<sup>3)</sup>, Otsu K<sup>1)</sup>, Uematsu H<sup>2)</sup>, Hiraoka M<sup>1)</sup>, Furuchi T<sup>3)</sup>, Kawano S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Cardiovascular Diseases, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University , <sup>2)</sup>Department of Gerodontology, Graduated School, Tokyo Medical School , <sup>3)</sup>Brain Science Institute, RIKEN ): Functional expression of Ca<sup>2+</sup> signaling pathways in mouse embryonic stem cells . Cell Calcium 2004 ; 36 : 135-146 .
- 11) Yokoshima T , Honma H , Kusama Y , Munakata K , Takano T , Nakanishi K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻醉科学 ): Improved Stratification of Perioperative Cardiac Risk in Patients Undergoing Noncardiac Surgery Using New Indices of Dobutamine Stress Echocardiography . J Cardiol 2004 ; 44 ( 3 ): 101-111 .
- 12) Sutovsky I , Katoh T , Ohno T , Honma H , Takayama H , Takano T : Relationship Between Brain Natriuretic Peptide, Myocardial Wall Stress, and Ventricular Arrhythmia Severity . Jpn Heart J 2004 ; 45 ( 5 ): 771-777 .
- 13) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Komada Y<sup>1)</sup>, Niggemann P<sup>1)</sup>, Takayama M , Tanaka K , Takano T ( <sup>1)</sup>Department of Radiology ): Hybrid treatment of acute massive pulmonary thromboembolism : mechanical fragmentation with a modified rotating pigtail catheter, local fibrinolytic therapy, and clot aspiration followed by systemic fibrinolytic therapy. . Am J Roentgenol 2004 ; 183 ( 3 ): 589-595 .
- 14) Amano Y<sup>1)</sup>, Takayama M , Takahama K<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology ): Delayed hyperenhancement of myocardium in hypertrophic cardiomyopathy with asymmetrical septal hypertrophy : comparison with global and regional cardiac MR imaging appearances . J Magn Reson Imaging 2004 ; 20 ( 4 ): 595-600 .
- 15) Yamamoto T<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>2)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>1)</sup>, Fujita N<sup>1)</sup>, Yasutake M , Tanaka K<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup>Coronary Care Unit , <sup>2)</sup>Department of Radiology ): Differences in the Clinical

Course of Acute Massive and Submassive Pulmonary Embolism : In-Hospital Onset vs Out-of-Hospital Onset .  
Circ J 2004 ; 68 ( 11 ): 988-992 .

- 16) Toba M<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Ibuki C, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup>Departmento of Radiology ): Usefulness of gated myocardial perfusion SPECT imaging soon after exercise to identify postexercise stunning in patients with single-vessel coronary artery disease . J Nuclear Cardiol 2004 ; 11 ( 6 ): 697-703 .
- 17) Fukuma N , Oikawa K , Aisu N , Kato K , Kimura-Kato Y , Tuchida T , Mabuchi K , Takano T : Impaired baroreflex as a cause of chronotropic incompetence during exercise via autonomic mechanism in patients with heart disease . Int J Cardiol 2004 ; 97 ( 3 ): 503-508 .
- 18) Katsuta Y , Honma H , Zhang XJ , Oshuga M , Komeichi H , Shimizu S , Katoh Y , Miura H , Satomura K , Aramaki T , Takano T : Pulmonary blood transit time and impaired arterial oxygenation in patients with chronic liver disease . J Gastroenterol 2005 ; 2005 ( 40 ): 57-63 .
- 19) Tanaka K , Seino Y , Inokuchi K<sup>1)</sup>, Ohmura K , Kobayashi Y , Takano T ( <sup>1)</sup>Third Departments of Internal Medecine ): A case presenting concurrence of Marfan syndrome, Basedow ' s disease and Arg353Gln polymorphism-related factor VII deficiency . Int J Cardiol 2005 ; 98 : 345-348 .
- 20) Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Iwasaki YK , Sagara K<sup>1)</sup>, Hatano S<sup>1)</sup>, Iinuma H<sup>1)</sup>, Aizawa R<sup>1)</sup>, Fu LT<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>心臓血管研究所 ): Cibenzoline attenuates upregulation of kv1. 5 channel gene expression by experimental paroxysmal atrial fibrillation . Int Heart J 2005 ; 46 ( 2 ): 279-288 .
- 21) Taniguchi H , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Hirasawa Y , Hosaka H , Iwasaki Y , Katoh T , Takano T : Radiofrequency catheter ablation of a coronary sinus-ventricular accessory connection in dextrocardia with complete situs inversus and an anomalous inferior vena cava . Pacing Clin Electrophysiol 2005 ; 28 ( 2 ): 164-167 .
- 22) Suwa M<sup>1)</sup>, Seino Y , Nomachi Y<sup>1)</sup>, Matsuki S<sup>1)</sup>, Funahashi K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Daiichi Suntory Pharma Company, Limited ): Multicenter Prospective Investigation on Efficacy and Safety of Carperitide for Acute Heart Failure in the ' Real World ' of Therapy . Cird J 2005 ; 69 ( 3 ): 283-290 .
- 23) 宮武佳子, 磯田麻里, 子島 潤<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>鶴見大学歯学部内科学教室 ): 内科疾患が歯科治療に及ぼす影響 : 内科医からみた歯科有病者の実態 . 鶴見歯学 2004 ; 30 ( 2 ): 111-118 .
- 24) 加藤和代, 福間長知, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 牛島明子, 金沢宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 心筋梗塞における酸化ストレスの増大が運動耐容能の低下および心拍反応性に及ぼす影響 . 心臓リハビリテーション 2005 ; 10 ( 1 ): 64-66 .
- 25) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup>, 関口昭子<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>心臓血管研究所 ): 肺静脈のイオンチャンネルと電気現象 : 肺静脈はなぜ不整脈源性か? . 心電図 2005 ; 25 ( s3 ): 20-26 .

(2) 綜説 :

- 1) Hayashi H<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup>Department of Radiology ): Non-invasive detection and assessment of coronary artery disease with multidetector-row computed tomography . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ): 128-129 .
- 2) 高木 元, 清野精彦 : 心肥大の降圧療法と臓器保護 . 成人病と生活習慣病 2003 ; 33 ( 12 ): 1515-1521 .
- 3) 小林義典 : 心臓突然死一次予防の現状, 問題点と今後の展望 . 進歩する心臓研究 2004 ; 44 ( 2 ): 3-4 .
- 4) 高野照夫 : 急性冠症候群 : 診断と治療の進歩 : I. 概念 . 日内会誌 2004 ; 93 ( 2 ): 1-2 .
- 5) 加藤貴雄 : 心房 ( 上室性 ) 期外収縮 . 総合臨 2004 ; 53 ( 3 ): 597-602 .
- 6) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>集中治療室 ): カテーテル血管内治療の効用と限界 . ICUとCCU 2004 ; 28 ( 3 ): 181-184 .
- 7) 森田典成, 加藤貴雄 : 心臓突然死とICD . 循環器 2004 ; 55 ( 4 ): 346-354 .

- 8) 福島正人, 清野精彦: 心筋マーカーの評価. 臨と研 2004 ; 81 (4): 9-16 .
- 9) 宮本正章: 自然免疫を応用した先端医療. 自然免疫 2004 ; 1 : 121-132 .
- 10) 岸田 浩: 硝酸薬貼付製剤の休薬時間. 日医新報 2004 ; 4174 : 103-103 .
- 11) 加藤貴雄: 心室期外収縮. 総合臨 2004 ; 53 (4): 1574-1580 .
- 12) 青木 聡, 高山守正: フローワイヤーおよびプレッシャーワイヤーによる心筋虚血の診断. ICUとCCU 2004 ; 28 (5): 333-341 .
- 13) 清野精彦: Acute coronary syndromeの治療ストラテジー. 循環器 2004 ; 55 (5): 489-496 .
- 14) 加藤貴雄: 心房細動. 総合臨 2004 ; 53 (5): 1771-1778 .
- 15) 小林義典: 減衰伝導特性を示す房室副伝導路 Mahaim 束を介した房室回帰性頻拍. Cardiovasc Med-Surg 2004 ; 6 (2): 91-94 .
- 16) 清野精彦, 山下照代, 小川晃生, 高野照夫: 慢性心不全症例におけるN末端proBNP (NT-proBNP) 測定の意義. Bio Clinica 2004 ; 19 (6): 47-53 .
- 17) 岩崎雄樹: 神経体液性因子: 不整脈発生における位置付け. Molecular Med 2004 ; 41 (7): 812-819 .
- 18) 福間長知, 及川恵子, 土田貴也, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 岸田 浩, 高野照夫: 骨格筋のSympathetic denervationが運動時の血圧反応に及ぼす影響. 心臓 2004 ; 36 (S2): 47-49 .
- 19) 清野精彦: わが国から発信する心筋生化学マーカー: H-FABP : さらなるエビデンス集積を. 心臓 2004 ; 36 (6): 448-450 .
- 20) 清野精彦: 急性冠症候群を迅速に診断: ラピッドテストの有用性と活用法. Nikkei Medical 2004 ; 2004 (6): 80-85 .
- 21) 加藤貴雄: 心房粗動. 総合臨 2004 ; 53 (6): 2009-2015 .
- 22) 清野精彦: 新しい心筋マーカーの有用性. 心臓 2004 ; 36 (7): 546-548 .
- 23) 清野精彦, 高野照夫, 説田浩一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立駒込病院循環器科・臨床検査科): 慢性心不全における潜在性心筋障害 (ongoing myocardial damage). 日内会誌 2004 ; 93 (7): 1473-1479 .
- 24) 小林義典: 緊急性のある不整脈とその対処法. 救急・集中治療 2004 ; 16 (7): 757-767 .
- 25) 宮本正章: 重症難治性糖尿病性潰瘍・壊疽に対する自己骨髄幹細胞を用いた血管再生療法. 看技 2004 ; 50 (8): 28-33 .
- 26) 加藤貴雄: 発作性上質性頻拍. 総合臨 2004 ; 53 (7): 2173-2178 .
- 27) 高野照夫: ACSの早期診断と治療の進め方: はじめに. Ther Res 2004 ; 25 (8): 1-2 .
- 28) 清野精彦, 富田喜文, 緒方憲一, 小川晃生, 山下照代, 福島正人, 安武正弘, 高野照夫: 新しい心筋マーカーによる早期リスク層別化. Ther Res 2004 ; 25 (8): 3-5 .
- 29) 加藤貴雄: 心室頻拍. 総合臨 2004 ; 53 (8): 2370-2375 .
- 30) 加藤貴雄: 心室細動. 総合臨 2004 ; 53 (9): 2567-2572 .
- 31) 小林義典: 心室性期外収縮. 今月の治療 2004 ; 12 (10): 96-98 .
- 32) 坪 宏一<sup>1)</sup>, 清野精彦 (<sup>1)</sup>集中治療室): 血液生化学マーカーでみる胸痛. 臨床研修医プラクティス 2004 ; 1 (6): 44-48 .
- 33) 高山守正, 代田浩之<sup>1)</sup>, 原 和弘<sup>1)</sup>, 村上幹高<sup>1)</sup>, 林田憲明<sup>1)</sup>, 河口正雄<sup>1)</sup>, 原田和昌<sup>1)</sup>, 住吉徹哉<sup>1)</sup>, 五十嵐正樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都CCU連絡協議会): 東京都CCUネットワーク2002年活動実績報告. ICUとCCU 2004 ; 28 (9): 685-690 .
- 34) 高山守正, 吉田伸子, 笹川 新, 高野照夫: 東京CCUハートラインのコンセプト: プレホスピタルケアをより近づけるために. ICUとCCU 2004 ; 28 (9): 794-796 .
- 35) 小林義典: 非持続性心室頻拍をどう扱うか. 内科 2004 ; 94 (4): 711-716 .
- 36) 安武正弘: 心臓カテーテル検査. 日医会誌 2004 ; 132 (S8): 346-347 .

- 37) 安武正弘, 宮本正章, 高野仁司, 高野照夫, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 高木啓倫<sup>3)</sup>, 田中啓治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科,  
<sup>2)</sup>外科学第2,<sup>3)</sup>集中治療室): 骨髄単核細胞移植による血管新生の核医学的評価. 医工学治療 2004 ; 16  
(2): 82-85 .
- 38) 高山守正, 高野照夫: 医療連携とCCUネットワーク IV 心臓病の診断と治療 虚血性心疾患 心臓病の外来  
診療. 日医会誌 2004 ; 132 (8): S124 .
- 39) 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 勝田梯実, 古明地弘和 (<sup>1)</sup>東京・文化学園健康管理センター): 門脈圧亢進症に対する薬物療法.  
日医新報 2004 ; (4203): 9-15 .
- 40) 加藤貴雄: 開業医が不整脈を診るコツ: まず自覚症状に注意!! . 日医新報 2004 ; (4203): 53-56 .
- 41) 加藤祐子, 山根吉人, 清野精彦: 心不全患者の家庭管理. medicina 2004 ; 41 (11): 1849-1853 .
- 42) 岸田 浩: 胸部痛~胸内苦悶. 総合臨 2004 ; 53 (11): 2878-2885 .
- 43) 高山守正, 高野照夫: 循環器診療におけるプレホスピタルへの展開. 冠疾患誌 2004 ; 10 (4): 236 .
- 44) 高木 元: 高血圧でしばしばみられる症候: 狭心症. 腎と透析 2004 ; 2004 (臨時): 46-50 .
- 45) 加藤貴雄: 心房細動の治療方針: レートコントロールかリズムコントロールか. 医のあゆみ 2004 ; 211  
(12・13): 1121-1125 .
- 46) 加藤貴雄: 開業医が不整脈を診る: 家族歴がキーポイント!! . 日医新報 2004 ; (4207): 53-56 .
- 47) 加藤貴雄: 洞不全症候群. 総合臨 2004 ; 53 (12): 3151-3156 .
- 48) 福島正人, 清野精彦: 急性冠症候群の血液検査: ミオシン連鎖. Med Technol 2004 ; 32 (13): 1451-1451 .
- 49) 福島正人, 清野精彦: 急性冠症候群の血液検査: トロポニンT, トロポニンI. Med Technol 2004 ; 32  
(13): 1448-1450 .
- 50) 大野忠明, 本間 博: II 虚血性心疾患の画像: 生理検査2. 負荷をかけて冠狭窄を押し量るドブタミン負荷心  
エコー. Med Technol 2004 ; 32 (13): 1368-1373 .
- 51) 清野精彦, 高木 元, 山根吉人: 血液生化学マーカーで診断する! . Med Pract 2005 ; 22 (1): 61-66 .
- 52) 加藤貴雄: 開業医が不整脈を診るコツ: 心電図自動診断を上手に使いこなす!! . 日医新報 2005 ; (4211):  
69-72 .
- 53) 中込明裕, 清野精彦: C-reactive protein は急性冠症候群の発症に直接関与する. 呼吸と循環 2005 ; 53  
(1): 33-39 .
- 54) 小林義典: 心房細動に対する治療戦略: 洞調律化, 心拍数コントロールか? . 日医大医会誌 2005 ; 1 (2):  
74-78 .
- 55) 清野精彦: 慢性心不全の病態と治療を考える: Back to the Future . J Nippon Med Sch 2005 ; 71 (6): 421-  
425 .
- 56) 加藤貴雄: 房室ブロック. 総合臨 2005 ; 54 (1): 195-201 .
- 57) 加藤貴雄: ペースメーカー心電図. 総合臨 2005 ; 54 (2): 410-418 .
- 58) 小林義典: Ic 群抗不整脈薬により, 右側胸部誘導で著明なST上昇とT波形のアルテルナンスを認めたBruga-  
daの1例. Cardiovasc Med-Surg 2005 ; 7 (1): 153-156 .
- 59) 加藤貴雄: 開業医が不整脈を診るコツ: 治療適応の診断が重要. 日医新報 2005 ; (4216): 69-72 .
- 60) 岩崎雄樹: 幅のひろいQRS頻拍をみたら. 臨床医 2005 ; 31 (2): 144-147 .
- 61) 加藤貴雄: 開業医が不整脈を診るコツ: 基礎疾患によって治療法が変わる!! . 日医新報 2005 ; (4220): 69-  
72 .
- 62) 加藤貴雄: QT計測. カレントセラピー 2005 ; 23 (3): 90-90 .
- (3) 研究報告書:
- 1) 児玉逸雄<sup>1)</sup>, 加藤貴雄, 他 (<sup>1)</sup>名古屋大学環境医学研究所循環器分野): 不整脈薬物治療に関するガイドライ  
ン. Circ J 2004 ; 68 (S): pp981-1078 .

- 2) 笠貫 宏<sup>1)</sup>, 高野照夫, 他 ( <sup>1)</sup>東京女子医科大学循環器内科 ): 循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン . Circ J 2004 ; 68 ( S ): pp1153-1230 .
- 3) 荒牧琢己, 清水秀治, 加藤良人, 古明地弘和, 大須賀勝, 勝田悌実, 里村克章 : 特殊疾病 ( 難病 ) に関する研究報告書 : 都内自己免疫性肝炎患者の実態把握と診断・調査方法の改善 . 東京都福祉保健局 2004 ; pp27-28 .
- (4) その他 :
- 1) 宮本正章 : 用語解説 : 血管再生療法 . Drug Delivery Syst 2005 ; 20 ( 2 ): 170-170 .
- (5) 研究会 :
- 1) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup>, 関口昭子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>心臓血管研究所 ): 肺静脈のイオンチャンネル遺伝子発現 . 心臓 2004 ; 36 ( 5 ): 370-374 .
- (6) 症例報告 :
- 1) Yamamoto T, Nejima J<sup>1)</sup>, Ino T, Takano T, Hayashi H<sup>2)</sup>, Bessho R<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>鶴見大学歯学部付属病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学放射線医学, <sup>3)</sup>同外科学第2, <sup>4)</sup>同病理学第2 ): A case of massive left atrial lipoma occupying pericardial space . Jpn Heart J 2004 ; 45 ( 4 ): 715-721 .
- 2) Kakinuma D<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Tani ai N<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Aramaki T, Takano T ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): A case of hepatocellular carcinoma with situs inversus totalis . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ): 209-212 .
- 3) 吉村明修<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>2)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 清野精彦, 坂本静樹<sup>3)</sup>, 猪口孝一<sup>2)</sup>, 中込明裕, 金子朋広<sup>3)</sup>, 田村秀人<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 森 修<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>5)</sup>, 杉崎祐一<sup>6)</sup>, 田村浩一<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>内科学第3, <sup>3)</sup>内科学第2, <sup>4)</sup>病理学第2, <sup>5)</sup>病理学第1, <sup>6)</sup>病理部 ): 心筋虚血, 脾腫, 汎血球を呈し呼吸不全で死亡した不明熱の1例 . 内科 2004 ; 93 ( 4 ): 753-765 .
- 4) 福間長知, 山本 剛<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 加藤貴雄, 田村浩一<sup>3)</sup>, 内藤甲一<sup>2)</sup>, 吉村明修<sup>4)</sup>, 草間芳樹, 王 若皎<sup>2)</sup>, 清野精彦, 福田 悠<sup>3)</sup>, 勝田悌実, 杉崎祐一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>病理学第1, <sup>4)</sup>内科学第4 ): 慢性腎不全患者に合併した急性心筋梗塞 . 内科 2004 ; 94 ( 4 ): 767-778 .
- 5) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 国松淳和<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 松本亜紀<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>6)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>4)</sup>, 岸田浩, 山岡淳一<sup>5)</sup>, 功刀しのぶ<sup>6)</sup>, 根井貴仁<sup>3)</sup>, 吉村明修<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>病理部, <sup>3)</sup>内科学第4, <sup>4)</sup>内科学第3, <sup>5)</sup>皮膚科, <sup>6)</sup>病理学第1 ): 胃癌術後に嚥下障害と顔面・手指に赤斑を呈した1例 . 内科 2005 ; 95 ( 2 ): 350-361 .
- 6) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>心臓血管研究所 ): イオンチャンネル発現のダイナミズムと不整脈 . カレントセラピー 2005 ; 23 ( 3 ): 43-47 .

## 著 書

- 1) 清野精彦 : [ 分担 ] rapid H-FABP test ( 心臓型脂肪酸結合蛋白全血迅速診断法 ). 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴 ( 上松瀬勝男 ), 2003 ; pp36-37, 中山書店 .
- 2) 小川晃生 : [ 分担 ] 急性冠症候群におけるナトリウム利尿ペプチド ( BNP, ANP, NTpro-BNP ) 測定の意義 . 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴 ( 上松瀬勝男 ), 2003 ; pp38-39, 中山書店 .
- 3) 平山悦之 : [ 分担 ] 不整脈 . 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴 ( 上松瀬勝男 ), 2003 ; pp124-126, 中山書店 .
- 4) 佐藤直樹 : [ 分担 ] ポンプ不全 . 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴 ( 上松瀬勝男 ), 2004 ; pp140-141, 中山書店 .
- 5) 宮本正章 : [ 分担 ] 自然免疫を応用した先端医療 . 自然免疫 ( マイケル・ザスロフ ), 2004 ; pp121-132, Innate Immunity 研究会出版 .
- 6) 岩崎雄樹 : [ 分担 ] 心房細動の分子生物学 . 心房細動 ( 山下武志 ), 2004 ; pp52-61, メジカルビュー社 .

- 7) 清野精彦：〔分担〕急性心筋梗塞・疾患・症状別 今日の治療と看護（水島 裕・黒川 清），2004；pp248-255，南江堂．
- 8) 岩崎雄樹，高野照夫：〔分担〕致死性不整脈．先端医療シリーズ27：救急医療：救急医療，2004；pp158-163，先端医療研究所．
- 9) 岸田 浩：〔分担〕無症候性心筋虚血と 遮断薬．遮断薬のすべて（荻原俊雄・築山久一郎・横山光宏），2004；pp241-246，先端医学社．
- 10) 清野精彦：〔分担〕臨床経過要約の作成方法．臨床研修医必携CPCレポート作成マニュアル（田村浩一），2004；pp21-23，南江堂．
- 11) 清野精彦：〔分担〕CPCの進め方．臨床研修医必携CPCレポート作成マニュアル（田村浩一），2004；pp69-72，南江堂．
- 12) 高山守正：〔分担〕閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術．心臓病：診断と治療の最前線（細田 磋一 他），2004；pp186-189，先端医療技術研究所．
- 13) 清野精彦：〔分担〕新しい心筋マーカーにより明らかにされてきたこと．心臓病：診断と治療の最前線（細田 磋一 他），2004；pp262-266，先端医療技術研究所．
- 14) 小川 龍<sup>1)</sup>，清野精彦，坂本篤裕<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>麻酔科）：〔編集〕周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；真興交易．
- 15) 清野精彦：〔分担〕 遮断薬と最近の適応．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp30-47，真興交易．
- 16) 清野精彦：〔分担〕慢性心不全における 遮断薬療法．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp48-65，真興交易．
- 17) 清野精彦：〔分担〕急性冠症候群の治療と 遮断薬．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp66-80，真興交易．
- 18) 草間芳樹：〔分担〕陳急性心筋梗塞の管理と 遮断薬．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp81-87，真興交易．
- 19) 高木 元：〔分担〕高血圧症例における 遮断薬．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp88-100，真興交易．
- 20) 福間長知：〔分担〕周術期心筋虚血予防と 遮断薬．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp101-115，真興交易．
- 21) 宮内靖史：〔分担〕周術期不整脈の予防と 遮断薬．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp116-127，真興交易．
- 22) 小林義典：〔分担〕不整脈症例の周術期管理と 遮断薬．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍・清野精彦・坂本篤裕），2004；pp128-136，真興交易．
- 23) 清野精彦：〔分担〕無症候性心筋虚血．今日の治療指針2005（山口 徹・北原光夫），2005；pp265-267，医学書院．
- 24) 高山守正：〔監修〕AED（自動体外式除細動器）テキスト（坂本哲也，高山守正），2005；東京救急協会．
- 25) 五島雄一郎，大林完二，小沢友紀雄，兼本成斌，加藤貴雄：〔編集〕心電図のABC（五島雄一郎，加藤貴雄），2005；日本医師会．
- 26) 加藤貴雄，新 博次，井野 威：〔分担〕不整脈．心電図のABC（五島雄一郎，加藤貴雄），2005；pp124-194，日本医師会．
- 27) 清野精彦，坪 宏一：〔分担〕胸痛を血液生化学検査から診る．胸痛診療のコツと落とし穴（野々木宏），2005；pp126-127，中山書店．
- 28) 清野精彦：〔分担〕心筋ダメージの生化学診断．急性冠症候群の臨床（山口 徹），2005；pp81-87，中山書店．

- 29) 清野精彦：〔分担〕壊死指標（トロポニン，CKなど）．冠動脈疾患を診るI（木村一雄 他），2005；pp178-184，文光堂．
- 30) 清野精彦：〔分担〕心筋梗塞新刊基準の見直しについて．冠動脈疾患を診るI（木村一雄 他），2005；pp190-191，文光堂．
- 31) 清野精彦，山下照代，福島正人：〔分担〕心不全．内科学レビュー（酒井 紀 他），2005；pp44-51，総合医学社．
- 32) 宮内靖史，加藤貴雄：〔分担〕徐脈の一時ペーシング．心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（相澤義房），2005；pp110-119，メジカルビュー社．
- 33) 加藤貴雄：〔分担〕ペースメーカーの適応：欧米との違い．ガイドラインに基づいた最新ペースメーカー・ICD植込みと管理（田中茂夫・笠貫宏），2005；pp18-26，南江堂．
- 34) 大野忠明，本間 博：〔分担〕4 収縮性心膜炎 第6章心膜疾患．心エコー検査のピットフォール（羽田勝征），2005；pp327-335，中外医学社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 新 博次：Brugada症候群の自然歴と予後．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 2) 田中啓治：日本医科大学集中治療室（ICU・CCU）の30年のあゆみと新たな展開．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 3) 高野雅充：無症候性冠動脈プラーク破綻の臨床的意義：血管内視鏡による検討．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 4) 高野雅充：光干渉断層装置（Optical Coherence Tomography：OCT）による冠動脈プラークの組織診断．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 5) 工藤圭介<sup>1)</sup>，宮本正章，小守 忍<sup>2)</sup>，太良修平，大坪春美，小川隆文<sup>3)</sup>，田畑泰彦<sup>4)</sup>，多川政弘<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本獣医畜産大学獣医外科，<sup>2)</sup>岩手大学農学部獣医学科，<sup>3)</sup>協同病理株式会社，<sup>4)</sup>京都大学再生医科学研究所）：b-FGF除放化マイクロスフェアの犬全層皮腐欠損層に対する投与効果．第4回日本再生医療学会総会，2005．3．

### (2) 教育講演：

- 1) 清野精彦：女性の虚血性心疾患の特徴．第52回日本心臓病学会学術集会，2004．9．

### (3) シンポジウム：

- 1) 宮本正章，安武正弘，太良修平，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>2)</sup>，水野博司<sup>3)</sup>，坂本篤裕<sup>4)</sup>，太田成男<sup>5)</sup>，麻生定光<sup>5)</sup>，田畑泰彦<sup>6)</sup>，榎引俊宏<sup>6)</sup>，高野照夫（<sup>1)</sup>日本医科大学放射線科，<sup>2)</sup>同外科学第2，<sup>3)</sup>同形成外科・美容外科，<sup>4)</sup>同麻醉科，<sup>5)</sup>同老人病研究所生化学部門，<sup>6)</sup>京都大学再生医科学研究所）：重症難治性心血管疾患に対する幹細胞・蛋白を用いた新しい血管再生治療（再生医療：個別化治療への旗手）．第63回日本医学放射線学会学術集会，2004．4．
- 2) 宮本正章，安武正弘，高野仁司，高木 元，太良修平<sup>1)</sup>，大坪晴美，落 雅美<sup>1)</sup>，水野博司<sup>2)</sup>，汲田伸一郎<sup>3)</sup>，工藤圭介<sup>4)</sup>，多川政弘<sup>4)</sup>，田畑泰彦<sup>5)</sup>，高野照夫（<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第2，<sup>2)</sup>同形成外科・美容外科，<sup>3)</sup>同放射線科，<sup>4)</sup>日本獣医畜産大学獣医外科，<sup>5)</sup>京都大学再生医科学研究所）：重症難治性虚血肢・心に対する血管再生治療：自己骨髄幹細胞及びDDS徐放化増殖因子による新しい治療戦略（再生医療時代を迎えて）．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 3) 阿部純子，小林義典，淀川顕司，小原俊彦，平山悦之，加藤貴雄，高野照夫：発作性心房細動における心電図P波の形態学的特徴：加算平均心電図を用いた検討．第15回体表心臓微小電位研究会，2005．2．
- 4) 佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，森田典成<sup>1)</sup>，淀川顕司<sup>1)</sup>，加藤浩司<sup>1)</sup>，竹田晋浩<sup>1)</sup>，高野照夫（<sup>1)</sup>付属病院集中治療室）：集中治療の循環管理における薬物療法（集中治療と循環管理）．第

32回日本集中治療医学会学術集会，2005．2．

- 5) 安武正弘，宮本正章，高野仁司，高木 元，高野照夫，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>2)</sup>，加藤浩司<sup>3)</sup>，田中啓治<sup>3)</sup>  
(<sup>1)</sup>放射線医学，<sup>2)</sup>外科学第2，<sup>3)</sup>付属病院集中治療室)：難治性冠動脈疾患に対する骨髄単核細胞移植：  
99mTc - MAA冠血管床シンチによる血管新生の評価．第4回日本再生医療学会総会，2005．3．

(4) パネルディスカッション：

- 1) 山本 剛<sup>1)</sup>，淀川颯司<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，森田典成<sup>1)</sup>，坏 宏一<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，安武正弘，高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室)：非ST上昇型急性冠症候群におけるBNP上昇の意義．第24回心筋梗塞研究会，2004．7．

(5) セミナー：

- 1) 高山守正：Acute Coronary Syndromeに対するACLSアルゴリズム．第69回日本循環器学会総会・学術集会，2005．3．

(6) ワークショップ：

- 1) 高山守正：診療報酬改定 新規技術要望PTAMA (変貌する循環器疾患の医療環境：コストパフォーマンスを考える)．第52回日本心臓病学会学術集会，2004．9．  
2) 坏 宏一，子島 潤，木内要，佐々木建志，落 雅美，田中啓治，高野照夫：開存偽腔がB型急性大動脈解離の長期予後に及ぼす．日本脈管学会，2004．10．  
3) 坏 宏一，佐藤直樹，山本 剛，高木啓倫，森田典成，藤田進彦，田中啓治，高野照夫：D-dimer迅速定量測定キットは急性大動脈解離の除外診断に有用である．日本臨床生理学会，2004．11．

(7) プレナリーセッション：

- 1) Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukushima M, Ogawa K, Yasutake M, Tanaka K<sup>1)</sup>, Takano T, Okamoto M<sup>2)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Sakai S<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Coronary Care Unit, <sup>2)</sup>Department of Cardiology, Chiba Hokuso Hospital): Multi-biomarker approach stratifies vulnerable plaque with subocclusive thrombus, minor myocardial damage, and ischemic insult in patients with acute coronary syndrome. (Diagnosis and treatment of acute coronary syndrome). 第69回日本循環器学会総会・学術集会，2005．3．

(8) 一般講演：

- 1) Kato Y, Seino Y, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho C<sup>1)</sup>, Fukumoto H, Ogawa A, Yamashita T, Takano T (<sup>1)</sup>Department of Radiology): Impairment of Tc-99m MIBI uptake and retention occurs in skeletal muscle as well as myocardium in adriamycin cardiomyopathy rats; mitochondrial dysfunction development. European Society of Cardiology Congress 2004 (Munich, Germany), 2004．4．  
2) Zhang XJ, Katsuta Y, Ohsuga M, Li HL, Akimoto T<sup>1)</sup>, Kato Y, Shimizu S, Komeichi H, Satomura K, Aramaki T (<sup>1)</sup>Department of Laboratory Animal Science): Chronic Administration of Methylene Blue Ameliorates Hypoxemia in Rats with Chronic Bile Duct Ligation. 39th Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver (Berlin, Germany), 2004．4．  
3) Takayama M, Ohno T, Hosokawa Y, Zreiqat J, Shibui T, Kawashima S, Takagi G, Yamamoto T, Satoh N, Takano T: Early and Sustained Efficacy of Percutaneous Catheter Alcohol Ablation for Medically Refractory Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy. Angioplasty Summit 2004 (Seoul, Korea), 2004．5．  
4) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Yodogawa K, Hirasawa Y, Abe J, Isawaki Y, Hayashi M, Maruyama M, Morita N, Ohara T, Katoh T, Takano T: Electrophysiological Characteristics of the Posterior Border of Koch's Triangle in Relation to the Development of Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia. The 31st International Congress on Electrophysiology (Kyoto, Japan), 2004．6．  
5) Maruyama M, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Morita N, Miyauchi Y, Miyamoto S<sup>1)</sup>, Tadera T<sup>1)</sup>, Ino T<sup>1)</sup>,



- Atarashi H<sup>1)</sup>, Katoh T, Takano T ( <sup>1)</sup>Department of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital ): A Novel Radiofrequency Catheter Ablation Technique for Creation of Cavotricuspid Isthmus Block in Isthmus-dependent Atrial Flutter . The 31st International Congress on Electrophysiology ( Kyoto, Japan ), 2004 . 6 .
- 6) Ohara T, Yashima M, Shinada T, Maruyama M, Hirayama Y, Katoh T, Takano T : Ultra Short Acting Beta Blocker Landiolol Stabilized the Wavefront Dynamics During Ventricular Fibrillation . The 31st International Congress on Electrophysiology ( Kyoto, Japan ), 2004 . 6 .
- 7) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Sagara K<sup>1)</sup>, Iinuma H : Arrhythmogenic Substrates of Atrial Fibrillation in Hypertension . The 31st International Congress on Electrophysiology ( Kyoto, Japan ), 2004 . 6 .
- 8) Miyauchi M, Miyauchi Y, Zhou S<sup>1)</sup>, Fishbein MC<sup>1)</sup>, Mandel WJ<sup>1)</sup>, Chen PS<sup>1)</sup>, Karagueuzian HS<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Division of Cardiology, Cedars-Sinai Medical Center ): Chronic Nicotine Induces Sustained Reentrant Right Atrial Flutter in Dogs with Chronic Myocardial Infarction. Implications to Human Atrial Flutter . The 31st International Congress on Electrophysiology ( Kyoto, Japan ), 2004 . 7 .
- 9) Taniguchi H, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Morita N, Iwasaki Y, Hayashi M, Hirasawa Y, Yodagawa K, Abe J, Horie T, Tateoka K, Ueno A, Okazaki R, Kato T, Takano T : Reentrant Circuit of Verapamil-Sensitive Idiopathic Left Ventricular Tachycardia as Revealed by Electroanatomic Mapping During the Tachycardia . American Heart Association Scientific Sessions 2004 ( New Orleans, USA ), 2004 . 11 .
- 10) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Sagara K<sup>1)</sup>, Iinuma H<sup>1)</sup>, Aizawa T<sup>1)</sup>, Fu LT<sup>1)</sup>, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T ( <sup>1)</sup>Cardiovascular Institute ): Why do the Pulmonary Veins Show Arrhythmogenesis? . American Heart Association Scientific Sessions 2004 ( New Orleans, USA ), 2004 . 11 .
- 11) Setsuta K<sup>1)</sup>, Arai M<sup>1)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Ohbayashi T<sup>1)</sup>, Seino Y ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Usefulness of Cardiac Troponin T-Guided Treatment in Patients with Chronic Heart Failure . American Heart Association Scientific Sessions 2004 ( New Orleans, USA ), 2004 . 11 .
- 12) Kato K, Fukuma N, Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T : Oxidative Stress Limits Exercise Tolerance Through Impairment of Sympathetic Function . 第8回日本心不全学会学術集会, 2004 . 9 .
- 13) Tsuchida T, Fukuma N, Aisu N, Kato Y, Kato K, Mabuchi K, Takano T : The Relation Between Impaired Response of Norepinephrine to Exercise and Peripheral 123I-MIBG Imaging in Chronic Heart Failure . 第8回日本心不全学会学術集会, 2004 . 9 .
- 14) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Sagara K<sup>1)</sup>, Iinuma H<sup>1)</sup>, Fu LT<sup>1)</sup>, Kobayashi Y, Kato T, Takano T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute, Tokyo ): Molecular and Structural Basis of the Arrhythmogenic Pulmonary Veins . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 15) Takayama M<sup>1)</sup>, Nagao K<sup>2)</sup>, Sumiyoshi T<sup>2)</sup>, Yoshino H<sup>2)</sup>, Tamura T<sup>2)</sup>, Shibata T<sup>2)</sup>, Sakurada H<sup>2)</sup>, Mitamura H<sup>2)</sup>, Yamashina A<sup>2)</sup>, Nishi Y<sup>2)</sup>, Kasanuki H<sup>2)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Coronary Care network, <sup>2)</sup> Tokyo Coronary Care Unit Network ): Prevention against Sudden Cardiac Death in Patients with High-risk Cardiac Disease : Tokyo Coronary Care Home Defibrillation Program . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 16) Kimura-Kato Y, Takayama M, Fukuma N, Miura K, Ushijima A, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T : Usefulness of Cardiopulmonary Exercise Test for Evaluation of Effect of Non-surgical Myocardial Reduction in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 17) Kimura-Kato Y, Fukuma N, Takayama M, Miura K, Ushijima A, Tsuchida T, Aisu N, Mabuchi K, Honma H, Takano T : Mitral-Valve Regurgitation as a Cause of Enhanced Ventilatory Response in Patients

- with Symptomatic Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 18) Nakagomi A , Seino Y , Okazaki R , Hirasawa Y , Iwasaki Y , Yamane Y , Aoki S , Endoh Y , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Carvedilol Downregulates Monocyte Chemokine Production And Improves Cardiac Function in Patients with Chronic Heart Failure . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 19) Kato K , Fukuma N , Ushijima A , Kanazawa H , Kato Y , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Takano T : Sympathetic Injury by Excessive Oxidative Stress as a Cause of Impaired Exercise Capacity in Patients with Myocardial Infarction . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 20) Kimura-Kato Y , Seino Y , Kumita S<sup>1)</sup> , Cho K<sup>1)</sup> , Fukumoto H , Ogawa A , Yamashita T , Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Impairment of Mitochondrial Tc-99m MIBI Uptake and Retention Occurs in Skeletal Muscle as well as Myocardium in Adriamycin Cardiomyopathy Rats . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 21) Tsuchida T , Oikawa K<sup>1)</sup> , Fukuma N , Aisu N , Kato Y , Kato K , Mabuchi K , Takano T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute, Tokyo ): The Relation Between Response of Blood Norepinephrine concentration to Exercise and 1231-MIBG Imaging of Heart, Upper and Lower Limb . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 22) Shinada T , Hirayama Y , Maruyama M , Yashima M , Kobayashi Y , Atarashi H , Takano T : Inhibition of the reverse mode of Na<sup>+</sup>/Ca<sup>2+</sup> exchange by KB-R7943 augments arrhythmogenesis in the canine heart during rapid heart rates . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 23) Akutsu K , Sato N , Yamamoto T , Morita N , Takagi H , Fujita N , Tanaka K , Takano T : Combined use of rapid D-dimer assay and blood pressure reading upon admission for diagnosis of clinically suspected acute aortic dissection . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 24) Fukuma N , Kato K , Ushijima A , Kanazawa H , Kimura-Kato Y , Tsuchida T , Aisu N , Mabuchi K , Takano T , Igarashi A<sup>1)</sup> , Nakamura T<sup>1)</sup> , Sugaya J<sup>1)</sup> , Saito K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Physiological Examination Center ): Significance of Decrement in Ascorbic Acid Concentration in Patients with Acute Myocardial Infarction Different from the Other Oxidative Stress Markers . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 25) Hayashi M , Kobayashi Y , Iwasaki Y , Morita N , Miyauchi Y , Atarashi H , Katoh T , Takano T : Beneficial Effect of Concomitant Amiodarone Therapy in Patients with Implantable Cardioverter Defibrillators . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 26) Horie T , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Shinoda A , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Taniguchi H , Hirasawa Y , Yodogawa K , Abe J , Iwasaki Y , Maruyama M , Ohara T , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Reentrant Circuit of Typical Atrial Flutter as Revealed by Electroanatomical Mapping Combined with Entrainment Mapping . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 27) Nakagomi A , Seino Y , Hirasawa Y , Iwasaki Y , Yamane Y , Aoki S , Endoh Y , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Statins Reduce Troponin T Levels and Monocyte TNF-alpha Production and Improve Systolic and Diastolic Function in Chronic Heart Failure Patients . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 28) Tara S , Miyamoto M , Yasutake M , Takano T : PTD-FNK ( Super Anti-apoptotic Factor ) Inhibits Cell Death of Bone Marrow Mononuclear Cells and Promotes to Form a Blood Vessel-like Structure . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 29) Okumura S<sup>1)</sup> , Tomita K<sup>1)</sup> , Murakami D<sup>1)</sup> , Ogawa B<sup>1)</sup> , Tajika K<sup>1)</sup> , Tokuyama K<sup>1)</sup> , Inami S<sup>1)</sup> , Takano M<sup>1)</sup> , Seimiya K<sup>1)</sup> , Ohba T<sup>1)</sup> , Kawaguchi N<sup>1)</sup> , Nomura A<sup>1)</sup> , Mizuno K<sup>1)</sup> , Takano T , Tsunematsu T<sup>2)</sup> , Ishikawa Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Chibahokuso Hospital , <sup>2)</sup> Department of Physiology, Yokohama City University School of Medicine ): Effects of Chronic Beta-Adrenergic Receptor Stimulation in Type

- 5 Adenylyl Cyclase-Null Mice . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 30) Yodogawa K<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Kobayashi Y, Ohara T, Ogano M, Katoh K<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Fujita N<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Katoh T, Takano T, Tanaka K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Intensive and Coronary Care Unit): How should be Treated the Asymptomatic Patients with Brugada-like ECG? : The Diagnostic Importance of Wavelet Analysis for Brugada Syndrome . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 31) 安武正弘, 宮本正章, 高野仁司, 高野照夫, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 附属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 外科学第2, <sup>3)</sup> 放射線医学): 重症冠動脈疾患に対する自家骨髄単核細胞移植治療 . 第101回日本内科学会講演会, 2004 . 4 .
- 32) 福間長知, 加藤和代, 木村祐子, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫: 急性心筋梗塞患者におけるアスコルビン酸濃度低下 . 第101回日本内科学会講演会, 2004 . 4 .
- 33) 横島友子, 本間 博, 大野忠明, 伊藤恵子, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫, 松崎つや子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 生理機能センター): Strain rate imaging 法による左室肥大心筋 midwall stress の推定 . 第15回日本心エコー図学会学術集会, 2004 . 4 .
- 34) 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 稲見 徹, 村田広茂, 渋井俊之, 細川雄亮, 川嶋修司, 山根吉人, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 高木 元, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 中込明裕, 安武正弘, 高山守正, 林宏光<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 附属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 放射線医学): 左前下行枝近位部病変へのDCAにて合併した壁菲薄化を伴う冠動脈解離に対し Bail out stent が有効であった1例: PCI ガイダンスとしてのマルチスライスCTの可能性 . 第24回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2004 . 5 .
- 35) 横島友子, 本間 博, 大野忠明, 福間裕美子, 安武ひろ子, 菅原博子, 伊藤恵子, 高野照夫, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 生理機能センター): Strain rate imaging 法による肥大心筋の局所収縮様式の検討 . 日本超音波医学会第77回学術集会, 2004 . 5 .
- 36) 八島正明, 加藤貴雄, 吉田朱美<sup>1)</sup>, 小杉山亜以<sup>1)</sup>, 関口清治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> (株) メディカルシステム研究所): コンピューター補助QT計測システムの開発と信頼性の検討 . 第19回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 2004 . 5 .
- 37) 森田典成<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 藤田正大<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫 (<sup>1)</sup> 集中治療室): 繰り返しアダムスストークス発作を生じる特発性心室細動に対してアブレーションを行い救命した1例 . 第19回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 2004 . 5 .
- 38) 堀江 格, 宮内靖史, 小林義典, 小鹿野道雄, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 谷口宏史, 淀川顕司, 平澤泰宏, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 丸山光紀, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 大森裕也<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第2): Superior transseptal approach による僧帽弁手術後に出現したマクロリエンリー性心房頻拍の3症例 . 第19回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 2004 . 5 .
- 39) 岩崎雄樹, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 山下武志<sup>1)</sup>, 関口昭子<sup>1)</sup>, 相良耕一<sup>1)</sup>, 飯沼宏之<sup>1)</sup>, 傳 隆泰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 心臓血管研究所): 高血圧における心房細動基質 第19回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 2004 . 5 .
- 40) 佐々木朝子, 白壁章宏, 浅井邦也, 古明知弘和, 大須賀勝, 高野照夫: 2次性高血圧症の鑑別で発見され経皮的気管支拡張薬 (Tulobuterol) による高ACTH血症と考えられた1例 . 第517回日本内科学会関東地方会, 2004 . 5 .
- 41) 太良修平: 重症難治性糖尿病性潰瘍・壊疽に対する自己骨髄幹細胞浸透人工真皮及び同種培養真皮を用いた新しい創傷治療法 . 第19回糖尿病足病変研究会, 2004 . 6 .
- 42) 板倉潮人, 稲見 徹, 田中古登子, 福間長知, 大須賀勝, 宗像一雄, 高野照夫, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第3): 持続する便潜血に対し小腸内視鏡検査 (Double balloon 法) が有用であった狭心症合併腸管ペーチェット病の1例 . 第518回日本内科学会関東地方会, 2004 . 6 .

- 43) 小杉宗範<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 藤井正大<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 山本剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 平井恭二<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 田中 周<sup>3)</sup>, 山口博樹<sup>2)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 檀 和夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>内科学第3): 粘液腫に類似した心臓原発悪性リンパ腫の1例. 第192回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 6.
- 44) 長屋匡信<sup>1)</sup>, 笠井俊夫<sup>1)</sup>, 高橋 済<sup>1)</sup>, 池田真美子<sup>1)</sup>, 佐々木康之<sup>1)</sup>, 高山守正(<sup>1)</sup>国立長野病院循環器科): PTSMAが著効した閉塞性肥大型心筋症の1例. 第192回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 6.
- 45) 林 明聡, 小林義典, 加藤貴雄, 岩崎雄樹, 森田典成, 大村和子, 斎藤寛和, 新 博次, 高野照夫, 早川弘一: 植込み型除細動器を用いた誘発心室性不整脈の経時的変動と不整脈自然発生との関連. 第24回ホルター心電図研究会, 2004. 6.
- 46) 谷口総志<sup>1)</sup>, 高橋裕一<sup>1)</sup>, 網野 守<sup>1)</sup>, 矢作清貴<sup>1)</sup>, 若松禎人<sup>1)</sup>, 鷲嶋 悟<sup>1)</sup>, 鈴木智和<sup>1)</sup>, 千葉和憲<sup>1)</sup>, 八重樫美樹<sup>1)</sup>, 中村 淳<sup>1)</sup>, 高山守正(<sup>1)</sup>新東京病院ME部): 当院で施行した閉塞性肥大型心筋症(HOCM)に対する経皮の中隔心筋焼灼術(PTSMA)2例の検討. 第13回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2004. 7.
- 47) 高山守正, 高野仁司, 大野忠明, 大井田史継<sup>1)</sup>, 櫻田光夫<sup>2)</sup>, 廣上 貢<sup>3)</sup>, 星崎 洋<sup>4)</sup>, 小宮山伸之<sup>5)</sup>, 中村淳<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>獨協医科大学心血管肺内科, <sup>2)</sup>国立国際医療センター循環器腎臓内科, <sup>3)</sup>手稲仁仁会病院循環器内科, <sup>4)</sup>群馬県立心臓血管センター, <sup>5)</sup>千葉大学附属病院冠疾患治療部, <sup>6)</sup>新東京病院循環器科): 重症閉塞性肥大型心筋症に対する経皮の中隔心筋焼灼術PTSMAの術中ならびに早期合併症とその対策. 第13回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2004. 7.
- 48) 藤田進彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫: 急性冠症候群に対するカテーテル治療における短時間作用型<sub>2</sub>遮断薬ランジオロールの効果の検討. 第13回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2004. 7.
- 49) 太良修平, 宮本正章, 石井徳恵<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 高野照夫, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>加齢科学系専攻細胞生物学分野): アポトーシス抑制活性因子PTD-FNKは骨髄単核球細胞の細胞死を抑制することにより血管新生を促進させる. 第25回日本炎症・再生医学会, 2004. 7.
- 50) 加藤祐子: HOCMに対するPTSMAの臨床効果: 運動生理学的評価の視点から. 第29回心機能研究会, 2004. 7.
- 51) 宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木啓倫, 太良修平, 落 雅美<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>3)</sup>, 太田成男<sup>4)</sup>, 田畑泰彦<sup>5)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第2, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>同形成外科・美容外科, <sup>4)</sup>同老人病研究所, <sup>5)</sup>京都大学再生医科学研究所): 重症難治性虚血肢・心筋に対する自己骨髄幹細胞及び除放性増殖因子を用いた新しい治療戦略. 第25回日本炎症・再生医学会, 2004. 7.
- 52) 鈴木浩臣, 浅井邦也, 菊池有史, 古明知弘和, 大須賀勝, 高野照夫: 無菌性髄膜炎を合併した成人スティル病の1例. 第520回日本内科学会関東地方会, 2004. 9.
- 53) 水瀬 学<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 加藤良人, 清水秀治, 古明地弘和, 勝田悌実, 高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター): 三次元超音波画像による肝細胞癌容積の定量的評価. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 54) 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 藤本啓志, 加藤活人, 東 春香, 徳泉澄子, 横島友子, 福間裕美子, 安武ひろ子, 伊藤恵子, 上野 亮, 吉川雅智, 大野忠明, 高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター): 組織ドブラ法による僧帽弁輪速度を用いた左室拡張機能障害のスクリーニング法. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 55) 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 藤本啓志, 加藤活人, 東 春香, 徳泉澄子, 横島友子, 福間裕美子, 安武ひろ子, 伊藤恵子, 上野 亮, 吉川雅智, 大野忠明, 高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター): 組織ドブラ法による僧帽弁輪速度を用いた左室拡張機能障害の重症度評価. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 56) 中山美緒<sup>1)</sup>, 加持春菜<sup>1)</sup>, 澁谷志保子<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>2)</sup>, 小野卓哉<sup>2)</sup>, 竹内真吾<sup>2)</sup>, 森田典成<sup>2)</sup>, 坏 宏一<sup>2)</sup>, 藤田

- 進彦<sup>2)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 藤井正大<sup>3)</sup>, 平井恭二<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>, 山口博樹<sup>4)</sup>, 田近賢二<sup>4)</sup>, 檀和夫<sup>4)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 医学部第6学年, <sup>2)</sup> 集中治療室, <sup>3)</sup> 外科学第2, <sup>4)</sup> 内科学第3 ): 化学療法が著効した肺動脈腫瘍塞栓を伴う心臓原発悪性リンパ腫の1例. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 57) 富田和憲<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>2)</sup>, 品田卓郎<sup>2)</sup>, 横山真也<sup>2)</sup>, 今泉孝敬<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup>, 高山守正 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院循環器センター, <sup>2)</sup> 同集中治療室 ): 経皮的心室中隔焼灼術 (PT SMA) 施行後3ヶ月に心室細動を発症した閉塞性肥大型心筋症の1例. 第193回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 9.
- 58) 若本直高<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 倉島隆平<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 佐々木朝子, 高野照夫, 宮城康雄<sup>2)</sup>, 別所竜蔵<sup>2)</sup>, 矢島俊巳<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 外科学第2 ): 胸部大動脈瘤の術後約2ヵ月後に肺動脈瘤破裂により大量咯血をきたした1例. 第193回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 9.
- 59) 安武正弘, 宮本正章, 高野仁司, 高木 元, 春日美和, 稲見 徹, 高野照夫, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 放射線医学, <sup>3)</sup> 外科学第2 ): 大動脈 大腿動脈バイパス, 冠動脈バイパス + 骨髄単核細胞移植を要した虚血性心筋症合併Leriche症候群の1例. 第193回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 9.
- 60) 高山英男, 加藤貴雄: ウェーブレット変換法を用いた不整脈基質の検討. 第31回比較心電図研究会, 2004. 9.
- 61) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 福間長知, 本江雪貴美<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 牛島明子, 加藤和代, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター ): 急性心筋梗塞患者における心臓リハビリテーション導入期の抑うつ状態が一酸化窒素産生とサイトカインに及ぼす影響. 第10回日本心臓リハビリテーション学会, 2004. 9.
- 62) 加藤和代, 福間長知, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子, 牛島明子, 金澤宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター ): 心筋梗塞における酸化ストレスの増大が運動耐容能の低下および心拍反応性に及ぼす影響. 第10回心臓リハビリテーション学会, 2004. 9.
- 63) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福間長知, 中村利枝<sup>1)</sup>, 本江雪貴美<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター ): 自転車エルゴメーターのペダル回転速度が酸素摂取効率に与える影響. 第10回日本心臓リハビリテーション学会, 2004. 9.
- 64) 中村利枝<sup>1)</sup>, 福間長知, 加藤祐子, 加藤政利<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 愛須紀子, 土田貴也, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター ): エルゴメーター回転速度の差による運動負荷時の心拍反応の変化. 第10回日本心臓リハビリテーション学会, 2004. 9.
- 65) 小野卓哉, 斎藤寛和, 館岡克彦, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 小林義典, 田中啓治<sup>1)</sup>, 加藤貴雄, 高野照夫, マリックマレック<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> ロンドン大学医学部セントジョージ病院 ): 急性期心疾患における T-wave morphology analysis の特徴. 第21回日本心電学会学術集会, 2004. 9.
- 66) 堀江 格, 宮内靖史, 小林義典, 小鹿野道雄, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 谷口宏史, 平澤泰宏, 淀川顕司, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 林 明聡, 丸山光紀, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: 冠静脈洞近位部起源のATP感受性心房頻拍の検討. 第21回日本心電学会学術集会, 2004. 9.
- 67) 森田典成, 淀川顕司, 佐藤直樹, 田中啓治, 小野卓哉, 宮内靖史, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: 心房粗動に対するニフェカラントの有効性の検討. 第21回日本心電学会学術集会, 2004. 9.
- 68) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小野卓哉, 斎藤寛和, 館岡克彦, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 小林義典, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 加藤貴雄, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 第二病院内科 ): QT 間隔計測法の実際: 自動QT計測ソフトと手動計測法の比較. 第21回日本心電学会学術集会, 2004. 9.
- 69) 平澤泰宏, 中込明裕, 小林義典, 小鹿野道雄, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江 格, 谷口宏史, 淀川顕

司, 森田典成, 岩崎雄樹, 丸山光紀, 宮内靖史, 小原俊彦, 八島正明, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: アミオダロンの慢性心不全患者におけるサイトカイン産生に対する抑制効果および心機能の改善効果. 第21回日本心電学会学術集会, 2004. 9.

- 70) 大野忠明, 本間 博, 藤本啓志, 東 春香, 加藤活人, 宗像 亮, 上野 亮, 吉川雅智, 横島友子, 伊藤恵子, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 心筋虚血検出に strain rate color M モード併用ドプタミン負荷心エコーは有用か. 第52回日本心臓病学会学術集会, 2004. 9.
- 71) 藤田進彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 安武正弘, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>多摩永山病院内科 ): 急性心筋梗塞における ACE 阻害薬およびアンジオテンシン受容体拮抗薬の血管内皮機能に及ぼす影響. 第52回日本心臓病学会学術集会, 2004. 9.
- 72) 牛島明子, 福間長知, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 岸田 浩, 高野照夫: 運動負荷に対する心筋の電気的な応答異常が運動耐容能に及ぼす影響. 第52回日本心臓病学会学術集会, 2004. 9.
- 73) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 福間長知, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): うつ状態が急性心筋梗塞における炎症性サイトカインおよび一酸化窒素産生に及ぼす影響. 第52回日本心臓病学会学術集会, 2004. 9.
- 74) 福間長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 岸田 浩, 高野照夫: 圧受容体反射系を介した交感神経興奮性と最大運動負荷時における心拍反応性との関連. 第52回日本心臓病学会学術集会, 2004. 9.
- 75) 土田貴也, 福間長知, 愛須紀子, 加藤祐子, 加藤和代, 牛島明子, 馬淵浩輔, 高野照夫: 慢性安定心不全患者における全身 MIBG シンチグラフと運動負荷に対するノルエピネフリンの反応異常について. 第52回日本心臓病学会学術集会, 2004. 9.
- 76) 小原俊彦, 八島正明, 李 鉄軍, 品田卓郎, 丸山光紀, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: 刺激および blocker が心室細動細動波の動態に与える影響: 光学マッピングによる影響について. 第20回心電情報処理ワークショップ, 2004. 10.
- 77) 淀川顕司, 森田典成, 小原俊彦, 高山英男, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: Brugada 症候群と不整脈源性右室心筋症 (ARVC) の新しい鑑別法. 第20回心電情報処理ワークショップ, 2004. 10.
- 78) 宮元亮子, 宮内靖史, 岩崎雄樹, 小原俊彦, 清水秀治, 小林義典, 大須賀勝, 加藤貴雄, 勝田悌実, 高野照夫: アミオダロンが原因と考えられる肝不全を合併した持続性心室頻拍の1例. 第521回日本内科学会関東地方会, 2004. 10.
- 79) 加藤良人, 張 雪君, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実: 当教室における慢性肝炎 (HCV RNA ゲノタイプ1b) に対するリバビリン, IFN -2b 併用療法の成績. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 80) 大須賀勝, 勝田悌実, 古明地弘和, 張 雪君, 加藤良人, 清水秀一, 清水秀治, 里村克章: 非アルコール性脂肪性肝炎とアルコール性脂肪性肝炎. 第8回日本肝臓学会大会, 2004. 10.
- 81) 宮本正章: 非特異的癌免疫療法: 大学勤務医の立場から. ANK 自己リンパ球療法研究会2004, 2004. 10.
- 82) 小野卓哉, 斎藤寛和, 館岡克彦, 岩崎雄樹, 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小林義典, 本間 博, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 加藤貴雄, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室 ): Isoproterenol 負荷 Head-up tilt 試験における血行動態の評価. 第57回日本自律神経学会総会, 2004. 10.
- 83) 宮内靖史, 小林義典, 岩崎雄樹, 林 明聡, 森田典成, 堀江 格, 谷口宏史, 阿部純子, 平澤泰宏, 丸山光紀, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: Koch 三角後縁の電気生理学的特徴と房室結節リエントリー性頻拍発生の関係. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 10.
- 84) 高野仁司, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正, 中込明裕, 青木 聡, 山根吉人, 浅井邦也, 安武正弘, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ): 虚血プレコンディショニング効果減弱に関与する要因の解析. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 10.

- 85) 吉川雅智, 青木 聡, 高山守正, 菊池有史, 佐々木朝子, 加藤活人, 渋井俊之, 稲見 徹, 川嶋修司, 山根吉人, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 高野照夫: " Rota-Cypher ", ステン特性の不利を補う Rotablator による全周性石灰化病変へのコンセプトが有効であった1例. 第25回日本心血管インターベシオン学会関東甲信越地方会, 2004. 10.
- 86) 堀江 格, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: 冠静脈洞近位部起源のATP感受性心房頻拍. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 11.
- 87) 坏 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): D-dimer簡易迅速測定キットは急性大動脈解離除外に極めて有用である. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 11.
- 88) 高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 水野博司<sup>1)</sup>, 高野仁司, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 加藤浩司, 工藤圭介<sup>3)</sup>, 多川政弘<sup>3)</sup>, 田畑泰彦<sup>4)</sup>, 太田成男<sup>5)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 同放射線医学, <sup>3)</sup> 日本獣医畜産大学獣医外科, <sup>4)</sup> 京都大学再生医科学研究所 ): 重症難治性虚血肢に対する血管再生治療. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 11.
- 89) 加藤活人, 浅井邦也, 佐々木朝子, 山根吉人, 高野仁司, 青木 聡, 中込明裕, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫, 岩崎雄樹: 若年者心筋梗塞の最近の傾向. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 11.
- 90) 加藤祐子: ラット Adriamycin 心筋症心不全モデルでは心筋のみならず大腿骨格筋でも MIBI wash-out の亢進が認められる: ミトコンドリア障害に関する検討. 第7回心世代核医学研究会, 2004. 11.
- 91) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小野卓哉, 館岡克彦, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 小林義典, 本間 博, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 加藤貴雄, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 第二病院内科, <sup>2)</sup> 集中治療室 ): アルコール負荷 Head-up tilt 試験における PHYSIO Flow PF - 05 Lab1 の有用性. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 11.
- 92) 横島友子, 伊藤恵子, 藤本啓志, 東 春香, 徳泉澄子, 大野忠明, 安武ひろ子, 本間 博, 高野照夫, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 杉森祐樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生理機能センター ): 右上大静脈欠損を伴う左上大静脈遺残症の診断で経静脈性コントラスト心エコー法が有用であった1例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第6回学術集会, 2004. 11.
- 93) 工藤圭介<sup>1)</sup>, 宮本正章, 小守 忍<sup>2)</sup>, 太良修平, 大坪春美, 小川隆文<sup>3)</sup>, 田畑康彦<sup>4)</sup>, 多川政弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本獣医畜産大学獣医外科学教室, <sup>2)</sup> 岩手大学農学部獣医学部, <sup>3)</sup> 協同病理 ( 株 ), <sup>4)</sup> 京都大学再生医科学研究所 ): b-FGF 徐放化マイクロスフェアの犬全層皮膚欠損層に対する投与効果. 第4回日本再生医療学会総会, 2004. 11.
- 94) 淀川顕司<sup>1)</sup>, 篠田暁与<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 付属病院集中治療室 ): 心電図異常を契機に診断された Sipple 症候群の1例. 第194回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 12.
- 95) 小鹿野道雄, 岩崎雄樹, 高野仁司, 大須賀勝, 高山守正, 高野照夫: 繰り返す消化管出血から Heyde 症候群と診断した1例. 第523回日本内科学会関東地方会, 2004. 12.
- 96) 廣岡龍之進, 小原俊彦, 山根吉人, 小林義典, 高野照夫, 山田研一<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): 偽性仮性心室瘤の1例. 第194回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 12.
- 97) 藤田進彦, 村上大介, 小川晃生, 川嶋修司, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 田中古登子, 宮本正章, 田中啓治<sup>1)</sup>, 太田眞夫, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 腎盂炎・腎周肉芽腫から敗血症と横紋筋融解症を発症した糖尿病の1例. 第42回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2005. 1.
- 98) 稲見 徹, 加藤良人, 高野仁司, 大野忠明, 高山守正, 高野照夫, 新田 隆<sup>1)</sup>, 落 雅美 ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): 心臓カテーテル検査翌日に大動脈弁直上の血栓を確認した1症例. 第195回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 2.
- 99) 春日美和<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 脇田知志<sup>1)</sup>, 土屋玲子<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小鹿野道雄, 高野照夫, 宮城泰雄<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室,

- 2) 外科学第2): アトピー性皮膚炎からの感染が疑われた反復する人口弁置換術後感染症心内膜炎の1例. 第195回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 2.
- 100) 吉田知永<sup>1)</sup>, 滝田孝之<sup>1)</sup>, 上田洋一<sup>1)</sup>, 松尾省吾<sup>1)</sup>, 池園悦太郎<sup>2)</sup>, 村橋 勲<sup>3)</sup>, 里村克章<sup>(1)</sup> 田島厚生会神谷病院内科, <sup>2)</sup> 同麻酔科, <sup>3)</sup> 同泌尿器科): 糖尿病に急性局所性細菌性腎炎を併発した1例. 第524回日本内科学会関東地方会, 2005. 2.
- 101) 土田貴也, 清野精彦, 加藤祐子, 愛須紀子, 加藤和代, 馬淵浩輔, 福間長知, 高野照夫: 睡眠時無呼吸を合併した慢性心不全症例における夜間在宅酸素療法に関する検討. 第8回運動心臓病学研究会, 2005. 2.
- 102) 小川晃生, 清野精彦, 山下照代, 加藤貴雄, 高野照夫, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室): 急性冠症候群に対する multi-marker strategy に性差は存在するか?. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.
- 103) 吉川雅智, 高野仁司, 稲見 徹, 佐々木朝子, 山本英世, 川嶋修司, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室): Stent 特性の不利を克服する " Rota - Cypher " 施行の3例. 第96回日本シネアンジオ研究会, 2005. 2.
- 104) 淀川顕司, 小原俊彦, 小鹿野道雄, 清野精彦, 加藤貴雄, 高野照夫: サルコイドーシスにおける潜在性心筋病変の早期診断. 第15回体表心臓微小電位研究会, 2005. 2.
- 105) 小原俊彦, 八島正明, 李 鉄軍, 小鹿野道雄, 阿部純子, 品田卓郎, 淀川顕司, 丸山光紀, 宮内靖史, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: 心房細動波の周波数解析: 光学マッピングによる細動波動態の解析とあわせて. 第15回体表心臓微小電位研究会, 2005. 2.
- 106) 東 春香, 大野忠明, 古明地弘和, 大須賀勝, 高野照夫, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 外科学第2): 早期胃癌, 急性大動脈解離を合併し大量心嚢液貯留の鑑別・治療に難渋した慢性関節リウマチの1例. 第525回日本内科学会関東地方会, 2005. 3.
- 107) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 宮本正章, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科): 脳神経外科疾患における血中CD34陽性細胞の発現の検討. 第4回日本再生医療学会総会, 2005. 3.
- 108) 水野博司<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup>, 青木伸峰<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 宮本正章, 高野照夫 (<sup>1)</sup> 形成外科・美容外科): 血管再生療法を施行した四肢壊疽合併症例の外科手術に関する検討. 第4回日本再生医療学会総会, 2005. 3.
- 109) 太良修平, 宮本正章, 石井徳恵<sup>1)</sup>, 安武正弘, 高木 元, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup> 加齢科学系専攻細胞生物学分野): 細胞死抑制活性強化因子PTD - FNKは細胞死を抑制することにより血管様構造の形成を促進させる. 第4回日本再生医療学会総会, 2005. 3.
- 110) Setsuta K<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>2)</sup>, Seino Y, Takano T (<sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2)</sup> Hakujuikai Memorial General Hospital): C-Reactive Protein is Related to Ongoing Myocardial Damage in Patients with Non-ischemic Chronic Heart Failure. 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005. 3.
- 111) Ohara T, Yashima M, Li T, Shinada T, Maruyama M, Hirayama Y, Kato T, Takano T: The effects of catecholamine sensitive focal activity to the wavefront dynamics during ventricular fibrillation. 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005. 3.
- 112) Kawashima S, Takano H, Katoh K, Inami T, Sasaki A, Shibui T, Yoshikawa M, Yamane Y, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M, Takano T: Is Prophylactic Hemodialysis Necessary for Preventing Contrast-Induced Nephropathy in Patients with Preexisting Renal Dysfunction?. 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005. 3.
- 113) Ueno A, Kobayashi Y, Shinoda A, Ogano M, Okazaki R, Tateoka K, Taniguchi H, Horie T, Abe J, Hirasawa Y, Yodogawa K, Morita N, Iwasaki Y, Maruyama M, Miyauchi Y, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Takano T: Follow-up Evaluation After Risk Stratification Using EPS in Patients with Low-EF and Non-sustained Ventricular Tachycardia Associated with Structural Heart Disease. 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005. 3.



(9) Meet the Experts :

- 1) Seino Y, Tsuchida T, Takano T, Takeda S<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Coronary Care Unit ): Expanding Role of Oxygen Therapy for Patients with Heart Failure : From Acute Setting to Chronic Sleep Disordered Breathing . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 2) Takayama M, Ohno T : Percutaneous Septal Alcohol Ablation for Medically Resistant Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy : its Effectiveness and Issues ( State-of-Arts Treatment of Obstructive Cardiomyopathy ). 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .
- 3) Kobayashi Y : Pre-operative Assessment for the Identification of Responders to Cardiac Resynchronization Therapy ( Current Status, Controversy, and Perspective of Cardiac Resynchronization Therapy in Chronic Heart Failure ). 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .

(10) Roundtable Discussion :

- 1) Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukumoto H, Fukushima M, Takano T : Assessment of Minor Myocardial Damage and Ischemic Insult by Novel Cardiac Markers ( Noninvasive Assessment of Myocardial Ischemia : New Approaches Based on the Current Understanding of Cardiovascular Pathophysiology ). 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .

(11) 基礎講座 :

- 1) 本間 博: 知っておきたい経食道心エコーの基礎 ( 脳・心をみる ). 第15回日本臨床モニター学会総会, 2004 . 4 .

(12) 市民公開講座 :

- 1) 清野精彦: 中高年における胸痛 . 第69回日本循環器学会総会・学術集会, 2005 . 3 .

## [ 付属病院老人科 ]

### 研究概要

高齢者の糖尿病 ( DM ), 動脈硬化, 脂質代謝異常, 認知症および尿路感染症に関する臨床的研究を行った .

DM に関して, 高齢 DM 患者の食後血糖値は加齢の影響を受けないことを明らかにした . 高齢 DM 患者の食後血糖値の臨床的意義を検討した . DM 患者の粥状動脈硬化症の特徴を頸動脈超音波所見から明らかにした . コレステミドの血糖降下作用に GLP-1 の関与を認めた . 長寿科学総合研究「高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較研究」を継続した . 高齢 DM 患者の自律神経機能評価にウエーブレット解析が有用であった . 尿中 NAG 指数は DM 性腎症進展の予測因子として有用であった . ARB の DM 性腎症進展抑制効果を血清 NOx 値との関連から検討した . DM 患者の無症候性白血球尿の臨床的意義を検討した .

動脈硬化に関して, 高齢者の頸動脈超音波所見と血栓性脳梗塞およびラクナ梗塞との関連を明らかにした . シロスタゾールの脳血流改善効果を明らかにした . PWV, ABI 測定の臨床的意義を心血管病変との関連から検討した . 総頸動脈超音波検査の高齢者における臨床的有用性を検討した .

脂質代謝に関して, コレステミドの内臓脂肪, 各種サイトカインおよび血糖値に及ぼす影響を明らかにした . 高齢者高脂血症の治療の実態を2002年の動脈硬化性疾患診療ガイドライン発表前後で比較検討した . PATE Study において, 高齢糖尿病患者のプラバスタチンによる脂質低下療法が心血管イベントの発症抑制に有用であることを明らかにした .

認知症に関して, 当大学病院のもの忘れ診療の診療連携システムの実態を報告した .

尿路感染症に関して, 高齢女性の無症候性白血球尿が自律神経機能と密接な関連を有することをウエーブレット解析で明らかにした . 膀胱内尿量測定装置 BVI-6100 の臨床的有用性を検討した .

## 研究業績

### 論文

#### (1) 追加分原著：

- 1) Harano T<sup>1)</sup>, Harano K<sup>1)</sup>, Hong Y-F<sup>1)</sup>, Than AM<sup>1)</sup>, Suetsugu Y<sup>1)</sup>, Oba K ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry, Kawasaki Medical School ): The mutation of Hb Turriff [ 99 ( G6 ) Lys Glu ( AAG GAG ) ] is carried by the  $\alpha$ -1-globin gene in a Japanese ( Hb Turriff-I ). Hemoglobin 2003 ; 27 ( 2 ) : 123-127 .
- 2) 今井久美子<sup>1)</sup>, 中野博司, 大庭建三 ( <sup>1)</sup> 二葉栄養専門学校 ): 2型糖尿病の中老年患者におけるヘモグロビンA1Cと食事摂取状況との関連性 . 二葉栄養専門学校研究集録 2003 ; 1 ( 1 ) : 1-16 .

#### (2) 原著：

- 1) Araki A<sup>1)</sup>, Nakano T<sup>2)</sup>, Oba K, Ito C<sup>3)</sup>, Mori S<sup>4)</sup>, Ishibashi S<sup>5)</sup>, Umeda F<sup>6)</sup>, Abe R<sup>7)</sup>, Kojima H<sup>8)</sup>, Kikkawa R<sup>8)</sup>, Kawamori R<sup>9)</sup>, Itoh H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Medical Center , <sup>3)</sup> Hiroshima A-Bomb Casualty Council Health Management Center , <sup>4)</sup> 2nd Department of Internal Medicine, Chiba University , <sup>5)</sup> 3rd Department of Medicine, Tokyo University , <sup>6)</sup> 3rd Department of Internal Medicine, Kyushu University , <sup>7)</sup> Ohta General Hospital , <sup>8)</sup> 3rd Department of Internal Medicine, Shiga Medical University , <sup>9)</sup> Department of Medicine, Metabolism and Endocrinology, Juntendo University ): Low well-being, cognitive impairment and visual impairment associated with functional disabilities in elderly Japanese patients with diabetes mellitus . Geriatrics and Gerontology International 2004 ; 4 ( 1 ) : 15-24 .
- 2) Umeda M<sup>1)</sup>, Adachi Y<sup>2)</sup>, Tomiyama J<sup>2)</sup>, Takasaki M<sup>3)</sup>, Shin K<sup>3)</sup>, Mori M<sup>4)</sup>, Tsutsumi H<sup>4)</sup>, Murai Y<sup>5)</sup>, Mutoh Y<sup>6)</sup>, Tomoyasu S<sup>7)</sup>, Kawato M<sup>8)</sup>, Nakamura N<sup>9)</sup>, Metroi S, Yamaguchi H<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Toho University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Tokyo Metropolitan Bokuto Hospital , <sup>3)</sup> Department of Gerontologic Medicine, Tokyo Medical School , <sup>4)</sup> Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital , <sup>5)</sup> Department of Hematology, Tama Metropolitan Geriatric Hospital , <sup>6)</sup> Department of Hematology, Toranomon Hospital , <sup>7)</sup> Department of Hematology, Showa University School , <sup>8)</sup> Department of Hematology, National Tokyo Medical Center , <sup>9)</sup> Department of Hematology, Tachikawa Sogo Hospital , <sup>10)</sup> Department of Internal Medicine, Tokyo Hospital, and Printing Bureau, Ministry of Finance ): Bone lesions in elderly patients with multiple myeloma : a multicenter study by the Society for Geriatric Hematology . Geriatrics and Gerontology International 2004 ; 4 ( 1 ) : 44-51 .
- 3) Horiuchi H<sup>1)</sup>, Kita T<sup>1)</sup>, Mabuchi H<sup>2)</sup>, Matsuzaki M<sup>3)</sup>, Matsuzawa Y<sup>4)</sup>, Nakaya N<sup>5)</sup>, Oikawa S<sup>6)</sup>, Saito Y<sup>7)</sup>, Sasaki J<sup>8)</sup>, Shimamoto K<sup>9)</sup>, Itakura H<sup>10)</sup>, the J-LIT Study Group ( <sup>1)</sup> Kyoto University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Kanazawa University Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup> Yamaguchi University Graduate School of Medicine , <sup>4)</sup> Osaka University Graduate School of Medicine , <sup>5)</sup> Fussa general hospital , <sup>6)</sup> Nippon Medical School , <sup>7)</sup> Chiba University Graduate School of Medicine , <sup>8)</sup> International University Graduate School of Health and Welfare , <sup>9)</sup> Sapporo Medical University School of Medicine , <sup>10)</sup> Ibaraki Christian University ): Primary cardiovascular events and serum lipid levels in elderly Japanese with hypercholesterolemia undergoing 6-year simvastatin treatment : a subanalysis of the Japan Lipid Intervention Trial . J Am Geriatr Soc 2004 ; 52 ( 12 ) : 1981-1987 .
- 4) Okazaki K, Oba K, Suzuki T, Nakano H : Urinary N-acetyl-  $\beta$ -D-glucosaminidase activity predicts development of diabetic nephropathy . Geriatrics and Gerontology International 2005 ; 5 ( 2 ) : 22-28 .
- 5) Ishikawa T<sup>1)</sup>, Ito H<sup>2)</sup>, Ouchi Y<sup>3)</sup>, Ohashi Y<sup>4)</sup>, Saito Y<sup>5)</sup>, Nakamura H<sup>6)</sup>, Orimo H<sup>7)</sup>, the PATE Investigators ( <sup>1)</sup> Wellness Center, Sony Corporation , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , <sup>3)</sup> Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo , <sup>4)</sup> Department of Biostatistics/Epi-

demiology and Preventive Health Sciences, School of Health Sciences and Nursing, University of Tokyo ,  
5) Department of Clinical Cell Biology, Graduate School of Medicine, Chiba University , 6) Mitsukoshi Health  
and Welfare Foundation , 7) Health Science University ): Increased risk for cardiovascular outcomes and ef-  
fect of cholesterol-lowering pravastatin therapy in patients with diabetes mellitus in the Pravastatin Anti-ath-  
erosclerosis Trial in the Elderly ( PATE ). Current Therapeutic Research 2005 ; 66 ( 1 ): 48-65 .

6) 犬塚有紀, 二見章子, 鈴木一成, 関水憲一, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 当科における高齢患者の血清脂  
質管理の現状. Geriatric Medicine 2004 ; 42 ( 7 ): 925-929 .

7) 山本祐子, 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 膀胱内  
尿量測定装置BVI-6100の臨床的有用性に関する検討. Geriatric Medicine 2004 ; 42 ( 11 ): 1503-1508 .

### (3) 研究報告書:

1) 大庭建三, 中野博司, 潤瀧由美子: 2型糖尿病の食後血糖値は加齢の影響を受けるか. 長寿科学総合研究事業  
「高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較研究」平成16年度総括研究報告書 2005 ; pp100-112 .

### 著 書

1) 大内耐義<sup>1)</sup>, 大庭建三, 中野博司ほか ( <sup>1)</sup> 東京大学老年病学 ): [ 編集 ] 老年医学update2004-05 ( 日本老年医  
学会雑誌編集委員会 ), 2004 ; メジカルビュー社 .

2) 大庭建三, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 中野博司: [ 分担 ] 老年糖尿病患者の管理. 糖尿病学の進歩 ( 第38集 ) 2004  
( 日本糖尿病学会 ), 2004 ; pp110-113, 診断と治療社 .

3) 中野博司: [ 分担 ] 慢性疾患に付随する老年症候群; めまい. 日常診療に活かす老年病ガイドブック1 ; 老年  
症候群の診かた ( 大内耐義, 井藤英喜, 三木哲郎, 鳥羽研二 ), 2005 ; pp166-171, メジカルビュー社 .

### 学会発表

#### (1) 教育講演:

1) 中野博司: 動脈硬化性疾患診療ガイドライン2002年度版が高齢者高脂血症患者の管理におよぼす影響. 第1回  
千駄木高齢者疾患研究会, 2004 . 4 .

#### (2) シンポジウム:

1) 大庭建三, 中野博司, 鈴木達也, 岡崎恭次, 潤瀧由美子: 加齢と糖尿病; 臨床的研究からみた加齢による耐糖  
能の低下 ( 加齢と糖尿病 ). 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 2004 . 5 .

#### (3) セミナー:

1) 大庭建三: エビデンスからみた高脂血症の治療とその実際. 第19回日本更年期医学会学術集会, 2004 . 10 .

2) 大庭建三: 高齢者糖尿病の治療. 第41回日本糖尿病学会近畿地方会, 2004 . 11 .

#### (4) 一般講演:

1) Nakano H, Watanabe K, Igari Y, Matsumura N, Suzuki T, Oba K : The effect of cilostazol on cerebral  
blood flow in elderly patients with arteriosclerosis obliterans . The 1st meeting of Asian Stroke Forum  
( Tokyo ), 2005 . 3 .

2) 中野博司, 犬塚有紀, 野呂瀬準, 斉藤好史, 山下直子, 潤瀧由美子, 岡崎恭次, 鈴木達也, 大庭建三: 「動脈  
硬化性疾患診療ガイドライン」2002年版が高齢者高脂血症患者の管理におよぼす影響. 第101回日本内科学会  
講演会, 2004 . 4 .

3) 猪狩吉雅, 松村典昭, 山本祐子, 山田宰弘, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 無症候性  
白血球尿の成因に関する検討. 第101回日本内科学会講演会, 2004 . 4 .

4) 松村典昭, 猪狩吉雅, 佐藤公美, 犬塚有紀, 潤瀧由美子, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者  
の自律神経機能評価に際してのウエーブレット解析の有用性の検討. 第101回日本内科学会講演会, 2004 . 4 .

- 5) 澗瀧由美子, 関水憲一, 山下直子, 伊藤 民, 高井恵美子, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2型糖尿病患者の食後血糖値が加齢による影響を受けるか否かに関する検討. 第101回日本内科学会講演会, 2004. 4.
- 6) 鈴木達也, 二見章子, 鈴木一成, 松村典昭, 猪狩吉雅, 木川好章, 奥山 裕, 中野博司, 大庭建三: 2型糖尿病患者におけるコレステミドによる Glucagon-like peptide (GLP-1 (7-36)) を介した血糖降下作用. 第101回日本内科学会講演会, 2004. 4.
- 7) 岡崎恭次, 関水憲一, 増谷祐人, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 澗瀧由美子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2型糖尿病早期腎症に対する valsartan 投与の血清 NOx 値変動に及ぼす影響. 第101回日本内科学会講演会, 2004. 4.
- 8) 渡邊健太郎, 吉松寛臣, 斉藤好史, 犬塚有紀, 澗瀧由美子, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者における頸動脈超音波所見の臨床的有用性に関する検討: 断面調査による検討. 第101回日本内科学会講演会, 2004. 4.
- 9) 猪狩吉雅: 無症候性白血球尿の臨床的意義に関する検討. 第1回千駄木高齢者疾患研究会, 2004. 4.
- 10) 松村典昭: 高齢者におけるウエーブレット解析による自律神経機能評価の臨床的有用性に関する検討. 第1回千駄木高齢者疾患研究会, 2004. 4.
- 11) 渡邊健太郎: 高齢者における頸動脈超音波所見の臨床的有用性に関する検討. 第1回千駄木高齢者疾患研究会, 2004. 4.
- 12) 岡崎恭次, 山田幸弘, 関水憲一, 大内基司, 増谷祐人, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 澗瀧由美子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 早期腎症を有する2型糖尿病に対する clinidipine, valsartan の血清 NOx 値, 微量アルブミン尿に及ぼす影響に関する検討. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 2004. 5.
- 13) 鈴木達也, 二見章子, 鈴木一成, 山下直子, 松村典昭, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 木川好章, 奥山裕, 中野博司, 大庭建三: 肥満合併高コレステロール血症患者における内臓脂肪及び各種サイトカインに対するコレステミドの影響の検討: 6ヶ月間経過観察. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 2004. 5.
- 14) 渡邊健太郎, 野呂瀬準, 吉松寛臣, 斉藤好史, 松村典昭, 犬塚有紀, 澗瀧由美子, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者糖尿病における大血管障害の指標の臨床的有用性に関する研究. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 2004. 5.
- 15) 松村典昭, 山本祐子, 二見章子, 鈴木一成, 佐藤公美, 猪狩吉雅, 澗瀧由美子, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者糖尿病における心拍変動解析の臨床的有用性に関する検討. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 2004. 5.
- 16) 澗瀧由美子, 野呂瀬準, 吉松寛臣, 関水憲一, 大内基司, 伊藤 民, 斉藤好史, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2型糖尿病患者の食後血糖値が加齢による影響を受けるか否かに関する検討. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 2004. 5.
- 17) 猪狩吉雅, 山本祐子, 山田幸弘, 山下直子, 伊藤 民, 松村典昭, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病患者の無症候性白血球尿に関する検討. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 2004. 5.
- 18) 岡崎恭次, 野呂瀬準, 二見章子, 伊藤 民, 増谷祐人, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 大学病院における物忘れ患者に対する内科診療連携システムに関する検討. 第46回日本老年医学会学術集会, 2004. 6.
- 19) 渡邊健太郎, 吉松寛臣, 中谷千瑞子, 高井恵美子, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 奥山 裕, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者心血管障害の臨床的指標としての頸動脈病変の有用性の検討. 第46回日本老年医学会学術集会, 2004. 6.
- 20) 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 高井恵美子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者動脈硬化の評価法としての Ankle Brachial Index, Pulse Wave Velocity の有用性についての検討. 第46回日本老年医学会学術集会, 2004. 6.
- 21) 澗瀧由美子, 安岡比呂子, 大内基司, 斉藤好史, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大

庭建三：2型糖尿病患者の食後血糖値が加齢による影響を受けるか否かに関する検討．第46回日本老年医学会学術集会，2004．6．

- 22) 松村典昭，山田幸弘，鈴木一成，倉辻公美，猪狩吉雅，澗瀧由美子，木川好章，鈴木達也，中野博司，大庭建三：高齢者糖尿病における心拍変動解析の臨床的有用性に関する検討．第46回日本老年医学会学術集会，2004．6．
- 23) 猪狩吉雅，山本祐子，関水憲一，山下直子，松村典昭，岡崎恭次，澗瀧由美子，鈴木達也，中野博司，大庭建三：高齢女性における無症候性白血球尿に関する検討：自律神経機能および残尿量の面からの検討．第46回日本老年医学会学術集会，2004．6．
- 24) 山田幸弘，松村典昭，鈴木達也，中野博司，大庭建三：腎転移で発見され肺・脳転移を認めない罹病30年の高齢甲状腺濾胞腺癌の1例．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 25) 吉松寛臣，渡邊健太郎，猪狩吉雅，鈴木達也，中野博司，大庭建三：Ankle-Brachial Indexの併用により大動脈脈波速度の虚血性心疾患の検出精度は低下する．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 26) 野呂瀬準，大内基司，鈴木達也，中野博司，大庭建三：診断に難渋した高齢者リウマチ様多発関節症の1例．第6回Geriatric Medical Frontier Forum，2004．9．
- 27) 山下直子，犬塚有紀，鈴木達也，中野博司，大庭建三：糖尿病患者の血糖値の変動に関する検討：年代別・治療法別の検討．第6回Geriatric Medical Frontier Forum，2004．9．
- 28) 大内基司，野呂瀬準，松村典昭，犬塚有紀，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三：症状に乏しかった高齢者横紋筋融解症の2例．第40回日本老年医学会関東甲信越地方会，2004．10．
- 29) 大内基司，山本祐子，野呂瀬準，吉松寛臣，山田幸弘，渡邊健太郎，山下直子，犬塚有紀，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三：ハイリスク高齢者のアテローム血栓性脳梗塞とラクナ梗塞の予測因子としての頸動脈超音波指標：断面調査による検討．日本医科大学医学会第114回例会，2004．11．
- 30) 鈴木一成，斉藤好史，大内基司，山下直子，松村典昭，犬塚有紀，鈴木達也，中野博司，大庭建三：繰り返すイレウスに：グルコシダーゼ阻害薬の関与が疑われた高齢者糖尿病の1例．第41回日本老年医学会関東甲信越地方会，2005．3．

## [ 第二病院内科 ( 内科，循環器科，神経内科 ) ]

### 研究概要

循環器，神経内科，腎臓，消化器および呼吸器の領域における著書，学会発表があった．

循環器病学では，RIを用いた心室の壁運動の画像診断について研究が継続してなされ，臨床医学的にも大変有用と期待されている．また，不整脈領域の研究や失神に関連した自律神経機能評価に関する研究もなされている．

神経内科学においては，認知障害および脳血流に関する著書，学会発表が数多くなされた．これらについての講演の招聘もなされた．

腎臓病学においては，血液浄化療法を中心とした研究がなされ，なかでも血液透析が循環動態に与える影響についての研究が継続的に行われているが，いわゆる血液透析のみではなく，LDLアフェレーシスなどについての研究もなされた．また，比較的稀な或いは発見動機が稀だと思われる消化器，神経内科，呼吸器および膠原病領域の症例について発表した．さらに当科の特徴といってもよいと思われる複数の領域にまたがる疾患で，比較的稀な症例（成人発症溶血性尿毒症候群）や血液浄化療法室を有するからこそ速やかに対応可能であった疾患（カテーテル検査後のコレステロール血栓症に基づく肝不全）についての発表があった．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 繁田雅弘, 川畑信也, 北村 伸, 川藤 忍, 本間 昭：この症例をどう見るか 専門医300人に聞きました：症例呈示と回答結果から．老年精神医学雑誌 2004；15(増刊号)：36-48．
- 2) Mishina M, Ishii K, Mitani K, Oyyama M, Yamazaki M, Ishiwata K, Senda M, Kobayashi S, Kitamura S, Katayama Y：Midbrain hypometabolism as early diagnostic sign for progressive supranuclear palsy．Acta Neurol Scand 2004；110(8)：128-135．

#### (2) 綜説：

- 1) 北村 伸：痴呆のクリティカルパス．神経治療学 2004；21(2)：167-174．
- 2) 北村 伸：アルツハイマー病：危険因子・病理・画像．分子脳血管病 2004；3(4)：383-389．
- 3) 北村 伸：痴呆の臨床症状：痴呆に気づくポイント．治療 2004；86(5)：1640-1644．
- 4) 北村 伸：血管性因子とアルツハイマー型痴呆．Prog Med 2004；24(10)：2489-2492．

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 北村 伸：アルツハイマー型痴呆と脳血管障害の関係．第40回老年医学会関東甲信越地方会，2004．10．

#### (2) 招待講演：

- 1) 北村 伸：アルツハイマー型痴呆治療の最前線と塩酸メマンチン．第7回日本病院脳神経外科学会，2004．7．

#### (3) 基調講演：

- 1) 北村 伸：痴呆の気づきとかかりつけ医師．第20回足立医学会，2005．2．

#### (4) セミナー：

- 1) 北村 伸：SPECTによる神経疾患の診断．第45回日本神経学会総会，2004．5．

#### (5) 一般講演：

- 1) Kitamura S：Differential diagnosis between Alzheimer's disease and vascular dementia．Pre International Psychogeriatric Association Symposium Hong Kong-Jaoan-Korea Joint Meeting (Seoul Korea)，2004．9．
- 2) Takahashi N, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Iwahara S, Takenaga K, Yamada T<sup>1)</sup>, Amitani K, Yamaguchi T, Hoshino K, Uchida T, Munakata K (<sup>1)</sup>Department of Rediology): A Novel Program "cardioGRAF" of Gated-SPECT for Regional Systolic-diastolic Assessment：The Predictors for Cardiac Events in Patients with Non-ischemic CHF．第69回日本循環器学会総会・学術集会，2005．3．
- 3) 村澤恒男, 酒井行直, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 伊佐治剛, 網谷賢一, 山口朋禎, 宗像一雄 (<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): 血液透析に伴う心筋活動電位持続時間不均一性の増大はRA系の変動と関連する 維持透析患者のQTおよびARI dispersion による解析．日本医工治療学会 第20回学術大会，2004．4．
- 4) 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室): 維持透析患者での血液透析前後の細胞内外水分量の変化率と心室不整脈, ANP, BNP, との関連について．第49回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2004．6．
- 5) 大野 大, 酒井行直, 網谷賢一, 村澤恒男, 宗像一雄, 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室): 心臓カテーテル検査後のコレステロール塞栓による劇症肝炎に対し血漿交換を施行し救命し得た症例．第49回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2004．6．
- 6) 磯野友昭<sup>1)</sup>, 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 大野 大, 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室): 難治性ネフローゼ症候群に対する二種類のLDLアフェレーシスによる治療効果の検討．第49回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2004．6．

- 7) 山下浩二<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 遠藤直哉<sup>1)</sup>, 宅島美奈<sup>1)</sup>, 川村 純<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 家所良夫<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 竹永清人, 岩原信一郎, 宗像一雄, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>外科学第2): 心房細動により血栓塞栓症が原因と考えられる心筋梗塞から心室中隔穿孔を来たした一治療例. 第9回日本冠動脈外科学会学術大会, 2004. 7.
- 8) 板倉潮人, 大野 大, 網谷賢一, 山口朋禎, 鮎澤理人, 山室 学, 北村伸, 宗像一雄: 呼吸不全とCO<sub>2</sub>ナルコースが初発症状で診断に難渋した筋萎縮性側索硬化症の1例. 第13回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2004. 8.
- 9) 板倉潮人, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 館岡克彦<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 宗像一雄, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): QT 間隔計測法の実際: 自動QT 計測ソフトと手動計測法の比較. 第21回心電学会学術集会, 2004. 9.
- 10) 橋直人, 山本 彰<sup>1)</sup>, 山田丈士<sup>1)</sup>, 内田高弘, 星野公彦, 岩原信一郎, 宗像一雄, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 心電図同期信金SPECT を利用した左室局所収縮・拡張評価プログラムによる心臓超音波検査壁運動異常例の検討. 第44回日本核医学会総会, 2004. 11.
- 11) 山本文士<sup>1)</sup>, 山本 彰<sup>1)</sup>, 高橋直人, 鶴田晴子<sup>1)</sup>, 梶原景子<sup>1)</sup>, 宗像一雄, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 心電図同期心筋SPECT を利用した左室局所収縮・拡張評価プログラムによる心臓超音波検査壁運動正常例の検討. 第44回日本核医学会総会, 2004. 11.
- 12) 大塚智之, 鮎澤理人, 寺田秀人, 内田高浩, 本郷公英, 岩本将人, 工藤律子, 大野 大, 村澤恒男, 北村 伸, 宗像一雄: Turner 症候群に原因不明の胆道系酵素の異常(胆管消失症候群)を伴った1例. 第37回神奈川県消化器病医学会総会, 2004. 11.
- 13) 板倉潮人, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 館岡克彦<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 宗像一雄, 田中啓治<sup>2)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院内科学第1, <sup>2)</sup>同集中治療室): アルコール負荷Head-up tilt 試験におけるPHYSIO Flow PF-05 Lab1 の有用性. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 11.
- 14) 保科淑子, 星野公彦, 宗像一雄, 河野 潤<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 小原澤秀彰<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同眼科): 側頭動脈炎にリウマチ性多発筋痛症を合併した1例. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
- 15) 大木杏月, 内田高浩, 桐山智成, 山室 学, 北村伸, 宗像一雄: クリプトコッカス髄膜炎における患者情報総合システム Meta Vision. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
- 16) 大江裕美子, 板倉潮人, 山口朋禎, 宗像一雄, 原口秀司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科): 胸水中のシフラの上昇が診断の契機となった悪性中皮腫の1例. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
- 17) 手塚信吾, 橋直人, 花岡大資, 大野 大, 酒井行直, 岩原信一郎, 村澤恒男, 宗像一雄: 発症契機が不明な成人発症溶血性尿毒症症候群(D - HUS)の1例. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.

## [ 多摩永山病院内科, 循環器内科 ]

### 研究概要

循環器専攻の内科医により構成されているが, 多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とする体制をとっている. 臨床研究が主体となるが, 実験的研究にも積極的に従事している.

- 1) 虚血性心疾患に関する経皮的カテーテル治療に関連したインターベンションならびに非観血的評価法による治療効果ならびに予後判定に関する研究.
- 2) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断, 治療に関する研究.
- 3) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療に関する研究: 特に発作性心房細動例におけるアンギオテンシン受容体拮抗薬の効果に関する研究.
- 4) ブルガダ症候群に関連した全国的な多施設共同研究.
- 5) 心不全における 受容体, レニン・アンギオテンシン系の役割に関する研究.

6) メタボリックシンドローム例における血糖降下薬・アンギオテンシン受容体拮抗薬の効果に関する研究．

7) 心不全の長期予後に関する多施設共同研究．

上記の循環器領域における虚血，不整脈，心不全といった中心的研究テーマにつき重要な研究活動を行っている．

また，当院薬剤部との協力により慢性肺疾患，心疾患患者のQOL改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる．

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Maruyama M<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Kodani E, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Osborn W<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Cardiology, University of Louisville ): History and Significance . Indian Pacing and Electrophysiology Journal 2004 ; 4 ( 1 ): 33-39 .
- 2) Toba M<sup>1)</sup>, Kumita Shin-I<sup>1)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Ibuki C, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Usefulness of gated myocardial perfusion SPECT imaging soon after exercise to identify postexercise stunning in patients with single-vessel coronary artery disease . American Society of Nuclear Cardiology 2004 ; 11 ( 6 ): 697-703 .
- 3) Wang Y<sup>1)</sup>, Kodani E, Wang J<sup>1)</sup>, Zhang SX<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>, Tang XL<sup>1)</sup>, Boilli R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, University of Louisville, <sup>2)</sup> 1st Department of Internal Medicine ): Cardioprotection During the Final Stage of the Late Phase of Ischemic Preconditioning Is Mediated by Neuronal NO Synthase in Concert with Cyclooxygenase-2 . Cric Res 2004 ; 95 ( 1 ): 84-91 .
- 4) 新 博次：Brugada症候群の診断，治療：わが国の現状．日本内科学会雑誌 2004 ; 93 ( 4 ): 155-161 .
- 5) 新 博次：不整脈の治療薬．HEART nursing 2005 ; 18 ( 2 ): 66-70 .

(2) 綜説：

- 1) 宮本新次郎，新 博次：最新の不整脈診療へのアプローチ：徐脈性不整脈の系統的，実践的な解説法．Medical Practice 2004 ; 21 ( 9 ): 1428-1439 .
- 2) 新 博次：不整脈診断に必要な知識：ここまで要求されている．内科 2004 ; 94 ( 4 ): 607-611 .
- 3) 新 博次，與田小百合，田寺 長，小林義典<sup>1)</sup>，堀江 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ): 心房中隔欠損症と心房細動．心臓 2004 ; 36 ( 12 ): 813-820 .

(3) 学会レポート：

- 1) 新 博次：第21回日本心電学会学術集会．日本心電学会誌 2004 ; 24 ( 6 ): 459-462 .

### 学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 新 博次：患者背景からみた心房細動の薬物治療法．第52回日本心臓病学会学術集会，2004 . 9 .

(2) 一般講演：

- 1) Maruyama M<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Iwasaki Yu-K<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Miyamoto S, Tadera T, Ino T, Atarashi H, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department Internal Medicine ): A Novel Radiofrequency Catheter Ablation Technique for Creation of Cavotricuspid Isthmus Block in Isthmus-Dependent Atrial Flutter . The 31st International Congress on Electrocardiology ( Kyoto ), 2004 . 6 .
- 2) Okishige K<sup>1)</sup>, Fukunami M<sup>2)</sup>, Kumagai K<sup>3)</sup>, Atarashi H, Inoue H<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Yokohama Red Cross Hosp. , <sup>2)</sup> Osaka Prefectural General Med. Ctr. , <sup>3)</sup> Fukuoka Univ. , <sup>4)</sup> Toyama Med. Pharmaceutical Univ. ): The Efficacy of the Pure Na channel Blocker Pilsicainide Hydrochloride for Cardioversion in Patients with Persistent



Atrial Fibrillation : A Multicenter, Randomized, Placebo-Controlled Trial ( PSTAFII ). American Heart Association Scientific Sessions 2004 ( New Orleans, USA ), 2004 . 10 .

- 3) 石川正也, 小谷英太郎, 亀山幹彦, 吉田博史, 緒方憲一, 田寺 長, 上田洋一, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: Propylthiouracil による著明な黄疸を伴った薬剤性肝障害を呈したパセドウ氏病の1例. 第519回日本内科学会関東地方会, 2004 . 7 .
  - 4) 村田広茂, 小谷英太郎, 宮本新次郎, 北村光信, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: ケトアシドーシスにより発症し出産後甲状腺中毒症に併発した劇症1型糖尿病の1例. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
  - 5) 佐藤 越, 石井健輔, 宮本新次郎, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 甲状腺機能亢進症における心電図所見の検討. 第21回日本心電学会学術集会, 2004 . 9 .
  - 6) 四倉正之<sup>1)</sup>, 池田隆徳<sup>1)</sup>, 杉 薫<sup>2)</sup>, 新 博次<sup>(<sup>1)</sup>杏林大学医学部第二内科, <sup>2)</sup>東邦大学医学部附属大橋病院循環器内科)</sup>: 持続性心房細動に対するロサルタンの有用性の検討. 第21回日本心電学会学術集会, 2004 . 9 .
  - 7) 新 博次, 井上 博<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>PSTAFII 研究グループ</sup>): 持続性心房細動に対する塩酸ビルジカイニド連続経口投与の徐細動硬化: プラセボを対照とした多施設共同無作為化2重盲検比較試験 ( PSTAFII ). 第21回日本心電学会学術集会, 2004 . 9 .
  - 8) 藤田進彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 草間芳樹, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第1)</sup>): 急性心筋梗塞における ACE 阻害薬およびアンジオテンシン受容体拮抗薬の血管内皮機能に及ぼす影響. 第52回日本心臓病学会学術集会, 2004 . 9 .
  - 9) 勝亦秀樹<sup>1)</sup>, 田原亮子<sup>1)</sup>, 山本靖子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次, 村田和也<sup>2)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>東京薬科大学薬学部総合医療薬学講座・薬物治療分野, <sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院薬剤科</sup>): 虚血性心疾患患者における QOL 影響因子およびその評価. 第25回日本臨床薬理学会年会, 2004 . 9 .
  - 10) 西端こずえ<sup>1)</sup>, 新 博次, 小谷英太郎, 村田和也<sup>2)</sup>, 加賀谷肇<sup>1)</sup>, 竹内幸一<sup>3)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>済生会横浜市南部病院薬剤部, <sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院薬剤科, <sup>3)</sup>明治薬科大学臨床薬学専攻大学院</sup>): ワルファリンの有害事象に対する PT ( INR ) 変動の実態調査と検討. 第14回日本医療薬学会年会, 2004 . 10 .
  - 11) 時田祐吉, 吉田博史, 小谷英太郎, 宮地秀樹, 石井健輔, 大塚俊昭, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 左前下行枝に留置したステント後拡張時に側枝の冠動脈破裂を生じた1例. 第25回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2004 . 10 .
  - 12) 岡田 薫, 石井健輔, 宮地秀樹, 時田祐吉, 吉田博史, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 肺動脈血栓塞栓症の治療中にヘパリン起因性血小板減少症 ( HIT ) を合併し, 下大静脈フィルターに大量の血栓を認めた1例. 第114回日本医科大学医学会例会, 2004 . 11 .
  - 13) 宮地秀樹, 小谷英太郎, 加藤浩司, 吉田博史, 石井健輔, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同放射線科</sup>): 恒久型下大静脈フィルターに大量血栓が附着し治療に難渋した ATIII 欠損症を伴う肺動脈血栓塞栓症1例. 第194回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004 . 12 .
  - 14) 小谷英太郎, 大塚俊昭, 石井健輔, 吉田博史, 時田祐吉, 宮地秀樹, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 正常冠動脈における冠攣縮性と冠予備能. 第18回冠疾患学会学術集会, 2004 . 12 .
  - 15) 宮地秀樹, 時田祐吉, 吉田博史, 石井健輔, 小谷英太郎, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次, 長澤紘一: 超高齢にて発症した冠攣縮性狭心症 ( 異形狭心症 ) の1例. 第39回成人病 ( 生活習慣病 ) 学会, 2005 . 1 .
  - 16) 岡田 薫, 石井健輔, 宮地秀樹, 時田祐吉, 吉田博史, 小谷英太郎, 田寺 長, 草間芳樹, 新 博次: 肺動脈血栓塞栓症の治療中にヘパリン起因性血小板減少症 ( HIT ) に伴う血栓症を合併した1例. 第195回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005 . 2 .
  - 17) 吉田博史, 小谷英太郎, 宮地秀樹, 石川正也, 松本 真, 緒方憲一, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 血栓性静脈炎で発症し RS3PE 症候群の診断に苦慮した1例. 第115回日本医科大学医学会例会, 2005 . 2 .
- ( 3 ) 新任教授特別講演 :
- 1) 新 博次: Brugada 症候群の自然歴と予後. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .

## 2. 内科学第二講座

### [ 付属病院第 2内科 ( 神経内科, 腎臓内科 ) ]

#### 研究概要

内科学第二講座は、神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では脳血管障害、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んでおります。

実験的研究では、主としてラットを用いた中大脳動脈閉塞モデルを使用して脳梗塞の病態の解明のためオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法を用いて局所脳循環代謝を測定している。

また、脳梗塞体積および脳浮腫容積を測定し、各種薬剤の脳保護効果について検討している。近年、当教室で力を注いでいる研究の一つは免疫抑制薬、フリーラジカルスカベンジャーおよびそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護作用であるが、それらの治療薬や治療法の抗アポトーシス・アポトーシス誘導遺伝子への影響についても検討を行なっている。

さらに、脳虚血モデルにて脳保護蛋白の導入による治療や骨髄幹細胞移植による再生医療も試みている。臨床的には、脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組んでおり、MRIを用いたDiffusion, Perfusion W. I. による診断法の開発に力を注いでいる。その他、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。また、脳梗塞の予防ではスタチンの効果について、パーキンソン病では病態生理とともに長期間に渡る薬剤効果の検討を行なっている。

腎臓内科では、従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生労働省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。

また、腎クリニックや千葉北総病院内科および脳卒中センター（SCU）に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kumagai N, O'Neil JJ, Barth RN, LaMattina JC, Utsugi R, Moran SG, Yamamoto S, Vagefi PA, Kitamura H, Kamano C, Sachs DH, Yamada K : Vascularized islet-cell transplantation in miniature swine. I. Preparation of vascularized islet kidneys . Transplantation 2002 ; 15 ( 74 ): 1223-1230 .
- 2) Nakamura H, Hagiwara H, Igarashi H, Kamiya T, Katayama Y : Feasibility and limitations of perfusion CT in the diagnosis of acute cerebral infarction . 脳循環代謝 2004 ; 16 ( 1 ): 1-11 .
- 3) Kamano C, Vagefi PA, Kumagai N, Yamamoto S, Barth RN, LaMattina JC, Moran SG, Sachs DH, Yamada K : Vascularized thymic lobe transplantation in miniature swine : thymopoiesis and tolerance induction across fully MHC-mismatched barriers . Proc Natl Acad Sci USA 2004 ; 16 ( 101 ): 3827-3832 .
- 4) Vagefi PA, Ierino FL, Gianello PR, Shimizu A, Kamano C, Sachs DH, Yamada K : Role of the thymus in transplantation tolerance in miniature Swine : IV. The thymus is required during the induction phase, but not the maintenance phase, of renal allograft tolerance . Transplantation 2004 ; 15 ( 77 ): 979-985 .
- 5) Yamazaki M, Saito Y, Mori O, Yamazaki M, Navartna N, Koyama S, Oya Y, Kasahata , Arai Y, Yamaguchi H, Katayama Y, Murayama S : The duration of illness decides the final neuropathological grading

- in patients with Alzheimer's disease . *Presymptomatic Medicine Antiaging* 2004 ; 13 ( 1 ) : 22-27 .
- 6 ) Nito C , Kamiya T , Ueda M , Arai T , Katayama Y : Mild hypothermia enhances the neuroprotective effects of FK506 and expands its therapeutic window following transient focal ischemia in rats . *Brain Res* 2004 ; 1008 ( 2 ) : 179-185 .
  - 7 ) Miyawaki T , Yokota H , Oguro K , Kato K , Shimazaki K : Ischemic preconditioning decreases intracellular zine accumulation induced by oxygen-glucose deprivation in gerbil hippocampal CA1 neurons . *Neurosci Lett* 2004 ; 362 ( 3 ) : 216-219 .
  - 8 ) Otori T , Friedland JC , Sinson G , McIntosh TK , Raghupathi R , Welsh FA : Traumatic brain injury elevates glycogen and induces tolerance to ischemia in rat brain . *J Neurotrauma* 2004 ; 21 ( 6 ) : 707-718 .
  - 9 ) Iino Y , Hayashi M , Kawamura T , Shiigai T , Tomino Y , Yamada K , Koyama A , Sugisaki Y , Suzuki H , Umemura S , Kawaguchi Y , Uchida S , Kuwahara M , Yamazaki T : Interim evidence of the renoprotective effect of the angiotensin II receptor antagonist losartan versus the calcium channel blocker amlodipine in patients with chronic kidney disease and hypertension . *Clin Exp Nephrol* 2004 ; 22 : 1-30 .
  - 10 ) Oguro K , Miyawaki T , Yokota H , Kato K , Kamiya T , Katayama Y , Fukaya M , Watanabe M , Shimazaki K : Upregulation of GluR2 decreases intracellular Ca<sup>2+</sup> following ischemia in developing gerbils . *Neurosci Lett* 2004 ; 364 ( 2 ) : 101-105 .
  - 11 ) Mishina M , Ishii K , Mitani K , Ohayama M , Yamazaki M , Ishiwata K , Senda M , Kobayashi S , Kitamura S , Katayama Y : Midbrain hypometabolism as early diagnostic sign for progressive supranuclear palsy . *Acta Neurol Scand* 2004 ; 110 ( 2 ) : 128-135 .
  - 12 ) Katsura K , Rodriguez de Turco E. B. , Siesjo B. K. , Bazan N. G. : Effects of hyperglycemia and hypercapnia on lipid metabolism during complete brain ischemia . *Brain Res* 2004 ; 1030 ( 1 ) : 133-140 .
  - 13 ) Fujita Y , Ezura Y , Emi M , Sato K , Takada D , Iino Y , Katayama Y , Takahashi K , Kamimura K , Bujo H , Saito Y : Hypercholesterolemia associated with splice-junction variation of inter- $\alpha$ -trypsin inhibitor heavy chain4 ( ITIH4 ) gene . *J Hum Genet* 2004 ; 49 ( 1 ) : 24-28 .
  - 14 ) Mori O , Yamazaki M , Yamazaki M , Komiyama T , Ohaki Y , Katayama Y , Naito Z : A pre-senile case of limbic encephalitis and cerebellar degeneration, with subacute onset of progressive dementia . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 6 ) : 412-416 .
  - 15 ) Takahashi H , Ishikawa K , Tsutsumi T , Fujigasaki H , Kawada A , Okiyama R , Fujita T , Yoshizawa K , Yamaguchi Y , Tomiyasu H , Yoshii F , Mitani K , Shimizu N , Yamazaki M , Miyamoto T , Orimo T , Shoji S , Kitamura K , Mizusawa H : A clinical and genetic study in a large cohort of patients with spinocerebellar ataxia type 6 . *J Hum Genet* 2004 ; 49 : 256-264 .
  - 16 ) Nagayama H , Hamamoto M , Ueda M , Nito C , Yamaguchi H , Katayama Y : The effect of ascorbic acid on the pharmacokinetics of Levocopa in elderly patients with parkinson's disease . *Clin Neuropharmacol* 2004 ; 27 ( 6 ) : 270 -273 .
  - 17 ) Nagayama H , Hamamoto M , Ueda M , Nagashima J , Katayama Y : Reliability of MIBG myocardial scintigraphy in the diagnosis of Parkinson's disease . *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2005 ; 76 ( 2 ) : 249-251 .
  - 18 ) Nishiyama Y , Komaba Y , Mizumura S , Katayama Y : Antidepressive effect of nicergoline on patients with mild post-stroke depression . *脳循環代謝* 2005 ; 17 ( 1 ) : 11-16 .
  - 19 ) Katsura K , Katsumata T , Fukuchi T , Katayama Y : Comparison of the therapeutic efficacy of ozagrel alone and ozagrel plus edaravone therapy for acute ischemic stroke patients : a prospective study . *脳循環代謝* 2005 ; 17 ( 1 ) : 17-22 .
  - 20 ) Fujita Y , Ezura Y , Bujo H , Nakajima T , Takahashi K , Kamimura K , Iino Y , Katayama Y , Saito Y ,

- Emi M : Association of mucleotide variations in the apolipoprotein B48 receptor gene ( APOB48R ) with hypercholesterolemia . J Hum Genet 2005 ; 50 ( 4 ): 203-209 .
- 21) Ueda M , Nowak TS Jr. : Protective preconditioning by transient global ischemia in the rat : components of delayed injury progression and lasting protection distinguished by comparisons of depolarization thresholds for cell loss at long survival times . J Cereb Blood Flow Metab advance on line publication ( doi : 10. 1038/sj.jcbfm. 9600107. q ) 2005 .
- 22) Ishiwata K , Mishina M , Kimura Y , Oda K , Sasaki T , Ishii K : First visualization of adenosine A2a receptors in the human brain by positron emission tomography with [ 11C ] TMSX . Synapse 2005 ; 55 : 133-136 .
- 23) 瀬田健博 , 駒場祐一 , 福地孝明 , 桂研一郎 , 片山泰朗 : 慢性期ラクナ梗塞症例における cilostazol の脳血流 , 血小板分子マーカーに対する効果 . 脳循環代謝 2004 ; 16 ( 3 ): 159-166 .
- 24) 中村美津恵 , 高橋みか子 , 五明麻葉 , 吉田千鶴 , 梅木いずみ , 関口千春 , 柏木哲也 : 透析皮膚 痒症に対するセラミド配合入浴剤の使用経験 . 腎と透析 2004 ; 11 ( 1 ): 39-45 .
- 25) 鈴木正彦<sup>1)</sup> , 井上聖啓<sup>1)</sup> , 北村 伸 , 三品雅洋 , 三谷和子<sup>2)</sup> , 山之内博<sup>2)</sup> , 織田圭一<sup>3)</sup> , 木村裕一<sup>3)</sup> , 石渡喜一<sup>3)</sup> , 石井賢二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学医学部神経内科 , <sup>2)</sup> 東京都老人医療センター神経内科 , <sup>3)</sup> 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ ): Parkinson 病の線条体における節前・節後 dopamine 機能の相関的解析 A Novel Voxel Based Analysis . CI 研究 2004 ; 25 ( 4 ): 237-244 .
- 26) 須田 智 , 駒場祐一 , 熊谷智昭 , 山崎峰雄 , 勝又俊弥 , 水村 直<sup>1)</sup> , 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): MRI , SPECT で経過を追い得た小脳脳幹型副腎白質ジストロフィーの1例 . 脳循環代謝 2004 ; 16 ( 4 ): 253-258 .
- 27) 金松知幸<sup>1)</sup> , 五十嵐博中 , 大久保誠二 , 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 創価大学工学部環境共生工学科 ): 一過的片側性中大脳動脈虚血後の脳内ブドウ糖・アミノ酸代謝の変化 : ラットを用いた ex vivo 13C-MRS による研究 . 13C 医学 2004 ; 14 : 6-7 .
- 28) 坂本静樹 , 國松淳和 , 田村浩一<sup>1)</sup> , 松本亜紀 , 福田 悠<sup>2)</sup> , 山崎峰雄 , 勝又俊弥 , 坂本長逸<sup>3)</sup> , 岸田 浩<sup>4)</sup> , 山岡淳一<sup>5)</sup> , 功刀しのぶ<sup>2)</sup> , 根井貴仁<sup>6)</sup> , 吉村明修<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 , <sup>2)</sup> 病理学第1 , <sup>3)</sup> 内科学第3 , <sup>4)</sup> 内科学第1 , <sup>5)</sup> 皮膚科学 , <sup>6)</sup> 内科学第4 , <sup>7)</sup> 教育推進室 ): 胃癌術後に嚥下障害と顔面 , 手指に紅斑を呈した1例 . 内科 2005 ; 95 ( 2 ): 350-361 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) Iino Y : Importance of early detection and diagnosis for kidney disease . Internal Medicine 2005 ; 44 : 383-389 .
- 2) 北村 伸 : 痴呆のクリティカルパス . 神経治療 2004 ; 21 : 167-174 .
- 3) 北村 伸 : アルツハイマー病 : 危険因子・病理・画像 . 分子脳血管病 2004 ; 4 : 383-389 .
- 4) 中村秀紀 , 片山泰朗 : 脳循環代謝測定 of 臨床的評価 一過性脳虚血発作 ( TIA ) . Clinical Neuroscience 2004 ; 22 ( 4 ): 443-445 .
- 5) 藤田有子 , 江見 充<sup>1)</sup> , 中島敏晶<sup>2)</sup> , 江面陽一<sup>1)</sup> , 及川真一<sup>3)</sup> , 武城英明<sup>4)</sup> , 斎藤 康<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子生物学部門 , <sup>2)</sup> 同老人病研究所生体応答学部門 , <sup>3)</sup> 同内科学第3 , <sup>4)</sup> 千葉大学大学院医学研究院臨床遺伝子応用医学 , <sup>5)</sup> 同細胞治療学 ): 生活習慣病としての高脂血症と遺伝子 . 母子保健情報 2004 ; 49 ( 49 ): 60-66 .
- 6) 北村 伸 : 痴呆の臨床症状 : 痴呆に気づくポイント . 治療 2004 ; 86 : 1640-1644 .
- 7) 柏木哲也 , 栗原 怜<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 春日部内科クリニック ): アルミニウム・鉄沈着症 血液浄療法 ( 下 ) . 日本臨床 2004 ; 62 ( 臨時増刊号6 ): 400-405 .
- 8) 永山 寛 , 片山泰朗 : パーキンソン病の画像診断 . とれもろ 2004 ; 49 ( 15 ): P15-P15 .
- 9) 葉山修陽 : 低栄養性浮腫 . 日本医事新報 2004 ; 4196 : 85-85 .

- 10) 新井裕至, 片山泰朗: 特集: 脳, 神経疾患の新しい話題 脳梗塞急性期の診断と治療. 医学と薬学 2004 ; 52 (3): 297-305 .
- 11) 山崎峰雄, 片山泰朗: 特集: 痴呆と血管病変 血管性痴呆: 危険因子・画像・病理. 分子脳血管病 2004 ; 3 (4): 376-382 .
- 12) 北村 伸: 血管性因子とアルツハイマー型痴呆. Prog Med 2004 ; 24 : 2489-2492 .
- 13) 片山泰朗, 神谷達司, 桂研一郎, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門): 合同シンポジウムI 3) 急性期脳保護 急性期脳保護. 脳卒中 2004 ; 26 (4): 593-597 .
- 14) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: 知っておくべき高血圧の知識 高血圧でしばしばみられる症候 尿量異常 (多尿・乏尿) urine output disorder (polyuria and oliguria). 腎と透析 2004 ; 57 (臨時増刊号): 71-73 .
- 15) 永山 寛: 脳脊髄液検査法. 臨床精神医学 2004 ; 33 : 478-483 .
- 16) 木 亮, 佐藤英尊, 片山泰朗, 寺本 明, 隈崎達夫: 2. CT perfusion (脳循環測定とその適応). 脳循環代謝 2004 ; 16 (4): 241-252 .
- 17) 三品雅洋: 秋期特集: 各種疾患治療の要点 脳梗塞・ラクナ梗塞治療のポイント. Medicament News 2004 ; (1814): 7-9 .
- 18) 繁田雅弘, 川畑信也, 北村 伸, 川勝 忍, 本間 昭: この症例をどう見るか 専門医300人に聞きました: 症例呈示と回答結果から. 日本老年精神医学雑誌 (増刊号) 2004 ; 15 : 36-48 .
- 19) 五十嵐博中, 片山泰朗: 脳血管障害の治療と看護1 脳卒中の病態と必須の画像診断. Brain Nurs 2004 ; 20 : 806-813 .
- 20) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: 多発性嚢胞腎の合併症 (脳動脈瘤・僧帽弁逸脱症・消化管憩室). 腎臓財団腎臓 2004 ; 27 (2): 94-97 .
- 21) 飯野靖彦: 蛋白尿. 成人病と生活習慣病 2004 ; 34 : 265-267 .
- 22) 五十嵐博中, 片山泰朗: MRIによる脳梗塞急性期の病態診断(2): 灌流画像(PI)の撮影法その原理. Med Postgrad 2004 ; 42 : 360-371 .
- 23) 五十嵐博中, 片山泰朗: MRIによる脳梗塞急性期の病態診断(1): 拡散強調画像(DWI). Med Postgrad 2004 ; 42 : 204-213 .
- 24) 五十嵐博中, 片山泰朗: 急性期脳血管障害の新しい診断法. 臨床検査 2004 ; 48 : 1660-1664 .
- 25) 飯野靖彦: 細胞内カリウムの代謝と役割. 腎と透析 2004 ; 56 : 478-481 .
- 26) 飯野靖彦: K/DOQIについて: 日本との比較. 腎と透析 2004 ; 56 : 804-806 .
- 27) 飯野靖彦: 拮抗薬. 腎と透析 2004 ; 57 : 72-77 .
- 28) 勝又俊弥, 片山泰朗: イコサペント酸, ドコサヘキサエン酸. 日本臨床 増刊号 2004 ; 62 (12): 127-129 .
- 29) 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 成相 直<sup>2)</sup>, 木村裕一<sup>1)</sup>, 河村和紀<sup>1)</sup>, 大山雅史, 三品雅洋 (<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, <sup>2)</sup>東京医科歯科大学脳神経外科): 脳シグマ受容体を指標とした加齢・神経性疾患・脳腫瘍の新しいPET診断法. Innervision 2004 ; 19 (7): 21-21 .
- 30) 坂本静樹, 片山泰朗: 抗痴呆薬および脳循環・代謝改善薬. 成人病と生活習慣病 2005 ; 35 (1): 92-94 .
- 31) 上田佳恵, 藤田有子, 木嶋祥一郎, 水越元気, 高田大輔, 鎌野千佐子, 金子朋広, 内海甲一, 勝又俊弥, 桂研一郎, 飯野靖彦, 片山泰朗: Churg - Strauss症候群. 日医大医学会誌 2005 ; 1 : 21-25 .
- 32) 高田大輔, 飯野靖彦: 利尿薬の正しい使い方: 特殊病態 (腎性尿崩症, 特発性浮腫, 治療抵抗性浮腫, Ca代謝異常). 腎と透析 2005 ; 58 (2): 168-172 .
- 33) 西山 穰, 片山泰朗: 無症候性脳梗塞への対応. 日本医事新報 2005 ; (4219): 106-107 .
- 34) 桂研一郎, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (<sup>1)</sup>日本医科大学老人研究所生化学部門): 脳梗塞への蛋白治療の応用. 神経治療学 2005 ; 22 (2): 219-224 .
- 35) 片山泰朗: 免疫抑制薬, FK506 (tacrolimus). 神経治療学 2005 ; 22 (2): 199-205 .

- 36) 片山容一, 横田裕行, 飯野靖彦: 脳血管障害時の輸液. Pharma Medicine 2005 ; 75-84 .
- 37) 飯野靖彦: アンギオテンシン受容体拮抗薬. 成人病と生活習慣病 2005 ; 35 : 70-70 .
- 38) 飯野靖彦: カリウム (K) の働きとその重要性. 日病薬誌 2005 ; 41 : 373-376 .
- 39) 五十嵐博中, 片山泰朗: MRI による脳梗塞急性期の病態診断 (3): 拡散強調画像 (DWI), 灌流画像 (PI) を用いた急性期の病態診断. Med Postgrad 2005 ; 43 : 17-24 .
- 40) 飯野靖彦: クラッシュ症候群. 腎と透析 2005 ; 58 : 769-771 .
- 41) 藤田有子, 柏木哲也, 飯野靖彦: 酸塩基・電解質異常. 腎と透析 2005 ; 58 : 550-554 .

(3) 研究報告書:

- 1) 山崎峰雄, 坂本静樹, 大鳥達雄, 片山泰朗: 日本医科大学付属病院における「物忘れ外来」. 厚生労働省科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業「軽度認知障害の前方視的・後方視的研究」平成15年度総括・分担研究報告書 2004 ; pp116-118 .

(4) 症例報告:

- 1) Takei H, Komaba Y, Kitamura H, Hayama N, Osawa H, Furukawa T, Hasegawa O, Iino Y, Katayama Y : Aneurysmal subarachnoid hemorrhage in a patient with Wegener's granulomatosis . Clin Exp Nephrol 2004 ; 8 (3) : 274-278 .
- 2) 吉村明修<sup>1)</sup>, 張本渥智, 榎本達治<sup>2)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup>, 坂本静樹, 猪口孝一<sup>4)</sup>, 中込明裕, 金子朋広, 田村秀人<sup>4)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 森 修<sup>5)</sup>, 川本雅司<sup>6)</sup>, 杉崎祐一<sup>7)</sup>, 田村浩一<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室,<sup>2)</sup>内科学第4,<sup>3)</sup>内科学第1,<sup>4)</sup>内科学第3,<sup>5)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>6)</sup>病理学第1,<sup>7)</sup>付属病院病理部): 心筋虚血, 脾腫, 汎血球を呈し呼吸不全で死亡した不明熱の1例. 日本医科大学「内科」 Conference room 2004 ; 93 (4) : 753-765 .
- 3) 加藤健吾, 雨宮志門, 金川卓郎<sup>1)</sup>, 横田武彦<sup>1)</sup>, 岩本淳一<sup>1,2)</sup>, 須藤晃彦, 横倉稔明<sup>3)</sup>, 田中宏治<sup>3)</sup>, 河原田晴通<sup>3)</sup>, 駒田康成<sup>3)</sup>, 小野田昇<sup>3)</sup>, 伊藤 正<sup>4)</sup>, 柳内 登<sup>5)</sup>, 神谷達司, 島崎久仁子<sup>6)</sup>, 片山 泰朗(<sup>1)</sup>愛正会 田尻ヶ丘病院,<sup>2)</sup>東京医科大学内科学第5講座(霞ヶ浦病院),<sup>3)</sup>愛正会 やすらぎの丘温泉病院,<sup>4)</sup>重症心身障害児施設 水方苑,<sup>5)</sup>愛正会 田尻ヶ丘病院呼吸器科,<sup>6)</sup>自治医科大学生理学): 肺炎により急性肺障害を合併した慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 5症例に対するシベレスタットナトリウム (注射用エラスポール) の治療効果. 新薬と臨床 2004 ; 34 (53) : 1214-1214 .
- 4) 義澤雄介<sup>1)</sup>, 下田貴子<sup>1)</sup>, 田中紀子, 内海甲一, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): Fabry病の兄弟例. 臨床皮膚科学 2004 ; 58 (11) : 936-938 .
- 5) 高田大輔, 金子朋広, 葉山修陽, 飯野靖彦, 北村博司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 上田喜彦<sup>3)</sup>, 川村哲也<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1,<sup>2)</sup>同付属病院病理部,<sup>3)</sup>獨協医科大学越谷病院病理部,<sup>4)</sup>東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科): 溶連菌感染を契機に発症し, 非典型的な病理組織を呈した急性腎不全の1例. 腎と透析 2005 ; 58 (4) : 489-496 .

著 書

- 1) 片山泰朗, 坂本静樹: [分担] x. 神経 14 脳血管性痴呆・Alzheimer病. EBM 内科処方指針 (黒川清, 寺本民生編集), 2004 ; pp1022-1025, 中外医学社 .
- 2) 葉山修陽, 飯野靖彦: [分担] 3. 臨床工学 10) 免疫学. 臨床工学ポケットハンドブック (秋葉隆監修, 川崎忠行, 芝本隆編), 2004 ; pp628-634, 医薬ジャーナル社 .
- 3) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ): [共著] 第5章 脳疾患 4. パーキンソン病. クリニカルPETの最前線 (伊藤正敏, 遠藤啓吾, 畑 澤順, 福田 寛, 米倉義晴, 石渡喜一 編集), 2004 ; pp177-181, 先端医療技術研究所 .
- 4) 柏木哲也, 飯野靖彦: [共著] 特殊病態における急性腎不全 老人の輸液管理. 腎疾患・透析最新の治療,

2004 ; pp237-239 , 南江堂 .

- 5) 飯野靖彦 : [ 共著 ] 腎臓とアンチエイジング : 慢性腎不全 . アンチエイジング医学の基礎と臨床 ( 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会編 ) , 2004 ; pp277-280 , 日本抗加齢医学会 .
- 6) 飯野靖彦 : [ 分担 ] アルドステロン拮抗薬による腎疾患治療の可能性 . 腎疾患・透析 最新の治療 ( 飯野靖彦, 槇野博史監修 ) , 2004 ; pp10-13 , 南江堂 .
- 7) 飯野靖彦 : [ 分担 ] EBM・ガイドライン・治療指針 RENAAL . 腎臓ナビゲーター ( 浦 信行, 柏原直樹, 熊谷裕生, 竹内和久編 ) , 2004 ; pp190-191 , メディカルレビュー社 .
- 8) 飯野靖彦 : [ 共著 ] 糖尿病性腎症の高K血症 . 専門医に聞きたい糖尿病・糖尿病性腎症 Q & A101 ( 西沢良記, 石村栄治編 ) , 2004 ; pp136-137 , 医歯薬出版 .
- 9) 飯野靖彦 : [ 共著 ] 糖尿病性腎症・腎不全の浮腫 . 専門医に聞きたい糖尿病・糖尿病性腎症 Q & A101 ( 西沢良記, 石村栄治編 ) , 2004 ; pp138-139 , 医歯薬出版 .
- 10) 飯野靖彦 : [ 共著 ] 多発性嚢胞腎 . 疾患別最新処方 ( 第 4 版 ) ( 矢崎義雄・菅野健太郎監修 ) , 2004 ; pp568-569 , メディカルレビュー社 .
- 11) 金子朋広, 飯野靖彦 : [ 分担 ] 特集 イラストでわかる! 透析と腎不全の病態生理のハナシ 213 : 慢性腎不全のときになぜアシドーシスになるの? . 透析ケア ( 田園腎クリニック 前田ヨネ子監修 ) , 2005 ; pp18-19 , メディカ出版 .
- 12) 福地孝明 : [ 分担 ] 脳卒中の治療 evidence level と recommendation grade に基づいて . 千葉県病薬会報 , 2005 ; pp3-7 , 千葉県病院薬剤師会 .

#### 学会発表

##### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) 片山泰朗 : 脳梗塞慢性期の病態と治療 . 第 2 回北海道ストロークフォーラム , 2004 . 4 .
- 2) 片山泰朗 : 疾病就労 : 脳血管障害に対する企業内健康管理のポイント . 第 227 回関東健康管理研究会 , 2004 . 5 .
- 3) 片山泰朗 : 脳梗塞慢性期の病態と治療 : 特に抗血小板療法について . 第 35 回墨東循環器談話会記念講演会 , 2004 . 5 .
- 4) 桂研一郎 : 蛋白導入ドメインにより静脈投与可能とした FNK 蛋白 ( modified Bcl-xL ) による脳梗塞治療の試み . 第 7 回岡山スリースライドカンファレンス , 2004 . 5 .
- 5) 片山泰朗 : 脳虚血急性期における脳保護療法 . 大山脳虚血セミナー , 2004 . 7 .
- 6) 片山泰朗 : 脳血管障害 ( 脳梗塞 ) 後のマネジメント . 北海道脳研セミナー , 2004 . 7 .
- 7) 片山泰朗 : 脳保護の立場から : 脳卒中における血圧管理 . Value Expert Meeting , 2004 . 8 .
- 8) 葉山修陽 : 透析 macroangiopathy . 第 4 回慢性血管障害研究会 , 2004 . 9 .
- 9) 長尾毅彦 : 最新の脳梗塞急性期の治療指針 : 血栓止血学的アプローチ . 日本磁気共鳴医学会 MR 実践講座 , 2004 . 9 .
- 10) 片山泰朗 : 脳血管障害慢性期病態と治療 : 意欲低下とうつ状態について . Stroke Break Through 特別講演会 , 2004 . 10 .
- 11) 北村 伸 : アルツハイマー型痴呆と脳血管障害の関係 . 第 40 回日本老年医学会関東甲信越地方会 , 2004 . 10 .
- 12) 三品雅洋 : 神経内科と PET . ポジトロン本年のハイライト , 2004 . 12 .
- 13) 片山泰朗 : 高血圧と脳血管障害 : 予防と脳血管障害急性期・慢性期マネジメント . 高血圧学術講演会 , 2004 . 12 .
- 14) 長尾毅彦 : 血栓止血学的にみた虚血性脳血管障害の多様性 . 第 2 回 Japan Thrombosis Forum , 2005 . 1 .
- 15) 五十嵐博中 , 井田正博 , 酒巻雅典 , 水越元気 , 大久保誠二 , 長尾毅彦 , 片山泰朗 : 急性期脳梗塞における MRI を用いた治療法選択の可能性 : どの画像をもちいれればよいか . 第 17 回臨床 MR 脳機能研究会 , 2005 . 3 .

(2) 招待講演 :

- 1) 長尾毅彦 : Embolus of unknown origin . 第6回 Tokyo Ischemic Stroke Forum , 2004 . 7 .
- 2) 北村 伸 : アルツハイマー型痴呆治療の最前線と塩酸メマンチン . 第7回日本病院脳神経外科学会 , 2004 . 7 .

(3) 教育講演 :

- 1) 山崎峰雄 : 脳血管性痴呆・再考 . 第16回関東脳卒中研究会 , 2004 . 10 .

(4) シンポジウム :

- 1) 飯野靖彦 : シンポジウム3 . 腎疾患 : 検診から移植まで 2) 早期診断 . 第101回日本内科学会総会 , 2004 . 4 .
- 2) 山崎峰雄 , 江隅英作 , 中野今治 : ALS運動ニューロン死はapoptosisか . 第44回日本神経病理学会学術集会ワークショップ2 「運動ニューロン疾患 : 最近の動向」 , 2004 . 5 .
- 3) 大久保誠二 , 五十嵐博中 , 濱本 真 , 山口 博 , 片山泰朗 : 脳灌流 MRI における脳血流量の定量性 : 画像計算法の最適化 . 第13回日本脳ドック学会総会 , 2004 . 6 .
- 4) 桂研一郎 , 片山泰朗 : 未破裂動脈瘤の予後評価について . 治療成績の評価は内科医をも納得させるものか . 第23回 The Mt. Fuji Workshop on CVD , 2004 . 8 .
- 5) 桂研一郎 : 蛋白導入ドメインより静脈投与可能としたFNK蛋白 ( modified Bcl-xL ) による脳梗塞治療の試み . 日本医科大学産学連携公開シンポジウム : 蛋白質立体構造を基盤とした治療薬のデザインと開発 , 2004 . 11 .

(5) ランチョンセミナー :

- 1) 片山泰朗 : 脳血管障害と高血圧 . 第13回日本脳ドック学会総会 , 2004 . 6 .
- 2) 片山泰朗 : 脳梗塞急性期の画像診断と最新治療 . 第77回日本神経学会中国・四国地方会 , 2004 . 12 .

(6) 一般講演 :

- 1) Katsura K , Takahashi K , Watanabe M , Mori T<sup>1)</sup> , Igarashi H , Okubo S , Mizukoshi G , Asoh S<sup>1)</sup> , Ohta S<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門 ) : Striking amelioration using the FNK protein transduction technology and an immunosuppressant in a rat focal cerebral ischemia . 5th World Stroke Congress ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 6 .
- 2) Mizukoshi G , Igarashi H , Nagao T , Okubo S , Sakamaki M , Yokochi M<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>東京都立荏原病院神経内科 ) : Time dependent decline of NAA in the super acute stage of ischemic stroke : a human study . 5th World Stroke Congress ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 6 .
- 3) Igarashi H , Okubo S , Hamamoto M , Yamaguchi H , Sakamaki M , Katayama Y : Predicting the progressive motor deficits of deep white matter infarction with diffusion and perfusion magnetic resonance imaging . 5th World Stroke Congress ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 6 .
- 4) Nagao T , Ida M<sup>1)</sup> , Hirabayashi K<sup>1)</sup> , Katayama Y , Yokochi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都立荏原病院神経内科 ) : "Perfusion Perfusion Mismatch" in patients with acute ischemic stroke . 5th World Stroke Congress ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 6 .
- 5) Watanabe M , Katsura K , Takahashi K , Mizukoshi G , Katayama Y : Cancellation of ischemic tolerance phenomenon by specific mitochondrial ATP-dependant potassium channel inhibitor, 5-hydroxydecanoate . 5th World Stroke Congress ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 6 .
- 6) Okubo S , Igarashi H , Mizukoshi G , Sakamaki M , Katayama Y : Temporal profile of transient focal ischemia assessed by multi-parametric magnetic resonance imaging . 5th World Stroke Congress ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 6 .
- 7) Ishiwata A , Frey KA , Cross DJ , Kuhl DE , Minoshima S : Detection of early alzheimer changes : Focal peak versus milder diffuse abnormalities in association and posterior cingulate cortices . The 51st Society of Nuclear Medicine Annual meeting ( Philadelphia, USA ) , 2004 . 6 .
- 8) Mishina M , Ishiwata K , Ishii K , Kimura Y , Oda K , Sasaki T , Kawamura K , Ohyama M , Fukuchi T ,



- Kobayashi S , Katayama Y : Imaging of adenosine A<sub>2A</sub> receptors in the human brain by positron emission tomography with [C-11] TMSX . The 51st Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Philadelphia, USA ) , 2004 . 6 .
- 9) Suzuki M , Inoue K , Mitani K , Mishina M , Ishii K : Regional correlation of pre-and post-synaptic dopaminergic function in striatum of Lewy body disease : a voxel based analysis . The 51st Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Philadelphia, USA ) , 2004 . 6 .
  - 10) Mishina M , Ishiwata K , Ishii K , Kimura Y , Kawamura K , Oda K , Sasaki T , Kobayashi S , Katayama Y : [C-11] TMSX PET for mapping of adenosine A<sub>2A</sub> receptors in human brain . NeuroReceptor Mapping ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 7 .
  - 11) Mishina M , Ishiwata K , Ishii K , Kitamura S , Kimura Y , Kawamura K , Oda K , Sasaki T , Mitani K , Ohayama M , Fukuchi T , Kobayashi S , Katayama Y : Sigma<sub>1</sub> receptors in Parkinson ' s disease . NeuroReceptor Mapping ( Vancouver, Canada ) , 2004 . 7 .
  - 12) Amemiya S , Kamiya T , Nito C , Inaba T , Kato K , Ueda M , Katayama Y : Neuroprotective effects of a free radical scavenger edaravone by regulating Bax and Bcl-2 expression following transient focal ischemia in rats . 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience ( San Diego, USA ) , 2004 . 10 .
  - 13) Nagayama H , Hamamoto M , Ueda M , Katayama Y : The effect of ascorbic acid for The treatment of levodopa in elderly patients with parkinson ' s disease . 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience ( San Diego , USA ) , 2004 . 10 .
  - 14) Kato K , Shimazaki K , Yokota H , Oguro K , Miyawaki T , Kamiya T , Okada T , Nomoto T , Amemiya S , Inaba T , Katayama Y : Hippocampal Ca<sub>3</sub> area neurogenesis follows domoic acid induced apoptosis in adult rats . 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience ( San Diego, USA ) , 2004 . 10 .
  - 15) Nito C , Kamiya T , Saito A , Kamada H , Amemiya S , Inaba T , Chan PH , Katayama Y : The neuroprotective effects of a free radical scavenger combined with mild hypothermia following transient focal ischemia in rats . 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience ( San Diego, USA ) , 2004 . 10 .
  - 16) Midorikawa A , Kawamura M , Nagao T , Nakamura K : Preserved ability to detect moving object but not still objects in patients with posterior cortical atrophy . 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience ( San Diego, CA ) , 2004 . 10 .
  - 17) Suzuki M , Ishii K , Inoue K , Mishina M , Ishiwata K : Regional correlation of pre- and post-synaptic dopaminergic function in striatum of Lewy body disease . 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience ( San Diego, CA ) , 2004 . 10 .
  - 18) Okubo S , Igarashi H , Katayama Y : Free radical scavenger, Edaravone, ameliorates secondary ADC decline . The 2nd Korean Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 11 .
  - 19) Nishiyama Y , Katsumata T , Nakamura H , Katayama Y : The relationship between carotid haemodynamic parameters and ischemic stroke subtypes, and vascular risk factors . The 2nd Korean Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 11 .
  - 20) Kitamura S : Differential diagnosis between Alzheimer's disease and vascular dementia . The 2nd Korean Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 11 .
  - 21) Amemiya S , Kamiya T , Nito C , Inaba T , Ueda M , Katayama Y : Neuroprotective effects of a free radical scavenger edaravone by regulating Bax and Bcl 2 expression following transient focal ischemia in rats . The 2nd Korean Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama , Japan ) , 2004 . 11 .
  - 22) Mishina M , Komaba Y , Kobayashi S , Tanaka N , Abe A , Kominami S , Fukuchi T , Mizunari T , Hamamoto M , Teramoto A , Katayama Y : Free radical scavenging and hemorrhagic transformation in car-

- diogenic embolism . The 2nd Korean-Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ), 2004 . 11 .
- 23) Mishina M , Komaba Y , Kobayashi S , Tanaka N , Abe A , Kominami S , Fukuchi T , Mizunari T , Hamamoto M , Teramoto A , Katayama Y : Effect of a free radical scavenger, edaravone, on acute phase of lacunar infarct . The 2nd Korean-Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ), 2004 . 11 .
- 24) Katsura K , Katsumata T , Fukuchi T , Katayama Y : Comparison between ozagrel alone ozagrel plus edaravone therapy for acute stroke . The 2nd Korean - Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ), 2004 . 11 .
- 25) Suda S , Igarashi H , Arai Y , Sakamaki M , Andou J , Chishiki T , Katayama Y : The effect of edaravone ( MCI-186 ) against ischemic cerebral edema . The 2nd Korean-Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ), 2004 . 11 .
- 26) Mizukoshi G , Katsura K , Watanabe M , Katayama Y : Edaravone decreases plasma S100b index in acute cardioembolic stroke patients . The 2nd Korean - Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama, Japan ), 2004 . 11 .
- 27) Nagayama H , Hamamoto M , Ueda M , Katayama Y : The effect of ascorbic acid for the treatment of levodopa in elderly patients with parkinson ' s disease . The 1st International Symposium on Dopaminergic and Noradrenalinergic Mechanisms in Parkinson ' s Disease ( Osaka, Japan ), 2004 . 12 .
- 28) Nagayama H , Hamamoto M , Ueda M , Katayama Y : Initial symptoms of elderly onset parkinson's disease . 3rd International Parkinson's Disease Symposium in Takamatsu ( Takamatsu, Japan ), 2005 . 3 .
- 29) Nagao T , Mizumura S , Ota T , Ohyama M , Iizuka T , Tateno A , Arai H , Matsuda H , Honma A , Katayama Y , Yokochi M : Changes in cerebral blood flow in patients with dementia of Alzheimer type : Multicenter clinical study using new software, easy Z score system ( eZIS ) . 7th International Conference of Alzheimer Disease and Parkinson Disease ( Sorrento, Italy ), 2005 . 3 .
- 30) 大久保誠二 , 五十嵐博中 , 中井利仁 , 酒巻雅典 , 水越元気 , 片山泰朗 : Multi Parametric MRI による glycerol の虚血性脳浮腫に対する効果のモニタリング . 第16回臨床MR脳機能研究会 , 2004 . 3 .
- 31) 勝又俊弥 , 西山 穰 , 田中紀子 , 中村秀紀 , 大鳥達雄 , 片山泰朗 : 頸動脈エコーから見た都市部脳梗塞患者について . 第101回日本内科学会総会 , 2004 . 4 .
- 32) 中村秀紀 , 萩原 浩 , 櫻澤 誠 , 五十嵐博中 , 片山泰朗 : 頸動脈高度狭窄・閉塞を有する患者のPerfusion CT . 第101回日本内科学会総会 , 2004 . 4 .
- 33) 大久保誠二 , 五十嵐博中 , 濱本 真 , 山口 博 , 長尾毅彦 , 井田正博 , 水越元気 , 酒巻雅典 , 片山泰朗 : MRI から見た脳梗塞急性期の血栓溶解療法の効果 . 第101回日本内科学会総会 , 2004 . 4 .
- 34) 西山康裕 , 駒場祐一 , 中村秀紀 , 勝又俊弥 , 坂本静樹 , 桂研一郎 , 神谷達司 , 五十嵐博中 , 片山泰朗 : 脳梗塞後うつ病に対するニセルゴリンの影響について . 第101回日本内科学会総会 , 2004 . 4 .
- 35) 大鳥達雄 , 坂本静樹 , 水村 直 , 勝又俊弥 , 西山 穰 , 中村秀紀 , 片山泰朗 : 脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧 , 自律神経および脳血流量に対する効果 . 第101回日本内科学会総会 , 2004 . 4 .
- 36) 西山 穰 , 勝又俊弥 , 大鳥達雄 , 中村秀紀 , 田中紀子 , 片山泰朗 : 脳梗塞患者における asymmetric dimethylarginine ( ADMA ) と頸動脈エコー上のパラメーター及び危険因子の検討 . 第101回日本内科学会総会 , 2004 . 4 .
- 37) 鈴木正彦 , 井上聖啓 , 三品雅洋 , 三谷和子 , 石井賢二 : PET による Lewy 小体型痴呆と Parkinson 病の線条体ドパミン機能の相関的解析 . 第27回日本脳神経CI学会総会 , 2004 . 4 .
- 38) 櫻澤 誠 , 町田佳恵 , 三井亜希子 , 駒場祐一 , 山崎峰雄 , 勝又俊弥 , 坂本静樹 , 功刀しのぶ , 片山泰朗 : 多発性脳神経障害にて発症した肥厚性硬膜炎を伴う Wegener 肉芽腫症の1例 . 第517回日本内科学会関東地方会 , 2004 . 5 .
- 39) 山崎峰雄 , 長谷川成人 , 森 修 , 片山泰朗 , 小柳清光 : 大脳皮質と白質で異なるタウアイソフォーム : グア

- ム島パーキンソン痴呆症における観察．第44回日本神経病理学会学術集会，2004．5．
- 40) 山崎峰雄，森 修，山崎昌子，大秋美治，小柳清光，井上聖啓，片山泰朗：Nasu - Hakola病の一例検例．第44回日本神経病理学会学術集会，2004．5．
  - 41) 永山 寛，濱本 真，片山泰朗：多系統萎縮症患者におけるMIBG心筋シンチの経時的変化．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 42) 三品雅洋，石井賢二，石渡喜一，木村裕一，大山雅史，阿部 新，福地孝明，小林士郎，片山泰朗：[C 11]TMSX PETを用いた健常者脳内アデノシン A<sub>2A</sub>受容体分布の測定．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 43) 駒場祐一，三品雅洋，小林士郎，片山泰朗：皮質梗塞患者におけるipsilateral thalamic diaschisis：logistic解析による検討．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 44) 鈴木正彦，井上聖啓，三品雅洋，三谷和子，山之内博，石井賢二：Lewy小体型痴呆とParkinson病の線条体ドパミン機能の比較研究．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 45) 加藤健吾，神谷達司，島崎久仁子，上田雅之，雨宮志門，片山泰朗：砂ネズミ海馬の3-nitropropionic acid投与による虚血耐性獲得機構．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 46) 五十嵐博中，大久保誠二，酒巻雅典，水越元気，須田 智，片山泰朗：MRIを用いたグリセオール抗脳浮腫効果のメカニズムの検討．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 47) 桂研一郎，高橋久美子，五十嵐博中，大久保誠二，渡辺めぐみ，水越元気，森 隆，麻生定光，太田成男，片山泰朗：静脈投与を可能とするPTD (TAT) を連結させたsuper anti-apoptotic FNK fusion proteinによる脳梗塞縮小効果．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 48) 萩原 浩，中村秀紀，櫻澤 誠，五十嵐博中，片山泰朗：頸動脈高度狭窄・閉塞を有する患者のPerfusion CT．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 49) 渡辺めぐみ，桂研一郎，高橋久美子，水越元気，片山泰朗：選択的ミトコンドリアKATPチャンネル阻害薬による虚血耐性現象のキャンセレーション．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 50) 福地孝明，小南修史，三品雅洋，水成隆之，小林士郎，片山泰朗：頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘻の1例．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 51) 水越元気，桂研一郎，五十嵐博中，大久保誠二，酒巻雅典，渡辺めぐみ，片山泰朗：血中S100 で検討した急性期脳梗塞におけるtPAの効果．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 52) 山崎峰雄，長谷川成人，森 修，片山泰朗，小柳清光：グアム島パーキンソニズム痴呆症では大脳皮質と白質でタウアイソフォームが異なる．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 53) 大久保誠二，五十嵐博中，片山泰朗：Rat temporary focal ischemia に対するedaravoneの効果のMRI連続撮影による検討．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 54) 西山 穰，勝又俊弥，大鳥達雄，中村秀紀，片山泰朗：脳梗塞患者のABI 値と卒中の危険因子，病型，頸動脈エコーとの関連の検討．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 55) 野村浩一，山口 博，原 行弘，佐藤優子，藤野鉄平，濱本 真，片山泰朗：アルツハイマー病におけるShort latency afferent inhibition (SLAI) の検討．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 56) 長尾毅彦，井田正博，久松めぐみ，平林久吾，片山泰朗，横地正之：脳梗塞急性期における"Perfusion-Perfusion" Mismatch．第45回日本神経学会総会，2004．5．
  - 57) 柏木哲也，高橋みか子，中村美津恵，梅木いずみ，関口千春，松信精一，葉山修陽，飯野靖彦，片山泰朗：透析掻痒症と皮膚pHとの関係について．第47回日本腎臓学会学術総会，2004．5．
  - 58) 内海甲一，三橋 太，勝又俊弥，桂研一郎，飯野靖彦，加瀬良一，片山泰朗：古典的Fabry病患者に対する酵素補充療法．第47回日本腎臓学会学術総会，2004．5．
  - 59) 柏木哲也，斎藤サビーネ京子，松信精一，大森容子，小原功裕，須賀 優，大沢弘和，武井寛之，木村和義，窪田 実，飯野靖彦，片山泰朗：PD患者をめぐる医療連携．東京PD研究会，2004．5．

- 60) 西山 穰, 勝又俊弥, 片山泰朗: 脳梗塞患者のABI値と頸動脈硬化, 卒中危険因子, 臨床病型との関連. 第13回日本脳ドック学会総会, 2004. 6.
- 61) 岡村正哉, 平林久吾, 横地正之, 宮岸玲子, 井田正博: 妊娠中中毒症に合併したReversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS) の29歳女性例. 第169回日本神経学会関東地方会, 2004. 6.
- 62) 櫻澤 誠, 駒場祐一, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 片山泰朗: 肥厚性硬膜炎を伴い, 多発性脳神経障害を呈したWegener肉芽腫症の1例. 第169回日本神経学会関東地方会, 2004. 6.
- 63) 三品雅洋, 駒場祐一, 阿部 新, 福地孝明, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗: ラクナ梗塞におけるheparin-glycerol ozagrel とedaravone併用療法. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 64) 福地孝明, 小南修史, 三品雅洋, 阿部 新, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗: 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘻の1例. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 65) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: Perfusion CTにおける脳梗塞の予測指標の検討. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 66) 桂研一郎, 高橋久美子, 五十嵐博中, 大久保誠二, 渡辺めぐみ, 水越元気, 神谷達司, 森 隆, 麻生定光, 太田成男, 片山泰朗: 蛋白導入ドメインを連結させることにより静脈投与可能とさせたFNK蛋白による脳梗塞縮小効果. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 67) 酒巻雅典, 五十嵐博中, 大久保誠二, 山口 博, 水越元気, 片山泰朗, 井田正博, 長尾毅彦: 脳虚血超急性期におけるDWI高信号領域の, 再灌流後の体積変化と可逆性について. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 68) 濱本 真, 山口 博, 長尾毅彦, 片山泰朗: 頭痛を伴わない閃輝暗点例におけるatorvastatinの予防効果. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 69) 野本達也, 岡田尚巳, 島崎久仁子, 吉岡 徹, 去川睦子, 竹内公一, 桂研一郎, 小澤敬也, 片山泰朗: 脳卒中易発症性高血圧自然発症ラットを用いたInterleukin 10 遺伝子長期発現による高血圧性臓器障害の予防. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 70) 山口 博, 濱本 真, 野村浩一, 藤野鉄平, 高橋さやか, 片山泰朗: 高齢者脳梗塞患者における高感度血清CRP測定の意味的意義についての検討. 第46回日本老年医学会学術集会, 2004. 6.
- 71) 西山 穰, 勝又俊弥, 片山泰朗: 高齢脳梗塞患者における卒中危険因子と頸動脈エコー所見, 及びbaPWVの関連の検討. 第46回日本老年医学会学術集会, 2004. 6.
- 72) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: Perfusion CTにおける脳梗塞の予測指標の検討. 第46回日本老年医学会学術集会, 2004. 6.
- 73) 西山康裕, 駒場祐一, 勝又俊弥, 山崎峰雄, 坂本静樹, 神谷達司, 五十嵐博中, 片山泰朗: 脳梗塞慢性期患者におけるNicergolinのうつ状態に対する効果について. 第46回日本老年医学会学術集会, 2004. 6.
- 74) 田畑一秀, 今川敬子, 榎本裕之, 市川 匠, 松橋佳代, 山形幸子, 西浦涼子, 椎屋優子, 葉山修陽, 飯野靖彦: 透析アミロイドに対しリクセルとonline HDFにより臨床症状の改善を認めた1症例. 第49回日本透析医学会学術集会, 2004. 6.
- 75) 御園恒一郎, 久島英二, 片山靖史, 木村友洋, 田口雪江, 坪井成美, 三井亜希子, 岸雄一郎, 橋本和政, 葉山修陽: 抗リウマチ薬(メトトレキサート)の投与により汎血球減少をきたした透析患者の1症例. 第49回日本透析医学会学術集会, 2004. 6.
- 76) 都筑優子, 上田佳恵, 高田大輔, 鎌野千佐子, 金子朋広, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 急性間質性肺炎による呼吸不全に対し, 多剤併用療法にて救命し得た維持血液透析患者の1例. 第49回日本透析医学会学術集会, 2004. 6.
- 77) 鈴木実子, 松橋佳代, 山形幸子, 永島久美, 西浦涼子, 椎屋優子, 今川敬子, 榎本裕之, 市川 匠, 田畑一秀, 木嶋祥一郎, 葉山修陽, 飯野靖彦: 血栓形成に伴った虚血性変化による足趾潰瘍: 壊疽に対する人口炭酸泉浴の効果が得られた1例. 第49回日本透析医学会学術集会, 2004. 6.

- 78) 三井亜希子, 橋本和政, 岸雄一郎, 葉山修陽, 北村博司, 飯野靖彦, 片山泰朗: 治療抵抗性の微小変化型ネフローゼ症候群に対し, LDLアフェレーシス (LDL-A) が著効した1例. 第49回日本透析医学会学術集会, 2004. 6.
- 79) 吉田明日香, 上田雅之, 山崎峰雄, 永山 寛, 中村秀紀, 駒場祐一, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 白血球破壊性血管炎による多発単神経炎と紫斑を呈したシェーグレン症候群の1例. 第518回日本内科学会関東地方会, 2004. 6.
- 80) 福地孝明, 小南修史, 水成隆之, 酒井直之, 阿部 新, 三品雅洋, 水谷暢秀, 小林士郎, 片山泰朗: 著明な髄液圧亢進を示し, 視力障害を認めた上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例. 第5回2004年千葉頭痛研究会, 2004. 6.
- 81) 斎藤サビーネ京子, 塚本和久, 飯塚美穂, 高田大輔, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: クリプトコッカス皮膚症を合併したループス腎炎の1例. 第49回日本透析医学会学術集会, 2004. 6.
- 82) 水越元気, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞体積・血中S100 値へのEdaravoneの影響. 第8回脳梗塞フォーラム2004, 2004. 7.
- 83) 三品雅洋, 駒場祐一, 田中伸幸, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 酒寄 修, 濱本 真, 寺本 明, 片山泰朗: ラクナ梗塞におけるエダラボンの効果: ロジスティック回帰分布を用いた検討. 第2回フリーラジカルと脳疾患 東日本研究会, 2004. 7.
- 84) 飯塚 聡, 西山康裕, 水越元気, 永山 寛, 西山 穰, 駒場祐一, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 坂本静樹, 片山泰朗: 難治性痙攣発作を呈した低身長Kinefelter症候群の1例. 第519回日本内科学会関東地方会, 2004. 7.
- 85) 大久保誠二, 五十嵐博中, 片山泰朗: Rat自家血塞栓モデルにおける血栓溶解療法とFK506の併用効果. 第7回脳浮腫頭蓋内圧研究会, 2004. 7.
- 86) 永山 寛, 濱本 真, 上田雅之, 片山泰朗: パーキンソン病患者のMIBG心筋シンチグラフィーの経時的変化. 第4回パーキンソン病フォーラム, 2004. 8.
- 87) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 福地孝明, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン研究施設, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): [C-11]TMSX PETによるアデノシン A<sub>2A</sub> 受容体分布の測定. 第16回日本脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 88) 福地孝明, 小南修史<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 阿部 新, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 視力障害, 頭痛を訴え, 著明な髄液圧亢進を認めた上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例. 第16回日本脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 89) 神谷達司, 仁藤智香子, 上田雅之, 加藤健吾, 雨宮志門, 稲葉俊東, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるPoly (ADP-ribose) polymerase (PARP) の神経保護効果の検討. 第16回日本脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 90) 桂研一郎, 高橋久美子, 渡辺めぐみ, 五十嵐博中, 大久保誠二, 水越元気, 森 隆<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門): 蛋白導入ドメインを連結し静脈投与を可能としたFNK蛋白および免疫抑制薬との併用による脳梗塞縮小効果. 第16回日本脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 91) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 高橋久美子, 水越元気, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門): 蛋白導入ドメインを結合したFNK蛋白とFK506併用投与の細胞死抑制効果およびそのメカニズム. 第16回日本脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 92) 水越元気, 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 片山泰朗: 脳梗塞体積・血中S100 値へのEdaravoneの影響. 第16回日本脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 93) 五十嵐博中, 井田正博<sup>1)</sup>, 酒巻雅典, 水越元気, 大久保誠二, 長尾毅彦, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>東京都立荏原病院神経内科): 急性期脳梗塞におけるMRIを用いたtherapeutic decision making: どの画像をもちいれればよいか?. 第16回日本脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 94) 中村秀紀, 萩原 浩, 櫻澤 誠, 勝又俊弥, 西山 穰, 大鳥達雄, 五十嵐博中, 片山泰朗: 頸動脈高度狭窄・閉塞を有する患者のPerfusion CT. 第16回脳循環代謝学会総会, 2004. 9.
- 95) 平出智晴, 三品雅洋, 酒寄 修, 濱本 真, 片山泰朗: 小脳症状で発症し前頭葉病変を呈したADEMの1例.

- 第170回日本神経学会関東地方会，2004．9．
- 96) 櫻澤 誠，上田雅之，駒場祐一，山崎峰雄，勝又俊弥，片山泰朗：緩徐進行性に小脳失調，難聴を呈しMRI T2<sup>1</sup>にて脳表へモジデリン沈着症の診断に至った1例．第170回日本神経学会関東地方会，2004．9．
- 97) 斎藤サビーネ京子，塚本和久，飯塚美穂，高田大輔，金子朋広，山崎峰雄，駒場祐一，勝又俊弥，飯野靖彦，片山泰朗：皮膚クリプトコッカス症を合併した全身性エリテマトーデスの1例．第520回日本内科学会関東地方会，2004．9．
- 98) 三井亜希子，江面陽一<sup>1)</sup>，中島敏晶<sup>1)</sup>，藤田有子，飯野靖彦，江見 充<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>(1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 高脂血症患者における血清脂質値とAMP - activated protein kinase ( AMPK ) 遺伝子の遺伝子多型との相関．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 99) 内海甲一，三橋 太<sup>1)</sup>，田中紀子，駒場祐一，勝又俊弥，桂研一郎，飯野靖彦，加瀬良一<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>(1)</sup>付属病院中央検査部): Fabry 病の酵素補充療法．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 100) 大久保誠二，五十嵐博中，片山泰朗：MRIを用いた脳梗塞急性期における治療効果の客観的予測．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 101) 藤田有子，三井亜希子，中島敏晶，斎藤 実，武城英明，斎藤 康，飯野靖彦，片山泰朗，江面陽一，江見 充：アポリポ蛋白B48受容体遺伝子の遺伝子多型と高コレステロール血症者における血清総コレステロール値との相関．第49回日本人類遺伝学会，2004．10．
- 102) 三井亜希子，江面陽一，中島敏晶，藤田有子，飯野靖彦，片山泰朗，江見 充：高脂血症患者における血清脂質値とAMP activated protein kinase ( AMPK ) 遺伝子の遺伝子多型との相関．第49回日本人類遺伝学会大会，2004．10．
- 103) 角南英子，水越元気，永山 寛，山崎峰雄，駒場祐一，勝又俊弥，坂本静樹，片山泰朗：両側難聴で発症した脳幹・小脳梗塞の1例．第521回日本内科学会関東地方会，2004．10．
- 104) 萩原 浩，坂本静樹，勝又俊弥，片山泰朗：Mycoplasma 肺炎後発症したADEMの1例．第9回日本神経感染症学会，2004．10．
- 105) 三井亜希子，橋本和政，山本真功，岸雄一郎，葉山修陽，北村博司，飯野靖彦，片山泰朗：免疫吸着およびエンドキサンバルス療法が著効した高齢発症のループス腎炎の1例．第34回日本腎臓学会東部学術大会，2004．11．
- 106) 塚本和久，上田雅之，駒場祐一，山崎峰雄，勝又俊弥，石井賢二，片山泰朗：pramipexoleにて臨床症状の改善を呈した線条体黒質変性症の1例．第171回日本神経学会関東地方会，2004．11．
- 107) 白田和弘，有井一正，酒巻雅典，上田雅之，駒場祐一，福地孝明，北村 伸，片山泰朗：短期間に増大した脳膿瘍の1例．第32回日本頭痛学会総会，2004．11．
- 108) 斎藤浩一，駒場祐一，勝又俊弥，田口志保，新井裕至，山口 博，山崎峰雄，片山泰朗：咽頭膿瘍が原因となり硬膜下膿瘍を発症した1例．第32回日本頭痛学会総会，2004．11．
- 109) 櫻澤 誠，水越元気，長尾毅彦，井田正博，大内牧子，岡村正哉，横地正之，片山泰朗：脳幹部梗塞における椎骨脳底動脈解離(1)：頻度および診断法．第32回日本頭痛学会総会，2004．11．
- 110) 長尾毅彦，水越元気，井田正博，岡村正哉，平林久吾，大竹敏之，片山泰朗，横地正之：脳幹部梗塞における椎骨脳底動脈解離(2)：頭痛，頸部痛は主要症状か？．第32回日本頭痛学会総会，2004．11．
- 111) 濱本 真，片山泰朗：頭痛を伴わない前兆について(2)．第32回日本頭痛学会総会，2004．11．
- 112) 金子朋広，飯塚美穂，斎藤京子，高田大輔，鎌野千佐子，内海甲一，北村博司，飯野靖彦，片山泰朗：長期に観察しえたパラプロテイン血症に合併したImmunotactoid腎症の1例．第34回日本腎臓学会東部学術大会，2004．11．
- 113) 三品雅洋，石渡喜一，石井賢二，福地孝明，小林士郎，片山泰朗：[C-11]TMSX PETを用いた健常者脳内アデノシン A<sub>2A</sub>受容体分布の測定．第44回日本核医学会総会，2004．11．
- 114) 長縄美香，木村裕一，三品雅洋，成相 直，織田圭一，石井賢二，石渡喜一：参照領域フリーな動脈血採血省

- 略法を用いた Logan plot による脳神経受容体の画像化．第44回日本核医学会総会，2004．11．
- 115) 水越元気，勝又俊弥，駒場祐一，桂研一郎，片山泰朗：診断に苦慮した若年性多発脳梗塞の1例．第4回オザグレル学術講演会，2004．11．
- 116) 桂研一郎，勝又俊弥，福地孝明，片山泰朗：オザグレル単独およびオザグレル+エダラボン併用療法の治療効果の比較：前向き研究．第4回オザグレル学術講演会，2004．11．
- 117) 岡村正哉，長尾毅彦，横地正之，井田正博：脳塞栓症急性期：心内血栓検索におけるマルチスライスCTの有用性．第4回城南脳卒中懇談会，2004．11．
- 118) 上田佳恵，木嶋祥一郎，藤田有子，鎌野千佐子，金子朋広，山崎峰雄，駒場祐一，勝又俊弥，飯野靖彦，片山泰朗：可逆性白質病変を合併したChurg - Strauss症候群の1例．第522回日本内科学会関東地方会，2004．11．
- 119) 上田雅之，神谷達司，五十嵐博中，片山泰朗：脳梗塞の診断・治療の進歩 MRI (DWI, PWD)．日本医科大学医学会第114回例会，2004．11．
- 120) 西山 穰，勝又俊弥，片山泰朗：脳梗塞の診断の進歩：頸動脈エコーの有用性．日本医科大学医学会第114回例会，2004．11．
- 121) 斎藤浩一，田口志保，山口 博，新井裕至，山崎峰雄，駒場祐一，勝又俊弥，片山泰朗：智歯周囲炎を契機に発症した多発性硬膜下膿瘍の1例．第523回日本内科学会関東地方会，2004．12．
- 122) 岡村正哉，長尾毅彦：心原性脳塞栓症におけるマルチスライスCT検査．第7回エンボラス研究会，2004．12．
- 123) 小野田教高，柏木哲也，中村 正，栗原 怜：副甲状腺インターベーション治療．第16回腎とViTD研究会ワークショップ，2005．2．
- 124) 野村浩一，野本達也，瀬田健博，片山泰朗：特異な脳血流異常を認めた血栓性血小板減少性紫斑病の一部検例．第175回日本内科学会東北地方会，2005．2．
- 125) 國松淳和，酒巻雅典，新井裕至，山崎峰雄，駒場祐一，勝又俊弥，片山泰朗：両側耳介軟骨炎を合併した非ヘルペス性辺縁系脳炎にステロイドパルス療法が奏効した1例．第524回日本内科学会関東地方会，2005．2．
- 126) 吉田明日香，上田雅之，駒場祐一，山崎峰雄，勝又俊弥，片山泰朗：白血球破壊性血管炎による紫斑と多発単神経炎を呈したシェーグレン症候群の1例．第172回日本神経学会関東地方会，2005．3．
- 127) 岡村正哉，野原千洋子，長尾毅彦，片山泰朗，横地正之：多発性硬化症の再発予防における ibudilast の有用性．第1回東京脳卒中診断治療研究会，2005．3．
- 128) 福地孝明，小南修史，小林士郎，片山泰朗：日本医科大学千葉北総病院脳神経センター開設10年間で経験した硬膜動静脈瘻12例について．第1回東京脳卒中診断治療研究会，2005．3．
- 129) 大久保誠二，片山泰朗：多発性脳梗塞後の諸症状にIbudilastが有用であった1例．第1回東京脳卒中診断治療研究会，2005．3．
- 130) 菅野華子，水越元気，永山 寛，藤田有子，山崎峰雄，駒場祐一，勝又俊弥，片山泰朗：多発性脳梗塞と鑑別困難だった粟粒結核の1例．第525回日本内科学会関東地方会，2005．3．
- (7) ランチセミナー：
- 1) 北村 伸：SPECTによる神経疾患の診断．第45回日本神経学会総会，2004．5．
- (8) 班会議講演：
- 1) 五十嵐博中，井田正博，酒巻雅典，水越元気，大久保誠二，長尾毅彦，片山泰朗：脳梗塞急性期MRIによる治療決定の最適化．平成15年度循環器病研究委託費14公-1 超急性期虚血性脳血管障害に対する非侵襲的診断・モニタリングシステムに関する研究 循環器病センター班会議，2004．11．
- 2) 山崎峰雄，新井裕至，片山泰朗：日本医科大学付属病院第2内科物忘れ外来におけるMCI．長寿科学総合研究事業 軽度認知障害の前方視的・後方視的研究班会議，2005．1．

## [ 付属病院リウマチ科 ]

### 研究概要

リウマチ科の研究課題は、関節リウマチ (RA)・全身性変形性関節症 (GOA) などのリウマチ性疾患患者に対し、薬物治療、外科治療、リハビリテーション治療、そして精神的指導等のトータルマネジメントと、滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎等の膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御である。より具体的に述べれば、現在我々は臨床研究として、1) 耐久性を追及した人工膝関節のシステムの開発、2) 時に死に至る術後合併症である肺塞栓症の病態解明と予防、3) リウマチ性疾患患者の全人的ケアの根源である心とからだ、心と病の関連を客観的に知るため、精神・神経・内分泌システムに関する研究などを行っている。

一方、基礎的研究としては、1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与、2) 関節リウマチの骨粗鬆症の成立機序の解明とその制御の基礎的研究、3) 関節リウマチの遺伝子治療、4) 全身性エリテマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御、5) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析、TH1/TH2誘導に関する分子群の同定とその機能、6) GOA 発症における免疫学的機序の解明、などである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 追加分原著：

- 1) Tokuhira S<sup>1,2)</sup>, Yamada R<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>3)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Furukawa H<sup>2)</sup>, Nagashima M, Yoshino S, Mabuchi A<sup>4)</sup>, Saito S<sup>5)</sup>, Tsunoda T<sup>6)</sup>, Nakamura Y<sup>7,8)</sup>, Yamamoto K<sup>13)</sup> ( <sup>1)</sup>Laboratory for Rheumatic Diseases, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), <sup>2)</sup>Sankyo, <sup>3)</sup>Department of Allergy and Rheumatology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, <sup>4)</sup>Laboratory for Bone and Joint Diseases, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), <sup>5)</sup>Laboratory for Genotyping, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), <sup>6)</sup>Laboratory for Medical Informatics, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), <sup>7)</sup>Laboratory of Molecular Medicine, Human Genome Center, Institute of Medical Science, University of Tokyo, <sup>8)</sup>Research Group for Personalized Medicine, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN)): An intronic SNP in a RUNX1 binding site of SLC 22 A 4, encoding an organic cation transporter, is associated with rheumatoid arthritis. *Nature Genetics* 2003 ; 35 ( 4 ): 341-348 .

##### (2) 原著：

- 1) Nagashima M, Takahashi H, Kakumoto S, Miyamoto Y, Yoshino S : Total ankle arthroplasty for deformity of the foot in patients with rheumatoid arthritis using the TNK ankle system : clinical results of 21 cases. *Modern Rheum* 2004 ; 14 ( 1 ): 48-53 .
- 2) Kuribayashi H<sup>1)</sup>, Wakabayashi A<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Kaneko H, Norose Y<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Wang J<sup>2)</sup>, Kumagai Y<sup>1)</sup>, Margulies David H<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Molecular Biology Section Laboratory of Immunology, NIAID NIH. ): Resistance to viral infection by intraepithelial lymphocytes in HIV-1 P18-110-specific T-cell receptor transgenic mice. *Biochem Biophys Res Commun* 2004 ; 316 ( 2 ): 356-363 .
- 3) Kanamaru F<sup>1)</sup>, Iwai H<sup>1)</sup>, Ikeda T<sup>1)</sup>, Nakajima A, Ichikawa I<sup>1)</sup>, Azuma M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学分子免疫 ): Expression of membrane-bound and soluble receptor activator of NF- $\kappa$ B ligand (RANKL) in human T cells. *Immunol. Lett* 2004 ; 94 ( 3 ): 239-246 .



- 4) Tanno M, Nakajima A, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Yoshino S ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): Effect of general anesthesia on the abnormal immune response in patients with rheumatoid arthritis . Clin. Exp. Rheumatol 2004 ; 22 ( 6 ): 727-732 .
- 5) Nagashima M, Shu G, Yamamoto K, Yamahatsu S, Yoshino S : Efficacy of various anti rheumatic drugs used in single and combination treatments and comparison of their efficacy for the first and second stages of treatment . Clin Exp Rheum 2005 ; 23 ( 1 ): 27-35 .
- 6) 中島敦夫 : リウマチ性多発筋痛症の診断と治療 . 日本医事新報 2004 ; 4185 ( 7 ): 90-91 .
- 7) 山本 要, 永島正一, 小泉信人<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>内科学第2, <sup>3)</sup>病理学第2 ): 全身性アミロイドシスを合併した関節リウマチに血漿交換が有効であった1症例 . リウマチ科 2005 ; 33 ( 1 ): 102-107 .

(3) 総説 :

- 1) 永島正一, 吉野槇一 : 関節リウマチ : 最新治療とガイドラインー etanercept . カレントセラピー 2004 ; 2 ( 1 ): 34-38 .
- 2) 永島正一, 藤森十郎, 吉野槇一 : フィン付き髄内釘による足関節固定術 . 関節外科 2005 ; 24 ( 2 ): 90-96 .

(4) 症例報告 :

- 1) 平松久弥子<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 林 宏紀<sup>1)</sup>, 鈴木 学<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 坂根 学, 金子礼志, 川本雅司<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>病理学第1 ): リウマチ性関節炎に伴う間質肺炎の急性憎悪に対する治療中に両側気胸, 肺アスペルギローマを合併した1例 . The Lung Perspectives 2004 ; 12 ( 3 ): 238-243 .
- 2) 山初晋也<sup>1)</sup>, 吉岡太郎<sup>1)</sup>, 平井 博<sup>1)</sup>, 森下 実, 松岡利明, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup>白十字総合病院整形外科 ): 観血的整備を必要とした母趾指節間関節背側脱臼の1例 . 整形外科 2004 ; 55 ( 7 ): 828-829 .
- 3) 坂根 学, 中島敦夫, 金子礼志, 松崎 剛, 平野大地, 岩川賀世, 竹之内研二, 永島正一, 吉野槇一, 辰口篤志<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第3 ): Collagenous colitisを合併したSLEの1症例 . 関東リウマチ 2005 ; 38 ( 38 ): 215-222 .

(5) 追加症例報告 :

- 1) 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂根 学, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>3)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 青木 宏<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 金子礼志, 清水 章<sup>3)</sup>, 清野精彦<sup>5)</sup>, 高野照夫 ( 5 ) ( <sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>内科学第2, <sup>3)</sup>病理学第1, <sup>4)</sup>病理学第2, <sup>5)</sup>内科学第1 ): 関節リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例 . 内科 2003 ; 92 ( 5 ): 951-959 .

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 中島敦夫 : 日本医師会生涯教育講座「関節痛, 腰痛を識る, 診る, 治す: 関節リウマチ」. 第2回日本医科大学医師会生涯教育講座, 2005 . 3 .

(2) シンポジウム :

- 1) 丹野 亮, 田中秀和<sup>1)</sup>, 太田久彦<sup>2)</sup>, 小林 慎<sup>3)</sup>, 立原章年, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup>国立療養所神奈川病院リウマチ科, <sup>2)</sup>日本医科大学医療管理学, <sup>3)</sup>クレコンリサーチ & コンサルティング ): 生物学的製剤とDMARDs治療の費用対効果分析 ( リウマチ治療をとりまく最近の医療経済の問題 ). 第48回日本リウマチ学会総会, 2004 . 4 .

(3) ワークショップ :

- 1) 原まさ子<sup>1)</sup>, 安倍 達<sup>2)</sup>, 菅原幸子<sup>3)</sup>, 水島 裕<sup>4)</sup>, 星 恵子<sup>4)</sup>, 入交昭一郎<sup>5)</sup>, 橋本博史<sup>6)</sup>, 吉野槇一, 松井宣夫<sup>7)</sup>, 延永 正<sup>8)</sup>( <sup>1)</sup>東京女子医大膠原病リウマチ痛風センター, <sup>2)</sup>埼玉医大総合医療センター, <sup>3)</sup>東京女子医大, <sup>4)</sup>聖マリアンナ医大難治研センター, <sup>5)</sup>駒沢病院内科, <sup>6)</sup>順天堂大膠原病内科, <sup>7)</sup>名古屋総合リハビリセンター, <sup>8)</sup>上人病院内科 ): 新規抗リウマチ薬 T-614 の薬効評価 : 臨床第III相2重盲検比較試験 . 第48回

日本リウマチ学会総会，2004．4．

- 2) 立原章年，金 恩恵<sup>1)</sup>，松岡利明，川並汪一<sup>1)</sup>，吉野槇一<sup>(1)</sup>老人病研究所病理部門): リウマチ肺と間質性肺炎の肺胞毛細血管における免疫組織学的リモデリング．第48回日本リウマチ学会総会，2004．4．
  - 3) 金子礼志<sup>1)</sup>，林 素子<sup>2)</sup>，平井倫世，小笠原均<sup>3)</sup>，関川 巖<sup>4)</sup>，吉野槇一，橋本博史<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学浦安病院内科，<sup>2)</sup>日本福祉大学福祉学部保健福祉学科，<sup>3)</sup>順天堂大学膠原病内科，<sup>4)</sup>順天堂伊豆長岡病院内科): リウマチ患者におけるソーシャルサポートとニーズの把握に関する調査．第48回日本リウマチ学会総会，2004．4．
  - 4) 永島正一，高橋 央，石神伸，勝又信一，周 豪奎，吉野槇一：関節リウマチにおける各種DMARDs療法の有用性の比較：生存曲線を中心に（第二報）．第48回日本リウマチ学会総会，2004．4．
  - 5) 高橋 央，永島正一，丹野 亮，松崎剛，斉藤公久，吉野槇一：1次治療からスイッチしたDMARDsの二次治療以降の有用性（第三報）．第48回日本リウマチ学会総会，2004．4．
  - 6) 周 豪奎，永島正一，長谷川潤<sup>1)</sup>，山本 要，坂根学，吉野槇一：アジュバント関節炎ラットの骨密度減少に關与する破骨細胞とbisphosphonateの作用．第48回日本リウマチ学会総会，2004．4．
  - 7) 松崎 剛，中島敦夫，高橋 央，石神 伸，丹野 亮，周 豪奎，坂根 学，吉野槇一，鈴木秀典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学): 楽しい笑いが関節リウマチ（RA）患者の血清サイトカインに与える影響．第48回日本リウマチ学会総会，2004．4．
  - 8) 高橋 央，周 豪奎，松崎 剛，丹野亮，石神 伸，中島敦夫，永島正一，吉野槇一：生物学的製剤投与患者の手術時対策．第48回日本リウマチ学会総会，2004．4．
- (4) 一般講演：
- 1) Nagashima M，Kato K，Matsuzaki T，Yoshino S：A modified Hohmann method for hallux valgus and telescoping osteotomy for lesser toe deformities in patients with rheumatoid arthritis．The 8th Combined symposium of ARO with the Japanese Society for Rheumatoid Arthritis Surgery（日本（奈良）），2004．10．
  - 2) 吉岡太郎<sup>1)</sup>，平井 博<sup>1)</sup>，山初晋也<sup>1)</sup>，吉野槇一<sup>(1)</sup>白十字総合病院整形外科): 橈骨遠位端骨折に創外固定と骨ペーストを使用したアライメント不良例の検討．第4回茨城骨ペースト研究会，2004．5．
  - 3) 松岡利明，金 恩恵<sup>1)</sup>，瀧澤優子<sup>1)</sup>，谷内七三子<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門): 肺血栓塞栓症の動物モデル作成の試み 血栓と内皮細胞の形態的特徴．日本病理学会，2004．6．
  - 4) 森下 実，永島正一，高橋 央，石神 伸，吉野槇一：関節リウマチ患者に対する同種保存骨及び十字プレートを用いた人工股関節再置換術の短期成績．第33回リウマチの外科研究会，2004．8．
  - 5) 中村 洋<sup>1)</sup>，吉野槇一<sup>(1)</sup>聖マリアンナ医科大学難治研センター): 多関節滑膜切除術の関節リウマチ活動性に対する長期成績．第33回リウマチの外科研究会，2004．8．
  - 6) 森 伸哉<sup>1)</sup>，伊賀 徹<sup>1)</sup>，小田順二<sup>1)</sup>，長谷川潤<sup>2)</sup>，松浦美喜雄<sup>2)</sup>，小山泰朗，吉野槇一<sup>(1)</sup>東京都立府中病院整形外科，<sup>2)</sup>東京都立府中病院 リウマチ科): 人工膝関節置換術後の大腿骨顆上骨折の1例．第33回リウマチの外科研究会，2004．8．
  - 7) 竹之内研二，永島正一，立原章年，松崎 剛，森下 実，吉野槇一：関節リウマチ後足部障害に対する人工足関節置換術後の中期臨床成績．第33回リウマチの外科研究会，2004．8．
  - 8) 森 伸哉<sup>1)</sup>，伊賀 徹<sup>1)</sup>，小田順二<sup>1)</sup>，長谷川潤<sup>2)</sup>，松浦美喜雄<sup>2)</sup>，小山泰朗，吉野槇一<sup>(1)</sup>都立府中病院整形外科，<sup>2)</sup>同リウマチ科): 人工膝関節置換後の大腿骨顆上骨折の1例．第33回リウマチの外科研究会，2004．8．
  - 9) 石神 伸，永島正一，高橋 央，立原章年，松崎 剛，山本宗宏，森下 実，坂根 学，竹之内研二，吉野槇一：THA 臼蓋再置換術の中期成績．第32回日本リウマチ・関節外科学会，2004．10．
  - 10) 松崎 剛，永島正一，高橋 央，石神 伸，山本宗宏，森下 実，坂根 学，竹之内研二，吉野槇一：Hy-Flex I型人工膝関節置換術の中間成績：脛骨ポリエチレンインサートの摩耗や破損について．第32回日本リウマチ・関節外科学会，2004．10．

- 11) 坂根 学, 中島敦夫, 岩川賀世, 吉野槇一: 多中心性細網組織球症の1例. 第7回東京リウマチ膠原病研究会, 2004. 11.
  - 12) 坂根 学, 中島敦夫, 勝又信一, 吉野槇一: 全身性エリテマトーデ(SLE)に多中心性細網組織球症(MRH)を合併した1例. 第15回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 2004. 12.
  - 13) 竹之内研二, 坂根 学, 中島敦夫, 吉野槇一: Infliximab無効でEtanerceptが有効であった関節リウマチの1症例. 第15回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 2004. 12.
  - 14) 鎌田孝一<sup>1)</sup>, 上條清嗣<sup>1)</sup>, 中島敦夫, 八木田秀雄<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学医学部 免疫学): コラーゲン誘導関節炎(CIA)モデルにおけるTWEAKの機能解析. 第34回日本免疫学会総会, 2004. 12.
- (5) poster :
- 1) Tanno M, Tanaka H, Ota H, Tachihara A, Yoshino S : Treatment Practice Patterns and Outcomes for Rheumatoid Arthritis in Japan : Results from a Cross - sectional Study at a Tertiary Care Facility . EULAR ( Berlin ), 2004 . 6 .
  - 2) Tachihara A : Survey on Expenses Paid by Patients with RA in Japan . Annual European Congress of Rheumatology “ Eular 2004 “ ( Berlin ), 2004 . 6 .
  - 3) Matsuzaki T, Nakajima A, Ishigami S, Tanno M, Takahashi H, Suzuki H<sup>1)</sup>, Yoshino Shin-Ichi (<sup>1)</sup>薬理学): Mirthful laughter differentially affects serum pro- and anti- inflammatory cytokines levels depend on its activity in patients with rheumatoid arthritis . 68 st National Meeting, American College of Rheumatology ( San Antonio ), 2004 . 10 .
  - 4) Tachihara A : Angiogenetic and Immunohistochemical Properties of Endothelial cells in Alveolar Wall Capillaries in Rheumatoid Arthritis, Usual and Nonspecific Interstitial Pneumonias . 68 st National Meeting, American College of Rheumatology ( San Antonio ), 2004 . 10 .
  - 5) Nagashima M, Takahashi H, Matsuzaki T, Aono H<sup>1)</sup>, Yoshino S (<sup>1)</sup>Santen Pharmaceutical Co. ): Multiple Drug Resistance Factors for Salazosulphapyridine and Methotrexate are different . 68 st National Meeting, American College of Rheumatology ( San Antonio ), 2004 . 10 .
- (6) ポスター :
- 1) 石神 伸, 中島敦夫, 高橋 央, 丹野 亮, 松崎 剛, 周 豪奎, 坂根 学, 吉野槇一, 鈴木秀典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学): 関節リウマチにおける成長ホルモン: 楽しい笑いによる影響について. 第48回日本リウマチ学会総会, 2004. 4.
  - 2) 周 豪奎, 永島正一, 坂根 学, 斉藤公久, 高橋 央, 吉野槇一: フィン付き髓内釘による足関節固定術の長期成績. 第77回 日本整形外科学会総会, 2004. 5.
  - 3) 山本 要, 永島正一, 周 豪奎, 松崎 剛, 石神 伸, 吉野槇一: 関節リウマチに対するエチドロネート間歇投与療法の骨吸収および炎症抑制効果: 3年臨床成績およびその基礎的研究. 第19回日本整形外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
  - 4) 立原章年, 松岡利明, 吉野槇一: コラーゲン誘発性関節炎マウスにおける肺血栓栓症のモデル作成と治療. 第27回日本血栓止血学会, 2004. 11.
  - 5) 山本宗宏, 永島正一, 中島敦夫, 高橋 央, 石神 伸, 立原章年, 森下 実, 竹之内研二, 坂根 学, 吉野槇一: 人工膝関節全置換術後の大腿骨顆上骨折に対する治療法: 関節リウマチ患者における検討. 第35回日本人工関節学会, 2005. 2.

### 3. 内科学第三講座

#### [ 付属病院第 3内科 ( 血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科 ) ]

##### 研究概要

血液病学の基礎的研究では, トランスジェニックマウスを用いた造血器腫瘍の発症機序および病態の解析, 分子標的療法の検討, 造血器腫瘍の発症に関する新規キメラ遺伝子のクローニング, 白血病の病態と予後に関する補助分子の解析, 造血器腫瘍細胞の細胞生物学的解析, 腫瘍免疫に関する検討, 骨髄不全症候群の発症機序に関する分子生物学的検討, 等を主に行った. 臨床的研究では造血幹細胞移植, 特に臍帯血移植, 骨髄非破壊的移植療法などの検討および造血器疾患の病態, 治療成績に関する検討などを主に行った.

内分泌代謝学の基礎的研究では, これまでと同様に成長ホルモンの分泌機構・食欲調節に関する研究がまとめられた. 糖尿病発症の新たな機序として過酸化脂質, 特に酸化LDL (低比重リポ蛋白) の作用が検討され報告された. 酸化ストレスが, 糖尿病の新規発症や増悪因子として考慮すべきであることが指摘された. 臨床面では多くの症例報告がなされた. 第5回内分泌学会関東甲信越地方会では学生・研修医部門で行った症例報告で奨励賞を受賞した. 厚生労働省科学研究では, 原発性高脂血症調査研究班・糖尿病合併症に関する調査研究 (JDCS) ・高齢糖尿病の合併症に関する前向き研究が (長寿科学総合研究) 進行しており, これら研究班の一員として参加している.

消化器病学は, 逆流性食道炎, 食道運動機能異常に対する病態生理学的検討, 上部消化管疾患に対する *Helicobacter pylori* 感染の意義, 慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討, 大腸腺腫, 癌の病態に関する検討, 大腸癌の診断法に関する研究, 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術およびその全身におよぼす影響に関する検討, 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能, など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め, 消化管粘膜の分子機構に関する研究, COX-2の消化管癌に対する役割, など基礎的研究も実施されている.

##### 論文

###### (1) 追加原著:

- 1) Tanosaki S, Ikezoe T, Heaney A, Said JW, Dan K, Akashi M, Koeffler HP: Effect of ligands of nuclear hormone receptors on sodium/iodide symporter expression and activity in breast cancer cells. *Breast Cancer Res Treat* 2003; 79 (3): 335-345.
- 2) 榎原義之, 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝保彦, 木村祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 小泉信人, 名知志子, 坂本長逸: 難治性腹水の臨床像とTIPS施行による病態の変化. *日本門脈圧亢進症学会雑誌* 2003; 9: 104-107.

###### (2) 追加分説:

- 1) 金沢秀典, 坂本長逸: テクニカルレポート: 肝静脈カテーテル法. *日本門脈圧亢進症学会雑誌* 2003; 9: 237-243.

###### (3) 原著:

- 1) Hirama T, Tanosaki S, Kandatsu S, Kuroiwa N, Kamada T, Tsujii H, Yamada S, Katoh H, Yamamoto N, Tsuji H, Suzuki G, Akashi M: Initial medical management of patients severely irradiated in the Tokaimura criticality accident. *Br J Radiol* 2003; 76 (904): 246-253.
- 2) Ikezoe T, Chen S, Saito T, Asou H, Kyo T, Tanosaki S, Heber D, Taguchi H, Koeffler HP: PC-SPES decreases proliferation and induces differentiation and apoptosis of human acute myeloid leukemia cells. *Int J Oncol* 2003; 23 (4): 1203-1211.
- 3) Yasuda S, Ocegüera-Yanez F, Okamoto M, Yonemura S, Terada Y, Ishizaki T, Narumiya S (1) Depart-

- ment of Pharmacology, Kyoto University Faculty of Medicine ): Cdc42 and mDia3 regulate microtubule attachment to kinetochores . *Nature* 2004 ; 428 ( 6984 ): 767-771 .
- 4 ) Kearns WG , Yamaguchi H , Young NS , Liu JM ( <sup>1</sup> National Institute of Health, Hematological Branch/NHLBI ): Centrosome amplification and aneuploidy in bone marrow failure patients . *Genes Chromosomes Cancer* 2004 ; 40 ( 4 ): 329-333 .
  - 5 ) Nakamura H , Inokuchi K , Yamaguchi H , Dan K : Abnormalities of p51, p53, FLT3 and N-ras genes and their prognostic value in relapsed acute myeloid leukemia . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 4 ): 270-278 .
  - 6 ) Miyake K , Tsukui T , Shinji Y , Shinoki H : Teprenone, but not H2-receptor blocker or sucralfate, suppresses corpus *Helicobacter pylori* colonization and gastritis in humans : teprenone inhibition of *H. pylori*-induced interleukin-8 in MKN28 gastric epithelial cell lines . *Helicobacter* 2004 ; 9 ( 2 ): 130-137 .
  - 7 ) Tatsuguchi A , Matsui K<sup>1</sup>), Shinji Y , Gudis K , Tsukui T , Kishida T , Fukuda Y<sup>2</sup>), Sugisaki Y<sup>3</sup>), Tokunaga A<sup>4</sup>), Tajiri T<sup>4</sup>), Sakamoto C ( <sup>1</sup> First Department of Pathology, Faculty of Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University , <sup>2</sup> Department of Pathology , Nippon Medical School , <sup>3</sup> Division of Surgical Pathology , Nippon Medical School , <sup>4</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School ): Cyclooxygenase-2 expression correlates with angiogenesis and apoptosis in gastric cancer tissue . *Hum Pathol* 2004 ; 35 ( 4 ): 488-495 .
  - 8 ) Nishigaki H , Wada K , Tatsuguchi A , Sueoka N , Futagami S , Gudis K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : ErbB2 without erbB3 expression in metaplastic columnar epithelium of Barrett's esophagus . *Digestion* 2004 ; 70 ( 2 ): 95-102 .
  - 9 ) Tatsuguchi A , Miyake K , Gudis K , Futagami S , Tsukui T , Wada K , Kishida T , Fukuda Y<sup>1</sup>), Sugisaki Y<sup>2</sup>), Sakamoto C ( <sup>1</sup> Department of Pathology , <sup>2</sup> Division of Surgical Pathology ): Effect of *Helicobacter pylori* infection on ghrelin expression in human gastric mucosa . *Am J Gastroenterol* 2004 ; 99 ( 11 ): 2121-2127 .
  - 10 ) Miyake K , Tatsuguchi A , Tachibana M , Kusunoki M , Shinji Y , Shinoki K , Hiratsuka T , Nagata K , Nishigaki H , Futagami S , Wada K , Tsukui T , Yoshiyuki T<sup>1</sup>), Tokunaga A , Tajiri T , Sakamoto C ( <sup>1</sup> First Dept. of Surgery ): Bleeding from foveolar hyperplasia developing on a gastrointestinal Stromal tumor of the stomach . *Digest Endoscopy* 2004 ; 16 ( 2 ): 172-175 .
  - 11 ) Hayashi Y , Iwakiri K , Kagawa T , Hirakawa T , Sakamoto C , Arai T<sup>1</sup>), Takubo K<sup>2</sup>)( <sup>1</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center , <sup>2</sup> Human Tissue Reseach Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ): Submucosal adenoma of the esophagus : case report and review . *Esophagus* 2004 ; 1 : 99-102 .
  - 12 ) Fujii S<sup>1</sup>), Fujimori T<sup>2</sup>), Kawamata H<sup>2</sup>), Takada J<sup>2</sup>), Kitajima K<sup>2</sup>), Omatehara F<sup>2</sup>), Kaihara T<sup>2</sup>), Kusaka T<sup>1</sup>), Ichikawa K<sup>2</sup>), Ohkura Y<sup>2</sup>), Ono Y<sup>2</sup>), Imura J<sup>2</sup>), Yamaoka S<sup>3</sup>), Sakamoto C , Ueda Y<sup>4</sup>), Chiba T<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup> Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyoto University Graduate School of Medicine , <sup>2</sup> Department of Surgical and Molecular Pathology, Dokkyo University School of Medicine , <sup>3</sup> Department of Cellular and Humoral Physiology, Dokkyo University School of Medicine , <sup>4</sup> Department of Pathology, Koshigaya Hospital, Dokkyo University School of Medicine ): Development of colonic neoplasia in p53 deficient mice with experimental colitis induced by dextran sulphate sodium . *Gut* 2004 ; 53 : 710-716 .
  - 13 ) Takeda J<sup>1</sup>), Kitajima K<sup>1</sup>), Fujii S<sup>1</sup>), Horiuchi H<sup>1</sup>), Hori H<sup>1</sup>), Chibana Y<sup>1</sup>), Okuyama T<sup>1</sup>), Tominaga K<sup>1</sup>), Ichikawa K<sup>1</sup>), Ono Y<sup>1</sup>), Teramoto T<sup>1</sup>), Ohkura Y<sup>1</sup>), Imura J<sup>1</sup>), Shinoda M<sup>2</sup>), Chiba T<sup>3</sup>), Sakamoto C , Kawamata H<sup>1</sup>), Fujimori T<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup> Department of Surgical and Molecular Pathology, Dokkyo University School of Medicine , <sup>2</sup> Laboratory Animal Research Center, Dokkyo University School of Medicine , <sup>3</sup> Division of

- Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Kyoto University, Postgraduate School of Medicine ): Inhibitory effects of etodolac, a selective COX-2 inhibitor, on the occurrence of tumors in colitis-induced tumorigenesis model in rats . *Oncol Rep* 2004 ; 11 : 981-985 .
- 14) Nachi M , Kanazawa H , Taki Y , Narahara Y , Yoshimoto H , Nakatsuka K , Sakamoto C : The effect of octreotide on fasting and postprandial splanchnic hemodynamics in cirrhosis . *Hepatol Res* 2004 ; 30 : 79-85 .
  - 15) Tsukasaki K , Tanosaki S , DeVos S , Hofmann WK , Wachsmann W , Gombart AF , Krebs J , Jauch A , Bartram CR , Nagai K , Taomonaga M , Said JW , Koeffler HP : Identifying progression-associated genes in adult T-cell leukemia/lymphoma by using oligonucleotide microarrays . *Int J Cancer* 2004 ; 109 ( 6 ) : 875-881 .
  - 16) Inokuchi K , Miyake K , Miyake N , Dan K , Shimada T : Antiangiogenic gene therapy of myeloproliferative disease developed in transgenic mice expressing P230 bcr/abl . *Gene Ther* 2004 ; 12 ( 6 ) : 541-545 .
  - 17) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Sugiura T , Kawakami A , Sakamoto C : The minimum pressure of the lower esophageal sphincter, determined by the rapid pull-through method, is an index of severe reflux esophagitis . *J Gastroenterol* 2004 ; 39 ( 7 ) : 616-620 .
  - 18) Ikezoe T , Tanosaki S , Krug U , Liu B , Cohen P , Taguchi H , Koeffler HP : Insulin-like growth factor binding protein-3 antagonizes the effects of retinoids in myeloid leukemia cells . *Blood* 2004 ; 104 ( 1 ) : 237-242 .
  - 19) Yajima H<sup>1)</sup> , Ikeshima E<sup>1)</sup> , Shiraki M<sup>1)</sup> , Kanaya T<sup>1)</sup> , Fujiwara D<sup>1)</sup> , Odai H<sup>1)</sup> , Tsuboyama-Kasaoka N<sup>2)</sup> , Ezaki A<sup>2)</sup> , Oikawa S , Kondo K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Laboratories for Key Technology, Kirin Brewery Co , <sup>2)</sup> Division of Clinical Nutrition, National Institute of Health and Nutrition ): Isohumulones, bitter acids derived from hops, activate both peroxisome proliferator-activated receptor and and reduce insulin resistance . *J Biol Chem* 2004 ; 279 ( 32 ) : 33456-33462 .
  - 20) Miura S<sup>1)</sup> , Tatsuguchi A , Wada K , Takeyama H<sup>1)</sup> , Shinji Y , Hiratsuka T , Futagami S , Miyake K , Gudis K , Mizokami Y<sup>1)</sup> , Matsuoka T<sup>1)</sup> , Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Fifth Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University ): Cyclooxygenase-2-regulated vascular endothelial growth factor release in gastric fibroblasts . *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* 2004 ; 287 ( 2 ) : G444-G451 .
  - 21) Mamiya Y , Kanazawa H , Kimura Y , Narahara Y , Yamate Y , Nakatsuka K , Sakamoto C : Hepatic encephalopathy after transjugular intrahepatic portosystemic shunt . *Hepatol Res* 2004 ; 30 ( 3 ) : 162-168 .
  - 22) Ogata K , Satoh C , Hyodo H , Tamura H , Dan K , Yoshida Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Takeda General Hospital ): Association between phenotypic features of blasts and the blast percentage in bone marrow of patients with myelodysplastic syndromes . *Leukemia Research* 2004 ; 28 ( 11 ) : 1171-1175 .
  - 23) Horiuchi H<sup>1)</sup> , Kita T<sup>1)</sup> , Mabuchi H<sup>1)</sup> , Matsuzaki K<sup>1)</sup> , Matsuzawa Y<sup>1)</sup> , Nakaya N<sup>1)</sup> , Oikawa S , Satio Y<sup>1)</sup> , Sasaki J<sup>1)</sup> , Shimamoto K<sup>1)</sup> , Itakura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> J-LIT Study Group ): Primary cardiovascular events and serum lipid levels in elderly Japanese with hypercholesterolemia undergoing 6-year simvastatin treatment : a sub-analysis of the Japan lipid intervention trial . *J Am Geriatr Soc* 2004 ; 52 ( 12 ) : 1981-1987 .
  - 24) Kamegai J , Tamura H , Shimizu T , Ishii S , Sugihara H , Oikawa S : Effects of insulin, leptin, and glucagon on ghrelin secretion from isolated perfused rat stomach . *Regul Pept* 2004 ; 119 ( 1-2 ) : 77-81 .
  - 25) Kamegai J , Tamura H , Shimizu T , Ishii S , Tatsuguchi A , Sugihara H , Oikawa S , Kineman RD<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, University of Illinois at Chicago ): The role of pituitary ghrelin in growth hormone ( GH ) secretion : GH-releasing hormone-dependent regulation of pituitary ghrelin gene expression and peptide content . *Endocrinology* 2004 ; 145 ( 8 ) : 3731-3738 .
  - 26) Toyota S , Nakamura N , Dan K : Small cell variant of T-cell prolymphocytic leukemia with a immunophenotype . *Int J Hematol* 2005 ; 81 ( 1 ) : 66-68 .

- 27) Takubo K<sup>1)</sup>, Honma N<sup>1)</sup>, Aryal G<sup>2)</sup>, Sawabe M<sup>2)</sup>, Arai M<sup>2)</sup>, Tanaka Y<sup>3)</sup>, Mafune K<sup>4)</sup>, Iwakiri K ( <sup>1)</sup> Human Tissue Reseach Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center , <sup>4)</sup> Department of Esophageal and Gastric Surgery, University of Tokyo ): Is there a set of histologic changes that are invariably reflux associated? . Arch Pathol Lab Med 2005 ; 129 : 159-163 .
- 28) Takubo K<sup>1)</sup>, Vieth M<sup>2)</sup>, Honma N<sup>3)</sup>, Izumiyama N<sup>3)</sup>, Sawabe M<sup>4)</sup>, Arai T<sup>4)</sup>, Iwakiri K , Kanamori M<sup>5)</sup>, Mafune K<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Human Tissue Reseach Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Institute of Pathology, Otto-von-Guericke University , <sup>3)</sup> Human Tissue Reseach Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>4)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center , <sup>5)</sup> Department of Esophageal and Gastric Surgery, University of Tokyo ): Ciliated surface in the esophagogastric junction zone, A precursor of barrett's mucosa or ciliated pseudostratified metaplasia? . Am J Surg Pathol 2005 ; 29 : 211-217 .
- 29) Nind G<sup>1)</sup>, Chen WH <sup>1)</sup>, Protheroe R<sup>2)</sup>, Fraser R<sup>3)</sup>, Young R<sup>4)</sup>, Chapman M<sup>4)</sup>, Nguyen N<sup>5)</sup>, Sifrim D<sup>6)</sup>, Rigada R<sup>7)</sup>, Holloway RH<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Hepatology and General Medicine, Royal Aderaide Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anaesthesia and Intensive Care, Royal Adelaide Hospital , <sup>3)</sup> University Department of Medicine, Royal Adelaide Hospital , <sup>4)</sup> Department of Anaesthesia and Intensive Care, Royal Adelaide Hospital , <sup>5)</sup> Department of Gastroenterology, Hepatology and General Medicine, Royal : Mechanisms of gastroesophageal reflux in critically ill mechanically ventilated patients . Gastroenterology 2005 ; 128 : 600-606 .
- 30) Takubo K<sup>1)</sup>, Vieth M<sup>2)</sup>, Aryal G<sup>3)</sup>, Honma N<sup>3)</sup>, Sawabe M<sup>4)</sup>, Arai T<sup>4)</sup>, Kanamori M<sup>5)</sup>, Mafune K<sup>5)</sup>, Iwakiri K ( <sup>1)</sup> Human Tissue Reseach Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Institute of Pathology, Otto-von-Guericke University , <sup>3)</sup> Human Tissue Reseach Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>4)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center , <sup>5)</sup> Department of Gastroesophageal Surgery, University of Tokyo ): Islands of squamous epithelium and their surrounding mucosa in columnar-lined esophagus : a pathognomonic feature of Barrett's esophagus? . Hum Pathol 2005 ; 36 : 269-274 .
- 31) Iizumi T<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup>, Kumagai Y<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>2)</sup>, Kamiya S<sup>3)</sup>, Hirota K , Watanabe E<sup>1)</sup>, Sakamoto C , Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology , Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Infectious Disease, Division of Medical Microbiology, Kyorin University school of Medicine ): Augmentation of *Helicobacter pylori* urease activity by its specific IgG antibody : implications for bacterial colonization enhancement . Biochem Res 2005 ; 26 ( 1 ) : 35-42 .
- 32) Okajima F , Kurihara M , Ono C , Nakajima Y , Tanimura K , Sugihara H , Tatsuguchi A , Nakagawa K , Miyazawa T , Oikawa S : Oxidized but not acetylated low-density lipoprotein reduces preproinsulin mRNA expression and secretion of insulin from HIT-T15 cells . Biochim Biophys A 2005 ; 1687 : 173-180 .
- 33) Wu F<sup>1)</sup>, Oka Y<sup>1)</sup>, Tsuboi A<sup>2)</sup>, Elisseeva OA<sup>2)</sup>, Ogata K , Nakajima H<sup>3)</sup>, Fujiki F<sup>3)</sup>, Masuda T<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Yoshihara S<sup>1)</sup>, Ikegame K<sup>2)</sup>, Hosen N<sup>1)</sup>, Kawakami M<sup>2)</sup>, Nakagawa M<sup>4)</sup>, Kubota T<sup>5)</sup>, Soma T<sup>6)</sup>, Yamagami T<sup>6)</sup>, Tsukaguchi M<sup>7)</sup>, Ogawa H<sup>1)</sup>, Oji Y<sup>3)</sup>, Hamaoka T<sup>8)</sup>, Kawase I<sup>1)</sup>, Sugiyama H<sup>3)</sup>. ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Medicine, Osaka University , <sup>2)</sup> Department of Cancer Immunotherapy, Osaka University , <sup>3)</sup> Department of Functional Diagnostic Science, Osaka University , <sup>4)</sup> Nissay Hospital , <sup>5)</sup> Tondabayashi Hospital , <sup>6)</sup> Osaka Minami National Hospital , <sup>7)</sup> Sakai Municipal Hospital , <sup>8)</sup> Sakai Municipal Hospital ): Th1-biased humoral immune responses against Wilms tumor gene WT1 product in the patients with

- hematopoietic malignancies . *Leukemia* 2005 ; 19 ( 2 ): 268-274 .
- 34) Gudis K , Tatsuguchi A , Wada K , Futagami S , Nagata K , Hiratsuka T , Shinji Y , Miyake K , Tsukui T , Fukuda Y , Sakamoto C : Microsomal prostaglandin E synthase ( mPGES ) -1, mPGES-2 and cytosolic PGES expression in human gastritis and gastric ulcer tissue . *Lab Invest* 2005 ; 85 ( 2 ): 225-236 .
- 35) Tanosaki S , Gery S , Hofmann WK , Koppel A , Koeffler HP : C/EBPdelta expression in a BCR-ABL-positive cell line induces growth arrest and myeloid differentiation . *Oncogene* 2005 ; 24 ( 9 ): 1589-1597 .
- 36) Tanaka K , Seino Y , Inokuchi K , Ohmura K , Kobayashi Yoshinori , Takano T : A case presenting concurrence of Marfan syndrome, Basedow ' s disease and Arg353Gln polymorphism-related factor VII deficiency . *International Journal of Cardiology* 2005 ; 98 : 235-348 .
- 37) Inokuchi K : P53 germline mutations and therapy-related myelodysplastic syndrome : . Editorials . *Internal Medicine* 2005 ; 44 ( 5 ): 406-407 .
- 38) Shinji Y , Tsukui T , Tatsuguchi A , Shinoki K , Kusunoki M , Suzuki K , Hiratsuka T , Wada K , Futagami S , Miyake K , Gudis K , Sakamoto C : Induced microsomal prostaglandin E synthase-1 is involved in cyclooxygenase-2-dependent PGE2 production in gastric fibroblasts . *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* 2005 ; 288 ( 2 ): G308-G315 .
- 39) Tamura H , Kamegai J , Shimizu T , Ishii S , Sugihara H , Oikawa S : The effect of agouti-related protein on growth hormone secretion in adult male rats . *Regul Pept* 2005 ; 125 ( 1-3 ): 145-149 .
- 40) 宮下次廣 , 志村俊郎 , 足立好司 , 荒牧琢己 , 清水一雄 , 檀 和夫 : 医学部在学中の試験と医師国家試験の成績比較 . *医学教育* 2004 ; 35 ( 4 ): 281-285 .
- 41) 植木信江 , 三宅一昌 , 濱本達彦 , 楠 正典 , 進士陽子 , 篠木 啓 , 平塚哲郎 , 西垣 均 , 二神生爾 , 和田 謙 , 津久井拓 , 坂本長逸 : 胃十二指腸潰瘍の除菌成功後に非 NSAIDs 潰瘍再発を繰り返した1例 . *消化器内視鏡の進歩* 2004 ; 64 : 28-31 .
- 42) 小林 剛 , 藤森俊二 , 江原彰仁 , 関田祥久 , 三井啓吾 , 瀬尾継彦 , 米澤真興 , 永田和弘 , 柴田喜明 , 田中 周 , 辰口篤志 , 吉田 豊 , 岸田輝幸 , 坂本長逸 : 難治性咽頭潰瘍を伴った腸管ペーチェット病の1例 . *Prog Dig Endosc* 2004 ; 65 ( 2 ): 94-95 .
- 43) 宮下次廣 , 清水一雄 , 足立好司 , 荒牧琢己 , 志村俊郎 , 檀 和夫 : 共用試験CBT との比較による第4学年総合試験の評価 . *医学教育* 2004 ; 35 ( 5 ): 331-336 .
- 44) 中村祐一 , 坂巻 壽 , 向井陽美 , 小島 寛 , 富山順治 , 森慎一郎 , 比留間潔 , 中村典彦 , 豊田茂雄 , 浜口裕之 , 檀 和夫 , 三谷絹子 , 斉藤憲治 : 多発性骨髄腫に対する自家末梢血幹細胞移植療法 : 本邦でのプロトコールの実行性についての検討 . *臨床血液* 2004 ; 45 ( 7 ): 524-529 .
- 45) 藤森俊二 , 関田祥久 , 山田由紀江 , 三井啓吾 , 瀬尾継彦 , 米澤真興 , 永田和弘 , 田中 周 , 辰口篤志 , 小泉信人 , 岸田輝幸 , 坂本長逸 : 腸閉塞症で発症した横川吸虫症の1例 . *Clinical Parasitology* 2005 ; 15 ( 1 ): 34-36 .
- ( 4 ) 綜説 :
- 1) Inokuchi K : Transgenic mouse models of BCR/ABL-positive chronic myelogenous leukemia : A review . *Current Genomics* 2005 ; 6 ( 2 ): 89-95 .
- 2) 津久井拓 : 外来における慢性胃炎 , 胃・十二指腸潰瘍の診断と治療 : 実際の処方および最新知見 . *クリニックマガジン* 2004 ; 31 ( 7 ): 46-50 .
- 3) 津久井拓 : Portal Hypertensive Gastropathy の治療 . *消化管ネットワーク* 2004 ; 5 ( 4 ): 95-96 .
- 4) 三宅一昌 , 坂本長逸 : NSAID 潰瘍予防に関する最近の動向 : 選択的 COX-2 阻害剤の有効性と除菌療法 . *医学のあゆみ* 2004 ; 210 ( 5 ): 475-479 .
- 5) 二神生爾 , 坂本長逸 : COX-2 の消化管粘膜における役割 . *リウマチ科* 2004 ; 32 ( 4 ): 410-414 .
- 6) 二神生爾 , 坂本長逸 : 消化性潰瘍の薬物療法 . *Medicament news* 2004 ; 4-6 .



- 7) 藤森俊二, 坂本長逸: クロウン病親近者には遺伝的な腸管の炎症が潜在的に認められる. *Frontiers in Gastroenterology* 2004; 9: 52-53.
- 8) 田久保海誉<sup>1)</sup>, 本間尚子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦, 田中康夫<sup>2)</sup>, 紀 健二<sup>2)</sup>, 沢辺元司<sup>3)</sup>, 新井富生<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所高齢者臓器, <sup>2)</sup>東京都老人医療センター内視鏡科, <sup>3)</sup>同病理部門): Barrett食道(1)病理学的診断. *臨床消化器内科* 2004; 19: 579-585.
- 9) 田久保海誉<sup>1)</sup>, 本間尚子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦, 田中康夫<sup>2)</sup>, 紀 健二<sup>2)</sup>, 沢辺元司<sup>3)</sup>, 新井富生<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所高齢者臓, <sup>2)</sup>東京都老人医療センター内視鏡科, <sup>3)</sup>東京都老人医療センター病理部門): 胃・食道接合部の構造. *病理と臨床* 2004; 22: 552-556.
- 10) 林 良紀, 岩切勝彦, 坂本長逸: 胃食道逆流のメカニズム. *JOHNS* 2004; 20: 937-941.
- 11) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸: アカラシアの診断と治療. *消化器医学* 2004; 2: 71-77.
- 12) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸: 食道運動機能からみた新たなGERD治療の新展開. *GIリサーチ* 2004; 12: 471-479.
- 13) 田野崎栄, 檀 和夫: 赤血球増加症. *Medical Practice* 2004; 21(臨時増刊号): 258-262.
- 14) 小野千速, 及川眞一: スタチン系薬剤の効果と選択法. *臨床と研究* 2004; 81(6): 939-942.
- 15) 平塚哲郎, 坂本長逸: NSAIDs潰瘍とその治療. *今月の治療* 2004; 12(6): 65-70.
- 16) 谷村恭子, 及川眞一: リポ蛋白糸球体症. *内科* 2004; 94(1): 129-132.
- 17) 辰口篤志, 坂本長逸: 大腸腫瘍の治療とNSAIDs. *Modern Physician* 2004; 24(7): 1191-1195.
- 18) 坂本長逸: ガイドライン: 臨床面からの問題点. *医学のあゆみ* 2004; 210(5): 343-347.
- 19) 坂本長逸: NSAID潰瘍の現状とその予防: 胃潰瘍診療ガイドラインから. *東京都医師会雑誌* 2004; 57(6): 727-732.
- 20) 及川眞一: コレステロールはどこまで下げるか. *内科専門医会誌* 2004; 16(3): 369-380.
- 21) 杉原 仁: 脂肪酸代謝と内分泌(特集: 脂肪酸代謝と糖尿病(脂肪毒性)). *Diabetes Frontier* 2004; 15(4): 453-458.
- 22) 緒方清行: 白血病治療の最前線: 表面マーカー. *カレントセラピー* 2004; 22(8): 24-27.
- 23) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸: GERDの発生機序: 胃食道逆流, 食道内胃酸曝露延長のメカニズム. *日本臨床* 2004; 62(8): 1427-1432.
- 24) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一(<sup>1)</sup>仙台赤十字病院): メタボリックシンドローム診療の実際: 2. 糖代謝異常とその管理. *臨床医* 2004; 30(9): 1748-1751.
- 25) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一(<sup>1)</sup>仙台赤十字病院): メタボリックシンドロームの治療: 3. 運動療法. *Progress in Medicine* 2004; 24(9): 2249-2253.
- 26) 及川眞一: メタボリックシンドロームと高脂血症. *興和医報* 2004; 46(1): 24-29.
- 27) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一(<sup>1)</sup>仙台赤十字病院): 動脈硬化発症におけるマルチプルリスクファクターの意義. *Pharma Medica* 2004; 22(10): 17-20.
- 28) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一(<sup>1)</sup>仙台赤十字病院): リスク因子・メタボリックシンドロームと高脂血症. *診断と治療* 2004; 92(11): 2037-2042.
- 29) 小竹英俊, 及川眞一(<sup>1)</sup>仙台赤十字病院): インスリン抵抗性治療薬. *臨床と研究* 2004; 81(11): 1808-1812.
- 30) 及川眞一, 小竹英俊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>仙台赤十字病院): 糖尿病患者の高脂血症治療: 日本における疫学調査およびJ-LITを中心に. *内分泌・糖尿病科* 2004; 19(5): 580-582.
- 31) 檀 和夫: 標準的ITP治療法. *血液フロンティア* 2004; 14(12): 1949-1956.
- 32) 檀 和夫: 研修医のための白血病・リンパ腫: 患者と家族への説明と同意. *臨床医* 2004; 30(12): 2217-

2219 .

- 33) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>(1)</sup> 仙台赤十字病院): 代謝症候群における脂質代謝異常の治療の進め方. Medical Practice 2004 ; 21 (12): 2075-2079 .
  - 34) 江本直也: 糖尿病は誰が診る? : 糖尿病病診連携構築における地域特異の問題と普遍的問題. 日医大医学会誌 2005 ; 1 (1): 6-11 .
  - 35) 岩切勝彦, 林 良紀, 坂本長逸: GERDと非心臓性胸痛: 食道痙攣を含めて. Medicina 2005 ; 42 (1): 86-88 .
  - 36) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>(1)</sup> 仙台赤十字病院): 減量により改善する病態・脂質代謝異常. medicina 2005 ; 42 (2): 225-227 .
  - 37) 二神生爾, 坂本長逸: 胃粘膜におけるCOX-2の役割: T cell 由来COX-2の役割の検討. 日本臨床生理学会雑誌 2005 ; 35 (1): 19-24 .
  - 38) 三宅一昌, 辰口篤志, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 平塚哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: *H. pylori*感染胃粘膜上皮におけるIL-8およびVEGF産生に与えるteprenoneの影響. Progress in medicine 2005 ; 25 (3): 692-696 .
  - 39) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸: 酸逆流が引き起こす意外な症状. 診断と治療 2005 ; 93 (3): 368-372 .
- (5) 症例報告:
- 1) 豊田茂雄, 中村典彦, 檀 和夫: 中枢神経系, リンパ節, 肝腎浸潤とIgE上昇を認めたIgG<sub>κ</sub>型多発性骨髄腫. 臨床血液 2004 ; 45 (5): 408-410 .
  - 2) 江本直也: 糖尿病病診連携システム導入時の問題点. 日本医師会雑誌 2004 ; 133 (4): 481-484 .

## 著 書

- 1) Amano Y, Tajika K, Oriuchi N, Dan K, Kumazaki T : [ 分担 ] Nodal involvement in non-Hodgkin lymphoma . Radiological imaging in hematological malignancies ( Guermazi A ), 2004 ; pp71-83, Springer-Verlag .
- 2) 進士陽子, 津久井拓, 坂本長逸: [ 分担 ] 関節リウマチでNSAIDsを服用中上腹部痛と下血が出現した!? . シミュレーション内科 上部消化管疾患を探る ( 峯 徹哉編著 ), 2004 ; pp127-130, 永井書店 .
- 3) 三宅一昌, 平塚哲郎, 坂本長逸: [ 分担 ] 腫瘍内視鏡学, 2004 ; pp66-77, 医学書院 .
- 4) 岩切勝彦: [ 分担 ] GERDの発生機序と病態生理: 下部食道括約筋運動機能調節とGERD . GERD治療の新たなストラテジー ( 本郷道夫編著 ), 2004 ; pp20-29, 先端医学社 .
- 5) 檀 和夫: [ 分担 ] 悪性貧血, 巨赤芽球性貧血 . 今日の治療と看護 第2版, 2004 ; pp672-673, 南江堂 .
- 6) 三宅一昌, 坂本長逸: [ 分担 ] 胃粘膜防御機構 . 消化器病セミナー・95, 2004 ; pp59-70, へるす出版 .
- 7) 金沢秀典, 北野正剛, 國分茂博, 豊永 純, 萩原 優, 橋爪 誠, 渡辺勲史: [ 分担 ] 治療 . 門脈圧亢進症取り扱い規約第2版, 2004 ; 金原出版 .
- 8) 檀 和夫: [ 分担 ] 貧血 . 血液の事典, 2004 ; pp64-65, 朝倉書店 .
- 9) 檀 和夫: [ 分担 ] 骨髄異形成症候群における化学療法をどう選択するか? : low dose therapy? standard therapy? . EBM血液疾患の治療, 2004 ; pp131-136, 中外医学社 .
- 10) 檀 和夫: [ 分担 ] 血小板減少症とサイトカイン . 別冊・医学のあゆみ サイトカイン - state of arts , 2004 ; pp288-291, 医歯薬出版 .
- 11) 檀 和夫: [ 分担 ] 慢性骨髄増殖性疾患の病型移行 . 最新医学・別冊 慢性骨髄増殖性疾患, 2004 ; pp77-83, 最新医学社 .
- 12) 檀 和夫: [ 分担 ] 溶血性貧血に関する検査 . 臨床検査診断マニュアル 改訂第2版, 2005 ; pp226-229, 永井書店 .

- 13) 檀 和夫：〔分担〕巨赤芽球性貧血に関する検査．臨床検査診断マニュアル，2005；pp230-232，永井書店．
- 14) 檀 和夫：〔分担〕真性赤血球増加症，本態性血小板血症，原発性骨髄線維症．今日の治療指針 2005，2005；pp464-465，医学書院．
- 15) 津久井拓，坂本長逸：〔分担〕鉛中毒による腹痛：心身症として見逃されやすい代謝異常に伴う腹痛の診断の要点．腹痛診療のコツと落とし穴（寺野彰編著），2005；pp148-149，中山書店．
- 16) 平塚哲郎，坂本長逸：〔分担〕胃粘膜防御機構．Annual review 消化器 2005，2005；pp97-101，中外医学社．
- 17) 岩切勝彦：〔分担〕食道アカラシア．改定第4版疾患別最新処方（矢崎義雄，菅野健太郎監修），2005；pp274-275，メディカルレビュー社．
- 18) 琴寄 誠：〔分担〕好酸球性胃腸炎による胸痛の実例．胸痛診療のコツと落とし穴（野々木宏総編集），2005；p44，中山書店．
- 19) 岩切勝彦：〔分担〕胃食道逆流症の胸痛のメカニズムと心臓性胸痛との鑑別．胸痛診療のコツと落とし穴（野々木宏総編集），2005；pp156-157，中山書店．
- 20) 三宅一昌，坂本長逸：〔分担〕NSAIDa潰瘍の治療．消化器疾患最新の治療2005-2006，2005；pp149-152，南江堂．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 岩切勝彦：Topographyによる食道運動機能，GERDの病態の評価．第5回千葉消化管運動機能研究会，2004．6．

##### (2) 教育講演：

- 1) 岩切勝彦：食道内圧検査からみた胃食道逆流と食道運動異常症．第2回多摩消化管運動研究会，2004．4．

##### (3) シンポジウム：

- 1) Tanaka S, Mitsui K, Tatsuguchi A, Fujimori S, Gudis K, Sakamoto C：Double-balloon endoscopy：a novel endoscopic technique for the treatment of small intestinal diseases．The 4th Japan-Korea Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy（Seoul, Korea），2005．3．
- 2) 岩切勝彦，林 良紀，琴寄 誠，田中由理子，川上明彦，坂本長逸：一過性LES弛緩は胃食道逆流の主な原因であるが，逆流性食道炎発症の原因ではない（胃食道逆流をめぐって）．第58回日本食道学会学術集会，2004．6．
- 3) 三宅一昌，植木信江，鈴木健司，楠 正典，進士陽子，飯泉 匡，篠木 啓，平塚哲郎，西垣 均，二神生爾，和田 謙，津久井拓，坂本長逸：胃腺腫に対する*H. pylori*除菌またはNSAIDsによるケモプリベンションの可能性．第10回日本ヘリコバクター学会，2004．7．
- 4) 二神生爾，平塚哲郎，鈴木健司，楠 正典，濱本達彦，西垣 均，和田 謙，三宅一昌，大橋和史<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>2)</sup>，津久井拓（<sup>1)</sup>臨床薬理センター，<sup>2)</sup>微生物学・免疫学）：胃粘膜中IL-7，IL-1 発現と T cell浸潤の検討：胃粘膜局所における*Helicobacter pylori* urease IgA産生と末梢血中V<sub>2</sub>/V<sub>1</sub> T cell比の解析．第10回日本ヘリコバクター学会，2004．7．
- 5) 坂本長逸：COX-2インヒビター；効果と副作用：上部消化管を中心にして．第25回日本炎症・再生医学会，2004．7．
- 6) 滝 保彦，金沢秀典，坂本長逸：肝硬変の全身肝血行動態に関する検討．第11回日本門脈圧亢進症学会総会，2004．9．
- 7) 田中 周，三井啓吾，坂本長逸：ダブルバルーン内視鏡を用いた小腸疾患の治療．第68回日本消化器内視鏡学会総会，2004．10．
- 8) 亀谷 純：摂食調節ホルモンによる成長ホルモン分泌調節．第31回日本神経内分泌学会学術集会，2004．10．
- 9) 二神生爾，坂本長逸：T cell由来COX-2の役割について．博慈会記念研究助成金受賞講演会，2004．11．

(4) パネルディスカッション：

- 1) 林 良紀, 岩切勝彦, 坂本長逸：逆流性食道炎（RE）患者の重症度による胃食道逆流（GER）のメカニズム（逆流性食道炎の診断と治療の進歩）. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004 . 6 .
- 2) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸：アカラシアバルーン拡張術有効例, 無効例の検討：アカラシアの治療は何が最適か？ . 第58回日本食道学会学術集会, 2004 . 6 .

(5) セミナー：

- 1) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸：ダブルバルーン小腸内視鏡の取扱いと挿入法 . 小腸内視鏡研究会, 小腸内視鏡検査法セミナー, 2004 . 6 .
- 2) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸：ダブルバルーン小腸内視鏡の取扱いと挿入法 . 小腸内視鏡研究会, 小腸内視鏡検査法セミナー, 2004 . 9 .
- 3) 岩切勝彦：食道内圧検査からみたGERDとアカラシアの病態 . 第43回日本小児外科学会中国四国地方会, 2004 . 9 .
- 4) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸：ダブルバルーン小腸内視鏡の取扱いと挿入法 . 小腸内視鏡研究会, 小腸内視鏡検査法セミナー, 2004 . 11 .

(6) ワークショップ：

- 1) 進士陽子, 津久井拓, 坂本長逸：胃潰瘍におけるプロスタグランジンE合成酵素（PGES）の発現に関する検討 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 2) 林 良紀, 岩切勝彦, 坂本長逸：健常者, 軽症, 重症逆流性食道炎患者の胃食道逆流のメカニズム . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 3) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸：Double-balloon methodを用いた小腸内視鏡の有用性 . 第67回日本消化器内視鏡学会総会, 2004 . 5 .
- 4) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸：食道内圧検査による食道運動機能測定の理論と実際（食道生理機能診断の理論と実際）. 第58回日本食道学会学術集会, 2004 . 6 .
- 5) 三井啓吾, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 篠澤 功, 辰口篤志, 藤森俊二, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸：ダブルバルーン式小腸内視鏡による小腸診断の実際と、カプセル内視鏡との相違 . 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004 . 10 .
- 6) 田中 周, 三井啓吾, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸：小腸疾患の診断と治療をめぐる：小腸疾患に対する治療法の新展開 . 第1回日本消化管学会総会, 2005 . 1 .
- 7) 三井啓吾, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸：小腸病変に対する新たなアプローチ（ダブルバルーン小腸内視鏡を主軸とした、これからの小腸疾患の診断）. 第1回日本消化管学会総会, 2005 . 1 .

(7) 一般講演：

- 1) Gudis K, Tatsuguchi A, Wada K, Futagami S, Nagata K, Hiratsuka T, Osada Y, Shinji Y, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : mPGES-1, mPGES-2 and cPGES expression in human gastric ulcer tissue . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ), 2004 . 5 .
- 2) Tanaka S, Tatsuguchi A, Futagami S, Wada K, Tsukui T, Gudis K, Kishida T, Sakamoto C : Potential role of monocyte-chemoattractant protein-1 in macrophage cyclooxygenase-2 expression in colonic adenoma . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ), 2004 . 5 .
- 3) Futagami S, Hiratsuka T, Suzuki K, Kusunoki M, Ueki N, Shinji Y, Shinoki K, Nishigaki H, Wada K, Miyake K, Tsukui T, Ohashi K, Shimizu M, Takahashi H, Gudis K, Sakamoto C : IL-1 and IL-7 levels in the gastric tissues were correlated to T cells counts : Elevation of v 2/ v 1 T cells ratio in chronic gastritis with strong IgA responses to *H. Pylori* urease . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ), 2004 . 5 .

- 4) Hiratsuka T , Futagami S , Tatsuguchi A , Ueki N , Suzuki K , Shinji Y , Kusunoki M , Shinoki K , Nishigaki H , Wada K , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Sakamoto C : Distinct roles of cox-1 and cox-2 in gastric ischemia-reperfusion injuries in mice . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ) , 2004 . 5 .
- 5) Shinji Y , Tsukui T , Tatsuguchi A , Sakamoto C : Microsomal prostaglandin E synthase ( mPGES ) -1 regulates hepatocyte growth factor ( HGF ) release in gastric fibroblasts stimulated with Interleukin ( IL ) -1 beta . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ) , 2004 . 5 .
- 6) Yonezawa M , Wada K , Akamatsu T , Tatsuguchi A , Sakamoto C : ErbB kinase and heregulin signaling and their influences on VEGF secretion in colon cancer cells . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ) , 2004 . 5 .
- 7) Mitsui K , Tanaka S , Gudis K , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Shinozawa I , Tatsuguchi A , Fujimori S , Kishida T , Sakamoto C : Benefits and Safety of a Novel Double-Balloon Method Enteroscopy in the Detection of Small Intestinal Abnormalities . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ) , 2004 . 5 .
- 8) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Tanaka Y , Kawakami A , Sakamoto C : The secondary peristaltic response to air in patients with endoscopic-negative GERD is very low compared with that of healthy subjects . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ) , 2004 . 5 .
- 9) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Tanaka Y , Kawakami A , Sakamoto C : Transient lower esophageal sphincter relaxations ( TLESRs ) are the major mechanism of gastroesophageal reflux, but TLESRs are not the cause of reflux esophagitis . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ) , 2004 . 5 .
- 10) Hayashi Y , Iwakiri K , Kotoyori M , Tanaka Y , Kawakami A , Sakamoto C : Differences in the mechanisms of gastroesophageal reflux between mild and severe reflux esophagitis . Digestive Disease Week ( New Orleans, USA ) , 2004 . 5 .
- 11) Yamada T , Yamaguchi H , Nakamura K , Tamura H , Tanosaki S , Yokose N , Tajika K , Ogata K , Inokuchi K , Dan K ( <sup>1</sup> Division of Hematology ) : Polycythemia vera and essential thrombocythemia : A long-term experience of a single institute . International society of hematology ( Japan ) , 2004 . 9 .
- 12) Tamura H , Ogata K , Yokose N , Nakamura K , Shioi Y , Hyodo H , Chen L ( <sup>1</sup> ) , Dan K ( <sup>1</sup> Department of Immunology, Mayo Clinic ) : Biological roles of new B7 family molecules, B7-H1 and B7-H2, in acute myeloid leukemia . The Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacific Division ( Nagoya, Japan ) , 2004 . 9 .
- 13) Inokuchi K , Inami M , Wang Y , Watanabe Ayako , Yamaguchi Hiroki , Tanosaki S , Shimada T , Dan K : The DCC Heterozygote Reduces the Latency Period and Changes the Disease Phenotype of Myeloproliferative Disease in p230BCR/ABL-Expressing Mice . The 46th ASH Annual Meeting, 2004 ( San Diego, USA ) , 2004 . 12 .
- 14) Ogata K , Satoh C<sup>1,2)</sup> , Tachibana M , Hyodo H , Tamura H , Dan K , Kimura T<sup>3)</sup> , Sonoda Y<sup>3)</sup> , Tsuji T<sup>4)</sup> ( <sup>1</sup> Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2</sup> Department of Bioregulation, Nippon Medical School , <sup>3</sup> Department of Molecular-Targeting Cancer Prevention, Kyoto Prefectural University of Medicine , <sup>4</sup> Department of Industrial Science and Technology, Tokyo University of Science ) : Identification and hematopoietic potential of CD45-negative clonal cells with very immature phenotype ( CD45-CD34-CD38-Lin-) in patients with myelodysplastic syndromes . The Annual Meeting of the American Society of Hematology ( San Diego ) , 2004 . 12 .
- 15) Inokuchi K , Inami M , Wang Y , Watanabe A , Yamaguchi H , Tanosaki S , Shimada Y , Dan K : The DCC heterozygote reduces the latency period and changes the disease phenotype of myeloproliferative disease in p230BCR/ABL-expressing mice . 46th Annual meeting of the American Society of Hematology ( San Diego,

California, USA ), 2004 . 12 .

- 16) Ogata K, Satoh C, Tachibana M, Hyodo H, Tamura H, Dan K, Kimura T, Sonoda Y, Tsuji T : Identification and hematopoietic potential of CD45-negative clonal cells with very immature phenotype ( CD45-CD34-CD38-Lin- ) in patients with myelodysplastic syndromes . 46th Annual meeting of the American Society of Hematology ( San Diego, California, USA ), 2004 . 12 .
- 17) Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Ehara A, Kobayashi T, Sekita Y, Seo T, Yonezawa M, Nagata K, Shibata Y, Fujimori S, Kishida T, Gudis K, Sakamoto C : Benefits of Double-Balloon Enteroscopy in Occult Gastrointestinal Bleedings . The 4th Japan-Korea Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy ( Seoul, Korea ), 2005 . 3 .
- 18) 田村秀人, 横瀬紀夫, 中村恭子, 塩井由美子, 橘美紀子, 兵働英也, 緒方清行, 檀 和夫: 急性骨髄性白血病 ( AML ) 細胞における補助刺激分子 B7-2 と B7-H2 ( ICOS ligand ) の発現と臨床意義 . 第 101 回日本内科学会講演会, 2004 . 4 .
- 19) 植木信江, 三宅一昌, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: メトロニダゾールを用いた 2 次除菌療法におけるクラリスロマイシンの有効性 . 第 90 回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 20) 楠 正典, 三宅一昌, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 平塚哲郎, 篠木 啓, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 中島敦夫, 吉野慎一, 坂本長逸: 外来通院中の慢性関節リウマチ患者における消化性潰瘍の実態 . 第 90 回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 21) 加藤篤衛<sup>1)</sup>, 森本健介<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 三石 剛<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 田中 周, 西成真真<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学皮膚科学, <sup>2)</sup>多賀総合病院): 腸管ペーチェット病の 1 例 . 第 788 回日本皮膚科学会東京地方会, 2004 . 4 .
- 22) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 田中由理子, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸: 食道運動機能からみた内視鏡陰性 GERD の病態 . 第 90 回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 23) 田近賢二, 水木太郎, 守屋慶一, 内田直也, 山口博樹, 檀 和夫: Rituximab を併用した悪性リンパ腫自家末梢造血細胞移植の試み . 第 101 回日本内科学会講演会, 2004 . 4 .
- 24) 水木太郎, 田近賢二, 守屋慶一, 内田直也, 山口博樹, 檀 和夫: 臍帯血移植後に血球貧血症候群を発症したリンパ芽球性リンパ腫の 1 例 . 第 101 回日本内科学会講演会, 2004 . 4 .
- 25) 三井啓吾, 田中 周, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 篠澤 功, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: Billroth II 法再建後に, Double-Balloon method 小腸内視鏡を用いて, 内視鏡的逆行性胆管造影を施行し得た 1 例 . 第 67 回日本消化器内視鏡学会総会, 2004 . 5 .
- 26) 玉井勇人, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: イサゴールが有効であったコラーゲン性大腸炎の 1 例 . 第 279 回日本消化器病学会関東支部例会, 2004 . 5 .
- 27) 岡本宗雄, 田村秀人, 中村恭子, 檀 和夫: 原発性胆汁性肝硬変に合併した pure red cell aplasia の 1 例 . 第 150 回日本臨床血液学会例会, 2004 . 5 .
- 28) 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: インスリンとレプチンは胃に直接作用しグレリン分泌を抑制する . 第 77 回日本内分泌学会学術総会, 2004 . 6 .
- 29) 江本直也, 城所 葉, 及川眞一, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>2)</sup>, 北川 亘<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>金地病院, <sup>2)</sup>外科学第 2): 甲状腺組織より抽出したヒトサイログロブリンの物理化学的性状の多様性 . 第 77 回日本内分泌学会学術総会, 2004 . 6 .
- 30) 城所 葉, 及川眞一, 江本直也, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>金地病院): Basedow 病における甲状腺 `99m `TcO4 ` - ` 20 分取り込み率を規定する因子についての検討 . 第 77 回日本内分泌学会学術総会, 2004 . 6 .
- 31) 杉原 仁, 周東祐仁, 石井新哉, 田村秀樹, 城所 葉, 岡島史宜, 谷村恭子, 亀谷 純, 及川眞一: 成人成長

ホルモン欠損症 (AGHD) に対する GH 投与による体脂肪, インスリン感受性の変化とアディポネクチンの関係. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.

- 32) 真野あすか<sup>1)</sup>, 関野あずさ<sup>1)</sup>, 稲田詩乃<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>1)</sup>, 大坂寿雅<sup>2)</sup>, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一, 根本崇宏<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学生理学第2, <sup>2)</sup>健康・栄養研究所): グレリン受容体発現抑制トランスジェニックラットにおけるエネルギー代謝調節機構について. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 33) 田村秀樹, 杉原 仁, 城所 葉, 岡島史宜, 谷村恭子, 石井新哉, 亀谷 純, 洲鎌秀永<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>1)</sup>, 及川眞一 (<sup>1)</sup>生理学第2): ヒトIL-18に関する検討. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 34) 岡部雅弘, 楠 正典, 三宅一昌, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 平塚哲郎, 篠木 啓, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: AFP, PIVKA-II 産生胃癌の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 35) 小林 剛, 藤森俊二, 江原彰仁, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: 難治性咽頭潰瘍を伴った腸管ペーチェット病の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 36) 藤森俊二, 岸田輝幸, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 永田和弘, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸, 横井公良<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1): *H. pylori*感染がもたらす大腸癌の危険性. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 37) 藤森俊二, 関田祥久, 山田由紀江, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 田中 周, 辰口篤志, 小泉信人, 岸田輝幸, 坂本長逸: 腸閉塞症で発症した横川吸虫症の1例. 第15回日本臨床寄生虫学会, 2004. 6.
- 38) 小杉宗範<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 平井恭二<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>, 田中 周, 山口博樹 (<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>外科学第2): 粘液腫に類似した心臓原発悪性リンパ腫の1例. 第192回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 6.
- 39) 小野千速, 岡島史宜, 中島 泰, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 同1症例におけるアディポネクチンと代謝因子の変化. 第36回日本動脈硬化学会総会, 2004. 7.
- 40) 蓮見明子<sup>1)</sup>, 細野麻友<sup>1)</sup>, 志村雅子<sup>1)</sup>, 片山由美子<sup>1)</sup>, 吉田有人<sup>1)</sup>, 及川眞一 (<sup>1)</sup>キリンビール 基盤技研): ビール苦味成分イソフムロン類の *in vivo* PPAR 活性化作用の解析. 第36回日本動脈硬化学会総会, 2004. 7.
- 41) 中島 泰, 小野千速, 谷村恭子, 城所 葉, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一: 高カイロミクロン血症に対する食事療法のアプローチ. 第36回日本動脈硬化学会総会, 2004. 7.
- 42) 三宅一昌, 坂本長逸: *H. pylori*感染胃粘膜上皮におけるIL-8およびVEGF産生に与えるteprenoneの影響. 第23回消化器病態生理勉強会, 2004. 7.
- 43) 田中 周: 小腸内視鏡検査への新たなアプローチ: ダブルバルーン挿入法. FTS教育講演会, 2004. 7.
- 44) 宮沢陽夫<sup>1)</sup>, 玉 正浩<sup>1)</sup>, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 及川眞一, 大谷晴久<sup>2)</sup>, 宗 正敏<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東北大学大学院農学研究科機能分子解析, <sup>2)</sup>和歌山県立医科大学内科学第三): リニアイオントラップ型ハイブリッド質量分析装置によるヒト血しょうのアマドリ型糖化リン脂質の定性と定量. 第46回脂質生化学会, 2004. 8.
- 45) 植木信江, 三宅一昌, 篠木 啓, 鈴木鈴木, 楠 正典, 進士陽子, 平塚哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: *H. pylori*除菌成功後の非NSAIDs消化性潰瘍再発の検討. 第21回文京消化器内視鏡研究会, 2004. 8.
- 46) 山田 隆, 山口博樹, 中村恭子, 田村秀人, 田野崎栄, 横瀬紀夫, 田近賢二, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: 当科における真性多血症の臨床検討. 第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会, 2004. 9.
- 47) 田野崎栄, 田近賢二, 内田直也, 水木太郎, 山口博樹, 猪口孝一, 山田 隆, 檀 和夫: 臍帯血移植後ドナー細胞由来のモノソミー7をともなった骨髄増殖性疾患を発症した1例. 第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会, 2004. 9.
- 48) 近藤秀士<sup>1)</sup>, 及川眞一, 岡島史宜, 谷村恭子, 中島 泰, 小野千速, 杉原 仁 (<sup>1)</sup>付属病院栄養科): 糖尿病患

- 者の血清脂質の改善と食事療法の実際について．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，2004．9．
- 49) 小野千速，岡島史宜，中島 泰，谷村恭子，杉原 仁，及川眞一：日本医科大学付属病院栄養科．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，2004．9．
- 50) 岡島史宜，栗原美樹子，小野千速，中島 泰，谷村恭子，杉原 仁，及川眞一：すい 細胞のインスリン分泌能に対する各種スタチンの影響．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，2004．9．
- 51) 中島 泰，及川眞一，岡島史宜，谷村恭子，小野千速：仙台市で認められた小児肥満傾向の推移について（仙台市肥満児検診報告から）．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，2004．9．
- 52) 及川眞一，北 徹<sup>1)</sup>，馬淵 宏<sup>2)</sup>，松崎益徳<sup>3)</sup>，松沢佑次<sup>4)</sup>，中谷矩章<sup>5)</sup>，斉藤 康<sup>6)</sup>，佐々木淳<sup>7)</sup>，島本和明<sup>8)</sup>（<sup>1)</sup>京都大学大学院医学研究科循環病態学，<sup>2)</sup>金沢大学大学院医学系研究科血管分子遺伝学，<sup>3)</sup>山口大学大学院医学研究科器官病態内科学，<sup>4)</sup>住友病院，<sup>5)</sup>中谷クリニック，<sup>6)</sup>千葉大学大学院細胞治療学，<sup>7)</sup>国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科，<sup>8)</sup>札幌医科大学内科学第二）：コントロール基準と日本におけるエビデンス J-LIT からみた糖尿病患者の高脂血症治療．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，2004．9．
- 53) 緒方清行，佐藤千香子<sup>1,2)</sup>，兵働英也，塩井由美子，中村恭子，田村秀人，檀 和夫，吉田弥太郎<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第3，<sup>2)</sup>同生体機能制御学，<sup>3)</sup>武田総合病院血液内科）：骨髄異形成症候群の芽球形質に関する研究：骨髄中の芽球比率との関連について．第66回日本血液学会/第46回日本臨床血液学会 合同総会，2004．9．
- 54) 植木信江，三宅一昌，進藤智隆，濱本達彦，鈴木健司，楠 正典，進士陽子，篠木 啓，平塚哲郎，二神生爾，和田 謙，津久井拓，坂本長逸：スリングクおよび除菌療法により縮小平坦化したと考えられる胃腺腫の1例．第281回日本消化器病学会関東支部例会，2004．9．
- 55) 厚川正則，金沢秀典，福田 健，片倉玲樹，木村 祐，滝 保彦，榎原義之，間宮康貴，長田祐二，名知志子，小泉信人，中塚雄久，坂本長逸：TIPS後シャント不全に関する検討．第11回日本門脈圧亢進症学会総会，2004．9．
- 56) 田近賢二，水木太郎，守屋慶一，内田直也，兵働英也，塩井由美子，山口博樹，中村恭子，田野崎栄，檀 和夫：当科における臍帯血を用いた非破壊的造血細胞移植の現状．第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会同時開催，2004．9．
- 57) 水木太郎，田近賢二，内田直也，田野崎栄，山田 隆，檀 和夫：寛解導入療法中に口腔内，陰部の潰瘍性病変を合併した急性前骨髄球性白血病（APL）の1例．第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会同時開催，2004．9．
- 58) 矢部朋子<sup>1)</sup>，吉野公二<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>，近藤麻加<sup>1)</sup>，岡島史宜，及川眞一（<sup>1)</sup>皮膚科学）：血糖コントロールと臨床症状が相関したガス壊その1例．第68回日本皮膚科学会東京支部学術大会，2004．10．
- 59) 亀谷 純，田村秀樹，石井新哉，杉原 仁，及川眞一：下垂体のグレリンに関する検討；GHRHのグレリン蛋白含量におよぼす効果．第31回日本神経内分泌学会学術集会，2004．10．
- 60) 田村秀樹，亀谷 純，石井新哉，杉原 仁，及川眞一：Neuropeptide WはGHRH細胞を介しGH分泌を抑制する．第31回日本神経内分泌学会学術集会，2004．10．
- 61) 玉 正浩<sup>1)</sup>，仲川清隆<sup>1)</sup>，宮沢陽夫<sup>1)</sup>，及川眞一，大谷晴久<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>東北大学大学院農学研究科機能分子解析）：ヒト血しょうのアマドリ型糖化リン脂質のリニアイオントラップ型ハイブリッド質量分析．2004年度日本農芸化学会大会，2004．10．
- 62) 平塚哲郎，二神生爾，辰口篤志，濱本達彦，鈴木健司，植木信江，進士陽子，楠 正典，篠木 啓，西垣 均，三宅一昌，和田 謙，津久井拓，坂本長逸：マウス胃虚血再灌流傷害におけるCOX-1, COX-2の役割．第46回日本消化器病学会，2004．10．
- 63) 二神生爾，平塚哲郎，鈴木健司，楠 正典，濱本達彦，植木信江，篠木 啓，進士陽子，西垣 均，和田 謙，大橋和史，三宅一昌，津久井拓，高橋秀実，坂本長逸：*H. pylori*感染胃粘膜におけるIL-1，IL-7発現と T cell浸潤の検討：胃粘膜局所における*H. pylori* urease IgA産生と血中V<sub>2</sub>/V<sub>1</sub> T cell比の解析．第46回日



本消化器病学会，2004．10．

- 64) 和田 謙，楠 正典，永田和弘，西垣 均，辰口篤志，二神生爾，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸：胃上皮細胞における *Helicobacter pylori* と IL-1 による膜アンカー型 TGF- $\beta$  の発現および shedding の調節作用に関する検討．第46回日本消化器病学会，2004．10．
- 65) 楠 正典，二神生爾，平塚哲郎，濱本達彦，植木信江，田中由理子，鈴木健司，進士陽子，林 良紀，篠木啓，西垣 均，和田 謙，三宅一昌，岩切勝彦，津久井拓，坂本長逸：腹部大動脈瘤術後に非特異的食道運動機能障害，胃排出遅延を来した1例．第35回日本消化器学会総会，2004．10．
- 66) 平塚哲郎，二神生爾，進藤智隆，濱本達彦，鈴木健司，楠 正典，植木信江，篠木 啓，和田 謙，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸：マウス胃虚血再灌流傷害における COX-1, COX-2 の役割．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 67) 楠 正典，二神生爾，平塚哲郎，濱本達彦，田中由理子，植木信江，鈴木健司，進士陽子，篠木 啓，西垣均，和田 謙，三宅一昌，岩切勝彦，津久井拓，坂本長逸：腹部大動脈瘤術後に非特異的食道運動機能障害，胃排出遅延をきたした1例．第35回日本消化器学会総会，2004．10．
- 68) 米澤真興，和田 謙，辰口篤志，赤松知憲，坂本長逸：大腸癌における Heregulin の VEGF 調節に関する検討．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 69) 藤森俊二，岸田輝幸，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，篠澤 功，田中 周，辰口篤志，吉田 豊，坂本長逸，横井公良<sup>1)</sup>，京野昭二<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1)：大腸癌，大腸腺腫と *Helicobacter pylori* 感染との関係に対する検討．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 70) 瀬尾継彦，藤森俊二，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，篠澤 功，田中 周，辰口篤志，佐藤 順，山門 進，吉田 豊，岸田輝幸，坂本長逸：生理学的，血液学的検討による内視鏡的経肛門腸管減圧術 (CRBD) の有効性の評価．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 71) 関田祥久，藤森俊二，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，篠澤 功，田中 周，琴寄 誠，辰口篤志，吉澤雅史，山門 進，吉田 豊，岸田輝幸，坂本長逸：C型肝炎ウイルスと大腸腫瘍の関連性についての検討．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 72) 永田和弘，藤森俊二，辰口篤志，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，三井啓吾，瀬尾継彦，米澤真興，柴田喜明，田中 周，篠澤 功，佐藤 順，山門 進，吉田 豊，岸田輝幸，坂本長逸：急性GVHD腸炎に対する大腸内視鏡検査所見の検討．第68回日本消化器内視鏡学会総会，2004．10．
- 73) 丸谷真守実<sup>1)</sup>，平山真章<sup>1)</sup>，目黒高志<sup>1)</sup>，押切太郎<sup>2)</sup>，山田秀久<sup>2)</sup>，仙丸直人<sup>2)</sup>，高橋利幸<sup>3)</sup>，田中 周，三井啓吾 (<sup>1)</sup>北海道消化器科病院内科，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>同病理部)：ダブルバルーン式小腸内視鏡検査が診断に有用であった原発性小腸癌の1例．第68回日本消化器内視鏡学会総会，2004．10．
- 74) 岩崎玲子<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，田中 周，三井啓吾，坂本長逸，杉崎祐一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：小腸鏡で発見し得た小腸GISTの3症例．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 75) 榎原義之，金沢秀典，坂本長逸：難治性腹水に対する TIPS の長期治療成績と治療戦略．第46回日本消化器病学会，2004．10．
- 76) 榎原義之，金沢秀典，片倉玲樹，厚川正則，滝 保彦，木村 祐，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，坂本長逸：難治性腹水における TIPS 後の病態変化．第46回肝不全治療研究会，2004．10．
- 77) 片倉玲樹，榎原義之，厚川正則，滝 保彦，木村 祐，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，小泉信人，金沢秀典，坂本長逸：門脈肺高血圧症を呈した肝硬変症例に関する検討．第46回日本消化器病学会，2004．10．
- 78) 厚川正則，金沢秀典，榎原義之，片倉玲樹，滝 保彦，木村 祐，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，坂本長逸：門脈血栓症に対する TIPS の治療成績．第46回日本消化器病学会，2004．10．

- 79) 竹内純子, 塩井由美子, 中村恭子, 田野崎栄, 田近賢二, 檀 和夫: ラミブジン投与により寛解したB型慢性肝炎合併自己免疫性溶血性貧血. 第150回日本臨床血液学会例会, 2004. 10.
- 80) 江本直也, 城所 葉, 芦沢真代, 及川眞一, 豊田亜希子<sup>1)</sup>, 豊田英尚<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉大学大学院薬学研究院生体分析化学研究室, <sup>2)</sup>外科学第2): 精製ヒトサイログロブリンのコンドロイチン硫酸鎖組成の多様性. 第47回日本甲状腺学会学術集会, 2004. 11.
- 81) 津久井拓, 進士陽子, 辰口篤志, 篠木 啓, 植木信江, 楠 正典, 鈴木健司, 平塚哲郎, 二神生爾, 和田 謙, 三宅一昌, Katya G, 坂本長逸: 培養ヒト胃線維芽細胞における Prostaglandin E 合成酵素 (PGES) の発現と役割に関する検討. 第32回創傷治癒学会, 2004. 11.
- 82) 進藤智隆, 濱本達彦, 二神生爾, 平塚哲郎, 鈴木健司, 楠 正典, 植木信江, 篠木 啓, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 当科で経験したFD (functional dyspepsia) 患者に対する<sup>13</sup>C-acetateを用いた胃排出能の検討. 第7回GAS研究会, 2004. 11.
- 83) 篠木 啓, 三宅一昌, 佐野弘仁, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 楠 正典, 鈴木健司, 平塚哲郎, 辰口篤志, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: 除菌が奏効した蛋白漏出性胃症の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 84) 関田祥久, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 田中 周, 辰口篤志, 山門 進, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: 高濃度酸素療法が著効した多発性筋炎合併腸管気腫性嚢胞症の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 85) 田中 周, 坂本長逸: ダブルバルーン小腸内視鏡: 取り扱いと挿入法. 第19回小石川消化器病フォーラム, 2004. 12.
- 86) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: Double-Balloon 式内視鏡の臨床評価: 小腸疾患の治療に対する新たなアプローチ. 第23回IBD Club Jr. 研究会, 2004. 12.
- 87) 松下洋子, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸: 食道内圧検査が有用であったLES弛緩不全の1例. 第282回日本消化器病学会関東支部例会, 2004. 12.
- 88) 伊藤吉賢, 辻: ウサギ高脂血症モデルにおける関節の組織学的解析. 第19回日本整形外科学会基礎学術集会, 2004.
- 89) 進士陽子, 津久井拓, 辰口篤志, 篠木 啓, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 楠 正典, 鈴木健司, 飯泉 匡, 平塚哲郎, 二神生爾, 和田 謙, 三宅一昌, Katya G, 坂本長逸: 胃潰瘍修復過程におけるmPGESの発現. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.
- 90) 辰口篤志, 和田 謙, 二神生爾, 平塚哲郎, 進士陽子, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: ヒト胃炎, 胃潰瘍組織における膜結合型プロスタグランジンE2合成酵素 (mPGES)-1, mPGES-2, 細胞質型PGE2合成酵素 (cPGES) の発現. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.
- 91) 濱本達彦, 二神生爾, 進藤智隆, 平塚哲郎, 鈴木健司, 楠 正典, 植木信江, 篠木 啓, 和田 謙, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸: 当科で経験したFD (functional dyspepsia) 患者に対する<sup>13</sup>C-acetateを用いた胃排出能の検討. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.
- 92) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 飯泉 匡, 平塚哲郎, 篠木 啓, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 中島敦夫, 吉野禎一, 坂本長逸: 長期NSAIDs使用関節リウマチ患者における消化器潰瘍発症に関するcase-control study. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.
- 93) 植木信江, 三宅一昌, 進藤智隆, 濱本達彦, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: クラリスロマイシン耐性菌に対するメトロニダゾールを用いた二次除菌におけるクラリスロマイシンの有効性. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.
- 94) 二神生爾, 平塚哲郎, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 楠 正典, 進士陽子, 鈴木健司, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 粘膜内 T cell の浸潤と胃粘膜組織中IL-1, IL-7との相関関係の検討: HP urease

- IgA抗体と T cellのphenotypeとの関連．第1回日本消化管学会総会，2005．1．
- 95) 藤森俊二，岸田輝幸，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，篠澤 功，田中 周，辰口篤志，山門 進，吉田 豊，坂本長逸： *Helicobacter pylori*感染による大腸癌の危険性について多変量解析を用いて探る．第1回日本消化管学会総会，2005．1．
- 96) 辰口篤志，三宅一昌，坂本長逸：胃粘膜のグレリン発現に *Helicobacter pylori*感染が及ぼす影響．第1回日本消化管学会総会，2005．1．
- 97) 瀬尾継彦，辰口篤志，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，田中 周，藤森俊二，岸田輝幸，坂本長逸：大腸癌におけるmPGES-1の発現．第1回日本消化管学会総会，2005．1．
- 98) 林 良紀，岩切勝彦，琴寄 誠，田中由理子，川上明彦，坂本長逸：本邦における逆流性食道炎患者の胃食道逆流の特徴．第1回日本消化管学会総会，2005．1．
- 99) 北村由梨，岡島史宣，中島 泰，谷村恭子，田村秀樹，石井新哉，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一：経過中抗GAD抗体が陽性となった劇症I型糖尿病の1例．第42回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，2005．1．
- 100) 松下洋子，岡島史宣，中島 泰，谷村恭子，田村秀樹，石井新哉，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一：反応性低血糖の精査中にGH産生下垂体腺腫が発見された症例．第42回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，2005．1．
- 101) 近藤麻加，田村秀樹，中島 泰，谷村恭子，城所 葉，岡島史宣，石井新哉，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一：チアマゾールの長期投与中に生じたMPO-ANCA陽性血管炎の1例．第5回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会，2005．2．
- 102) 北村由梨，田村秀樹，石井新哉，中島 泰，谷村恭子，城所 葉，岡島史宣，亀谷 純，杉原 仁，赤須東樹<sup>1)</sup>，北川 亘<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>1)</sup>，及川眞一（<sup>1)</sup>外科学第2）：副腎静脈サンプリングで両側からのコルチゾール産生を確認したPPNADの症例．第5回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会，2005．2．
- 103) 石井暢明，平塚哲郎，小野真平，片倉玲樹，進藤智隆，濱本達彦，植木信江，鈴木健司，進士陽子，楠 正典，瀬尾継彦，辰口篤志，二生生爾，藤森俊二，和田 謙，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸，相本隆幸<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，丹羽 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1，<sup>2)</sup>丹羽医院）：消化管出血を来した十二指腸動脈奇形の1例．第283回日本消化器病学会地方会，2005．2．
- 104) 田中 周，三井啓吾，坂本長逸：当教室におけるダブルバルーン小腸内視鏡検査の現状について．第5回小腸内視鏡研究会，2005．2．
- 105) 近藤麻加，田野崎栄，兵働英也，田近賢二，緒方清行，猪口孝一，檀 和夫：原発性マクログロブリン血症に悪性リンパ腫を合併した1例．第150回日本臨床血液学会例会，2005．2．
- 106) 石崎 晃，田村秀樹，玉井真人，岡島史宣，中島 泰，谷村恭子，城所 葉，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一：反応性低血糖の精査中にGH産生下垂体腺腫が発見された症例．第15回臨床内分泌代謝Update，2005．3．
- 107) 加納稔子，田村秀樹，岡島史宣，脇田知志，中島 泰，谷村恭子，城所 葉，亀谷 純，杉原 仁，片上秀喜<sup>1)</sup>，芝崎 保<sup>2)</sup>，清水一雄<sup>3)</sup>，及川眞一（<sup>1)</sup>宮崎大学医学部第三内科，<sup>2)</sup>日本医科大学生理学第2，<sup>3)</sup>同外科学第2）：GHRH産生腫瘍を認めた多発性内分泌腺腫瘍（MEN）I型．第15回臨床内分泌代謝Update，2005．3．
- 108) 原田太郎，田村秀樹，江本直也，大秋美治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院病理部）：痛みのない亜急性甲状腺炎の1例．第15回臨床内分泌代謝Update，2005．3．
- 109) 亀谷 純：NPYの中枢摂食制御研究の進展：甲状腺機能などホルモン異常によるNPY発現変化と摂食行動．第78回日本薬理学会年会，2005．3．

## 4. 内科学第四講座

### [ 付属病院呼吸器内科 ]

#### 研究概要

【炎症グループ】特発性間質性肺炎の活動性指標，KL-6，SP-D，ANCA 値の推移解析，NAC療法，免疫抑制療法，付随する免疫不全状態での感染病態の治療，評価，慢性気道炎症（DPBと類縁疾患）に対するマクロライド療法，その作用機序解析，サルコイドーシス眼病変合併肺病変の解析を行っている．間質性肺炎・肺線維症の病態に関して肺傷害と修復に関わる因子解析，細胞・組織再生の基礎的理解をプレオマイシン，放射線肺障害マウスモデルで解析している．大気環境の健康被害影響解明のためディーゼル排気粒子曝露の影響を検討している．

【呼吸生理グループ】慢性閉塞性肺疾患（COPD）と睡眠時無呼吸症候群（SAS）を生活習慣病として位置づけ，市ヶ谷駅前の呼吸器専門外来「呼吸ケアクリニック」を基盤に研究・包括的治療を行った．肥満・痩せの評価・指導を科学的根拠に基づき実施，英国の施設と患者教育の共同研究を開始した．局地大気汚染による健康影響の疫学調査設計や離島での大気汚染と呼気NOの関係の研究，COPDの疫学調査，咳嗽音の音響学的検討，咳嗽カウンターの開発，肥満と動脈硬化の検討等を発表した．

【肺癌グループ】新薬を含む併用療法，有合併症症例の治療，個別化治療（イレッサ感受性に関する変異解析やイリノテカンの副作用に関する遺伝子多型解析等を研究），抗癌剤感受性と遺伝子発現データに基づいたレジメン開発（初回化学療法不応例でのカルボプラチン+タキソール），副作用対策等を行っている．副作用に関してイレッサ肺障害での臨床研究の中心的施設として参加している．イリノテカンの副作用対策として腸管循環抑制や遺伝子多型による予測等の研究を行っている．個別化治療の基礎的研究として感受性，副作用予測の研究を展開している．肺癌の発癌，増殖に関わる研究を遺伝子レベルで行ない，発癌の母地として特発性間質性肺炎に注目し，特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ando M<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>2)</sup>, Yoshimura A, Kurimoto F<sup>1)</sup>, Seike M, Nara M, Moriyama G<sup>1)</sup>, Mizutani H<sup>1)</sup>, Hibino S, Gemma A, Okano T, Shibuya M, Kudoh S ( <sup>1)</sup> Division of Internal Medicine, Tuboi Cancer Center Hospital, <sup>2)</sup> Respiratory Section, Saitama Cancer Center ): Weekly administration of irinotecan (CPT-11) plus cisplatin for refractory or relapsed small cell lung cancer . Lung Cancer 2004 ; 44 ( 1 ): 121-127 .
- 2) Yuji M<sup>1)</sup>, Hironobu O<sup>1)</sup>, T M<sup>1)</sup>, Koichi G<sup>1)</sup>, Kaoru K<sup>1)</sup>, Ryutarō K<sup>1)</sup>, Yutaka N<sup>1)</sup>, Shoji K ( <sup>1)</sup> Division of Thoracic Oncology, National Cancer Center Hospital East ): Efficacy of droperidol in the prevention of cisplatin-induced delayed emesis : a double-blind, randomised parallel study . Eur J Cancer 2004 ; 40 ( 8 ): 1188-1192 .
- 3) Azuma A : Roles of Macrolides in Treatment of Lung Injury . Antibiotics as Anti-inflammatory and Immunomodulatory Agents 2004 ; 219-226 .
- 4) Yoshimura A, Gemma A, Kataoka K, Hosoya Y, Noro R, Kudoh S : Mutational analysis of the macrophage scavenger receptor 1 ( MSR1 ) gene in primary lung cancer . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 2 ): 99-104 .
- 5) Hibino S<sup>1)</sup>, Shibuya M<sup>2)</sup>, Engbring Jean A<sup>1)</sup>, Mochizuki M<sup>3)</sup>, Nomizu M<sup>3)</sup>, Kleinman Hynda K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Craniofacial Developtmental Biology and Regeneration Branch, National Institute of Dental and Craniofacial Re-

search, NIH, Bethesda, <sup>2)</sup> Respiratory Division of Internal Medicine, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>3)</sup> Graduate School of Environmental Earth Science, Hokkaido University): Identification of an active site on the laminin 5 chain globular domain that binds to cd44 and inhibits malignancy. *cancer research* 2004; 64 (15): 4810-4816.

- 6) Kamio K<sup>1)</sup>, Matsushita I<sup>1)</sup>, Tanaka G<sup>1)</sup>, Ohashi J<sup>2)</sup>, Hijikata M<sup>1)</sup>, Nakata K<sup>1)</sup>, Tokunaga K<sup>2)</sup>, Azuma A, Kudoh S, Keicho N<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Respiratory Disease, Research Institute, International Medical Center of Japan, <sup>2)</sup> Department of Human Genetics, graduate School of Medicine, the University of Tokyo): Direct determination of MUC5B promoter haplotypes based on the method of single-strand conformation polymorphism and their statistical estimation. *Genomics* 2004; 84 (3): 613-622.
- 7) Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, Kudoh S, Sakamoto N, Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Inaba Y, Tanaka H: Vegetable, Fruit, and Cereal Intake and Risk of Idiopathic Pulmonary Fibrosis in Japan. *Annals of Nutrition and Metabolism* 2004; 48 (6): 390-397.
- 8) Motegi T, Kida K, Kudoh S: Correlation between symptoms, chest radiographs, pulmonary function tests and severity of emphysema on autopsy lungs in elderly patients. *Geriatrics and Gerontology International* 2005; 5 (1): 29-36.
- 9) Azuma A, Kudoh S: Securing Safety and Efficacy of Macrolide Therapy for Chronic Small Airway Diseases. *Internal Medicine* 2005; 44 (3): 167-168.
- 10) Azuma A, Li YJ, Usuki J, Abe S, Matsuda K, Henmi S, Miyauchi Y, Izawa A, Sone S, Hashimoto S, Kudoh S: Interferon- $\gamma$  Inhibits Bleomycin-Induced Lung Fibrosis by Decreasing TGF- $\beta$  and Thrombospondin. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2005; 32 (2): 93-98.
- 11) 村田 朗: 呼吸リハビリテーションの臨床展開の追求: 新たな運動療法マニュアルの作成と将来像: 今後の活用について. *日本呼吸管理学会誌* 2004; 13 (3): 428-432.
- 12) 山口恵子, 中嶋花子, 東 永子, 大原国俊, 高橋卓夫, 吾妻安良太, 工藤翔二: サルコイドーシス診断基準による眼サルコイドーシスの診断. *日本眼科学会雑誌* 2004; 108 (2): 98-102.
- 13) 鄒 大同, 渋谷昌彦, 篠田欣也, 日比野俊, 松田久仁子, 竹中 圭, 弦間昭彦, 工藤翔二: 転移能の異なるヒト肺腺癌株における血管新生能の差異. *J Nippon Med Sch* 2004; 71 (3): 181-189.
- 14) 高崎雄司<sup>1)</sup>, 榊原博樹<sup>2)</sup>, 佐々木文彦<sup>2)</sup>, 松井 潔<sup>2)</sup>, 村田 朗, 工藤翔二 (<sup>1)</sup> 太田総合病院睡眠センター, <sup>2)</sup> 藤田保健衛生大学病院呼吸器科・アレルギー科): 睡眠時無呼吸症候群の診断における携帯用終夜睡眠呼吸グラフの臨床評価. *日本呼吸学会雑誌* 2004; 42 (9): 794-802.
- 15) 村田 朗, 木田厚瑞: チーム医療としての呼吸リハビリテーション Pulmonary Rehabilitation as a Team Care. *日本胸部臨床 The Japanese Journal of chest disease* 2005; 64 (3): 204-213.
- 16) 吾妻安良太: 高齢者呼吸器疾患の基礎と臨床の最前線 2. 特発性間質性肺炎の新規治療効果. *日本老年医学会雑誌* 2005; 42 (1): 27-30.

## (2) 総説:

- 1) Azuma A, Kudoh S: The Use of Macrolides for the Therapy of Diffuse Panbronchiolitis. *Antibiotics as Anti-inflammatory and Immunomodulatory Agents* 2004; 145-147.
- 2) Muller NL, White DA, Jiang H, Gemma A: Diagnosis and management of drug-associated interstitial lung disease. *Br J Cancer* 2004; 91 (2): 24-30.
- 3) Kudoh S: Applying Lessons Learned In The Treatment of Diffuse Panbronchitis to Other Chronic Inflammatory Disease. *The American Journal of Medicine* 2004; 12-19.
- 4) 根井貴仁, 吾妻安良太: Kartagener 症候群. 画像でひもとく呼吸器疾患診療へのアプローチ 2004; 193-196.
- 5) 弦間昭彦, 吉村明修, 工藤翔二: 特集: 癌の分子標的治療の現況と未来. 癌の分子標的治療: 肺癌・ゲフィチニブを中心に 2004.

- 6) 河野あゆみ, 村田 朗, 工藤翔二: 包括的呼吸リハビリテーションの進め方とその有用性. Medical Practice 2004 ; 21 (4): 621-626 .
- 7) 根井貴仁, 吾妻安良太: インフルザ. 都薬雑誌 2004 ; 26 (12): 4-10 .
- 8) 弦間昭彦: 肺癌化学療法の個別化への展望. 呼吸器科 2004 .
- 9) 吉村明修: 特発性肺線維症と肺癌. 日本医事新報 2004 ; 4206 : 18-24 .
- 10) 工藤翔二: <目でみるバイオサイエンス> 慢性気道炎症とマクロライド. 内科 2004 ; 94 (4): 755-760 .
- 11) 山口敬子, 木田厚瑞: COPD (慢性閉塞性肺疾患) の病態とケア-慢性安定期の基本治療と急性増悪における治療をどうするか-. Medical Practice 2004 ; 21 (4): 621-626 .
- 12) 工藤翔二, 吉村明修: 癌治療における肺障害と対策. 癌と化学療法 2004 ; 31 (5): 679-684 .
- 13) 木田厚瑞: 治療への導入における重要ポイント. Emergency nursing 2004 ; 17 (5): 447-459 .
- 14) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦: ゲフィチニブ (イレッサ) に関する諸問題 ゲフィチニブに学ぶ: 医療者の立場から. 血液・腫瘍科 2004 ; 48 (6): 598-602 .
- 15) 工藤翔二: 特集 ここ呼吸器科. 科学評論社 2004 ; 5 (6): 485-486 .
- 16) 村田 朗: 医学教育における肺聴診と OSCE. 日本胸部臨床 (The Japan Journal of Chest Disease) 2004 ; 63 (7): 637-643 .
- 17) 木田厚瑞: 研究の周辺から. COPD up-date 2004 ; 1 : 4-5 .
- 18) 村田 朗: COPD 診療における病診連携の実際. 日本医師会雑誌 2004 ; 132 (3): 378-381 .
- 19) 吾妻安良太: 慢性疾患の予後決定因子: インフォームド・コンセントを得るための特発性肺線維症の予後決定因子. 成人病と生活習慣病 2004 ; 34 (6): 823-825 .
- 20) 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 呼吸器疾患のガイドラインをめぐって 間質性肺炎のガイドライン 特発性間質性肺炎 (IIPs) 第四次改訂診断基準および治療指針を中心に. 呼吸と循環 2004 ; 52 (10): 1017-1026 .
- 21) 野呂林太郎, 弦間昭彦, 吉村明修, 工藤翔二, 吾妻安良太: 多彩な胸腔内病変を呈するゲフィチニブ (イレッサ) による肺障害. 治療学 2004 ; 11 (7): 695-698 .
- 22) 工藤翔二, 弦間昭彦: 抗腫瘍薬による肺障害の現況と課題. LUNG CANCER TODAY 2004 .
- 23) 臼杵二郎, 吾妻安良太: 薬剤性肺障害 プレオマイシン肺障害におけるサイトカインの発現動態. 分子呼吸器病 2004 ; 8 (6): 487-492 .
- 24) 臼杵二郎, 吾妻安良太: 抗がん剤による有害反応: その予防と処置 プレオマイシンの肺障害. 血液・腫瘍科 2004 ; 49 (5): 501-504 .
- 25) 阿部信二, 吾妻安良太: アレルギー性鼻炎と非アレルギー性鼻炎をめぐって 非アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎 2) 非過敏性鼻炎 d. sino-brochitis. アレルギー・免疫 2004 ; 11 (7): 938-943 .
- 26) 吾妻安良太, 工藤翔二: 気道炎症とマクロライド (1) オーバービュー: マクロライド療法の歩みと今日の課題. アレルギー・免疫 2004 ; 11 (7): 992-999 .
- 27) 吾妻安良太: 気道炎症とマクロライド (4) 嚢胞性線維症に対するマクロライド療法: 欧米の臨床試験結果. アレルギー・免疫 2004 ; 11 (10): 1366-1369 .
- 28) 吾妻安良太, 臼杵二郎, 工藤翔二: 抗菌薬をめぐるエビデンス 慢性気道感染症とマクロライド療法: 悪循環を断ち切るマクロライドの抗炎症作用. 医学のあゆみ 2004 ; 570-577 .
- 29) 吾妻安良太: 疾患別診療ガイド びまん性汎気管支炎. Med Pract 2004 ; 21 : 358-362 .
- 30) 榎本達治<sup>1)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二 (<sup>1)</sup>東京都立広尾病院呼吸器科): びまん性汎気管支炎. 今月の治療 2004 ; 12 (臨時増刊号): 80-83 .
- 31) 村田 朗: 特集 SAS/睡眠時無呼吸症候群. 健康管理 2005 ; 1 (607): 6-18 .
- 32) 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: <特集> 間質性肺炎のガイドライン. 呼吸と循環 2005 ; 52 : 1017-1026 .
- 33) 吾妻安良太: 特発性肺線維症治療薬の最近の動向: インターフェロン. 日本胸部臨床 2005 ; 64 : 126-130 .

- 34) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦: 急性肺障害/間質性肺炎 (ILD) について: gefitinib 使用の観点から. がん分子標的治療 2005.
- 35) 峯岸裕司, 弦間昭彦, 工藤翔二: 高齢者の癌をどうするか: 2 高齢者の肺癌の臨床. ジェロントロジー 2005; 17 (1): 22-26.
- 36) 山口敬子, 木田厚瑞: 新しい包括的呼吸ケアをどのように構築していくか: (1) 慢性疾患の管理とケアの考え方. 呼吸ケア 2005; 3 (1): 40-45.
- 37) 山口敬子, 木田厚瑞: 新しい包括的呼吸ケアをどのように構築していくか: (2) 包括的呼吸ケアとは. 呼吸ケア 2005; 3 (2): 127-133.
- 38) 白杵二郎: 末梢気道病変をめぐって びまん性汎細気管支炎. 呼吸器科 2005; 7 (3): 207-212.
- 39) 松井祥子, 拇 博久, 木田厚瑞, 水島 豊: Round Table Discussion COPD 治療の未来. Geriat Med 2005; 43 (3): 485-499.
- 40) 木田厚瑞: 在宅酸素療法における患者教育. Geriant 2005; 43 (3): 443-449.
- 41) 半田恵美, 山田浩一, 木田厚瑞: 包括的呼吸ケアの対象となる疾患の病態と治療 (1). 呼吸ケア 2005; 3 (3): 229-233.
- 42) 吾妻安良太: マクロライド薬の抗菌薬以外の作用. 日本内科学会雑誌 2005; 94 (2): 376-385.

#### (3) 研究報告書:

- 1) 工藤翔二, 根井貴仁, 榎本達治, 白杵二郎, 吾妻安良太: 呼吸器系5疾患認定患者の実態調査: 特発性間質性肺炎を中心に. 平成15年度東京都特殊疾病(難病)に関する研究報告書 2004; pp8-11.

#### (4) 症例報告:

- 1) 榎本達治, 吾妻安良太, 三浦由記子, 高久多希朗, 松本亜紀, 根井貴仁, 阿部信二, 白杵二郎, 工藤翔二: 閉塞性細気管支炎 2 気管支拡張で発見され原発性免疫不全症候群が疑われた一卵性双生児の姉妹例. Ther Res 2004; 25 (7): 1505-1508.
- 2) 松本亜紀, 榎本達治, 根井貴仁, 榊原桂太郎, 阿部信二, 吾妻安良太, 工藤翔二: 閉塞性細気管支炎 5 化学療法が奏効したHTLV-I関連肺病変の1例. Ther Res 2004; 25 (7): 1517-1520.
- 3) 白杵二郎, 鈴木 学, 木田恵子, 榊原桂太郎, 榎本達治, 吾妻安良太, 吉村明修, 工藤翔二, 功刀しのぶ<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): D-ペニシラミン長期服用中のウィルソン病患者に発症した若年性肺気腫の1例. 日本胸部臨床 2004; 63 (11): 1086-1092.
- 4) 森本泰介<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本赤十字社医療センター呼吸器内科): 一側肺の無気肺にて発症した超高齢者 ABPA の1例. Jpn J Antibiot 2005; 58 (1): 66-69.

#### 著 書

- 1) 村田 朗: [共著] 第3章 治療と管理 (2) 安定期の管理 B. 非薬物療法 7. 在宅管理. COPD (慢性閉塞性肺疾患) 診断と治療のためのガイドライン第2版 (日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第2版作成委員会), 2004; pp107-111, 社団法人日本呼吸器学会.
- 2) 村田 朗: [分担] 在宅酸素療法. 講義録 呼吸器学 (杉山幸比古), 2004; pp324-326, メジカルビュー社.
- 3) 木田厚瑞, 村田 朗: [共著] タバコ好きが危ない! COPD の早期発見と治し方, 2004; pp1-208, 主婦と生活社.
- 4) 小久保豊, 弦間昭彦: [自著] 第1章 図表集 10 抗癌剤, 診断と治療社. 呼吸器研修ノート (永井良三), 2004; pp61-72, 東京.
- 5) 弦間昭彦: [自著] 肺癌のオーダーメイド治療への展望 (特に非小細胞癌に対して). 呼吸器疾患最新の治療 (工藤翔二, 中田紘一郎, 貴和敏博), 2004; pp52-56, 南江社.
- 6) 弦間昭彦: [自著] 肺癌における化学療法の個別的选择. 肺癌診療二頁の秘訣 (藤村重文), 2004; pp190-191,

金原出版 .

- 7) 吉岡央子：〔共著〕地域に根ざした在宅呼吸ケア . エクセルナース「在宅呼吸ケア編」(監修；木田厚瑞 編集；石崎武志，亀井智子)，2004；pp25-28，メディカルレビュー社 .
- 8) 金子泰之<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>(1)</sup>太田綜合病院内科)：〔分担〕総論；専門家としての在宅呼吸ケアの進め方 4チーム医療と在宅呼吸ケア . 実践的看護のための病棟・外来マニュアル エクセルナース〔在宅呼吸ケア編〕15 (木田厚瑞，石崎武志，亀井智子)，2004；pp29-33，メジカルビュー社 .
- 9) 村田 朗：〔分担〕情報収集とアセスメント 2症状・外来所見 . 実践的看護のための病棟・外来マニュアル エクセルナース〔在宅呼吸ケア編〕15 (木田厚瑞，石崎武志，亀井智子)，2004；pp91-103，メディカルビュー社 .
- 10) 村田 朗：〔分担〕在宅ハイテク呼吸ケア 4テレヘルス . 実践的看護のための病棟・外来マニュアル (木田厚瑞，石崎武志，亀井智子)，2004；pp193-199，メディレビュー社 .
- 11) 村田 朗：〔分担〕睡眠時無呼吸症候群の治療 . 標準治療 2004・2005 (寺下謙三)，2004；pp5-7，日本医療企画 .
- 12) 工藤翔二：〔自著〕1. 生化学臨床検査ガイド2005-2006 . 1. 生化学臨床検査ガイド2005-2006，2005；pp293-294，文光堂 .
- 13) 阿部信二，吾妻安良太，工藤翔二：〔自著〕I-5. 骨髄幹細胞と肺の再生 . Annual Review 呼吸器 2005，2005；pp33-44，中外医学社 .
- 14) 吉岡央子：〔自著〕COPDの予防・改善で求められる「禁煙」：COPDの予防と治療 . 月刊 地域保健，2005；pp30-37，株式会社 東京法規出版 .
- 15) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕その他の分泌物・穿刺液：胸水 . 臨床検査ガイド2005-2006 (和田 攻，大久保昭行，矢崎義雄，大内耐義)，2005；pp950-953，文光堂 .
- 16) 村田 朗：〔分担〕包括的呼吸リハビリテーション . 3学会合同呼吸療法認定士「認定更新のための講習会」テキスト (3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局)，2005；pp48-52，医療機器センター .
- 17) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕検査・診断・治療への流れ・診察 . 看護のための最新医学講座 (第2版) 第2巻 呼吸器疾患 (貫和敏博)，2005；pp54-61，中山書店 .
- 18) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕検査・診断・治療への流れ・検査 . 看護のための最新医学講座 (第2版) 第2巻 呼吸器疾患 (貫和敏博)，2005；pp62-68，中山書店 .
- 19) 工藤翔二：〔編集〕1. 呼吸器内科学レビュー2005 . 1. 呼吸器内科学レビュー2005 (工藤翔二)，2005；綜合医学社 .
- 20) 榎本達治<sup>1)</sup>，吾妻安良太<sup>(1)</sup>東京都立広尾病院呼吸器科)：〔共著〕解熱鎮痛薬・使用頻度の高い薬剤による間質性肺炎 . 薬剤による呼吸器傷害，2005；pp124-132，克誠堂出版 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Seike M：Proteomics of lung cancer . 2004 日本肺癌学会/IASLC合同 Workshop (Tokyo)，2004 . 10 .
- 2) 工藤翔二：リウマチ治療におけるびまん性肺陰影の鑑別診断-間質性肺炎とカリニ肺炎 . 中国・四国アラバマセミナー，2004 . 8 .
- 3) 工藤翔二：肺癌と喫煙 . 第6回日本呼吸器学会関東「肺の日」記念市民公開講座，2004 . 8 .
- 4) 工藤翔二：マクロライド新作用 新たな展開 . マクロライド学術講演会，2004 . 10 .
- 5) 工藤翔二：マクロライド新作用の新たな展開 . 第4回宮崎マクロライド研究会，2004 . 11 .
- 6) 工藤翔二：びまん性汎細気管支炎 (DPB) とマクロライド療法の新展開 . 日本医事新報，2005 . 1 .
- 7) 工藤翔二：マクロライドの新作用 今日課題 . 第32回関東喀痰研究会，2005 . 2 .
- 8) 工藤翔二：最近の薬剤性肺炎と抗リウマチ薬 . 第1回リウマチ医のための肺障害研究会，2005 . 3 .



(2) 招待講演：

- 1) Azuma A : Clinical application of macrolides and basic mechanisms of macrolide therapy . Pioneering New Approaches to Managing Respiratory Tract Infections. Abbott Symposium ( Hong Kong ), 2004 . 4 .
- 2) 吾妻安良太：呼吸器感染症におけるマクロライド療法とケトライド療法の位置づけ．東京都町田医師会，2004 . 4 .
- 3) 吾妻安良太：慢性気道疾患とマクロライド療法の歩み．第6回気道・肺胞分泌研究会，2004 . 7 .
- 4) 村田 朗：一日でわかる急性増悪の予防：在宅呼吸ケアの質向上のために．北陸呼吸ケア研究会第13回石川会，2004 . 10 .
- 5) 村田 朗：睡眠時無呼吸症候群の診断と治療．第11回New Horizon for Neurosciences，2004 . 12 .
- 6) 村田 朗：COPDの急性増悪の予防：発症原因の多様性と包括的呼吸リハビリテーション．平成18年度在宅医療推進のための実地研修会（山口県医師会），2005 . 3 .

(3) 教育講演：

- 1) 木田厚瑞：ランチョンセミナー18 高齢者における気管支喘息とCOPD：鑑別と治療のポイント．第46会日本老年医学会学術集会総会，2004 . 6 .
- 2) 村田 朗：セキと痰の科学．東京GOLD研究会，2005 . 1 .

(4) 学術講演：

- 1) 工藤翔二：マクロライド新作用の新たな展開．横須賀市医師会学術講演会，2004 . 5 .
- 2) 工藤翔二：関節リウマチとびまん性肺病変：リウマチ肺・薬剤性傷害・感染症．福井県臨床整形外科医会学術講演会，2004 . 6 .

(5) シンポジウム：

- 1) Li YJ, Azuma A, Usuki J, Matsuda K, Aoyama A, Kudoh S, Sunazuka T, Omura S : Mini Symposium : D83 Animal Models of Pulmonary Fibrosis. EM703-A New Derivative of Erythromycin Improves Bleomycin-induced Lung Fibrosis in Mice . International Conference of American Thoracic Society ( Orland ), 2004 . 5 .
- 2) Azuma A, Li Y, Matsuda K, Aoyama A, Shoji K : EM703-New Derivative of Erythromycin Improvement Lung Fibrosis in Bleomycin-Challenged Mice by Regulation of Smad 3 Messenger RNA Expression . 9th APSR 2004 ( Hong Kong, China ), 2004 . 12 .
- 3) 村田 朗：病院外のSpO<sub>2</sub>モニター 1. パルスオキシメーターの現状と問題点．第15回日本臨床モニター学会総会，2004 . 4 .
- 4) 木田厚瑞，塩谷隆信：シンポジウムII 呼吸リハビリテーションのアウトカムと将来の課題 座長のことば．第14回日本呼吸管理学会学術集会，2004 . 8 .

(6) パネルディスカッション：

- 1) Yoshioka H : Efficacy of Combined Screening Using Questionnaires and Spirometry for COPD : Cross Sectional and Population-based Study on a Small Inner Island in Japan . American Thoracic Society ( USA ), 2004 . 5 .
- 2) Motegi T, Yamada K, Mjurata A, Kida K, Kudoh S : Cost analysis for inpatient therapy in elderly patients with acute exacerbations of chronic obstructive pulmonary disease . ERS Congress ( Glasgow ), 2004 . 9 .

(7) セミナー：

- 1) 工藤翔二：肺炎をめぐる今日的課題．第44回臨床呼吸機能講習会，2004 . 8 .
- 2) 工藤翔二：アラバ投与中の間質性肺障害の早期診断と治療．アラバセミナー in Sapporo，2004 . 9 .
- 3) 工藤翔二：アラバ錠投与中の間質性肺障害の早期診断と治療．名古屋アラバセミナー，2004 . 10 .
- 4) 工藤翔二：DPBの治療としてのエリスロマイシン発見とその後の展開．第65回結核病学会，2004 . 11 .

(8) ワークショップ :

- 1) Gemma A , Li C , Matsuda K , Masahiri S , Hosoya Y , Minegishi Y , Noro R , Nara M , Hosomi Y , Okano T , Kokubo Y , Takenaka KI , Yoshimura A , Shibuya M , Shionoya A , Ogawa N , Uesaka H , Kudoh S : Chemotherapy strategy design based on gene expression profiles and sensitivity database and a phase I/II study of Paclitaxel + carboplatin regimen in the chemotherapy for refractory or recurrent non-small lung cancer ( NSCLC ). 第42回日本癌治療学会総会 , 2004 . 10 .
- 2) 木田厚瑞 : 呼吸ケアカンファレンス ( ワークショップ1-2 ) 在宅ケアにおける急性増悪の予防 . 第44回日本呼吸器学会学術講演会 , 2004 . 4 .

(9) 一般講演 :

- 1) Kamio K<sup>1)</sup> , Matsushita I<sup>1)</sup> , Tanaka G<sup>1)</sup> , Hijikata M<sup>1)</sup> , Nakata K<sup>1)</sup> , Taguchi Y<sup>2)</sup> , Homma S<sup>3)</sup> , Nakata K<sup>4)</sup> , Azuma A , Kudoh S , Keicho N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Respiratory Disease, Research Institute, International Medical Center of Japan , <sup>2)</sup> Department of Respiratory Medicine, Tenri Hospital , <sup>3)</sup> Division of Respiratory Disease, Toranomon Hospital , <sup>4)</sup> Department of Respiratory Disease, Toho University School of Medicine ) : Analysis of variations and haplotypes identified in the promoter region of MUC5B gene and those possible association with diffuse panbronchiolitis . アメリカ胸部疾患学会 ( オランダ ) , 2004 . 5 .
- 2) Usuki J , Matsuda K , Aoyama A , Azuma A , Kudoh S : A43 A Relationship between Myofibroblast Differentiation and Smad Proteins Bleomycin Induced Pulmonary Fibrosis . International Conference of American Thoracic Society ( Orland ) , 2004 . 5 .
- 3) Hiramatsu K , Sugawara I , Takizawa H , Azuma A , Kudoh S : Three-Months Inhalation of Diesel Exhausts Induce Bronchus-Associated Lymphoid Tissues Formation in Murine Lung . Internal Conference of American Thoracic Society ( Orland ) , 2004 . 5 .
- 4) Hiramatsu K , Sugawara I , Sakakibira K , Saito Y , Azuma A , Kudoh S : Effects of Diesel Exhausts Inhalation on Murine Tuberculosis . International Conference of American Thoracic Society ( Orland ) , 2004 . 5 .
- 5) Matsushita I , Okada J , Nakata K , Hijikata M , Azuma A , Usuki J , Ito H , Morita T : Expressional Change of Genes Involved in Mucosal Immunity in Human Bronchial Epithelial Cells Culture at Air-Liquid Interface . International Conference of American Thoracic Society ( Orland ) , 2004 . 5 .
- 6) Yamamoto K , Murata A , Yoshioka H , Motohashi N , Kudoh S , Kida K : Exhaled nitric oxide in asthmatic and non-asthmatic children : special reference to the usefulness of a combination of ATS-DLD questionire . American Thoracic Society 2004 ( Orland ) , 2004 . 5 .
- 7) Morimoto K<sup>1)</sup> , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Matsuno Y<sup>1)</sup> , Watanabe K<sup>1)</sup> , Hayashihara K<sup>1)</sup> , Saito T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科 ) : Mycobacterium Avium Complex Pulmonary Disease Presenting as Diffuse Panbronchitis . American Thoracic Society ( Orland ) , 2004 . 5 .
- 8) Katsura H , Yamada K , Wakabayashi R , Kida K : An evaluation of discriminative properties of GOLD stages for disease severity of patients with COPD . COPD4 ( Glasgow ) , 2004 . 6 .
- 9) Kimura K , Murata K , Yamamoto K , Kida K , Kudoh S : Awareness of screening for COPD among residents of a small island Japan . ERS 14th Annual Congress , 2004 . 9 .
- 10) Wakabayashi R , Yamaguchi K , Handa E , Sagawa K , Murata A , Kida K : Comparisons among various QOL assessments and clinical outcomes for one year in elderly patients with chronic obstructive pulmonary disease ( COPD ). European Respiratory Society ( Glasgow ) , 2004 . 9 .
- 11) Nei T , Saito T , Yamamoto Y , Matsuno Y , Watanabe K , Hayashihara K , Azuma A , Kudoh S : Emerging untreatable non-tuberculous pulmonary disease due to Mycobacterium abscessus . Annual Meeting of European Respir Society ( Glasgow ) , 2004 . 10 .

- 12) 齊藤 実, 平田知己, 永井尚生, 角田達彦, 小泉 潔, 清水一雄, 弦間昭彦, 工藤翔二, 江見 充: Isolation and Functional Analysis of Invasion Related genes from Human Pulmonary Adenocarcinoma Cell Lines. 第63回日本肺癌学会総会, 2004. 10.
- 13) 林原賢治<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 山本祐介<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科): 当院における喀痰カリニPCR陽性例の検討. 第44回呼吸器学会学術講演会, 2004. 3.
- 14) 吾妻安良太: 若手企画シンポジウムI: 特発性間質性肺炎の新規治療効果. 第46回日本老年医学会, 2004. 4.
- 15) 小久保豊, 吉村明修, 弦間昭彦, 細谷曜子, 細見幸生: Identification of an altered transcription of Galectin-3 in lung cancer using cDNA array. 第44回日本呼吸器学会総会, 2004. 4.
- 16) 安藤真弘, 栗本太嗣, 中井祐之, 渋谷昌彦, 弦間昭彦: 進行非小細胞癌に対するビノレルピン(VNR)+ゲムシタピン(GEM)併用化学療法第I相臨床試験. 第44回日本呼吸器学会総会, 2004. 4.
- 17) 吉岡央子, 村田 朗, 本橋典久, 山本和男, 木田厚瑞, 工藤翔二: 一般地域住民におけるCOPD検診に関する研究. 第44回 日本呼吸器学会学術講演会, 2004. 4.
- 18) 山本和男, 村田 朗, 本橋典久, 吉岡央子, 木田厚瑞, 工藤翔二: 学童の喘息調査におけるATS-DLD質問表と呼気NO濃度に関する研究. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 2004. 4.
- 19) 本橋典久, 高橋卓夫, 榎本達治, 臼杵二郎, 村田 朗, 吾妻安良太, 東 永子, 中嶋花子, 山口恵子, 大原國俊, 木田厚瑞: サルコイドーシス外来受診患者256例の検討. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 2004. 4.
- 20) 森本耕三<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 山本祐介<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科): びまん性気管支拡張を呈したMAC症の検討. 第44回呼吸器学会学術講演会, 2004. 4.
- 21) 林原賢治<sup>1)</sup>, 山本祐介<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>, 西村嘉裕<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup>同外科): 当院における最近の結核再発症例の検討. 第79回日本結核学会総会, 2004. 4.
- 22) 森本耕三<sup>1)</sup>, 山本祐介<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>, 西村義裕<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup>同外科): DPBと鑑別を要するびまん型MAC症の検討. 第79回日本結核病学会総会, 2004. 4.
- 23) 谷内七三子<sup>1)</sup>, 山野義光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院): 肺腺癌におけるゲフィチニブ(イレッサ)の奏効例と腫瘍マーカー シリアルLeX-i (SLX) の有用性について. 第44回日本呼吸器学会, 2004. 4.
- 24) 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 松下育美<sup>1)</sup>, 田中 剛<sup>1)</sup>, 土方美奈子<sup>1)</sup>, 中田 光<sup>1)</sup>, 小橋陽一郎<sup>2)</sup>, 田口善夫<sup>3)</sup>, 本間 栄<sup>4)</sup>, 中田紘一郎<sup>5)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二, 慶長直人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立国際医療センター研究所呼吸器疾患部, <sup>2)</sup>天理よろず相談所病院病理, <sup>3)</sup>同呼吸器内科, <sup>4)</sup>虎の門病院呼吸器科, <sup>5)</sup>東邦大学呼吸器内科): びまん性汎細気管支炎(DPB)におけるムチン遺伝子MUC5Bプロモーター多型の解析. 第24回気道分泌研究会, 2004. 5.
- 25) 森本耕三<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 山本祐介<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>, 根井貴仁(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科): MAC症軽快後に発症し, 治療に難渋しているM. abscessus症の1例. 第159回日本呼吸器学会関東地方会/第145回日本結核病学会関東支部会, 2004. 5.
- 26) 工藤翔二: 呼吸器病学の百年-21世紀への課題. 札幌医科大学内科学第3講座開講50年式典, 2004. 6.
- 27) 小俣雅稔, 山田浩一, 若林律子, 工藤翔二, 木田厚瑞: 安定期COPDにおける2吸入薬における気道閉塞の可逆性とHealth-related quality of lifeの関連性に関する研究. 第69回閉塞性肺疾患研究会, 2004. 7.
- 28) 森本耕三<sup>1)</sup>, 金子美子<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科): 外傷後クモ膜下出血後, 播種性カンジダ症を発症した1例. 第160回日本呼吸器学会関東地方会, 2004. 7.
- 29) 瀬川佳奈, 半田恵美, 山口敬子, 若林律子, 吉岡央子, 山本和男, 村田 朗, 木田厚瑞: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における食事療法の指標に関する研究. 第14回日本呼吸管理学会学術集会, 2004. 8.
- 30) 若林律子, 茂木 孝, 山田浩一, 工藤翔二, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患患者の多面的評価: 日本人患者に関するBODE indexの検討. 第14回日本呼吸管理学会学術集会, 2004. 8.

- 31) 若林律子, 茂木 孝, 山田浩一, 工藤翔二, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患患者における BODE index, ATS 分類と HRQOL に関する研究. 第 14 回日本呼吸管理学会学術集会, 2004. 8.
- 32) 森本耕三<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 金子美子<sup>1)</sup>, 児玉孝秀<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>(1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科): 空洞形成過程が追えた慢性壊死性肺アスペルギルス症の 1 例. 第 161 回日本呼吸器学会関東地方会, 2004. 9.
- 33) 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 安藤真弘<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 栗林英彦<sup>1)</sup>, 栗本太嗣, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 坪井栄孝<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> 慈山会医学研究所付属坪井病院): 当院における非小細胞肺癌に対する Gefitinib (Iressa) 治療の検討. 第 45 回日本肺癌学会総会, 2004. 10.
- 34) 峯岸裕司, 弦間昭彦, 小斉平聖治, 野呂林太郎, 清家正博: 肺癌オーダーメイド治療のシュミレーションと術後再発例による探索的研究. 第 44 回日本呼吸器学会総会, 2004. 10.
- 35) 野呂林太郎, 弦間昭彦, 片岡清子, 小斉平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 小久保豊, 吉村明修, 工藤翔二: 肺癌細胞株における Gefitinib の感受性と細胞内シグナル伝達系の検討. 第 63 回日本肺癌学会総会, 2004. 10.
- 36) 清家正博, 弦間昭彦, 岡野哲也, 片岡清子, 野呂林太郎, 小久保豊, 工藤翔二: プロテオーム解析を用いた肺がんの転移および gefitinib の感受性に関わる因子の探索. 第 63 回日本癌学会総会, 2004. 10.
- 37) 野呂林太郎, 弦間昭彦, 片岡清子, 小斉平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 小久保豊, 吉村明修, 工藤翔二: Gefitinib の感受性予測システム構築のための基礎的検討. 第 45 回日本肺癌学会総会, 2004. 10.
- 38) 清家正博, 弦間昭彦, 岡野哲也, 片岡清子, 野呂林太郎, 小久保豊, 吉村明修, 工藤翔二, 近藤 格<sup>1)</sup>, 山田哲司<sup>1)</sup>, 広橋説雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立がんセンター研究所腫瘍プロテミクスプロジェクト): プロテオーム解析を用いた肺がんの転移および gefitinib の感受性に関わる因子の探索. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 39) 峯岸裕司, 弦間昭彦, 野呂林太郎, 清家正博, 小久保豊, 吉村明修, 工藤翔二, 平井恭二<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第 2): 肺癌オーダーメイド治療のシュミレーションと術後再発例による探索的研究. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 40) 工藤翔二: 薬剤性肺障害をめぐる最近の話題, 抗がん剤を中心として. 第 18 回城北癌治療懇話会, 2004. 11.
- 41) 木村裕也<sup>1)</sup>, 山野義光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 海老名総合病院): 市中肺炎で見つかったニューモシスチス・カリニ肺炎で発症した HIV 感染症. 第 20 回海老名医学会, 2004. 11.
- 42) 村田 朗: 咳嗽音の客観化と喀痰の性状. 第 15 回感染・免疫・アレルギー研究会, 2004. 12.
- 43) 森本耕三<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 金子美子<sup>1)</sup>, 児玉孝秀<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>, 橋詰寿延<sup>2)</sup>, 西村義裕<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup> 同外科): 著明な狭窄性気道病変を呈した道工事者の 1 例. 第 111 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2004. 12.
- 44) 工藤翔二: 在宅酸素療法と呼吸ケア 20 年の歩み. 呼吸リハビリテーション講習会, 2005. 1.
- 45) 三輪晃士<sup>1)</sup>, 山野義光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 海老名総合病院): イレッサ (一般名: ゲフィチニブ) が有効であった肺腺癌・癌性胸膜炎の 2 症例. 第 2 回海老名内科フォーラム, 2005. 1.
- 46) 河野あゆみ, 斉藤好信, 根井貴仁, 大岩健満, 阿部信二, 茂木 孝, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 功刀しのぶ<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 病理学第 1): 咯血を主訴に来院した好酸球増多症候群の 1 例. 呼吸器学会関東地方会, 2005. 2.
- 47) 高久多希朗<sup>1)</sup>, 金子美子<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 児玉孝秀<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科): 胸部 CT 及び気管支鏡下観察であった喀痰抗酸菌塗抹陽性結核の 2 例及び胸部画像所見から喀痰抗酸菌塗抹陽性を予想し得なかった粟粒結核の 1 例. 第 174 回茨城内科集談会, 2005. 3.
- 48) 森本耕三, 高久多希朗, 金子美子, 児玉孝秀, 渡部厚一, 林原賢治, 斎藤武文<sup>(1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科): 15 歳時に気管拡張症を指摘され 46 歳時に症状の悪化を契機に診断された primary ciliary dyskinesia の 1 例. 第 174 回茨城内科学会, 2005. 3.
- (10) 宿題報告:
- 1) 工藤翔二: びまん性汎細気管支炎とマクロライドの新作用. 第 101 回日本内科学会総会, 2004. 4.

## 5. 精神医学講座

### [ 付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ]

#### 研究概要

教室の研究領域は、精神・神経生理学的研究を主体とし、コンサルテーション・リエゾン精神医学、セネストパチーをはじめとした様々な臨床研究、精神薬理研究があり、研究対象もうつ病、統合失調症をはじめとして、老年期精神障害、アルコール依存、神経症性障害、セネストパチー、自殺、睡眠障害など多岐に亘る。今年度は以下の研究を行った。

1. ポジトロンCTを用いた機能性精神疾患の病態診断研究：ポジトロンCTによる神経伝達機能イメージングの技術を用いて、統合失調症および気分障害患者など機能性精神疾患の神経伝達機能の異常を調べた。
2. ポジトロンCTを用いた向精神薬の薬効評価に関する研究：ポジトロンCTを用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化との関連を調べ、向精神薬の治療効果の客観的評価法の開発を目指した。
3. ファンクショナルMRIを用いた精神疾患の高次脳機能障害の研究：ファンクショナルMRIを用いて統合失調症患者と健常人を対象に、視覚刺激による情動反応の評価を行い、統合失調症患者における情動障害の神経基盤について検討した。
4. 血管性うつ病の研究：脳卒中後のうつ病を含む血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。
5. 救命救急に搬送された自殺未遂者の研究：高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例について、精神医学的検討を行った。
6. 口腔内疼痛性障害の研究。
7. アルツハイマー型痴呆の概日リズムに関する研究：高照度光療法やビタミンB12投与との併用療法などの概日リズムに対する影響を検討した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Tateno A, Jorge RE<sup>1)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Psychiatry, University of Iowa ): Pathological laughing and crying following traumatic brain injury . J Neuropsychiatry Clin Neurosci 2004 ; 16 ( 4 ): 426-434 .
- 2) Zhang MR<sup>1)</sup>, Maeda J<sup>1)</sup>, Ogawa M<sup>1)</sup>, Noguchi J<sup>1)</sup>, Ito T<sup>1)</sup>, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Okauchi T<sup>1)</sup>, Obayashi S<sup>1)</sup>, Suhara T, Suzuki K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences ): Development of a new radioligand, N-(5-Fluoro-2-phenoxyphenyl)-N-(2-[<sup>18</sup>F]fluoroethyl-5-methoxybenzyl) acetamide, for PET imaging of peripheral benzodiazepine receptor in primate brain . J Med Chem 2004 ; 47 : 2228-2235 .
- 3) Sasaki S<sup>1)</sup>, Kurosaki F<sup>2)</sup>, Haradahira T<sup>2)</sup>, Yamamoto F<sup>2)</sup>, Maeda J<sup>2)</sup>, Okauchi T<sup>2)</sup>, Suzuki K<sup>2)</sup>, Suhara T, Maeda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyushu University, <sup>2)</sup> National Institute of Radiological Sciences ): Synthesis of <sup>11</sup>C-labelled bis (phenylalkyl) amines and their in vitro and in vivo binding properties in rodent and monkey brains . Bilo Pharm Bull 2004 ; 27 ( 4 ): 531-537 .
- 4) Semba J<sup>1)</sup>, Akanuma N<sup>1)</sup>, Wakuta M<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Suhara T ( <sup>1)</sup> University of the Air, <sup>2)</sup> National Institute of Radiological Sciences ): Alterations in the expressions of mRNA for GDNF and its receptors in the ventral midbrain of rats exposed to subchronic phencyclidine . Mol Brain Res 2004 ; 124 ( 4 ): 88-95 .

- 5) Watanabe H<sup>1)</sup>, Murata Y<sup>1)</sup>, Ohashi I<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Matsushima E<sup>1)</sup>, Okubo Y, Shibuya H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Graduate School of Tokyo Medical and Dental University): Long-term change in size of cerebral infarction: Predictive value of brain perfusion SPECT using statistical Parametric mapping. *Cerebrovasc Dis* 2004; 18 (1): 22-29.
- 6) Maeda J<sup>1)</sup>, Suhara T, Zhang MR<sup>1)</sup>, Okauchi T<sup>1)</sup>, Yasuno F<sup>1)</sup>, Ikoma Y<sup>1)</sup>, Inaji M<sup>1)</sup>, Nagai Y<sup>1)</sup>, Takano A<sup>1)</sup>, Obayashi S<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences): Novel peripheral benzodiazepine receptor ligand [<sup>11</sup>C]DAA1106 for PET: an imaging tool for glial cells in the brain. *Synapse* 2004; 52 (4): 283-291.
- 7) Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogura R<sup>1)</sup>, Suzuki H, Kimura M, Okubo Y, Fujiya T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科学): Landiolol attenuates acute hemodynamic responses but does not reduce seizure duration during maintenance electroconvulsive therapy. *Psychiatry Clin Neurosci* 2004; 58 (6): 630-635.
- 8) Takano A<sup>1)</sup>, Suhara T, Maeda J<sup>1)</sup>, Ando K<sup>1)</sup>, Okauchi T<sup>1)</sup>, Obayashi S<sup>1)</sup>, Nakayama T<sup>1)</sup>, Kapur S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> University of Toronto): Relationship between cortical dopamine D<sub>2</sub> receptor occupancy and suppression of conditioned avoidance response in non-human primate. *Psychiatry Clin Neurosci* 2004; 58 (3): 330-332.
- 9) Yasuno F<sup>1)</sup>, Suhara T, Okubo Y, Inoue M<sup>1)</sup>, Ichimiya T, Takano A<sup>1)</sup>, Nakayama K<sup>1)</sup>, Haldin C<sup>2)</sup>, Farde L<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Karolinska Institutet): Low dopamine D<sub>2</sub> receptor binding subregion of the thalamus in schizophrenia. *Am J Psychiatry* 2004; 161 (6): 1016-1022.
- 10) Yoshizaki T<sup>1)</sup>, Inaji M<sup>1)</sup>, Kouike H<sup>1)</sup>, Shimazaki T<sup>1)</sup>, Sawamoto K<sup>1)</sup>, Ando K<sup>1)</sup>, Date I<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Suhara T, Ushiyama Y<sup>1)</sup>, Okano H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Keio University): Isolation and transplantation of dopaminergic neurons generated from mouse embryonic stem cells. *Neurosci Lett* 2004; 281 (1): 33-37.
- 11) Takahashi H<sup>1)</sup>, Koeda M<sup>1)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Matsushima E<sup>2)</sup>, Matsuura M<sup>2)</sup>, Asai K<sup>3)</sup>, Okubo Y(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Graduate School of Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Asai Hospital): An fMRI study of differential neural response to affective pictures in schizophrenia. *NeuroImage* 2004; 22 (3): 1247-1254.
- 12) Hatakeyama H<sup>1)</sup>, Akita H<sup>1)</sup>, Maruyama K<sup>1)</sup>, Suhara T, Harashima H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Hokkaido University): Factors governing the in vivo tissue uptake of transferring-coupled polyethylene glycol liposomes in vivo. *Int J Pharm* 2004; 281 (1-2): 25-33.
- 13) Matsuura M<sup>1)</sup>, Adachi N<sup>1)</sup>, Oana Y<sup>1)</sup>, Okubo Y, Kato M<sup>1)</sup>, Nakano T<sup>1)</sup>, Takei N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Graduate School of Tokyo Medical and Dental University): A polydiagnostic and dimensional comparison of epileptic psychoses and schizophrenia spectrum disorders. *Schizophr Res* 2004; 69 (2-3): 189-201.
- 14) Zhang H<sup>1)</sup>, Yoshikawa K<sup>1)</sup>, Tamura K<sup>1)</sup>, Sagou K<sup>1)</sup>, Tian M<sup>1)</sup>, Suhara T, Kandatsu S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Tanada S<sup>1)</sup>, Tsujii H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences): Carbon-11-methionine positron emission tomography imaging of chordoma. *Skeletal Radiol* 2004; 33 (9): 524-530.
- 15) Semba J<sup>1)</sup>, Wakuta M<sup>1)</sup>, Suhara T(<sup>1)</sup> University of the Air): Long-term suppression of methamphetamine-induced c-Fos expression in rat striatum by the injection of c-fos antisense oligodeoxynucleotides absorbed in water-absorbent polymer. *Psychiatry Clin Neurosci* 2004; 58 (5): 531-535.
- 16) Takahashi H<sup>1)</sup>, Yahata T, Koeda M<sup>2)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Asai K<sup>3)</sup>, Okubo Y(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Graduate School of Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Asai Hospital): Brain activation associated with evaluative processes of guilt and embarrassment: an fMRI study. *NeuroImage* 2004; 23 (3): 967-974.
- 17) Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Suzuki H, Kimura M, Okubo Y, Fujiya T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology,

Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Suzuki Hospital): Landiolol attenuates acute hemodynamic responses but dose not reduce seizure duration during maintenance electroconvulsive therapy. Psychiatry Clin Neurosci 2004; 58 (6): 630-635.

- 18) 荒川亮介, 森 隆夫, 竹澤健司, 鈴木博子, 木村真人, 大久保善朗: 催眠施行中における脳波変化: 催眠感受性の異なる2被験者のフラクタル次元解析: 第2報. 催眠と科学 2004; 19 (1): 47-49.
- 19) 関根瑞保, 鈴木博子, 竹澤健司, 館野 周, 朝山健太郎, 大久保善朗: 救命救急センターに搬送された自殺未遂症例の検討. 総合病院精神医学 2004; 257 (263): 257-263.
- 20) 遠藤幸彦, 福原政彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩中央病院): 境界性人格障害における入院初期治療. 精神科学治療学 2004; 19 (7): 873-880.
- 21) 伊藤敬雄<sup>1)</sup>, 葉田道雄<sup>1)</sup>, 木村美保<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 黒澤 尚, 大久保善朗 (<sup>1)</sup>多摩永山病院精神神経科, <sup>2)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 高次救命救急センターに入院した自殺未遂患者とその追跡調査: 精神科救急対応の現状を踏まえた1考察. 精神医学 Jpn J Clinical Psychiatry 2004; 33 (12): 1617-1622.

## (2) 綜説:

- 1) Yahata N, Takahashi H<sup>1)</sup>, Okubo Y (<sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences): Pharmacological modulations on the Human cognitive processes: an fMRI study. J Nippon Med Sch 2004; 72 (1): 2-3.
- 2) Kimura M: Vascular Depression. JMAJ 2004; 47: 573-578.
- 3) 鈴木博子, 大久保善朗: 手首・前腕を切った, 大量に薬を飲んだ(自殺企図, 自殺念慮). 精神科治療学 2004; 19: 67-70.
- 4) 森 隆夫: 統合化の科学と精神科医療. 日精協誌 2004; 24: 13-13.
- 5) 森 隆夫: 精神科病院における新人看護師教育. 精神科医療サービス 2004; 5: 53-57.
- 6) 大田深秀<sup>1)</sup>, 入江俊章<sup>1)</sup>, 朝田 隆<sup>2)</sup>, 安野史彦<sup>1)</sup>, 須原哲也 (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>筑波大学): PETを用いたアセチルコリンエステラーゼの評価 特集: 痴呆の脳機能画像診断. Cognition and Dementia 2004; 3 (1): 23-28.
- 7) 一瀬邦弘<sup>1)</sup>, 益富一郎<sup>1)</sup>, 中村 満<sup>1)</sup>, 竹澤健司, 島 陽一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立豊島病院): 意識障害. 最新精神医学 2004; 9 (3): 209-222.
- 8) 須原哲也: 精神障害のサイエンスフロントライン; 脳機能画像の立場から. 日本医師会雑誌 2004; 131 (12): 43-46.
- 9) 須原哲也: 画像から見た薬物治療の評価. 精神神経学雑誌 2004; 106 (7): 916-920.
- 10) 大久保善朗, 伊藤逸生<sup>1)</sup>, 織田健司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学): 精神疾患の脳形態画像. 精神神経学雑誌 2004; 106 (7): 900-905.
- 11) 須原哲也, 藤村洋太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 気分障害の生物学的基盤 受容体研究の現状. 精神神経学雑誌 2004; 106 (8): 1032-1036.
- 12) 伊藤敬雄, 大久保善朗: アルツハイマー型痴呆患者におけるメラトニン療法. 老年医学 Geriatric Medicine 2004; 42 (9): 2001-2006.
- 13) 森 隆夫: 医師教育の変革と現場の対応. 病院経営 2004; 308: 4-9.
- 14) 中村 満<sup>1)</sup>, 一瀬邦弘<sup>1)</sup>, 竹澤健司, 益富一郎<sup>1)</sup>, 島 陽一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立豊島病院): 何か見えるとって徘徊する(せん妄). 精神科治療学 2004; 19: 16-20.
- 15) 木村真人, 下田健吾: 精神科リエゾンガイドライン. 第VI章: 個々の身体疾患・診療場面における患者の心理・精神症状とその対応: 3. 脳血管障害, パーキンソン病, ハンチントン病, その他の神経内科疾患. 精神科治療学 2004; 19 (210): 200-2004.
- 16) 永井裕司<sup>1)</sup>, 大林 茂<sup>1)</sup>, 須原哲也, 安東 潔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): ポジトロンCTを用いたパーキンソン病モデルサルにおけるドーパミントランスポーター機能評価. INTERVISION 2004; 19 (11): 78-79.

- 17) 下田健吾, 木村真人: うつ病, 特集: フローチャートでみる生活習慣病診断指針3. 成人病と生活習慣病 2004 ; 34 : 399-404 .
- 18) 木村真人: 脳卒中後の感情障害 . 日本醫事新報 2004 ; ( 4198 ): 6-12 .
- 19) 松本良平<sup>1)</sup>, 須原哲也 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): PET を用いた脳機能イメージング . 臨床検査 2004 ; 48 ( 13 ): 1613-1620 .
- 20) 木村真人, 下田健吾: 血管性うつ病 ( vascular depression ). 特集: 老年期発症の気分障害 . 老年精神医学雑誌 2004 ; ( 15 ): 1256-1262 .
- 21) 鈴木博子, 大久保善朗: 過量服用 救急医療における精神科的諸問題 . 精神障害の臨床 生涯教育シリーズ64 2004 ; 131 ( 12 ): 187-188 .
- 22) 伊藤敬雄, 大久保善朗: 日常診療に用いられる薬剤の上手な使い方と服薬指導1 9 . 睡眠導入剤 . 成人病と生活習慣病 Jpn J Adult Diseases 2005 ; 35 ( 1 ): 95-99 .
- 23) 森 隆夫: 精神科専門医制度を迎えて: 専門教育と臨床教育 . 日精協誌 2005 ; 24 : 35-39 .
- 24) 大久保善朗, 須原哲也: 画像診断からみた薬物療法の評価 . カレントセラピー 2005 ; 23 ( 1 ): 69-72 .
- 25) 木村真人: 脳血管障害を伴ううつ病 . 日医大医学会誌 2005 ; 1 ( 1 ): 12-16 .
- 26) 大久保善朗, 浅井邦彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>浅井病院 ): 精神科病床と脱施設化への道 . 最新精神医学 2005 ; 10 ( 2 ): 143-150 .
- 27) 大久保善朗, 須原哲也: 脳イメージングによる抗精神病薬の薬効評価 . Human Science 2005 ; 16 ( 2 ): 22-25 .
- 28) 下田健吾, 木村真人: うつ病の予後と再発予防 . 治療 2005 ; 87 ( 3 ): 581-585 .
- 29) 野崎昭子<sup>1)</sup>, 須原哲也 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 統合失調症の神経伝達物質受容体イメージング 特集1 ; 統合失調症の脳機能と形態 . 脳と精神の医学 2005 ; 15 ( 4 ): 411-420 .
- ( 3 ) 研究報告書 :
- 1) 木村真人, 上村秀樹, 佐藤茂樹, 杉山 一, 鈴木博子, 成重竜一郎, 森 隆夫: 鈴木博子, 成重竜一郎, 森 隆夫: 合併症病棟のあり方に関する研究 . 平成15年度厚生労働科学研究費補助金 ( 障害保健福祉総合研究事業 ) -精神医療の地域分化や専門的医療等に関する研究- 2004 ; pp30-36 .
- 2) 小坂 淳<sup>1)</sup>, 須原哲也, 西條朋行, 高野晶寛<sup>1)</sup>, 生駒洋子<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): PET による気分障害患者の病態と治療法の作用機序に関する研究 . INNERVISION 2004 ; 19 ( 7 ): p18 .
- 3) 安野史彦<sup>1)</sup>, 須原哲也, 安藤智道<sup>1)</sup>, 鈴木和年<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 喫煙に対する渴望に関連した脳機能巨脳部位と脳内ドーパミン神経系との関連に関する研究 . 平成16年度喫煙科学研究財団研究年報 2005 ; pp732-737 .
- 4) 荒川亮介, 大久保善朗, 一宮哲也, 舘野 周, 西條朋行, 伊藤敬雄, 高野晶寛<sup>1)</sup>, 安野史彦<sup>1)</sup>, 須原哲也 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 抗精神病薬による維持療法時のドーパミンD<sub>2</sub>受容体占有量の検討 . 精神薬療研究年報 2005 ; 37 .
- 5) 前田 純<sup>1)</sup>, 安野史彦<sup>1)</sup>, 高野晶寛<sup>1)</sup>, 生駒洋子<sup>1)</sup>, 須原哲也 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 新規末梢性ベンゾジアゼピン受容体 PET トレーサーの開発とその応用 . 精神神経系薬物治療研究報告会 2005 ; 37 : pp226-231 .
- ( 4 ) 症例報告 :
- 1) 舘野 周: アルツハイマー型痴呆を合併したうつ症例のeZIS解析: よくわかる脳核科学: 画像統計解析を使って . Rad Fan 2004 ; 2 : 124-124 .
- 2) 葉田道雄, 伊藤敬雄, 白垣聡子, 木村美保: 頭部外傷からの回復過程 . Rad Fan 2004 ; 2 ( 7 ): 125-125 .
- 3) 成重竜一郎, 舘野 周, 大久保善朗: 非定型抗精神病薬投与中 clonazepam 減量に伴い Parkinson 症候群を呈した1症例 . 精神医学 2004 ; 46 ( 10 ): 1113-1115 .
- 4) 伊藤敬雄, 葉田道雄, 舘野 周, 林 信吉<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 介護ストレス以外の



高齢者虐待の原因：ADLが自立していた4症例からの検討．臨床精神医学 2004；33（12）：1617-1622．

- 5) 鈴木博子, 成重竜一郎, 大久保善朗：Milnacipranが有効であったrapid cyclerの2症例．精神科治療学 2005；20（2）：203-210．

## 著書

- 1) 舘野 周, 大久保善朗：〔分担〕検査（脳機能画像）．コア・ローテーション精神医学（鹿島晴雄, 武田雅彦編集）, 2004；pp84-89, 金芳堂．
- 2) 守屋直樹, 遠藤直樹, 遠藤幸彦, 山科満他：〔翻訳〕治療作用, 精神分析的精神療法の手引き：E. E. ジョーンズ, (守屋直樹, 皆川邦直), 2004；岩崎学術出版．
- 3) 森 隆夫：〔分担〕病院・施設 革新時代の人材育成事業例集．産労総合研究所, 2004；産労総合研究所．
- 4) 森 隆夫：〔分担〕医療・介護現場でのチーム作りの工夫：燃えるチーム作り．GPnet51, 2004；pp34-37, GPnet51．
- 5) 木村真人：〔分担〕血管性うつ病．今日の治療指針（山口 徹, 北原光夫）, 2004；pp627-628, 医学書院．
- 6) 木村真人, 葉田道雄, 下田健吾：〔翻訳〕高齢者におけるうつ病の診断と治療（Mike Briley 著）．高齢者におけるうつ病の診断と治療（Mike Briley 著）（木村真人）, 2004；聖和書店．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 須原哲也：向精神薬の臨床試験におけるPETの有用性．第100回日本精神神経学会総会, 2004．5．
- 2) 須原哲也：画像研究（受容体研究の現状）．第100回日本精神神経学会総会, 2004．5．
- 3) 大久保善朗：脳画像解析による抗精神病薬の薬効評価．第20回横浜統合失調症研究会, 2004．6．
- 4) 須原哲也：PETによる生体内発現タンパクの評価．第34回日本神経精神薬理学会, 第26回日本生物学的精神医学会合同年会, 2004．7．
- 5) 須原哲也：薬物結合分子のイメージングから見た合理的薬物療法．第14回日本臨床精神神経薬理学会, 2004．9．
- 6) 高石 昇：エリクソン催眠療法再考．第20回日本催眠学会, 2004．9．
- 7) 須原哲也：画像診断を用いた抗精神病薬の薬効評価．第34回日本臨床神経生理学会学術大会, 2004．11．
- 8) 須原哲也：PETによるヒト in vivo での薬物の評価．第19回日本薬物動態学会年会, 2004．11．

### (2) 招待講演：

- 1) 大久保善朗：統合失調症の画像解析．第7回山形精神神経医学研究会, 2005．1．
- 2) 大久保善朗：脳機能画像の精神科領域における臨床応用．第2回脳核医学画像解析研究会, 2004．9．
- 3) 高石 昇：催眠はどの臨床場面でのように適応されるか．第6回日本臨床催眠学会, 2004．11．
- 4) 大久保善朗：うつ病の脳画像解析．大分県精神科医学会学術講演会, 2005．2．

### (3) 教育講演：

- 1) 大久保善朗：うつ病のニューロ・イメージング：日常臨床におけるデプレッションの病態理解．第29回沖縄心身医学会総会, 2005．3．
- 2) Okubo Y：Neuroimaging of schizophrenia and antipsychotic drug action．XXIVth CINP CONGRESS PARIS (Paris, France), 2004．6．
- 3) 木村真人：血管性うつ病の病態と治療．日本医師会生涯教育講座, 平成15年度第4回医学講座プログラム, 2004．5．
- 4) 大久保善朗：精神科診断とニューロイメージング．第24回日本精神科診断学会, 2004．11．
- 5) 木村真人：脳血管障害に伴ううつ病．千葉県精神科病院薬剤師会, 2004．11．
- 6) 木村真人：脳血管障害に伴ううつ病．八千代市医師会, 2004．11．

#### (4) シンポジウム :

- 1) 木村真人 : 脳卒中後のうつ病と認知障害との関係について : Robinsonらの検討を中心に . 第17回日本総合病院精神医学会総会 , 2004 . 11 .
- 2) Okubo Y : Neuroreceptor imaging of antipsychotic drug action : Implication for the therapeutics of schizophrenia . the Hong Kong Schizophrenia research Society ( Hong Kong, China ) , 2004 . 9 .
- 3) Ito T<sup>1)</sup> , Okubo Y<sup>1)</sup> , Sato T<sup>2)</sup> , Takahashi Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical Collage , <sup>2)</sup> Koutokukai Sato Hospital , <sup>3)</sup> Defence Medical and Vascular Dementia ) : A study of suicide of demented elderly persons, comparison between Alzheimer-type dementia and vascular dementia . The 1st Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention ( IASP ) ( Bangkok, Thailand ) , 2004 . 10 .
- 4) 大久保善朗 : PET ( サテライトシンポジウム1 : Neuroimagingからの最新知見「てんかんの精神症状と行動」研究会 ) . 第34回日本臨床神経生理学会学術大会 , 2004 . 11 .
- 5) 鈴木博子 , 藤渡辰馬 , 西條朋行 , 朝山健太郎 , 中尾泰崇 : 自殺を繰り返す患者たち ( 自殺企図患者への対応 ) . 第17回日本総合病院精神医学会総会 , 2004 . 11 .
- 6) 高石 昇 : 催眠療法の効果的な効用に向けて . 第6回日本臨床催眠学会 , 2004 . 11 .

#### (5) パネルディスカッション :

- 1) 小泉幸子 : 精神科夜間休日診療の可能性を探る . 一般病床での精神科入院治療 : 大学病院の立場から . 第2回千葉県精神科病診連携研究会 , 2004 . 6 .

#### (6) セミナー :

- 1) 大久保善朗 : うつ病のニューロイメージング : SSRIの薬効評価 . 第17回日本総合病院精神医学会総会 , 2004 . 11 .
- 2) 高石 昇 : 臨床場面における技法の実際 ( 行動療法II ) . 関西カウンセリングセンター , 2005 . 3 .

#### (7) ワークショップ :

- 1) Okubo Y : Neuroreceptor imaging of antipsychotic drug action : Implications for the therapeutics of schizophrenia . Asia Pacific Regional Psychiatry ( Sapporo ) , 2004 . 12 .

#### (8) 一般講演 :

- 1) Suhara T : Molecular imaging of drug targets using positron emission tomography ( PET ) . The University of Tokyo International Symposium on " Frontier in Drug Development " ( Tokyo ) , 2004 . 2 .
- 2) Maeda J<sup>1)</sup> , Lee Young-J<sup>1)</sup> , Takano A<sup>1)</sup> , Ikoma Y<sup>1)</sup> , Kusahara H<sup>1)</sup> , Sugiyama Y<sup>1)</sup> , Suhara T ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ) : Kinetic analysis of P-glycoprotein substrate [<sup>11</sup>C]verapamil in monkey brain using positron emission tomography ( PET ) . Pharmaceutical Sciences World Congress ( Kyoto, Japan ) , 2004 . 3 .
- 3) Yasuno F<sup>1)</sup> , Suhara T , Okubo Y , Inoue M<sup>1)</sup> , Ichimiya T , Takano A<sup>1)</sup> , Nakayama K<sup>1)</sup> , Halldin C<sup>2)</sup> , Farde L<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 , <sup>2)</sup>Karolinska Institute ) : Low dopamine D2 receptor binding in subregions of the thalamus in schizophrenia . Society of Biological 59<sup>th</sup> Annual Scientific Convention & Meeting ( New York ) , 2004 . 4 .
- 4) Ichimiya T , Suhara T , Okubo Y , Yasuno F<sup>1)</sup> , Takano A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ) : 5-HT2 receptor bindings in patients with bipolar disorder : a positron emission tomography study with [<sup>11</sup>C]NMSB . XXIVth CINP Congress ( Paris, France ) , 2004 . 6 .
- 5) Koeda M<sup>1)</sup> , Takahashi H<sup>1)</sup> , Asai K<sup>2)</sup> , Okubo Y , Tanaka H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Graduate School of Tokyo Medical and Dental University , <sup>2)</sup>Asai Hospital ) : An fMRI study : Cerebral Lateralization of human voice specific response . Human Brain Mapping ( Budapest, Hungary ) , 2004 . 6 .
- 6) Suhara T : Multireceptor fingerprinting of schizophrenia . 10th Annual Meeting of the organization for human brain mapping ( Budapest, Hungary ) , 2004 . 6 .

- 7) Takano A<sup>1)</sup>, Suhara T, Kusumi I<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koyama T<sup>1)</sup>, Yasuno F<sup>1)</sup>, Ichimiya T ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): Time course of dopamine D<sub>2</sub> receptor occupancy by clozapine with medium and high plasma concentration . XXIVth CINP Congress ( Paris, France ), 2004 . 6 .
- 8) Haradahira T<sup>1)</sup>, Suhara T, Okauchi T<sup>1)</sup>, Maeda J<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Fuchigami T<sup>1)</sup>, Sasaki S<sup>1)</sup>, Maeda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): Difference in agonist sensitivity of radioligands for the glycine-binding site of NMDA receptors . NeuroReceptor Mapping ( Vancouver, Canada ), 2004 . 7 .
- 9) Suhara T : Receptor occupancy and psychotropic drug action measured by PET . 2004 WFSBP Asia-pacific congress and 41st meeting of KSBP ( Seoul, Korea ), 2004 . 7 .
- 10) Koeda M<sup>1)</sup>, Shibata T, Asai K, Okubo Y, Tanaka H ( <sup>1)</sup>Graduate School of Tokyo Medical and Dental University ): Evaluation of psychological factors associated with a decision of care support by families of demented patients . MEDINFO ( San Francisco ), 2004 . 9 .
- 11) Takahashi H<sup>1)</sup>, Yahata N, Koeda M<sup>1)</sup>, Matuura M<sup>1)</sup>, Asai K<sup>2)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup>Graduate School of Tokyo Medical and Dental University , <sup>2)</sup>Asai Hospital ): Neural substrates of moral emotions ( guilt and embarrassment ): an fMRI study . Asian Pan-Pacific Congress of Biological Psychiatry ( Souel ), 2004 . 9 .
- 12) Inaji M<sup>1)</sup>, Yoshizaki T<sup>1)</sup>, Okano H<sup>1)</sup>, Obayashi S<sup>1)</sup>, Nariai T<sup>1)</sup>, Ohno K<sup>1)</sup>, Hirakawa K<sup>1)</sup>, Suhara T ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): PET imaging of synaptic transmission as a guide for neurogenerative treatment . Academia Eurasiana Neurochirurgica The 12<sup>12</sup> convention ( Nara, Japan ), 2004 . 10 .
- 13) Inaji M<sup>1)</sup>, Nariai T<sup>1)</sup>, Ando K<sup>1)</sup>, Okauchi T<sup>1)</sup>, Maeda J<sup>1)</sup>, Nagai Y<sup>1)</sup>, Obayashi S<sup>1)</sup>, Suhara T, Okano H<sup>1)</sup>, Ohno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): PET measurement of pre - and post-synaptic dopaminergic function after neural transplantation in unilaterall 6-ohdalesioned rats . Society for Neuroscience 34<sup>th</sup> Annual Meeting ( San Diego ), 2004 . 10 .
- 14) Ito T, Tateno A, Okubo Y : A cause of elder abuse expect care stress : Examination from four case reports . X VIII World Conhress of World Association for Social Psychiatry ( Kobe, Japan ), 2004 . 10 .
- 15) Koeda M, Shibata T, Asai K, Okubo Y, Tanaka H ( <sup>1)</sup>Graduate School of Tokyo Medical and Dental University ): Evaluation of psychological factors associated with a decision of care support by families of demented patients . 18th World Congress of the World Association for Social Psychiatry ( Kobe ), 2004 . 10 .
- 16) Matsumoto R<sup>1)</sup>, Kitabayashi Y<sup>1)</sup>, Narumoto J<sup>1)</sup>, Wada Y<sup>1)</sup>, Yokoyama C<sup>1)</sup>, Ueda H<sup>1)</sup>, Suhara T, Fukui K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): Regional cerebral blood flow changes of anorexia norvosa by behavioral therapy . Society for Neuroscience 34<sup>th</sup> Annual Meeting ( San Diego ), 2004 . 10 .
- 17) Nagai Y<sup>1)</sup>, Obayashi S<sup>1)</sup>, Ando K<sup>1)</sup>, Inaji M<sup>1)</sup>, Okauchi T<sup>1)</sup>, Maeda J<sup>1)</sup>, Suhara T ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): Degeneration process of nigrostriatal dopamine neurons of Parkinsonian monkeys measured by . Society for Neuroscience 34PET<sup>th</sup> Annual Meeting ( San Diego ), 2004 . 10 .
- 18) Obayashi S<sup>1)</sup>, Suhara T, Nagai Y<sup>1)</sup>, Inaji M<sup>1)</sup>, Maeda J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): PET investigation of monkey brain activity during visuo-motor task depending on reward magnitudes . Society for Neuroscience 34<sup>th</sup> Annusl Meeting ( San Diego ), 2004 . 10 .
- 19) Tateno A, Arakawa R, Ito T, Okubo Y : Treatment of pain disorder : Characteristics of responder and non-responder . 18th World Congress of World Association for Social Psychiatry ( Kobe , Japan ), 2004 . 10 .
- 20) Suhara T : Synpse and Psychiatry : Molecular Image of Schizophrenia . 7th Annual Japanese-American Beckman Frontiers of Science Symposium ( Irvine ), 2004 . 12 .
- 21) Nagao T, Nemoto K, Mizumura S, Ota T, Ohyama M, Iizuka T, Tateno A, Arai H, Matsuda H, Honma A, Katayama Y, Yokouchi M : Changes in cerebral blood flow in patients with dementia of Alzheimer type : multicenter clinical study using new software, easy Z-score imaging system . 7th Interna-

tional Congerence on Alzheimer ' s and Parkinson ' s Disease , 2005 . 3 .

- 22) 皆川邦直<sup>1)</sup>, 守屋直樹<sup>2)</sup>, 遠藤幸彦, 溝口順二<sup>3)</sup>, 生田憲正<sup>4)</sup>, 満岡義敬<sup>5)</sup>, 餅田彰子<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>法政大学, <sup>2)</sup>昭和大学藤が丘病院, <sup>3)</sup>東京国際大学, <sup>4)</sup>国立成育医療センター, <sup>5)</sup>日本大通満岡クリニック, <sup>6)</sup>日吉病院): 教育研究セミナー「精神分析的アプローチの治療作用を捉える」. 第50回日本精神分析学会, 2004 . 1 .
- 23) Maeda J<sup>1)</sup>, Zhang MR<sup>1)</sup>, Okauchi T<sup>1)</sup>, Ikoma Y<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Suhara T (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): Pre-clinical evaluations of novel peripheral benzodiazepine receptor PET tracer[<sup>11</sup>C]DAA1106 . 日本薬理学会年会, 2004 . 3 .
- 24) Ji B<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Akita H<sup>1)</sup>, Harashima H<sup>1)</sup>, Suhara T (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): Transport of lactoferrin the rat blood brain barrier in vivo . 第19回日本薬物動態学会年会, 2004 . 11 .
- 25) 安西和紀<sup>1)</sup>, U Winn A<sup>1)</sup>, 佐藤昌昭<sup>1)</sup>, 齋藤俊行<sup>1)</sup>, 中川秀彦<sup>1)</sup>, 石原 弘<sup>1)</sup>, 伊古田暢夫<sup>1)</sup>, 岡内 隆<sup>1)</sup>, 須原哲也 (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): PET を用いたラットにおける in vivo 遺伝子発現イメージング . 日本薬学会 124 年会, 2004 . 2 .
- 26) 稲次基希<sup>1)</sup>, 吉崎崇仁<sup>1)</sup>, 須原哲也, 岡内 隆<sup>1)</sup>, 前田 純<sup>1)</sup>, 安藤 潔<sup>1)</sup>, 成相 直<sup>1)</sup>, 大林 茂<sup>1)</sup>, 岡野栄之<sup>1)</sup>, 大野喜久郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): [<sup>11</sup>]PE2I を用いた PET イメージングによるラット胎仔脳移植評価 . 第3回日本再生医療学会総会, 2004 . 3 .
- 27) 塩川和良, 池森紀夫, 田村良敦, 下田健吾, 小泉幸子, 木村真人: 舌痛症に対する milnacipran の効果 . 第9回千葉総合病院精神科研究会, 2004 . 4 .
- 28) 宮崎文兵, 小西俊一郎, 小泉幸子, 下田健吾, 木村真人: パロキセチン投与中に著明な低ナトリウム血症をきたした1症例 . 第9回千葉総合病院精神科研究会, 2004 . 4 .
- 29) 小泉幸子, 下田健吾, 小西俊一郎, 池森紀夫, 木村真人: 総合病院精神科の一般病床における入院治療状況 : 日本医科大学付属千葉北総病院メンタルヘルス科入院治療統計 . 第9回千葉総合病院精神科研究会, 2004 . 4 .
- 30) 須原哲也: 統合失調症の薬物治療のエビデンス : PET による生体内医療品評価 . 情報機構セミナー, 2004 . 4 .
- 31) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗: 一過性てんかん性健忘の2例 : 臨床症状と画像所見 . 第19回日本老年精神医学, 2004 . 5 .
- 32) 高野晶寛<sup>1)</sup>, 須原哲也, 安野史彦<sup>1)</sup>, 一宮哲哉 (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): フルボキサミンによるセロトニントランスポーター占有率の経時的変化に関する PET を用いた検討 . 第100回日本神経学会総会, 2004 . 5 .
- 33) 伊藤敬雄, 葉田道雄, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 大久保善朗 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 精神科の紹介された高齢者虐待3症例について . 第18回日本老年精神医学会, 2004 . 6 .
- 34) 伊藤逸生, 織田健司, 西條朋行, 高橋英彦, 田中陽子, 伊藤滋朗, 佐々 毅, 田井治康友, 浅井邦彦, 大久保善朗 (<sup>1)</sup>浅井病院): 統合失調症患者における脳形態の進行性変化 (第二報): 年代間の脳形態の差異の検討 . 第34回日本神経精神薬理学会・第26回日本生物学的精神医学会合同年会, 2004 . 7 .
- 35) 稲次基希<sup>1)</sup>, 安東 潔<sup>1)</sup>, 須原哲也, 岡内 隆<sup>1)</sup>, 前田 純<sup>1)</sup>, 永井裕司<sup>1)</sup>, 大林 茂<sup>1)</sup>, 成相 直<sup>1)</sup>, 大野喜久郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): ラット片側脳への6-OHDA 投与における神経変性と巡回行動-PET リガンドを用いた脳画像解析 . 第34回日本神経精神薬理学会, 第26回日本生物学的精神医学会合同年会, 2004 . 7 .
- 36) 荒川亮介, 館野 周, 水村 直<sup>1)</sup>, 岡田智雄<sup>2)</sup>, 石井隆資<sup>2)</sup>, 大津光寛<sup>2)</sup>, 長谷川功<sup>2)</sup>, 苅部洋行<sup>2)</sup>, 大久保善朗 (<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科, <sup>2)</sup>日本歯科大学): 口腔内疼痛性障害の薬物療法及び脳血流評価 . 第19回日本歯科心身医学会, 2004 . 7 .
- 37) 織田健司, 松島英介, 太田克也, 村田雄二, 加藤元一郎, 大久保善朗: 精神症状を示すSLE患者の脳血流所見 . 第34回日本神経精神薬理学会・第26回日本生物学的精神医学会合同年会, 2004 . 7 .
- 38) 森本卓哉<sup>1)</sup>, 須原哲也 (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): PET をしようした薬物動態の評価と医療品開発への応用 . 第23回臨床薬理阿蘇九重カンファレンス, 2004 . 7 .

- 39) 須原哲也：グリアと in vivo イメージング．特定領域研究「グリア ニューロン回路網による情報処理機構の解明」サマー・ワークショップ，2004．7．
- 40) 仙波純一<sup>1)</sup>，和久田真紀<sup>2)</sup>，須原哲也<sup>(1)</sup>放送大学，<sup>2)</sup>放射線医学総合研究所)：慢性 Phencyclidine 投与におけるラット新生仔脳内 BDNF の変化．第 34 回日本神経精神薬理学会，第 26 回日本生物学的精神医学学会合同年会，2004．7．
- 41) 八幡憲明，高橋英彦，肥田道彦，浅井邦彦，大久保善朗：聴覚認知過程における大脳皮質領域間の機能的統合：統合失調症患者と健常者との比較．第 34 回日本神経精神薬理学会・第 26 回日本生物学的精神医学学会合同年会，2004．7．
- 42) 肥田道彦，高橋英彦，八幡憲明，浅井邦彦，大久保善朗，田中 博：fMRI 研究：統合失調症患者の音声・言語認知時の聴覚皮質半球左右差．第 34 回日本神経精神薬理学会・第 26 回日本生物学的精神医学学会合同年会，2004．7．
- 43) 森本卓哉<sup>1)</sup>，須原哲也<sup>(1)</sup>放射線医学総合研究所)：PET をしようした薬物動態研究について．第 19 回臨床薬理「富士五湖カンファレンス」，2004．8．
- 44) 大林 茂<sup>1)</sup>，秋根良英<sup>1)</sup>，須原哲也，永井裕司<sup>1)</sup>，岡内 隆<sup>1)</sup>，池平博夫<sup>1)</sup>，前田 純<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：サルとヒトにおける論理思考の脳機能マッピング L Functional brain mapping of thinking in monkeys and humans．第 27 回日本神経科学大会，第 47 回日本神経科学学会大会合同大会 (Neuro2004)，2004．9．
- 45) 武田麻衣，矢嶋郁代，奥部愛子，横田雅美，近喰ふじ子，木村真人：パニック障害患者の心理特性：自己記入式心理検査による対人態度に対する心理的検討．第 101 回日本心身医学会関東地方会，2004．9．
- 46) 稻次基希<sup>1)</sup>，吉崎崇仁<sup>1)</sup>，大林 茂<sup>1)</sup>，須原哲也，岡野栄之<sup>1)</sup>，黒岩俊彦<sup>1)</sup>，成相 直<sup>1)</sup>，大野喜久郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：脳神経機能再生医療の評価法としての PET の有用性．第 63 回日本脳神経外科学会総会，2004．10．
- 47) 奥村正紀，一瀬邦弘，中村 満，竹澤健司，益富一郎，島 陽一：精神科救急における自傷・他害の事例化要因について．第 12 回日本精神科救急学会総会，2004．10．
- 48) 大久保善朗：情動の障害とニューロイメージング．第 4 回精神疾患と認知機能研究会，2004．10．
- 49) 大久保善朗：ニューロイメージングによる抗精神病薬の薬効評価：統合失調症治療との関連．第 10 回南大坂精神科臨床懇話会学術講演会，2004．10．
- 50) 竹澤健司，中村 満，益富一郎，島 陽一，奥村正紀，一瀬邦弘：精神科救急における事例化要因．第 12 回日本精神科救急学会総会，2004．10．
- 51) 中村 満，一瀬邦弘，竹澤健司，益富一郎，島 陽一，清水輝彦，道行 隆，梶奈美子：精神科救急における行動制限の実態調査．第 12 回日本精神科救急学会総会，2004．10．
- 52) 横田雅美，橋口英俊，木村真人：生活習慣病としての歯周疾患に関する健康行動理論の応用：歯周疾患患者の認知的評価尺度作成の試み．第 101 回日本心身医学会関東地方会，2004．11．
- 53) 高橋郁磨<sup>1)</sup>，外山比南子<sup>1)</sup>，大林 茂<sup>1)</sup>，上村幸二<sup>1)</sup>，永井裕司<sup>1)</sup>，須原哲也，内山明彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：PET 脳賦活検査における賦活部位間の相関関係解析法の検討．第 44 回日本核医学会総会，2004．11．
- 54) 高野晶寛<sup>1)</sup>，須原哲也，生駒洋子<sup>1)</sup>，安野史彦<sup>1)</sup>，一宮哲哉<sup>(1)</sup>放射線医学総合研究所)：[<sup>11</sup>C]DASB を用いた抗うつ薬によるセロトントランスポーター占有率の経時的変化に関する検討．第 44 回日本核医学会総会，2004．11．
- 55) 佐合賢治<sup>1)</sup>，吉川京燦<sup>1)</sup>，石川博之<sup>1)</sup>，田村克巳<sup>1)</sup>，古雅雅之<sup>1)</sup>，須原哲也，地平博夫<sup>1)</sup>，鈴木和年<sup>1)</sup>，棚田修二<sup>1)</sup>，辻井博彦<sup>1)</sup>，佐々木康人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：CT 付き PET 画像を利用した頭頸部腫瘍における PET-MRI 画像作成法の検討．第 44 回日本核医学会総会，2004．11．
- 56) 山崎まどか，前原健寿，大野英介喜久郎，大久保善朗，松浦雅人：側頭葉内側硬膜下電極におけるてんかん直流電位変動の検討：第 2 報．第 34 回日本臨床神経生理学学会学術大会，2004．11．
- 57) 織田健司，太田克也，松島英介，竹林 宏，松浦雅人，堺 則康，恩田 寛，大久保善朗：リチウム・バルブ

- 口酸投与で薬剤性過敏症候群となった双極性感情障害の症例．第17回日本総合病院精神医学会，2004．11．
- 58) 須原哲也：受容体イメージングから見た統合失調症の病態と治療．東京医科歯科大学21世紀COEプログラム特別講義，2004．11．
- 59) 須原哲也：Molecular imaging of drug targets in living brain．第9回慶應医学賞受賞式・受賞記念講演会 受賞記念シンポジウム，2004．11．
- 60) 生駒洋子<sup>1)</sup>，須原哲也，安野史彦<sup>1)</sup>，太田深秀<sup>1)</sup>，前田 純<sup>1)</sup>，高野晶寛<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：[<sup>11</sup>]DAA1106を用いた抹消性ベンゾジアゼピン受容体の定量評価法の検討．第44回日本核医学会総会，2004．11．
- 61) 石川博之<sup>1)</sup>，吉川京燦<sup>1)</sup>，佐合賢治<sup>1)</sup>，田村克巳<sup>1)</sup>，古賀雅久<sup>1)</sup>，須原哲也，鈴木和年<sup>1)</sup>，棚田修二<sup>1)</sup>，辻井博彦<sup>1)</sup>，佐々木康人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：鼻腔悪性黒色腫患者の重粒子線治療におけるMET-PET診断と短期予後の検討．第44回日本核医学会総会，2004．11．
- 62) 中村 満，一瀬邦弘，竹澤健司，島 陽一，益富一郎，清水輝彦，奥村正紀，道行 隆，反町佳穂子，梶奈美子，佐藤潤子，町田なな子：行動制限は深部静脈血栓・塞栓の危険因子となりうるか？．第17回日本総合病院精神医学会総会，2004．11．
- 63) 田村克己<sup>1)</sup>，吉川京燦<sup>1)</sup>，石川博之<sup>1)</sup>，佐合賢治<sup>1)</sup>，松野典代<sup>1)</sup>，須原哲也，棚田修二<sup>1)</sup>，久保敦司<sup>1)</sup>，辻井博彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：MET-PETによる子宮頸部扁平上皮癌の予後観測．第44回日本核医学会総会，2004．11．
- 64) 淵上剛志<sup>1)</sup>，原田平輝志<sup>1)</sup>，岡内 隆<sup>1)</sup>，前田 純<sup>1)</sup>，荒井拓也<sup>1)</sup>，須原哲也，鈴木和年<sup>1)</sup>，向高 弘<sup>1)</sup>，山本文彦<sup>1)</sup>，藤本紀子<sup>1)</sup>，前田 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：NMDA レセプターグリシンサイトへのイメージング剤としての[<sup>11</sup>C]4-ヒドロキシキノロン誘導体の合成および評価．第44回日本核医学会総会，2004．11．
- 65) 木村真人，上村秀樹，佐藤茂樹，鈴木博子，成重竜一郎，森 隆夫，守屋裕文：合併症病棟のあり方に関する研究：精神科病床での治療とリエゾン治療の比較を通して．第17回日本総合病院精神医学会総会，2004．11．
- 66) 荒川亮介，大久保善朗，一宮哲也，館野 周，西條朋行，伊藤敬雄，高野晶寛<sup>1)</sup>，安野史彦<sup>1)</sup>，須原哲也(<sup>1)</sup>放射線医学研究所)：抗精神病薬による維持療法時のドーパミンD2受容体占有量の検討．第37回精神神経系薬物治療研究報告会，2004．12．
- 67) 前田 純<sup>1)</sup>，安野史彦<sup>1)</sup>，高野晶寛<sup>1)</sup>，生駒洋子<sup>1)</sup>，須原哲也(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所)：新規末梢性ベンゾジアゼピン受容体PETトレーサーの開発とその応用．第37回精神神経系薬物治療研究報告会，2004．12．
- 68) 八幡憲明，高橋英彦，伊藤逸生，高野晶寛，荒川亮介，伊藤滋朗，安野史彦，一宮哲哉，西條朋行，肥田道彦，織田健司，松浦雅人，須原哲也，大久保善朗：PET，MRIを用いた統合失調症の研究．厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 平成16年度研究報告会．，2004．12．
- 69) 須原哲也：分子イメージングで見た精神疾患の病態と治療．第40回脳のシンポジウム，2005．3．
- 70) 須原哲也：向精神薬の薬効評価 PETを用いた検討．第13回関東脳SPECT研究会，2005．3．
- 71) 福田 一，館野 周，一宮哲哉，大久保善朗：無痙攣性通電両方が奏功した器質性精神障害の2症例．第73回東京精神医学会，2005．3．

## [ 付属病院東洋医学科 ]

### 研究概要

診療活動：東洋医学とは、中国より伝来し本邦に根付いた民族伝統医学との認識に立ち、流派にこだわらず、本来の伝統医学的観点と体系に基づき診療する事を方針としている。また西洋医学的診断を明確にした上での診療を原則とし、他科との連携を重視している。

月曜日から土曜日の午前・午後の一診であり、鍼灸師による鍼灸専門外来は、月・水・土曜日で3日である。約35%が煎薬であり、エキス剤と共に院外処方としている。また西洋薬処方原則としておこなわず、必要な時には他科へ依頼している。

教育啓蒙活動：学生への講義は、4年生に2コマ行っている（必修）。外来実習は割り当てられた4年生の診断学実習が1日ある。

平成2年の東洋医学センター設立より、8月と12月を除く毎月第4 or 5土曜日の午後6時半より公開研究会を行っている。本年は実践処方解説と題し、エキス剤を中心とした漢方方剤の構成・適応・症例などの解説を7月まで行った。

平成13年より毎月2度、東洋医学の啓蒙普及のために市民のための漢方教室を実施した。本年度は7月まで、病気と東洋医学・漢方薬の副作用・東洋医学の服用方法などについて解説した。

研究概要：あくまで東洋医学的観点に基づき、より臨床に根ざした研究を方針としている。具体的には、盗汗の種々の病態と病態概念の史的変遷・玉屏風散の臨床的応用・東洋医学の緩和医療への応用・未病概念の検討・ARDK（自動経絡測定装置）の臨床的応用などについて研究し発表した。

平成17年2月より、高橋が新しい部長となり、新たな体制のもとこれまでの活動に加え、生薬の作用機序の解明をするため、ツムラなどの企業との共同研究を開始した。また、明年度より、新たな研修医制度にのっとり、研修医の教育にも取り組むこととした。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 三浦於菟, 李彦：玉屏風散加味による難治性蕁麻疹の治療経験：玉屏風散の病態への一考察。漢方の臨床 2004；51(5)：616-624。
- 2) 三浦於菟：東洋医学の未病思想。日本未病システム学会雑誌 2004；10(1)：25-28。
- 3) 古賀実芳, 春木英一, 斉藤輝夫, 三浦於菟, 平馬直樹, 世良田和幸：脾陽虚証のアトピー性皮膚炎の1例。日本小児東洋医学会誌 2004；20(1)：50-53。
- 4) 三浦於菟：4病態の盗汗症例。温知会会報 2004；0(53)：24-28。

##### (2) 総説：

- 1) 三浦於菟：実践漢薬学第22回漢薬学各論：収斂薬(1)。漢方研究 2004；1(1)：104-107。
- 2) 三浦於菟：漢方ものしり辞典：東洋医学対語辞典。精神 MEDICAL KANPO 2004；1(12)：1-1。
- 3) 三浦於菟：実践漢薬学第23回漢薬学各論：収斂薬(2)。漢方研究 2004；2(2)：148-153。
- 4) 三浦於菟：未病とは何か。地球人 2004；2(2)：16-19。
- 5) 三浦於菟：漢方ものしり辞典：東洋医学対語辞典。癩乱・消渴 MEDICAL KANPO 2004；16(9)：1-1。
- 6) 三浦於菟：わかりやすい漢方薬の使い方：夏季に多用される方剤。港北区医師会 2004；1(175)：30-31。

#### 著書

- 1) 三浦於菟：〔自著〕実践漢薬学，2004；pp1-452，医歯薬出版株式会社。

2) 三浦於菟：〔分担〕梅核気の漢方療法．漢方診療二頁の秘訣，2004；pp206-207，金原出版．

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 三浦於菟：病気と未病のボーダーを探る「東洋医学の未病思想」．第10回日本未病システム学会，2004．1．
- 2) 三浦於菟：薬性・配合理論よりみた漢方処方．日本東洋医学会専門医制度委員会平成15年度関東甲信越地区春季教育講演会，2004．3．
- 3) 三浦於菟：盗汗理論の史的変遷と病態像．平成16年日本東洋医学会東海支部静岡県部会学術講演会，2004．4．
- 4) 三浦於菟：中国伝統医学理論よりみた処方と症例．日本東洋医学会栃木県部会第12回学術総会，2004．4．
- 5) 三浦於菟：「緩和医療と東洋医学（鍼灸と漢方）」緩和医療，特に疼痛の東洋医学的病態論．第55回日本東洋医学会学術総会，2004．5．

##### (2) 一般講演：

- 1) 三浦於菟：従歴代医書来看当帰六黄湯の組成〔歴代医書よりみた当帰六黄湯の成立〕．第七届全国中医文化与臨床，第十三届全国医古文学術検討会（中国），2004．4．
- 2) 三浦於菟：日本国東洋医学の現状：与中国方剤の差異〔日本の東洋医学の現状：中国方剤の相異〕．南京中医薬大学学術検討会（中国），2004．8．
- 3) 土屋 喬，福島 厚，古賀実芳，川嶋裕子，春木英一，斉藤輝夫，三浦於菟：鍼刺左心による1症例．平成16年日本東洋医学会東海支部静岡県部会学術講演会，2004．5．
- 4) 三浦於菟，古賀実芳，川嶋裕子，土屋 喬，福島 厚，春木英一，斉藤輝夫：玉屏風散の病態像：有効50例による検討．第55回日本東洋医学会学術総会，2004．5．
- 5) 三浦於菟：気虚症の盗汗．第14回漢方治療研究会，2004．7．
- 6) 三浦於菟：有効性判定にARDKが有用であった五積散の1例．第22回日本東方医学会，2004．7．



## 6. 小児科学講座

### [ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]

#### 研究概要

小児科学教室は、付属4病院小児科の連携のもとに、臨床的研究そして基礎的研究を行っており、研究業績は一括して報告する。

主たる研究内容は、再生医療への造血幹細胞を用いた基礎的研究、原発性免疫不全症の遺伝子治療への基礎的研究、白血病治療後の晩期障害の検討ならびに抗癌剤耐性の機序の解明、川崎病の病態解析および血管リモデリングに対する分子生物学的研究、小児糖尿病児および肥満児の代謝動態の研究、小児期の腎・尿路疾患の臨床および病理学的検討、小児における肺胞音スペクトル解析とKL-6の臨床応用、小児アレルギー疾患発症の検討、自己免疫性疲労症候群の病態解析、小児期痙攣の臨床と電気生理学所見・画像所見の検討など、である。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Fukazawa R, Sonobe T<sup>1)</sup>, Hamamoto K<sup>2)</sup>, Hamaoka K<sup>3)</sup>, Sakata K<sup>3)</sup>, Asano T, Imai T, Kamisago M, Ohkubo T, Uchikoba Y, Ikegami E, Watanabe M, Ogawa S ( <sup>1)</sup>Japanese Red-Cross Medical Center, <sup>2)</sup>Fukuoka University, <sup>3)</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine ): Possible synergic effect of Angiotensin-I converting enzyme gene Insertion/Deletion polymorphism and Angiotensin-II type-1 receptor 1166A/C gene polymorphism on ischemic heart disease in patients with Kawasaki disease . *Pediatr Res* 2004 ; 56 ( 4 ): 1-5 .
- 2) Itoh Y, Igarashi T, Taiyo I, Osamu F, Yoshitaka F : A case with chronic fatigue syndrome positive for antinuclear antibody followed by post-partum thyroiditis . *Modern Rheumatol* 2004 ; 14 ( 5 ): 406-409 .
- 3) Ohki Y, Kishi M, Orimo H : The factors affecting glycemic control in Japanese adolescents with type 2 diabetes mellitus . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 3 ): 156-159 .
- 4) Yamauchi H<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup>, Fujii M<sup>1)</sup>, Hinokiyama K<sup>1)</sup>, Ohmori H<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Ikegami E, Uchikoba Y, Ogawa S, Shimizu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Cardiovascular Surgery ): Optimal time of surgical treatment for Kawasaki coronary artery disease . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 4 ): 279-286 .
- 5) Shima Y, Shindoh F, Nakajima M, Hayashida M, Ogawa S : Prenatal diagnosis of congenital heart disease : Clinical experience and analysis . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 5 ): 328-332 .
- 6) Kaizu K, Maeda M, Ohkawa T, Hayashida M, Nakajima S<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1)</sup>Ageo General Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology ): Marked elevation of soluble Fas ligand and cytokine secretion after splenectomy in aggressive Natural Killer cell leukemia/lymphoma . *Leukemia and Lymphoma* 2004 ; 45 ( 11 ): 2291-2294 .
- 7) Shima Y, Baba C, Fujita A, Kanoh M, Watanabe M, Ogawa S, Kawase R, Shin S : Simultaneous supraventricular tachycardias in both fetuses of a twin gestation . *Arch Gynecol Obstet* 2004 ; 270 ( 4 ): 311-3113 .
- 8) Asano T, Sasaki N, Yashiro K, Hatori T, Kuwabara K, Hamada H, Imai T, Fujino O : Acute pancreatitis with Kawasaki disease : Analysis in cases of Kawasaki disease with elevated serum amylase levels . *Eur J Pediatr* 2005 ; 164 ( 3 ): 180-181 .

- 9) Taguchi K<sup>1,2)</sup>, Ogawa R<sup>1,3)</sup>, Migita M<sup>1,4)</sup>, Hanawa H<sup>3)</sup>, Ito H<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>2)</sup> Department of Orthopedic Surgery, <sup>3)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>4)</sup> Department of Pediatrics): The role of bone marrow-derived cells in bone fracture repair in a green fluorescent protein chimeric mouse model. Biochemical and Biophysical Research Communications 2005; 331 (1): 31-36.
- 10) 藤野 修, 藤田武久, 高石康子, 桑原健太郎, 藤松真理子, 羽鳥誉之, 小林朋子, 岡田一芳, 橋本 清, 福永慶隆: 初回無熱性発作: てんかん発作と考えられれば直ちに治療を必要とするか. 日本小児科学会雑誌 2004; 108 (2): 309-309.
- 11) 羽鳥誉之, 稲垣真澄, 白根聖子, 加我牧子: 言語音および非言語音 (tone burst) の認知機能に関する臨床神経生理学的研究. 脳と発達 2004; 36 (3): 232-239.
- 12) 浅野 健, 伊藤恭子, 小泉慎也, 小川耕一, 榎崎秀彦, 羽鳥誉之, 桑原健太郎, 上砂光裕, 今井大洋, 藤野修: 日本医科大学千葉北総病院小児科における2002-3年の時間外に受診したインフルエンザ患児の検討. 小児保健研究 2004; 63 (4): 395-400.
- 13) 門脇弘子, 大木由加志, 望月 弘: 小児のアデイポネクチン値. 日児誌 2004; 108 (8): 1056-1058.
- 14) 島 義雄<sup>1)</sup>, 早川真理<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 進 純郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup> 同産婦人科): 胎児超音波検査と施設間連携. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2004; 40 (4): 803-806.
- 15) 島 義雄, 西巻 滋<sup>2)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 早川真理<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 安ひろみ<sup>2)</sup>, 佐藤美保<sup>2)</sup>, 横田俊平<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup> 横浜市大小児科): Fetal inflammatory response syndrome (FIRS) の急性期における免疫調節に関する検討: Compensatory Anti-inflammatory response syndrome (CARS) の視点から見た早産児の疾患. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2004; 40 (4): 830-834.
- 16) 今井大洋, 伊藤保彦, 福永慶隆: 膠原病の肺病変. 日本小児放射線学会雑誌 2004; 20 (2): 4-11.
- (2) 綜説:
- 1) 勝部康弘<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院小児科, <sup>2)</sup> 付属病院小児科): 先天性心疾患, 特集: 感染症: 最近の話題: 基礎疾患のある場合の感染症. 小児科 2004; 45 (4): 708-713.
- 2) 伊藤保彦: 小児のシェーグレン症候群. 日本医事新報 2004; 4163: 105-106.
- 3) 高瀬真人: 抗微生物薬の選び方・使い方: 下気道炎〔気管支炎・肺炎〕. 小児科 2004; 45 (4): 602-607.
- 4) 小川俊一: 小児の臨床薬理学: 血栓溶解薬. 小児科診療 2004; 67 (増刊号): 374-379.
- 5) 高瀬真人: 研修医のためのよくみる疾患ABC: I. 外来で行う鑑別診断の要点: 咳. 小児科診療 2004; 67 (5): 715-719.
- 6) 高瀬真人: 小児科領域における肺音. 日本胸部臨床 2004; 63 (7): 654-662.
- 7) 高瀬真人: 診療に必要な呼吸機能の知識: 年齢別呼吸機能検査の実際. 小児科 2004; 45 (8): 1367-1374.
- 8) 前田美穂: 小児がん長期生存者のQOL. 日本小児血液学会雑誌 2004; 18 ((4)): 535-547.
- 9) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 自己抗体と免疫複合体: 病因的意義と病態形成における役割. 小児内科 2004; 36 (9): 1414-1417.
- 10) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 症例から学ぶ自己免疫疾患: 線維筋痛症・自己免疫性疲労症候群. 小児内科 2004; 36 (10): 1608-1611.
- 11) 別所文雄<sup>1)</sup>, 桃井真理子<sup>2)</sup>, 伊藤文之<sup>3)</sup>, 保科 清<sup>4)</sup>, 松本壽通<sup>5)</sup>, 内海裕美<sup>6)</sup>, 庄司順一<sup>7)</sup>, 飛田正俊<sup>8)</sup>, 近藤洋子<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup> 杏林大学医学部小児科, <sup>2)</sup> 自治医科大学小児科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学第三病院小児科, <sup>4)</sup> 東京逓信病院小児科, <sup>5)</sup> 松本小児科医院, <sup>6)</sup> 吉村小児科, <sup>7)</sup> 青山学院大学文学部教育学科, <sup>8)</sup> 日本医科大学多摩永山病院小児科, <sup>9)</sup> 玉川大学文学部人間学科): 小児科連絡協議会における少子化対策への提言. 日本小児科学会雑誌 2004; 108 (10): 1281-1284.
- 12) 福永慶隆: 乳幼児期および思春期における鉄欠乏性貧血と予防のための食生活. 小児科 2004; 44 (11):

1667-1676 .

- 13) 島 義雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 新生児の産湯 . 小児科臨床 2004 ; 57 ( 10 ): 2171-2174 .
- 14) 前田美穂 : 貧血のスクリーニング . 小児科 2004 ; 45 (( 11 )) : 1928-1933 .
- 15) 前田美穂 : 小児悪性腫瘍の晩期障害 . 日本医事新報 2004 ; ( 4205 ): 61-68 .
- 16) 島 義雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 周産期ケア : エビデンスを求めて . 周産期医学 2004 ; ( 34 ): 822-825 .
- 17) 島 義雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 産科医療のフロントライン : 産科と小児科の新たな連携と母児管理 . 周産期医学 2004 ; 34 ( 3 ): 387-392 .
- 18) 伊藤保彦 , 五十嵐徹 , 福永慶隆 : 注目されている膠原病類縁疾患 : 線維筋痛症 . 小児科診療 2005 ; 68 ( 4 ): 697-702 .
- 19) 伊藤保彦 , 福永慶隆 : 子どもの集団生活と心身の健康 : 慢性疲労症候群をもつ子どもと集団生活 . 小児科臨床 2005 ; 58 ( 4 ): 666-672 .

### (3) 研究報告書 :

- 1) 大木由加志 , 岸 恵 , 折茂裕美 , 大川拓也 : 小児・思春期2型糖尿病児の薬物療法によるコントロール状況について . 平成15年度厚生科学研究報告書 2004 ; 15 .
- 2) 前田美穂 : 貧血検査の実施成績と分析 . 東京都予防医学協会年報 2005 ; 34 : pp56-59 .
- 3) 大木由加志 , 岸 恵 , 折茂裕美 , 大川拓也 : O-GTTによる肥満および非肥満思春期2型糖尿病児のインスリン抵抗性について . 平成16年度厚生科学研究報告書 2005 ; pp30-36 .

### (4) 画像紹介 :

- 1) Ogawa R<sup>1)</sup> , Mizuno H<sup>1)</sup> , Hyakusoku H<sup>1)</sup> , Watanabe A<sup>2)</sup> , Migita M<sup>2)</sup> , Shimada T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): Chondrogenic and Osteogenic Differentiation of Adipose-derived Stem Cells Isolated from GFP Transgenic Mice . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 : 240-241 .

### (5) 症例報告 :

- 1) Maeda M , Fukunaga Y , Kaizu K , Harano K<sup>1)</sup> , Harano T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Kawasaki Medical School ): Two Children with Thalassemia Identified During Screening for Anemia in Junior High School . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (( 4 )) : 297-300 .
- 2) Migita M , Kaizu K , Asai M , Yamaguchi K , Ikegami E , Maeda M , Yokomuro S , Taziri T , Fukunaga Y : Multiple fungal splenic abscesses in a patient with Tacute Lymphoblastic leukemia undergoing chemotherapy . Pediatrics International 2004 ; 46 ( 6 ): 773 .

## 著 書

- 1) 伊藤保彦 , 福永慶隆 : [ 分担 ] 慢性疲労症候群の自己免疫学的側面 : 自己免疫性疲労症候群との関係 . 別冊・医学のあゆみ「疲労の科学」( 渡辺恭良 ) , 2005 ; pp125-129 , 医歯薬出版 .
- 2) 前田美穂 : [ 分担 ] 長期追跡システムと晩期障害についての説明と同意 . 小児血液悪性疾患 ( 土田昌宏編 ) , 2004 ; pp36-51 , 医薬ジャーナル社 .
- 3) 折茂裕美 , 大木由加志 : [ 分担 ] 嘔吐 ” 疾患・症状別今日の治療と看護 ( 改定第2版 ) , 小児の症状 . 小児の症状 ( 衛藤義勝 ) , 2004 ; pp229-231 , 南江堂 .
- 4) 福永慶隆 : [ 分担 ] 貧血 . 今日の小児診断指針 ( 五十嵐隆 , 大園恵一 , 高橋孝雄 ) , 2004 ; pp107-112 , 医学書院 .
- 5) 福永慶隆 : [ 分担 ] リウマチ熱 . 今日の治療指針 ( 山口 徹 , 北原光夫 ) , 2005 ; pp957-958 , 医学書院 .
- 6) 伊藤保彦 : [ 分担 ] 血清検査 ( 自己免疫病・膠原病 ) . 知っておきたい診療上の留意点 ( 小児科46巻増刊号 ) ( 「小児科」編集委員会 ) , 2005 ; pp699-705 , 金原出版 .

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 前田美穂：栄養と貧血．日本医科大学医学会第113回例会，2004．5．
- 2) 大木由加志：小児・思春期肥満児の合併症と治療について．第22回茨城県小児科医会研修セミナー，2004．10．
- 3) 伊藤保彦：小児の慢性疲労症候群．第32回静岡県東部臨床小児懇話会，2005．1．

### (2) 教育講演：

- 1) 小川俊一：アントラサイクリンの心毒性の評価．TCCSG秋季セミナー，2004．10．

### (3) シンポジウム：

- 1) Itoh Y：Clinical feature of pediatric Fibromyalgia．1st. International Symposium of Fibromyalgia (Tokyo)，2004．4．
- 2) Itoh Y：Autoimmunity and fatigue-associated conditions in children．International Conference on Fatigue Science 2005 (Nagano, Japan)，2005．2．
- 3) 桑原健太郎：タイ国チェンマイ地区小児のピロリ菌感染疫学調査：プロバイオティクスによる1次予防の可能性．プロバイオティクスシンポジウム'05，2004．4．
- 4) 前田美穂：貧血と微量元素（微量元素と疾患）．第15回日本微量元素学会，2004．7．
- 5) 上砂光裕<sup>1)</sup>，Christine ES<sup>2)</sup>，小川俊一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科学，<sup>2)</sup>Harvard Medical School)：分子遺伝学に基づいた心筋症の診断，発症機序の解明（「21世紀の心筋症の診断と治療」）．第40回日本小児循環器学会総会，2004．7．
- 6) 柳原 剛：免疫面からi)陽性率の推移（東京都の結果から）．第39回日本小児腎臓病学会学術集会，2004．7．
- 7) 前田美穂，浅野 薫<sup>1)</sup>，小澤利行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>シスメックス株式会社中央研究所)：無侵襲検査によるヘモグロビン測定（血液検査の新しい流れ）．日本臨床検査自動化学会第36回大会，2004．10．
- 8) 小川俊一：冠動脈後遺症児に対するカテーテル治療および外科治療（重症冠動脈後遺症児の医療と今後）．第24回日本川崎病研究会，2004．11．

### (4) パネルディスカッション：

- 1) 深澤隆治<sup>1)</sup>，池上 英<sup>2)</sup>，渡邊美紀<sup>2)</sup>，松本多絵<sup>2)</sup>，内木場庸子<sup>2)</sup>，上砂光裕<sup>2)</sup>，勝部康弘<sup>3)</sup>，落 雅美<sup>4)</sup>，小川俊一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院小児科，<sup>2)</sup>附属病院小児科，<sup>3)</sup>第二病院小児科，<sup>4)</sup>外科学第2)：川崎病既往児の冠動脈瘤における血管老化所見の検討．日本小児循環器学会，2004．7．
- 2) 在家裕司<sup>1)</sup>，真部 淳<sup>2)</sup>，菅原幸子<sup>2)</sup>，土田昌宏<sup>3)</sup>，前田美穂，磯谷光司<sup>4)</sup>，増永敦子<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東大医科研，<sup>2)</sup>聖路加国際病院，<sup>3)</sup>茨城こども病院，<sup>4)</sup>岐阜大学，<sup>6)</sup>昭和大学藤が丘病院)：セントラルレビューから：MDSとバルボウイルス感染症の鑑別．第46回日本小児血液学会，2004．11．
- 3) 浅野由美<sup>1)</sup>，前田美穂(<sup>1)</sup>兵庫医大)：再生不良性貧血のQOL．第46回日本小児血液学会，2004．11．
- 4) 前田美穂，土田昌宏<sup>1)</sup>，菊地 陽<sup>1)</sup>，新井 心<sup>1)</sup>，加藤陽子<sup>1)</sup>，有瀧健太郎<sup>1)</sup>，小林美由紀<sup>1)</sup>，杉田憲一<sup>1)</sup>，徳山美香<sup>1)</sup>，後藤晶子<sup>1)</sup>，森本 克<sup>1)</sup>，恒松由記子<sup>1)</sup>，細谷亮太<sup>1)</sup>，別所文雄<sup>1)</sup>，福永慶隆(<sup>1)</sup>東京小児がん研究グループ)：小児白血病患児への病名告知に関する検討．第46回日本小児血液学会，2004．11．

### (5) ワークショップ：

- 1) 福島 敬<sup>1)</sup>，康 勝好<sup>1)</sup>，高橋浩之<sup>1)</sup>，真部 淳<sup>1)</sup>，小原 明<sup>1)</sup>，林 泰秀<sup>1)</sup>，外松 学<sup>1)</sup>，金子 隆<sup>1)</sup>，上條岳彦<sup>1)</sup>，磯山憲一<sup>1)</sup>，木下明俊<sup>1)</sup>，後藤裕明<sup>1)</sup>，豊田恭徳<sup>1)</sup>，前田美穂，嶋田博之<sup>1)</sup>，杉田憲一<sup>1)</sup>，斉藤正博<sup>1)</sup>，杉田完爾<sup>1)</sup>，梶原道子<sup>1)</sup>，矢部普正<sup>1)</sup>，菊地 陽<sup>1)</sup>，中館尚也<sup>1)</sup>，野口 靖<sup>1)</sup>，牧本 淳<sup>1)</sup>，柳沢孝明<sup>1)</sup>，生田孝一郎<sup>1)</sup>，花田良二<sup>1)</sup>，土田昌宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京小児がん研究グループ)：小児のテイ倍体急性リンパ性白血病(ALL)68例の検討．第66回日本血液学会・第46回日本臨床血液学会，2004．9．
- 2) 西澤善樹<sup>1)</sup>，藤森真理子<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，中川博文<sup>2)</sup>，福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科学，<sup>2)</sup>日南学園)：光弾性法によるダウン症候群児の背臥位および腹臥位の接触圧力分布解析．第107回日本小児科学会学術集会，2004．4．

- 3) 前田美穂：小児がんの晩期障害．Childhood Cancer Survivors Workshop 2004, 2004 . 7 .
- 4) 小川千登勢<sup>1)</sup>, 生田孝一郎<sup>1)</sup>, 高橋浩之<sup>1)</sup>, 梶原道子<sup>1)</sup>, 前田美穂, 杉田憲一<sup>1)</sup>, 康 勝好<sup>1)</sup>, 菊地 陽<sup>1)</sup>, 磯山恵一<sup>1)</sup>, 野口 靖<sup>1)</sup>, 矢部普正<sup>1)</sup>, 豊田恭徳<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 小原 明<sup>1)</sup>, 花田良二<sup>1)</sup>, 土田昌宏 ( <sup>1)</sup>東京小児がん研究グループ ALL 委員会 ): 有害事象により L-asparaginase 投与を中止した小児急性リンパ性白血病症例の予後 . 第66回日本血液学会・第46回日本臨床血液学会, 2004 . 9 .
- 5) 浅野由美<sup>1)</sup>, 前田美穂 ( <sup>1)</sup>兵庫医科大学 ): 再生不良性貧血のQOL . 第46回日本小児血液学会, 2004 . 11 .
- (6) 一般講演 :
- 1) 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 渡辺美紀<sup>1)</sup>, 池上 英<sup>1)</sup>, 内木場庸子<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>小児科学 ): 川崎病 グロブリン治療前後でのナトリウム利尿ペプチド ( ANP, BNP, CNP ) 値と組織ドブラ心エコー図法所見 . 第40回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2004 . 7 .
- 2) 森田清子<sup>1)</sup>, 島 義雄, 福岡雅楽子<sup>1)</sup>, 五石圭司<sup>1)</sup>, 高見沢勝<sup>1)</sup>, 五十嵐隆<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>2)</sup>, 布山裕一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京大学小児科, <sup>2)</sup>葛飾赤十字産院小児科 ): 粘液水腫により生直後より高度の呼吸障害を認めた下垂体機能低下症の1例 . 日本周産期・新生児医学会, 2004 . 7 .
- 3) Itoh Y , Igarashi T , Fukunaga Y : Autoantibody profiles and long term outcome in patients with autoimmune fatigue syndrome . Experimental Biology 2004 ( Annual Meeting of The American Association of Immunologists )( Washington DC, USA ), 2004 . 4 .
- 4) Kawakami T<sup>1)</sup>, Maeda M , Fukunaga Y ( <sup>1)</sup>Nippon Dental University ): Disturbance of dental development in survivors of pediatric malignancies . 8th Internatinal Conference of Treatment of Children and Adolescents for Cancer ( Canada ), 2004 . 6 .
- 5) Kawabata K<sup>1,2)</sup>, Migita M<sup>1,2)</sup>, Mochizuki H<sup>3)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology , <sup>2)</sup>Department of Pediatrics, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine ): An Ex Vivo Gene Therapy Approach for Metachromatic Leukodystrophy Using Neural Progenitor Cells . The 7th Annual Meeting, American Society of Gene Therapy ( Minneapolis, America ), 2004 . 6 .
- 6) Maeda M , Fukunaga Y , Kaizu K , Hayakawa J , Migita M , Asano T , Amano Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology ): Magnetic Resonance Brain Images of Survivors of Childhood Acute Lymphoblastic Leukemia . 36th Congress of the Internatinal Society of Paediatric Oncology ( Norway ), 2004 . 9 .
- 7) Itoh Y , Kaizu K , Igarashi T , Fukunaga Y : Subchemical hypothyroidism and autoimmune fatigue syndrome . 11th Asia-Pacific League Against Rheumatism ( APLAR ) Meeting ( Jeju. Korea ), 2004 . 9 .
- 8) Takase M , Imai T : Effect of background noise subtraction on determination of sound spectral parameters . 29th Annual Conference of the International Lung Sound Association ( Glasgow, UK ), 2004 . 9 .
- 9) Ogawa S , Fukazawa R , Kamisago M , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Hajikano M , Katsube Y : 50 . The 2004 Congress of the European Society of Cardiology ( Munich ( Germany ) ), 2004 . 9 .
- 10) Ogawa S , Fukazawa R , Kamisago M , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Hajikano M , Katsube Y : Estimation of coronary microcirculatory disturbance by Doppler flow wire in children with Kawasaki disease . The 2004 Congress of the European Society of Cardiology ( Munich ( Germany ) ), 2004 . 9 .
- 11) Kaizu K : A case of early infantile onset juvenile amyopathic dermatomyositis . 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress ( Korea ), 2004 . 9 .
- 12) Fujimura J<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup>, Mizuno H<sup>2)</sup>, Fukunaga Y , Suzuki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Pharmacology , <sup>2)</sup>Department of Plastic and Reconstructive Surgery ): Neurogenic differentiation of adipose-derived stromal cells isolated from GFP transgenic mice . The Joint Meeting of the Tissue Engineering Society International and the European Tissue Engineering Society ( Lausanne, Switzerland ), 2004 . 10 .

- 13) Ogawa S, Fukazawa R, Kamisago M, Uchikoba Y, Ikegami E, Watanabe M, Hajikano M, Katsube Y : 52 . American Heart Association's Scientific Sessions 2004 ( New Orleans ), 2004 . 11 .
- 14) Fukazawa R<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>2)</sup>, Ikegami E<sup>2)</sup>, Uchikoba Y<sup>2)</sup>, Hajikano M<sup>3)</sup>, Kamisago M<sup>2)</sup>, Katsube Y<sup>3)</sup>, Yamauchi H<sup>4)</sup>, Ochi M<sup>4)</sup>, Ogawa S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院小児科, <sup>2)</sup>付属病院小児科, <sup>3)</sup>第二病院小児科, <sup>4)</sup>外科学第2): Characteristic Senescence-Associated Phenotype in Coronary Aneurysm in Children with Kawasaki Disease . Kawasaki Disease Symposium ( SanDiego ), 2005 . 2 .
- 15) Ikegami E, Fukazawa R, Kamisago M, Hajikano M, Watanabe M, Uchikoba Y, Katsube Y, Ogawa S : Relation Between Shear Stress and Formation of Coronary Aneurysm and Thrombus in Kawasaki Disease . Eigh, 2005 . 2 .
- 16) Kawabata K1. <sup>2)</sup>, Migita M1. <sup>2)</sup>, Mochizuki H<sup>3)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Deparement of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine ): An Ex Vivo Gene Therapy Approach for Metachromatic Leukodystrophy Using Neural Progenitor Cells . The 10th Annual Meeting, Japan Society of Gene Therapy, 2004 . 8 .
- 17) Fukazawa R<sup>1)</sup>, Sonobe T<sup>2)</sup>, Hamamoto K<sup>3)</sup>, Sakata K<sup>4)</sup>, Hamaoka K<sup>4)</sup>, Watanabe M<sup>5)</sup>, Ikegami E<sup>5)</sup>, Uchikoba Y<sup>5)</sup>, Kamisago M<sup>5)</sup>, Katsube Y<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院小児科, <sup>2)</sup>日本赤十字医療センター小児科, <sup>3)</sup>福岡大学医学部小児科, <sup>4)</sup>京都府立医科大学小児疾患研究施設内科, <sup>5)</sup>日本医科大学付属病院小児科, <sup>6)</sup>同第二病院小児科): Fc Gamma IIIa Receptor 158V/F Polymorphism and Kawasaki Disease . 日本循環器学会, 2005 . 3 .
- 18) 桑原健太郎, 岡田拓也, 羽鳥誉之, 濱田久光, 今井大洋, 浅野 健, 藤野 修: 当科インフルエンザ入院患者の臨床的検討 . 第167回日本小児科学会千葉地方会・第1087回千葉医学会分科会, 2004 . 2 .
- 19) 川上康彦<sup>1)</sup>, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 物部真奈美<sup>2)</sup>, 金子 実<sup>2)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 小島周二<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科学, <sup>2)</sup>東京理科大学薬学部): 脳炎・髄膜炎における脳脊髄液中内因性抗酸化物質の動態と発現の研究 . 平成15年度川野小児医学奨励財助成金研究発表会, 2004 . 3 .
- 20) 新藤史子<sup>1)</sup>, 島 義雄, 矢代健太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 新生児期より発症し多彩な脳波所見を呈した乳児局在性けいれんの1例 . 新生児研究会, 2004 . 3 .
- 21) 海津聖彦, 前田美穂, 劉 効蘭, 安達彰子, 佐藤 茂, 福永慶隆: 小児白血病における末梢血の電子顕微鏡観察による検討 . 第107回日本小児科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 22) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 桑原奈津子, 今井大洋, 藤野 修, 福永慶隆: 小児の線維筋痛症の病態 . 第107回日本小児科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 23) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 桑原奈津子, 福永慶隆: 小児の線維筋痛症と不登校について . 第48回日本リウマチ学会総会, 2004 . 4 .
- 24) 牛腸義宏<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): この冬経験した軽症下痢に伴うけいれん症例について . 第256回川崎市小児科医会症例検討会, 2004 . 4 .
- 25) 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 牛腸義宏<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): マイコプラズマ感染症に伴ったスティーブンス . ジョンソン症候群 . 第256回川崎市小児科医会症例検討会, 2004 . 4 .
- 26) 藤松真理子<sup>1)</sup>, 牛腸義宏<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): マイコプラズマ感染症に伴った血球貧食症候群 . 第256回川崎市小児科医会症例検討会, 2004 . 4 .
- 27) 初鹿野見春, 勝部康弘, 渡辺美紀, 池上 英, 内木場庸子, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: カラー組織ドブ

- ラー心エコー図法を用いた川崎病患児の心機能評価．第107回日本小児科学会学術集会，2004．4．
- 28) 熊坂 栄<sup>1)</sup>，松本多絵<sup>2)</sup>，牛腸義宏<sup>2)</sup>，右田 真<sup>2)</sup>，福永慶隆<sup>2)</sup>，加藤善史<sup>3)</sup>，山高篤行<sup>3)</sup>，宮野 武<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院小児科，<sup>2)</sup>同小児科学，<sup>3)</sup>順天堂大学附属順天堂病院小児外科)：胆石を合併したGaucher病2型の一児例．第107回日本小児科学会学術集会，2004．4．
- 29) 渡邊 淳<sup>1)</sup>，浅野ありさ<sup>1)</sup>，右田 真<sup>1)</sup>，大木由加志<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院遺伝診療科)：日本医科大学附属病院における遺伝診療：小児科から遺伝診療科へ．第107回日本小児科学会総会，2004．4．
- 30) 布山裕一<sup>1)</sup>，島 義雄，林田真理<sup>1)</sup>，新藤史子<sup>1)</sup>，竹内穂高<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科)：臍帯血pH，乳酸値を用いたフリースタイル分娩の安全性の検討．日本小児科学会，2004．4．
- 31) 渡邊 淳<sup>1)</sup>，浅野ありさ<sup>1)</sup>，右田 真<sup>1)</sup>，渡辺裕子<sup>1)</sup>，鈴木由美<sup>1)</sup>，千葉弘子<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院遺伝診療科)：日本医科大学附属病院における独立した臨床遺伝医療部門開設への課題．日本遺伝カウンセリング学会，2004．5．
- 32) 渡辺裕子<sup>1)</sup>，浅野ありさ<sup>1)</sup>，千葉弘子<sup>1)</sup>，渡邊 淳<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院遺伝診療科)：筋緊張ジストロフィー遺伝子診断において自己決定に差異を呈した2例．日本遺伝カウンセリング学会，2004．5．
- 33) 浅野ありさ<sup>1)</sup>，渡邊 淳<sup>1)</sup>，右田 真<sup>1)</sup>，鈴木由美<sup>1)</sup>，村田知昭<sup>2)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院遺伝診療科，<sup>2)</sup>同女性診療科・産科)：羊水検査で偶然発見されたder(15;22)(q10;q10)均衡型ロバートソン転座の遺伝カウンセリング．日本遺伝カウンセリング学会，2004．5．
- 34) 羽鳥誉之，岡田拓也，佐々木伸子，高橋陽子，桑原健太郎，濱田久光，今井大洋，浅野 健，藤野 修：当科における2004年1月から3月期インフルエンザ迅速検査の検討．第168回日本小児科学会千葉地方会・第1088回千葉医学会分科会，2004．6．
- 35) 深澤隆治<sup>1)</sup>，渡邊美紀<sup>2)</sup>，内木場庸子<sup>2)</sup>，池上 英<sup>2)</sup>，初鹿野見春<sup>3)</sup>，上砂光裕<sup>2)</sup>，勝部康弘<sup>3)</sup>，小川俊一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院小児科，<sup>2)</sup>附属病院小児科，<sup>3)</sup>第二病院小児科)：川崎病動脈瘤病変と動脈硬化病変との類似点と相違点．東京川崎病研究会，2004．6．
- 36) 藤松真理子<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科)：マイコプラズマ感染症をきっかけに生じたと思われる血球貧食症候群(HPS)の1例．第269回日本小児科学会神奈川県地方会，2004．6．
- 37) 牛腸義宏，須藤真里子，軸菌智雄，池上 英，吉田順子，五十嵐徹，右田 真，福永慶隆：ステロイド療法を併用したマイコプラズマ肺炎の3症例．第521回日本小児科学会東京都地方会講和会，2004．6．
- 38) 深澤隆治，渡邊美紀，内木場庸子，池上 英，初鹿野美春，上砂光裕，勝部康弘，小川俊一：川崎病動脈瘤病変と動脈硬化病変の類似点と相違点．第14回東京川崎病研究会，2004．6．
- 39) 池上 英，深澤隆治，松本多絵，初鹿野見春，渡辺美紀，内木場庸子，大久保隆志，上砂光裕，勝部康弘，小川俊一：活性酸素のスカベンジャーであるエダラポンはdaunorubicin誘導による心筋細胞のapoptosisを阻害する．第40回日本小児循環器学会総会，2004．6．
- 40) 小林朋子，羽鳥誉之，藤松真理子，桑原健太郎，藤田武久，高石康子，藤野 修，松谷雅生：原因不明の脳梗塞と考えられていた基底核原発胚細胞腫の1男児例．第46回日本小児神経学会総会，2004．7．
- 41) 藤田武久，藤野 修，伊藤 正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>水方苑)：重症心身障害児者施設入所者の頭部MRI所見：前医情報との比較．第46回日本小児神経学会総会，2004．7．
- 42) 安藝 薫<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科)：先行する頭痛から心身症が疑われた視神経炎の1例．第34回神奈川県小児神経懇話会，2004．7．
- 43) 五十嵐徹，神尾政彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>鹿島病院)：茨城県小学生・中学生における学校検尿検査．第39回日本小児腎臓病学会学術集会，2004．7．
- 44) 島 義雄，西巻 滋<sup>2)</sup>，新藤史子<sup>1)</sup>，中島瑞恵<sup>1)</sup>，早川真理，布山裕一<sup>1)</sup>，安ひろみ<sup>2)</sup>，佐藤美保<sup>2)</sup>，横田俊平<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科，<sup>2)</sup>横浜市大小児科)：Fetal Inflammatory Response Syndromeの急性期代償性炎症反応相と早産児の疾患．日本周産期・新生児医学会，2004．7．

- 45) 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 早川真理, 島 義雄, 新藤史子<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 山高篤行<sup>2)</sup>, 宮野 武<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>順天堂大学小児外科): 極低出生体重児に伴った横隔膜弛緩症に対する術前呼吸管理の経験. 日本周産期・新生児医学会, 2004. 7.
- 46) 新藤史子<sup>1)</sup>, 島 義雄, 布山裕一<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 多彩な脳波所見を呈した局在関連性てんかんの1例. 日本周産期・新生児医学会, 2004. 7.
- 47) 阿部正徳<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 島 義雄, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 新生児期に診断した動脈管瘤の3例. 日本周産期・新生児医学会, 2004. 7.
- 48) 布山裕一<sup>1)</sup>, 島 義雄, 新藤史子<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 阿部正徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 新生児の腸内細菌叢の解析. 日本周産期・新生児医学会, 2004. 7.
- 49) 山田美穂<sup>1)</sup>, 島 義雄, 布山裕一<sup>1)</sup>, 進 純郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>同産婦人科): 産院における母子への心理的援助: 継続的な援助のための枠組みの整備. 日本周産期・新生児医学会, 2004. 7.
- 50) 菅野華子, 島 義雄, 阿部正徳<sup>1)</sup>, 小林弘幸<sup>2)</sup>, 山高篤行<sup>2)</sup>, 福永慶隆(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>順天堂大学小児外科): 肝纖維症に進展したTAMの胎内診断. 日本周産期・新生児医学会, 2004. 7.
- 51) 新藤史子<sup>1)</sup>, 島 義雄, 中島瑞恵, 粟田口康一<sup>2)</sup>, 進 純郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>同産婦人科): フリースタイル分娩の安全性の検討(第2報). 日赤医学会, 2004. 7.
- 52) 深澤隆治, 池上 英, 渡邊美紀, 松本多絵, 初鹿野美春, 内木場庸子, 上砂光裕, 勝部康弘, 落 雅美<sup>1)</sup>, 小川俊一(<sup>1)</sup>外科学第2): 川崎病既往児の冠動脈瘤における血管老化所見の検討. 第40回日本小児循環器学会, 2004. 7.
- 53) 池上 英, 深澤隆治, 松本多絵, 初鹿野美春, 渡邊美紀, 内木場庸子, 大久保隆志, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一: 181. 第40回日本小児循環器学会, 2004. 7.
- 54) 初鹿野美春, 勝部康弘, 渡邊美紀, 池上 英, 内木場庸子, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 川崎病 グロブリン治療前後でのナトリウム利尿ペプチド(ANP, BNP, CNP)値と組織ドップラー心エコー図所見. 第40回日本小児循環器学会, 2004. 7.
- 55) 佐々木孝<sup>1)</sup>, 深澤隆治, 小川俊一, 菅野重人<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 183. 第40回日本小児循環器学会, 2004. 7.
- 56) 松本多絵, 牛腸義宏, 右田 真, 早川潤, 小川俊一: 心筋障害を伴った先天性拘縮性くも状指趾症(Beals症候群)の1例. 第40回日本小児循環器学会, 2004. 7.
- 57) 山口和子, 白井潤二, 小川俊一: 1ヶ月時に著しいチアノーゼ, 呼吸障害で発症したVSDを伴うRS肺炎の1例. 第40回日本小児循環器学会, 2004. 7.
- 58) 内木場庸子, 深澤隆治, 池上 英, 勝部康弘, 上砂光裕, 大久保隆志, 渡邊美紀, 松本多絵, 小川俊一: 186. 第40回日本小児循環器学会, 2004. 7.
- 59) 浅野 健, 蔡 靈芝, 海津聖彦, 早川 潤, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: ドキソルピシン耐性白血病で強発現しているMRP1のインドメサシンによる発現調整の検討. 第66回日本血液学会・第46回日本臨床血液学会, 2004. 9.
- 60) 今井大洋, 安藝 薫, 羽鳥誉之, 濱田久光, 桑原健太郎, 浅野 健, 藤野 修: BCG接種後に腋下リンパ節腫脹が持続し, その自壊後膿瘍より結核菌が検出された1例. 第169回日本小児科学会千葉地方会・第1091回千葉医学会分科会, 2004. 9.
- 61) 浅野 健, 蔡 靈芝, 早川 潤, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: ドキソルピシン耐性白血病細胞で強発現しているMuluti Drug Resistant Related Protein 1(MRP1)のインドメタシンによる発現調節の検討. 第66回日本血液学会, 2004. 9.
- 62) 桑原健太郎, 羽鳥誉之, 藤松真理子, 藤田武久, 高石康子, 藤野 修, 重村朋子, 石原眞木子: 解離性健忘が疑われ興味ある画像所見を示した女児例. 第41回日本小児神経学会関東地方会, 2004. 9.



- 63) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 当院における新生児高ビリルビン血症の原因の検討. 第270回日本小児科学会神奈川県  
地方会, 2004. 9.
- 64) 重松淑子<sup>1)</sup>, 藤田敦士<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 芦田光則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科学, <sup>2)</sup>勝楽堂病院小児  
科): サケの生食が原因と推定される日本海裂頭条虫症の1症例. 第523回日本小児科学会東京都地方会講和会,  
2004. 9.
- 65) 前田美穂, 野呂恵子, 川上康彦, 福永慶隆: 乳児期後期から幼児期早期の鉄欠乏性貧血における発達の検討.  
第51回日本小児保健学会, 2004. 10.
- 66) 浅野 健, 海津聖彦, 早川 潤, 濱田久光, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: エトポシド耐性白血  
病細胞におけるプロテオミクス解析による検討. 第46回日本小児血液学会, 2004. 10.
- 67) 藤田武久<sup>1)</sup>, 安藝 薫<sup>1)</sup>, 高木篤史<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 松  
岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 先行する頭痛から心身症が疑われた視神経炎の1例. 第261回川崎市小児科医  
会症例検討会, 2004. 10.
- 68) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 高木篤史<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 新生児ループス・Basedow病合併の1例. 第261回川崎市小児科医会症例検討会, 2004. 10.
- 69) 勝部康弘<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 高木篤史<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 川崎病 グロブリン治療前後でのナトリウム利尿ペプチド値と組織ドブラー心エコー図  
所見. 第261回川崎市小児科医会症例検討会, 2004. 10.
- 70) 布山裕一<sup>1)</sup>, 島 義雄, 中島瑞恵, 粟田口康一<sup>2)</sup>, 進 純郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>葛飾赤十字産院産  
婦人科): フリースタイル分娩の安全性の検討(第1報). 日赤医学会, 2004. 10.
- 71) 小林史子, 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆, 藤川 敏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学付属膠原病リウマチ痛風センター):  
Baker's cystを合併した多関節型JIAの1例. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2004. 10.
- 72) 川畑 建<sup>1, 2)</sup>, 右田 真<sup>1, 2)</sup>, 望月秀樹<sup>3)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学大学生化学第2, <sup>2)</sup>同小児科  
学, <sup>3)</sup>順天堂大学神経内科): 異染性白質ジストロフィーに対する神経幹細胞を用いた細胞遺伝子治療の検討.  
第10回日本ライソゾーム病研究会, 2004. 10.
- 73) 前田美穂, 土田昌宏<sup>1)</sup>, 菊地 陽<sup>1)</sup>, 新井 心<sup>1)</sup>, 有瀧健太郎<sup>1)</sup>, 加藤陽子<sup>1)</sup>, 小林美由紀<sup>1)</sup>, 徳山美香<sup>1)</sup>, 杉  
田憲一<sup>1)</sup>, 後藤晶子<sup>1)</sup>, 森本 克<sup>1)</sup>, 恒松由記子<sup>1)</sup>, 細谷亮太<sup>1)</sup>, 別所文夫<sup>1)</sup>, 福永慶隆(<sup>1)</sup>東京小児がん研究  
グループ): 小児白血病患者への病名告知に関する検討. 第46回日本小児血液学会総会, 2004. 11.
- 74) 海津聖彦, 前田美穂, 早川 潤, 濱田久光, 右田 真, 伊藤保彦, 浅野 健, 福永慶隆: 小児急性白血病治療  
後にみられる成長障害の検討. 第46回日本小児血液学会総会, 2004. 11.
- 75) 渡辺 誠, 前田美穂, 早川真理, 海津聖彦, 右田 真, 福永慶隆: ヒトバルボウイルスB19感染により一過性  
の汎血球減少と骨髓異形成像を呈した遺伝性球形赤血球症の1例. 2004. 11. 23 京都. 第46回日本小児血液学会  
総会, 2004. 11.
- 76) 浅野 健, 海津聖彦, 早川 潤, 濱田久光, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: エトポシド体制白血  
病細胞におけるプロテオミクス解析による検討. 第46回日本小児血液学会, 2004. 11.
- 77) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: インフルエンザ脳症に対する治療法について. 日本医科大学医学会第114回  
例会, 2004. 11.
- 78) 深澤隆治<sup>1)</sup>, 渡邊美紀<sup>2)</sup>, 池上 英<sup>2)</sup>, 内木場庸子<sup>2)</sup>, 初鹿野見春<sup>3)</sup>, 上砂光裕<sup>2)</sup>, 勝部康弘<sup>3)</sup>, 小川俊一<sup>2)</sup>, 園  
部友良<sup>4)</sup>, 濱本邦洋<sup>5)</sup>, 坂田洋一<sup>6)</sup>, 濱岡建城<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院小児科, <sup>2)</sup>同付属病院小児科,  
<sup>3)</sup>同第二病院小児科, <sup>4)</sup>日本赤十字医療センター小児科, <sup>5)</sup>福岡大学医学部小児科, <sup>6)</sup>京都府立医科大学小児  
疾患研究施設内科): Fc IIIa receptor 158V/F polymorphismと川崎病との関連性. 日本川崎病研究会, 2004. 11.
- 79) 高瀬真人: 喘息児の肺胞音スペクトル解析における背景雑音処理に関する検討. 第29回肺音(呼吸音)研究会,

2004 . 11 .

- 80) 高瀬真人, 今井丈英, 白井潤二: 喘息児の肺胞音スペクトル解析における背景雑音処理に関する検討. 第37回日本小児呼吸器疾患学会, 2004 . 11 .
- 81) 白井潤二, 今井丈英, 高瀬真人: 圧センサーによる睡眠時無呼吸モニター (SD-101) の小児適用について. 第37回日本小児呼吸器疾患学会, 2004 . 11 .
- 82) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): SLEおよび甲状腺機能亢進症を合併した母親から出生した新生児の1例. 第46回神奈川医学会小児科分科会 第271回日本小児科学会神奈川県地方会, 2004 . 11 .
- 83) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: アレルギー性鼻炎を合併する小児気管支喘息のQOL. 第54回日本アレルギー学会, 2004 . 11 .
- 84) 深澤隆治, 渡邊美紀, 内木場庸子, 池上 英, 初鹿野美春, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一: Fc IIIa receptor 158V/F polymorphismと川崎病との関連. 第24回日本川崎病研究会, 2004 . 11 .
- 85) 池上 英, 深澤隆治, 上砂光裕, 渡邊美紀, 内木場庸子, 初鹿野美春, 勝部康弘, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 小川俊一(<sup>1)</sup>外科学第2): 両側冠動脈瘤を有し, 左冠動脈CABG術に際し, 右冠動脈瘤縫縮術を施行した症例. 第15回東京川崎病研究会, 2004 . 11 .
- 86) 海津聖彦: 小児急性白血病治療後にみられる成長障害の検討. 第20回日本小児がん学会 第46回日本小児血液学会同時期開催, 2004 . 11 .
- 87) 浅井牧子<sup>1)</sup>, 春原大介<sup>2)</sup>, 高見 剛<sup>2)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>東京医科大学病院小児科): 低出生体重児における化膿性関節炎3例の経験. 第49回日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 88) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 妊婦の不規則抗体スクリーニングの有用性. 第49回日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 89) 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 三石知左子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): SKY法により4pモノソミーと4q部分トリソミーと診断した1例. 第49回日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 90) 布山裕一<sup>1)</sup>, 島 義雄, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 平岡美衣奈<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>墨東病院眼科): 定型的コロボーマを合併したCoffin-Siris症候群の1例. 日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 91) 佐藤美保<sup>2)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 安ひろみ<sup>2)</sup>, 西巻 滋<sup>2)</sup>, 横田俊平<sup>2)</sup>, 岩崎志穂, 安ひろみ, 石田史彦, 能本紀子, 藤田秀次郎, 伊藤みちる, 堀口靖子, 関 和男, 島 義雄(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>横浜市大小児科): 早産における血中サイトカイン濃度の経時的変化に関する研究 第2報: 血中soluble TNF receptor濃度の経時的変化. 日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 92) 西巻 滋<sup>2)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 佐藤美保<sup>2)</sup>, 安ひろみ<sup>2)</sup>, 横田俊平<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>横浜市大小児科): 未熟児の血中cytokine値と尿中 2-microglobulin値との相関. 日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 93) 浅井牧子<sup>1)</sup>, 島 義雄, 新藤史子<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 春原大介<sup>2)</sup>, 高見 剛<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>東京医科大学病院小児科): 低出生体重児における化膿性関節炎3例の経験. 日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 94) 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 島 義雄, 布山裕一<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): SKY法により4pモノソミーと4q部分トリソミーと診断した1例. 日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 95) 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 島 義雄, 浅井牧子<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 岡崎任晴<sup>2)</sup>, 山高篤行<sup>2)</sup>, 宮野武<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>順天堂大学小児外科): 頭蓋内進展を伴った口腔内巨大奇形腫の1例. 日本未熟児新生児学会, 2004 . 12 .
- 96) 藤野 修, 藤田武久, 高石康子, 桑原健太郎, 羽鳥誉之, 藤松真理子, 岡田一芳, 川上康彦, 平山 恒, 小林朋子, 橋本 清: 初回無熱性発作の臨床的検討: 初回発作後の治療について第2報. 第38回日本てんかん学会,

2004 . 910 .

- 97) 小林史子, 五十嵐徹, 右田 真, 伊藤保彦, 福永慶隆: 腰背部の打撲後に腎不全と高血圧性脳症を呈した1例 . 第526回日本小児科学会東京都地方会, 2005 . 1 .
- 98) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 小児慢性疲労症候群診断基準と自己免疫性疲労症候群 . 平成16年度厚生労働科学研究費補助金「引きこもりに繋がる小児慢性疲労, 不登校の治療・予防に関する臨床的研究」班会議, 2005 . 2 .
- 99) 安藝 薫<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 先行する頭痛から心身症が疑われた視神経炎の1例 . 第272回日本小児科学会神奈川県地方会, 2005 . 2 .
- 100) 菅野華子, 水越元気<sup>1)</sup>, 永山 寛<sup>1)</sup>, 藤田有子<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 多発性脳梗塞と識別困難だった粟粒結核の1例 . 第525回日本内科学会関東地方会, 2005 . 3 .

(7) ポスター発表 :

- 1) Fujimura J<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup>, Mizuno H<sup>2)</sup>, Fukunaga Y, Suzuki H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pharmacology, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery): Neurogenic Differentiation of Adipose-derived Stem Cell Isolated from GFP Transgenic Mice . 4th Asia Pacific Symposium on Neural Regeneration (Osaka), 2004 . 12 .
- 2) 岸 恵, 川本聖郎, 稲葉八興, 大木由加志: 1か月健診で発見された先天性副腎低形成 (AHC) の1例 . 第38回日本小児内分泌学会, 2004 . 9 .
- 3) 藤村樹里<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 福永慶隆, 鈴木秀典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>形成外科学, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪組織由来間葉系幹細胞の神経系細胞への分化誘導 . 第4回日本再生医療学会総会, 2005 . 3 .
- 4) 小川 令<sup>1)</sup>, 埴 秀樹<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>2)</sup>, 倉井年行<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 脂肪組織由来間葉系幹細胞と骨髄由来間葉系幹細胞の比較検討 . 第4回日本再生医療学会総会, 2005 . 3 .

## 7. 放射線医学講座

### [ 付属病院放射線科 ]

#### 研究概要

一般撮影部門では、フラットパネルを用いたデジタルマンモグラフィーや下肢静脈造影の診断精度向上の研究が行われ一定の評価が得られた。

CT部門では、マルチディテクターCTを使用した非侵襲的な3次元CTアンギオグラフィーや脳血流検査が行われ、虚血性心疾患の冠動脈狭窄や大動脈疾患の病態評価、急性脳梗塞の状態評価について検討され、その臨床的有用性が広く認識されるに至っている。

MRI部門では、脂肪抑制を併用したsteady state法が開発され、体幹部や四肢の血管撮像法の画質向上がなされ、高速撮像法を用いた肥大型心筋症治療後の心機能および形態評価も行われている。また肝特異性造影剤を用いた肝腫瘍性病変の診断能の向上についても検討されている。

超音波部門では、高精度の超音波診断が浸透し、下肢静脈瘤や深部静脈血栓症の病態についても研究され臨床への寄与が進んでいる。

血管造影・IVR部門では、肺塞栓症や深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法やCTガイド下経皮的肺生検が引き続き行われており研究成果をあげている。骨盤内悪性腫瘍に対する閉鎖循環下高濃度抗癌剤治療の臨床応用も進んでおり、また他施設との共同研究も開始されている。

核医学部門では、心電図同期心筋SPECTを用いた心筋viability評価や虚血性心疾患の病態解析に関する研究がすすんでいる。また脳血流の定位定量的解析法としてS. E. E. 法やe-ZIS法が開発され、広く全国に普及し認知されるに至った。この方法を用いて脳変性疾患に対する研究がすすんでいる。

放射線治療部門では、頭頸部腫瘍の放射線治療の皮膚障害軽減についての検討がなされている。またヨウ素125密封小線源を用いた早期前立腺癌に対する小線源永久挿入療法の安全性についても検討が行われている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1)原著：

- 1) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, <sup>2)</sup> First Department of Internal Medicine, Coronary Care Unit. ): Manual Aspiration Thrombectomy with a Standard PTCA Guiding Catheter for Treatment of Acute Massive Pulmonary Thromboembolism. . Radiation Medicine 2004 ; 22 ( 3 ): 168-172 .
- 2) Hayashi H, Onozawa S, Kumazaki T, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Non-invasive Detection and Assessment of Coronary Artery Disease with Multidetector-row Computed Tomography. . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ): 128-129 .
- 3) Hayashi H, Kawamata H, Ichikawa K, Tajima H, Kumazaki T : Rupture of a thoracic aortic aneurysm : a rare adverse reaction following systemic tissue plasminogen activator infusion. . Heart Vessels 2004 ; 19 ( 4 ): 208-211 .
- 4) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Komada Y<sup>1)</sup>, Niggemann P<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine I, Coronary Care Unit. ): Hybrid Treatment of Acute Massive Pul-

monary Thromboembolism : Mechanical Fragmentation with a Modified Rotating Pigtail Catheter, Local Fibrinolytic Therapy, and Clot Aspiration Followed Systemic Fibrinolytic Therapy . American Journal of Roentgenology 2004 ; 183 ( 3 ) : 589-595 .

- 5) Amano Y , Takayama M<sup>1)</sup>, Takahama K , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of Internal Medicine I ) : Delayed hyper-enhancement of myocardium in hypertrophic cardiomyopathy with asymmetrical septal hypertrophy : comparison with global and regional cardiac MR imaging appearances. . J Magn Reson Imaging 2004 ; 20 ( 4 ) : 595-600 .
- 6) Murata S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Rabie Abdul Aziz Mohamad<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology ) : Temporary occlusion of two hepatic veins for chemoembolization of hepatocellular carcinoma with arteriohepatic vein shunts . AJR 2005 ; 184 ( 2 ) : 415-417 .
- 7) Machida T , Kameyama K , Onda M , Naito Z , Kumazaki T : Characteristic localization denatured high-density lipoprotein ( HDL ) at the periphery of a lipid core in human atherosclerotic lesions . Pathology 2005 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ) : 大血管・末梢血管造影検査 : 侵襲的診断法から低侵襲的診断法へ . Vascular Lab 2004 ; 1 ( 2 ) : 39-47 .
- 2) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ) : IVRによる治療の実際 . 臨床医 2004 ; 30 ( 3 ) : 344-346 .
- 3) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 田中哲治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup>集中治療室・内科学第1 ) : カテーテル血管内治療の効用と限界 . ICUとCCU 2004 ; 28 ( 3 ) : 181-184 .
- 4) 林 宏光 : 三次元CTの可能性を追求する . 朝日新聞 2004 ; 10 : 26 .
- 5) 高木 亮 , 佐藤英尊 , 寺本 明<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>脳神経外科 ) : 脳循環代謝測定の臨床的再評価 CT灌流画像 . CLINICAL NEUROSCIENCE 2004 ; 22 ( 4 ) : 423-425 .
- 6) 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ) : Multidetector - rowCTによる大動脈解離の診断 . Heart View 2004 ; 8 ( 5 ) : 19-25 .
- 7) 林 宏光 , 田島廣之 , 隈崎達夫 : 末梢血管 ; 3D-CT . CLINICIAN 2004 ; 528 : 121-128 .
- 8) 林 宏光 , 高木 亮 , 町田 稔 , 高浜克也 , 天野真紀 , 貝津俊英 , 松田 亮 , 日高史貴 , 栗林茂彦 , 吉原尚志 , 小野沢志郎 , 桑子智之 , 桐山智成 , 箱崎謙太 , 隈崎達夫 : 大動脈の正常解剖と大動脈疾患の診断 . 臨床画像 2004 ; 20 : 322-336 .
- 9) 村田 智 , 田島廣之 , 福永 毅 , 隈崎達夫 : 胆道・肝・脾の出血 . 日本腹部救急医学会雑誌 2004 ; 24 ( 5 ) : 869-873 .
- 10) 村田 智 , 田島廣之 , 隈崎達夫 , 阿部 豊 , 小野沢志郎 , 小野 等<sup>1)</sup>, 日下生玄<sup>2)</sup>, 木全亮二<sup>3)</sup>, 近藤幸尋<sup>3)</sup>, 高崎秀明<sup>4)</sup>, 大井良之<sup>5)</sup>, 佐竹光夫<sup>6)</sup>( <sup>1)</sup>日本医科大学ME部 , <sup>2)</sup>東京大学胃食道外科 , <sup>3)</sup>日本医科大学泌尿器科学 , <sup>4)</sup>同外科学第1 , <sup>5)</sup>日本大学歯学部麻酔科 , <sup>6)</sup>国立がんセンター中央病院放射線科 ) : 抗癌剤灌流療法の基礎研究と臨床応用 . 映像情報 . Medical 2004 ; 36 ( 7 ) : 630-634 .
- 11) 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ) : Multidetector - rowCTによる胸部大動脈瘤の画像診断 . CARDIAC PRACTICE 2004 ; 15 ( 3 ) : 41-46 .
- 12) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ) : PCPS用ガイドワイヤーの切断 Retrieval of a cut guidewire for PCPS ( Percutaneous Caldiopulmonary Support ) . Jpn J Intervent Radiol 2004 ; 19 ( 3 ) : 233 .
- 13) 高木 亮 : CT perfusion ; 脳循環測定とその適応 . 脳循環代謝 2004 ; 16 : 241-252 .

- 14) 水村 直, 石原眞木子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): EBMに基づく核医学の選択. II脳核医学. CT, MRI画像との融合. INNERVISION 2004; 19(8): 71-75.
- 15) 松田 亮<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 静脈造影による深部静脈血栓症の診断. 骨・関節・靭帯 2004; 17(8): 883-887.
- 16) 田島廣之<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 土屋眞一<sup>4)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>病理学第2, <sup>4)</sup>附属病院病理部): 小型肺癌の画像診断と細胞・組織診断. 日本醫事新報 2004; 4198: 53-56.
- 17) 宮下次廣<sup>1,3,4)</sup>, 清水一雄<sup>2,3,4)</sup>, 足立好司<sup>1,3)</sup>, 荒牧琢己<sup>3,4)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup>, 壇 和夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>総合試験実行委員会, <sup>2)</sup>共用試験CBT委員会, <sup>3)</sup>教育推進室, <sup>4)</sup>教育委員会): 共用試験CBTとの比較による第4学年総合試験の評価. 医学教育 2004; 35(5): 331-336.
- 18) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 救急疾患におけるIVR; 骨盤損傷. 救急医学 2004; 28(12): 1361-1364.
- 19) 林 宏光<sup>1)</sup>, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 館野展之<sup>1)</sup>, 貝津俊英<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): Multidetector - row CTによる肺血栓塞栓症の画像診断. 脈管学 2004; 44(11): 754-759.
- 20) 天野康雄, 織内 昇<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>群馬大学画像核医学, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第3): 特集: 悪性リンパ腫のすべて 総論/6診断 血液・腫瘍科. 画像診断 2004; 49(suppl 4): 320-325.
- 21) 林 宏光, 吉原尚志, 栗林茂彦, 日高史貴, 館野展之, 貝津俊英, 高濱克也, 高木 亮, 田島廣之, 隈崎達夫: Multidetector-row CTによる肺血栓塞栓症の画像診断. 脈管学 2004; 44: 754-760.
- 22) 林 宏光, 隈崎達夫: CTAとMRAによる閉塞性動脈硬化症の低侵襲的画像診断. 血栓と循環 2004; 12: 270-274.
- 23) 趙 圭一, 汲田伸一郎: III心機能評価 3. 核医学検査の適応を中心に. INNERVISION 2004; 5: 46-48.
- 24) 高木 亮, 隈崎達夫: 画像診断の進歩: 最先端のモダリティを用いた新しい画像診断学の現状: CT perfusion. カレントセラピー 2005; 23(2): 87.
- 25) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 急性肺塞栓症のIVRによる治療. 臨床外科 2005; 60(3): 339-342.
- 26) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 臨床応用の実際: 動脈造影. Vascular Lab 血管検査マニュアル 2005; 2: 147-153.
- (3) 序説:
- 1) 田島廣之: 良・悪性境界病変の画像診断. 臨床画像 2004; 20(12): 15.
- (4) 序説:
- 1) 隈崎達夫: 脳加齢現象における形態・機能診断の最前線. 臨床画像 2004; 20(8): 5.
- (5) 追加分研究報告書:
- 1) 天野康雄, 高濱克也, 天野真紀, 古川一博, 隈崎達夫, 野崎 敦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>GE横河メディカルシステム): 脂肪抑制併用3D FIESTAを用いた造影MR門脈撮影. Annual Research News Report - GEYMS共同研究年報 2004; 2003(9): 41-42.
- (6) 臨床および実験報告:
- 1) Hayashi H, Machida M, Furukawa K, Kumazaki T: Interaction Between Iopamidol and Gadopentetate Dimeglumine; An in - vitro Experimental study of Direct Mixing. J Nippon Med Sch 2004; 71(2): 120-125.

## 著書

- 1) 隈崎達夫：〔監修〕マルチスライスCT進化論．日本シェーリング（隈崎達夫〔監修〕），2004；pp1-163，日本シェーリング．
- 2) 隈崎達夫，福田国彦<sup>1)</sup>，山下康行<sup>2)</sup>，林 宏光（<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学放射線科，<sup>2)</sup>熊本大学医学部医学薬学学部放射線診断部門）：〔監修〕マルチスライスCT進化論：マルチスライスCTの進化によりもたらされるもの．マルチスライスCT進化論．日本シェーリング，2004；pp1-12，日本シェーリング．
- 3) 高木 亮，林 宏光，佐藤英尊，箱崎謙太，日高史貴，吉原尚志，隈崎達夫：〔分担〕超急性期脳梗塞．マルチスライスCT進化論．脳CT Perfusion（隈崎達夫 監修），2004；pp45-47，日本シェーリング．
- 4) 高木 亮，林 宏光，佐藤英尊，箱崎謙太，日高史貴，吉原尚志，隈崎達夫：〔分担〕脳血管攣縮の診断と経過観察．脳CT Perfusion（隈崎達夫 監修），2004；pp50-53，日本シェーリング．
- 5) 林 宏光，高木 亮，高濱克也，町田 稔，内山菜智子，隈崎達夫：〔分担〕大血管：胸部及び腹部大動脈瘤．マルチスライスCT進化論（隈崎達夫 監修），2004；pp91-95，日本シェーリング．
- 6) 林 宏光，高木 亮，高濱克也，町田 稔，内山菜智子，隈崎達夫：〔分担〕大血管：高安病．マルチスライスCT進化論（隈崎達夫 監修），2004；pp96-99，日本シェーリング．
- 7) 隈崎達夫，土屋眞一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院病理部）：〔分担〕小病変へのアプローチ 肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関．小病変へのアプローチ 肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一〔監修〕），2004；pp1-93，学際企画．
- 8) 田島廣之，川本雅司<sup>1)</sup>，福成信博<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1，<sup>2)</sup>伊藤病院外科 画像診断部）：〔分担〕小病変へのアプローチ 肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関．小病変へのアプローチ 肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp1-93，学際企画．
- 9) 田島廣之，鈴木孝司<sup>1)</sup>，中澤 賢，福永 毅，市川和雄（<sup>1)</sup>けいゆう病院放射線科）：〔分担〕肺；総論 CTガイド下経皮的肺生検・細胞診（CTNB）の実際．小病変へのアプローチ 肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp10-18，学際企画．
- 10) 田島廣之，松原美幸<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1）：〔分担〕肺；各論 GGO主体の病変：AAH．小病変へのアプローチ肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp24-25，学際企画．
- 11) 田島廣之，松原美幸<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1）：〔分担〕肺；各論 GGOを伴う病変：野口のType B．小病変へのアプローチ肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp30-31，学際企画．
- 12) 田島廣之，松原美幸<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1）：〔分担〕肺；各論 GGOを伴う病変：野口のType C．小病変へのアプローチ肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp36-37，学際企画．
- 13) 田島廣之，川本雅司<sup>1)</sup>，松原美幸<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第1，<sup>2)</sup>付属病院病理部）：〔分担〕肺；各論 小型結節性病変：野口のType F．小病変へのアプローチ肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp42-43，学際企画．
- 14) 田島廣之，松原美幸<sup>1)</sup>，恩田宗彦<sup>2)</sup>，川本雅司<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2，<sup>3)</sup>病理学第1）：〔分担〕肺；各論 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変：扁平上皮癌．小病変へのアプローチ肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関，2004；pp46-47，学際企画．
- 15) 田島廣之，松原美幸<sup>1)</sup>，恩田宗彦<sup>2)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2，<sup>3)</sup>病理学第1）：〔分担〕肺；各論 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変：転移性肺腫瘍．小病変へのアプローチ肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp52-53，学際企画．
- 16) 田島廣之，松原美幸<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，阿部 豊（<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1）：〔分担〕肺；各論 小型肺

腺癌と鑑別を要する結節性病変：過誤腫とクリプトコッカス症．小病変へのアプローチ肺と甲状腺：生検のコツと画像・組織・細胞診の相関（隈崎達夫，土屋眞一 監修），2004；pp54-55，学際企画．

- 17) 宮下次廣，館野 温：〔分担〕良性疾患；1 良性疾患総論．放射線治療計画ガイドライン2004（日本放射線科専門医会・医会，日本放射線腫瘍学会，日本医学放射線学会 編），2004；pp201-202，メディカル教育研究社．
  - 18) 宮下次廣，館野 温：〔分担〕良性疾患；2 甲状腺眼症．放射線治療計画ガイドライン2004（日本放射線科専門医会・医会，日本放射線腫瘍学会，日本医学放射線学会 編），2004；pp203-204，メディカル教育研究社．
  - 19) 宮下次廣，館野 温：〔分担〕良性疾患；3 ケロイド．放射線治療計画ガイドライン2004（日本放射線科専門医会・医会，日本放射線腫瘍学会，日本医学放射線学会 編），2004；pp205-206，メディカル教育研究社．
  - 20) 宮下次廣，館野 温：〔分担〕良性疾患；4 血管腫．放射線治療計画ガイドライン2004（日本放射線科専門医会・医会，日本放射線腫瘍学会，日本医学放射線学会 編），2004；pp207-208，メディカル教育研究社．
  - 21) 市川和雄：〔監修〕X 章放射線科．医師国家試験のためのレビューブックマイナー for medical 第1版（市川和雄），2004；pp2-31，メディックメディア．
  - 22) 趙 圭一，汲田伸一郎：〔分担〕7章gate SPECT について-1 撮影条件．心臓核医学コンプリートマニュアル（西村重敬，小林秀樹編），2004；pp132-133，メジカルビュー社．
  - 23) 趙 圭一，汲田伸一郎：〔分担〕7章gate SPECT について-1 再構成時の条件について．心臓核医学コンプリートマニュアル（西村重敬，小林秀樹編），2004；pp134-135，メジカルビュー社．
  - 24) 趙 圭一，汲田伸一郎：〔分担〕7章gate SPECT について-1 QGS表示および解釈の注意．心臓核医学コンプリートマニュアル（西村重敬，小林秀樹編），2004；pp136-137，メジカルビュー社．
  - 25) 隈崎達夫：〔分担〕DVD；放射線技師の為のCT 検査とその実際：肝臓の検査を中心に．アイデジタルメディア制作（隈崎達夫 監修），2004；アイデジタルメディア制作．
  - 26) 汲田伸一郎：〔自著〕心筋SPECTの原理と方法．心筋SPECTの原理と方法（西村恒彦，西村重敬編），2004；メジカルセンス．
  - 27) 汲田伸一郎：〔分担〕冠インターベンション後のRI イメージング．症例から学ぶACC/AHA/ASNCの心臓核医学ガイドライン（中田智明，近森大志郎 編），2004；メジカルセンス．
  - 28) 趙 圭一：〔分担〕C-1 特定の患者集団 女性．症例から学ぶACC/AHA/ASNCの心臓核医学ガイドライン（中田智明，近森大志郎 編），2004；メジカルセンス．
  - 29) 汲田伸一郎：〔自著〕心筋シンチグラフィ；正常例と集積機序．心臓核医学アトラス（矢崎義雄 監修），2004；メジカルセンス．
  - 30) 林 宏光，隈崎達夫：〔分担〕CT．腎臓ナビゲーター（浦 信行，柏原直樹，熊谷裕生，竹内和久 編集），2004；pp155-167，メディカルレビュー．
  - 31) 林 宏光，隈崎達夫：〔分担〕日本医科大学付属病院放射線科．医者がすすめる専門病院東京都版（中村康夫編修），2004；p562，ライフ企画．
- (1) DVD：
- 1) 林 宏光，隈崎達夫：循環器最前線．マルチスライスCTによる心臓・循環器の画像診断，2004；電通サドラー・アンド・ヘネシー．
  - 2) 隈崎達夫，森 克彦<sup>1)</sup>，林 宏光，栗林茂彦，町田和夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院放射線科技師室）：放射線技師のためのCT 検査とその実際：肝臓の検査を中心に．放射線技師のためのCT 検査とその実際：肝臓の検査を中心に，2004；アイデジタルメディア．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Hayashi H, Kumazaki T：Current status of CT angiography with multidetector-row CT．VCT Luminary Forum (Milwaukee)，2004．11．



- 2) 隈崎達夫：Silk：This attractive and miracle world．Progress in Radiology，2004．9．
  - 3) 隈崎達夫：IVR 進化論 21：医療環境の条件に触れて．第 60 回日本放射線技術学会総会，2004．4．
  - 4) 村田 智：過去 4 年間の NIPP の治療成績と今後，新たに臨床応用される灌流療法について．第 1 回閉鎖循環下灌流療法研究会，2004．4．
  - 5) 阿部 豊：ブタモデルを用いた骨盤内抗がん剤灌流療法（NIPP）の基礎的研究．第 1 回閉鎖循環下灌流療法研究会，2004．4．
  - 6) 田島廣之：胸部 X 線診断の実際：具体例を中心に．第 1 回小石川胸部レントゲン症例検討会，2004．5．
  - 7) 隈崎達夫：進化論と夢と放射線医学と：放射線医の昆虫好きが高じて．名古屋放射線夏季セミナー，2004．7．
  - 8) 隈崎達夫：放射線医学と進化論と夢と：放射線医の昆虫好きが昂じて．第 20 回いばらぎ臨床画像研究会，2004．7．
  - 9) 汲田伸一郎：心臓核医学の将来展望；新治療に対する核医学診断の可能性．第 42 回 北陸循環器核医学研究会，2004．7．
  - 10) 趙 圭一：心不全モデル動物を用いた MIBI-WO の検証．カーディオライト WO 研究会，2004．7．
  - 11) 林 宏光：診断中から見た急性大動脈解離の画像診断：CT の有用性とその限界．第 1 回若手県急性大動脈解離研究会，2004．8．
  - 12) 田島廣之：急性肺血栓症に対する IVR．第 72 回日本医科大学医学会総会，2004．9．
  - 13) 田島廣之：胸部 X 線診断の実際：肺がん症例を中心に．第 2 回小石川胸部レントゲン症例検討会，2004．9．
  - 14) 林 宏光：MDCT による低侵襲的脈管診断；良好な CTA を得るために．MDCT 研究会，2004．9．
  - 15) 水村 直：SEE プログラムの実践的使用と脳虚血評価のためのカスタマイズ（SEE - JET）．第 9 回福井県脳機能画像カンファレンス，2004．9．
  - 16) 隈崎達夫：IVR による閉鎖循環灌流療法の基礎と臨床：進行がんの治療法として認知された場合．第 7 回多摩外科がんフォーラム，2004．10．
  - 17) 田島廣之：胸部 X 線診断の実際：具体例を中心に．文京胸部レントゲン症例検討会，2004．10．
  - 18) 隈崎達夫：難治性疾患に対する血管内治療を中心として．日本医科大学同窓会茨城県支部総会，2004．11．
  - 19) 水村 直：eZIS の開発と臨床応用．第 12 回 21 世紀脳循環代謝カンファレンス，2004．11．
  - 20) 田島廣之：胸部 X 線写真読影の実際．北区医師会 21 世紀の会，2004．11．
  - 21) 田島廣之：最近の肺血栓症の診断と治療．豊島区医師会胸部読影斑研修会，2004．11．
  - 22) 汲田伸一郎：再生医療と核医学検査．第 62 回日本核医学会関東甲信越地方会，2005．1．
  - 23) 水村 直：脳血流 SPECT の臨床有用性：脳卒中と痴呆を中心に．脳血流 SPECT 講演会，2005．1．
  - 24) 汲田伸一郎：臨床に即した心臓核医学．第 9 回浜松心臓核医学セミナー，2005．3．
- (2) 教育講演：
- 1) 田島廣之：肺塞栓症の画像診断：Interventional Radiology．第 63 回日本医学放射線学会総会，2004．4．
  - 2) 林 宏光：大動脈の画像診断と IVR；MDCT による診断．第 63 回日本医学放射線学会総会，2004．4．
  - 3) 高木 亮：脳の CT perfusion；現状から今後の将来展望．茨城 MD-CT 研究会，2004．9．
  - 4) 高木 亮：脳血管障害における CT perfusion の位置づけ．東京 MRI カンファレンス，2004．9．
  - 5) 汲田伸一郎：核医学：心臓；臨床に即した心臓核医学．第 40 回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2004．10．
  - 6) 林 宏光：マルチスライス CT による低侵襲的脈管診断；何がどこまでわかるのか．第 2 回信州脈管セミナー，2004．10．
  - 7) 高木 亮：脳神経：脳出血・脳梗塞．第 40 回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2004．10．
  - 8) 汲田伸一郎：Gated SPECT における各種ソフトウェアの特徴．第 44 回日本核医学会総会，2004．11．
- (3) シンポジウム：
- 1) 村上隆介：Clinical evaluation of isoosmolar contrast media in angiography：With Special Reference to its Effect on Renal Function．第 63 回日本医学放射線学会総会，2004．4．

- 2) 林 宏光, 高木 亮, 高濱克也, 貝津俊英, 清水康弘, 栗林茂彦, 日高史貴, 吉原尚志, 佐藤英尊, 隈崎達夫: マルチスライスCTによる大動脈疾患の画像診断. 第18回日本心臓血管内視鏡学会, 2004. 10.
- 3) 保坂純郎<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>2)</sup>, 山内任紫<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>外科学第2): 下肢静脈瘤に対する治療戦略: collaborationと血管内治療. 第45回日本脈管学会総会, 2004. 10.
- 4) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>3)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>集中治療室): 急性肺血栓塞栓症の治療: 現状と展望カテーテル治療. 第11回肺塞栓症研究会・学術集会, 2004. 11.
- 5) 宮下次廣: 臨床医学教育の発展と課題: 臨床医学教育改革の実際. 早稲田大学臨床法学教育研究所: 臨床教育の効用と課題. 法学と医学の比較検討, 2004. 12.
- (4) パネルディスカッション:
- 1) 水村 直: eZIS ( easy Z - score Imaging System ): データベース共有化と施設間画像格差補正. 第44回日本核医学会総会, 2004. 11.
- (5) セミナー:
- 1) 田島廣之, 川本雅司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): 我々は何を見ているのか?: ビギナーのための画像診断と細胞診; 肺・小型肺癌の画像診断と細胞診. 第63回日本医学放射線学会総会, 2004. 4.
- 2) 高木 亮: 多列検出器型CTを用いた脳のCT灌流画像. 第45回日本神経病理学会総会, 2004. 5.
- 3) 水村 直: SEE JETの原理と臨床応用: その汎用性と自在性. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- (6) ワークショップ:
- 1) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 貝津俊英<sup>1)</sup>, 館野展之<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): マルチスライスCTの進化に伴う循環器・脈管疾患の画像診断の進歩. 第45回日本脈管学会総会, 2004. 10.
- 2) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>2)</sup>, 清水昭夫<sup>3)</sup>, 林 宏光<sup>4)</sup>, 田島廣之<sup>4)</sup>, 隈崎達夫<sup>4)</sup>, 森山紀之<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンターがん予防・検診センター, <sup>2)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>3)</sup>創価大学工学部, <sup>4)</sup>日本医科大学放射線科ハイテクリサーチセンター): 血管新生, 細胞増殖に関わる変性IV型コラーゲンと光感受性物質の会合: 微弱光照射による病態の評価と誘導制御の基礎研究. 第45回日本脈管学会総会, 2004. 10.
- 3) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>内科学第1): 急性肺血栓塞栓症に対するカテーテル治療. 第45回日本脈管学会総会, 2004. 10.
- 4) 林 宏光, 隈崎達夫: マルチスライスCTによる冠動脈のCTA. 第2回九州循環器画像研究会, 2004. 11.
- (7) 一般講演:
- 1) 宮下次廣, 館野 温, 栗林茂彦, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 神代勝敏<sup>2)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>形成外科, <sup>2)</sup>付属病院放射線技師室): 耳ケロイド術後照射線量減量の試み. 日本放射線腫瘍学会第17回学術大会, 2004. 11.
- 2) Amano Y, Takahama K, Nozaki A<sup>1)</sup>, Kumazaki T(<sup>1)</sup>GEYMS): Contrast-enhanced MR venography of the trunk and legs using three-dimensional Fat-saturated balanced steady-state free precession imaging. 90th annual meeting of RSNA ( Chicago ( IL )), 2004. 11.
- 3) Amano Y, Kumazaki T: Artificial delayed hyper-intensity on contrast-enhanced inversion-recovery gradient-echo cardiac magnetic resonance imaging. 90th annual meeting of RSNA ( Chicago ( IL )), 2004. 11.
- 4) Takagi R, Sato H, Hayashi H, Hidaka F, Kumazaki T: Head/Neck CT angiographies and CT perfusion in the assessment of patients with carotid occlusion. 17th European Congress of Radiology, 2005. 3.
- 5) Tajima H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Ichikawa K<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Watari J<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>1)</sup>, Nakahara M<sup>1)</sup>, Hosaka J<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>2)</sup>, Shinji Y<sup>2)</sup>, Fukasawa H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Depart-

- ment of Radiology, Nippon Medical School. Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School ,  
<sup>2)</sup> TOSHIMA Medical Center ): Peripheral lung cancer ; Screening and detection with low dose spiral CT :  
TOSHIMA trial . 5th Symposium of Scandinavia Japan Radiological Society , 2004 . 9 .
- 6) Murata S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>2)</sup>, Kimata R<sup>3)</sup>  
( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology , <sup>2)</sup> Department of Surgery I , <sup>3)</sup> De-  
partment of Urology ): The Negative - balanced Isolated Pelvic Perfusion for Advanced Pelvic Malignan-  
cies ; A pilot study . 5th Symposium of Scandinavia Japan Radiological Society , 2004 . 9 .
- 7) Onozawa S<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> De-  
partment of Radiology, Center for Advanced Medical Technology ): Management of the Pancreaticoduodenal  
Artery Aneurysms ; Results of superselective transcatheter embolization . 5th Symposium of Scandinavia  
Japan Radiological Society , 2004 . 9 .
- 8) Nakazawa K<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Ichikawa K<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Ya-  
mamoto T<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technol-  
ogy , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine I ): Acute massive pulmonary thromboembolism ; Distal emboliza-  
tion owing to mechanical fragmentation with a modified rotating pigtail catheter . 5th Symposium of Scan-  
dinavia Japan Radiological Society , 2004 . 9 .
- 9) Hosaka J<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Matsuda R<sup>1)</sup>, Hidaka F<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Center for  
Advanced Medical Technology ): In vivo assessment of endovascular laser treatment of the vein . 5th Sym-  
posium of Scandinavia Japan Radiological Society . , 2004 . 9 .
- 10) Matsuda R<sup>1)</sup>, Hosaka J<sup>1)</sup>, Hidaka F<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Center for Advanced  
Medical Technology ): Analysis of hemodynamics in venous insufficiency : in vitro and clinical study . 5th  
Symposium of Scandinavia Japan Radiological Society , 2004 . 9 .
- 11) Takagi R , Sato H , Hayashi H , Tajima H , Kumazaki T : The utility of head/neck CT angiography and CT  
perfusion in the assessment of patients with carotid occlusion . 5th Symposium of Scandinavia Japan Radio-  
logical Society , 2004 . 9 .
- 12) 阿部 豊<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科ハイテ  
クリサーチセンター ): 大動脈周囲リンパ節転移に対する大動脈主要分枝閉塞下抗癌剤灌流療法の基礎実験 . 第  
63回日本医学放射線学会総会 , 2004 . 4 .
- 13) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓  
治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup> 内科学第1 ): 急性肺血栓塞栓症に対する IVR :  
特に治療効果と血行動態の変化について . 第63回日本医学放射線学会総会 , 2004 . 4 .
- 14) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科ハイ  
テクリサーチセンター ): エタノール回収下腎塞栓療法における基礎実験 . 第63回日本医学放射線学会総会 ,  
2004 . 4 .
- 15) 水村 直 , 汲田伸一郎 , 趙 圭一 , 石原眞木子<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 福嶋善光 , 秋山一義 , 隈崎達夫  
( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科 , <sup>2)</sup> 多摩永山病院放射線科 ): アルツハイマー型痴呆における統計処理画像異常分布  
についての経時的変化の定位定量的評価 . 第63回日本医学放射線学会総会 , 2004 . 4 .
- 16) 福嶋善光 , 汲田伸一郎 , 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 趙 圭一 , 中條秀信<sup>2)</sup>, 吉原尚志 , 水村 直 , 秋山一義 , 隈崎達夫  
( <sup>1)</sup> 多摩永山病院放射線科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科 ): 心筋SPECTを用いた急性心筋梗塞発症に関する検討 .  
第63回日本医学放射線学会総会 , 2004 . 4 .
- 17) 福永 毅<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 王 健<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 倉持正  
志<sup>2)</sup>, 倉持憲明<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学放射線科ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup> 日立総合病院放射線科 , <sup>3)</sup> 国立東

京災害医療センター放射線科): 腓十二指腸動脈瘤に対する塞栓術: その可能性. 第63回日本医学放射線学会総会, 2004. 4.

- 18) 松田 亮<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 下肢静脈瘤患者における静脈弁部逆流の定量的評価. 第63回日本医学放射線学会総会, 2004. 4.
- 19) 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): IVRライブ: 骨盤内進行がんはどこまで治せるか. 第63回日本医学放射線学会総会, 2004. 4.
- 20) 福永 毅<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 多発骨折による出血性ショックに対しIVRが奏効した1例. 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 2004. 5.
- 21) 保坂純郎<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 血管内レーザー照射による静脈閉塞法 (EVLT) のin vivoにおける評価. 第24回日本静脈学会総会, 2004. 6.
- 22) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>内科学第1): 急性肺血栓塞栓症に対する血栓破砕療法に伴う遠隔塞栓について. 第24回日本静脈学会総会, 2004. 6.
- 23) 箱崎謙太, 高濱克也, 桐山智成, 清水康弘, 隈崎達夫: 多発性骨病変を契機に発見された副甲状腺腺腫の1例. 第425回日本医学放射線学会関東地方会, 2004. 6.
- 24) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): コイル塞栓術が有効であった背側腓動脈瘤の1例. 第10回日本血管内治療学会総会, 2004. 6.
- 25) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 多発外傷に伴う顔面損傷に対し動脈塞栓術が有効であった1例. 第16回関東IVR研究会, 2004. 7.
- 26) 宮下次廣, 足立好司<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>, 荒牧琢己<sup>3)</sup>, 志村俊郎<sup>4)</sup>, 壇 和夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup>同外科学第2, <sup>3)</sup>文化学園健康管理センター, <sup>4)</sup>日本医科大学教育推進室, <sup>5)</sup>同内科学第3): 共用試験CBTトライアルと学内総合試験の成績相関: 日本医科大学における2年間の経験. 第36回日本医学教育学会総会, 2004. 7.
- 27) 桑子智之, 水村 直, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 福嶋善光, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 脳血流SPECTにおける血流低下範囲の視覚的把握と変化量評価; Stereotactic Extraction Estimation プログラムExtent Map の作成. 第72回日本医科大学医学学会総会, 2004. 9.
- 28) 松田 亮: 下肢静脈弁不全における静脈血流動態の超音波装置による解析. 第32回千駄木脈管カンファレンス, 2004. 9.
- 29) 保坂純郎: 下肢静脈瘤に対するEndovenous Laser Treatment (EVLT): 動物実験による評価と臨床応用. 第32回千駄木脈管カンファレンス, 2004. 9.
- 30) 佐藤英尊, 高木 亮, 桐山智成, 箱崎謙太, 田島廣之, 隈崎達夫, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 鈍的外傷による小腸単独損傷の1例. 第14回救急放射線研究会, 2004. 10.
- 31) 水村 直, 新井平伊<sup>1)</sup>, 飯塚友道<sup>2)</sup>, 黄田常嘉<sup>1)</sup>, 館野 周<sup>3)</sup>, 長尾毅彦<sup>4)</sup>, 根本清貴<sup>5)</sup>, 本間 昭<sup>6)</sup>, 松田博史<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学メンタルヘルス科, <sup>2)</sup>複十字病院神経内科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院精神神経科, <sup>4)</sup>都立荏原病院神経内科, <sup>5)</sup>筑波大学精神神経科, <sup>6)</sup>東京都老人総合研究所精神医学, <sup>7)</sup>埼玉医科大学国際医療センター): eZISを用いたアルツハイマー型痴呆症例の多施設間共有データ解析. 第44回日本核医学会総会, 2004. 11.
- 32) 水村 直, 中川原讓二<sup>1)</sup>, 高橋正昭<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 石原眞木子<sup>3)</sup>, 中條秀信<sup>3)</sup>, 鳥羽正浩<sup>4)</sup>, 秋山一義, 福嶋善光, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>中村記念病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線科, <sup>4)</sup>同多摩永山病院放射線科): 血行力学的脳虚血評価の脳血管支配域テンプレート. 第44回日本核医学会総会, 2004. 11.

- 33) 桑子智之, 水村 直, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 福嶋善光, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): SEE Extent Map : 病変領域範囲の視覚的把握と変化量評価 . 第44回日本核医学会総会, 2004 . 11 .
- 34) 趙 圭一, 汲田伸一郎, 清野精彦<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 秋山一義, 鳥羽正浩<sup>3)</sup>, 水村 直, 隈崎達夫, 黒澤裕之<sup>4)</sup>, 櫻井和久<sup>4)</sup>, 長谷川秀昭<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>4)</sup>DRL ): アドリアマイシン心不全ラットにおける Tc - 99m MIBI および I - 125 Annexin V 心筋集積の検討 . 第44回日本核医学会総会, 2004 . 11 .
- 35) 館野 温, 宮下次廣, 栗林茂彦, 神代勝敏<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科技師室 ): バリウム粘土による全身照射用肺補償フィルタ . 日本放射線腫瘍学会第17回学術大会, 2004 . 11 .
- 36) 栗林茂彦, 宮下次廣, 館野 温, 神代勝敏<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科技師室, <sup>2)</sup>同耳鼻咽喉科 ): T2声門癌の超音波による描出 . 日本放射線腫瘍学会第17回学術大会, 2004 . 11 .
- 37) 宮下次廣, 館野 温, 栗林茂彦, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 神代勝敏<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>付属病院放射線科技師室 ): 耳ケロイド術後照射線量減量の試み . 日本放射線腫瘍学会第17回学術大会 . 2004 . 11 .
- 38) 日高史貴, 保坂純郎, 田島廣之, 小野澤志郎, 隈崎達夫 : 下肢静脈瘤の最新治療法 : Endovenous Laser Treatment ( EVLT ) の初期治療成績 . 日本医科大学医学会第114回例会, 2004 . 11 .
- 39) 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 中澤 賢, 福永毅, 隈崎達夫, 長田祐二<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第3 ): 著名な A-P shunt を伴う HCC に対する IVR . 第38回千駄木肝カンファレンス, 2004 . 12 .
- 40) 桐山智成, 高濱克也, 松田 亮, 村上隆介, 日高史貴, 高木 亮, 天野康雄, 林 宏光, 隈崎達夫 : Zollinger - Ellison 症候群を呈した肝ガストリノーマの1例 . 第426回日本医学放射線学会関東地方会, 2004 . 12 .
- 41) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>集中治療室, <sup>3)</sup>内科学第1 ): 久型下大静脈フィルターの適応と管理 . 第7回日本栓子検出と治療学会, 2004 . 12 .
- 42) 林 宏光<sup>1)</sup>, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 貝津俊英<sup>1)</sup>, 館野展之<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ): MDCT による Adamkiewicz 動脈の診断 ; 動脈早期相・後期相の二相撮像法の有用性について . 第10回三次元CT・MRI研究会, 2005 . 2 .
- 43) 吉原尚志<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 貝津俊英<sup>1)</sup>, 館野展之<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ): MDCT angiography により低侵襲的に診断し得た遺残坐骨動脈の1例 . 第10回三次元CT・MRI研究会, 2005 . 2 .
- 44) 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 隈崎達夫 : 選択的 TACE 困難な HCC に対するマイクロスフェア併用 TACE . 第39回千駄木肝カンファレンス, 2005 . 2 .
- 45) 村田 智, 田島廣之, 福永 毅, 小野澤志郎, 隈崎達夫, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1 ): 脾動脈瘤破裂に対する超選択的動脈塞栓術の有用性 ; 11例における検討 . 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .
- 46) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター ): 血管塞栓術が有用であった外傷性肝動脈損傷の1例 . 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .
- (8) 学会会長講演 :
- 1) 隈崎達夫 : 第63回日本医学放射線学会総会大会長 . 2004 . 4 .

## [ 第二病院放射線科 ]

### 研究概要

#### 放射線診断学：

1. 呼吸器疾患に対し、気管支鏡を用いたBAL、肺生検を施行し、画像診断の向上に力を注いでいる。肺切除病理標本とCT画像の比較検討から、詳細な画像所見の分析を試みている。
2. 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし、結核、癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている。肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している。
3. 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において潰瘍形成の背景となる攻撃因子（胃分泌機能）および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する。いわゆる Functional Radiology に目標をおき、また *H. Pylori* の胃の胃粘膜変化についても研究中である。
4. 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し、より効率の良い、より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である。
5. MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用、乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる。また、高分解能MRIによる膵の微小病変の描出、2次膵管描出の研究、dynamic MRIによる結節性肺病変の質的診断について研究中である。

#### Interventional Radiology：

1. 悪性胆道閉塞患者に対し、減黄およびQOL向上を目的とし、ステント挿入および放射線治療を施行している。さらにこの分野での研究に取り組んでいる。
2. 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術、経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる。

#### 放射線治療学：

1. 肺癌に対して、放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。

#### 核医学：

1. 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。
2. 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 佐藤雅史：肺野の異常：無気肺（特集 胸部単純X線診断をきわめる）。画像診断 2004；24（4）：442-456。
- 2) 松島秀和<sup>1)</sup>、高柳 昇<sup>2)</sup>、佐藤雅史（<sup>1)</sup>さいたま赤十字病院内科、<sup>2)</sup>埼玉県立循環器・呼吸器病センター呼吸器内科）：レジオネラ感染症。臨床画像 2004；20（5）：568-576。
- 3) 佐藤雅史：多発性空洞性および嚢胞性病変。呼吸 2004；23（6）：469-474。
- 4) 三角茂樹<sup>1)</sup>、庄司友和<sup>1)</sup>、佐藤雅史（<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学付属病院放射線科）：胸部単純X線撮影：正常解剖と読影のコツ。Medicina 2004；41（12）：50-60。

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 佐藤雅史：肺結核（リフレッシュャーコース：胸部1）。第40回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2004。10。
- 2) 佐藤雅史：フィルムリーディング・セッション。胸部放射線研究会，2004。10。

##### (2) 一般講演：

- 1) Yamada T, Sato M：The usefulness of the chest CT examination in the person who contracted tuberculous

Patient : Negative on the chest X-P but positive on the PPD test cases . Thoracic Imaging 2004 The 2nd Joint Meeting of Korean & Japanese Societies of Thoracic Radiology ( Awajishima, Japan ), 2004 . 6 .

- 2) Takahashi N<sup>1)</sup>, Yamamoto A, Iwahara S<sup>1)</sup>, Takenaga K<sup>1)</sup>, Yamada T, Amitani K<sup>1)</sup>, Yamaguchi T<sup>1)</sup>, Hoshino K<sup>1)</sup>, Uchida T<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School Second Hospital): A Novel Program “ cardioGRAF ” of Gated-SPECT for Regional Systolic-diastolic Assesment : The Predictors for Cardiac Events in Patients with Non-ischemic CHF . 第69回日本循環器学会総会, 2005 . 3 .
- 3) 鶴田晴子, 林 敏彦<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 大石妙枝<sup>3)</sup>, 石川亮宏<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>横須賀市立うわまち病院放射線科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院放射線科, <sup>3)</sup>島津メディカルシステムズ東日本(株)技術推進部, <sup>4)</sup>(株)島津製作所医用機器事業部): T2強調画像と水抑制T2強調画像の同時収集法(FASCINATE法)による頭部病変検出能の検討 . 第63回日本医学放射線学会総会, 2004 . 4 .
- 4) 山本 彰, 椎葉真人, 阿部和也, 奥山孝男, 金城忠志, 鶴田晴子, 山田丈士, 梶原景子, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 心電図同期SPECTを用いた左室機能解析ソフトfAnaの基礎的検討: 心プールシンチとの比較 . 第63回日本医学放射線学会総会, 2004 . 4 .
- 5) 山田丈士, 椎葉真人, 奥山孝男, 阿部和也, 金城忠志, 鶴田晴子, 梶原景子, 山本 彰, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): Rapid Eyeの有用性と問題点 . 第63回日本医学放射線学会総会, 2004 . 4 .
- 6) 黒瀬厚成, 宮田周司, 高橋 徹, 林 敏彦<sup>1)</sup>, 鶴田晴子, 大石妙枝<sup>2)</sup>, 石川亮宏<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>横須賀市立うわまち病院放射線科, <sup>2)</sup>島津メディカルシステムズ東日本(株), <sup>3)</sup>(株)島津製作所医用機器事業部): 強制反転法を用いたT2強調画像とT1強調画像同時収集法の基礎的検討 . 日本放射線技術学会第60回総会, 2004 . 4 .
- 7) 梶原景子, 石渡京子, 椎葉真人, 阿部和也, 金城忠志, 鶴田晴子, 山田丈士, 山本 彰, 佐藤雅史: PET癌検診で発見された左肺門部リンパ節発生の微小な悪性リンパ腫の1例 . 第31回胸部放射線研究会東京部会, 2004 . 6 .
- 8) 佐藤雅史: 造影剤死亡事故裁判のその後の報告 . 平成16年度神奈川県放射線医会総会, 2004 . 9 .
- 9) 石渡京子, 阿部和也, 金城忠志, 鶴田晴子, 山田丈士, 梶原景子, 山本 彰, 佐藤雅史: 直腸がん経過観察中中心不全を発生した左巨大腎動脈瘤の1例 . 平成16年度神奈川放射線医会総会, 2004 . 9 .
- 10) 黒瀬厚成, 宮田周司, 高橋 徹, 鶴田晴子, 大石妙枝<sup>1)</sup>, 石川亮宏<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>島津メディカルシステムズ東日本(株)技術推進部, <sup>2)</sup>(株)島津製作所医用技術部): 強制反転法を用いたT2強調画像とT1強調画像同時収集法の基礎的検討 . 第32回日本磁気共鳴医学会大会, 2004 . 9 .
- 11) 山本 彰, 細谷徹夫<sup>1)</sup>, 山田丈士, 鶴田晴子, 梶原景子, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第一ラジオアイソトープ, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院放射線科): 心電図同期心筋SPECTを利用した新しい左室局所収縮・拡張評価プログラムの紹介と基礎的検討 . 第44回日本核医学会総会, 2004 . 11 .
- 12) 山田丈士, 山本 彰, 高橋直人<sup>1)</sup>, 鶴田晴子, 梶原景子, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 心電図同期心筋SPECTを利用した左室局所収縮・拡張評価プログラムによる心臓超音波検査壁運動正常例の検討 . 第44回日本核医学会総会, 2004 . 11 .
- 13) 高橋直人<sup>1)</sup>, 山本 彰, 山田丈士, 内田高浩<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 岩原信一郎<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 心電図同期心筋SPECTを利用した左室局所収縮・拡張評価プログラムによる心臓超音波検査壁運動異常例の検討 . 第44回日本核医学会総会, 2004 . 11 .
- 14) 金城忠志, 佐藤雅史, 阿部和也, 山本 彰: EST-EPD Lithotripsy後に大量腸管出血をきたしIVRにて救命しえた1例 . 第426回日本医学放射線学会関東地方会, 2004 . 12 .

## [ 多摩永山病院放射線科 ]

### 研究概要

1. 非イオン性造影剤の腎機能におよぼす影響について検討を継続している .
2. コンピュータを活用した医用画像処理の研究を続けている .
3. 悪性腫瘍に対する IVR による集学的治療 , 救急患者のカテーテル治療について研究を行っている .
4. 婦人科 , 整形外科領域における MRI 診断について研究 , 検討が行われている .
5. CT , MRI を用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている .
6. CT における経静脈造影の至適タイミング , 方法について研究を行っている .
7. CT による心疾患の診断について研究を行っている .

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Nanasato M<sup>1)</sup>, Chikamori T<sup>1)</sup>, Fujita H<sup>1)</sup>, Toba M, Nishimura T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiac fatty acid metabolism SPECT imaging study group): Risk stratification of future cardiac events using <sup>123</sup>I-BMIPP SPECT in patients with known or suspected coronary artery disease . Journal of Nuclear Cardiology 2004 ; 11 (4): S31-S31 .
- 2) Toba M, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, <sup>2)</sup>First Dept. of Internal Medicine): Usefulness of gated myocardial perfusion SPECT imaging soon after exercise to identify postexercise stunning in patients with single-vessel coronary artery disease . Journal of Nuclear Cardiology 2004 ; 11 (6): 697-703 .
- 3) 小林由子, 鳥羽正浩, 中原 圓, 玉井 仁, 市川太郎, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 國重浩二<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 帝王切開創部癒痕妊娠の2例: 緊急 MRI の有用性 . 腹部画像診断アトラス 2004 ; IX : 68-69 .

##### (2) 綜説 :

- 1) 小林由子, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 市川太郎, 三田俊二<sup>2)</sup>, 中井章人<sup>2)</sup>, 越野立夫<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>4)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup>付属病院女性診療科・産科, <sup>4)</sup>多摩永山病院病理部): 良・悪性境界病変の画像診断 . 女性骨盤 : 疾患概念と画像診断 . 臨床画像 2004 ; 20 (12): 1440-1447 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演 :

- 1) Nakahara M, Ichikawa T, Tajima H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School Hospital): Usefulness of high b-value DWI to detect acute cerebral infarction . Progress in Radiology 2004 ( Yamagata ), 2004 . 9 .
- 2) 玉井 仁, 市川太郎, 小林由子, 中原 圓, 鳥羽正浩, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 多検出器 CT 用フリースラウザの開発 . 第63回日本医学放射線学会総会, 2004 . 4 .
- 3) 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>2)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): アルツハイマー痴呆症における統計処理画像異常分布について経時的変化の定位定量的評価 . 第63回日本医学放射線学会総会, 2004 . 4 .
- 4) 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 隈崎



達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科,<sup>2</sup>千葉北総病院放射線科): 心筋SPECTを用いた急性心筋梗塞発症に関する検討. 第63回日本放射線学会総会, 2004. 4.

5) 水村 直<sup>1)</sup>, 中川原譲二<sup>2)</sup>, 高橋正昭<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>4)</sup>, 中條秀信<sup>4)</sup>, 鳥羽正浩, 秋山一義<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学付属病院放射線科,<sup>2</sup>中村記念病院脳神経外科,<sup>3</sup>同放射線科,<sup>4</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線科): 血行力学的脳虚血評価の脳血管支配域テンプレート. 第44回日本核医学総会, 2004. 11.

6) 桑子智之<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>2)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 鳥羽正浩, 秋山一義<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科,<sup>2</sup>千葉北総病院放射線科): SEE Extent Map病変領域範囲の視覚的把握と変化量評価. 第44回日本核医学総会, 2004. 11.

## [ 千葉北総病院放射線科 ]

### 研究概要

血管造影・IVR部門では, 閉塞性動脈硬化症, 深部静脈血栓症などをはじめとする大血管・末梢血管疾患の画像診断およびIVRに関する研究を行っている. 悪性腫瘍に対する動脈塞栓療法, 救急分野での止血治療, 透析シャント狭窄などのIVR治療も数多く手がけており, 良好な成績を得ている.

MRI分野では, 放射線治療を行う脳腫瘍症例や, 精神・神経疾患における拡散テンソル解析を用いた白質評価の研究を行っている. 今回は, 神経膠腫症例において, マージンを2cmとする従来の治療体積の決定法の妥当性を検討した. 結論として, テンソル解析を用いた白質評価において, 従来の体積決定法の妥当性が示された. MRI分野では, その他にシークエンスの研究などを行っている.

一般撮影部門では, FCRの新しい画像処理技術を応用して, 画質の劣化を最小限に保った上で, 線量の軽減を図る研究を行っている. これにより, 腹部・骨盤・脊椎などでは線量を1/3から1/5に軽減することができるようになった. 特に, 脊椎側弯症の全脊椎撮影では, 1/20程度の線量でも診断可能な画像を得ることができるようになった.

婦人科系悪性腫瘍において, 画像所見と病理所見との比較検討研究を引き続き行っている. 今回は, 粘液性嚢胞腺腫に石灰化が高頻度に合併することを新たに見いだして, 論文に報告した.

消化管や乳腺の腫瘍症例の画像診断につき, 外科および病理とのカンファランスを通じて検討している.

救急放射線症例につき, 救命救急部とのカンファランスを通じて検討している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

1) Okada S, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Inoue K, Kawamura T<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>3)</sup>, Kato T<sup>4)</sup>, Kumazaki T<sup>5)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部,<sup>2</sup>同女性診療科・産科,<sup>3</sup>帝京大学放射線科,<sup>4</sup>癌研付属病院婦人科,<sup>5</sup>日本医科大学付属病院放射線科): Calcifications in mucinous and serous cystic ovarian tumors. J Nippon Med Sch 2005; 72(1): 29-33.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

1) 南 和文<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 中嶋隆夫<sup>1)</sup>, 江川廣長<sup>1)</sup>, 斉藤 善<sup>1)</sup>, 岡田 進(<sup>1</sup>千葉北総病院整形外科,<sup>2</sup>付属病院整形外科): 相撲回しが腰椎運動に及ぼす効果. 第30回日本整形外科スポーツ医学会, 2004. 3.

2) 井上幸平, 川俣博志, 木島鉄仁, 石原真木子, 中條秀信, 小倉順子, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科): Multidetector CT venography を用いた深部静脈血栓症の抽出能. 第63回日本医学放射線学会総会,

2004 . 4 .

- 3) 井上幸平, 岡田 進, 中條秀信, 小倉順子, 木島鉄仁, 石原眞木子, 川俣博志, 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 横隔膜を下方に圧排し, 腹部を中心に存在したsolitary fibrous tumor の1例. 第425回日本医学放射線学会関東地方会, 2004 . 6 .
- 4) 南 和文<sup>1)</sup>, 深井靖雄<sup>1)</sup>, 江川慶長<sup>1)</sup>, 岡田 進, 伊藤博治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院整形外科, <sup>2)</sup>付属病院整形外科): クーラッキングフィンガーにおけるキャビテーション現象の画像学的検討. 第53回東日本整形災害外科学会, 2004 . 9 .
- 5) 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 岡田 進, 大秋美治<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院外科学第1): 腋窩リンパ節転移にて発症, 経過観察中に原発巣が明らかとなった乳腺アポクリン癌の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 6) 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 岩瀬龍之<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>2)</sup>, 井上幸平(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup>新丸子校舎): 空港クリニックにおけるエックス線検査. 第50回宇宙環境医学会総会, 2004 . 11 .
- 7) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 岡田 進(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): ワークショップ・術中迅速細胞診に今求められていること. 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004 . 11 .
- 8) 石原眞木子, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 木島鉄仁, 中條秀信, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 相馬 努<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科, <sup>2)</sup>第一ラジオアイソトープ): 浸潤性脳腫瘍における放射線治療支援: IT-201CISPECT と拡散テンソル画像のimage fusionによる同時3D評価. 第44回日本核医学会総会, 2004 . 11 .
- 9) 桑子智之, 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 石原眞木子, 中條秀信, 羽鳥正浩<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 福島義光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): SEE Extent Map-病変領域範囲の視覚的把握と変化量評価. 第44回日本核医学会総会, 2004 . 11 .
- 10) 川俣博志, 井上幸平, 木島鉄仁, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 腸骨動脈の慢性完全閉塞を含む多発病変に関して血管内治療を施行し, 遠位塞栓, 急性血栓閉塞, 動脈穿孔の多重合併症を来した1例. 第1回末梢血管画像・血管内治療研究会, 2004 . 11 .
- 11) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 結城聖子<sup>1)</sup>, 仲田佳広<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 中村亜矢<sup>1)</sup>, 富里謙一<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田進(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室): 頭部MRA: Magnetization Transfer Contrast併用時における血液通過時間と最適Flip Angleについて. 第31回千葉MR研究会, 2005 . 2 .
- 12) 結城聖子<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 中田佳広<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 中村亜矢<sup>1)</sup>, 富里謙一<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田進(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室): T1強調型Flair法における頭部画像コントラスト. 第31回千葉MR研究会, 2005 . 2 .

## 8. 皮膚科学講座

[ 付属病院皮膚科・多摩永山病院皮膚科・千葉北総病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
  - ・免疫担当細胞におよぼすCRHの作用メカニズム.
  - ・CRHがおよぼす毛周期への影響.
  - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
  - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮質抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
  - ・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメラーゼ活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
  - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamic therapyの基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発
  - ・skin optics, selective photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
  - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
  - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表皮遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科
  - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転移 conufertransference などを利用して行う心身医学的治療戦略.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Iwakiri K, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Takemura T<sup>2)</sup>, Takezaki S, Kawana S, Yasuoka S<sup>3)</sup>, Kawanami O<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Surgical Pathology, Nippon Red Cross Center Hospital, <sup>3)</sup> Department of Nursing, School of Medical Sciences, University of Tokushima, <sup>4)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School ): Human airway trypsin-like protease induces PAR-2-mediated IL-8 release in psoriasis vulgaris. J Invest Dermatol 2004; 122 (4): 937-944.

- 2) Mitsuishi T , Shimoda T , Mitsui Y<sup>1)</sup> , Kuriyama Y<sup>1)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup>Japan Natural Laboratory Co Ltd ): The Effects of topical application of phytonadione, retinol and vitamins C and E on infraorbital dark circles and wrinkles of the lower eyelids . J Cos Dermatol 2004 ; 3 ( 2 ): 73-75 .
- 3) Kato T , Omi T , Naito Z<sup>1)</sup> , Hirai T<sup>2)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup>Department of Pathology, <sup>2)</sup>Department of Plastic Surgery ): Histological hair removal study by ruby or alexandrite laser with comparative study on the effects of wavelength and fluence . J Cosmet Laser Ther 2004 ; 6 ( 1 ): 32-37 .
- 4) Yamaoka J , Kawana S , Miyachi Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Dermatology, Kyoto University, Graduate School of Medicine ): Nitric oxide inhibits ultraviolet B-induced murine keratinocyte apoptosis by regulating apoptotic signaling cascades . Free Radic Res 2004 ; 38 ( 9 ): 943-950 .
- 5) Omi T , Bjerring P<sup>1)</sup> , Sato S<sup>2)</sup> , Hankins RW<sup>3)</sup> , Honda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Dermatology, Aarhus University , <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Third Diagnostic Division, Health Sciences Research Institute ): 420nm intense continuous light therapy for acne . J Cosmet Laser Ther 2004 ; 6 ( 3 ): 156-162 .
- 6) Mitsuishi T , Yamada O<sup>1)</sup> , Nakatake M<sup>1)</sup> , Kaneko T<sup>2)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup>Medical Research Institute, Tokyo Women's Medical University , <sup>2)</sup>Department of Dermatology, Fraternity Memorial Hospital ): Molluscum contagiosum and telomere . Br Med J 2005 ; 電子版 .
- 7) Hirano F<sup>1)</sup> , Kaneko K , Tamura H<sup>1, 2)</sup> , Dong H<sup>1)</sup> , Wang S<sup>3)</sup> , Ichikawa M<sup>3, 4)</sup> , Rietz C<sup>3)</sup> , Flies DB<sup>3)</sup> , Lau JS<sup>1)</sup> , Zhu G<sup>3)</sup> , Tamada K<sup>3)</sup> , Chen L<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Immunology, Mayo Clinic , <sup>2)</sup>Third Department of Internal Medicine , Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Department of Immunology, Mayo Clinic, The Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center at Johns Hopkins , <sup>4)</sup>Department of Gynecology , Nippon Medical School ): Blockade of B7-H1 and PD-1 by monoclonal antibodies potentiates cancer therapeutic immunity . Cancer Res 2005 ; 65 ( 3 ): 1089-1096 .
- 8) 野呂佐知子 , 二神綾子 , 川名誠司 : 頭部に発症した Plaque-like osteoma cutis の 1 例 . 日皮会誌 2004 ; 114 ( 8 ): 1421-1426 .
- 9) 堺 則康 , 青木見佳子 , 弓削真由美 , 川名誠司 : 成人・中年者及び高齢者のアナフィラクトイド紫斑の特徴 : 日本医科大学皮膚科学教室におけるアナフィラクトイド紫斑 40 例の臨床的検討から . 西日皮膚 2004 ; 66 ( 4 ): 395-400 .
- 10) 安本美奈子<sup>1)</sup> , 佐々木りか子<sup>1)</sup> , 中村恭子<sup>1)</sup> , 金子 剛<sup>2)</sup> , 小沼徳恵<sup>3)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup>国立成育医療センター第 2 専門診療部皮膚科 , <sup>2)</sup>国立成育医療センター第 2 専門診療部形成外科 , <sup>3)</sup>同看護部 ): 当センターにおける小児の褥瘡および創傷の発生状況と対策 . 日小皮会誌 2004 ; 23 ( 2 ): 243-246 .
- 11) 富山 幹<sup>1)</sup> , 川久保恵<sup>1)</sup> , 山形健治<sup>1)</sup> , 青木見佳子<sup>1)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup>第二病院皮膚科 ): トラニラスト内服とステロイド外用の併用療法が有効であった汎発性光沢苔癬の 1 例 . 日小皮誌 2004 ; 23 ( 2 ): 133-135 .
- 12) 河野美乃里<sup>1)</sup> , 堺 則康<sup>1)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科 ): low grade myxofibrosarcoma . 皮膚病診療 2004 ; 26 ( 12 ): 1533-1536 .
- 13) 井村 純<sup>1)</sup> , 蜂須賀淳子 , 坂本篤裕<sup>2)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科 , <sup>2)</sup>付属病院麻酔科 ): 肢端紅痛症 . 皮膚病診療 2005 ; 27 ( 1 ): 27-30 .
- 14) 伊吾田慎一<sup>1)</sup> , 東 直行 , 菅野淳子<sup>2)</sup> , 小野塚雅子<sup>2)</sup> , 天野千春<sup>2)</sup> , 笹原隆子<sup>2)</sup> , 百束比古<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科 , <sup>2)</sup>同看護部 , <sup>3)</sup>付属病院形成外科 ): 北村山公立病院の褥瘡対策 . 北村山公立病院医学雑誌 2005 ; 9 : 1-13 .
- 15) 菅野淳子<sup>1)</sup> , 矢萩さくえ<sup>1)</sup> , 伊吾田慎一<sup>2)</sup> , 東 直行 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院看護部 , <sup>2)</sup>同形成外科 ): 在宅における褥瘡予防への取り組み : 病院広報紙と講習会を通して . 北村山公立病院医学雑誌 2005 ; 9 : 14-16 .
- 16) 堺 則康 , 長澤重直<sup>1)</sup> , 木内博之<sup>2)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院消化器科 , <sup>2)</sup>同外科 ): メシル酸ガベキサート

(FOY®)による静脈炎の1例とその対策について．北村山公立病院雑誌 2005；9：24-27．

(2) 綜説：

- 1) Miyoshi N<sup>1)</sup>, Ogasawara T<sup>2)</sup>, Nakano K<sup>3)</sup>, Tachihara R, Kaneko S<sup>4)</sup>, Sano K<sup>5)</sup>, Fukuda M<sup>6)</sup>, Hisazumi H<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pathology, Fukui Medical University, <sup>2)</sup> Department of Dentistry and Oral Surgery, Fukui Medical University, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Osaka Medical School, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Kashiwaba Neurosurgery, <sup>5)</sup> Department of Dentistry and Oral Surgery, Fukui Medical University, <sup>6)</sup> Department of Pathology, Fukui Medical University, <sup>7)</sup> Department of Urology, Faculty of Medicine, Kanazawa University): In Light of Recent Developments, Application of Fluorescence Spectral Analysis in Tumor Diagnosis. Applied Spectroscopy Reviews 2004；39(4): 437-455.
- 2) 下田貴子：ニキビの原因はなんだろう？．からだの不思議 2004；1(2): 26-28.
- 3) 尾見徳彌, 奥山ます美<sup>1)</sup>, 川名誠司, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): Photorejuvenation-Non-ablative wrinkle removalの現状．日本美容皮膚科学会雑誌 2004；14(1): 6-11.
- 4) 川名誠司：側頭動脈炎．皮膚臨床 2004；46(10): 1442-1447.
- 5) 川名誠司：血管炎の診断のフローチャート．日皮会誌 2004；114(13): 2180-2188.
- 6) 尾見徳彌, 川名誠司, 本田光芳<sup>1)</sup>, 細貝幸子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): サプリメントの現状 Supplement in Japan. 皮膚と美容 2004；136(2): 12-18.

(3) 研究報告書：

- 1) Ohashi A<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Kawana S, Fukuda Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Dermatology and Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Analytic Human Pathology): Mechanism of transepithelial elimination of elastic fibers in keratoacanthoma. Pathol Int 2004；54(8): pp585-594.
- 2) 東 直行：ゼムクリップを用いたコメド圧出法．皮膚病診療 2004；26(4): pp515-516.
- 3) 木村陽一, 川名誠司：Livedo症例15例の検討．関東皮膚脈管懇話会記録集1(テーマ：リベド)2005；pp26-28.

(4) 症例報告：

- 1) Tashiro H, Arai H<sup>1)</sup>, Hashimoto T<sup>2)</sup>, Takezaki S, Kawana S(<sup>1)</sup> Division of Dermatology, the City of Yamato Hospital, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine): Pemphigoid Nodularis: Two case studies and analysis of autoantibodies before and after the Development of Generalized Blistering. J Nippon Med Sch 2005；72(1): 60-65.
- 2) Yamagata K, Mitsuishi T, Kawana S: Folliculosebaceous cystic hamartoma with hair shaft fragments. Eur J Dermatol 2005；15(2): 105-106.
- 3) 久保田智樹, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科): 葛根湯中のマオウによる播種状紅斑丘疹型薬疹の1例．日本皮膚アレルギー学会雑誌 2004；12(1): 9-13.
- 4) 落合廣武, 東 直行, 川名誠司：環状扁平苔癬．皮膚病診療 2004；26(5): 563-566.
- 5) 又吉武光, 新見やよい, 川名誠司：fibrillar IgA typeのDuhring疱疹状皮膚炎．皮膚病診療 2004；26(5): 559-562.
- 6) 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司：梅干によるアナフィラキシー．皮膚病診療 2004；26(8): 987-990.
- 7) 藤本和久, 松寄安理, 山西貴仁, 川名誠司：ワインとブドウによるアナフィラキシー．皮膚病診療 2004；26(8): 991-994.
- 8) 安本美奈子, 三石 剛, 川名誠司：Acquired Reactive Perforating Collagenosisの2例．西日皮膚 2004；66(5): 462-465.
- 9) 義澤雄介, 下田貴子, 田中紀子<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>内科学第2): Fabry病の兄弟例．臨皮 2004；58(11): 936-938.

- 10) 小坂祥子, 木村陽一, 吉野公二, 青木見佳子, 川名誠司: SLEに発症した抗リン脂質抗体症候群の1例. 臨皮 2004; 58(11): 988-990.
- 11) 東 直行, 吉野公二, 木村陽一, 青木見佳子, 北川泰之<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 川名誠司( <sup>1)</sup>付属病院整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 前腕部に巨大腫瘤を呈した悪性線維性組織球腫の1例. Skin Cancer 2004; 19(2): 224-228.
- 12) 天野彰人, 堺 則康, 義澤雄介, 川名誠司: 中枢神経ループスの1例. 皮膚臨床 2004; 46(11): 1715-1718.
- 13) 小宮暢子, 下田貴子, 山形健治<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 管 隼人<sup>2)</sup>, 岸雄一郎<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>内科学第2): 虫垂切除術を施行されたアナフィラクトイド紫斑. 皮膚臨床 2004; 46(13): 1963-1966.
- 14) 高田香織, 木村陽一, 久保田智樹, 川名誠司: 多発性単神経炎を伴ったLivedoid Vasculitisの1例. 皮膚臨床 2004; 46(13): 1977-1980.
- 15) 加藤篤衛<sup>1)</sup>, 下田貴子, 川名誠司( <sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科): 神経 Behcet病の1例. 皮膚臨床 2005; 47(1): 95-98.
- 16) 狩野律子, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>2)</sup>, 川名誠司( <sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>東京都): レボフロキサシンによるアナフィラキシーの1例. 皮膚臨床 2005; 47(1): 7-9.
- 17) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 國松淳和<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 松本亜紀<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>4)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>5)</sup>, 岸田浩<sup>6)</sup>, 山岡淳一, 功刀しのぶ<sup>4)</sup>, 根井貴仁<sup>3)</sup>, 吉村明修<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>内科学第4, <sup>4)</sup>病理学第1, <sup>5)</sup>内科学第3, <sup>6)</sup>内科学第1): 胃癌術後に嚥下障害と顔面・手指に紅斑を呈した1例. 内科 2005; 95(2): 350-361.
- 18) 井村 純<sup>1)</sup>, 東 直行, 山形健治<sup>2)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 川名誠司( <sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>第二病院皮膚科): 女子外陰部に発症した開口部プラズマ細胞症の4例: 尿道カルンクルとの関係. 皮膚臨床 2005; 47(3): 469-473.
- 19) 赤石諭史<sup>1)</sup>, 東 直行, 矢部朋子, 井村 純, 川名誠司( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): 皮疹軽快とともに血清中 RANTES, eotaxin, IL-13値の低下を認めた好酸球性膿疱性毛包炎の1例. 臨皮 2005; 59(3): 258-262.

## 著 書

- 1) 堺 則康<sup>1)</sup>, 川名誠司( <sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): [分担]「アナフィラクトイド紫斑」「下腿潰瘍」. 患者さんから浴びせられる皮膚疾患100の質問: 達人はどう答え, どう対応するか(宮地良樹), 2004; pp82-85, メディカルレビュー社.
- 2) 竹崎伸一郎: [分担] ビタミン: 特集 サプリメントの使い方・選び方: 食品編. 薬局, 2004; pp75-80, 南山堂.
- 3) 二神綾子, 川名誠司: [分担] Gianotti-Crosti syndrome (GCS). 最新皮膚科学大系 特別巻2 皮膚科症候群(玉置邦彦), 2004; pp140-141, 中山書店.
- 4) 新見やよい, 川名誠司: [分担] Henoch-Schönlein puupura. 最新皮膚科学大系 特別巻2 皮膚科症候群(玉置邦彦), 2004; pp158-159, 中山書店.
- 5) 川名誠司: [分担] アナフィラクトイド紫斑. 皮膚疾患最新の治療2003-2004(新村真人・瀧川雅浩), 2004; pp38-39, 南江堂.
- 6) 本田光芳<sup>1)</sup>, 矢島 純( <sup>1)</sup>横浜市): [共著] プライマリケアのための皮膚疾患の診かた.(本田光芳・矢島純), 2004; pp1-73, 南山堂.
- 7) 川名誠司: [分担] 慢性色素性紫斑. 皮膚疾患最新の治療2005-2006(瀧川雅浩・渡辺晋一), 2005; pp49-50, 南江堂.
- 8) 三石 剛: [分担] いぼの内服療法. Monthly Book Derma. No. 97 いぼ診療 up date(江川清文・飯島正文・塩原哲夫), 2005; pp53-62, 全日本病院出版会.

- 9) 尾見徳彌, 奥山ます美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): [共著] レーザー・ホワイトライト治療と皮膚の若返り. Beauty Science (ビューティーサイエンス学会), 2005; pp101-106, 演劇出版社.
- 10) 尾見徳彌: [分担] Herbal Therapy. 光老化皮膚 (川田 暁), 2005; pp236-252, 南山堂.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 川名誠司: 血管炎のフローチャート. 第78回富山皮膚病態治療研究会, 2004. 7.

##### (2) 招待講演:

- 1) 川名誠司: 皮膚科診療の基本. 遼寧中医学院創立50周年記念科学研究学術会議 (中国・瀋陽市), 2004. 5.
- 2) 川名誠司: 血管炎: 皮膚科医としてのみかた. 福岡皮膚科医会, 2004. 5.
- 3) 川名誠司: 症例から学ぶ血管炎の臨床. 湯島皮膚科医会, 2004. 12.

##### (3) 教育講演:

- 1) 川名誠司: 血管炎の診断のフローチャート. 第103回日皮会総会, 2004. 4.

##### (4) シンポジウム:

- 1) 立原利江子, Anderson RR<sup>1)</sup>, 川名誠司, Farinelli WA<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Wellman Laboratories of Photomedicine, Department of Dermatology, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School): Low intensity light-induced vasodilation. 第25回日本レーザー治療学会総会, 2004. 7.
- 2) 立原利江子: Smooth Pulsed Lightによる色素性病変と血管性病変の治療. 第25回日本レーザー治療学会総会, 2004. 7.
- 3) 立原利江子, 落合廣武, 加藤篤衛, 川名誠司: Spectrophotometerによる老人性色素斑治療前の色の評価の有用性. 第25回日本レーザー医学会総会, 2004. 11.

##### (5) パネルディスカッション:

- 1) 川久保恵<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): ゲフィチニブ(イレッサ<sup>®</sup>)による肉芽形成をともなう多発爪囲炎. 第20回日本臨床皮膚科医学会総会・臨床学術大会, 2004. 4.

##### (6) セミナー:

- 1) 立原利江子: Smooth-pulsed lightによる尋常性ざ瘡の治療. 第103回日皮会総会, 2004. 4.
- 2) 立原利江子: Smooth Pulsed Lightの挑戦: ダウンタイムのない血管病変の治療. 第47回日本形成外科学会総会・学術集会, 2004. 4.

##### (7) ワークショップ:

- 1) 川名誠司: 皮膚の肉芽腫性炎症と顔面播種状粟粒性狼瘡に対する考え方. 第77回日本ハンセン病学会総会・学術大会, 2004. 5.
- 2) 二神綾子, 稲田浩美<sup>1)</sup>, 近藤秀士<sup>2)</sup>, 三原恵里<sup>1)</sup>, 中嶋基広<sup>3)</sup>, 村上正洋<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>同栄養部, <sup>3)</sup>同薬剤部, <sup>4)</sup>同形成外科): 当院の褥瘡治療. 第2回日本褥瘡学会関東甲信越地方会・東京支部褥瘡フォーラム, 2005. 3.

##### (8) 一般講演:

- 1) Kosaka S<sup>1)</sup>, Kawana S, Zouboulis CC<sup>2)</sup>, Hasan T<sup>1)</sup>, Ortel B<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School <sup>2)</sup>Department of Dermatology, Charite University Medicine Berlin, Campus Benjamin Franklin): Targeting of Sebocytes by aminolevulinic acid-dependent photosensitization. 32nd annual meeting of American Society for Photobiology (Seattle, WA, USA), 2004. 7.
- 2) 木村陽一, 三石 剛, 菊地伊豆実, 川名誠司, 平松久弥子<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 倉根修二<sup>1)</sup>, 佐多徹太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院第四内科, <sup>2)</sup>国立感染症研究所感染病理部): AIDS関連カポジ肉腫の2例. 第103回日皮会総会, 2004. 4.

- 3) 東 直行, 伊吾田慎一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科): Annular elastolytic giant cell granulomaの1例. 日皮会山形地方会総会第326回例会, 2004. 4.
- 4) 川久保恵<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 山形健治<sup>1)</sup>, 江川ゆり<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>相鉄ビル皮膚泌尿器科医院): 口腔内に結節を形成した木村病の1例. 第103回日皮会総会, 2004. 4.
- 5) 山形健治<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): 毛包性ムチン沈着症の1例. 第103回日皮会総会, 2004. 4.
- 6) 安本美奈子<sup>1)</sup>, 佐々木りか子<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 小沼徳恵<sup>2)</sup>, 金子 剛<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立成育医療センター第二専門診療部皮膚科, <sup>2)</sup>同看護部, <sup>3)</sup>同第二専門診療部形成外科): 当センターにおける小児の褥瘡の発生状況と予防. 第28回日本小児皮膚科学会学術大会, 2004. 5.
- 7) 加藤篤衛<sup>1)</sup>, 三石 剛, 野呂佐知子, 川名誠司(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科): 酢酸リュープロレリン皮下注により生じた巨大腫瘤. 第20回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2004. 5.
- 8) 義澤雄介, 川名誠司: 市中獲得型MRSA感染症: 感染状況・抗菌薬治療・感染後nasal carriageについて. 第20回日本臨床皮膚科医学会総会・臨床学術大会, 2004. 5.
- 9) 義澤雄介, 川名誠司: 市中獲得型MRSA感染症: 感染状況・抗菌薬治療・感染後nasal carriageについて. 第28回日本小児皮膚科学会学術大会, 2004. 5.
- 10) 三石 剛, 川名誠司, 金子健彦<sup>1)</sup>, 山田 修<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>同愛記念病院皮膚科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学総合研究所): 伝染性軟属腫におけるテロメラーゼ活性の半定量的解析. 第103回日皮会総会, 2004. 5.
- 11) 新見やよい, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 早川真理<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院小児科): Congenital self-healing reticulohistiocytosisの1例. 第28回日本小児皮膚科学会学術大会, 2004. 5.
- 12) 東 直行, 川名誠司: 治療ノートをを用いた小児のアトピー性皮膚炎診療の試み. 第28回日本小児皮膚科学会学術大会, 2004. 5.
- 13) 高田香織, 川久保恵<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎, 川名誠司, 石河 晃<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>慶應義塾大学病院皮膚科): 先天性表皮水疱症の1例. 第28回日本小児皮膚科学会学術大会, 2004. 5.
- 14) 山形健治<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): 塩酸ミノサイクリンの著効した毛包性ムチン沈着症の1例. 第20回日本臨床皮膚科医学会総会・臨床学術大会, 2004. 5.
- 15) 小宮暢子, 森本健介, 二神綾子, 三石 剛, 川名誠司: 甲状腺疾患にともなうムチン沈着症の2例. 日皮会第791回東京地方会, 2004. 6.
- 16) 中田朋子, 菊地伊豆実, 狩野律子, 落合廣武, 新見やよい, 川名誠司: 2重膜濾過血漿交換療法が奏効した尋常性天疱瘡の1例. 日皮会第791回東京地方会, 2004. 6.
- 17) 富山 幹<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): 皮角を呈した外霰粒腫の1例. 日皮会第791回東京地方会, 2004. 6.
- 18) 久保田智樹, 義澤雄介, 川名誠司: Female pattern hair loss (FPHL) を呈した完全型睾丸性女性化症の1例. 日皮会第792回合同臨床地方会, 2004. 7.
- 19) 梁 再賦<sup>1)</sup>, 下田貴子, 川名誠司, 永野昌敏<sup>2)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中国医科大学実験技術中心中国瀋陽市, <sup>2)</sup>日本医科大学薬理学): ストレスによる皮膚肥満細胞活性化機序の解析. 第34回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会, 2004. 7.
- 20) 河野美乃里<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>1)</sup>, 川名誠司, 太田真琴<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>多摩市): 指端に生じたmyxofibrosarcomaの1例. 日皮会第792回合同臨床地方会, 2004. 7.
- 21) 川久保恵<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): パラ科果実と魚介類によるアレルギーの1例. 日皮会第792回合同臨床地方会, 2004. 7.
- 22) 安本美奈子, 三石 剛, 堺 則康, 菊地伊豆実, 川名誠司: 腫瘍直下に栄養血管を認め, 急速に増大したTrichilemmal carcinomaの1例. 第19回日本皮膚外科学会総会・学術集会, 2004. 8.



- 23) 矢部朋子, 菊地伊豆実, 新見やよい, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup>第二病院皮膚科): 栄養障害型先天性表皮水疱症の親子例. 第55回日皮会中部支部学術大会, 2004. 9.
- 24) 狩野律子, 義澤雄介, 川名誠司, 津久井拓<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 蕁麻疹様紅斑を契機に早期胃癌とH. pylori感染症を診断した1例. 日皮会第793回東京地方会, 2004. 9.
- 25) 富山 幹<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 久米 光<sup>(1)</sup>第二病院皮膚科): 皮膚アクチノマイコーシスの1例. 第55回日皮会中部支部学術大会, 2004. 9.
- 26) 落合廣武, 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司: 無疹部の皮膚生検で診断しえた全身性アミロイドーシスの2例. 第68回日皮会中部支部学術大会, 2004. 9.
- 27) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 東 直行, 菅野淳子<sup>2)</sup>, 矢萩きくえ<sup>2)</sup>, 笹原隆子<sup>2)</sup>, 岡 敏行<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>4)</sup>, 平本 力<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>同看護部, <sup>3)</sup>伊勢崎市民病院形成外科, <sup>4)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>5)</sup>石岡平本皮膚科(栃木県)): 地域の褥瘡対策マニュアル: 山形県北村山地区. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 28) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 東 直行, 菅野淳子<sup>2)</sup>, 矢萩きくえ<sup>2)</sup>, 笹原隆子<sup>2)</sup>, 野口敬子<sup>3)</sup>, 岡 敏行<sup>4)</sup>, 百束比古<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>同看護部, <sup>3)</sup>下館市民病院看護部, <sup>4)</sup>伊勢崎市民病院形成外科, <sup>5)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 2つの病院の褥瘡対策チームの経験. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 29) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 東 直行, 百束比古<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 岡 敏行<sup>3)</sup>, 千々和剛<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>3)</sup>伊勢崎市民病院形成外科, <sup>4)</sup>自衛隊横須賀病院形成外科): 褥瘡の手術適応と術式選択. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 30) 東 直行, 渡辺真理子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東根市): acute generalized exanthematous pustulosisの1例. 日皮会宮城, 福島, 山形三県合同地方会総会第327回例会, 2004. 9.
- 31) 荻田あづさ, 加藤篤衛, 野呂佐知子, 川名誠司: 周期性血小板減少症に生じた皮下血腫の1例. 日皮会第793回東京地方会, 2004. 9.
- 32) 二神綾子, 川名誠司: Pseudolymphomatous folliculitisの1例. 日皮会第794回東京地方会, 2004. 10.
- 33) 菊地伊豆実, 森本健介, 久米 光, 田沼弘之<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>川口市): Microsporum gypsumによるケルスス禿瘡の1例. 第68回日皮会東部支部学術大会, 2004. 10.
- 34) 森本健介, 菊地伊豆実, 久米 光, 田沼弘之<sup>1)</sup>, 小幡 進<sup>2)</sup>, 斎藤サビ - ネ京子<sup>3)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>川口市, <sup>2)</sup>北里大学付属病院細菌検査室, <sup>3)</sup>日本医科大学内科学第2): SLEに合併した皮膚クリプトコッカス症の1例. 第68回日皮会東部支部学術大会, 2004. 10.
- 35) 秋田政彦, 青木見佳子, 新見やよい, 川名誠司: 透析性水泡症の1例. 日皮会第794回東京地方会, 2004. 10.
- 36) 河野美乃里<sup>1)</sup>, 井村 純<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>1)</sup>, 秋田政彦<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): 陰嚢に生じたangioleiomyomaの1例. 日皮会第794回東京地方会, 2004. 10.
- 37) 落合廣武, 青木見佳子, 小宮暢子, 川名誠司: 無疹部からの皮膚生検にて診断に至ったアミロイドーシスの2例. 第68回日皮会東部支部学術大会, 2004. 10.
- 38) 久保田智樹, 義澤雄介, 三石 剛, 川名誠司: Cowden病の1例. 日皮会第795回東京地方会, 2004. 11.
- 39) 三石 剛, 小林里実<sup>1)</sup>, 川島 眞<sup>1)</sup>, 大原國章<sup>2)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>東京女子医科大学総合研究所, <sup>2)</sup>虎の門病院皮膚科): 口唇に生じた疣状癌におけるヒトパピロームウイルスの関与. 第56回日皮会西部支部学術大会, 2004. 11.
- 40) 新見やよい, Pawankar R<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 水疱性類天疱瘡の水疱形成におけるMMP-2, MMP-9, MMP-13の関与. 第54回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2004. 11.
- 41) 東 直行, 川名誠司: アトピー性皮膚炎患者血清中I-309/CCL1値の検討. 第54回日本アレルギー学会, 2004. 11.
- 42) 高田香織, 野呂佐知子, 菊地伊豆実, 義澤雄介, 川名誠司: 回腸に多発性潰瘍を伴ったアナフィラクトイド紫斑病の1例. 日皮会第795回東京地方会, 2004. 11.

- 43) 荻田あづさ, 竹崎伸一郎, 矢部朋子, 川名誠司: 腎移植後に発生した乳房 paget 病の1例. 日皮会第795回東京地方会, 2004. 11.
- 44) 三石 剛, 中武真由香<sup>1)</sup>, 山田 修<sup>1)</sup>, 金子健彦<sup>2)</sup>, 大原國章<sup>3)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学総合研究所, <sup>2)</sup> 同愛記念病院皮膚科, <sup>3)</sup> 虎の門病院皮膚科 ): Bowen 病および bowenoid papulosis におけるテロメラーゼ活性の半定量的解析. 日本性感染症学会第17回学術大会, 2004. 12.
- 45) 東 直行, 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 沖野哲也<sup>2)</sup>, 亀山幹彦<sup>3)</sup>, 佐伯和則<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup> 同消化器科, <sup>3)</sup> 同内科 ): アニサキスによるアナフィラキシーの1例. 日皮会山形地方会総会第328回例会, 2004. 12.
- 46) 東 直行, 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 野村浩一<sup>1)</sup>, 粉川隆行<sup>2)</sup>, 若山かおり<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup> 同耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup> 同眼科 ): シェーグレン症候群に伴った高 グロブリン血症性紫斑の1例. 日皮会山形地方会総会第328回例会, 2004. 12.
- 47) 狩野律子, 義澤雄介, 小坂素子, 中田朋子, 川名誠司, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 野島祐子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第4 ): 抗甲状腺薬チアマゾールが発症に関与したと考えられた顕微鏡的多発血管炎の1例. 第28回皮膚脈管・膠原病研究会, 2005. 1.
- 48) 中田朋子, 義澤雄介, 川名誠司: 陰部潰瘍を呈した Leriche 症候群の1例. 日皮会第797回東京地方会, 2005. 1.
- 49) 落合廣武, 新見やよい, 川名誠司: 足関節炎を伴った皮膚結節性多発動脈炎の1例. 第28回皮膚脈管懇話会・膠原病研究会, 2005. 1.
- 50) 天野彰人, 森本健介, 三石 剛, 川名誠司, 神田知洋<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 急性腹症を認めたアナフィラクトイド紫斑の1例. 日皮会第797回東京地方会, 2005. 1.
- 51) 安本美奈子, 狩野律子, 義澤雄介, 森本健介, 川名誠司: 趾端壊疽を生じた polyarteritis nodosa cutanea ( PNC ) の1例. 第68回日皮会東京支部学術大会, 2005. 2.
- 52) 久保田智樹, 川名誠司: Vasculitis allergica cutis と考える2例. 第4回関東皮膚脈管懇話会, 2005. 2.
- 53) 小坂素子, 三石 剛, 森本健介, 川名誠司: フェニトインとカルバマゼピンによる Drug-induced hypersensitivity syndrome ( DIHS ) の1例. 第68回日皮会東京支部学術大会, 2005. 2.
- 54) 東 直行, 篁 武郎<sup>1)</sup>, 石田良太<sup>2)</sup>, 尾崎大也<sup>2)</sup>, 上坂眞司<sup>2)</sup>, 亀山幹彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院麻酔科, <sup>2)</sup> 同整形外科, <sup>3)</sup> 同内科 ): ドクササコ摂取による erythromelalgia の1例. 日皮会東北六県合同地方会学術大会第329回例会, 2005. 2.
- 55) 立原利江子, 落合廣武, 加藤篤衛, 川名誠司: Smooth-pulsed light によるざ瘡の治療. 第68回日皮会東京支部学術大会, 2005. 2.
- (9) 展示:
- 1) Omi T, Kawana S, Sato S<sup>1)</sup>, Okuyama M<sup>2)</sup>, Honda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Yokohama-Shi ): Ultrastructural changes elicited by exposure to the IPL system. American Society for Laser Medicine and Surgery 24th Annual Meeting ( Dallas, Texas, USA ), 2004. 4.
- 2) Omi T, Kawana S, Sato S<sup>1)</sup>, Okuyama M<sup>2)</sup>, Honda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute For Electro Microscopic Researches, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Yokohama-Shi ): Visible red led phototherapy for skin rejuvenation. American Society for Laser Medicine and Surgery 25th Annual Meeting ( Lake Buena Vista, Florida, USA ), 2005. 3.
- 3) 鈴木かやの, 金森幸男, 高田香織, 川名誠司: 紫外線照射による接触過敏反応の抑制機序の検討: 惹起相における肥満細胞の関与について. 日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会・総会, 2004. 4.
- 4) 竹内淳子, 渡理英二<sup>1)</sup>, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 松本美佐子<sup>2)</sup>, 瀬谷 司<sup>2)</sup>, 杉田昌彦<sup>1)</sup>, 川名誠司, 高橋秀実<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学・免疫学, <sup>2)</sup> 大阪府立成人病センター ): 末梢血単球由来ランゲルハンス細胞様細胞における Toll-like receptor の発現の低下. 日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会・総会, 2004. 4.

- 5) 片山美玲, 青木恵理, 鈴木秀典<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>生理学第2 ): 間歇的フットショックストレスはマウスの第3自然毛周期における休止期を延長させる. 日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会・総会, 2004. 4.
- 6) 中田朋子, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: ヤーコン芋と大豆によるアナフィラキシーの1例. 第34回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会, 2004. 7.
- 7) 菅野淳子<sup>1)</sup>, 矢萩きくえ<sup>1)</sup>, 伊吾田慎一<sup>2)</sup>, 東 直行 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院看護部, <sup>2)</sup>同形成外科 ): 在宅における褥瘡予防への取り組み: 病院広報紙と講習会を通して. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 8) 尾見徳彌, 奥山ます美<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>横浜市 ): Light Emitting Diodes ( LED ) による non-ablative remodeling. 第22回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 2004. 10.
- 9) 井村 純<sup>1)</sup>, 秋田政彦<sup>1)</sup>, 河野美乃里<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科 ): TEN型薬疹後の色素沈着に対する治療: イオントフォレーシスを用いたビタミン導入により有意な改善をみた1例. 第22回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 2004. 10.
- 10) 中田朋子, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: ツバメの巣によるアナフィラキシーの1例. 第29回日本接触皮膚炎学会総会・学術大会, 2004. 11.
- 11) 井村 純<sup>1)</sup>, 川名誠司, 坂巻 剛<sup>2)</sup>, Loeffler H<sup>3)</sup>, Happle R<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>K. K. カネボウ化粧品, <sup>3)</sup>Department of Dermatology University of Marburg ): 日本人女性とドイツ人女性の刺激に対する皮膚の感受性. 第29回日本接触皮膚炎学会総会・学術大会, 2004. 11.
- 12) 奥山ます美<sup>1)</sup>, 尾見徳彌 ( <sup>1)</sup>横浜市 ): マッサ - ジ装置, EMS装置, 外用剤によるセルライトの軽減効果. 第23回日本臨床皮膚外科学会学術大会, 2005. 3.

## [ 第二病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断・研究.
2. センチネルリンパ節生検法の確立と応用.
3. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作, 抗原の検索.
4. 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与: gastrin releasing peptide receptor ノックアウト マウスにおける創傷治癒.
5. ケミカルピーリング, 炭酸ガスレーザーによる美容的治療.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 堺 則康<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 弓削真由美<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院皮膚科 ): 成人・中年者及び高齢者のアナフィラクトイド紫斑の特徴: 日本医科大学皮膚科学教室におけるアナフィラクトイド紫斑40例の臨床的検討から. 西日本皮膚科 2004; 66 ( 4 ): 395-400.
- 2) 富山 幹, 川久保恵, 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院皮膚科 ): トラニラスト内服とステロイド外用の併用療法が有効であった汎発性光沢苔癬の1例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2004; 23 ( 2 ): 133-135.

##### (2) 症例報告:

- 1) Yamagata K, Mitsuiishi T<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院皮膚科 ): Folliculosebaceous cystic hamartoma with hair shaft fragments. Eur J Dermatol 2005; 15 ( 2 ): 105-106.

- 2) 東 直行<sup>1)</sup>, 吉野公二<sup>1)</sup>, 木村陽一<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 北川泰之<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同整形外科, <sup>3)</sup> 病理学第2): 前腕部に巨大腫瘤を呈した悪性繊維性組織球腫の1例. *Skin Cancer* 2004 ; 19 (2) : 224-228 .
- 3) 小坂祥子<sup>1)</sup>, 木村陽一<sup>1)</sup>, 吉野公二<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): SLE に発症した抗リン脂質抗体発症群の1例. *臨床皮膚科* 2004 ; 58 (11) : 988-990 .
- 4) 小宮暢子<sup>1)</sup>, 下田貴子<sup>1)</sup>, 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 管 隼人<sup>2)</sup>, 岸雄一郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 外科学第1, <sup>3)</sup> 内科学第2): 虫垂切除術を施行されたアナフィラクトイド紫斑. *皮膚臨床* 2004 ; 46 (13) : 1963-1966 .
- 5) 井村 純<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>2)</sup>, 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科): 女子外陰部に発症した開口部プラズマ細胞症の4例: 尿道カルンクルとの関係. *皮膚臨床* 2005 ; 47 (3) : 469-473 .

## 著 書

- 1) 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): [分担] Gougerot - Blum disease . 最新皮膚科学大系 特別巻 2 皮膚科症候群 (玉置邦彦), 2004 ; p147, 中山書店 .

## 学会発表

### (1) パネルディスカッション:

- 1) 片山美玲<sup>1)</sup>, 青木恵里<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 芝崎 保<sup>3)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 皮膚科学, <sup>2)</sup> 薬理学, <sup>3)</sup> 生理学第2): 間欠的フットショックストレスはマウスの第3自然毛周期における休止期を延長させる. 日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会, 総会, 2004 . 4 .
- 2) 竹内淳子<sup>1)</sup>, 渡理英二<sup>2)</sup>, 新谷英滋<sup>2)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>, 松本美佐子<sup>3)</sup>, 瀬谷 司<sup>3)</sup>, 杉田昌彦<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学皮膚科学, <sup>2)</sup> 同微生物学・免疫学, <sup>3)</sup> 大阪府立成人病センター): 末梢血単球由来ランゲルハンス細胞様細胞における Toll-like receptor の発現の低下. 日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会, 総会, 2004 . 4 .
- 3) 川久保恵, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): ゲフィチニブ (イレッサR ) による肉芽形成をともなう多発爪囲炎の1例. 日本臨床皮膚科学会, 2004 . 4 .

### (2) 一般講演:

- 1) 川久保恵, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 山形健治, 江川ゆり<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 相鉄ビル皮膚泌尿器科医院): 口腔内に結節を形成した木村病の1例. 第103回日本皮膚科学会総会, 2004 . 4 .
- 2) 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 毛包性ムチン沈着症の1例. 第103回日本皮膚科学会総会, 2004 . 4 .
- 3) 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 塩酸ミノサイクリンの著効した毛包性ムチン沈着症の1例. 日本臨床皮膚科学会, 2004 . 4 .
- 4) 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 早川真理<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同小児科): Congenitally self-healing reticulohistiocytosis の1例. 第28回小児皮膚科学会学術大会, 2004 . 5 .
- 5) 秋田政彦, 青木見佳子, 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 透析性水疱症の1例. 第794回日本皮膚科学会, 東京地方会, 2004 . 6 .
- 6) 富山 幹, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 皮角を呈した外霰粒腫の1例. 第791回日本皮膚科学会 東京地方会, 2004 . 6 .
- 7) 高田香織, 川久保恵, 青木見佳子, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 石河 晃<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 慶應大学医学部皮膚科学): 先天性表皮水ほう症の1例. 第28回日本小児皮膚科学会総会, 2004 . 6 .

- 8) 川久保恵, 青木見佳子, 山形健治, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): パラ科果実と魚介類によるアレルギーの1例. 第792回合同臨床地方会, 2004. 7.
- 9) 矢部朋子<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): Proliferating trichilemmal cystic squamous cell carcinoma (PTCSCC) の2例. 第18回日本皮膚外科学会, 2004. 8.
- 10) 富山 幹<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 久米 光<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同付属病院皮膚科, <sup>3)</sup> 北里大学病理学教室): 皮膚アクチノマイコーシスの1例. 第55回 日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2004. 9.
- 11) 矢部朋子<sup>1)</sup>, 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 栄養障害型先天性表皮水疱症の親子例. 第55回日皮会中部支部学術大会, 2004. 9.
- 12) 落合廣武<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 無疹部の皮膚生検で診断しえた全身性アミロイドーシスの2例. 第68回日皮会中部支部学術大会, 2004. 9.
- 13) 落合廣武<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 小宮暢子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 無疹部からの皮膚生検にて診断に至ったアミロイドーシスの2例. 第68回日皮会東部支部大会, 2004. 10.

## 9. 外科学第一講座

### [ 付属病院第 1 外科 ( 消化器外科 , 乳腺外科 , 移植外科 , 一般外科 ) ]

#### 研究概要

教室では以下のテーマについて臨床的、基礎的研究を進めており、その成果を積極的に学会等に発表し、着実な評価を得ている。

1. 急性腹症の病態の解析、イレウスの新しい診断法と治療法の開発などに対し、内外で高い評価を得ている。
2. 創傷治癒、外科侵襲、外科感染症の基礎的研究を基に現在、積極的に臨床応用を行っている。
3. 腹腔鏡下手術は、その適応範囲を拡げ、胆嚢はもとより、穿孔性腹膜炎、早期胃癌、早期大腸癌、癒着性イレウス、さらに肝切除、脾摘術、早期食道癌や脾腫瘍の一部にも応用され、良好な成績を得ており、侵襲の少ない手術として評価を得ている。
4. 進行食道癌、胃癌、大腸癌および肝胆膵癌に対する手術と化学療法の組み合わせによる集学的治療、また個別化治療により、患者の延命とQOLの向上を図っている。
5. 肝硬変症、門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により、病態に応じた治療法の選択が可能となり、良好な成績をあげている。
6. 内視鏡下手術の進歩により、早期胃癌、早期大腸癌に対するEMR、また総胆管結石、膵石に対する内視鏡的摘出術、閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等、種々の内視鏡下手術に取り組んでいる。
7. ヘリコバクター・ピロリの胃炎、胃潰瘍、胃癌との関係の基礎的な研究が進められ、一部は除菌治療とともに臨床応用されている。
8. 食道癌、肝癌、膵癌に対する基礎的およびIVRを応用した臨床的研究が進められ、手術法の進歩とあいまって成績の向上が得られつつある。
9. 生体部分肝移植は小児と成人に行っているが、成人レシピエントにおける過小グラフト対策として基礎的研究や、大血管合併切除後の腹膜による再建法の基礎的研究の臨床応用を始めている。
10. 乳癌に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績をあげており、さらに進行乳癌に対する化学内分泌療法を組み合わせた治療法など、患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 追加分原著：

- 1) Takeda S<sup>1)</sup>, Kim C<sup>1)</sup>, Ikezaki H<sup>2)</sup>, Nakanishi K<sup>2)</sup>, Sakamoto A<sup>2)</sup>, Okawa K, Miyashita M, Sasajima K, Tajiri T, Tanaka K<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit and Coronary Care Unit, <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesiology ): Preoperative Administration of Methylprednisolone Attenuates Cytokine-induced Respiratory Failure After Esophageal Resection. J Nippon Med Sch 2003; 70 ( 1 ): 16-20.
- 2) Cheng S, Aimoto T, Nakamura Y, Uchida E, Tajiri T : Rapid Formation of Pancreatic Tumors by Intra-pancreatic Transplantation of a Newly Established Hamster Carcinoma Cell Line ( PGHAM-1 ) and Its Sequential Analysis. J Nippon Med Sch 2004; 71 ( 1 ): 78.
- 3) Zhang C, Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Matsukura N, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Pathology II ): Histological Evaluation of Gastrointestinal Diseases by "Fixed Triple Site Biopsy". J Nippon Med Sch 2004; 71 ( 1 ): 78.
- 4) Xing C, Kato S, Matsuda N, Matsukura N, Tajiri T : Expressions of IL-8, COX-2, TFF1 and HGF mRNA

and Their Significance in the Remnant Stomach . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ) : 78 .

- 5) 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 本城和義<sup>1)</sup>, 宋 静香<sup>1)</sup>, 瀬尾 誠<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 三橋恭子<sup>2)</sup>, 吉行俊郎, 木山輝郎 ( <sup>1)</sup> 付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 同看護部 ): 胃切除患者クリニカルパスの薬剤経済学的評価 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ) : 53-56 .
- 6) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 三橋恭子<sup>1)</sup>, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭, 長谷川幸子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 看護部 ): 胃がん治療ガイドラインの解説にそった胃手術後の食事療法の現況 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 2 ) : 183-185 .
- 7) 田尻 孝, 川野陽一, 真々田裕宏 : テクニカルレポート 私はこうしている : 門脈圧亢進症に対する塞栓術 . 日門亢会誌 2003 ; 9 ( 12 ) : 232-236 .
- 8) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 谷合信彦, 内田英二, 加藤俊二, 徳永 昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター ): 特集 : ステロイド長期投与例の腹部救急疾患の治療戦略 : ステロイド長期投与患者の腹部救急疾患の治療 . 日本腹部救急医学会雑誌 2004 ; 24 ( 3 ) : 189-194 .
- 9) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝, 山本保博<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学, <sup>2)</sup> 集中治療室 ): 劇症肝不全に対する肝移植までの治療戦略 : 生体肝移植症例の検討を中心に . 日本腹部救急医学会雑誌 2004 ; 24 ( 3 ) : 169-175 .

(2) 追加分綜説 :

- 1) 田尻 孝, 谷合信彦, 真々田裕宏 : 血行動態に即した治療法としての塞栓術 . 日門亢会誌 2003 ; 9 ( 12 ) : 218-223 .

(3) 原著 :

- 1) Yoshida H , Tajiri T , Mamada Y , Taniai N , Hirakata A , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T : Comparison of Characteristics of Recurrent Esophageal Varices after Endoscopic Ligation *versus* Endoscopic Ligation Plus Sclerotherapy . Hepato-Gastroenterol 2004 ; 51 ( 56 ) : 457-461 .
- 2) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Matsukura N , Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology II ): Topography of chronic active gastritis in *Helicobacter pylori*-positive Asian populations : age-, gender-, and endoscopic diagnosis-matched study . J Gastroenterol 2004 ; 39 ( 4 ) : 324-328 .
- 3) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>3)</sup>, Okihama Y<sup>3)</sup>, Hosone M<sup>4)</sup>, Shimizu K<sup>5)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>4)</sup> Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>5)</sup> Dept. of Surgery II ): Comparative Study between DNA Copy Number Aberrations Determined by Quantitative Microsatellite Analysis and Clinical Outcome in Patients with Stomach Cancer . Clinical Cancer Research 2004 ; 10 ( 5 ) : 3013-3019 .
- 4) Lee Y , Tokunaga A<sup>1)</sup>, Tajiri T , Masuda G , Okuda T , Fujita I , Kiyama T , Yoshiyuki T , Kato S , Matsukura N , Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gastroenterology, Second Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology ): Inflammation of the Gastric Remnant after Gastrectomy : Mucosal Erythema is Associated with Bile Reflux, and Inflammatory Cellular Infiltration is Associated with *Helicobacter Pylori* Infection . J Gastroenterol 2004 ; 39 ( 6 ) : 520-526 .
- 5) Matsukura N , Tajiri T , Kato S , Togashi A , Masuda G , Tokunaga A , Yamada N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology II ): Diagnostic value of culture, histology and PCR for *Helicobacter pylori* in the remnant stomach after surgery . Aliment Pharmacol Ther 2004 ; 20 ( Supple 1 ) : 33-38 .
- 6) Kato S , Matsukura N , Togashi A , Masuda G , Matsuda N , Yamada N<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology II , <sup>2)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital ): Sex differences in mu-

cosal response to *Helicobacter pylori* infection in the stomach and variations in interleukin-8, COX-2 and trefoil factor family 1 gene expression . Aliment Pharmacol Ther 2004 ; Supple 1 : 17-24 .

- 7) Akimaru K , Yokomuro S , Aimoto T , Yoshida H , Uchida E , Tajiri T : Tumor Marker Measurements of Cells in a Fine Needle Used for Aspiration Cytology . Analytical and Quantitative Cytology and Histology 2004 ; 26 ( 5 ): 249-254 .
- 8) Katsuta M , Miyashita M , Makino H , Nomura T , Shinji S , Yamashita K , Tajiri T , Kudo M<sup>1)</sup> , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology II ): Correlation of hypoxia inducible factor-1 with lymphatic metastasis via vascular endothelial growth factor-C in human esophageal cancer . Experimental and Molecular Pathology 2005 ; 78 ( 2 ): 123-130 .
- 9) Yamazaki S<sup>1)</sup> , Kato S , Matsukura N , Ohtani M<sup>2)</sup> , Ito Y<sup>1)</sup> , Suto H<sup>1)</sup> , Yamazaki Y<sup>2)</sup> , Yamakawa A<sup>1)</sup> , Tokudome S<sup>3)</sup> , Higashi H<sup>4)</sup> , Hatakeyama M<sup>4)</sup> , Azuma T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Dept. of Internal Medicine, Faculty of Medical Sciences, University of Fukui , <sup>2)</sup> Dept. of Endoscopic Medicine, Faculty of Medical Sciences University of Fukui , <sup>3)</sup> Dept. of Health Promotion and Preventive Medicine, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences , <sup>4)</sup> Division of Molecular Oncology, Institute for Genetic Medicine and Graduate School of Science, Hokkaido University ): Identification of *Helicobacter pylori* and the *cagA* genotype in gastric biopsies using highly sensitive real-time PCR as a new diagnostic tool . FEMS Immunology and Medical Microbiology 2005 ; 44 ( 3 ): 261-268 .
- 10) Zhang C<sup>1)</sup> , Yamada N<sup>2)</sup> , Wu YL<sup>1)</sup> , Wen M<sup>1)</sup> , Matsuhisa T<sup>3)</sup> , Matsukura N ( <sup>1)</sup> Dept. of Gastroenterology, Baogang Hospital, Shanghai Second Medical University, Shanghai, China , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology II , <sup>3)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital ): *Helicobacter pylori* infection, glandula atrophy and intestinal metaplasia in superficial gastritis, gastric erosion, erosive gastriti, gastric ulcer and early gastric cancer . World J Gastroenterol 2005 ; 11 ( 6 ): 791-796 .
- 11) Zhang C<sup>1)</sup> , Yamada N<sup>2)</sup> , Wu YL<sup>1)</sup> , Wen M<sup>1)</sup> , Matsuhisa T<sup>3)</sup> , Matsukura N ( <sup>1)</sup> Dept. of Gastroenterology, Baogang Hospital, Shanghai Second Medical University, Shanghai, Chin , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology II , <sup>3)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital ): Comparison of *Helicobacter pylori* infection and gastric mucosal histological features of gastric ulcer patients with chronic gastritis patients . World J Gastroenterol 2005 ; 11 ( 7 ): 976-981 .
- 12) Makino H , Tajiri T , Miyashita M , Sasajima K , Anbazhagan R<sup>1)</sup> , Johnston J<sup>1)</sup> , Gabrielson E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, Johns Hopkins University, School of Medicine, Baltimore, USA ): Differential expression of TCEAL1 in esophageal cancers by custom cDNA microarray analysis . Diseases of the Esophagus 2005 ; 18 ( 1 ): 37-40 .
- 13) 内田英二 , 古川清憲 , 松下 晃 , 相本隆幸 , 中村慶春 , 勝野 暁 , 張 一光 , 田尻 孝 : 重症急性膵炎における腸管および腸内細菌の意義 . 日本臨床腸内微生物学会誌 2004 ; 6 ( 1 ): 17-21 .
- 14) 鈴木英之 , 古川清憲 , 高崎秀明 , 松田明久 , 進士誠一 , 田尻 孝 , 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): 早期大腸癌の臨床病理学的検討と治療方針 . 消化器科 2004 ; 38 ( 4 ): 365-372 .
- 15) 加藤俊二 , 田尻 孝 : TREND : 経皮経食道胃管挿入術 ( PTEG ): その治療の実際 . 看護技術 2004 ; 50 ( 6 ): 483-486 .
- 16) 横室茂樹 , 有馬保生 , 水口義昭 , 清水哲也 , 川東 豊 , 田尻 孝 : マウス正常肝内胆管上皮細胞培養の確立 . 胆道 2004 ; 18 ( 2 ): 193-197 .
- 17) 加藤俊二 , 松倉則夫 , 内藤善哉<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): *H. pylori*陰性胃癌 . 臨床消化器内科 2004 ; 19 ( 5 ): 559-563 .
- 18) 古川恵子 , 秋山 太<sup>1)</sup> , 霞富士雄<sup>2)</sup> , 田尻 孝 , 坂元吾偉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 癌研究会癌研究所乳腺病理部 , <sup>2)</sup> 癌研究会附属



- 病院乳腺外科): 乳癌のホルモンレセプター測定におけるEIA法とIHC法の一貫率と問題点. 日臨外会誌 2004; 65(5): 1161-1166.
- 19) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 山下精彦: 結腸癌におけるリンパ節転移個数と予後との関係. 日臨外会誌 2004; 65(5): 1171-1176.
- 20) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 谷合信彦, 内田英二, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 特定機能病院等における包括評価について. J Nippon Med Sch 2004; 71(3): 217-220.
- 21) 古川清憲, 小川 龍<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>微生物学・免疫学): 新しい手術時手指消毒法: ブラッシングから手揉み洗いへ. J Nippon Med Sch 2004; 71(3): 190-197.
- 22) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 谷合信彦, 内田英二, 加藤俊二, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃切除術後自由摂食パスの効果. 外科と代謝・栄養 2004; 38(4): 93-100.
- 23) 鶴田宏之, 田尻 孝, 鈴木英之, 高崎秀明, 古川清憲: 特集 最近のイレウス診療を知る: まれなイレウスの診断と治療. 成人病と生活習慣病 2004; 34(8): 1164-1169.
- 24) 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 図解: 炎症性サイトカインプロモーター遺伝子多型の解析法. Helicobacter Research 2004; 8(4): 291-294.
- 25) 田尻 孝: 門脈圧亢進症と部分的脾動脈塞栓術(PSE). 日門圧会誌 2004; 10(10): 61-62.
- 26) 秋丸琥甫, 森山雄吉, 松田範子, 田尻 孝: 障害肝切除後肝再生に対するHBOの意義: 臨床と動物実験. J Japan Society of Hyperbaric Medicine in Kanto 2004; 3(2): 32-35.
- 27) 横室茂樹, 有馬保生, 水口義昭, 田尻 孝: 特集: 膵胆道疾患の内視鏡的治療法: 閉塞性黄疸の病態とドレナージ. Mebio 2004; 21(10): 56-61.
- 28) 宮下正夫, 柏原 元, 田尻 孝: 特集 Surviving Sepsis Campaign Guidelines を巡って: Steroid を巡って. ICUとCCU 2004; 28(10): 831-833.
- 29) 鶴田宏之, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 菅 隼人, 鈴木英之, 田中 周<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 特集: 外科医必携 最新の画像診断: II. 各論 8. 小腸疾患(イレウス). 外科 2004; 66(12): 1473-1477.
- 30) 宮下正夫, 高橋 健, 田尻 孝: 感染と遺伝子多型. Surgical Trauma & Immunological Responses 2004; 13(2/3): 17-21.
- 31) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 鈴木達也<sup>1)</sup>, 大庭建三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人科): 特集 糖尿病患者に対する外科治療: 膵臓手術における糖尿病患者管理の実際. 外科治療 2004; 91(6): 684-688.
- 32) 田尻 孝: 肝悪性腫瘍の治療. 日本消化器外科学会教育集会 2004; 33-42.
- 33) 松倉則夫: 特集 Helicobacter pylori疫学のその後: 将来的予測からみた疾病動向 各論: H. pylori感染率の減少により疾病構造は変化するのか? 肝胆道系疾患(脂肪肝, 胆石, 肝硬変など). Helicobacter Research 2004; 8(6): 505-507.
- 34) 吉田 寛, 山下精彦, 田尻 孝: 門脈圧亢進症: 食道胃静脈瘤の治療. 日本醫事新報 2005; (4213): 30-34.
- 35) 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>名誉教授): 特集 効果的な高気圧酸素治療を目指して: 高気圧酸素治療の原理. Clinical Engineering 2005; 16(2): 121-125.
- 36) 田尻 孝: 特集 胆・膵疾患の診療をめぐって: 膵・胆管合流異常と胆道癌. 日本医師会雑誌 2005; 133(3): 365.
- 37) 松倉則夫: 特集 Helicobacter pylori非侵襲的診断法の実際: 診療現場の最前線より: 残胃における効率的Helicobacter pylori非侵襲的診断法の適応. Helicobacter Research 2005; 9(1): 25-28.
- 38) 松倉則夫: ヘリコバクター感染症のすべて: 腸肝ヘリコバクター感染症と疾患 Helicobacter bilisと肝胆道系疾患. 臨床と微生物 2005; 32(2): 165-168.

(4) 綜説：

- 1) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 中村慶春, 福原宗久<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科): [特集] 膵癌のリスクファクター: 糖尿病: 過去10年間の自験症例における検討から. 膵臓 2004; 19(2): 110-117.
- 2) 田尻 孝, 唐澤英偉<sup>1)</sup> (1) 国際医療福祉大学附属熱海病院消化器科): [特集] 膵癌のリスクファクター: 序. 膵臓 2004; 19(2): 103.
- 3) 田尻 孝, 加藤俊二: 特集・これからの経腸栄養 PEG vs PTEG: 総論 これからの経腸栄養: 経鼻胃管からPEG, PTEGへ. 消化器の臨床 2004; 7(2): 115-118.
- 4) 山下直行<sup>1)</sup>, 大鳥和彦<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 江角浩安<sup>1)</sup> (1) 国立がんセンター研究所支所, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 特集I 大腸癌の前癌病変とChemoprevention: Aberrant crypt foci (ACF) の大腸発癌過程における位置付け. 消化器科 2004; 38(6): 543-548.
- 5) 加藤俊二, 松倉則夫, 藤田逸郎, 神田知洋, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (病理学第2): 残胃における *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 除菌治療の問題点. 新薬と臨床 2004; 53(8): 54-57.
- 6) 奥田武志, 田尻 孝, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭<sup>1)</sup> (1) 第二病院消化器病センター): 胃GISTの診断と治療. 東京都病院薬剤師会雑誌 2004; 53(4): 257-263.
- 7) 内田英二, 田尻 孝: 特集 肝胆膵のクリティカルケア: 症例とQ&Aで学ぶ: 重症急性膵炎に対するCHDF. 救急・集中治療 2004; 16(8): 963-970.
- 8) 唐澤英偉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (国際医療福祉大学附属熱海病院消化器科): [特集] 膵癌の早期診断へのアプローチ: 序. 膵臓 2004; 19(6): 557.

(5) 症例報告：

- 1) Yokoi K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kyouno S<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Shirakawa T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Yamashita K, Tajiri T (1) Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital, 2) Dept. of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital): High Efficacy of Imatinib for Recurrent Gastrointestinal Stromal Tumor in the Jejunum: A case Report. J Nippon Med Sch 2004; 71(2): 114-119.
- 2) Taniai N, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Kawano Y, Mizuguchi Y, Makuuchi M<sup>1)</sup> (1) Liver Transplantation Team, University of Tokyo): Middle Hepatic Vein Reconstruction of Graft for a Patient with Intrahepatic Portosystemic Shunt. Hepato-Gastroenterol 2004; 51(56): 589-591.
- 3) Miyake K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Tachibana M<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Shinoki K<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Nishigaki H<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Tsukui T<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T, Tokunaga A, Tajiri T, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Third Dept. of Internal Medicine): Bleeding from Foveolar Hyperplasia Developing on a Gastrointestinal Stromal Tumor of the Stomach. Digestive Endoscopy 2004; 16: 172-175.
- 4) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>3)</sup>, Okihama Y<sup>3)</sup>, Hosone M<sup>4)</sup>, Shimizu K<sup>5)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup>, Tajiri T (1) Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, 2) Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, 3) Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital, 4) Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, 5) Second Dept. of Surgery): Comparative Study between DNA Copy Number Aberrations Determined by Quantitative Microsatellite Analysis and Clinical Outcome in Patients with Stomach Cancer. Clinical Cancer Research 2004; 10(9): 3013-3019.
- 5) Yoshida H, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Kawano Y, Mizuguchi Y, Arima Y, Uchida E, Misawa H: Fracture of a biliary expandable metallic stent. Gastrointestinal Endoscopy 2004; 60(4): 655-658.
- 6) Yokomuro S, Uchida E, Arima Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Kawahigashi Y, Kawamoto M, Takahashi

- K, Arai M, Tajiri T : Simple closure of a Perforated Duodenal Diverticulum . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 5 ) : 337-339 .
- 7) Migita M<sup>1)</sup>, Kaizu K<sup>1)</sup>, Asai M<sup>1)</sup>, Yamaguchi K<sup>1)</sup>, Ikegami E<sup>1)</sup>, Maeda M<sup>1)</sup>, Yokomuro S, Tajiri T, Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pediatrics ) : Multiple fungal splenic abscesses in a patient with T-acute lymphoblastic leukemia undergoing chemotherapy . Pediatrics International 2004 ; 46 ( 6 ) : 733-735 .
- 8) Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Yamamoto K, Kaneko M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology ) : Long-Term Results of Partial Splenic Artery Embolization as Supplemental Treatment for Portal-Systemic Encephalopathy . Am J Gastroenterol 2005 ; 100 ( 1 ) : 43-47 .
- 9) Nakamura Y, Tajiri T, Uchida E, Arima Y, Aimoto T, Katsuno A, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Integrative Pathology ) : Changes to levels of serum neuron-specific enolase in a patient with small cell carcinoma of the pancreas . J Hepatobiliary Pancreat Surg 2005 ; 12 ( 1 ) : 93-98 .
- 10) Kanda T, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T, Ueda J, Kato S, Akimaru K, Tajiri T, Fukuda Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Analytic Human Pathology ) : Resection of Liver Metastases from an  $\alpha$ -fetoprotein-producing Gastric Cancer . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ) : 66-70 .
- 11) 柏原 元, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ) : 血中CEA異常高値を呈した進行食道扁平上皮癌の1例 . 日消外会誌 2004 ; 37 ( 5 ) : 488-493 .
- 12) 松久威史<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>病理学第2 ) : ベトナムの二地域における上部消化管疾患, *Helicobacter pylori*感染, 背景胃粘膜の検討 : 日本との比較観察を含めて . Progress of Digestive Endoscopy 2004 ; 64 ( 2 ) : 32-37 .
- 13) 川野陽一, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 徳永 昭, 内田英二, 吉行俊郎, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 進士誠一, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2 ) : 早期胃癌に十二指腸カルチノイドが併存した1切除例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ) : 198-202 .
- 14) 柿沼大輔, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1 ) : 完全内臓逆位を伴う肝細胞癌の1切除例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ) : 209-212 .
- 15) 神田知洋, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 横室茂樹, 有馬保生, 秋丸琥甫, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科 ) : 拳上空腸脚に穿破した胆嚢癌術後仮性肝動脈瘤の1例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ) : 213-216 .
- 16) 山村 進<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ) : 先天性胆道拡張症の膵胆管合流異常例に対する腹腔鏡補助下手術の2小児例 . 日鏡外会誌 2004 ; 9 ( 3 ) : 320-325 .
- 17) 高橋由至<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 福岡 猛<sup>2)</sup>, 沖野哲也<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科 ) : 下血で発症したヘルペス食道炎の1例 . Gastroenterological Endoscopy 2004 ; 46 ( 8 ) : 1478-1482 .
- 18) 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二, 相本隆幸, 福原宗久, 勝野 暁, 有馬保生, 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ) : 重症急性膵炎を契機に発見された高齢者 choledochocoele の1例 . 膵臓 2004 ; 19 ( 4 ) : 404-409 .
- 19) 樋口勝美<sup>1)</sup>, 古川清憲, 岩崎玲子, 古川恵子, 飯田信也, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>東京白十字病院外科 ) : Adenoma of the nipple ( 乳頭部腺腫 ) の1例 . 日臨外会誌 2004 ; 65 ( 8 ) : 2083-2085 .
- 20) 平方敦史, 加藤俊二, 川野陽一, 峯田 章, 谷合信彦, 真々田裕宏, 横室茂樹, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝 : 肝切除適応症例選別の試み : 微小病巣顕在化までの癌局所コントロールとしての動注療法 . 癌と化学療法 2004 ; 31 ( 11 ) : 1749-1751 .
- 21) 坂東功一<sup>1)</sup>, 古谷政一<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>下館市民病院外科 ) : 胃 MALT

- リンパ腫，直腸カルチノイド，S状結腸癌の同時性重複の1例．日臨外会誌 2004；65(11)：3070-3075．
- 22) 山本一仁<sup>1)</sup>，木内博之<sup>1)</sup>，小川芳雄<sup>1)</sup>，山村 進<sup>1)</sup>，高橋由至<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>2)</sup>，吉田 寛，田尻 孝<sup>(1)</sup>北村山公立病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科)：魚骨による不顕性穿孔が原因と考えられた大網膿瘍の1例．日消外会誌 2004；37(11)：1761-1765．
- 23) 石川義典，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，川野陽一，水口義昭，柏原 元，清水哲也，高橋 翼，秋丸琥甫，田尻 孝：胆嚢扁平上皮癌の1例．J Nippon Med Sch 2004；71(6)：417-420．
- 24) 相本隆幸，田尻 孝，内田英二，中村慶春，勝野 暁，張 一光，森 正陽，横室茂樹，秋丸琥甫，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)：膵癌診断におけるERCP下膵管・胆管ブラシ 細胞診の有用性．Progress of Digestive Endoscopy 2004；65(2)：47-50．
- 25) 石川義典，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，秋丸琥甫，田尻 孝：脱分化型を呈した後腹膜脂肪肉腫の1例．外科 2004；66(13)：1709-1714．
- 26) 中村慶春，田尻 孝，江上 格，高橋 健，相本隆幸，有馬保生，内田英二，笠井源吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>波崎済生病院内科)：共通管が嚢腫状に拡張し胆汁中アマラーゼ濃度が高値であった胆嚢 adenomyomatosis の1例．外科 2005；67(1)：117-122．
- 27) 松谷 毅，古川清憲，高崎秀明，松田明久，宮下正夫，田尻 孝：肝細胞癌と直腸癌の同時性重複癌の1例．日臨外会誌 2005；66(1)：235-239．
- 28) 高橋 健，中村慶春，内田英二，柏原 元，李 榮浩，宮下正夫，田尻 孝，笠井源吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>波崎済生病院内科)：脊髄損傷症例に合併した胃癌手術後の管理．日消外会誌 2005；38(1)：36-41．
- 29) 柳 健<sup>1)</sup>，古谷政一<sup>1)</sup>，清水康仁<sup>1)</sup>，坂東功一<sup>1)</sup>，佐々木順平<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>下館市民病院外科)：腹腔内出血を伴う自然破裂をきたした腎血管筋脂肪腫の1例．日臨外会誌 2005；66(2)：178-182．
- 30) 秋谷行宏<sup>1)</sup>，吉安正行<sup>1)</sup>，池田研吾<sup>1)</sup>，長澤重直<sup>1)</sup>，吉村和泰<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>博慈会記念総合病院外科)：PROLENE Hernia System を使用した再発腹壁癒痕ヘルニアの1手術例．日臨外会誌 2005；66(2)：227-230．
- 31) 宮下正夫，勝田美和子，野村 務，牧野浩司，山下精彦，田久保海誉<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>東京都老人総合研究所高齢者の臓器と組織の研究グループ)：食道粘表皮癌の1例．胃と腸 2005；40(3)：385-388．
- 32) 松谷 毅<sup>1)</sup>，笠島耕二<sup>1)</sup>，天野 汎<sup>2)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，菅 隼人，宮下正夫，山下精彦，田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>浦安病院)：Schnitzler 転移による約17cmの直腸狭窄症状の改善に金属ステント留置が有用であった1例．Gastroenterological Endoscopy 2005；47(3)：343-347．
- 33) 松田明久<sup>1)</sup>，高橋慶一<sup>1)</sup>，山口達郎<sup>1)</sup>，松本 寛<sup>1)</sup>，宮本英典<sup>1)</sup>，古川清憲，田尻 孝，森 武生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立駒込病院外科)：真性多血症を合併した直腸癌の1手術例．日本大腸肛門病学会雑誌 2005；58(3)：159-163．
- 34) 柳 健<sup>1)</sup>，古谷政一<sup>1)</sup>，清水康仁<sup>1)</sup>，山本一仁<sup>1)</sup>，坂東功一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>下館市民病院外科)：腹部血管造営および色素注入法により出血部位を同定しえた管内発育型小腸GISTの1手術例．日消外会誌 2005；38(3)：330-335．

## 著 書

- 1) 有馬保生，田尻 孝，横室茂樹：〔分担〕治療 Part2 手術手技：胆嚢摘出術．消化器病診療 良きインフォームド・コンセントに向けて(監修：財団法人 日本消化器病学会 編集：「消化器病診療」編集委員会)，2004；pp358-361，医学書院．
- 2) 宮下正夫，田尻 孝：〔分担〕上部消化管術後吻合部狭窄の予防と対策．消化器外科診療二頁の秘訣(北島政樹)，2004；pp34-35，金原出版．
- 3) 田尻 孝：〔分担〕10 食道・胃静脈瘤 診断・治療：127 吐血に対する緊急内視鏡検査時にオーバーチューブと体位変換は有用．ワンポイントアドバイス 消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル(監修：鈴木博昭 編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博)，2004；p177，日本メディカルセンター．

## 学会発表

### (1) 追加分一般講演:

- 1) Zhang C, Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Matsukura N, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II ): Histological Evaluation of Gastrointestinal Diseases by "Fixed Triple Site Biopsy". The 14th Nippon Medical School Foundation Academic Meeting for Foreign Researchers, 2003. 11.
- 2) 寺西宣央, 田尻 孝, 奥田武志, 古川清憲, 高崎秀明, 加藤俊二, 鈴木英之, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 穿孔部位を同定しえなかった肝硬変, 潰瘍性大腸炎合併気腹症の1例. 第790回外科集談会, 2003. 9.

### (2) 特別講演:

- 1) 田尻 孝: 食道静脈瘤・門脈圧亢進症の最近の知見とその治療. 第22回東京消化器病研究会, 2004. 11.
- 2) 秋丸琥甫: 肝移植と細胞診. 日本医科大学医学会第114回例会, 2004. 11.
- 3) 田尻 孝: 肝硬変症に対するIVR. 第9回長崎臓器障害研究会, 2004. 11.
- 4) 田尻 孝: 門脈圧亢進症に対するIVRとIVE. 第15回四国, 食道・胃静脈瘤研究会, 2005. 2.

### (3) シンポジウム:

- 1) 加藤俊二, 奥田武志, 小野寺浩之, 白川 毅, 菅 隼人, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 田尻 孝: PTEG施行に必要な安全対策: 習熟度別に見た安全のためのポイント. 第3回PTEG研究会, 2004. 4.
- 2) 有馬保生, 横室茂樹, 吉田 寛, 野村 務, 真々田裕宏, 相本隆幸, 谷合信彦, 中村慶春, 水口義昭, 清水哲也, 田尻 孝: 術中胆管損傷の回避: 術中胆管造営および手術手技の工夫 (術中胆道損傷の現状と治療成績). 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 3) 木村康利<sup>1)</sup>, 平田公一<sup>1)</sup>, 桐山勢生<sup>2)</sup>, 畠 二郎<sup>3)</sup>, 田尻 孝, 横室茂樹 (<sup>1)</sup>札幌医科大学第一外科, <sup>2)</sup>大垣市民病院, <sup>3)</sup>川崎医科大学): 急性胆道炎のガイドラインにおける Key Point: 5. 検査のポイントはどこか? (急性胆道炎のガイドラインにおける Key Point). 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 4) 田久保海誉<sup>1)</sup>, 新井富生<sup>2)</sup>, 田中康夫<sup>2)</sup>, 真船健一<sup>3)</sup>, 宮下正夫, 笹島耕二, 岩切勝彦<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所高齢者臓器, <sup>2)</sup>東京都老人医療センター病理部門内視鏡科, <sup>3)</sup>東京大学医学部胃・食道外科, <sup>4)</sup>内科学第3): 逆流性食道炎の生検病理組織像 (胃食道逆流症をめぐって). 第58回日本食道学会学術集会, 2004. 6.
- 5) 松倉則夫, 沖野哲也, 長谷川博一, 田尻 孝, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 胃癌の内視鏡下遺伝子治療 (各種の癌に対する治療法: エビデンスと成績【胃】). 第29回日本外科系連合学会学術集会, 2004. 7.
- 6) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): Open手術からみた食道表在癌に対する縦隔鏡補助下食道切除術の評価 (Open手術からみた食道癌に対する鏡視下手術の評価). 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 7) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也, 柿沼大輔, 山初和也, 田尻 孝: 食道静脈瘤に対する内視鏡的治療 + IVR と食道離断術の比較検討 (門脈圧亢進症における外科的治療). 第11回日本門脈圧亢進症学会総会, 2004. 9.
- 8) 古川清憲, 田尻 孝, 山下精彦, 木山輝郎, 水谷 崇: 手術室の安全管理と効率化をめざして (手術室の安全・効果的運営). 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 9) 有馬保生, 横室茂樹, 吉田 寛, 野村 務, 真々田裕宏, 相本隆幸, 谷合信彦, 中村慶春, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 川東 豊, 田尻 孝: 腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LC) における術中胆管損傷に対する pitfall と対策 (胆石症の手術). 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 10) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 渡邊睦弥<sup>1)</sup>, 中山浩一<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 細野由紀子<sup>1)</sup>, 岩波洋<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>今泉西病院外科): 一般病院における胃癌D2郭清の理解と成績 (胃癌取扱い規約に準じた標準手術手技). 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 11) 谷合信彦, 田尻 孝, 吉田 寛: 孤立性胃静脈瘤の治療戦略 (胃静脈瘤の治療戦略). 第68回日本消化器内視

鏡学会総会，2004．10．

- 12) 木山輝郎，加藤俊二，田尻 孝：胃切除後体重減少におけるグレリンの関与（消化管ホルモンと消化吸収に関する新しい展開）．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 13) 相本隆幸，内田英二，田尻 孝：慢性膵炎手術症例における診断治療とその遠隔成績（慢性膵炎の診断治療とその後の経過）．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 14) 的場康德<sup>1)</sup>，夏越祥次<sup>1)</sup>，奥村 浩<sup>1)</sup>，内門泰斗<sup>1)</sup>，黒島一直<sup>1)</sup>，赤坂喜清<sup>2)</sup>，松倉則夫，徳永 昭<sup>3)</sup>，田尻 孝，愛甲 孝<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>鹿児島大学医歯学消化器外科学，<sup>2)</sup>東邦大学医学部病理学第2，<sup>3)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター）：Omental Implantation 治療過程におけるアポトーシスと Scar-less Repair の関連（血管新生療法・消化管の創傷治療）．第34回日本創傷治療学会，2004．11．
- 15) 野村 務，宮下正夫，牧野浩司，柏原 元，勝田美和子，高橋 健，山下精彦，田尻 孝，丸山 弘<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院外科）：食道癌における argon plasma coagulation（APC）の相対的適応患者に対する治療成績（上部消化管癌の内視鏡治療：良好な長期予後のための治療法選択と適応）．第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2004．12．
- 16) 相本隆幸，内田英二，秋丸琥甫，山下精彦，田尻 孝，内藤善哉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2）：膵管内乳頭腫瘍（IPMT）における経乳頭の細胞診の意義：有用性と限界（膵胆道癌の早期発見を目指して）．第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2004．12．
- 17) 桐山勢生<sup>1)</sup>，平田公一<sup>2)</sup>，木村康利<sup>2)</sup>，田尻 孝，横室茂樹（<sup>1)</sup>大垣市民病院消化器科，<sup>2)</sup>札幌医科大学外科学第1）：臨床検査，診断基準（急性胆道炎の診療ガイドライン 公開討論会）．第41回日本腹部救急医学会総会，2005．3．

#### (4) パネルディスカッション：

- 1) 丸山 弘，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，松谷 毅，土屋喜一，二見良平，柏原 元，勝田美和子，高橋 健，笹島耕二，山下精彦，田尻 孝：内視鏡下食道ステント留置術の成績（ステント治療の進歩とその成績）．第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2004．6．
- 2) 林 良紀<sup>1)</sup>，岩切勝彦<sup>1)</sup>，琴寄 誠<sup>2)</sup>，田中由理子<sup>1)</sup>，川上明彦<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>，野村 務，牧野浩司，宮下正夫，田尻 孝（<sup>1)</sup>内科学第3，<sup>2)</sup>千葉北総病院内科）：アカラシアに対するバルーン拡張術有効例，無効例の検討（アカラシア治療，何が最適か？）．第58回日本食道学会学術集会，2004．6．
- 3) 加藤俊二，松倉則夫，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，宮下正夫，山下精彦，田尻 孝：残胃の癌予防と術前スクリーニングのためのHP除菌と生検組織，IL 1 多型の遺伝子解析（術前生検から得られる情報とその臨床応用）．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 4) 進士誠一，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，菅 隼人，鶴田宏之，松田明久，田尻 孝，内藤善哉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2）：LCM+RT-PCR法による大腸癌術前生検および手術標本での5-FU代謝関連酵素 mRNA 発現量の比較（術前生検から得られる情報とその臨床応用）．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 5) 吉田 寛，真々田裕宏，田尻 孝：長期予後からみた門脈圧亢進症における門脈大循環シャントに対する塞栓術の成績（長期予後からみた門脈圧亢進症におけるシャント閉鎖の是非）．第8回日本肝臓学会大会，2004．10．
- 6) 柏原 元，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，勝田美和子，高橋 健，笹島耕二<sup>1)</sup>，山下精彦，田尻 孝（<sup>1)</sup>多摩永山病院外科）：外科侵襲下における相対的副腎機能不全の評価（ショックおよび急性臓器不全に対する Steroid の適応と有効性の再検討）．第32回日本救急医学会総会・学術集会，2004．10．
- 7) 川野陽一<sup>1)</sup>，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，高橋 翼，柿沼大輔，隈崎達夫<sup>2)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，田尻 孝（<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>付属病院放射線科）：肝胆膵外科領域の救急疾患におけるIVR（腹部救急疾患に対するIVRの適応と限界）．第41回日本腹部救急医学会総会，2005．3．

#### (5) ワークショップ：

- 1) 野村 務，古川清憲，鈴木英之，木山輝郎，真々田裕宏，高橋 翼，田尻 孝：鼠径ヘルニア術後合併症の検

討(合併症). 第2回日本ヘルニア研究会, 2004. 5.

- 2) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 有馬保生, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2): 慢性膵炎治療における手術療法の意義(慢性膵炎治療における手術療法の役割). 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
  - 3) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝: 高齢者手術の問題点(胃癌例の検討)(高齢者手術の問題点). 第29回日本外科系連合学会学術集会, 2004. 7.
  - 4) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院消化器病センター): 胃切除クリニカルパス導入による周術期管理の変化(消化器外科における clinical path の有用性と検証). 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
  - 5) 松田範子, 加藤俊二, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 田尻 孝(<sup>1</sup>病理学第2): 肝癌の背景肝組織中の IL-8, COX-2, HGF mRNA 発現と病理学的血管因子(肝癌・胆嚢癌・膵臓癌). 第15回日本消化器癌発生学会総会, 2004. 8.
  - 6) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, Ghizadeh M<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>3</sup>多摩永山病院消化器科): 定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における染色体 8q・16q・20q 領域のDNAコピー数変化についての検討(遺伝子診断). 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
  - 7) 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝: 食道静脈瘤に対するEVLとEISの治療成績の検討(食道静脈瘤治療におけるEVLとEISの使い分け). 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004. 10.
  - 8) 真々田裕宏, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 終末期としての難治性腹水に対する腹腔: 静脈シャント術の位置づけ(非代償性肝硬変治療の工夫). 第8回日本肝臓学会大会, 2004. 10.
  - 9) 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 残胃における *Helicobacter pylori* (HP)除菌後の問題点: 胃内環境の面からの解析(*H. pylori*除菌後長期の諸問題). 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
  - 10) 谷合信彦, 田尻 孝, 吉田 寛: 大腸直腸癌肝転移症例に対する肝切除術(転移性肝腫瘍の治療戦略). 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
  - 11) 秋丸琥甫, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 横室茂樹, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理部, <sup>2</sup>病理学第2): 閉塞性黄疸の画像と細胞診(消化器領域における画像診断と細胞診). 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
  - 12) 有馬保生, 横室茂樹, 野村 務, 水谷 崇, 相本隆幸, 中村慶春, 真々田裕宏, 吉田 寛, 田尻 孝, 古谷政一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>下館市民病院外科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術(LAP-C)における開腹移行のタイミングと留意点: 高度炎症・硬化・癒着例の検討(コンバージョンのタイミング). 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
  - 13) 石川義典, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 横室茂樹, 有馬保生, 古川清憲, 田尻 孝: 膵頭十二指腸切除後に併発した Ogilvie 症候群に対し大建中湯が著効した1例(肝胆膵術後合併症における診断と治療). 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005. 3.
- (6) プレナリーセッション:
- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也, 秋丸琥甫, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 田尻 孝: 大腸直腸癌肝転移症例に対する肝切除の適応と成績: 予後因子の検討から(転移性肝癌 2). 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- (7) サージカルフォーラム:
- 1) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 神田知洋, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 山下精彦, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2</sup>病理学第2): 残胃粘膜における IL-8, COX2 遺伝子発現からみた癌発生高危険粘膜の特徴とヘリコバクター・ピロリ(HP)除菌治療による残胃に癌

発生予防の可能性（胃癌：発癌2）. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.

- 2) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 松倉則夫, 飯田信也, 山下精彦<sup>(1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃切除周術期・術後の体成分組成の変化(一般: 代謝・栄養, 他). 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
  - 3) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫: 門脈大循環シャント脳症に対する脾動脈塞栓併用シャント塞栓術の長期成績(腎移植, 他). 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
  - 4) 松本智司, 田尻 孝, 江見 充<sup>1)</sup>, Charis E<sup>2)</sup>, 山下精彦, 古川清憲, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 飯田信也, 真々田裕宏<sup>(1)</sup>老人病研究所分子生物部門,<sup>2)</sup>Dept. of Human Cancer Genetics, the Ohio State Univ. ): 乳癌組織および癌周囲間質における遺伝子異常の検討(乳癌: 遺伝子診断). 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
  - 5) 松谷 毅, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, Chaudry I. H<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>(1)</sup>Center for Surgical Research, Univ. of Alabama at Birmingham, USA ): 右開胸開腹胸部食道癌手術における術前メチルブレドニゾロン投与と術後肺合併症の検討(食道癌: 手術, 集学的治療). 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- (8) 一般講演:
- 1) Kato S, Matsukura N, Kanda T, Fujita I, Matsuda N, Yamada N<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>(1)</sup>Dept. of Pathology II): Prediction for the risk of gastric carcinogenesis in the atrophic or remnant stomach mucosa using molecular biomarkers for IL-8, COX-2 mRNA expression in stomach mucosa. AACR 95th Annual Meeting (Florida, USA), 2004. 4.
  - 2) Kawano Y, Akimaru K, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Takubo K<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>(1)</sup>Division of Pathology, Second Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Effectiveness of Jejunectomy to Elevated Portal Pressure after Extended Hepatectomy. 10th Annual Congress of the International Liver Transplantation Society (Kyoto, Japan), 2004. 6.
  - 3) Matsutani T<sup>1)</sup>, Miyashita M, Sasajima K<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Nomura T, Makino H, Tsuchiya Y, Futami R, Kashiwabara M, Katsuta M, Takahashi K, Matsuda A, Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>(1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital): Methylprednisolone attenuates cyfra 21-1 levels in bronchoalveolar lavage fluid following severe surgical trauma. Twenty-Seventh Annual Conference on Shock (Halifax, Canada), 2004. 6.
  - 4) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Katsuno A, Tajiri T: Clinical Benefit and Feasibility of Gemcitabine after Surgical Resection for Pancreatic Cancer. 第11回国際膵臓学会 (Sendai, Japan), 2004. 7.
  - 5) Nakamura Y, Tajiri T, Uchida E, Aimoto T, Katsuno A, Naito Z<sup>1)</sup><sup>(1)</sup>Second Dept. of Pathology): A Case of Slow Growing Asymptomatic Endocrine Tumor of the Pancreas. 第11回国際膵臓学会 (Sendai, Japan), 2004. 7.
  - 6) Nakamura Y, Tajiri T, Uchida E, Aimoto T, Katsuno A, Naito Z<sup>1)</sup><sup>(1)</sup>Second Dept. of Pathology): Changes of Serum Neuron-specific Enolase as a Good Marker for Small Cell Carcinoma of Pancreas. 第11回国際膵臓学会 (Sendai, Japan), 2004. 7.
  - 7) Uchida E, Fukuhara M, Yanagi K, Matsushita A, Aimoto T, Nakamura Y, Katsuno A, Chou K, Yokomuro S, Tajiri T: Reexpression of reduced VEGF activity in liver metastasis of experimental pancreatic cancer. 第3回国際消化器発癌会議 (Sapporo, Japan), 2004. 8.
  - 8) Miyashita M, Katsuta M, Makino H, Nomura T, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Yamashita K, Tajiri T<sup>(1)</sup>Pathology of 2nd Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II): Over-expression of angiogenesis markers in



- esophageal cancer . 第3回国際消化器発癌会議 ( Sapporo, Japan ), 2004 . 8 .
- 9) Kato S , Matsukura N , Matsuda N , Fujita I , Okuda T , Mizutani T , Kiyama T , Miyashita M , Naito Z<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II ): Prediction for the secondary carcinogenesis in the remnant stomach after gastrectomy using molecular biomarkers . 第3回国際消化器発癌会議 ( Sapporo, Japan ), 2004 . 8 .
  - 10) Makino H , Miyashita M , Nomura T , Katsuta M , Kashiwabara M , Takahashi K , Tajiri T , Yamashita K , Sasajima K , Futami R , Gabrielson E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology, Johns Hopkins Univ. School of Med. Baltimore ): cDNA microarray analysis and p53 immunohistochemical analysis in esophageal superficial carcinomas . 第3回国際消化器発癌会議 ( Sapporo, Japan ), 2004 . 8 .
  - 11) Tajiri T , Yoshida H , Mamada Y , Tani N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Akimaru K : Comparison of Characteristics of Recurrent Esophageal Varices after Endoscopic Ligation Versus Endoscopic Ligation Plus Sclerotherapy . 14th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists ( and Oncologists ) ( Zurich, Switzerland ), 2004 . 9 .
  - 12) Tanaka N<sup>1)</sup> , Seya T<sup>1)</sup> , Katsuta M , Tajiri T , Yokoi K<sup>1)</sup> , Yamashita K , Kanazawa Y<sup>1)</sup> , Yamada T<sup>1)</sup> , Takahashi Y<sup>1)</sup> , Koizumi M<sup>1)</sup> , Ishiwata T<sup>2)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> , Ishiwata S<sup>3)</sup> , Ikegawa S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II , <sup>3)</sup>Bioanalytical Pharmaceuticals, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki Univ. , Osaka ): UPS14/TGT60KDA Expression in Human Colorectal Cancer . 12th United European Gastroenterology Week ( Prague, Czech Republic ), 2004 : 9 .
  - 13) Seya T<sup>1)</sup> , Tanaka N<sup>1)</sup> , Shinji S , Yamashita K<sup>1)</sup> , Yokoi K<sup>1)</sup> , Ishikawa N<sup>1)</sup> , Horiba K<sup>1)</sup> , Kanazawa Y<sup>1)</sup> , Yamada T<sup>1)</sup> , Takahashi Y<sup>1)</sup> , Koizumi M<sup>1)</sup> , Shirakawa T<sup>1)</sup> , Tajiri T , Ohaki Y<sup>2)</sup> , Ishiwata Y<sup>3)</sup> , Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Chiba Hokusou Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Pathology II ): Expression of Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen in Colorectal Cancer with/without Liver Metastasis . 12th United European Gastroenterology Week ( Prague, Czech Republic ), 2004 . 9 .
  - 14) Shinji S , Tajiri T , Tanaka N , Seya T , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II ): Lumican Expression in Human Neuroendocrine Tumor . 12th United European Gastroenterology Week ( Prague, Czech Republic ), 2004 . 9 .
  - 15) Futami R<sup>1)</sup> , Egami K<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Masuda G<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>1)</sup> , Nagasawa S<sup>1)</sup> , Fukuhara M<sup>1)</sup> , Kawano Y<sup>1)</sup> , Togashi A<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Laparoscopic treatment for symptomatic multiple liver cysts with cholelithiasis ; A case report . Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting 4th World Congress of Gasless Laparoscopic Surgery ( Nusa Dua Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .
  - 16) Miyamoto M<sup>1)</sup> , Egami K<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Nagasawa S<sup>1)</sup> , Fukuhara M<sup>1)</sup> , Futami R<sup>1)</sup> , Masuda G<sup>1)</sup> , Togashi A<sup>1)</sup> , Kawano Y<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Comparison of Perioperative Outcomes Between Two Different Procedures ; Laparoscopic and Open RFA for HCC in One Patient Performed Metachronously . Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting 4th World Congress of Gasless Laparoscopic Surgery ( Nusa Dua Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .
  - 17) Egami K<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Nagasawa S<sup>1)</sup> , Fukuhara M<sup>1)</sup> , Futami R<sup>1)</sup> , Masuda G<sup>1)</sup> , Togashi A<sup>1)</sup> , Kawano Y<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Short-term Outcome Following Laparoscopic-Assisted Colectomy VS Open Colectomy for Colon Cancer . Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting 4th World Congress of Gasless Laparoscopic Surgery ( Nusa Dua Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .

- 18) Akimaru K , Matsuda N , Hirakata A , Kawano Y , Kakinuma D , Tani ai N , Mamada Y , Yoshida H , Tokunaga A<sup>1)</sup> , Tajiri T , Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Center for Digestive Disease, Second Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II ): Hyperbaric Oxygen on Liver Regeneration after Minor and Major Hepatectomies on Impaired Liver . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 19) Miyashita M , Futami R , Nomura T , Makino H , Sasajima K , Yamashita K , Tajiri T : Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor Following Major Surgical Injury . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 20) Kato S , Matsukura N , Kanda T , Matsuda N , Fujita I , Okuda T , Mizutani T , Kiyama T , Tsukada K<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Division of Pathology , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II ): *Helicobacter Pylori* ( *H. pylori* ) Infection-negative Gastric Cancer in a Japanese Population . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 21) Suzuki H , Furukawa K , Takasaki H , Kan H , Tsuruta H , Matsumoto S , Shinji S , Matsuda A , Nomura T , Tajiri T : Laparoscopic Surgery for Small Intestinal Obstruction . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 22) Kiyama T , Tajiri T , Tokunaga A<sup>1)</sup> , Mizutani T , Okuda T , Fujita I , Kato S , Iida S ( <sup>1)</sup>Second Hospital ): Postoperative Changes in Body Composition after Gastrectomy . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 23) Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Yokomuro S , Arima Y , Uchida E , Akimaru K , Tajiri T : One-step Insertion of an Expandable Metallic Stent for Unresectable Common Bile Duct Carcinoma . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 24) Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Yokomuro S , Arima Y , Uchida E , Akimaru K , Tajiri T : Fracture of an Expandable Metallic Stent Placed for Biliary Obstruction . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 25) Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Kakinuma D , Kawahigashi Y , Matsumoto S , Akimaru K , Tajiri T : Ultrasonography of Nonperforated Appendicitis in Young Children . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 26) Nomura T , Miyashita M , Makino H , Maruyama H<sup>1)</sup> , Katsuta M<sup>1)</sup> , Kashiwabara M , Takahashi K , Sasajima K<sup>1)</sup> , Yamashita K , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Mediastinoscope Assisted Transhiatal Esophagectomy for Esophageal Cancer . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 27) Mamada Y , Yoshida H , Tani ai N , Mizuguchi Y , Kawano Y , Takahashi T , Shimizu T , Akimaru K , Tajiri T , Yokomuro S : Rapidly Enlarging Hepatobiliary Cystadenoma . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 28) Mamada Y , Yoshida H , Tani ai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Takahashi T , Shimizu T , Toba M , Tajiri T : Diagnosis of Gallstone Ileus by Serial Computed Tomography . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 29) Shinji S , Tanaka N , Furukawa K , Takasaki H , Suzuki H , Seya T , Kan H , Tsuruta H , Matsuda A , Katsuta M , Teranishi N , Tajiri T , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Yokoyama M<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II ): Micrometastasis in Node Negative Colorectal Carcinoma by Immunohistochemical Diagnosis with CK20 . 19th

- World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 30 ) Kakinuma D , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Uchida E , Akimaru K , Tajiri T : Infected Solitary Hepatic Cyst . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 31 ) Kanda T , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Kato S , Akimaru K , Tajiri T : Resection of Liver Metastases from an  $\alpha$ -Fetoprotein-producing Gastric Cancer . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 32 ) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Uchida E , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Intraoperative Fine-needle Aspiration Cytology for Pancreatic Tumors . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 33 ) Watanabe H<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Availability and Evaluation of Decompression Treatment with a Drainage Tube for Acute Colonic Obstruction Caused by Colorectal Cancer . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 34 ) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>2)</sup>, Okihama Y<sup>2)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Liu A<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>3)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital ): Assessment of Clinicopathological Findings and Clinical Outcome in Patients with GIST and EGIST . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 35 ) Matsutani T<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): A Case of Unresectable Advanced Gallbladder Cancer that has Maintained Stable Disease Status for a Long Period with Gemcitabine Therapy . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 36 ) Yamada S<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>2)</sup>, Makonkawkeyoon L<sup>3)</sup>, Chaidatch S<sup>3)</sup>, Phraephan S<sup>3)</sup>, Yamada N<sup>4)</sup>, Kato S , Miki M , Tajiri T , Matsukura N ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Faculty of Medicine, Chiang Mai Univ. , Thailand , <sup>2)</sup>Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai Univ. , Thailand , <sup>4)</sup>Dept. of Pathology ): *H. pylori* Infection Related to Serum Pepsinogen and Interleukin-1  $\beta$ -511 Polymorphisms are Independent Risk Factors for Gastric Cancer in Thai . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 37 ) Nomura T , Miyashita M , Makino H , Maruyama H<sup>1)</sup>, Katsuta M , Kashiwabara M , Takahashi K , Sasajima K<sup>1)</sup>, Yamashita K , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Mediastinoscope assisted transhiatal esophagectomy for esophageal cancer . 15th Japan-China Joint Congress for Gastroenterological Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 38 ) Miyashita M , Kashiwabara M , Takahashi K , Takeda S<sup>1)</sup>, Matsutani T , Maruyama H , Nomura T , Makino H , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Intensive Care Unit ): The Old Therapy with a New Concept : Backup of Corticosteroid in Surgical Trauma . 11th Congress of the European Shock Society ( Vienna, Austria ), 2005 . 1 .
- 39 ) Matsutani T<sup>1)</sup>, Miyashita M , Sasajima K<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): The Correlation between liver dysfunction and inflammatory mediators in postsurgical sepsis . 11th Congress of the European Shock Society ( Vienna, Austria ), 2005 . 1 .

- 40) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Kakinuma D , Yokomuro S , Matsumoto S , Nakamura Y , Yamamoto K , Yoshioka M , Mineta S , Akimaru K , Tajiri T : Ruptured metastatic liver tumor from an  $\alpha$ -fetoprotein-producing gastric cancer . 8th Congress of the Asian Society of HepatoBiliary-Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 41) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Kakinuma D , Yokomuro S , Matsumoto S , Nakamura Y , Yamamoto K , Okuda T , Mineta S , Akimaru K , Tajiri T : Percutaneous transhepatic insertion of metal stents with a double-pigtail catheter in afferent loop obstruction following distal gastrectomy .8th Congress of the Asian Society of HepatoBiliary-Pancreatic Surgery( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 42) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Mizuguchi Y , Yokomuro S , Matsumoto S , Nakamura Y , Yamamoto K , Mineta S , Akimaru K , Tajiri T : Long-term results of partial splenic artery embolization as supplemental treatment for portal-systemic encephalopathy . 8th Congress of the Asian Society of HepatoBiliary-Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 43) Taniai N , Akimaru K , Yoshida H , Yokomuro S , Mamada Y , Mineta S , Kawano Y , Mizuguchi Y , Nakamura Y , Tajiri T , Makuuchi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Liver Transplantation Team, Univ. of Tokyo ): Reconstruction of the middle hepatic vein using a preserved great saphenous vein in adult-to-adult living related liver transplantation for a patient treated with TIPS . 8th Congress of the Asian Society of HepatoBiliary-Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 44) Taniai N , Yoshida H , Yokomuro S , Mamada Y , Mineta S , Kawano Y , Mizuguchi Y , Nakamura Y , Akimaru K , Tajiri T : Is intraoperative adjuvant therapy effective for satellite lesions in patients undergoing reduction surgery for advanced hepatocellular carcinoma? . 8th Congress of the Asian Society of HepatoBiliary-Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 45) Taniai N , Akimaru K , Yoshida H , Yokomuro S , Mamada Y , Mineta S , Kawano Y , Mizuguchi Y , Nakamura Y , Tajiri T : A case of recurred Hepatocellular Carcinoma with a solitary Virchow's lymph node metastasis . 8th Congress of the Asian Society of HepatoBiliary-Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 46) Taniai N , Akimaru K , Yoshida H , Yokomuro S , Mamada Y , Mineta S , Kawano Y , Mizuguchi Y , Nakamura Y , Tajiri T : Hemophagocytic Syndrome after Living-donor Liver Transplantation for Fulminant Liver Failure : A Case Report . 8th Congress of the Asian Society of HepatoBiliary-Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 47) Egami K<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Kawano Y<sup>1)</sup> , Futami R<sup>1)</sup> , Masuda G<sup>1)</sup> , Yoshida H , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Factors Contributing to Patient Selection and Outcomes of the Treatment for Hilar Bile Duct Carcinoma .8th Congress of the Asian Society of Hepatobiliary Pancreatic Surgery( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 48) Yokoyama T<sup>1)</sup> , Egami K<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Resection of Double Cancer : The Pancreatic Metastasis from Renal Cell Carcinoma ( RCC ) with Gastric Cancer . 8th Congress of the Asian Society of Hepatobiliary Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 49) Masuda G<sup>1)</sup> , Egami K<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Kawano Y<sup>1)</sup> , Ohkawa K<sup>2)</sup> , Nakamura Y , Uchida E , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital ): Carcinoma of the Gallbladder Associated with Hemobilia Presenting as Recurrent

Hemorrhagic Shock Report of a Case . 8th Congress of the Asian Society of Hepatobiliary Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .

- 50) 宮下正夫, 田尻 孝, 柏原 元, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務, 牧野浩司, 勝田美和子, 高橋 健, 二見良平<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 手術侵襲下における相対的副腎機能不全とその評価 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 51) 吉行俊郎, 田尻 孝, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 古川清憲, 山下精彦, 徳永 昭<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター ): クリニカルパスを用いた胃癌術後管理における抗菌薬の選択 : CEZとSBT/PCの比較 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 52) 真々田裕宏, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 吉田 寛, 横室茂樹, 谷合信彦, 水口義昭, 川野陽一, 清水哲也, 高橋 翼 : 胆嚢癌の術前診断について : 術中迅速診断を必要とした症例の検討 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 53) 奥田武志, 田尻 孝, 徳永 昭, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 杉崎祐一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>中央検査室病理部 ): 消化管間葉系腫瘍の臨床病理学的特徴と治療 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 54) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 長澤重直, 勝田美和子, 柏原 元, 高橋 健, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 化学療法感受性に関連する遺伝子の Microarray による食道癌での発現相違の検索 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 55) 川野陽一, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼 : 大量肝切除後の残肝機能に及ぼす小腸切除による門脈血流コントロールの実験的検討 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 56) 水口義昭, 田尻 孝, 有馬保生, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 川野陽一, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫 : 胆管細胞癌 cell lineHuCCCT1 におけるTGFbeta1 のシグナル伝達異常と癌化の検討 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 57) 進士誠一, 田尻 孝, 田中宣威, 瀬谷知子, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>病理学第2 ): カルチノイドにおけるLumican の発現意義 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 58) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 松谷 毅, 佐々木順平, 山下精彦 : 実験的敗血症モデルにおける Toll-like receptor 発現およびサイトカイン産生能に関する検討 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 59) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 予後からみたリンパ節郭清の位置付け ( 胃癌での検討 ). 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 60) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>同消化器科, <sup>4)</sup>老人病研究所分子病理部門 ): 定量的 real timePCR法を用いた胃癌組織における8q13-q21 領域のDNAコピー数増加についての検討 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 61) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部 ): ヒト胃癌におけるルミカンの発現と腸上皮化生 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 62) 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 松倉則夫, 李 栄浩, 藤田逸郎, 奥田武志, 増田剛太郎<sup>2)</sup>, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>多摩永山病院消化器科 ): 幽門側胃切除後の残胃炎発生には胆汁・十二指腸液逆流または *H pylori* 感染が関与するか . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .

- 63) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 渡邊陸弥<sup>1)</sup>, 中山浩一<sup>1)</sup>, 保坂 淳<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 竹之下誠一<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>福島県立医大第二外科 ): 高度進行胃癌における術前 TS-1+CDDP の適応 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 64) 的場康徳<sup>1)</sup>, 奥村 浩<sup>1)</sup>, 石神純也<sup>1)</sup>, 帆北修一<sup>1)</sup>, 夏越祥次<sup>1)</sup>, 黒島一直<sup>2)</sup>, 愛甲 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 森山雄吉<sup>3)</sup>, 松倉則夫, 飯田信也, 片山博徳<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>鹿児島大学消化器外科, <sup>2)</sup>栄和会寺田病院, <sup>3)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>4)</sup>多摩永山病院病理部 ): Omental Implantation における大網の創傷治癒作用とアポトーシス . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 65) 加藤俊二, 松倉則夫, 神田知洋, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 山下精彦, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): *Helicobacter pylori* (HP) 除菌後の胃粘膜の変化: とくに健常胃と残胃における除菌の効果と萎縮および胃粘膜 IL-8, COX2 遺伝子発現の推移との関連 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 66) 奥田武志, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭, 山下精彦, 壇 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第3 ): 難治性特発性血小板減少性紫斑病を合併した胃癌の1治験例 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 67) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼: 系統的切除不能な多発性肝細胞癌に対する各種治療法の検討 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 68) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 残胃における発癌 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 69) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>同消化器科 ): GIST・EGIST 症例における他臓器合併切除症例の検討 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 70) 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 李 栄浩, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター ): 幽門側胃切除後の残胃炎発生に対する胆汁逆流およびHP感染の意義 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 71) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 渡邊陸弥<sup>1)</sup>, 中山浩一<sup>1)</sup>, 斎藤行世<sup>2)</sup>, 工藤由比<sup>2)</sup>, 安藤真弘<sup>2)</sup>, 栗本太嗣<sup>2)</sup>, 赤沼弘勝<sup>3)</sup>, 和知栄子<sup>4)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同放射線科, <sup>4)</sup>同病理 ): TS-1+CDDP が著効したが2群, 3群リンパ節のみに転移の遺残した胃癌の2例 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 72) 李 栄浩<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 笠井源吾<sup>2)</sup>, 有馬保生, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>波崎済生病院外科, <sup>2)</sup>同内科 ): Multiseptate Gallbladder (多隔壁胆嚢) の1例 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 73) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 横室茂樹, 有馬保生, 内田英二, 田尻 孝: 切除不能胆管癌に対する1期の経皮経肝のメタリックステント挿入の経験 . 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004 . 5 .
- 74) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 奥田武志, 田尻 孝: 経皮経肝のドレナージ, ステント挿入が有効であった胃癌術後再発による輸入脚閉塞症 . 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004 . 5 .
- 75) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 秋丸琥甫, 水口義昭, 川野陽一, 高橋 翼, 清水哲也, 田尻 孝, 小野隆房<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>山王病院 ): 5年間で非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) から肝硬変へ移行したと考えられたCornelia de Lange 症候群の1例 . 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004 . 5 .
- 76) 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二, 川本聖郎, 横室茂樹, 相本隆幸, 勝野 暁, 吉田 寛, 有馬保生: 術中胆道造影検査を契機に見えられたcholedochocoele の1例 . 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004 . 5 .
- 77) 川野陽一, 秋丸琥甫, 田久保海誉<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司,

- 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (東京都老人総合研究所臨床病理): ビーグル犬における大量肝切除モデルでの小腸半量合併切除の残肝に及ぼす影響: 組織学的, 血流力学的検討. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 78) 水口義昭, 横室茂樹, 有馬保生, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 川野陽一, 清水哲也, 高橋翼, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 胆管細胞癌株 HuCC-T1 における TGF-beta1 のシグナル伝達異常. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 79) 清水哲也, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋翼, 有馬保生: 脾機能亢進症による血小板減少に対し術前に部分的脾動脈塞栓術を行い Hand-assisted laparoscopic hepatectomy 試行し得た1例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 80) 高橋 翼, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 田尻 孝: AFP 産生胃癌肝転移の3切除例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 81) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 感染性肝嚢胞の1例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 82) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科): 術前臨床診断と術後病理学的診断上, 胆管周囲進展度に顕著な差異を認めた肝門部胆管癌の1切除例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 83) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科): 非典型的な病態を呈し膵癌との鑑別が困難であった巨大嚢胞型腫瘤形成性膵炎の1例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 84) 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科): 大腸癌肝転移症例の検討. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 85) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科), <sup>2)</sup> 同病理部): von Recklinghausen 氏病に合併し膵頭十二指腸切除術を施行した胃, 十二指腸 GIST の1例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 86) 石川義典, 松本智司, 古川清憲, 高崎秀明, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 横室茂樹, 鈴木英之, 宮下正夫, 田尻 孝: 腹腔鏡にて診断・治療したメッケル憩室によるイレウスの1例. 第279回日本消化器病学会関東支部例会, 2004. 5.
- 87) 加藤俊二, 平方敦史, 川野陽一, 峯田 章, 谷合信彦, 真々田裕宏, 横室茂樹, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝切除適応症例選別の試み: 微小病巣顕在化までの癌局所コントロールとしての動注療法. 第26回日本癌局所療法研究会, 2004. 5.
- 88) 高橋 健, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科): UTI の変動からみた術前ステロイド投与の意義. 第19回日本 Shock 学会総会, 2004. 5.
- 89) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 天野 汎<sup>2)</sup>, 古川清憲, 菅 隼人, 宮下正夫, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科), <sup>2)</sup> 浦安病院): 胃癌の Schnitzler 転移による約17cmの直腸S状結腸狭窄に対し金属ステント留置が有用であった1例. 第67回日本消化器内視鏡学会総会, 2004. 5.
- 90) 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 木山輝郎, 有馬保生, 田尻 孝, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 町田稔<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理部, <sup>2)</sup> 放射線科): 乳癌術後肺塞栓症の1例. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.

- 91) 飯田信也, 古川清憲, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 源河敦史, 奥平かおり, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 有馬保生, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>東京白十字病院, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院病理部, <sup>3)</sup>同病理学第2): 当科における進行再発乳癌に対するハーセプチン・タキサン同時併用療法の治療成績. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 92) 古川恵子, 飯田信也, 古川清憲, 田尻 孝, 土屋眞一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): 乳癌取り扱い規約・細胞診断報告様式と旧分類(Class分類)との比較による検討. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 93) 野口智子, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 樋口勝美<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院病理部, <sup>2)</sup>東京白十字病院外科): Invasive micropapillary carcinoma を呈した男子乳癌の1例. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 94) 樋口勝美<sup>1)</sup>, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 源河敦史, 奥平かおり, 木山輝郎, 有馬保生, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>東京白十字病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 教室における炎症性乳癌の治療成績. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 95) 川本聖郎, 中村慶春, 野村 務, 木山輝郎, 高橋 翼, 宮下正夫, 古川清憲, 田尻 孝: 大腿ヘルニア嵌頓と契機に術前診断された閉鎖孔ヘルニアに1手術例. 第793回外科集談会, 2004. 6.
- 96) 上田純志, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 北川 亘<sup>1)</sup>, 田中久美<sup>1)</sup>, 軸間智雄<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>付属病院病理部): 内腔上皮が扁平上皮である嚢胞を合併する甲状腺乳頭癌の1例. 第793回外科集談会, 2004. 6.
- 97) 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 腸間膜原発巨大脂肪肉腫の1例. 第793回外科集談会, 2004. 6.
- 98) 加藤俊二, 松田範子, 松倉則夫, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2): 肝癌切除後の予後予測の試み: 切除組織のIL-8, COX-2, HGF mRNA 発現と線維化との関連. 第40回日本肝臓学会総会, 2004. 6.
- 99) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 非典型的な病態を呈した巨大嚢胞型腫瘤形成性膵炎の1例. 第4回東京肝臓研究会, 2004. 6.
- 100) 勝田美和子, 宮下正夫, 進士誠一, 牧野浩司, 野村 務, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 食道癌における HIF-1, VEGF, iNOS, p53 の発現と臨床病理学的因子との関連. 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
- 101) 進士誠一, 田中宣威, 瀬谷知子, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): Neuroendocrine cell tumor における lumican の発現. 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
- 102) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 中村慶春, 水口義昭, 清水哲也, 勝野 暁, 横室茂樹, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2): 膵癌に対する ERCP 下ブラシ細胞診の有用性. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 103) 奥田武志, 田尻 孝, 徳永 昭, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 山下精彦, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): 腹腔鏡下に切除出来た胃脾間膜発生 GIST の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 104) 高橋 翼, 有馬保生, 横室茂樹, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 相本隆幸, 松本智司, 中村慶春, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 内田英二, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 小児における腹腔鏡下脾臓摘出術(LS)前の脾動脈塞栓術(SAE)の検討. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 105) 寺西宣央, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 飯田信也, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 田尻 孝: 高位潰瘍型直腸粘膜脱症候群の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 106) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠沢 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 横井公良, 京野昭二, 田中宣威, 山下



- 精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (内科学第3): *H. Pylori*感染がもたらす大腸癌の危険性. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 107) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> (多摩永山病院外科): 当教室における縦隔鏡補助下食道切除術の縦隔リンパ節郭清に関する検討. 第58回日本食道学会学術集会, 2004. 6.
- 108) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 林 良紀<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 二見良平<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>(1)</sup> (内科学第3, <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科): 術前補助療法としてのCDGPの効果. 第58回日本食道学会学術集会, 2004. 6.
- 109) 勝田美和子, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 進士誠一, 柏原 元, 高橋 健, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (病理学第2, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): 食道癌におけるHIF1, VEGFA, VEGFC発現の臨床病理学的検討. 第58回日本食道学会学術集会, 2004. 6.
- 110) 黄 哲守, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 勝田美和子, 柏原 元, 高橋 健, 山下精彦, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 林良紀<sup>1)</sup>, 三枝英人<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (内科学第3, <sup>2)</sup> 耳鼻咽喉科学, <sup>3)</sup> 多摩永山病院外科): 食道小細胞癌の1治療例. 第58回日本食道学会学術集会, 2004. 6.
- 111) 廣井 信<sup>1)</sup>, 島貫公義<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (会津中央病院外科): 食道裂孔ヘルニアにより発症した輸入脚症候群の1例. 第147回東北外科集談会, 2004. 6.
- 112) 島貫公義<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (会津中央病院外科): 小腸間置による再建を施行した大腸4重複癌症例. 第147回東北外科集談会, 2004. 6.
- 113) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>1)</sup> (第二病院消化器病センター): 胃切除後の体成分組成による栄養アセスメント. 第41回日本外科代謝栄養学会, 2004. 7.
- 114) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 瀬谷知子, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 松田明久, 勝田美和子, 寺西宣央, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> (病理学第2): 抗CK20抗体を用いた免疫染色によるStagel・II大腸癌リンパ節微小転移の検出とその臨床的意義. 第61回大腸癌研究会, 2004. 7.
- 115) 神田知洋, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝, 丸山弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> (多摩永山病院外科): 食道進行癌に対する放射化学療法中にSIADHによる意識障害をきたした1例. 第280回日本消化器病学会関東支部例会, 2004. 7.
- 116) 菅野仁士, 相本隆幸, 内田英二, 牧野浩司, 奥田武志, 宮下正夫, 田尻 孝: 下血を契機に発見された十二指腸Brunner腺腫の1例. 第280回日本消化器病学会関東支部例会, 2004. 7.
- 117) 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科): 食道癌の再発に及ぼす術後合併症の影響についての検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 118) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 有馬保生, 内田英二, 田尻孝: 閉塞性黄疸に対する1期的経皮経肝のExpandable Metallic Stent (EMS) 挿入の検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 119) 有馬保生, 横室茂樹, 吉田 寛, 野村 務, 真々田裕宏, 相本隆幸, 谷合信彦, 中村慶春, 山下精彦, 田尻孝: 総胆管結石に対する腹腔鏡下総胆管切開切石術 (L-CBD)・一期的連続縫合の検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 120) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 田尻 孝: 腹腔鏡下大腸手術の術中偶発・術後合併症と開腹移行症例の検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 121) 水谷 崇, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>1)</sup> (第二病院消化器病センター): 胃切除後の体成分組成による栄養評価. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.

- 122) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2): Clinical benefit からみた膀胱癌に対する Gemcitabine 術後補助療法の功罪. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 123) 菅 隼人, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 佐々木順平, 寺西宣央, 田尻 孝: 進行・再発大腸癌に対する外来での5-FU/1-LV/CPT-11療法. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 124) 藤田逸郎, 吉行俊郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 山下精彦<sup>(1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌にGIST合併した6例. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 125) 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 川本聖郎, 横室茂樹, 有馬保生, 進士誠一, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1)病理学第2): 先天性胆道拡張症における分流手術後16年目に遺残膵内胆管内に発生した胆管癌の1切除例. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 126) 柏原 元, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 副腎機能からみた消化器手術術式別侵襲度の評価. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 127) 松田明久, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 松谷 毅, 前澤勝美, 田尻 孝: 敗血症モデルにおける Toll-like receptor の発現と Dehydroepiandrosterone による免疫賦活作用. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 128) 勝田美和子, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 進士誠一, 柏原 元, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (1)病理学第2, 2)付属病院病理部): 食道癌における血管新生関連蛋白の発現と臨床病理学的因子との検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 129) 高橋 健, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 癌手術後再発のマーカーとしての抗p53血清抗体の検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 130) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, 2)同病理部): 胃癌手術後のMRSA感染症例の検討: 周術期因子と抗生剤の投与をめぐる. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 131) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): イレウスを来した大腸癌の治療(術前減圧法の有用性について). 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 132) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 定量的マイクロサテライト分析法による胃癌組織の染色体20q領域のDNAコピー数に関する検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 133) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 徳永 昭, 吉行俊郎, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松田明久, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 重度CDPD合併胃癌手術症例に対する術前術後管理の工夫. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 134) 二見良平<sup>1)</sup>, 山下精彦, 宮下正夫, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 野村 務, 牧野浩司, 勝田美和子, 柏原 元, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌手術における術前ステロイド投与と術後血清VEGFの変動. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 135) 川野陽一, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 田尻 孝: 門脈内(Vp3)および下大静脈内腫瘍栓(Vv3)を伴った肝細胞癌に対する手術. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 136) 水口義昭, 横室茂樹, 有馬保生, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 秋丸琥甫, 田尻

- 孝：胆道悪性閉塞性黄疸患者の減黄不良因子としての血清 collagen type4 の検討．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 137) 清水哲也，横室茂樹，水口義昭，川東 豊，有馬保生，谷合信彦，真々田裕宏，吉田 寛，秋丸琥甫，田尻 孝：肝内胆管癌における TGF- $\alpha$  および炎症性サイトカイン IL-6 の発現と相互作用．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 138) 赤城一郎，古川清憲，鈴木英之，加藤俊二，吉行俊郎，松田明久，水谷 崇，木山輝郎，吉田 寛，宮下正夫，高崎秀明，有馬保生，内田英二，秋丸琥甫，田尻 孝：EBM に基づいた手術創の管理と医療経済．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 139) 増田剛太郎<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>2)</sup>，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，江上 格<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>第二病院消化器病センター)：若年者胃癌の臨床病理学的特徴とリスクファクターの研究．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 140) 金沢義一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，京野昭二<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科)：進行胃癌 (stageIV)，再発胃癌症例に対する TS-1 投与の成績の検討．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 141) 山田岳史<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，京野昭二<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，山下精彦，田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科)：大腸癌における組織内 OPRT, DPD, TS 活性の臨床病理学検討．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 142) 沖野哲也，木内博之<sup>1)</sup>，小川芳雄<sup>1)</sup>，高橋由至<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，寺田淑恵<sup>1)</sup>，福岡 猛<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>北村山公立病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科)：高度進行胃癌に対し，TS-1が無効で，CPT-11および Docetaxel 化学療法が奏効した1例．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 143) 富樫晃祥<sup>1)</sup>，松倉則夫，増田剛太郎<sup>1)</sup>，加藤俊二，松久威史<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院消化器科)：<sup>13</sup>C尿素呼吸試験による残胃での簡便かつ最適な *H. pylori* 検出法．第10回日本ヘリコバクター学会，2004．7．
- 144) 松久威史<sup>1)</sup>，松倉則夫，山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>2)</sup>病理学第2)：ベトナム (ホー・チ・ミン，フェ) における胃十二指腸疾患，*Helicobacter pylori* 感染，背景胃粘膜の観察：日本との比較を含めて．第10回日本ヘリコバクター学会，2004．7．
- 145) 山下直行<sup>1)</sup>，吉田初雄<sup>1)</sup>，湖山信篤<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>2)</sup>，櫻澤信行<sup>1)</sup>，和知栄子<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>坪井病院外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院外科，<sup>3)</sup>坪井病院病理)：胃空腸吻合合併後29年目に発生した胃癌の1例．第15回日本消化器癌発生学会総会，2004．8．
- 146) 神田知洋，加藤俊二，松倉則夫，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，宮下正夫，内藤善哉<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2)：*Helicobacter pylori* (HP) の感染をとまなわない胃癌症例の解析．第15回日本消化器癌発生学会総会，2004．8．
- 147) 富樫晃祥，松倉則夫，増田剛太郎，加藤俊二，江上 格，田尻 孝：残胃での<sup>13</sup>C尿素呼吸試験，培養，鏡検，PCR法，血清抗体価での *H. pylori* 検出．潰瘍病態研究会第13回フォーラム，2004．8．
- 148) の場康徳<sup>1)</sup>，夏越祥次<sup>1)</sup>，奥村 浩<sup>1)</sup>，内門泰斗<sup>1)</sup>，黒島一直<sup>1)</sup>，愛甲 孝<sup>1)</sup>，赤坂喜清<sup>2)</sup>，松倉則夫，徳永昭<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>鹿児島大学消化器外科，<sup>2)</sup>東邦大学医学部病理学第2，<sup>3)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター)：Omental Implantation の創傷治癒過程におけるアポトーシス発現性と Scar-less Repair との関連．潰瘍病態研究会第13回フォーラム，2004．8．
- 149) 谷合信彦，秋丸琥甫，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，吉田 寛，真々田裕宏，田尻 孝：3枝 CABG術後肝不全に対する生体肝移植の1例．第40回日本移植学会総会，2004．9．
- 150) 石川義典，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，飯田信也，松本智司，菅 隼人，鶴田宏之，古川恵子，田尻 孝：慢性リンパ性白血病合併盲腸癌の1例．第794回外科集談会，2004．9．
- 151) 横室茂樹，田尻 孝，有馬保生，水口義昭，清水哲也，川東 豊：マウス正常胆管上皮細胞培養の確立．第40

- 回日本胆道学会学術集会, 2004 . 9 .
- 152) 水口義昭, 横室茂樹, 有馬保生, 清水哲也, 川東 豊, 田尻 孝: 胆管癌 cell line HuCCT1 における TGFβ-1 のシグナル伝達異常 . 第40回日本胆道学会学術集会, 2004 . 9 .
- 153) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 有馬保生, 田尻 孝: 肝内胆管癌細胞株 HuCCT-1 における TGF-1 と IL-6 の発現と相互作用 . 第40回日本胆道学会学術集会, 2004 . 9 .
- 154) 川東 豊, 田尻 孝, 有馬保生, 横室茂樹, 水口義昭, 清水哲也: 胆汁細胞診が有効であった肝内胆管癌の1例 . 第40回日本胆道学会学術集会, 2004 . 9 .
- 155) 神田知洋, 松本智司, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 山本一仁, 古川恵子, 川本聖郎, 田尻 孝: 会陰部皮膚に広範な Page 現象を来した肛門管粘膜癌の1例 . 第281回日本消化器病学会関東支部例会, 2004 . 9 .
- 156) 加藤俊二, 松倉則夫, 松田範子, 神田知洋, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* (HP) の既感染をともなわない胃癌症例の解析 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 157) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 勝田美和子, 柏原 元, 田尻 孝, 山下精彦, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>付属病院病理部): 食道扁平上皮癌の予後と p53, HIF-1, VEGF-A, VEGF-C, iNOS 蛋白の発現との検討 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 158) 勝田美和子, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 進士誠一, 柏原 元, 高橋 健, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 食道扁平上皮癌のリンパ節転移における HIF-1 , VEGF-C の発現 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 159) 高橋 健, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二, 山下精彦: 食道癌手術後再発マーカーとしての抗 p53 血清抗体, CEA, SCC の検討 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 160) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例における EMMPRIN, MMP-9, IV 型コラーゲンの発現 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 161) 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 進行膀胱癌 (stageIV) における gemcitabine の有用性 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 162) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 加齢と胃癌: 治療上の留意点 . 第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 163) 萩原 研<sup>1)</sup>, 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 西澤健司<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 三橋恭子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>同看護部): クリニカルパス適用胃切除患者における Cefazolin (CEZ) と Ampicillin/Sulbactam (SBT/ABPC) の術後感染発症阻止効果ならびに費用対効果の比較 . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 164) 松田 健<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 渡邊秀裕<sup>2)</sup>, 宮本昌之<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科): 外傷性後腹膜乳糜性リンパ嚢腫の1例 . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 165) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 飯田信也, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): 大腸癌イレウスの治療 (安全な一期的手術を目指して) . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 166) 青木 律<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup>, 久保一人<sup>1)</sup>, 青木雅

- 代<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 青木伸峰<sup>1)</sup>, 橘田絵理香<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>形成外科・美容外科): non-ablative skin rejuvenation 特にレーザーと高周波治療器について. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 167) 内田英二, 加藤俊二, 鈴木英之, 野村 務, 藤田逸郎, 水谷 崇, 田尻 孝: 新卒後臨床研修制度における当科の外科研修システム. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 168) 宮下正夫, 二見良平, 高橋 健, 柏原 元, 勝田美和子, 牧野浩司, 野村 務, 山下精彦, 田尻 孝: 新しい癌検診: p53血清抗体検査による癌ハイリスク症例の選別. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 169) 加藤俊二, 奥田武志, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): 胃全摘 Roux-Y 再建術後の loop 小腸に発生した粘膜内癌とピロリ菌 ( *HP* ) 陽性異所性胃粘膜の経験. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 170) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 古川恵子, 田尻 孝: EBM に基づく周術期の感染対策と経済効果: 手術創管理の見直し. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 171) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 野村 務, 菅 隼人, 鶴田宏之, 田尻 孝: イレウスに対する内視鏡外科手術. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 172) 木山輝郎, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃切除周術期・術後の体成分組成による栄養評価. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 173) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 田尻 孝, 加藤俊二, 古川清憲, 徳永 昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃切除クリニカルパスにおける予防抗菌薬: CEZ と SBT/PC の比較. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 174) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 救命しえた医原性汎発性腹膜炎を来たした肝膿瘍破裂の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 175) 横室茂樹, 有馬保生, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 高橋 翼, 田尻 孝: 小児に対する脾動脈塞栓術併用腹腔鏡下脾臓摘出術. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 176) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌術後早期経腸栄養に関する検討. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 177) 野村 務, 古川清憲, 鈴木英之, 木山輝郎, 真々田裕宏, 高橋 翼, 田尻 孝: 教室における鼠径部ヘルニア術式の変遷. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 178) 水谷 崇, 田尻 孝, 木山輝郎, 吉行俊郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 徳永 昭, 山下精彦: 胃切除クリニカルパスによる周術期管理の変化. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 179) 飯田信也, 古川清憲, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): HER 2 陽性進行乳癌に対するハーセプチン・タキサン併用 primary chemotherapy の経験. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 180) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 田尻 孝: 膀胱癌に対する外科的治療成績と術後補助療法の意義. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 181) 奥田武志, 田尻 孝, 徳永 昭, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 内田英二, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 矢野正雄<sup>1)</sup>, 猪口正孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院病理部, <sup>2)</sup>平成立石病院外科): 胃原発巨大GISTの1治験例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 182) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: Virchow リンパ節転移にて再発した肝細胞癌の1切除例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 183) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 当科における食道癌集学的治療の戦略. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 184) 菅 隼人, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 飯田信也, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久,

- 佐々木順平, 寺西宣央, 田尻 孝: S状結腸癌術後に多発性肺転移を来した, 5-FU/1-LV/CPT-11 3者併用化学療法開始後32ヶ月の長期生存が得られた1症例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 185) 中村慶春, 内田英二, 有馬保生, 相本隆幸, 川本聖郎, 張 一光, 勝野 暁, 野村 務, 横室茂樹, 田尻 孝: 術中胆道造影検査にて膵・胆管合流部の異常を指摘しえた3例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 186) 川野陽一, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 田尻 孝, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 肝胆膵外科領域における動脈性出血に対するIVR. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 187) 古川恵子, 古川清憲, 野口智子, 岩崎玲子, 飯田信也, 樋口勝美, 田尻 孝: 当院でのセンチネルリンパ節 (SLN) 生検の成績. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 188) 柏原 元, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 高橋 健, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌における部位別術後再発形式の検討. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 189) 高橋 翼, 古川清憲, 鈴木英之, 木山輝郎, 野村 務, 真々田裕宏: 成人鼠径ヘルニア修復術における Kugel patch の使用経験. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 190) 清水哲也, 有馬保生, 横室茂樹, 吉田 寛, 水口義昭, 川東 豊, 中村慶春, 相本隆幸, 谷合信彦, 真々田裕宏, 野村 務, 内田英二, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 腹腔鏡下胆嚢摘出術の術中, 術後に診断された胆嚢癌症例の検討. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 191) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): UTI測定による食道癌術後侵襲の評価. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 192) 柿沼大輔, 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 松山孝義, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝転移を強く疑った播種性顆粒膜細胞腫の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 193) 山初和也, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 柏原 元, 有馬保生, 田尻 孝: 粘稠な嚢胞内粘液によって急性膵炎を発症した膵嚢胞性腫瘍の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 194) 赤城一郎, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): Behcet 病の寛解期に併存した食道扁平上皮癌の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 195) 川本聖郎, 中村慶春, 野村 務, 木山輝郎, 高橋 翼, 柏原 元, 相本隆幸, 内田英二, 古川清憲, 田尻 孝: 複数の外ヘルニアを合併した閉鎖孔ヘルニアの2手術例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 196) 岩崎玲子, 奥田武志, 田尻 孝, 藤田逸郎, 松本智司, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭, 田中 周<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 小腸鏡で発見し得た小腸GISTの3症例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 197) 野口智子, 古川清憲, 岩崎玲子, 古川恵子, 飯田信也, 樋口勝美, 田尻 孝: 骨, 軟骨, および扁平上皮化生, 紡錘形細胞への分化を伴う乳腺化生癌の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 198) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): 消化管及び消化管外原発GIST症例の治療方針について. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 199) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 上部領域癌との比較を通してみた噴門側残胃癌の位置付け. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 200) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷

- 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 肝癌に対する腹腔鏡超音波プローブ下小開胸経横隔膜的ラジオ波凝固療法 ( L-T-RFA ) の有効性とその手技に関する検討 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 201) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): Epirubicin/docetaxel による化学療法とビスフォスネート併用が奏功し良好なQOLが得られている肺転移・骨転移を有するStage-4 乳癌3症例の検討 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 202) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 胃癌術後多発肝転移にラジオ波凝固療法を施行した1例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 203) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 山下精彦 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): 一過性の黄疸と腹痛で発症, 精査後手術し得た肝内胆管癌の1例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 204) 堀場光二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): Stage1 乳癌術後4年目に左卵巣転移をきたした1例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 205) 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): Gemcitabine + Cisplatin により膀胱癌術後再発の腹水に著効した1例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 206) 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>同病理部 ): 腋窩リンパ節転移にて発症, 経過観察中に原発巣が明らかとなった乳腺アポクリン癌の1例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 207) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): 高齢者における消化器癌手術前後のサブスタンスPの変動と術後誤嚥性肺炎 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 208) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 田中宣威<sup>1)</sup>, 内田英二, 中村慶春 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): 診断, 治療に難渋した自己免疫性重症急性膵炎の1例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 209) 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 吉安正行<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>博慈会記念総合病院外科 ): Prolene Hernia System を使用した腹壁癒痕ヘルニアの1手術例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 210) 池田研吾<sup>1)</sup>, 吉安正行<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>博慈会記念総合病院外科 ): 全結腸壊死および穿孔をきたした静脈硬化性大腸炎の1切除例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 211) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 中山浩一<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 渡邊睦昭<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 細野由希子<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院 ): 早期胃癌の死亡症例の検討 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 212) 樋口勝美<sup>1)</sup>, 古川清憲, 岩崎玲子, 野口智子, 古川恵子, 飯田信也, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>東京白十字病院外科 ): 乳腺 Intracystic Papillary Carcinoma ( 嚢胞内乳頭癌 ) の1例 . 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 213) 加藤俊二, 谷田貝茂雄<sup>1)</sup>, 水谷 崇, 真々田裕宏, 横室茂樹, 木山輝郎, 松倉則夫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>やたがいくリニック・内科 ): 癌を否定できない胃の潰瘍性病変に対する胃潰瘍診断ガイドラインの問題点: 約半年後に癌性腹膜炎となった2症例 . 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004 . 10 .
- 214) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 当教室における食道 m3, sm1 癌に対する治療成績: 外科治療, 内視鏡の治療,

- RT, CRT の比較. 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004. 10.
- 215) 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二, 川本聖郎, 張 一光, 勝野 暁, 横室茂樹, 有馬保生, 相本隆幸: 臍癌による十二指腸狭窄に対し内視鏡下ステント留置術を施行した1例. 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004. 10.
- 216) 水口義昭, 田尻 孝, 横室茂樹, 有馬保生, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 川野陽一, 清水哲也, 高橋 翼: TGF-beta 1 gene therapy by shRNA of liver damage in vitro. 第8回日本肝臓学会大会, 2004. 10.
- 217) 川野陽一, 秋丸琥甫, 松本光司<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院病理部, <sup>2)</sup>老人総合研究所生体機能調節と加齢研究グループ): ビーグル犬における大量肝切除モデルでの門脈圧減少を目的とした小腸半量合併切除の組織学的検討. 第8回日本肝臓学会大会, 2004. 10.
- 218) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 有馬保生, 柿沼大輔, 高橋 翼, 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝内胆管癌における TGF- 1 および IL-6 の発現と相互作用. 第8回日本肝臓学会大会, 2004. 10.
- 219) 高橋 翼, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 秋丸琥甫, 田尻 孝: Laser captured microdissection 法を用いた HCC, 転移性肝癌の TS, DPDmRNA の検討. 第8回日本肝臓学会大会, 2004. 10.
- 220) 松田範子, 秋丸琥甫, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 田尻 孝, 田久保海誉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京都老人医療センター臨床病理科): 障害肝切除後残肝再生に対する高気圧酸素療法の意義. 第8回日本肝臓学会大会, 2004. 10.
- 221) 水谷 崇, 田尻 孝, 黄 哲守, 野口智子, 重原健吾, 鈴木英之, 高崎秀明, 古川清憲: 原発性回腸粘液癌の1例. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 222) 奥田武志, 田尻 孝, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 胃 GIST の臨床病理学的特徴と治療. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 223) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌の治療前生検組織における分子生物学的解析の臨床応用. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 224) 藤田逸郎, 田尻 孝, 宮下正夫, 加藤俊二, 吉行俊郎, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 胃癌に合併したGIST 12症例の検討. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 225) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 渡邊睦弥<sup>1)</sup>, 中山浩一<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>坪井病院外科): 噴門側胃切除23年後に腹壁浸潤で発症した残胃癌の1例. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 226) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 瀬谷知子, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松田明久, 勝田美和子, 寺西宣央, 田尻 孝, 石綿俊二<sup>1)</sup>, 池川繁男<sup>1)</sup>, 石綿俊行<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>近畿大学病院薬剤学, <sup>2)</sup>日本医科大学病理学第2): 大腸癌における USP14/TGT60kDa 発現の臨床的意義. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 227) 川本聖郎, 田尻 孝, 中村慶春, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup>病理学第2): 発育が非常に緩徐であった無症候性膵内分泌腫瘍の1例. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 228) 松田 健<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>同病理部): C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の3例. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 229) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同



- 病理部,<sup>3)</sup>同消化器科,<sup>4)</sup>老人病研究所病理部門): 定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における 16q 領域の DNA コピー数欠失についての検討. 第 46 回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 230) 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 増田剛太郎<sup>2)</sup>, 加藤俊二, 松久威史<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院消化器科,<sup>2)</sup>同外科): 残胃での<sup>13</sup>C 尿素呼吸試験を用いた最適な *H. pylori* 検出法. 第 46 回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 231) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 横井公良, 京野昭二, 田中宣威, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3): 大腸癌, 大腸腺腫と *Helicobacter pylori* 感染との関係に対する検討. 第 46 回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 232) 加藤俊二, 松倉則夫, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 田尻 孝: 同時性もしくは異時性多発胃癌(胃切除後早期の残胃の癌)に対する治療戦略: *Helicobacter pylori* (HP)術前除菌治療による内視鏡スクリーニング. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 233) 古川恵子, 古川清憲, 飯田信也, 加藤俊二, 田尻 孝: 当院でのセンチネルリンパ節 (SLN) 生検の成績. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 234) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 胃癌の再発死亡例(主再発経路でみた検討). 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 235) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, Ghzizadeh M<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>4)</sup>, 松田 健<sup>4)</sup>, 松久威史<sup>4)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>老人病研究所分子病理部門,<sup>3)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>4)</sup>同消化器科): 定量的 real time PCR 法を用いた胃癌組織の DNA コピー数変化と新規 Molecular marker の検索. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 236) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 抗癌剤投与による悪心・嘔吐におけるサブスタンス P. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 237) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 山下直行, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下噴門側胃切除の検討. 第 34 回胃外科・術後障害研究会, 2004. 11.
- 238) 松田範子, 秋丸琥甫, 川野陽一, 木山輝郎, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 吉村成子<sup>2)</sup>, 恩田昌彦, 田尻 孝, 田久保海誉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター,<sup>2)</sup>吉村せいこクリニック,<sup>3)</sup>東京都老人総合研究所高齢者の臓器と組織の研究グループ): 障害肝切除後残肝再生に対する高圧酸素療法の意義. 第 39 回日本高気圧環境医学会総会, 2004. 11.
- 239) 吉村成子<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 恩田昌彦, 森山雄吉<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 秋丸琥甫, 高崎秀明, 木山輝郎, 松田範子<sup>(1)</sup>吉村せいこクリニック,<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター): 最近, 急増している減圧症の分析. 第 39 回日本高気圧環境医学会総会, 2004. 11.
- 240) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松田明久, 進士誠一, 田尻 孝: 腹腔鏡下大腸手術の偶発症・合併症対策. 第 59 回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 241) 菅 隼人, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 田尻 孝: 放射線化学療法 (CRT) が奏功した進行肛門癌の 1 例. 第 59 回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 242) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 松田明久, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>病理学第2): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討. 第 59 回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 243) 赤城一郎, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松田明久, 進士誠一, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝: メシル酸イマチニブ (Glivec) による術前補助化学療法後に切除し得た直腸原発 gastrointestinal stromal tumor (GIST) の 1 例. 第 59 回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.

- 244) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一, 山下精彦, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例における EMMPRIN, MMP-9, IV型コラーゲンの発現. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 245) 松田明久<sup>1)</sup>, 高橋慶一<sup>1)</sup>, 松本 寛<sup>1)</sup>, 山口達郎<sup>1)</sup>, 宮本英典<sup>1)</sup>, 森 武生<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝(<sup>1)</sup>都立駒込病院外科): HIV陽性患者に合併した直腸原発扁平上皮癌の1例. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 246) 鶴田宏之, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 松本智司, 進士誠一, 松田明久, 田尻 孝: サイトメガロウイルス感染を併発した潰瘍性大腸炎の1例. 第17回日本外科感染症学会学術集会, 2004. 11.
- 247) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 野村 務, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 田尻 孝: 腹腔鏡下に切除した下行結腸間膜嚢胞性リンパ管腫の1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 248) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下胃切除の栄養学的評価. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 249) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 加藤俊二, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下噴門側胃切除の検討. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 250) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 有馬保生, 鈴木英之, 横室茂樹, 木山輝郎, 水谷 崇, 中村慶春, 柏原 元, 高橋 健, 勝田美和子, 田尻 孝: 腹部操作をHALSにて行う縦隔鏡補助下食道切除術. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 251) 水谷 崇, 水口義昭, 寺西宣央, 野村 務, 中村慶春, 有馬保生, 木山輝郎, 高崎秀明, 古川清憲, 田尻 孝, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科学): 腹腔鏡下手術後に5mmポート挿入部より発生したRichter's herniaの1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 252) 中村慶春, 内田英二, 有馬保生, 横室茂樹, 野村 務, 小林 匡, 相本隆幸, 山村 進, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 石川義典, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下脾温存尾側脾切除を施行したMEN1型に属する膵内分泌腫瘍の1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 253) 川本聖郎, 中村慶春, 内田英二, 横室茂樹, 野村 務, 小林 匡, 相本隆幸, 山村 進, 勝野 暁, 張 一光, 石川義典, 有馬保生, 田尻 孝: 胆嚢疾患に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術中の胆道造影検査を契機に発見されたcholechoceleの2例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 254) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 巨大肝嚢胞と胆嚢結石に対し同時に腹腔鏡下外科手術を施行した1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 255) 赤城一郎, 木山輝郎, 古川清憲, 藤田逸郎, 鈴木英之, 吉田 寛, 加藤俊二, 宮下正夫, 高崎秀明, 有馬保生, 内田英二, 田尻 孝: 手術創の管理が医療経済に及ぼす影響. 第34回日本創傷治療学会, 2004. 11.
- 256) 山本一仁, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 飯田信也, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 相本隆幸, 古川恵子, 進士誠一, 山下精彦, 田尻 孝, 田中 周<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 大量出血をきたした空腸憩室の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 257) 柏原 元, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): アルカリ誤飲による腐食性食道炎の2例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 258) 松田 健<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科): 剥離性食道炎の2例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 259) 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 短期間に形態変化した胃潰瘍合併進行胃癌の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.

- 260) 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)千葉北総病院外科</sup>): 腸重積を伴った大腸癌の2例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 261) 京野昭二<sup>1)</sup>, 山初順一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 長谷川博一<sup>2)</sup>, 石川紀行<sup>2)</sup>, 堀場光二<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 白川毅<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)泉中央病院, (2)千葉北総病院外科</sup>): 併存する多発性隆起性病変により診断および治療に難渋した多発早期胃癌の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 262) 木山輝郎, 古川清憲, 野口智子, 岩崎玲子, 古川恵子, 飯田信也, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)東京白十字病院外科, (2)日本医科大学付属病院病理部</sup>): 乳腺化生癌の1例. 第1回日本乳癌学会関東地方会, 2004. 12.
- 263) 岩崎玲子, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 野口智子, 木山輝郎, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)東京白十字病院外科, (2)日本医科大学付属病院病理部</sup>): 乳頭腺管癌と鑑別困難であった ductal adenoma の1例. 第1回日本乳癌学会関東地方会, 2004. 12.
- 264) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>(1)多摩永山病院外科, (2)同病理部</sup>): 臨床的に浸潤性乳管癌(硬癌)との鑑別が困難であった乳腺症の1例. 第1回日本乳癌学会関東地方会, 2004. 12.
- 265) 柏原 元, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 山下精彦, 田尻 孝: 視床下部下垂体副腎系(HPA axis) からみた腹腔鏡補助下幽門側胃切除術(LADG)における手術侵襲の評価. 第11回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2004. 12.
- 266) 宮下正夫, 高橋 健, 牧野浩司, 野村 務, 山下精彦, 新見晶子<sup>1)</sup>, 前田 淳<sup>1)</sup>, 山下克子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)東京女子医科大学附属成人医学センター</sup>): p53 血清抗体検査による新しい癌検診. 第39回日本成人病(生活習慣病)学会, 2005. 1.
- 267) 加藤俊二, 松倉則夫, 神田知洋, 宮下正夫, 塚田克也<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)病理学第2</sup>): *H. Pylori*除菌後の潰瘍再発の可能性: 残胃における胃酸分泌の面からの解析. 第39回日本成人病(生活習慣病)学会, 2005. 1.
- 268) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)千葉北総病院外科, (2)病理学第2</sup>): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討. 第62回大腸癌研究会, 2005. 1.
- 269) 寺西宣央, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一, 松田明久, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)病理学第2</sup>): 進行大腸癌における簇出と臨床病理学的因子についての検討. 第62回大腸癌研究会, 2005. 1.
- 270) 菅野仁士, 田尻 孝, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 壇 和夫<sup>2)</sup>(<sup>1)第二病院消化器病センター, (2)内科学第3</sup>): 胃悪性リンパ腫と併存したGISTの1例. 第283回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 2.
- 271) 石井暢明<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 小野慎平<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, 丹羽 明<sup>2)</sup>(<sup>1)日本医科大学内科学第3, (2)にわ医院</sup>): 消化管出血を来した十二指腸動静脈奇形の1例. 第283回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 2.
- 272) 中村慶春, 横室茂樹, 野村 務, 水谷 崇, 木山輝郎, 鈴木英之, 内田英二, 有馬保生, 田尻 孝: 膵胆管合流異常を合併した先天性胆道拡張症に対し腹腔鏡補助下手術を施行した1例. 第13回クリニカル・ビデオフォーラム(CVF), 2005. 2.
- 273) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 重症心疾患患者に対する生体肝移植の1例. 第4回肝移植医療フォーラム,

2005 . 2 .

- 274) 加藤俊二, 松倉則夫, 藤田逸郎, 神田知洋, 栗田二郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): 残胃における *Helicobacter pylori* (HP)除菌治療の問題点 . 第5回UGI研究会, 2005 . 2 .
- 275) 長澤重直<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 腹腔鏡下総胆管切石術 ( LAP CBDE ) における手技上の進歩とその定義 . 第24回多摩消化器シンポジウム, 2005 . 2 .
- 276) 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科 ): 門脈浸潤を伴う進行HCC に対してIFN / 5FU動注化学療法が奏功した1例 . 第41回三多摩肝臓談話会, 2005 . 2 .
- 277) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部 ): 再発GIST・EGIST症例に対するメシル酸イマチニブによる分子標的療法の経験 . 第3回日本臨床腫瘍学会総会, 2005 . 3 .
- 278) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 横室茂樹, 有馬保生, 田尻 孝 : 臍頭十二指腸切除術後にRTPD tubeにより胆道出血をきたした1例 . 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .
- 279) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 出血を繰り返した十二指腸憩室に対し, 憩室縫縮術にて治療し得た1例 . 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .
- 280) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 大秋美治<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部 ): 吐血によって発症した胃GISTの2例 . 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .
- 281) 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋翼, 田尻 孝 : CDDP併用5-FU持続動注化学療法により長期生存が得られた多発性肝細胞癌の1例 . 第28回リザーバー研究会, 2005 . 3 .

#### (9) 診療と研究のトピックス :

- 1) 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>放射線医学 ): 臍動脈瘤破裂に対する超選択的動脈塞栓術の有用性 : 11例における検討 ( IVR ). 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .

## [ 多摩永山病院外科 ( 消化器外科・乳腺外科・一般外科 ) ]

### 研究概要

「研究体制とその現状」

研究目的 : 臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ, 治療成績の向上を目指すこと .

研究体制 : 消化器系臓器別に上部消化官, 下部消化官, 肝・胆・膵の3領域における病態生理, 臨床病理的研究を行う体制をとっている . 研究課題は, 癌に関連するものが多い . 手術手技, 腹腔鏡下手術など外科特有のものもある . 研究者は, 自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている .

研究材料, 方法 : 診療業務から得た臨床データ, 血液, 組織, 臓器等を材料としている . 病理組織学的方法を用いる場合には, 当院病理部との共同研究となる . 分子生物学的方法を用いる場合は, 第二病院・老人病研究所の協力, 指導を得ている .

文部科学省，厚生労働省の科学研究補助金による研究，多施設共同研究，日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。

研究結果の公表：各医学会地方会，総会多摩地域の研究会で発表する。あるいは，原著，症例報告著書等に論文として公表する。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kang SC, Matsutani T, Choudhry M, Schwacha MG, Rue LW, Bland KI, Chaudry IH: Are the immune responses different in middle-aged and young mice following bone fracture, tissue trauma and hemorrhage. *Cytokine* 2004; 26 (5): 223-230.
- 2) Shih-ching K, Choudhry MA, Matsutani T, Schwacha MG, Rue LW, Bland KI, Chaudry IH: Splenectomy differentially influences immune responses in various tissue compartments of the body. *Cytokine* 2004; 28 (3): 101-108.
- 3) Matsutani T, Sammy TS, Kang SC, Rue III LW, Bland KI, Chaudry IH: Mouse genetic background influences severity of immune responses following trauma-hemorrhage. *Cytokine* 2004; 30 (4): 168-176.
- 4) Suzuki S, Egami K, Sasajima K, Mohammad G<sup>3)</sup>, Shimizu H<sup>3)</sup>, Wanatabe H, Hasegawa H, Iida S, Matsuda T<sup>1)</sup>, Okihama Y<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>4)</sup>, Kawanami O<sup>3)</sup>, Tajiri T<sup>5)</sup> (1) Gastroenterology Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 2) Pathology Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, 4) Second Department of Surgery, 5) First Department of Surgery): Comparative Study between DNA Copy Number Aberrations Determined by Quantitative Microsatellite Analysis and Clinical Outcome in Patients with Stomach Cancer. *Clinical Cancer Research* 2004; 10 (9): 3013-3019.
- 5) Matsutani T, Sammy TS, Rue III LW, Bland KI, Chaudry IH: Transgenic prolactin-/-Mice Effort of Trauma-Hemorrhage on Splenocyte Functions. *Am J Physiol Cell Physiol* 2005; 288 (5): C1109-C1116.
- 6) 渡邊秀裕，鈴木成治，江上 格：リンパ節転移の予後に及ぼす影響（高齢者胃癌治療切除例での検討）。日本高齢消化器医学会誌 2004; 6 (2): 24-29.

#### (2) 綜説：

- 1) 横山 正，江上 格，宮本昌之，相本隆幸，中村慶春<sup>1)</sup>，福原宗久，内田英二，田尻 孝<sup>1)</sup> (1) 外科学第1): 「膵癌のリスクファクター」糖尿病：過去10年間の自験症例における検討から。膵臓 2004; 19 (2): 110-117.

#### (3) 症例報告：

- 1) 松谷 毅，古川清憲，高崎秀明，松田明久，宮下正夫，田尻 孝：肝細胞癌と直腸癌の同時性重複癌の1例。日臨外会誌 2005; 66 (1): 235-239.
- 2) 松谷 毅，笹島耕二，天野 汎<sup>1)</sup>，江上 格，菅 隼人<sup>2)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，山下精彦<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 浦安病院，2) 日本医科大学外科学第1): Schnitzler 転移による約17cmの直腸狭窄症状の改善に金属ステント留置が有用であった1例。Gastroenterological Endoscopy 2005; 47 (3): 343-347.

### 著書

- 1) Miyashita M, Kashiwabara M, Takahashi K, Takeda S, Matsutani T, Maruyama H, Nomura T, Makino H, Tajiri T: [自著] The old therapy with a new: concept backup corticosteroid in surgical trauma. In: 11<sup>th</sup> Congress of the European shock society (ed. H. Redel). Monduzzi Editore S. R. L, 2005; pp31-35, Bologna, Italy.

- 2) Matsutani T , Miyashita M , Sasajima K , Maruyama H , Egami K , Miyamoto M , Yokoyama T , Suzuki S , Futami R , Tajiri T : [ 自著 ] Correlation between inflammatory mediators and liver dysfunction in post-surgical sepsis. In : 11<sup>th</sup>Congress of the European shock society ( ed. H. Redel ). Monduzzi Editore S. R. L , 2005 ; pp167-170 , Bologna, Italy .

#### 学会発表

##### (1) ワークショップ :

- 1) 渡辺秀裕 , 江上 格 , 笹島耕二 , 長谷川博一 , 宮本昌之 , 鈴木成治 , 横山 正 , 丸山 弘 , 松谷 毅 , 土屋喜一 , 福原宗久 , 二見良平 , 増田剛太郎 , 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 高齢者手術の問題点 (胃癌例の検討). 第29回日本外科系連合学会学術集会 , 2004 . 7 .

##### (2) 一般講演 :

- 1) Matsutani T , Miyashita M , Sasajima K<sup>1)</sup> , Maruyama H , Nomura T<sup>1)</sup> , Makino H<sup>1)</sup> , Tsuchiya Y<sup>1)</sup> , Futami R<sup>1)</sup> , Kashiwabara M<sup>1)</sup> , Katsuta M<sup>1)</sup> , Takahashi K<sup>1)</sup> , Matsuda A<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>1)</sup> , Egami K , Tajiri T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Surgery I): Methylprednisolone attenuates cyfra 21-1 levels in bronchoalveolar lavage fluid following severe surgical trauma . Twenty-seventh Annual Conference on Shock ( Halifax Canada ) , 2004 . 6 .
- 2) Futami R , Egami K , Sasajima K , Miyamoto M , Yokoyama T , Matsutani T , Masuda G , Watanabe H , Maruyama H , Suzuki S , Nagasawa S , Fukuhara M , Kawano Y , Togashi A , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I): Laparoscopic treatment for symptomatic multiple liver cysts with cholelithiasis ; A case report . Endoscopic and laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting 4th World Congress of Gasless laparoscopic Suregery ( Nusa Dua Bali, Indonesia ) , 2004 . 9 .
- 3) Miyamoto M , Egami K , Sasajima K , Watanabe H , Yokoyama T , Suzuki S , Maruyama H , Matsutani T , Nagasawa S , Fukuhara M , Futami R , Masuda G , Togashi A , Kawano Y (<sup>1)</sup>Department of Surgery I): Comparison of Perioperative Outcomes Between Two Different Procedures ; Laparoscopic and Open RFA for HCC in One Patient Performed Metachronously . Endoscopic and laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting 4th World Congress of Gasless laparoscopic Suregery ( Nusa Dua Bali, Indonesia ) , 2004 . 9 .
- 4) Egami K , Sasajima K , Watanabe H , Miyamoto M , Yokoyama T , Suzuki S , Maruyama H , Matsutani T , Nagasawa S , Fukuhara M , Futami R , Masuda G , Togashi A , Kawano Y , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I): Short-term Outcome Following Laparoscopic-Assisted Colectomy VS Open Colectomy for Colon Cancer . Endoscopic and laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting 4th World Congress of Gasless laparoscopic Suregery ( Nusa Dua Bali, Indonesia ) , 2004 . 9 .
- 5) Watanabe H , Egami K , Sasajima K , Miyamoto M , Suzuki S , Yokoyama T , Maruyama H , Matsutani T , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I): Availability and Evaluation of Decompression Treatment with a Drainage Tube for Acute Colonic Obstruction Caused by Colorectal Cancer . 19th World Congress of International Society for Digestive Suregery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 6) Miyamoto M , Egami K , Sasajima K , Watanabe H , Yokoyama T , Maruyama H , Suzuki S , Matsutani T , Fukuhara M , Futami R , Isobe H , Hosone M , Maeda S , Uchida E<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I): Intraoperative fine-needle aspiration cytology for pancreatic tumors . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) , 2004 . 12 .
- 7) Suzuki S , Egami K , Sasajima K , Watanabe H , Miyamoto M , Yokoyama T , Maruyama H , Matsutani T , Fukuhara M , Masuda G , Futami R , Matsuhisa T<sup>1)</sup> , Okihama Y<sup>1)</sup> , Matsuda T<sup>1)</sup> , Hosone M<sup>2)</sup> , Liu A <sup>2)</sup> , Maeda S <sup>3)</sup> , Tajiri T <sup>3)</sup> : Assessment of clinicopathological findings and clinical outcome in patients with GIST and EGIST . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ) ,

2004 . 12 .

- 8) Matsutani T, Egami K, Sasajima K, Watanabe H, Miyamoto M, Yokoyama T, Suzuki S, Maruyama H, Fukuhara M, Futami R, Masuda G, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I): A Case of Unresetable Advanced Gallbladder Cancer That Has Maintained Stable Disease Status for a Long Preriod with Gemcitabine Therapy . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 9) Matsutani T, Miyashita M, Sasajima K, Maruyama H, Egami K, Suzuki S, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I ): The Correlation between liver dysfunction and inflammatory mediators in postsurgical sepsis . 11th Congress of the European Shock Society ( Vienna, Austria ), 2005 . 1 .
- 10) Egami K, Miyamoto M, Yokoyama T, Sasajima K, Watanabe H, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Kawano Y, Futami R, Masuda G, Yoshida H<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I ): Factors contributing to patient selection and outcomes of the treatment for hilar bile duct carcinoma . 8th Congress of the Asian Society of Hepatobiliary Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 11) Yokoyama T, Egami K, Sasajima K, Miyamoto M, Matsutani T, Maruyama H, Suzuki S, Watanabe H, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I ): Resection of double cancer : the pancreatic metastasis from renal cell carcinoma ( RCC ) with gastric cancer . 8th Congress of the Asian Society of Hepatobiliary Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 12) Masuda G, Egami K, Miyamoto M, Yokoyama T, Maruyama H, Kawano Y, Ohkawa K<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I ): Carcinoma of the gallbladder associated with hemobilia presenting as recurrent the hemorrhagic shock report of a case . 8th Congress of the Asian Society of Hepatobiliary Pancreatic Surgery ( Manila, Philippines ), 2005 . 2 .
- 13) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 細根 勝<sup>1)</sup>, 松久 威史<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>4)</sup>外科学第1): 定量的 real time PCR 法を用いた胃癌組織における8q13-q21領域のDNA コピー数増加についての検討 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 14) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, Chaudry Irshard H<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>Center for Surgical Research, University of Alabama at Birmingham ): 右開胸開腹胸部食道癌手術における術前メチルブレドニゾロン投与と術後肺合併症の検討 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 15) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 廣井 信, 土屋喜一, 福原宗久, 二見良平, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 予後からみたリンパ節郭清の位置付け ( 胃癌での検討 ) . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 16) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 残胃における発癌 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 17) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 細根 勝<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>外科学第1): GIST・EGIST 症例における多臓器合併切除症例の検討 . 第90回日本消化器病学会総会, 2004 . 4 .
- 18) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅: 肝癌に対する腹腔鏡補助下径横隔膜的RFA治療の実際 . 第4回多摩肝臓膵クラブ, 2004 . 4 .
- 19) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 福原宗久, 二見良平, 増田剛太郎, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 術前臨床診断と術後病理学的診断上, 胆管周囲進展度に顕著な差異を認めた肝門部胆肝癌の一切除例 . 日本肝胆膵外科関連会議, 2004 . 5 .
- 20) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜

- 一，福原宗久，二見良平，増田剛太郎，内田英二<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 非典型的な病態を呈し臍癌との鑑別が困難であった巨大嚢胞型腫瘤形成性肺炎の1例．日本肝胆膵外科関連会議，2004．5．
- 21) 二見良平，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，長谷川博一，宮本昌之，横山 正，鈴木成治，丸山 弘，松谷毅，土屋喜一，福原宗久，増田剛太郎，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸癌肝転移症例の検討．日本肝胆膵外科関連会議，2004．5．
- 22) 増田剛太郎，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，長谷川博一，宮本昌之，横山 正，丸山 弘，鈴木成治，松谷毅，土屋喜一，福原宗久，二見良平，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>，田尻孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>外科学第1): von Recklinghausen 氏病に合併し臍頭十二指腸切除術を施行した胃，十二指腸GISTの1例．日本肝胆膵外科関連会議，2004．5．
- 23) 松谷 毅，江上 格，笹島耕二，天野 汎<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>2)</sup>，菅 隼人<sup>2)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，山下精彦<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>浦安病院，<sup>2)</sup>日本医科大学外科学第1): 胃癌のSchnitzler 転移による約17cmの直腸S状結腸狭窄に対し金属ステント留置が有用であった1例．第67回日本消化器内視鏡学会総会，2004．5．
- 24) 福原宗久，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，長谷川博一，宮本昌之，横山 正，鈴木成治，丸山 弘，松谷毅，土屋喜一，二見良平，増田剛太郎，重原健吾，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>外科学第1): 腸間膜原発巨大脂肪肉腫の1例．第793回外科集談会，2004．6．
- 25) 丸山 弘，宮下正夫<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，松谷 毅，土屋喜一<sup>1)</sup>，二見良平，柏原 元<sup>1)</sup>，勝田美和子，高橋 健<sup>1)</sup>，笹島耕二，山下精彦<sup>1)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>外科学第1): 内視鏡下食道ステント留置術の成績．第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2004．6．
- 26) 渡邊秀裕，江上 格，笹島耕二，長谷川博一，飯田信也<sup>1)</sup>，宮本昌之，鈴木成治，横山 正，丸山 弘，田尻孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): イレウスを来した大腸癌の治療(術前減圧法の有用性について)．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 27) 鈴木成治，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，長谷川博一，宮本昌之，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，田尻孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 定量的マイクロサテライト分析法による胃癌組織の染色体20q領域のDNAコピー数に関する検討．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 28) 松谷 毅，宮下正夫<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，笹島耕二，丸山 弘，松田明久<sup>1)</sup>，鈴木成治，江上 格，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 重度COPD合併胃癌手術症例に対する術前術後管理の工夫．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 29) 二見良平，山下精彦<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，江上 格，笹島耕二，野村 務<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，勝田美和子，柏原 元<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 食道癌手術における術前ステロイド投与と術後血清VEGFの変動．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 30) 増田剛太郎，徳永 昭<sup>2)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，江上格，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): 若年者胃癌の臨床病理学的特徴とリスクファクターの研究．第59回日本消化器外科学会定期学術総会，2004．7．
- 31) 前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，江上 格，松島申治<sup>2)</sup>，山王直子<sup>3)</sup>，藤井信人<sup>4)</sup>，中井章人<sup>5)</sup>，富山俊一<sup>6)</sup>，内藤善哉<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同呼吸器外科，<sup>3)</sup>同脳神経外科，<sup>4)</sup>同整形外科，<sup>5)</sup>同女性診療科・産科，<sup>6)</sup>同耳鼻咽喉科，<sup>7)</sup>病理学第2): 臨床に呼応した迅速細胞のあり方．第45回日本臨床細胞学会総会，2004．7．
- 32) 渡邊秀裕，江上 格，笹島耕二，長谷川博一，宮本昌之，鈴木成治，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，田尻孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 加齢と胃癌; 治療上の留意点．第63回日本癌学会学術総会，2004．9．
- 33) 鈴木成治，江上 格，笹島耕二，Mohammad G<sup>1)</sup>，清水 一<sup>1)</sup>，渡邊秀裕，丸山 弘，松谷 毅，松久威史<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理部門，<sup>2)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>3)</sup>外科学第1): 定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における染色体8q・16q・20q領域のDNAコピー数



変化についての検討．第63回日本癌学会学術総会，2004．9．

- 34) 横山 正，江上 格，笹島耕二，宮本昌之，丸山 弘，松谷 毅，福原宗久：総胆管結石症による閉塞性化膿性胆管炎を契機に発見されたIPMTの一切切除．第69回城西外科研究会プログラム，2004．9．
- 35) 渡邊秀裕，江上 格，笹島耕二，宮本昌之，鈴木成治，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，長澤重直，福原宗久，二見良平，増田剛太郎，川野陽一，沖浜裕司<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌イレウスの治療(安全な一期的手術を目指して)．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 36) 松田 健<sup>1)</sup>，松久威史<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>1)</sup>，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，宮本昌之，横山 正，鈴木成治，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>2)</sup>外科学第1): 外傷性後腹膜乳糜性リンパ囊腫の1例．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 37) 柳田裕美<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，原 博<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，磯部宏昭<sup>1)</sup>，阿部久美子<sup>1)</sup>，日吾美栄子<sup>1)</sup>，横山 正，二見良平，江上 格，内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2): 乳腺穿刺吸引細胞診における標本作製方法による細胞所見の比較検討．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 38) 渡辺秀裕，江上 格，笹島耕二，宮本昌之，鈴木成治，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，長澤重直，福原宗久，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌の再発死亡例(主再発経路でみた検討)．第42回日本癌治療学会総会，2004．10．
- 39) 鈴木成治，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，Ghazizadeh M<sup>1)</sup>，清水 一<sup>1)</sup>，宮本昌之，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，細根 勝<sup>2)</sup>，沖浜裕司<sup>3)</sup>，松田 健<sup>3)</sup>，松久威史<sup>3)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理部門，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>3)</sup>同消化器科，<sup>4)</sup>外科学第1): 定量的real time PCR法を用いた胃癌組織のDNAコピー数変化と新規Molecular markerの検索．第42回日本癌治療学会総会，2004．10．
- 40) 渡辺秀裕，江上 格，笹島耕二，宮本昌之，鈴木成治，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 上部領域癌との比較を通してみた噴門側残胃癌の位置づけ．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 41) 宮本昌之，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，長谷川博一，横山 正，鈴木成治，丸山 弘，松谷 毅，土屋喜一，福原宗久，二見良平，増田剛太郎，重原健吾，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝癌に対する腹腔鏡超音波プローブ下開胸径横隔膜的ラジオ波凝固療法(L-T-RFA)の有効性とその手技に関する検討．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 42) 横山 正，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，宮本昌之，丸山 弘，鈴木成治，松谷 毅，福原宗久，二見良平，増田剛太郎，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Epirubicin/docetaxelによる化学療法とビスフォスネート併用が奏効し良好的なQOLが得られている肺転移・骨転移を有するStage-4乳癌3症例の検討．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 43) 鈴木成治，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，宮本昌之，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，福原宗久，増田剛太郎，沖浜裕司<sup>1)</sup>，松久威史<sup>1)</sup>，松田 健<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>外科学第1): 消化管及び消化管外原発GIST症例の治療方針について．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 44) 松谷 毅，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，長谷川博一，宮本昌之，横山 正，鈴木成治，丸山 弘，土屋喜一，福原宗久，二見良平，増田剛太郎，重原健吾，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌術後多発肝転移にラジオ波凝固療法を施行した1例．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 45) 松田 健<sup>1)</sup>，江上 格，松久威史<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>1)</sup>，富樫晃祥，笹島耕二，前田昭太郎<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>外科学第1): C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の3例．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 46) 鈴木成治，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，長谷川博一，宮本昌之，横山 正，丸山 弘，松谷 毅，細根勝<sup>1)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，川並汪一<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同消化器科，<sup>3)</sup>老人病研究所病理部門，<sup>4)</sup>外科学第1): 定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における16q領域のDNAコピー数欠失についての検討．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．

- 47) 富樫晃祥, 松倉則夫, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松久威史<sup>1)</sup>, 江上 格, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 残胃での<sup>13</sup>C尿素呼吸試験を用いた最適な*H. pylori*検出法. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 48) 丸山 弘, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 鈴木成治, 福原宗久, 二見良平, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 川野陽一: 閉塞性大腸癌に対する術前減圧術の検討. 第17回多摩大腸疾患懇話会, 2004. 11.
- 49) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 増田剛太郎, 渡邊秀裕, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 福原宗久, 二見良平, 川野陽一, 富樫晃祥, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 巨大肝嚢胞と胆嚢結石に対し同時に腹腔鏡下外科手術を施行した1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 50) 松谷 毅, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 渡邊秀裕, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 早期胃癌との同時性重複を認めた腎細胞癌肺転移の1例. 第5回多摩肝胆膵クラブ, 2004. 11.
- 51) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 二見良平, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 臨床的に浸潤性乳管癌(硬癌)との鑑別が困難であった乳腺症の1例. 第1回日本乳癌学会関東地方会, 2004. 12.
- 52) 長澤重直, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 川野陽一, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 腹腔鏡下総胆管切石術(LAP CBDE)における手技上の進歩とその定義. 第24回多摩消化器シンポジウム, 2005. 2.
- 53) 渡邊秀裕, 鈴木成治, 江上 格: 高齢者の胃癌における再発死亡例. 第7回日本高齢消化器医学会議, 2005. 2.
- 54) 松久威史, 江上 格: 高齢者の*Helicobacter Pylori*除菌療法における薬剤耐性について. 第7回日本高齢消化器医学会議, 2005. 2.
- 55) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 再発GIST・EGIST症例に対するメシル酸イマチニブによる分子標的療法の経験. 第3回日本臨床腫瘍学会総会, 2005. 3.
- 56) 増田剛太郎, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 松谷毅, 二見良平, 富樫晃祥, 川野陽一, 勝田美和子: 高度進行胆嚢癌切除長期生存例の臨床的検討. 第70回城西外科研究会プログラム, 2005. 3.
- 57) 長澤重直, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 増田剛太郎, 二見良平, 富樫晃祥, 川野陽一, 勝田美和子: 当科における進行大腸癌の骨盤内臓器全摘術式症例の検討. 第70回城西外科研究会プログラム, 2005. 3.
- 58) 増田剛太郎, 江上 格, 横山 正, 丸山 弘, 宮本昌之, 川野陽一, 富樫晃祥, 二見良平, 福原宗久, 松谷毅, 長澤重直, 鈴木成治, 渡邊秀裕, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>外科学第1): 出血を繰り返した十二指腸憩室に対し, 憩室縫縮術にて治療し得た1例. 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005. 3.

## [ 多摩永山病院消化器科 ]

### 研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし, それらに関する研究と, 幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している. 現在, 消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている.

1. 日常診療では, 地域中核病院でもある当院の性格を活かし, 消化管出血や閉塞性黄疸など多くの救急患者を受け入れるとともに, 上部および下部消化管の内視鏡検査など検査診断技術の向上に努めている. また, 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている.

2. アルコール性肝障害や非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の臨床病理学的検討, C型慢性肝炎に対するインターフェロン, リバビリン, シクロスポリン等による治療効果, 肝細胞癌に対する治療について検討し症例を蓄積中である.
3. 炎症性腸疾患の診断と治療について, とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法 (5-ASA 注腸療法など) を中心とした臨床研究を続けている. また, 潰瘍性大腸炎に対する白血球 (顆粒球) 吸着療法やステロイド動注療法の症例を蓄積している.
4. *Helicobacter pylori* 感染と胃病変・胃外病変との関連性, *Helicobacter pylori* の二次除菌, GERD (Gastro-esophageal Reflux Disease), FD (Functional Dyspepsia), IBS (Irritable Bowel Syndrome) などについての臨床研究を継続している.
5. 中国, ベトナム, タイ, ネパール, ミャンマーにおける *Helicobacter pylori* 感染・胃十二指腸疾患・背景胃粘膜の相違を現地で調査している.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 追加原著:

- 1) Matsuhisa T, Yamada N<sup>1)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Department of Pathology, <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): *Helicobacter pylori* infection, mucosal atrophy and intestinal metaplasia in Asian populations: A comparative study in age-, gender- and endoscopic diagnosis-matched subjects. *Helicobacter* 2003; 8 (1): 29-35.
- 2) Yokoyama T<sup>1)</sup>, Egami K, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Okawa K<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Takashima Y<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayam Hospital, <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): Percutaneous and Laparoscopic Approaches of Radiofrequency-ablation treatment for Liver Cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2003; 10 (6): 425-427.
- 3) Yoshida H<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Tani ai N<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Kawano Y, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Comparison of Characteristics of Recurrent Esophageal Varices after Endoscopic Ligation versus Endoscopic Ligation Plus Sclerotherapy. *Esophagus* 2004; 51 (3): 457-461.
- 4) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 臍頭十二指腸切除術後の腹腔内出血に対し2度の開腹止血術を行い救命し得た1例. *日腹救医誌* 2003; 23 (6): 905-909.
- 5) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): 高齢者における重複癌 (胃癌を中心に). *日本高齢消化器医学会誌* 2003; 5 (2): 44-49.
- 6) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 大腸癌肝転移症例の検討. *多摩消化器シンボ誌* 2004; 18 (1): 36-40.

#### (2) 原著:

- 1) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery I, <sup>2)</sup> Department of Pathology II ): Topography of chronic active gastritis in *Helicobacter pylori* positive Asian Populations: age-, gender- and endoscopic diagnosis- matched study. *J Gastroenterol* 2004; 39 (4): 324-328.
- 2) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K, Sasajima K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Matsuda T, Okihama Y, Hosone M<sup>3)</sup>, Shimizu K<sup>4)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayam Hospital, <sup>2)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayam Hospital, <sup>4)</sup> Department of Surgery II, <sup>5)</sup> Department of Surgery I ): Compar-

- tive Study between DNA Copy Number Aberrations Determined by Quantitative Microsatellite Analysis and Clinical Outcome in Patients with Stomach Cancer . *Clinical Cancer Research* 2004 ; 10 ( 5 ) : 3013-3019 .
- 3) Taniai N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Kawano Y, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Makuuchi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation , Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Liver Transplantation Team , University of Tokyo ): Middle Hepatic Vein Reconstruction of Graft for a Patient with Intrahepatic Portsystemic Shunt . *Hepato-Gastroenterology* 2004 ; 51 ( 4 ) : 589-591 .
  - 4) Kato S<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Togashi A, Masuda G, Matsuda N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Matsuhisa T, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery I , <sup>2)</sup> Department of Pathology II ): Sex differences in mucosal response to *Helicobacter pylori* infection in the stomach and variations in interleukin-8, COX-2 and trefoil factor family 1 gene expression . *Aliment Pharmacol Ther* 2004 ; 20 ( 7 ) : 17-24 .
  - 5) Yoshida H<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Kawano Y, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Arima Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Misawa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery ): Fracture of a Biliary Expandable Metallic Stent . *Gastrointestinal Endoscopy* 2004 ; 60 ( 4 ) : 655-658 .
  - 6) Kato S<sup>1)</sup>, Nakayama K<sup>2)</sup>, Minoura T<sup>1)</sup>, Konno M<sup>3)</sup>, Tajiri H<sup>4)</sup>, Matsuhisa T, Iinuma K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Tohoku University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Showa-inan Hospital , <sup>3)</sup> Department of Pediatrics, Sapporo Kousei General Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Osaka Prefecture General Hospital ): Comparison between the <sup>13</sup>C-urea breath test and stool antigen test for the diagnosis of childhood *Helicobacter pylori* infection . *J Gastroenterol* 2004 ; 39 ( 11 ) : 1045-1050 .
  - 7) Katsuta M , Miyashita M<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation , <sup>2)</sup> Department of Pathology II ): Correlation of Hypoxia Inducible Factor-1 with Lymphatic Metastasis via Vascular Endothelial Growth Factor-C in Human Esophageal Cancer . *Experimental and Molecular Pathology* 2005 ; 78 ( 1 ) : 123-130 .
  - 8) Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>1)</sup>, Kaneko M<sup>1)</sup>, Kawano Y, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery , <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Long-Term Results of Partial Splenic Artery Embolization as Supplemental Treatment for Portal-Systemic Encephalopathy . *Am J Gastroenterol* 2005 ; 100 ( 1 ) : 43-47 .
  - 9) Zhang C<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Wu YL<sup>1)</sup>, Wen M<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Matsukura N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Baogang Hospital, Shanghai Second Medical University, Shanghai, China , <sup>2)</sup> Department of Pathology II , <sup>3)</sup> Department of Surgery I ): *Helicobacter pylori* infection, glandula atrophy and intestinal metaplasia in superficial gastritis, gastric erosion, erosive gastriti, gastric ulcer and early gastric cancer . *World J Gastroenterol* 2005 ; 11 ( 6 ) : 791-796 .
  - 10) Zhang C<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Wu YL<sup>1)</sup>, Wen M<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Matsukura N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Baogang Hospital, Shanghai Second Medical University , <sup>2)</sup> Department of Pathology II, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Surgery I, Nippon Medical School ): Comparison of *Helicobacter pylori* infection and gastric mucosal histological features of gastric ulcer patients with chronic gastritis patients . *World J Gastroenterol* 2005 ; 11 ( 7 ) : 976-981 .
  - 11) Kanda T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Kawano Y, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation , <sup>2)</sup> Department of Analytic Human Pathology ): Resection of Liver Metastases from an  $\alpha$ -fetoprotein-producing Gastric Cancer . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 1 ) : 66-70 .
  - 12) 柏原 元<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 , <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科 ): 血中CEA異常高値を呈した進行食道扁平上皮癌の1例 . *日*

消外会誌 2004 ; 37 (7): 488-493 .

- 13) 川野陽一, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 早期胃癌に十二指腸カルチノイドが併存した1例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (3): 198-202 .
  - 14) 松久威史, 富樫晃祥, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): ベトナムの二地域における上部消化管疾患, *Helicobacter pylori*感染, 背景胃粘膜の検討 : 日本との比較観察を含めて . 消化器内視鏡の進歩 2004 ; 64 (2): 32-37 .
  - 15) 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 川野陽一, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>2)</sup>, 高野昭夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>内科学第1): 完全内蔵逆位を伴う肝細胞癌の1切除例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (3): 209-212 .
  - 16) 山村 進<sup>1)</sup>, 江上 格, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 先天性胆道拡張症の膵胆管合流異常例に対する腹腔鏡補助下手術の2小児例 . 日鏡外会誌 2004 ; 9 (3): 320-325 .
  - 17) 神田知洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 川野陽一, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): 拳上空腸脚に穿破した胆嚢癌術後仮性肝動脈瘤の例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (3): 213-216 .
  - 18) 平方敦史<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 川野陽一, 峯田 章<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝切除適応症例選別の試み : 微小病巣顕在化までの癌局所コントロールとしての動注療法 . 癌と化学療法 2004 ; 31 (11): 1749-1751 .
  - 19) 松久威史, 江上 格 : *Helicobacter pylori*除菌治療に伴う血液学的変化の観察 . 消化器内視鏡の進歩 2004 ; 65 (2): 38-42 .
  - 20) 石川義典<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 川野陽一, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胆嚢扁平上皮癌の1例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (6): 417-420 .
  - 21) 石川義典<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 川野陽一, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 脱分化型を呈した後腹膜脂肪肉腫の1例 . 外科 2004 ; 66 (13): 1709-1714 .
  - 22) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 天野 汎<sup>2)</sup>, 江上 格, 菅 隼人<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>浦安病院, <sup>3)</sup>日本医科大学外科学第1): Schnitzler 転移による約17cmの直腸狭窄症状の改善に金属ステント留置が有用であった1例 . Gastroenterological Endoscopy 2005 ; 47 (3): 343-347 .
  - 23) 宮下正夫<sup>1)</sup>, 勝田美和子, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所高齢者の臓器と組織の研究グループ): 食道粘表皮癌の1例 . 胃と腸 2005 ; 40 (3): 385-388 .
- (3) 綜説 :
- 1) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 膵癌のリスクファクター : 糖尿病 : 過去10年間の自験症例における検討から . 膵臓 2004 ; 19 (2): 110-117 .
  - 2) 松久威史, 高須 勝 : 胃 gastrointestinal stromal tumor (GIST) [特集 : 内視鏡の読み方] . 臨牀消化器内科 2004 ; 19 (6): 731-734 .
  - 3) 松久威史, 高須 勝, 井上泰夫, 江上 格, 細根 勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 食道神経鞘腫 [特集 : 内視鏡の読み方] . 臨牀消化器内科 2004 ; 19 (8): 1195-1198 .
  - 4) 松久威史, 松田 健, 江上 格 : 剥離性食道炎 [特集 : 内視鏡の読み方] . 臨牀消化器内科 2004 ; 19 (9): 1301-1303 .

#### (4) 研究報告書：

- 1) 松久威史：タイ，ネパール王国への内視鏡技術移転およびその精度管理手法開発に関する研究：胃炎の違いに関する検討を含む．平成15年度厚生労働省国際医療協力研究委託費研究報告集 2004；pp371-372．

#### 著 書

- 1) 松久威史：〔分担〕食道，大腸の生検では血腫形成に注意を．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp101-101，日本メディカルセンター．
- 2) 松久威史：〔分担〕生検後出血が持続した．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp104-104，日本メディカルセンター．
- 3) 松久威史：〔分担〕内視鏡挿入直後にみられる食道スパズムス．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp120-120，日本メディカルセンター．
- 4) 松久威史：〔分担〕内視鏡挿入時の咽吐反射によって噴門部，穹窿部の発赤や出血が生じた．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp123-123，日本メディカルセンター．
- 5) 松久威史：〔分担〕過剰送気によって生じた胃出血．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp126-126，日本メディカルセンター．
- 6) 松久威史：〔分担〕過剰送気による胃角部の菲薄に注意．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp132-132，日本メディカルセンター．
- 7) 松久威史：〔分担〕前庭部萎縮と発赤の鑑別法．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp141-141，日本メディカルセンター．
- 8) 松久威史：〔分担〕内視鏡の挿入後にレンズが曇っていることが判明したら．消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル（監修：鈴木博昭，編集：幕内博康，熊井浩一郎，澤田俊夫，峯 徹哉，藤盛孝博），2004；pp290-290，日本メディカルセンター．

#### 学会発表

##### (1) 追加分一般講演：

- 1) Egami K, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Hiroi S<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayam Hospital, <sup>2)</sup> First Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital ): Clinical Analysis of Laparoscopically Assisted Colorectal Surgery in Comparison with Open Surgery . 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2003 . 9 .
- 2) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Hiroi S<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayam Hospital, <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): Laparoscopic Radiofrequency Ablation ( RFA ) with Percutaneous or Transdiaphragmatic Approach . 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2003 . 9 .
- 3) Zhang C<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Yamada N<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery, <sup>2)</sup> Second Department of Pathology ): Histological Evaluation of Gastroduodenal Diseases by "Fixed Triple Site Biopsy" . The 14th Nippon Medical School Foundation Academic Meeting for Foreign

Researchers ( Tokyo, Japan ), 2003 . 11 .

- 4) 松田 健, 坂東功一, 秋谷行宏, 沖濱裕司, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 2型直腸癌との鑑別を要した直腸粘膜脱症候群の1例 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 5) 大川敬一<sup>1)</sup>, 江上 格, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胆道出血によるショック症状を呈した胆嚢癌の1例 . 第39回日本腹部救急医学会総会, 2003 . 4 .
- 6) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 早期胃癌のリンパ節転移および再発死亡例の検討 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 7) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 肝細胞癌治療における, 腫瘍塞栓療法 ( TAE ) および凝固療法 ( RFA ) を基軸としたいわゆる combined therapy の意義 . 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 8) 大川敬一<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胆道出血によるショック症状を呈した胆嚢癌の1例 . 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 9) 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 腎細胞癌の膵転移に対し膵全摘術を施行した1例 . 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 10) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌術後真菌症の検討: ハイリスク症例を術前, 術中因了で予測できるか . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 11) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 糖尿病の膵癌リスクファクターとしての意義について: 過去10年間の自験症例における検討から . 第34回日本膵臓学会大会, 2003 . 7 .
- 12) 笹島耕二<sup>1)</sup>, 江上 格, 大川敬一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>2)</sup>, 勝田美和子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): インターロイキン6による生体反応の評価と制御 . 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .
- 13) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌手術後の真菌・MRSA混合感染症例の検討: ハイリスク症例を周術期因子で予測できるか . 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .
- 14) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, Mohammad G<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 松久威史, 松田 健, 沖濱裕司, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>3)</sup>外科学第1): 定量的real timeマイクロサテライト分析法 ( Qu MA ) による胃癌組織のDNAコピー数異常の検出と予後因子に関する検討 . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 15) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): リンパ節転移の予後に及ぼす影響 ( 胃癌治癒切除例での検討 ) . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 16) 土屋喜一<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 腹腔内腫瘍像を呈した嵌頓膀胱上ヘルニアの1例 . 第67回城西外科研究会, 2003 . 9 .

- 17) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 当院における乳腺穿刺吸引細胞診の迅速診断の有用性. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 18) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖濱裕司, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 消化管外原発GIST (EGIST) 症例の臨床病理学的検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 19) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): リンパ節転移の有無から見たT1, T2胃癌の治癒切除後再発死亡例の検討. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 20) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 飯田信也<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 沖濱裕司, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): イレウスを来した大腸癌症例の検討: 術前減圧法の有用性について. 第16回多摩大腸疾患懇話会, 2003. 11.
- 21) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 当科における転移性肝癌に対するRadio Frequency Ablation (RFA) 治療成績の検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 22) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胆管細胞癌との鑑別を要したものの治癒切除が成し得た肝門部胆管浸潤型肝細胞癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 23) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): リンパ節郭清で再発転移は防げるか?: 胃癌での検証. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 24) 廣井 信<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 腹腔鏡にて診断した大網裂孔ヘルニアの1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 25) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌手術後真菌症の検討: ハイリスク症例を周術期因子より予測できるか. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 26) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格, 清水一雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第2): 短期間に横隔膜から後腹膜腔に進展した巨大腫瘤を形成した再発胸腺腫の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 27) 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 局所進行乳癌に対するEpirubicin/Docetaxel同時併用biweekly術前化学療法 of 検討 (続報). 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 28) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 腹腔鏡下総胆管切石術 (Lap. CBDE) における手技上の進歩とその意義. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.



- 29) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 鈴木成治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 予後におけるリンパ節転移の影響(高齢者胃癌治療切除例での検討). 第6回日本高齢消化器医学会議, 2004. 1.
- 30) 増田剛太郎, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 神戸 将<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): von Recklinghausen 病の合併した十二指腸GISTの1例. 第68回城西外科研究会, 2004. 2.
- 31) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 中・右肝静脈起始部に接した再発肝癌の1切除例. 第4回多摩消化器手術手技研究会, 2004. 2.
- 32) 松田 健, 江上 格, 松久威史, 沖濱裕司, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 保存的治療にて完治した外傷性後腹膜乳糜嚢胞の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 33) 二見良平, 江上 格, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 松田 健, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌穿孔手術症例の検討. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 34) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 沖濱裕司, 飯田信也<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 閉塞性左側大腸癌に対する術前減圧術の検討. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 35) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 沖濱裕司, 松田 健, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 定量的 real time PCR法を用いた胃癌組織の染色体8q. 16qのDNAコピー数と臨床予後に関する検討. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 36) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 局在より見た胃癌(リンパ節転移, 予後からの検討). 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 37) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌手術後の真菌・MRSA混合感染発生要因の検討. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 38) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃前庭部に瘻孔を形成した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 39) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 緊急再開腹術を要する術後合併症やリンパ節転移の出現にもかかわらず良好に経過している進行胆嚢癌の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- (2) 特別講演:
- 1) Matsuhisa T: *Helicobacter pylori* infection in Asian populations. Kathomandun Medical College Teaching Hospital Symposium (Kathomandu, Nepal), 2005. 1.
- 2) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 加齢と胃癌: 治療上の留意点. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- (3) シンポジウム:
- 1) Matsuhisa T: International review of *Helicobacter pylori* infection and comparison of gastric mucosa between Japanese and other Asian populatins. *H. pylori* and Gastric cancer. The 4th Annual Conference of Korea-Japan Joint Meeting on Helicobacter infection (Beppu, Japan), 2005. 2.

(4) パネルディスカッション :

- 1) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 二見良平, 柏原 元<sup>2)</sup>, 勝田美和子, 高橋 健<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 内視鏡下食道ステン  
ト留置術の成績(ステント治療の進歩とその成績). 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 2) 川野陽一, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 江上 格,  
田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): 肝胆膵外科領域の救急疾患におけるIVR(腹部救急疾患に対する  
IVRの適応と限界). 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005. 3.

(5) ワークショップ :

- 1) 松久威史<sup>1)</sup>, 永原章仁<sup>2)</sup>, 三輪洋人<sup>2)</sup>, 川村 洋<sup>3)</sup>, 河合 隆<sup>4)</sup>, 徳永健吾<sup>5)</sup>, 鈴木秀和<sup>6)</sup>, 伊藤慎芳<sup>7)</sup>, 峯 徹哉<sup>8)</sup>,  
正岡建洋<sup>6)</sup>, 鈴木雅之<sup>9)</sup>, 高橋信一<sup>5)</sup>, 榊 信廣<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>東京Hp研究会・多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同・順天堂大  
学消化器内科, <sup>3)</sup>同・日本大学消化器・肝臓内科, <sup>4)</sup>同・東京医科大学内視鏡センター, <sup>5)</sup>同・杏林大学第三  
内科, <sup>6)</sup>同・慶應義塾大学消化器内科, <sup>7)</sup>同・NTT東日本伊豆病院内科, <sup>8)</sup>同・東海大学消化器内科,  
<sup>9)</sup>同・国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>10)</sup>同・東京都立広尾病院内科): *Helicobacter pylori*二次除菌  
成績の検討: 東京都内多施設における共同調査結果から. 第10回日本ヘリコバクター学会, 2004. 7.
- 2) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>,  
土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 増田剛太郎, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 高齢者手術  
の問題点(胃癌例の検討)[高齢者手術の問題点]. 第29回日本外科系連合学会学術集会, 2004. 7.
- 3) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, Ghzizadeh M<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威  
史, 松田 健, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>3)</sup>外科学第1): 定  
量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における8q・16q・21q領域のDNAコピー数変化について  
の検討(遺伝子診断). 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.

(6) 一般講演 :

- 1) Matsutani T, Miyashita M<sup>2)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>2)</sup>, Makino K<sup>2)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Hagi-  
wara N<sup>2)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Kashiwabara G<sup>1)</sup>, Katsuta M<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>2)</sup>, Takahashi K<sup>2)</sup>, Egami K, Taji T<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>First Department of Surgery): Cyfra 21-1 Levels in  
Bronchoalveolar Lavage Fluid Indicate the Broncho-Epithelial Damage. 6th World Congress on Trauma,  
Shock, Inflammation and Sepsis-Pathophysiology, Immune Consequences and Therapy (Munich, Germany),  
2004. 3.
- 2) Matsuhisa T, Egami K: Study on the drug resistance for *Helicobacter pylori* by the gastric different sites in  
primary and secondary eradication caces. 5th Western Pacific Helicobacter Congress (Kobe, Japan), 2004. 11.
- 3) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Mat-  
sutani T<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Futami R, Matsuhisa T, Matsuda T, Hosone M<sup>2)</sup>, Liu A<sup>2)</sup>, Maeda  
S<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Tama-Na-  
gayama Hospital, <sup>3)</sup>First Department of Surgery): Assessment of clinicopathological findings and clinical  
outcome in patients with GIST and EGIST. 19th World Congress of International Society for Digestive  
Surgery (Yokohama, Japan), 2004. 12.
- 4) Yamada S<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Makonkawkeyoon L<sup>2)</sup>, Chaidatch S<sup>2)</sup>, Phraephan S<sup>2)</sup>, Yamada N<sup>3)</sup>, Kato S<sup>4)</sup>,  
Miki M<sup>4)</sup>, Tajiri T<sup>4)</sup>, Matsukura N<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Faculty of Medicine, Chiang Mai University,  
Thailand, <sup>2)</sup>Dpartment of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand, <sup>3)</sup>Depart-  
ment of Pathology II, <sup>4)</sup>Department of Surgery I): *H. pylori* infection related to serum pepsinogen and Inter-  
leukin-1 -511 polymorphisms are independent risk factors for gastric cancer in Thai. 19th World Con-  
gress of International Society for Digestive Surgery (Yokohama, Japan), 2004. 12.

- 5) Watanabe H<sup>1)</sup>, Egami K, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Surgery I): Availability and evaluation of decompression treatment with a drainage tube for acute colonic obstruction caused by colorectal cancer. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (Yokohama, Japan), 2004. 12.
- 6) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Futami R, Isobe H<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> First Department of Surgery): Intraoperative Fine-needle Aspiration Cytology for Pancreatic Tumors. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (Yokohama, Japan), 2004. 12.
- 7) Matsutani T<sup>1)</sup>, Egami K, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>2)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Futami R, Masuda G, Taji T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> First Department of Surgery): A Case of Unresectable Advanced Gallbladder Cancer that has Maintained Stable Disease Status for a Long Period with Gemcitabine Therapy. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (Yokohama, Japan), 2004. 12.
- 8) Akimaru K<sup>1)</sup>, Matsuda N<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Kawano Y, Kakinuma D<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery I, <sup>2)</sup> Center for Digestive Disease, 2nd Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pathology II): Hyperbaric Oxygen on Liver Regeneration after Minor and Major Hepatectomies on Impaired Liver. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (Yokohama, Japan), 2004. 12.
- 9) 松久威史, 江上 格: 糖尿病患者における<sup>13</sup>C-酢酸呼吸試験を用いた胃排出能の検討. 第6回日本国際消化管運動研究会, 2004. 4.
- 10) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松田 健, 沖濱裕司, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 外科学第1): GIST-EGIST 症例における他臓器合併切除症例の検討. 第90回日本消化器病学会総会, 2004. 4.
- 11) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1): 残胃における発癌. 第90回日本消化器病学会総会, 2004. 4.
- 12) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松久威史, 松田 健, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 老人病研究所分子病理部門, <sup>4)</sup> 外科学第1): 定量的 real time PCR法を用いた胃癌組織における8q13-q21領域のDNAコピー数増加についての検討. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 13) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1): 予後からみたリンパ節郭清の位置付け(胃癌での検討). 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 14) 川野陽一, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1): 大量肝切除後の残肝機能に及ぼす小腸切除による門脈血流コントロールの実験的検討. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 15) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1): 非典型的な病態を呈し膵癌との鑑別が困難であった巨大嚢胞型腫瘤形成性膵炎の1例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.

- 16) 二見良平, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌肝転移症例の検討. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 17) 増田剛太郎, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): von Recklinghausen 氏病に合併し膵頭十二指腸切除術を施行した胃, 十二指腸GISTの1例. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 18) 川野陽一, 秋丸琥祐<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所臨床病理): ピーグル犬における大量肝切除モデルでの小腸半量合併切除の残肝に及ぼす影響: 組織学的, 血流力学的検討. 第16回日本肝胆膵外科学会, 2004. 5.
- 19) 楠 裕司, 江上 格, 松田 健, 松久威史, 沖浜裕司, 富樫晃祥, 福原宗久<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 発熱にて発症した回腸 gastrointestinal stromal tumor (GIST) の1例. 第9回多摩消化管疾患研究会, 2004. 6.
- 20) 松久威史: *Helicobacter pylori* 二次除菌成績の検討 - 第2報 -. 第27回東京 *Helicobacter pylori* 研究会, 2004. 6.
- 21) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 非典型的な病態を呈した巨大嚢胞型腫瘤形成性膵炎の1例. 第4回東京膵臓研究会, 2004. 6.
- 22) 松久威史, 江上 格: *Helicobacter pylori* 除菌治療に伴う血清学的変化の観察. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 23) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>病理学第1): 食道癌における HIF-1, VEGF-A, VEGF-C 発現の臨床病理学的検討. 第58回日本食道学会学術集会, 2004. 6.
- 24) 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 二見良平, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 腸間膜原発巨大脂肪肉腫の1例. 第793回外科集談会, 2004. 6.
- 25) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 鈴木美貴<sup>2)</sup>, 鈴木真由美<sup>2)</sup>, 地方康則<sup>2)</sup>, 藺田まり子<sup>2)</sup>, 藤島 悟<sup>2)</sup>, 岡本富美子<sup>2)</sup>, 岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院): <sup>13</sup>C-酢酸呼気試験からみた透析患者の胃排出能. 第49回日本透析医学会学術集会・総会, 2004. 6.
- 26) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>付属病院病理部): 食道癌における HIF-1, VEGF, iNOS, p53 発現の臨床病理学的因子との関連. 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
- 27) 富樫晃祥, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松久威史, 江上 格, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): <sup>13</sup>C 尿素呼気試験による残胃での簡便かつ最適な *H. pylori* 検出法. 第10回日本ヘリコバクター学会, 2004. 7.
- 28) 河合 隆<sup>1)</sup>, 鈴木秀和<sup>2)</sup>, 正岡建洋<sup>2)</sup>, 三輪洋人<sup>3)</sup>, 川村 洋<sup>4)</sup>, 伊藤慎芳<sup>5)</sup>, 松久威史<sup>6)</sup>, 鈴木雅之<sup>7)</sup>, 峯 徹哉<sup>8)</sup>, 高橋信一<sup>9)</sup>, 榊 信廣<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>東京 *Hp* 研究会・東京医科大学内視鏡センター, <sup>2)</sup>同・慶應義塾大学消化器内科, <sup>3)</sup>同・順天堂大学消化器内科, <sup>4)</sup>同・日本大学消化器・肝臓内科, <sup>5)</sup>同・NTT東日本伊豆病院内科, <sup>6)</sup>同・日本医科大学多摩永山病院消化器科, <sup>7)</sup>同・国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>8)</sup>同・東海大学消化器内科, <sup>9)</sup>同・杏林大学第三内科, <sup>10)</sup>同・東京都立広尾病院内科): 3剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移: 都内多施設における調査結果. 第10回日本ヘリコバクター学会, 2004. 7.
- 29) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): ベトナム (ホー・チ・ミン, フエ) における胃十二指腸疾患, *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の観察: 日本との比較を含めて. 第10回日本ヘリコバクター学会, 2004. 7.

- 30) 松久威史, 江上 格: *Helicobacter pylori*除菌治療に伴う血液生化学的变化の検討. 第10回日本ヘリコバクテラ学会, 2004. 7.
- 31) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>病理学第1): 食道癌における血管新生関連蛋白の発現と臨床病理学的因子との検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 32) 二見良平, 山下精彦<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 勝田美和子, 柏原 元<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌手術における術前ステロイド投与と術後血清 VEGF の変動. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 33) 川野陽一, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 門脈内 (Vp3) および下大静脈内腫瘍栓 (Vv3) を伴った肝細胞癌に対する手術. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 34) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 奥田武志<sup>2)</sup>, 水谷 崇<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 江上 格, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 若年者胃癌の臨床病理学的特徴とリスクファクターの研究. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 35) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 重度CDPD合併胃癌手術症例に対する術前術後管理の工夫. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 36) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌手術後のMRSA感染症例の検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 37) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織の染色体20q領域のDNAコピー数に関する検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 38) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): イレウスを来した大腸癌の治療(術前減圧法の有用性について). 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 39) 富樫晃祥, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 江上 格, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 残胃での<sup>13</sup>C尿素呼吸試験, 培養, 鏡検, PCR法, 血清抗体価での*H. pylori*検出. 潰瘍病態研究会第13回フォーラム, 2004. 8.
- 40) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>病理部): 食道扁平上皮癌のリンパ節転移におけるHIF-1, VEGF-Cの発現. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 41) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 増田剛太郎, 川野陽一, 沖濱裕司, 松田 健, 飯田信也<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌イレウスの治療(安全な一期的手術を目指して). 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 42) 松田 健, 江上 格, 松久威史, 沖濱裕司, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 外傷性後腹膜乳糜性リンパ嚢腫の1例. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 43) 松田 健, 江上 格, 松久威史, 沖濱裕司, 富樫晃祥, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の3例. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 44) 松久威史, 江上 格: *Helicobacter pylori*除菌に伴う血液生化学的变化の検討. 第46回日本消化器病学会大会,

2004 . 10 .

- 45) 松久威史, 江上 格:  $^{13}\text{C}$ -酢酸呼吸試験による糖尿病患者の胃排出能. 第46回日本消化器病学会大会, 2004 . 10 .
- 46) 富樫晃祥, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松久威史, 江上 格, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 残胃での $^{13}\text{C}$ 尿素呼吸試験を用いた最適な *H. pylori* 検出法. 第46回日本消化器病学会大会, 2004 . 10 .
- 47) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松久威史, 松田 健, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>4)</sup>外科学第1): 定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における16q領域のDNAコピー数欠失についての検討. 第46回日本消化器病学会大会, 2004 . 10 .
- 48) 川野陽一, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 田久保海誉<sup>3)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>2)</sup>同第二病院病理部, <sup>3)</sup>東京都老人総合研究所生体機能調節と加齢研究グループ): ビーグル犬における大量肝切除モデルでの門脈圧減少を目的とした小腸半量合併切除の組織学的検討. 第8回日本肝臓学会大会, 2004 . 10 .
- 49) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, Ghzizadeh M<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 松田 健, 松久威史, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>外科学第1): 定量的 real time PCR法を用いた胃癌組織のDNAコピー数変化と新規 Molecular marker の検索. 第42回日本癌治療学会総会, 2004 . 10 .
- 50) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃癌の再発死亡例(主再発経路でみた検討). 第42回日本癌治療学会総会, 2004 . 10 .
- 51) 川野陽一, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): 肝胆膵外科領域における動脈性出血に対するIVR. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 52) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 松久威史, 松田 健, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 消化管及び消化管外原発GIST症例の治療方針について. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 53) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 上部領域癌との比較を通してみた噴門側残胃癌の位置付け. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 54) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 増田剛太郎, 重原健吾<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃癌術後多発肝転移にラジオ波凝固療法を施行した1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 55) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 増田剛太郎, 重原健吾<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 肝癌に対する腹腔鏡超音波プローブ下小開胸経横隔膜的ラジオ波凝固療法(L-T-RFA)の有効性とその手技に関する検討. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .
- 56) 松久威史, 松田 健, 江上 格: *Helicobacter pylori* 1次, 二次除菌例における薬剤耐性および生検部位別検討. 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004 . 10 .
- 57) 松久威史, 松田 健, 江上 格: メトロニダゾールを用いた *Helicobacter pylori* 二次除菌成績の検討. 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004 . 10 .
- 58) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平, 川野陽一, 富樫晃祥, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 巨大肝囊胞と胆嚢結石に対し同時に腹腔鏡下外科手術を施行した1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004 . 11 .

- 59) 松田 健, 江上 格, 松久威史, 沖濱裕司, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 剥離性食道炎の2例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 60) 松久威史, 江上 格: *Helicobacter pylori*二次除菌例の薬剤耐性に関する生検部位別検討. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 61) 松久威史: タイ・ネパール王国への内視鏡技術移転およびその制度管理手法開発に関する研究: 胃炎の違いに関する検討を含む. 平成16年度国際医療協力研究委託費事業班会議, 2005. 1.
- 62) 松久威史: *Helicobacter pylori*二次除菌成績の検討: 第2報. 第29回東京 *Helicobacter pylori*研究会, 2005. 1.
- 63) 松久威史, 江上 格: *Helicobacter pylori*除菌判定に於けるメリディアン HpSA ELISA, イムノカード ST HpSAの有効性. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.
- 64) 富樫晃祥, 江上 格, 松田 健, 松久威史, 沖濱裕司, 増田剛太郎, 二見良平, 川野陽一, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 門脈浸潤を伴う進行HCCに対してIFN / 5FU動注化学療法が奏効した1例. 第41回三多摩肝臓談話会, 2005. 2.
- 65) 松久威史: 高齢者の *Helicobacter pylori*除菌療法における薬剤耐性について. 第7回日本高齢消化器医学会議, 2005. 2.
- 66) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松田 健, 松久威史, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 再発GIST・EGIST症例に対するメシル酸イマチニブによる分子標的療法の経験. 第3回日本臨床腫瘍学会総会, 2005. 3.
- 67) 松久威史: *Helicobacter pylori*二次除菌成績の検討: 第3報. 第30回東京 *Helicobacter pylori*研究会, 2005. 3.
- 68) 増田剛太郎, 江上 格, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 川野陽一, 富樫晃祥, 二見良平, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 出血を繰り返した十二指腸憩室に対し, 憩室縫縮術にて治療し得た1例. 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005. 3.
- (7) Q & A :
- 1) 松久威史: 日常診療における *H. pylori*の診断と治療. 第6回東京 *Helicobacter*診断研究会, 2005. 2.

## [ 千葉北総病院外科 ]

### 研究概要

消化器外科および一般外科領域における, 基礎的ならびに臨床的研究を行い, その成果を学会および学会誌等で報告している. 開院以来, 外来・入院患者数の増加とともに年間手術件数も増加し, 地域における基幹病院としての役割を果たしている. 院内においては内科, 放射線科, 病理との合同カンファランスを行い, 診断・外科的治療の質の向上を図っている.

1. 進行食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対する外科的治療とともに化学療法による集学的治療を行い, 患者の延命とQOLの向上を図り良好な成績を得ている.
2. 消化器疾患に対する内視鏡的治療, とくに早期胃癌, 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡的治療, 閉塞性黄疸あるいは癌再発に伴う消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, 内視鏡的治療を行っている.
3. 腹腔鏡下手術については胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌, 早期大腸癌, また進行癌にも適応拡大し, 手技の改良とともに低侵襲手術の導入を積極的に行なっている.
4. 乳癌症例の増加に伴い手術例数の増加, 適応に準じた縮小手術の積極的な導入, 進行乳癌に対する化学内分泌療法により乳癌患者のQOLの向上に努めている.
5. 消化器癌を中心として病理学的・分子生物学的手法を用いた癌の生物学的特性に関する研究を行い, 国際学会をはじめとした学会発表とともに内外の学会誌, 専門誌へ発表している.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 症例報告：

- 1) Yokoi K, Tanaka N, Kyouno S, Ishikawa N, Seya T, Shirakawa T, Takahashi Y, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Surgery ): High Efficacy of Imatinib for Recurrent Gastrointestinal Stromal Tumor in the Jejunum : A Case Report . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 2 ): 114-119 .
- 2) Tokita Y<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Mifune T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ishikawa N, Tanaka N, Ohaki Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Intensive Care Unit, Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Internal Medicine, Chiba Hokusou Hospital, <sup>3)</sup> Dept. of Pathology, Chiba Hokusou Hospital ): Acute Myocardial Infarction due to Simultaneous Occlusion of Two Main Coronary Arteries in a Patient with Advanced Gastric Cancer . International Journal of Angiology 2004 ; 13 ( 3 ): 127-130 .
- 3) 小泉岐博, 田中宣威, 京野昭二, 瀬谷知子: 腹腔鏡下胆嚢摘出時の落下結石により術後4年目に腹壁膿瘍を形成した1例. 手術 2004 ; 58 ( 5 ): 757 .
- 4) 石川紀行, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子: S状結腸憩室穿孔による汎発性腹膜炎が原因で生じた急性肺障害に対してエラスボールが有用であった1症例. Progress in Medicine 2004 ; 24 ( 11 ): 2878-2880 .
- 5) 横山真也<sup>1)</sup>, 中村純子<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 吉岡正人, 田中宣威 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療部 ): PMX-DHP・CHDFが有効と考えられたARDS, DICを併発した重症急性膵炎の1例. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2004 ; 8 ( 1 ): 124-128 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Tanaka N, Seya T, Shinji S<sup>1)</sup>, Katsuta M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Yokoi K, Yamashita K, Kanazawa Y, Yamada T, Takahashi Y, Koizumi M, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Ishiwata S<sup>3)</sup>, Ikegawa S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Pathology II, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Bioanalytical Pharmaceuticals, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki University, Osaka ): UPS14/TGT60KDA Expression In Human Colorectal Cancer . 12th United European Gastroenterology Week ( Prague, Czech Republic ), 2004 . 9 .
- 2) Seya T, Tanaka N, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Yokoi K, Ishikawa N, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Takahashi Y, Koizumi M, Shirakawa T, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, <sup>2)</sup> Dept. of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>3)</sup> Dept. of Pathology II ): Expression of Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen in Colorectal Cancer With/Without Liver Metastasis . 12th United European Gastroenterology Week ( Prague, Czech Republic ), 2004 . 9 .
- 3) Shinji S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka N, Seya T, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, <sup>2)</sup> Dept. of Pathology II ): Lumican Expression In Human Neuroendocrine Tumor . 12th United European Gastroenterology Week ( Prague, Czech Republic ), 2004 . 9 .
- 4) Shinji S<sup>1)</sup>, Tanaka N, Furukawa K<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Seya T, Kan H<sup>1)</sup>, Tsuruta H<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Katsuta M<sup>1)</sup>, Teranishi N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, <sup>2)</sup> Dept. of Pathology II ): Micrometastasis in Node Negative Colorectal Carcinoma by Immunohistochemical Diagnosis with CK20 . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 5) 瀬谷知子, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 千葉北総病院



- 病理部): ヒト胃癌におけるルミカンの発現と腸上皮化生. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 6) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中宣威, 瀬谷知子, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): カルチノイドにおける Lumican の発現意義. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 7) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠沢 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 横井公良, 京野昭二, 田中宣威(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>外科学第1): *H. Pylori*感染がもたらす大腸癌の危険性. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 8) 金沢義一, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 瀬谷知子, 山田岳史, 白川 毅, 小泉岐博, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 進行胃癌(StageIV), 再発胃癌症例に対するTS-1投与の成績の検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 9) 山田岳史, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 小泉岐博, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸癌における組織内OPRT, DPD, TS活性の臨床病理学検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 10) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): LCM+RT-PCR法による大腸癌術前生検および手術標本での5-FU代謝関連酵素 mRNA 発現量の比較(術前生検から得られる情報とその臨床応用). 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 11) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 抗CK20抗体を用いた免疫染色によるStageI・II大腸癌リンパ節微小転移の検出とその臨床的意義. 第61回大腸癌研究会, 2004. 7.
- 12) 山下直行<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 金沢義一, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 和知栄子<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>同病理, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃空腸吻合合併後29年目に発生した胃癌の1例. 第15回日本消化器癌発生学会総会, 2004. 8.
- 13) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 金沢義一, 山田岳史, 大秋美治<sup>2)</sup>, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一<sup>3)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN, MMP-9, IV型コラーゲンの発現. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 14) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 山田岳史, 小泉岐博, 堀場光二, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 進行膵癌(StageIV)におけるGemcitabineの有用性. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 15) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 小泉岐博, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸癌における組織内OPRT, DPD, TS活性の臨床病理学的検討. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 16) 山田岳史, 田中宣威, 金沢義一, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 抗癌剤投与による悪心・嘔吐におけるサブスタンスP. 第42回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 17) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 小野寺浩之, 佐々木順平, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 一過性の黄疸と腹痛で発症, 精査後手術し得た肝内胆管癌の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 18) 山田岳史, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 高齢者における消化器癌手術前後のサブスタンスPの変動と術後誤嚥性肺炎. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 19) 金沢義一, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 白川 毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 吉岡正人, 堀場光二, 小泉岐博, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Gemcitabine + Cisplatinにより膵癌術後再発の腹水に著効した1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.

- 20) 吉岡正人, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中宣威, 内田英二<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 診断, 治療に難渋した自己免疫性重症急性膵炎の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 21) 白川 毅, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 岡田 進<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 腋窩リンパ節転移にて発症, 経過観察中に原発巣が明らかとなった乳腺アポクリン癌の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 22) 堀場光二, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 吉岡正人, 小泉岐博, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Staget1 乳癌術後4年目に左卵巣転移をきたした1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 23) 小泉岐博, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小野寺浩之: 待機的手術にて治療した成人Bochdalek孔ヘルニアの2例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 24) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石綿俊二<sup>2)</sup>, 池川繁男<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>2)</sup>近畿大学病院薬剤学, <sup>3)</sup>日本医科大学病理学第2): 大腸癌におけるUSP14/TGT60kDa発現の臨床的意義. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 25) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 横井公良, 京野昭二, 田中宣威(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌, 大腸腺腫と*Helicobacter Pylori*感染との関係に対する検討. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 10.
- 26) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN, MMP-9, IV型コラーゲンの発現. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 27) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 28) 三枝順子<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 京野昭二, 田中宣威(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): Hercep Testにおいて特異な染色様式を示す原発性乳癌の組織学的, 免疫組織学的, 電顕的検討. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2004. 11.
- 29) 小野寺浩之, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 大川敬一, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 峯田 章, 田尻孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 腸重積を伴った大腸癌の2例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 30) 白川 毅, 田中宣威, 横井公良, 長谷川博一, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 吉岡正人, 大秋美治<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 短期間に形態変化した胃潰瘍合併進行胃癌の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 31) 京野昭二<sup>1)</sup>, 山初順一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 横井公良, 長谷川博一, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 山初和也, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>泉中央病院, <sup>2)</sup>外科学第1): 併存する多発性隆起性病変により診断および治療に難渋した多発早期胃癌の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 32) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討. 第62回大腸癌研究会, 2005. 1.

- 33) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 小泉岐博, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): 吐血によって発症した胃GISTの2例. 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005. 3.
- 34) 工藤秀徳, 田中宣威, 横井公良, 長谷川博一, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川毅, 大川敬一, 金子昌裕, 吉岡正人, 小泉岐博, 峯田 章: 当院における胃癌姑息手術症例の検討. 第47回千葉県外科医会, 2005. 3.

## 10．外科学第二講座

### [ 付属病院第 2 外科 ( 内分泌外科 , 心臓血管外科 , 呼吸器外科 ) ・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]

#### 研究概要

外科学第二講座は付属病院第二外科, 第二病院外科, 第二病院消化器病センター, 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, 多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育, 研究, 診療を担っている。付属病院第二外科では, 以下の項目を重点的に研究している。

1. 心臓血管外科部門では, 冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている。虚血性心疾患外科治療, 心房細動を中心とした不整脈外科, 心筋保護法, 小児開心術術式等に関する研究を主体としている。胸部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる。

2. 呼吸器外科領域では, 肺癌外科治療を中心に年間200例の手術を施行している。肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助下手術を他に先駆けて導入し高齢者, 低身体機能を有する予備力低下症例に応用し良好な結果をあげ, 国内外で高い評価を受けている。併せて分子生物学, 遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療の研究を国内外で積極的に行っている。さらに肺縦隔良性疾患, 多汗症などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実践し, 社会的に貢献している。

3. 内分泌外科領域では, 甲状腺, 副甲状腺, 副腎および乳腺疾患を対象に年間約200例の手術を行っている。1998年からは内視鏡下手術として, 副腎はもとより甲状腺, 副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式のVideo-assisted neck surgery (VANS法) を国内外で最も早く取り組み高度先進医療として国から認められている。全国各地からの紹介患者も多く, また, 海外からの評価も高く, 国際学会での発表, ライブ手術も頻回に行っている。さらには, 遺伝子学を中心に基礎研究も積極的に行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Ishii Y, Gleva Marye J.<sup>1)</sup>, Gamache M. C.<sup>1)</sup>, Schuessler Richard B.<sup>1)</sup>, Damiano Ralph J. Jr.<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Washington University School of Medicine, USA): Atrial tachyarrhythmias following the Maze procedure: Incidence and prognosis. *Circulation* 2004; 110: II-164-168.
- 2) Yamauchi H, Yamaki S<sup>1)</sup>, Fujii M, Saji Y, Ochi M, Shimizu K (<sup>1)</sup> Research Institute of pulmonary Vasculature): Atrial septal defect with borderline pulmonary vascular disease. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 2004; 52 (4): 213-216.
- 3) Fujii M, Avkiran M, Chambers David J: Experimental studies on myocardial protection with intermittent cross-clamp fibrillation: additive effect of the sodium-hydrogen exchanger inhibitor, cariporide. *Ann Thorac Surg* 2004; 77 (4): 1398-1407.
- 4) Imura H, Duncan HP<sup>1)</sup>, Corfield AP<sup>2)</sup>, Myerscough N<sup>2)</sup>, Caputo M<sup>3)</sup>, Angelini GD<sup>3)</sup>, Wolf AR<sup>1)</sup>, Henderson AJ<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Bristol Royal Hospital for sick children, <sup>2)</sup> Bristol University Department of Medicine,

- <sup>3)</sup> Bristol Royal Infirmary Cardiac Surgery ): Increased airway mucins after cardiopulmonary bypass associated with postoperative respiratory complications in children . J Thorac Cardiovasc Surg 2004 ; 127 ( 4 ): 963-969 .
- 5 ) Hirata T , Nagai H , Koizumi K , Okino K , Harada A , Onda M , Nagahata T , Mikami I , Hirai K , Haraguchi S , Jin E , Kawanami O , Shimizu K , Emi M : Amplification, up-regulation and over-expression of C3G ( CRK SH3 domain-binding guanine nucleotide-releasing factor ) in non-small cell lung cancers. . J Hum Genet. 2004 ; 49 ( 6 ): 290-295 .
- 6 ) Ishii R<sup>1)</sup>, Shimizu K , Shimizu M<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Tanaka S , Takahashi H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology ): In vivo priming of natural killer T cells by dendritic cells pulsed with hepatoma-derived acid-eluted substances. . Cancer Immunology and Immunotherapy 2004 ; 53 ( 5 ): 383-390 .
- 7 ) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Mohammad G<sup>4)</sup>, Shimizu H<sup>4)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Okihama Y<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Shimizu K , Kawanami O<sup>4)</sup>, Tajiri T<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Gastroenterology Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> Pathology Tama-Nagayama Hospital , <sup>4)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology , <sup>5)</sup> First Department of Surgery ): Comparative Study between DNA Copy Number Aberrations Determined by Quantitative Microsatellite Analysis and Clinical Outcome in Patients with Stomach Cancer . Clinical Cancer Research 2004 ; 10 : 3013-3019 .
- 8 ) Igarashi T<sup>1)</sup>, Wynberg J<sup>2)</sup>, Srinivasan R<sup>1)</sup>, Becknell B<sup>4)</sup>, McCoy JP<sup>3)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Suffredini DA<sup>1)</sup>, Linehan WM<sup>2)</sup>, Caligiuri MA<sup>4)</sup>, Childs RW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> The Hematology Branch, National Heart, Lung and Blood Institute, National Institutes of Health , <sup>2)</sup> The Urologic Oncology Branch, National Cancer Institute ; National Institutes of Health , <sup>3)</sup> The Hematology Branch, Flow Cytometry Core Facility, National Heart, Lung and Blood Institute, National Institutes of Health , <sup>4)</sup> The Department of Internal Medicine, Division of Hematology/Oncology, The Ohio State University, Columbus ): Enhanced cytotoxicity of allogeneic NK cells with killer immunoglobulin-like receptor ligand incompatibility against melanoma and renal cell carcinoma cells . Blood 2004 ; 104 ( 1 ): 170-177 .
- 9 ) Parkhurst MR<sup>1)</sup>, Riley JP<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Li Y<sup>1)</sup>, Robbins PF<sup>1)</sup>, Rosenberg SA<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> National Cancer Institute, Surgery Branch, NIH , <sup>2)</sup> National Heart, Lung, and Blood Institute, Hematology Branch, NIH ): Immunization of patients with the hTERT : 540-548 peptide induces peptide-reactive T lymphocytes that do not recognize tumors endogenously expressing telomerase . Clin Cancer Res 2004 ; 10 ( 14 ): 4688-4698 .
- 10 ) Yamauchi H , Ochi M , Fujii Masahiro , Hinokiyama K , Ohmori H , Sasaki T , Ikegami E<sup>1)</sup>, Uchikoba Y<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup>, Shimizu K (<sup>1)</sup> Department of Pediatrics ): Optimal time of surgical treatment for Kawasaki coronary artery disease . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 4 ): 279-286 .
- 11 ) Fukushima M , Shimomura N<sup>1)</sup>, Nakamura K<sup>1)</sup>, Kammori M<sup>1)</sup>, Koizumi K , Shimizu K , Takubo K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ): Demonstration of human telomerase reverse transcriptase by in situ hybridization in lung carcinoma . Oncol. Rep. 2004 ; 12 ( 6 ): 1227-1232 .
- 12 ) Shimura T<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1,2)</sup>, Miyashita T<sup>1,3)</sup>, Adachi K<sup>4)</sup>, Teramoto A<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Academic Quality and Development Office , <sup>2)</sup> Second Department of Surgery, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): Implementation of Integrated Medical Curriculum in Japanese Medical Schools . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ): 11-16 .
- 13 ) Koizumi K , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Okada D , Yamagishi S , Kawashima T , Nakajima Y , Shimizu K : Surgical Treatment of Lung Cancer combined with Interstitial Pneumonia : The effects of Surgical Ap-

- proach on Postoperative Acute Exacerbation . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2004 ; 10 ( 6 ): 340-346 .
- 14) Koizumi K , Haraguchi S , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Yamagishi S , Okada D , Kinoshita H , Enomoto Y , Nakajima Y , Shimizu K : Experiences of Surgical Treatment for Lung Cancer Patients with Vertebral Invasion . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2004 ; 10 ( 4 ): 229-234 .
- 15) Nitta T : The Radial Procedure for Atrial Fibrillation . Operative Techniques in Thoracic and Cardiovascular Surgery 2004 ; 9 ( 1 ): 83-95 .
- 16) Onda M<sup>1)</sup> , Nagai H<sup>1)</sup> , Yoshida A<sup>2)</sup> , Miyamoto S<sup>1)</sup> , Akaishi J<sup>1)</sup> , Asaka S<sup>1)</sup> , Takatsu K<sup>1)</sup> , Nagahama M<sup>3)</sup> , Ito K<sup>3)</sup> , Shimizu K , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Kanagawa Prefectural Cancer Center , <sup>3)</sup> Ito Hospital ): Up-regulation of transcriptional factor E2F1 in papillary and anaplastic thyroid cancers. . Journal of Human Genetics 2004 ; 49 ( 6 ): 312-318 .
- 17) Akimaru K , Yokomuro S<sup>1)</sup> , Aimoto T<sup>1)</sup> , Yoshida H<sup>1)</sup> , Uchida E<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery ): Tumor marker measurements of cells in a fine needle used for aspiration cytology. . Analyt Quant Cytol Histol. 2004 ; 26 : 249-254 .
- 18) Hirai K , Koizumi K , Haraguchi S , Hirata T , Mikami I , Fukushima M , Yamagishi S , Kawashima T , Okada D , Shimizu K , Kawamoto M : Prognostic Significance of the Tumor Suppressor Gene Maspin in Non-Small Cell Lung Cancer . Ann Thorac Surg 2005 ; 79 : 248-253 .
- 19) Nitta T , Ohmori H , Sakamoto S , Miyagi Y , Kanno S , Shimizu K : Map-guided surgery for atrial fibrillation . J Thorac Cardiovasc Surg 2005 ; 129 ( 2 ): 291-299 .
- 20) Koizumi K , Haraguchi S , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Kubokura H , Yamagishi S , Kawashima T , Yoshino N , Maeda M , Shimizu K : Thoracoscopic Surgery in Children . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ): 34-42 .
- 21) Mase H<sup>1)</sup> , Tamura K<sup>2,3)</sup> , Hiromoto A<sup>1)</sup> , Hotta M<sup>1)</sup> , Hotomi S<sup>1)</sup> , Togashi M<sup>3)</sup> , Fukuda Y<sup>3)</sup> , Yajima T , Nitta T , Tanaka S , Sugisaki Y<sup>2,3)</sup> ( <sup>1)</sup> Medical Student , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital , <sup>3)</sup> Department of Pathology ): Histopathological study of tissue reaction to pacemaker electrodes implanted in the endocardium . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ): 52-59 .
- 22) 北川 亘 , 赤須東樹 , 清水一雄 : 原発性副甲状腺機能亢進症に対する頸部皮膚吊り上げ法 ( VANS法 ) を用いた内視鏡補助下手術 . 手術 2004 ; 58 ( 4 ): 505-510 .
- 23) 清水一雄 , 清水一秀<sup>1)</sup> , 赤須東樹 , 北川 亘 , 小林英津子<sup>1)</sup> , 佐久間一郎<sup>1)</sup> , 丸山隆志<sup>2)</sup> , 村垣善浩<sup>3)</sup> , 伊関洋<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Graduate School of Frontier Sciences , Nippon Medical School , <sup>2)</sup> the University of Tokyo, Department of Neurosurgery , <sup>3)</sup> Neurological Institute, Tokyo Women's Medical University and the Faculty of Advanced Techno-Surgery ): 5-Aminolevulinic acid ( 5-ALA ) の応用 : 内分泌頸部外科手術に有用かつ簡便な術中副甲状腺の新同定法 . 内分泌外科 2004 ; 21 ( 3 ): 199-202 .
- 24) 宮下次廣<sup>1,3,4)</sup> , 清水一雄<sup>2,3,4)</sup> , 足立好司<sup>1,3)</sup> , 荒牧琢己<sup>3,4)</sup> , 志村俊郎<sup>3)</sup> , 壇 和夫<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 総合試験実行委員会 , <sup>2)</sup> 共用試験CBT委員会 , <sup>3)</sup> 教育推進室 , <sup>4)</sup> 教育委員会 ): 共用試験CBTとの比較による第4学年総合試験の評価 . 医学教育 2004 ; 35 ( 5 ): 331-336 .
- 25) 渡邊秀裕<sup>1)</sup> , 鈴木成治<sup>1)</sup> , 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): リンパ節転移の予後に及ぼす影響 ( 高齢者胃癌治療切除例での検討 ) . 日本高齢消化器医学会誌 2004 ; 6 ( 2 ): 24-29 .
- 26) 落 雅美 : 21世紀の冠動脈バイパス術 : Off-pump CABG ( OPCAB ) を検証する-OPCABとon-pump CABGの適応と功罪 . HEART nursing 2005 ; 8 : 70-75 .
- 27) 落 雅美 , 高本真一<sup>1)</sup> , 竹内靖夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学大学院医学系研究科医学部附属病院・臓器病態外科学 , <sup>2)</sup> 東京女子医科大学附属第二病院・心臓血管外科 ): VI-2-4 ) グラフトの準備 : 橈骨動脈 . 冠動脈外科の要点と盲点 2005 ; 106-107 .

- 28) 落 雅美, 高本眞<sup>1)</sup>, 竹内靖夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院医学系研究科医学部附属病院・臓器病態外科学,<sup>2)</sup>同附属第二病院・心臓血管外科): ワンポイントアドバイス: RA の長所と短所 or/with 使用法と吻合のコツ. 冠動脈外科の要点と盲点 2005 ; 109-109 .
- 29) 落 雅美, 高本眞<sup>1)</sup>, 竹内靖夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院医学系研究科医学部附属病院・臓器病態外科学,<sup>2)</sup>東京女子医科大学附属第二病院・心臓血管外科): ワンポイントアドバイス: 各スタビライザー使用法のコツ. 冠動脈外科の要点と盲点 2005 ; 181-181 .

(2) 綜説 :

- 1) Onda M<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>, Yoshida A<sup>2)</sup>, Miyamoto S<sup>1)</sup>, Asaka S<sup>1)</sup>, Akaishi J<sup>1)</sup>, Mizutani K<sup>1)</sup>, Shimizu K, Nagahama M<sup>3)</sup>, Ito K<sup>3)</sup>, Tanaka T<sup>4)</sup><sup>5)</sup>, Tsunoda T<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Kanagawa Prefectural Cancer Center, <sup>3)</sup>Ito Hospital, <sup>4)</sup>Laboratory for Medical Informatics, RIKEN, <sup>5)</sup>Laboratory of Molecular Medicine, Human Genome Center, Institute of Medical Science, University of Tokyo): Comprehensive gene expression profiling of anaplastic thyroid cancers with cDNA microarray of 25344 genes. Endocrine Related Cancer 2004 ; 11 (4) : 843-854 .
- 2) Onda M<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>, Yoshida A<sup>1)</sup>, Miyamoto S, Akaishi J, Esaka S, Mizutani K, Shimizu K, Nagahama M<sup>2)</sup>, Ito K<sup>2)</sup>, Tanaka T<sup>3,4)</sup>, Tsunoda T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Kanagawa Prefectural Cancer Center, <sup>2)</sup>Ito Hospital, <sup>3)</sup>Laboratory for Medical informatics, RIKEN, <sup>4)</sup>Laboratory of Molecular Medicine, Human Genome Center, Institute of Medical Science, University of Tokyo): Comprehensive gene expression profiling of anaplastic thyroid cancers with cDNA microarray of 25 344 genes. Endocrine-Related Cancer 2004 ; 11 : 843-854 .
- 3) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹: 特集 甲状腺癌治療の最適化を目指して: 甲状腺癌に対する内視鏡下手術の適応と限界. 臨床外科 2004 ; 59 (4) : 443-448 .
- 4) 清水一雄: 特集 Oncogenic emergency とその対応: 2. 甲状腺. 日本外科学会雑誌 2004 ; 105 (4) : 266-270 .
- 5) 新田 隆: 心房細動の治療. だより (練馬区医師会雑誌) 2004 ; (434) : 10-19 .
- 6) 新田 隆: 外科治療. 臨床麻酔 2004 ; 28 (6) : 1043-1051 .
- 7) 石井庸介, 新田 隆: 集中治療における心房細動の治療. ICU と CCU 2004 ; 28 (8) : 599-606 .
- 8) 宮下次廣<sup>1,2,3)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>1,2)</sup>, 荒牧琢己<sup>2,3)</sup>, 清水一雄<sup>2,3)</sup>, 壇 和夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>総合試験実行委員会, <sup>2)</sup>教育推進室, <sup>3)</sup>教育委員会): 医学部在学中の試験と医師国家試験の成績比較. 医学教育 2004 ; 35 (4) : 281-285 .
- 9) 新田 隆: 植込み型除細動器 (ICD) の現状と問題点. Clinical Engineering 2004 ; 15 (9) : 929-938 .
- 10) 新田 隆: 心臓突然死1次予防におけるICDの役割. 進歩する心臓研究-Tokyo Heart Journal- 2004 ; 24 (2) : 25-29 .
- 11) 清水一雄: 内分泌外科領域における内視鏡手術の現況と展望: 甲状腺・副甲状腺領域における内視鏡手術の技術認定. 内分泌外科 2005 ; 22 (1) : 3-11 .
- 12) 新田 隆: 特集II : 第68回日本循環器学会学術集会 1. 心房細動-基礎から臨床へ: 心房細動のマッピングと外科治療. 循環器専門医 2005 ; 13 (1) : 23-31 .

(3) 研究報告書 :

- 1) Shanker Amit J<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>2)</sup>, Green Karen G<sup>3)</sup>, Yamada Kathryn A<sup>4)</sup>, Saffitz Jeffrey E<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>The Departments of Pathology and Medicine and the Center for Cardiovascular Research, Washington University School of Medicine, St Louis, Mo. , <sup>2)</sup>The Departments of Pathology and Medicine and the Center for Cardiovascular Research, Washington University School of Medicine, St Louis, Mo. , <sup>3)</sup>The Departments of Pathology and Medicine and the Center for Cardiovascular Research, Washington University School of Medicine, St Louis, Mo. , <sup>4)</sup>The Departments of Pathology and Medicine and the Center for Cardiovascular Research, Washington University School of Medicine, St Louis, Mo. , <sup>5)</sup>The Departments of Pathology and Med-

icine and the Center for Cardiovascular Research, Washington University School of Medicine, St Louis, Mo.): Matrix protein-specific regulation of Cx43 expression in cardiac myocytes subjected to mechanical load. *Circ Res.* 2005 Mar 18; 96 (5): 558-66 2005; 18 (96 (5)): pp558-566.

- 2) 三井利夫, 山口 巖, 相澤義房, 池口 滋, 岡部富士子, 小川 聡, 笠貫 宏, 加藤貴雄, 岸 良示, 久賀圭祐, 栗田隆志, 小坂井嘉夫, 相良耕一, 里美和浩, 下村克朗, 杉 薫, 高柳 寛, 田中茂夫, 新田 隆, 堀原一, 松本直樹, 三崎拓郎, 三田村秀雄, 坂本 徹, 新田 隆, 小川 聡, 山口 徹, 渡辺重行: 不整脈に起因する失神例の運転免許取得に関する診断書作成と適性検査施行の合同検討委員会ステートメント. *不整脈* 2004; 19 (5): pp502-512.

#### (4) 症例報告:

- 1) Yoshino N<sup>1)</sup>, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Maruyama Y<sup>1)</sup>, Ogasawara H<sup>1)</sup>, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Thoracic Surgery Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital): Paraganglioma of the Posterior Mediastinum Diagnosed by Immunohistochemical Staining. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 2004; 52 (4): 217-220.
- 2) Kitagawa W, Kameyama K<sup>1)</sup>, Tamai S<sup>2)</sup>, Shimizu K, Ito K<sup>3)</sup>, Akasu H, Ito K<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Diagnostic Pathology, Keio University of Medicine, <sup>2)</sup> Division of Laboratory Medicine, National Defense Medical College, <sup>3)</sup> Ito Hospital): Adenolipoma of the Thyroid Gland: Report of a Case. *Surg Today* 2004; 34 (7): 593-596.
- 3) Nakajima Y, Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Shimizu K (<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology): Successful Thoracoscopic Sympathectomy for Primary Erythromelalgia in the Upper Extremities. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 2004; 52 (11): 524-526.
- 4) Fukushima M, Koizumi K, Nakajima Y, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Shimizu K (<sup>1)</sup> Department of Pathology): Primitive Neuroectodermal Tumor/Ewing's Sarcoma with Long-term Follow-up. *Jpn. Thorac. Cardiovasc. Surg.* 2005; 53 (2): 97-101.
- 5) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 清水一雄 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): チタン製プレートで胸壁を再建した胸壁原発紡錘形細胞肉腫の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 2004; 65 (4): 924-928.
- 6) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 清水一雄 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): 肺癌切除直後に胃・小腸転移が発見された1例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 2004; 18 (4): 552-556.

#### 著 書

- 1) Simoes M. S<sup>1)</sup>, Kitamura Y, Asa S. L<sup>2)</sup>, Kroll T. G<sup>3)</sup>, Nikiforov Y. E<sup>4)</sup>, Delellis R. A<sup>5)</sup>, Farid P<sup>6)</sup>, Noguchi S<sup>7)</sup>, Eng C<sup>8)</sup>, Harach H. R<sup>9)</sup>, Williams E. D<sup>10)</sup>, Schneider A. B<sup>11)</sup>, Fagin J. A<sup>12)</sup>, Ghossein R. A<sup>13)</sup>, Mazzaferri E. L<sup>14)</sup>, Lloyd R. V<sup>15)</sup>, Livolsi V<sup>16)</sup>, Chan J. K. C. <sup>17)</sup>, Baloch Z. W. <sup>18)</sup>, Clark O. H. <sup>19)</sup>(<sup>1)</sup> IPATIMUP, <sup>2)</sup> Dept. of Laboratory Medicine and Pathobiology, University of Toronto, University Health Network and Toronto Medical Laboratories, <sup>3)</sup> Dept. of Pathology University of Chicago Hospitals, <sup>4)</sup> Dept. of Pathology and Laboratory Medicine, University of Cincinnati College of Medicine, <sup>5)</sup> Dept. of Pathology and Laboratory Medicine Rhode Island Hospital, <sup>6)</sup> 1st Institute of Pathology and Experimental Cancer Research Semmelweis University, <sup>7)</sup> Noguchi Thyroid Clinic and Hospital Foundation, <sup>8)</sup> Division of Human Genetics, Dept. of Internal Medicine, Clinical Cancer Genetics Program, The Ohio State University, <sup>9)</sup> Service of Pathology, Dr. A. Onativia Endocrinology and Metabolism Hospital, <sup>10)</sup> Thyroid Carcinogenesis Group, Strangeways Research Laboratory, <sup>11)</sup> Section of Endocrinology, University of Illinois at Chicago, <sup>12)</sup> Division of Endocrinology and Metabolism Internal Medicine, University of Cincinnati College of Medicine, <sup>13)</sup> Dept. of Pathology Memorial Sloan Kettering Cancer Center, <sup>14)</sup> University of Florida, <sup>15)</sup> Laboratory Medicine and Pathology Mayo Clinic,



- <sup>16)</sup> Dept. of Pathology and Laboratory Medicine, University of Pennsylvania Medical Center, <sup>17)</sup> Dept. of Pathology, Queen Elizabeth Hospital, <sup>18)</sup> Dept. of Pathology and Laboratory, Medicine, Cytopathology, University of Pennsylvania Medical Center, <sup>19)</sup> Dept. of Surgery, UCSF/Mt. Zion Medical Center ): [ 分担 ] Follicular Carcinoma . WHO Classification of Tumours. Pathology and Genetics of Tumours of Endocrine Organs ( R. A. Delellis, R. V. Lloyd, P. U. Heits, C. Eng ), 2004 ; pp67-72 , IARC Press, Lyon .
- 2 ) Ordonez N<sup>1)</sup> , Kitamura Y , Baloch Z. W<sup>2)</sup> , Matias-Guiu X<sup>3)</sup> , Evans H. L<sup>4)</sup> , Faid N. R<sup>5)</sup> , Fagin J. A<sup>6)</sup> , Tallini G<sup>7)</sup> , Eng C<sup>8)</sup> , Haigh P. I<sup>9)</sup> , Faquin W. C<sup>10)</sup> , Sugitani I<sup>11)</sup> , Giuffrida D<sup>12)</sup> , Boerner S<sup>13)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology and Laboratory Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology and Laboratory, Medicine, Cytopathology, University of Pennsylvania Medical Center , <sup>3)</sup> Dept. of Pathology and Molecular Genetics, Hospital Universitari Arnau de Vilanova, Universitat de Lleida , <sup>4)</sup> Division of Anatomic Pathology, Dept. of Surgical Pathology, Box0085 University of Texas MD anderson Cancer Center , <sup>5)</sup> Osancor Biotech. Inc. , <sup>6)</sup> Division of Endocrinology and Metabolism Internal Medicine, University of Cincinnati College of Medicine , <sup>7)</sup> Dept. of Pathology, University of Bologna School of Medicine , <sup>8)</sup> Division of Human Genetics, Dept. of Internal Medicine, Clinical Cancer Genetics Program, The Ohio State University , <sup>9)</sup> Oncologic and Endocrine Surgery, Dept. of Surgery, Kaiser Permanente Los Angeles Medical Center , <sup>10)</sup> Dept. of Pathology Massachusetts General Hospital , <sup>11)</sup> Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, <sup>12)</sup> Division of Medical Oncology, Istituto Oncologico del Mediterraneo Viagrande, <sup>13)</sup> Cytopathology, University Health Network, Princess Margaret Hospital ): [ 分担 ] Undifferentiated ( Anaplastic ) Carcinoma . WHO Classification of Tumours : Pathology and Genetics of Tumours of Endocrine Organs ( R. A. Delellis, R. V. Lloyd, P. U. Heits, C. Eng ), 2004 ; pp77-80 , IARC Press, Lyon .
- 3 ) 清水一雄 : [ 分担 ] III 章 腫瘍性疾患の治療方針と治療の実際 : 1. 腫瘍性病変 ( 良性・悪性 ) のインフォームドコンセント . 甲状腺疾患治療マニュアル ( 高見 博・森 昌朋 ), 2004 ; pp79-82 , 南江堂 .
- 4 ) 清水一雄 : [ 分担 ] 第 98 回 再現 医師国家試験問題解説書 ( 再現医師国家試験問題解説書編集委員会 ), 2004 ; 医学評論社 .
- 5 ) 新田 隆 : [ 分担 ] 不整脈の外科治療 . 循環器疾患最新の治療 2004-2005 ( 山口 徹 , 堀 正二 ), 2004 ; pp335-341 , 南江堂 .
- 6 ) 新田 隆 : [ 分担 ] ペースメーカ治療の合併症 . 1. 術中 . ペースメーカ治療 ( 相澤義房 ), 2004 ; pp177-183 , メジカルビュー .
- 7 ) 新田 隆 : [ その他 ] 心房細動への新たな外科的アプローチ . 不整脈 News & Views , 2004 ; p8 , ライフサイエンス出版 .
- 8 ) 新田 隆 : [ 分担 ] ICD 植込み慢性期の管理 . 新目で見える循環器病シリーズ 19 : 心臓ペースメーカ・植込み型除細動器 ( 相澤義房 ), 2005 ; pp278-286 , メジカルビュー .

#### 学会発表

##### ( 1 ) 特別講演 :

- 1 ) Shimizu K : Endoscopic thyroidectomy . Conference of the International Association of Endocrine Surgeons ( IAES )( Uppsala, Sweden ), 2004 . 6 .
- 2 ) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Tanaka K , Ishii R , Jikuzono T , Akaishi J , Kanbe M , Tani A : Minimally Invasive Video-Assisted Endoscopic Thyroid AND Parathyroid Surgery Using Totally Gasless Neck Skin Lifting Method-Experience OF 260 Cases . The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Ho Chi Minh City, Vietnam ), 2004 . 9 .
- 3 ) 落 雅美 : Present status and perspective of off-pump CABG in Drug Eluting Stent Era . 福島心臓血管外科研

究会 2005, 2005 . 1 .

- 4) 清水一雄：内視鏡外科学会技術認定制度が開始されて . 第 16 回日本内分泌外科学会総会, 2004 . 5 .
- 5) 清水一雄：吊り上げ法を用いた内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術：6 年間の成績と今後の展望 . 第 9 回日本内分泌学会東北地方会, 2004 . 10 .
- 6) 落 雅美：比較的稀な血行再建を行った末梢動脈閉塞の 2 例 . 和歌山血管疾患フォーラム 2004, 2004 . 10 .
- 7) 落 雅美：術中取り扱いによる心血管縫合系の損傷 . 和歌山血管疾患フォーラム 2004, 2004 . 10 .
- 8) 落 雅美：多枝再建 off-pump CABG : How I do it-For the better results . 第 2 回多摩心臓外科研究会, 2005 . 2 .
- 9) 清水一雄：内視鏡を用いた内分泌疾患の外科的治療の進歩：1. 前頸部皮膚吊り上げ法を応用した甲状腺, 上皮小体疾患に対する内視鏡補助下手術-280 例の経験に基づく工夫と改善, 将来展望 . 第 15 回臨床内分泌代謝 Update ランチョンセミナー VI, 2005 . 3 .

(2) 招待講演：

- 1) Koizumi K : Surgical Treatment of Lung Cancer Patients with Vertebral Invasion . 1st Russian-Japanese International Lung Cancer Conference ( Moscow, Russia ), 2004 . 10 .
- 2) Nitta T : Electrophysiologic Rationale Behind Minimally Invasive Surgery for Atrial Fibrillation . 8th Japanese MICS & CTT, 2004 . 10 .
- 3) Nitta T : A Perspective on AF Treatment in Japan . Medtronic Circle of Knowledge : Minimally Invasive Cardiac Surgery 2004, 2004 . 12 .

(3) 教育講演：

- 1) 小泉 潔：胸腔鏡下手術の実際 . 第 3 回日本呼吸器外科学会胸腔鏡下手術講習会, 2004 . 5 .
- 2) 小泉 潔：胸腔鏡下手術の功罪 . 第 27 回日本呼吸器内視鏡学会総会, 2004 . 6 .
- 3) 落 雅美：虚血性心疾患の外科治療：心拍動下冠動脈バイパス術を中心として . 日本医師会生涯教育講座, 2004 . 7 .
- 4) 小泉 潔：びまん性肺疾患に対する肺生検 . 第 17 回日本内視鏡外科学会総会, 2004 . 11 .

(4) シンポジウム：

- 1) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka K, Jikuzono T, Akaishi J : Video-Assisted Endoscopic Thyroid and Parathyroid Surgery using Gasless Anterior Neck Skin Lifting Method . 4th World Congress of Gasless Laparoscopic Surgery ( Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .
- 2) Shimizu K : Minimally Invasive Surgery in Thyroid Diseases : Endoscopic Thyroidectomy by an Axillary Approach . 4th World Congress of Gasless Laparoscopic Surgery ( Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .
- 3) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka K, Jikuzono T, Akaishi J : Video-Assisted Total Thyroidectomy for Thyroid Malignancy Using a Gasless Skin Lifting Method . Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting ( Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .
- 4) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka K, Ishii R, Jikuzono T, Akaishi J : Totally Gasless Video-Assisted Endoscopic Thyroid Surgery Using Anterior Neck Skin Lifting Method : Experience of 250 Cases . Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting ( Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .
- 5) Akimaru K : Peritoneal patch for reconstruction of large veins . The sixth sino-japanese symposium on hepato-biliary-pancreatic diseases ( Beijing, China ), 2005 . 4 .
- 6) 落 雅美：Arterial graft in off-pump CABG : Are we going too far? . The 5 th Hayama Heart Seminar in live surgery, 2005 . 3 .
- 7) 清水一雄：十年間の進歩と反省, さらなる飛躍に向けて ( Part-2 ): 内分泌外科 . 第 14 回吊り上げ手術研究会, 2004 . 5 .
- 8) 小泉 潔：ここまで来た, 頸・胸・腹部鏡視下手術, その問題点と将来像「胸腔鏡下手術の功罪」. 日本医科大

学医学会第14回公開「シンポジウム」, 2004 . 6 .

9) 北川 亘: ここまで来た, 頸, 胸, 腹部鏡視下手術, その問題点と将来像「頸部」. 日本医科大学医学会第14回公開「シンポジウム」, 2004 . 6 .

10) 藤井正大, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄, 仁科 大<sup>1)</sup>, Chambers David J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research): Esmolol and myocardial protection : a comparison of hyperkalemic cardioplegia to blood-based esmolol cardioplegia in blood-perfused rat hearts (開心術における心筋保護法の開拓と飛躍に向けて). 第57回日本胸部外科学会総会, 2004 . 10 .

(5) パネルディスカッション:

1) 藤井正大, 宮城泰雄, 山田研一, 別所竜蔵, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室): 当施設におけるBVS5000の使用経験. The 2nd BVS 5000 Training Seminar, 2004 . 7 .

(6) ワークショップ:

1) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka K, Ishii R, Jikuzono T, Akaishi J: Minimally Invasive Thyroidectomy . 2nd National Congress of the Indonesian Society of Endolaparoscopic Surgeons ( Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .

2) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H: Live Demonstration on Minimally Invasive Thyroidectomy . 2nd National Congress of the Indonesian Society of Endolaparoscopic Surgeons ( Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .

3) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka K: Endoscopic Thyroidectomy Using Totally Gasless Anterior Neck Skin-Lifting Method . Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia Regional Meeting ( Jakarta, Indonesia ), 2005 . 3 .

4) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 石井律子<sup>1)</sup>, 富士崎隆<sup>1)</sup>, 向井佐志彦<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 立正佼成会附属佼成病院外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科): 大腸癌肺転移切除症例の検討. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004 . 5 .

5) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1): 高齢者手術の問題点(胃癌例の検討)(高齢者手術の問題点). 第29回日本外科系連合学会学術集会, 2004 . 7 .

6) 北川 亘, 赤須東樹, 石井律子, 赤石純子, 軸菌智雄, 清水一雄: 頸部内分泌疾患に対する内視鏡補助下頸部手術(VANS法)の現状と今後の展望: 260例の経験から. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .

7) 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美, 清水一雄: 内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術(VANS法)の現状: 270例の臨床経験から. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004 . 11 .

8) 秋丸琥甫, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>2)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 外科学第1, <sup>3)</sup> 病理学第2): 閉塞性黄疸の画像と細胞診. 第43回日本臨床細胞学会秋季大会, 2004 .

(7) サージカルフォーラム:

1) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 赤石純子, 軸菌智雄, 佐久間一郎<sup>1)</sup>, 小林英津子<sup>1)</sup>, 清水一秀<sup>1)</sup>, 伊関 洋<sup>2)</sup>, 村垣善浩<sup>2)</sup>, 丸山隆志<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学大学院先端生命医科学研究所先端工学外科分野, <sup>3)</sup> 脳神経センター脳神経外科): 5-ALAを用いた蛍光発光法の術中上皮小体同定への応用. 第104回日本外科学会総会, 2004 . 4 .

(8) 一般講演:

1) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>2)</sup>, Okihama Y<sup>2)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Liu A<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>4)</sup>, Tajiri T<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Gastroenterology Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>4)</sup> First Department of

- Surgery ): Assessment of clinicopathological findings and clinical outcome in patients with GIST and EGIST . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( Yokohama, JAPAN ), 2004 . 2 .
- 2 ) Kubokura H<sup>1)</sup>, Nirmal K. V<sup>1)</sup>, Van N<sup>1)</sup>, Peter G<sup>1)</sup>, Richard J. B<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Washington University, School of Medicine ): Inhibition of esophageal cancer cell growth after CD40-ligand stimulation is associated with decreased beta-catenin and cyclinD1 and increased moesin expression . American Association for Cancer Research ( Orlando, FL, USA ), 2004 . 3 .
  - 3 ) Nitta T , Sasaki T , Ohmori H , Sakamoto S , Saji Y , Hinokiyama K , Miyagi Y , Kanno S , Shimizu K : Map-guided Surgery for Atrial Fibrillation . 84th Annual Meeting of the American Association for Thoracic Surgery ( Toronto, Canada ), 2004 . 4 .
  - 4 ) Miyawaki-Shimizu K , Dan N. Predescu<sup>1)</sup>, Shimizu J<sup>1)</sup>, Sanda A. Predescu<sup>1)</sup>, Asrar B. Malik<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pharmacology, Lung and Vascular Biology Center, University of Illinois College of Medicine, Chicago ): siRNA induced suppression of caveolin-1 expression in endothelial cells : effects on microvascular permeability. ( Caveolin and Membrane Domains ). Experimental Biology ( Washington, DC, USA ), 2004 . 4 .
  - 5 ) Shimizu J<sup>1)</sup>, Dan N. Predescu<sup>1)</sup>, Miyawaki-Shimizu K<sup>1)</sup>, Sanda A. Predescu<sup>1)</sup>, Asrar B. Malik<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pharmacology, Lung and Vascular Biology Center, University of Illinois College of Medicine, Chicago ): Lipopolysaccharide induces caveolin-1 expression via NF-kB activation. ( Inflammatory Response ). Experimental Biology ( Washington, DC, USA ), 2004 . 4 .
  - 6 ) Nitta T , Sakamoto S , Ohmori H , Hinokiyama K , Miyagi Y , Kanno S , Shimizu K : Intraoperative mapping as a guide to determine the optimal procedure for AF . Heart Rhythm 25th Annual Scientific Sessions ( San Francisco, USA ), 2004 . 5 .
  - 7 ) Yamada K , Deborah L. L<sup>1)</sup>, Jeffrey E. S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pathology, Washington University, School of Medicine ): Desparate Mechanisms Regulate Stretch-Induced Changes in Cell-Cell Junction Proteins . Heart Rhythm 25th Annual Scientific Sessions ( San Francisco, USA ), 2004 . 5 .
  - 8 ) Ohmori H , Nitta T , Miyagi Y , Ochi M , Shimizu K : Electrophysiological Consequences of a Left Atrial Volume Load Plus Rapid Atrial Pacing : A Clinically Relevant Experimental Model for Permanent Atrial Fibrillation . World Society of Cardio-Thoracic Surgeons ( Yokohama, Japan ), 2004 . 7 .
  - 9 ) Fujii M , Bessho R , Yamada K , Ochi M , Shimizu K , Nishina D<sup>1)</sup>, Chambers David J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research ): Esmolol and myocardial protection : a comparison of hyperkalemic cardioplegia to blood-based esmolol cardioplegia in rat hearts . 17th World Society of Cardio-Thoracic Surgeons-JC ( Yokohama, Japan ), 2004 . 7 .
  - 10 ) Sasaki T , Ochi M , Bessyo R , Yamada K , Miyagi Y , Fujii M , Kawase Y , Shimizu K , Takagi G<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Therapeutic angiogenesis for patients with end-stage ischemic heart disease by autologous bone marrow mononuclear cell implantation combined with coronary artery bypass grafting . 17th Annual Meeting World Society of Cardio-Thoracic Surgeons Japan Chapter ( Yokohama, Japan ), 2004 . 7 .
  - 11 ) Fujii M , Bessho R , Ochi M , Shimizu K , Chambers David J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research ): Esmolol and cardioprotection : Does addition of esmolol to St Thomas' cardioplegia enhance cardioprotection? . XVIII World Congress of the International Society for Heart Research ( Brisbane, Australia ), 2004 . 8 .
  - 12 ) Fujii M , Ochi M , Hinokiyama K , Yamada K , Bessho R , Yamauchi H , Shimizu K , Ogawa S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pediatrics ): A novel technique for a Proximal giant right coronary aneurysm of Kawasaki disease . 3rd European association for cardio-thoracic surgery/European society of thoracic surgeons Joint Meeting

( Leipzig, Germany ), 2004 . 9 .

- 13) Jikuzono T , Akasu H , Kitagawa W , Shimizu K : Endoscopic subtotal thyroidectomy for Graves' disease using a totally gasless anterior neck skin lifting method . The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Ho Chi Minh City, Vietnam ), 2004 . 9 .
- 14) Nitta T , Kanbe M , Ohmori H , Sakamoto S , Miyagi Y , Kanno S , Ochi M , Shimizu K : Temporal Constancy of Electrophysiologic Characteristics in Permanent Atrial Fibrillation . American Heart Association · Scientific Sessions 2004 ( New Orleans, USA ), 2004 . 11 .
- 15) Ishii Y , Virmani R , Gaynor Sydney L . , Diodato Michael D . , Goldman Scott M . , Prechtel Ericka J . , Kronengold Russell T . , Damiano Ralph J. Jr. ( <sup>1</sup> Washington University, School of Medicine , <sup>2</sup> American Registry of Pathology , <sup>3</sup> Kinsey Nash Corporation ): A novel bio-engineered small caliber vascular graft with excellent one month patency . American Heart Association ( New Orleans, USA ), 2004 . 11 .
- 16) Sasaki T , Fukazawa R<sup>1</sup> , Ogawa S<sup>1</sup> , Kanno S , Nitta T , Ochi M , Shimizu K ( <sup>1</sup> Department of Pediatrics ): Stromal cell-derived factor-1 ( SDF-1 ) protects deterioration of cardiac function through angiogenesis after acute myocardial infarction in mice . American Heart Association Scientific Sessions 2004 ( New Orleans, USA ), 2004 . 11 .
- 17) Yamada K , Jeffrey E. S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Pathology, Washington University School of Medicine ): Mechanisms Regulating Expression of Cell-Cell Junction Proteins in the Heart . American Heart Association Scientific Sessions ( New Orleans, USA ), 2004 . 11 .
- 18) Watanabe H<sup>1</sup> , Egami K<sup>1</sup> , Sasajima K<sup>1</sup> , Miyamoto M<sup>1</sup> , Suzuki S<sup>1</sup> , Yokoyama T<sup>1</sup> , Maruyama H<sup>1</sup> , Matsutani T<sup>1</sup> , Tajiri T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2</sup> First Dept. of Surgery ): Availability and Evaluation of Decompression Treatment with a Drainage Tube for Acute Colonic Obstruction Caused by Colorectal Cancer . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery , 2004 . 12 .
- 19) Akimaru K , Matsuda N<sup>1</sup> , Hirakata A<sup>1</sup> , Kawano Y<sup>1</sup> , Kakinuma D<sup>1</sup> , Taniai N<sup>1</sup> , Mamada Y<sup>1</sup> , Yoshida H<sup>1</sup> , Tokunaga A<sup>1</sup> , Tajiri T<sup>1</sup> : Hyperbaric oxygen on liver regeneration after minor and major hepatectomies on impaired liver. . The 19th world congress of international society for digestive surgery. ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 20) Ishii Y , Kronengold Russell T . , Virmani R , Gaynor Sydney L . , Diodato Michael D . , Goldman Scott M . , Prechtel Ericka J . , Rivera Elias A . , Damiano Ralph J. Jr. ( <sup>1</sup> Washington University, School of Medicine , <sup>2</sup> Kensey Nash Corporation , <sup>3</sup> American Registry of Pathology ): A novel drug-eluting small caliber vascular graft . Society of Thoracic Surgeons ( Tampa, USA ), 2005 . 1 .
- 21) Ohmori H , Nitta T , Ochi M , Shimizu K : Electrophysiological Mechanism of Atrial Fibrillation in a Novel Experimental Model of Left Atrial Volume Load . American College of Cardiology ( Orland, USA ), 2005 . 3 .
- 22) 上田純志 , 赤須東樹 , 北川 亘 , 田中久美 , 軸菌智雄 , 横山宋伯<sup>1</sup> , 土屋眞一<sup>1</sup> , 杉崎祐一<sup>1</sup> , 清水一雄 ( <sup>1</sup> 病理部 ): 内腔上皮が扁平上皮である嚢胞を合併する甲状腺乳頭癌の1例 . 第793回外科集談会 , 2004 . 6 .
- 23) Ishii Y , Schuessler Richard B . , Branham Barry H . , Boineau John P . , Damiano Ralph J. Jr. ( <sup>1</sup> Washington University, School of Medicine ): A novel approach to intraoperative mapping of atrial fibrillation . 第57回日本胸部外科学会総会 , 2004 . 10 .
- 24) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 , 高津圭介 , 石井律子 , 赤石純子 , 軸菌智雄 : 甲状腺癌に対する内視鏡補助下頸部内分泌手術 . 第104回日本外科学会総会 , 2004 . 4 .
- 25) 山岸茂樹 , 小泉 潔 , 平田知己 , 三上 巖 , 岡田大輔 , 川島徹生 , 宮本哲也 , 岡本淳一 , 清水一雄 : 連続心拍出量モニターを用いた肺葉切除における周術期血行動態の評価 : 胸腔鏡手術群と胸筋温存開胸群の比較 . 第104回日本外科学会総会 , 2004 . 4 .

- 26) 藤井正大, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄, 田中啓治<sup>1)</sup>, Chambers David J<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research): Esmolol and myocardial protection: a comparison of hyperkalemic cardioplegia to blood-based esmolol cardioplegia in blood-perfused rat hearts. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 27) 藤井正大, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄, 田中啓治<sup>1)</sup>, Chambers David J<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research): Does intermittent cross-clamp fibrillation involve a preconditioning mechanism?. 第28回日本心筋保護・心臓保存研究会, 2004. 4.
- 28) 大森裕也, 新田 隆, 菅野重人, 宮城泰雄, 坂本俊一郎, 落 雅美, 清水一雄: 左心房容量負荷モデルにおける心房細動の電気生理学的機序. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 29) 中山景介, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 岡田大輔, 福島光浩, 木下裕康, 山岸茂樹, 中島由貴, 清水一雄: 40歳以下の原発性肺癌手術症例の検討. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 30) 赤石純子<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 高津圭介<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 長浜充二<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 清水一雄, 角田達彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>伊藤病院, <sup>3)</sup>理化学研究所遺伝子多型センサー): 甲状腺未分化転化に関連する遺伝子の発現解析. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 31) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 予後からみたリンパ節郭清の位置付け(胃癌での検討). 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 32) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 残胃における発癌. 第90回日本消化器病学会総会, 2004. 4.
- 33) 中島由貴, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 山岸茂樹, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 木下裕康, 宮本哲也, 清水一雄: 低肺機能肺癌手術症例の死亡例の検討. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 34) 石井律子<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 富士崎隆<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>立正佼成会附属佼成病院外科): 胸腔鏡下にて止血, 肺切除を行った特発性血気胸の3例. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 4.
- 35) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮元昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>同消化器科, <sup>4)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>5)</sup>外科学第1): 定量的 real time PCR法を用いた胃癌組織における8q13-q21領域のDNAコピー数増加についての検討. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 36) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>同消化器科, <sup>4)</sup>外科学第1): GIST・EGIST症例における多臓器合併切除症例の検討. 第90回日本消化器病学会総会, 2004. 4.
- 37) 宇留野隆<sup>1)</sup>, 宮内 昭<sup>1)</sup>, 清水一雄, 友田智哲<sup>1)</sup>, 高村勇貴<sup>1)</sup>, 伊藤康弘<sup>1)</sup>, 宮 章博<sup>1)</sup>, 小林 薫<sup>1)</sup>, 松塚文夫<sup>1)</sup>, 隈 寛二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>隈病院外科): 高齢者(70歳以上)甲状腺乳頭癌の臨床的特徴. 第16回日本内分泌外科学会総会, 2004. 5.
- 38) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 石井律子, 高津圭介, 軸園智雄: パセドウ病に対する内視鏡補助下甲状腺亜全摘術(VANS法). 第16回日本内分泌外科学会総会, 2004. 5.
- 39) 北川 亘, 赤須東樹, 石井律子, 赤石純子, 軸園智雄, 清水一雄: 頸部内分泌疾患に対する内視鏡補助下頸部手術(VANS法)の現況と問題点: 250例の経験から学んだこと. 第14回吊り上げ手術研究会, 2004. 5.
- 40) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子: 5-ALAを用いた蛍光発光法による術中上皮小体同定の経験. 第16回日本内分泌外科学会総会, 2004. 5.
- 41) 飯島慶仁, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 山岸茂樹, 川島徹生, 榎本 豊, 宮本哲也, 木下裕康, 中島由貴, 清水一雄: 肺尖部浸潤肺癌の経験. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 5.

- 42) 平井恭二, 小泉 潔, 平田知己, 山岸茂樹, 木下裕康, 榎本 豊, 宮本哲也, 岡本淳一, 竹内真吾, 飯島義仁, 清水一雄: 間質性肺炎合併肺疾患に対する胸腔鏡下手術症例の検討. 第22回呼吸器外科学会総会, 2004. 5.
- 43) 吉野直之<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄<sup>(1)</sup> 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 肺膿瘍をきたし肺全摘を施行した中枢型癌肉腫の1例. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 5.
- 44) 中山景介, 岡田大輔, 島貴公義<sup>1)</sup>, 杉山喜彦<sup>2)</sup>, 三上 巖, 小泉 潔, 清水一雄<sup>(1)</sup> 会津中央病院外科, <sup>2)</sup> 同病理): 胸腔鏡下に摘出した巨大縦隔脂肪腫の1例. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 5.
- 45) Kubokura H<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Peter G<sup>1)</sup>, Richard J. B<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>(1)</sup> Dept. of Surgery, Biological Treatment Program, Washington University School of Medicine): Mechanisms of cell growth inhibition by CD40-CD40 ligand stimulation in non-small cell lung cancer: Analysis by a PCR-based cDNA subtraction method. 日本外科学会総会, 2004. 5.
- 46) 栗田二郎, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 山岸茂樹, 榎本 豊, 川島徹生, 木下裕康, 岡田淳一, 中島由貴, 中山景介, 松山孝義, 竹内真吾, 飯島慶仁, 岡田大輔, 清水一雄, 原口秀司<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, <sup>(1)</sup> 第二病院外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 間質性肺炎合併肺癌に対する外科治療の検討: 開胸法と急性増悪. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 5.
- 47) 松山孝義, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 福島光浩, 窪倉浩俊, 岡本淳一, 中山景介, 三上 巖: 超高齢者肺癌に対する外科治療の臨床的検討. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 5.
- 48) 平田知己, 小泉 潔, 平井恭二, 山岸茂樹, 榎本 豊, 宮本哲也, 岡本淳一, 竹内真吾, 飯島慶仁, 清水一雄: VATS Lobectomyの低侵襲性に関する問題点. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 5.
- 49) 軸菌智雄, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄: MEN2A症例に対し内視鏡補助下頸部手術(VANS法)にて甲状腺全摘術を施行した1例. 第14回吊り上げ法手術研究会, 2004. 5.
- 50) 上田純志<sup>1)</sup>, 赤須東樹, 北川 亘, 田中久美, 軸菌智雄, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>(1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 付属病院病理部): 内腔上皮が扁平上皮である嚢胞を合併する甲状腺乳頭癌の1例. 第793回外科集談会, 2004. 6.
- 51) 江本直也<sup>1,2)</sup>, 城所 葉<sup>2)</sup>, 乃川眞一<sup>2)</sup>, 小野瀬裕之<sup>3)</sup>, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 同付属病院内科学第3, <sup>3)</sup> 金地病院): 甲状腺組織より抽出したヒトサイログロブリンの物理化学的性状の多様性. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 52) 天神敏弘, 吉野直之, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄: 癌培養細胞を用いた小核の観察. 第14回日本サイトメトリー学会, 2004. 6.
- 53) 飯島慶仁, 平井恭二, 中山景介, 中島由貴, 岡本淳一, 宮本哲也, 榎本 豊, 岡田大輔, 川島徹生, 山岸茂樹, 福島光浩, 窪倉浩俊, 三上 巖, 平田知己, 小泉 潔, 清水一雄: 胸腔鏡下心膜閉塞術により診断された悪性リンパ腫の1例. 第130回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2004. 6.
- 54) 丸山雄二, 井村 肇, 坂本俊一郎, 吉野直之, 窪倉浩俊, 山内茂生: 胸部下行大動脈瘤術後Non-occlusive mesenteric ischemiaを呈した1例. 第22回東葛心臓血管外科研究会, 2004. 6.
- 55) 中山景介, 岡田大輔, 島貴公義<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 杉山喜彦<sup>2)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄<sup>(1)</sup> 会津中央病院外科, <sup>2)</sup> 同病理): 肺形質細胞肉芽腫の1切除例. 第73回日本胸部外科学会東北地方会, 2004. 6.
- 56) 朽方規喜, 落 雅美, 山内仁紫, 田中茂夫, シュビルデンエーリヒディエター<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> エスリンゲン市立病院血管外科): 深部静脈血栓症の外科治療. 第32回日本血管外科学会総会, 2004. 6.
- 57) 山田研一, 落 雅美, 別所竜蔵, 菅野重人, 宮城泰雄, 藤井正大, 神戸 将, 清水一雄: 悪性腫瘍合併冠動脈疾患に対するOff-pump CABGと悪性腫瘍同時手術. 第9回日本冠動脈外科学会, 2004. 7.
- 58) 赤須東樹: 5-ALA (5-Aminolevulinic acid) による蛍光発光を用いた副甲状腺の術中同定. 第14回日本医科大学内分必懇話会, 2004. 7.
- 59) 檜山和弘, 角 秀秋<sup>1)</sup>, 塩川祐一<sup>1)</sup>, 中島淳博<sup>1)</sup>, 深江宏治<sup>1)</sup>, 帯刀英樹<sup>1)</sup>, 宮崎隆子<sup>1)</sup>, 前田克英<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 福岡

- 市立こども病院・感染症センター心臓血管外科): Truncus, MAPCA に対する UF, Rastelli 手術. 第37回日本胸部外科学会九州地方会総会, 2004. 7.
- 60) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): イレウスを来した大腸癌の治療: 術前減圧法の有用性について. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 61) 佐々木孝, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 菅野重人, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄(<sup>1)</sup>小児科学): Stromal cell-derived factor-1 (SDF-1) は心筋梗塞部位の血管新生を促進し, 心機能を改善させる. 第40回日本小児循環器学会総会, 2004. 7.
- 62) 佐々木孝, 落 雅美, 別所竜蔵, 山田研一, 宮城泰雄, 藤井正大, 川瀬康裕, 清水一雄, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 高木元<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): No-option 重症冠動脈疾患に対する冠動脈バイパス術と自己骨髄単核細胞移植の併用療法. 第9回日本冠動脈外科学会総会, 2004. 7.
- 63) 軸園智雄, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄: 頸部リンパ節転移を契機に発見された甲状腺微小乳頭癌. 第29回日本外科系連合学会学術集会, 2004. 7.
- 64) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 定量的マイクロサテライト分析法による胃癌組織の染色体20q領域のDNAコピー数に関する検討. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.
- 65) 天神敏博, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄: 薬剤と染色体異常の関係(抗癌剤による癌培養細胞における染色体異常. 第63回日本癌学会, 2004. 9.
- 66) 丸山雄二, 山内茂生, 井村 肇, 坂本俊一郎, 吉野直之, 窪倉浩俊: 胸部下行大動脈瘤術後 Non-occlusive mesenteric ischemia を呈した1例. 第131回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2004. 9.
- 67) 平井恭二, 小泉 潔, 原田明希摩, 川島徹生, 山岸茂樹, 平田知己, 清水一雄, 川本雅司: ヒト非小細胞肺癌における L1 adhesion molecule (CD 171) の発現とその臨床的意義について. 第63回日本癌学会総会, 2004. 9.
- 68) 栗田二郎, 平井恭二, 山岸茂樹, 平田知己, 落 雅美, 小泉 潔, 清水一雄: 術後管理に難渋した心肺同時手術の1例: 塵壁肺合併肺癌切除術ならびに冠動脈バイパス術施行例. 第131回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2004. 9.
- 69) 赤石純子<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 清水一雄, 長浜充二<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 吉田 明<sup>3)</sup>, 江見充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>伊藤病院, <sup>3)</sup>神奈川県立ガンセンター): 体系的遺伝子発現解析による甲状腺未分化癌で発現消失を呈する新規遺伝子の同定. 第63回日本癌学会総会, 2004. 9.
- 70) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 加齢と胃癌: 治療上の留意点. 第63回日本癌学会総会, 2004. 9.
- 71) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 飯田信也<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>3)</sup>外科学第1): 大腸癌イレウスの治療: 安全な一期的手術を目指して. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 72) 平田知己, 小泉 潔, 平井恭二, 山岸茂樹, 川島徹生, 原田明希摩, 川本雅司<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>2)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>解剖学第1): 肺癌における Cofilin の発現の検討と分子生物学的意義. 第63回日本癌学会総会, 2004. 9.
- 73) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, Mohammad G<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>3)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>4)</sup>外科学第1): 定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における染色体8q.



- 16q・20q領域のDNAコピー数変化についての検討．第63回日本癌学会総会，2004．9．
- 74) 北川 亘，赤須東樹，田中久美，赤石純子，軸園智雄，清水一雄：VANS法施行困難例に対する対応-鎖骨下アプローチによる頸部内分泌手術-．第37回甲状腺外科研究会，2004．10．
- 75) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，清水一秀<sup>1)</sup>，小林英津子<sup>1)</sup>，佐久間一郎<sup>1)</sup>，丸山隆志<sup>2)</sup>，村垣善浩<sup>3)</sup>，伊関洋<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科，<sup>2)</sup>東京女子医科大学脳神経センター脳神経外科，<sup>3)</sup>同大学院先端生命医科学研究所先端工学外科分野)：5-ALAによる蛍光発光法を用いた術中副甲状腺・甲状腺悪性腫瘍の同定．第37回甲状腺外科研究会，2004．10．
- 76) 菅野重人，新田 隆，落 雅美，清水一雄，別役徹生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北海道大学循環器内科)：Connexin43と周術期不整脈．第3回コネクシン研究会，2004．10．
- 77) 大森裕也，新田 隆，矢島俊巳，菅野重人，宮城泰雄，檜山和弘，大久保直子，山田研一，別所竜蔵，落 雅美，清水一雄：Superior transeptal approachに生じるincisional reentry tachycardiaの検討．第57回日本胸部外科学会総会，2004．10．
- 78) 平井恭二，小泉 潔，中島由貴，岡本淳一，榎本 豊，山岸茂樹，川島徹生，平田知己，清水一雄，川本雅司：ヒト非小細胞肺癌におけるL1 adhesion molecule (CD 171)の発現とその臨床的意義について．第57回日本胸部外科学会総会，2004．10．
- 79) 平井恭二，小泉 潔，岡本淳一，榎本 豊，川島徹生，山岸茂樹，平田知己，清水一雄：ヒト非小細胞肺癌におけるL1 adhesion molecule (CD171)の発現の臨床的意義について．第45回日本肺癌学会総会，2004．10．
- 80) 檜山和弘，角 秀秋<sup>1)</sup>，塩川祐一<sup>1)</sup>，中島淳博<sup>1)</sup>，深江宏治<sup>1)</sup>，帯刀英樹<sup>1)</sup>，宮崎隆子<sup>1)</sup>，前田克英<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>福岡市立こども病院・感染症センター心臓血管外科)：肺動脈弁下型心室中隔欠損を伴う兩大血管右室起始症の外科治療戦略．第57回日本胸部外科学会総会，2004．10．
- 81) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1)：胃癌の再発死亡例(主再発経路でみた検討)．第42回日本癌治療学会総会，2004．10．
- 82) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，田尻孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1)：上郭領域癌との比較を通してみた噴門側残胃癌の位置付け．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 83) 平田知己，小泉 潔，平井恭二，山岸茂樹，川島徹生，飯島慶仁，中島由貴，中山景介，岡本淳一，岡田大輔，木下裕康，三上 巖，清水一雄：IP合併肺癌の術後急性憎悪におけるリスクファクターの解析．第57回日本胸部外科学会総会，2004．10．
- 84) 佐々木孝，深澤隆治<sup>1)</sup>，小川俊一<sup>1)</sup>，菅野重人，新田 隆，落 雅美，清水一雄(<sup>1)</sup>小児科学)：Stromal cell-derived factor-1 (SDF-1)の虚血心筋における血管新生作用の検討．第57回日本胸部外科学会総会，2004．10．
- 85) 軸園智雄，赤須東樹，北川 亘，清水一雄：大きな副甲状腺腫と著明な骨変化を呈した原発性副甲状腺機能亢進症の1例．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 86) 鈴木成治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科，<sup>3)</sup>同病理部，<sup>4)</sup>外科学第1)：消化管及び消化管外原発GIST症例の治療方針について．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．
- 87) 鈴木成治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷毅<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，松久威史<sup>3)</sup>，沖浜裕司<sup>3)</sup>，松田 健<sup>3)</sup>，川並汪一<sup>4)</sup>，田尻 孝<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>同消化器科，<sup>4)</sup>老人病研究所病理部門，<sup>5)</sup>外科学第1)：定量的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織における16q領域のDNAコピー数欠失についての検討．第46回日本消化器病学会大会，2004．10．
- 88) 鈴木成治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，Ghazizadeh M<sup>2)</sup>，清水 一<sup>2)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，

- 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>4)</sup>, 松田 健<sup>4)</sup>, 松久威史<sup>4)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>同消化器科, <sup>5)</sup>外科学第1): 定量的 real time PCR法を用いた胃癌組織のDNA コピー数変化と新規 Molecular markerの検索. 第42回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 89) 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美, 赤石純子, 軸園智雄, 江本直也<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): パセドウ病に対する頸部皮膚吊り上げ法を用いた内視鏡補助下甲状腺亜全摘術. 第47回日本甲状腺学会, 2004. 11.
- 90) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 清水一秀<sup>1)</sup>, 小林英津子<sup>1)</sup>, 佐久間一郎<sup>1)</sup>, 丸山隆志<sup>2)</sup>, 村垣善浩<sup>3)</sup>, 伊関洋<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>同大学院先端生命医科学研究所先端工学外科分野): 5-ALAによる蛍光発光を用いた術中甲状腺癌の同定. 第47回日本甲状腺学会, 2004. 11.
- 91) 中山景介, 岡田大輔, 小泉 潔, 島貫公義<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 旭 修司<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>会津中央病院外科): 胸腔鏡補助下に摘出した肺埋没型孤立性線維性腫瘍の1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 92) 山下裕正<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 当院における緊急開心術(冠動脈バイパス術)の検討. 第23回東葛心臓血管外科研究会, 2004. 11.
- 93) 山本英希<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>, 小平祐造<sup>1)</sup>, 内山正一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>立正佼成会附属佼成病院外科, <sup>2)</sup>内山肛門科胃腸科クリニック): 虫垂杯細胞カルチノイドの1例. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 2004. 11.
- 94) 小原 信, 赤須東樹, 北川 亘, 古畑 謙, 清水一秀<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科): 5-ALAを用いた蛍光発光法による副甲状腺の術中同定. 第79回外科集談会, 2004. 12.
- 95) 藤井正大, 落 雅美, 丸山雄二, 山田研一, 別所竜蔵, 清水一雄: Off-pump CABGにおける動脈グラフトによる多枝血行再建術への挑戦. 第18回冠疾患学会, 2004. 12.
- 96) 山内仁紫, 藤井正大, 大森裕也, 丸山雄二, 神戸 将, 落 雅美, 清水一雄: 心房中隔欠損症術後肺高血圧に対するSildenafil投与の急性効果. 第7回成人先天性心疾患研究会, 2005. 1.
- 97) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 高齢者の胃癌における再発死亡例. 第7回日本高齢消化器医学会議, 2005. 1.
- 98) 北村由梨<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 中島 泰<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 城所 葉<sup>1)</sup>, 岡島史宣<sup>1)</sup>, 亀谷 純<sup>1)</sup>, 杉原仁<sup>1)</sup>, 清水一雄, 乃川真一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 副腎静脈サンプリングで両側からのコルチゾール産生を確認したPPNADの症例. 第5回 日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2005. 2.
- 99) 山田研一, 落 雅美, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 藤井正大, 別所竜蔵, 矢島俊巳, 新田 隆, 清水一雄: Off-pump CABGに於けるグラフト吻合の工夫: 多枝血行再建を確実にを行うために. 第35回日本心臓血管外科学会総会, 2005. 2.
- 100) 菅野重人, 新田 隆, 佐々木孝, 大森裕也, 落 雅美, 清水一雄: Connexin43を標的とするチャンネル制御による周術期不整脈対策. 第35回日本心臓血管外科学会総会, 2005. 2.
- 101) 藤井正大, 竹内真吾, 丸山雄二, 山田研一, 別所竜蔵, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄: 人工心臓が及ぼす急性肺障害の検討: 気管分泌液中の炎症性サイトカインの変動. 第35回日本心臓血管外科学会総会, 2005. 2.
- 102) 藤井正大, 落 雅美, 丸山雄二, 山田研一, 別所竜蔵, 清水一雄: 術後造影所見から検討したOff-pump CABGにおける動脈グラフトのみの多枝血行再建術. 第35回日本心臓血管外科学会総会, 2005. 2.
- 103) 藤井正大, 宮城泰雄, 山田研一, 別所竜蔵, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 急性心不全の治療としてのBVS5000の使用経験. 第32回日本集中治療学会, 2005. 2.
- 104) 吉野直之<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 山下裕正<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): FDG - PETにてフォロー中の原発不明肺門リンパ節癌の1例. 第

133回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．2．

- 105) 山下裕正<sup>1)</sup>，坂本俊一郎<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，窪倉浩俊<sup>1)</sup>，吉野直之<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>1)</sup>，清水一雄，落 雅美<sup>(1)</sup> (千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)：乳癌の術前精査中にみつかった無症候性の左房粘液腫の1例．第195回日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．2．
- 106) 揖斐孝之<sup>1)</sup>，松野邦彦<sup>1)</sup>，横山真也<sup>1)</sup>，鈴木雄一朗<sup>1)</sup>，椎葉邦人<sup>1)</sup>，石川昌弘<sup>1)</sup>，品田卓郎<sup>1)</sup>，今泉孝敬<sup>1)</sup>，畑典武<sup>1)</sup>，山下裕正<sup>2)</sup>，山内茂生<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院集中治療室，2) 同胸部・心臓血管・呼吸器外科)：IEとの鑑別を要した乳頭筋断裂合併AMIの1例．第195回日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．2．
- 107) 檜山和弘，角 秀秋<sup>1)</sup>，中島淳博<sup>1)</sup>，深江宏治<sup>1)</sup>，中野俊秀<sup>1)</sup>，宮崎隆子<sup>1)</sup>，前田克英<sup>1)</sup>，城田利彦<sup>1)</sup> (1) 福岡市立こども病院・感染症センター心臓血管外科)：右室切除3例の経験．第35回日本心臓血管外科学会学術総会，2005．2．
- 108) 佐々木孝，高橋幸宏<sup>1)</sup>，安藤 誠<sup>1)</sup>，和田直樹<sup>1)</sup>，堀内和隆<sup>1)</sup>，西村健二<sup>1)</sup>，菊地利夫<sup>1)</sup>，朴 仁三<sup>2)</sup> (1) 榊原記念病院外科，2) 同小児科学)：最近のarterial switch operation の検討．第133回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．2．
- 109) 鈴木成治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，松田健<sup>2)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院外科，2) 同消化器科，3) 同病理部，4) 外科学第1)：再発GIST・EGIST症例に対するメシル酸イマチニブによる分子標的療法の経験．第3回日本臨床腫瘍学会総会，2005．3．
- 110) 岡本淳一，音田正光<sup>1)</sup>，平田知己，三上 巖，原田明希摩，平井恭二，浅香晋一<sup>1)</sup>，宮本静代<sup>1)</sup>，赤石純子，原口秀司，小泉 潔，清水一雄 (1) 老人病研究所分子生物部門)：マイクロアレイによる肺重複癌・異時性肺原発癌を増加させる遺伝子の同定．第2回日本癌学会カンファレンス，2005．3．
- 111) 山下裕正<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，坂本俊一郎<sup>1)</sup>，吉野直之<sup>1)</sup>，窪倉浩俊<sup>1)</sup>，落 雅美，清水一雄 (1) 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)：上行大動脈置換術後に人工血管中枢側に大動脈再解離を認めた1例．第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．6．

(9) ビデオシンポジウム：

- 1) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，佐久間一郎<sup>1)</sup>，小林英津子<sup>1)</sup>，清水一秀<sup>1)</sup>，伊関 洋<sup>2)</sup>，村垣善浩<sup>2)</sup>，丸山隆志<sup>3)</sup> (1) 東京大学大学院新領域創成科学研究科，2) 東京女子医科大学大学院先端生命医科学研究所先端工学外科分野，3) 同脳神経センター脳神経外科)：5-ALA (5-Aminolevulinic acid) による蛍光発光を用いた上皮小体の術中同定．第29回日本外科系連合学会学術集会，2004．7．
- 2) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，清水一秀<sup>1)</sup>，小林英津子<sup>1)</sup>，佐久間一郎<sup>1)</sup>，丸山隆志<sup>2)</sup>，村垣善浩<sup>3)</sup>，伊関 洋<sup>3)</sup> (1) 東京大学大学院新領域創成科学研究科，2) 東京女子医科大学脳神経センター脳神経外科，3) 同大学院先端生命医科学研究所先端工学外科分野)：甲状腺，副甲状腺における5-ALAを用いた蛍光発光法による術中副甲状腺同定の検討．第66回日本臨床外科学会総会，2004．10．

(10) ランチョン コメンテーター：

- 1) 藤井正大：ヤングライブディスカッション．第6回日本OFF-PUMP CABG研究会，2004．7．

## [ 第二病院外科 ( 外科 , 心臓血管外科 ) ]

### 研究概要

心臓血管外科領域, 呼吸器外科領域, 乳腺・甲状腺内分泌外科領域の研究を中心としている。

- 1) 心臓血管外科領域: 回診術周術期における各種薬剤の薬理効果, および有効な心筋保護の確率について研究中有る。OPCABを中心とした低侵襲心臓手術法などの手術手技や大動脈外科手術時における補助循環法の研究を行っている。また, 高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の評価・管理・治療法について検討し, 成績の向上を計っている。末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中有る。
- 2) 呼吸器外科領域: 肺腺腫を除く縦隔腫瘍, 転移性肺腫瘍, 自然気胸に対してほぼ全例に胸腔鏡下に摘出を試み, 肺癌に対しても症例を選んで行っている。特に肺癌症例での胸腔鏡のメリット, デメリットを評価している。また, 再発肺癌や二次肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいる。集学的治療にも積極的に取り組んでいる。基礎的研究は肺ブラ・ブレブの病理学的検討を継続的に行っている。
- 3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域: 診断では, MRIを中心とした微細画像診断により, 癌の進展形態を評価し, 手術方針の決定に役立てている。手術では, 乳腺内視鏡手術を中心にし, 鏡視下乳房温存手術, 乳頭・皮膚保存乳腺全摘術, 胸筋温存乳房切除術を行い, センチネルリンパ節生検を行って検証を進めている。化学療法は, 外来通院投与を中心に積極的に行い, QOLを高めるよう努力している。また, タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンの抗体療法についての有効性をアポトーシス・サイトカインのレベルで検討する。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Haraguchi S, Koizumi K<sup>1)</sup>, Hatori N<sup>1)</sup>, Hioki M, Yamashita K, Akiyama H<sup>2)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery ( II ), <sup>2)</sup> Department of Thoracic Surgery, Saitama Cancer Center ): Postoperative Respiratory Complications of Video-assisted Thoracic Surgery for Lung Cancer . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ): 30-34 .
- 2) 原口秀司: 自然気胸の外科とブラの病理 . 東京都医師会雑誌 2005 ; 58 ( 2 ): 45-54 .

##### (2) 症例報告:

- 1) Haraguchi S, Yamashita Y, Yamashita K, Hioki M, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> Department of Surgery ( II )): Sternal Resection for Metastasis from Thyroid Carcinoma and Reconstruction with the Sandwiched Marlex and Stainless Steel Mesh . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2004 ; 52 ( 4 ): 209-212 .
- 2) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Orii K, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> Department of Surgery ( II )): Metastasis to the Thyroid from lung Adenocarcinoma Mimicking Thyroid Carcinoma . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2004 ; 52 ( 7 ): 353-356 .
- 3) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Yamashita Y, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> Department of Surgery ( II )): Large Anomalous Systemic Arterial Supply to Basal Segments of the Left lung . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2004 ; 52 ( 8 ): 395-397 .

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 日置正文: 心筋保護法の臨床的研究. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.

### (2) 教育講演:

- 1) 原口秀司: 自然気胸の外科とブラの病理. 日本医師会生涯教育講座サマリー, 2004. 9.

### (3) ワークショップ:

- 1) 山下浩二, 原口秀司, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 小笠原英継, 織井恒安, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺疾患に対する内視鏡手術の応用. 第29回日本外科系連合学会, 2004. 7.
- 2) 山下浩二, 原口秀司, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺疾患に対する内視鏡手術の再建法と整容性. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.

### (4) 一般講演:

- 1) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 山下康夫, 宅島美奈, 久吉隆郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北労災病院): 胸骨腫瘍切除例の臨床的検討. 第21回日本呼吸器外科学会総会, 2004. 5.
- 2) 川村 純, 家所良夫, 遠藤直哉, 宅島美奈, 山下康夫, 小笠原英継, 織井恒安, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 慢性肺血栓栓症に対する血栓内膜摘除術を施行した1例. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 3) 山下浩二, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺内視鏡手術60例の検討. 第104回外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 4) 遠藤直哉, 小笠原英継, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 日置正文: 多発性動脈硬化性動脈瘤の一治療例. 第32回日本血管外科学会学術総会, 2004. 5.
- 5) 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 小笠原英継, 織井恒安, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 感染人工血管に対してゲンチアナ・バイオレットによる洗浄が有効であった1例. 第32回日本血管外科学会学術総会, 2004. 5.
- 6) 織井恒安, 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 小笠原英継, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 上脘間膜動脈瘤の2手術経験. 第32回日本血管外科学会総会, 2004. 5.
- 7) 山下浩二, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺内視鏡手術60例の検討. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 8) 織井恒安, 小笠原英継, 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 家所良夫, 日置正文, 竹永清人<sup>1)</sup>, 岩原信一郎<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>外科学第2): 心房細動により血栓塞栓症が原因と考えられる心筋梗塞から心室中隔穿孔を来した一治療例. 第9回日本冠動脈外科学会学術大会, 2004. 7.
- 9) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 川村 純, 平田知己<sup>2)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第2, <sup>2)</sup>同多摩永山病院外科, <sup>3)</sup>仙台労災病院): 肺癌重複癌症例の性別による検討. 第45回日本肺癌学会総会, 2004. 10.
- 10) 山下浩二, 原口秀司, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺疾患に対する内視鏡手術の乳房再建法とセンチネルリンパ節生検. 第42回日本癌治療学会総会, 2004. 10.
- 11) 織井恒安, 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 小笠原英継, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 僧帽弁形式術におけるringの有無による治療成績の比較検討. 第57回日本胸部外科学会定期学術集会, 2004. 10.
- 12) 宅島美奈, 織井恒安, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 大久保直子, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Septic pulmonary emcoli (SPE) を伴った細菌性心内膜炎による大動脈弁閉鎖不全の1治療例. 第111回神奈川臨床外科医学会集談会, 2004. 11.

- 13) 山下浩二, 日置正文, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 福田 譲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県成人病検診管理指導協議会乳癌部会): 神奈川県での乳癌集団検診: 26年間の実施状況とマンモグラフィ併用検診. 第14回日本乳癌検診学会総会, 2004. 11.
- 14) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺内視鏡手術の乳房再建法とセンチネルリンパ節生検. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.
- 15) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 大久保直子, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 直腸癌に合併した男性嚢胞内乳癌. 第1回日本乳癌学会関東地方会, 2004. 12.
- 16) 織井恒安, 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 小笠原英継, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 当科におけるStanford A型大動脈解離の治療戦略および治療成績の検討. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
- 17) 川村 純, 遠藤直哉, 宅島美奈, 山下康夫, 織井恒安, 大久保直子, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 僧帽弁閉鎖不全症に対する形成術の術式と治療成績の検討. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
- 18) 大江裕美子<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 原口秀司(<sup>1)</sup>第二病院内科): 胸水中のシフラの上昇が診断の契機となった悪性皮腫の1例. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.

## 11. 脳神経外科学講座

### [ 付属病院脳神経外科 ]

#### 研究概要

平成16年度当教室における論文業績は英文33編、和文50編の計83編であった。英文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍10編、他の脳腫瘍8編、脳血管障害7編、神経外傷2編、その他6編であり、基礎的研究9編、臨床的研究24編であった。一方、和文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍6編、他の脳腫瘍5編、脳血管障害3編、外傷1編、その他10編であり、基礎的研究4編、臨床的研究21編であった。これに、分担著書として和文25編が加わる。学会発表は、201回あり、内国際学会は23回であった。一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を7件、厚生労働省科学研究費を2件、および日本脳神経財団から1件取得している。

当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術や脊髄・脊椎等のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者数も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他の大学との関連が深く、したがって業績も最も多い。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。一方、脳血管障害や神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績、特に英文論文業績が不十分であるといわざるを得ない。さらに、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もあり、症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助手以上には科研費応募を義務としている。平成16年から実施された卒後臨床研修制度のため2年間はいわゆる入局がない状況の下、教室員は診療、研究、教育上の活動にかなりの制限を受けている。この厳しい研究環境を考慮すると、これからの数年間は業績の顕著な伸びは期待しにくいと思われる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Tamaki T<sup>1)</sup>, Isayama K<sup>2)</sup>, Yamamoto Y<sup>3)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Tama Noshinkeigeka Hospital , <sup>3)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine ): Cardiopulmonary haemodynamic changes after severe head injury . Br J Neurosurg 2004 ; 18 ( 2 ): 158-163 .
- 2) Yamada S<sup>1)</sup>, Brauer FS<sup>1)</sup>, Colohan AR<sup>1)</sup>, Won DJ<sup>2)</sup>, Siddiqi J<sup>2)</sup>, Johnson WD<sup>3)</sup>, Yamada SM , Rouse GA<sup>3)</sup>, Lonser RR<sup>3)</sup>, Iacono RP<sup>3)</sup>, Mandybur GT<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Loma Linda University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Arrowhead Regional Medical Center , <sup>3)</sup> Surgical Neurology Branch, National Institute of Neurological Disorders and Stroke, National Institutes of Health ): Concept of arteriovenous malformation compartments and surgical management . Neurol Res 2004 ; 26 ( 3 ): 288-300 .
- 3) Yoshida D<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital ): Inhibition of glioma angiogenesis and invasion by SI-27, an anti-matrix metalloproteinase agent in a rat brain tumor model . Neurosurgery 2004 ; 54 ( 5 ): 1213-1221 .
- 4) Saito N , Nakagawara J<sup>1)</sup>, Nakamura H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nakamura Memorial Hospital ): Assessment of cerebral hemodynamics in childhood moyamoya disease using a quantitative

- and a semiquantitative IMP-SPECT study . *Ann Nucl Med* 2004 ; 18 ( 4 ) : 323-331 .
- 5 ) Yoshida Y , Weon YC<sup>1)</sup> , Sachet M<sup>1)</sup> , Mahadevan J<sup>1)</sup> , Alvarez H<sup>1)</sup> , Rodesch G<sup>1)</sup> , Lasjaunia P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicetre, Le Kremlin Bicetre ) : Posterior cranial fossa single-hole arteriovenous fistulae in children : 14 consecutive cases . *Neuroradiology* 2004 ; 46 ( 6 ) : 474-481 .
  - 6 ) Tamaki T<sup>1)</sup> , Eguchi T<sup>2)</sup> , Sakamoto M<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Kameda General Hospital ) : Glioblastoma multiforme of the cerebellum in an elderly man . *J Chin Med Assoc* 2004 ; 67 ( 6 ) : 301-304 .
  - 7 ) Kanazawa R<sup>1)</sup> , Kominami S<sup>2)</sup> , Yoshida Y , Kobayashi S<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> The Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School ) : Middle Cerebral Artery Thrombolysis Through the Contralateral Internal Carotid Artery-Case Report- . *Neurol Med Chir* 2004 ; 44 ( 7 ) : 372-375 .
  - 8 ) Kim K , Yamada S<sup>1)</sup> , Usui M<sup>1)</sup> , Sano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital ) : Preoperative identification of clearly separated double pituitary adenomas . *Clin Endocrinol* 2004 ; 61 ( 1 ) : 26-30 .
  - 9 ) Murai Y , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Mizunari T<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School ) : Anterior communicating artery aneurysm in the sella turcica : case report . *Surg Neurol* 2004 ; 62 ( 1 ) : 69-71 .
  - 10 ) Teramoto A , Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara S , Osamura RY<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ) : Pathological study of thyrotropin-secreting pituitary adenoma : plurihormonality and medical treatment . *Acta Neuropathol* 2004 ; 108 ( 2 ) : 147-153 .
  - 11 ) Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara S , Teramoto A , Osamura RY<sup>2)</sup> , Horvath E<sup>3)</sup> , Kovacs K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Pathology, St. Michael ' s Hospital ) : Medical Treatment of Prolactinomas . The 12th International Congress of Endocrinology ( Proceeding ) 2004 ; 357-361 .
  - 12 ) Oyama K , Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara S , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic ) : Our Strategy for Pituitary Incidentalomas . The 12th International Congress of Endocrinology ( Proceeding ) 2004 ; 94-95 .
  - 13 ) Mishina M<sup>1, 2, 3)</sup> , Ishii K<sup>2)</sup> , Mitani K<sup>2)</sup> , Ohyama M<sup>2, 3)</sup> , Yamazaki M<sup>3, 4)</sup> , Ishiwata K<sup>2)</sup> , Senda M<sup>2, 5)</sup> , Kobayashi S<sup>5)</sup> , Kitamura S<sup>3, 7)</sup> , Katayama Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> The Second Department of Internal Medicine , <sup>4)</sup> Geriatric Neuroscience Research Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School , <sup>6)</sup> Institute of Biomedical Research and Innovation , <sup>7)</sup> Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Second Hospital ) : Midbrain hypometabolism as early diagnostic sign for progressive supranuclear palsy . *Acta Neurol Scand* 2004 ; 110 ( 2 ) : 128-135 .
  - 14 ) Chihara K<sup>1)</sup> , Koledova E<sup>2)</sup> , Shimatsu A<sup>3)</sup> , Kato Y<sup>4)</sup> , Kohno H<sup>5)</sup> , Tanaka T<sup>6)</sup> , Teramoto A , Bates PC<sup>7)</sup> , Attanasio AF<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Clinical Molecular Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Eli Lilly Japan K. K. , Kobe , <sup>3)</sup> Clinical Research Center for Endocrine and Metabolic Disease, Kyoto Medical Center , <sup>4)</sup> Division of Endocrinology, Metabolism, Hematology and Oncology, Shimane University , <sup>5)</sup> Department of Endocrinology and Metabolism, Fukuoka Children's Hospital , <sup>6)</sup> Division of Endocrinology and Metabolism, National Center for Child Health and Development , <sup>7)</sup> Cambridge Medical Writing Services , <sup>8)</sup> Cascina del Rosone ) : Peter C Bates and Andrea F Attanasio : Adult GH deficiency in Japanese patients : effects of GH treatment in a randomised, placebo-controlled trial . *Eur J Endocrinol* 2004 ; 151 ( 3 ) : 343-350 .



- 15) Yamada S<sup>1)</sup>, Won DJ<sup>2)</sup>, Yamada SM, Hadden A<sup>1)</sup>, Siddiqi J<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Loma Linda University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Arrowhead Regional Medical Center ): Adult tethered cord syndrome : relative to spinal cord length and filum thickness . *Neurol Res* 2004 ; 26 ( 7 ): 732-734 .
- 16) Yamada S<sup>1)</sup>, Won DJ<sup>2)</sup>, Siddiqi J<sup>2)</sup>, Yamada SM ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Loma Linda University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Arrowhead Regional Medical Center ): Tethered cord syndrome : overview of diagnosis and treatment . *Neurol Res* 2004 ; 26 ( 7 ): 719-721 .
- 17) Yamada S<sup>1)</sup>, Siddiqi J<sup>2)</sup>, Won DJ<sup>2)</sup>, Kido DK<sup>3)</sup>, Hadden A<sup>1)</sup>, Spitalieri J<sup>2)</sup>, Everett BA<sup>4)</sup>, Obasi CG<sup>4)</sup>, Goldenberg TM<sup>4)</sup>, Giles LG<sup>5)</sup>, Yamada SM ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Loma Linda University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Arrowhead Regional Medical Center, <sup>3)</sup> Department of Radiology/Neuroradiology, Loma Linda University Medical Center School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Kaiser Permanente Hospital, <sup>5)</sup> Spinal Pain Unit, University of Queensland, Townsville General Hospital ): Symptomatic protocols for adult tethered cord syndrome . *Neurol Res* 2004 ; 26 ( 7 ): 741-744 .
- 18) Fukino K, Shen L<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>2,3)</sup>, Morrison CD<sup>3,4,5)</sup>, Mutter GL<sup>6)</sup>, Eng C<sup>2,3,4,7,8)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Epidemiology and Biometrics, School of Public Health, The Ohio State University, <sup>2)</sup> Human Cancer Genetics Program, Comprehensive Cancer Center, <sup>3)</sup> Division of Human Cancer Genetics, Department of Molecular Virology, Immunology, and Medical Genetics, <sup>4)</sup> Clinical Cancer Genetics Program, <sup>5)</sup> Department of Pathology, College of Medicine, <sup>6)</sup> Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, <sup>7)</sup> Division of Human Genetics, Department of Internal Medicine, <sup>8)</sup> Cancer Research UK Human Cancer Genetics Research Group, University of Cambridge ): Combined total genome loss of heterozygosity scan of breast cancer stroma and epithelium reveals multiplicity of stromal targets . *Cancer Res* 2004 ; 64 ( 20 ): 7231-7236 .
- 19) Tamaki T<sup>1)</sup>, Kitamura T, Node Y<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital ): Paramedian Suboccipital Mini-Craniectomy for Evacuation of Spontaneous Cerebellar Haemorrhage . *Neurol Med Chir* 2004 ; 44 ( 11 ): 578-583 .
- 20) Shimura T<sup>1)</sup>, Mori M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Academic Quality and Development Office, <sup>2)</sup> Sapporo Medical University School of Medicine ): Series introduction : Recent topics in neurological disease . *Med Electron Microsc* 2004 ; 37 ( 4 ): 199-199 .
- 21) Fukino K, Terao T, Kojima T<sup>1)</sup>, Adachi K, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokusyo Hospital, Nippon Medical School ): Chronic subdural hematoma following dural metastasis of gastric cancer : measurement of pre- and postoperative cerebral blood flow with N-isopropyl-p-[<sup>123</sup>I]iodoamphetamine -case report- . *Neurol Med Chir* 2004 ; 44 ( 12 ): 646-649 .
- 22) Kono J<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>2)</sup>, Nagahata T<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Yamaguchi F, Adachi K, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A, Emi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Second Hospital, <sup>2)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Up-regulation of CC chemokine, CCL3L1, and receptors, CCR3, CCR5 in human glioblastoma that promotes cell growth . *J Neurooncol* 2004 ; 70 ( 3 ): 301-307 .
- 23) Mahadevan J<sup>1)</sup>, Ozanne A<sup>1)</sup>, Yoshida Y, Weon YC<sup>1)</sup>, Alvarez H<sup>1)</sup>, Rodesch G<sup>1)</sup>, Lasjaunias P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicetre, Le Kremlin Bicetre ): Hereditary Haemorrhagic Telangiectasia Cerebrospinal Localization in Adults and Children : Review of 39 cases . *Interventional Neuroradiology* 2004 ; 10 : 27-35 .
- 24) Osamura RY<sup>1)</sup>, Egashira N<sup>1)</sup>, Miyai S<sup>1)</sup>, Yamazaki M, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup> Sanno Clinic ): Molecular pathology of the pi-

- tuitary. Development and functional differentiation of pituitary adenomas . *Front Horm Res* 2004 ; 32 : 20-33 .
- 25) Fukino K , Yamada S<sup>1)</sup> , Ohta T<sup>1)</sup> , Takada K<sup>1)</sup> , Usui M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital ): Serial MR intensity changes of the posterior pituitary in patients with diabetes insipidus after transsphenoidal surgery for pituitary adenomas : report of two cases . *Pituitary* 2003 2004 ; 6 ( 4 ) : 215-219 .
- 26) Takada K<sup>1)</sup> , Yamada S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital ): Correlation between tumor vascularity and clinical findings in patients with pituitary adenomas . *Endocr Pathol* 2004 ; 15 ( 2 ) : 131-139 .
- 27) Yoshida D<sup>1)</sup> , Kogiku M<sup>1)</sup> , Noha M , Takahashi H<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Second Hospital ): A case of pleomorphic xanthoastrocytoma presenting with massive tumoral hemorrhage . *J Neurooncol* 2005 ; 71 ( 2 ) : 169-171 .
- 28) Wang M<sup>1)</sup> , Tang J<sup>1)</sup> , Liu S<sup>1)</sup> , Yoshida D<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, The First Hospital, Xi'an Jiaotong University , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Second Hospital ): Expression of cathepsin B and microvascular density increases with higher grade of astrocytomas . *J Neurooncol* 2005 ; 71 ( 1 ) : 3-7 .
- 29) Weon YC<sup>1)</sup> , Yoshida Y , Sachet M<sup>1)</sup> , Mahadevan J<sup>1)</sup> , Alvarez H<sup>1)</sup> , Rodesch G<sup>1)</sup> , Lasjaunias P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicetre, Le Kremlin Bicetre ): Supratentorial cerebral arteriovenous fistulas ( AVFs ) in children : review of 41 cases with 63 non choroidal single-hole AVFs . *Acta Neurochir ( Wien )* 2005 ; 147 ( 1 ) : 17-31 .
- 30) Yamada SM , Yamada S<sup>1)</sup> , Takahashi H<sup>2)</sup> , Teramoto A , Nakayama H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, School of Medicine, Loma Linda University , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Second Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Mizonokuchi Hospital, Teikyo University ): Double-platinum chemotherapy combined with etoposide in metastatic brain tumor from small cell lung carcinoma . *J Neurooncol* 2005 ; 71 ( 3 ) : 259-265 .
- 31) Oyama K , Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara S , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic ): Management of pituitary incidentalomas : according to a survey of pituitary incidentalomas in Japan . *Semin Ultrasound CT MR* 2005 ; 26 ( 1 ) : 47-50 .
- 32) Hanew K<sup>1)</sup> , Tachibana K<sup>2)</sup> , Yokoya S<sup>3)</sup> , Fujieda K<sup>4)</sup> , Tanaka T<sup>5)</sup> , Igarashi Y<sup>6)</sup> , Shimatsu A<sup>7)</sup> , Tanaka H<sup>8)</sup> , Tanizawa T<sup>9)</sup> , Teramoto A , Nishi Y<sup>10)</sup> , Hasegawa Y<sup>11)</sup> , Hizuka N<sup>12)</sup> , Hirano T<sup>13)</sup> , Fujita K<sup>14)</sup> ( <sup>1)</sup> Hanew Endocrine Clinic , <sup>2)</sup> Kanagawa Children's Medical Center , <sup>3)</sup> Toranomon Hospital , <sup>4)</sup> Asahikawa Medical College , <sup>5)</sup> National Research Institute for Child Health and Development , <sup>6)</sup> Igarashi Children's Clinic , <sup>7)</sup> Kyoto National Hospital , <sup>8)</sup> Okayama University , <sup>9)</sup> Hyogo College of Medicine , <sup>10)</sup> Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic Bomb Hospital , <sup>11)</sup> Tokyo Metropolitan Kiyose Children's Hospital, <sup>12)</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>13)</sup> Hirano Children's Clinic, <sup>14)</sup> Hirano Children's Clinic ): Studies of very severe short stature with severe GH deficiency : from the data registered with the foundation for growth science . *Endocr J* 2005 ; 52 ( 1 ) : 37-43 .
- 33) Wang M<sup>1)</sup> , Yoshida D<sup>2)</sup> , Liu S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, The First Hospital, Xi'an Jiaotong University , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): Inhibition of cell invasion by indomethacin on glioma cell lines : in vitro study . *J Neurooncol* 2005 ; 72 ( 1 ) : 1-9 .
- 34) 玉置智規<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): 頭蓋内圧亢進による急変の病態生理 . 季刊 脳外科看護 2004 ; 3 ( 1 ) : 8-11 .
- 35) 大山健一 , 山王なほ子<sup>1)</sup> , 田原重志 , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 山王クリニック ): 当科における pituitary incidentaloma の治療方針 . 日本内分泌学会雑誌 2004 ; 80 ( Suppl ) : 94-95 .

- 36) 高橋雅道<sup>1)</sup>, 原 貴之<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 坂本真幸<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>3)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 亀田総合病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 同第二病院脳神経外科): 長期人口透析中に発症した脳内出血10例における発症時の血液凝固, 線溶系および血小板凝集能の変動. *Neurosurg Emerg* 2004 ; 9 (1): 60-64 .
- 37) 数又 研<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 瀧澤克己<sup>1)</sup>, 古明地孝宏<sup>1)</sup>, 村井保夫 ( <sup>1)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ): Radial artery graft を用いた clipping 困難な内頸動脈流の治療成績 新世紀のバイパス術. *Mt. Fuji workshop on CVD* 2004 2004 ; 22 : 72-75 .
- 38) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 足立好司, 荒牧琢己<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 檀 和夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>教育推進室, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>内科学第3): 医学部在学中の試験と医師国家試験の成績比較. *医学教育* 2004 ; 35(4): 281-285 .
- 39) 大山健一, 山田正三<sup>1)</sup>, 山下安佐美<sup>1)</sup>, 金 景成, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 小澤安則<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 虎の門病院脳神経外科): 診断が困難であったトルコ鞍部に生じた稀な neuroblastoma の1例. *ホルモンと臨床増刊 内分泌病理学最近の進歩 '04* 2004 ; 52 (臨時増刊号): 75-79 .
- 40) 田原重志, 喜多村孝幸, 大山健一, 寺本 明: 当教室における内視鏡下経鼻蝶形骨手術の適応と限界: 特に再手術における術式の選択について. 第14回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding 2004 ; 80 (Suppl): 28-31 .
- 41) 山王直子<sup>1)</sup>, 山崎道生, 田原重志, 寺本 明, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 山王クリニック, <sup>2)</sup> 東海大学医学部病態診断系病理学): TSH 産生下垂体腺腫の免疫組織学的所見と薬剤反応性. *日本内分泌学会雑誌* 2004 ; 89 (Suppl): 97-99 .
- 42) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>, 足立好司, 荒牧琢己<sup>3)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup>, 檀 和夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>教育推進室, <sup>4)</sup>内科学第3): 共用試験CBTとの比較による第4学年総合試験の評価. *医学教育* 2004 ; 35 (5): 331-336 .
- 43) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): 脳神経外科と漢方; 脳腫瘍: 基礎実験と臨床応用. *漢方と最新医療* 2004 ; 13 (3): 207-212 .
- 44) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎前方到達法の基本術式とバリエーション. *脳神経外科速報* 2005 ; 15 (2): 147-157 .
- 45) 戸田茂樹, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): エダラボンの脳虚血再灌流に対する効果. *Pharma Medica* 2005 ; 23 (3): 184-184 .
- (2) 綜説:
- 1) 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 神経外傷のキーワード Transcranial Doppler (TCD). *Clin Neurosci* 2004 ; 22 (4): 556-557 .
  - 2) 寺本 明: 携帯電話は脳腫瘍を発生させるか. *Clin Neurosci* 2004 ; 22 (5): 623-623 .
  - 3) 山王直子<sup>1)</sup>, 大山健一, 田原重志, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 山王クリニック): 下垂体偶発腫の臨床. *日本臨床* 2004 ; 62 (5): 946-950 .
  - 4) 寺本 明: 下垂体腫瘍. 知っておきたい脳・神経の病気 2004 ; 16-17 .
  - 5) 山口文雄, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): 5-ALA を用いたグリオーマの手術. *Clin Neurosci* 2004 ; 22 (8): 970-971 .
  - 6) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): Book and Journal Review : Do children with optic pathway tumors have an increased frequency of other central nervous system tumors?. *小児の脳神経* 2004 ; 29 (4): 324-325 .
  - 7) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): Book and Journal Review : Feasibility and advisability of resections of thalamic tumors in pediatric patients. *小児の脳神経* 2004 ; 29 (4): 326-327 .
  - 8) 喜多村孝幸, 寺本 明: 頭痛をめぐる最近の話題: 新しい薬物治療. *脳と神経* 2004 ; 56 (8): 655-661 .
  - 9) 喜多村孝幸: 低髄液圧症候群 (脳脊髄液減少症). *Current insights in neurological science* 2004 ; 12 : 6-6 .

- 10) 喜多村孝幸：頭痛外来．Asahi Business Club 2004 2004；97：20-21．
- 11) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術のスタンダードとバリエーション．脳神経外科ジャーナル 2005；14(1)：18-21．
- 12) 喜多村孝幸：片頭痛．くらしとからだ 2005；11：12-13．

## 著 書

- 1) 寺本 明：〔分担〕6. 経蝶形骨手術．脳神経外科手術アトラス(上巻)(山浦 晶 編)，2004；pp157-166，医学書院．
- 2) 寺本 明：〔分担〕15. 下垂体腺腫，ラトケ嚢胞．脳神経外科手術アトラス(上巻)(山浦 晶 編)，2004；pp306-310，医学書院．
- 3) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：〔分担〕Neuroimaging Quiz：左横-S状静脈洞硬膜動静脈瘻 Dural AV fistula of the left transverse-sigmoid sinus．Clin Neurosci，2004；pp479-480，中外医学社．
- 4) 玉置智規<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)多摩永山病院脳神経外科)：〔分担〕Neuroimaging Quiz：Cerebellar glioblastoma multiforme．Clin Neurosci，2004；pp615-616，中外医学社．
- 5) 足立好司：〔分担〕Neuroimaging Quiz：原始遺残三叉動脈．Clin Neurosci，2004；pp723-724，中外医学社．
- 6) 寺本 明：〔分担〕下垂体腫瘍．標準治療2004・2005(寺下謙三 監)，2004；pp126-129，日本医療企画．
- 7) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：〔分担〕Neuroimaging Quiz：巨大未破裂血栓化前交通動脈瘤．Clin Neurosci，2004；pp853-854，中外医学社．
- 8) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)第二病院脳神経外科)：〔DVD〕10. 小児脊髄内星細胞腫．脳神経外科学大系第13巻 小児脳神経外科(山浦 晶 総編，児玉南海雄・河瀬 斌・吉田 純・橋本信夫 編)，2004；中山書店．
- 9) 水成隆之<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>)千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：〔DVD〕11. 頭蓋咽頭腫．脳神経外科学大系第13巻 小児脳神経外科(山浦 晶 総編，児玉南海雄・河瀬 斌・吉田 純・橋本信夫 編)，2004；中山書店．
- 10) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)第二病院脳神経外科)：〔分担〕Neuroimaging Quiz：Germinoma with granulomatous Inflammation．Clin Neurosci，2004；pp967-968，中外医学社．
- 11) 高橋 弘<sup>1)</sup>，関戸謙一<sup>2)</sup>，山口和郎<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>)第二病院脳神経外科，<sup>2)</sup>神奈川県立こども医療センター，<sup>3)</sup>湘南病院)：〔分担〕第5章 各論 脊椎・脊髄疾患・脊髄腫瘍．脳神経外科学大系第13巻 小児脳神経外科(山浦 晶 総編 児玉南海雄・河瀬 斌・吉田 純・橋本信夫 編)，2004；pp333-342，中山書店．
- 12) 山王直子<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>)山王クリニック，<sup>2)</sup>第二病院脳神経外科)：〔分担〕第5章 各論 頭蓋咽頭腫，下垂体部腫瘍，その他．脳神経外科学大系第13巻 小児脳神経外科(山浦 晶 総編，児玉南海雄・河瀬 斌・吉田 純・橋本信夫 編)，2004；pp376-390，中山書店．
- 13) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)山王クリニック)：〔分担〕Neuroimaging Quiz：右内頸動脈未破裂動脈瘤による視力視野障害．Clin Neurosci，2004；pp1095-1096，中外医学社．
- 14) 山王直子<sup>1)</sup>，田原重志，寺本 明(<sup>1</sup>)山王クリニック)：〔分担〕第12章 脳神経外科領域の新しい治療薬 第5節 下垂体腺腫治療薬．シリーズ29 脳神経外科，脳神経外科の最新医療(菊池晴彦 監)，2004；pp376-390，先端医療研究所．
- 15) 志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明，久保田紀彦<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)日本医科大学教育推進室，<sup>2)</sup>福井医科大学脳神経外科)：〔分担〕第5章 神経上皮由来腫瘍 発生起源不明の膠腫．脳神経外科学大系第6巻 脳腫瘍I(山浦 晶 総編，児玉南海雄・河瀬 斌・吉田 純・橋本信夫 編)，2004；中山書店．
- 16) 高倉公朋<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)東京女子医科大学脳神経外科)：〔監訳〕ビジュアルテキスト 脳神経(訳 齋藤 勇・寺本 明 翻訳協力 高橋 弘・吉田大蔵・足立好司・山口文雄)，2004；医学書院．
- 17) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)山王クリニック)：〔自著〕アンチエイジングのための女性ホルモクリニック：これからの

肌・からだ・心のケア，2004；メタモル出版．

- 18) 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz : 副鼻腔炎，頭皮下腫瘍，硬膜下膿瘍． Clin Neurosci, 2004 ; pp1207-1208, 中外医学社．
- 19) 大山健一，山田正三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科): [分担] III. 各科手術の術後管理 下垂体手術．麻酔科診療プラクティス16 これだけは知っておきたい術後管理(稲田英一編)，2004；pp166-169, 文光堂．
- 20) 戸田茂樹: [分担] Neuroimaging Quiz : Spinal Epidural Hematoma . Clin Neurosci, 2004 ; pp1337-1338, 中外医学社．
- 21) 山口文雄: [分担] Neuroimaging Quiz : 小脳橋角部髄膜腫 . Clin Neurosci, 2004 ; pp1449-1450, 中外医学社．
- 22) 山口文雄，寺本 明: [分担] 術中脳腫瘍蛍光診断．Annual Review 神経 2005 (柳澤信夫・篠原幸人・岩田誠・清水輝夫・寺本 明 編)，2005；pp163-169, 中外医学社．
- 23) 高橋 弘: [分担] Neuroimaging Quiz : Alexandar 病 . Clin Neurosci, 2005 ; pp99-100, 中外医学社．
- 24) 柳澤信夫<sup>1)</sup>，篠原幸人<sup>2)</sup>，岩田 誠<sup>3)</sup>，清水輝夫<sup>4)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>関東労災病院神経内科，<sup>2)</sup>東海大学医学部神経内科，<sup>3)</sup>東京女子医科大学脳神経センター神経内科，<sup>4)</sup>帝京大学医学部神経内科): [編集] Annual Review 神経 2005, 2005；中外医学社．
- 25) 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz : Duret 出血 . Clin Neurosci, 2005 ; pp225-226, 中外医学社．
- 26) 玉置智規<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz : Gliomatosis cerebri . Clin Neurosci, 2005 ; pp343-344, 中外医学社．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Teramoto A : Complications and their management of transsphenoidal pituitary surgery-from the experience of 1,530 cases . Xi'an International Neurosurgical Conference ( Xi'an, China ), 2004 . 10 .
- 2) 寺本 明：先端巨大症の診断と治療．旭川脳下垂体研究会，2004．6．
- 3) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術1,550例の成績と合併症．第16回東京成長ホルモン・成長因子セミナー，2004．7．
- 4) 喜多村孝幸：片頭痛の診断と治療．エーザイ特別記念講演会，2004．9．
- 5) 饒波正博：平成15年度丸山記念研究助成金受賞記念講演 神経膠芽腫における Notch シグナルの役割に関する研究．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 6) 寺本 明：下垂体腫瘍の外科的治療．第31回日本神経内分泌学会総会学術集会，2004．10．
- 7) 喜多村孝幸：脳神経外科における頭痛治療のトピックス．第3回沖縄頭痛研究会学術集会，2004．10．
- 8) 喜多村孝幸：脳室内病変に対する神経内視鏡の有用性．第3回中部内視鏡勉強会，2004．10．
- 9) 喜多村孝幸：頭痛治療のトピックス．第3回痛みの臨床フォーラム，2004．11．
- 10) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の成績と合併症．第9回関西脳神経外科手術研究会，2004．12．
- 11) 山口文雄：大脳皮質マッピングの実際と問題点．第9回大橋ニューロカンファレンス，2004．12．
- 12) 寺本 明：先端巨大症の診断と治療．2nd Trends in Endocrine Tumor, 2005．2．
- 13) 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳しゅよう それとも脳腫瘍？．第19回日本医科大学付属多摩永山病院公開講座，2005．2．
- 14) 喜多村孝幸：低髄液圧症候群．第5回順天堂頭痛カンファレンス，2005．2．
- 15) 寺本 明：トルコ鞍部腫瘍の画像診断．第28回日本脳神経CI学会総会，2005．3．
- 16) 喜多村孝幸：頭痛診療のABC：頭痛診療で間違えないために．秩父都市医師会学術講演会，2005．3．

(2) 教育講演 :

- 1) 寺本 明 : 経蝶形骨下垂体手術のスタンダードとバリエーション . 第24回日本脳神経外科コンgres, 2004 . 5 .
- 2) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山王クリニック) : 女性と下垂体のホルモン . 下垂体市民フォーラム : 脳のホルモンとその病気を  
知る , 2004 . 11 .
- 3) 寺本 明 : 脳のホルモンとその病気 . 下垂体市民フォーラム : 脳のホルモンとその病気を知る , 2004 . 11 .
- 4) 田原重志 : 最先端の下垂体手術 . 下垂体市民フォーラム : 脳のホルモンとその病気を知る , 2004 . 11 .
- 5) 寺本 明 : 下垂体偶発腫の自然歴と手術適応 . 第15回日本間脳下垂体腫瘍学会 , 2005 . 2 .
- 6) 寺本 明 : 脳のホルモンとその病気 . 第5回日本内分泌学会関東甲信越支部学術学会 市民公開講座 , 2005 . 2 .
- 7) 大山健一 , 山王なほ子<sup>1)</sup> , 田原重志 , 寺本 明 (<sup>1)</sup>山王クリニック) : 下垂体偶発腫の自然史ならびに治療方針  
についての考察 . 第15回臨床内分泌代謝 Update , 2005 . 3 .

(3) シンポジウム :

- 1) Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara S , Teramoto A , Osamura RY<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Sanno Clinic , <sup>2)</sup>Department of Pathology, Tokai  
University School of Medicine) : Medical treatment of Prolactinomas . The 12th International Congress of  
Endocrinology Lisbon ( Lisbon, Portugal ), 2004 . 8 .
- 2) Teramoto A : Diagnostic value of cavernous sinus sampling in Cushing syndrome . The 12th International  
Congress of Endocrinology Lisbon ( Lisbon, Portugal ), 2004 . 9 .
- 3) Yamaguchi F , Takahashi H<sup>1)</sup> , Teramoto A (<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Sec-  
ond Hospital) : Frameless Stereotactic Biopsy with Fluorescence Enables a Reliable Biopsy of Tumor .  
AANS/CNS Section on Tumors Sixth Biennial Satellite Symposium ( San Francisco, U. S. A. ), 2004 . 10 .
- 4) Node Y<sup>1)</sup> , Tamaki T<sup>1)</sup> , Teramoto A (<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital Nippon  
Medical School) : Clinical analysis of the patients with skull base and facial injury in the acute head trauma .  
3rd World Congress of Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology ( Nagoya, Japan ), 2005 . 3 .
- 5) Node Y<sup>1)</sup> , Tamaki T<sup>1)</sup> , Teramoto A (<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital Nippon  
Medical School) : Clinical features in the patients with "platform accident" in Tokyo . 3rd World Congress of  
Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology ( Nagoya, Japan ), 2005 . 3 .
- 6) 玉置智規<sup>1)</sup> , 澤田恵子<sup>1)</sup> , 林 伸吉<sup>1)</sup> , 野手洋治<sup>1)</sup> , 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科) : 頸動脈硬化と動  
脈脈波速度 . 第13回日本脳ドック学会 , 2004 . 6 .
- 7) 志村俊郎<sup>1)</sup> , 清水一雄<sup>2)</sup> , 宮下次廣<sup>3)</sup> , 足立好司 , 寺本 明 (<sup>1)</sup>教育推進室 , <sup>2)</sup>外科学第2 , <sup>3)</sup>放射線医学) :  
本学における医学教育モデル・コア・カリキュラムの導入状況と問題点 . 第36回日本医学教育学会総会 , 2004 . 7 .
- 8) 横田裕行<sup>1)</sup> , 佐藤秀貴<sup>1)</sup> , 渥美正弘<sup>1)</sup> , 横堀将司<sup>1)</sup> , 勝野 亮 , 山本保博<sup>1)</sup> , 小林士郎<sup>2)</sup> , 寺本 明 (<sup>1)</sup>高度救  
命救急センター , <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 3次救急医療施設における新研修医向け脳神経  
外科疾患救急医療教育の試み . 第63回日本脳神経外科学会総会 , 2004 . 10 .
- 9) 寺本 明 : 間脳下垂体腫瘍 : 下垂体腺腫 , 頭蓋咽頭腫 . 第63回日本脳神経外科学会総会 , 2004 . 10 .
- 10) 喜多村孝幸 , 田原重志 , 大山健一 , 寺本 明 : 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性 . 第63回日本脳神  
経外科学会総会 , 2004 . 10 .
- 11) 喜多村孝幸 , 田原重志 , 大山健一 , 寺本 明 : 脳室内腫瘍に対する内視鏡手術の注意点 . 第11回日本神経内視  
鏡学会 , 2004 . 11 .
- 12) 喜多村孝幸 , 戸田茂樹 , 寺本 明 : 脳脊髄液減少症の診断と治療の現状 Diagnosis and therapy of CSF hypov-  
olemia . 第28回日本脳神経CI学会総会 , 2005 . 3 .

(4) パネルディスカッション :

- 1) 喜多村孝幸 : 地域頭痛医療の推進における沖縄の現状と課題 . 第3回沖縄頭痛研究会学術集会 , 2004 . 10 .

(5) セミナー :

- 1) Kitamura T : Endoscopic Endonasal Transsphenoidal Surgery . 1st Minimally Invasive Technical course Satellite Workshop -Endoscope & Skull base Hands on Seminar- ( Nagoya, Japan ), 2005 . 3 .
- 2) Kitamura T : Endoscopic surgery of intraventricular tumors . 6th International Congress on Minimally Invasive Neurosurgery ( Nagoya, Japan ), 2005 . 3 .
- 3) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 椎骨脳底動脈系の解剖 . 第10回西関東Neuro IVR セミナー , 2004 . 4 .
- 4) 喜多村孝幸 : 内視鏡手術の基本と応用 : 脳室内腫瘍の摘出 . 第24回日本脳神経外科コンgres, 2004 . 5 .
- 5) 喜多村孝幸 : 脳神経外科における頭痛治療のトピックス . 北海道脳神経疾患研究所セミナー , 2004 . 5 .
- 6) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Unravelling したコイルの簡便な回収法 . 第5回琉球セミナー , 2004 . 6 .
- 7) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 術前, 術後で困ったこと . 第11回西関東Neuro IVR セミナー , 2004 . 7 .
- 8) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 日常診療に必要な頭部外傷の知識 : 治療可能な痴呆である正常圧水頭症, 慢性硬膜下血腫も含めて . 第66回東葉臨床医学セミナー , 2004 . 8 .

(6) ワークショップ :

- 1) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈瘤に対する, RA グラフトの適応に関する文献的考察と我々の方法 . 第23回 The Mt. Fuji Workshop on CVD , 2004 . 8 .
- 2) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 未破裂動脈瘤クリッピング術後における脳梗塞の合併: とくに血栓化動脈瘤に対する治療法の検討 . 第23回 The Mt. Fuji Workshop on CVD , 2004 . 8 .
- 3) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 当院における未破裂動脈瘤に対するクリッピング術症例の検討 . 第23回 The Mt. Fuji Workshop on CVD , 2004 . 8 .
- 4) 太組一郎<sup>1)</sup>, 秋野公造<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, Melmed S<sup>3)</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>長崎大学解剖学第一講座, <sup>3)</sup>Division of Endocrinology, Cedars-Sinai Medical Center ): PTTG ( pituitary tumor-transforming gene ) 下垂体トランスジェニックマウスモデルを中心に . 第2回千葉アクロメガリーワークショップ , 2004 . 9 .
- 5) 喜多村孝幸, 田原重志, 大山健一, 寺本 明 : 各科領域Endoscopic surgeryの進歩, 神経内視鏡下手術, 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性 . 第17回日本内視鏡外科学会総会 , 2004 . 11 .

(7) 一般講演 :

- 1) Yoshida D<sup>1)</sup>, Kim K<sup>2)</sup>, Teramoto A (<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital, <sup>2)</sup>Department of Neurology, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School): Upregulation of vascular endothelial growth factor by hypoxia-inducible factor 1-a in human malignant glioma cells : an in vitro study . American Association of Neurosurgical Surgeons Annual Meeting ( Orlando, USA ), 2004 . 5 .
- 2) Toda S, Atsumi T<sup>1)</sup>, Ikeda Y<sup>2)</sup>, Teramoto A (<sup>1</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine, <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center): Neuroprotective effect of Edaravone on Brain Edema and Endogenous Superoxide Scavenging Activity in Cerebral Ischemia-Reperfusion . American Association of Neurosurgical Surgeons Annual Meeting ( Orlando, USA ), 2004 . 5 .
- 3) Atsumi T<sup>1)</sup>, Toda S, Watanabe A, Asakura T, Ikeda Y<sup>2)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine, <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Tokyo Medical University Ha-

- chioji Medical Center ): Extracellular ascorbic acid radical formation during cerebral ischemia-reperfusion utilizing 4-vessel occlusion in rat . American Association of Neurosurgical Surgeons Annual Meeting ( Orlando, USA ), 2004 . 5 .
- 4 ) Yamaguchi F , Morrison RS<sup>1)</sup> , Yamada SM , Takahashi H<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurological Surgery, University of Washington , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital ): Positive expression of Fibroblast Growth Factor Receptor 2 correlates with the good prognosis of patients with glioblastoma multiforme . American Association of Neurosurgical Surgeons Annual Meeting ( Orlando, USA ), 2004 . 5 .
  - 5 ) Kim K<sup>1)</sup> , Mizunari T<sup>1)</sup> , Kominami S<sup>1)</sup> , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): Our strategy and approach to A-com aneurysm . The 6th Annual Meeting of Korean medical society in Pyongyang ( Pyongyang, North Korea ), 2004 . 5 .
  - 6 ) Masuda R<sup>1)</sup> , Inoue T<sup>1)</sup> , Takei M<sup>2)</sup> , Kobayashi S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): Clinical evaluation of spontaneous intracranial hypotension ( SIH ): From the standpoint of pain clinicians . The 11th International Pain Clinic ( Tokyo, Japan ), 2004 . 7 .
  - 7 ) Oyama K , Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara S , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic ): Our Strategy for Pituitary Incidentalomas . The 12th International Congress of Endocrinology ( Lisbon, Portugal ), 2004 . 9 .
  - 8 ) Tahara S , Oyama K , Sanno N<sup>1)</sup> , Osamura RY<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Clinico-pathological analysis of low GH acromegaly . The 12th International Congress of Endocrinology ( Lisbon, Portugal ), 2004 . 9 .
  - 9 ) Yoshida D<sup>1)</sup> , Kim K<sup>2)</sup> , Noha M , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): Antiapoptotic action of hypoxia-inducible factor 1-a in the HP75, human non-functioning pituitary adenoma cell line . The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference( Ho Chi Minh City, Vietnam ), 2004 . 9 .
  - 10 ) Oyama K , Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara S , Takahashi H<sup>2)</sup> , Shimura T<sup>3)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Sanno Clinic , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>3)</sup> Academic Quality and Development Office ): Management of Pituitary Incidentalomas . The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Ho Chi Minh City, Vietnam ), 2004 . 9 .
  - 11 ) Kominami S<sup>1)</sup> , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): A Case of Duplicated PCA origin . Neurovascular Anatomy ( Phuket, Thailand ), 2004 . 10 .
  - 12 ) Yamaguchi F , Takahashi H<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital ): Expression of telomerase and anti-telomerase therapy in glioma ; effectiveness and limitation . The 54th Annual Meeting of American Congress of Neurological Surgeons ( San Francisco, USA ), 2004 . 10 .
  - 13 ) Takahashi H<sup>1)</sup> , Yamaguchi F , Yoshida D<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital ): Therapeutic strategy against malignant gliomas in children ; with special reference to supratentorial and infratentorial gliomas . The 54th Annual Meeting of American Congress of Neurological Surgeons ( San Francisco, USA ), 2004 . 10 .
  - 14 ) Mishina M<sup>1)</sup> , Kobayashi S<sup>2)</sup> , Katayama Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Neurological Institute, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Chiba-Hoku-



- so Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Second Department of Internal Medicine): Effect of a Free Radical Scavenger, Edaravone, on Acute Phase of Lacunar Infarct. The 2nd Korean-Japanese Joint Stroke Conference (Yokohama, Japan), 2004. 11.
- 15) Suzuki M, Yamazaki M, Tahara S, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Sanno Clinic, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine): Three Cases of Pituitary Cushing Adenoma with Concomitant GH and/or PRL Production from a Large Series of Pituitary Adenomas. United States & Canadian Academy of Pathology, 94th Annual Meeting (San Antonio, USA), 2005. 2.
- 16) 小菊 実<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 腫瘍性出血にて発症した多形黄色星状細胞腫の1例. 第27回日本脳神経CI学会総会, 2004. 4.
- 17) 足立好司, 竹井麻生, 寺本 明: 神経下垂体 germinoma の MR 画像所見の特徴. 第27回日本脳神経CI学会総会, 2004. 4.
- 18) 戸田茂樹, 石井雄道, 寺本 明, 水越元気<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 水頭症で発症, MRI Gd-DTPA にて小脳虫部に増大効果を示した Cryptococcus 感染症の1例. 第27回日本脳神経CI学会総会, 2004. 4.
- 19) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断: 骨形態と非典型的の圧迫病変の検討. 第27回日本脳神経CI学会総会, 2004. 4.
- 20) 渡邊国博<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 玉置智則<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): primitive trigeminal artery に合併し脳血管撮影にて検出困難であった前交通動脈瘤の1症例. 第27回日本脳神経CI学会総会, 2004. 4.
- 21) 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 渡辺 玲, 斉藤寛浩, 寺尾 健, 酒井直之, 梅岡克哉<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>3)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 日本医科大学におけるCEA. 第29回多摩脳神経外科懇話会, 2004. 4.
- 22) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 小泉門開大, 片側冠状縫合癒合を伴う頭蓋骨形成不全の1例. 第32回日本小児神経外科学会, 2004. 4.
- 23) 太組一朗<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同病理部): 解離性A2-A3破裂脳動脈瘤の1手術症例. 第93回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 4.
- 24) 伊東雅大<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 山下安佐美<sup>1)</sup>, 坂田義則<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 当施設での脳梗塞患者のスクリーニングにおける3DCTA の有用性. 第93回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 4.
- 25) 野村竜太郎, 石井雄道, 戸田茂樹, 寺本 明: 頭蓋内に発症した cryptococcal granuloma の1例. 第93回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 4.
- 26) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 饒波正博, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 下垂体腺腫における hypoxia inducible factor 1 および cathepsin D 発現の意義に関する研究. 第22回日本脳腫瘍病理学会, 2004. 5.
- 27) 岩本直高<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 非特異的な画像所見を呈した悪性リンパ腫の1例. 第40回千葉北総神経放射線研究会, 2004. 5.
- 28) 福地孝明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>内科学第2): 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘤の1例. 第45回日本神経学会, 2004. 5.
- 29) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳卒中治療の新しい展開: ガイドライン2004を中心に. 印旛市郡医師会ガイドライン研修会, 2004. 6.
- 30) 木暮一成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 井須豊彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,

- 2) 釧路労災病院脳神経外科): 脊髄脊椎ドックの展望: 症例経験からの検討. 第13回日本脳ドック学会総会, 2004. 6.
- 31) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): RA グラフトを用いた未破裂巨大脳動脈瘤に対する手術症例の検討. 第13回日本脳ドック学会総会, 2004. 6.
- 32) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 脳内出血にて発症した硬膜動静脈瘻の5例. 第18回日本神経救急学会学術集会, 2004. 6.
- 33) 金 景成<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 足立好司, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 髄外進展を来した悪性神経膠腫の1例. 第19回日本脊髄外科学会, 2004. 6.
- 34) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 高齢者変形性脊椎症の手術: instrumentationを第1選択としない立場. 第19回日本脊髄外科学会, 2004. 6.
- 35) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断・骨形態と非典型的の圧迫病変の検討. 第19回日本脊髄外科学会, 2004. 6.
- 36) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 脊椎手術における Ultrasonic bone curettle の有用性と問題点. 第19回日本脊髄外科学会, 2004. 6.
- 37) 福地孝明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>内科学第2): 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘻の1例. 第22回日本神経治療学会総会, 2004. 6.
- 38) 土屋雅人<sup>1)</sup>, 渡邊 玲, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): ドクターヘリにて救命しえたラグビーによる急性硬膜下血腫の1例. 第57回東葛地区脳神経外科研究会, 2004. 6.
- 39) 福地孝明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科): 著明な髄液圧亢進を示し, 視力障害を認めた上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例. 第5回千葉頭痛研究会, 2004. 6.
- 40) 田原重志, 寺田てる美<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 大山健一, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学麻酔科, <sup>2)</sup>山王クリニック): 本邦における先端巨大症患者の heel pad thickness の再評価. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 41) 山王直子<sup>1)</sup>, 山崎道生, 田原重志, 寺本 明, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>山王クリニック, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): TSH 産生下垂体腺腫の免疫組織学的所見と薬剤反応性. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 42) 大山健一, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明(<sup>1)</sup>山王クリニック): pituitary incidentaloma の診断及び治療に関しての考察. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 43) 山口文雄: 言語野 Mapping における問題点. 第9回千駄木ニューロカンファレンス, 2004. 6.
- 44) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 高齢者変形性脊椎症の手術. 第17回日本老年脳神経外科学会, 2004. 7.
- 45) 田原重志, 大山健一, 山王直子<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 石井雄道, 山崎道生, 喜多村孝幸, 寺本 明(<sup>1)</sup>山王クリニック, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 高齢者における下垂体偶発腫 (pituitary incidentaloma) の特徴と治療方針. 第17回日本老年脳神経外科学会, 2004. 7.
- 46) 戸田茂樹, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): Neuroprotective effect of Edaravone on Brain Edema and Endogenous Superoxide Scavenging Activity in Cerebral Ischemia-Reperfusion. 第2回"フリーラジカルと脳疾患"東日本研究会学術集会, 2004. 7.

- 47) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>2)</sup>, 田中伸幸<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>3)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 酒寄 修<sup>4)</sup>, 濱本真<sup>1)</sup>, 寺本 明, 片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>内科学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>4)</sup>同内科): ラクナ梗塞におけるエダラボンの効果: ロジスティック回帰分析を用いた検討. 第2回"フリーラジカルと脳疾患"東日本研究会学術集会, 2004. 7.
- 48) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 2004ガイドラインより見た脳卒中の治療戦略. 佐原市香取郡医師会学術講演会, 2004. 9.
- 49) 福地孝明<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>内科学第2): 視力障害, 頭痛を訴え, 著明な髄液圧亢進を認めた上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例: 第2報. 第16回日本脳循環代謝学会, 2004. 9.
- 50) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>内科学第2): [C-11]TMSX PETによるアデノシンA2A受容体分布の測定. 第16回日本脳循環代謝学会, 2004. 9.
- 51) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 頭蓋内出血で発症した硬膜動静脈瘻の5例. 第18回千葉県重症患者管理研究会, 2004. 9.
- 52) 金 景成<sup>1)</sup>, 野村竜太郎<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 鑑別困難な脳腫瘍の1例. 第42回千葉北総神経放射線研究会, 2004. 9.
- 53) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>同放射線科, <sup>4)</sup>多摩永山病院病理部): 術中迅速診断における浸潤星細胞腫の画像と細胞診. 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 9.
- 54) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 饒波正博<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>帝京大学溝口病院脳神経外科): 下垂体腺腫細胞における転写因子 hypoxia inducible factor 1- の意義. 第5回日本分子脳神経外科学会, 2004. 9.
- 55) 河野 潤<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 長幡武光<sup>2)</sup>, 音田正光<sup>2)</sup>, 横田 隆<sup>2)</sup>, 山口文雄, 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明, 江見 充<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 神経膠芽腫におけるCCL3L1遺伝子・受容体ファミリーの発現亢進と細胞増殖促進. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 56) 吉田陽一:(海外留学者講演)小児後頭蓋窩動静脈奇形14例の検討. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 57) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 動脈瘤を合併した, Developmental venous anomaly with A-V shunts の1例. 第94回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 9.
- 58) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 渡邊国博<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 堀田次郎<sup>3)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>野猿峠脳神経外科病院): Gliomatosis cerebri の1症例. 第94回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 9.
- 59) 大山健一, 田原重志, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明: 転移性下垂体腫瘍の1例. 第94回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 9.
- 60) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 日常診療における脳神経外科的疾患の重要性. 千葉県病院薬剤師会平成16年度薬事講習会, 2004. 10.
- 61) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2)</sup>東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): 脳虚血再灌流におけるフリーラジカル: edaravoneの作用機序. 第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004. 10.
- 62) 鈴木雅規, 山崎道生, 大山健一, 田原重志, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): TSH・GH産生 double pituitary adenoma の1例. 第3回東京アクロメガーリーフォーラ

ム, 2004 . 10 .

- 63) 太組一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳神経外科領域におけるエラスポールの使用経験 . 第5回千葉県北総地区脳卒中フォーラム, 2004 . 10 .
- 64) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 河野 潤<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): cDNA microarray を用いた悪性グリオーマの遺伝子発現プロファイル解析による治療戦略の構築 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 65) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 木暮一成, 長内俊也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎変性疾患に対する低侵襲手術: アパセラムを用いた経椎体アプローチ . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 66) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 加藤光久<sup>2)</sup>, 石川和弥<sup>2)</sup>, 江口恒良<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 当施設での脳梗塞急性期における CT perfusion と 3D-CTA を用いたスクリーニング . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 67) 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 頭部外傷急性期の頭蓋底・顔面損傷の臨床的検討 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 68) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 寺本 明, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): ショックを来たした多発外傷症例における頭部外傷管理の検討 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 69) 荒木 尚<sup>1)</sup>, James DM<sup>2)</sup>, James RT<sup>2)</sup>, Peter DB<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>トロント小児病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学高度救命救急センター): 小児重症頭部外傷の治療ガイドライン トロント小児病院における脳神経外科治療 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 70) 田原重志, 喜多村孝幸, 大山健一, 寺本 明: 下垂体部腫瘍に対する内視鏡下経鼻経蝶形骨手術の工夫と今後の課題 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 71) 大山健一, 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>山王クリニック): Pituitary incidentaloma の診断及び治療に関しての考察 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 72) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳神経外科疾患における血中CD34の発現 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 73) 小南修史<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 吉田陽一, 金澤隆三郎<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>高度救命救急センター, <sup>3)</sup>第二病院脳神経外科): High grade AVM に対する血管内治療の役割 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 74) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 脊椎手術における Ultrasonic bone curette の有用性と問題点: Hi speed drill と比較して . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 75) 村井保夫, 寺本 明, 上山博康<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈病変に対する RA グラフトの適応に関する文献的考察と我々の方法 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 76) 戸田茂樹, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): 脳虚再血灌流における Edarabone の脳浮腫と活性酸素消去能に対する脳保護作用について . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 77) 鈴木雅規, 齋藤寛浩, 寺本 明: 心原性脳塞栓症に対する血栓溶解療法の予後における Hyperdense MCA sign の意義 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 78) 玉置智規<sup>1)</sup>, 澤田恵子<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳血栓症における頸動脈狭窄と動脈脈波速度 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
- 79) 齋藤寛浩, 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 渡邊 玲, 寺尾 健, 酒井直之, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,

- 2) 第二病院脳神経外科): CEA手術時の工夫: 内shunt 着脱にこだわって. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 80) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 前頭洞開放時の修復にリン酸骨カルシウムペーストの使用経験. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 81) 渡邊国博<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 中等度被殻出血における stereotactic aspiration の機能予後における有用性. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 82) 渡邊 玲, 石井雄道, 寺本 明: 脳血管撮影における3D-DSAの有用性. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 83) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 神経下垂体胚細胞腫の内分泌的特徴. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 84) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 饒波正博<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科,<sup>2)</sup>同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>3)</sup>帝京大学溝口病院脳神経外科): ヒト下垂体腺腫細胞における Hypoxia-inducible factor-1 alpha のapoptosis 回避機構. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 85) 金 景成<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 下垂体腺腫における HIF-1 及び VEGF 発現に関する検討. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 86) 山田 明, 山田正三<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>虎の門病院脳神経外科,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における snap25 の発現. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 87) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 大山健一, 寺本 明<sup>(1)</sup>山王クリニック): 成長ホルモン産生下垂体腺腫に対する Octreotide LAR 治療. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 88) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎症に対する術式選択: 低侵襲の観点から. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 89) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 村井保夫, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): RA グラフトを用いた未破裂脳動脈瘤に対する手術症例の検討. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 90) 太組一朗<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 解離性前大脳動脈脳動脈瘤の治療経験. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 91) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 加藤光久<sup>2)</sup>, 石川和弥<sup>2)</sup>, 江口恒良<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科,<sup>2)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 脳血管攣縮期における CT perfusion の有用性. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 92) 吉田陽一, Weon YC<sup>1)</sup>, Sachet M<sup>1)</sup>, Mahadevan J<sup>1)</sup>, Alvarez H<sup>1)</sup>, Rodesch G<sup>1)</sup>, Lasjaunias P<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Service de Neuroradiologie diagnostique, CHU de Bicetre): 小児後頭蓋窩脳動静脈奇形14例の検討. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 93) 河野 潤<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 長幡武光<sup>2)</sup>, 音田正光<sup>2)</sup>, 横田 隆<sup>2)</sup>, 山口文雄, 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科,<sup>2)</sup>老人病研究所分子生物学部門): Glioma における CCL3L1 遺伝子とその受容体遺伝子の発現異常. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 94) 山口文雄, 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 当施設における悪性グリオーマの治療の現況. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 95) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 吉村明修<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 足立好司, 清水一雄<sup>3)</sup>, 宮下次廣<sup>4)</sup>, 新田 隆<sup>3)</sup>, 後藤 忠<sup>5)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室,<sup>2)</sup>救急医学,<sup>3)</sup>外科学第2,<sup>4)</sup>放射線医学,<sup>5)</sup>解剖学第1): 本学の卒前・後の救急医学教育における脳卒中カリキュラムの検討: 私立医科大学のシラバスと対比して. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 96) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 水頭症患

- 者における脳室心房（VA）シャント手術40例，手術方法と合併症の検討．第63回日本脳神経外科学会総会，2004．10．
- 97) 太組一朗<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳血管疾患．北総救命会定例月曜講義，2004．10．
- 98) 大山健一，田原重志，足立好司，喜多村孝幸，寺本 明：内視鏡下経鼻蝶形骨手術が有用であった錐体骨先端部コレステロール肉芽腫の1例．第11回日本神経内視鏡学会，2004．11．
- 99) 田原重志，喜多村孝幸，大山健一，寺本 明：ニューロナビゲーションシステムを用いた内視鏡下経鼻蝶形骨手術の有用性．第11回日本神経内視鏡学会，2004．11．
- 100) 金澤隆三郎，小南修史<sup>1)</sup>，吉田陽一，鈴木紀成<sup>2)</sup>，吉田大蔵<sup>2)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2</sup>第二病院脳神経外科): 動脈瘤を合併した，Developmental venous anomaly with A-V shunts の1例．第20回日本脳神経血管内治療学会総会，2004．11．
- 101) 吉田陽一，Weon YC<sup>1)</sup>，Sachet M<sup>1)</sup>，Mahadevan J<sup>1)</sup>，Alvarez H<sup>1)</sup>，Rodesch G<sup>1)</sup>，Lasjaunias P<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Service de Neuroradiologie diagnostique, CHU de Bicetre): Bicetre における小児後頭蓋窩脳動静脈奇形14例の検討．第20回日本脳神経血管内治療学会総会，2004．11．
- 102) 鈴木雅規，齋藤寛浩，小南修史<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 心原性脳塞栓症の予後における Hyperdense MCA sign の意義．第20回日本脳神経血管内治療学会総会，2004．11．
- 103) 小南修史<sup>1)</sup>，布施 明<sup>2)</sup>，吉田陽一，金澤隆三郎，鈴木雅規，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2</sup>高度救命救急センター): 本学における脳動静脈奇形に対する NBCA を用いた塞栓術の治療成績．第20回日本脳神経血管内治療学会総会，2004．11．
- 104) 布施 明<sup>1)</sup>，小南修史<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>3)</sup>，桑本健太郎<sup>1)</sup>，小関一英<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>川口市立医療センター救命救急センター，<sup>2</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>3</sup>同付属病院高度救命救急センター): 前の Staged embolization が有効であった硬膜動静脈瘻（Cognard Type IV）の1例．第20回日本脳神経血管内治療学会総会，2004．11．
- 105) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): NBCA にて完全塞栓が得られ，手術時に腫瘍から全く出血しなかった Sphenoid Ridge Meningioma の1例．第20回日本脳神経血管内治療学会総会，2004．11．
- 106) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳卒中より見た病診連携：ドクターヘリも含めて．第28回産業衛生研修会，2004．11．
- 107) 鈴木雅規，山崎道生，田原重志，山王なほ子<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>山王クリニック，<sup>2</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): ACTH 及び GH の同時発現を見た ACTH 産生腺腫の2例．第31回日本神経内分泌学会，2004．11．
- 108) 喜多村孝幸，小島豊之，戸田茂樹，寺本 明：脳脊髄液減少症の診断と治療の現状．第32回日本頭痛学会総会，2004．11．
- 109) 喜多村孝幸，佐藤 俊，寺本 明：トリプタン製剤の最適剤型推奨ツールFAME（Formula Assessment for Migraineurs）の有用性の検討．第32回日本頭痛学会総会，2004．11．
- 110) 秋野公造<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>2)</sup>，Melmed S<sup>3)</sup>，山下俊一<sup>4)</sup>，秋田定伯<sup>5)</sup>(<sup>1</sup>長崎大学解剖学第一，<sup>2</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>3</sup>Div Endocrinology, Cedars-Sinai Medical Center, CA，<sup>4</sup>長崎大学付属原爆後障害医療研究施設分子医療部門分子診断学，<sup>5</sup>長崎大学形成外科): 下垂体 PTTG 遺伝子の肝再生時における発現調整．第34回日本創傷治癒学会，2004．11．
- 111) 太組一朗<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，野村竜太郎<sup>1)</sup>，阿部 新<sup>2)</sup>，梅岡克哉<sup>1)</sup>，水谷暢秀<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>2)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，福地孝明<sup>2)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2</sup>同神経内科): 左前頭葉脳腫瘍の1症例．第43回千葉北総神経放射線研究会，2004．11．
- 112) 三品雅洋<sup>1)</sup>，石渡喜一<sup>2)</sup>，石井賢二<sup>2)</sup>，木村裕一<sup>2)</sup>，織田圭一<sup>2)</sup>，佐々木徹<sup>1)</sup>，河村和紀<sup>2)</sup>，大山雅史<sup>3)</sup>，福地孝明<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>4)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター神経内科，<sup>2</sup>同内科学第2，<sup>3</sup>東

- 京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設,<sup>4)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): [C-11]TMSXPET を用いた健常者脳内アデノシン A2A 受容体分布の測定. 第44回日本核医学会総会, 2004. 11.
- 113) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 前頭洞開放時の補填にリン酸骨カルシウムペーストの使用経験. 第5回バイオアクティブペースト研究会, 2004. 11.
- 114) 水谷暢秀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 巨大脳動脈瘤の手術. 第7回脳卒中勉強会, 2004. 11.
- 115) 大山健一, 田原重志, 山崎道生, 鈴木雅規, 足立好司, 寺本 明<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>(1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): TSH・GH 産生 double pituitary adenoma の1例. 第8回内分泌病理学会学術総会, 2004. 11.
- 116) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 前頭洞開放時の補填にリン酸骨カルシウムペーストの使用経験. 第9回日本脳腫瘍の外科学会, 2004. 11.
- 117) 山口文雄, 野村竜太郎, 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 当科における術中マッピングとその効用. 第9回日本脳腫瘍の外科学会, 2004. 11.
- 118) 野村竜太郎, 山口文雄, 寺本 明: 言語野近傍腫瘍に対する覚醒下手術における BIS モニターの有用性. 第9回日本脳腫瘍の外科学会, 2004. 11.
- 119) 田原重志, 喜多村孝幸, 大山健一, 寺本 明: ニューロナビゲーションシステムを用いた内視鏡下経鼻蝶形骨手術. 第9回日本脳腫瘍の外科学会, 2004. 11.
- 120) 小島豊之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): ガンマプローブおよびモバイルガンマカメラを用いた脳腫瘍摘出術. 第59回東葛地区脳神経外科研究会, 2004. 12.
- 121) 山口文雄, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳腫瘍生検術における術中蛍光診断の有用性. 第95回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 12.
- 122) 野村竜太郎<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳梗塞で発症し, くも膜下出血を続発した後下小脳動脈解離性病変の1例. 第95回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 12.
- 123) 岩本直高<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 軽微な交通外傷による plaque injury から artery to artery emboli を来たした1例. 第95回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004. 12.
- 124) 篠田朋美<sup>1)</sup>, 岡沢有希子<sup>1)</sup>, 加藤美和子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): SCU を併設する脳神経センターにおける専門看護の試み. 第10回日本脳神経外科救急学会, 2005. 1.
- 125) 竹井麻生, 村井保夫, 足立好司, 寺本 明: 出血で発症した小児小脳血管性腫瘍の1例. 第1回文京脳腫瘍研究会, 2005. 1.
- 126) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 宮本倫行<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 高橋達郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 腰部黄色靭帯内出血の1例. 釧路脳神経外科懇話会, 2005. 2.
- 127) 村井保夫: 当科における脳血行再建術について. 第10回千駄木ニューロカンファレンス, 2005. 2.
- 128) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 金 景成, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): ヒト下垂体腺腫細胞低酸素状態での細胞浸潤の変化. 第15回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2005. 2.
- 129) 鈴木雅規, 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>山王クリニック,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における nestin の免疫組織学的検討. 第15回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2005. 2.
- 130) 大山健一, 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>山王クリニック,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 転移性下垂体腫瘍の1例. 第15回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2005. 2.
- 131) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 大山健一, 寺本 明<sup>(1)</sup>山王クリニック): 成長ホルモン産生下垂体腺腫に対する Octreotide LAR による治療経験. 第15回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2005. 2.
- 132) 田原重志, 喜多村孝幸, 大山健一, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>山王クリニック): 下垂体腫瘍に対する内視鏡下経鼻蝶形骨手術の工夫と手術成績. 第15回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2005. 2.

- 133) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 診断に苦慮した頭痛の症例. 第3回北総頭痛研究会, 2005. 2.
- 134) 鈴木雅規, 田原重志, 大山健一, 吉田陽一, 小南修史, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 牧野晋也<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>山王クリニック, <sup>2</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): GH産生腫瘍を伴ったCushing症候群の1例; 海綿静脈洞サンプリングのピットフォール. 第5回日本内分泌学会関東甲信越支部会, 2005. 2.
- 135) 鈴木雅規, 田原重志, 大山健一, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>山王クリニック, <sup>2</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): Immunohistochemical studyにてACTHと $\beta$ -SUを同時発現したCushing's diseaseの2例. 第16回CRH-ACTH研究会, 2005. 3.
- 136) 中村正幸<sup>1)</sup>, 畑下恒寛<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>3)</sup>, 島 克司<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>指扇病院脳神経外科, <sup>2</sup>川口市立医療センター救命救急センター, <sup>3</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>4</sup>防衛医科大学校脳神経外科): 急性硬膜外血腫に合併した中硬膜動脈偽性動脈瘤に対しGDCコイル塞栓術を施行した1例. 第28回日本神経外傷学会, 2005. 3.
- 137) 横田裕行<sup>1)</sup>, 横堀将司<sup>1)</sup>, 高島慎之介<sup>1)</sup>, 勝野 亮, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>4)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2</sup>川口市立医療センター救命救急センター, <sup>3</sup>第二病院救命救急部, <sup>4</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸髄・頸椎に合併する椎骨動脈損傷の意義. 第28回日本神経外傷学会, 2005. 3.
- 138) 池田幸穂<sup>1)</sup>, 李 昌一<sup>2)</sup>, 吉野文彦<sup>2)</sup>, 内野博之<sup>3)</sup>, 戸田茂樹, 原岡 襄<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>東京医科大学八王子医療センター脳神経外科, <sup>2</sup>神奈川歯科大学学生体管理医学講座薬理分野・ESR研, <sup>3</sup>東京医科大学八王子医療センター麻酔科, <sup>4</sup>東京医科大学脳神経外科): 実験的脳損傷におけるフリーラジカル反応の解析: in vivo L-band ESR/スピンプローブ法の応用. 第28回日本神経外傷学会, 2005. 3.
- 139) 佐々木光由<sup>1)</sup>, 河原 清, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳膿瘍を発症したHIV感染症の1例. 第28回日本脳神経CI学会総会, 2005. 3.
- 140) 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 小島豊之, 寺本 明: 特発性低髄圧症候群の診断におけるMRIとRIの有用性について. 第28回日本脳神経CI学会総会, 2005. 3.
- 141) 金澤隆三郎, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科): 動脈瘤を合併した, Developmental venous anomaly with A-V shuntの1例. 第28回日本脳神経CI学会総会, 2005. 3.
- 142) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎外側椎間板障害の実態: 画像診断と術中所見から. 第28回日本脳神経CI学会総会, 2005. 3.
- 143) 竹井麻生, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 堀田二郎<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2</sup>同病理部, <sup>3</sup>野猿峠脳神経外科病院): Gliomatosis cerebriと診断した1症例. 第28回日本脳神経CI学会総会, 2005. 3.
- 144) 山田昌興, 藤本康倫<sup>1)</sup>, 豊永晋一<sup>1)</sup>, 村上義史<sup>1)</sup>, 中林博道<sup>1)</sup>, 林 啓彰<sup>1)</sup>, 清水恵司<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>高知大学医学部脳神経機能制御学教室): 術前画像所見および手術所見上glioma様であったcystic meningiomaの2例. 第28回日本脳神経CI学会総会, 2005. 3.
- 145) 喜多村孝幸, 戸田茂樹, 寺本 明: 「脳脊髄液減少症」診断・治療のガイドライン作成と本症の今後の展望. 第3回脳脊髄液減少症研究会, 2005. 3.
- 146) 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 寺本 明: 日本医科大学脳神経外科における脳脊髄液減少症の診断と治療, 治療成績. 第3回脳脊髄液減少症研究会, 2005. 3.
- 147) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2</sup>内科学第1): 脳神経外科疾患における血中CD34陽性細胞の発見の検討. 第4回日本再生医療学会総会, 2005. 3.
- 148) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 宮本倫行<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 高橋達郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>釧路労災病院脳神経外科): 腰部



黄色靭帯内出血の1例．第54回日本脳神経外科学会北海道地方会，2005．3．

149) 小島豊之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：髄液減少症(低髄圧症候群)における間脳下垂体機能の形態学および機能的変化について．第60回東葛地区脳神経外科研究会，2005．3．

150) 渡邊 玲，寺尾 健，寺本明，水村 直<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学)：SeeJET (Segmental Extraction Estimation for JET) の使用経験．第6回東部脳神経外科フォーラム，2005．3．

#### (8) ビデオカンファレンス：

1) 田原重志：下垂体部腫瘍に対する内視鏡下経鼻蝶形骨手術：特に蝶形骨洞が複雑な症例に対して．The 1st Neurosurgical Video Conference，2005．3．

#### (9) ビデオシンポジウム：

1) 水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：STA-MCA 吻合術における recipient artery の選択．第63回日本脳神経外科学会総会，2004．10．

## [ 第二病院脳神経外科 ]

### 研究概要

第二病院脳神経外科は，附属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら，脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的疾患(顔面痙攣，三叉神経痛など)とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を対象としている．

臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し，悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を行い，良好な結果を収めている．脳血管障害や頭部外傷に関しては超音波ドップラーや脳血流測定法を用いて脳循環を詳細に測定することにより，非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである．小児疾患に関しても，腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが，中枢神経系奇形に関しても，形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる．

一方，基礎的研究も盛んで，毎年確実に国内外に論文を発表している．特に，悪性腫瘍に関しては，多くの基礎的研究に基づいて特異的免疫療法と非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する臨床的研究が盛んである．また，分子生物学的研究も盛んで，一部文部科学研究補助金の援助を受けながら，脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究，腫瘍血管新生抑制に関する基礎的研究，癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎研究，さらには遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) Takahashi H，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Trial of targeting therapy against malignant Glioma using monoclonal antibody．J Nippon Med Sch 2004；71(1)：2-3．

2) Yamada SM<sup>1)</sup>，Yamada S<sup>2)</sup>，Takahashi H，Teramoto A<sup>3)</sup>，Matsumoto K(<sup>1)</sup>Kochi University，<sup>2)</sup>Loma Linda University，<sup>3)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Extracranially extended meningotheial meningiomas with a high MIB-1 index：a report of two cases．Neuropathology 2004；24(1)：66-71．

3) Kanazawa R，Yoshida D，Takahashi H，Sugisaki Y<sup>1)</sup>，Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopy，<sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Drug induced apoptosis by a matrix metalloproteinase inhibitor，SI-27 on human malignant glioma cell lines：in vitro study．J Neurooncol 2004；66(1)：91-99．

4) Yoshida D，Takahashi H，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Inhibition of glioma angiogenesis and invasion by SI-27，an anti-matrix metalloproteinase agent in a rat brain tumor model．Neurosurgery 2004；54(5)：1213-1220．

- 5) Kouno J, Nagai H<sup>1)</sup>, Nagahata T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Yamaguchi F<sup>2)</sup>, Adachi K<sup>2)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Bulletin of Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Nippon Medical School Hospital): Up-regulation of CC chemokine, CCL3L1, and receptors, CCR3, CCR5 in human glioblastoma that promotes cell growth. J Neurooncol 2004; 70 (3): 301-307.
  - 6) Yamada SM<sup>1)</sup>, Yamada S<sup>2)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>3)</sup>, Nakayama H<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Kochi university, <sup>2)</sup> Loma Linda University, <sup>3)</sup> Nippon Medical School Hospital, <sup>4)</sup> Teikyo University): Double-platinum chemotherapy combined with etoposide in metastatic brain tumor from small cell lung carcinoma. J Neurooncol 2004; 71 (3): 259-265.
  - 7) Yoshida D, Kogiku M, Noha M<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Teikyo University, <sup>2)</sup> Nippon Medical School Hospital): A case of pleomorphic xanthoastrocytoma presenting with massive tumoral hemorrhage. J Neurooncol 2005; 71 (2): 169-171.
  - 8) Wang M<sup>1)</sup>, Yoshida D, Liu S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital): Inhibition of cell invasion by indomethacin on glioma cell lines: in vitro study. J Neurooncol 2005; 72 (1): 1-9.
  - 9) Wang M<sup>1)</sup>, Tang J<sup>1)</sup>, Liu S<sup>1)</sup>, Yoshida D, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital): Expression of cathepsin B and microvascular density increases with higher grade of astrocytomas. J Neurooncol 2005; 71 (1): 3-7.
  - 10) 高橋 弘: 脳神経外科と漢方: 脳腫瘍 - 基礎実験と臨床応用 - . 漢方と最新医療 2004; 13 (3): 207-212.
  - 11) 高橋雅道<sup>1)</sup>, 原 貴之<sup>1)</sup>, 玉置智則<sup>2)</sup>, 坂本真幸<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎, 金 太一<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 亀田総合病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院): 長期人工透析中に発症した脳内出血10例における発症時の血液凝固, 線溶系および血小板凝集能の変動. Neurosurg Emerg 2004; 9 (1): 60-64.
- (2) 総説:
- 1) 高橋 弘: Journal and book review: Do children with optic pathway tumors have an increased frequency of other central nervous system tumors?. 小児の脳神経 2004; 29 (4): 324-325.
  - 2) 高橋 弘: Journal and book review: Feasibility and advisability of resections of thalamic tumors in pediatric patients. 小児の脳神経 2004; 29 (4): 326-327.
  - 3) 山口文雄<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 5-ALAを用いたグリオーマの手術. Clinical Neurosci 2004; 22 (8): 970-971.
- (3) 症例報告:
- 1) Kanazawa R, Kominami S<sup>1)</sup>, Yoshida Y<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Nippon Medical School Hospital): Middle cerebral artery thrombolysis through the contralateral internal carotid artery: case report. Neurologia Medio-Chirurgica 2004; 44 (7): 372-375.

## 著 書

- 1) 山王直子<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 山王クリニック, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科): [分担] 頭蓋咽頭腫, 下垂体部腫瘍, その他. 脳神経外科学大系: 小児脳神経外科 (山浦 晶, 児玉南海雄, 河瀬 斌, 吉田 純, 橋本信夫), 2004; pp376-390, 中山書店.
- 2) 高橋 弘, 関戸謙一<sup>1)</sup>, 山口和郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 神奈川県立こども医療センター, <sup>2)</sup> 湘南病院): [分担] 脊髄腫瘍. 脳神経外科学大系: 小児脳神経外科 (山浦 晶, 児玉南海雄, 河瀬 斌, 吉田 純, 橋本信夫), 2004; pp333-342, 中山書店.
- 3) 高橋 弘: [分担] Neuroimaging Quiz: 脳腫瘍との鑑別が困難であった脳梗塞の1例. Clin Neurosci, 2004; pp335-336, 中外医学社.
- 4) 高橋 弘: [分担] Neuroimaging Quiz: Alexander病の1例. Clin Neurosci, 2004; pp335-336, 中外医学社.

- 5) 吉田大蔵：〔分担〕GFP遺伝子導入細胞を用いた脳腫瘍浸潤モデルにおける抗微小菅剤による浸潤の抑制効果の研究．Japan Brain Foundation 2001（日本神経財団編集），2004；pp20-23，研究報告財団法人．
- 6) 吉田大蔵：〔分担〕Neuroimaging Quiz：Germinoma with granulomatous inflammation．Clin Neurosci，2004；pp967-968，中外医学社．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) Yamaguchi F<sup>1)</sup>，Takahashi H，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Frameless stereotactic biopsy with fluorescence enables a reliable biopsy of tumor．AANS/CNS Section on Tumors 6th Biennial Satellite Symposium (San Francisco, USA)，2004．10．

##### (2) 一般講演：

- 1) Yamaguchi F<sup>1)</sup>，Morrison RS<sup>2)</sup>，Yamada SM<sup>3)</sup>，Takahashi H，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital，<sup>2)</sup>Washington University，<sup>3)</sup>Kochi University)：Positive expression of Fibroblast Growth Factor Receptor 2 correlates with the good prognosis of patients with glioblastoma multiforme．The 72nd Annual Meeting of American Association of Neurological Surgeons (Orlando, USA)，2004．5．
- 2) Yoshida D，Kim K<sup>1)</sup>，Noha M<sup>2)</sup>，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital，<sup>2)</sup>Teikyo University)：Antiapoptotic action of hypoxia inducible factor 1-a in the HP75, human non-functioning pituitary adenoma cell line．The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Ho Chi Minh City, Vietnam)，2004．6．
- 3) Takahashi H，Yamaguchi F<sup>1)</sup>，Yoshida D，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Therapeutic strategy against malignant gliomas in children：with special reference to supratentorial and infratentorial gliomas．The 54st Annual Meeting of American congress of Neurological Surgeons (San Francisco, USA)，2004．10．
- 4) Yamaguchi F<sup>1)</sup>，Takahashi H，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Expression of telomerase and anti-telomerase therapy in glioma：effectiveness and limitation．The 54st Annual Meeting of American Congress of Neurological Surgeons (San Francisco, USA)，2004．10．
- 5) Yoshida D，Kim K<sup>1)</sup>，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital)：Upregulation of vascular endothelial growth factor by hypoxia inducible factor 1-a in human malignant glioma cells：an in vitro study．The 72nd Annual Meeting of American Association of Neurosurgical Surgeons (Orlando, USA)，2004．10．
- 6) 足立好司<sup>1)</sup>，高橋 弘，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：小泉門開大，片側冠状縫合癒合を伴う頭蓋骨形成不全の1例．第32回日本小児神経外科学会，2004．4．
- 7) 吉田大蔵，金 景成<sup>1)</sup>，饒波正博<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科，<sup>2)</sup>帝京大学付属溝口病院)：下垂体腺腫におけるhypoxia inducible factor 1-aとcathepsin-Dの発現に関する研究．第22回日本脳腫瘍病理学会，2004．4．
- 8) 印東雅大<sup>1)</sup>，金澤隆三郎，山下安佐美<sup>1)</sup>，坂田義則<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>亀田総合病院)：当施設での脳梗塞患者のスクリーニングにおける3D - CTAの有用性．第93回日本脳神経外科関東地方会，2004．4．
- 9) 河野 潤，永井尚生<sup>1)</sup>，長幡武光<sup>1)</sup>，音田正光<sup>1)</sup>，横田 隆<sup>1)</sup>，山口文雄<sup>2)</sup>，足立好司<sup>2)</sup>，高橋 弘，寺本 明<sup>2)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科)：神経膠芽腫におけるCCL3L1遺伝子・受容体ファミリーの発現亢進と細胞増殖促進．日本癌学会第63回学術総会，2004．9．
- 10) 金澤隆三郎，鈴木紀成，吉田大蔵，高橋 弘，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：動脈瘤を合併した，Developmental venous anomaly with A-V shuntsの1例．第94回日本脳神経外科関東地方会，2004．9．
- 11) 高橋 弘，河野 潤，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：cDNA microarrayを用いた悪性グリオーマの遺

伝子発現プロファイル解析による治療戦略の構築．第63回日本脳神経外科学会総会，2004．10．

- 12) 足立好司<sup>1)</sup>，高橋 弘，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 神経下垂体胚細胞腫の内分泌的特徴．第63回日本脳神経外科学会総会，2004．10．
  - 13) 河野 潤，永井尚生<sup>1)</sup>，長幡武光<sup>1)</sup>，音田正光<sup>1)</sup>，横田 隆<sup>1)</sup>，山口文雄<sup>2)</sup>，足立好司<sup>2)</sup>，高橋 弘，寺本 明<sup>2)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): GliomaにおけるCCL3L1遺伝子とその受容体遺伝子の発現異常．第63回日本脳神経外科学会総会，2004．10．
  - 14) 山口文雄<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，高橋 弘，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 当施設における悪性グリオーマの治療の現況．第9回日本脳腫瘍の外科学会，2004．10．
  - 15) 金澤隆三郎，加藤光久<sup>1)</sup>，石川和弥<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>亀田総合病院，<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科): 急性期脳梗塞患者のスクリーニングにおける3D-CTAの有用性．第63回日本脳神経外科総会，2004．10．
  - 16) 金澤隆三郎，加藤光久<sup>1)</sup>，石川和弥<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>亀田総合病院，<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科): 脳血管れん縮期におけるCTperfusionの有用性．第63回日本脳神経外科総会，2004．10．
  - 17) 山口文雄<sup>1)</sup>，野村竜太郎<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，高橋 弘，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 当科における術中マッピングとその効用．第9回日本脳腫瘍の外科学会，2004．11．
  - 18) 金澤隆三郎，小南修史<sup>1)</sup>，吉田陽一<sup>2)</sup>，鈴木紀成，吉田大蔵，高橋 弘，寺本明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科，<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 動脈瘤を合併した，Developmental venous anomaly with A-V shuntsの1例．第20回日本脳神経血管内治療学会，2004．11．
  - 19) 吉田大蔵，金 景成<sup>1)</sup>，森本大二郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): ヒト下垂体腺腫細胞低酸素状態での細胞浸潤の変化．第15回日本間脳下垂体腫瘍学会，2005．1．
  - 20) 保科淑子<sup>1)</sup>，星野公彦<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>，河野 潤，吉田大蔵，小原澤秀彰<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科，<sup>2)</sup>同眼科): 側頭動脈炎にリウマチ性多発筋痛症を合併した1例．日本医科大学医学会第115回例会，2005．2．
  - 21) 金澤隆三郎，鈴木紀成，吉田大蔵，高橋 弘，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 動脈瘤を合併した，Developmental venous anomaly with A-V shuntsの1例．第28回CI研究，2005．3．
- (3) ポスター：
- 1) 吉田大蔵，金 景成<sup>1)</sup>，饒波正博<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科，<sup>2)</sup>帝京大学付属溝口病院): 下垂体腺腫細胞における転写因子hypoxia inducible factor 1-aの意義．第5回日本分子脳神経外科学会，2004．4．

## [ 多摩永山病院脳神経外科 ]

### 研究概要

付属多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科専門医訓練施設として付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら以下の研究を行っている．これらは全てハイレベルの受診者満足度を目的とした観点からの研究と考えている．

多摩地区は高齢者人口が増加の一途をたどり，それに伴い虚血性脳血管障害症例が急増している．それゆえ，上記疾患に対する研究を第一とした．すなわち，内頸動脈狭窄症に対しては外科的治療戦略のさらなる改善・工夫についての研究を行った．また，脳梗塞急性期症例に対し，最も重要な要因のひとつである血小板機能の病態解明について，従来にはなかった最新の研究が可能となり目下進行中である．そして近々その報告ができると確信している．なお，3D-CTAなどの画像検査・頸動脈エコー・PWV・経頭蓋超音波ドプラー検査および電気生理学的検査（ABR，SEP）等を駆使し，臨床研究の一助としている．

特にPWVおよび頸動脈エコーについては，脳梗塞予防・再発防止の観点からも研究を行っている．

次に，いわゆる無症候性疾患，特に高齢者の脳腫瘍・未破裂脳動脈瘤などに対しては，QOLを第一とした手術法

についての改良研究を行った。なお、従来摘出困難とされていた頭蓋底腫瘍に対しては、予後改善目的に手術法の検討のみならず手術器具の開発研究も行っている。

なお、当教室の主体の1つである脳下垂体腺腫、および悪性脳腫瘍や脊椎・脊髄疾患については、付属病院他専門スタッフの協力を得て、脳神経外科学教室共通のプロトコールに従い治療・研究を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Tamaki T, Kitamura T, Node Y, Teramoto A : Paramedian Suboccipital Mini-Craniectomy for Evacuation of Spontaneous Cerebellar Haemorrhage . *Neurol Med Chir* 2004 ; 44 ( 11 ) : 578-583 .
- 2) Tamaki T, Isayama K, Yamamoto Y, Teramoto A : Cardiopulmonary haemodynamic changes after severe head injury . *Bri J Neurosurg* 2004 ; 18 ( 2 ) : 157-162 .
- 3) Tamaki T, Eguchi T, Sakamoto M, Teramoto A : Glioblastoma Multiforme of the Cerebellum in Elderly Man . *J Chin Med Assos* 2004 ; 67 ( 6 ) : 301-304 .

#### (2) 綜説：

- 1) 野手洋治：神経外傷のキーワード Transcranial Doppler ( TCD ). *Clinical Neuroscience* 2004 ; 22 : 556-557 .

### 著書

- 1) 玉置智規：〔分担〕 Neuroimaging Quiz : Cerebellar glioblastoma multiforme . *Clin Neurosci* , 2004 ; pp615-616 , 中外医学社 .
- 2) 野手洋治：〔分担〕 Neuroimaging Quiz : 硬膜下膿瘍 . *Clin Neurosci* , 2004 ; pp1207-1208 , 中外医学社 .
- 3) 玉置智規：〔分担〕 頭蓋内圧亢進による急変の病態生理 . *脳外科看護* , 2004 ; pp8-11 , 日総研出版 .
- 4) 野手洋治：〔分担〕 Neuroimaging Quiz : Duret 出血 . *Clin Neurosci* , 2005 ; pp225-226 , 中外医学社 .
- 5) 玉置智規：〔分担〕 Neuroimaging Quiz : Gliomatosis cerebri . *Clin Neurosci* , 2005 ; pp343-344 , 中外医学社 .

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 野手洋治：脳しゅようそれとも脳腫瘍？ . 第19回日本医科大学付属多摩永山病院公開講座 , 2005 . 2 .

#### (2) シンポジウム：

- 1) Node Y, Tamaki T, Teramoto A : Clinical analysis of the patients with skull base and facial injury in the acute head trauma . 3rd World Congress of Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology ( Nagoya ) , 2005 . 3 .
- 2) Node Y, Tamaki T, Teramoto A : Clinical features in the patients with "platform accident" in Tokyo . 3rd World Congress of Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology ( Nagoya ) , 2005 . 3 .
- 3) 玉置智規, 澤田恵子, 林 伸吉, 野手洋治, 寺本 明：頸動脈硬化と動脈脈波速度 . 第13回日本脳ドック学会 , 2004 . 6 .

#### (3) 一般講演：

- 1) 玉置智規, 鈴木紀成, 渡辺 玲, 斉藤寛浩, 寺尾 健, 酒井直之, 梅岡克哉, 水成隆之, 野手洋治, 寺本明：日本医科大学におけるCEA . 第29回多摩脳神経外科懇話会 , 2004 . 4 .
- 2) 竹井麻生, 玉置智規, 林 伸吉, 渡邊国博, 細根 勝<sup>1)</sup>, 堀田次郎<sup>2)</sup>, 野手洋治, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>野猿峠脳神経外科病院 ) : Gliomatosis cerebri の1症例 . 第94回日本脳神経外科学

- 会関東地方会, 2004 . 9 .
- 3) 野手洋治: 頭部外傷急性期の頭蓋底・顔面損傷の臨床的検討 .第63回社団法人日本脳神経外科学会総会 ,2004 . 10 .
  - 4) 玉置智規, 澤田恵子, 林 伸吉, 野手洋治, 寺本 明: 脳血栓症における頸動脈硬化と動脈脈波速度 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
  - 5) 林 伸吉, 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明: 前頭洞開放時の修復にリン酸骨カルシウムペーストの使用経験 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
  - 6) 渡邊国博, 玉置智規, 林 伸吉, 野手洋治, 寺本 明: 中等度被殻出血における stereotactic aspiration の機能予後における有用性 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
  - 7) 林 伸吉, 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明: 前頭洞開放時の補填にリン酸骨カルシウムペーストの使用経験 . 第5回バイオアクティブペースト研究会, 2004 . 11 .
  - 8) 林 伸吉, 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明: 前頭洞開放時の補填にリン酸骨カルシウムペーストの使用経験 . 第9回日本脳腫瘍の外科学会, 2004 . 11 .
  - 9) 岩本直高, 玉置智規, 野手洋治, 佐々木光由, 竹井麻生, 齊藤寛浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>流山中央病院脳神経外科): 軽微な交通外傷による plaque injury から artery to artery emboli を来した1例 . 第95回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004 . 12 .
  - 10) 佐々木光由, 河原 清, 寺本 明: 脳膿瘍を発症した HIV 感染症の1例 . 第28 回日本脳神経CI学会総会, 2005 . 3 .

## [ 千葉北総病院脳神経外科 ]

### 研究概要

開設11周年が経過した千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脳代謝、脳血管内手術、脊髄脊椎外科を中心とした臨床的および基礎的研究を行った。Stroke Care Unit (SCU) および、脳卒中ホットラインも順調に稼働しており、ドクターヘリを加味した病診連携も確固たるものとなり、千葉県北部における基幹施設としての責務を果たした。

- 1) 脳血管障害: ラクナ梗塞におけるエタラボンの効果をロジスティック回帰分析を用いて検討した。脳梗塞患者発症急性期と慢性期でのシロスタゾールの局所脳血流量、血小板機能への影響を報告した。脳内出血発症の硬膜動静脈瘻に検討を加えた。皮質梗塞患者における ipsilateral thalamic diaschisis に注目した。RA グラフトを用いた未破裂巨大脳動脈瘤に対する手術症例の検討を行った。
- 2) 頭部外傷: 実験頭部外傷における glutamate AMPA receptor antagonist の有用性を報告した。High flow bypass を用いて加療した外傷性CCFを報告した。
- 3) 脳腫瘍: central neurocytoma に対しての病理学的検討を加えた。
- 4) 脳代謝: [c-11]TMSX PET によるアデノシン A 2A 受容体分析の測定を行った。
- 5) 脳血管内手術: 髄膜腫に対するNBCAを用いての術前塞栓術の有用性を発表した。
- 6) 脊髄脊椎外科: 低侵襲の観点から頸椎症に対する術式選択を検討した。脊髄脊椎ドックに展望を論じた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究報告書:

- 1) Mishina M, Ishii K<sup>1)</sup>, Mitani K<sup>1)</sup>, Oyama M<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>2)</sup>, Ishikawa K<sup>1)</sup>, Senda M<sup>2)</sup>, Kobayashi S, Kitamura S<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Positoron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Geriatric Neuroscience Research

Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ): Midbrain hypometabolism as early diagnostic sign for progressive supranuclear palsy . Acta Neurol Scand 2004 ; 110 : pp128-135 .

2) Kanazawa R<sup>1)</sup>, Kominami S, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery ): Middle cerebral artery thrombolysis through the contralateral internal carotid artery . Neurol Med Chir 2004 ; 44 ( 7 ): pp372-375 .

3) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 木暮一成 (<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科 ): 頸椎前方到達法の基本術式とバリエーション . 脳神経外科速報 2005 ; 15 ( 2 ): pp147-157 .

## (2) 症例報告 :

1) Murai Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Mizunari T, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery ): Anterior Communicating Artery Aneurysm in the Sella Turcica : Case Report . Surg Neurol 2004 ; 62 ( 1 ): 69-71 .

## 著 書

1) 小林士郎 : [ 分担 ] 多発性硬化症-revisited-Neuroimaging Quiz . Clinical Neuroscience , 2004 ; pp853-854 , 中外医学社 .

## 学会発表

### (1) セミナー :

1) 小南修史 : 椎骨脳底動脈系の解剖 . 第10回西関東 Neuro IVR セミナー , 2004 . 4 .

2) 福地孝明 : 著明な髄液圧亢進を示し、視力障害を認めた上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例 . 第5回千葉頭痛研究会 , 2004 . 6 .

3) 小林士郎 : 脳卒中治療の新しい展開 : ガイドライン2004を中心に . 印旛市郡医師会ガイドライン研修会 , 2004 . 6 .

4) 小南修史 : Unravelling したコイルの簡便な回収法 . 第5回琉球セミナー , 2004 . 6 .

5) 小南修史 : 術前、術後で困ったこと . 第11回西関東 Neuro IVR セミナー , 2004 . 7 .

6) 小林士郎 : 日常診療に必要な頭部外傷の知識 : 治療可能な痴呆である正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫も含めて . 第66回東葉臨床医学セミナー , 2004 . 8 .

7) 小林士郎 : 2004 ガイドラインより見た脳卒中の治療戦略 . 佐原市香取郡医師会学術講演会 , 2004 . 9 .

8) 小林士郎 : 日常診療における脳神経外科的疾患の重要性 . 千葉県病院薬剤師会平成16年度薬事講習会 , 2004 . 10 .

9) 小林士郎 : 脳卒中より見た病診連携 : ドクターヘリも含めて . 千葉県病院薬剤師会平成16年度薬事講習会 , 2004 . 10 .

10) 太組一朗 : 脳血管疾患 . 平成17年度第28回産業衛生研修会 , 2004 . 11 .

11) 水谷鴨秀 : 巨大脳動脈瘤の手術 . 第7回脳卒中勉強会 , 2004 . 11 .

12) 小林士郎 : 診断に苦慮した頭痛の症例 . 第3回北総頭痛研修会 , 2005 . 2 .

### (2) ワークショップ :

1) 太組一朗, 秋野公造<sup>1)</sup>, 小林士郎, Shlomo M<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>長崎大学解剖学第一講座, <sup>2)</sup>Division of Endocrinology, Cedars-Sinai Medical Center , <sup>3)</sup>日本医科大学脳神経外科学 ): 「PTTG ( pituitary tumor-transforming gene ) 下垂体トランスジェニックマウスモデルを中心に」 . 第2回千葉アクロメガリーワークショップ , 2004 . 9 .

### (3) 一般講演 :

1) Masuda R<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Kobayashi S (<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Chiba-Hokusho Hospital, Nippon Medical School ): Clinical evaluation of spontaneous intracranial hypotension ( SIH ): From the standpoint of pain clinicians . 11th International Pain Clinic ( Tokyo ), 2004 . 7 .

2) Mishina M , Kobayashi S , Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine ): Effect of a Free Radical

Scavenger, Edaravone, on Acute Phase of Lacunar Infarct . The 2nd Korean-Japanese Joint Stroke Conference ( Yokohama ), 2004 . 11 .

- 3) Kominami S, Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery): A Case of Duplicated PCA origin . Neurovascular Anatomy ( Thailand ), 2004 . 10 .
- 4) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 磯部政則<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断: 骨形態と非典型的の圧迫病変の検討 . 第27回日本脳神経CI学会総会, 2004 . 4 .
- 5) 太組一朗, 水成隆之, 小林士郎, 森 修<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 解離性A2-A3破裂脳動脈瘤の1手術症例 . 第93回日本脳神経外科学会関東地方会, 2004 . 4 .
- 6) 福地孝明, 小南修史, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘤の1例 . 第45回日本神経学会, 2004 . 5 .
- 7) 岩本直高, 阿部 新, 梅岡克哉, 金 景成, 水谷暢秀, 太組一朗, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 非特異的な画像所見を呈した悪性リンパ腫の1例 . 第40回千葉北総神経放射線研究会, 2004 . 5 .
- 8) 土屋雅人, 渡辺 玲, 小林士郎: ドクターヘリにて救命しえたラグビーによる急性硬膜下血腫の1例 . 第57回東葛地区脳神経外科研究会, 2004 . 6 .
- 9) 福地孝明, 小南修史, 三品雅洋, 阿部 新, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘤の1例 . 第22回日本神経治療学会総会, 2004 . 6 .
- 10) 金 景成, 木暮一成, 小林士郎, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 髄外進展を来した悪性神経膠腫の1例 . 第19回日本脊髄外科学会, 2004 . 6 .
- 11) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 高齢者変形性脊椎症の手術: instrumentationを第一選択としない立場 . 第19回日本脊髄外科学会, 2004 . 6 .
- 12) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断: 骨形態と非典型的の圧迫病変の検討 . 第19回日本脊髄外科学会, 2004 . 6 .
- 13) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 脊椎手術におけるUltrasonic bone curettleの有用性と問題点 . 第19回日本脊髄外科学会, 2004 . 6 .
- 14) 木暮一成, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 脊椎椎体ドックの展望: 症例経験からの検討 . 第13回日本脳ドック学会総会, 2004 . 6 .
- 15) 水谷暢秀, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): RA グラフトを用いた未破裂巨大脳動脈瘤に対する手術症例の検討 . 第13回日本脳ドック学会総会, 2004 . 6 .
- 16) 梅岡克哉, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 脳内出血にて発症した硬膜動静脈瘤の5例 . 第18回日本神経救急学会学術集会, 2004 . 6 .
- 17) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 高齢者変形性脊椎症の手術 . 第17回老年脳神経外科学会, 2004 . 7 .
- 18) 三品雅洋, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 田中伸幸<sup>1)</sup>, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 酒寄 修<sup>2)</sup>, 濱本 真<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科, <sup>3)</sup>脳神経外科学): ラクナ梗塞におけるエダラボンの効果: ロジスティック回帰分析を用いた検討 . 第2回“フリーラジカルと脳疾患”東日本研究会学術集会, 2004 . 7 .
- 19) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 未破裂動脈瘤クリッピング術後における脳梗塞の合併: とくに血栓化動脈瘤に対する治療法の検討 . 第23回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2004 . 8 .
- 20) 水谷暢秀, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 当院における未破裂脳動脈瘤に対するクリッ



ピング術症例の検討．第23回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2004．8．

- 21) 村井保夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学,<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈瘤に対するRAグラフトの適応に関する文献的考察．第23回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2004．8．
- 22) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 小林士郎, 岡田 進<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>2)</sup>同放射線科,<sup>3)</sup>多摩永山病院病理部): 術中迅速診断における浸潤星細胞腫の画像と細胞診．第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004．9．
- 23) 梅岡克哉, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 頭蓋内出血で発症した硬膜動静脈瘻の5例．第18回千葉県重症患者管理研究会, 2004．9．
- 24) 福地孝明, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 視力障害, 頭痛を訴え, 著明な髄液圧亢進を認めた上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例: 第2報．第16回日本脳循環代謝学会, 2004．9．
- 25) 三品雅洋, 福地孝明, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): [C-11]TMSX PETによるアデノシン A2A 受容体分布の測定．第16回日本脳循環代謝学会, 2004．9．
- 26) 金 景成, 野村竜太郎, 阿部 新, 梅岡克哉, 水谷暢秀, 太組一朗, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 鑑別困難な脳腫瘍の1例．第42回千葉北総神経放射線研究会, 2004．9．
- 27) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): STA-MCA 吻合術におけるrecipient arteryの選択．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 28) 小南修史, 布施 明<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学,<sup>2)</sup>脳神経外科学): High grade AVMに対する血管内治療の役割．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 29) 太組一朗, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 解離性前大脳動脈脳動脈瘤の治療経験．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 30) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科,<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 頸椎症の対する術式選択?低侵襲の観点から．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 31) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科,<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 脊椎手術におけるUltrasonic bone curetteの有用性と問題点: Hi speed drillと比較して．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 32) 村井保夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>, 水成隆之, 小林士郎(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学,<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈病変に対するRAグラフトの適応に関する文献的考察と我々の方法．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 33) 水谷暢秀, 水成隆之, 村井保夫<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学,<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): RAグラフトを用いた未破裂脳動脈瘤に対する手術症例の検討．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 34) 金 景成, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 下垂体腺腫におけるHIF-1 及びVEGF発現に関する検討．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 35) 梅岡克哉, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 神経外科疾患における血中CD34の発現．第63回日本脳神経外科学会総会, 2004．10．
- 36) 太組一朗: 脳神経外科領域におけるエラスポールの使用経験．第5回千葉県北総地区脳卒中フォーラム, 2004．10．
- 37) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井堅二<sup>1)</sup>, 木村裕一<sup>1)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 佐々木徹<sup>1)</sup>, 河村和紀<sup>1)</sup>, 大山雅史<sup>2)</sup>, 福地孝明, 小林士郎, 片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設,<sup>2)</sup>内科学第2): [C-11]TMSX PETを用いた健常者脳内アデノシン A2A 受容体分布の測定．第44回日本核医学会総会, 2004．11．
- 38) 小南修史, 布施 明<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 鈴木雅規<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学,<sup>2)</sup>脳神経外科学): 本学における脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術の治療成績．第20回日本脳神経血管内

治療学会，2004．11．

- 39) 鈴木雅規<sup>1)</sup>，齋藤寛浩<sup>1)</sup>，小南修史，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>流山中央病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 心原性脳塞栓症における血栓溶解療法の予後へのhyperdense MCA signの意義．第20回日本脳神経血管内治療学会，2004．11．
- 40) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>，小南修史，吉田陽一<sup>1)</sup>，鈴木紀成<sup>2)</sup>，吉田大蔵<sup>2)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学，<sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 動脈瘤を合併した，Developmental venous anomaly with A-V shuntの1例．第20回日本脳神経血管内治療学会，2004．11．
- 41) 布施 明<sup>1)</sup>，小南修史，横田裕行<sup>2)</sup>，桑本健太郎<sup>1)</sup>，小関一英<sup>1)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>川口市立医療センター救命救急センター，<sup>2)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>3)</sup>同脳神経外科学): 術前のStaged embolization が有鉤であった硬膜動静脈瘻 (Cognard Type IV) の1例．第20回日本脳神経血管内治療学会，2004．11．
- 42) 太組一朗，金 景成，野村竜太郎，阿部 新，梅岡克哉，水谷暢秀，木暮一成，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎: 左前頭葉脳腫瘍の1症例．第43回千葉北総神経放射線研究会，2004．11．
- 43) 秋野公造<sup>1)</sup>，太組一朗，Shlomo M<sup>2)</sup>，山下俊一<sup>3)</sup>，秋田定伯<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>長崎大学解剖学第一講座，<sup>2)</sup>Div Endocrinology, Cedars-Sinai Medical Center, CA，<sup>3)</sup>長崎大学付属原爆後障害医療研究施設分子医療部門分子診断学，<sup>4)</sup>長崎大学形成外科): 下垂体PTTG遺伝子の肝再生時における発現調整．第34回日本創傷治療学会，2004．11．
- 44) 小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): NBCAにて完全塞栓が得られ，手術時に腫瘍から全く出血しなかったSpennoid Ridge Meningiomaの1例．第20回日本脳神経血管内治療学会，2004．11．
- 45) 小島豊之，小林士郎: ガンマプローブおよびモバイルガンマカメラを用いた脳腫瘍摘出術．第59回東葛地区脳神経外科研究会，2004．12．
- 46) 野村竜太郎，水成隆之，水谷暢秀，太組一朗，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 脳梗塞で発症し，くも膜下出血を続発した後小脳動脈解離性病変の1例．第95回日本脳神経外科学会関東地方会，2004．12．
- 47) 篠田朋美，岡沢有希子，加藤美和子，水成隆之: SCUを併設する脳神経センターにおける専門看護の試み．第10回日本脳神経外科救急学会，2005．1．
- 48) 梅岡克哉，水成隆之，小南修史，小林士郎，宮本正章<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>脳神経外科学): 脳神経外科疾患における血中CD34陽性細胞の発見の検討．第4回日本再生医療学会総会，2005．3．
- 49) 小島豊之，小林士郎: 髄液減少症 (低髄圧症候群) における間脳下垂体機能の形態学および機能的変化について．第60回東葛地区脳神経外科研究会，2005．3．
- 50) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 頸椎外側椎間板障害の実態: 画像診断と術中所見から．第28回日本脳神経CI学会総会，2005．3．
- 51) 中村正幸<sup>1)</sup>，畑下恒寛<sup>1)</sup>，布施 明<sup>2)</sup>，小南修史，島 克司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>医療法人三慶会指扇病院脳神経外科，<sup>2)</sup>川口市立医療センター救命救急センター，<sup>3)</sup>防衛医科大学校脳神経外科): 急性硬膜外血腫に合併した中硬膜動脈偽性動脈瘤に対しGDCコイル塞栓術を施行した1例．第28回日本神経外傷学会，2005．3．
- 52) 横田裕行<sup>1)</sup>，横堀将司<sup>1)</sup>，高島慎之介<sup>1)</sup>，勝野 亮<sup>2)</sup>，渥美生弘<sup>2)</sup>，布施 明<sup>3)</sup>，猪鹿倉恭子<sup>4)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学高度救命救急センター，<sup>2)</sup>同脳神経外科，<sup>3)</sup>川口市立医療センター救命救急センター，<sup>4)</sup>日本医科大学第二病院救命救急部): 頸髄，頸椎に合併する椎骨動脈損傷の意義．第28回日本神経外傷学会，2005．3．

## 12. 整形外科学講座

### [ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科 ]

#### 研究概要

整形外科学教室の平成16年度の研究は、臨床的研究と分子生物学的な基礎的研究に大別することができる。

臨床的研究としては、EBMに基づいた腰痛診療のガイドラインの研究成果を集約し、継続的研究テーマである厚生科学研究費による坐位職業による腰痛調査研究結果を報告した。また、脊椎部、肩・肘・股・膝関節部、手の外科、足の外科、骨・軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別に見ると脊椎では頸・腰椎部疾患の診断・治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経・腱の障害に対する治療法および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、検査法における新知見を報告している。

基礎的研究では、基礎医学教室ならびに老人病研究所との共同研究である骨粗鬆症における薬剤の免疫応答の研究および分子生物学的研究、関節軟骨細胞死に関する研究成果を報告した。ヒト骨髄ES細胞を2次培養後アルミナセラミック上での骨形成に関する研究成果を報告し、誌上発表した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sudo Y, Ezura Y<sup>1)</sup>, Ishida R, Kajita M<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Inoue S<sup>3)</sup>, Shiraki M<sup>4)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Ito H, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Geriatric Hospital, <sup>3)</sup> Department of Geriatric Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>4)</sup> Research Institute and Practice for Involutional Diseases, Nagano ): Association of a single-nucleotide polymorphism in the promoter region of leukemia inhibitory factor receptor gene with low bone mineral density in adult women. *Geriatrics and Gerontology International* 2004 ; 4 : 245-249 .
- 2) Sawaizumi T, Nanno M, Nambu A, Ito H : Vascularised bone graft from the base of the second metacarpal for refractory nonunion of the scaphoid. *Journal of Bone and Joint Surgery* 2004 ; 86B : 1007-1012 .
- 3) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H : Irreducible palmar dislocation of the proximal interphalangeal joint of a finger evaluated by magnetic resonance imaging : a case report. *Hand Surgery* 2004 ; 9 : 253-256 .
- 4) Sudo K, Asoh S<sup>1)</sup>, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Ozaki D, Yamagata K<sup>1)</sup>, Ito H, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine ): The anti-cell death FNK protein protects cells from death induced by freezing and thawing. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2004 ; 330 ( 3 ): 850-856 .
- 5) Taguchi K, Ogawa R<sup>1)</sup>, Migita M<sup>2)</sup>, Hanawa H<sup>1)</sup>, Ito H, Orimo H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, <sup>3)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): The role of bone marrow-derived cells in bone fracture repair in a green fluorescent protein chimeric mouse model. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2005 ; 331 : 31-36 .
- 6) Sawaizumi T, Nanno M, Nambu A, Ito H : Percutaneous leverage pinning in the treatment of Bennett's fracture. *Journal of Orthopaedic Science* 2005 ; 10 : 27-31 .

- 7) 縄井清志<sup>1)</sup>, 田辺勇人<sup>1)</sup>, 土屋美智子<sup>1)</sup>, 菅沼一男<sup>1)</sup>, 南 和文<sup>2)</sup>, 二見俊郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>茅ヶ崎リハビリテーション専門学校, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院整形外科, <sup>3)</sup>北里大学医療系研究科): 介護サービスにおける福祉用具使用時の安全に関する研究: 印旛沼における疫学調査から. 理学療法学 2004; 31(1): 51-55.
- 8) 飯澤典茂, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 小寺訓江, 林 央介, 伊藤博元: 手指PIP関節内骨折成績不良例の検討. 骨折 2004; 26(1): 312-315.
- 9) 玉井健介, 河路秀巳, 伊藤博元: 両側変形性股関節症における片側THAの反対側に及ぼす影響. Hip Joint 2004; 30: 97-100.
- 10) 澤泉卓哉, 南野光彦, 八百板仁志, 飯澤典茂, 南部昭彦, 中嶋祐作, 小寺訓江, 堀口 元, 伊藤博元: 創外固定を用いた橈骨遠位端骨折の治療法の検討: Non-bridging法とbridging法の比較. 日本創外固定・骨延長学会雑誌 2004; 15: 46-49.
- 11) 澤泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 南部昭彦, 伊藤博元: Sauve-Kapandji法における尺骨近位断端部痛に対する尺骨近位断端制動術の検討. 日本手の外科学会誌 2004; 21: 65-68.
- 12) 澤泉卓哉, 南野光彦, 橋口 宏, 南部昭彦, 六郷知行, 伊藤博元: 小児上腕骨顆上骨折後のanterior spikeの残存と内旋・内転変形. 日本肘関節学会雑誌 2004; 11: 57-58.
- 13) 南野光彦, 澤泉卓哉, 青木孝文, 南部昭彦, 小寺訓江, 伊藤博元: 手根管症候群に対する手関節掌側装具の治療成績と適応. 東日本整形災害外科学会誌 2004; 16: 52-55.
- 14) 南野光彦, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 小寺訓江, 伊藤博元: 橈骨頭粉碎骨折に対するlow-profile plate systemの治療経験. 日本肘関節研究会誌 2004; 16: 107-108.
- 15) 南野光彦, 澤泉卓哉, 鈴木康之, 小寺訓江, 伊藤博元: 80歳以上高齢者の橈骨遠位端骨折に対する保存的治療の成績. 骨折 2004; 25: 235-238.
- 16) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 堀口 元: 肩関節夜間痛に対する芍薬甘草湯の有効性. 東日整災外会誌 2004; 16: 60-62.
- 17) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 堀口 元: Impingement徴候陽性患者におけるX線学的因子の検討. 肩関節 2004; 28: 275-278.
- 18) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 堀口 元: 肩腱板不全断裂に対する鏡視下肩峰下除圧術単独施行例の治療成績. 関節鏡 2004; 29: 121-125.
- 19) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 大場俊二: Little Leaguer's Shoulderの治療成績. 整スボ会誌 2004; 24: 40-43.
- 20) 橋口 宏, 伊藤博元, 大場俊二, 中原義人: 投球動作により発症した肘頭骨端線閉鎖不全症例の治療成績. 日肘会誌 11: 47-48, 2004 2004; 11: 47-48.
- 21) 小林俊之, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 村田修二, 伊藤博元: 術後早期に発症する肺塞栓症における, 血液ガス分析の有用性. 東日本整災会誌 2004; 16: 11-15.
- 22) 小林俊之, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 村田修二, 江川慶長, 伊藤博元: 静脈造影法による術後深部静脈血栓症(DVT)の検討とD-dimer値との関連. 骨・関節・靭帯 2004; 17: 897-903.
- 23) 南部昭彦, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 伊藤博元: Non-bridge type 創外固定器を単独使用した橈骨遠位端関節内骨折の治療成績について. 日本手の外科学会雑誌 2004; 21(2): 56-60.
- 24) 南野光彦, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 小寺訓江, 伊藤博元: 橈骨遠位端骨折の治療成績に関する因子: 多変量解析による分析. 日本手の外科学会誌 2005; 21: 733-735.

(2) 綜説:

- 1) 南 和文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院整形外科): スポーツ整形外科 15 日常診療のポイント: 相撲. 関節外科 2004; 23(7): 953-961.
- 2) 伊藤博元: 肩関節外傷の治療: 前方不安定症について. 臨床放射線 2004; 49(12): 1651-1658.

- 3) 伊藤博元：肩関節障害・診断と治療のポイント．NEW MOOK 整形外科 2004；16：114-122．
  - 4) 伊藤博元：肩関節に対する前方進入路．MB Orthop 2004；17：36-43．
  - 5) 宮本雅史，伊藤博元：腰部脊柱管狭窄症の画像診断．Monthly Book Orthopaedics 2004；17(5)：22-28．
  - 6) 白井康正，宮本雅史，伊藤博元：診療ガイドラインと薬物療法：腰痛．クリニカル プラクティス 2004；23(6)：600-603．
  - 7) 宮本雅史，伊藤博元：椎間板ヘルニアの診療ガイドライン：病態に関するエビデンス．脊椎脊髄ジャーナル 2004；17(10)：959-964．
  - 8) 宮本雅史，伊藤博元：腰痛の管理：腰痛の診断．CLINICAL CALCIUM 2005；15(3)：407-412．
- (3) 症例報告：
- 1) 林 央介，青木孝文，今野俊介，伊藤博元：短腓骨筋腱移行術により治療した外傷性前脛骨筋機能不全の1例．関東整形災害外科学会雑誌 2004；35(5)：319-322．
  - 2) 堀口 元，高山景範，橋口 宏，伊藤博元：両側に発症した肩関節後方脱臼骨折の1例．肩関節 2004；28(2)：411-414．
  - 3) 今野俊介，青木孝文，宮本雅史，元文芳和，伊藤博元：圧迫性頸髄症に対し運動単位数推定法を試行した1例．脊髄機能診断研究会誌 2004；26(1)：83-86．
  - 4) 南野光彦，澤泉卓哉，伊藤博元：第2，3手根中手関節脱臼骨折の1例．雑誌 整形外科 2005；56：166-169．
- (4) 総括研究報告書：
- 1) 白井康正，伊藤博元，大成清一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大成整形外科病院)：座作業における腰痛予防に関する調査研究．平成15年度労働科学研究費補助による労働安全衛生総合研究事業 2004．
  - 2) 四宮謙一<sup>1)</sup>，伊藤博元，菊地臣二<sup>2)</sup>，小森博達<sup>1)</sup>，里見和彦<sup>3)</sup>，白土 修<sup>4)</sup>，高橋和久<sup>5)</sup>，戸山芳昭<sup>6)</sup>，永田見生<sup>7)</sup>，持田譲治<sup>8)</sup>，米延策雄<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学医歯学総合研究科整形外科，<sup>2)</sup>福島県立医科大学整形外科教室，<sup>3)</sup>杏林大学医学部整形外科教室，<sup>4)</sup>北海道大学医学部整形外科教室，<sup>5)</sup>千葉大学医学部整形外科教室，<sup>6)</sup>慶應義塾大学医学部整形外科教室，<sup>7)</sup>久留米大学医学部整形外科教室，<sup>8)</sup>東海大学医学部整形外科教室，<sup>9)</sup>国立大阪南病院)：椎間板ヘルニアのガイドライン作成に関する研究．平成15年度労働科学研究費補助による医療技術評価総合研究事業 2004．

## 著 書

- 1) 田沼久美子<sup>1)</sup>，田沼 裕<sup>2)</sup>，南 和文<sup>3)</sup>，吉田 匠<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2，<sup>2)</sup>帝京大学医学部解剖学教室，<sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院整形外科，<sup>4)</sup>吉田鍼灸院)：〔共著〕これならわかる要点解剖学(石橋治雄)，2004；南山堂．
- 2) 橋口 宏，伊藤博元：〔分担〕肩鎖関節脱臼に対する吸収性スクリューを用いた Weaver 変法．別冊整形外科：関節不安定性と靭帯再建 5(高岡邦夫)，2004；pp2-5，南江堂．
- 3) 南野光彦，澤泉卓哉，伊藤博元：〔分担〕鉤状突起骨折．手関節と肘関節：手術療法はどこまで進んだか．新 OS NOW 新世代の整形外科手術23，2004；pp122-128，メジカルビュー．
- 4) 澤泉卓哉，伊藤博元：〔分担〕関節内骨折に対する関節鏡視下整復法．新 OS NOW 23 関節内骨折の手術：その最新手技，2004；pp2-7，メジカルビュー．
- 5) 澤泉卓哉，伊藤博元：〔分担〕B．創外固定器使用時の部位別のコツ 手の外科における創外固定のコツ：我々の行っている方法．Monthly Book Orthopaedics Vol. 17 No. 8，2004；pp20-26，全日本病院出版会．
- 6) 澤泉卓哉：〔分担〕ばね指．増刊号 臨床外科 Vol. 59 No. 11，2004；pp300-301，医学書院．
- 7) 澤泉卓哉：〔分担〕外反母趾．増刊号 臨床外科 Vol. 59 No. 11，2004；pp324-325，医学書院．
- 8) 伊藤博元：〔分担〕腰痛症．整形外科学・外傷学 第7版，2005；pp180-184，文光堂．
- 9) 伊藤博元：〔分担〕頸肩腕症候群．整形外科学・外傷学 第7版，2005；pp184-185，文光堂．

10) 伊藤博元：〔分担〕肩関節周囲炎．整形外科学・外傷学 第7版，2005；pp185-186，文光堂．

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 宮本雅史：腰痛性疾患の診断と治療．春日部医師会整形外科医会学術講演，2004．4．
- 2) 伊藤博元：肩関節の外傷，スポーツ障害の画像診断．第3回 福島市臨床医研修会，2004．4．
- 3) 森 淳：スポーツ外傷・障害の種目特性．第31回日本整形外科学会スポーツ医学研修会，2004．8．
- 4) 森 淳：競技別スポーツ傷害の特性と治療；バスケットボール．日本整形外科学会認定スポーツ医資格継続のための研修会，2004．8．
- 5) 澤泉卓哉：舟状骨偽関節に対する手術的治療．埼玉手の外科研究会，2004．9．
- 6) 伊藤博元：肩関節の外傷・スポーツ障害の画像診断的アプローチ．第32回 東医・東邦・昭和・3大整形外科合同談話会，2004．9．
- 7) 伊藤博元：スポーツによる肩関節脱臼・外傷性不安定症の診断・治療．第9回 群馬関節セミナー，2004．9．
- 8) 南 和文（千葉北総病院整形外科）：相撲における傷害の予防．第37回日本武道学会相撲分科会，2004．9．
- 9) 成田哲也：運動のためのメディカルチェック - 整形外科系．平成16年度日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会，2004．11．
- 10) 宮本雅史：頸部脊髄症の診断と治療．葛飾区医師会整形外科医会学術講演，2005．2．

##### (2) シンポジウム：

- 1) Ito H：A distinction between non and delayed-union on the tibial ununited fractures．13th Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium ( Taipei )，2004．4．
- 2) Aoki T：Surgical Diagnosis and Treatment of Tarsal Tunnel Syndrome．13th Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium ( Taipei )，2004．4．
- 3) Yoshihara K<sup>1)</sup>，Minami K，Dezawa A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Teikyou Univ. School of Medicine )：A minimally invasive technique for harvesting iliac bone grafts．15th japan-korean orthopaedic joint symposium ( Korea )，2004．6．
- 4) Yoshihara K<sup>1)</sup>，Minami K，Nakajima T ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Teikyou Univ. School of Medicine )：The laterality of hip fractures as it was seen from daily activities．International Symposium on Preventing Falls and Fractures in Older Person 2004 ( Yokohama )，2004．6．
- 5) 宮本雅史，元文芳和，今野俊介，伊藤博元：椎間板ヘルニアの病態について．第12回日本腰痛学会，2004．11．
- 6) 宮本雅史，元文芳和，今野俊介，中嶋祐作，堀口 元，伊藤博元：慢性腰痛に対する運動療法．第12回日本腰痛学会，2004．11．
- 7) 伊藤博元，宮本雅史，元文芳和，今野俊介，白井康正：職業運転手における腰痛予防に関する研究調査．第4回労働衛生重点研究推進協議会シンポジウム，2004．11．
- 8) 飯澤典茂，澤泉卓哉，八木板仁志，家田俊也，栗山直之，鈴木康之，北村繁行，齋藤 善，小寺訓江，伊藤博元：肘頭骨折術後成績の検討．第17回日本肘関節学会，2005．2．

##### (3) 一般講演：

- 1) Hashiguchi H，Ito H，Banzai Y，Horiguchi G：Factors influencing the outcome of conservative treatment for partial thickness rotator cuff tears．9th International Congress on Surgery of the Shoulder, Washington，2004．5．
- 2) Nanno M，Sawaizumi T，Saito T，Ito H：Carpal malalignment in distal radius fracture with conservative treatment．9th Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand，9th IFSSH World Hand Congress ( Budapest )，2004．6．

- 3) Sawaizumi T , Nanno M , Iizawa N , Saito T , Hanaoka T , Ito H : Percutaneous leverage pinning in the treatment of Bennett ' s fracture . The 9th congress of the international federation of societies for surgery of the hand ( Budapest ) , 2004 . 6 .
- 4) Miyamoto M , Genbun Y , Konno S , Nakajima Y , Ito H : posterior spinal shortening for patients with delayed paralysis due to osteoporotic vertebral fracture . the 16th meeting of APEC ( Asia-Pacific Endocrine Conference )( Ho Chi Minh City, Vietnam ) , 2004 . 9 .
- 5) Yoshihara K<sup>1)</sup> , Dezawa A<sup>1)</sup> , Minami K , Nakajima T ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Teikyuu univ. School of Medicine ): The degree of impairment of the multifidus muscle in patients with lumbar disc herniation ; Histochemical Study . Asia Pacific Orthopaedic Association ; 14th Annual Meeting ( Malaysia ) , 2004 . 9 .
- 6) Nambu A , Sawaizumi T , Nanno M , Ito H : Treatment for Distal Radius Fractures Using Non-Bridge Type of External Fixators . The 5th Congress of the Asian Pacific Federation of Societies for Surgery of the Hand ( Osaka ) , 2004 . 10 .
- 7) Sawaizumi T , Nanno M , Nambu A , Ito H : Lengthening of the distal phalanges . The 1st meeting of Japanese-Italian Combined Meeting of Hand Club ( Osaka ) , 2004 . 11 .
- 8) Nanno M , Sawaizumi T , Nambu A , Kodera N , Ito H : Clinical outcomes of surgical treatment on Galeazzi fracture . The 5th Congress of the Asian Pacific Federation of Societies for Surgery of the Hand ( Osaka ) , 2004 . 11 .
- 9) Aoki T , Sawaizumi T , Ito H : PIP joint pain as a clinical expression of lateral band contracture . The 5th Congress of the Asian Pacific Federation of Societies for Surgery of the Hand ( APFSSH ) , 2004 . 11 .
- 10) Yoshihara K<sup>2)</sup> , Dezawa A<sup>2)</sup> , Minami K<sup>1)</sup> , Nakajima T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Teikyuu univ. School of Medicine ): The degree of impairment of the multifidus muscle in patients with lumbar disc herniation . American Academy of Orthopaedic Surgeons ; 72nd Annual Meeting ( Washington DC ) , 2005 . 2 .
- 11) Saito T , Sawaizumi T , Nanno M , Egawa Y , Ito H : Clinical results of a non-bridging type external fixation for the fracture of the joint vicinity of the phalanges and metacarpus . 4th Combined Meeting of the American and Japanese Societies for Surgery of the Hand ( Hawaii ) , 2005 . 3 .
- 12) Sawaizumi T , Nanno M , Maruyama H , Ito H : External fixation of phalanges and forearm bone -The method of reduction after placement of a fixator and its outcomes . The 4th combined meeting of the Japanese and American Societies for Surgery of the Hand ( Hawaii ) , 2005 . 3 .
- 13) Nanno M , Sawaizumi T , Nambu A , Kodera N , Saito T , Ito H : Surgical treatment for fractures of the finger with low-profile plate system . 第77回日本整形外科学会 , 2004 . 5 .
- 14) 青木孝文 , 今野俊介 , 伊藤博元 : 頸椎症性脊髄症におけるF波出現様式と臨床症状との関連性 . 第26回脊髄機能診断研究会 , 2004 . 2 .
- 15) 澤泉卓哉 , 青木孝文 , 南野光彦 , 南部昭彦 , 伊藤博元 : Sauve-Kapandji 法における尺骨近位断端部痛に対する尺骨近位断端制動術の検討 . 第47回日本手の外科学会 , 2004 . 4 .
- 16) 南野光彦 , 澤泉卓哉 , 南部昭彦 , 小寺訓江 , 伊藤博元 : 橈骨遠位端骨折の治療成績に関する因子 : 多変量解析による分析 . 第47回日本手の外科学会 , 2004 . 4 .
- 17) 玉井健介 , 河路秀巳 , 高松 眞 , 北村繁行 , 林 央介 , 伊藤博元 : 両側股関節症において片側THAは反対側に好影響を及ぼすのか? . 第77回日本整形外科学会学術集会 , 2004 . 5 .
- 18) 森 淳 , 成田哲也 , 飯澤典茂 , 武田知通 , 伊藤博元 : Augmentation法による膝前十字靭帯再建後に再建を要した不安定性再発例の検討 . 第77回日本整形外科学会学術総会 , 2004 . 5 .

- 19) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 山田哲士, 田中陽子, 伊藤博元: コンクリートミキサー車運転手の腰痛実態に関する研究. 第77回日本整形外科学会学術総会, 2004. 5.
- 20) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 堀口 元: 上腕骨骨幹部骨折に対する髓内固定法およびプレート固定法の検討. 第77回日本整形外科学会学術総会, 2004. 5.
- 21) Yoshihara K<sup>1)</sup>, Kaneda K, Rokugo T, Minami K, Ito H ( <sup>1)</sup> Dept. of Orthopaedic Surgery, Teikyou Univ. School of Medicine ): A minimally invasive technique for harvesting iliac bone grafts. 第77回日本整形外科学会学術集会, 2004. 5.
- 22) 橋口 宏, 赤石文洋, 中原義人, 伊藤博元, 萬歳祐子, 山田哲士: 肩関節上方関節唇損傷修復術後に鏡視下後方関節包解離術を行った1例. 第12回よこはまスポーツ整形外科フォーラム, 2004. 6.
- 23) 中嶋隆夫, 深井靖雄, 小林俊之, 江川慶長, 南 和文, 宮本雅史, 伊藤博元, 家田俊也: 硬膜外膿瘍を伴った腰仙部化膿性脊椎炎に対しイリザロフ創外固定器を用いた治験例. 第33回日本脊椎脊髄病学会, 2004. 6.
- 24) 青木孝文, 今野俊介, 宮本雅史, 伊藤博元: 頸椎症性脊髄症における巧遅運動障害とF波との関連性について. 第33回日本脊椎脊髄病学会, 2004. 6.
- 25) 飯澤典茂, 成田哲也, 森 淳, 高松 眞, 伊藤博元: 膝前十字靭帯再建術におけるアスレチックリハビリテーションの効果. 第16回日本理学診療学会, 2004. 7.
- 26) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 中嶋祐作, 齋藤 善, 伊藤博元: 腰痛調査におけるローランド・モリスコアとVASの比較検討. 第16回日本理学診療学会, 2004. 7.
- 27) 飯澤典茂, 成田哲也, 森 淳, 高松 眞, 伊藤博元: 脛骨プラトー骨折の臨床成績. 第30回日本骨折治療学会, 2004. 7.
- 28) 南野光彦, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 齋藤 善, 小寺訓江, 伊藤博元: 尺骨遠位端骨折. 第30回日本骨折治療学会, 2004. 7.
- 29) 澤泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 小寺訓江, 齋藤 善, 飯澤典茂, 伊藤博元: 手指の関節近傍骨折に対するnon-bridge型創外固定法. 第30回日本骨折治療学会, 2004. 7.
- 30) 森 淳, 成田哲也, 飯澤典茂, 武田知通, 高松 眞, 伊藤博元: Augmentation法による膝十字靭帯再建用大腿骨側固定ボタン「Slit Anchor Button」の臨床応用. 第30回日本整形外科スポーツ医学学術集会, 2004. 7.
- 31) 中嶋隆夫, 深井靖雄, 小林俊之, 村田修二, 江川慶長, 齋藤 善, 南 和文: 術後髄液漏治療中に頭蓋内出血を生じた2症例. 第3回ちば脊椎カンファレンス, 2004. 7.
- 32) 中嶋隆夫, 深井靖雄, 南 和文, 家田俊也: KAPSSの使用経験. 第8回国際脊柱再建セミナー, 2004. 7.
- 33) 吉原 潔<sup>1)</sup>, 南 和文, 中嶋隆夫 ( <sup>1)</sup> 帝京大学医学部整形外科 ): Captured Hip Screw法による過度のtelescopingを防止するための工夫. 第30回日本骨折治療学会, 2004. 7.
- 34) 吉原 潔<sup>1)</sup>, 南 和文, 中嶋隆夫 ( <sup>1)</sup> 帝京大学医学部整形外科 ): 日常生活動作からみた大腿骨頸部骨折. 第30回日本骨折治療学会, 2004. 7.
- 35) 南 和文, 伊藤博元, 中嶋隆夫, 江川慶長, 齋藤 善, 岡田 進 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科 ): 相撲廻しが腰椎運動に及ぼす効果. 第30回日本整形外科学会学術集会, 2004. 7.
- 36) 澤泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 中嶋祐作, 南部昭彦, 小寺訓江, 堀口 元, 伊藤博元: 手指の骨折に対する創外固定: 装着後修復固定の方法と治療成績. 第17回日本創外固定・骨延長学会, 2004. 8.
- 37) 青木孝文, 中嶋祐作, 高松 眞, 澤泉卓哉, 伊藤博元: イリザロフ創外固定器により矯正した熱傷後内反尖足で矯正維持が困難であった1症例. 第17回日本創外固定学会, 2004. 8.
- 38) 江川慶長, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 小林俊之, 伊藤博元: 肺塞栓予防対策として術前に下大静脈フィルターを留置し手術に臨んだ3例. 第53回東日本整形外科学会, 2004. 9.
- 39) 今野俊介, 元文芳和, 青木孝文, 中嶋祐作, 伊藤博元: 頸部脊髄症に対し運動単位数推定法を試行した2例. 第53回東日本整形災害外科学会, 2004. 9.



- 40) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 中嶋祐作, 齋藤 善, 伊藤博元: 頸椎症性脊髄症に対する棘突起縦割式脊柱管拡大術の治療成績と頸部愁訴について. 第53回東日本整形災害外科学会, 2004. 9.
- 41) 南野光彦, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 小寺訓江, 伊藤博元: 母指 MP 関節橈側副靭帯損傷に対する観血的治療の検討. 第53回東日本整形災害外科学会, 2004. 9.
- 42) 中嶋祐作, 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 齋藤 善, 伊藤博元: 骨粗鬆症性椎体圧潰による遅発性神経麻痺に対して行った脊椎後方短縮術の経験. 第53回東日本整形災害外科学会, 2004. 9.
- 43) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元, 赤石文洋: 手術後のPIP関節部痛についての1考察. 第53回東日本整形災害外科学会, 2004. 9.
- 44) 中嶋隆夫, 深井靖雄: 転移性脊椎腫瘍術後に髄液ろうを生じた1症例. 第5回千葉西北部整形外科研究会, 2004. 9.
- 45) 南 和文, 深井靖雄, 江川慶長, 岡田 進<sup>1)</sup>, 伊藤博元 (<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): クラッキングフィンガーにおけるキャピテーション現象の画像学的検討. 第53回東日本整形災害外科学会, 2004. 9.
- 46) 堀口 元, 飯澤典茂, 橋口 宏, 高山景範, 伊藤博元: 両側肩関節に発症したTumoral calcinosis の1例. 第31回日本肩関節学会, 2004. 10.
- 47) 河路秀巳, 玉井健介, 小寺訓江, 堀口 元, 牧野 晃, 伊藤博元: 全身状態不良の大腿骨頸部骨折の非手術例の検討: 保存療法と手術療法の早期死亡の比較. 第31回日本股関節学会, 2004. 10.
- 48) 小寺訓江, 玉井健介, 河路秀巳, 堀口 元, 牧野 晃, 伊藤博元: 膝関節痛を主訴とした大腿骨頭脆弱性骨折の1例. 第31回日本股関節学会学術集会, 2004. 10.
- 49) 玉井健介, 河路秀巳, 小林俊之, 小寺訓江, 堀口 元, 牧野 晃, 伊藤博元: 大腿骨頭すべり症に対する骨端線内固定術のすべり防止効果: single screw fixationとmultiple screws or pins fixationの比較. 第31回日本股関節学会学術集会, 2004. 10.
- 50) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 伸筋腱側索拘縮としてのPIP関節部痛とその対策. 第10回神奈川手肘の外科研究会, 2004. 10.
- 51) 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 小林俊之, 江川慶長, 村重良一: プレスフィットセメンティング法によるAnca-Fit ステムの使用経験. 第5回千葉股関節研究会, 2004. 10.
- 52) 中嶋祐作, 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 齋藤 善, 伊藤博元: 馬尾腫瘍との鑑別を要した癒着性くも膜炎の1例. 第12回腰痛学会, 2004. 11.
- 53) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 中嶋祐作, 堀口 元, 伊藤博元: 座作業者の腰痛の実態に関する調査研究. 第12回日本腰痛学会, 2004. 11.
- 54) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 中嶋祐作, 堀口 元, 伊藤博元: 外来診療における腰痛の実態調査. 第12回日本腰痛学会, 2004. 11.
- 55) 今野俊介, 青木孝文, 伊藤博元: 上肢筋のF波基線標準化の試み. 第34回日本臨床神経生理学会, 2004. 11.
- 56) 青木孝文, 今野俊介, 南部昭彦, 小寺訓江, 吉澤隆明, 伊藤博元: 頸椎症性脊髄症におけるF波出現様式の多様性. 第41回日本臨床神経生理学会, 2004. 11.
- 57) 中嶋隆夫: 当院における脊椎手術症例の紹介ならびに今後の病診連携の取り組みについて. 第1回北総整形外科カンファレンス, 2004. 12.
- 58) 南野光彦, 澤泉卓哉, 齋藤 善, 小寺訓江, 伊藤博元: 橈骨頭脱臼と鉤状突起骨折を伴った小児肘関節脱臼骨折の1例. 第17回日本肘関節学会, 2005. 2.
- 59) 南野光彦, 澤泉卓哉, 齋藤 善, 小寺訓江, 伊藤博元: 高齢者上腕骨通頸上骨折における偽関節, 遷延治癒の治療経験. 第17回日本肘関節学会, 2005. 2.
- 60) 澤泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 飯澤典茂, 齋藤 善, 伊藤博元: 手術的治療を行った橈骨頭・頸部骨折の治療成績の検討. 第17回日本肘関節学会, 2005. 2.
- 61) 林 央介, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 伊藤博元: 舟状骨近位切除と橈骨楔状骨切り術を併用したPreiser病の1例.

第19回 東日本手の外科研究会, 2005. 2.

- 62) 齋藤 善, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元: 当施設における全身麻酔下日帰り 手の外科手術: 開始後1年間の現状について. 第19回東日本手の外科研究会, 2005. 2.
- 63) 南野光彦, 澤泉卓哉, 齋藤 善, 小寺訓江, 伊藤博元: 手指伸筋腱脱臼の治療経験. 第19回東日本手の外科研究会, 2005. 2.
- 64) 南野光彦, 澤泉卓哉, 齋藤 善, 小寺訓江, 伊藤博元: 両側Galeazzi骨折に右肘関節脱臼を伴った1例. 第19回東日本手の外科研究会, 2005. 2.
- 65) 澤泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 飯澤典茂, 齋藤 善, 伊藤博元: 手術的治療を行った橈骨頭・頸部骨折の治療成績の検討. 第19回東日本手の外科研究会, 2005. 2.
- 66) 今野俊介, 青木孝文, 伊藤博元: 短母指外転筋のF波基線を標準化する方法についての検討. 第27回脊髄機能診断研究会, 2005. 2.
- 67) 中嶋隆夫, 橋口 宏, 深井靖雄, 小林俊之, 江川慶長, 南 和文: 治療に難渋した陳旧性第1腰椎圧迫骨折の1症例. 第4回ちば脊椎カンファレンス, 2005. 2.
- 68) 林 央介, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 伊藤博元: 橈骨嚙状骨切り術を施行したPreiser病の2例. 第45回 関東整形災害外科学会, 2005. 3.
- 69) 中嶋祐作, 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 堀口 元, 須藤悦宏, 伊藤博元: 硬膜骨化を伴った胸椎黄色靭帯骨化症の1例. 第45回関東整形災害外科学会, 2005. 3.
- 70) 南部昭彦, 澤泉卓哉, 南野光彦, 齋藤 善, 伊藤博元: 血管柄付き第2中手骨基部骨移植術を用いた難治性舟状骨偽関節の治療: 手術手技と有用性について. 第48回日本手の外科研究会, 2005. 4.

(4) ポスター:

- 1) Sudo Y, Ezura Y<sup>1)</sup>, Kajita M<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>3)</sup>, Inoue S<sup>4)</sup>, Shiraki M<sup>5)</sup>, Ito H, Emi M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Epidemiology and Health Promotion Research Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> Department of Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>4)</sup> Department of Geriatric Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>5)</sup> Research Institute and Practice for Involutional Diseases, Nagano): Association of a single-nucleotide polymorphism in the promoter region of leukemia inhibitory factor receptor gene with low bone mineral density in adult women. American Society for bone and Mineral Research 26th Annual Meeting (Seattle), 2004. 10.

## 13．産婦人科学講座

### [ 付属病院女性診療科・産科 ]

#### 研究概要

周産期医学，婦人科腫瘍学，生殖内分泌医学，手術学の各部門でそれぞれ精力的に行われた．

周産期医学領域では，妊娠中毒症妊婦における生理的，病理的意義につき，プロテオミクス，ジェノミクスの手法を用いて解析された．

また，母乳における免疫機構の解明，特にウイルス防御機構についての検討がなされた．

婦人科腫瘍学では，子宮体癌の発生のメカニズムに対する遺伝子レベルの解析が検討された．

また，卵巣腫瘍患者における血管新生因子の発現，特に血中 VEGF 測定の意義などが検討された．

生殖医学部門では，不育症治療における NK 細胞活性の意義，子宮外妊娠における術後の血中 hCG 減衰曲線の解析などがなされた．

手術学部門では，筋腫核出術，単純子宮摘出術等に対するの腹腔鏡下手術の適応拡大とその有用性などが検討された．

以上各分野において独創的な研究がなされている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 追加分症例報告：

- 1) Asakura H, Oda T, Tsunoda Y, Matsushima T, Kaseki H, Takeshita T : A case report : change in fetal heart rate pattern on spontaneous uterine rupture at 35 weeks gestation after laparoscopically assisted myomectomy . J. Nippon. Med. Sch 2004 ; 71 ( 1 ): 69-72 .

##### (2) 原著：

- 1) Okamoto K, Kuwabara Y, Nishino T, Nishino T : Molecular switching mechanism of xanthine oxidoreductase . 蛋白質核酸酵素 2004 ; 49 ( 5 ): 625-633 .
- 2) Nakai A, Shibasaki Y, Taniuchi Y, Miyake H, Oya A, Takeshita T : Role of mitochondrial permeability transition in fetal brain damage in rats . Pediatr Neurol 2004 ; 30 ( 4 ): 247-253 .
- 3) Mita S, Nakai A, Maeda S, Takeshita T : Prognostic Significance of Ki-67 Antigen Immunostaining ( MIB-1 monoclonal antibody ) in ovarian cancer . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ): 384-391 .
- 4) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Araki T : Plasma adenosine concentrations increase in women with hyperemesis gravidarum . Clin Chim Acta 2004 ; 342 : 99-103 .
- 5) Suzuki S, Yoneyama Y : Maternal plasma hypoxanthine levels in nonpreeclamptic twin pregnancies . Tohoku J Exp Med 2004 ; 203 : 349-352 .
- 6) Suzuki S, Yoneyama Y : First-trimester prediction of growth discordance in dichorionic twin gestations . Am J Obstet Gynecol 2004 ; 191 : 1504-1505 .
- 7) Suzuki S, Okudaira S : Maternal peripheral T helper 1-type and T helper 2-type immunity in women during the first trimester of twin pregnancy . Arch Gynecol Obstet 2004 ; 270 : 260-262 .
- 8) Kirino Y, Yasukawa T, Ohta S, Akira S, Ishihara K, Watanabe K, Suzuki T : Codon-specific translational defect caused by a wobble modification deficiency in mutant tRNA from a human mitochondrial disease . Proceedings of the National Academy of Science of the USA 2004 ; 101 ( 42 ): 15070-15075 .

- 9) Hatta M, Nagai H, Okino K, Onda M, Yoneyama K, Ohta Y, Nakayama H, Araki T, Emi M : Down-regulation of members of glycolipid-enriched membrane rat gene family, MAL and BENE, in cervical squamous cell cancers . J Obstet Gynaecol Res 2004 ; 30 ( 1 ): 53-58 .
- 10) Ishikawa G, Soma H, Hata T : An Analytic Study on Pathology of Placenta Associated with Chorangioma . Placenta 2004 ; 25 ( 8, 9 ): K39 .
- 11) Satomi M, Shimizu M<sup>1)</sup>, Shinya E<sup>1)</sup>, Watari E<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Hidaka C<sup>1)</sup>, Ichikawa M<sup>1)</sup>, Takeshita T, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 ): Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN . J. Infect. Dis. 2005 ; 191 ( 2 ): 174-181 .
- 12) Suzuki S, Shinagawa S, Chihara H, Otsubo Y, Takeuchi T, Sawa R, Yoneyama Y, Takeshita T, Araki T : Resting oxygen consumption in patients with twin pregnancy . Arch Gynecol Obstet 2005 ; 271 : 152-153 .
- 13) 明樂重夫, 西 弥生, 渡辺美千明, 竹下俊行 : 不妊症における子宮筋腫・子宮腺筋症の腹腔鏡下核出術 . 産婦人科の実際 2004 ; 53 ( 6 ): 865-872 .
- 14) 阿部 崇, 山田浩子, 永野玲子, 弘末卓也, 林 瑞成, 大村 浩, 若麻績佳樹 : 双胎一児死亡の生存胎児に発症した先天性横隔膜ヘルニアの1例 . 日産婦東京会誌 2004 ; 53 ( 2 ): 230-233 .
- 15) 山本晃人, 村田知昭, 根岸靖幸, 桑原慶充, 米山芳雄, 竹下俊行 : 血糖管理が困難であった糖尿病合併妊娠の1例 . 日産婦東京会誌 2004 ; 53 ( 2 ): 274-277 .
- 16) 石川 源, 照井克生 : 早期流産の処置 : 安全確実な麻酔と手術 . 産婦人科の世界 2004 ; 56 ( 7 ): 653-661 .
- 17) 石川 源, 竹田 省 : 特集 研修医のための周産期医療ABC : 産科編 産科疾患の診断, 治療管理, 陣痛誘発, 無痛分娩 . 周産期医学 2004 ; 34 ( 7 ): 1097-1100 .
- 18) 阿部 崇, 山田浩子, 永野玲子, 弘末卓也, 林 瑞成, 大村 浩, 若麻績佳樹 : 部分方状奇態合併妊娠の1例 . 日産婦東京会誌 2004 ; 53 ( 3 ): 380-382 .
- 19) 村田知昭, 竹下俊行 : 切迫流産 . 産婦人科の実際 2004 ; 53 ( 9 ): 1247-1252 .
- 20) 村田知昭, 竹下俊行 : ARTと流産 . 産婦人科の実際 2004 ; 53 ( 12 ): 1813-1817 .
- 21) 明樂重夫, 西 弥生, 竹下俊行 : 子宮筋腫 : 腹腔鏡下筋腫摘出術の適応と限界 . 産婦人科の実際 2004 ; 53 ( 11 ): 1595-1602 .
- 22) 村田知昭, 米山芳雄, 澤倫太郎, 竹下俊行 : Pregnancy-associated plasma protein A の細胞接着因子を介した妊娠中毒症発症機構における意義 . 日本妊娠高血圧学会雑誌 2004 ; 12 : 157-158 .
- 23) 米山剛一, 山口昌子, 根岸靖幸, 品川寿弥, 沖野恵子, 黒瀬圭輔, 石川温子, 土居大祐, 竹下俊行, 川本雅司, 杉崎祐一, 高橋英彦 : 卵巣原発カルチノイド症例の臨床病理学的検討 . 日産婦 東京会誌 2004 ; 53 ( 4 ): 544-549 .
- 24) 明樂重夫, 阿部 崇, 竹下俊行 : 腹腔鏡, 子宮外妊娠 : 内視鏡手術時の合併症減少のために . 産婦人科の実際 2005 ; 54 ( 1 ): 15-22 .
- 25) 相馬廣明, 石川 源, 大澤洋之, 小川和博, 木下正博, 畑 俊夫 : 胎盤早期剥離合併胎盤の病理学的知見 . 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2005 ; 14 ( 2 ): 49-61 .
- 26) 渡辺美千明, 明樂重夫, 西 弥生, 阿部 崇, 石川温子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : 産婦人科腹腔鏡下手術における音声制御内視鏡ロボット ( AESOPTM ) の有用性について . 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 2005 ; 20 ( 2 ): 173-176 .
- (3) 綜説 :
- 1) Takeshita T : Diagnosis and treatment of recurrent miscarriage associated with immunologic disorders : Is paternal lymphocyte immunization a relic of the past? . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 5 ): 308-313 .
- 2) 竹下俊行, 西 弥生, 石川 源, 里見操緒, 明樂重夫 : 妊産婦 不育症に関する最近の考え方 . 産婦人科の治療

2004 ; 187 (増刊号) : 1029-1032 .

- 3) 西 弥生, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体症候群 習慣流産と抗リン脂質抗体 . 産婦人科の実際 2004 ; 154 (4) : 561-566 .
- 4) 竹下俊行: 研修医のための必修知識 C. 産科疾患の診断・治療・管理 1. 妊婦健診 . 日本産科婦人科学会雑誌 2004 ; 156 (4) : 64-70 .
- 5) 村田知昭, 竹下俊行: 胎児救命Clinical Alert 切迫流産 . 産婦人科の実際 2004 ; 153 (9) : 1247-1252 .
- 6) 竹下俊行: 産科外来の相談ナビ 妊娠前のプライマリ 不育症 . 周産期医学 2004 ; 134 (11) : 1633-1638 .
- 7) 鈴木俊治, 武内 務: ARTと胎児の発育 . 産婦人科の実際 2004 ; 53 : 1865-1870 .
- 8) 鈴木俊治, 武内 務, 竹下俊行: 双胎の分娩様式はどうするか? . 周産期医学 2004 ; 34 : 275-277 .
- 9) 竹下俊行: 不育症を考える 子宮奇形と不育症 . 産婦人科の世界 2004 ; 156 (11) : 1193-1199 .

## 著 書

- 1) 石川 源: [分担] 企産科手術の術前・術中・術後の管理 6帝王切開 早産の帝王切開 . 産科周術期管理のすべて (木下勝之, 竹田 省), 2005 ; pp263-266 , メジカルビュー社 .

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) 明樂重夫: 内視鏡手術の技術認定制度 : 日本内視鏡外科学会の現状と産婦人科における認定の実際 . 第11回日本神経内視鏡学会 , 2004 . 11 .

### (2) 教育講演 :

- 1) 相馬廣明, 石川 源, 大澤洋之, 小川和博, 木下正博, 畑 俊夫: 胎盤早期剥離合併胎盤の病理学的知見 . 第14回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会, 2004 . 6 .
- 2) 明樂重夫: 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定制度における審査の実際とそのポイント . 第17回日本内視鏡外科学会 , 2004 . 11 .

### (3) シンポジウム :

- 1) Akira S , Nishi Y , Kurose K , Watanabe M , Takeshita T : Gasless laparoscopically assisted surgery, using abdominal wall sealing device in OB/GYN field . 4th Gasless International Meeting ( Bali, Indonesia ), 2004 . 9 .
- 2) Takeshita T : Immunological aspects of reproductive wastage Clinico-laboratory characteristics of recurrent aborters with elevated NK cell activity . IX International congress of reproductive immunology ( Hakone ), 2004 . 10 .
- 3) 竹下俊行: 不育症治療と周産期予後 . 第107回日本産科婦人科学会関東連合地方部会 , 2004 . 6 .
- 4) 竹下俊行: 生殖医療と周産期医療の連携を求めて「不育症治療と周産期予後」 . 第107回日本産科婦人科学会関東連合地方部会 , 2004 . 6 .
- 5) 明樂重夫: 日本産科婦人科内視鏡学会における技術認定制度の現状と問題点 . 第17回日本内視鏡外科学会 , 2004 . 11 .

### (4) ワークショップ :

- 1) 米山剛一, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 石川温子, 沖野恵子, 釜口晴美, 浅川一枝, 杉崎祐一, 中山裕樹, 竹下俊行: 子宮体癌: 予後不良な組織型による鑑別 . 第45回日本臨床細胞学会総会 ( 春季大会 ), 2004 . 7 .
- 2) 峯 克也, 片山 映<sup>1)</sup>, 西野武士<sup>1)</sup>, 桑原慶充, 石川 源, 村田知昭, 大坪保雄<sup>2)</sup>, 進 純郎<sup>3)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本医科大学化学第1, <sup>2)</sup>大宮中央総合病院, <sup>3)</sup>葛飾赤十字産院 ): ヒト胎盤プロテオームマップの作成 . 第28回日本産婦人科栄養・代謝研究会 , 2004 . 8 .

(5) 一般講演 :

- 1) Ishikawa G, Soma H, Hata T : An Analytic Study on Pathology of Placenta Associated with Chorangioma . 10th IFPA meeting ( Asilomar ), 2004 . 9 .
- 2) Mine K, Katayama A<sup>1)</sup>, Matsumura T<sup>1)</sup>, Nishino T<sup>1)</sup>, Kuwabara Y, Ishikawa G, Otsubo Y<sup>2)</sup>, Shin S<sup>3)</sup>, Takeshita T ( <sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology , <sup>2)</sup>Omiya Chuo Sogo Hospital , <sup>3)</sup>Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital ): Proteome Analysis of Human Placenta . 10th International Federation of Placenta Associations Meeting ( Asiroma ), 2004 . 9 .
- 3) Yoneyama K, Doi D, Okino K, Kurose K, Ishikawa A, Yoshida Y, Matsushashi T, Nakagawa M, Yoneyama Y, Takeshita T : Preoperative Serum Vegf Levels In Patients with Ovarian Malignancies . IGCS 10th Biennial Meeting ( Edinburgh ), 2004 . 10 .
- 4) Kurose K, Yoshida Y, Matsushashi T, Yamaguchi M, Okino K, Ishikawa A, Doi D, Yoneyama K, Konishi H, Emi M, Takeshita T : Three Aberrant Splicing Variants of The Hmgic Gene Transcribed In Uterine Leiomyomas . IGCS 10th Biennial Meeting ( Edinburgh ), 2004 . 10 .
- 5) Doi D, Kurose K, Ishikawa A, Yoneyama K, Takeshita T : Clinicopathological Study of Ovarian Metastases : Tumors Arising From Gastric Cancer or Colon Cancer . IGCS 10th Biennial Meeting ( Edinburgh ), 2004 . 10 .
- 6) Akira S : Gasless laparoscopically assisted myomectomy using abdominal wall sealing device . The 5th congress of the Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy ( Taipei ), 2004 . 10 .
- 7) Mishima T<sup>1)</sup>, Takayama T<sup>2)</sup>, Ichikawa G, Takeshita T, Matsubara S<sup>2)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Robinson J. M<sup>3)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup>Dept. Anatomy, Nippon Med Sch, <sup>2)</sup>Dept. Obstet. and Gynecol., Jichi Med. Sch., <sup>3)</sup>Dept. Physiol and Cell Biol. Ohio State Univ. ): Fetal endothelial cells in full-term placenta, but not in first trimester placenta, express Fc gamma RIIB2 mRNA . IX International Congress of Reproductive Immunology ( Hakone, Japan ), 2004 . 10 .
- 8) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 山田 隆, 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 子宮体癌傍大動脈リンパ節転移例の臨床病理学的検討 . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 9) 米山剛一, 沖野恵子, 黒瀬圭輔, 石川温子, 山口昌子, 根岸靖幸, 吉田有里, 印出佑介, 中川道子, 山本晃人, 竹下俊行: 卵巣腫瘍症例における血中 VEGF ( vascular endothelial growth factor ) 動態の検討 . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 10) 里見操緒, 市川雅男, 金 栄淳, 館岡佐知, 浜村幸恵, 高橋秀実<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 ): HIV 母子感染における母乳中マクロファージ表面抗原の解析 . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 11) 西 弥生, 里見操緒, 富山僚子, 中川道子, 五十嵐美和, 金 栄淳, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育症治療における末梢血NK細胞活性と内分泌環境について . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 12) 山田 隆, 清水基弘, 佐治晴哉, 杉浦 賢, 加藤久盛, 中山裕樹: 子宮頸癌特b期 ( 腺癌 ) 術後補助療法の適応 . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 13) 土居大祐, 松橋智彦, 山本晃人, 沖野恵子, 石川温子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行: 転移性卵巣癌の臨床病理学的検討: 胃癌原発と大腸癌原発の相違点を中心に . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 14) 富山僚子, 西 弥生, 印出佑介, 倉品隆平, 馬場直美, 明楽重夫, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本大学生物資源科学部 ): 受精卵のグルコース要求性: 体内受精卵および体外受精卵の相違 . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 15) 荻原弘光, 村田知昭, 西田直子, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行, 鈴木俊治, Gordon G. W : 胎仔低血糖が低酸素負荷による脳血流・酸素消費量の変化に与える影響 . 第56回日本産科婦人科学会, 2004 . 4 .
- 16) 中川道子, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 種々の治療により良好に管理しえた子宮腺筋症の1例 . 第330回日

本産科婦人科学会東京地方部会，2004．4．

- 17) 阿部 崇，林 瑞成，山田浩子，永野玲子，弘末卓也，大村 浩，若麻績佳樹：部分胞状奇胎合併妊娠の1例．第330回日本産科婦人科学会東京地方部会，2004．4．
- 18) 峯 克也，片山 映<sup>1)</sup>，西野武士<sup>1)</sup>，桑原慶充，大坪保雄<sup>2)</sup>，進 純郎<sup>3)</sup>，竹下俊行（<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第1，<sup>2)</sup>大宮中央総合病院，<sup>3)</sup>葛飾赤十字産院）：ヒト胎盤のプロテオーム解析．第56回日本産科婦人科学会，2004．4．
- 19) 米山剛一，沖野恵子，黒瀬圭輔，石川温子，山口昌子，根岸靖幸，吉田有里，印出佑介，中川道子，山本晃人，竹下俊行：卵巢腫瘍症例における血中VEGF動態の検討．第56回日本産科婦人科学会総会，2004．4．
- 20) 根岸靖幸，里見操緒，松村好克，三浦 敦，西 弥生，米山芳雄，朝倉啓文，竹下俊行：NK細胞：血管内皮細胞接着能の変化からみた妊娠中毒症の病態について．第56回日本産科婦人科学会，2004．4．
- 21) 山本晃人，黒瀬圭輔，山口昌子，石川温子，土居大祐，米山剛一，竹下俊行：初回治療から20年を経て再発した上皮性卵巣癌の1例．第107回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2004．6．
- 22) 黒瀬圭輔，山口昌子，石川温子，土居大祐，米山剛一，鴨井青龍，竹下俊行：化学療法が著効した子宮体部原発悪性リンパ腫（diffuse large B-cell lymphoma）の1例．第36回日本婦人科腫瘍学会，2004．7．
- 23) 土居大祐，平泉良枝，山口昌子，川瀬里衣子，石川温子，黒瀬圭輔，米山剛一，鴨井青龍，竹下俊行：若年性子宮体癌15例の臨床病理学的検討．第36回日本婦人科腫瘍学会，2004．7．
- 24) 中山裕樹，清水基弘，山田 隆，佐治晴哉，杉浦 賢，加藤久盛，小野瀬亮，黒瀬圭輔，太田雄治郎，米山剛一：子宮体癌術後補助化学療法の適応．第36回日本婦人科腫瘍学会，2004．7．
- 25) 村田知昭，桑原慶充，米山芳雄，澤倫太郎，竹下俊行：妊娠中毒症におけるpregnancy-associated plasma protein Aと血管内皮活性化の検討．第40回日本周産期・新生児医学会総会，2004．7．
- 26) 西 弥生，明楽重夫，吉田有里，黒瀬圭輔，土居大祐，米山剛一，竹下俊行：当科における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の成績．第44回日本産科婦人科内視鏡学会，2004．7．
- 27) 阿部 崇，明楽重夫，西 弥生，黒瀬圭輔，渡辺美千明，竹下俊行：当科における腹腔鏡下子宮外妊娠手術：適応と成績を中心に．第44回日本産科婦人科内視鏡学会，2004．7．
- 28) 山口昌子，明楽重夫，西 弥生，黒瀬圭輔，渡辺美千明，竹下俊行：腹腔鏡補助下にて診断・治療しえた非交通性副角を有する単角子宮の1例．第44回日本産科婦人科内視鏡学会，2004．7．
- 29) 黒瀬圭輔，中井章人，吉田有里，石野博嗣，西 弥生，石川温子，渡辺美千明，土居大祐，横田明重，米山剛一，明楽重夫，竹下俊行：腹腔鏡補助下Alexander-Adams手術の試み．第44回日本産科婦人科内視鏡学会，2004．7．
- 30) 根岸靖幸，品川寿弥，石野博嗣，吉田有里，松橋智彦，山本晃人，中川道子，土居大祐，米山剛一，竹下俊行：卵巣皮用嚢腫破裂により胸膜炎を併発した1例．第72回日本医科大学医学部総会，2004．9．
- 31) 西 弥生，富山僚子，阿部 崇，明楽重夫，竹下俊行：GV期卵子成熟培養液の改善について．第49回日本不妊学会，2004．9．
- 32) 村田知昭，米山芳雄，澤倫太郎，竹下俊行：Pregnancy-associated plasma protein Aの細胞接着因子を介した妊娠中毒症発症機構における意義．第25回日本妊娠中毒症学会，2004．9．
- 33) 米山剛一，山口昌子，根岸靖幸，品川寿弥，沖野恵子，黒瀬圭輔，石川温子，土居大祐，竹下俊行，川本雅司，杉崎祐一，高橋英彦：卵巣原発カルチノイド症例の臨床病理学的検討．第331回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2004．9．
- 34) 渡辺昇一，小川秀臣，太田雄治郎：切迫早産管理中，診断に苦慮した不明熱の1例．第331回日本産科婦人科学会東京地方部会，2004．9．
- 35) 川越信隆，村田知昭，石川 源，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行：当教室における羊水穿刺657症例の検討．第72回日本医科大学医学部総会，2004．9．

- 36) 吉田有里, 黒瀬圭輔, 西 弥生, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 卵巣癌と鑑別を要した巨大卵巣チョコレート嚢胞の1例. 第72回日本医科大学医学学会総会, 2004. 9.
- 37) 富山僚子, 西 弥生, 阿部 崇, 明楽重夫, 竹下俊行, 須長純子<sup>1)</sup>, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本大学生物資源科学部動物細胞学教室): 体外成熟培養GV期卵子の細胞質成熟について. 第22回日本授精着床学会, 2004. 9.
- 38) 西 弥生, 富山僚子, 阿部 崇, 明楽重夫, 竹下俊行, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本大学生物資源科学部動物細胞学教室): GV期卵子成熟培養液の改善について. 第22回日本授精着床学会, 2004. 9.
- 39) 松橋智彦, 阿部 崇, 明楽重夫, 西 弥生, 竹下俊行: 当科における存続外妊症 (persistent Ecotopic Pregnancy) 症例の検討. 第49回日本不妊学会, 2004. 9.
- 40) 富山僚子, 須長淳子, 西 弥生, 大内美智子, 勝又綾香, 里見操緒, 阿部 崇, 明楽重夫, 佐藤嘉兵, 竹下俊行: 体外成熟培養卵子の発生能について. 第19回日本生殖免疫学会, 2004. 10.
- 41) 土居大祐, 沖野恵子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行: 若年性子宮体癌17例の臨床病理学的検討. 第42回日本癌治療学会, 2004. 10.
- 42) 根岸靖幸, 品川寿弥, 石野博嗣, 吉田有里, 松橋智彦, 山本晃人, 中川道子, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行: 胸膜炎を併発した卵巣皮様嚢腫破裂の1例. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2004. 10.
- 43) 吉田有里, 黒瀬圭輔, 西 弥生, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 巨大子宮内膜症性嚢胞の1例. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2004. 10.
- 44) 川越信隆, 黒瀬圭輔, 西 弥生, 吉田有里, 山本晃人, 土居大祐, 米山芳雄, 竹下俊行: 流産後大量性器出血を来した子宮動静脈奇形に対し, 動脈塞栓術を施行し子宮を温存しえた1例. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2004. 10.
- 45) 森 美貴<sup>1)</sup>, 石川 源, 倉澤剛太郎<sup>1)</sup>, 後藤 忠<sup>1)</sup>, 片岡寛章<sup>2)</sup>, 竹下俊行, 滝澤俊広<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第1,<sup>2)</sup>宮崎大学医学部病理学第二講座): ヒト胎盤絨毛における細胞性栄養膜(ラングハンス細胞)の分布様式にして. 第45回日本組織細胞化学会, 2004. 10.
- 46) 山田 隆, 清水基弘, 佐治晴哉, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 黒瀬圭輔, 八田充子, 松下径広, 土居大祐: 子宮内膜細胞診器具・デイキャスおよび多孔デイキャスの有用性. 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
- 47) 桑島豊彦, 峯 伸也, 武内 務, 鈴木俊治, 井上龍也, 山本知則: 妊娠悪阻を契機に発症した深部静脈血栓症. 第21回江東・千葉西ブロック産婦人科医合同卒後研修会, 2004. 11.
- 48) 館岡佐知, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行: HPV DNA chipの測定感度と今後の臨床応用. 第13回日本婦人科がん検診学会, 2004. 11.
- 49) 西 弥生, 明楽重夫, 吉田有里, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行: 当科における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の成績. 第17回日本内視鏡外科学会, 2004. 12.
- 50) 阿部 崇, 明楽重夫, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 竹下俊行: 当科における腹腔鏡下子宮外妊娠手術: 適応と成績を中心に. 第17回日本内視鏡外科学会, 2004. 12.
- 51) 山口昌子, 明楽重夫, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下にて診断・治療しえた非交通性副角を有する単角子宮の1例. 第17回日本内視鏡外科学会, 2004. 12.
- 52) 黒瀬圭輔, 中井章人, 吉田有里, 石野博嗣, 西 弥生, 石川温子, 渡辺美千明, 土居大祐, 横田明重, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下Alexander-Adams手術の試み. 第17回日本内視鏡外科学会, 2004. 12.
- 53) 石川 源, 吉田有里, 村田知昭, 澤倫太郎, 磯 太一, 竹下俊行: 当科における転向分娩の現況. 第107回分娩と麻酔研究会, 2004. 12.
- 54) 吉田有里, 村田知昭, 川越信隆, 印出佑介, 石川 源, 西 弥生, 磯 太一, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: IVF-ET後に発生した胎児共存奇胎の1例. 第332回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2004. 12.
- 55) 吉田有里, 黒瀬圭輔, 西 弥生, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 臨床症状に乏しかった巨大子宮



内膜症性嚢胞の1例．第26回エンドメトリオーシス研究会，2005．1．

- 56) 西 弥生，中川道子，阿部 崇，明楽重夫，竹下俊行：難治性再発子宮内膜症に対する add back, draw back 療法の検討．第26回エンドメトリオーシス研究会，2005．1．
- 57) 品川寿弥，阿部 崇，川越信隆，黒瀬圭輔，西 弥生，土居大祐，澤倫太郎，明楽重夫，竹下俊行，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：産科出血に対しての子宮動脈塞栓術．日本医科大学医学会第115回例会，2005．2．
- 58) 石川朋子<sup>1)</sup>，羅 善順<sup>1)</sup>，片山 映<sup>2)</sup>，峯 克也，石川 源，後藤 忠<sup>1)</sup>，竹下俊行，Robinson J. M. <sup>3)</sup>，西野 武士<sup>2)</sup>，滝澤俊広<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第1，<sup>2)</sup>同生化学第1，<sup>3)</sup>Dept. Physiology and Cell Biology, Ohio State Univ. )：ヒト胎盤終末絨毛の血管内皮細胞のプロテオミクス解析：第1報．第110回日本解剖学会，2005．3．
- 59) 滝澤俊広<sup>1)</sup>，三嶋拓也<sup>1)</sup>，高山 剛<sup>2)</sup>，松原茂樹<sup>2)</sup>，竹下俊行，Anderson C. L. <sup>3)</sup>，Robinson J. M. <sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第1，<sup>2)</sup>自治医科大学産婦人科，<sup>3)</sup>Dept. Int. Med. Ohio State Univ. ，<sup>4)</sup>Dept. Physiology and Cell Biol. Ohio State Univ. )：凍結超薄切片：免疫細胞化学を用いた胎盤 IgG 輸送機構の解析 (S27 最近の凍結技法による細胞組織学的解析応用)．第110回日本解剖学会，2005．3．
- 60) 羅 善順<sup>1)</sup>，石川朋子<sup>1)</sup>，森 美貴<sup>1)</sup>，石川 源，後藤 忠<sup>1)</sup>，竹下俊行，Robinson J. M. <sup>2)</sup>，滝澤俊広<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第1，<sup>2)</sup>Dept. Physiology and Cell Biology, Ohio State Univ. )：CD31 イムノビーズによるヒト満期産胎盤終末絨毛からの胎児血管内皮細胞の単離．第110回日本解剖学会，2005．3．

## [ 第二病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

1. 超音波診断学 妊娠初期胎児および周産期における，胎児超音波診断に加え，
- 1) 上位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究．
  - 2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の予測．
  - 3) 子宮頸管無力症における超音波画像の変化．
  - 4) 妊娠初期胎嚢胞の三次元超音波断層像等の研究を行っている．
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や，内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連の研究等が行われている．
3. 婦人科腫瘍 抗がん剤タキソールの臨床研究施設であり，副作用の解説，研究発表を行っている．子宮頸癌における HPV typing による追跡調査を継続して．

### 研究業績

#### 論文

- (1) 追加分原著：
- 1) 藤江裕美，渋井庸子，三並伸二，斎藤 恵，松島 隆，小西英喜，可世木久幸，朝倉啓文，竹下俊行：帝王切開後，脳梗塞を発症した双胎妊娠，妊娠中毒症の1例．日本妊娠中毒症学会誌 2003；201．
- (2) 原著：
- 1) Hirata T<sup>1)</sup>，Nagai H<sup>1)</sup>，Koizumi K<sup>1)</sup>，Okino K，Harada A<sup>1)</sup>，Onda M<sup>1)</sup>，Nagahata T<sup>1)</sup>，Mikami I<sup>1)</sup>，Hirai K<sup>1)</sup>，Haraguchi S<sup>1)</sup>，Jin E<sup>1)</sup>，Kawanami O<sup>1)</sup>，Shimizu K<sup>1)</sup>，Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門)：Amplification, up-regulation and over-expression of C3G (CRK SH3 domain-binding guanine nucleotide-releasing factor) in non-small cell lung cancers. J Hum Genet 2004；49(6)：290-295．
  - 2) 朝倉啓文：妊娠出産の安全性と快適性を考える．周産期医学 2004；34(3)：101-105．
  - 3) 朝倉啓文：周産期医療におけるリスクの軽減．日本医師会雑誌 2004；132(5)：689-694．

- 4) 朝倉啓文：妊娠・出産の安全性と快適性の確保：大学付属病院勤務医の立場から．産と婦 2004；71(8)：1030-1037．
- 5) 可世木久幸：7. 周産期医療に携わる医師の育成 2) 産科医師の現状と入局者の現状．周産期医学 2004；34(10)：1507-1513．
- 6) 大島正行<sup>1)</sup>，島田洋一<sup>1)</sup>，渋井庸子，藤江裕美，松島 隆，朝倉啓文，竹下俊行<sup>(1)</sup>第二病院麻酔科)：予定帝王切開術中のカンガルーケア：導入と問題点．分娩と麻酔 2004；86(11)：31-33．
- 7) 渋井庸子，松島 隆，石原楷輔<sup>1)</sup>，吉松和彦<sup>1)</sup>，唐沢忠夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新横浜母と子の病院)：腹壁腫瘤として開腹術に至った子宮内膜症の2例．臨床婦人科産科 2004；58(12)：1454-1457．
- 8) 可世木久幸，松島 隆，深見武彦，三並伸二，稲川智子，渋井庸子，藤江裕美，斎藤 恵，朝倉啓文，竹下俊行，波多野久昭<sup>1)</sup>，山崎輝幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>飯田市立病院)：子宮筋腫核手術の工夫：術創縮小と出血量軽減を目的とする腹腔鏡補助下子宮筋腫核手術(Hybrid Myomectomy)．産婦人科の実際 2005；54(2)：335-340．

(3) 綜説：

- 1) Asakura H：Fetal and neonatal thermogenesis．J Nippon Med Sch 2004；71(4)：360-370．
- 2) 可世木久幸：73. 周産期医療から見た生殖医療．産婦人科治療(2004年増刊必携今日の生殖医療) 2004；88(増刊)：460-466．
- 3) 朝倉啓文：骨盤位は帝王切開とすべきなのか．産婦の実際 2004；13(4)：2017-2024．
- 4) 松島 隆，朝倉啓文：骨盤計測とCPDの診断．周産期医学 2004；34(7)：1017-1023．
- 5) 大島正行<sup>1)</sup>，島田洋一<sup>1)</sup>，渋井庸子，藤江裕美，松島 隆，朝倉啓文，竹下俊行<sup>(1)</sup>第二病院麻酔科)：予定帝王切開術中のカンガルーケア；導入と問題点．分娩と麻酔 2004；86(11)：31-33．
- 6) 朝倉啓文：周産期のショック．リサ(Life support and anesthesia) 2004；11(11)：1130-1133．
- 7) 小西英喜，朝倉啓文，竹下俊行：婦人科：悪性疾患，子宮体癌，卵巢癌(超音波の見方)．検査と技術 2005；33(1)：46-51．
- 8) 朝倉啓文：妊娠中絶．産と婦 2005；72(1)：116-119．
- 9) 小西英喜，朝倉啓文，竹下俊行：超音波像の読み方 婦人科：悪性疾患 子宮体癌，卵巢癌．検査と技術 2005；33(1)：46-51．
- 10) 可世木久幸：産婦人科内視鏡学会技術認定医制度のあらましと医療経営．日本産婦人科医会報 2005；57(5)：1-12．

著 書

- 1) 朝倉啓文：〔自著〕わが国における妊産婦死亡の現況．周産期救急のこつと落とし穴(岡村州博)，2004；pp232-234，中山書店．
- 2) 可世木久幸：〔分担〕子宮筋腫核手術後妊娠子宮破裂のリスク：術後避妊期間はどの程度か？．生殖医療のこつと落とし穴(吉村泰典)，2004；pp194-195，中山書店．
- 3) 可世木久幸：〔分担〕11 B8 内視鏡検査．臨床研修医指導の手引き：産婦人科篇(吉村泰典)，2004；pp71-86，診断と治療社．
- 4) 可世木久幸：〔監修〕ステップ婦人科学(可世木久幸)，2004；海馬出版．
- 5) 可世木久幸：〔監修〕ステップ産科学(可世木久幸)，2004；海馬出版．
- 6) 小西英喜，石原楷輔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新横浜母と子の病院)：〔分担〕胎児の発達と検査法：超音波による検査．第15巻産科疾患，看護のための最新医学講座[第2版](日野原重明，井村裕夫監修 岡村州博編集)，2005；pp40-51，中山書店．
- 7) 可世木久幸，可世木成明<sup>1)</sup>，可世木博<sup>1)</sup>，中村あずみ<sup>1)</sup>，清水麻紀子<sup>1)</sup>，石田雅人<sup>1)</sup>，可世木辰夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>格医会可世木病院)：〔分担〕ART後分娩の特徴：多胎分娩の問題点．進化していく体外受精Progress(鈴木秋悦)，

2005 ; pp301-307 , メディカルビュー社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 朝倉啓文 : 中枢神経障害児の原因 ; 日母新生児仮死児調査より . 第99回新生児セミナー ( 鹿児島 ) , 2004 . 8 .
- 2) 朝倉啓文 : 中枢神経障害児の妊娠 , 分娩時における原因 ; 予防は可能か . 茅ヶ崎産婦人科医会 , 2004 . 8 .
- 3) 可世木久幸 : 女性内科最前線 . 平成16年度中野市医師会 , 2004 . 8 .
- 4) 朝倉啓文 : 妊娠と熱産生に関する研究 : 胎児 , 新生児から妊娠悪阻まで . 第72回日本医科大学医学会総会 , 2004 . 9 .
- 5) 小西英喜 , 朝倉啓文 , 竹下俊行 : 癌検診における十代女性の最近の動向 . 第11回神奈川セロトーン研究会 , 2005 . 2 .
- 6) 可世木久幸 : 産婦人科的雑学の最前線 . 平成16年度座間座間綾瀬海老名産婦人科医会研究会 , 2005 . 3 .

### (2) 招待講演 :

- 1) Kaseki H , Mathushima T , Asakura H : Hybrid Myomectomy : Minimally Invasive Advanced Laparoscopic Assisted Myomectomy . The 5th Annual Meeting of Asia - Pacific Association of Gynecologic Endoscopy ( Taipei, Taiwan ) , 2004 . 10 .
- 2) 朝倉啓文 : 胎児脳障害の発生機序について . 船橋産婦人科医師会 , 2004 . 3 .
- 3) 朝倉啓文 : 妊娠・出産の安全性と快適性の確保について . 第25回多摩産婦人科病診連携懇談会 , 2004 . 7 .
- 4) 朝倉啓文 : 中枢神経障害児と胎児脳障害について . 荒川区産婦人科医会 , 2004 . 8 .

### (3) 教育講演 :

- 1) 可世木久幸 : 技術認定医ビデオ審査の実際 . 第11回日本産科婦人科内視鏡学会学術研修会 , 2004 . 8 .

### (4) シンポジウム :

- 1) 山中美智子<sup>1)</sup> , 住吉好雄<sup>1)</sup> , 朝倉啓文 , 佐々木繁<sup>2)</sup> , 坂元正一<sup>2)</sup> , 平原史樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市立大学病院産婦人科 , <sup>2)</sup> 日本産婦人科医会 ) : 薬剤から見た先天異常 ( 先天異常発生要因へのアプローチ : その現状と展望 ) . 第44回日本先天異常学会 , 2004 . 9 .
- 2) 山中美智子<sup>1)</sup> , 武井美城<sup>1)</sup> , 住吉好雄<sup>1)</sup> , 石川浩史<sup>1)</sup> , 高橋恒男<sup>1)</sup> , 遠藤方哉<sup>1)</sup> , 朝倉啓文 , 佐々木繁<sup>2)</sup> , 坂元正一<sup>2)</sup> , 平原史樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市立大学病院産婦人科 , <sup>2)</sup> 日本産婦人科医会 ) : 本邦における神経管閉鎖障害発生動向と葉酸摂取勧告の効果 . 第23回日本周産期 , 新生児医学会 , 周産期シンポジウム , 2005 . 1 .

### (5) 一般講演 :

- 1) Okino K , Nagai H , Yoneyama K , Doi D , Takeshita T : Down Regulation of C3G ( Crk Sh3domain - Binding Guanine Nucleo Tide - Releasing Factor ) In Cervical Squamous Cell Carcinomas . IGCS 10th Biennial Meeting ( Edinburgh ) , 2004 . 10 .
- 2) Horita N<sup>1)</sup> , Katou I<sup>1)</sup> , Kiyokuni M<sup>1)</sup> , Asakura H , Sasaki S , Sakamoto S<sup>2)</sup> , Yamanaka M<sup>2)</sup> , Sumiyoshi Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市立大学病院産婦人科 , <sup>2)</sup> 日本産婦人科医会 ) : Trends of Gastroschisis in Japan . International Symposium on Congenital Malformation 2004 ( Kyoto ) , 2004 . 9 .
- 3) 藤江裕美 , 渋井庸子 , 三並伸二 , 斎藤 恵 , 深見武彦 , 松島 隆 , 小西英喜 , 可世木久幸 , 朝倉啓文 : 胎盤の超音波観察は妊婦血液凝固性をスクリーニングできるか ? . 第56回日本産科婦人科学会総会 , 2004 . 4 .
- 4) 大島正行<sup>1)</sup> , 島田洋一<sup>1)</sup> , 藤江裕美 , 渋井庸子 , 松島 隆 , 小西英喜 , 朝倉啓文 ( <sup>1)</sup> 第二病院麻酔科 ) : 帝王切開後の持続硬膜外鎮痛が起立保持に与える影響 . 第56回日本産科婦人科学会総会 , 2004 . 4 .
- 5) 斎藤 恵 , 可世木久幸 , 深見武彦 , 松島 隆 , 朝倉啓文 , 竹下俊行 , 波多野久昭<sup>1)</sup> , 山崎輝幸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 飯田市立病院 ) : 腹腔鏡補助下子宮筋腫核手術の改良 : 術創縮小と出血量軽減をを目指して . 第56回日本産科婦人科学会学術集会 , 2004 . 4 .

- 6) 沖野恵子, 永井尚生<sup>2)</sup>, 中山裕樹<sup>3)</sup>, 八田充子<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 江見充<sup>2)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同老人病研究所分子生物学部門, <sup>3)</sup>神奈川県立癌センター婦人科 ): 子宮頸部扁平上皮癌の放射線療法感受性における遺伝子発現解析. 第56回日本産科婦人科学会, 2004. 4.
- 7) 沖野恵子, 永井尚生<sup>2)</sup>, 中山裕樹<sup>3)</sup>, 八田充子, 土居大祐, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 江見 充, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同第二病院病理部, <sup>3)</sup>神奈川県立がんセンター ): 子宮頸部扁平上皮癌の放射線感受性における遺伝子発現解析. 第56回日本産科婦人科学会総会, 2004. 4.
- 8) 深見武彦, 朝倉啓文, 竹下俊行: 最近10年間の当院における早産例の検討: 経膈超音波による頸管スクリーニング導入前後の相違点. 第4回東京早産研究会, 2004. 5.
- 9) 稲川智子, 深見武彦, 渋井庸子, 三並伸二, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 妊娠中MRVenography (MRV) で下肢深部静脈欠損像を示した3症例の検討. 第107回関東連合地方部会, 2004. 6.
- 10) 深見武彦, 藤江裕美, 斎藤 恵, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 最近経験した臍帯卵膜付着の4例. 第107回関東連合地方部会, 2004. 6.
- 11) 渋井庸子, 藤江裕美, 山田真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 長期IUD留置による骨盤膜炎を発症した2例. 第368回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2004. 7.
- 12) 藤江裕美, 渋井庸子, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊婦血液凝固性のscreeningとしての胎盤の超音波観察の意義. 第40回周産期, 新生児学会, 2004. 7.
- 13) 滝沢 馨<sup>1)</sup>, 日野明美<sup>1)</sup>, 吉賀尚子<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>1)</sup>, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科病棟 ): 分娩入室後遷延性徐脈を呈し急速分娩となった1症例. 分娩監視研究会, 2004. 7.
- 14) 深見武彦, 可世木久幸, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行, 波多野久昭<sup>1)</sup>, 山崎輝幸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>飯田市立病院 ): パイポーラシザーによる子宮筋腫核手術後の創部治癒の評価. 第44回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2004. 8.
- 15) 可世木久幸, 深見武彦, 松島 隆, 藤江裕美, 渋井庸子, 朝倉啓文, 竹下俊行: 新しい開創器具の使用経験. 第44回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2004. 8.
- 16) 平原史樹<sup>1)</sup>, 住吉好夫<sup>1)</sup>, 山中美智子<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 鈴木俊二, 前村俊満<sup>2)</sup>, 宮城悦子<sup>1)</sup>, 佐々木繁<sup>2)</sup>, 坂元正一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜市立大学病院産婦人科, <sup>2)</sup>日本産婦人科医会 ): 日本産婦人科医会外表奇形等調査 ( 先天異常モニタリング ) に関する研究. 第31回日本産婦人科医会学術集会, 2004. 9.
- 17) 深見武彦, 渋井庸子, 藤江裕美, 山田真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 中井章人<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科 ): 双胎妊娠における腎葉間動脈速度波形の特徴. 第25回日本妊娠中毒症学会, 2004. 9.
- 18) 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科 ): 母体肝循環動態からみた「妊娠高血圧症候群の定義・分類」. 第44回日本先天異常学会, 2004. 9.
- 19) 沖野恵子, 永井尚生<sup>2)</sup>, 中山裕樹<sup>3)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜, 土居大祐<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 江見 充<sup>2)</sup>, 角田達彦<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同老人病研究所分子生物学部門, <sup>3)</sup>神奈川県立癌センター婦人科, <sup>4)</sup>理化学研究所遺伝子多型センター ): 子宮頸部癌発癌におけるC3G遺伝子の発現異常. 第63回日本癌学会, 2004. 9.
- 20) 安藤紀子, 内田能安, 小川公一, 近藤雅子, 鈴木 真, 鈴木良知, 田口 明, 田中 彰, 萩庭一元, 松島 隆, 高橋亨正, 関 賢一, 中野眞左男, 八十島唯一: 少子化対策「赤ちゃんふれあい体験」事業報告. 第369回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2004. 10.
- 21) 奥田美加<sup>1)</sup>, 高橋恒男<sup>1)</sup>, 遠藤方哉<sup>1)</sup>, 石川浩史<sup>1)</sup>, 長田久文<sup>1)</sup>, 飛鳥井邦雄<sup>1)</sup>, 石川雅彦<sup>1)</sup>, 山中美智子<sup>1)</sup>, 住吉好雄<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 佐々木繁<sup>2)</sup>, 坂元正一<sup>2)</sup>, 平原史樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜市立大学病院産婦人科, <sup>2)</sup>日本産婦人科医会 ): 日本産婦人科医会外表奇形等調査 ( 先天異常モニタリング ) 結果と併せて, 葉酸摂取勧奨の効果と分析

(第3報). 第44回日本先天異常学会, 2004. 10.

- 22) 深見武彦, 三並伸二, 藤江裕美, 渋井庸子, 山田真理子, 石野博嗣, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 早産減少へのストラテジー: 経膈超音波による頸管スクリーニング導入の試み. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 10.
- 23) 藤江裕美, 渋井庸子, 山田真理子, 石野博嗣, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: IUD留置のまま閉経期を通過した3症例の転帰. 第19回日本更年期医学会学術集会, 2004. 10.
- 24) 藤江裕美, 渋井庸子, 山田真理子, 石野博嗣, 三並伸二, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 長期に渡りIUD留置をした3症例の転帰. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術集会, 2004. 10.
- 25) 牛込恵子<sup>1)</sup>, 丸山智美<sup>1)</sup>, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行, 戸谷誠之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>昭和女子大学・大学院生活機構研究科): 肥満子宮筋腫症例の栄養学的研究(第1報). 第26臨床栄養学会, 2004. 10.
- 26) 倉品隆平, 根岸靖幸<sup>1)</sup>, 石野博嗣, 品川寿弥<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>: 子宮筋腫が原因と考えられた両下股深部静脈血栓症に胚血栓塞栓症を合併した1例. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2004. 10.
- 27) 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 越野立夫<sup>1)</sup>, 吉田温子<sup>1)</sup>, 酒井和子<sup>1)</sup>, 山口 暁<sup>1)</sup>, 山口稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科): 妊婦運動は高度会陰裂傷発症を予防するか. 第18回女性スポーツ医学研究会学術集会, 2004. 11.
- 28) 藤江裕美, 松島 隆, 可世木久幸, 石野博嗣, 山田真理子, 小西英喜, 朝倉啓文: 腹腔鏡監視下子宮鏡レーザー手術. 日本医科大学医学会第114回例会, 2004. 11.
- 29) 沖野恵子, 深見武彦, 藤江裕美, 石野博嗣, 山田真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 妊娠中期に診断し得た前置血管の2症例. 第370回日本産婦人科学会神奈川地方部会, 2004. 11.
- 30) 小西英喜, 朝倉啓文, 竹下俊行: 10代における子宮頸部細胞診の異常とその背景. 第13回日本婦人科がん検診学会学術集会, 2004. 11.

## [ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである.

#### (1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている. 身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能変化の評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響予後を広範囲に調査している. また, 産褥期の子宮復古, 母乳栄養の確立に関しても, 興味深い成績をあげつつある.

#### (2) 出生前診断

羊水・絨毛染色体検査, 超音波診断等を中心に検討を行っている.

#### (3) 周産期領域

臨床面では, 妊娠高血圧症候群, 子宮内胎児発育遅延に対し, 超音波断層装置, 生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている. 超音波断層装置による母体腎, 肝臓の観察では, 新たな視点から, 妊娠高血圧症候群に関する有益なデータが集積しつつある. また, 胎児, 新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い, 脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Miyake H, Oya A, Takeshita T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Jikeikai University School of Medicine ): Role of mitochondrial permeability transition in fetal brain damage in rats . Pediatric Neurology 2004 ; 30 ( 4 ): 247-253 .
- 2) Sasaki S : The Japanese trophoblastic disease classification . The Journal of Reproductive Medicine 2004 ; 49 ( 8 ): 637-642 .
- 3) Mita S, Nakai A, Maeda S<sup>1)</sup>, Takeshita T ( <sup>1)</sup> Department of Pathology II ): Prognostic significance of Ki-67 antigen immunostaining ( MIB-1 Monoclonal Antibody ) in ovarian cancer . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ): 384-391 .
- 4) 中井晶子, 川端伊久乃, 國重浩二, 高橋 肇, 大屋敦子, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: 急性腹症をきたした若年性卵巣癌の1例. 日産婦東京会誌 2004 ; 53 ( 2 ): 238-242 .
- 5) 三宅秀彦, 奥田直貴, 高橋 肇, 川端伊久乃, 大屋敦子, 横田明重, 佐々木茂, 中井章人: 当科における前置胎盤症例に対する自己血輸血の現状. 日産婦東京会誌 2004 ; 53 ( 3 ): 424-427 .
- 6) 川端伊久乃, 中井章人, 横田明重, 朝倉啓文, 竹下俊行: 母体肝循環動態からみた妊娠高血圧症候群の定義・分類の妥当性. 妊高誌 2004 ; 12 : 167-168 .
- 7) 奥田直貴, 横田明重, 中井晶子, 川端伊久乃, 國重浩二, 高橋 肇, 谷内良成, 三宅秀彦, 三田俊二, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: 子宮筋腫, 腺筋症手術に対するGnRH-アナログ療法の現況. 日産婦東京会誌 2004 ; 53 ( 4 ): 467-470 .
- 8) 三宅秀彦, 佐々木茂, 横田明重, 越野立夫, 中井章人: 当科における胎児Nuchal Translucency症例の検討. 日産婦東京会誌 2005 ; 54 ( 1 ): 77-80 .

#### (2) 綜説:

- 1) 中井章人: 入局後の研修システムと周産期医療: 産婦人科 ( 特集: 周産期医療スタッフの育成をめぐる ). 周産期医学 2004 ; 34 ( 10 ): 1521-1526 .
- 2) 横田明重, 中井章人: 癒着胎盤の超音波診断 ( 特集: 症例から学ぶ前置胎盤: 前置胎盤における癒着胎盤 1 ). 臨産婦 2004 ; 58 ( 11 ): 1351-1353 .
- 3) 小林由子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 三田俊二, 中井章人, 越野立夫, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>4)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup> 放射線医学, <sup>3)</sup> 産婦人科学, <sup>4)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 疾患概念と画像診断 ( 特集: 良・悪性境界病変の画像診断: 女性骨盤 ). 臨床画像 2004 ; 20 ( 12 ): 1440-1447 .
- 4) 佐々木茂, 飯野孝一<sup>1)</sup>, 北見尚之<sup>1)</sup>, 飯野譲二<sup>1)</sup>, 岸田達朗<sup>1)</sup>, 石割元章<sup>2)</sup>, 片岡久美子<sup>2)</sup>, 小林美砂<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 飯野病院産婦人科, <sup>2)</sup> 同検査科 ): 新しく改良された破水診断キットDI-3204 ( 改良型癌胎児性フィブロネクチン測定試薬 ) による破水の診断. 周産期医学 2005 ; 35 ( 1 ): 137-142 .
- 5) 三宅秀彦, 中井章人: 妊娠中の腎, 泌尿器系機能 ( 特集: 妊娠中の生理・適応と逸脱: 妊婦のプライマリケアのために ). 産婦人科の実際 2005 ; 54 ( 2 ): 247-254 .

### 著書

- 1) 越野立夫, 中井章人: [ 分担 ] II 妊婦とスポーツ: A 妊婦スポーツの歴史的変遷: 妊婦スポーツの歴史的変遷. 妊婦スポーツの安全管理 ( 日本臨床スポーツ医学会学術委員会編 ), 2004 ; pp6-8, 文光堂 .
- 2) 中井章人: [ 分担 ] II 妊婦とスポーツ: B 行うための条件: 実施時間. 妊婦スポーツの安全管理 ( 日本臨床スポーツ医学会学術委員会編 ), 2004 ; pp26-29, 文光堂 .
- 3) 越野立夫, 中井章人: [ 分担 ] II 妊婦とスポーツ: C メディカルチェック: 医療施設. 妊婦スポーツの安全管

- 理 (日本臨床スポーツ医学会学術委員会編), 2004; pp30-35, 文光堂.
- 4) 中井章人: [分担] II 妊婦とスポーツ: C メディカルチェック: スポーツ施設. 妊婦スポーツの安全管理 (日本臨床スポーツ医学会学術委員会編), 2004; pp36-41, 文光堂.
- 5) 中井章人: [分担] II 妊婦とスポーツ: D 母児への影響: 母体への影響. 妊婦スポーツの安全管理 (日本臨床スポーツ医学会学術委員会編), 2004; pp48-59, 文光堂.
- 6) 越野立夫, 中井章人: [分担] III 妊娠の経過: B 妊娠中の母児管理: 日常生活における注意点. 妊婦スポーツの安全管理 (日本臨床スポーツ医学会学術委員会編), 2004; pp101-107, 文光堂.
- 7) 大屋敦子, 中井章人: [分担] III 妊娠の経過: C 妊娠中の異常: 妊娠前半期の異常. 妊婦スポーツの安全管理 (日本臨床スポーツ医学会学術委員会編), 2004; pp108-114, 文光堂.
- 8) 三宅秀彦, 中井章人: [分担] III 妊娠の経過: C 妊娠中の異常: 妊娠後半期の異常. 妊婦スポーツの安全管理 (日本臨床スポーツ医学会学術委員会編), 2004; pp115-122, 文光堂.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 越野立夫: 妊婦スポーツの安全管理基準. 平成16年度日本医科大学医学会定年退職教授記念講演会, 2005. 3.

##### (2) 招待講演:

- 1) Sasaki S: Japanese management of gestational trophoblastic diseases. 14th Annual Scientific Meeting in Obstetrics & Gynecology (Bandung, West Java, Indonesia), 2004. 7.

##### (3) ワークショップ:

- 1) 中井章人: 産科専門医: 研修プログラム. 第40回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2004. 7.

##### (4) 一般講演:

- 1) 三田俊二, 中井章人, 越野立夫, 竹下俊行: 上皮性卵巣癌予後判定における MIB-1 抗体免疫染色の有用性. 第56回日本産科婦人科学会学術講演会, 2004. 4.
- 2) 中井章人, 谷内良成, 大屋敦子, 三宅秀彦, 横田明重, 越野立夫, 竹下俊行: ラット新生仔低酸素脳症発生におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割. 第56回日本産科婦人科学会学術講演会, 2004. 4.
- 3) 三宅秀彦, 奥田直貴, 高橋 肇, 川端伊久乃, 大屋敦子, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: 当科における前置胎盤症例に対する自己血輸血の現状. 第330回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2004. 5.
- 4) 谷内良成, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人: 頸管短縮と炎症マーカーはどちらが早産予知に有益か. 東京早産予防研究会第4回学術集会, 2004. 5.
- 5) 吉田温子<sup>1)</sup>, 酒井和子<sup>1)</sup>, 三宅秀彦, 佐々木茂, 横田明重, 越野立夫, 中井章人<sup>(1)</sup> 多摩永山病院周産期棟): 高度会陰裂傷発生に関するリスク因子の検討. 第22回東京母性衛生学会学術集会, 2004. 5.
- 6) 國重浩二, 三宅秀彦, 三田俊二, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人, 竹下俊行, 山田浩子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 都立墨東病院周産期センター): 漿液性網膜剥離を発症した妊娠中毒症の2例. 第107回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2004. 6.
- 7) 三田俊二, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>(1)</sup> 多摩永山病院病理部): 上皮性卵巣癌における予後因子としての MIB-1 抗体の有用性について. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 8) 國重浩二, 山田浩子, 三宅秀彦, 三田俊二, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人, 中山滋章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院眼科): 漿液性網膜剥離を発症した妊娠中毒症の2例. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 9) 堀川佳津美<sup>1)</sup>, 伊藤淳雄<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 横田明重, 中井章人, 越野立夫<sup>(1)</sup> 多摩永山病院薬剤科): 当院女性診療科における癌化学療法時の薬剤管理指導業務の効率化: 癌化学療法ワークシートの有用性. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 10) 奥田直貴, 横田明重, 中井晶子, 川端伊久乃, 國重浩二, 高橋 肇, 谷内良成, 三宅秀彦, 三田俊二, 佐々木

茂, 越野立夫, 中井章人: 子宮筋腫手術における GnRH-analogue 療法の現況. 第331回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2004. 9.

- 11) 川端伊久乃, 中井章人, 横田明重, 朝倉啓文, 竹下俊行: 母体肝循環動態からみた妊娠高血圧症候群の定義・分類の妥当性. 第25回日本妊娠中毒症学会, 2004. 9.
- 12) 深見武彦, 渋井庸子, 藤江裕美, 山田真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 中井章人, 竹下俊行: 双胎妊娠における腎葉間動脈速度波形の特徴. 第25回日本妊娠中毒症学会, 2004. 9.
- 13) 谷内良成, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 炎症マーカーは早産マーカーとなりうるか?. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2004. 10.
- 14) 奥田直貴, 國重浩二, 三田俊二, 横田明重, 中井章人, 玉井 仁<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): CT スキャンが診断に有効であった産褥子宮内容除去術後子宮穿孔の1例. 日本医科大学医学会第114回例会, 2004. 11.
- 15) 川端伊久乃, 横田明重, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 吉田温子<sup>1)</sup>, 酒井和子<sup>1)</sup>, 山口 暁<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院周産期棟, <sup>2)</sup>山口病院): 妊婦運動は高度会陰裂傷発症を予防するか. 第18回女性スポーツ医学研究会学術集会, 2004. 12.
- 16) 三宅秀彦, 佐々木茂, 横田明重, 越野立夫, 中井章人: 当科における胎児 nuchal translucency 症例の検討. 第332回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2004. 12.
- 17) 奥田直貴, 國重浩二, 三田俊二, 横田明重, 越野立夫, 中井章人, 玉井 仁<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): multidetector-row CT ( MDCT ) が診断に有効であった産褥期子宮穿孔の1例. 第18回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第333回日産婦東京地方部会例会, 2005. 2.

(5) 要望講演:

- 1) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 松島申治<sup>3)</sup>, 山王直子<sup>4)</sup>, 藤井信人<sup>5)</sup>, 中井章人, 富山俊一<sup>6)</sup>, 内藤善哉<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>同呼吸器外科, <sup>4)</sup>同脳神経外科, <sup>5)</sup>同整形外科, <sup>6)</sup>同耳鼻咽喉科, <sup>7)</sup>病理学第2): 臨床に呼応した迅速細胞診断のあり方. 第45回日本臨床細胞学会春期大会, 2004. 7.

## [ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

周産期分野では超音波など画像診断を中心に臨床研究, さらに栄養代謝にかかわる研究を, また生殖内分泌分野では, 不妊症の臨床研究やアンケートによる統計学的研究を, さらに腫瘍学の分野では, 悪性腫瘍における抗癌剤やホルモン剤の効果を病理組織学的手法をもって解析を進めている.

また, 最近では, 深部静脈血栓症の患者が, 産科, 婦人科を問わず増加し, その治療法についても検討を行なっている. 千葉北総病院女性診療科・産科は, 臨床的には癌患者の終末医療にも力を入れており, 精神的側面を含めて合併症の解析を行ないつつある.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 山本晃人<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 渡辺美千明, 石野博嗣<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科): 腹腔鏡が診断・治療に有効であった卵管間質部妊娠の2症例. 日産婦東京会誌 2004; 53(1): 4-9.
- 2) 荻原弘光<sup>1)</sup>, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 米山芳雄<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科): 周産期安全管理への臨床工学的アプローチ: 医療機器の安全な使用を考える 医療安全管理の普及. 周産期医学 2004; 34(4): 539-544.



- 3) 茆原弘光<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子, 大坪保雄<sup>2)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 米山芳雄<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>医療法人へブロン会大宮中央総合病院): 重症妊娠悪阻患者の栄養管理: 甲状腺機能亢進症合併妊娠の1例. 日本産婦人科栄養・代謝研究会誌 2004; 10(1): 73-75.
- 4) 土居大祐<sup>1)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 山口昌子, 川瀬里衣子, 石川温子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>2)</sup>, 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>第二病院女性診療科・産科): 若年性体癌18例の臨床病理学的検討. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2005; 23(2): 131-134.

(2) 症例報告:

- 1) 鴨井青龍, 上杉健哲<sup>1)</sup>, 岸 宏久<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 川瀬里衣子, 渡辺美千明, 河村 堯, 竹下俊行<sup>4)</sup>, 石倉 浩<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>成田赤十字病院産婦人科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院病理部,<sup>4)</sup>同付属病院女性診療科産科,<sup>5)</sup>千葉大学大学院医学研究院病態病理学): 17歳の女性に発症した高カルシウム血症型卵巣小細胞癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2005; 23(2): 179-184.
- 2) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 山口昌子<sup>1)</sup>, 石川温子<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>2)</sup>, 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>第二病院女性診療科・産科): 化学療法が著効した子宮体部原発悪性リンパ腫(diffuse large B-cell lymphoma)の1例 Malignant Lymphoma of the Uterine Body Completely Responded to Chemotherapy. 日本婦人科腫瘍学雑誌 2005; 23(2): 191-195.

著 書

- 1) Kamoi S, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Kawamura T, Takeshita T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>2)</sup>付属病院女性診療科・産科): [分担] Ovarian Endometrioid Adenocarcinoma with Yolk Sac Tumor Component: Case Presentation and Clinicopathological Review of Nine Cases. Treatment of Ovarian Cancer (Bardos, A. P.), 2005; pp211-227, Nova Publishers.
- 2) 明榮重夫<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 渡辺美千明, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科): [共著] 不妊症で問題となる婦人科腫瘍 不妊症における子宮筋腫・子宮腺筋症の腹腔鏡下核出術. 産婦人科の実際, 2004; pp865-872, 金原出版社.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 鴨井青龍, 大秋美治<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子, 里見操緒, 渡辺美千明, 河村 堯, 竹下俊行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>2)</sup>付属病院女性診療科・産科): 子宮体癌におけるホルモン療法の早期生換による効果予知の試み(子宮体癌の集学的治療). 第37回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2004. 11.

(2) ワークショップ:

- 1) 鴨井青龍, 朝倉禎史, 松村好克, 川瀬里衣子, 里見操緒, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科): Epithelioid trophoblastic tumor の病理組織診断について(絨毛性疾患の診断治療についての新知見). 第22回日本絨毛性疾患研究会, 2004. 11.

(3) 一般講演:

- 1) Chihara H<sup>1)</sup>, Sawa R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Obstetrics & Gynecology): Application of an Objective Method of Assessing and Managing Weight Gain During Pregnancy to Determining Optimal Points of Patient Weight Management. Society for Gynecologic Investigation 2005 Annual Meeting (Los Angeles), 2005. 3.
- 2) Chihara H<sup>1)</sup>, Sawa R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Obstetrics & Gynecology): Effect of Lifestyle Intervention on Overweight Peri-menopausal Japanese Women: A preliminary Study. Society for Gynecologic Investigation 2005 Annual Meeting (Los Angeles), 2005. 3.

- 3) Kamoi S, Asakura T, Matsumura Y, Kawasse R, Satomi M, Igarashi K, Watanabe M, Kawamura T, Takeshita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): Mitotic Index versus apoptotic index in biopsies as predictor of response to high dose progestin therapy for endometrial adenocarcinomas. 第57回日本産科婦人科学会学術講演会, 2005. 4.
- 4) 土居大祐<sup>1)</sup>, 松橋智彦, 山本晃人<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 石川温子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 転移性卵巣癌の臨床病理学的検討: 胃癌原発と大腸癌原発の相違点. 第56回日本産科婦人科学会, 2004. 4.
- 5) 荏原弘光<sup>1)</sup>, 村田知昭<sup>1)</sup>, 西田直子<sup>1)</sup>, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 米山芳雄<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>2)</sup>, Gordon GP<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 東京臨海病院産婦人科, <sup>3)</sup> ロマリンダ大学医学部胎児生理学教室): 胎子低血糖が低酸素負荷による脳血流・酸素消費量の変化に与える影響. 第56回日本産科婦人科学会総会, 2004. 4.
- 6) 川瀬里衣子, 鴨井青龍, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 渡辺美千明, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>2)</sup>, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 第二病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院病理部): 脂腺系腫瘍を合併した成熟嚢胞性奇形腫の1例. 第36回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2004. 7.
- 7) 鴨井青龍, 上杉健哲<sup>1)</sup>, 岸 宏久<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 川瀬里衣子, 渡辺美千明, 河村 堯, 竹下俊行<sup>4)</sup>, 石倉 浩<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 成田赤十字病院産婦人科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属千葉北総病院病理部, <sup>4)</sup> 同付属病院女性診療科・産科, <sup>5)</sup> 千葉大学医学研究院病態病理学): Ovarian small cell carcinoma (hypercalcemic type) と考えられた1例. 第36回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2004. 7.
- 8) 渡辺美千明, 明樂重夫<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 石野博嗣<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 腹腔鏡下に診断・治療し得た卵管間質部妊娠の2症例. 第44回日本産科婦人科内視鏡学会, 2004. 8.
- 9) 根岸靖幸<sup>1)</sup>, 品川寿弥<sup>1)</sup>, 石野博嗣<sup>1)</sup>, 吉田有里<sup>1)</sup>, 松橋智彦, 山本晃人<sup>1)</sup>, 中川道子<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 卵巣皮様嚢腫破裂により胸膜炎を併発した1例. 第72回日本医科大学医学総会, 2004. 9.
- 10) 松橋智彦, 阿部 崇<sup>1)</sup>, 明樂重夫<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 当科における存続外妊症 (persistent ectopic pregnancy) 症例の検討. 第49回日本不妊学会, 2004. 9.
- 11) 根岸靖幸<sup>1)</sup>, 品川寿弥<sup>1)</sup>, 石野博嗣<sup>1)</sup>, 吉田有里<sup>1)</sup>, 松橋智彦, 山本晃人<sup>1)</sup>, 中川道子<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 胸膜炎を併発した卵巣皮様嚢腫破裂の1例. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2004. 10.
- 12) 朝倉禎史, 川瀬里衣子, 小木三郎, 里見操緒, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 常位胎盤早期剥離後のDICを契機にTTPを発症し, 血漿交換, 血液透析を施行した1例. 第108回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2004. 10.
- 13) 荏原弘光, 川瀬里衣子, 大坪保雄, 平泉良枝, 根岸靖幸, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行: 更年期肥満女性と正常体格女性における, 栄養摂取量およびエネルギー消費量の検討. 第26回臨床栄養学会総会, 2004. 10.
- 14) 朝倉禎史, 松村好克, 川瀬里衣子, 里見操緒, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 河村 堯: 外科的処置が必要となった付属器炎17例の検討. 日本産科婦人科学会千葉地方部会総会, 2005. 1.

## 14 . 耳鼻咽喉科学講座

[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部外科学、音声言語医学、ならびに嚥下機能に関するものである。研究手法としては、生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物学的方法等を駆使している。

英文・和文論文、学会発表で示されている通り、研究とその結果の提示が積極的に行われている。また、外部の競争的研究費への申請も例年通り積極的に行われ、文部科学省研究費補助金や厚生労働省科学研究費を多く獲得している。

国際的学会や国内の学会への参加と、学会発表も積極的に行われ成果をあげているが、大学間のセミナーについても研究のさらなる発展のために開催している。すでに10年以上になる、3大学セミナー（東京大学、東京慈恵会医科大学、および日本医科大学）や、最近開始した韓国のSeoul National UniversityとのJoiny Meetingによって、研究のさらなる発展が期待される。

平成17年度には、第107回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会・総会を本教室が主催することになっており、これをさらなる発展の足がかりにしたい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Baba S , Fujikura T , Pawankar R , Yagi T : Subjective evaluation of post-tympanoplasty hearing in relation to the pure tone threshold . *Auris Nasus Larynx* 2004 ; 31 ( 4 ): 347-351 .
- 2) Hanprasertpong C , Koizumi Y , Aoyagi M , Kimura M , Yagi T : A head-mountaed visual stimulator for neurotological examination . *Auris Nasus Larynx* 2004 ; 31 ( 4 ): 379-382 .
- 3) Nonaka M , Ogihara N , Pawankar R , Fukumoto A , Sakanushi A , Yagi T : IFN and IL-4 regulate the expression of CC-chemokines ( RANTES, MCP-4, TARC ) by TLR ligands stimulated nasal fibroblasts . *J Allergy Clin Immunol* 2004 ; 115 ( 2 ): S275-S275 .
- 4) Pawankar R , Tomiyama S , Ikezono T , Nonaka M , Jinnouchi K , Yagi T : Interferon- expression in the inner ear of rats following secondary immune reaction in the endolymphaticsac . *Acta Otolaryngol Suppl* 2004 ; 553 : 6-12 .
- 5) Watanabe KI , Hatano G-Y , Fukada N , Kawasaki H , Aoki H , Yagi T : Barin absecc secondary to the middle ear cholesteatoma : a report of two cases . *Auris Nasus Larynx* 2004 ; 31 ( 4 ): 434-437 .
- 6) Ikezono T , Shindo S , Li L , Omori A , Ichinose S , Watanabe A , Kobayashi T , Pawankar R , Yagi T : Identification of a novel Cochlin isoform in the perilymph : insights to Cochlin function and the pathogenesis of DFNA9 . *Biochem Biophys Res Commun* 2004 ; 6 ( 314 ( 2 ) ): 440-446 .
- 7) Nakamizo M , Yokoshima K , Yagi T : Use of free flaps for reconstruction in head and neck sugery : a retrospective study of 182 cases . *Auris Nasus Larynx* 2004 ; 31 : 269-273 .
- 8) Okubo K , Gotoh M , Okuda K : Prevalence of Japanese cedar pollinosis in children aged under 15 years throughout Japan . *Clin Exp All Rev* 2004 ; 4 : 31-34 .

- 9) Passali D , Bellussi L , Hassan HA , Mosges R , Bastaic L , Bernstein JM , Blum A , Gillet P , Brihaye P , Bunnag C , Caye-Thomasen P , Clement PA , Damiani V , Decroocq F , Dermentzopoulos M , Drugh S , Fabra JM , Goldschmidt O , Halpern GM , Harada T , Huizing EH , Jankowski R , Jareoncharsri P , Kalyoncu AF , Kane KJ , Karapantzos I , Keck T , Larsen K , Larsen P , Lapidis T , Lindemann J , Lopatin AS , Marchisio P , Mladina R , Muangsomboon S , Mygind N , Nonaka M , Onerci M , Onorato J , Ozu C , Passali FM , Passali GC , Pawankar R , Pigret D , Rettinger G , Sakakura Y , Simaskos N , Soetjipto D , Sperati G , Takizawa R , Tos M , Tunsuriyawong P , Yagi T , Yamagishi S : Consensus Conference on Nasal Polyposis . *Acta Otorhinolaryngol Ital* 2004 ; 24 ( 2 : 77 ) : 3-61 .
- 10) Pawankar R : Allergic rhinitis and asthma : the link, the new ARIA classification and global approaches to treatment . *Current Opinion in Allergy and Clinical Immunology* 2004 ; 4 ( 1 ) : 1-4 .
- 11) Watanabe KI , Kunitomo M , Yamauchi Y , Kimura M , Masuno S , Aoki H , Yagi T : Subcutaneous emphysema after tonsillectomy . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 2 ) : 111-113 .
- 12) Baba S , Ikezono T , Pawankar R , Yagi T : Congenital malformation of the middle ear with an intact external ear : A review of 38 cases . *ORL* 2004 ; 66 ( 2 ) : 47-49 .
- 13) Nonaka M , Pawankar R , Fukumoto A , Ogihara N , Sakanushi A , Yagi T : Induction of eotaxin production by interleukin-4, interleukin-13 and lipopolysaccharide by nasal fibroblasts . *Clin Exp Allergy* 2004 ; 34 ( 5 ) : 804-811 .
- 14) Pawankar R , Nonaka M , Yamagishi S , Yagi T : Pathophysiologic Mechanisms of chronic rhinosinusitis . *Immunol Allergy Clin N Am* 2004 ; 24 : 75-85 .
- 15) Yokoshima K , Nakamizo M , Ozu C , Fukumoto A , Inai S , Baba S , Yagi T : Significance of preserving the posterior branch of the great auricular nerve in parotidectomy . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 5 ) : 323-327 .
- 16) Nonaka M , Pawankar R , Fukumoto A<sup>1)</sup> , Ogihara N , Sakanushi A , Yagi T ( <sup>1)</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 ) : Induction of eotaxin production by interleukin-4, interleukin-13 and lipopolysaccharide by nasal fibroblasts . *Clin Exp Allergy* 2004 ; 34 : 804-811 .
- 17) Watanabe KI , Inai S , Hess A<sup>1)</sup> , Michel O<sup>1)</sup> , Yagi T ( <sup>1)</sup> Dept. of Otolaryngology, University of Cologne, Germany ) : Acoustic stimulation causes the expression of inducible nitric oxide synthase ( iNOS/NOS II ) in the vestibule of guinea pigs . *Acta Otolaryngologica* 2004 ; Suppl. ( 553 ) : 54-57 .
- 18) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Nonaka M , Ozu C , Yagi T : Mast cells in allergic airway disease and innate immunity . *免疫アレルギー* 2004 ; 22 ( 2/3 ) : 19-21 .
- 19) Okubo K , Gotoh M , Shimada K , Ristu M , Kobayashi M<sup>1)</sup> , Okuda M ( <sup>1)</sup> Nagoya University, School of Medicine ) : Effect of fexofenadine on the quality of life of Japanese cedar pollinosis patients . *Allergology International* 2004 ; 53 : 245-254 .
- 20) Baba S , Fujikura T , Pawankar R , Yagi T : Subjective evaluation of post-tympanoplasty hearing in relation to the pure tone threshold . *Auris Nasus Larynx* 2004 ; 31 ( 4 ) : 347-351 .
- 21) Watanabe KI , Hatano GY , Fukada N<sup>1)</sup> , Aoki H , Yagi T ( <sup>1)</sup> Dept. of Neurosurgery, Shinmatsudo-chuo Hosp. ) : Brain abscess secondary to the middle ear cholesteatoma : A report of two cases . *Auris Nasus Larynx* 2004 ; 31 ( 4 ) : 433-438 .
- 22) Baba S , Ikezono T , Pawankar R , Yagi T : Congenital malformations of the middle ear with an intact external ear : a review of 38 cases . *ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec* 2004 ; 66 ( 2 ) : 74-79 .
- 23) Meltzer EO , Hamilos DL , Hadley JA , Lanza DC , Marple BF , Nicklas RA , Bachert C , Baraniuk J , Baroody FM , Benninger MS , Brook I , Chowdhury BA , Druce HM , Durham S , Ferguson B , Gwaltney JM,

- Kaliner M, Kennedy DW, Lund V, Naclerio R, Pawankar R, Piccirillo JF, Rohane P, Simon R, Slavin RG, Togias A, Wald ER, Zinreich SJ : Rhinosinusitis : establishing definitions for clinical research and patient care . *J Allergy Clin Immunol* 2004 ; 114 ( 61 ) : 155-1212 .
- 24) Meltzer EO , Hamilos DL , Hadley JA , Lanza DC , Marple BF , Nicklas RA , Bachert C , Baraniuk J , Baroody FM , Benninger MS , Brook I , Chowdhury BA , Druce HM , Durham S , Ferguson B , Gwaltney JM J, Kaliner M, Kennedy DW, Lund V, Naclerio R, Pawankar R, Piccirillo JF, Rohane P, Simon R, Slavin RG, Togias A, Wald ER, Zinreich SJ : Rhinosinusitis : Establishing definitions for clinical research and patient care . *Otolaryngol Head Neck Surg* 2004 ; 131 ( 6 ) : S1-S62 .
- 25) Watanabe KI , Inai S , Hess A , Michel O , Yagi T : Acoustic stimulation promotes the expression of inducible nitric oxide synthase in the vestibule of guinea pigs . *Acta Otolaryngol Suppl* 2004 ; 553 : 54-57 .
- 26) Nonaka M , Ogihara N , Pawankar R , Fukumoto A<sup>1)</sup> , Sakanushi A , Yagi T ( <sup>1</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 ) : IFN- and IL-4 regulate the expression of CC-chemokines ( RANTES, MCP-4, TARC ) by TLR ligands stimulated nasal fibroblasts . *Journal of Allergy and Clinical Immunology* 2005 ; 115 ( 2 ) : S275 .
- 27) Okubo K , Gotoh M , Shimada K , Ristu M , Okuda M , Crawford B<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> MAPPI Value ) : Fexofenadine improves the quality of life and work productivity in Japanese patients with seasonal allergic rhinitis during the peak cedar pollinosis season . *Int Arch Allergy Immunol* 2005 ; 136 : 148-154 .
- 28) 長谷川恭子 , 横島一彦 , 中溝宗永 , 島田健一 , 相田瑞恵 , 八木聰明 : 頸部アプローチにて郭清可能であった甲状腺癌の両側咽頭後リンパ節転移例 . *頭頸部外科* 2004 ; 14 ( 3 ) : 287-291 .
- 29) 小泉康雄 , 池園哲郎 , 八木聰明 , 石渡俊行 : 耳介に生じた botryomycosis の 2 症例 . *耳喉頭頸* 2004 ; 76 ( 11 ) : 773-776 .
- 30) 長谷川恭子 , 横島一彦 , 中溝宗永 , 島田健一 , 相田瑞恵 , 八木聰明 : 頸部アプローチにて郭清可能であった甲状腺癌の両側咽頭後リンパ節転移例 . *頭頸部外科* 2004 ; 14 ( 3 ) : 287-291 .
- 31) 野中 学 , Pawankar R , 福元 晃 , 荻原 望 , 酒主敦子 , 八木聰明 : 鼻茸における好酸球浸潤の機序について . *日鼻誌* 2004 ; 43 ( 1 ) : 86-88 .
- 32) 愛野威一郎 , 三枝英人 , 粉川隆行 , 中村 毅 , 新美成二 , 八木聰明 : 慢性乾性咳嗽とその喉頭所見について . *日本気管食道科学会会報* 2004 ; 55 ( 4 ) : 305-311 .
- 33) 奥田 稔 , 大久保公裕 : 塩酸エピナスチンシロップの小児アレルギー性鼻炎における臨床試験 : 第 III 相 2 重盲検比較試験 . *耳鼻臨床* 2004 ; 114 : 1-21 .
- 34) 大久保公裕 , 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法 : スギ花粉症に対して . *アレルギー科* 2004 ; 18 : 263-268 .
- 35) 渡辺健介 , Pawankar R : 鼻副鼻腔領域の好酸球性炎症について . *日鼻誌* 2004 ; 4 ( 43 ( 1 ) ) : 83-85 .
- 36) 野中 学 , Pawankar R , 福元 晃<sup>1)</sup> , 荻原 望 , 酒主敦子 , 八木聰明 ( <sup>1</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 ) : 鼻茸における好酸球浸潤の機序について . *日本鼻科学会誌* 2004 ; 43 ( 1 ) : 86-88 .
- 37) 後藤 穰 : スギ花粉症患者の QOL の変化に対する塩酸フェキソフェナジンの効果 . *鼻アレルギーフロンティア* 2004 ; 4 ( 2 ) : 70-73 .
- 38) 野中 学 , 福元 晃<sup>1)</sup> , 小津千佳 , 空野恵理子<sup>2)</sup> , 馬場俊吉 , Pawankar R , 八木聰明 ( <sup>1</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 , <sup>2)</sup> 博慈会記念病院耳鼻咽喉科 ) : 好酸球性中耳炎の病態 . *Otol Jpn* 2004 ; 14 : 120-123 .
- 39) 横島一彦 , 中溝宗永 , 宮下次廣<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 付属病院放射線科 ) : 咽頭後リンパ節転移の治療指針 術後再発の治療 . *耳喉頭頸* 2004 ; 76 ( 7 ) : 438-442 .
- 40) 大久保公裕 : 小児期アレルギー性鼻炎 ( 花粉症 ) の長期予後 . *アレルギー・免疫* 2004 ; 11 : 72-77 .
- 41) 三枝英人 : 胃液逆流に関連する解剖 : その発生解剖学的背景について . *JOHNS* 2004 ; 20 ( 7 ) : 931-936 .
- 42) 愛野威一郎 , 三枝英人 , 粉川隆行 , 中村 毅 , 八木聰明 , 新美成二<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 国際医療福祉大学言語聴覚学科 ) : 慢

性乾性咳嗽とその喉頭所見について．日本気管食道科学会会報 2004；55(4): 305-311．

- 43) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰, 石田祐子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臨床アレルギー研究所): スギ花粉症の治療と患者満足度への影響．アレルギー 2004；53: 596-600．
- 44) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰: 耳鼻咽喉科医は花粉症の専門医か．アレルギー 2004；53: 1144-1151．
- 45) 野中 学, 福元 晃<sup>1)</sup>, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明(<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科): 上気道と下気道の線維芽細胞の TGF- $\beta$ 1 に対する反応性の違い: SMAD 分子について．耳鼻免疫アレルギー 2004；22(2): 14-15．
- 46) 福元 晃<sup>1)</sup>, 野中 学, 荻原 望, Pawankar R, 酒主敦子, 八木聰明(<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科): 鼻茸線維芽細胞からの TARC 産生．耳鼻免疫アレルギー 2004；22(2): 80-81．
- 47) 酒主敦子, 野中 学, 福元 晃<sup>1)</sup>, 荻原 望, Pawankar R, 八木聰明(<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科): Montelukast が有効であった慢性副鼻腔炎の1症例．耳鼻免疫アレルギー 2004；22(2): 160-161．
- 48) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰: アレルギー性鼻炎患者満足度調査票の開発．アレルギー 2004；53: 1195-1202．
- 49) 高橋優二, 寺門万里子, 山野辺滋晴, 池園哲郎, 山本典生, 高橋春雄: プタ内耳抗原を用いた内耳特異的自己抗体の検索: 内耳自己免疫疾患が疑われた3症例．免疫アレルギー 2004；22(4): 25-29．
- 50) 池園哲郎: 内耳プロテオーム解析と COCH 遺伝子アイソフォーム: 基礎研究の臨床応用をめざして．耳喉頭頸 2004；76(12): 838-849．
- 51) 野中 学, 福元 晃, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明: 鼻副鼻腔と下気道疾患における線維芽細胞と特性と関連性．アレルギー-科 2004；19(3): 275-280．
- 52) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰: アレルギー性鼻炎患者満足度新調査票の臨床的妥当性．アレルギー 2005；54: 12-17．
- 53) 大久保公裕, 岡本美孝<sup>1)</sup>, 増山敬祐<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉大, <sup>2)</sup>山梨大): 季節性鼻アレルギー患者に対する塩酸フェキソフェナジンとプロピオン酸フルチカゾンとの併用療法の検討: QOL 質問票による評価．アレルギー・免疫 2005；12: 96-107．
- 54) 大久保公裕, 永倉俊和<sup>1)</sup>, 白井秀夫<sup>2)</sup>, 八木尚子<sup>2)</sup>, 横森淳二<sup>2)</sup>, 植地泰之<sup>2)</sup>, 永田 傳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>用賀アレルギークリニック, <sup>2)</sup>GSK): 小児花粉症患者におけるプロピオン酸フルチカゾン(小児用フルナーゼ点鼻液25)の有効性, 安全性, 及び鼻炎 QOL の検討．アレルギー・免疫 2005；12: 148-161．
- 55) 八木聰明: 急速眼球運動の解析: ビデオ画像を用いた方法．都医師会雑誌 2005；58(3): 198-202．
- 56) 野中 学, 福元 晃<sup>1)</sup>, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明(<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科): 鼻副鼻腔と下気道疾患における線維芽細胞と特性と関連性．日本鼻科学会誌 2005；44(1): 93-95．
- 57) 三枝英人, 野中康弘, 池園哲郎, 愛野威一郎, 岩崎智治, 粉川隆行, 中村 毅, 八木聰明: 自然発症した披破裂軟骨脱臼症の1例．日耳鼻 2005；108(2): 164-167．

## (2) 綜説:

- 1) Pawankar R, Aida M, Ozu C, Yagi T: Role of Gamma-delta T cells in allergic airway disease．Chest Research Journal 2004；24(2): 28-36．
- 2) Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Nonaka M, Yagi T: Epithelial cells: Mucosal barrier to Immunomodulation．Allergy & Immunology Update 2004；1: 4-10．
- 3) Pawankar R: Clinical significance of Intermittant and Persistent and Rhinitis the New classification for AR．J. Med Res 2005；39(2): 18-22．
- 4) Pawankar R: 第18回 ICACI World Allergy Organization Congress Highlights．Allergy From the Nose to the Lung 2004；2: 20-27．
- 5) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎と非アレルギー性鼻炎をめぐって: 総論．アレルギー・免疫 2004；11: 9-12．

- 6) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の症状と重症度，QOL．耳喉頭頸 2004；76：7-13．
- 7) 三枝英人：音声外科手術．耳喉頭頸 2004；76(7)：487-492．
- 8) 後藤 穰：血管運動性鼻炎．アレルギー・免疫 2004；11(7)：37-41．
- 9) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する免疫療法：経鼻，経口および舌下投与の有用性．小児科 2004；45：2185-2190．
- 10) 後藤 穰，大久保公裕：アレルギー特異的・非特異的免疫療法の現状と将来の展望．診断と治療 2004；92(8)：1366-1369．
- 11) 大久保公裕：くしゃみ，鼻搔痒感の治療．JOHNS 2004；20：1529-1531．
- 12) 後藤 穰：アレルギー相談室 マスクは有効か？．アレルギーの臨床 2004；24(9)：96-96．
- 13) 稲垣京子：日本医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 施設紹介．日本平衡機能検査技術者会誌 2004；24：66-72．
- 14) 後藤 穰，大久保公裕：アレルギー特異的・非特異的免疫療法の現状と将来の展望．診断と治療 2004；92：1366-1369．
- 15) 大久保公裕：プロピオン酸フルチカゾン．臨床と薬物 2004；23：315-316．
- 16) 大久保公裕：鼻アレルギー診療ガイドライン2002年版の特徴とその利用．今月の治療 2004；12：1259-1264．
- 17) 後藤 穰，大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法 スギ花粉症に対して．アレルギー科 2004；18(3)：263-268．
- 18) 馬場俊吉：チャートでみる耳鼻咽喉科診療：耳鳴の治療．JOHNS 2004；20(10)：1505-1508．
- 19) 三枝英人：嚥下障害の取り扱い．総合臨床 2004；53(11)：2953-2964．
- 20) 後藤 穰，大久保公裕：通年性アレルギー性鼻炎のQOL評価．アレルギーの臨床 2004；24(11)：26-29．
- 21) 大久保公裕，後藤 穰：気道アレルギーへの免疫療法と代替免疫療法．Progress in Medicine 2004；24：3183-3186．
- 22) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎．Progress in Medicine 2004；24(12)：13-16．
- 23) 後藤 穰：ロイコトリエン受容体拮抗薬の適応．今月の治療 2004；12(12)：63-66．
- 24) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の重症度と病型に応じた薬物療法．アレルギーの臨床 2005；25：100-105．
- 25) Pawankar R, Bousquet J, 斉藤博久, 太田 健, 足立 満：喘息とアレルギー性鼻炎を合併する患者の管理：その実際と課題．Allergy From the Nose to the Lung 2005；2：3-11．
- 26) 大久保公裕：花粉症の診療とQOL．都耳鼻会報 2005；116：49-51．
- 27) 池園哲郎：Bell麻痺とRamsay Hunt症候群．耳喉頭頸 2005；77(1)：29-33．
- 28) Pawankar R：アレルギー性鼻炎と喘息の関連性；疫学から治療まで．PROGRESS IN MEDICINE 2005；25(3)：233-244．
- (3) 症例報告：
- 1) Nakamizo M, Yokoshima K, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital): Malignant fibrous histiocytoma of the hypopharynx : A case report of in a young adult . J Nippon Med Sch 2004；71(4)：301-304．
- 2) Gotoh M, Okubo K<sup>1)</sup> : Sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis . Allergology International 2005；54(1)：167-171．
- 3) 中村 毅，三枝英人，粉川隆行，愛野威一郎，岩崎智治，八木聰明：六君子湯が有効であった非特異的喉頭肉芽腫の3症例．耳咽喉頭頸 2004；76(10)：727-731．
- 4) 三枝英人，野中康弘<sup>1)</sup>，池園哲郎，愛野威一郎，岩崎智治，粉川隆行<sup>2)</sup>，中村 毅<sup>2)</sup>，八木聰明(<sup>1)</sup>野中耳鼻咽喉科医院，<sup>2)</sup>北村山公立病院耳鼻咽喉科)：自然発症した披裂軟骨脱臼症の1例．日耳鼻 2005；108：164-167．

- 5) 三枝英人, 中溝宗永, 松岡智治, 愛野威一郎, 粉川隆行, 中村 毅, 小町太郎, 吉田知之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科大学耳鼻咽喉科): PPI 長期内服により消失した難治性声帯白板症の1例. 耳鼻と臨床 2005 ; 51 ( 2 ): 144-148 .
- (4) 翻訳:
- 1) 後藤 穰: 花粉由来の脂質メディエーターによるヒト末梢血好酸球の遊走と活性化. 鼻アレルギーフロンティア 2005 ; 5 ( 1 ): 32-33 .

## 著 書

- 1) Pawankar R, Nonaka M, Yamagishi S, Yagi T : [ 分担 ] Pathophysiologic mechanisms of chronic rhinosinusitis . Pathophysiologic mechanisms of chronic rhinosinusitis , 2004 ; pp75-85 , North Am Clinics of Allergy & Immunology .
- 2) Pawankar R : [ 自著 ] Allergic rhinitis . From Cause to Control. Handbook for physicians ( for Bangladesh ) , 2004 ; pp1-34 , BeMedico .
- 3) Pawankar R : [ 分担 ] Emerging therapies for AR and asthma : Anti-IgE. Update in Allergy & Immunology . Emerging therapies for AR and asthma : Anti-IgE. Update in Allergy & Immunology. ( ed V. Shah & A Das ) , 2004 ; pp15-23 , Mrittika International .
- 4) Pawankar R : [ 分担 ] Indication and safety of immunotherapy in rhinitis and asthma . Allergy Review Series 2 , 2004 ; pp10-21 , Creative Internationa .
- 5) Pawankar R : [ 分担 ] How do we diagnose and manage allergic diseases . Femina , 2004 ; pp16-20 , Health Care .
- 6) Pawankar R : [ 分担 ] Triggers and mechanisms of chronic rhinosinusitis . Triggers and mechanisms of chronic rhinosinusitis , 2005 ; pp15-25 , Hand book for postgraduates .
- 7) Pawankar R : [ 分担 ] Definition and classification of Rhinosinusitis . Hand book for postgraduates , 2005 ; pp8-14 , Int Medical Publishers .
- 8) Pawankar R : [ 自著 ] Aeroallergens in Asia . Aeroallergens in Asia , 2005 ; pp22-30 , International Med Publishers .
- 9) Pawankar R : [ 自著 ] Allergic rhinitis . Allergic rhinitis : practical guidelines to diagnosis and assessment of disease severity and prognosis Handbook for clinicians , 2005 ; Creative Internationa .
- 10) Ruby P, 相田瑞恵, 小津千佳: [ 分担 ] 鼻汁中の肥満細胞, 好塩基球, 好酸球および好中球. 小児のアレルギー性鼻炎, 2004 ; pp93-105 , 現代医療社 .
- 11) 三枝英人, 岩崎智治, 愛野威一郎: [ 翻訳 ] GERD ( 胃食道逆流症 ) による喉頭炎とその周辺 . GERD ( 胃食道逆流症 ) による喉頭炎とその周辺, 2004 ; pp1-132 , インテルナ出版 .
- 12) 馬場俊吉: [ 監修 ] Approach Series '05 . Approach Series '05 耳鼻咽喉科, 2004 ; pp1-176 , 医学評論社 .
- 13) 馬場俊吉: [ 分担 ] 再現医師国家試験問題解説 一般/臨床編 98th, 2004 ; 医学評論社 .
- 14) 池園哲郎: [ 分担 ] 慢性中耳炎. 最新版 家庭医学大全科 ( 高久文磨 他 ) , 2004 ; pp1644-1645 , 法研 .
- 15) 池園哲郎: [ 分担 ] 真珠種性中耳炎. 最新版 家庭医学大全科 ( 高久文磨 他 ) , 2004 ; pp1645-1647 , 法研 .
- 16) 池園哲郎: [ 分担 ] 耳硬化症. 最新版 家庭医学大全科 ( 高久文磨 他 ) , 2004 ; pp1647-1648 , 法研 .
- 17) 池園哲郎: [ 分担 ] 中耳奇形. 最新版 家庭医学大全科 ( 高久文磨他 ) , 2004 ; pp1648-1649 , 法研 .
- 18) 池園哲郎: [ 分担 ] 側頭骨骨折. 最新版 家庭医学大全科 ( 高久文磨 他 ) , 2004 ; pp1648-1650 , 法研 .
- 19) 池園哲郎: [ 分担 ] 中耳腫瘍. 最新版 家庭医学大全科 ( 高久文磨 他 ) , 2004 ; pp1650-1651 , 法研 .
- 20) 池園哲郎: [ 分担 ] 外リンパ瘻の診断. 耳鼻咽喉科診療プラクティス13 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の外傷と異物 ( 岸本誠司編 ) , 2004 ; pp85-87 , 文光堂 .
- 21) 野中 学: [ 分担 ] アレルギー性鼻炎. 家庭医学大全科, 2004 ; pp1688-1691 , 法研 .



- 22) 野中 学：〔分担〕急性副鼻腔炎．家庭医学大全科，2004；pp1692-1692，法研．
- 23) 野中 学：〔分担〕慢性副鼻腔炎．家庭医学大全科，2004；pp1692-1693，法研．
- 24) 野中 学：〔分担〕歯性上顎洞炎．家庭医学大全科，2004；pp1693-1694，法研．
- 25) 野中 学：〔分担〕小児副鼻腔炎．家庭医学大全科，2004；pp1694-1695，法研．
- 26) 野中 学：〔分担〕副鼻腔真菌症．家庭医学大全科，2004；pp1695-1696，法研．
- 27) 野中 学：〔分担〕乾酪性上顎洞炎．家庭医学大全科，2004；pp1696-1697，法研．
- 28) 三枝英人：〔分担〕喉頭軟化症．家庭医学大百科，2004；pp1850-1852，法研．
- 29) 三枝英人：〔分担〕喉頭乳頭腫．家庭医学大百科，2004；pp1853-1855，法研．
- 30) 三枝英人：〔分担〕喉頭癌．家庭医学大百科，2004；pp1855-1856，法研．
- 31) 三枝英人：〔分担〕先天性喘鳴．家庭医学大百科，2004；pp1851-1851，法研．
- 32) 三枝英人：〔分担〕無喉頭のリハビリテーション．家庭医学大百科，2004；pp1854-1855，法研．
- 33) 野中 学：〔分担〕鼻茸と好酸球．Johns，2004；pp1771-1775，東京医学社．
- 34) 大久保公裕：〔分担〕アレルギー性鼻炎．2005年今日の治療指針（山口 徹ほか），2005；pp1032-1034，医学書院．
- 35) 野中 学：〔分担〕鼻出血．今日の治療指針，2005；pp1046-1047，医学書院．
- 36) 島田健一：〔翻訳〕アレルギー性鼻炎において鼻ポリープを持つ患者と持たない患者の鼻粘膜の遺伝子発現．鼻アレルギーフロンティア（メディカルレビュー社），2005；pp36-37，メディカルレビュー社．
- 37) 大久保公裕：〔編集〕気になる花粉症，2005；pp4-20，集英社．
- 38) 大久保公裕：〔自著〕的確な花粉症の治療のために，2005；pp1-13，協和企画．
- 39) 野中 学，福元 晃<sup>1)</sup>，Pawankar R，荻原 望，酒主敦子，八木聡明（<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科）：〔分担〕鼻副鼻腔と下気道疾患における線維芽細胞と特性と関連性．アレルギー科，2005；pp275-280，科学評論社．
- 40) 島田健一：〔翻訳〕フルチカゾン点鼻薬による治療は季節性アレルギー性鼻炎の眼症状を有意に改善する．Pharma Medicame（メディカルレビュー社），2005；pp76-77，メディカルレビュー社．
- 41) 三枝英人：〔分担〕反回神経麻痺．家庭医学大百科，2005；pp1852-1853，法研．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Pawankar R：Mucosal defense and allergy of the upper airway：gamma-delta T cells in allergic airway disease．4th International Conference on Tonsils and Mucosal Immunity，2004．4．
- 2) Pawankar R：The link between Rhinitis and Asthma：Role of leukotrienes in the combined airways syndrome．Asia-Pacific Respiratory forum（Shanghai China），2004．4．
- 3) Pawankar R：One Airway Disease：Role of LTRAs．In General Practice（Kuala Lumpur, Malaysia），2004．4．
- 4) Pawankar R：AR and asthma：The way to treat．Singapore Chest Diseases Symposium（Singapore），2004．4．
- 5) Pawankar R：Novel concepts on nasal polyps：pathogenesis to medical treatment．3rd Int CC on Nasal Polyposis（Brussels, Belgium），2004．4．
- 6) Pawankar R：Novel concepts on nasal polyps：pathogenesis to medical treatment．3rd International Consensus Conference on Nasal Polyposis（Brussels, Belgium），2004．4．
- 7) Pawankar R：Eosinophilic nasal polyps and mast cells．ENT Guest Lecture Series（Brussels, Belgium），2004．4．
- 8) Pawankar R，Nonaka M，Takizawa R，Yamagishi S，Ozu C，Yagi T：Low dose long term macrolide therapy in chronic sinusitis with nasal polyps．3rd Int CC on Nasal Polyposis（Belgium），2004．4．
- 9) Pawankar R：Immunomodulation with immunotherapy in Allergic rhinitis and Asthma．10th Rhinology

- Symposium ( Mumbai India ), 2004 . 5 .
- 10) Pawankar R : New therapies for allergic rhinitis . 4th Chest Seminar Series ( New Delhi India ), 2004 . 5 .
  - 11) Pawankar R : Anti-IgE treatment in allergic airway disease . 4th Chest Seminar Series ( New Delhi India ), 2004 . 5 .
  - 12) Pawankar R : Rhinitis and asthma : epidemiology to emerging therapies . Hong Kong Allergic Airway Symposium ( Hong Kong ), 2004 . 7 .
  - 13) Pawankar R : Indications and safety of intranasal corticosteroids in allergic rhinitis and nasal polyps . International Pediatric Respiratory, Allergy and Immunology Congress ( Hong Kong ), 2004 . 7 .
  - 14) Pawankar R : Emerging Therapies in AR and Asthma . Satellite Symposium IPRAIC ( Hong Kong ), 2004 . 7 .
  - 15) Pawankar R : Co-morbidities of AR in Children . Satellite Symposium IPRAIC ( Hong Kong ), 2004 . 7 .
  - 16) Pawankar R : Nasal challenge tests in the diagnosis and prognosis of AR . Chest Seminar Series ( Pune ), 2004 . 8 .
  - 17) Pawankar R : Novel roles of second generation antihistamines in AR . 4th Asia Pacific Allergy Forum ( New Delhi ), 2004 . 9 .
  - 18) Pawankar R : Co-morbidities of Allergic rhinitis ; Asthma, sinusitis to OME . 4th Asia Pacific Allergy Forum ( New Delhi ), 2004 . 9 .
  - 19) Pawankar R : Allergic Rhinitis and asthma : the link . The 6th Asia Pacific Congress of Allergology and Clinical Immunology , 2004 . 10 .
  - 20) Pawankar R : Management of Patients with Co-morbid Asthma and Allergic Rhinitis . Allergic Airway Disease Symposium ( Beijing, China ), 2004 . 12 .
  - 21) Pawankar R : Emerging therapies in Asthma and Allergic Rhinitis . Allergic Airway Disease Symposium ( Shanghai, China ), 2004 . 12 .
  - 22) Pawankar R : LTRAs in Management of Patients with Co-morbid Asthma and Allergic Rhinitis . Allergic Airway Disease Symposium ( Guangzhou, China. ), 2004 . 12 .
  - 23) Pawankar R : Medical management of chronic sinusitis with nasal polyp . 10th Rhinology Seminar Series ( Mumbai ), 2004 . 12 .
  - 24) Pawankar R : Non-allergic rhinitis : Definition and classification to treatment . 10th Rhinology Seminar Series ( Mumbai ), 2004 . 12 .
  - 25) Pawankar R : Immunomodulation by airway epithelial cells . Pune Chest Research Symposium ( Pune ), 2004 . 12 .
  - 26) Pawankar R : Systemic versus oral therapy in AR with co-morbid asthma . Pune Chest Research Symposium ( Pune ), 2004 . 12 .
  - 27) Pawankar R : Objective assessment of AR in clinical practice . Mumbai ENT Association Seminar ( Mumbai ), 2004 . 12 .
  - 28) Pawankar R : Rhinosinusitis, A Consensus Update : What Do We Know and What are the Puzzles? . 61st Annual Meeting of American Academy of Allergy Asthma & Immunology ( San Antonio, USA ), 2005 . 3 .
  - 29) Pawankar R : Mast cells in innate and adaptive immunity . 2nd Clinical Immunology Symposium ( Hyderabad ), 2005 . 8 .
  - 30) Pawankar R : One way, One Disease としての鼻アレルギー . 第9回鼻アレルギー治療研究会 , 2004 . 7 .
  - 31) 三枝英人, 小町太郎, 愛野威一郎, 岩崎智治 : 他院でのバルーン拡張法による嚥下訓練が無効であり, 他の機能訓練により短期間で改善した嚥下障害例 : そのX線透視からの動態学的検討 . 第28回日本嚥下医学会 , 2004 . 2 .
  - 32) 三枝英人 : 頭頸部悪性腫瘍治療後の嚥下障害とそのリハビリテーション . 国際医療福祉大学言語聴覚障害学科

ミニセミナー，2004．7．

- 33) 三枝英人：嚙下障害診療の取り組み．第49回日本音声言語医学会総会，2004．11．
- 34) 三枝英人：胃食道逆流症と咽喉頭症状．第385回小田原医師会学術講演会，2004．11．
- 35) 大久保公裕：抗IgE療法．第31回耳鼻咽喉科アレルギー懇話会，2004．11．
- 36) 馬場俊吉：老人難聴と耳鳴り．第50回「耳の日」記念講演，2005．3．

(2) 招待講演：

- 1) Nonaka M, Pawankar R : Distinct role for nasal fibroblasts in the initiation of the eosinophilic inflammatory response . AR Forum 2004 , 2004 . 8 .
- 2) 三枝英人：如何に正しく披裂軟骨脱臼症を正しく診断するか？．第15回日本気管食道科学会認定医大会，2004．2．
- 3) 横島一彦：最近の頭頸部癌治療．青春会学術講演会，2005．2．

(3) 教育講演：

- 1) Pawankar R : Allergic diseases can be controlled. A need for better understanding of the disease. Allergy Awareness Seminar . 9th ARSR 10th TPAIS ( Mumbai , India ) , 2004 . 11 .
- 2) Pawankar R : Importance of Quality of Life assessment in life style diseases. Allergy Awareness Seminar . 9th ARSR 10th TPAIS . ( Mumbai , India ) , 2004 . 11 .
- 3) Pawankar R : Microarray analysis of gene profile of mast cells . 55th AFMC Post Graduate Symposium ( Pune, India ) , 2004 . 12 .
- 4) Pawankar R : Importance of Patient education for better prognosis in disease management . 55th AFMC Post Graduate Symposium ( Pune, India ) , 2004 . 12 .
- 5) 三枝英人：耳鼻咽喉科医から見た嚙下障害．平成16年度感覚器疾患研修会，2004．11．
- 6) 大久保公裕：免疫療法の現状と展望．第54回日本アレルギー学会総会，2004．11．
- 7) 池園哲郎：めまいと分子生物学：基礎研究のトランスレーション．第62回日本平衡神経科学会総会，2004．11．
- 8) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎の現状とQOL．第23回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2005．3．

(4) シンポジウム：

- 1) Pawankar R , Nonaka M , Takizawa R , Yamagishi S , Ozu C , Yagi T : Novel concepts on nasal polyps : pathogenesis to medical treatment . 3rd International Consensus Conference on Nasal Polyposis ( Belgium, Brussels ) , 2004 . 4 .
- 2) Pawankar R , Nonaka M , Takizawa R , Yamagishi S , Ozu C , Yagi T : Low dose long term macrolide therapy in chronic sinusitis with nasal polyps . 3rd International Consensus Conference on Nasal Polyposis ( Belgium, Brussels ) , 2004 . 4 .
- 3) Pawankar R , Takizawa R , Ozu C , Yagi T : Emerging therapies for Allergic Rhinitis and Asthma . 23rd International Symposium on Allergy & Infection of the Nose ( Istanbul, Turkey ) , 2004 . 6 .
- 4) Pawankar R , Yamagishi S , Nonaka M , Aida M , Taizawa R , Ozu C , Yagi T : Novel Concepts on the Pathogenesis of Nasal Polyps : Pathogenesis to Medical treatment . 23rd International Symposium on Allergy & Infection of the Nose ( Istanbul, Turkey ) , 2004 . 6 .
- 5) Pawankar R , Ozu C , Mori S , Takizawa R , Yamagishi S , Yagi T : Clinical trials of Anti-IgE treatment in allergic rhinitis . 23rd International Symposium on Allergy & Infection of the Nose ( Istanbul, Turkey ) , 2004 . 6 .
- 6) Pawankar R , Ozu C , Nonaka M , Yamagishi S , Yagi T : Co-morbidities of AR in children . 23rd International Symposium on Allergy & Infection of the Nose ( Istanbul, Turkey ) , 2004 . 6 .
- 7) Cho JS , SW K , Pawankar R : Immunotherapy in AR . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Mumbai, India ) , 2004 . 11 .
- 8) Nonaka M , Pawankar R , Fukumoto A , Ogihara N , Sakanushi A , Yagi T : heterogeneous response of

- nasal and lung fibroblasts to TGF- 1 . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Mumbai, India ), 2004 . 11 .
- 9) Pawankar R : ARIA-WHO guidelines for AR treatment . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Mumbai, India ), 2004 . 11 .
- 10) Pawankar R : Intermittant and persistent rhinitis in Japan . First ARIA Asia Pacific Workshop ( Mumbai, India ), 2004 . 11 .
- 11) Pawankar R : Objectives of ARIA in Asia and unmet research needs in AR and asthma . First ARIA Asia Pacific Workshop ( Mumbai, India ), 2004 . 11 .
- 12) Nonaka M , Pawankar R , Fukumoto A<sup>1)</sup>, Ogihara N , Sakanushi A , Yagi T ( <sup>1)</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 ): heterogeneous response of nasal and lung fibroblasts to TGF- 1 . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Mumbai, India ), 2004 . 11 .
- 13) Pawankar R : Criteria for diagnosis and clinical trials for Rhinosinusitis . 2nd Rhinosinusitis Consensus meeting . ( Bethesda, USA ), 2005 . 2 .
- 14) Pawankar R : Rhinosinusitis : What do we know and what are the puzzles . 61st American Academy of Allergy, Asthma & Immunology 60th Annual Meeting ( San Antonio , USA ), 2005 . 3 .
- 15) Pawankar R : Versatile role of Mast Cell in Allergic and Non-Allergic Airway Disease . 第54回日本アレルギー学会総会 , 2004 . 11 .
- 16) Pawankar R : Rhinitis and Asthma the link : Emerging therapies for Rhinitis and Asthma . 第54回日本アレルギー学会総会 , 2004 . 11 .
- 17) 後藤 穰 , 大久保公裕<sup>1)</sup>, 島田健一 , 奥田 稔<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科 , <sup>2)</sup> 日本臨床アレルギー研究所 ): アレルゲン免疫療法のポジショニング : 鼻炎 . 第16回日本アレルギー学会春期臨床大会 , 2004 . 5 .
- 18) 三枝英人 : 非特異的喉頭肉芽腫 . 第20回日本耳鼻咽喉科漢方研究会 , 2004 . 9 .
- 19) 野中 学 , 福元 晃<sup>1)</sup>, Pawankar R , 荻原 望 , 酒主敦子 , 八木聰明 ( <sup>1)</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 ): 鼻副鼻腔と下気道疾患における線維芽細胞の特性と関連性 . 第43回日本鼻科学会総会 , 2004 . 9 .
- 20) 岩崎智治 , 三枝英人 , 愛野威一郎 : ピッチ調節における外喉頭筋の活動と喉頭の空間的位置関係 . 第49回日本音声言語医学会総会 , 2004 . 11 .
- 21) 大久保公裕 : 小児アレルギー性鼻炎の成人への移行 ( 耳鼻科から ) . 第41回日本小児アレルギー学会 , 2004 . 11 .
- 22) 後藤 穰 , 大久保公裕<sup>1)</sup>, 島田健一 , 奥田 稔<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 , <sup>2)</sup> 日本臨床アレルギー研究所 ): アレルゲン特異的免疫療法の現状と問題点 . 第54回日本アレルギー学会総会 , 2004 . 11 .
- (5) パネルディスカッション :
- 1) 三枝英人 , 岩崎智治 , 愛野威一郎 : 自然発症した披裂軟骨脱臼症の症例 . 第27回東日本音声外科研究会 , 2004 . 4 .
- (6) セミナー :
- 1) 大久保公裕 : 花粉症治療におけるQOL調査票の使用法 : cureからcareへ . 第43回日本鼻科学会総会 , 2004 . 9 .
- 2) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOLについて . 第56回日本気管食道科学会総会 , 2004 . 11 .
- 3) 中溝宗永 : 頸部腫瘍の基本手術「頸部郭清術」 . 第15回日本頭頸部外科学会 , 2005 . 1 .
- (7) ワークショップ :
- 1) Pawankar R : Case Studies on Allergic rhinitis and co-morbid Asthma . GP Workshop ( Mumbai, India ), 2004 . 5 .
- 2) Pawankar R : Practical demonstration of Allergen challenge tests and SPTs . Allergy Series Research Workshop ( Mumbai, India ), 2004 . 5 .
- 3) Nonaka M : Nasal cytology . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Mumbai , India ), 2004 . 11 .
- (8) 一般講演 :
- 1) Ikezono T , Shindo S , Li L , Koizumi Y , Hanprasertpong C , Saitoh A , Pawankar R , Omori A<sup>1)</sup>, Ichinose S<sup>1)</sup>,

- Watanabe A<sup>2)</sup>, Kobayashi T<sup>3)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Kagaku Inst. of Life Sciences , <sup>2)</sup> Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Otorhinolaryngology, Tohoku Univ. Graduate School of Medicine ): A Translational Research : Inner Ear Proteomics and its Application to Novel Diagnostic Method . The 10th Japan-Korea joint meeting of Otorhinolaryngology-Head and neck surgery ( Tokyo ), 2004 . 4 .
- 2 ) Ozu C , Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Yagi T : Mechanism of mast cell migration into the allergic nasal epithelium . The 10th Japan-Korea joint meeting of Otorhinolaryngology-Head and neck surgery ( Japan ), 2004 . 4 .
- 3 ) Takizawa R , Pawankar R , Gatalica Z<sup>1)</sup> , Garofalo R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, Univ. of Texas Medical Branch , <sup>2)</sup> Dept. of Pediatrics, Univ. of Texas Medical Branch ): Respiratory Syncytial Virus ( RSV ) infection inhibits lung eosinophilia, but induces profound eosinophil degranulation in allergic mice . 10th Japan-Korea Joint meeting of Otorhinolaryngology Head and Neck surgery ( Tokyo ), 2004 . 4 .
- 4 ) Yokoshima K , Nakamizo M , Ozu C , Fukumoto A , Inai S , Mori S , Yokoyama Y , Baba S , Yagi T : Preservation of the posterior branch of the great auricular nerve in parotidectomy . The 10th Japan-Korea joint meeting of Otorhinolaryngology-Head and neck surgery ( Tokyo ), 2004 . 4 .
- 5 ) Ikezono T , Shindo S , Lishu L , Omori A , Ichinose S , Watanabe A , Kobayashi T , Pawankar R , Yagi T : Identification of a Novel Cochlin Isoform in The Perilymph : Insights to Cochlin Function and the Pathogenesis of DFNA9 ( Hereditary Loss and Vestibular Disorder ) . 23rd Barany Society Meeting ( Paris , France ), 2004 . 7 .
- 6 ) Nakamizo M , Yokoshima K , Yagi T : Use of Free Flaps for Reconstruction in Head and Neck Surgery : A retrospective study of 202 cases . 6th International Conference on Head and Neck Cancer ( Washington DC, USA ), 2004 . 8 .
- 7 ) Nonaka M , Pawankar R : Distinct role for nasal fibroblasts in the initiation of the eosinophilic inflammatory response . AR Forum , 2004 . 8 .
- 8 ) Saigusa H , Kokawa T , Aino I , Iwasaki C , Tanuma K<sup>1)</sup> , Yamashita K<sup>2)</sup> , Saigusa M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学解剖学第2 , <sup>2)</sup> 同解剖学第1 , <sup>3)</sup> Private practice of maxillofacial surgery ): Morphological and physiological studies of protrusive and retrusive movements of the human tongue . 16th IFAA ( Kyoto ), 2004 . 8 .
- 9 ) Yokoshima K , Nakamizo M , Miyashita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology ): Management for retropharyngeal lymph node recurrence of hypopharyngeal cancer after reconstructive surgery with free flap . 6th International Conference on Head and Neck Cancer ( USA ), 2004 . 8 .
- 10 ) Ikezono T , Shindo S , Li L , Hanprasertpong C , Pawankar R , Omori A , Ichinose S , Watanabe A , Kobayashi T , Yagi T : Proteomic Analysis Identified Cochlin Isoforms In The Inner Ear And Perilymph . The Molecular Biology of Hearing and Deafness ( Bethesda MD, USA ), 2004 . 9 .
- 11 ) Watanabe KI , Inai S , Nakamura T , Baba S , Yagi T : Acoustic stimulation promotes the fragmentation of DNA in the guinea pigs . 41th Work shop on Inner Ear Biology ( Debrecen , Hungary ), 2004 . 9 .
- 12 ) Lee KH , Pawankar R , Yamagishi S , Nonaka M , Takizawa R , Ozu C , Aida M , Yagi T : Induction of TARC in nasal epithelial cells and fibroblasts by IL-4/IL-13 and TNF-alpha and its relation to CCR4+ IL-4+ T cells in patients with allergic rhinitis . 9th Asian Research symposium in Rhinology ( Mumbai , India ), 2004 . 11 .
- 13 ) Ozu C , Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Yagi T : Regulation of mast cell migration into the allergic nasal epithelium by RANTES and not SCF . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( India ), 2004 . 11 .
- 14 ) Takizawa R , Pawankar R , Garofalo R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pediatrics, Univ. of Texas Medical Branch ): Respiratory Syncytial Virus ( RSV ) infection inhibits lung eosinophilia, but induces profound eosinophil degranulation in allergic mice . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Mumbai, India ), 2004 . 11 .

- 15) Yamagishi S , Pawankar R , Takizawa R , Nonaka M , Ohnishi M : Nasal epithelial cells express the FceR1 : IL-4-induced upregulation of the FceR1 and IL-6 production . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Mumbai , India ) , 2004 . 11 .
- 16) Saigusa H , Aino I , Tanuma K<sup>1)</sup> , Kanazawa E<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学解剖学第2 , <sup>2)</sup> 日本大学松戸歯学部解剖 ) : Pathological study for the mechanism of the LCA-pull surgery . 4th East Asian Meeting of Phonosurgery ( Kyoto ) , 2004 . 12 .
- 17) Nonaka M , Ogihara N , Pawankar R , Fukumoto A , Sakanushi A , Yagi T : IFN gamma and IL-4 regulate the expression of CC-chemokines ( RANTES, MCP-4, TARC ) by TLR ligands stimulated nasal fibroblasts . 61st American Academy of Allergy, Asthma & Immunology 60th Annual Meeting ( San Antonio , USA ) , 2005 . 3 .
- 18) Nonaka M , Nozomu O , Pawankar R , Fukumoto A<sup>1)</sup> , Sakanushi A , Yagi T ( <sup>1)</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 ) : IFN- and IL-4 regulate the expression of CC-chemokines ( RANTES, MCP-4, TARC ) by TLR ligands stimulated nasal fibroblasts . 61st American Academy of Allergy, Asthma and Immunology ( San Antonio ( Texas ) ) , 2005 . 3 .
- 19) Pawankar R , Mori S , Ozu C , Takizawa R , Yamagishi S , Nonaka M : Differential expression of MMP-2and9in the allergic nasal mucosa and nasal polyps . 第54回日本アレルギー学会総会 , 2004 . 11 .
- 20) 三枝英人 , 小町太郎 , 愛野威一郎 , 松岡智治 : 喉頭痙攣と思われる吸気性呼吸困難 , 喘鳴を繰り返す患者の喉頭所見 . 第17回日本喉頭科学会総会 , 2004 . 3 .
- 21) 三枝英人 , 田沼久美子<sup>1)</sup> , 田沼 裕<sup>2)</sup> , 浅川光夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学解剖学第2 , <sup>2)</sup> 帝京大学解剖 ) : 反回神経の逆行性神経線維解析的研究 . 第110回日本解剖学会総会 , 2004 . 3 .
- 22) 小町太郎 , 三枝英人 , 愛野威一郎 , 松岡智治 : 上部消化管内視鏡検査後に反回神経麻痺を来した1例 . 第17回日本喉頭科学会総会 , 2004 . 3 .
- 23) 三枝英人 , 岩崎智治 , 中村 毅 , 愛野威一郎 : 食道癌術後に生じた重度嚥下障害に対する治療経験 . 第13回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会 , 2004 . 4 .
- 24) 奥田 稔 , 大久保公裕 , 後藤 穰 : スギ花粉粒子の鼻内動態 . 第16回日本アレルギー学会春季臨床大会 , 2004 . 5 .
- 25) 奥田 稔 , 大久保公裕 , 後藤 穰 : スギ花粉症の治療と患者満足度 . 第16回日本アレルギー学会春季臨床大会 , 2004 . 5 .
- 26) 三枝英人 , 中溝宗永 , 岩崎智治 , 愛野威一郎 : PPI内服により消失した難治性声帯白板症の1例 . 第7回胃食道逆流症 ( G0ERD ) と咽喉頭疾患研究会 , 2004 . 5 .
- 27) 酒主敦子 , 野中 学 , 荻原望 , 福元 晃 , Pawankar R , 八木聰明 : 鼻茸中好酸球浸潤に対する Montelukast の効果 . 第105回日本耳鼻咽喉科学会総会 , 2004 . 5 .
- 28) 池園哲郎 , 李 麗淑 , 新藤 晋 , 小泉康雄 , 馬場俊吉 , 齋藤明彦 , 小林俊光 , 八木聰明 : 外リンパ特異的蛋白 Cochlin-tomoprotein ( CTP ) の外リンパ腫診断における有用性 . 第105回日本耳鼻咽喉科学会総会 , 2004 . 5 .
- 29) 酒主敦子 , 野中 学 , 荻原望 , 福元 晃<sup>1)</sup> , Pawankar R , 八木聰明 ( <sup>1)</sup> 東埼玉病院耳鼻咽喉科 ) : 鼻茸中好酸球浸潤に対する Montelukast の効果 . 第105回日本耳鼻咽喉科学会総会 , 2004 . 5 .
- 30) 横島一彦 , 中溝宗永 , 斉藤明彦 , 島田健一 , 相田瑞恵 , 小津千佳 , 稲井俊太 , 酒主敦子 , 粉川隆行 , 八木聰明 : 頭頸部再建手術後のせん妄発症予防法の効果 . 第28回日本頭頸部腫瘍学会 , 2004 . 6 .
- 31) 小津千佳 , 横島一彦 , 中溝宗永 , 大久保公裕 , 八木聰明 , 横山宗伯<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学第1 ) : 長期経過をとった蝶形骨肉腫の1症例 . 第28回頭頸部腫瘍学会 , 2004 . 6 .
- 32) 中溝宗永 , 横島一彦 , 相田瑞恵 , 島田健一 , 斉藤明彦 , 小津千佳 , 稲井俊太 , 粉川隆行 , 八木聰明 : 縦隔気管孔形成手術例の右鎖骨断端と第一肋骨連結の遠隔成績 . 第28回日本頭頸部腫瘍学会 , 2004 . 6 .
- 33) 中溝宗永 , 横島一彦 , 相田瑞恵 , 島田健一 , 斉藤明彦 , 小津千佳 , 稲井俊太 , 酒主敦子 , 粉川隆行 , 八木聰

- 明：縦隔気管孔形成手術例の右鎖骨断端と第1肋骨連結の遠隔成績．第28回日本頭頸部腫瘍学会，2004．6．
- 34) 横山有希子，森 幸子，福元 晃，愛野威一郎，後藤 穰，馬場俊吉，小松崎篤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神経耳科学研究所)：中頭蓋窩法で聴力保存術を施行した症例：術前術後の機能検査を中心に．第65回日耳鼻千葉地方部会，2004．6．
- 35) 前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>，松島伸治<sup>3)</sup>，山王直子<sup>4)</sup>，藤井信人<sup>5)</sup>，中井章人<sup>6)</sup>，富山俊一( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>同呼吸器外科，<sup>4)</sup>同脳神経外科，<sup>5)</sup>同整形外科，<sup>6)</sup>同女性診療科・産科)：臨床に呼応した迅速細胞診断のあり方．第45回日本臨床細胞学会総会(春季大会)，2004．7．
- 36) 山岸茂夫，渡邊健一，山内陽子，木村まき，山口 智，青木秀治：外耳道骨腫の1症例．第129回神奈川県地方部会学術講演会，2004．9．
- 37) 新藤 晋，池園哲郎，八木聰明，田原重志<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学)：ナビゲーションシステムを利用し経蝶形骨洞法による開放術を行った錐体尖コレステリン肉芽腫の1症例．日本耳科学会，2004．10．
- 38) 渡邊健一，稲井俊太，中村 毅，八木聰明：強大音負荷による内耳障害とアポトーシス．第14回日本耳科学会総会，2004．10．
- 39) 富山俊一：実験的自己免疫性迷路炎：COCH遺伝子由来内耳抗原の同定．第14回日本耳科学会，2004．10．
- 40) 愛野威一郎，三枝英人，岩崎智治，中村 毅：ヒト反射性舌運動(特に顎舌反射)の機能生理学的研究．第49回日本音声言語医学会総会，2004．11．
- 41) 小町太郎，三枝英人，岩崎智治，愛野威一郎，中村 毅：陳旧性披裂軟骨脱臼症の治療経験．第56回日本気管食道科学会総会，2004．11．
- 42) 大久保公裕，村山貢司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本気象業務支援センター)：花粉症患者QOL調査における花粉の自動測定．第54回日本アレルギー学会総会，2004．11．
- 43) 滝沢竜太，Pawankar R，Garofalo R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>テキサス大学医学部小児科)：アレルギーマウスの気道好酸球とRSウイルス感染．第54回 日本アレルギー学会総会，2004．11．
- 44) 中澤裕子，三枝英人，劉 愛民<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設)：竹節状声帯の1症例．第49回日本音声言語医学会総会，2004．11．
- 45) 福元 晃，野中 学，Pawankar R，荻原 望，酒主敦子：気道線維芽細胞からのTARC産生．第54回日本アレルギー学会総会，2004．11．
- 46) 野中 学，福元 晃<sup>1)</sup>，Pawankar R，荻原 望，酒主敦子(<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科)：上気道と下気道線維芽細胞のTGF- $\beta$ に対する反応性の違い：SMAD分子について．第54回日本アレルギー学会総会，2004．11．
- 47) 福元 晃<sup>1)</sup>，野中 学，Pawankar R，荻原 望，酒主敦子(<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科)：気道線維芽細胞からのTARC産生．第54回日本アレルギー学会総会，2004．11．
- 48) 三枝英人：舌の前後運動についての形態学的，生理学的研究．第3回臨床音声研究会，2004．12．
- 49) 山口 智，渡邊健一，山岸茂夫，山内陽子，木村まき，青木秀治：低音障害型感音難聴の検討．第130回日本耳鼻咽喉科学会神奈川地方部会，2004．12．
- 50) 横島一彦，中溝宗永，島田健一，小津千佳，相田瑞恵，稲井俊太，酒主敦子，粉川隆行，八木聰明：頸部既手術症例における遊離組織移植術の検討．第15回日本頭頸部外科学会，2005．1．
- 51) 長谷川恭子，横島一彦，中溝宗永，粉川隆行，島田健一，八木聰明：妊娠中に発症した喉頭粘表皮癌の1手術症例．第15回日本頭頸部外科学会，2005．1．
- 52) 長谷川恭子，横島一彦，島田健一，後藤 穰，横山有希子，松田 帆，馬場俊吉：妊娠中に発症した喉頭粘表皮癌の1手術症例．日耳鼻千葉地方部会，2005．1．
- 53) 酒主敦子，野中 学，荻原望，福元 晃<sup>1)</sup>，Pawankar R，八木聰明(<sup>1)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科)：好酸球性副鼻腔炎に対するモンテルカスト内服とプロピオン酸フルチカゾン点鼻の併用効果．第23回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2005．3．
- 54) 島田健一，後藤 穰，大久保公裕：スギ花粉症患者に対する抗原誘発反応における神経ペプチドの関与．日本

耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2005．3．

- 55) 松田 帆：アブミ骨直達外傷症例：Cochlin 蛋白検出法を補助診断に用いて．日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会例会第165回学術講演会，2005．3．
- 56) 富山俊一，豊田雅基，長良川雅容，島田健一，渡邊健一，野中 学，斎藤明彦，萩原 望，国友万由美：長期観察した内耳自己免疫病の治療経験．第24回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2005．3．



## 15．泌尿器科学講座

### [ 付属病院泌尿器科 ]

#### 研究概要

##### 臨床研究

1. 従来開腹で行っていた手術の全てを腹腔鏡下手術で行っている．特に，前立腺癌全摘の腹腔鏡下手術は本邦で先端をいっており，開腹術と比較した検討を行っている．
2. 前立腺癌診断においては，前立腺特異抗原（PSA）およびその関連パラメーターによる早期前立腺癌と良性疾患との血清学的鑑別診断に関する研究のみならず，超音波パワードブラ法，超音波 Fusion 3D 法等の先端画像解析技術を用いた研究を行っている．
3. 前立腺全摘除術から得られた前立腺の全割全包埋標本を作製し，領域別癌の好発部位，進展形式を解析し臨床応用している．
4. 局所進行性前立腺癌に対しては，術前ホルモン化学療法を行い，根治の可能性を模索している．
5. 膀胱癌，上部尿路腫瘍，腎癌の治療においては，特に，quality of life (QOL) を重視し，最先端技術を駆使し臓器温存を行っている．

浸潤性膀胱癌に対しては，抗癌剤の動注化学療法や，さらに，放射線医学講座隅崎教授との共同研究として行っている「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」により膀胱温存を試みている．

小径腎細胞癌に対しては，腹腔鏡下腎部分切除術により，低侵襲に腎温存を行っている．

6. perfusion CT を世界に先駆け腎癌組織型の術前鑑別診断に対し応用している．
7. 男性学にも力を入れており，勃起機能検査，薬物療法，男性更年期に関する研究を行っている．

##### 基礎研究

1. 癌の「低酸素応答」について，泌尿生殖器腫瘍領域での先駆者的研究．
2. 生体内微量金属メタロチオネインと制癌剤耐性および腎機能保護の研究．
3. 老人病研究所分子生物学部門のご指導のもと，「膀胱癌，前立腺癌における染色体・遺伝子異常の解明」に関する研究．
4. 前立腺炎に対する免疫組織学的研究．

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Nemoto K, Vogt A<sup>1)</sup>, Oguri T<sup>1)</sup>, Lazo J. S. <sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pharmacology, University of Pittsburgh): Activation of the Raf-1/MEK/Erk Kinase Pathway by a Novel Cdc25 Inhibitor in Human Cancer Cells . The Prostate 2004 ; 58 ( 1 ): 95-102 .
- 2) Hashimoto Y, Kondo Y, Kimura G, Matsuzawa I, Sato S, Ishizaki M, Imura N, Akimoto M, Hara S : Cyclooxygenase-2 expression and relationship to tumor progression in human renal cell carcinoma . Histopathology 2004 ; 44 ( 4 ): 353-359 .
- 3) Takahashi R<sup>1)</sup>, Kobayashi C<sup>1)</sup>, Kondo Y, Nakatani Y<sup>1)</sup>, Kudo I<sup>1)</sup>, Kunimoto M<sup>1)</sup>, Imura N<sup>1)</sup>, Hara S (<sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato University ): Subcellular localization and regulation of hypoxia-inducible factor-2 in vascular endothelial cells . Biochem. Bioph. Res. Co 2004 ; 317 ( 1 ): 84-91 .

- 4) Shimizu H , Nishimura T , Kimura G , Matsuzawa I , Kondo Y : Effect of adjuvant transarterial infusion of anticancer agents after transurethral resection in patients with pT2a muscle invasive transitional cell carcinoma of the bladder : Five and ten-year outcome . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 4 ) : 263-269 .
  - 5) Horiuchi K<sup>1)</sup>, Shimizu H , Fujiwara H<sup>1)</sup>, Uchikoba T<sup>1)</sup>, Oka F<sup>1)</sup>, Sato M<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>2)</sup>, Yoshida K , Nishimura T ( <sup>1)</sup>Dept. of Urology, Daini Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Urology, Hokuso Hospital ): High-frequency ( 20MHz ) endoluminal ultrasonography to assess the depth of invasion by superficial bladder tumors . Jpn J Endourol ESWL 2004 ; 17 ( 2 ) : 216-219 .
  - 6) Oka F , Nishimura T , Kimura G , Kondo Y , Tsuboi N , Abe H , Miura T , Takahashi R : Blood loss while resecting each lobe in TUR-P . Jpn. J. Endourol ESWL 2004 ; 17 ( 2 ) : 229-230 .
  - 7) Ohsawa I<sup>1)</sup>, Nishimura T , Kondo Y , Kimura G , Sato M , Matsuzawa I , Hamasaki T , Ohta S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Science ): Detection of urine survivin in 40 patients with bladder cancer . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ) : 379-383 .
  - 8) Hamasaki T , Kondo Y , Matuzawa I , Tsuboi N , Nishimura T : Laparoscopic Partial Nephrectomy Using a Microwave Tissue Coagulator for Treating Small Peripheral Renal Tumors . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ) : 392-398 .
  - 9) Oguri T<sup>1)</sup>, Nemoto K , Bansal P<sup>2)</sup>, Wipf P<sup>2)</sup>, Lazo John. S. <sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Departments of Phamacology and Chemistry, University of Pittsburgh and Nagoya City University, Graduate Shcool of Medical Sciences , <sup>2)</sup>Departments of Pharmacology and chemistry mUniversity of Pittsburgh ): Induction of Cdc25B expression by epidermal growth factor and transforming growth factor- . Biochemical Pharmacology 2004 ; 68 ( 11 ) : 2221-2227 .
  - 10) Horiuchi K<sup>1)</sup>, Shimizu H , Yoshida K , Nishimura T ( <sup>1)</sup>Dept. of Urology, Daini Hospital ): Identification of the layers of the bladder wall on high-frequency endoluminal ultrasonography by a needle puncture experiment . Ultrasound in Med. & Biol 2005 ; 31 ( 3 ) : 307-309 .
  - 11) Horiuchi K<sup>1)</sup>, Shimizu H , Yoshida K , Nishimura T ( <sup>1)</sup>Dept. of Urology, Daini Hospital ): New ultrasonic cystofiberscope for staging bladder tumors . J Endourol 2005 ; 19 ( 2 ) : 130-132 .
  - 12) 近藤幸尋 , 西村泰司 : 膀胱癌を疑う症状と徴候・画像所見 : 疫学 , リスクファクター , 透析患者の膀胱癌 , 薬剤性膀胱癌 . 腎と透析 2004 ; 57 ( 2 ) : 193-198 .
  - 13) 高橋 悟<sup>1)</sup>, 藤村哲也<sup>1)</sup>, 太田信隆<sup>1)</sup>, 西松寛明<sup>1)</sup>, 鈴木和雄<sup>2)</sup>, 近藤幸尋 , 牛山知己<sup>2)</sup>, 久米春喜<sup>1)</sup>, 石川晃<sup>1)</sup>, 富田京一<sup>1)</sup>, 北村唯一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東京大学医学部泌尿器科 , <sup>2)</sup>浜松医科大学医学部泌尿器科 ): 腹腔鏡下根治的前立腺摘除術 : 初期6例の治療成績 . 泌尿器外科 18 ( 3 ) , 257-262, 2005 2005 ; 18 ( 3 ) : 257-262 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 近藤幸尋 : 尿路変更の手術をはじめてするヒトへの注意 . 泌尿器外科 2004 ; 17 ( 2 ) : 87-93 .
  - 2) 近藤幸尋 , 西村泰司 : 膀胱全摘除術 : 女性患者の場合 . 臨床泌尿器科 2004 ; 58 ( 4 ) : 79-84 .
  - 3) 西村泰司 : 日帰り TURP . 臨泌 2004 ; 58 ( 10 ) : 829-831 .
  - 4) 近藤幸尋 , 西村泰司 : 特集 : がん治療の手技としての内視鏡手術の適応と限界 泌尿器科癌に対する内視鏡手術の適応と限界 . 癌と化学療法 2004 ; 31 ( 10 ) : 1501-1505 .
  - 5) 鈴木康友 , 近藤幸尋 , 西村 泰司 : サイクロフォスファミドによる尿路上皮癌 . 泌尿器外科 2004 ; 17 ( 11 ) : 1163-1165 .
- ( 3 ) 研究報告書 :
- 1) Horiuchi K<sup>1)</sup>, Uchikoba T<sup>1)</sup>, Oka F<sup>1)</sup>, Sato M<sup>1)</sup>, Kondo Y , Kimura G , Tsuboi N<sup>2)</sup>, Yoshida K , Nishimura T ( <sup>1)</sup>Dept. of Urology, Daini Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Urology, Hokuso Hospital ): Transitional cell carcinoma of the bladder in four patients on maintenance hemodialysis . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ) : pp408-411 .

(4) 症例報告：

- 1) Saito Y, Kondo Y, Shimizu H, Kunimoto K, Nishimura T (<sup>1</sup>) Dept. of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokusyo Hospital, <sup>4</sup>) Dept. of Neurosurgery, Kitamura Public Hospital): Intracranial metastatic prostate carcinoma presenting as intermittent double vision. UROLOGY 2004; 64 (589): 589e14-589e16.

(5) 臨床統計：

- 1) 根本 勺<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>) 北村山公立病院): 超音波下前立腺生検の臨床的検討. 北村山公立病院雑誌 2004; 9: 35-39.

著書

- 1) 近藤幸尋, 三浦剛史, 西村泰司: [共著] 内尿道切開術. 泌尿器科周術期管理のすべて (荒井陽一・松田公志編), 2004; pp88-92, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 近藤幸尋: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における危険回避と技術向上. 第13回印旛市郡泌尿器懇話会, 2004. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 西村泰司: TUR-P教育のありかた. 第93回日本泌尿器科学会総会, 2004. 4.
- 2) 近藤幸尋: 教育プログラム「ラパロ: 腹腔鏡手術におけるPitfall」: 前立腺手術. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 2004. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) 近藤幸尋, 松沢一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 木全亮二, 鈴木康友, 三浦剛史, 吉田和弘, 西村泰司: ビデオシンポジウム: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における技術向上の工夫. 第42回日本癌治療学会, 2004. 10.

(4) セミナー：

- 1) 木村 剛: 前立腺癌の診断・治療: 前立腺特異抗原 (PSA) の役割. 第63回日本医学放射線学会学術集会, 2004. 4.
- 2) 近藤幸尋: 腹腔鏡下前立腺全摘除術のコツ. 第93回日本泌尿器科学会総会, 2004. 4.

(5) ワークショップ：

- 1) 近藤幸尋: エンドウロロジーワークショップ: 鏡視下前立腺摘除術「内視鏡支援装置 AESOPの有用性」. 第93回日本泌尿器科学会, 2004. 4.
- 2) 塩路 豪, 江面陽一<sup>1)</sup>, 中島敏晶<sup>1)</sup>, 藤原博通, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>) 老人病研究所分子生物学): 前立腺癌の体系的SNP相関解析: PAI2遺伝子多型との関連. 人類遺伝学会第49回大会, 2004. 6.
- 3) 塩路 豪, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江面陽一<sup>1)</sup>, 藤原博通<sup>1)</sup>, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>) 老人病研究所分子生物学): 前立腺癌発症とBRCA2遺伝子多型との関連. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 4) 近藤幸尋: 腹腔鏡下根治的前立腺摘除術. 第7回泌尿器腹腔鏡ワークショップ, 2004. 11.

(6) 一般講演：

- 1) Kimura G, Kimata R, Saito Y, Miura T, Kondo Y, Nishimura T: Clinicopathological Characteristics and Recurrence Rates of Power Doppler Ultrasound Invisible Prostate Cancer in Patients Undergoing Radical Prostatectomy. The 27th Societe Internationale d'Urologie Congress (Honolulu), 2004. 10.
- 2) Kimura G, Hamasaki T, Suzuki Y, Matsuzawa I, Yoshida K, Nishimura T: Validation of Egawa Nomogram for Predicting Biochemical Recurrence of Clinically Localized Prostate Cancer After Radical Prostatectomy. The 27th Societe Internationale d'Urologie Congress (Honolulu), 2004. 10.
- 3) Matsuzawa I, Kondo Y, Hamasaki T, Nishimura T: Learning curve of laparoscopic radical prostatectomy

- (LRP) operation time : the first and second generation surgeons in single institute . The 27th Societe Internationale d'Urologie ( Honolulu, HI, USA ), 2004 . 10 .
- 4) Kondo Y : Utility of extracorporeal traction with nylon thread for easier vesicourethral anastomosis in laparoscopic prostatectomy . The 27th Congress of the Societe Internationale d'Urologie ( Honolulu, HI, USA ), 2004 . 10 .
  - 5) Hosomi T , Kondo Y , Hara S : Characterization of one of splice variants of human hypoxia-inducible factor-3a, HIF-3a2 . 第76回日本生化学会大会 , 2004 . 10 .
  - 6) 木村 剛 , 木全亮二 , 齋藤友香 , 松沢一郎 , 鈴木康友 , 三浦剛史 , 浜崎 務 , 佐藤三洋 , 近藤幸尋 , 吉田和弘 , 西村泰司 : Stage C 前立腺癌に対するシスプラチン動注化学療法を用いた術前補助ホルモン化学療法 : 治療成績と副作用 . 第93回日本泌尿器科学会総会 , 2004 . 4 .
  - 7) 根本 勺<sup>1)</sup> , 松沢一郎<sup>1)</sup> , 清水宏之 , 西村泰司 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院泌尿器科 ): 腎細胞癌が局所再発及び精巣転移も来した Von Hippel-Lindau 病 . 第230回日本泌尿器科学会東北地方会 , 2004 . 4 .
  - 8) 鈴木康友 , 近藤幸尋 , 木全亮二 , 齋藤友香 , 佐藤三洋 , 西村泰司 : 低酸素下におけるホルモン依存性前立腺癌細胞 LNCaP のアンドロゲン応答について . 第93回日本泌尿器科学会総会 , 2004 . 4 .
  - 9) 近藤幸尋 , 松沢一郎 , 濱崎 務 , 三浦剛史 , 鈴木康友 , 木全亮二 , 齋藤友香 , 佐藤三洋 , 木村 剛 , 吉田和弘 , 西村泰司 : 体腔鏡下前立腺全摘除術における dorsal vein complex 結紮の時期とその適応 . 第93回日本泌尿器科学会総会 , 2004 . 4 .
  - 10) 松沢一郎 , 近藤幸尋 , 木村 剛 , 浜崎 務 , 木全亮二 , 富田祐司 , 高橋 亮 , 西村泰司 : 局所浸潤性膀胱腫瘍にたいする動注化学療法 : 膀胱温存を目的として . 第93回日本泌尿器科学会 , 2004 . 4 .
  - 11) 塩路 豪 , 江面陽一<sup>1)</sup> , 中島敏晶<sup>1)</sup> , 藤原博通 , 西村泰司 , 江見 充<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学 ): 前立腺癌発症と PAI2 遺伝子多型との関連 . 第63回日本癌学会 , 2004 . 5 .
  - 12) 間下正明<sup>1)</sup> , 三浦吉晴<sup>1)</sup> , 村上 弘<sup>1)</sup> , 稲葉敦彦<sup>1)</sup> , 安部富士夫<sup>1)</sup> , 新井隆司<sup>2)</sup> , 小俣正子<sup>2)</sup> , 服部智任<sup>2)</sup> , 川村直樹<sup>2)</sup> , 木村 剛 ( <sup>1)</sup>東日本循環器病院臨床工学部 , <sup>2)</sup>東日本循環器病院血液浄化センター ): ロック付きニドールレポートの有用性 . 第49回日本透析医学会総会 , 2004 . 6 .
  - 13) 菅谷友希<sup>1)</sup> , 志和純慈<sup>1)</sup> , 三浦吉晴<sup>1)</sup> , 村上 弘<sup>1)</sup> , 間下正明<sup>1)</sup> , 稲葉敦彦<sup>1)</sup> , 安部富士夫<sup>1)</sup> , 菊地寿人<sup>1)</sup> , 新井隆司<sup>2)</sup> , 小俣正子<sup>2)</sup> , 服部智任<sup>2)</sup> , 川村直樹<sup>2)</sup> , 木村 剛<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>東日本循環器病院臨床工学部 , <sup>2)</sup>同血液浄化センター , <sup>3)</sup>日本医科大学泌尿器科学 ): 当院の血液浄化センターにおけるコンソールの検討 . 第49回日本透析医学会総会 , 2004 . 6 .
  - 14) 近藤幸尋 : 主題「ここまで来た , 頸・胸・腹部鏡視下手術 , その問題点と将来像」泌尿器科領域における鏡視下手術 . 日本医科大学医学会第14回公開「シンポジウム」 , 2004 . 6 .
  - 15) 木村 剛 , 浜崎 務 , 木全亮二 , 松沢一郎 , 近藤幸尋 , 西村泰司 : 日本版ノモグラム ( Egawa table ) は限局性前立腺癌根治術後の PSA failure 予測に有用か? : 多変量解析による検討 . 第69回日本泌尿器科学会東部総会 , 2004 . 9 .
  - 16) 塩路 豪 , 江面陽一<sup>1)</sup> , 中島敏晶<sup>1)</sup> , 藤原博通 , 西村泰司 , 江見 充 : 前立腺癌発症と ITIH3 遺伝子多型との関連 . 第72回日本医科大学医学会総会 , 2004 . 9 .
  - 17) 木村 剛 , 浜崎 務 , 鈴木康友 , 木全亮二 , 松沢一郎 , 近藤幸尋 , 吉田和弘 , 西村泰司 : PSA > 20ng/ml 前立腺癌における根治的前立腺全摘除術後の予後因子 : 移行領域癌 ( TZ 癌 ) 検出の意義 . 第42回日本癌治療学会 , 2004 . 10 .
  - 18) 塩路 豪<sup>1)</sup> , 永井尚生<sup>1)</sup> , 江面陽一<sup>1)</sup> , 藤原博通 , 大垣憲司 , 西村泰司 , 江見 充<sup>1)</sup> : 前立腺癌の体系的 SNP 解析 . 第49回日本人類遺伝学会 , 2004 . 10 .
  - 19) Horii K<sup>1)</sup> , Suzuki Y , Kondo Y , Hara S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Public Health, Kitasato University ): Cross-talk between the androgen receptor and hypoxia-inducible factor signaling in prostate cancer cells . 第76回日本生化学

学会大会，2004．10．

- 20) 松沢一郎<sup>1)</sup>，根本 勺<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘術 第二世代との比較．第83回山形泌尿器科研究会，2004．11．
- 21) 近藤幸尋，松沢一郎，清水宏之，濱崎 務，坪井 成美，西村泰司：周術期合併症からみた腹腔鏡下前立腺全摘除術．第17回日本内視鏡外科学会総会，2004．11．
- 22) 松沢一郎<sup>1)</sup>，近藤幸尋，根本 勺<sup>1)</sup>，木村 剛，浜崎 務，西村泰司(<sup>1)</sup>北村山公立病院泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺摘除術：125例の病理学的検討．第18回日本Endourology and ESWL学会総会，2004．11．
- 23) 近藤幸尋，松沢一郎，濱崎 務，清水宏之，木全亮二，鈴木康友，木村 剛，三浦剛史，吉田和弘，西村泰司：Investigation of perioperative side effect in laparoscopic radical prostatectomy 腹腔鏡下前立腺全摘除術における周術期合併症の検討．第18回日本Endourology and ESWL学会総会，2004．11．
- 24) 高橋 亮：膀胱原発褐色細胞腫の1例．571回日本泌尿器科学会東京地方会，2004．12．

(7) デイバート：

- 1) 松沢一郎<sup>1)</sup>，根本 勺<sup>1)</sup>，浜崎 務，近藤幸尋，木村 剛，西村泰司(<sup>1)</sup>北村山公立病院泌尿器科)：鏡視下前立腺全摘術に於けるバイポーラの有用性．第17回内視鏡外科学会，2004．11．

(8) 展示：

- 1) 塩路 豪，江面陽一<sup>1)</sup>，中島敏晶<sup>1)</sup>，藤原博通，西村泰司，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学)：前立腺癌発症とPAI2遺伝子多型との関連．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．

## [ 第二病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科では尿路生殖器腫瘍をはじめ尿路結石，排尿障害を中心に診療・研究を行っている．

特筆すべきものを以下に示す．

- 1) 浸潤性膀胱癌に対し臨床的には根治的経尿道的腫瘍切除術と骨盤内動脈化学療法を行い，膀胱温存の可能性について検討している．基礎的には表在性膀胱癌の治療・再発予防に用いられる塩酸ピラルピシンの癌細胞内への取り込みの検討より癌と正常組織の内視鏡下鑑別診断に臨床応用している．さらにブタを用いた基礎実験を行い，細径プローブ超音波による膀胱の正常構造を同定し，今までの画像診断では困難であった正確な膀胱癌の深達度診断に応用すると共に，細径プローブ超音波と内視鏡が一体となった超音波膀胱鏡を開発し，臨床応用している．
- 2) 前立腺癌の正診率を高めるために超音波パワードブラ法を採用している．局所進行性前立腺癌に対しては，ネオアジュバント療法としてホルモンと化学療法を併用し根治性の向上を図っている．基礎的には前立腺操作におけるPSA molecular formの変動を解析し悪性と良性の鑑別が可能か否か検討を加えている．
- 3) 排尿障害に対して，神経因性膀胱の場合は薬物療法を中心に治療成績を検討している．前立腺肥大症による場合には，重篤合併症をもつ者に対する永久留置型尿道ステントの有用性を検討するとともに，基礎的には経尿道的切除術の際の出血を調べ臨床面での安全性向上に役立っている．
- 4) 腎結石ならびに尿管結石に対して，体外衝撃波結石破碎術および内視鏡手術による臨床的検討を行っている．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Horiuchi K, Shimizu H<sup>1)</sup>, Fujiwara H<sup>1)</sup>, Uchikoba T, Oka F, Sato M, Tsuboi N<sup>2)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School): High-frequency (20 MHz) endoluminal ultrasonography to assess the depth of invasion by superficial bladder tu-

mors . Jpn J Endourol ESWL 2004 ; 17 : 216-219 .

- 2) Oka F , Nishimura T<sup>1)</sup> , Kimura G<sup>1)</sup> , Kondo Y<sup>1)</sup> , Tsuboi N<sup>2)</sup> , Abe H<sup>1)</sup> , Miura T<sup>2)</sup> , Takahashi R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): Blood loss while resecting each lobe in TURP . JpnJof Endourology and ESWL 2004 ; 17 ( 2 ): 229-230 .
- 3) Horiuchi K , Shimizu H<sup>1)</sup> , Yoshida K<sup>1)</sup> , Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital ): Identification of the layers of the bladder wall on high-frequency endoluminal ultrasonography by a needle puncture experiment . Ultrasound in Med & Biol 2005 ; 31 : 307-309 .
- 4) Horiuchi K , Shimizu H<sup>1)</sup> , Yoshida K<sup>1)</sup> , Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital ): New ultrasonic cystofiberscope for staging bladder tumors . J Endourol 2005 ; 19 : 130-132 .
- 5) Uchikoba T , Horiuchi K , Oka F , Satoh M , Tsuboi N<sup>2)</sup> , Ohaki Y<sup>2)</sup> , Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): Diagnosing the location of carcinoma in situ ( CIS ) of the urinary bladder using pirarubicin hydrochloride . Urologia Internationalis 2005 ; 74 ( 3 ): 235-239 .

## (2) 綜説 :

- 1) 堀内和孝 : 最新薬物治療の実際 外来における排尿障害の診断と治療のポイント : 神経因性膀胱 ( 過活動膀胱・低活動膀胱 ) と前立腺肥大症 . CLINIC magazine 2005 ; 32 : 43-47 .

## (3) 症例報告 :

- 1) Horiuchi K , Uchikoba T , Oka F , Sato M , Kondo Y<sup>1)</sup> , Kimura G<sup>1)</sup> , Tsuboi N<sup>2)</sup> , Yoshida K<sup>1)</sup> , Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): Transitional cell carcinoma of the bladder in four patients on maintenance hemodialysis . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 : 408-411 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) 内木場拓史 , 堀内和孝 , 佐藤三洋 , 岡 史篤 , 坪井成美<sup>2)</sup> , 大秋美治<sup>3)</sup> , 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 , <sup>3)</sup> 同病院病理部 ): 膀胱上皮内癌 ( CIS ) の局在診断における pirarubicin hydrochloride ( THP ) の有用性 . 第42回日本癌治療学会総会 , 2004 . 10 .
- 2) 内木場拓史 , 堀内和孝 , 佐藤三洋 , 岡 史篤 , 坪井成美<sup>2)</sup> , 引間規夫<sup>3)</sup> , 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院泌尿器科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 , <sup>3)</sup> 三菱重工大倉山病院 ): 重篤疾患を合併した尿閉患者に対する , 永久留置型尿道ステント ( メモサーム ) の使用経験 . 第18回Endourology . ESWL学会総会 , 2004 . 11 .
- 3) 鈴木洋一<sup>1)</sup> , 水谷 聡<sup>1)</sup> , 渡辺昌則<sup>1)</sup> , 渋谷哲男<sup>1)</sup> , 徳永 昭<sup>1)</sup> , 堀内和孝 , 柳本邦雄<sup>2)</sup> , 松本光司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター , <sup>2)</sup> 同病理部 ): S状結腸 , 膈へ穿通し術前診断に苦渋した膀胱腺癌の1例 . 日本医科大学医学会第115回例会 , 2005 . 2 .
- 4) 鈴木洋一<sup>1)</sup> , 水谷 聡<sup>1)</sup> , 渡辺昌則<sup>1)</sup> , 渋谷哲男<sup>1)</sup> , 堀内和孝 , 柳本邦雄<sup>2)</sup> , 松本光司<sup>2)</sup> , 徳永 昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター , <sup>2)</sup> 同病理部 ): S状結腸 , 膈へ穿通し術前診断が困難であった膀胱腺癌の1例 . 第796回外科集談集 , 2005 . 3 .

## [ 多摩永山病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科は開設して16年になるが研究業績の主なものは、次のようなものである。

前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来2,000例を超えている。本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である。

最近、切除を行わないで生食水を灌流液として使用し、経尿道的に腺腫を剥離し膀胱に脱落させ、これを吸引摘出する経尿道的剥離摘出術を世界に先がけて開発した。この術式を用いたPSAの研究を続けている。

前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術（剥離TURP）は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した。これにより、前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。最近では、早期前立腺癌に対して、輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘除術と最近では腹腔鏡下前立腺全摘除術や鏡視下小切開（2～3横指）前立腺全摘除術を施行してきた。断端陽性例に対しては放射線療法を行っている。最近では手術に代って放射線外照射を行っている。

膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCDDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3～6ヶ月後に腫瘍核出術、腎部分切除術か腎摘出術を行っている。今までの研究では、9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

副腎・腎腫瘍：副腎、腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Homma Y, Akaza H, Okada K, Yokoyama M, Hiraoka Y ( <sup>1)</sup> Department of Urology, University of Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Urology, University of Tsukuba, <sup>3)</sup> Department of Urology, Nihon University, <sup>4)</sup> Department of Urology, Tranomon Hospital): Endocrine therapy with or without radical prostatectomy for T1b-T3N0M0 prostate cancer. International Journal of Urology 2004; 11 (4): 218-224.
- 2) Hiraoka Y, Shimizu Y, Abe H: Radical Perineal Prostatectomy: Development of a New Surgical Technique That Divides the Dorsal Vein Complex. Urol Int 2004; 73 (2): 113-116.
- 3) Shimizu Y, Hiraoka Y, Iwamoto K, Takahashi H, Abe H: Measurement of Residual Adenoma after Transurethral Resection of the Prostate by Transurethral Enucleation Technique. Urol Int 2005; 74 (2): 102-107.

##### (2) 総説：

- 1) 平岡保紀：前立腺肥大による尿閉の原因。日本医事新報 2005; (4221): 112-112.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 平岡保紀, 阿部裕行, 清水有二, 高橋洋文, 岩本和矢, 沼沢和夫, 伊藤 博, 服部智任：根治的会陰式前立腺摘除術：Dorsal vein Complex を切断する新しい手術術式の開発。第92回日本泌尿器科学会総会, 2004. 4.
- 2) 平岡保紀：日常診療における前立腺肥大症及び前立腺癌の見かた・考え方。第72回多摩泌尿器科医会, 2004. 6.
- 3) 平岡保紀：排尿障害と前立腺癌。第76回多摩泌尿器科医会, 2005. 1.

## 16. 眼科学講座

### [ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]

#### 研究概要

2005年度から高橋が講座主任となり、新しい体制となった。従来の白内障手術関連、角膜関連、免疫関連、糖尿病網膜症関連などの研究の他、眼炎症外来の充実に伴う臨床研究が本格化するなど、新しい展開が見られた。超音波白内障手術の酸化ストレスに関する研究、感染性眼内炎予防としてのオゾン水応用に関する研究の継続の他、角膜創傷治癒におけるCOX関連蛋白の機序解明やMMP-12の関連に関する研究が開始された。眼免疫研究では、眼炎症の制御および眼組織移植による視機構再生を目的として、眼の免疫特権を支える眼内免疫抑制性微小環境の維持機構の解明、新しい責任因子の同定、角膜アログラフト移植における骨髄細胞の動態と役割、羊膜移植における免疫応答、羊膜間葉細胞由来神経前駆細胞を用いた網膜再生の試み、ヒト羊膜上皮細胞由来の抗炎症薬の開発の5つの課題で研究が進み、それぞれ成果を報告した。糖尿病関係では、糖尿病網膜症患者の経過をデータマイニング法で解析し、将来の日常診療に役立たせるデータベース構築が開始された。動物実験では、糖尿病モデルラットの血管病変の組織学的検討を始め、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症、未熟児網膜症などの網膜血管新生をきたす疾患の新生血管発生の予防法を開発するためにマウスモデルを用いた研究が展開された。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 追加分原著：

- 1) Hori J, Streilein JW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Schepens Eye Research): Survival in high-risk eyes of epithelium-deprived orthotopic cuneal allografts reconstituted in vitro with syngeneic epithelium. IOVS 2003; 44(2): 658-664.
- 2) Hori J, Ng TF<sup>1)</sup>, Shatos M<sup>1)</sup>, Klassen H<sup>1)</sup>, Streilein JW<sup>1)</sup>, Young MJ<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Schepens Eye Research): Neural progenitor cells lack immunogenicity and resist deconstruction as allografts. STEM CELLS 2003; 21: 405-416.

##### (2) 原著：

- 1) Takahashi H, Fujimoto C, Matsui H, Igarashi T, Shiwa T, Ohara K, Sugita T: Anterior chamber irrigation with an ozonated solution as prophylaxis against infectious endophthalmitis. J Cataract Refract Surg 2004; 30: 1773-1780.
- 2) Goto Y, Ohaki Y, Ibaraki N: A Clinicopathologic Case Report of Inflammatory Pseudotumors Involving the Conjunctiva and Lung. Japanese Journal of Ophthalmology 2004; 48(6): 573-577.
- 3) Shiwa T, Umeno K<sup>1)</sup>, Hara Y<sup>2)</sup>, Yoshitomi F<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>梅野眼科医院, <sup>2)</sup>はなみ眼科医院, <sup>3)</sup>大宰府吉富眼科): Post-cataract surgery endophthalmitis treated with core vitrectomy: A Case Report. J Nippon Med Sch 2004; 71(5): 340-344.
- 4) Kamiya K<sup>1)</sup>, Wang MC, Uchida S<sup>1,2)</sup>, Amano S<sup>1)</sup>, Oshika T<sup>3)</sup>, Sakuragawa N<sup>2)</sup>, Hori J(<sup>1)</sup>University of Tokyo School of Medicine, <sup>2)</sup>Toho University School of Medicine, <sup>3)</sup>University of Tsukuba): Topical application of culture supernatant from human amniotic epithelial cells suppresses inflammatory reactions in cornea. Exp Eye Res 2005; 80(5): 671-679.
- 5) 中元兼二, 安田典子<sup>1)</sup>, 南野麻美<sup>1)</sup>, 福田 匠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院): 正常眼圧緑内障におけるラタノプロストとゲル基剤チモロールの効果比較. 日眼会誌 2004; 108(7): 401-407.
- 6) 水谷由紀夫, 千賀 勤<sup>1)</sup>, 大堀 伸<sup>1)</sup>, 稲垣不二夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本コンタクトレンズ研究所): 円錐角膜に対するコ



ンタクトレンズ処方傾向：ROSE KTM を中心に．日眼会誌 2004；46：190-195．

- 7) 村野奈緒, 志和利彦, 大原國俊：眼内レンズセミナー 209. 2層に分かれた液状後発白内障．あたらしい眼科 2004；21：55-56．
- 8) 郡司桂子, 大原國俊, 志和利彦：硝子体切除術, 網膜前膜剥離, 視神経血管腫の直接レーザー光凝固を行い視機能が温存できた von Hippel Lindau 病の1例．臨眼 2005；59(1)：95-98．
- 9) 田嶋友子, 郡司桂子, 小原澤英彰, 志和利彦, 高橋 浩, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 岡島忠宣<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3)：保存的治療で観察した Klebsiella pneumoniae 眼内炎の1例．眼科臨床医報 2005；99(1)：26-28．
- 10) 鈴木久晴, 堀 純子, 王明聡, 高橋 浩, 新見やよい：水疱性類天疱瘡に眼類天疱瘡と単純ヘルペス性角膜炎を合併した1例．眼紀 2005；56(1)：11-14．
- 11) 山田佑美, 大原國俊, 上玉麻子, 志和利彦, 高橋 浩：シクロホスファミド内服を試みた壊死性強膜炎2例．臨眼 2005；59(3)：345-348．
- 12) 鈴木久晴, 堀 純子, 高橋 浩：難治性強膜炎にシクロスポリン点眼が奏功した1例．眼紀 2005；56：159-162．
- 13) 鈴木久晴, 大原國俊, 志和利彦, 高橋 浩：非接触型スペキュラマイクロスコープによる同一内皮の反復撮影．あたらしい眼科 2005；22：375-377．

### (3) 綜説：

- 1) Takahashi H：Free radical development in phacoemulsification cataract surgery．J Nippon Med Sch 2005；72：4-12．
- 2) 小原澤英彰：VDTによる障害．治療 2004；86：427-432．
- 3) 高橋 浩：PEAにおけるフリーラジカル発生と粘弾性物質の効果．IOL&RS 2004；18：448-449．
- 4) 水谷由紀夫：コンタクトレンズの展望：2004年度版．眼科 2004；46：873-895．
- 5) 高橋 浩：眼アレルギーアップデート．医学のあゆみ 2004；211：1015-1019．
- 6) 高橋 浩：眼球結膜の充血・出血．治療増刊号 2004；86：103-104．
- 7) 高橋 浩：結膜炎, その他眼疾患．治療増刊号 2004；86：283-205．
- 8) 高橋 浩：眼精疲労．治療増刊号 2004；86：424-425．
- 9) 小原澤英彰：メガネの有用性．今月の治療 2004；86：996-999．

### 著 書

- 1) 高橋 浩：〔分担〕結膜炎．外来診察クイックマニュアル(メディカルブレイン編集), 2004；pp294-295, イーホープ社．
- 2) 高橋 浩：〔分担〕アレルギー性結膜炎の薬物治療．外来治療クイックマニュアル(メディカルブレイン編集), 2004；pp296-297, イーホープ社．
- 3) 高橋 浩：〔分担〕角膜炎．外来治療クイックマニュアル(メディカルブレイン編集), 2004；pp296-297, イーホープ社．
- 4) 志和利彦：〔分担〕麦粒腫とサン粒腫．外来診察クイックマニュアル(メディカルブレイン編集), 2004；pp316-317, イーホープ社．
- 5) 堀 純子：〔分担〕術後眼内炎：器具消毒薬の眼毒性．眼科プラクティス1, 2005；pp186-187, 文光堂．

### 学会発表

#### (1) 追加分一般講演：

- 1) Hori J, Ohara K, Fujii H, Takemori T：Characterization of antigen presenting cells in the posterior surface of the cornea and spleen at 6 months after corneal transplantation．ARVO (Florida), 2003．5．

(2) 特別講演 :

- 1) 禰津直久 : IOL マスターの特性を知ろう (Cataract Surgery Update) . 第 19 回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2004 . 6 .
- 2) 高橋 浩 : 粘弾性物質の役割 (角膜内皮は誰が守る !! 機会の役割 , 粘弾性物質の役割 , 術者の役割) . 第 19 回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2004 . 6 .
- 3) 高橋 浩 : 超音波白内障手術とフリーラジカル . 第 72 回日本医科大学医学会総会 , 2004 . 9 .
- 4) 志和利彦 : ロービジョンケアと白内障手術 . 第 58 回日本臨床眼科学会 , 2004 . 11 .
- 5) 志和利彦 : 大学病院における電子カルテ . 第 58 回日本臨床眼科学会 , 2004 . 11 .
- 6) 堀 純子 : 角膜移植の免疫特権-拒絶を回避する角膜組織の開発 . 第 28 回角膜カンファランス , 2005 . 2 .

(3) シンポジウム :

- 1) Hori J , Wang M , Takemori T<sup>1)</sup> , Azuma M<sup>2)</sup> , Yagita H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立感染研免疫 , <sup>2)</sup> 東京医歯大分子免疫 , <sup>3)</sup> 順天大免疫 ) : Role of programmed death 1 and B7-H1 in survival of allogeneic corneal transplants. 12th International Congress of Immunology and J . Wayne Streilein Memorial Symposium ( Montreal ) , 2004 . 7 .
- 2) Hori J , Streilein JW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Schepens Eye Research ) : Immunology of corneal transplantation ( Immune privilege and immunogenicity of individual cellular elements in corneal allografts ) . ICER ( Sydney ) , 2004 . 9 .
- 3) Kitahara Y , Wang MC , Takahashi H , Takemori T , Hori J : Antigen presenting cells : Migration of bone marrow cells into normal corneas and corneal allografts . ICER ( Sydney ) , 2004 . 9 .
- 4) 水谷由紀夫 : コンタクトレンズに関する選択基準安全性からの選択 . 第 47 回コンタクトレンズ学会 , 2004 . 7 .
- 5) 水谷由紀夫 : コンタクトレンズに関する選択基準安全性からの選択 . 第 58 回日本臨床眼科学会 , 2004 . 11 .
- 6) 杉田 達 , 高階雅紀<sup>1)</sup> , 藤田直久<sup>2)</sup> , 佐々木恵子<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪大学麻酔科 , <sup>2)</sup> 京都府立医大臨床検査部 , <sup>3)</sup> カレスアライアンス天使病院看護部 ) : 術後感染予防のための手術器具滅菌洗浄の知識 . 第 58 回日本臨床眼科学会 , 2004 . 11 .
- 7) 堀 純子 : 羊膜移植の現状と未来 ( 羊膜と免疫反応 ) . 第 70 回日本中部眼科学会 , 2004 . 11 .

(4) 一般講演 :

- 1) Goto Y , Tanemoto K , Ibaraki N : Cyclooxygenase-2 inhibitor suppresses the expression of PGE2 stimulated by IL-1b in human lens epithelial cells . Association for Research in Vision and Ophthalmology , 2004 . 4 .
- 2) Hori J , Wang MC , Murano N , Takemori T , Azuma M , Yagita H : PD-1 and PD ligand are necessary for corneal allograft survival . ARVO ( Florida ) , 2004 . 4 .
- 3) Wang MC , Ohara K , Hori J : Immune rejection of allogeneic amniotic epithelium transplanted in the eyes of presensitized recipients . ARVO ( Florida ) , 2004 . 4 .
- 4) Oharazawa H , Igarashi T , Kurai T , Matsui H , Shiwa T , Takahashi H , Ohara K , Shimada K , Oikawa T , Oharazawa H , Igarashi T , Kurai T , Matsui H , Shiwa T , Takahashi H , Ohara K , Shimada K , Oikawa T : Identification of gene expression profiling associated with angiogenesis in human retinal endothelial cells compared with different endothelial cells . ARVO ( Florida ) , 2004 . 4 .
- 5) Murano N , Wang MC , Ohara K , Hori J , Takemori T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立感染研免疫 ) : Murano N , Wang MC , Ohara K , Takemori T , Hori J : Direct confirmation of migration of bone marrow cells into normal and inflamed corneas. ARVO, Florida, 平成 16 年 5 月 1 日 . ARVO ( Florida ) , 2004 . 5 .
- 6) Hori J , Streilein JW<sup>1)</sup> , Hori J , Streilein JW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Schepens Eye Research ) : Immune privilege and immunogenicity of individual cellular elements in corneal allografts . 16 International congress of Eye Research ( Sydney ) , 2004 . 9 .
- 7) 堀 純子 , 王 明聡 , 村野奈緒 , 竹森利忠<sup>1)</sup> , 東みゆき<sup>2)</sup> , 八木田秀雄<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立感染研免疫 , <sup>2)</sup> 東京医歯大分子免疫 , <sup>3)</sup> 順天大免疫 ) : 角膜移植の免疫特権における Programmed Death 1 と B7-H1 および B7-DC の役割 .

第108回日本眼科学会総会, 2004. 4.

- 8) 村野奈緒, 堀 純子, 王 明聡, 大原国俊, 竹森利忠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研免疫): 角膜アログラフトにおける骨髄細胞の関与. 第108回日本眼科学会総会, 2004. 4.
- 9) 王 明聡, 堀 純子, 大原国俊, 吉田 淳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学): ラタノプロスト点眼は前房関連免疫偏位の誘導を阻害しない. 第108回日本眼科学会総会, 2004. 4.
- 10) 北原由紀, 中山滋明: 強膜内陥術後の多局所網膜電図での網膜機能の長期経過. 第108回日本眼科学会総会, 2004. 4.
- 11) 田嶋友子, 郡司桂子, 小原澤英彰, 志和利彦, 高橋 浩: 保存的治療で観察した *Klebsiella pneumoniae* 眼内炎の1例. 第21回関東眼科学会, 2004. 5.
- 12) 鈴木久晴, 大木孝太郎<sup>1)</sup>, 志和利彦, 清水直子<sup>1)</sup>, 戸島佐代子<sup>1)</sup>, 高橋 浩, 高橋圭三<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大木眼科, <sup>2)</sup>浮之城眼科): 角膜内皮細胞浸襲から見た低設定値超音波白内障手術の評価. 第19回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2004. 6.
- 13) 志和利彦, 坂本篤弘<sup>1)</sup>, 鈴木久晴, 高橋 浩(<sup>1)</sup>麻醉科学): スローサージャーと貯留性の高い粘弾性物質はPEAのフリーラジカルを抑制する. 第19回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2004. 6.
- 14) 禰津直久: IOLマスターによる眼内レンズ挿入眼の眼軸長測定と積算眼軸長. 第19回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2004. 6.
- 15) 堀 純子, 王 明聡, 種元桂子, 高橋 浩, 竹森利忠<sup>1)</sup>, 東みゆき<sup>2)</sup>, 八木田秀雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研免疫, <sup>2)</sup>東京医歯大分子免疫, <sup>3)</sup>順天大免疫): 眼免疫特権における Programmed Death 1/B7-H1 経路の役割. 第38回日本炎症学会, 2004. 7.
- 16) 鈴木久晴, 堀 純子, 高橋 浩: 難治性強膜炎にシクロスポリン点眼が奏功した1例. 第38回日本眼炎症学会, 2004. 7.
- 17) 鈴木幸史, 鈴木久晴, 高橋 浩: 再発を繰り返した結膜上皮内癌の1症例. 第737回東京眼科集談会, 2004. 7.
- 18) 廣瀬敦視, 川村邦彦, 上玉麻子, 神元亜希子, 種元桂子, 後藤陽子, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 当院における蛍光眼底撮影時のアナフィラキシーショック対策. 第244回千葉眼科集談会, 2004. 9.
- 19) 幸野敬子<sup>1)</sup>, 土坂寿行<sup>2)</sup>, 前田利根<sup>3)</sup>, 小原澤英彰, 堀 純子(<sup>1)</sup>幸野メディカルクリニック, <sup>2)</sup>土坂眼科医院, <sup>3)</sup>オリンピア眼科病院): フタラルル(商品名ディスオーパ)消毒薬による水疱性角膜症. 第58回日本臨床眼科学会, 2004. 11.
- 20) 村上順子<sup>1)</sup>, 杉田 達(<sup>1)</sup>杉田眼科): オルソケラトロジーレンズ装用後の角膜厚変化について. 第58回日本臨床眼科学会, 2004. 11.
- 21) 鈴木久晴, 大木孝太郎<sup>1)</sup>, 志和利彦, 清水直子<sup>1)</sup>, 戸島佐代子<sup>1)</sup>, 高橋 浩, 高橋圭三<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大木眼科, <sup>2)</sup>浮之城眼科): 低設定値超音波白内障手術における角膜内皮侵襲の術者間比較. 第58回日本臨床眼科学会, 2004. 11.
- 22) 鈴木幸史, 鈴木久晴, 高橋 浩: マイトマイシンCの点眼療法が著効した再発上皮内癌の1症例. 第58回日本臨床眼科学会, 2004. 11.
- 23) 禰津直久: IOLマスターとAモードを用いて計算した水晶体の音速. 第58回日本臨床眼科学会, 2004. 11.
- 24) 堀 純子, 宮下 恵, 高橋 浩, 幸野敬子<sup>1)</sup>, 土坂寿行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>幸野メディカルクリニック, <sup>2)</sup>土坂眼科): フタラルル(商品名ディスオーパ消毒液0.55%)による角膜内皮細胞死. 第58回日本臨床眼科学会, 2004. 11.
- 25) 廣瀬敦視, 川村邦彦, 上玉麻子, 神元亜希子, 種元桂子, 後藤陽子, 茨木信博, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 蛍光眼底撮影時のアナフィラキシーショックに備えたシュミレーション訓練. 第58回日本臨床眼科学会, 2004. 11.
- 26) 杉田 達, 高階雅紀<sup>1)</sup>, 藤田直久<sup>2)</sup>, 佐々木恵子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>大阪大学麻酔, <sup>2)</sup>京都府立医大臨床検査部, <sup>3)</sup>カレスアライアンス天使病院看護部): 術後感染予防のための手術器具滅菌洗浄の知識. 第58回日本臨床眼科学会,

2004 . 11 .

- 27) 赤星隆幸, 国富由紀子<sup>1)</sup>, 正岡桂樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>三井記念病院, <sup>2)</sup>正岡眼科): Phaco Prechop . 第58回日本臨床眼科学会, 2004 . 11 .
- 28) 眞鍋洋一<sup>1)</sup>, 江口秀一郎<sup>2)</sup>, 草野良朗<sup>3)</sup>, 志和利彦, 新見浩司<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>まなべ眼科クリニック, <sup>2)</sup>江口眼科病院, <sup>3)</sup>聖路加国際病院, <sup>4)</sup>新見眼科): ここが変だよ, 電子カルテ! . 第58回日本臨床眼科学会, 2004 . 11 .
- 29) 松井洋法, 小原澤英彰, 志和利彦, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐々木義広<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第1): 白内障手術後に混濁をきたした含水性アクリル眼内レンズの電子顕微鏡観察 . 第36回日本電子顕微鏡学会総会, 2004 . 11 .
- 30) 松井洋法, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 石崎正道<sup>2)</sup>, 小原澤英彰, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第1): 正常ラット網膜毛細血管の超微構造の形態学的観察: 血管細胞間結合様式 . 第36回臨床電子顕微鏡学会, 2004 . 11 .
- 31) 堀 純子, 王 明聡, 宮下 恵, 種元桂子, 高橋 浩, 竹森利忠<sup>1)</sup>, 八木田秀雄<sup>2)</sup>, 東みゆき<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研免疫, <sup>2)</sup>順天大免疫, <sup>3)</sup>東京医歯大分子免疫): 角膜アログラフトの免疫特権におけるProgrammed Death 1/B7-H1経路の役割 . 第34回日本免疫学会, 2004 . 12 .
- 32) 田中花子, 志和利彦, 松井洋法, 鈴木久晴, 田嶋友子, 大久保暁司, 高橋 浩: 25G経硝子体手術システムの使用経験 . 第28回日本眼科手術学会総会, 2005 . 1 .
- 33) 鈴木久晴, 中元兼二, 高橋 浩: チモロールゲル剤による角膜上皮障害の検討 . 第29回角膜カンファランス, 2005 . 2 .
- 34) 保科淑子<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 河野 潤<sup>2)</sup>, 吉田大蔵<sup>2)</sup>, 小原澤英彰(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 側頭動脈炎にリウマチ性多発筋痛症を合併した1例 . 日本医科大学医学会第115回例会, 2005 . 2 .
- 35) 堀 純子, 竹森利忠<sup>1)</sup>, 東みゆき<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研免疫, <sup>2)</sup>東京医歯大分子免疫): 角膜に発現するProgrammed Death Ligand 1 は浸潤細胞にアポトーシスを誘導する . 第29回角膜カンファランス, 2005 . 2 .
- 36) 岩波美陽, 石崎正通<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 高橋 浩(<sup>1)</sup>病理学第1): 角膜創傷治癒過程におけるMMP-12の発現 . 第109回日本眼科学会総会, 2005 . 3 .
- 37) 堀 純子, 宮下 恵, 北原由紀, 高橋 浩, 竹森利忠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研免疫): 正常角膜および移植角膜における骨髄細胞の経時変化 . 第109回日本眼科学会総会, 2005 . 3 .
- 38) 川村有葉, 石崎正通<sup>1)</sup>, 高橋 浩, 福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): 角膜創傷治癒過程におけるプロスタグランジンE合成酵素の発現および局在 . 第109回日本眼科学会総会, 2005 . 3 .
- 39) 北原由紀, 堀 純子, 宮下 恵, 高橋 浩, 柿沼健一<sup>1)</sup>, 桜川宣男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学): ヒト羊膜間葉細胞の網膜下移植による網膜再生の可能性 . 第109回日本眼科学会総会, 2005 . 3 .

## [ 千葉北総病院眼科 ]

### 研究概要

主に水晶体上皮細胞の培養と, 水晶体上皮細胞由来サイトカインの定量を行っている. 白内障術後に緑内障点眼薬を使用すると嚢胞様黄斑浮腫を発症するという臨床報告がある. このことは術後に緑内障点眼薬を使用することで水晶体上皮細胞からより多くのサイトカインなどの炎症性物質が産生され, 術後炎症を増悪させることが原因の一つではないかと考えられている. そこで緑内障点眼薬中のどの成分が悪影響をもたらすのか, 基礎的な面から水晶体上皮細胞の炎症反応を調べる目的で以下の実験を行った. 不死化遺伝子導入ヒト水晶体上皮細胞の培養を行い, 培養液中に緑内障治療薬の主成分やその防腐剤(塩化ベンザルコニウム)を添加し, 培養液中に産生されてくる各種サイトカインを定量した. その結果, 緑内障治療薬の主成分そのものよりも, 防腐剤として点眼薬に含まれている塩化ベンザルコニウムの方が, 水晶体上皮細胞に強く作用し, 炎症性サイトカイン(PGE2, IL-1, IL-6)を産生すると考えられた. よって

白内障術後に緑内障治療薬を点眼すると嚢胞様黄斑浮腫が発症するのは、点眼薬中の主成分より防腐剤（塩化ベンザルコニウム）に原因があると結論付けられた。また、上記のような炎症というのはアラキドン酸カスケードにより生じる。アラキドン酸にシクロオキシゲナーゼ（COX）が作用しプロスタグランジン（PGE2）が産生され炎症が惹起されるというものである。特に水晶体上皮細胞による炎症はCOX2由来と考えられている。よってCOX2選択的阻害剤をそのような炎症の場に作用させ、消炎効果を発揮することが証明できれば臨床への応用が可能と考え、水晶体上皮細胞を培養し炎症を惹起させた培養液中に、COX2阻害剤を添加し炎症がどのように推移するかも調べている。

以上のような研究を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 症例報告：

- 1) Goto Y, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Ibaraki N ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): A Clinicopathologic Case Report of Inflammatory Pseudotumors Involving the Conjunctiva and Lung . Japanese Journal of Ophthalmology 2004 ; 48 ( 6 ): 573-577 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Goto Y, Tanemoto K, Ibaraki N : Cyclooxygenase-2 inhibitor suppresses the expression of PGE2 stimulated by IL-1 in human lens epithelial cells . Association for Research in Vision and Ophthalmology ( Fort Lauderdale, Florida, USA ), 2004 . 4 .
- 2) 廣瀬敦視, 川村邦彦, 上玉麻子, 神元亜季子, 種元桂子, 後藤陽子, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 千葉北総病院救命救急センター ): 当院における蛍光眼底撮影時のアナフィラキシーショック対策 . 千葉眼科集談会, 2004 . 9 .
- 3) 廣瀬敦視, 川村邦彦, 上玉麻子, 神元亜季子, 種元桂子, 後藤陽子, 茨木信博, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 千葉北総病院救命救急センター ): 蛍光眼底撮影時のアナフィラキシーショックに備えたシミュレーション訓練 . 日本臨床眼科学会, 2004 . 11 .

## 17. 麻酔科学講座

### [ 付属病院麻酔科 ]

#### 研究概要

本年度は、小川 龍教授による研究指導の最後の年となり、教室のメインテーマ（ショックの機序とその対策、外科侵襲とその抑制、麻酔と循環、ペインクリニック、集中治療と呼吸管理）の集大成となる研究、論文として多くの研究がなされた。以下に本年度の主な研究内容を示す。

基礎医学的研究： 各種ショック時の化学的メディエータの変動と抗ショック薬の効果、心臓灌流モデルによる炎症性サイトカインと心機能に及ぼす影響、麻酔薬による体内遺伝子変動、細胞培養による炎症反応とアポトーシスの関連、神経ブロックが神経因性疼痛に及ぼす影響、パッチクランプによる麻酔薬の機序解明、ショック時の人工赤血球による治療効果等。

臨床医学的研究： hANPが体液代謝に及ぼす影響、麻酔による循環血液量変動、炎症反応指標としての一酸化炭素ヘモグロビンの変動、短時間作用型遮断薬の臨床応用、呼吸不全に対するNPPVの有用性、周術期の炎症反応変動と対策、NIPPの麻酔管理等。

その他、医療安全管理、感染対策、医療経済についても有用な研究がなされた。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sakamoto A, Matsumura J<sup>1)</sup>, Mii S, Gotoh Y, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tama-nagayama Hospital ): A Prostaglandin E2 receptor subtype FP4 agonist attenuates cardiovascular depression in endotoxin shock by inhibiting inflammatory cytokines and nitric oxide production . Shock 2004 ; 22 ( 1 ): 76-81 .
- 2) Takeda S, Kim C : Milrinone improves lung compliance. Reply . Acta Anesthesiol Scand 2004 ; 48 ( 4 ): 522-522 .
- 3) Moriyama M<sup>1)</sup>, Kitamura A<sup>2)</sup>, Ikezaki H<sup>2)</sup>, Nakanishi K<sup>2)</sup>, Kim C<sup>2)</sup>, Sakamoto A<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Kanto Rosai Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital ): Systemic ATP infusion improves spontaneous pain and tactile allodynia, but not tactile hyperesthesia, in patients with postherpetic neuralgia . Journal of Anesthesia 2004 ; 18 ( 3 ): 177-180 .
- 4) Yotsui T<sup>1)</sup>, Kitamura A<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital ): Addition of epinephrine to intrathecal tetracaine augments depression of the bispectral index during intraoperative propofol sedation . Journal of Anesthesia 2004 ; 18 ( 3 ): 147-150 .
- 5) Kitamura A<sup>1)</sup>, Sato R<sup>2)</sup>, Marszalec W<sup>2)</sup>, Yeh JZ<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Narahashi T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University Medical School ): Halothane and propofol modulation of gamma-aminobutyric acidA receptor single-channel currents . Anesthesia & Analgesia 2004 ; 99 ( 2 ): 409-415 .
- 6) Nakajima Y<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Sakamoto A, Shimizu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Department of Surgery ): Successful thoracoscopic sympathectomy for primary erythromelalgia in the upper extremities . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2004 ; 52 ( 11 ): 524-526 .

- 7) Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Kimura M<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>2)</sup>, Fujiya T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Medical Corporation Suzuki Hospital ): Landiolol attenuates acute hemodynamic responses but does not reduce seizure duration during maintenance electroconvulsive therapy . Psychiatry Clin Neurosci 2004 ; 58 ( 6 ): 630-635 .
- 8) Kitamura A<sup>1)</sup>, Satoh R<sup>2)</sup>, Nagano T<sup>3)</sup>, Matsuda H<sup>3)</sup>, Shimizu T<sup>4)</sup>, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University Medical School , <sup>3)</sup> First Department of Medicine, Nippon Medical School , <sup>4)</sup> Department of Anesthesiology, Tobu Chiiki Hospital ): Halothane modulates NMDA and non-NMDA excitatory synaptic transmission in rat cortical neurons . Journal of Anesthesia 2005 ; 19 ( 1 ): 66-72 .
- 9) Koda M , Sakamoto A , Ogawa R : Effects of atrial natriuretic peptide at a low dose on water and electrolyte metabolism during general anesthesia . Clin Anesth 2005 ; 17 ( 1 ): 3-7 .
- 10) Sakamoto A , Nakanishi K , Takeda S , Ogawa R : Does carboxy-hemoglobin serve as a stress-induced inflammatory marker reflecting surgical insults? . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ): 19-28 .
- 11) Takeda S<sup>1)</sup>, Ishizaka A<sup>2)</sup>, Fujino Y<sup>3)</sup>, Fukuoka T<sup>4)</sup>, Nagano O<sup>5)</sup>, Yamada Y<sup>6)</sup>, Takezawa J<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Department of Internal medicine, Keio University, School of Medicine , <sup>3)</sup> Intensive Care Unit Department of Anesthesiology, Osaka University Medical School , <sup>4)</sup> Intensive Care Unit Department of Anesthesiology, Nagoya University Hospital , <sup>5)</sup> Intensive Care Unit Department of Anesthesiology and Resuscitology, Okayama University Hospital , <sup>6)</sup> Department of Anesthesiology, Yokohama City University Hospital ): Multi-center Clinical Trial Committee, Japanese Society of Respiratory Care Medicine. Time to change diagnostic criteria of ARDS : Toward the disease entity-based subgrouping . Pulm Pharmacol 2005 ; 18 ( 2 ): 115-119 .
- 12) 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 石坂彰敏<sup>2)</sup>, 藤野裕士<sup>3)</sup>, 福岡敏雄<sup>4)</sup>, 長野 修<sup>5)</sup>, 山田芳嗣<sup>6)</sup>, 武澤 純<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 慶應義塾大学病院呼吸器内科 , <sup>3)</sup> 大阪大学医学部附属病院集中治療部 , <sup>4)</sup> 名古屋大学医学部附属病院集中治療室 , <sup>5)</sup> 岡山大学医学部附属病院救急部 , <sup>6)</sup> 横浜市立大学医学部麻酔科 ): ARDS 診断基準をめぐる問題点 . 人工呼吸 2004 ; 21 ( 1 ): 38-43 .
- (2) 綜説 :
- 1) 竹田晋浩 : 肺水腫患者の人工呼吸法とケア , 病態から見た人工呼吸ケア , 人工呼吸器と患者ケア Q&A . ナーシングケア Q&A シリーズ 2004 ; 1 : 232-233 .
  - 2) 竹田晋浩 : 呼吸管理の実際 : 心原性肺水腫 . 臨床医 2004 ; 30 ( 6 ): 1370-1372 .
  - 3) 竹田晋浩 : ARDS. 急性呼吸不全に対する呼吸管理ベストプラクティス . 救急医学 2004 ; 28 ( 10 ): 1355-1360 .
  - 4) 坂本篤裕 : 放射線診療におけるリスクマネジメント 造影剤による急性副作用に対する処置 . 日獨医報 2004 ; 49 : S95-S103 .
- (3) 研究報告書 :
- 1) 北村 晶 : Beta adrenergic inhibition of capsaicin-induced, NK1 receptor-mediated nerve growth factor biosynthesis in rat skin . ペインクリニック 2004 ; 26 ( 1 ): pp127-127 .
  - 2) Miyashita M<sup>1)</sup>, Kashiwabara M<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Takeda S , Matsutani T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery ): The old therapy with a new concept : Backup of corticosteroid in surgical trauma . Proceedings of 11th congress of the European shock society 2005 ; 1 : pp31-35 .
  - 3) 佐藤千代 , 田中裕之<sup>1)</sup>, 河本昌志<sup>1)</sup>, 弓削孟文<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup> 広島大学医学部麻酔科 ): 自己調節鎮痛 ( PCA ) 施行患者における術後早期の経皮的酸素飽和度の低下 . 麻酔 2004 ; 53 ( 6 ): pp659-663 .

- 4) 小野寺英貴, 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 竹森 健, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 池崎弘之, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍, 田中啓治<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の無気肺への腸・陰圧体外式人工呼吸の効果. 人工呼吸 2004 ; 21 ( 2 ): pp257-257 .
- 5) 竹森 健, 竹田晋浩, 小野寺英貴, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 池崎弘之, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍, 田中啓治<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 腸内容物による誤嚥性肺炎に対して伏臥位管理を行った1症例. 人工呼吸 2004 ; 21 ( 2 ): pp250-250 .

(4) Proceeding :

- 1) 竹田晋浩 : NPPVの適応と限界: 急性肺水腫. 人工呼吸 2004 ; 21 ( 2 ): 171-171 .

(5) 症例報告 :

- 1) Yoshida Y, Hongo T, Sakamoto A, Ogawa R : Successful management of tachycardiac atrial fibrillation in a septic patient with landiolol . Anesth Analg 2005 ; 100 ( 1 ): 294-294 .
- 2) 篁 武郎<sup>1)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>北村山公立病院麻酔科): 人工透析に合併する下肢筋痙攣に対する経穴注射の効果. 日本ペインクリニック学会誌 2004 ; 11 ( 4 ): 439-442 .

著 書

- 1) 寺嶋克幸 : [ 分担 ] 周術期 遮断薬使用の理論と実際, 超短時間作用型 遮断薬術後使用の理論と実際. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 小川 龍監修: 清野精彦, 坂本篤裕編集 ), 2004 ; pp171-184, 真興交易医書出版部 .
- 2) 坂本篤裕 : [ 分担 ] 周術期 遮断薬の新たな動向. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 小川 龍監修: 清野精彦, 坂本篤裕編集 ), 2004 ; pp11-18, 真興交易医書出版部 .
- 3) 坂本篤裕 : [ 編集 ] 遮断薬の基礎. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 小川 龍監修: 清野精彦, 坂本篤裕編集 ), 2004 ; pp19-29, 真興交易医書出版部 .
- 4) 坂本篤裕 : [ 編集 ] 周術期 遮断薬使用の理論と実際 超短時間作用型 遮断薬. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 小川 龍監修: 清野精彦, 坂本篤裕編集 ), 2004 ; pp149-159, 真興交易医書出版部 .
- 5) 坂本篤裕 : [ 編集 ] 周術期 遮断薬使用の理論と実際, 遮断薬の周術期疼痛への影響. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 小川 龍監修: 清野精彦, 坂本篤裕編集 ), 2004 ; pp208-215, 真興交易医書出版部 .
- 6) 坂本篤裕 : [ 編集 ] 超短時間作用型 遮断薬術中・ICU使用の実際例, 予防的術中使用例と新たな適応. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 小川 龍監修: 清野精彦, 坂本篤裕編集 ), 2004 ; pp223-232, 真興交易医書出版部 .
- 7) 北村 晶, 真下 節<sup>1)</sup>, 榎田浩史<sup>2)</sup>, 野村 実<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>大阪大学医学部附属病院麻酔科, <sup>2)</sup>東京医科歯科大学医学部附属病院麻酔科, <sup>3)</sup>東京女子医科大学医学部病院麻酔科): [ 分担 ] 心臓移植手術の麻酔管理. 心臓血管麻酔マニュアル, 2004 ; pp324-327, 中外医学社 .
- 8) 金 徹 : [ 分担 ] 周術期 遮断薬使用の理論と実際, 術前 遮断薬投与患者の麻酔管理. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 清野精彦, 坂本篤裕編集 ( 小川 龍監修 ) ), 2004 ; pp138-148, 真興交易医書出版部 .
- 9) 金 徹 : [ 分担 ] 周術期 遮断薬使用の理論と実際, 超短時間作用型 遮断薬術中使用の理論と実際. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 清野精彦, 坂本篤裕編集 ( 小川 龍監修 ) ), 2004 ; pp160-170, 真興交易医書出版部 .
- 10) 金 徹 : [ 分担 ] 超短時間作用型 遮断薬術中・ICU使用の実際例, 治療的術中使用例と新たな適応. 周術期における 遮断薬の使い方: 内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで ( 清野精彦, 坂本篤裕編集 ( 小川 龍監修 ) ), 2004 ; pp216-222, 真興交易医書出版部 .



- 11) 寺嶋克幸：〔分担〕超短時間作用型 遮断薬術中・ICU使用の実際例，ICU使用例と新たな適応．周術期における 遮断薬の使い方：内科的使用から超短時間作用型 遮断薬の応用まで（小川 龍監修：清野精彦，坂本篤裕編集），2004；pp233-241，真興交易医書出版部．
- 12) 竹田晋浩：〔分担〕高頻度換気．麻酔科学スタンダード2004（武田純三，小川節郎，西野 卓，新宮興編集），2004；pp115-121，克誠堂出版．
- 13) 竹田晋浩：〔編集〕急性肺水腫．実践NPPV（坂本篤裕監修），2005；pp1-12，克誠堂出版．
- 14) 竹田晋浩：〔編集〕Weaningでの活用．実践NPPV（坂本篤裕監修），2005；pp44-48，克誠堂出版．
- 15) 竹田晋浩：〔編集〕急性肺障害（ALI/ARDS）．実践NPPV（坂本篤裕監修），2005；pp25-31，克誠堂出版．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Takeda S：Management guidelines of sepsis in asian countries．The 13th congress of the western pacific association of critical care medicine（Seoul），2004．6．
- 2) 坂本篤裕：周術期におけるランジオロールの使い方．第4回神奈川麻酔科セミナー，2004．12．

##### (2) 教育講演：

- 1) 坂本篤裕：周術期の炎症反応をどこまで抑えるか．第3回山梨麻酔懇話会，2004．5．
- 2) 坂本篤裕：周術期の炎症反応と 遮断薬．北河内麻酔科学研究会2004，2004．6．
- 3) 坂本篤裕：放射線科診療における緊急対策と救急処置．第28回京滋IVR懇話会，2004．11．
- 4) 北村 晶：医療ガスの保険点数はいくらが妥当か．第8回医療ガス学会総会，2004．11．

##### (3) シンポジウム：

- 1) 寺嶋克幸<sup>1)</sup>，杖下隆哉<sup>2)</sup>，坂本篤裕<sup>1)</sup>，小川 龍<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院麻酔科，<sup>2)</sup>三井記念病院 麻酔科）：ウサギ急性出血性モデルへの人工赤血球による fluid resuscitation の効果．第11回日本血液代替物学会年次大会，2004．7．
- 2) 青木郁香<sup>1)</sup>，野口裕幸<sup>1)</sup>，坂本篤裕（<sup>1)</sup>ME部）：呼吸ケアの中で臨床工学技士が為すべきこと．第32回日本集中治療医学会学術集会，2005．2．
- 3) 野口裕幸<sup>1)</sup>，青木郁香<sup>1)</sup>，坂本篤裕（<sup>1)</sup>ME部）：人工呼吸療法に関する医療事故に結びつく事象の検討．第32回日本集中治療医学会学術集会，2005．2．

##### (4) パネルディスカッション：

- 1) 坂本篤裕：放射線診療における緊急対策と救急処置．第63回日本医学放射線学会学術集会，2004．4．
- 2) 竹田晋浩：NPPVの適応と限界：急性肺水腫．第26回日本呼吸療法医学会，2004．7．

##### (5) 一般講演：

- 1) Kitamura A<sup>1)</sup>，Sato R<sup>2)</sup>，Marszalec W<sup>2)</sup>，Yeh JZ<sup>2)</sup>，Narahashi T<sup>2)</sup>，Ogawa R<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital，<sup>2)</sup>Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University Medical School）：Halothane and propofol modulation of GABAA receptor-mediated inhibitory postsynaptic currents in rat cortical neurons．IARS 78th Clinical and Scientific Congress（Tampa），2004．3．
- 2) Sakamoto A，Nakanishi K，Ikezaki H，Mii S，Ogawa R：Carbon monoxide production as a marker of surgical stress．13th World Congress of Anesthesiologists（Paris），2004．4．
- 3) Mii S，Terajima K，Sakamoto A，Ogawa R：The effect of llandiolol hydrochloride during extubation．13th World Congress of Anesthesiologists（Paris），2004．4．
- 4) Nakanishi K，Ikezaki H，Sakamoto A，Takeda S，Ogawa R：Ulinastatin attenuates lung injury after cardiopulmonary bypass．13th World Congress of Anesthesiologists（Paris），2004．4．
- 5) Ikezaki H，Sakamoto A，Nakanishi K，Takeda S，Ogawa R：Intrapulmonary percussive ventilation im-

- proves lung consolidation in ALI/ARDS . 13th World Congress of Anesthesiologists ( Paris ), 2004 . 4 .
- 6) Terajima K , Takeda S , Miyashita M<sup>2)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Ogawa R ( <sup>1)</sup> Intensive Care Unit , <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): Hypercoagulation after major surgery and timing of anti-coagulation administration . The 13th congress of the western pacific association of critical care medicine ( Seoul ), 2004 . 6 .
  - 7) Mii S , Gotoh Y , Sakamoto A , Ogawa R : The effects of landiolol during off pump CABG . 9th International Congress of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia/9th Annual Meeting of Japanese Society of Cardiovascular Anesthesiologists ( Tokyo ), 2004 . 9 .
  - 8) Terajima K<sup>1)</sup> , Tsueshita T<sup>2)</sup> , Sakamoto A<sup>3)</sup> , Ogawa R<sup>3)</sup> , Takeda S<sup>3)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Miyashita M<sup>4)</sup> , Tajiri T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Intensive Care Unit, Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital , <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School , <sup>4)</sup> First Department of Surgery, Nippon Medical School ): Normovolemic resuscitation with Hemoglobin-vesicle solution in anesthetized rabbit acute hemorrhagic shock . 2nd World Shock Forum ( Tokyo ), 2004 . 10 .
  - 9) Terajima K , Morita N<sup>1)</sup> , Koh T<sup>1)</sup> , Onodera H , Kobayashi K , Takeda S , Yamamoto T<sup>1)</sup> , Kato K<sup>1)</sup> , Makino K<sup>2)</sup> , Miyashita M<sup>2)</sup> , Sato N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Ogawa R , Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Intensive Care Unit , <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): Antiarrhythmic agent unmasked an aged Brugada syndrome with septic shock . 2nd World Shock Forum ( Tokyo ), 2004 . 10 .
  - 10) Miyashita M<sup>1)</sup> , Kashiwabara M<sup>1)</sup> , Takahashi K<sup>1)</sup> , Takeda S , Matsutani T<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Nomura T<sup>1)</sup> , Makino H<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery ): The old therapy with a new concept : Backup of corticosteroid in surgical trauma . 11th congress of the European shock society ( Vienna ), 2005 . 1 .
  - 11) Takemori K<sup>1)</sup> , Terajima K<sup>1)</sup> , Tsueshita T<sup>3)</sup> , Onodera H<sup>1)</sup> , Takeda S<sup>1)</sup> , Sakamoto A<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>2)</sup> , Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Intensive Care Unit, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Anesthesia, Mitsui Memorial Hospital ): Effects of Hemoglobin-Vesicle Solution on Coagulation with Sonoclot . 8th America-Japan Anesthesia Congress ( Honolulu ), 2005 . 3 .
  - 12) Terajima K<sup>1)</sup> , Tsueshita T<sup>2)</sup> , Sakamoto A<sup>1)</sup> , Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital ): Normovolemic resuscitation with Hemoglobin-vesicle solution in anesthetized rabbit acute hemorrhagic shock . International Anesthesia Research Society 79th Clinical & Scientific Congress ( Honolulu ), 2005 . 3 .
  - 13) Tsueshita T<sup>1)</sup> , Terajima K<sup>2)</sup> , Takeda S<sup>2)</sup> , Sakamoto A<sup>2)</sup> , Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital ): In vitro effect of hemoglobin-vesicles solution on coagulation using sonoclot analysis . International Anesthesia Research Society 79th Clinical & Scientific Congress ( Honolulu ), 2005 . 3 .
  - 14) Onodera H , Takemori K , Kobayashi K , Terajima K , Kim C , Takeda S , Sato N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Makino K<sup>2)</sup> , Nomura T<sup>2)</sup> , Miyashita M<sup>2)</sup> , Tajiri T<sup>2)</sup> , Ogawa R ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): Prevalence of neutropenia in major surgery and its early postoperative outcome . 8th America-Japan Anesthesia Congress ( Honolulu ), 2005 . 3 .
  - 15) 幸田修典 , 幸田真理子 , 大越麻里子 , 角田 健 , 坂本篤裕 , 小川 龍 : 手術中の鎮静に必要なプロポフォール濃度の検討 : BISを指標にして . 日本麻酔科学会第51回学術集会 , 2004 . 5 .
  - 16) 寺嶋克幸 , 小川 龍 : 冠動脈疾患患者の大動脈と橈骨動脈圧によるSBR感度の違いと麻酔前投与薬の影響 . 第51回日本麻酔学会総会 , 2004 . 5 .
  - 17) 中島祐史<sup>1)</sup> , 小林克也<sup>1)</sup> , 結城禎一<sup>1)</sup> , 小川 龍<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三井記念病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 ): 癌性疼痛に対しモルヒネ持続投与されていた患者に対する麻酔経験 . 日本麻酔科学会第51回学術集会 , 2004 . 5 .

- 18) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>国立栃木病院麻酔科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院麻酔科): 気管挿管前のカルペリチド投与の気道抵抗に及ぼす影響: 喫煙者と非喫煙者について. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 19) 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科): 予防的マグネシウム投与による心臓手術後の抗不整脈効果: メタ・アナリシスを用いて. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 20) 大島正行, 村瀬熱紀, 稲木敏一郎, 横山健至, 島田洋一, 小川 龍: 予定帝王切開後における持続硬膜外ロピバカイン/フェンタニル投与が安静時起立へ与える影響. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 21) 三井誠司, 後藤吉次, 小川 龍: 全身麻酔覚醒時の循環動態変動の検討: 塩酸ラジオロールとリバースの同時投与. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 22) 河原裕泰<sup>1)</sup>, 結城禎一<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>三井記念病院麻酔科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院麻酔科): ジャネット手術中に脳幹部梗塞を起こし術後気が付いた1症例. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 23) 村瀬熱紀, 稲木敏一郎, 横山健至, 大島正行, 島田洋一, 小川 龍: 予定帝王切開の術前に深部静脈血栓を認め, 術前に下大静脈フィルターを留置して麻酔管理した1症例. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 24) 今永和幸<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 加藤摩希子<sup>1)</sup>, 金 正<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>海老名総合病院麻酔科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院麻酔科): フェンタニルの硬膜外カテーテル留置時における局所麻酔薬浸潤痛に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 25) 加藤信也<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科): 筋緊張性頭痛に対する良導絡治療. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 26) 山本英明, 稲木敏一郎, 村瀬熱紀, 横山健至, 島田洋一, 小川 龍: 塩酸ラジオロール持続投与における系時的血行動態変動. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 27) 板羽秀徳, 森山みちる, 石渡美和子<sup>1)</sup>, 横田哲也<sup>1)</sup>, 野本幸子<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>関東労災病院麻酔科): 高血圧症または虚血性心疾患合併症例における塩酸ラジオロールの効果. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 28) 岸川洋昭<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>1)</sup>, 結城禎一<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>三井記念病院麻酔科): 体外循環併用呼吸器外科手術の麻酔管理. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 29) 斉藤 剛<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 加藤信也<sup>1)</sup>, 設楽敬明<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>千葉北総病院 麻酔科): 挿管困難が予想された前縦帯骨化症合併患者の麻酔管理. 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004. 5.
- 30) 三井誠司, 田中啓治<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 小川 龍(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): CHDF 施行中に腸管虚血を合併した1例. 第49回日本透析医学会年次学術集会総会, 2004. 5.
- 31) 簗 武郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院麻酔科): 半夏厚朴湯2症例: 金匱要略条文の解釈による考案. 第55回日本東洋医学会学術総会, 2004. 6.
- 32) 小野寺英貴, 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 竹森 健, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 池崎弘之, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の無気肺への腸・陰圧体外式人工呼吸の効果. 第26回日本呼吸療法医学会, 2004. 7.
- 33) 竹森 健, 竹田晋浩, 小野寺英貴, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 池崎弘之, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 腸内容物による誤嚥性肺炎に対して伏臥位管理を行った1症例. 第26回日本呼吸療法医学会, 2004. 7.
- 34) 寺嶋克幸, 坂本篤裕, 小川 龍: 人工赤血球の血管透過性への影響. 第2回周術期体液・代謝・侵襲研究会, 2004. 8.
- 35) 後藤吉次, 峰岸祐司<sup>1)</sup>, 山下いずみ<sup>2)</sup>, 千田英理子<sup>2)</sup>, 加藤あゆみ<sup>3)</sup>, 渡邊暁洋<sup>3)</sup>, 宮田広樹<sup>3)</sup>, 片山志郎<sup>3)</sup>, 平野公晟<sup>3)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>看護部, <sup>3)</sup>薬剤部): 原発性右肺癌術後の骨転移に対し, オピオイドローテーションを試行し, 有効な除痛が得られた1例. 第3回文京緩和医療研究会, 2004. 8.

- 36) 寺嶋克幸, 杖下隆哉<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍<sup>(1)</sup>三井記念病院麻酔科): 人工赤血球溶液の組織酸素分圧と血管透過性に与える影響. 第2回周術期体液代謝侵襲研究会, 2004. 8.
- 37) 横塚 基, 三井誠司, 小川 龍: ラリングルマスクファストラック専用挿管チューブの弱点. 日本麻酔科学会 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部 第43回合同学術集会, 2004. 8.
- 38) 古市昌之, 小野寺英貴, 寺嶋克幸, 竹森 健, 藤井正大<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>付属病院集中治療室): Abdominal Compartment Syndromeの2例. 第13回日本集中治療医学会 関東甲信越地方会, 2004. 8.
- 39) 守 真輝, 中里桂子, 金 徹, 池崎弘之, 坂本篤裕, 小川 龍: 周術期の頻脈性心房細動にラジオロールの投与が有効であった1例. 日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 第44回合同学術集会, 2004. 9.
- 40) 吉田結富子, 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍: 麻酔導入後 PEA となり, 蘇生後褐色細胞腫と診断された1例. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 41) 寺田てる美, 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍: 当院における高度救命救急センター1年間の症例の検討. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 42) 中里桂子, 藤谷 仁, 金 徹, 本郷 卓, 池崎弘之, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍: 骨盤内閉鎖循環下抗癌剤灌流療法(NIPP)の麻酔管理. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 43) 安藤岳史, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍: 麻酔導入直後に換気不全となり, ミニトラックによる緊急気管切開を行った症例. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 44) 横塚 基, 北村 晶, 本郷 卓, 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍: 医療コストからみた帝王切開術に対する硬膜外麻酔. 第11回硬膜外麻酔研究会, 2005. 2.
- 45) 佐藤千代, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍: 癌性疼痛患者における硬膜外鎮痛法の検討. 第11回硬膜外麻酔研究会, 2005. 2.
- 46) 中里桂子, 佐藤千代, 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍: 人工股関節置換術における全身麻酔と硬膜外麻酔併用全身麻酔の比較. 第11回硬膜外麻酔研究会, 2005. 2.
- 47) 寺嶋克幸, 藤井正大<sup>2)</sup>, 竹田晋浩, 小野寺英貴, 池崎弘之, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 中西一浩, 坂本篤裕, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>外科学第2): オフポンプ冠動脈再建術後におけるランジオロールによる脈拍数制御の心房細動発生率と循環動態に及ぼす影響. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.
- 48) 池崎弘之, 竹田晋浩, 中西一浩, 寺嶋克幸, 小野寺英貴, 坂本篤裕, 金 徹, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>集中治療室): 適正な Off Pump CABG 術中輸液量-術後管理の見地から. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.
- 49) 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 小野寺英貴, 谷合信彦<sup>3)</sup>, 金 徹, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>外科学第1): 生体肝移植術後のデクスメトミジン反復投与による鎮静と安全性の検討. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.
- 50) 篁 武郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院麻酔科): 四逆散合桂枝茯苓丸加附子による肢端紅痛症の治験経験. 第9回日本東洋医学会東北支部山形県部会, 2005. 3.

## [ 第二病院麻酔科 ]

### 研究概要

当施設では、産科麻酔、術後鎮痛、循環動態、ペインクリニック領域を主に研究している。

#### 1. 産科麻酔

- (1) 帝王切開術中に用いる子宮収縮薬であるエルゴメトリンとオキシトシンが胸部硬膜外圧に与える影響。
  - (2) 仰臥位低血圧症候群と硬膜外圧、下肢静脈圧の変動。
  - (3) 子宮収縮薬による出血量の差異。
  - (4) 妊婦の感覚閾値の上昇とプロゲステロン値との関連。
  - (5) 母子のきずなが希薄になりがちな帝王切開でカンガルーケアを導入したが、その問題点。
  - (6) 帝王切開術後硬膜外鎮痛の安静時起立への影響。
- 以上について検討した。

#### 2. 術後鎮痛

- (1) ケタミンは、硬膜外モルヒネ/ブピバカインによる鎮痛を増強するが、その血中濃度について検討した。
- (2) ロピバカインの硬膜外持続投与における有用性を検討した。

#### 3. 循環動態

ランジオロールの経時的血行動態の変化について検討した。

#### 4. ペインクリニック

- (1) 当施設では積極的にエピドラスコピーを導入している。癒着性硬膜外炎症例におけるエピドラスコピーの診断・治療での有用性、また日本整形外科学会の腰痛スコアからみたエピドラスコピーの有効性を多施設で検討した。
- (2) 外来での腰部硬膜外ブロック後の重心動揺を検討し、安全に帰宅できるように必要な観察時間を検討した。

腹腔鏡下子宮筋腫核出術では、生理食塩液を使用するため出血量の算定が困難であるが、ヘモキューを用いた出血量の算定について検討した。また、産科施設と一般病院での手術症例と麻酔法の変遷、体腔内異物遺残防止対策と麻酔法について検討した。さらに当院での赤血球製剤の使用状況を検討した。

症例報告では、脳死ドナーの麻酔管理、深部静脈血栓に対する下大静脈フィルター留置症例の麻酔管理について報告した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Masayuki O, Yoichi S, Atsuhiko S, Ryo O : ST depression during thoracic cavity irrigation in a patient undergoing fistula closure for pneumothorax . Circulation Control 2004 ; 25 ( 2 ) : 181-183 .
- 2) Manzo S, Kikuzo S, Yoichi S : Ropivacaine produces sensory in the lumbar sacral region more frequently than mepivacaine in lower thoracic epidural anesthesia . Journal of Anesthesia 2004 ; 18 : 250-256 .
- 3) Manzo S, Toshihiro I, Yuji K<sup>1)</sup>, Yoichi S ( <sup>1)</sup>Center of Digestive Disease, Nippon Medical School Second Hospital ): Unanticipated hemothorax during general anesthesia . Journal of Anesthesia 2004 ; 18 : 307-309 .
- 4) 鈴木万三, 島田洋一 : 当院における緊急帝王切開術に対する麻酔法の現況 . 分娩と麻酔 別冊 2004 ; 86 : 1-5 .
- 5) 菊谷健彦, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一 : 帝王切開における子宮収縮薬が胸部硬膜外圧と伏在静脈圧に及ぼす影響 . 麻酔 2004 ; 53 : 1143-1148 .
- 6) 大島正行, 島田洋一, 洪井庸子<sup>1)</sup>, 藤江裕美<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>産婦人科学 ): 予定帝王切開術中のカンガルーケア 導入と問題点 . 分娩と麻酔 2004 ; 86 : 31-33 .

(2) 綜説：

- 1) 大島正行：47. 局所麻酔薬の血管内注入の予防と対処について教えてください：IV硬膜外麻酔分娩の合併症とその対策．臨床婦人科産科 2004；58(4)：484-485．
- 2) 大島正行：48 局所麻酔薬のクモ膜下注入の予防と対処について教えてください：IV硬膜外麻酔分娩の合併症とその対策．臨床婦人科産科 2004；58(4)：486-487．
- 3) 大島正行：49 局所麻酔薬の硬膜下注入の予防と対処について教えてください：IV硬膜外麻酔分娩の合併症とその対策．臨床婦人科産科 2004；58(4)：488-489．
- 4) 大島正行：50 硬膜外血腫の予防と対処について教えてください：IV硬膜外麻酔分娩の合併症とその対策．臨床婦人科産科 2004；58(4)：490-491．
- 5) 大島正行：51 硬膜外膿瘍の予防とその対処について教えてください：IV硬膜外麻酔分娩の合併症とその対策．臨床婦人科産科 2004；58(4)：492-493．
- 6) 大島正行：World Congress of Anaesthesiologists (WCA) 参加レポート．LiSA 2004；11(7)：738-740．
- 7) 大島正行：脳死ドナー臓器摘出の麻酔．LiSA 2004；11(9)：960-962．
- 8) 大島正行：羊水塞栓：凝固障害を考慮して、十分な輸液・輸血準備を．LiSA 2004；11(11)：1148-1152．

著 書

- 1) 大島正行，島田洋一：〔共著〕帝王切開で子宮収縮痛や創部痛を訴える理由について．臨床麻酔Q&A，2004；pp83-84，真興交易．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 島田洋一：ApgarScoreは有用？．第15回日本臨床モニター学会総会，2004．4．

(2) 一般講演：

- 1) Oshima M，Murase A，Inagi T，Yokoyama K，Shimada Y，Ogawa R：(Poster) Standing stability during continuous epidural ropivacaine/fentanyl infusion after Cesarean section．13th World Congress of Anaesthesiologists (Paris)，2004．4．
- 2) Masayuki O，Sato K，Murase A，Inagi T，Yokoyama K，Shimada Y，Ogawa Y：(Poster) Standing stability during continuous epidural ropivacaine/fentanyl infusion after elective Cesarean section．8th America-Japan Anesthesia Congress (Hawaii)，2005．3．
- 3) Masayuki O，Sato K，Murase A，Inagi T，Yokoyama K，Shimada Y，Ogawa R：(Poster) Standing stability during continuous epidural ropivacaine/fentanyl infusion after elective Cesarean section．79th IARS annual meeting (Hawaii)，2005．3．
- 4) 大島正行，島田洋一，藤江裕美<sup>1)</sup>，渋井庸子<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，小西英喜<sup>1)</sup>，可世木久幸<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科学)：帝王切開後の持続硬膜外鎮痛が起立保持に与える影響．第56回日本産婦人科学会総会・学術講演会，2004．4．
- 5) 大島正行，島田洋一：(展示)ヘモキューTMを用いた腹腔鏡下子宮筋腫核手術における出血量モニター．第15回日本臨床モニター学会，2004．4．
- 6) 大島正行，島田洋一，藤江裕美<sup>1)</sup>，渋井庸子<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，小西英喜<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科学)：予定帝王切開後の持続硬膜外鎮痛が起立保持に与える影響．第56回日本産婦人科学会総会，2004．4．
- 7) 山本英明，稲木敏一郎，村瀬熱紀，横山健至，島田洋一，小川 龍：(ポスター)塩酸ランジオロール持続投与における系時的血行動態変動．第51回日本麻酔科学会総会，2004．5．
- 8) 大島正行，村瀬熱紀，稲木敏一郎，横山健至，島田洋一，小川 龍：(展示)予定帝王切開後における持続硬

膜外ロピバカイン/フェンタニル投与が安静時起立へ与える影響．日本麻酔科学会第51回大会，2004．5．

- 9) 村瀬熱紀，稲木敏一郎，横山健至，大島正行，島田洋一，小川 龍：(展示) 予定帝王切開の術前に深部静脈血栓を認め，術前に下大静脈フィルターを留置して麻酔管理した1症例．日本麻酔科学会第51回大会，2004．5．
- 10) 菊谷健彦，村瀬熱紀，大島正行，杉本季久造，島田洋一：帝王切開術におけるメチルエルゴメトリンおよびオキシトシンが出血量に与える影響．日本麻酔科学会第51回大会，2004．5．
- 11) 大島正行，島田洋一，菊地 盤<sup>1)</sup>，北出真理<sup>1)</sup>，武内裕之<sup>1)</sup>，木下勝之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学産婦人科)：(展示) インジゴカルミンが，腹腔鏡下子宮筋腫核手術におけるヘモキューTMを用いた出血量算定に与える影響．第107回日本産婦人科学会 関東連合地方部会総会・学術集会，2004．6．
- 12) 飯塚貴子<sup>1)</sup>，田中純哉<sup>1)</sup>，大島正行，熊倉誠一郎<sup>1)</sup>，吉川晶子<sup>1)</sup>，園田清次郎<sup>1)</sup>，稲田英一<sup>1)</sup>，宮崎東洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座)：巨大頸部リンパ管腫に対するEXIT(ex-uterointrapartum-therapy) 予定胎児の緊急帝王切開術における問題点．2004年度東京麻酔専門医会，2004．6．
- 13) 内木亮介，横山健至，大島正行，北村 晶，島田洋一，小川 龍：(展示) エピドラスコピーが無効であったFBSSの4症例．日本ペインクリニック学会第38回大会，2004．7．
- 14) 佐藤花代子，大島正行，村瀬熱紀，稲木敏一郎，横山健至，島田洋一，小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科)：インジゴカルミンが，腹腔鏡下子宮筋腫核手術におけるヘモキューTMを用いた出血量算定に与える影響．日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 第44回合同学術集会，2004．9．
- 15) 内木亮介，佐藤花代子，横山健至，大島正行，島田洋一：エコドラスコピーによる腰下肢痛の治療．第3回神奈川痛みの研究会，2004．9．
- 16) 井梅和美<sup>1)</sup>，井上雅則<sup>1)</sup>，花出 豊<sup>1)</sup>，新宅孝征<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>，島田洋一(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室)：当院の手術時における赤血球MAP製剤の使用状況．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 17) 山本英明，横山健至，村瀬熱紀，島田洋一，小川 龍，稲木敏一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立循環器病センター麻酔科)：(ポスター) 短時間作用型 選択的遮断薬投与における血行動態変動：塩酸ランジオロールと塩酸エスモロールの比較．第24回日本臨床麻酔学会総会，2004．10．
- 18) 大島正行，佐藤花代子，村瀬熱紀，稲木敏一郎，横山健至，島田洋一，小川 龍：(展示) 脳死ドナーの麻酔管理経験．日本臨床麻酔学会第24回大会，2004．10．
- 19) 大島正行，島田洋一，深見武彦<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，小西英喜<sup>1)</sup>，可世木久幸<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：深部静脈血栓により術前に下大静脈フィルターを留置して麻酔管理した予定帝王切開の1症例．第107回分娩と麻酔研究会，2004．12．
- 20) 大島正行，佐藤花代子，島田洋一，渋井庸子<sup>1)</sup>，藤江裕美<sup>1)</sup>，深見武彦<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：胃電計を用いた予定帝王切開術中の胃の電気的活動の評価．第107回分娩と麻酔研究会，2004．12．
- 21) 佐藤花代子，村瀬熱紀，稲木敏一郎，横山健至，大島正行，島田洋一，小川 龍：深部静脈血栓を認め，予定帝王切開の術前に下大静脈フィルターを留置して麻酔管理した1症例．東京麻酔専門医会症例検討会，2004．12．

## [ 多摩永山病院麻酔科 ]

### 研究概要

本年度もペインクリニック領域において，治療困難な痛みに対する新しい神経ブロックについて試案，検討した．特に筋膜痛症候群と顎関節症を対象にしたブロックに重点を置き，基礎的研究を行っている．また，頸椎症や腰椎症に対するブロックの臨床的研究も続行中である．

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Kobayashi N : TASK-1 channel, but not Kv or BK channels, are crucially involved in the oxygen sensing mechanisms of peripheral chemoreceptors . 13th World Congress of Anesthesiologists ( Paris ), 2004 . 4 .
- 2) 西川晃司, 山田光輝 : シングルユースラリンジアルマスク Soft Seal LMA のカフ内圧に及ぼす N<sub>2</sub>O の影響 . 日本臨床麻酔学会第 24 回大会, 2004 . 10 .

## [ 千葉北総病院麻酔科 ]

### 研究概要

“ 外科侵襲に対する生体防御反応の調整・抑止 ”, “ 硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔の生体への影響および管理法・手技 ” をテーマとした臨床研究が継続されている .

本年度も, 手術室, 病室, 外来 ( ペインクリニック ) など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践手技, マグネシウム, 遮断薬, カルペリチドなど各種薬物が麻酔中の循環動態および気道抵抗に及ぼす影響についての検証, 薬物の新たな薬理効果と臨床応用に関する研究, 緩和医療における薬物動態の検討, 疼痛における東洋医学効能など, 多岐に亘る研究が行われた . 新たな薬物の生体環境に及ぼす役割など基礎的研究のほか, 患者の苦痛の除去, QOL の改善はもとより, 医師側の治療への協力・助力となる方向での手技の配慮などを主題とした研究が中心となった . 鎮痛法 ( 術後鎮痛, 難治性疼痛, 脊髄くも膜下麻酔, 神経ブロック ) の向上に向けた研究は今後も継続して行うことにしている .

気道管理法, 新たな薬剤の循環および気道への影響, モニタリング, 区域麻酔に関して新たな知見が得られつつある .

### 研究業績

#### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Imanaga K<sup>1)</sup>, Wajima Z, Inoue T, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology ): Effect of oral tizanidine on local-anesthetic infiltration pain during epidural catheterization . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 2 ) : 105-110 .
- 2) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology ): Magnesium prophylaxis for arrhythmias after cardiac surgery : A meta-analysis of randomized controlled trials . The American Journal of Medicine 2004 ; 117 ( 5 ) : 325-333 .
- 3) Masuda R, Inoue T, Takei M<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Neurosurgery, Chiba-Hokusho Hospital ): Clinical evaluation of spontaneous intracranial hypotension ( SIH ): From the standpoint of pain clinicians . World Society of Pain Clinicians. 11th International Pain Clinic 2004 ; 1 ( 1 ) : 419-423 .
- 4) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology ): Prophylactic nebulized lidocaine attenuates hyperdynamic response to abrupt mask inhalation of isoflurane in adults . J Clin Anesth 2004 ; 16 ( 7 ) : 493-498 .
- 5) Shiga T, Yong S<sup>1)</sup>, Carino J<sup>1)</sup>, Murray PA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Anesthesiology Research, Division of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Lerner Research Institute, The Cleveland Clinic Foundation ): Droperidol inhibits intracellular Ca<sup>2+</sup>, myofilament Ca<sup>2+</sup> sensitivity, and contraction in rat ventricular myocytes . Anesthesiology 2005 ; 102 ( 6 ) : 1165-1173 .
- 6) Shiga T, Wajima Z, Inoue T : Computed tomography and ultrasonography to detect appendicitis . Ann In-



tern Med 2005 ; 142 ( 9 ) : 798-799 .

(2) 綜説 :

- 1) 輪嶋善一郎 : 腕神経叢ブロック時にオピオイドを添加することの利点について . 臨床麻酔 2004 ; 28 ( 3 ) : 627-628 .
- 2) 益田律子 : 硬膜外腔の見つけ方 . LiSA 2004 ; 11 ( 4 ) : 328-329 .
- 3) 益田律子 : 硬膜外腔でカテーテルが切れたらどうする ? . LiSA 2004 ; 11 ( 4 ) : 330-333 .
- 4) 井上哲夫 : 日帰り手術の麻酔 ( 特集 : ここまできた泌尿器科日帰り手術 ) . 臨床泌尿器科学 2004 ; 58 ( 5 ) : 295-299 .
- 5) 輪嶋善一郎 , 益田律子 , 井上哲夫 : 局所麻酔の持続注入と間欠注入の差について . 臨床麻酔 2004 ; 28 ( 8 ) : 1385-1386 .
- 6) 益田律子 , 横山和子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学名誉教授 ) : 星状神経節ブロックに合併した頸椎化膿性椎体椎間板炎の臨床的検討 . ペインクリニック別冊 2004 ; 25 ( 9 ) : S361-S367 .

(3) 症例報告 :

- 1) 加藤信也 , 益田律子 , 井上哲夫 , 近藤陽一<sup>1)</sup> , 田村高子<sup>1)</sup> , 小川 龍<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立成育医療センター疼痛管理科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 ) : 遺伝子関連性小児周期性関節痛の1家系 . 日本ペインクリニック学会誌 2005 ; 12 ( 1 ) : 14-16 .

著 書

- 1) 井上哲夫 : [ 分担 ] 胸部持続硬膜外麻酔時の血圧低下の対処法について . 臨床麻酔Q&A ( I ) ( 臨床麻酔編集委員会 ) , 2004 ; pp54-55 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 2) 井上哲夫 : [ 分担 ] 硬膜外腔への誤薬液注入の対処法について . 臨床麻酔Q&A ( I ) ( 臨床麻酔編集委員会 ) , 2004 ; pp157-158 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 3) 井上哲夫 : [ 分担 ] 下部消化管手術時の胸部硬膜外麻酔の保険適応について . 臨床麻酔Q&A ( I ) ( 臨床麻酔編集委員会 ) , 2004 ; pp170-171 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 4) 加藤信也 , 加藤啓一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本赤十字医療センター麻酔科 ) : [ 分担 ] 携帯用酸素の安全性と有効性 : 医薬部外品の問題点 . 臨床麻酔科学講座 IV ( 臨床麻酔科編集委員会 ) , 2004 ; pp460-464 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 5) 井上哲夫 : [ 分担 ] 新しい挿管補助具について . 臨床麻酔Q&A ( II ) ( 臨床麻酔編集委員会 ) , 2004 ; pp138-139 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 6) 井上哲夫 : [ 分担 ] 術後回復質と術直後の管理 : 低酸素症 . 麻酔科診療プラクティス16 : これだけは知っておきたい術後管理 ( 高崎真弓 , 弓削孟文 , 稲田栄一 , 岩崎 寛編集 ) , 2004 ; pp12-15 , 文光堂 .
- 7) 益田律子 : [ 分担 ] プピバカインの高比重液と等比重液の使い分け , プピバカインとテトラカインの使い分け . 臨床麻酔Q&A ( II ) ( 臨床麻酔編集委員会 ) , 2004 ; pp97-98 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 8) 益田律子 : [ 分担 ] 等比重0.5%プピバカインによる脊髄くも膜下麻酔 , 調節の工夫 : 大腿骨人工骨頭置換術 , 虫垂切除術 , 帝王切開に対して . 臨床麻酔Q&A ( II ) ( 臨床麻酔編集委員会 ) , 2004 ; pp194-196 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 9) 益田律子 : [ 分担 ] 硬膜外麻酔では麻酔レベルの決定に比重はどのくらいの意味をもつか ? . 臨床麻酔Q&A ( II ) ( 臨床麻酔編集委員会 ) , 2004 ; pp166-167 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 井上哲夫 : 気道管理のストラテジー . 日本麻酔科学会第51回大会 , 2004 . 5 .

(2) 一般講演 :

- 1) Ogura A<sup>1)</sup>, Wajima Z, Imanaga K<sup>2)</sup>, Shiga T, Yoshikawa T<sup>3)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Kashiwa Citizens Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Anesthesiology, National Tochigi Hospital ): Incidence of complications related to epidural catheterization in the lower thoracic region . Euroanaesthesia 2004 ( Joint Meeting of the European Society of Anaesthesiologists and European Academy of Anaesthesiology )( Lisbon ), 2004 . 6 .
- 2) Masuda R, Inoue T, Katoh N : Clinical Evaluation of Spontaneous Intracranial Hypotension ( SIH ): From the standpoint of Pain Clinicians . 11th International Pain Clinic World Society of Pain ( Tokyo ), 2004 . 7 .
- 3) Masuda R, Tanuma K<sup>1)</sup>, Tanuma Y<sup>2)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup>Dept. of Anatomy II, Nippon Med School, <sup>2)</sup>Dept. of Anatomy, Teikyo University ): Lateral and posterior meningeal septa in human subarachnoid space . XXIII Annual ESRA Congress ( Athens ), 2004 . 9 .
- 4) Ozawa K<sup>1)</sup>, Wajima Z, Shiga T, Inoue T ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Evaluation of Motor Blockade during Epidural Anesthesia Using Cystometry . The American Society of Anesthesiologists 2004 Annual Meeting ( Las Vegas ), 2004 . 10 .
- 5) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Ogawa R<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Magnesium prophylaxis for arrhythmias after cardiac surgery : a meta-analysis of randomized controlled trials . The American Society of Anesthesiologists 2004 Annual Meeting ( Las Vegas ), 2004 . 10 .
- 6) Wajima Z, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Imanaga K<sup>2)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, National Tochigi Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Effect of Prophylactic Bronchodilator Treatment with Intravenous Carperitide on Airway Resistance after Tracheal Intubation in Smokers and Nonsmokers . The American Society of Anesthesiologists 2004 Annual Meeting ( Las Vegas ), 2004 . 10 .
- 7) Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Wajima Z, Ogura A<sup>2)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, National Tochigi Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Anesthesiology, Kashiwa Citizens Hospital, <sup>3)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Pretreatment with 20% Albumin Solution Significantly Reduces Pain on Injection of Propofol . The American Society of Anesthesiologists 2004 Annual Meeting ( Las Vegas ), 2004 . 10 .
- 8) 今永和幸<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 加藤摩希子<sup>1)</sup>, 金正<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>海老名総合病院麻酔科, <sup>2)</sup>付属病院麻酔科 ): フェンタニールの硬膜外カテーテル留置時における局所麻酔薬浸潤痛に及ぼす影響 . 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004 . 5 .
- 9) 加藤信也, 益田律子, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院麻酔科 ): 緊張性頭痛に対する良導絡治療 . 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004 . 5 .
- 10) 斉藤 剛, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院麻酔科 ): 挿管困難が予想された前縦帯骨化症患者の麻酔管理 . 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004 . 5 .
- 11) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院麻酔科 ): 気管挿管前のカルペリチド投与の気道抵抗に及ぼす影響 : 喫煙者と非喫煙者について . 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004 . 5 .
- 12) 志賀俊哉, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院麻酔科 ): 予防的マグネシウム投与による心臓手術後の抗不整脈効果 : メタ・アナリシスを用いて . 日本麻酔科学会第51回学術集会, 2004 . 5 .
- 13) 益田律子, 井上哲夫, 後藤真弓, 森 隆浩, 齋藤 剛 : 婦人科開腹術後における硬膜外モルヒネ鎮痛とSpO2値の変動, 術後酸素投与の効果 . 日本麻酔科学会第51回大会, 2004 . 5 .
- 14) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 平野知子<sup>2)</sup>, 工藤秀徳<sup>3)</sup>, 平田貴和子<sup>2)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 益田律子 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>同看護部, <sup>3)</sup>同外科 ): Pain Management Team 活動報告 ( 第1報 ): 患者の状態に合わせたデュロテップパッチの使用法 . 第9回日本緩和医療学会総会, 2004 . 6 .
- 15) 志賀俊哉, 益田律子, 井上哲夫 : 帯状疱疹後に特発性血小板減少生紫斑病を発症した1例 . 日本ペインクリニック学会第38回大会, 2004 . 7 .

- 16) 加藤信也, 益田律子, 輪嶋善一郎, 志賀俊哉, 齊藤 剛, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院麻酔科): 片頭痛に対する鍼治療の有効性. 日本ペインクリニック学会第38回大会, 2004. 7.
- 17) 小倉 明, 輪嶋善一郎, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 井上哲夫(<sup>1)</sup> 国立病院機構栃木病院麻酔科): 下胸部における硬膜外カテーテル挿入時の問題点. 日本ペインクリニック学会第38回大会, 2004. 7.
- 18) 益田律子, 井上哲夫, 加藤信也, 南 和文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院整形外科): 高齢者の椎体圧迫骨折痛に対する持続硬膜外鎮痛の臨床経験. 日本ペインクリニック学会第38回大会, 2004. 7.
- 19) 竹森 健<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 同麻酔科): 腸内容物による誤嚥性肺炎に対して管理を行った1症例. 第26回日本呼吸療法医学会学術集会, 2004. 7.
- 20) 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 竹森 健<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 麻酔科): 胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の無気肺への陽・陰圧体外式人工呼吸の効果. 第26回日本呼吸療法医学会学術集会, 2004. 7.
- 21) 志賀俊哉, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院麻酔科): 超短時間作動性s遮断薬はVIMA下での気管内挿管による覚醒反応を抑制する. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 22) 吉河達祐<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎, 小倉 明<sup>2)</sup>, 縣 秀栄<sup>1)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 独立行政法人国立病院機構栃木病院麻酔科, <sup>2)</sup> 柏市立柏病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科): 1%プロポフォール注「マルイシ」<sup>®</sup>の注入時痛は1%ディプリバン<sup>®</sup>に比して有意に弱い. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 23) 吉河達祐<sup>1)</sup>, 縣 秀栄<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎, 小倉 明<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 独立行政法人国立病院機構栃木病院麻酔科, <sup>2)</sup> 柏市立柏病院麻酔科, <sup>3)</sup> 付属病院麻酔科): 経頸管的子宮粘膜下筋腫切除中にTUR症候群様症状を呈した1例. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 24) 志賀俊哉, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院麻酔科): 超短時間作動性 遮断薬はVIMA下での気管挿管による覚醒反応を抑制する. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 25) 輪嶋善一郎, 益田律子, 志賀俊哉, 設楽敏朗, 小倉 明<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 柏市立柏病院麻酔科, <sup>2)</sup> 独立行政法人国立病院機構栃木病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科): 脳動脈瘤クリッピング術前の三点固定時に生じた頻脈発作に対するエスモロールの使用. 日本臨床麻酔学会第24回大会, 2004. 10.
- 26) 益田律子, 井上哲夫, 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>2)</sup>, 山田 岳<sup>3)</sup>, 三浦剛史<sup>4)</sup>, 古山めぐみ<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup> 同外科, <sup>3)</sup> 同泌尿器科, <sup>4)</sup> 同看護部): 癌性疼痛対策におけるディスプレイPCA注入装置の工夫と問題点. 第19回日本ペインクリニック学会東京地方会, 2005. 3.

## 18．救急医学講座

### [ 付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急部・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック ]

#### 研究概要

平成16年度の研究概要を各班別に記した。

外傷班：Open abdominal managementを要する症例に対する閉腹，閉創法，当院におけるabdominal critical careの現状について検討し報告した。また，JATEC，JPTECへの参加，協力，院内研修医師への外傷診療教育，指導を行った。

感染症班：救命救急領域における抗MRSA薬，新しい抗真菌薬の投与方法，有効性，安全性の臨床研究を施行している。また，感染症対策，適切な抗生剤の使用などについて，週1回カンファレンス，講義を施行し，感染症予防，治療，耐性菌対策について，指導，教育を徹底した。

整形班：多発外傷における整形外傷の治療戦略としDamage Control Orthopaedics (DCO)のあり方をEarly Total Care (ETC)と比較しながら検討した。また，手術治療を行った骨盤骨折および寛骨臼骨折症例の機能予後調査を行った。

脳外班：重症脳血管障害，頭部外傷，頸髄損傷，および蘇生後脳症に関する治療，頭蓋内循環代謝動態に関して臨床的，基礎的研究を行った。これらの研究は国内外の多くの学会で発表し，文部科学省や厚生労働省からの科学研究費の助成を受け，高い評価を得た。このような中から大学院生1名が卒業し学位を取得した。

熱傷班：広範囲熱傷・高齢者熱傷・化学熱傷・気熱熱傷など多くの治療を行い，臨床的治療水準は，国内でも有数な施設であるといえる。

研究においては，早期手術における侵襲度を評価し生体への影響を評価し，また熱傷患者における感染対策を多面的に研究し実践している。

本年度も，当教室から日本熱傷学会熱傷認定医が1名合格し，今後の熱傷治療も充実できるよう最善を尽くす覚悟である。

災害班：今年度は国内外多くの災害が起きた。国内では新潟中越地震，福岡県西方沖地震，国外ではスマトラ沖地震インド洋津波災害である。それぞれの災害に班員を派遣した，特にインド洋津波災害では当教室から10名の医師，看護師，薬剤師が派遣され，その成果を種々の学会で発表した。昨年度からの懸案であったNBC災害にかかわる組織連携のあり方については，厚労省の研究班として研究を開始した。

病態生理班：病態生理班では，細菌感染症の鑑別診断と重症度判定におけるプロカルシトニンの役割，血小板増多症および減少状態におけるトロンボポエチンの動態と病態へ関与を報告した。また，日本救急医学会よりの急性期DIC診断基準の作成に加わり，新しいDIC治療開始基準を提唱した。

基礎研究班：ショックに続発する多臓器障害の発症機序を解明することを研究課題として，腸間膜リンパ液に着目し研究を行っている。我々は腸間膜リンパ液中に存在する炎症性メディエータとしてCINC-1の定性・定量を行い，さらに脂質メディエータについても分析を進めている。また，出血性ショック後の多臓器障害に対する治療戦略として，代用血液の有用性を明らかにするため，腸間膜リンパ液中の炎症性メディエータに与える影響についても検討している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Ikakura K, Naoe Y, Kitahashi A, Onodera K, Nakabayashi M, Fuse A, Sato H, Yokota H, Kurokawa A, Yamamoto Y: Evaluation of results of transcranial Doppler ultrasonography in postoperative brain hypothermia therapy for severe cases of subarachnoid hemorrhage. *Hypothermia for Acute Brain Damage* 2004; 229-233.
- 2) Harada N<sup>1)</sup>, Okajima K<sup>1)</sup>, Uchiba M<sup>1)</sup>, Kushimoto S, Isobe I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kumamoto University School of Medicine ): Antithrombin reduces ischemia/reperfusion-induced liver injury in rats by activation of cyclooxygenase-1. *Thromb Haemostat* 2004; 92 ( 3 ): 550-558.
- 3) Yokobori S, Tomita H, Tone O, Yokota H, Yamamoto Y: Comparison of hemodynamic and respiratory parameters, and outcomes between high and low cerebral perfusion pressure groups in a severe head injury. *Journal of Japanese Association for Acute Medicine* 2004; 15: 627-635.
- 4) Yokobori S<sup>1)</sup>, Tomita H<sup>1)</sup>, Tone O<sup>1)</sup>, Tamaki M<sup>1)</sup>, Sato Y<sup>1)</sup>, Nakabayashi M<sup>2)</sup>, Inaba S<sup>2)</sup>, Katsumi A<sup>2)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Yamazaki T<sup>3)</sup>, Yokota H, Yamamoto Y ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Musashino Red Cross Hospital, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Musashino Red Cross Hospital, <sup>3)</sup> Department of Psychiatry, Musashino Red Cross Hospital ): Neuropsychological Recovery in Pediatric Patients with Acute Subdural Hematoma Treated with Mild Hypothermia Therapy: report of two cases. *Neurotraumatology* 2004; 27: 221-224.
- 5) Harada N, Nemoto K, Okumura T<sup>1)</sup>, Ninomiya N<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School & Emergency Medicine, the George Washington University School of Medicine and Health Sciences ): Effect of Cannabinoids on Colonic Muscle Contractility and Tension in Guinea Pigs. *J Nippon Med Sch* 2005; 72 ( 1 ): 43-51.
- 6) 横田裕行, 志賀尚子, 佐藤秀貴, 久志本成樹, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): 脳死下臓器提供時における脳血管撮影の意義. *日本神経救急学会雑誌* 2004; 17 ( 6 ): 69-71.
- 7) 久保田稔, 横田裕行, 畝本恭子, 直江康孝, 黒川 顕, 二宮宣文: 短潜時体性感覚誘発電位の脳死診断における有用性. *脳死・脳蘇生* 2004; 16: 57-61.
- 8) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>2)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院中央検査部, <sup>2)</sup> 救急医学 ): 心筋マーカー ( 心筋トロポニン T, ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 ) と腎機能の関連性について. *日本集中治療医学会雑誌* 2004; 11 ( 3 ): 185-191.
- 9) 勝見 敦<sup>1)</sup>, 森村尚登<sup>2)</sup>, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 杉本勝彦<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 浅井康文<sup>2)</sup>, 石井 昇<sup>2)</sup>, 石原 哲<sup>2)</sup>, 杉山 貢<sup>2)</sup>, 藤井千穂<sup>2)</sup>, 辺見 弘<sup>2)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急センター厚生労働省特別厚生科学研究班, <sup>2)</sup> 厚生労働省特別厚生科学研究班 ): アンケート調査による2002FIFAワールドカップ大会における集団災害医療体制構築の活動に対する評価. *日本集団災害医学会雑誌* 2004; 9 ( 1 ): 45-51.
- 10) 村越秀光<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>2)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup> 新丸子校舎 ): 空港クリニックにおける放射線技師の役割. *日本航空医療学会雑誌* 2004; 5 ( 2 ): 18-22.
- 11) 柿沼敏行, 相星淳一, 山本保博: 出血性ショックに対する liposome-encapsulated hemoglobin が腸間膜リンパ液中の好中球活性物質に与える影響. *日本救急医学会雑誌* 2004; 15 ( 11 ): 579-586.
- 12) 横田裕行, 横堀将司, 桑本健太郎, 佐藤秀貴, 山本保博, 直江康孝, 志賀尚子, 畝本恭子: クモ膜下出血術後の急性期輸液管理. *体液・代謝管理* 2004; 20: 25-27.

13) 丸藤 哲<sup>1)</sup>, 射場敏明<sup>2)</sup>, 江口 豊<sup>3)</sup>, 大友康裕<sup>4)</sup>, 岡本好司<sup>5)</sup>, 小関一英<sup>6)</sup>, 真弓俊彦<sup>7)</sup>, 村田厚夫<sup>8)</sup>, 池田寿昭<sup>9)</sup>, 石倉宏恭<sup>10)</sup>, 上山昌史<sup>11)</sup>, 小倉裕司<sup>12)</sup>, 久志本成樹, 齋藤大蔵<sup>13)</sup>, 遠藤重厚<sup>14)</sup>, 島崎修次<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>北海道大学病院救急部・集中治療部,<sup>2)</sup>順天堂大学医学部附属浦安病院,<sup>3)</sup>滋賀医科大学医学部附属病院救急部・集中治療部,<sup>4)</sup>独立行政法人国立病院機構災害医療センター救命救急センター,<sup>5)</sup>産業医科大学医学部第一外科學,<sup>6)</sup>川口市立医療センター救命救急センター,<sup>7)</sup>名古屋大学医学部附属病院救急部・集中治療部,<sup>8)</sup>杏林大学医学部救急医学,<sup>9)</sup>東京医科大学八王子医療センター救命救急センター,<sup>10)</sup>独立行政法人国立病院機構京都医療センター救命救急センター,<sup>11)</sup>社会保険中京病院救急科,<sup>12)</sup>大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター,<sup>13)</sup>防衛医科大学校病院救急部,<sup>14)</sup>岩手医科大学医学部救急医学): 救急領域のDIC診断基準: 多施設共同前向き試験結果報告. 日救急医学会誌 2005; 16(2): 66-80.

(2) 座談会:

1) 横田裕行: 脳血管障害時の輸液. Pharma Medica 2004; 22(5): 75-84.

(3) 綜説:

- 1) Kobayashi K<sup>1)</sup>, Ikeda H<sup>1)</sup>, Higuchi R<sup>1)</sup>, Nozaki M<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Urabe M<sup>1)</sup>, Shimazaki S<sup>1)</sup>, Sugamata A<sup>1)</sup>, Aikawa N<sup>1)</sup>, Ninomiya N<sup>1)</sup>, Sakurai H<sup>1)</sup>, Hamabe Y<sup>1)</sup>, Yahagi N<sup>1)</sup>, Nakazawa H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The Tokyo Burn Unit Association): Epidemiological and outcome characteristics of major burns in Tokyo. BURNS: Journal of the International Society for Burn Injuries 2005; 31(1): S3-S11.
- 2) 近藤久禎, 山本保博: 第I部総論: 2. 災害医療と日本の災害医療システム. 総合臨床 Vol. 53 増刊「救急マニュアル2004」 2004; 53(増刊): 7(627)-10(630).
- 3) 川井 真: 脊椎・脊髄外傷. 総合臨床, 2004救急マニュアル 2004; 53(増刊): 688-692.
- 4) 川井 真: 多発外傷とそのピットホール. 今日の整形外科治療指針 第5版 2004; 51-53.
- 5) 横田裕行: 内頸静脈酸素飽和度. Clinical Neuroscience 2004; 22: 572-573.
- 6) 川井 真, 辻井厚子, 中村 徹, 山本保博: 早期・超早期手術. 救急・集中治療 2004; 16(6): 701-706.
- 7) 山本保博, 辻井厚子: 地震など自然災害における緊急医療対応. 病院設備 2004; 46(4): 273-277.
- 8) 横堀将司, 横田裕行: 救急患者への対処: 脳血管障害. エキスパートナース 2004; 7: 173-177.
- 9) 吉田竜介: 標準気管切開のpitfall. LiSA 2004; 11(9): 892-893.
- 10) 大泉 旭, 川井 真: 骨盤・寛骨臼骨折治療マニュアル: 経皮的固定法・Modified Stoppa Approach. Monthly book Orthopaedics 2004; 17(11): 79-85.
- 11) 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>2)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新丸子校舎,<sup>2)</sup>成田国際空港クリニック): 空の旅と医療費. 日本航空医療学会雑誌 2004; 5(2): 8-11.
- 12) 吉田竜介, 高山泰広, 山本保博: Monophasic(単相性)またはBiphasic(二相性)による除細動. 救急医療ジャーナル 2004; 66(12): 16-19.
- 13) 新井正徳<sup>1)</sup>, 新谷史明<sup>1)</sup>, 東 和明<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 小山 敦<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 山内 聡<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>いわき市立総合磐城共立病院救命救急センター,<sup>2)</sup>日本医科大学救急医学): 腹腔内圧. 臨床麻酔 2004; 28(12): 1944-1950.
- 14) 山本保博, 近藤久禎: 災害現場と病院における災害対応と訓練. 都市問題研究 2005; 57(1): 16-29.
- 15) 山本保博, 中谷壽男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>関西医科大学救急医学): 急性中毒. 今日の治療指針2005 2005; 1121-1149.
- 16) 山本保博: 特集: 新潟県中越地震・台風23号災害への救援活動 阪神・淡路大震災の教訓はいかされたか: 新潟県中越地震の危機管理を検証(山本保博日本医科大学救急医学教授に聞く). 看護管理 2005; 15(2): 98-100.
- 17) 小野寺謙吾, 久志本成樹: ACT. 救急医学 2005; 29(4): 384-385.
- 18) 小井土雄一, 島田 靖, 山本保博: 被災地内の病院は何をなすべきか: 新潟中越地震に学ぶ地震対策. 月刊新医療 2005; 32(2): 38-41.
- 19) 横田裕行, 富岡正雄, 山下友子, 永井周子: スリランカ国津波災害における医療支援活動. 医学の歩み

2005 ; 212 ( 12 ) : 1073-1075 .

- 20) 渥美生弘, 横田裕行: 特集: 緊急病態: これだけは見逃すな! 脳血管障害わずかな画像所見も見逃すな. レジデントノート 2005 ; 7 : 44-50 .
- 21) 吉田竜介: 救急外来, 初療室での初期対応. Emergency Care 2005 ; 18 ( 4 ) : 322-329 .
- 22) 桑本健太郎, 横田裕行: 視神経管骨折: 頭蓋をめぐって. Clinical Neuroscience 2005 ; 23 ( 5 ) : 548-550 .
- 23) 横田裕行: 脳死判定と臓器提供. 臨床医 2005 ; 31 ( 5 ) : 650-652 .
- 24) 小井土雄一: 特集 阪神・淡路大震災から10年 阪神・淡路大震災以降の災害医療の状況と今後の課題. 近代消防 2005 ; 527 ( 2月臨時増刊号 ) : 94-97 .

#### (4) 研究報告:

- 1) Yokobori S, Tomita H, Tone O, Tamaki M, Sato Y, Nakabayashi M, Inada S, Katsumi A, Suzaki S, Yamazaki T, Yokota H, Yamamoto Y : Neuropsychological recovery in pediatric patients with acute subdural hematoma treated with mild hypothermia therapy : report of two cases . Hypothermia for Acute Brain Damage 2004 ; pp168-173 .

#### (5) 症例報告:

- 1) Kuwamoto K, Yokota H, Sato H, Shiga N, Yokobori S, Takayama Y, Yamaoto Y : Survival after subarachnoid hemorrhage using brain hypothermia after recovery of spontaneous circulation from cardiopulmonary arrest : A case report . Hypothermia for Acute Brain Damage 2004 ; pp287-296 .
- 2) Morimura N<sup>1)</sup>, Katsumi A<sup>1)</sup>, Koido Y<sup>1)</sup>, Sugimoto K<sup>1)</sup>, Fuse A<sup>1)</sup>, Asai Y<sup>1)</sup>, Ishii N<sup>1)</sup>, Ishihara T<sup>1)</sup>, Fujii C<sup>1)</sup>, Sugiyama M<sup>1)</sup>, Henmi H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Health Reseach Team for “ Establishment and Evaluation of Guidlines for Mass Casualties at Mass Gatherings, ” The Ministry of Health, Labor and Welfare ) : Analysis of Patient Load Data From the 2002 FIFA World Cup Korea/Japan . Prehospital and Disaster Medicine 2004 ; 19 ( 3 ) : pp278-284 .

#### (6) 研究報告書:

- 1) 横田裕行: 平成15年度厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」総括・分担研究報告書. 平成15年度厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」総括・分担研究報告書(主任研究者: 横田裕行) 2004 .
- 2) 横田裕行: 分担研究「臓器提供施設内における脳死判定に関する研究」. 平成15年度厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」総括・分担研究報告書(主任研究者: 横田裕行) 2004 ; pp13-21 .
- 3) 久志本成樹: 分担研究「臓器提供施設での提供手続き円滑化に関する研究」. 平成15年度厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」総括・分担研究報告書(主任研究者: 横田裕行) 2004 ; pp29-33 .
- 4) 横田裕行: 厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」平成15年度~16年度総合研究報告書. 厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」平成15年度~平成16年度総合研究報告書(主任研究者: 横田裕行) 2005 .
- 5) 横田裕行: 分担研究「臓器提供施設内における脳死判定に関する研究」. 厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」平成15年度~平成16年度総合研究報告書(主任研究者: 横田裕行) 2005 ; pp19, 71-29, 79 .
- 6) 久志本成樹: 分担研究「臓器提供施設での提供手続き円滑化に関する研究」. 厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」平成15年度~平成16年度総合

研究報告書（主任研究者：横田裕行）2005；pp42，81-46，85．

- 7) 山本保博：厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成14年度，平成15年度，平成16年度総合研究報告書．厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成14年度，平成15年度，平成16年度総合研究報告書（主任研究者：山本保博）2005．
- 8) 川井 真：分担研究「天然痘予防接種評価の研究」．厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成14年度，平成15年度，平成16年度総合研究報告書（主任研究者：山本保博）2005；pp63-90．
- 9) 川井 真：分担研究「東京・千葉・厚生労働省SARS合同訓練における評価の研究」．厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成14年度，平成15年度，平成16年度総合研究報告書（主任研究者：山本保博）2005；pp166-179．
- 10) 川井 真：分担研究「2005年日本国際博覧会における発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」．厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成14年度，平成15年度，平成16年度総合研究報告書（主任研究者：山本保博）2005；pp257-390．
- 11) 山本保博：厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成16年度総括・分担研究報告書．厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成14年度，平成15年度，平成16年度総合研究報告書（主任研究者：山本保博）2005．
- 12) 川井 真：分担研究「2005年日本国際博覧会における発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」．厚生労働省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」平成14年度，平成15年度，平成16年度総合研究報告書（主任研究者：山本保博）2005；pp47-180．
- 13) 山本保博：分担研究「救命医学的分析」．厚生労働省科学研究費補助金厚生労働特別研究事業「東北北陸等での急性脳症多発事例にかかる研究」（主任研究者：柳川 洋）2005；pp45-46．

## 著 書

- 1) 山本保博，近藤久禎：〔分担〕第III章薬毒物検査とモニタリング：2. NBCテロにかかわる毒物分析．重症救急患者管理とモニタリング（編集：島崎修次），2004；pp143-150，秀潤社．
- 2) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷 こんなときどうする？．救急処置 Part 2，2004；pp16-29，労働教育センター．
- 3) 山本保博：〔監修〕第25回救急救命士国家試験問題回答・解説集．第25回救急救命士国家試験問題回答・解説集，2004；へるす出版．
- 4) 山本保博：〔編集主幹〕先端医療シリーズ27「救急医療」救急医療の最先端．先端医療シリーズ27「救急医療」救急医療の最先端，2004；（株）寺田国際事務所/先端医療技術研究所．
- 5) 牧野俊郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック）：〔分担〕第25回救急救命士国家試験問題解答解説集，2004；へるす出版．
- 6) 横田裕行：〔分担翻訳〕神経系の障害．アトラス応急処置マニュアル，2004；pp175-188，南江堂．
- 7) 横田裕行：〔分担翻訳〕異物．アトラス応急処置マニュアル，2004；pp209-216，南江堂．
- 8) 横田裕行：〔分担翻訳〕救命救急処置．アトラス応急処置マニュアル，2004；pp251-280，南江堂．
- 9) 山本保博，黒川 顕<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院救命救急部）：〔監訳〕アトラス応急処置マニュアル（原書第8版）．アトラ



ス応急処置マニュアル原書第8版, 2004; 南江堂.

- 10) 小井土雄一: [ 翻訳 ] 7. 骨, 関節および筋肉の損傷. アトラス応急処置マニュアル (原書第8版), 2004; pp145-174, 南江堂.
- 11) 小井土雄一: [ 翻訳 ] 9. 環境障害. アトラス応急処置マニュアル (原書第8版), 2004; pp189-208, 南江堂.
- 12) 横田裕行: [ 分担 ] 脳死のメカニズムと脳死判定. 第3回JATCO総合研修会テキスト, 2004; pp41-51, 日本移植コーディネータ協議会.
- 13) 山本保博: [ 監修 ] 第26回救急救命士国家試験問題回答・解説集. 第25回救急救命士国家試験問題回答・解説集, 2004; へるす出版.
- 14) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): [ 分担 ] 第26回救急救命士国家試験問題解答解説集, 2004; へるす出版.
- 15) 横田裕行: [ 分担 ] 脳神経外科学学校救急処置. 学校救急処置講演・実技講習会記録集, 2004; pp85-98, 学校救急処置研究会.
- 16) 桑原健太郎, 横田裕行: [ 共著 ] 腎疾患・透析最新の治療2005-2007. 意識障害, 2004; 南江堂.
- 17) 横田裕行: [ 分担 ] けいれん 救急医療. 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫), 2005; pp9-9, 医学書院.
- 18) 横田裕行: [ 分担 ] けいれん 救急医療. 今日の治療指針 (ポケット版) (山口 徹, 北原光夫), 2005; pp9-9, 医学書院.
- 19) 横田裕行: [ 分担 ] 頭頸部外傷. 救命救急エキスパートナーシング, 2005; pp220-228, 南江堂.
- 20) 横田裕行: [ 分担 ] 脳神経外科救急と臓器提供. 脳神経外科体系第5巻脳神経外科救急 (山浦 晶), 2005; pp416-417, 中山書店.
- 21) 山本保博: [ 総監修 ] BLSインストラクターガイド: 応急手当指導員・普及員のために. BLSインストラクターガイド: 応急手当指導員・普及員のために, 2005; (財)東京救急協会.
- 22) 山本保博: [ 総監修 ] 診療科医薬品集「救急治療・薬剤ハンドブック」. 診療科医薬品集「救急治療・薬剤ハンドブック」, 2005; (株)じほう.
- 23) 久志本成樹: [ 分担 ] 胸部外傷. 救命救急エキスパートナーシング (大橋教良, 澁谷正徳, 坂本哲也 編), 2005; pp229-237, 南江堂.
- 24) 吉田竜介: [ 分担 ] 無脈性電気活動, 心静止のプロトコール. 薬剤投与 救急救命士標準テキスト追補版2, 2005; pp122-129, 救急救命士教育研究会.
- 25) 久志本成樹: [ 編集 ] 改訂 外傷初期診療ガイドライン (日本外傷学会外傷研修コース開発委員会編), 2005; へるす出版.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 山本保博: 複雑化する災害に対する緊急医療対応について. 第8回日本救急医学会九州地方会, 2004. 5.
- 2) 山本保博: 自治体, 拠点病院と地域医療機関におけるテロ発生時の対応について. 非営利活動法人「未来医療推進支援ネットワーク」設立記念講演会, 2004. 6.
- 3) 山本保博: 進化のひびみから考える怪我と病気. 会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部救急講演会, 2004. 9.
- 4) 川井 真: 高度救命救急治療の実際. 財団法人日本弁護士連合学会議, 2004. 10.
- 5) 山本保博, 島田 靖<sup>2)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>2)</sup>, 二宮宣文<sup>2)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup>付属病院ME部, <sup>2)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 救急医療における敗血症と急性血液浄化療法について. 第9回香川急性血液浄化研究会, 2004. 11.
- 6) 山本保博, 島田 靖<sup>2)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>2)</sup>, 二宮宣文<sup>2)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup>付属病院ME部, <sup>2)</sup>多摩永山病院

- 救命救急センター): 急性循環不全と血液浄化法. 第19回急性循環不全研究会, 2004. 11.
- 7) 川井 真: 外傷初期診療におけるピットホール. 福島市外科, 整形外科医会, 2004. 11.
- 8) 山本保博: 災害医療のための体制整備と連携: 南関東直下型地震に備えて. 茨城県土浦保健所災害時の応急医療体制の整備に関する研修会, 2005. 3.
- (2) 招待講演:
- 1) 川井 真: 救急医療におけるピットホール. 岐阜大学附属病院, 救急医療研修会, 2004. 9.
- 2) 横田裕行: 脳死のメカニズムと脳死判定. 第3回JATCO総合研修会, 2004. 11.
- 3) 横田裕行: 医師から見た脳死と臓器移植の現状と課題. 第1回宗教と生命倫理シンポジウム, 2005. 2.
- 4) 横田裕行: スマトラ沖地震に対するスリランカにおける国際緊急援助隊活動. 第10回日本集団災害医学会評議員セミナー, 2005. 3.
- (3) 基調講演:
- 1) Yamamoto Y, Ninomiya N, Koido Y, Shimada Y: The History and the Development of Japan Disaster Relief Medical Team. 7th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine (China (Shanghai)), 2004. 10.
- (4) シンポジウム:
- 1) 川井 真, 木野毅彦, 佐藤憲明, 山本保博: 救急ナース・ER担当医の立場から. 日本救急医学会関東地方会, 2004. 2.
- 2) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 志賀尚子<sup>2)</sup>, 二宮宣文<sup>2)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>(1) 第二病院救命救急部, 2) 多摩永山病院救命救急センター</sup>): ERにおける緊急減圧開頭術の検討. 第28回日本神経外傷学会, 2004. 3.
- 3) 横田裕行, 横堀将司, 高島伸之介, 勝野 亮, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 布施 明, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup><sup>(1) 脳神経外科学</sup>): 頸椎・頸髄損傷に合併する椎骨動脈損傷の意義. 第28回日本神経外傷学会, 2004. 3.
- 4) 久志本成樹, 小川太志, 青木寛明, 原田尚重, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: Open abdominal managementを要する症例に対する閉腹・閉創法の検討. 第18回日本外傷学会, 2004. 5.
- 5) 横田裕行, 横堀将司, 桑本健太郎, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 山本保博, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup><sup>(1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 第二病院救命救急部</sup>): 脳死症例の短潜時体性感覚誘発電位所見とその有用性. 第17回日本脳死・脳蘇生学会, 2004. 6.
- 6) 相星淳一, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博, 小池 薫<sup>1)</sup><sup>(1) 東北大学付属病院救急部</sup>): 広範囲熱傷第14病日までの診療: 外科的治療のポイント. 第30回日本熱傷学会総会, 2004. 6.
- 7) 大泉 旭, 川井 真, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 原 義明, 山崎亮一<sup>2)</sup>, 小柳正雄, 長谷川栄寿<sup>1)</sup>, 塚本剛志<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>(1) 国立病院東京災害医療センター, 2) 川口市立医療センター</sup>): 多発外傷患者に合併した整形外科外傷治療への取り組み. 日本外傷学会, 2004. 6.
- 8) 横田裕行, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 黒川 顕, 山本保博: 脳神経外科疾患救急医療の標準化. 第29回日本外科系連合学会学術集会, 2004. 7.
- 9) 山本保博: テロリズムにおける緊急医療対応. 日本病院管理学会第227回例会, 2004. 7.
- 10) 横田裕行, 佐藤秀貴, 渥美生弘, 横堀将司, 勝野 亮, 山本保博, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup><sup>(1) 脳神経外科学</sup>): 3次救急医療施設における研修医向け脳神経外科疾患救急医療教育の試み. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 11) 荒木 尚, Drake MJ<sup>1)</sup>, Rutka TJ<sup>1)</sup>, Dirks BP<sup>1)</sup>, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>2)</sup><sup>(1) トロント小児病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科学</sup>): 小児重症頭部外傷の治療のガイドライン—トロント小児病院における脳神経外科治療. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
- 12) 横堀将司, 富田博樹<sup>1)</sup>, 戸根 修<sup>1)</sup>, 玉置正史<sup>1)</sup>, 横田裕行, 山本保博<sup>(1) 武蔵野赤十字病院脳神経外科</sup>): 重症頭部外傷急性期管理における全身血行動態, 脳灌流圧, 脳循環及び予後. 第63回日本脳神経外科学会総会,

2004 . 10 .

- 13) 相星淳一, 小野寺謙吾, 小池 薫<sup>1)</sup>, 柿沼敏行, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博<sup>(1)</sup>東北大学付属病院救急部): 代用血漿のショックに続発する多臓器障害 . 第32回日本救急医学会総会, 2004 . 10 .
- 14) 久志本成樹, 小川太志, 青木寛明, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: Open abdominal managementを要する症例に対する両側腹直筋鞘前葉反転による fascial closureの有用性 . 第32回日本救急医学会学術集会, 2004 . 10 .
- 15) 相星淳一, 山本保博: 代用血液とショックに続発する多臓器障害 . 第32回日本救急医学会総会, 2004 . 10 .
- 16) 畝本恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 唐木千晶<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>2)</sup>, 横田裕行, 黒川 頭<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>(1)</sup>第二病院救命救急部, <sup>2)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 神経救急疾患における preventable trauma deathの回避への取り組みと今後の展望 . 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005 . 2 .
- 17) 相星淳一, 小野寺謙吾, 柿沼敏行, 久志本成樹, 吉田竜介, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博, 小池 薫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学救急医学): 多臓器不全と代用血漿 . 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .

#### (5) パネルディスカッション:

- 1) 尾本健一郎, 小川太志, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博: 当院における abdominal critical careの現状 . 第32回日本救急医学会総会, 2004 . 10 .
- 2) 雨森俊介, 小井土雄一, 久志本成樹, 吉田竜介, 小川太志, 山本保博: 上部消化管穿孔例に対し保存的加療を選択するにあたっての自施設ガイドライン (胃十二指腸潰瘍穿孔に対する治療法の選択) . 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005 . 3 .

#### (6) セミナー:

- 1) 久志本成樹: プロカルシトニンで評価しよう: sepsisとその重症度判定の新しいマーカーとしてのプロカルシトニン . 第51回日本臨床検査医学会・第44回日本臨床化学会年会 連合大会, 2004 . 9 .
- 2) 久志本成樹: 重炭酸リンゲル液 . 第32回日本救急医学会学術集会, 2004 . 10 .
- 3) 久志本成樹: プロカルシトニンで評価しよう: sepsisとその重症度判定の新しいマーカーとしてのプロカルシトニン . 臨床微生物研究会定例会, 2004 . 12 .
- 4) 久志本成樹: 救急医療における輸血と輸液療法 . Critical Care Network Seminar, 2005 . 1 .

#### (7) ワークショップ:

- 1) 横田裕行, 上田康晴<sup>1)</sup>, 相星淳一, 大泉 旭, 小川太志, 小井土雄一, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博<sup>(1)</sup>第二病院救命救急部): 高度救命救急センターにおける診療報酬包括化の問題点 . 第32回日本救急医学会総会, 2004 . 10 .
- 2) 久志本成樹, 射場敏明<sup>1)</sup>, 齋藤大蔵<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂浦安病院, <sup>2)</sup>防衛大学校): 将来への展望: 分子マーカーの有用性 . 第32回日本救急医学会学術集会, 2004 . 10 .

#### (8) 一般講演:

- 1) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院中央検査部, <sup>2)</sup>救急医学): 心臓由来脂肪酸結合蛋白の上昇と外傷の重症度との関連性について . 第32回日本救急医学会総会, 2004 . 10 .
- 2) Atsumi T<sup>1)</sup>, Toda S<sup>2)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Asakura T<sup>2)</sup>, Ikeda Y<sup>3)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Critical Care and Emergency Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Department of Neurosurgery, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center): Extracellular Ascorbic Acid Radical Formation During Cerebral Ischemia-reperfusion Utilizing 4-vessel Occlusion In Rat . American Association of Neurosurgical Surgeons Annual Meeting (Orlando, USA), 2004 . 5 .
- 3) Kushimoto S, Ogawa F, Harada N, Aiboshi J, Koido Y, Yoshida R, Kawai M, Yamamoto Y: Usefulness of inversion flap of the bilateral anterior rectus abdominis sheath method for fascial closure in patients re-

- quiring open abdominal management . 63rd annual meeting of American Association for the Surgery of Trauma ( Wailea, Maui, Hawaii, USA ), 2004 . 9 .
- 4) Aiboshi J , Yamamoto Y : Neutrophil priming and the severity of burn injury . American Association for The Surgery of Trauma ( USA ), 2004 . 9 .
  - 5) Koido Y<sup>1)</sup>, Kondo H<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Yamazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Hiroo General Hospital ): Present Status of Medicine and Medical Needs in Iraq After Iraq War . 7th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine ( Shanghai, China ), 2004 . 10 .
  - 6) Oizumi A , Kawai M , Koido Y : The strategies of fracture treatment in polytrauma patients . 7th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine ( Shanghai, China ), 2004 . 11 .
  - 7) 志賀尚子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>2)</sup>, 横田裕行, 山本保博 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>第二病院救命救急部 ): 救命しなかった外傷性後頭蓋窩硬膜下血腫の2例 . 第28回日本神経外傷学会, 2004 . 3 .
  - 8) 久志本成樹, 柴田泰史, 山本保博 : Reactive thrombocytosisにおける血清トロンボポエチンレベルは全身性炎症反応レベルに相関する . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
  - 9) 桑本健太郎, 横田裕行, 佐藤秀貴, 志賀尚子, 渥美生弘, 横堀将司, 高山泰広, 山本保博 : フラワーボールによる頭部よく創の1例 . 第18回日本外傷学会, 2004 . 5 .
  - 10) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院中央検査部, <sup>2)</sup>救急医学 ): 細菌感染症におけるプロカルシトニン測定の意義 . 第55回日本医学検査学会, 2004 . 5 .
  - 11) 直江康孝<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>第二病院救命救急部 ): 救急室緊急開頭血腫除去術を施行した2例 . 第18回日本神経救急医学会学術集会, 2004 . 6 .
  - 12) 桑本健太郎, 横堀将司, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博 : 前額部頭皮皮下血腫膿瘍に合併した硬膜下膿瘍1例 . 第18回日本神経救急医学会学術集会, 2004 . 6 .
  - 13) 北原孝雄<sup>1)</sup>, 有賀 徹<sup>2)</sup>, 横田裕行, 山田 勝<sup>1)</sup>, 星ゆかり<sup>1)</sup>, 相馬一亥<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学救命救急医学, <sup>2)</sup>昭和大学救急医学 ): 脳死下臓器提供普及に向けての問題点 : 我々の提言に対するアンケート調査から . 第17回日本脳死・脳蘇生学会, 2004 . 6 .
  - 14) 小川太志, 青木寛明, 藤本将史, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 : 硫化水素中毒による意識障害の1例 . 第26回日本中毒学会総会, 2004 . 7 .
  - 15) 横田裕行, 桑本健太郎, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴, 山本保博 ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>川口市立医療センター救命救急センター ): 頸椎, 頸髄損傷における前方固定用ケージの使用経験 . 第1回島健記念宮島ニューロカンファレンス, 2004 . 8 .
  - 16) 小井土雄一, 吉田竜介, 久志本成樹, 横田裕行, 山本保博 : 院外心肺停止・初療時難治性心室細動に対して蘇生術の一環として経皮的心肺補助装置を用いた症例の検討 . 第13回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2004 . 8 .
  - 17) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝, 横田裕行, 黒川 顕, 寺本 明<sup>2)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup>第二病院救命救急部, <sup>2)</sup>脳神経外科学 ): ショックを来した多発外傷症例における頭部外傷管理の検討 . 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004 . 10 .
  - 18) 佐藤秀貴, 横田裕行, 渥美生弘, 横堀将司, 高島伸之介, 山本保博 : 脳外科領域でのバイオボックスの使用経験 . 第5回バイオペースト研究会, 2004 . 10 .
  - 19) 上笹 宙, 山本保博, 横田裕行, 川井 真, 小井土雄一, 久志本成樹, 相星淳一, 野口裕幸 : 救急領域, 特に初療におけるPCPSの有用性 . 第32回日本救急医学会総会, 2004 . 10 .
  - 20) 柿沼敏行, 相星淳一, 吉田竜介, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 : 日本医科大学高

- 度救命救急センターに搬送された産婦人科症例の検討．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 21) 吉田竜介，小井土雄一，横田裕行，山本保博：Medical Control専従化の可能性について．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 22) 川井 真，山本保博，吉田竜介，小井土雄一，久志本成樹：高度救命救急センター・救急総合診療外来の卒後研修における役割．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 23) 直江康孝<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>1)</sup>，北橋章子<sup>1)</sup>，横田裕行，畝本恭子<sup>2)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>第二病院救命救急部)：脳梗塞超急性期のperfusion CTの有用性．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 24) 佐藤秀貴，横田裕行，桑本健太郎，横堀将司，渥美生弘，山本保博：くも膜下出血における髄液S100 淡白の測定．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 25) 渥美生弘，戸田茂樹<sup>1)</sup>，池田幸穂<sup>2)</sup>，横田裕行，山本保博(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学，<sup>2)</sup>東京医科大学八王子医療センター脳神経外科)：脳虚血再還流におけるフリーラジカル：edaravonの作用機序．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 26) 小井土雄一，吉田竜介，横田裕行，山本保博，金子邦晴<sup>1)</sup>，小幡佳寛<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ペンタックス株式会社)：挿管確認用ファイバースコープの開発と有用性についての検討．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 27) 吉田竜介，小井土雄一，横田裕行，山本保博：Medical Control 担当医専従化の可能性に関して．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 28) 渥美生弘<sup>1)</sup>，戸田茂樹<sup>2)</sup>，池田幸穂<sup>3)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup>同脳神経外科学，<sup>3)</sup>東京医科大学八王子医療センター脳神経外科)：脳虚血再灌流におけるフリーラジカル：edaravoneの作用機序．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 29) 川井 真，横田裕行，小井土雄一，吉田竜介，久志本成樹，山本保博：高度救命救急センター，救急総合診療外来の卒後研修における役割．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 30) 小井土雄一<sup>1)</sup>，近藤久禎<sup>1)</sup>，山崎達枝<sup>2)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup>都立広尾病院看護部)：イラク戦争後におけるイラクの医療現状と医療ニーズ．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 31) 小井土雄一<sup>1)</sup>，吉田竜介<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，金子邦清<sup>2)</sup>，小幡佳寛<sup>2)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup>ペンタックス株式会社)：挿管確認用ファイバースコープの開発と有用性についての検討．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 32) 牧野俊郎<sup>1)</sup>，浅野悦洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック，<sup>2)</sup>新丸子校舎)：成田空港と旅行者血栓症．第50回日本宇宙航空環境医学会総会，2004．11．
- 33) 村越秀光<sup>1)</sup>，恵志正輝<sup>1)</sup>，岩瀬龍之<sup>1)</sup>，牧野俊郎<sup>1)</sup>，浅野悦洋<sup>2)</sup>，井上幸平<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック，<sup>2)</sup>新丸子校舎，<sup>3)</sup>千葉北総病院放射線科)：空港クリニックにおけるエックス線検査．第50回日本宇宙航空環境医学会総会，2004．11．
- 34) 牧野俊郎<sup>1)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック，<sup>2)</sup>救急医学)：成田空港と肺血栓塞栓症(PTE)．第11回日本航空医療学会総会，2004．11．
- 35) 畝本恭子<sup>1)</sup>，牧 真彦<sup>1)</sup>，唐木千晶<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，河野 潤<sup>2)</sup>，横田裕行，高橋 弘<sup>2)</sup>，山本保博(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部，<sup>2)</sup>同脳神経外科)：遠隔部より動脈性出血を来した急性硬膜下血腫の1例．第55回日本救急医学会関東地方会，2005．2．
- 36) 横堀将司，勝野 亮，小井土雄一，横田裕行，山本保博：Reversible posterior leukoencephalopathy syndromeを呈じた薬剤性腎不全の一小児例．第55回日本救急医学会関東地方会，2005．2．
- 37) 高島伸之介，勝野 亮，横堀将司，渥美生弘，長谷川典子，佐藤秀貴，川井 真，横田裕行，山本保博：救急室穿頭にて救命し得た脳動脈瘤破裂による急性硬膜下血腫の1例．第55回日本救急医学会関東地方会，2005．2．
- 38) 久志本成樹：敗血症における血清トロンボポエチンレベルの検討．第32回日本集中治療医学会学術集会，2005．2．
- 39) 尾本健一郎，林 幹彦，高島伸之介，久志本成樹，小井土雄一，山本保博：摘脾39年後に発症した劇症型肺炎

球菌感染症の1症例．第41回日本腹部救急医学会総会，2005．3．

(9) ポスター：

- 1) 平田清貴<sup>1)</sup>，宮本香織<sup>2)</sup>，平野公成<sup>1)</sup>，横田裕行，山本保博（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>共立薬科大学）：出来高制度と包括化制度における当院高度救命救急センターの急性期中毒診療についての検討．第26回日本中毒学会総会，2004．7．
- 2) 志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，山本保博，足立好司<sup>2)</sup>，清水一雄<sup>3)</sup>，宮下次廣<sup>4)</sup>，新 隆<sup>3)</sup>，後藤忠<sup>5)</sup>，横田裕行（<sup>1)</sup>教育推進室，<sup>2)</sup>脳神経外科学，<sup>3)</sup>外科学第2，<sup>4)</sup>放射線医学，<sup>5)</sup>解剖学第1）：本学の卒前・後の救急医学教育における脳卒中カリキュラムの検討：私立医科大学のシラバスと対比して．第63回日本脳神経外科学会総会，2004．10．
- 3) 佐藤秀貴，横田裕行，渥美生弘，横堀将司，高島伸之介，久志本成樹，山本保博：腹腔鏡下：脳室腹腔シャント術．第63回日本脳神経外科学会総会，2004．10．

## [ 第二病院救命救急部 ]

### 研究概要

当科に導入されている患者情報システム（電子カルテ）による重症度モニタリングに関連する研究が独創的である．また，三次救急医療施設のあり方の方向を変える協調・協力型救急医療体制の意義，重症頭部外傷に対する軽度脳低体温療法の有用性，他科と協力して行うDamage Control Surgeryの意義，顔面外傷診断に於ける3D-CTscanの有用性，頸髄損傷に対するNPPV（Noninvasive Positive Pressure Ventilation）導入と腹臥位による呼吸理学療法の有用性，重症呼吸不全に対するエラストーゼ阻害薬の有用性，WHONETというmicrobiology laboratory database software導入による黄色ブドウ球菌の耐性分析など，救急医学および集中治療学において多岐に渡る研究がなされている．

### 研究業績

#### 論 文

(1) 原著：

- 1) Mochizuki T, Okamoto N<sup>1)</sup>, Yagishita T<sup>1)</sup>, Takuhiro K<sup>2)</sup>, Mashiko K<sup>2)</sup>, Ogawa F<sup>2)</sup>, Tosaka N<sup>2)</sup>, Kurokawa A, Yamamoto Y<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup>千葉北総病院救命救急センター）：Analysis of antimicrobial resistance for Staphylococcus aureus strains by WHONET5：Microbiology laboratory database software．J Nippon Med Sch 2004；71（5）：345-351．
- 2) Ikakura K, Noae Y<sup>1)</sup>, Kitahashi A<sup>1)</sup>, Onodera K<sup>2)</sup>, Nakabayashi M<sup>2)</sup>, Fuse A<sup>1)</sup>, Satoh H<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Kurokawa A, Yamamoto Y<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tama-Nagayama hospital, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School）：Evaluation of Results of Transcranial Doppler Ultrasonography in Postoperative Brain Hypothermia Therapy for Severe Cases of Subarachnoid Hemorrhage．Hypothermia for Acute Brain Damage 2004；229-233．

(2) 綜説：

- 1) 黒川 顕，横田裕行<sup>1)</sup>，久保田稔<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup>多摩永山病院救命救急センター）：ABRモニタ．重症救急患者管理とモニタリング クリニカルエンジニアリング別冊 2004；113-117．
- 2) 黒川 顕：救急マニュアル2004 心電図検査．総合臨床 2004；53：809-813．
- 3) 黒川 顕：救急医療で直面する倫理的問題．Emergency Nursing 2004；17：9-9．
- 4) 黒川 顕：循環血液量減少性ショックの病態と治療．救急医学 2005；29：11-14．

(3) 症例報告：

- 1) 黒川 顕：スティーブンス・ジョンソン症候群から長期経過をたどり診療に苦慮した血球貧食症候群の1例．  
Therapeutic Research 2005；26：417-422．

著 書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕第25回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第25回救急救命士国家試験問題解答・解説集，2004；pp3-16，へるす出版．
- 2) 黒川 顕：〔分担〕第26回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第26回救急救命士国家試験問題解答・解説集，2004；pp3-17，へるす出版．
- 3) 黒川 顕：〔分担〕効果の指導のための私の工夫：救急の研修：3次救急医療施設の立場から．臨床研修指導医のためのポケットマニュアル2005（畑尾 正彦），2005；pp20-21，第一製薬株式会社．
- 4) 黒川 顕，望月 徹，宮内雅人<sup>1)</sup>，平田清貴<sup>2)</sup>，平野公晟<sup>2)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 附属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 同薬剤科）：〔共著〕救急治療・薬剤ハンドブック．診療科薬品集，2005；株式会社じほう．
- 5) 黒川 顕：〔分担〕塩素ガス中毒．今日の治療指針，2005；pp124-125，医学書院．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 上田康晴，馬場千晶，牧 真彦，望月 徹，畝本恭子，黒川 顕：患者情報システム MetaVision（FUKUDA DENSHI）を用いた重症度モニタリングの模索．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 2) 上田康晴，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 附属病院高度救命救急センター）：重傷患者におけるエイコサペンタエン酸，ガンマ-リノレン酸および抗酸化剤を含有する経管栄養剤の効果．第32回日本救急医学会総会，2004．10．
- 3) 上田康晴，馬場千晶，牧 真彦，望月 徹，畝本恭子，黒川 顕：シンポジウム（疾患と脂肪酸を考える）救急医療の立場から．大塚学術研究会，2004．11．
- 4) 上田康晴：当院におけるプレセデックス使用症例について．第2回プレセデックスラウンドテーブルディスカッション，2004．11．
- 5) 畝本恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，唐木千晶，牧 真彦，上笹 宙，上田康晴，望月 徹，二宮宣文<sup>1)</sup>，横田裕行，黒川 顕，山本保博<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 附属病院高度救命救急センター）：神経救急疾患における preventable death の回避への取り組みと今後の展望．第55回日本救急医学会関東地方会，2005．2．
- 6) 猪鹿倉恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 附属病院高度救命救急センター）：ERにおける緊急減圧開頭術の検討．第28回日本神経外傷学会，2005．3．

(2) パネルディスカッション：

- 1) 畝本恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，馬場千晶，牧 真彦，上田康晴，望月 徹，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 附属病院高度救命救急センター）：重症頭部外傷に対する軽度脳低温療法の有効性の検証．第32回日本救急医学会総会，2004．10．

(3) ワークショップ：

- 1) 黒川 顕，上田康晴，牧 真彦，望月 徹，畝本恭子，馬場千晶：三次救急医療から集中治療プラス総合診療的ERへ，自己完結型から協調・協力型へ！（卒後研修必修化後の救命救急センター・救急部の卒後研修における役割）．第32回日本救急医学会総会，2004．10．

(4) 一般講演：

- 1) 猪鹿倉恭子，馬場千晶，牧 真彦，上田康晴，望月 徹，黒川 顕：中心性脊髄損傷に伴う椎骨動脈損傷による脳梗塞の1例．第18回日本神経救急学会，2004．6．

- 2) 上田康晴, 馬場千晶, 牧 真彦, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 産科救急と Damage Control Study (DCS) について. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 3) 上笹 宙, 山本保博<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 野口裕幸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 救急領域, 特に初療における PCPS の有用性. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 4) 望月 徹, 上田康晴, 牧 真彦, 畝本恭子, 馬場千晶, 黒川 顕: 社会復帰した心肺停止症例の検討. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 5) 猪鹿倉恭子, 直江康孝<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 黒川 顕, 山本保博<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 脳神経外科学): ショックを来たす多発外傷を伴う頭部外傷症例の検討. 第63回日本脳神経外科学会総会, 2004. 10.
  - 6) 上田康晴, 馬場千晶, 牧 真彦, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: ARDS に対するエラストーゼ阻害薬の有用性について. 第1回丸子臨床研究会, 2004. 11.
  - 7) 上田康晴, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 当救命救急部における開設から1年間の熱傷患者の動向. 第13回日本熱傷学会関東地方会, 2005. 1.
  - 8) 唐木千晶, 上田康晴, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 当院における小児熱傷の検討. 第13回日本熱傷学会関東地方会, 2005. 1.
  - 9) 牧 真彦, 唐木千晶, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 当救命救急部における高齢者重症熱傷の検討. 第13回日本熱傷学会関東地方会, 2005. 1.
  - 10) 小島三貴子, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕, 久保一人<sup>1)</sup>, 内谷栄一<sup>1)</sup>, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 第二病院形成外科): 顔面外傷における3D-CTの有用性. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
  - 11) 埴 秀暁, 上田康晴, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 救命救急領域における患者情報システム Meta Vision (FUKUDA DENSHI) の有用性. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
  - 12) 竹野紗織, 上田康晴, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 結節性硬化症を合併した重症呼吸不全で人工呼吸からの離脱に難渋した症例. 日本医科大学医学会第115回例会, 2005. 2.
  - 13) 牧 真彦, 馬場千晶, 松信哲朗, 上田康晴, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 骨盤骨折を伴わない腹膜内膀胱破裂の1例. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
  - 14) 張 海濤, 上田康晴, 畝本恭子, 馬場千晶, 牧 真彦, 望月 徹, 黒川 顕: 日本と中国の救急医療体制の比較. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
  - 15) 畝本恭子, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 河野潤<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 黒川 顕, 山本保博 (<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 遠隔部より動脈性出血を来した急性硬膜下血腫の1例. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
- (5) ポスター:
- 1) 上田康晴, 牧 真彦, 馬場千晶, 黒川 顕: 高位頸髄損傷 (C3) 患者に対する NPPV および腹臥位管理の有用性について. 第32回日本集中治療医学会, 2005. 2.



## [ 多摩永山病院救命救急センター ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Kobayashi K, Ikeda H, Higuchi R, Nozaki M, Yamamoto Y, Urada M, Shimazaki S, Sugamata A, Aikawa N, Ninomiya N, Sakurai H, Hamabe Y, Yahagi N, Nakazawa H : Epidemiological and outcome characteristics of major burns in Tokyo . BURNS 2005 ; 31 ( 1 ) .
- 2) Kobayashi K, Ikeda H, Higuchi R, Nozaki M, Yamamoto Y, Urabe M, Shimazaki S, Sugamata A, Aikawa N, Ninomiya N, Sakurai H, Hamabe Y, Nakazawa H : Epidemiological and outcome characteristics of magor burns in Tokyo . Journal of the International Society for Burn Injuries 2005 ; 31 ( 1 ) : S3-s11 .
- 3) Harada N<sup>1)</sup>, Nemoto K<sup>2)</sup>, Okamura T<sup>2)</sup>, Nionomiya N<sup>1,3)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Deptatment of Pharmacology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Emergency Medicine The George Washington University School of Medicine and Heakth Sciences ) : Effects of Cannabinoids on Colonic Muscle Contractility and Tension in Guinea Pigs . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ) : 43-51 .

##### (2) 症例報告 :

- 1) 玉井英世, 加地正人, 原 俊輔, 北橋章子, 小柳正雄, 久野将宗, 中野渡雄一, 直江康孝, 二宮宣文, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 彰<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): ステイブンス・ジョンソン症候群から長期経過をたどり診療に苦慮した血球貧食症候群の1例 . Therapeutic Research 2005 ; 26 ( 3 ) .

#### 著書

- 1) 二宮宣文 : [ 分担 ] 救急時カテコラミン投与方法 . 今日の治療指針 2005 ポケット版 ( 山口 徹, 北原光夫 ), 2005 ; pp68-69, 医学書院 .
- 2) 二宮宣文 : [ 分担 ] 緊急時カテコラミン投与方法 . 今日の治療指針 2005 ( 山口 徹, 北原光夫 ), 2005 ; pp68-69, 医学書院 .

##### (1) 症例報告 :

- 1) 原 俊輔, 加地正人, 二宮宣文 : 多発外傷を原因として発症した全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害に対してシベレスタットナトリウム水和物が効果を示した1症例 . PROGRESS IN MEDICINE, 2004 ; pp304-305 .

#### 学会発表

##### (1) ワークショップ :

- 1) 加地正人 : 鈍的胸部大動脈損傷の標準的治療と課題 . 第7回 臨床救急医学会総会, 2004 . 5 .
- 2) 二宮宣文, 加地正人, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学) : 新潟中越地震における救出救助期医療援助 . 第10回日本集団災害医学会総会, 2005 . 3 .
- 3) 二宮宣文 : インドネシア・アチェ州での国際緊急援助隊の活動 . 第10回日本集団災害医学会雑誌, 2005 . 3 .

##### (2) 一般講演 :

- 1) Ninomiya N, Kuno M, Akeda M, Iwase E<sup>1)</sup>, Ishii T, Ishi T, Soyama A, Sakakibara M, Aoki M (<sup>1)</sup> Shi-

- rahigebashi Hospital, <sup>2)</sup>Emergency Assistance Japan): The Consideration of Simultaneous International Medical Repatriations-Through the Experiences of Bus Accidents in China with Multiple Casualties. 7th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine (Shanghai, China), 2004. 10.
- 2) Shiga N, Naoe Y, Ninomiya N, Tone O<sup>1)</sup>, Tomita H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery Musashino Red Cross Hospital): cerebral blood flow and metabolism in severely head-injured patients with hypothermia. The 14th International Hypoxia Symposium (Lake Louise, Canada), 2005. 2.
  - 3) 加地正人, 弥富俊太郎, 志賀尚子, 島田 靖, 久保田稔, 根本香代, 二宮宣文, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学): エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおける stable sodium の効果. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 4) 久野将宗: 心原性ショックを伴う急性心筋梗塞の来院時における重症度評価. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 5) 直江康孝, 志賀尚子, 北橋章子, 横田裕行<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>第二病院救命救急部): 脳梗塞超急性期の perfusion CT の有用性. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 6) 小柳正雄, 加地正人, 弥富俊太郎, 中野渡雄一, 原 俊輔, 久野将宗, 北橋章子, 島田 靖, 志賀尚子, 直江康孝, 二宮宣文: Missing injury 減少に向けた Tertiary Trauma Survey の実施. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 7) 二宮宣文, 志賀尚子, 弥富俊太郎, 島田 靖, 久野将宗, 原 俊輔, 緋田雅美: 南京バス事故による多数傷病者救急対応と国際患者搬送. 第32回日本救急医学会総会, 2004. 10.
  - 8) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 久野将宗, 緋田雅美, 岩瀬絵利子, 石井達夫<sup>2)</sup>, 曾山明美<sup>3)</sup>, 榊原牧子<sup>3)</sup>, 青木政幸<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>ジョージワシントン大学 救急医学, <sup>2)</sup>白髭橋病院, <sup>3)</sup>日本エマージェンシーアシスタンス): 中国でのバス事故における多数傷病者同時国際搬送の経験と問題点. 第11回日本航空医療学会総会, 2004. 11.
  - 9) 曾山明美<sup>1)</sup>, 青木政幸<sup>1)</sup>, 榊原牧子<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 島田 靖, 石井達夫<sup>2)</sup>, 岡村正江<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本エマージェンシーアシスタンス, <sup>2)</sup>白髭橋病院): 国際医療搬送における Medical Information Form (MEDIF) の問題点. 第11回日本航空医療学会総会, 2004. 11.
  - 10) 志賀尚子, 二宮宣文, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 麻痺を呈して救命救急センターに搬送された115例の検討. 第10回日本脳神経外科救急学会, 2005. 1.
  - 11) 志賀尚子, 加地正人, 弥富俊太郎, 島田 靖, 久保田稔<sup>2)</sup>, 根本香代, 二宮宣文, 山本保博<sup>3)</sup>: エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおけるポリミキシンB固定化ガラム (PMX) 血液還流の効果. 第8回エンドトキシン救急医療研究会, 2005. 2.
  - 12) 志賀尚子, 小柳正雄, 玉井英世, 直江康孝, 加地正人, 二宮宣文: 縊頸後に生じた皮質盲の1例. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
  - 13) 稲垣栄次, 久野将宗, 原 俊輔, 小柳正雄, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 直江康孝, 志賀尚子, 玉井英世, 加地正人, 二宮宣文: 剣上突起下アプローチで心臓穿刺ができなかった外傷性心破裂の1症例. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
  - 14) 原 俊輔, 稲垣栄次, 久野将宗, 小柳正雄, 玉井英世, 中野渡雄一, 志賀尚子, 弥富俊太郎, 直江康孝, 加地正人, 二宮宣文: 突発性腹腔内出血源の固定が不明瞭であった1例. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
  - 15) 直江康孝, 志賀尚子, 横田裕行<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 二宮宣文(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>第二病院救命救急部): perfusion CT が診断治療に有用であった1脳梗塞例. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
  - 16) 志賀尚子, 直江康孝, 二宮宣文, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部, <sup>2)</sup>救急医学): 救命し得なかった外傷性後頭蓋窩急性後硬膜下血腫の2例. 第28回日本神経外傷学会, 2005. 3.

## [ 千葉北総病院救命救急センター ]

### 研究概要

当施設は、千葉県北総地域の救急医療機関として平成6年1月に開設された。その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害拠点病院に、また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され、各種学会・研究会において活発な活動を行っている。平成13年10月よりドクターヘリ事業を開始し、重症外傷の治療に目覚ましい効果を挙げている。研究テーマとしては、救急医療システム、外傷医療システム、災害医療システムの研究・開発、小児救急医療、多発外傷の病態生理、特に出血性ショックの病態解明、広範囲熱傷や気道熱傷の病態解明、重症骨盤骨折の病態生理の解明ならびに敗血症、SIRS、多臓器不全の病態解明、感染制御、シュミレーション医学を取り入れた救急医学教育学の研究等がある。

またプレホスピタルケアの充実を目指し、北総救命会においての救急隊員に対する講習会、北総救命会フォーラムの開催を通じてのメディカルコントロールの確立にも力を入れている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Azuma K, Koike K<sup>1)</sup>, Kobayashi T, Mochizuki T, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tohoku University, Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School ): Detection of circulating superantigens in an intensive care unit population . International Journal of Infectious Diseases 2004 ; 292-298 .
- 2) Imaizumi T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tokuyama K<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Shiba K<sup>1)</sup>, Matsumoto H, Takuhiro K, Mashiko K ( <sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Early Access to Patients with Life-threatening Cardiovascular Disease by an Air Ambulance Service . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 5 ): 352-356 .
- 3) 小関一英<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 三宅康史<sup>1)</sup>, 齋藤大蔵<sup>1)</sup>, 藤田 尚<sup>1)</sup>, 森村尚登<sup>1)</sup>, 東平日出夫<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 青木則明<sup>2)</sup>, 横田順一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本外傷学会 Trauma Registry 検討委員会 ): Trauma Registry 検討委員会活動と今後の展望 . 日本外傷学会雑誌 2004 ; 18 ( 4 ): 394-399 .
- 4) 益子邦洋, 小関一英<sup>1)</sup>, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 森村尚登<sup>1)</sup>, 藤田 尚<sup>1)</sup>, 東平日出男<sup>1)</sup>, 三宅康史<sup>1)</sup>, 齋藤大蔵<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 井上徹英<sup>2)</sup>, 横田順一郎<sup>1)</sup>, 有賀 徹<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本外傷学会 Trauma Registry 検討委員会, <sup>2)</sup> 日本救急医学会診療の質評価指標に関する委員会 ): Trauma Registry における臨床評価指標 . 日本外傷学会雑誌 2004 ; 18 ( 4 ): 403-408 .
- 5) 坂本哲也<sup>1)</sup>, 森村尚登<sup>1)</sup>, 藤田 尚<sup>1)</sup>, 東平日出夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 三宅康史<sup>1)</sup>, 齋藤大蔵<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本外傷学会 Trauma Registry 検討委員会 ): 外傷診療の質評価としての Trauma Registry . 日本外傷学会雑誌 2004 ; 18 ( 4 ): 400-402 .
- 6) 三宅康史<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 齋藤大蔵<sup>1)</sup>, 藤田 尚<sup>1)</sup>, 森村尚登<sup>1)</sup>, 東平日出夫<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 青木則明<sup>2)</sup>, 横田順一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本外傷学会 Trauma Registry 検討委員会, <sup>2)</sup> University of Texas School of Health Information Sciences ): AIS90 と ICD-10 の相互変換の意義 . 日本外傷学会雑誌 2004 ; 18 ( 4 ): 414-417 .
- 7) 東平日出男<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 齋藤大蔵<sup>1)</sup>, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 藤田 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 森村尚登<sup>1)</sup>, 横田順一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本外傷学会 Trauma Registry 検討委員会 ): 外傷登録に関するアンケート調査 : Abbreviated Injury Scale のコード選択のルールについて . 日本外傷学会雑誌 2004 ; 18 ( 4 ): 409-413 .
- 8) 齋藤大蔵<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 三宅康史<sup>1)</sup>, 藤田 尚<sup>1)</sup>, 森村尚登<sup>1)</sup>, 東平日出夫<sup>1)</sup>, 小野

寺謙吾<sup>1)</sup>, 青木則明<sup>2)</sup>, 横田順一朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本外傷学会 Trauma Registry 検討委員会, <sup>2)</sup> University of Texas School of Health Information Sciences): Trauma Registry を利用した医学研究に関する期待と問題点. 日本外傷学会雑誌 2004; 18(4): 423-425.

- 9) 益子邦洋, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 上川雄士, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 阿部幸喜: 外傷システム構築におけるドクターヘリの意義. 日本航空医療学会雑誌 2004; 5(2): 12-17.
- 10) 阪本雄一郎, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): Pilot study からみた Trauma Registry の Pre-hospital に関する評価指標についての検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2004; 25: 8-11.

## (2) 綜説:

- 1) 益子邦洋: 未だ実態が伴っていないメディカルコントロール (MC) 体制. アスカ21 2004; 13(2): 18-19.
- 2) 上川雄士, 益子邦洋: ドレーン・チューブ類の管理. 救急医学 2004; 28(4): 457-465.
- 3) 益子邦洋, 松本 尚: JPTEC: 誕生の経緯と今後の展開. ICU と CCU (集中治療医学) 2004; 28(4): 255-262.
- 4) 益子邦洋, 小林国男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>帝京平成大学救命救急センター): JPTEC の組織と今後の展開. 救急医学 2004; 28(5): 615-618.
- 5) 益子邦洋, 松本 尚: 総合的地域メディカルコントロール体制の実際. 救急医療ジャーナル 2004; 12(3): 11-14.
- 6) 益子邦洋: 救急救命士が行う心肺停止前の輸液の許可は緊急の課題. アスカ21 2004; 13(3): 10-11.
- 7) 益子邦洋: プリVENTAブル・トラウマ・デス (防ぎ得る外傷死亡) 削減への取り組み. アスカ21 2004; 13(4): 10-11.
- 8) 益子邦洋, 松本 尚, 阪本雄一郎: 胸部外傷患者の初期診療. 外科治療 2004; 91(5): 547-556.
- 9) 上川雄士, 益子邦洋: 肺・胸郭損傷. 救急・集中治療 2004; 16(臨時増刊号): 179-185.
- 10) 阪本雄一郎, 益子邦洋: 開胸心マッサージ. 救急医学 2004; 28(13): 1445-1450.
- 11) 益子邦洋: メディカルコントロール (MC) の現状と今後の課題; 第32回日本救急医学会総会・学術集会を振り返って; 救急医療の最前線で議論されたこと;. 救急医療ジャーナル 2004; 12(6): 62-63.
- 12) 益子邦洋, 松本 尚: メディカルコントロールとは. Emergency Care 2005; 18(1): 10-17.
- 13) 益子邦洋: HEM-Net が目指すヘリコプター救急体制. アスカ21 2005; 14(1): 10-11.
- 14) 阪本雄一郎, 益子邦洋: 超音波診断装置. エマージェンシー・ケア 2005; (2005新春増刊): 228-235.
- 15) 阪本雄一郎, 益子邦洋: 外傷性ショックの病態と治療. 救急医学 2005; 29(2): 15-19.
- 16) 武井健吉, 益子邦洋: 小児外傷初期治療における診察のポイント. 小児外科 2005; 37(2): 141-145.
- 17) 益子邦洋, 工廣紀斗司, 原 義明: 災害時救急におけるトリアージの仕方とトリアージタッグの取り扱い. 治療 2005; 87(増刊): 1044-1048.

## 著 書

- 1) 上野幸廣: [分担] 救命・応急手当の基礎知識. ビックドクター 家庭医学大全科 最新版; pp3178-3199, 法研.
- 2) 上野幸廣: [分担] 第十九会. 救急医療において CPR (心肺蘇生) の中止を家族にどのように伝えられるか: 心肺蘇生と救急医療の倫理的側面. 総合診療ボックス. ギアチェンジ. 緩和医療を学ぶ二十一会; pp176-183, 医学書院.
- 3) 齋藤伸行, 益子邦洋: [分担] 溺水・呼吸器疾患最新の治療 2004-2006 (工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博編集), 2004; pp177-179, 南江堂.
- 4) 島崎修次<sup>1)</sup>, 井上智子<sup>1)</sup>, 大久保一郎<sup>1)</sup>, 上嶋権兵衛<sup>1)</sup>, 小林国男<sup>1)</sup>, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 鈴川正之<sup>1)</sup>, 鈴木 忠<sup>1)</sup>, 羽

- 生田俊<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 前川和彦<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 丸川征四郎<sup>1)</sup>, 山中郁男<sup>1)</sup>, 山本五十年<sup>1)</sup>, 吉岡敏治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 救急救命士国家試験出題基準委員会): [ 分担 ] 救急救命士国家試験出題基準. 救急救命士国家試験出題基準 平成16年度版 (財団法人 日本救急医療財団編集), 2004 ; pp1-58, へるす出版 .
- 5) 松本 尚: [ 翻訳 (分担) ] 第13章 急性腸閉塞. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp117-134, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 6) 松本 尚: [ 翻訳 (分担) ] 第14章 腸重積と他の原因による腸閉塞. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp135-144, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 7) 松本 尚: [ 翻訳 (分担) ] 第20章 急性腹膜炎の診断. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp179-184, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 8) 松本 尚: [ 翻訳 (分担) ] 第24章 急性腹症に類似する疾患. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp209-218, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 9) 阪本雄一郎, 益子邦洋: [ 分担 ] 呼吸器外傷. 救急マニュアル2004, 2004 ; pp677-683, 永井書店 .
  - 10) 上川雄士, 益子邦洋: [ 分担 ] 気管支内視鏡. 重症救急患者管理とモニタリング (島崎修次編集), 2004 ; pp227-233, 秀潤社 .
  - 11) 上川雄士, 益子邦洋: [ 分担 ] 救急患者の初期診察. 臨床研修イラストレイテッド 第2巻 基本手技 [ 救急処置 ] 改訂第3版 (奈良信雄編集), 2004 ; pp10-12, 羊土社 .
  - 12) 上川雄士, 益子邦洋: [ 分担 ] 人工呼吸. 臨床研修イラストレイテッド 第2巻 基本手技 [ 救急処置 ] 改訂第3版 (奈良信雄編集), 2004 ; pp13 16, 羊土社 .
  - 13) 上川雄士, 武井健吉, 益子邦洋: [ 分担 ] 心臓マッサージ. 臨床研修イラストレイテッド 第2巻 基本手技 [ 救急処置 ] 改訂第3版 (奈良信雄編集), 2004 ; pp31-33, 羊土社 .
  - 14) 上川雄士, 益子邦洋: [ 分担 ] ショック対策. 臨床研修イラストレイテッド 第2巻 基本手技 [ 救急処置 ] 改訂第3版 (奈良信雄編集), 2004 ; pp45-52, 羊土社 .
  - 15) 益子邦洋: [ 翻訳 (分担) ] 第19章 尿生殖器症状を伴う急性腹部疾患. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp175-178, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 16) 益子邦洋: [ 翻訳 (分担) ] 第2章 診断法: 病歴. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp13-20, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 17) 松本 尚: [ 翻訳 (分担) ] 第4章 診断法: 症状と徴候の組み合わせ. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp31-40, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 18) 阪本雄一郎: [ 翻訳 (分担) ] 第22章 術後の腹部症状. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp193-200, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 19) 阪本雄一郎: [ 翻訳 (分担) ] 第6章 虫垂炎. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp51-64, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 20) 阪本雄一郎: [ 翻訳 (分担) ] 第7章 虫垂炎の鑑別診断. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp65-80, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 21) 阪本雄一郎: [ 翻訳 (分担) ] 第11章 左季肋部に生じる急性腹部病変. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp107-110, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 22) 松本 尚: [ 翻訳 (分担) ] 第9章 急性脾炎. 急性腹症の早期診断; 病歴と身体所見により診断技能をみがく (監訳 小関一英), 2004 ; pp93-98, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
  - 23) 原 義明: [ 翻訳 (分担) ] Chapter 18 四肢の挫滅創. 外傷患者の初期診療: エビデンスに基づくアプローチ

- (小関一英監訳), 2004 ; pp176-180, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 24) 原 義明: [ 翻訳 ( 分担 ) ] Chapter 19 手の外傷 . 外傷患者の初期診療 : エビデンスに基づくアプローチ ( 小関一英監訳 ), 2004 ; pp181-186, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 25) 益子邦洋: [ 翻訳 ( 分担 ) ] 第1章 応急処置の基本 . アトラス応急処置マニュアル 原書第8版 ( 山本保博, 黒川 顯監訳 ), 2004 ; pp11-38, 南江堂 .
- 26) 上野幸廣, 益子邦洋: [ 翻訳 ( 分担 ) ] 第12章 出産, その他の疾病 . アトラス応急処置マニュアル原書第8版 ( 監訳 . 山本保博, 里川 顯 ), 2004 ; pp231-250, 南江堂 .
- 27) 行岡哲男<sup>1)</sup>, 野口 宏<sup>2)</sup>, 平出 敦<sup>3)</sup>, 益子邦洋, 松本 尚, 横田順一郎<sup>4)</sup>, 奈良浩介<sup>5)</sup>, 田中秀治<sup>6)</sup>, 中谷壽男<sup>7)</sup>, 小澤和弘<sup>8)</sup>, 飯國安許<sup>9)</sup>, 有賀 徹<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京医科大学救急医学講座, <sup>2)</sup> 愛知医科大学高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 京都大学大学院医学研究科医学教育推進センター, <sup>4)</sup> 大阪府立泉州救命救急センター, <sup>5)</sup> 救急救命東京研修所, <sup>6)</sup> 国士舘大学スポーツ医科学科, <sup>7)</sup> 関西医科大学救急医学, <sup>8)</sup> 名古屋市消防局救急対策室, <sup>9)</sup> 出雲市外4町広域消防組合消防本部警防課, <sup>10)</sup> 昭和大学救急医学講座 ): [ 共著 ] オフライン・メディカルコントロール . 病院前救護とメディカルコントロール ( 日本救急医学会・厚生労働省・総務省消防庁監修 日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会編集 ), 2005 ; pp217-288, 医学書院 .
- 28) 松本 尚: [ 分担 ] 第9章1節 重症度・緊急度の判断 . 外傷病院前救護ガイドラインJPTEC ( JPTEC協議会テキスト編集委員会 編 ), 2005 ; pp186-191, プラネット .
- 29) 益子邦洋: [ 分担 ] 多発外傷 . 今日の治療指針2005年版 ( Volume 47 ) ( 山口 徹, 北原光夫総編集 ), 2005 ; pp29-30, 医学書院 .
- 30) 益子邦洋: [ 分担 ] 救急医学・救急医療の方法論 . CHART救命救急 第3版 ( 有賀 徹編集 ), 2005 ; pp13-17, 新晃社 .
- 31) 益子邦洋: [ 編集 ] 外傷病院前救護ガイドラインJPTEC ( JPTEC協議会テキスト編集委員会編 ), 2005 ; pp1-225, プラネット .
- 32) 松本 尚: [ 分担 ] 第5章4節 腹部外傷 . 外傷病院前救護ガイドラインJPTEC ( JPTEC協議会テキスト編集委員会編 ), 2005 ; pp82-85, プラネット .
- 33) 益子邦洋: [ 分担 ] 薬剤投与に関わるメディカルコントロール体制 . 薬剤投与 救急救命士標準テキスト追補版II ( 救急救命士教育研究会監修 ), 2005 ; pp137-142, へるす出版 .
- 34) 益子邦洋: [ 分担 ] 活動記録と事後検証 . 薬剤投与 救急救命士標準テキスト追補版II ( 救急救命士教育研究会監修 ), 2005 ; pp145-146, へるす出版 .
- 35) 益子邦洋: [ 分担 ] 薬剤投与における医師, 救急救命士間の連携 . 薬剤投与 救急救命士標準テキスト追補版II ( 救急救命士教育研究会監修 ), 2005 ; pp143-144, へるす出版 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 松本 尚: 救急搬送システムの理想的構築 : 外傷システムを例に . 第27回佐賀救急医学会, 2004 . 9 .
- 2) 益子邦洋: Preventable Trauma Death ( 防ぎ得る外傷死亡 ) の撲滅を目指して . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 3) 益子邦洋: 千葉県ドクターヘリの活動実績と将来展望 . 第6回富山救急・災害医療懇話会, 2004 . 11 .
- 4) 益子邦洋: 胸部外傷の初期診療 ( 病院前からERまでのエッセンス ) . 第4回城東救急医療研究会, 2004 . 12 .

### (2) 招待講演 :

- 1) 松本 尚: メディカルコントロールについて . 第2回BANDO救急セミナー, 2004 . 8 .
- 2) 益子邦洋: 地域が求める救命救急センターのありかた : 日本医科大学千葉北総病院救命救急センターの活動 . 第2回地域医療研究会, 2005 . 1 .

(3) 教育講演：

- 1) 益子邦洋：ダメージコントロールサージェリー．第104回日本外科学会定期学術集会，2004．4．
- 2) 松本 尚：MC体制下における北総救命会の歩みと役割．第22回東海救急救命士会，2005．1．
- 3) 益子邦洋：ドクターヘリの救急活動について．第7回茨城県消防長会救急救命士セミナー，2005．2．

(4) 基調講演：

- 1) 益子邦洋：医師が救急現場に行くことの重要性．第5回首都圏救急医療ミーティング，2004．7．

(5) シンポジウム：

- 1) 松本 尚，益子邦洋，原 義明，工廣紀斗司，上川雄士，阪本雄一郎，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：Damage control surgeryの決断はどう下すべきか．第18回日本外傷学会，2004．5．
- 2) 松本 尚，益子邦洋，工廣紀斗司，原 義明，上川雄士，阪本雄一郎，森田良平，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：出血性ショックに対する救急救命士への輸液許可を急げ！．日本臨床救急医学会総会，2004．5．
- 3) 益子邦洋：心大血管外傷の治療戦略(大血管外傷とショック)．第19回日本救命医療学会総会，2004．9．
- 4) 上川雄士，松本 尚，工廣紀斗司，原 義明，阪本雄一郎，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋：破裂性腹部大動脈瘤手術後のAbdominal compartment syndrome 予防戦略(Damage Control Surgery(DCS)とAbdominal Compartment Syndrome(ACS))．第32回日本救急医学会総会・学術集会，2004．10．
- 5) 益子邦洋：救急救命士制度の現状と将来展望(救急救命士 現場での役割と展望)．第10回日本脳神経外科救急学会，2005．1．
- 6) 益子邦洋：外傷診療の標準化はなぜ必要か？(プレホスピタルケアとガイドライン(JPTEC, JATEC))．第10回日本脳神経外科救急学会，2005．1．

(6) パネルディスカッション：

- 1) 益子邦洋：病院前救護体制の各地の現況．第4回県南救急フォーラム，2004．6．
- 2) 阪本雄一郎，松本 尚，上川雄士，工廣紀斗司，原 義明，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：重症腹部損傷症例に対するDamage Control Surgeryの決断基準スコアについての検討(救急医療における新しい重症度評価法と新しいモニタリング)．第32回日本救急医学会総会・学術集会，2004．10．
- 3) 阪本雄一郎，松本 尚，上川雄士，工廣紀斗司，原 義明，森田良平，武井健吉，上野幸廣，阿部幸喜，富田祥輝，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：腹部救急疾患による敗血症性ショックに対する治療戦略についての検討．第9回エンドトキシン血症救命治療研究会，2005．2．
- 4) 阿部幸喜，阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，上川雄士，工廣紀斗司：腹部実質臓器損傷に対するIVRの適応と限界．第41回日本腹部救急医学会総会，2005．3．

(7) ワークショップ：

- 1) 工廣紀斗司：外傷院外CPA例の検証．第7回日本臨床救急医学会総会，2004．5．
- 2) 加地正人<sup>1)</sup>，大友康裕<sup>2)</sup>，久志本成樹<sup>3)</sup>，上川雄士，弥富俊太郎<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，山本保博<sup>3)</sup>，黒川 顕<sup>4)</sup>，益子邦洋，辺見 弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター，<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター，<sup>4)</sup>同第二病院救命救急部)：鈍的胸部大動脈損傷の標準的治療と課題．第7回日本臨床救急医学会総会，2004．5．
- 3) 松本 尚，益子邦洋，上川雄士，原 義明，工廣紀斗司，阪本雄一郎，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：MCの質の保証のためにはMC専従医が必要である．第32回日本救急医学会総会・学術集会，2004．10．
- 4) 工廣紀斗司，阪本雄一郎，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，上川雄士，原 義明，松本 尚，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：ペイシエントシミュレーターを用いた実践的危機管理教育カリキュラムの開

発．第32回日本救急医学会総会・学術集会，2004．10．

(8) 一般講演：

- 1) Hata N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Shiiba K<sup>1)</sup>, Matsumoto H, Mashiko K, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Tokuyama K<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): Air ambulance system in the treatment of acute coronary syndrome . Cardiovascular and Interventional Radiology 2004 ( Barcelona ), 2004 . 9 .
- 2) 武井健吉, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 上野幸廣, 富田祥輝, 益子邦洋: 迅速な現場出勤と緊急処置が効果的であった多発外傷の1例．第7回千葉県救急医療研究会, 2004 . 4 .
- 3) 阪本雄一郎, 松本 尚, 上川雄士, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): pilot study からみた Trauma registry の評価指標の問題点についての検討．第7回日本臨床救急医学会総会, 2004 . 5 .
- 4) 武井健吉, 益子邦洋, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 上野幸廣, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 小児外傷の特徴: 救命率向上を目指して．第7回日本臨床救急医学会総会, 2004 . 5 .
- 5) 富田祥輝, 益子邦洋, 松本 尚, 上川雄士, 工廣紀斗司, 原 義明, 阪本雄一郎, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 熱傷と圧挫によるコンパートメント症候群の1例．第18回千葉県重症患者管理研究会, 2004 . 9 .
- 6) 上西蔵人, 益子邦洋, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 上川雄士, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 腓十二指腸動脈瘤破裂による出血性ショック症例に対して damage control surgery を施行し救命し得た1例．第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004 . 10 .
- 7) 森田良平, 上野幸廣, 富田祥輝, 武井健吉, 阪本雄一郎, 上川雄士, 原 義明, 工廣紀斗司, 松本 尚, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 低血糖発作に対する初期治療開始時間と治療効果．第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004 . 10 .
- 8) 富田祥輝, 益子邦洋, 松本 尚, 上川雄士, 工廣紀斗司, 原 義明, 阪本雄一郎, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 重症上腕外傷に緊急性の高い胸部外傷を合併した症例の検討．第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004 . 10 .
- 9) 上野幸廣, 阪本雄一郎, 松本 尚, 益子邦洋, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 森田良平, 武井健吉, 富田祥輝, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 救命救急センターにおける上部消化管出血137例の検討．第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004 . 10 .
- 10) 中山 瞬<sup>1)</sup>, 松本 尚, 小池 薫<sup>2)</sup>, 篠澤洋太郎<sup>2)</sup>, 益子邦洋 (<sup>1)</sup> 東北大学医学部医学科, <sup>2)</sup> 同大学院医学系研究科救急医学分野): 医学部学生が検討した救急医療におけるヘリ利用の経済評価: 千葉県ドクターヘリについての費用便益分析．第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004 . 10 .
- 11) 武井健吉, 益子邦洋, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 上野幸廣, 富田祥輝, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 小児重症多発外傷の治療戦略は成人と同じでよいのか? ．第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004 . 10 .
- 12) 上川雄士, 益子邦洋: 外傷性心損傷手術例の検討．第57回日本胸部外科学会定期学術集会, 2004 . 10 .
- 13) 阿部幸喜, 益子邦洋, 松本 尚, 上川雄士, 工廣紀斗司, 原 義明, 阪本雄一郎, 武井健吉, 森田良平, 上野幸廣, 富田祥輝, 白壁章宏, 望月正孝, 井内亜美: ドクターヘリにおける早期輸液効果．第5回千葉CCM輸液・栄養研究会, 2004 . 10 .
- 14) 住吉宏樹, 阪本雄一郎, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 阿部幸喜, 益子邦洋: 壊疽性胆嚢炎による敗血症性ショックに対して, PMX-DHP が著効した1例．第16回千葉Critical Care Medicine研究会, 2004 . 12 .
- 15) 益子邦洋: 救急搬送における重症度・緊急度判断基準．第13回全国救急隊員シンポジウム, 2005 . 1 .



- 16) 山口重貴, 原 義明, 松本 尚, 工廣紀斗司, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 阿部幸喜, 益子邦洋: 重症骨盤・四肢外傷に対する治療戦略が奏功した1例. 第19回千葉集中治療研究会, 2005. 2.
- 17) 阿部幸喜, 松本 尚, 上川雄士, 阪本雄一郎, 原 義明, 工廣紀斗司, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 益子邦洋: 当院に搬送された鈍的胸部大動脈損傷症例の検討. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
- 18) 富田祥輝, 原 義明, 森田良平, 阿部幸喜, 山口重貴, 上野幸廣, 武井健吉, 阪本雄一郎, 工廣紀斗司, 松本尚, 益子邦洋, 川井 真<sup>1)</sup>, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 外傷性仮性動脈瘤破裂により, 慢性期に出血性ショックに陥った1例の検討. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
- (9) ポスター:
- 1) Takuhiro K, Matsumoto H, Kamikawa Y, Sakamoto Y, Hara Y, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Hospital): Stand-by intra-aortic balloon occlusion for the prevention of cardiac arrest caused by intra-abdominal hemorrhage or retro-peritoneal hemorrhage. American association for the surgery of trauma; sixty-third meeting ( Maui, Hawaii ), 2004. 10.
- (10) 診療と研究のトピックス:
- 1) 阪本雄一郎, 松本 尚, 上川雄士, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 重症肝損傷に対する救急室開腹手術の意義. 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005. 3.

## 19．形成外科学講座

### [ 付属病院形成外科・美容外科 ]

#### 研究概要

本年度の形成外科学教室は多数の英文論文が掲載されて、世界にその名を広めた。とくに、臨床部門では血管付加超薄皮弁の更なる発展についての論文や、独自の局所皮弁法や区域皮弁と遊離皮弁についての報告があった。

また、基礎部門ではケロイドの治療と分子遺伝学的解明に成果があり、また脂肪組織から得られた幹細胞による、種々の組織作成、とりわけ造血管疾患の治療についての成果は国際的に注目を浴びている。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Ogawa R, Mizuno H, Watanabe A<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Second Biochemistry and Molecular Biology): Adipogenic differentiation by adipose-derived stem cells harvested from GFP transgenic mice - including relationship of sex differences-. Biochem. Bioph. Res. Co 2004 ; 319 : 511-517 .
- 2) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Mizuno H, Kumita S<sup>2)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Internal Medicine , <sup>2)</sup> Radiology ): Therapeutic angiogenesis by autologous bone marrow cell implantation in refractory chronic peripheral arterial disease using assessment of neovascularization by 99mTc-tetrofosmin perfusion scintigraphy . Cell Transplantation 2004 ; 13 ( 4 ): 429-437 .
- 3) Ogawa R, Hyakusoku H : Bipedicled free Super-thin flap harvesting from the anterior chest . Plast Reconstr Surg 2004 ; 113 ( 4 ): 1299-1300 .
- 4) Hyakusoku H, Ogawa R : A new skin closure technique with running sutures and tissue adhesive . Plast Reconstr Surg 2004 ; 113 ( 5 ): 1526-1527 .
- 5) Murakami M, Hyakusoku H, Akimoto M<sup>1)</sup>, Mita S<sup>2)</sup>, Sasaki S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Urology , <sup>2)</sup> Obstetrics and Gynecology ): Use of deep inferior epigastric artery flaps for reconstruction of the female genitalia . Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 2004 ; 38 ( 4 ): 215-219 .
- 6) Murakami M, Hyakusoku H : Reconstruction of a defect after harvesting a radial forearm flap using a narrow pedicled paraumbilical perforator-based subdermal vascular network ( super-thin ) flap . Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 2004 ; 38 ( 5 ): 281-283 .
- 7) Ogawa R, Hyakusoku H, Murakami M, Gao J-H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Nan-Fang Medical University ): Clinical and basic research on Occipito-cervico-dorsal flaps : including a study of the anatomical territories of dorsal trunk vessels . Plast Reconstr Surg 2004 ; 113 ( 7 ): 1923-1933 .
- 8) Hallock CG<sup>1)</sup>, Sano K (<sup>1)</sup> Lehigh Valley Hospital ): The medial sural medial gastrocnemius perforator free flap : an ideal prone position skin flap . Ann Plast Surg 2004 ; 52 ( 2 ): 184-187 .
- 9) Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H, Watanabe A<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Second Biochemistry and Molecular Biology ): Chondrogenic and osteogenic differentiation of adipose-derived stem cells isolated from GFP transgenic mice . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 4 ): 240-241 .
- 10) Murakami M, Hyakusoku H, Ogawa R : The scar band rotation flap . Burns 2005 ; 31 ( 2 ): 220-222 .
- 11) 小川 令, 水野博司, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 生化学第2 ): GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪組織由来幹細胞から骨・軟骨・脂肪細胞への分化誘導実験系の確立 . 日形会誌

- 2004 ; 24 ( 10 ) : 625-633 .
- 12) 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 藤本将史: 背部から挙上した薄く巨大な皮弁の経験 . 日本マイクロサージャリー学会誌 2004 ; 17 ( 1 ) : 55-60 .
- 13) 百束比古, 陳 貴史: 乳頭支持ピアスによる陥没乳頭の牽引固定法 . 日本美容外科学会会報 2004 ; 26 ( 1 ) : 26-29 .
- 14) 村上正洋, 百束比古, 小川 令: 真皮下血管網皮弁による手掌の熱傷後癩痕拘縮再建 . 熱傷 2004 ; 30 ( 3 ) : 161-167 .
- 15) 大浦武彦<sup>1)</sup>, 百束比古, 中塚貴志<sup>2)</sup>, 大慈弥裕<sup>3)</sup>, 大浦紀彦<sup>2)</sup>, 赤石諭史 ( <sup>1)</sup> 浜仁会西円山病院形成外科, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学形成外科, <sup>3)</sup> 福岡医科大学形成外科 ): ケロイド・肥厚性癩痕の治療とシリコン・ジェルシート . 臨床医薬 2004 ; 20 ( 4 ) : 439-457 .
- 16) 小川 令, 赤石諭史, 百束比古: ケロイド・肥厚性癩痕に対するシリコン・ジェルシートの使用経験-第1報- . 臨床医薬 2004 ; 20 ( 4 ) : 459-464 .
- 17) 百束比古, 小川 令: ケロイド・肥厚性癩痕に対する電子線照射療法: その基礎と臨床 . 形成外科 2004 ; 47 ( 5 ) : 507-513 .
- 18) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 千明美保<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科 ): 汎用非線形パッケージソフトウェアによる皮膚単純縫縮・Z形成術シミュレーションの試み . 日本シュミレーション外科学会誌 2004 ; 11 : 14-17 .
- 19) 村上正洋, 百束比古, 小川 令: 眼瞼の遊離植皮に併用したワイヤーフレーム外固定法の有用性 . 熱傷 2004 ; 30 ( 2 ) : 65-69 .
- 20) 陳 貴史: 新しいアイデア: 携帯顕微鏡を利用した直接検鏡検査 . 皮膚病診療 2004 ; 26 ( 6 ) : 790-790 .
- 21) 赤石諭史, 小川 令, 石丸さやか, 百束比古: 耳部ケロイドの手術治療に関する検討 . 形成外科 2004 ; 47 ( 7 ) : 777-783 .
- 22) 小川 令, 百束比古, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学 ): ケロイドに対する集学的治療: 電子線照射を含めた当施設の工夫 . 臨床皮膚科 2004 ; 58 ( 9 ) : 700-705 .
- 23) 小川 令, 赤石諭史, 百束比古: ケロイド・肥厚性癩痕に対するシリコン・ジェルシートの使用経験: 第2報 . 臨床医薬 2004 ; 20 ( 11 ) : 1109-1112 .
- 24) 大浦武彦<sup>1)</sup>, 中塚貴志<sup>2)</sup>, 白武靖久<sup>2)</sup>, 大浦紀彦<sup>2)</sup>, 小川 令, 赤石諭史 ( <sup>1)</sup> 浜仁会, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学形成外科 ): ケロイド・肥厚性癩痕に対する改良シリコン・ジェルシートの使用成績をめぐって . 臨床医薬 2004 ; 20 ( 11 ) : 1113-1132 .
- 25) 杉野宏子<sup>1)</sup>, 青木 律 ( <sup>1)</sup> 青山エルクリニック ): AptosTM による顔面たるみの治療 . 日本美容外科学会会報 2004 ; 26 ( 4 ) : 210-221 .
- 26) 小川 令, 百束比古: 血管吻合を考慮した新しい皮弁手術手技分類法 . 日医学会誌 2005 ; 1 : 26-32 .
- 27) 胡 志奇, 小川 令, 青木 律, 高 建華, 百束比古: 遊離前外側大腿皮弁196例の検討 . 日形会誌 2005 ; 25 ( 1 ) : 1-8 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 百束比古, 小川 令: ケロイド・肥厚性癩痕の治療, 外科的治療と予防 . 形成外科 2004 ; 47 ( 増刊号 ) : 252-257 .
- 2) 青木 律: ケミカルピーリングの適応と薬剤の選択 . 形成外科 2004 ; 47 ( 12 ) : 1319-1327 .
- 3) 百束比古: 熱傷後の肥厚性癩痕・癩痕拘縮 . Ortho Community 2005 ; 14 : 7-8 .
- 4) 百束比古: 異物注入を憂う . 形成外科 2005 ; 48 : 119-119 .
- ( 3 ) 症例報告 :
- 1) Chin T, Mochizuki K<sup>1)</sup>, Murakami H<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Higashitotsuka Memorial Hospital ): A case of sys-

- temic sclerosis with abdominal surgery for stenosis of the terminal ileum . Modern Rheumatology 2004 ; 14 ( 5 ): 419-421 .
- 2) Chin T , Murakami M , Hyakusoku H : Extramammary Paget's disease of the vulva subclinically extending to the bladder neck . Correct staging obtained with endoscopic urethral biopsy, Int. J. Urology 2004 ; 11 ( 8 ): 689-691 .
- 3) Murakami M , Hyakusoku H : Reconstruction of a skin defect of the parietal region using a superficial cervical artery skin flap . Plst. Reconstr. Surg 2004 ; 114 ( 7 ): 95-97 .
- 4) Oki K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H , Murakami M , Oki K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Plastic Reconstructive Surgery, Aizu Central Hospital): Dorsal intercostal perforator ( DICP ) augmented scapular "super-thin flaps" for the reconstruction of extensive scar contractures in the axilla and anterior chest : a case report . Burns 2005 ; 31 ( 1 ): 105-107 .
- 5) 陳 貴史 , 青木 律 , 河原理子 , 百束比古 : Flap in flap technique を使用した鼻唇溝部基底細胞上皮腫の1例 . Skin Cancer 2004 ; 18 : 290-293 .
- 6) 陳 貴史 , 村上裕壺<sup>1)</sup> , 村野光和<sup>1)</sup> , 望月 功<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院外科): 腕神経叢部に発生した神経鞘腫の1例 . 日形会誌 2004 ; 24 ( 10 ): 659-663 .

#### 著 書

- 1) 村上正洋 , 百束比古 : [ 分担 ] 顔面・頸部における遊離植皮術の適応と実際 . PEPARS 遊離皮膚移植術の実際 , 2004 ; pp44-52 , 全日本出版会 .
- 2) 青木 律 , 百束比古 : [ 分担 ] 炭酸ガスレーザー . 形成外科 ADVANCE シリーズ レーザー最近の進歩 , 2004 ; pp30-36 , 克誠堂 .
- 3) 青木 律 , 百束比古 : [ 分担 ] 皮膚腫瘍 . 形成外科 ADVANCE シリーズ レーザー最近の進歩 , 2004 ; pp77-83 , 克誠堂 .
- 4) 百束比古 , 河原理子 : [ 分担 ] 乳房異物の除去と再建手術 : 自家組織による再充填術を中心に . ADVANCE シリーズ 美容外科最近の進歩 ( 第2版 ) , 2004 ; pp162-169 , 克誠堂出版 .
- 5) 青木 律 : [ 分担 ] 形成外科の最新知識「絵で見る 家庭の医学」, 2004 ; pp292-301 , 三省堂 .

#### 学会発表

##### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) Hyakusoku H , Ogawa R , Murakami M , Aoki R , Gao J-H<sup>1)</sup> , Hu Z-Q<sup>1)</sup> , Jiang P<sup>1)</sup> , Wang C-M<sup>2)</sup> , Vu V-Q<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Nang-fang Medical University , <sup>2)</sup>Beijin Union Medical University , <sup>3)</sup>Viet-Nam National Burn Institute ): A decade of microvascular super-thin flap . 14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Beijin ) , 2004 . 9 .
- 2) Wang C-M<sup>1)</sup> , Zhou G<sup>1)</sup> , Chen G-G<sup>1)</sup> , Hyakusoku H ( <sup>1)</sup>Beijin Union Medical University ): Comprehensive treatment System for Hypertrophic Scar and Keloid . 14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Beijin ) , 2004 . 9 .
- 3) Aoki R , Hyakusoku H , Sugino H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Aoyama elle clinic ): Non-ablative or less-ablative skin rejuvenation . 14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Beijin ) , 2004 . 9 .
- 4) 青木 律 : appearance disorder の治療終了から患者さんの社会復帰まで : 形成外科医の役割 . 第1回外観に疾患・外傷のある人人と社会との関わり・社会復帰 ( 就業 ) 支援研究会 , 2004 . 9 .
- 5) 村上正洋 , 秋元正宇 : 巾着縫合法を応用した皮膚腫瘍の治療と有限要素法による術後形態の解析 . 第5回日本臨床ラジオ波手術研究会 , 2005 . 1 .

- 6) 村上正洋, 秋元正宇: 強度試験に基づく皮膚接着剤の使用法および臨床例. 第5回日本臨床ラジオ波手術研究会, 2005. 1.
- 7) 利根川均<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>博慈会記念病院形成外科・美容外科): これからの「急性創傷管理」と「慢性創傷管理」. 東京創傷褥瘡セミナー, 2005. 3.
- (2) シンポジウム:
- 1) 青木 律: 大学の美容外科 VS 開業医の美容外科. 第27回日本美容外科学会, 2004. 10.
- 2) 水野博司, 小川 令, 河原理子, 赤石諭史, 糸井由里恵, 百束比古: 脂肪組織由来幹細胞を用いた再生医療の up-to-date. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>第二病院形成外科): 育児最中の女性医師の現実と理想. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 2) 青木 律: 初期救命治療終了から患者の社会復帰まで: 形成外科の役割. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- (4) ワークショップ:
- 1) 水野博司, 小川 令, 河原理子, 糸井由里恵, 赤石諭史, 飛田護邦, 伊藤憲祐, 百束比古: 当施設における脂肪由来幹細胞研究の現状. 第4回日本再生医療学会, 2005. 3.
- (5) 一般講演:
- 1) Mizuno H, Shimamoto M, Ogawa R, Hyakusoku H, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Kubo K<sup>2)</sup>, Kuroyanagi Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> First Internal Medicine, <sup>2)</sup> Kitasato University): Treatment of refractory ulcers using autologous bone marrow cell implantation in conjunction with allogeneic cultured dermal substitute. 49th Annual Meeting of the Plastic Surgery Research Council ( Ann Arbor, Michigan ), 2004. 6.
- 2) Ogawa R, Mizuno H, Watanabe A<sup>1)</sup>, Miyata M<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>, Hyakusoku H (<sup>1)</sup> Second Biochemistry and Molecular Biology ): Chondrogenic, osteogenic and adipogenic differentiation of adipose tissue derived cells isolated from GFP transgenic mice. 49th Annual Meeting of the Plastic Surgery Research Council ( Ann Arbor, Michigan ), 2004. 6.
- 3) Hyakusoku H, Murakami M, Ogawa R: Reconstructive surgery of the post-burn neck scar contracture - Our 30 years history. The 12th Congress of the International Society for Burn Injuries ( Yokohama ), 2004. 8.
- 4) Ogawa R, Hyakusoku H, Murakami M: Usefulness of dorsal intercostal perforator augmented "Super-thin flap" in extensive burn reconstruction. The 12th Congress of the International Society for Burn Injuries ( Yokohama ), 2004. 8.
- 5) Ogawa R, Hyakusoku H, Koike S: Our choice of reconstructive methods in axillary scar contracture. The 12th Congress of the International Society for Burn Injuries ( Yokohama ), 2004. 8.
- 6) Murakami M, Hyakusoku H, Akimoto M, Aoki R, Ogawa R: The reconstruction of postburn scar contracture using three types of multi-lobed propeller flaps. The 12th Congress of the International Society for Burn Injuries ( Yokohama ), 2004. 8.
- 7) Wang C-M<sup>1)</sup>, Rai C<sup>1)</sup>, Lu X-Y<sup>1)</sup>, Nakazawa N<sup>2)</sup>, Hyakusoku H (<sup>1)</sup> Union Medical university, Beijing, <sup>2)</sup> Second Pathology, Nippon Medical School ): Systemic analysis of gene and cytokine expressions in keloid fibroblastic cells in vitro. 14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Beijing ), 2004. 9.
- 8) Kawahara S, Hyakusoku H, Aoki R: Treatment of late complication of cases injected Polyacrilamide. 14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Beijing ), 2004. 9.
- 9) Kubo K, Ogawa R, Akaishi S, Hyakusoku H: The new device of electron-beam irradiation therapy for keloid and hypertrophic scar. 14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Beijing ), 2004. 9.

- 10) Nomoto S, Hyakusoku H, Aoki R, Murakami M, Mizuno H, Ogawa R : Our original device in local flap method . 14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Beijing ), 2004 . 9 .
- 11) Ogawa R, Mizuno H, Watanabe A<sup>1)</sup>, Hanawa H<sup>1)</sup>, Sato S<sup>2)</sup>, Hyakusoku H, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Biochemistry and Molecular Biology , <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches ): Comparison of stromal cells harvested from murine fat and bone marrow . 2nd International Fat Applied Technology Society ( Pittsburgh ), 2004 . 10 .
- 12) Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Biochemistry and Molecular Biology ): Bone marrow regeneration using fat - for the treatment of fibroblastic bone marrow diseases - . 2nd International Fat Applied Technology Society ( Pittsburgh ), 2004 . 10 .
- 13) Ogawa R, Mizuno H, Watanabe A<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Biochemistry and Molecular Biology ): Adipose-derived stem cells harvested from GFP transgenic mice . 7th Tissue Engineering Society International ( Lausanne ), 2004 . 10 .
- 14) Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology ): Bone marrow regeneration using adipose-derived stromal cells . 7th Tissue Engineering Society International ( Lausanne ), 2004 . 10 .
- 15) Fujimura J<sup>1)</sup>, Ogawa R, Mizuno H, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Pharmacology , <sup>2)</sup>Pediatrics ): Neurogenic differentiation of adipose-derived stromal cells isolated from GFP transgenic mice . 7th Tissue Engineering Society International ( Lausanne ), 2004 . 10 .
- 16) Mizuno H, Kawahara S, Itoi Y, Ogawa R, Tobita M, Akaishi S, Hyakusoku H : Fat regeneration using adipose-derived stromal cells in mouse model . 2nd International Fat Applied Technology Meeting ( Pittsburgh, Pennsylvania ), 2004 . 10 .
- 17) Mizuno H, Shimamoto M, Ogawa R, Hyakusoku H, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Kubo K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Kitasato University ): Treatment of refractory ulcers using autologous bone marrow cell implantation in conjunction with allogeneic cultured dermal substitute . 7th Joint Meeting of the Tissue Engineering Society International and European Tissue Engineering Society ( Lausanne, Switzerland ), 2004 . 10 .
- 18) Mizuno H, Kawahara S, Itoi Y, Ogawa R, Tobita M, Akaishi S, Hyakusoku H : In vivo adipose tissue engineering using adipose-derived stromal cells . 7th Joint Meeting of the Tissue Engineering Society International and European Tissue Engineering Society ( Lausanne, Switzerland ), 2004 . 10 .
- 19) Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H, Migita M<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Biochemistry and Molecular Biology ): A new concept for the treatment of fibroblastic bone marrow diseases-Bone marrow regeneration using stem cells- . 46th American Society of Hematology ( SanDiego ), 2004 . 12 .
- 20) 島本 実, 水野博司, 河原理子, 藤本将史, 百束比古 : 豊胸用注入異物摘出後の自家組織移植による両側乳房再建症例の検討 . 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 21) 河原理子, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 各種注入材料を使用した注入異物合併症患者の治療に関するストラテジー . 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 22) 赤石諭史, 小川 令, 百束比古, 石丸さやか<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>さやかクリニック): 耳垂の形態とケロイド発生との関係 . 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 23) 水野博司, 百束比古, 小川 令, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>2)</sup>, 土佐眞美子<sup>2)</sup>, 南 史朗<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup>第二病院形成外科, <sup>3)</sup>日本医科大学大学院生体機能制御学, <sup>4)</sup>日本医科大学大学院分子生物学): ケロイドに対するオーダーメイド医療実現化プロジェクト(文部科学省リーディングプロジェクト). 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004 . 4 .

- 24) 水野博司, 島本 実, 小川 令, 内谷栄一<sup>1)</sup>, 百束比古, 宮本正章<sup>2)</sup>, 黒柳能光<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院形成外科, <sup>2)</sup>同内科学第1, <sup>3)</sup>北里大学人工皮膚研究開発センター): 血管再生療法後に同種培養真皮移植を行った最重症難治性皮膚潰瘍の治療. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 25) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 内谷栄一<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>2)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>同小児科): BCG接種後のケロイドおよび肥厚性瘢痕の検討. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 26) 青木 律, 杉野宏子<sup>1)</sup>, 井上尚子, 百束比古(<sup>1)</sup>青山エルクリニック): ThermacoolTMによる顔面皮膚の吊り上げの経験. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 27) 小川 令, 百束比古, 青木 律, 村上正洋: マイクロサージャリーを考慮した新皮弁分類の提唱: 皮弁茎の種類に基づく全く新しい分類法. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 28) 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 青木 律, 水野博司: Superficial Cervical Artery (SCA) 皮弁の穿通枝皮弁としての可能性. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 29) 青木 律, 百束比古, 赤石諭史: Flap in flap method. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 30) 杉野宏子<sup>1)</sup>, 青木 律(<sup>1)</sup>青山エルクリニック): 特殊埋没糸 (APTOS系) による頬部若返り手術の経験. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 31) 百束比古, 陳 貴史: 乳頭支持ピアスによる陥没乳頭術後固定の有用性. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 32) 平本剛士: 当科における患者情報・画像データベースについて. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 33) 河原理子, 百束比古, 青木 律, 胡 志奇, 平川慶子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): ハイドロゲルの注入による豊胸術後合併症症例の摘出術の開発. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 34) 橋田絵理香, 岩切 致, 内谷栄一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): 稀な手指外傷 one side fillet injury (仮称) の治療経験. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 35) 島本 実, 水野博司, 胡 志奇, 村上正洋, 青木 律, 百束比古: センチネルリンパ節生検後遊離前腕皮弁で再建を行った上口唇悪性黒色腫の1例. 第20回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2004. 5.
- 36) 河原理子, 青木 律, 百束比古: 顔面色素性病変の耳下腺転移を疑い, 耳下腺原発の悪性黒色腫であった症例. 第20回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2004. 5.
- 37) 南部正樹<sup>1)</sup>, 石原雅之<sup>2)</sup>, 水野博司, 山本直人<sup>1)</sup>, 中村真一郎<sup>1)</sup>, 清澤智晴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>防衛医科大学形成外科, <sup>2)</sup>防衛医学研究センター): 脂肪由来幹細胞併用ハイブリッド型人工真皮による難治性潰瘍の治療. 第43回日本エム・イー学会大会, 2004. 5.
- 38) 村上正洋, 百束比古, 平井 隆, 秋元正宇, 青木 律, 岩切 致, 小川 令, 大木更一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科): われわれの熱傷後頸部瘢痕拘縮再建: 20年間の経験と術式の変遷. 第30回日本熱傷学会学術集会(東京), 2004. 6.
- 39) 水野博司, 河原理子, 糸井由里恵, 小川 令, 赤石諭史, 百束比古: 脂肪組織由来幹細胞を用いたin vivoでの脂肪組織の再生. 第7回日本組織工学会, 2004. 7.
- 40) 小川 令, 水野博司, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 脂肪組織由来幹細胞を用いた骨髄再生の試み: 造血管疾患の治療をめざして. 第7回日本組織工学会, 2004. 7.
- 41) 小川 令, 水野博司, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 脂肪組織由来幹細胞を用いた脂肪再生におけるドナーの性差による検討. 第7回日本組織工学会, 2004. 7.
- 42) 平本 剛<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科): 比較的小範囲の熱傷により敗血症に至った症例. 第238回東京地方会, 2004. 7.
- 43) 河原理子, 百束比古, 青木 律: 顔面への異物注入後高度合併症の治療経験. 第90回日本美容外科学会, 2004. 7.
- 44) 小川 令, 水野博司, 百束比古: GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪由来幹細胞と骨髄由来幹細胞の各種間葉系細胞への分化誘導および比較検討. 第7回日本組織工学会, 2004. 7.

- 45) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 菅野淳子<sup>1)</sup>, 矢萩きくえ<sup>1)</sup>, 笹原隆子<sup>1)</sup>, 野口敬子<sup>2)</sup>, 岡 敏行<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>(1)北村山公立病院, 2)下館市民病院, 3)伊勢崎市民病院</sup>): 2つの病院の褥瘡対策チームの経験. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 46) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)千葉北総病院形成外科</sup>): 皮下ポケット拡大のメカニズムに関する考察: 有限要素法による解析から. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 47) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)会津中央病院形成外科</sup>): 高機能エアーマットレス使用にもかかわらず悪化の見られた褥瘡症例の検討. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 48) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>2)</sup>, 百束比古, 水野博司, 岡 敏行<sup>3)</sup>, 千々和剛<sup>4)</sup><sup>(1)北村山公立病院形成外科, 2)同皮膚科, 3)伊勢崎市民病院形成外科, 4)自衛隊横須賀病院形成外科</sup>): 褥瘡の手術適応と術式選択. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 49) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 平本剛士<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>(1)会津中央病院形成外科, 2)日本医科大学第二病院形成外科</sup>): 車椅子患者に発生した坐骨部褥瘡の再建における島状大腿二頭筋皮弁の有用性. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 50) 岩切 致, 村上正洋, 百束比古: 顔面裂様顔貌を呈した頬部褥瘡の治療経験. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 51) 青木伸峰, 水野博司, 島本 実, 百束比古: 頬部に生じたエクリン螺旋腺腫の1例. 第239回日本形成外科学会東京地方会, 2004. 9.
- 52) 岩切 致, 中村 敏, 村上正洋, 橘田絵理香, 百束比古: 腹部脂肪吸引に合併したガス壊疽により生じた巨大腹壁ヘルニアの治療経験. 第27回日本美容外科学会, 2004. 10.
- 53) 水野博司, 河原理子, 糸井由里恵, 赤石諭史, 小川 令, 百束比古: 自己脂肪組織幹細胞を利用した将来の組織充填材料の可能性. 第27回日本美容外科学会, 2004. 10.
- 54) 河原理子, 平川慶子<sup>1)</sup>, 百束比古, 大野曜吉<sup>1)</sup><sup>(1)法医学</sup>): 当施設における生体内埋入異物診断システムについて. 第27回日本美容外科学会, 2004. 10.
- 55) 杉野宏子<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>(1)青山エルクリニック</sup>): 特殊埋没糸 (APTOS) による顔面皮下脂肪組織挙上術の経験. 第27回日本美容外科学会, 2004. 10.
- 56) 岩切 致, 百束比古, 村上正洋, 赤石諭史: 遊離皮弁により再建した耳垂部欠損の2症例. 第31回日本マイクロサージャリー学会, 2004. 10.
- 57) 村上正洋, 百束比古: 術後3年以上経過した Microvascular augmented Occipito-Cervico-Dorsal subdermal vascular network (Super-thin) flapの結果とその検討. 第31回日本マイクロサージャリー学会, 2004. 10.
- 58) 秋元正宇, 百束比古: 有限要素法による皮膚のコンピュータシミュレーションモデル. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 59) 小川 令, 水野博司, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup><sup>(1)生化学第2</sup>): 脂肪再生における性差の検討: 脂肪組織由来幹細胞を用いて. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 60) 河原理子, 水野博司, 糸井由里恵, 赤石諭史, 小川 令, 百束比古: 脂肪組織由来細胞による in vivoにおける脂肪組織再生. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 61) 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古: 褥瘡における皮下ポケット拡大のメカニズム; 有限要素法による解析から. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 62) 小川 令, 水野博司, 青木伸峰, 百束比古: GFPトランスジェニックマウスから採取した脂肪組織由来幹細胞を用いた骨再生における Scaffoldの検討. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 63) 小川 令, 水野博司, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup><sup>(1)生化学第2</sup>): 脂肪組織由来細胞を用いた骨髄再生. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 64) 南部正樹<sup>1)</sup>, 石原雅之<sup>1)</sup>, 水野博司, 山本直人<sup>1)</sup>, 東 隆一<sup>1)</sup>, 植田晃史<sup>1)</sup>, 中村真一郎<sup>1)</sup>, 清澤智晴<sup>1)</sup><sup>(1)防衛医科大学校形成外科</sup>): GFPトランスジェニックマウスの脂肪組織由来幹細胞を播種した培養真皮の研究.



第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.

- 65) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 小川 令, 百束比古, 神代勝敏<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 耳ケロイド術後照射線量減量の試み. 日本放射線腫瘍学会第17回学術大会, 2004. 11.
- 66) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 側頭部開頭術後陥没変形に対するリン酸カルシウム骨ペーストによる Augmentation. 第22回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2004. 11.
- 67) 南部正樹<sup>1)</sup>, 石原雅之<sup>1)</sup>, 水野博司, 山本直人<sup>2)</sup>, 東 隆一<sup>2)</sup>, 清澤智晴<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>防衛医科大学校災害研究センター, <sup>2)</sup>同形成外科): 脂肪組織由来幹細胞を播種した培養真皮の研究. 第34回日本創傷治癒学会, 2004. 11.
- 68) 水野博司, 小池幸子, 青木伸峰, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 黒柳能光<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第1, <sup>2)</sup>北里大学医療衛生学部人工皮膚研究センター): 自家骨髄細胞移植による血管再生治療を施行した四肢壊疽症例の外科手術に関する検討. 第34回日本創傷治癒学会, 2004. 11.
- 69) 小川 令, 赤石諭史, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>生化学第2): 過剰な創傷治癒であるケロイドに対する集学的治療およびその病態の考察. 第34回 日本創傷治癒学会, 2004. 11.
- 70) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 小川 令, 百束比古, 神代勝敏<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 耳ケロイド術後照射線量減量の試み. 日本放射線腫瘍学会第17回学術大会, 2004. 11.
- 71) 赤石諭史, 小川 令, 百束比古: 当科におけるケロイドの治療と今後の展望. 日本医科大学医学会第114回例会, 2004. 11.
- 72) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): Square flap methodによる埋没耳形成術. 日本形成外科学会九州支部学術集会第67会例会, 2004. 11.
- 73) 小池幸子, 水野博司, 百束比古: 稀な進展形式を呈した左頬部基底細胞癌の1例. 第240回日本形成外科学会東京地方会, 2004. 12.
- 74) 赤石諭史, 青木 律, 百束比古, 小池幸子: 脂肪注入より発生した多発性嚢腫下にバッグプロテアーゼを埋入された1例の治療経験. 日本美容外科学会第92回学術集会, 2005. 1.
- 75) 村上正洋, 中村 敏, 河原理子, 青木伸峰, 久保一人, 百束比古, 陳 貴史, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): モンゴル国内で両上肢深達性熱傷を受傷した乳児の治療経験と問題点. 第13回日本熱傷学会関東地方会, 2005. 1.
- 76) 小川 令, 水野博司, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): GFPトランスジェニックマウス脂肪組織由来幹細胞を用いた骨及び骨髄再生. 第4回日本再生医療学会, 2005. 3.
- 77) 小川 令, 埜 秀樹<sup>1)</sup>, 平井幸彦<sup>1)</sup>, 倉井年行<sup>1)</sup>, 藤村樹里<sup>2)</sup>, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 水野博司, 佐藤 茂<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>小児科学, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 脂肪組織由来幹細胞と骨髄由来幹細胞の比較検討. 第4回日本再生医療学会, 2005. 3.
- 78) 藤村樹里<sup>1)</sup>, 小川 令, 水野博司, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>薬理学): GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪組織由来幹細胞の神経系細胞への分化誘導. 第4回日本再生医療学会, 2005. 3.
- 79) 小川 令, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 久安早苗<sup>1)</sup>, 池島三与子<sup>1)</sup>, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): ケロイドの網羅的遺伝子解析. 第11回ケロイド・肥厚性癬痕研究会, 2005. 3.
- 80) 青木雅代, 河原理子, 百束比古: シリコンバッグ埋入後に無菌性膿瘍を形成外科した1例. 第241回日本形成外科学会東京地方会, 2005. 3.
- 81) 菊池美智子<sup>1)</sup>, 小川 令, 加藤一良<sup>2)</sup>, 吉越光代<sup>1)</sup>, 亀井友子<sup>1)</sup>, 菅原美智江<sup>1)</sup>, 中村玲子<sup>1)</sup>, 大貫佳奈<sup>1)</sup>, 宮田弘子<sup>1)</sup>, 木村えり子<sup>1)</sup>, 諏訪千恵美<sup>1)</sup>, 清水月子<sup>1)</sup>, 鈴木布紗子<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>全仁会高木病院看護部, <sup>2)</sup>全仁会高木病院): 褥瘡対策委員会の設置に基づく褥瘡治療効果の検討. 第2回日本褥瘡学会関東甲信越連合地方会, 2005. 3.

(6) ポスター：

- 1) 岩切 致, 赤石諭史, 青木 律, 百束比古: 各種穿通枝皮弁におけるデジタル超音波診断装置を用いた穿通枝同定の試み. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 2) 赤石諭史, 青木 律, 百束比古: RBG方式による褥状血管腫に対するレーザー治療の効果判定法. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 3) 村上正洋, 百束比古, 秋元正宇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 幼少時顔面の母斑に対する巾着縫合法を用いた連続縫縮術. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 4) 山本 達<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院形成外科): Micro-titanium mesh plate下に粉碎骨片を再構築後, 再移植することにより再建した上顎洞陥没骨折の1例. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 5) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 山本 彰<sup>2)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 内谷栄一<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>2)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>同放射線科): 当院におけるケロイド術後電子線併用療法の治療効果の検討. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 6) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 有限要素法による皮膚形成術アニメーション画像表示. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 7) 内谷栄一<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 久保一人<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): 再発を繰り返したepithelial-myoepithelial carcinomaの1例. 第48回日本形成外科学会, 2004. 4.
- 8) 水野博司, 河原理子, 糸井由里恵, 小川 令, 赤石諭史, 百束比古: 脂肪組織幹細胞の分化誘導による脂肪組織再生. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 9) 小川 令, 水野博司, 百束比古, 島田 隆: 脂肪から採取した間葉型細胞による骨髄再生: 造血器疾患の治療に向けて. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 10) 青木伸峰, 水野博司, 小池幸子, 小川 令, 百束比古: 難治性皮膚潰瘍の治療に於ける同種培養真皮の有用性. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 11) 青木 律, 村上正洋, 水野博司, 岩切 致, 河原理子, 赤石諭史, 小池幸子, 久保一人, 青木雅代, 小川 令, 青木伸峰, 橘田絵理香, 百束比古, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): non-ablative skin rejuvenation特にレーザーと高周波治療器について. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 12) 河原理子, 百束比古, 青木 律, 平川慶子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 豊胸目的で注入されたハイドロゲルに対する摘出手術の開発. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 13) 百束比古, 陳 貴史, 水野博司, 村上正洋, 青木 律: われわれの陥没乳頭形成術と術後ピアス固定. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 14) 久保一人, 村上正洋, 百束比古, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 当院に於ける漏斗胸手術: Ravitch法とNuss法との比較. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 15) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 褥瘡発生のコンピュータシミュレーション. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 16) 岩切 致, 橘田絵理香, 青木 律, 百束比古: 穿通枝皮弁を用いた足部再建の実際. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 17) Vihn V-Q, 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 陳 貴史, 田沼久美子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第2): Cervico-Pectoral (CP)皮弁の臨床と解剖学的検討. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 18) 青木雅代, 青木 律, 百束比古: 当科で開発した新しい局所皮弁について. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 19) 村上正洋, 百束比古: The scar band rotation flap. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 20) 赤石諭史, 青木 律, 百束比古: 陰核 Mucous cystの1例. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 21) 小池幸子, 青木 律, 水野博司, 百束比古: 過去に未治療のまま経過した巨大神経線維腫症の1例. 第72回日本

本医科大学医学会総会，2004．9．

- 22) Vihn V-Q, 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 陳 貴史: Cervico-Pectoral (CP) 皮弁の解剖学的検．第13回日本形成外科学会基礎学術集会，2004．10．
- 23) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, ガジザデモハメド<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 内谷栄一<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 第二病院形成外科, <sup>2)</sup> 老人病研究所): ケロイド発生に關与する遺伝子群間ネットワークの検討．第13回日本形成外科学会基礎学術集会，2004．10．
- 24) 水野博司, 小池幸子, 青木伸峰, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1): 血管再生療法を施行した四肢壊疽合併症例の外科手術に關する検討．第4回日本再生医療学会，2005．3．
- 25) 河瀬陽子<sup>1)</sup>, 徳原 真<sup>1)</sup>, 顔育 達<sup>1)</sup>, 高戸 毅<sup>1)</sup>, 水野博司, 浜崎辰夫<sup>1)</sup>, 大河内仁志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立国際医療センター研究所細胞組織再生医学研究部): ヒト脂肪組織からの神経細胞誘導．第4回日本再生医療学会，2005．3．
- 26) 徳原 真<sup>1)</sup>, 寺島裕夫<sup>1)</sup>, 斎藤幸夫<sup>1)</sup>, 清水利夫<sup>1)</sup>, 水野博司, 河瀬陽子<sup>2)</sup>, 浜崎辰夫<sup>2)</sup>, 大河内仁志<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立国際医療センター外科, <sup>2)</sup> 国立国際医療センター研究所細胞組織再生医学研究部): ヒト大網組織よりの間葉系幹細胞の分離．第4回日本再生医療学会，2005．3．

## [ 第二病院形成外科 ]

### 研究概要

#### 1. 臨床:

皮膚悪性腫瘍の治療では皮膚科の協力を仰ぎ、昨年より準備を進めてきた Sentinel Node Navigation Surgery を開始するとともに、Photo Dynamic Therapy による術前光線力学療法を用いた縮小手術を目指している。また、ケロイドの治療においては、術後電子線照射の線量の調整やシリコンクッションの使用など Best Protocol を目指している。

#### 2. 基礎:

正常真皮およびケロイド由来培養線維芽細胞を用いて、ケロイドに対する電子線治療効果のメカニズムに関する研究を進めた結果、電子線治療のターゲットの一つに IL-6 Pathway があることを明らかにした。臨床での分子標的治療の実現を目指して、IL-6 とケロイド発生の関連について検討中である。

### 研究業績

#### 著 書

- 1) 平井 隆: [ 分担 ] 外来で容易に出来る若返り美容医療の実際．Non-ablative skin rejuvenation ; NLite ( パルスダイレーザー ) ( 編著 久保田潤一郎 ), 2004 ; pp92-103, 永井書店 ．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム:

- 1) 内谷栄一, 久保一人, 土佐眞美子, 平井 隆: 熱傷治療における形成外科と救命救急部との協力．第13回日本熱傷学会関東地方会，2005．1．

##### (2) パネルディスカッション:

- 1) 土佐眞美子, 平井 隆, 百束比古: 育児真最中の女性医師の現実と理想．第47回日本形成外科学会学術集会，2004．4．

##### (3) 一般講演:

- 1) Kubo K, Ogawa R, Akaishi S, Hyakusoku H: The new device of electron-beam irradiation therapy for keloid and hypertrophic scar ．14th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery , 2004 ．9 ．

- 2) Mizuno H , Kawahara S , Itoi Y , Ogawa R , Tobita M , Akaishi S , Hyakusoku H : Fat regeneration using adipose-derived stromal cells in mouse model . 2nd International Fat Applied Technology Meeting ( Pittsburgh, Pennsylvania ), 2004 . 10 .
  - 3) Mizuno H , Shimamoto M , Ogawa R , Hyakusoku H , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Kubo K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> First Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Kitasato University ): Treatment of refractory ulcers using autologous bone marrow cell implantation in conjunction with allogeneic cultured dermal substitute . 7th Joint Meeting of the Tissue Engineering Society International and European Tissue Engineering Society ( Lausanne, Switzerland ), 2004 . 10 .
  - 4) Mizuno H , Kawahara S , Itoi Y , Ogawa R , Tobita M , Akaishi S , Hyakusoku H : In vivo adipose tissue engineering using adipose-derived stromal cells . 7th Joint Meeting of the Tissue Engineering Society International and European Tissue Engineering Society ( Lausanne, Switzerland ), 2004 . 10 .
  - 5) 水野博司<sup>1)</sup> , 百束比古<sup>1)</sup> , 小川 令<sup>1)</sup> , 秋元正宇<sup>2)</sup> , 平井 隆 , 土佐眞美子 , 南 史朗<sup>3)</sup> , 江見 充<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科 , <sup>3)</sup> 大学院生体機能制御学 , <sup>4)</sup> 大学院分子生物学 ): ケロイドに対するオーダーメイド医療実現化プロジェクト ( 文部科学省リーディングプロジェクト ). 第47回日本形成外科学会学術集会 , 2004 . 4 .
  - 6) 水野博司<sup>1)</sup> , 島本 実<sup>1)</sup> , 小川 令<sup>1)</sup> , 内谷栄一 , 百束比古<sup>1)</sup> , 宮本正章<sup>2)</sup> , 黒柳能光<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科 , <sup>2)</sup> 同内科学第1 , <sup>3)</sup> 北里大学人工皮膚研究開発センター ): 血管再生療法後に同種培養真皮移植を行った最重症難治性皮膚潰瘍の治療 . 第47回日本形成外科学会学術集会 , 2004 . 4 .
  - 7) 土佐眞美子 , 平井 隆 , 内谷栄一 , 勝部康弘<sup>1)</sup> , 百束比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院小児科 , <sup>2)</sup> 付属病院形成外科 ): BCG接種後のケロイドおよび肥厚性瘢痕の検討 . 第47回日本形成外科学会学術集会 , 2004 . 4 .
  - 8) 橋田絵里香<sup>1)</sup> , 岩切 致<sup>1)</sup> , 内谷栄一 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科 ): 稀な手指外傷 one side fillet injury ( 仮称 ) の治療経験 . 第47回日本形成外科学会学術集会 , 2004 . 4 .
  - 9) 土佐眞美子 , 山本 彰<sup>1)</sup> , 平井 隆 , 内谷栄一 , 佐藤雅史<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院放射線科 ): ケロイド電子治療のベストプロトコル確立への試み第1報 : ピアス後耳介ケロイドに対する照射量の検討 . 第47回日本形成外科学会学術集会 , 2004 . 4 .
  - 10) 村上正洋<sup>1)</sup> , 百束比古<sup>1)</sup> , 平井 隆 , 秋元正宇<sup>2)</sup> , 青木 律<sup>1)</sup> , 岩切 致<sup>1)</sup> , 小川 令<sup>1)</sup> , 大木更一郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科 , <sup>2)</sup> 同千葉北総病院形成外科 , <sup>3)</sup> 会津中央病院形成外科 ): われわれの熱傷後頸部瘢痕拘縮再建 : 20年間の経験と術式の変遷 . 第30回日本熱傷学会学術集会 ( 東京 ), 2004 . 6 .
  - 11) 内谷栄一 , 土佐眞美子 , 平井 隆 , 松本光司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部 ): 大腿に発生した巨大平滑筋肉腫 : 経過中に悪性転化が疑われた例 . 第238回日本形成外科学会東京地方会 , 2004 . 7 .
  - 12) 大木琴美<sup>1)</sup> , 大木更一郎<sup>1)</sup> , 平本剛士<sup>1)</sup> , 平井 隆 , 百束比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科・美容外科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科 ): 車椅子患者に発生した坐骨部褥瘡の再建における島状大腿二頭筋皮弁の有用性 . 第6回日本褥瘡学会 , 2004 . 9 .
  - 13) 村上正洋<sup>1)</sup> , 中村 敏<sup>1)</sup> , 河原理子<sup>1)</sup> , 青木伸峰<sup>1)</sup> , 久保一人 , 百束比古<sup>1)</sup> , 陳 貴史<sup>1)</sup> , 川井 真<sup>2)</sup> , 山本保博<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科 , <sup>2)</sup> 救急医学 ): モンゴル国内で両上肢深達性熱傷を受傷した乳児の治療経験と問題点 . 第13回日本熱傷学会関東地方会 , 2005 . 1 .
- (4) ポスター :
- 1) 土佐眞美子 , 山本 彰<sup>1)</sup> , 平井 隆 , 内谷栄一<sup>1)</sup> , 佐藤雅史<sup>1)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 第二病院放射線科 ): 当院におけるケロイド術後電子線併用療法の治療効果の検討 . 第47回日本形成外科学会学術集会 , 2004 . 4 .
  - 2) 内谷栄一 , 平井 隆 , 土佐眞美子 , 久保一人 , 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科 ): 再発を繰り返した epithelial-myoepithelial carcinoma の1例 . 第48回日本形成外科学会 , 2004 . 4 .
  - 3) 青木 律<sup>1)</sup> , 村上正洋<sup>1)</sup> , 水野博司<sup>1)</sup> , 岩切 致<sup>1)</sup> , 河原理子<sup>1)</sup> , 赤石諭史<sup>1)</sup> , 小池幸子<sup>1)</sup> , 久保一人 , 青木雅

代<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 青木伸峰<sup>1)</sup>, 橘田絵里香<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 外科学第1): non-ablative skin rejuvenation特にレーザーと高周波治療器について. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.

4) 久保一人, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 平井恭二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 外科学第2): 当院に於ける漏斗胸手術: Ravitch法とNuss法との比較. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.

5) 土佐眞美子, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 内谷栄一, 川並汪一<sup>1)</sup>, 平井 隆, 百束比古(<sup>1)</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): ケロイド発生に關する遺伝子群間ネットワークの検討. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.

## [ 千葉北総病院形成外科 ]

### 研究概要

主に皮膚手術シミュレーションの研究, 褥瘡の発生機序コンピュータシミュレーションの研究に成果があった.

1. 皮膚手術シミュレーションの研究: 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行う. 皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明する. 皮膚形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった. これを客観的に示し, 誰にでもできるようにするために, 皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価する. これらの結果から, 新しい, より合理的で, 誰にでも可能な手術法を開発することができる.

2. 褥瘡発生機序の研究: 褥瘡モデルを作成し, 様々な力学的条件からその発生機序を解明する. これらの結果から, 褥瘡発生予防効果の高い体位の考案. 褥瘡発生予防のための新しい器具の開発. 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発, 等が期待できる.

3. シミュレーションによる皮膚形成術の教材作成: 皮膚形成術の皮膚の変形, 内部応力の発生などを3次元グラフィックスで表示し, 視覚的に理解できる教材を作成する. 皮膚形成術は, 医学生, 研修医といった初学者には非常に理解し難いものである. 皮膚形成術の手術シミュレーションを3次元的なアニメーションで, 同時に力学的な特性も併せて表示することで, 皮膚形成術の術式, 特徴, 適応などを初学者にも用意に理解させることができる.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

1) Murakami M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Akimoto M, Mita S<sup>2)</sup>, Sasaki S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院美容外科・形成外科, <sup>2)</sup> 同女性診療科・産科): Use of deep inferior epigastric artery flaps for reconstruction of the female. Scand. J. Plast. Reconstr. Hand Surg 2004; 38 (4): 215-219.

2) 秋元正宇, 千明美保, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 汎用非線形パッケージソフトウェアによる皮膚単純縫縮・Z形成術シミュレーションの試み. 日本シミュレーション外科学会誌 2004; 11 (3): 14-17.

##### (2) 綜説:

1) 秋元正宇: 切断指再接着の基本. 形成外科 2004; 47 (増刊): 350-354.

##### (3) 研究報告書:

1) 秋元正宇: 大学病院におけるオーダリングシステムの再導入の経験 (ホストコンピュータ方式からクライアントサーバ方式へ). 医療情報学 2004; 24 (suppl.): pp1084-1084.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>(1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 強度試験に基づく皮膚用接着剤の使用法および臨床例. 第5回日本臨床ラジオ波研究会, 2004. 1.

(2) 一般講演：

- 1) Murakami M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Akimoto M, Aoki R<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): The reconstruction of postburn scar contracture using three types of multi-lobed propeller flaps. The 12th congress of international society for burn injuries ( Yokohama ), 2004. 8.
- 2) Akimoto M : How does a pressure sore grow up? -Finite element analysis. The 4th International and 14th Japan Society for Simulation Surgery ( Tokyo ), 2004. 11.
- 3) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>(1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 巾着縫合法を応用した皮膚腫瘍の治療と有限要素法による術後形態の解析. 第5回日本臨床ラジオ波手術研究会, 2004. 1.
- 4) 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 平井 隆<sup>2)</sup>, 土佐真美子<sup>2)</sup>, 南 史郎<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 第二病院形成外科, <sup>3)</sup> 大学院医学研究科生体機能制御学, <sup>4)</sup> 大学院分子生物学): ケロイドに対するオーダーメイド医療実現化プロジェクト ( 文部科学省リーディングプロジェクト ). 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 5) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>(1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 幼少時顔面の母斑に対する巾着縫合法を用いた連続縫縮術. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 6) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 有限要素法による皮膚形成術アニメーション画像表示. 第47回日本形成外科学会学術集会, 2004. 4.
- 7) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>2)</sup>, 秋元正宇, 青木 律<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 同第二病院形成外科, <sup>3)</sup> 総合会津中央病院形成外科): われわれの熱傷後頸部瘢痕拘縮再建: 20年間の経験と術式の変遷. 第30回日本熱傷学会学術集会, 2004. 6.
- 8) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 皮下ポケット拡大のメカニズムに関する考察: 有限要素法による解析から. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 9) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>: 褥瘡発生のコンピュータシミュレーション. 第72回日本医科大学医学会, 2004. 9.
- 10) 柏村めぐみ<sup>1)</sup>, 菅原光子<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>(1)</sup> 千葉北総病院看護部): 下肢ギブスシーネ固定患者における踵部の褥瘡発症率. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 11) 増子美樹<sup>1)</sup>, 菅原光子<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>(1)</sup> 千葉北総病院看護部): 非侵襲的陽圧換気療法のマスクの長期装着により鼻部に潰瘍を生じた症例. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 12) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 有限要素法による皮膚のコンピュータシミュレーションモデル. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 13) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 褥瘡における皮下ポケット拡大のメカニズム; 有限要素法による解析から. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 2004. 10.
- 14) 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): Square flap method による埋没耳形成術. 日本形成外科学会九州支部学術集会第67回例会, 2004. 11.
- 15) 秋元正宇: 大学病院におけるオーダーリングシステムの再導入の経験 ( ホストコンピュータ方式からクライアントサーバ方式へ ). 第24回医療情報学連合大会, 2004. 11.
- 16) 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古<sup>(1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 側頭部開頭術後陥没変形に対するリン酸カルシウム骨ペーストによる Augmentation. 第22回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2004. 11.

## 20. 付属病院付置施設等

### [ 付属病院遺伝診療科 ]

#### 研究概要

日本医科大学付属病院では新しい時代の遺伝子医学に対応するため、平成15年5月からは独立した遺伝診療科として外来診療を行っており、平成16年1月には私立大学として初めて日本人類遺伝学会・遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医研修施設として認定された。

遺伝診療科外来では、対象疾患に関する遺伝子研究も含めた最先端の医学的進歩について情報提供を行うとともに、患者さん本人の状況に最大限配慮したカウンセリングを行っている。これまでに、のべ104件（新患）の症例について外来診療を行っている。個別の遺伝診療について科学的、倫理的に検討するカンファレンスでは学内外の基礎医学研究者、各診療科医師、看護師、臨床心理士などが参加し、毎回熱心な議論が行われている。各職種がチームとなって進めている遺伝診療は日本医科大学独自のものであり、わが国の遺伝医療の一角を担うとともに、日本医科大学を代表する診療科として発展させたい。

遺伝子検査は第二生化学教室と共同で低ホスファターゼ症、血管型 Ehlers-Danlos 症候群（vEDS）、Gaucher 病、Werdnig-Hoffmann 病などについての診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。世界に先駆けて第二生化学教室で行われている vEDS の遺伝子治療研究は遺伝診療科発信の translational research として行われ、将来臨床へ還元できるよう発展させたい。

医学教育では4年生の臨床遺伝コースを担当している。2004.12に厚生労働省から提示された医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドラインには、遺伝情報を診療に活用する重要性がはじめてとりあげられ、今後すべての医療従事者にとって臨床遺伝教育が必要となりつつある。臨床遺伝教育は本邦ではほとんど行われておらず、今後さらに発展してゆきたい。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) 渡邊 淳，浅野ありさ，小川俊一<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>(1)</sup>小児科学)：遺伝カウンセリングケースレポート(2)由来不明の染色体異常への対応 両親への検査の必要性について．小児科診療 2004；67(7)：1170-1172．
- 2) 鈴木由美：遺伝看護からみた遺伝カウンセリング．日本遺伝カウンセリング学会誌 2004；25(2)：23-36．

###### (2) 綜説：

- 1) 千葉弘子，渡辺裕子，鈴木由美，渡辺 淳，島田 隆：遺伝看護の役割：FAP患者家族の遺伝子診断に関する意思決定への支援．月刊ナーシング 2004；24(1)：44-46．

##### 学会発表

###### (1) シンポジウム：

- 1) 鈴木由美：遺伝看護から見た遺伝カウンセリング．第28回日本遺伝カウンセリング学会，2004.5．

###### (2) ワークショップ：

- 1) 渡邊 淳，程久美子<sup>1)</sup>，和田敬仁<sup>2)</sup>，福嶋義光<sup>2)</sup>，島田 隆<sup>(1)</sup>東京大学理学部，<sup>2)</sup>信州大学付属病院遺伝子診療部)：血管型 Ehlers-Danlos syndrome type IV (EDSIV) における治療アプローチの可能性．第49回日本人類遺伝学会，2004.10．

### (3) 一般講演：

- 1) Watanabe A, Tei K<sup>1)</sup>, Wada T<sup>2)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> 東京大学理学部, <sup>2)</sup> 信州大学付属病院遺伝子診療部 ): RNAi mediated gene therapy for dominantly inherited vascular Ehlers-Danlos syndrome (EDSIV). 4th Annual meeting of the American Society of Human Genetics ( Toronto, Canada ), 2004 . 10 .
- 2) 渡邊 淳, 浅野ありさ, 右田 真, 大木由加志<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 小児科学 ): 日本医科大学付属病院における遺伝診療：小児科から遺伝診療科へ . 第107回日本小児科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 3) 右田 真, 浅野ありさ, 渡辺 淳, 島田 隆 : 羊水検査で45XY, der ( 15 ; 22 )( q10 ; q10 ) が発見された夫婦に対する遺伝カウンセリング例 . 第107回日本小児科学会学術集会, 2004 . 4 .
- 4) 藤本美津夫<sup>1)</sup>, 大槻マミ太郎<sup>1)</sup>, 中川秀己<sup>1)</sup>, 斎藤 心<sup>2)</sup>, 旗持 淳<sup>3)</sup>, 渡辺 淳 ( <sup>1)</sup> 自治医大皮膚科, <sup>2)</sup> 同外科学消化器・一般外科学部門, <sup>3)</sup> 独協医大皮膚科 ): 血管型エラス・ダンロス症候群の遺伝子診療経験 . 第103回日本皮膚科学会総会, 2004 . 4 .
- 5) 渡辺裕子, 千葉弘子, 鈴木由美, 渡辺 淳, 島田 隆 : 筋緊張ジストロフィー遺伝子診断施行において自己決定に差異を呈した2例 . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 6) 大口恵子 : アメリカ, ロードアイランド州のPrenatal Diagnosis Center 見学報告 . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 7) 浅野ありさ, 渡邊 淳, 右田 真, 鈴木由美, 村田知昭<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科 ): 羊水検査で偶然発見されたder ( 15 ; 22 )( q10 ; q10 ) 均衡型ロバートソン型転座の遺伝カウンセリング . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 8) 渡邊 淳, 浅野ありさ, 右田 真, 渡辺裕子, 鈴木由美, 千葉弘子, 島田 隆 : 日本医科大学付属病院における独立した臨床遺伝医療部門開設への課題 . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 9) 山下浩美<sup>1)</sup>, 玉井真理子<sup>1)</sup>, 和田敬仁<sup>1)</sup>, 古庄知己<sup>1)</sup>, 福嶋義光<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 信州大学付属病院遺伝子診療部 ): エラス・ダンロス症候群 ( 血管型 ) の遺伝カウンセリング : 遺伝子変異が検出された2症例へのかかわり . 第28回日本遺伝カウンセリング学会, 2004 . 5 .
- 10) 渡辺 淳, 島田 隆, 平井幸彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): 「色覚特性」を題材とした医学部早期における遺伝医学教育 . 第36回日本医学教育学会大会, 2004 . 7 .
- 11) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 渡辺 淳, 島田 隆 : デュシャンヌ型筋ジストロフィーの保因者診断を受ける女性がかつ心の揺らぎ . 日本遺伝看護研究会第3回大会, 2004 . 9 .
- 12) 渡辺裕子, 千葉弘子, 鈴木由美, 渡辺 淳, 島田 隆 : ベッカー型筋ジストロフィーの出生前診断を希望する女性とその家族の語りから . 日本遺伝看護研究会第3回大会, 2004 . 9 .

## [ 付属病院集中治療室 ]

### 研究概要

急性冠症候群の画期的治療法としてDrug Eluting Stent ( DES ) が登場した . これはSTENT挿入後の内膜増殖によって引き起こされる再閉塞に対し, その抑制に驚異的な成績が示されている . わが国ではまだ急性心筋梗塞には適応がないが, これが導入されることによって, 今までの治療成績が大きく変わる可能性がある .

われわれの施設でもこれを踏まえて今までの治療成績との比較が始まった . DESの有効性には抗血小板の効果も影響する . 全国規模で行われているクロピドグレルの臨床治験に参加し, 18年春にはその結果が明らかにされる事になっている .

われわれが取り組んできたBNPを用いた迅速診断の結果やDダイマーを用いた肺血栓塞栓症や急性大動脈解離の重症度判定がまとまり学会発表や論文化された . 第一内科の遺伝子再生グループを中心に冠動脈疾患と抹消動脈疾患における血管再生療法も集中治療室にて順調に集積が進んでいる . さらに集中治療室・麻酔科を中心としたNPPV



療法が全国に普及し、その適応がさらに明確にされた。

院内に立ち上げたPTE予防のためのワーキンググループも順調に機能し、今まで見逃されていた院内発症のPTEが救命され症例報告された。

プレホスピタル・ケア（BLSやAED）を学生や一般の人々に教育、普及するための努力が病院全体に広がり、集中治療室も積極的に協力した。さらに塩酸ニフェカランを用いたキシロカインとの比較試験が日本医科大学と東京女子医科大学を中心に現実化し、治験が開始されることになった。これによってわが国の心停止のガイドラインが大きく変わる可能性がある。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Tanaka K, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Radiology, <sup>2)</sup>First Department of Internal Medicine ): Manual aspiration thrombectomy with a standard PTCA guiding catheter for treatment of acute massive pulmonary thromboembolism. *Radiat Med* 2004 ; 22 ( 3 ): 168-172 .
- 2) Yamamoto T, Nejima J<sup>1)</sup>, Ino T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>2)</sup>, Bessho R<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup>Department of Radiology, <sup>3)</sup>Second Department of Surgery, <sup>4)</sup>Second Department of Pathology ): A case of massive left atrial lipoma occupying pericardial space. *Jpn Heart J* 2004 ; 45 ( 4 ): 715-721 .
- 3) Akutsu K, Nejima J<sup>1)</sup>, Kiuchi K<sup>1)</sup>, Sasaki K<sup>4)</sup>, Ochi M<sup>2)</sup>, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>First Dept. of Int. Med, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Second Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Tsurumi Univ., School of Dental Science, <sup>4)</sup>Musashino Hosp. ): Effects of patent false lumen on long-term outcome of type B acute aortic dissection. *Eur J Cardiothorac Surg* 2004 ; 26 ( 2 ): 359-366 .
- 4) Fukuda N<sup>1)</sup>, Iwahara S<sup>2)</sup>, Harada A<sup>2)</sup>, Yokoyama S<sup>2)</sup>, Akutsu K, Takano M<sup>2)</sup>, Kobayashi A<sup>2)</sup>, Kurokawa S<sup>2)</sup>, Izumi T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Int. Med. and Cardiology, Kitasato Univ. School of Medicine, <sup>2)</sup>Cardiovascular Center, Ebina General Hosp. ): Vasospasms of the radial artery after the transradial approach for coronary angiography and angioplasty. *Jpn Heart J* 2004 ; 45 ( 5 ): 723-731 .
- 5) Yamamoto T, Sato N, Tajima H<sup>1)</sup>, Takagi H, Morita N, Akutsu K, Fujita N, Yasutake M<sup>2)</sup>, Tanaka K, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Radiology, <sup>2)</sup>First Department of Internal Medicine ): Differences in the clinical course of acute massive and submassive pulmonary embolism : in-hospital onset vs out-of-hospital onset. *Circ J* 2004 ; 68 ( 11 ): 988-992 .
- 6) Takeda S, Ishizaka A<sup>1)</sup>, Fujino Y<sup>2)</sup>, Fukuoka T<sup>3)</sup>, Nagano O<sup>4)</sup>, Takezawa J<sup>3)</sup>, Yamada Y<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>慶應義塾大学内科, <sup>2)</sup>大阪大学ICU, <sup>3)</sup>名古屋大学ICU, <sup>4)</sup>岡山大学救急部, <sup>5)</sup>横浜市立大学麻酔科 ): Multi-Center Clinical Trial Committee, Japanese Society of Respiratory Care Medicine. Time to change diagnostic criteria of ARDS : Toward the disease entity-based subgrouping. *Pulm Pharmacol* 2005 ; 18 ( 2 ): 115-119 .
- 7) Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Sagara K<sup>1)</sup>, Hatano S<sup>1)</sup>, Iinuma H<sup>1)</sup>, Aizawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>心臓血管研究所 ): Cibenzoline attenuates upregulation of kv1. 5 channel gene expression by experimental paroxysmal atrial fibrillation. *Int Heart J* 2005 ; 46 ( 2 ): 279-288 .
- 8) Akutsu K, Sato N, Yamamoto T, Morita N, Takagi H, Fujita N, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>First Dept. of Int. Med. ): A rapid bedside D-dimer assay ( Cardiac D-dimer ) for screening of clinically suspected acute aortic dissection. *Circ J* 2005 ; 69 ( 4 ): 397-403 .
- 9) 竹田晋浩, 石坂彰敏<sup>1)</sup>, 藤野裕士<sup>2)</sup>, 福岡敏雄<sup>3)</sup>, 長野 修<sup>4)</sup>, 山田芳嗣<sup>5)</sup>, 武澤 純<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>慶應義塾大学内科,

- 2) 大阪大学ICU, 3) 名古屋大学ICU, 4) 岡山大学救急部, 5) 横浜市立大学麻酔科): ARDS診断基準をめぐる問題点. 人工呼吸 2004; 21(1): 38-43.
- 10) 田中啓治, 高野照夫, 佐々木達哉<sup>2)</sup>, 望月正武<sup>3)</sup>, 五味邦英<sup>4)</sup>, 斉藤 穎<sup>5)</sup>, 芝田貴裕<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第1, <sup>2)</sup>大阪厚生年金病院, <sup>3)</sup>東京慈恵会医科大学付属病院循環器内科, <sup>4)</sup>昭和大学医学部臨床病理学, <sup>5)</sup>日本大学医学部附属板橋病院循環器科): Amrinone (アムコラル注射液50・100)の特別調査: とくに血小板数に影響を与える要因についての検討. 臨床薬理 2004; 35(5): 247-255.
- 11) 安武正弘<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 高木啓倫, 田中啓治(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学, <sup>3)</sup>外科学第2): 骨髄単核細胞移植による血管新生の核医学的評価. 医工学治療 2004; 16(2): 82-85.
- 12) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>2)</sup>, 関口昭子<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第1, <sup>2)</sup>心臓血管研究所): 肺静脈のイオンチャンネルと電気現象: 肺静脈はなぜ不整脈源性か?. 心電図 2005; 25(SUPPL.3): 20-26.
- (2) 綜説:
- 1) 竹田晋浩: 肺水腫患者の人工呼吸法とケア, 病態から見た人工呼吸ケア, 人工呼吸器と患者ケアQ & A. ナーシングケアQ & Aシリーズ 2004; 1: 232-233.
- 2) 山本 剛, 田中啓治: 深部静脈血栓症と肺血栓症: PTEの治療法. LiSA 2004; 11(5): 482-485.
- 3) 竹田晋浩: 呼吸管理の実際: 心原性肺水腫. 臨床医 2004; 30(6): 1370-1372.
- 4) 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 中沢 賢<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): 急性肺塞栓症において“subacute”および“acute on chronic”と呼ばれる病態は存在するか?. Ther Res 2004; 25(6): 14-15.
- 5) 佐藤直樹, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 急性心不全の病態・診断・治療. 医学と薬学 2004; 51(6): 808-813.
- 6) 竹田晋浩: ARDS 急性呼吸不全に対する呼吸管理ベストプラクティス. 救急医学 2004; 28(10): 1355-1360.
- 7) 山本 剛: 深部静脈血栓症: 治療法と経過観察指標の読み方. Medical Technology 2004; 32(9): 920-925.
- 8) 佐藤直樹, 清野清彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 強心薬に関するEBMのレビュー. 呼と循 2004; 52(9): 885-890.
- 9) 木内 要<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>内科学第1): 特集「心臓病の外來診療」循環器救急外來での対処法. 日本医師会雑誌 2004; 135(8): 334-340.
- 10) 佐藤直樹: 急性心不全を診る. J Nippon Med Sch 2004; 71(6): 426-429.
- 11) 田中啓治: 集中治療における簡易迅速診断法. ICUとCCU 2005; 29(1): 1-22.
- 12) 坏 宏一, 田中啓治: 集中治療における簡易迅速診断法 急性大動脈解離とDダイマー迅速測定法. ICUとCCU 2005; 29(1): 41-47.
- 13) 田中啓治, 佐藤直樹, 山本 剛, 藤田進彦, 坏 宏一, 淀川顕司, 加藤浩司: Dressler症候群はもはや消滅した病態か?. 日本内科学会雑誌 2005; 94(臨時増刊号): 180-180.
- 14) 岩崎雄樹: 幅の狭いQRS頻拍をみたら(特集: 危険な不整脈). 臨床医 2005; 31(2): 144-147.
- 15) 田中啓治, 西田 博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>西田病院): 難治性虚血性心疾患と血管再生療法. 医工学治療 2005; 6(2): 80-81.
- 16) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>心臓血管研究所): イオンチャンネル発現のダイナミズムと不整脈. カレントセラピー 2005; 23(3): 43-47.
- (3) Proceedings:
- 1) 竹田晋浩: 腸内容物による誤嚥性肺炎に対して伏臥位管理行った1症例. 人工呼吸 2004; 21(2): 250-250.
- 2) 小野寺英貴, 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 竹森 健<sup>1)</sup>, 宮城泰雄, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の無気肺への腸・陰圧体外式人工呼吸の効果. 人工呼吸 2004; 21(2): 257-257.

- 3) 竹田晋浩：SIRS/ALIに対するシベレスタットナトリウムの有効性．呼吸 2005；24(4)：356-358．
- 4) 竹田晋浩：NPPVの適応と限界：急性肺水腫．人工呼吸 2005；21(2)：171-171．

## 著 書

- 1) 山本 剛，田中啓治：〔分担〕Valsava洞破裂．心臓ナビゲーター（浅野祐士郎ほか），2004；pp292-293，メディカルレビュー社．
- 2) 坏 宏一，清野精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1)：〔分担〕血液所見でみる胸痛．臨床研修プラクティス，2004；pp44-48，文光堂．
- 3) 寺嶋克幸：〔分担〕周術期における 遮断薬の使い方．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍，清野精彦，坂本篤裕），2004；pp171-184，真興交易．
- 4) 寺嶋克幸：〔分担〕周術期における 遮断薬の使い方．周術期における 遮断薬の使い方（小川 龍，清野精彦，坂本篤裕），2004；pp233-241，真興交易．
- 5) 竹田晋浩：〔分担〕高頻度換気．麻醉科学スタンダード2004（武田純三，小川節郎，西野 卓，新宮 興），2004；pp115-121，克誠堂出版．
- 6) 佐藤直樹，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1)：〔分担〕VIII 循環器救急外来での対処法 患者搬送時の対処法．日本医師会生涯教育シリーズ65 心臓病の外来診療，2004；ppS341-S343，日本医師会．
- 7) 坏 宏一，田中啓治：〔分担〕急性大動脈解離とDダイマー迅速測定法．ICUとCCU，2005；pp41-47，医学図書出版．
- 8) 竹田晋浩：〔分担〕急性肺水腫．実践NPPV（竹田晋浩），2005；pp1-12，克誠堂出版．
- 9) 竹田晋浩：〔分担〕急性肺障害（ALI/ARDS）．実践NPPV（竹田晋浩），2005；pp25-31，克誠堂出版．
- 10) 竹田晋浩：〔分担〕Weaningでの活用．実践NPPV（竹田晋浩），2005；pp44-48，克誠堂出版．
- 11) 清野精彦<sup>1)</sup>，坏 宏一(<sup>1</sup>内科学第1)：〔分担〕胸痛を血液生化学マーカーから診る．胸痛診療のコツと落とし穴（野々木宏），2005；pp126-127，中山書店．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 田中啓治：日本医科大学集中治療室（ICU・CCU）の30年のあゆみとあらたなる展開．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．

### (2) 招待講演：

- 1) 田中啓治：循環器救急におけChain of survival．第59回福島循環器談話会，2004．5．

### (3) シンポジウム：

- 1) Yamamoto T, Tajima H<sup>2)</sup>, Morita N, Akutsu K, Fujita N, Sato N, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>First Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup>Department of Radiology): Catheter-based invasive treatment with early venography in patients with acute massive/submassive pulmonary embolism．The 52rd Annual Scientific Session of the Japanese College of Cardiology, 2004．9．
- 2) 山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，高野照夫<sup>1)</sup>，中沢 賢<sup>2)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学)：重症急性肺血栓症に対する治療戦略：カテーテル治療が第1選択．第24回日本静脈学会総会，2004．6．
- 3) 寺嶋克幸，杖下隆哉<sup>1)</sup>，坂本篤裕<sup>1)</sup>，小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>麻醉科学)：ウサギ急性出血性ショックモデルへの人工赤血球によるfluid resuscitationの効果．第11回血液代替物学会総会，2004．7．
- 4) 佐藤直樹，田中啓治，山本 剛，坏 宏一，藤田進彦，森田典成<sup>1)</sup>，淀川顕司，加藤浩司，竹田晋浩，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1)：集中治療と循環管理（集中治療の循環管理における薬物療法）．第32回日本集中治療医学会，2005．2．

- 5) 坏 宏一, 佐藤直樹, 伊予恭子, 前原茂子, 鈴木智恵子, 田中啓治: 循環器救急におけるチーム医療: ACLS と心カテナース. 第69回日本循環器学会総会, 2005. 3.
- (4) パネルディスカッション:
- 1) Sato N, Yamamoto T, Akutsu K, Fujita N, Takagi H<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Tanaka K ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Radiology ): New Classification for Initiation of  $\beta$ -blocker by Pre-and Post-synaptic Functions of  $\beta$ -adrenergic Signalig Pathway . The 52nd annual scientific session of the Japanese college of Cardiology, 2004. 9.
  - 2) 竹田晋浩: NPPVの適応と限界: 急性肺水腫. 第26回日本呼吸療法医学会, 2004. 7.
  - 3) 山本 剛, 淀川顕司, 高木啓倫, 森田典成, 坏 宏一, 藤田進彦, 佐藤直樹, 田中啓治, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 非ST上昇型急性冠症候群におけるBNP上昇の意義. 第24回心筋梗塞研究会, 2004. 7.
- (5) セミナー:
- 1) 坏 宏一: 大動脈解離急性期におけるD - dimer 迅速測定の有用性. 第32回集中治療学会総会, 2005. 2.
  - 2) 坏 宏一: 大動脈解離急性期におけるD - dimer 迅速測定の有用性. 第69回日本循環器学会総会, 2005. 3.
- (6) ワークショップ:
- 1) 坏 宏一, 子島 潤<sup>1)</sup>, 木内 要<sup>2)</sup>, 佐々木建志<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>4)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>鶴見歯科大学内科, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第1, <sup>3)</sup>武蔵野病院, <sup>4)</sup>日本医科大学外科学第2): 開存偽腔がB型急性大動脈解離の長期予期に及ぼす影響(口述). 第45回日本脈管学会学術総会, 2004. 10.
  - 2) 中沢 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>内科学第1): 急性肺血栓塞栓症に対するカテーテル治療. 第45回日本脈管学会総会, 2004. 11.
- (7) 一般講演:
- 1) Terajima K, Takeda S, Miyashita M<sup>2)</sup>, Tanaka K, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>外科学第1): Hypercoagulation after major surgery and timing of anticoagulants administration . The 13th Congress of the Western Pacific Association of Critical Care Medicine ( Seoul, Korea ), 2004. 6.
  - 2) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Sagara K<sup>1)</sup>, Hatano S<sup>1)</sup>, Iinuma H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>心臓血管研究所): Why do the pulmonary venis show the arrhythmogenic activity ? . 2004 American Heart Association Scientific Sessions ( New Orleans, USA ), 2004. 11.
  - 3) Takemori K<sup>1)</sup>, Terajima K, Tsueshita T<sup>1)</sup>, Onodera H, Takeda S, Sakamoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): Effects of Hemoglobin-Vesicle Solution on Coagulation with Sonoclot . 8th America-Japan Anesthesia Congress ( Honolulu ), 2005. 3.
  - 4) Terajima K, Morita N, Koh T, Onodera H, Kobayashi K, Takeda S, Yamamoto T, Kato K, Makino K, Miyashita M<sup>1)</sup>, Sato N, Tanaka K, Ogawa R<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>麻酔科学): Normovolemic resuscitation with Hemoglobin-vesicle solution in anesthetized rabbit acute hemorrhagic shock . International Anesthesia Research Society 79th Clinical & Scientific Congress ( Honolulu ), 2005. 3.
  - 5) Tsueshita T<sup>1)</sup>, Terajima K, Takeda S, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): In vitro effect of hemoglobin-vesicles solution on coagulation using sonoclot analysis . International Anesthesia Research Society 79th Clinical & Scientific Congress ( Honolulu, USA ), 2005. 3.
  - 6) Onodera H, Takemori K<sup>1)</sup>, Katsuya K<sup>1)</sup>, Terajima K, Kim C<sup>1)</sup>, Takeda S, Sato N, Tanaka K, Makino K<sup>2)</sup>, Nomura T<sup>2)</sup>, Miyashita M<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, <sup>2)</sup>First Department of Internal Medicine ): Prevalence of neutropenia in major surgery and its early postoperative outcome . 8th America-Japan Anesthesia Congress ( Honolulu, USA ), 2005. 3.
  - 7) Terajima K, Tsueshita T<sup>1)</sup>, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Takeda S, Tanaka K, Miyashita M<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>

- (<sup>1</sup>麻酔科学,<sup>2</sup>外科学第1): Normovolemic resuscitation with Hemoglobin-vesicle solution in anesthetized rabbit acute hemorrhagic shock. 2nd World Shock Forum Tokyo, Japan, 2004. 10.
- 8) Terajima K, Morita N, Koh T<sup>1)</sup>, Onodera H, Kobayashi K, Takeda S, Yamamoto T, Kato K, Makino K<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Sato N, Tanaka K, Ogawa R<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1,<sup>2</sup>麻酔科学): Antiarrhythmic agent unmasked an aged Brugada syndrome with septic shock. 2nd World Shock Forum Tokyo, Japan, 2004. 10.
- 9) 村澤恒男<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 小野卓也, 伊佐治剛<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院内科): 血液透析に伴う心筋活動電位持続時間不均一性の増大はRA系の変動と関連する: 維持透析患者のQTおよびARI dispersionによる解析. 日本医工治療学会第20回学術大会, 2004. 4.
- 10) 寺嶋克幸, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>麻酔科学): 冠動脈疾患患者の大動脈と橈骨動脈圧によるSBR感度の違いと麻酔前投薬の影響. 第51回日本麻酔学会総会, 2004. 5.
- 11) 小野寺英貴, 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 竹森 健<sup>1)</sup>, 宮城泰雄, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1</sup>麻酔科学,<sup>2</sup>千葉北総病院麻酔科): 胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の無気肺への腸・陰圧体外式人工呼吸の効果. 第26回日本呼吸療法医学会, 2004. 7.
- 12) 竹森 健<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 小野寺英貴, 宮城泰雄, 寺嶋克幸, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1</sup>麻酔科学,<sup>2</sup>千葉北総病院麻酔科): 腸内容物による誤嚥性肺炎に対して伏臥位管理を行った1症例. 第26回日本呼吸療法医学会, 2004. 7.
- 13) 小野寺英貴, 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 竹森 健<sup>1)</sup>, 宮城泰雄, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1</sup>麻酔科学,<sup>2</sup>千葉北総病院麻酔科): 胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術後の無気肺への腸・陰圧体外式人工呼吸の効果. 第26回日本呼吸療法医学会, 2004. 7.
- 14) 寺嶋克幸, 杖下隆哉<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>麻酔科学): 人工赤血球溶液の組織酸素分圧と血管透過性に与える影響. 第2回収術期体液代謝侵襲研究会, 2004. 8.
- 15) 藤田進彦, 高木啓倫, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1,<sup>2</sup>多摩永山病院内科): 急性心筋梗塞におけるACE阻害薬およびアンギオテンシン受容体拮抗薬の血管内皮機能に及ぼす影響. 第52回日本心臓病学会学術集会(総会), 2004. 9.
- 16) 小野卓哉<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 舘岡克彦<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 田中啓治(<sup>1</sup>内科学第1,<sup>2</sup>第二病院内科): Isoproterenol負荷Head-up tilt試験における血行動態の評価. 第57回日本自律神経学会総会, 2004. 10.
- 17) 坏 宏一, 佐藤直樹, 山本 剛, 高木啓倫, 森田典成, 藤田進彦, 田中啓治: D-dimer迅速定量測定キットは急性大動脈解離の除外診断に有用である(口述). 第41回日本臨床生理学会, 2004. 11.
- 18) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>2)</sup>, 舘岡克彦<sup>2)</sup>, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 小林義典<sup>2)</sup>, 本間 博<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 田中啓治, 加藤貴雄<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>第二病院内科,<sup>2</sup>内科学第1): アルコール負荷Head-up tilt試験におけるPHYSIO Flow PF-05 Lab1の有用性. 第41回日本臨床生理学会総会, 2004. 11.
- 19) 篠田暁与<sup>1)</sup>, 山本 剛, 宮元亮子<sup>1)</sup>, 谷口宏史<sup>1)</sup>, 坏 宏一, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 中沢 賢<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1,<sup>2</sup>放射線医学): モバイル肺血流シンチグラフィが有用であった, ショックにて発症した広範性肺塞栓症と奇異性塞栓による心筋梗塞を合併した1例. 第11回肺塞栓症研究会・学術集会, 2004. 11.
- 20) 藤田進彦, 村上大介<sup>1)</sup>, 小川章生<sup>1)</sup>, 川嶋修司<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 田中古都子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 田中啓治, 太田眞夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1): 腎盂炎・腎周肉膜炎から肺血症と横紋筋融解症を発症した糖尿病の1例. 第42回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2005. 1.
- 21) 森田典成<sup>1)</sup>, 淀川顕司, 藤田進彦, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 小林義典<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1): 集中治療室における心房細動, 心房粗動に対するニフェカルントの意義. 第32回集中

治療医学会学術集会, 2005 . 2 .

- 22) 藤井正大<sup>1)</sup>, 宮城泰雄, 山田研一<sup>1)</sup>, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治<sup>(1)</sup> 外科学第2): 急性心不全の治療としてのBVS5000の使用経験 . 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005 . 2 .
- 23) 寺嶋克幸, 藤井正大<sup>2)</sup>, 竹田晋浩, 小野寺英貴, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 宮城泰雄, 中西一浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 田中啓治, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科学, <sup>2)</sup> 外科学第2): オフポンプ冠動脈再建術後におけるランジオロールによる脈拍数制御の心房細動発生率と循環動態に及ぼす影響 . 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005 . 2 .
- 24) 池崎弘之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 中西一浩<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 小野寺英貴, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 田中啓治, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科学): 適正なOff Pump CABG術中輸液量: 術後管理の見地から . 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005 . 2 .
- 25) 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 小野寺英貴, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 小田 裕<sup>3)</sup>, 浅田 章<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学麻酔科学, <sup>2)</sup> 同内科学第1, <sup>3)</sup> 大阪市立大学麻酔科): 生体肝移植術後のデックスメトミジン反復投与による鎮静と安全性の検討 . 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005 . 2 .
- 26) 春日美和<sup>1)</sup>, 山本 剛, 淀川顕司, 脇田知志, 土屋玲子, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 坪 宏一, 藤田進彦, 佐藤直樹, 田中啓治, 小鹿野道雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 宮城泰雄, 新田 隆<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第1, <sup>2)</sup> 外科学第2): アトピー性皮膚炎からの感染が確認された反復する人工弁置換術後感染症心内膜炎の1例 . 第195回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005 . 2 .
- 27) 東 春香<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 平井恭二<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第1, <sup>2)</sup> 外科学第2): 早期胃癌, 急性大動脈解離を合併し大量心嚢液貯留の鑑別・治療に難渋した慢性関節リウマチの1例 . 第525回日本内科学会関東地方会, 2005 . 3 .

(8) consensus conference :

- 1) Takeda S : The 6<sup>th</sup> asia pacific consensus conference on critical care medicine : management guidelines of sepsis in asian countries . The13th congress og the western pacific association of critical care medicine (Seoul, Korea) , 2004 . 6 .

(9) ポスター :

- 1) Akutsu K , Sato N , Yamamoto T , Morita N , Takagi H , Fujita N , Tanaka K , Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Medicine): Combined use of rapid D - dimer assay and blood pressure reading upon admission for diagnosis of clinically suspected acute aortic dissection . 第69回日本循環器学会総会, 2005 . 3 .
- 2) Iwasaki Y , Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Sagara K<sup>1)</sup>, Iinuma H<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>2)</sup>, Katoh T<sup>2)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 心臓血管研究所, <sup>2)</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Molecular and structural basis of the arrhythmogenic pulmonary veins . 第69回日本循環器学会総会, 2005 . 3 .
- 3) 宮地秀樹, 山本 剛, 高木啓倫, 稲見 徹<sup>2)</sup>, 村田広茂<sup>2)</sup>, 洪井俊之<sup>2)</sup>, 細川雄亮<sup>2)</sup>, 川嶋修司<sup>2)</sup>, 山根吉人<sup>2)</sup>, 坪 宏一, 藤田進彦, 高木 元<sup>2)</sup>, 高野仁司<sup>2)</sup>, 青木 聡<sup>2)</sup>, 浅井邦也<sup>2)</sup>, 佐藤直樹, 中込明裕<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線医学, <sup>2)</sup> 内科学第1): 左前下行枝近位部病変へのDCAにて合併した壁菲薄化を伴う冠動脈解離に対しBail out stentが有効であった1例: PCIガイダンスとしてのマルチスライスCTの可能性 . 第24回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2004 . 5 .
- 4) 藤田進彦, 高木啓倫, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第1): 急性冠症候群に対するカテーテル治療における短時間作用型 1遮断薬ランジオロールの効果の検討 . 第13回日本心臓血管インターベンション学会学術集会 (総会), 2004 . 7 .

## [ 付属病院病理部 ]

### 研究概要

スタッフは病理専門医3名、助手代理1名、技師11名、庶務担当1名。病理学教室と共同で日常診断業務（外科病理ならびに病理解剖）を遂行する過程の中にテーマを見出す努力をしている。その中で、第3学年時に自主学習として付属病院病理部のテーマを選択した学生達の期間修了後の研究も定着、来年で10年を迎える。今年度は3編、アメリカでの国際学会を含め学会で発表したほか、英文の論文として発信することができた。卒前・卒後教育の改革・刷新への貢献に加え、これら学部学生の研究への動機付けならびに指導が評価され、新たに創設された日本医科大学賞（教育部門）の最初の受賞者として当部の田村助教授が選ばれた。早期から研究にも目を向ける医師の養成（種蒔）が評価されたと喜んでいる。今後も種を蒔き続けるとともに、大木の発芽を期待したい。

一方、技師と指導医の共同作業である細胞診断の領域では、定着してきた技師の学会発表に加え、今年度は、日々の業務の中から纏め上げてきた診断に関する情報の一部を著書の形で多くの発信ができた。目の前には、症例という名の宝が埋もれているのである。今後も多くの分野で展開できるような体制を強化していきたい。

学会報告等では高い評価を受けてきた当施設の開発した抗原賦活法の論文が、組織・細胞化学の一流紙に掲載され、internetを介しての問い合わせも増えている。（なお、この技術の特許は、日本、欧州、米国で申請、認められている）

60回を超えたリンパ腫検討会をはじめ、乳腺、婦人科、甲状腺、腎等の検討会を介して臨床・電顕等、他施設との共同研究も順調に継続され、学会発表・欧文論文等に纏められた。

臓器別では、土屋教授の就任以来乳腺関連の報告が増えている。纏まった研究論文として情報発信されることが期待されている。

5・6年次の学年が同時に配属された臨床研修（BSL）への対応、研修義務化に伴う研修医CPCへの対応と、現場の負担（病理部は4人全員が対象となる）が大きかった年であったが、業績集の中に卒後研修に関しての著述が目立つように、日本医科大学の病理が日本の病理卒後研修の指導的立場にあることの現れであり、後期研修・研究への道筋を研修医に明確に示すことで、学部学生に蒔いた種の大きな成長へと繋げていくよう、田村助教授を中心に準備に入っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shimizu Kazuo<sup>1)</sup>, Namimatsu Shigeki, Kitagawa Wataru<sup>1)</sup>, Akasu Haruki<sup>1)</sup>, Takasu Keisuke<sup>1)</sup>, Yuichi Sugisaki, Tanaka Shigeo<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): Immunohistochemical biochemical and immunoelectron microscopic analysis of antigenic proteins on neuroendocrine cell tumors using monoclonal antibody HISL-19. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ): 365-372 .
- 2) Nakamizo Munanaga<sup>1)</sup>, Yokoshima Kazuhiko<sup>1)</sup>, Sugisaki Yuichi ( <sup>1)</sup> 耳鼻咽喉科学 ): Malignant fibrous histiocytoma of the hypopharynx : A case report in a young adult. J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 4 ): 301-304 .
- 3) Tatsuguchi Atsushi<sup>1)</sup>, Matsui Kazuhiro<sup>1)</sup>, Shinji Yoko<sup>1)</sup>, Gudis Katya<sup>1)</sup>, Tsukui Taku<sup>1)</sup>, Kishida Teruyuki<sup>1)</sup>, Fukuda Yuh<sup>2)</sup>, Sugisaki Yuichi, Tokunaga Akira<sup>1)</sup>, Tajiri Takashi<sup>1)</sup>, Sakamoto Choitsu<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3, <sup>2)</sup> 病理学第1 ): Cyclooxygenase-2 expression correlates with angiogenesis and apoptosis in gastric cancer tissue. Huma Pathology 2004 ; 35 ( 4 ): 488-495 .
- 4) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Matsubara M, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>3)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Second Department of Pathology, <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology, Tamanagayama Hospital ): Fine Needle Aspiration Cytology of Primary Epithe-

lioid Sarcoma A Report of 2 Cases . Acta Cytologica 2004 ; 48 ( 3 ) : 391-396 .

- 5) Kaizu Kiyohiko<sup>1)</sup>, Maeda Miho<sup>1)</sup>, Ohkawa Takuya<sup>1)</sup>, Hayashida Mari<sup>1)</sup>, Nakajima Seiko<sup>2)</sup>, Sugisaki Yuichi , Fukunaga Yoshitaka<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学小児科学, <sup>2)</sup>上尾総合病院小児科 ): Marked elevation of soluble Fas ligand and cytokine secretion after splenectomy in aggressive natural killer cell leukemia / lymphoma . Leukemia & Lymphoma 2004 ; 45 ( 11 ) : 2291-2294 .
- 6) Dai W<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Wakamatsu K<sup>2)</sup>, Namimatsu S , Sugisaki Y , Ghazizadeh M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Rearch , <sup>2)</sup>First Department of Pathology ): A new antigen retrieval method using citraconic anhydride for immunoelectrol microscopy : localization of surfactant pro-protein C ( proSP-C ) in the type II alveolar epithelial cells . J. Submicrosc. Cytol. Pathol 2004 ; 36 ( 3-4 ) : 219-224 .
- 7) Namimatsu S , Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology ): Reversing the Effects of Folmalin Fixation with Citraconic Anhydride and Heat : A Universal Antigen Retrieval Method . Journal of Histochemistry & Cytochemistry 2005 ; 53 ( 1 ) : 3-11 .
- 8) Namimatsu S , Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>老人病研究所 ): Reversing the effects of formalin fixation with citraconic anhydride and heat : A universal antigen retrieval method . Journal of Histochemistry & Cytochemistry 2005 ; 53 ( 1 ) : 3-11 .
- 9) Mase H<sup>1)</sup>, Tamura K , Hiromoto A<sup>1)</sup>, Hotta M<sup>1)</sup>, Hotomi S<sup>1)</sup>, Togashi M<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup>, Yajima T<sup>3)</sup>, Nitta T<sup>3)</sup>, Tanaka S<sup>3)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>日本医科大学学生, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>外科学第2 ): Histopathological Study of Tissue Reaction to Pacemaker Electrodes Implanted in the Endocardium . J Nippon Med Sch 2005 ; 71 ( 1 ) : 52-59 .
- 10) Sato S<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>2)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Wakamatsu K<sup>2)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第1 ): Occurrence of hyaline droplets in renal biopsy specimens : an ultrastructural study . Medical Molecular Morphology 2005 ; 38 : 63-71 .
- 11) Yamamoto T<sup>1)</sup>, Nejima J<sup>1)</sup>, Ino T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>2)</sup>, Bessho R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学, <sup>3)</sup>外科学第2 ): A case of massive left atrial lipoma occupying pericardial space . Japanese Heart Journal 2004 ; 45 ( 4 ) : 715-721 .
- 12) 並松茂樹, 尾崎正行, 釜口晴美, 杉崎祐一: イムノセイバーを用いた抗原賦活化について . 病理技術 2005 ; 68 ( 1 ) : 12-15 .

## (2) 研究報告書 :

- 1) 田村浩一, 井内康輝<sup>1)</sup>, 堤 寛<sup>2)</sup>, 鬼島 宏<sup>3)</sup>, 羽場礼次<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>5)</sup>, 村田哲也<sup>6)</sup>, 下 正宗<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医学, <sup>2)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一病理学, <sup>3)</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, <sup>4)</sup>香川大学医学部附属病院病理部, <sup>5)</sup>日本医科大学病理学第一, <sup>6)</sup>JA三重厚生連鈴鹿中央総合病院中央検査科, <sup>7)</sup>東京民主医療機関連合会東葛病院臨床病理科・検査科 ): 第93回日本病理学会総会ワークショップ報告 新医師臨床研修制度におけるCPC研修 研修目標と方略のあり方 . 病理と臨床 2004 ; 22 : p859 .
- 2) 田村浩一, 土屋眞一, 杉崎祐一: 病理診断コンサルテーション . セカンドオピニオン外来における病理診断コンサルテーションの現状 . 病理と臨床 2004 ; 22 : pp1166-1171 .
- 3) 吉村明修<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>2)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup>, 坂本静樹<sup>4)</sup>, 猪口孝一<sup>2)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>4)</sup>, 田村秀人<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>4)</sup>, 森 修<sup>5)</sup>, 川本雅司<sup>6)</sup>, 杉崎祐一, 田村浩一 ( <sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>内科学第3, <sup>3)</sup>内科学第1, <sup>4)</sup>内科学第2, <sup>5)</sup>病理学第2, <sup>6)</sup>病理学第1 ): 心筋虚血, 脾腫, 汎血球を呈し呼吸不全で死亡した不明熱の1例 . 内科 2004 ; 93 ( 4 ) : pp753-765 .
- 4) 福岡長知<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 田村浩一, 内海甲一<sup>4)</sup>, 吉村明修<sup>5)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 王 若皎<sup>3)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>6)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>集中治療室, <sup>3)</sup>病理学第2, <sup>4)</sup>内科



- 学第2,<sup>5)</sup>内科学第4,<sup>6)</sup>病理学第1):慢性腎不全に合併した急性心筋梗塞.内科 2004;94(4):pp767-778.
- (3)序論:
- 1)杉崎祐一:序論.腎臓 2004;27(1):3-4.
- (4)総説:
- 1)杉崎祐一:腎生検病理診断法:19.系球体基底膜病変.腎と透析 2004;57(3):262-276.

## 著書

- 1)田村浩一,堤 寛<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一病理学):〔分担〕7章 医療記録04 CPCレポートの作成と症例呈示.必修化対応臨床研修マニュアル(畑尾正彦),2003;pp187-189,羊土社.
- 2)土屋眞一,隈崎達夫<sup>1)</sup>,田島廣之<sup>1)</sup>,川本雅司<sup>2)</sup>,福成信博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学放射線医学,<sup>2)</sup>同病理学第1,<sup>3)</sup>伊藤病院外科画像診断部):〔監修〕小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;学際企画.
- 3)川本雅司<sup>1)</sup>,田島廣之<sup>2)</sup>,松原美幸(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>放射線医学):〔分担〕CTNB細胞診の人工的变化とCTNB後の手術標本における線維化の評価法.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp22-23,学際企画.
- 4)田島廣之<sup>1)</sup>,松原美幸,川本雅司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1):〔分担〕GGO主体の病変:AAH.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp24-25,学際企画.
- 5)川本雅司<sup>1)</sup>,田島廣之<sup>2)</sup>,松原美幸(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>放射線医学):〔分担〕GGO主体の病変:BACinAAH.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp26-27,学際企画.
- 6)松原美幸,田島廣之<sup>1)</sup>,川本雅司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1):〔分担〕GGO主体の病変:野口のTypeA.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp28-29,学際企画.
- 7)田島廣之<sup>1)</sup>,松原美幸,川本雅司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1):〔分担〕GGOを伴う病変:野口のTypeB.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp30-31,学際企画.
- 8)松原美幸,田島廣之<sup>1)</sup>,川本雅司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1):〔分担〕GGOを伴う病変:野口のTypeC.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp32-33,学際企画.
- 9)松原美幸,川本雅司<sup>1)</sup>,田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>放射線医学):〔分担〕GGOを伴う病変:野口のTypeC.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp34-35,学際企画.
- 10)田島廣之<sup>1)</sup>,松原美幸,川本雅司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1):〔分担〕GGOを伴う病変:野口のTypeC.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp36-37,学際企画.
- 11)川本雅司<sup>1)</sup>,松原美幸,田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>放射線医学):〔分担〕小型結節性病変:野口のTypeD.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp38-39,学際企画.
- 12)松原美幸,田島廣之<sup>1)</sup>,川本雅司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1):〔分担〕小型結節性病変:野口のTypeE.小病変へのアプローチ 肺と甲状腺:生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博),2004;pp40-41,学際企画.

- 13) 田島廣之<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>(1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1): [分担] 小型結節性病変: 野口のTypeF . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp42-43, 学際企画 .
- 14) 川本雅司<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 松原美幸, 阿部 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>放射線医学): [分担] 小型結節性病変: Mucinous “ colloid ”) adenocarcinoma . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp44-45, 学際企画 .
- 15) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第2,<sup>3)</sup>病理学第1): [分担] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 扁平上皮癌 . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp46-47, 学際企画 .
- 16) 松原美幸, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2,<sup>2)</sup>放射線医学,<sup>3)</sup>病理学第1): [分担] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: カルチノイド(非定型) . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp48-49, 学際企画 .
- 17) 川本雅司<sup>1)</sup>, 松原美幸, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>病理学第2,<sup>3)</sup>放射線医学): [分担] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 転移性肺腫瘍 . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp50-51, 学際企画 .
- 18) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 川本雅司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第2,<sup>3)</sup>病理学第1): [分担] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 転移性肺腫瘍 . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp52-53, 学際企画 .
- 19) 田島廣之<sup>1)</sup>, 松原美幸, 川本雅司<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>病理学第1): [分担] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 過誤腫とクリプトコッカス症 . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp54-55, 学際企画 .
- 20) 松原美幸, 川本雅司<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>放射線医学): [分担] 小型肺腺癌と鑑別を要する結節性病変: 結核 . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp56-57, 学際企画 .
- 21) 松原美幸, 川本雅司<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1,<sup>2)</sup>放射線医学): [分担] GGOを呈し, 腺癌と鑑別を要する細胞が出現する非腫瘍性疾患: びまん性間質性肺炎 . 小病変へのアプローチ 肺と甲状腺: 生検のコツと画像・組織・細胞診の相関(隈崎達夫・土屋眞一・田島廣之・川本雅司・福成信博), 2004 ; pp58-59, 学際企画 .
- 22) 田村浩一: [編集] 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004 ; 南江堂 .
- 23) 田村浩一: [分担] 3 . CPC研修の流れ . 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004 ; pp5-6, 南江堂 .
- 24) 田村浩一, 福井次矢<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都大学大学院医学研究科臨床疫学): [分担] 4 . 解剖前I . 病理解剖の承諾を得る手続き iii . ご遺族への依頼のしかた . 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004 ; pp12-17, 南江堂 .
- 25) 田村浩一: [分担] 4 . 解剖前 III . 病理解剖前の担当病理医との討議 . 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004 ; pp24-26, 南江堂 .
- 26) 田村浩一: [分担] 4 . 解剖前 IV . 病理解剖前の予測のしかた . 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004 ; pp27-28, 南江堂 .
- 27) 田村浩一: [分担] 6 . 解剖終了時 I . 暫定病理解剖診断書の作成 . 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004 ; pp43-45, 南江堂 .

- 28) 田村浩一, 福井次矢<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>京都大学大学院医学研究科臨床疫学): [ 分担 ] 6. 解剖終了時 II. ご遺族への説明. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp46-48, 南江堂.
- 29) 田村浩一: [ 分担 ] 7. 解剖後 I. 臨床経過をあわせての考察. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp49-50, 南江堂.
- 30) 田村浩一: [ 分担 ] 8. 顕微鏡標本検鏡時 I. 顕微鏡検査の進めかた. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp55-56, 南江堂.
- 31) 田村浩一: [ 分担 ] 8. 顕微鏡標本検鏡時 II. 最終病理解剖診断書の作成. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp57-58, 南江堂.
- 32) 田村浩一: [ 分担 ] 9. CPCの形式 I. 従来型CPC. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp59-61, 南江堂.
- 33) 田村浩一: [ 分担 ] 10. CPCの進めかた III. 発表時の質問への対応. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp73-74, 南江堂.
- 34) 田村浩一: [ 分担 ] 10. CPCの進めかた IV. CPC内容のまとめかた. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp75-76, 南江堂.
- 35) 田村浩一, 鬼島 宏<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): [ 分担 ] 11. レポートの提出 I. CPCレポート作成の要点. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp77-88, 南江堂.
- 36) 田村浩一: [ 分担 ] 12. 具体的なレポート例 I. 記載内容が不適切・不十分なレポート例. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp91-100, 南江堂.
- 37) 田村浩一: [ 分担 ] 12. 具体的なレポート例 II. 従来型CPC. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp101-107, 南江堂.
- 38) 田村浩一: [ 分担 ] 12. 具体的なレポート例 III. 入院経過が長い例. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp108-112, 南江堂.
- 39) 田村浩一: [ 分担 ] 12. 具体的なレポート例 IV. 教育型CPCの呈示例. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp113-116, 南江堂.
- 40) 田村浩一, 江澤英史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線医学研究所重粒子医科学センター病理診断課臨床検査室): [ 分担 ] 14. オートプシー・イメージングとCPC研修. 臨床研修必携CPCレポート作成マニュアル(田村浩一), 2004; pp139-142, 南江堂.
- 41) 田村浩一, 江澤英史<sup>2)</sup>, 塩谷清司<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>重粒子医科学センター, (<sup>2</sup>)筑波メディカルセンター病院: [ 分担 ] I. 総論 Aiと医師との相関関係(新医師研修制度下でのAi) 新医師臨床研修制度のCPC研修でAiの活用を!. オートプシー・イメージング: 画像解剖(江澤英史, 塩谷清司), 2004; pp38-39, 文光堂.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 土屋真一, 石原明德: 悪性と間違えやすい乳腺の良性疾患: 細胞診. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 2) 川本雅司<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 松原美幸, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>病理学第1, <sup>2</sup>放射線医学, <sup>3</sup>病理学第2): CTガイド下肺穿刺生検・細胞診(CTNB)による末梢型小型肺病変診断の重要性と有用性(各領域における癌境界疫変の細胞診の問題点; 画像・内視鏡診断との接点). 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 7.
- 3) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松原美幸, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 北川泰之<sup>3)</sup>, 杉崎祐一, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3</sup>同整形外科): 穿刺吸引細胞診を軟部腫瘍診療にどう活用するか? 軟部腫瘍細胞診を一般化するために. 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 7.
- 4) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 前田昭太郎<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2</sup>病理学第2, <sup>3</sup>多摩永山病院病理部): 浸潤性星細胞種の細胞像: びまん性浸潤部を中心に. 第45回臨

床細胞学会総会（春期大会），2004．7．

5) 土屋眞一：乳腺病変の微細形態学的特徴．第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術集会，2004．11．

(2) セミナー：

1) 田村浩一：臓器別病理診断講習会5 心血管：大動脈弁の加齢性硬化による狭窄．第93回日本病理学会総会，2004．6．

(3) ワークショップ：

1) 田村浩一：CPC研修必修化に関わる問題点(新医師臨床研修制度におけるCPC研修 研修目標と方略のあり方)．第93回日本病理学会総会，2004．6．

2) 川本雅司<sup>1)</sup>，田村浩一<sup>(1)</sup>病理学第1)：大学病院における従来型CPC簡略化の実例(新医師臨床研修制度におけるCPC研修 研修目標と方略のあり方)．第93回日本病理学会総会，2004．6．

3) 米山剛一<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，石川温子<sup>1)</sup>，沖野恵子<sup>1)</sup>，釜口晴美，浅川一枝，杉崎祐一，中山裕樹<sup>2)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科学，<sup>2)</sup>神奈川県立がんセンター婦人科)：予後不良な組織型における鑑別．第45回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2004．7．

4) 秋丸琥甫<sup>1)</sup>，佐藤春明，度会泰彦，横室茂樹<sup>1)</sup>，相本隆幸<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>(1)</sup>大学院臓器病態制御外科，<sup>2)</sup>病理学第2)：閉塞性黄疸の画像と細胞診．第43回日本臨床細胞学会秋季大会，2004．11．

5) 川本雅司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)：あなたの見ている標本は本当に肺大細胞神経内分泌癌(LCNEC)ですか？(肺大細胞神経内分泌癌の細胞像と鑑別診断)．第43回日本臨床細胞学会秋季大会，2004．11．

(4) 一般講演：

1) Saito T<sup>1)</sup>，Uchida D<sup>1)</sup>，Saito T<sup>1)</sup>，Tamura K，Sugisaki Y (<sup>1)</sup>日本医科大学学生)：Histopathological Study of Left Atrial Appendage Obtained at the Operation for Atrial Fibrillation．American College of Cardiology Annual Scientific Session (New Orleans)，2004．3．

2) Liu A. M<sup>1)</sup>，Maeda S<sup>2)</sup>，Hosone M<sup>2)</sup>，Azuma K<sup>2)</sup>，Katayama H<sup>2)</sup>，Suzuki S<sup>2)</sup>，Sugisaki Y (<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Research，<sup>2)</sup>Division of Surgical Pathology, Tama Nagayama Hospital)：Gastrointestinal stromal tumors (GISTs)：an ultrastructural and immunohistochemical study of eight cases．8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy (8APEM)(Kanazawa, Japan)，2004．6．

3) Liu A. M<sup>1)</sup>，Sugisaki Y，Hosone M<sup>2)</sup>，Namimatsu S (<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Research，<sup>2)</sup>Division of Surgical Pathology, Tama Nagayama Hp.：Anaplastic large cell lymphoma of 3 cases. A comparative study of flow cytometry analysis, immunohistochemistry and electron microscopy．International Academy of Pathology, Hong Kong Division 13th Annual Scientific Meeting (Hong Kong)，2004．11．

4) 野口智子<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，古川恵子<sup>1)</sup>，岩崎玲子<sup>1)</sup>，土屋眞一，杉崎祐一，田尻 孝<sup>1)</sup>，樋口勝美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1，<sup>2)</sup>東京白十字病院外科)：Invasive micropapillary carcinomaを呈した男子乳癌の1例．第12回日本乳癌学会総会，2004．6．

5) 草間 律<sup>1)</sup>，土屋眞一，高山文吉<sup>2)</sup>，松山郁生<sup>3)</sup>，藤森 実<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>北信総合病院外科，<sup>2)</sup>安曇野総合病院放射線科，<sup>3)</sup>長野救急センター検査部，<sup>4)</sup>信州大学医学部乳腺内分泌外科)：良悪性診断におけるダイナミック後脂肪抑制併用T1強調像の有用性．第12回日本乳癌学会総会，2004．6．

6) 古川恵子<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，土屋眞一(<sup>1)</sup>外科学第1)：乳癌取り扱い規約・細胞診新報告様式と旧分類(Class分類)との比較による検討．第12回日本乳癌学会総会，2004．6．

7) 飯田信也<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，古川恵子<sup>1)</sup>，岩崎玲子<sup>1)</sup>，野口智子<sup>1)</sup>，源河敦史<sup>1)</sup>，奥平かおり<sup>1)</sup>，樋口勝美<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，有馬保生<sup>1)</sup>，土屋眞一，杉崎祐一，内藤善哉<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学，<sup>2)</sup>東京白十字病院外科)：当科における進行再発乳癌に対するハーセプチン・タキサン同時併用療法の治療成績．第12回日本乳癌学会総会，2004．6．

- 8) 樋口勝美<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 飯田信也<sup>2)</sup>, 古川恵子<sup>2)</sup>, 岩崎玲子<sup>2)</sup>, 野口智子<sup>2)</sup>, 源河敦史<sup>2)</sup>, 奥平かおり<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 有馬保生<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学): 教室における炎症性乳癌の治療成績. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 9) 前野一真<sup>1)</sup>, <sup>2)</sup>, 伊藤研一<sup>1)</sup>, 浜 善久<sup>1)</sup>, 新宮聖士<sup>1)</sup>, 木村盛彦<sup>3)</sup>, 佐野宗明<sup>4)</sup>, 中込 博<sup>5)</sup>, 土屋眞一, 藤森実<sup>1)</sup>, 天野 純<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>信州大学外科, <sup>2)</sup>国立松本病院外科, <sup>3)</sup>群馬県立がんセンター外科, <sup>4)</sup>新潟県立がんセンター新潟病院外科, <sup>5)</sup>山梨県立中央病院外科): 乳癌におけるMDR1遺伝子の一塩基多型(SNPs)とP糖蛋白質の発現との関連. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 10) 古川清憲<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 古川恵子<sup>1)</sup>, 岩崎玲子<sup>1)</sup>, 野口智子<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 町田 稔<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): 乳癌術後肺塞栓症の1例. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 11) 松宮彰彦<sup>1)</sup>, 北村隆司<sup>2)</sup>, 渡辺 紘<sup>3)</sup>, 高 用茂<sup>3)</sup>, 真田 裕<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 坂本吾偉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学藤が丘病院外科, <sup>2)</sup>同病院病理科, <sup>3)</sup>渡辺病院, <sup>4)</sup>癌研究会癌研究所): 両側に異型アポクリン化生を伴う乳管腺腫, 一側には非浸潤性アポクリン癌および浸潤癌が随伴した乳癌の1例. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 12) 山田理恵子<sup>1)</sup>, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 加藤博之<sup>1)</sup>, 相羽元彦<sup>2)</sup>, 飯田富雄<sup>3)</sup>, 浜田博隆<sup>3)</sup>, 土屋眞一(<sup>1)</sup>東京女子医科大学付属第二病院検査科, <sup>2)</sup>同病理科, <sup>3)</sup>南千住病院): 乳管内癌が主体のアポクリン癌と乳頭腺管癌の両側乳癌の1例. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 13) 実原正明<sup>1)</sup>, 伊藤信夫<sup>2)</sup>, 千賀 脩<sup>3)</sup>, 土屋眞一, 北村隆司<sup>4)</sup>, 光谷俊幸<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>飯田市立病院臨床検査科, <sup>2)</sup>同臨床病理科, <sup>3)</sup>同外科, <sup>4)</sup>昭和大学藤が丘病院病院病理部): 乳腺アポクリン癌の細胞・微細形態学的検討. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 14) 野口智子<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 古川恵子<sup>1)</sup>, 岩崎玲子<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 樋口勝美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>2)</sup>東京白十字病院外科): Invasive micropapillary carcinomaを呈した男子乳癌の1例. 第12回日本乳癌学会総会, 2004. 6.
- 15) 中村有希<sup>1)</sup>, 小澤由季子<sup>1)</sup>, 鈴木えりか<sup>1)</sup>, 谷口智香<sup>1)</sup>, 辻本和峰<sup>1)</sup>, 鳥海博司<sup>1)</sup>, 斎藤奈穂子<sup>2)</sup>, 鈴木悠香<sup>2)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>日本医科大学学生, <sup>2)</sup>東京女子医科大学学生): 嚢状動脈瘤形成に対するPenetrating Atherosclerotic Ulcer (PAU)の関与. 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
- 16) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 小津千佳<sup>2)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 大久保公祐<sup>2)</sup>, 中山智子<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一, 鈴木恒道<sup>4)</sup>, 八木聡明<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>耳鼻咽喉科学, <sup>3)</sup>病理学第1): 全経過47年の頭蓋・顔面骨肉腫の1剖検例. 第93回日本病理学会総会, 2004. 6.
- 17) 佐藤春明, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一, 土屋眞一(<sup>1)</sup>病理学第2): Tubulolobular carcinomaの細胞像. 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 7.
- 18) 永井祥子, 田村浩一, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 土屋眞一(<sup>1)</sup>病理学第2): 男性乳腺に発生したInvasive micropapillary carcinomaの1例. 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 7.
- 19) 恩田直美<sup>1)</sup>, 竹間友紀<sup>1)</sup>, 杼窪 寛<sup>1)</sup>, 羽田圭祐<sup>1)</sup>, ジュラット トホテ<sup>2)</sup>, 富樫真由子<sup>2)</sup>, 塚田克也, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>日本医科大学学生, <sup>2)</sup>病理学第1): 肺動脈血栓塞栓症の吸引療法に関する臨床病理学的検討. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 20) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 並松茂樹, 石崎正通<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第1): II型肺胞上皮細胞のサーファクタントproprotein Cの局在: シトラコン酸の抗原賦活化による新しい免疫電顕法を用いて. 第40回日本界面医学会学術研究会, 2004. 10.
- 21) 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 小腸杯細胞のムチン分泌とアクチン細線維の関係. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2004. 11.
- 22) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>2)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>, 若松恭子<sup>2)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 井上京子<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第1): 尿管間質の毛細血管基底膜の層状増生. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2004. 11.

- 23) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 松島申治<sup>3)</sup>, 山本英希<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>, 杉崎祐一, 内藤善哉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>多摩永山病院外科, <sup>4)</sup>病理学第2): 神経内分泌の特徴を有する肺大細胞癌: LCNECとLCCNDとの区別. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2004. 11.
- 24) 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 井上京子<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>附属病院小児科): 小児白血病患者末梢血の電子顕微鏡観察: 光顕による白血球百分率算定との比較. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2004. 11.
- 25) 劉 愛民, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>病理学第2): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の免疫組織化学及び電顕的検索. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2004. 11.
- 26) 並松茂樹, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 無水シトラコン酸(CCA)による抗原賦活化: 抗原賦活時における加熱処理は抗原を失活させるか. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術集会, 2004. 11.
- 27) 浅川一枝, 木全亮二<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 田村浩一, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>泌尿器科学, <sup>2)</sup>病理学第2): 尿細胞診にて推定し得た神経内分泌腫瘍症例. 第43回日本臨床細胞学会秋季大会, 2004. 11.
- 28) 長峯かおり<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 内山吉喜<sup>1)</sup>, 松原美幸, 古谷政一<sup>2)</sup>, 清水康仁<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>下館市民病院臨床検査技術科, <sup>2)</sup>同外科): 乳腺顆粒細胞腫の1例. 第43回日本臨床細胞学会秋季大会, 2004. 11.
- 29) 金田 睦<sup>1)</sup>, 丑山 茂<sup>1)</sup>, 朝倉 勝<sup>1)</sup>, 大澤里美<sup>1)</sup>, 春日好雄<sup>2)</sup>, 上原 剛<sup>3)</sup>, 土屋眞一(<sup>1)</sup>長野県厚生連長野松代総合病院臨床検査科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>信州大学医学部附属病院臨床検査科病理): 乳腺葉状腫瘍から発生した紡錘細胞癌の1例. 第43回日本臨床細胞学会秋季大会, 2004. 11.
- (5) 要望演題:
- 1) 松原美幸, 杉崎祐一, 土屋眞一: 乳腺の新報告様式とその運用実績. 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 7.
- 2) 渡會泰彦, 川本雅司<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一, 土屋眞一(<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 乳腺における診断困難例(とくに乳腺型線維腺腫)とその対処法. 第45回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2004. 7.

## [ 付属病院中央検査部 ]

### 研究概要

中央検査部では、臨床検査の著しい進歩の中で、新しい検査方法や技術を習得し、臨床への有用性と応用を主眼としている。今年度における学術と研究面で、日常の臨床検査を通じた課題に対し、積極的に取り組み充実した成果を上げている。この日頃の地道な取り組みが、日常の臨床検査業務に広く反映され、高精度でかつ信頼性の高い検査を行なう上での基礎となっている。

全自動尿分析装置の有用性、ビリルビン・ケトン体の異常発色の検索、汎用CRP測定試薬による高感度CRPの測定適応性の可能性の検討、凝固線溶測定機器でのFDPプロゾーンチェック法の検討やAPTT測定試薬による凝固過程の反応プロファイルの検討、FT3改良試薬や抗酸菌液体培地と小川培地との比較検討、抗菌薬の使用動向および緑膿菌DNA型別解析におけるRAPD法の有用性、血液製剤による(1-3)-D-glucanへの影響に関して、自己血の採血および使用状況、診療前検査における凝固促進剤入り採血管の有用性、骨髄移植患者の口腔内および腸管内の常在菌検査意義について、心筋由来脂肪酸蛋白と外傷の重症度や腎機能との関連について、管理分野においては、経済効果の検討とDPCへの対応および緊急検査体制などについて、極めて多岐にわたり広範囲な活動を行なった。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 柴田泰史, 上田康晴<sup>1)</sup>, 野本剛史, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>内科学第1): 心筋マーカー(心筋トロポニンT, ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)と腎機能の関連性について. 日本集中治療医学会雑誌 2004; 11(3): 185-191.

#### (2) 研究報告書:

- 1) 鳴海武長, 柴田泰史, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院中央検査室): 血液製剤による血中(1-3)-D-glucanへの影響. 医学検査 2005; 54(3): pp202-208.
- 2) 相星淳一<sup>1)</sup>, 柴田泰史(<sup>1)</sup>救急医学): 救命救急センターにおける薬物乱用・依存等の実態に関する研究. 平成16年度 厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究 2005; pp153-157.
- 3) 横田裕行<sup>1)</sup>, 園生雅生<sup>2)</sup>, 北原孝雄<sup>3)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>4)</sup>, 中林基明<sup>5)</sup>, 久保田稔<sup>6)</sup>, 柴田泰史(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学, <sup>2)</sup>帝京大学神経内科, <sup>3)</sup>北里大学救命救急センター, <sup>4)</sup>川口市立医療センター救命救急センター, <sup>5)</sup>武蔵野赤十字救命救急センター, <sup>6)</sup>日本医科大学附属多摩永山病院中央検査室): 臓器提供施設内における脳死判定に関する研究. 平成16年度 厚生労働科学研究補助金(ヒトゲノム・再生医療等研究事業)脳死下での臓器移植の社会的基盤にむけての研究 2005; pp19-29.

#### (3) 特集:

- 1) 柴田泰史: 緊急検査体制とその問題点: 日本医科大学付属病院における緊急検査体制と問題点. 私立医科大学臨床検査技師会誌 2004; (39): 15-19.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 日ノ澤進一郎, 福田節子, 野本剛史: 汎用CRP測定試薬による高感度CRP測定適応の可能性. 第53回日本医学検査学会, 2004.5.

#### (2) パネルディスカッション:

- 1) 三橋 太, 小林紘士, 石野三智男, 中村祐三, 野本剛史: 全自動尿分析装置US-3100Rの評価. 第53回日本医学検査学会, 2004.5.
- 2) 植田貴子, 小川早恵子, 小相澤美香, 亀山澄子, 福田高久, 飯野幸永, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 当院における自己血の採血, 使用状況について. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004.9.
- 3) 小林紘士, 石野三智男, 三橋 太, 中村祐三, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 全自動尿分析装置US-3100Rの評価: 特にビリルビン・ケトン体の異常発色の検索. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004.9.
- 4) 三橋 太, 中村祐三, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 幼児に感染を認めた日本海裂頭条虫症の1例. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004.9.
- 5) 永田則子, 景山憲貴, 高木 豊, 中村祐三, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 診療前採血室および検査室に於ける凝固促進剤(トロンピン)添加真空採血管の有用性. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004.9.
- 6) 田島克美, 金子幸江, 式田竜司, 堤 章江, 橋本政子, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): FT3改良試薬の使用経験. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004.9.
- 7) 篠山明宏, 小嶋佳子, 小坂田直美, 園部一成, 青砥泰二, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 抗酸菌液体培地(MGIT)と固形培地培養検査(小川法)の比較. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004.9.
- 8) 本城和義<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 青砥泰二, 飯野幸永, 里村克章<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>薬剤部, <sup>2)</sup>内科学第1): 当院における抗菌薬の使用動向および耐性の推移. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004.9.

- 9) 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 大脇敦子<sup>1)</sup>, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 熊谷善博<sup>1)</sup>, 橋秀実<sup>1)</sup>, 青砥泰二, 園部一成, 篠山明宏<sup>(1)</sup> (微生物学・免疫学): 緑膿菌DNA型別解析におけるRAPD法の有用性. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 10) 園部一成, 小嶋佳子, 小坂田直美, 篠山明宏, 青砥泰二, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 骨髄移植患者における口腔内および腸管内の常在菌検出の意義. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 11) 鳴海武長, 柴田泰史, 飯野幸永, 本城和義<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬剤部): 血液製剤による(1-3)-β-D-glucanへの影響. 真菌症フォーラム第6回学術集会, 2005. 1.
- (3) 一般講演:
- 1) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): Reactive thrombocytosisにおける血清トロンボポエチンレベルは全身性炎症反応レベルに相関する. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 2) 鳴海武長, 野本剛史, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 血液製剤の(1-3)-β-D-glucanへの影響. 第53回日本医学検査学会, 2004. 5.
- 3) 柴田泰史, 野本剛史, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>内科学第1): 細菌感染症におけるプロカルシトニン測定の意義. 第53回日本医学検査学会, 2004. 5.
- 4) 景山憲貴, 高木 豊, 野本剛史, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Coagrex800によるFDP測定試薬を用いたプロゾーンチェック法の検討. 第53回日本医学検査学会, 2004. 5.
- 5) 高木 豊, 景山孝則, 野本剛史, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 合成リン脂質とウサギ脳由来リン脂質を用いたAPTT測定試薬による凝固過程の反応プロファイルの検討. 第53回日本医学検査学会, 2004. 5.
- 6) 中村祐三, 野本剛史, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 診療報酬改訂に伴うDPCへの対応とFMS運営改善効果について. 第53回日本医学検査学会, 2004. 5.
- 7) 柴田泰史, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>救急医学): 心臓由来脂肪酸結合蛋白の上昇と外傷の重症度との相関. 第32回日本救急医学会総会・学術集会, 2004. 10.
- 8) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 敗血症における血清トロンボポエチンレベルの検討. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.

## [ 付属病院薬剤部 ]

### 研究概要

平成16年度の研究業績は、学会発表22題、論文8報、著書3冊であった。

研究の概要としては、医薬品の適正使用、特に薬物動態を考慮した薬物投与設計により、有効性と安全性を検討した。特に、重症患者に対しては、抗真菌剤の血中濃度が重要となることから「ICU患者における深在性真菌症治療薬の効果と血中濃度」について、また容器への吸着の問題については「キシレン含有油性インクのプラスチック製輸液容器に対する影響」について、発表した。

薬剤経済の面からは、「クリニカルパス適用胃切除患者におけるCefazolin (CEZ) とAmpicillin/Sulbactam (SBT/ABPC) の術後感染発症阻止効果ならびに費用対効果の比較」や「注射薬調剤における薬学経済学的評価」について、また高度救命救急センターにおける包括評価制度として「出来高制度と包括評価制度における当院高度救命救急センターの急性中毒診療」について、まとめ発表した。リスクマネジメントとしては、調剤の面から「注射薬調剤における安全対策への取り組みと成果」について発表した。

チーム医療の中で、薬物療法の有用性と安全管理を中心として、癌領域「輸液療法室における外来抗がん剤治療」や緩和ケア領域「緩和ケアチームにおける薬剤師の役割」についてまとめ発表した。

今後も、薬剤師が専門性を発揮し、医薬品の適正使用と安全管理を中心として、患者への良質な医療の提供に貢献できるよう研究に努力していきたいと考えている。



## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hirata K, Matsumoto Y<sup>1)</sup>, Ohno K<sup>1)</sup>, Hirano M, Yamamoto Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Showa Pharmaceutical University, <sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine): Pharmacokinetics of midazolam in critically ill patients receiving continuous hemodialysis filtration using polymethyl methacrylate and/or polysulfone membrane. J. Pharm. Health Care Sci 2005 ; 31 (2): 99-104 .
- 2) 伊勢雄也, 萩原 研, 齋藤節生<sup>1)</sup>, 本城和義, 宋 静香, 加藤あゆみ, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 三橋恭子<sup>2)</sup>, 吉行俊郎<sup>3)</sup>, 木山輝郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>城西大学薬学部, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院看護部, <sup>3)</sup>同外科学第1): クリニカルパス適用胃切除患者の術後感染発症に及ぼす諸因子の影響. 医療薬学 2004 ; 30 (8): 543-546 .
- 3) 山村重雄<sup>1)</sup>, 竹平理恵子<sup>2)</sup>, 川田桂子, 百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟 (<sup>1)</sup>東邦大学薬学部, <sup>2)</sup>東邦大学付属佐倉病院): 共分散構造分析による麻薬服用患者のQOL評価. JPN. J. DRUG INFORM 2004 ; 6 (2): 140-141 .
- 4) 伊勢雄也, 萩原 研, 齋藤節生<sup>1)</sup>, 本城和義, 宋 静香, 加藤あゆみ, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 三橋恭子<sup>2)</sup>, 吉行俊郎<sup>3)</sup>, 木山輝郎<sup>3)</sup>, 亀井美和子<sup>4)</sup>, 白神 誠<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>城西大学薬学部, <sup>2)</sup>日本医科大学看護部, <sup>3)</sup>同外科学第1, <sup>4)</sup>日本大学薬学部): クリニカルパス適用胃切除患者におけるCefazolin (CEZ) とSulbactam/Ampicillin (SBT/ABPC) の術後感染発症阻止効果並びに費用対効果の比較. 薬学雑誌 2004 ; 124 (11): 815-824 .
- 5) 伊勢雄也, 島 麻智子, 萩原 研, 片山志郎, 平野公晟: 注射剤調剤による適正使用推進の医療経済学的評価. 日病薬誌 2004 ; 40 (11): 1443-1444 .
- 6) 伊勢雄也, 萩原 研, 片山志郎: 薬剤師のパスへの取り組み: 胃切除クリニカルパスへの取り組みを中心に: . 日本クリニカルパス学会 2005 ; 7 (1): 11-18 .

#### (2) 綜説：

- 1) 片山志郎: 隠れた副作用: イライラ, そわそわ感 (錐体外路症状). CANCER PAINフォーラム 2004 ; 13 (3): 53-55 .
- 2) 片山志郎: 緩和医療への薬剤師の貢献: オピオイド製剤の副作用とその対策. 月刊薬事 2005 ; 47 (2): 219-223 .

### 著書

- 1) 片山志郎: [総説] 緩和医療への薬剤師の貢献: オピオイド製剤の副作用とその対策. 月刊薬事, 2005 ; pp1-2, じほう .
- 2) 平田清貴, 榊井良裕<sup>1)</sup>, 田中秀治<sup>2)</sup>, 畑中哲生<sup>3)</sup>, 境田康二<sup>4)</sup>, 黒川 顕<sup>5)</sup>, 丸川征四郎<sup>6)</sup>, 近藤留美子<sup>7)</sup>, 竹中ゆかり<sup>3)</sup>, 広瀬保夫<sup>8)</sup>, 多治見公高<sup>9)</sup>, 野見山延<sup>10)</sup>, 村田厚夫<sup>11)</sup>, 谷川攻一<sup>12)</sup>, 吉田竜介<sup>13)</sup>, 坂本哲也, 益子邦洋, 小林国男, 有賀徹, 峰村純子, 仲村将高 (<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学, <sup>2)</sup>国士舘大学, <sup>3)</sup>救命救急九州研修所, <sup>4)</sup>船橋市立医療センター, <sup>5)</sup>日本医科大学第二病院, <sup>6)</sup>兵庫医科大学, <sup>7)</sup>北里大学病院, <sup>8)</sup>新潟市民病院, <sup>9)</sup>秋田大学, <sup>10)</sup>国立病院機構甲府病院, 杏林大学, 広島大学, 救命救急医学, 帝京大学, 昭和大学, 昭和大学医学部付属病院, 千葉大学): [共著]『薬剤投与』救急救命士標準テキスト追補版II. 『薬剤投与』救急救命士標準テキスト (監修: 救急救命士教育研究会), 2005 ; p46, へるす出版 .
- 3) 平田清貴, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>前国立国際医療センター救急部, <sup>2)</sup>日本医科大学第二病院救命救急部): [編著] 救急治療・薬剤ハンドブック. 救急治療・薬剤ハンドブック (監修: 山本保博, 編監修: 黒川 顕, 平野公晟, 編集: 平田清貴), 2005 ; pp1-309, じほう .

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Nakano H<sup>1)</sup>, Hirata K, Hirano M, Yamamoto Y<sup>2)</sup>, Kanke<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Kyoritsu University of Pharmacy, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine): A successful treatment with antibiotics and antifungal agents in a patient undergoing continuous hemodiafiltration. Inaugural AASP Conference (Beijing), 2004. 6.
- 2) Miyamoto K<sup>1)</sup>, Hirata K, Hirano M, Yamamoto Y<sup>2)</sup>, Kanke<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Kyoritsu University of Pharmacy, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine): A successful treatment with antibiotics and antifungal agents in a patient undergoing continuous hemodiafiltration. Inaugural AASP Conference (Beijing), 2004. 6.
- 3) 平田清貴, 宮本香織<sup>1)</sup>, 平野公晟, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 共立薬科大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学): 出来高制度と包括評価制度における当院高度救命救急センターの急性中毒診療についての検討. 第26回日本中毒学会総会, 2004. 7.
- 4) 本城和義, 伊勢雄也, 五味麻子, 高田未来, 片山志郎, 平野公晟: 注射薬調剤における安全対策への取り組みと成果. 日本病院薬剤師会関東ブロック第34回学術大会, 2004. 8.
- 5) 島 麻智子, 伊勢雄也, 片山志郎, 平野公晟: 注射薬調剤における薬学経済学的評価. 日本病院薬剤師会関東ブロック第34回学術大会, 2004. 8.
- 6) 平田清貴, 井原智子<sup>1)</sup>, 松本宜明<sup>1)</sup>, 宮本香織<sup>2)</sup>, 渡邊暁洋, 加藤あゆみ, 小川太志<sup>3)</sup>, 平野公晟, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 昭和薬科大学, <sup>2)</sup> 共立薬科大学, <sup>3)</sup> 日本医科大学救急医学): ICU患者における深在性真菌症治療薬の効果と血中濃度に関する検討. 第25回日本臨床薬理学会, 2004. 9.
- 7) 宮田広樹, 西澤光代, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 片山志郎, 平野公晟(<sup>1)</sup> 内科学第4): 輸液療法室における外来抗がん剤治療: 市販データベースソフトを用いた業務支援システムの構築. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 8) 腹子あきこ<sup>1)</sup>, 宮田広樹, 西澤光代, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 片山志郎, 平野公晟(<sup>1)</sup> 付属病院看護部, <sup>2)</sup> 内科学第4): 輸液療法室における外来抗がん剤治療: 安全な治療を目指した業務運営. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 9) 渡邊暁洋, 加藤あゆみ, 宮田広樹, 片山志郎, 平野公晟: 緩和ケアチームにおける薬剤師の役割: フェンタニル貼付剤の臨床的意義を通して. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 10) 高瀬知永, 瀬尾 誠, 片山志郎, 平野公晟: 口内炎治療薬P-AG液とNEX含漱液の有用性の比較検討. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 11) 本城和義, 片山志郎, 平野公晟, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部): 付属病院における抗菌剤の使用動向. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 12) 萩原 研, 伊勢雄也, 片山志郎, 西澤健司, 三橋恭子<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 平野公晟(<sup>1)</sup> 付属病院看護部, <sup>2)</sup> 外科学第1): クリニカルパス適用胃切除患者におけるCefazolin (CEZ) とAmpicillin/Sulbactam (SBT/ABPC)の術後感染発症阻止効果ならびに費用対効果の比較. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 13) 岸 大輔, 大下順子, 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟: 当院における医薬品情報提供業務の検討(第7報). 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 14) 平田清貴, 井原智子<sup>1)</sup>, 松本宜明<sup>1)</sup>, 宮本香織<sup>2)</sup>, 渡邊暁洋, 加藤あゆみ, 小川太志<sup>3)</sup>, 平野公晟, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 昭和薬科大学, <sup>2)</sup> 共立薬科大学, <sup>3)</sup> 日本医科大学救急医学): ICU患者におけるミカファンギンの効果と薬物動態パラメータの関連性に関する検討. 第14回日本医療薬学会年会, 2004. 10.
- 15) 本城和義, 伊勢雄也, 萩原 研, 片山志郎, 西澤健司, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 平野公晟(<sup>1)</sup> 外科学第1): クリニカルパス適応胃切除患者の術後感染発症阻止薬の違いが検出菌に与える影響. 第14回日本医療薬学会年会, 2004. 10.
- 16) 宮田広樹, 片山志郎, 西澤光代, 本城和義, 高瀬知永, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 腹子あきこ<sup>2)</sup>, 地主紫織<sup>2)</sup>, 平野公晟(<sup>1)</sup> 内科学第4, <sup>2)</sup> 付属病院看護部): 外来抗がん剤治療における薬剤師の役割: 市販データベースソフトを用いた業務支援システムの構築. 第14回日本医療薬学会年会, 2004. 10.

- 17) 清水久範<sup>4)</sup>, 片山志郎, 木津純子<sup>3)</sup>, 塩川 満<sup>2)</sup>, 山崎真澄<sup>5)</sup>, 渡辺和美<sup>1)</sup>, 井上忠夫<sup>2)</sup>, 平野公晟 ( <sup>1)</sup> 東邦大学付属大森病院, <sup>2)</sup> 聖路加国際病院, <sup>3)</sup> 共立薬科大学, <sup>4)</sup> 昭和大学病院, <sup>5)</sup> 東京医科大学病院 ): 癌領域に専門性を有する薬剤師の育成: 東京都病院薬剤師会の取り組み: . 第14回日本医療薬学会年会, 2004 . 10 .
- 18) 宮田広樹, 片山志郎, 西澤光代, 本城和義, 高瀬知永, 平野公晟, 弦間昭彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第4 ): 外来がん化学療法における安全性の確保: チーム医療での薬剤師による患者安全管理 . 第3回日本臨床腫瘍学会, 2005 . 3 .
- 19) 木津純子<sup>1)</sup>, 片山志郎, 塩川 満<sup>2)</sup>, 清水久範<sup>3)</sup>, 山崎真澄<sup>4)</sup>, 渡辺和美<sup>5)</sup>, 井上忠夫<sup>2)</sup>, 平野公晟 ( <sup>1)</sup> 共立薬科大学, <sup>2)</sup> 聖路加国際病院, <sup>3)</sup> 昭和大学病院, <sup>4)</sup> 東京医科大学病院, <sup>5)</sup> 東邦大学付属大森病院 ): 薬剤師による癌治療時の健康食品取扱いに関する実態調査 . 第3回日本臨床腫瘍学会, 2005 . 3 .
- 20) 山村重雄<sup>1)</sup>, 竹平理恵子<sup>2)</sup>, 金井三良<sup>2)</sup>, 片山志郎, 西澤健司, 川田桂子, 平野公晟, 百瀬弥寿徳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東邦大学薬学部, <sup>2)</sup> 同付属佐倉病院 ): 構造化方程式モデリングによる患者QOLと医療従事者の評価する患者QOLの関連 . 日本薬学会第125回年会, 2005 . 3 .
- 21) 中野暖子<sup>1)</sup>, 伊勢雄也, 加藤あゆみ, 渡邊暁洋, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 矢崎知子<sup>1)</sup>, 吉山友二<sup>1)</sup>, 菅家甫子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 共立薬科大学薬学部 ): 緩和ケア領域における薬剤経済分析の評価方法の検討: 日本語版EQ-5Dを用いて: . 日本薬学会第125回年会, 2005 . 3 .
- 22) 瀬尾 誠, 片山志郎, 平野公晟, 濱田真向<sup>1)</sup>, 土橋 朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京薬科大学薬学部 ): キシレン含有油性インクのプラスチック製輸液容器に対する影響その2 . 日本薬学会第125回年会, 2005 . 3 .

## [ 付属病院生理機能センター ]

### 研究概要

当センターでは、スタッフ各自が専門職としての高い意識を持ち、そのパフォーマンスを最大限に発揮できるよう努力している。医療人として日進月歩の医療技術を習得すべく、踏み止まることなく新たな挑戦をしていかなければならない。今年度は、心臓および腹部超音波、心臓リハビリテーションを中心に研究を行った。今後は産学共同研究のような研究スタッフの育成も視野に入れた新しい展開を模索していくことになるだろう。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Yokoshima T<sup>1)</sup>, Honma H, Kusama Y<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Nakanishi K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology ): Improved stratification of perioperative cardiac risk in patients undergoing noncardiac surgery using new indices of dobutamine stress echocardiography . J Cardiol 2004 ; 44 ( 3 ): 101-111 .
- 2) Katsuta Y<sup>1)</sup>, Honma H, Zhang XJ<sup>1)</sup>, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Komeichi H<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Katoh Y<sup>1)</sup>, Miura H<sup>1)</sup>, Satomura K<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Pulmonary blood transit time and impaired arterial oxygenation in patients with chronic liver disease . J Gastroenterol 2005 ; 40 ( 1 ): 57-63 .

#### 著書

- 1) 大野忠明, 本間 博: [ 分担 ] 2. 負荷をかけて冠狭窄を推し量る, ドブタミン負荷心エコー II 虚血性心疾患の画像・生理検査「虚血性心疾患と臨床検査」. Medical Technology ( 竹中 克 ), 2004 ; pp1368-1373, 医歯薬出版 .
- 2) 大野忠明, 本間 博: [ 分担 ] 4 収縮性心膜炎 第6章 心膜疾患「心エコー検査のピットフォール」. 4 収縮性心膜炎, 2005 ; pp327-335, 中外医学社 .

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 横島友子<sup>1)</sup>, 本間 博, 大野忠明, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子 ( <sup>1)</sup>内科学第1): Strain rate imaging法による左室肥大心筋midwall stressの推定. 日本心エコー学会, 2004. 4.
- 2) 横島友子<sup>1)</sup>, 本間 博, 大野忠明, 福間裕美子<sup>1)</sup>, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 菅原博子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 石井玲子, 齋藤公一 ( <sup>1)</sup>内科学第1): Strain rate imaging法による肥大心筋の局所収縮様式の検討. 日本超音波医学会, 2004. 5.
- 3) 小泉康雄<sup>1)</sup>, 杉崎一樹<sup>1)</sup>, 野原秀明, 加藤政利, Charuk Hanpraserpong<sup>1)</sup>, 八木聰明<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>耳鼻咽喉科学): パーチャルバイザーを使用した視刺激検査. 第105回日本耳鼻咽喉科学会, 2004. 5.
- 4) 大野忠明, 本間 博, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): 心筋虚血検出にstrain rate color Mモード併用ドプタミン負荷心エコーは有用か. 日本心臓病学会, 2004. 9.
- 5) 佐藤淳子, 松崎つや子, 水瀬 学, 石井玲子, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>1)</sup>, 徳泉澄子<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 福間裕美子<sup>1)</sup>, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): 組織ドプラ法による僧帽弁輪速度を用いた左室拡張機能障害のスクリーニング法. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 6) 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 石井玲子, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): 組織ドプラ法による僧帽弁輪速度を用いた左室拡張機能障害の重症度評価. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 7) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希, 中村利枝, 齋藤公一, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): うつ状態が急性心筋梗塞における炎症性サイトカインおよび一酸化窒素産生に及ぼす影響. 日本心臓病学会, 2004. 9.
- 8) 水瀬 学, 佐藤淳子, 松崎つや子, 石井玲子, 齋藤公一, 本間 博, 加藤良人<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): 三次元超音波画像による肝細胞癌容積の定量的評価. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 9) 中村利枝, 福間長知<sup>1)</sup>, 加藤政利, 竹田裕子, 平野美子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): エルゴメーター回転速度の差による運動負荷時の心拍反応の変化. 心臓リハビリテーション学会, 2004. 9.
- 10) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 本江雪貴美, 吉田由紀子, 五十嵐亜希, 中村利枝, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): 心臓リハビリテーション導入期における抑うつ状態が血管内皮機能とサイトカインに及ぼす影響. 心臓リハビリテーション学会, 2004. 9.
- 11) 加藤政利, 福間長知<sup>1)</sup>, 中村利枝, 山本雪貴美, 五十嵐亜希, 菅谷寿理, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1): 自転車エルゴメーターのペダル回転速度が酸素摂取効率勾配に与える影響. 日本心臓リハビリテーション学会, 2004. 9.
- 12) 横島友子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>1)</sup>, 徳泉澄子<sup>1)</sup>, 大野忠明, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 本間 博, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 石井玲子, 齋藤公一, 杉森祐樹<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>本駒込クリニック): 右上大静脈欠損を伴う左上大静脈遺残症の診断で経静脈性コントラスト心エコー法が有用であった1例. 日本超音波医学会, 2004. 11.

### (2) 基礎講座：

- 1) 本間 博: 知っておきたい経食道心エコーの基礎, 脳・心をみる. 日本臨床モニター学会, 2004. 4.

## [ 付属病院看護部 ]

### 研究概要

- 1) 救急看護領域では、無気肺、深部静脈血栓の発生要因についての検討や第三次救急医療施設から転院する患者家族の不安を明らかにし、支援方法について考察した。
- 2) 集中看護領域では、挿管患者の術後疼痛の患者と看護師の評価の違いを明らかにし、生理的指標を含めた評価方法を検討した。
- 3) 糖尿病看護領域では、看護師が糖尿病患者の療養生活の疑似体験をすることでの意識の変化を明らかにした。また、他施設との共同研究では、外来看護相談や1次予防教室など患者教育に関する検討を行った。
- 4) 手術看護領域では、新しい手洗い「揉み粗い法」の有効性について検討した。
- 5) 感染看護領域では、擦式手指消毒ミスの実態に調査し、手指消毒方法について検討した。
- 6) 遺伝看護領域では、筋ジストロフィーの保因者診断・出生前診断・遺伝子診断を受けた事例における支援について考察した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説:

- 1) 藤田昌久: 外来ではどのような感染対策が必要ですか? . ナーシングケアQ&A 2004 ; 1 ( 5 ): 56-57 .
- 2) 古山景子: 糖尿病の知識はあっても行動にむずびつかない患者さんへの対応は? . ナーシングケアQ & A 2004 ; 1 ( 2 ): 62-63 .
- 3) 藤田昌久: 救命救急センター ( 救急外来 ) の感染対策 ( 部門別感染対策のキホン ). INFECTION CONTROL 2004 ; 14 ( 3 ): 34-41 .
- 4) 中川みゆき<sup>1)</sup>, 藤田昌久 ( <sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理室 感染管理認定看護師 ): パージニア大学研修に参加して: 研修内容と学びえたこと ( 職業感染とセーフティーマネジメント ). Infection Control 2004 ; 13 ( 6 ): 57-60 .
- 5) 早坂百合子: 脳死臓器移植時の倫理的問題 . Emergency Nursing 2004 ; 17 ( 8 ): 32 -36 .
- 6) 藤田昌久: ICT ( Infection Control Team ) の進む道 . Emergency Nursing 2004 ; 17 ( 9 ): 46-53 .
- 7) 鈴木由美: 遺伝看護からみた遺伝カウンセリング . 日本遺伝カウンセリング学会誌 2004 ; 25 ( 2 ): 23-26 .
- 8) 背戸陽子, 早坂百合子: 血圧計 . EMERGENCY CARE 2005 ; ( 新春増刊 ): 94-103 .

#### 著書

- 1) 藤田昌久: [ 分担 ] 感染防止 . 急変・救急時看護スキル ( 前川剛志 ), 2004 ; pp140-150, 照林社 .
- 2) 榊 由里: [ 分担 ] 患者家族への精神的ケア . 急変・救急時看護スキル ( 前川剛志・山勢博彰・早坂百合子 ), 2004 ; pp347-354, 照林社 .
- 3) 木野毅彦: [ 分担 ] 整復固定と牽引 . 急変・救急時看護スキル ( 前川剛志・山勢博彰・早坂百合子 ), 2004 ; pp201-209, 照林社 .
- 4) 竹原典子: [ 分担 ] 腰椎穿刺 . 急変・救急時看護スキル ( 前川剛志・山勢博彰・早坂百合子 ), 2004 ; pp185-190, 照林社 .
- 5) 佐藤憲明: [ 分担 ] 腹部状態のアセスメント . 急変・救急時看護スキル ( 前川剛志・山勢博彰・早坂百合子 ), 2004 ; pp49-60, 照林社 .
- 6) 佐藤憲明: [ 分担 ] 動脈血ガス分析 . 急変・救急時看護スキル ( 前川剛志・山勢博彰・早坂百合子 ), 2004 ; pp218-224, 照林社 .

- 7) 藤田昌久：〔分担〕感染防止・急変・救急時看護スキル，2004；pp140-150，照林社．
- 8) 福土真由美：〔分担〕ダグラス窩穿刺．急変・救急看護スキル（前川剛志・山勢博彰・早坂百合子），2004；pp191-193，照林社．
- 9) 伊藤博希：〔分担〕呼吸困難．急変・救急時看護スキル，2004；pp290-295，照林社．
- 10) 軽部 厚：〔分担〕第1章 呼吸機能検査．呼吸ケアのポイント400（卯野木健），2004；pp2-8，メディカ出版．
- 11) 軽部 厚：〔分担〕第5章救急時の検査と看護．成人看護学シリーズ 救急看護論（山勢博彰），2005；pp107-113，ヌーベルヒロカワ出版．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 鈴木由美：遺伝看護から見た遺伝カウンセリング．第28回日本遺伝カウンセリング学会，2004．5．
- 2) 鈴木智恵子：輸液・輸中ポンプの管理：指差し・声だし確認，ダブルチェックで事故防止．第13回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2004．8．
- 3) 伊与恭子：重症心不全患者の終末期ケア．第52回日本心臓病学会学術集会，2004．9．

##### (2) パネルディスカッション：

- 1) 前原茂子：急性冠症候群の初期治療における看護師の役割．第18回日本冠疾患学会学術集会，2004．12．

##### (3) ワークショップ：

- 1) 鈴木智恵子：生命を守るための抑制について考える．第32回日本集中治療医学会学術集会，2005．2．

##### (4) 一般講演：

- 1) 松下恵美子，磯由美子，高野淑子，竹原典子，渋谷満寿美，倉藤晶子，藤田昌久，新城靖子，野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>微生物学・免疫学）：擦式手指消毒ミスの実態調査．第20回日本感染環境学会総会，2004．2．
- 2) 水口誠健，森 知子，山田貴子，武正泰子，佐藤恵美子，佐藤憲明，早坂百合子：Clinical Care領域における深部静脈血栓の発生要因についての検討．第7回日本臨床救急医学会学術集会，2004．4．
- 3) 渡辺裕子，浅野ありさ<sup>1)</sup>，千葉弘子，渡邊 淳<sup>2)</sup>，島田 隆<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>遺伝診療科，<sup>2)</sup>遺伝診療科・分子遺伝医学）：筋緊張ジストロフィー遺伝子診断施行において自己決定に差異を呈した2例．第28回日本遺伝カウンセリング学会，2004．5．
- 4) 鶴 里子，古山景子，田部井陽子，渡邊恭子：糖尿病患者の療養生活擬似体験による看護師の意識変化．第9回日本糖尿病教育看護学会，2004．9．
- 5) 雨宮久美子<sup>1)</sup>，加藤和子<sup>2)</sup>，新良啓子<sup>3)</sup>，杉根尚子<sup>4)</sup>，柳井田恭子<sup>5)</sup>，渡邊恭子，瀬戸奈津子<sup>6)</sup>，和田幹子<sup>6)</sup>（<sup>1)</sup>東邦大学医学部附属大橋病院，<sup>2)</sup>愛知健康厚生農業協同組合連合会安城更生病院，<sup>3)</sup>独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院，<sup>4)</sup>神戸大学医学部附属病院，<sup>5)</sup>川崎市立井田病院，<sup>6)</sup>日本看護協会看護学校）：ケアシステム立案技術を活用した幼稚園での糖尿病1次予防教室の実践．第9回日本糖尿病教育・看護学会，2004．9．
- 6) 渡邊亜紀子<sup>1)</sup>，数間恵子<sup>2)</sup>，柴山大賀<sup>3)</sup>，小林康司<sup>3)</sup>，高橋雪子<sup>4)</sup>，大橋優美子<sup>4)</sup>，横村妙子<sup>5)</sup>，古山景子，山地陽子<sup>6)</sup>（<sup>1)</sup>社団法人日本看護協会政策企画室，<sup>2)</sup>東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻成人看護学/ターミナルケア看護学分野，<sup>3)</sup>同・看護学専攻成人看護学分野博士後期課程，<sup>4)</sup>東京大学医学部附属病院看護部，<sup>5)</sup>社会保険船橋中央病院看護科，<sup>6)</sup>東京厚生年金病院看護部）：インスリンを使用していない糖尿病患者のための外来看護相談プロトコルの作成．第9回日本糖尿病教育・看護学術集会，2004．9．
- 7) 鈴木由美，渡辺裕子，千葉弘子，渡邊 淳<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>遺伝診療科・分子遺伝医学）：デュシェンヌ型筋ジストロフィーの保因者診断を受ける女性が持つ心の揺らぎ．日本遺伝看護研究会第3回大会，2004．9．
- 8) 渡辺裕子，千葉弘子，鈴木由美，渡邊 淳<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>遺伝診療科・分子遺伝医学）：ベッカー型筋ジストロフィーの出生前診断を希望する女性とその家族の語りから．日本遺伝看護研究会第3回大会，2004．9．

- 9) 内海清乃, 大貫朋子, 榊 由里, 磯崎奈津子, 長谷川ゆみ, 竹原典子, 佐藤憲明, 早坂百合子: 第三次救急医療施設から転院する患者家族の不安. 第6回日本救急看護学会学術集会, 2004. 10.
- 10) 高橋聡子, 井手口和代, 佐山由香, 佐藤隆平, 田邊良恵, 伊藤博樹, 佐藤憲明, 早坂百合子: 救急領域における無気肺発生の実態調査. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.
- 11) 佐々木恵, 倉藤晶子, 山内沙織, 上村明子, 金子栄子, 古川清憲<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大学院医学研究科臓器病態制御外科, <sup>2)</sup>微生物学・免疫学): 手術時手洗いの「揉み洗い法」への変更に伴う基礎的検討. 第20回日本環境感染学会, 2005. 2.
- 12) 細萱順一, 来栖博美, 佐々木友子: 集中治療室における挿管患者の術後疼痛に対する評価の検討. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.

## [ 付属病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

放射線科技術部門は、診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である。一般撮影、CT、RI、MRI、血管撮影および放射線治療に関する研究を日常的に行っている。

一般撮影部門では、デジタルマンモグラフィーの臨床評価、最適管電圧の検討を中心とした研究、また、胸部デジタル撮影システムにおける模擬腫瘍を用いた臨床評価の研究を進めた。

RI部門は、モバイル型ガンマカメラを使用した研究、再生医療での効果判定にTc-99m筋血流シンチを用いた研究、心筋SPECTの研究を進めた。

MRI部門は、新しい脂肪抑制法の基礎検討および臨床評価、血流信号を抑制可能なシーケンスの開発、造影剤を使用するMRAでのartifact対策の確立などの研究を進めた。また、非常に強力な磁場を使用するMRIにおける安全対策についてまとめた。

放射線技術部門は、診療用画像検査全般を扱う部門であり、それぞれの部門ごとに毎年の研究テーマを決め、「正確な画像診断」を行うことが可能となる「よりよい画像データ」を各診療科に提供できるように、研究に取り組んでいる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 松本 剛, 土橋俊男, 榎 利夫, 岩 淳, 森 克彦, 鈴木 健: 胸部造影三次元MR AngiographyにおけるSusceptibility Artifactの検討. 日本放射線技術学会雑誌 2004; 60(5): 701-707.

##### (2) 総説:

- 1) 土橋俊男: MRI検査の安全管理: 体外・体内金属とMRIの安全管理. 日医機協ニュース 2004; 46: 37-41.

#### 著書

- 1) 櫻井 実: [分担] 3章QCに必要な基礎知識,(SPECT再構成のしくみ,プレフィルターの選択と条件,再構成フィルターの選択,症例ごとの至適なフィルター条件の決定). 心臓核医学コンプリートマニュアル, 2004; pp72-79, メジカルセンス.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 土橋俊男: K-spaceから見た撮像技術の進歩: sequence parameterと画像コントラストの関係を含めて. 第10

回岡山MRI撮像技術研究会, 2004. 12.

(2) 招待講演:

- 1) 小林宏之, 吉田伸二郎, 鈴木智之, 黒田大介, 根津伸弘: デジタルマンモグラフィにおけるRh/Rhの有用性(最適管電圧の検討). 神奈川乳房研究会, 2004. 6.

(3) 教育講演:

- 1) 土橋俊男: MRIのキホンの基本. 東京MR励起会, 2004. 7.
- 2) 土橋俊男: MRI検査の安全確保: 体内金属の安全確保. 東京MR励起会, 2004. 11.

(4) シンポジウム:

- 1) 土橋俊男: MRA検査の標準化: 撮像parameterが画像に及ぼす影響: 頭部MRAを中心に(検査の充実と診断の向上: MRI/MRA検査・診断の標準化). 日本脳ドック学会, 2004. 6.

(5) セミナー:

- 1) 土橋俊男: MRI概論(MRI装置の安全管理と画質評価のためのセミナー). 日本放射線技術学会, 2004. 11.

(6) ワークショップ:

- 1) 土橋俊男: MRIによる脳血管の描出(ザ・脳血管DSAsvsMR). 南関東地域放射線技師学術大会, 2004. 6.
- 2) 土橋俊男: MRI検査時の体内金属の安全性確保について(MRI検査の安全管理). 日本放射線技術学会関東支部会, 2004. 10.
- 3) 櫻井 実: 心臓核医学における画像の標準化 収集および処理条件による欠損の描出能: 静態ファントムによる検討. 心臓核医学フォーラム, 2005. 3.

(7) 一般講演:

- 1) 小林宏之, 吉田伸二郎, 小川匡史, 増山桂一: Evaluation of effective range for Rh/Rh in Digital Mammography. 北米放射線学会(RSNA2004)(アメリカ合衆国(シカゴ)), 2004. 11.
- 2) 小川匡史, 小林宏之, 増山桂一: Comparison of clinical evaluation of a flat-panel detector system and a computed radiography system for digital chest radiography. European Congress of Radiology(ECR2005)(オーストリア), 2005. 3.
- 3) 吉澤賢史, 土橋俊男, 三代繁幸, 根津伸弘: 3D FRFSE法によるMRCPの至適条件の検討: 胆嚢と胆嚢管の描出を中心に. 日本放射線技術学会, 2004. 4.
- 4) 小川匡史, 小林宏之, 増山桂一, 根津伸弘: 胸部デジタル撮影システムにおける模擬腫瘍の臨床評価. 日本放射線技術学会, 2004. 4.
- 5) 小林宏之, 吉田伸二郎, 鈴木智之, 黒田大介, 根津伸弘: デジタルマンモグラフィにおけるRh/Rhの有用性(最適管電圧の検討). 日本放射線技術学会, 2004. 4.
- 6) 松村善雄, 根津伸弘, 土橋俊男, 吉澤賢史: Double Inversion Pulseを用いたBlack Blood 3D: Fast SPGRの基礎的検討. 日本放射線技術学会, 2004. 4.
- 7) 櫻井 実, 榎 利夫, 根津伸弘: モバイル型ガンマカメラとアンガー型ガンマカメラの123I 製剤による隔壁通過の相違. 日本放射線技術学会, 2004. 4.
- 8) 櫻井 実, 榎 利夫, 根津伸弘: 再生医療での効果判定 Tc-99m 筋血流シンチにおけるROI設定の検討. 日本放射線技術学会, 2004. 4.
- 9) 櫻井 実, 榎 利夫, 根津伸弘: I-123 製剤による隔壁通過後散乱線におけるモバイル型ガンマカメラとアンガー型ガンマカメラの比較. 日本核医学技術学会, 2004. 7.
- 10) 櫻井 実, 榎 利夫, 根津伸弘: 血管再生治療効果判定 Tc-99m 筋血流シンチグラフィにおけるROI設定の検討. 日本核医学技術学会, 2004. 7.
- 11) 増山桂一, 小川匡史, 小林宏之: 胸部撮影におけるノイズ抑制処理 FNC 効果の検証. 日本放射線技術学会, 2004. 10.



- 12) 櫻井 実, 横 利夫, 根津伸弘: 下肢血管再生治療効果判定 Tc-99m筋血流シンチグラフィにおける閾値の検討. 日本放射線技術学会, 2004. 10.
- 13) 土橋俊男, 松村善雄, 新田武史, 吉澤賢史, 三代繁幸, 根津伸弘: スライス選択水励起法を用いた脂肪抑制効果の検討: CHESS法との比較. 日本放射線技術学会, 2004. 10.
- 14) 櫻井 実, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 小菅 豊, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 心筋SPECT短軸像上における濃度変化の評価. 日本核医学会, 2004. 11.

(8) 技術講演:

- 1) 土橋俊男: MRIの基本: 装置からpulse sequence. 日本放射線技術学会, 2004. 4.

## [ 付属病院 部 ]

### 研究概要

ME部は、臨床工学技士として、生命維持装置を中心とした医療機器の安全管理、適正な使用方法および点検、さらに適正な環境づくりを研究テーマとして研究を行っている。

まず、平成16年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「医療機関における医療機器の安全かつ適正な操作および保守方法に関する研究」;主任研究者渡辺 敏先生(北里大学)の研究協力者として、青木が人工呼吸器や輸液ポンプなどの操作および保守を含めた管理の現状を調査し、それをもとに適正な操作と保守を普及するための提言を作成した。

また、学会発表等においては、特に人工呼吸器使用における安全管理について様々な研究を行った。1つは、日本呼吸管理学会内のシンポジウムにて、人工呼吸器の使用環境や安全管理体制における日米の違いについてなどについて報告した。また、集中治療医学会にて、医師・看護師・理学療法士と多職種を対象としたシンポジウムでは、人工呼吸療法の中で臨床工学技士がなすべきことを指摘した。さらに、同学会にて人工呼吸療法に関する医療事故に結びつく事象を報告し、過去の医療事故事例を元にして、人工呼吸療法における安全管理体制の必要性について述べた。

また、研究テーマに付随して各種ME機器の性能特性評価、機能評価、臨床評価を行っているが、平成16年度は酸素濃度計、パルスオキシメータについて研究し、報告した。

### 研究業績

#### 論文

(1) 総説:

- 1) 野口裕幸: 酸素濃度計. 呼吸器ケア 2004; 2(5): 52(504)-58(510).

(2) 研究報告書:

- 1) 青木郁香: 平成16年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「医療機関における医療機器の安全かつ適正な操作および保守方法に関する研究」. 2005.

#### 著書

- 1) 野口裕幸: [共著]メンテナンス. 臨床ですぐに役立つ人工呼吸の知識(小谷 透), 2004; pp207-220, 真興貿易(株).

#### 学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 青木郁香, 野口裕幸, 坂本篤裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 呼吸ケアの中で臨床工学技士が為すべきこと: 照顧, ICUにおける呼吸管理と理学療法. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.

2) 野口裕幸, 青木郁香, 坂本篤裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 人工呼吸療法に関する医療事故に結びつく事象の検討: 医療事故に結びつく最近の注意すべき事象の検討. 第32回日本集中治療医学会学術集会, 2005. 2.

(2) ワークショップ:

1) 野口裕幸, 青木郁香: CE からみた人工呼吸器の安全管理体制 (臨床工学技士として): 日米の呼吸療法士からみた医療の安全. 第14回日本呼吸管理学会, 2004. 8.

(3) 一般講演:

1) 野口裕幸, 久志本茂樹<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): PCPS管理中のパルスオキシメータの測定に関して. 医工学治療学会, 2004. 4.

## [ 日本医科大学腎クリニック ]

### 研究概要

透析患者の背景には栄養障害, 感染症, 動脈硬化の存在が示唆されている。(MIA syndrome) 透析患者の血管合併症はQOLに対して大きな影響をあたえる. 当クリニックでは動脈硬化の原因と考えられる持続性の炎症性マーカーと動脈硬化を表すPWV, ABI, TBIの相関性を検討している. さらに透析に使用する抗凝固薬, 透析液の純化が炎症性マーカーにどのような影響を与えるか検討している.

さらに, 今後は透析患者に比較的に多く認められる睡眠時無呼吸症候群と動脈硬化との関係も検討する予定である.

### 研究業績

#### 著書

- 1) 葉山修陽, 飯野靖彦: [共著] 免疫学. 臨床工学ポケットハンドブック, 2004; pp628-634, 株式会社 医療ジャーナル社.
- 2) 葉山修陽: [自著] 低栄養性浮腫. 日本医事新報, 2004; pp85-85, (株) 日本医事新報社.

#### 学会発表

(1) ポスター発表:

- 1) 田畑一秀, 今川敬子, 榎本裕之, 久島英二, 葉山修陽, 飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 臨床現場での最大内部濾過流量の算出方法について. 第50回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2005. 6.
- 2) 鈴木実子, 松橋佳代, 山形幸子, 福永由美, 崎村直子, 西浦涼子, 田畑一秀, 榎本裕之, 今川敬子, 葉山修陽, 飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 適応障害をきたした患者へのカウンセリングを中心とした関わり. 第50回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2005. 6.

## [ ワクチン療法研究施設 ]

### 研究概要

当研究施設は, 1972年の開設以来, 丸山千里先生が開発されたSSM(人型結核菌体抽出物質: いわゆる丸山ワクチン)による癌の免疫療法を研究の中心課題としている. SSMの治験希望患者は依然として多く, 2005年3月31日現在, 登録患者数は368, 923名となった. 新規患者の紹介と, 再来・郵送申し込みを含めると多い日には400名以上の患者を迎えていることから, SSMは有償治療薬という形で供給されてはいるが, 実際には治療薬として使用されているといえる.

この実情を考慮し, SSMの使用法は基本方法のSSM-A・SSM-Bの交互隔日法に固執することなく, 主治医からの

経過報告をもとに各患者個々に使用法を検討している。この研究の結果、基本法である A・B 交互隔日法から A 単独隔日・B 単独隔日・AB 交互連日・A 単独連日などに変更することで、化学療法・放射線療法などの副作用軽減や一般状態が改善される症例のあることなどが判明しつつある。SSM 使用患者は、その多くが SSM 開始時点で進行期癌であったにも拘らず、良好な一般状態 (Performance Status) を維持しつつ長期延命の報告がみられることは、SSM が癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられる。

現在は、SSM の使用状況・成績についての検討・報告に加え、SSM の本来の使用目的ともいえる Biological Response Modifier (BRM) としての作用ならびに癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌患者における Quality of Life (QOL) 向上と延命効果の立場から、当研究施設ならではの膨大な症例数をもとにした臨床生命表による検討、長期生存患者の背景要因検討、SSM の作用が有効に発揮される背景要因の検討などを行っている。また、SSM の経口投与の可能性および癌予防への応用についても検討を重ねている。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 追加分一般講演：

- 1) 三石 剛<sup>1)</sup>，飯田和美，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科)：シメチジン内服療法によるウイルス性疣贅の治療。第 102 回日本皮膚科学会総会，2003．5．
- 2) 桑原健太郎<sup>1)</sup>，藤野 修<sup>1)</sup>，桑原奈津子<sup>2)</sup>，飯田和美，平井和人<sup>3)</sup>，Surasak B<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院小児科，<sup>2)</sup> 同付属病院小児科，<sup>3)</sup> 日本医学技術専門学校，<sup>4)</sup> チェンマイ大家庭医学)：新しく開発された Monoclonal 抗体によるタイ人小児便中 *H. pylori* 抗原測定。第 71 回日本医科大学医学会総会，2003．9．

#### (2) 一般講演：

- 1) 飯田和美，平井敏之，後藤博一，新井愛彦，岩城弘子，師田晴子，宮崎定活，橋本英洋，永積 惇：当施設における結核菌体抽出物質 (SSM) 使用登録癌患者の現況 (第 23 報)。第 42 回日本癌治療学会総会，2004．10．

## 21. 第二病院付置施設等

### [ 第二病院消化器病センター ]

#### 研究概要

消化器病センターは消化器外科医、内科医により構成され、消化器疾患全般の診断から治療まで幅広く診療および研究を行っている。研究概要としては、消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的、基礎的研究を進めている。

1. 消化器癌の集学的治療，抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌，大腸癌化学療法 の確立
2. イレウスの保存的・外科的治療，病態解析，新しい診断と治療の開発
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的，基礎的研究
4. 低侵襲性手術（腹腔鏡手術，胸腔鏡下食道切除術）の技術改良と標準化
5. IVRを応用した消化管，胆道，血管内ステント治療
6. 内視鏡治療，早期癌に対するEMR，内視鏡的胆道結石治療（EMR-lithotripsyの開発，EST + EPLD）および閉塞性黄疸の減黄術
7. 胃癌，大腸癌における増殖因子に関する臨床病理学的研究，分子標的治療の基礎的研究
8. 肝細胞癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究所との共同研究）
9. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究所との共同研究）
10. 創傷治癒，外科侵襲に関する基礎的研究

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Onodera H<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Matukura N<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery ): Surgical Outcome of 483 Patients with Early Gastric Cancer : Prognosis, Postoperative Morbidity and Mortality, and Gastric Remnant Cancer . Hepato-Gastroenterology 2004 ; 51 : 82-85 .
- 2) Lee Y<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1, 3)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Reguration , <sup>2)</sup> Department of Pathology, <sup>3)</sup> Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Second Hospital ): Inflammation of the gastric remnant after gastrectomy : mucosal erythema is associated with bile reflux and inflammation cellular infiltration is associated with *Helicobacter pylori* infection . J Gastroenterol 2004 ; 39 : 520-526 .
- 3) Tatsuguti A<sup>1)</sup>, Matsui K<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Tokunaga A , Tajiri T<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Reguration ): Cyclooxygenase-2 expression correlates with angiogenesis and apoptosis in gastric cancer tissue . Hum Pathol 2004 ; 35 ( 4 ): 488-495 .
- 4) Matsukura N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Tagashi A , Matsuda G , Tokunaga A , Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Reguration , <sup>2)</sup> Department of Pathology II ): Diagnostic value of culture, histology and PCR for *Helicobacter pylori* in the remnant stomach after surgery . Aliment Pharmacol Ther 2004 ; 20 ( Supple 1 ): 33-38 .
- 5) Yoshino M , Ishiwata T<sup>1)</sup>, Watanabe M , Komine O , Shibuya T , Tokunaga A , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology II ): Keratinocyte growth factor receptor expression in normal colorectal epithelial cells and dif-

ferentiated type of colorectal cancer . Oncol Rep 2005 ; 13 : 247-252 .

- 6) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科臓器病態制御外科学 ): ステロイド長期投与患者の腹部救急疾患の治療 . 日腹部救急医学会誌 2004 ; 24 ( 3 ): 601-606 .
- 7) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科臓器病態制御外科学 ): 特定機能病院等における包括評価について . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ): 217-220 .
- 8) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科臓器病態制御外科学 ): 胃切除術後自由摂食パスの効果 . 外科と代謝・栄養 2004 ; 38 ( 4 ): 93-100 .
- 9) 坊 英樹, 駒崎敏昭, 前島顕太郎, 松信哲朗, 鈴木洋一, 山田雄介, 重光剛志, 渡辺昌則, 徳永 昭 : 胃潰瘍併存胃癌の検討 . Progress of Digestive Endoscopy 2004 ; 65 ( 2 ): 34-37 .

## (2) 綜説 :

- 1) 徳永 昭, 森山雄吉, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 創傷治癒と高圧酸素療法 . 外科治療 2004 ; 90 ( 3 ): 343-344 .
- 2) 奥田武志<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 胃GISTの診断と治療 . 東京都病院薬剤師会雑誌 2004 ; 53 ( 4 ): 257-263 .

## (3) 症例報告 :

- 1) Shibuya T, Kokuma M, Watanabe Y, Moriyama Y, Matsumoto K, Uchiyama K<sup>1)</sup>, Mori H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Second Hospital, <sup>2)</sup> Ebina General Hospital, <sup>3)</sup> Kusakabe Hospital ): Cure of intractable pancreatic fistula by subcutaneous fistulojejunostomy . J Gastroenterol 2004 ; 39 : 163-167 .
- 2) 尾崎卓司, 渋谷哲男, 塩谷 猛, 内藤英二, 小峯 修, 松本光司<sup>1)</sup>, 森山雄吉 ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部 ): 日本住血吸虫症を合併した直腸癌の1例 . 手術 2004 ; 58 ( 5 ): 261-264 .
- 3) 川野陽一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 内田英二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科臓器病態制御外科学, <sup>2)</sup> 大学院医学研究科統御機構病理学 ): 早期胃癌に十二指腸カルチノイドが併存した1切除例 . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ): 198-202 .
- 4) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 松信哲朗, 小泉正樹, 千原直人, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永 昭 : 薬剤性と考えられる食道潰瘍の1例 . Progress of Digestive Endoscopy 2004 ; 65 ( 2 ): 58-59 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Watanabe M, Yoshino M, Bo H, Shioya T, Tokunaga A : Radical thoracoscopic esophagectomy with minithoracotomy for thoracic esophageal cancer . 21th Congress of Pan-Pacific Surgical Association-Japan Chapter, 2004 . 11 .
- 2) 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 進行食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術と胸骨縦切開・上縦郭郭清のcombinationの試み ( 進行食道癌に対する手術手技 ). 第66回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .

### (2) パネルディスカッション :

- 1) 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉 : 食道ステント治療の問題点と対策 ( ステント治療の進歩とその成績 ). 第78回消化器内視鏡学会関東地方会, 2004 . 6 .

### (3) サージカルフォーラム :

- 1) 渡辺昌則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 吉野雅則, 小峯 修, 塩谷 猛, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉 ( <sup>1)</sup> 病

理学第2): Keratinocyte growth factor receptor ( KGFR ) 遺伝子発現の抑制による大腸癌細胞の増殖抑制効果 . 第104回日本外科学会学術集会, 2004 . 3 .

- 2) 吉野雅則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 小峯 修, 渋谷哲男, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 森山雄吉 ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>第二病院病理部 ): 大腸癌における keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR 2IIIb ) の発現と局在 . 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .

(4) 一般講演 :

- 1) Ishiwata T<sup>1)</sup>, Yoshino M, Watanabe M, Matsumoto K, Komine O, Fujii T<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Moriyama Y, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Pathology II ): Expression and the role of keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR2-IIIb ) in human colorectal cancer . 12th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, 2004 . 7 .
- 2) Yoshino M, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Watanabe M, Bo H, Komazaki T, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Shibuya T, Tokunaga A ( <sup>1)</sup>Department of Pathology II, <sup>2)</sup>Division of Pathology, Second Hospital ): Expression and localization of keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR-2IIIb ) in colorectal cancer . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis, 2004 . 8 .
- 3) Watanabe M, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Yoshino M, Komazaki T, Bo H, Shibuya T, Tokunaga A ( <sup>1)</sup>Department of Pathology II ): The effect of inhibiting keratinocyte growth factor family on colon cancer cells . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis ( ICGC ), 2004 . 8 .
- 4) Bo H, Komazaki T, Yoshino M, Watanabe M, Tokunaga A : Effect of ionizing irradiation on human esophageal cancer cell lines by cDNA microarray gene expression analysis . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis, 2004 . 8 .
- 5) Komazaki T, Bo H, Yoshino M, Watanabe M, Tokunaga A : Hypermethylation-associated inactivation of the SOCS-1 gene, a JAK/STAT inhibitor, in human pancreatic cancers . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis ( Sapporo, Japan ), 2004 . 8 .
- 6) Watanabe M, Maejima K, Matsunobu T, Yoshino M, Shioya T, Shibuya T, Tokunaga A : Comparative study between thoracoscopic esophagectomy and conventinal open technique for esophageal cancer . 6th Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia ( ELSA ), 2004 . 9 .
- 7) Watanabe M, Kentaro M, Matsunobu T, Yoshino M, Shioya T, Shibuya T, Tokunaga A, Yamakawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Surgery, Teikyo University ): Surgical treatment of bile duct injury associated with laparoscopic cholecystectomy . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( ISDS ), 2004 . 12 .
- 8) Koizumi M, Ogata M, Mori Y<sup>1)</sup>, Natori J<sup>1)</sup>, Uchiyama K<sup>1)</sup>, Tokunaga A ( <sup>1)</sup>Ebina General Hospital ): Preoperative Diagnosis of Obturator Hernia, 5 Cases Experience . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 2004 . 12 .
- 9) Shioya T, Watanabe M, Shibuya T, Tokunaga A : A Study of the Risk of Colorectal Cancer Surgery in the Elderly ( 80 Years or Older ) Evaluation of thee Perioperative Risks Using the POSSUM Score . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 2004 . 12 .
- 10) Komazaki T : Hypermethylation-associated Inactivation of the SOCS-1 Gene, JAK/STAT Inhibitor, in Human Pancreatic Cancer . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( ISDS )( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .
- 11) Bo H : Syudy of Gene Expression Analysis on Effect of Ionizing Irradation in Human Esophageal Cancer Cell Lines Using cDNA Microarray . 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery ( ISDS ) ( Yokohama, Japan ), 2004 . 12 .

- 12) Bo H, Komazaki T, Yoshino M, Watanabe M, Tokunaga A : Keratinocyte growth factor receptor ( KGFR ) 遺伝子発現の抑制による大腸癌細胞の増殖抑制効果 . 第 104 回日本外科学会学術集会 , 2004 . 3 .
- 13) 渋谷哲男, 塩谷 猛, 岩村太郎, 渡辺昌則, 徳永 昭, 森山雄吉, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>海老名総合病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学第二病院病理部 ): 大腸癌における nm23, 簇の検討 . 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2004 . 4 .
- 14) 吉野雅則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第 2 ): 大腸癌細胞における線維芽細胞増殖因子受容体 ( KGFR/FGFR2 IIb ) の発現と局在 . 第 93 回日本病理学会総会, 2004 . 6 .
- 15) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 千原直人, 栗原雄司, 尾形昌男, 内藤英二, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 薬剤性の良性食道潰瘍を呈した 1 例 . 第 78 回 日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004 . 6 .
- 16) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 鈴木洋一, 千原直人, 栗原雄司, 渋谷哲男, 松本光司<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>第二病院病理部 ): 食道類基底細胞癌の 1 例 . 第 58 回 日本食道学会, 2004 . 6 .
- 17) 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 吉野雅則, 尾形昌男, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉 : 胸部食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術 : 私の工夫 . 第 58 回日本食道学会学術集会, 2004 . 6 .
- 18) 坊 英樹, 駒崎敏昭, 徳永 昭 : 胃潰瘍併存胃癌の検討 . 第 78 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004 . 6 .
- 19) 小泉正樹, 杠葉 良, 岩村太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 閉鎖孔ヘルニアの 2 症例 . 第 793 回外科集談会, 2004 . 6 .
- 20) 近藤恭司, 駒崎敏昭, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 大腸内視鏡において穿孔を来たし, 後腹膜気腫, 縦隔気腫を来した 1 例 . 第 78 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004 . 6 .
- 21) 吉野雅則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 小峯 修, 渋谷哲男, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 森山雄吉 ( <sup>1)</sup>病理学第 2 ): 大腸癌における線維芽細胞増殖因子受容体 の発現とその意義 . 第 59 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2004 . 7 .
- 22) 渡辺昌則, 重光剛志, 岩村太郎, 松本光司<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>第二病院病理部 ): 短期間に肉眼像が変化した胃悪性リンパ腫の 1 例 . 第 26 回神奈川胃癌治療研究会, 2004 . 7 .
- 23) 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉 : 食道癌鏡視下手術におけるピットフォール . 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004 . 7 .
- 24) 塩谷 猛, 栗原雄司, 岩村太郎, 尾形昌男, 徳永 昭, 渋谷哲男, 森山雄吉, 松本光司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院病理部 ): ピリミジン系薬剤投与後の下痢と小腸粘膜 DPD 活性との関連 . 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004 . 7 .
- 25) 山田雄介, 塩谷 猛, 渡邊善正, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 胆石イレウスの 1 手術例 . 第 280 回日本消化器病学会関東支部例会, 2004 . 7 .
- 26) 重光剛志, 岩村太郎, 坊 英樹, 二宮理貴, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉 : 黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 例 . 第 29 回日本外科系連合学会学術集会, 2004 . 7 .
- 27) 杠葉 良, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉 : 肝原発悪性線維性組織球腫の 1 例 . 第 59 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004 . 7 .
- 28) 松信哲朗, 中島由貴<sup>1)</sup>, 大村在幸<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 森 康昭<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 田島博人<sup>2)</sup>, 上山義人<sup>3)</sup>, 鬼島 宏<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>海老名総合病院外科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>東海大学病理診断学 ): 多発性に発生した空腸癌の 1 例 . 第 59 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2004 . 7 .
- 29) 坊 英樹, 駒崎敏昭, 徳永 昭 : 当施設における消化性潰瘍入院患者の検討 . 潰瘍病態研究会第 13 回フォーラム, 2004 . 8 .
- 30) 坊 英樹, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 栗原雄司, 川並汪一<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>老人病研究所病理部門 ): 食道扁平上皮癌に対する放射線照射効果のジーンフィルターによる解析 . 第 63 回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .

- 31) 駒崎敏昭, 永井尚生<sup>1)</sup>, 矢部 彩, 渋谷哲男, 徳永 昭, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 膵癌におけるSOSC-1遺伝子発現の検討. 第63回日本癌学会学術総会, 2004. 9.
- 32) 佐藤精一, 塩谷 猛, 重光剛志, 小泉正樹, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 食道癌肉腫の1例. 第66回臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 33) 小泉正樹, 杠葉 良, 小峯修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 腹腔内膿瘍を形成し診断に難渋した肺クリプトコッカス症の1症例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 34) 塩谷 猛, 杠葉 良, 佐藤精一, 二宮理貴, 南部弘太郎, 渋谷哲男, 徳永 昭: 超高齢者(85歳以上)腹部手術症例の検討: POSSUM scoreを用いた周術期リスク評価. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 35) 山田雄介, 塩谷 猛, 渡邊善正, 渋谷哲男, 徳永 昭: 胆石イレウスの3手術例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 36) 小峯 修, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村ゆう<sup>2)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup>同病理部): 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後2年で挙上空腸に発生したGastrointestinal stromal tumor (GIST)の1例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 37) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 千原直人, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭: 2度穿孔を起こしたHP陽性難治性胃潰瘍の1例. 第34回胃外科・術後障害研究会, 2004. 11.
- 38) 水谷 聡, 塩谷 猛, 小泉正樹, 前島顕太郎, 千原直人, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭: 肛門管への壁内転移が膈直接浸潤を呈した上部直腸癌の1例. 神奈川臨床外科医学会集談会, 2004. 11.
- 39) 小泉正樹, 尾形昌男, 渋谷哲男, 徳永 昭, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 森 康昭<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院): 閉鎖孔ヘルニアの診断と治療 5症例の経験から. 第111回神奈川臨床外科医学会集談会, 2004. 11.
- 40) 小泉正樹, 前島顕太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭: 十二指腸潰瘍穿孔に対する治療成績および大網充填術後の内視鏡所見. 第34回胃外科・術後障害研究会, 2004. 11.
- 41) 尾崎卓司, 小熊将之<sup>1)</sup>, 渡辺一彦<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 小平祐造<sup>1)</sup>, 石井律子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>立正佼成会付属佼成病院外科): 右鼠径部脂肪肉腫の一切除例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 11.
- 42) 三浦克洋, 栗田二郎<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 森 康昭<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院外科): Lymphocytic mastitisの1症例. 第111回神奈川臨床外科医学会集談会, 2004. 11.
- 43) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 鈴木洋一, 杠葉 良, 松信哲朗, 千原直人, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭: 同一部位に2度穿孔をきたした胃潰瘍症例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 44) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 松信哲朗, 小泉正樹, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭: 当科における進行・再発胃癌症例 に対するTS-1投与の検討. 第27回神奈川胃癌治療研究会, 2004. 12.
- 45) 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 水谷 聡, 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 自然消失した胃MALTの1例. 第79回消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 46) 坊 英樹, 前島顕太郎, 徳永 昭: 出血性胃・十二指腸潰瘍におけるNSAID及び*H. Pylori*の因果関係. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 47) 小峯 修, 田中洋一<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 岡田洋次郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科): 右鎖骨下動脈起始異常を合併した食道癌の1手術例. 第795回外科集談会, 2004. 12.
- 48) 坊 英樹, 千原直人, 山田雄介, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭: 出血性消化性潰瘍におけるNSAIDsと*H. Pylori*感染の関与. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.
- 49) 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 大腸癌における*hml23*の検討. 第62回大腸癌研究会, 2005. 1.
- 50) 千原直人, 坊 英樹, 山田雄介, 前島顕太郎, 鈴木洋一, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭: 出血性胃十二指腸潰瘍におけるH<sub>2</sub>-blockerとP. P. Iの比較. 第1回日本消化管学会総会, 2005. 1.



- 51) 坊 英樹, 駒崎敏昭, 千原直人, 渡辺昌則, 内藤英二, 渋谷哲男, 徳永 昭: 出血性胃, 十二指腸潰瘍の治療および *H. Pylori*, NSAIDs の関与. 第41回日本腹部救急医学会総会, 2005. 2.
- 52) 水谷 聡, 太田成男<sup>1)</sup>, 設楽雄次郎, 宮戸康幸<sup>1)</sup>, 山縣久美<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>老人病研究所細胞生物学 ): 癌細胞の抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA の関連. 第38回制癌剤適応研究会, 2005. 3.
- 53) 二宮理貴, 松信哲朗, 尾形昌男, 渋谷哲男, 徳永 昭: 保存的治療にて軽快した特発性食道破裂の1例. 腹部救急学会, 2005. 3.
- 54) 小峯 修, 西村洋治<sup>1)</sup>, 岡田洋次郎<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 西田一典<sup>2)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup>同病理科 ): 発生母地不明の骨盤内低分化腺癌の1例. 第796回外科集談会, 2005. 3.

(5) ビデオセッション:

- 1) 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 吉野雅則, 塩谷 猛, 徳永 昭: 食道癌に対する小開胸併用胸腔鏡下食道切除術 (私の手術 最前線の内視鏡外科手術). 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2004. 11.

## [ 第二病院病理部 ]

### 研究概要

これまでと同様に外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断難解例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体であり, 症例報告あるいは症例解析などの学会発表および論文報告を毎年コンスタントに行っている. 平成8年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが, 本年より新たなデータベースによるグレードアップを行い, これまでと同様, リアルタイムに患者の既往歴を検索出来ると同時に, 各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出がこれまで以上に容易となり, 臨床家の依頼に沿った疾患の統計学的な解析を行うことが出来るようになった. スタッフ (医師2名, 技師5名) の少ない当病理部としては, 各分野への細分化された研究を充分に行うことはできないが, 各スタッフの得意分野 (肝臓病理および臓器移植の病理, 細胞診断) から徐々に研究を進展させて行きたいと考えている.

また, これまでの年報でも述べたが, 平成5年より続けている群馬大学との共同研究 臓器移植の際の保存再灌流障害 (肺, 肝臓, 小腸, 心臓) に関する研究, NHBD (non-heart beating donor) からの臓器移植に関する研究は, 引き続き国内外で高い評価を得ている. 一昨年度にこれまでの集大成として「臓器の虚血再灌流障害: 基礎と臨床」をまとめたが, 現在これらの研究に対し, さらに課題を進展させ実験を継続中である. この他, 平成7年より慶応大学医学部で, 平成9年より日本大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的な検討に関する共同研究は, 平成12年より本学, 横浜市立医科大学, 平成13年より自治医科大学も加わり継続して行っているが, 多くの施設からの貴重な症例を解析することにより, 肝臓移植病理のマニュアルを完成させることができた. これからも他施設および付属病院病理部と共同し, 移植病理学のみならず多くの臨床病理学的な検討を行いたいと考えている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Koike N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohki S<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): Effects of adding P38 mitogen-activated protein-kinase inhibitor to celsior solution in canine heart transplantation from non-heart-beating donors. *Transplantation* 2004; 77 (2): 286-292.
- 2) Arakawa K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Muraoka M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): Measuring Platelet Aggregation to estimate small Intestinal ischemia-reperfusion injury. *J Surg Res* 2004; 122 (3): 195-200.

- 3) Haraguchi S<sup>1)</sup>, Yamashita Y<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Hioki M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科,  
<sup>2)</sup> 付属病院外科学第2): Sternal resection or metastasis from thyroid carcinoma and reconstruction with the sandwiched marlex and stainless steel mesh. J J Thoracic Cardiovas Surg 2004; 52 (4): 209-212.
  - 4) Hashimoto N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>,  
Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): Effects of a bradykinin B (2) receptor  
antagonist on ischemia-reperfusion injury in a canine lung transplantation model. J Heart Lung Transplant  
2004; 23 (5): 606-613.
  - 5) Takushima M<sup>1)</sup>, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hioki M<sup>1)</sup>, Endou N<sup>1)</sup>, Kawamura J<sup>1)</sup>, Yamashita Y<sup>1)</sup>, Orii K<sup>1)</sup>, Mat-  
sumoto K, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科,<sup>2)</sup> 外科学第2): Video-assisted thoracic surgery for pulmonar as-  
perhilloma in patients with anorexia nervosa. J Nippon Med Sch 2004; 71 (5): 333-336.
  - 6) Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hioki M<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Orii K<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科,<sup>2)</sup> 外科  
学第2): Metastasis to the thyroid from lung adenocarcinoma mimicking thyroid carcinoma. J J Thoracic  
Cardiovas Surg 2004; 52 (7): 353-356.
  - 7) Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hioki M<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Yamashita Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科,  
<sup>2)</sup> 外科学第2): Large anomalous systemic arterial supply to basal segments of the left lung. J J Thoracic  
Cardiovas Surg 2004; 52 (8): 395-397.
  - 8) Totsuka O<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Hashimoto N<sup>1)</sup>, Yutaka S<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>,  
Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): The effects of a bradykinin B2 receptor an-  
tagonist in extended liver resection with ischemia in dogs. Hepatogastroenterol 2004; 51 (60): 1771-1775.
  - 9) Kurabayashi M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Maruyama I<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学  
医学部第二外科学): 2-arachidonoylglycerol increases in ischemic-reperfusion injury of the rat. J Invest Surg  
2005; 18 (1): 25-31.
  - 10) Arakawa K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Akao T<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第  
二外科学): Bradykinin B2 receptor antagonist FR173657 ameliorates small bowel ischemic-reperfusion injury  
in dogs. Dig Dis Sci 2005; 50 (1): 27-36.
  - 11) Shimizu H<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Murakami T<sup>1)</sup>, Hakamata Y<sup>1)</sup>, Kudou S<sup>1)</sup>, Kishi T<sup>1)</sup>, Fukuchi  
K<sup>1)</sup>, Iwanami S<sup>1)</sup>, Kuriyama K<sup>1)</sup>, Yasue T<sup>1)</sup>, Enosawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>,  
Kobayashi E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): KRP-203, a novel synthetic immunosuppressant, prolongs  
graft survival and attenuates chronic rejection in rat skin and heart allografts. Circulation 2005; 111 (2):  
222-229.
- (2) 症例報告:
- 1) Shibuya T<sup>1)</sup>, Kokuma M<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Uchiyama K<sup>2)</sup>, Mori H<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日  
本医科大学第二病院消化器病センター,<sup>2)</sup> 海老名総合病院,<sup>3)</sup> くさかべ病院): Cure of intractable pancreatic  
fistula by subcutaneous fistulojejunostomy. J Gastroenterol 2004; 39 (2): 162-167.
  - 2) 尾崎卓司<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 内藤英二<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 松本光司, 森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病  
センター): 日本住血吸虫症を合併した直腸癌の1例. 手術 2004; 58 (5): 771-774.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム:

- 1) 松本光司: 肝炎再発と拒絶反応の組織科学的な鑑別について (C型肝炎に対する肝移植). 第4回肝移植周術期  
研究会, 2005. 3.

(2) サージカルフォーラム :

- 1) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司, 小峰 修<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸癌における keratinocyte growth factor receptor (KGFR/FGFR2IIIb) の発現と局在. 第104回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.

(3) 一般講演 :

- 1) Ishiwata T<sup>2)</sup>, Yoshino M<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Komine O<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>2)</sup>, Kawahara K<sup>2)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): Expression and the role of keratinocyte growth factor receptor (KGFR/FGFR-2IIIb) in human colorectal cancer. 12th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, 2004. 7.
- 2) Yoshino M<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Bo H<sup>1)</sup>, Komazaki T<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Naito Z<sup>2)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): Expression and localization of keratinocyte growth factor receptor (KGFR/FGFR-2bIIIb) in colorectal cancer. The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis, 2004. 8.
- 3) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 大腸癌における簇, nm23 の検討. 第62回大腸癌研究会, 2004. 1.
- 4) 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 小林克己<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 荒川和久<sup>1)</sup>, 今野兼二郎<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 犬の肺温阻血再灌流傷害における free radical scavenger (MCI-186) の効果. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 5) 倉林 誠<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 矢端義弘<sup>1)</sup>, 大木 孝<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): ラット肝虚血再灌流傷害における選択的 iNOS 阻害剤の有用性. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 6) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 石川 仁<sup>1)</sup>, 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 饗場正明<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 犬肺温阻血再灌流傷害および同所性肺移植モデルにおける FR167653 の効果. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 7) 村岡正人<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 小林克己<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): プタ肝温阻血再灌流傷害における free radical scavenger MCI-186 の効果. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 8) 吉成大介<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小林光伸<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 浜田邦弘<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): エンドトキシン血症時の臓器障害に対する p38 MAPK 阻害剤の効果. 第104回日本外科学会総会, 2004. 4.
- 9) 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 岩村太郎<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>2)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>海老名総合病院外科): 大腸癌における nm23, 簇の検討. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2004. 4.
- 10) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 松本光司, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): 食道類基底細胞癌の1例. 第58回日本食道学会, 2004. 6.
- 11) 大塚俊司, 長澤由英, 斎藤良明, 太田吉男, 都竹正文<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>癌研究会有明病院細胞診断部): 子宮頸部異型扁平上皮細胞の細胞所見. 第45回日本臨床細胞学会総会, 2004. 7.
- 12) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 重光剛志<sup>1)</sup>, 岩村太郎<sup>1)</sup>, 松本光司, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 短期的に肉眼像が変化した胃悪性リンパ腫の1例. 第26回神奈川胃癌治療研究会, 2004. 7.
- 13) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 岩村太郎<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): ピリミジン系薬剤投与後の下痢と小腸粘膜 DPD 活性との関連. 第59回日本消化器外科学会定期学術総会, 2004. 7.

- 14) 村岡正人<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 小林克己<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): プタ全肝虚血モデルを用いた free radical scavenger MCI-186 の温粗血再灌流障害に対する効果. 第40回日本移植学会総会, 2004. 9.
- 15) 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 小林克己<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 荒川和久<sup>1)</sup>, 今野兼二郎<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): free radical scavenger ( MCI-186 ) は犬の肺温阻血再灌流傷害を軽減する. 第40回日本移植学会総会, 2004. 9.
- 16) 長澤由英, 大塚俊司, 斎藤良明, 太田吉男, 柳本邦雄, 原口秀司<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院外科): 細胞像から原発生甲状腺癌との鑑別が困難であった肺癌甲状腺転移の1例. 第23回日本臨床細胞学会神奈川支部学術集会, 2004. 9.
- 17) 斎藤良明, 長澤由英, 大塚俊司, 太田吉男, 柳本邦雄, 松本光司: 胸水中に出現した腹部原発悪性線維性組織球症の1症例. 第23回日本臨床細胞学会神奈川支部学術集会, 2004. 9.
- 18) 佐藤精一<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 重光剛志<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 食道癌肉腫の1例. 第66回臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 19) 小泉正樹<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 腹腔内膿瘍を形成し診断に難渋した肺クリプトコッカス症の1症例. 第66回日本臨床外科学会総会, 2004. 10.
- 20) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 前島颯太郎<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 自然消失した胃 MALT の1例. 第79回消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.

## [ 第二病院中央検査室 ]

### 研究概要

近年の医療費抑制政策の煽りを受け、診療報酬改定の度に検査実施料の引き下げが当然のように実施される厳しい状況の下、中央検査室を取り巻く環境も様々な変化をみせている。収益性や有用性のさらなる要求に対しては各種検査法の再考、新規検査の導入の検討を通常の課題としている。また、診療支援ネットワークや電子カルテ等院内システムの構築を視野に入れた新規システムの導入を診療部門との連携のもとに進め、他施設にはないバーコード対応を主体とした輸血確認システム（PIS）を導入し、より安全性を高めている。生理機能検査においては、乳腺・甲状腺領域の超音波を日常業務に取り入れることにより、診療部門の要求に応えつつ業務拡大を図ることが可能となった。

臨床検査情報の付加価値提供は病院における検査業務の主たるものであるが、他院に先駆けて実施している病棟出向採血も検査室外業務拡大の意味での価値を位置付けていると思われる。

今後も日々の業務を通し、専門領域の知識・技能・行動特性の実践就業能力を高め、根拠に基づいた有効かつ有用な検査情報が提供できる検査室の資質担保を目指すことに努めたい。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション：

- 1) 荒井誠一, 西島美輝子, 山賀節子, 越谷美由紀, 隠岐和美, 荒木久美, 渡部紀子, 高久貴子, 新宅孝征, 松岡和彦, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 颯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部): 臓器移植に伴う法的脳死判定脳波検査実施例の報告. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 2) 中島由美子, 臼井一城, 成定昌昭, 吉岡美香, 井出尚子, 菅原 通, 新宅孝征, 松岡和彦: 尿検査試験紙法に

- よる尿中蛋白ノクレアチニン比測定の有用性に関する検討．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 3) 森本 進，津金香代子，浅井逸子，新宅孝征，松岡和彦：CLEIA法によるHCVコア蛋白測定の基礎的検討．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 4) 井梅和美，井上雅則，花出 豊，新宅孝征，松岡和彦，島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科)：当院の手術時における赤血球MAP製剤の使用状況．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 5) 吉田美和，因泥弘之，小伊藤保雄，新宅孝征，松岡和彦：アレルギー特異IgE抗体・迅速測定法の評価．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 6) 成定昌昭，臼井一城，吉岡美香，井出尚子，中島由美子，菅原 通，新宅孝征，松岡和彦：顕微鏡デジタル画像のファイリングと画像添付報告書の有用性．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．

## [ 第二病院薬剤科 ]

### 研究概要

平成16年度は薬剤師法と学校教育法が改正され，薬学教育6年制がいよいよ実現する事となった．医薬分業が進展し，大学病院における医療がますます高度化，複雑化する中で，医療の安全確保，医薬品の適正使用における薬剤師の果たすべき役割が大きくなった．そこには医療薬学の重要性が認識されたことが背景にあると思われる．さらに医療チームの一員としての薬剤師の業務も『モノ』を扱う調剤中心の業務から，『ヒト』に対する薬物治療をモニタリングする，いわゆる患者を対象とする業務に大きく展開しつつある．このような背景の下，医療人としての資質，自覚の高い薬剤師の養成が求められていると同時に，チーム医療における医と薬の専門的な連携が強く求められている．また現在，医療現場で活躍している薬剤師に対しても，薬物療法の適正使用とリスクマネージャーとしての資質の向上と弛まない研鑽が求められ，医療人としての責任も極めて大きいものになってきつつあると言える．そこで第二病院薬剤科としては，HMG-CoA還元酵素阻害薬の副作用・薬物相互作用に関するアンケート調査，神奈川県内病院での医薬品情報活動の現状分析・変遷に関する調査研究などを重点的に行い薬物相互作用や医薬情報活動の現状把握に努めた．

また，薬剤師の職能を生かしたTDMに関する講演を通して，薬剤師のTDM業務における重要性の啓発に寄与した．

さらに公開講座においては，地域住民または近隣の人達に対し講演し，薬の服用方法や重要性を理解してもらうことに努めた．

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) セミナー：

- 1) 渋谷正則：Qflexを用いたTDMの実践．北海道TDM研究会，2004．8．
- 2) 渋谷正則：子供の薬の飲ませ方．日本医科大学公開講座 「生き生きとした健康生活を求めて」，2004．10．

##### (2) 一般講演：

- 1) 山田裕之<sup>1,2)</sup>，池川 勉<sup>1,2)</sup>，佐川賢一<sup>1,3)</sup>，小坂好男<sup>1)</sup>，依田啓司<sup>1,4)</sup>，河野博充<sup>1,5)</sup>，阿部 博<sup>1,6)</sup>，佐藤 透<sup>1,7)</sup>，柴田徹一<sup>1,8)</sup>，柳川忠二<sup>1,9)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川薬物相互作用研究会，<sup>2)</sup>済生会若草病院薬剤部，<sup>3)</sup>北里大学病院薬剤部，<sup>4)</sup>国際親善総合病院薬剤部，<sup>5)</sup>帝京大学医学部附属溝口病院薬剤部，<sup>6)</sup>海老名総合病院薬剤科，<sup>7)</sup>川崎幸病院薬剤科，<sup>8)</sup>日本薬科大学，<sup>9)</sup>聖マリアンナ医科大学東横病院薬剤部)：HMG-CoA還元酵素阻害薬の薬物相互作用に関するアンケート調査．第14回日本医療薬学会年会，2004．10．
- 2) 木村利美<sup>1)</sup>，高尾良洋<sup>2)</sup>，鷺見正宏<sup>3)</sup>，坂下裕子<sup>4)</sup>，竹内尚子<sup>5)</sup>，中馬統一郎<sup>6)</sup>，森田 徹<sup>7)</sup>，津村広行<sup>8)</sup>，関山正夫<sup>6)</sup>，小坂好男，安藤奈穂<sup>9)</sup>，佐川賢一<sup>1)</sup>，柳川忠二<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学病院薬剤部，<sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学横

浜市西部病院薬剤部，<sup>3)</sup>昭和大学藤が丘病院薬剤部，<sup>4)</sup>聖マリアンナ医科大学東横恵愛病院薬剤部，<sup>5)</sup>かもめ薬局北里健康館，<sup>6)</sup>神奈川県警友会けいゆう病院薬剤部，<sup>7)</sup>横浜市民病院内薬剤部，<sup>8)</sup>済生会神奈川県病院薬剤部，<sup>9)</sup>東海大学医学部附属病院薬剤部)：医薬品情報活動の現状分析と変遷：神奈川県内病院での調査・研究．第14回日本医療薬学会年会，2004．10．

## [ 第二病院看護部 ]

### 研究概要

短期入院患者が社会生活において、何が困っているか、QOLを保持していくためにどのようなサポートを必要としているかを知る。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

1) 石塚美代子：21世紀からの感染制御セミナー「滅菌・消毒について」．21世紀からの感染制御セミナー，2004．7．

##### (2) 一般講演：

1) 松尾友加里，三田村美和，小河原美代子，朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：T - J療法を受けた婦人科癌患者の在宅時における副作用の実態とその援助：QOL実態調査．第45回日本母性衛生学会総会，2004．9．

2) 日野明美，中村たえこ：母子の早期接触が出産体験のとらえ方に及ぼす影響：分娩室におけるカンガルーケアを通して．第45回日本母性衛生学会総会，2004．9．

3) 栗原香織，関根史子，小河原美代子，小西英喜，朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：卵巣癌患者の短期入院治療に伴うQOLの向上とその現状．第42回日本癌治療学会総会，2004．10．

4) 千葉まゆみ：ストレス・コーピング理論を用いた看護師の感情管理と看護援助との相互作用：対応の難しかったがん患者の事例を通して．第7回神奈川看護学会，2004．11．

5) 高祖香織，宇佐美歎子，吉賀尚子，新島麻理，小河原美代子，朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：大学病院における夫立会い分娩の評価：分娩状況の比較とアンケート調査より．第18回神奈川母性衛生学会総会，2005．2．

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [ 多摩永山病院病理部 ]

#### 研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり, 研究部門もさらに充実してきた. 現在の主な研究テーマは以下の通りである.

1. 乳腺腫瘍: 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立, 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について, 転移性乳癌の臨床病理学的研究 (HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について)
2. 骨軟部腫瘍: 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用), Solitary fibrous tumor および GIST (gastro intestinal stromal tumor) について.
3. 子宮癌: 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用): とくにセルブロック法.
4. リンパ節病変: リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ, リンパ節病変の分子生物学的検索, 悪性リンパ腫の細胞診断学.
5. 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断 (外来・病棟・術中・剖検時) の確立.
6. 免疫細胞・組織化学 (Napsin A, Villin, サイトケラチン7, サイトケラチン20 など) を用いた客観的原発巣診断法の確立.
7. 免疫細胞組織化学的手法による脈管侵襲 (血管・リンパ管) の検討.

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup> Department of Orthopedic Surgery, <sup>2)</sup> Second Department of Pathology ): The Effect of Cellular Proliferative Activity on Recurrence And Local Tumour Extent of Localized Giant Cell Tumour of Tendon Sheath. The Journal of Hand Surgery 2004 ; 29B ( 6 ): 604-607 .
- 2) Mita S<sup>1)</sup>, Nakai A<sup>1)</sup>, Maeda S, Takeshita T ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ): Prognostic Significance of Ki-67 Antigen Immunostaining ( MIB-1 Monoclonal Antibody ) in Ovarian Cancer . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ): 384-391 .

##### (2) 綜説:

- 1) 松久威史<sup>1)</sup>, 高須 勝<sup>1)</sup>, 井上泰夫<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 細根 勝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器科 ): 食道神経鞘腫. 臨床消化器内科 2004 ; 19 ( 8 ): 1195-1198 .
- 2) 小林由子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 三田俊二<sup>3)</sup>, 中井章人<sup>3)</sup>, 越野立夫<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>4)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup> 放射線医学, <sup>3)</sup> 多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>4)</sup> 産婦人科学 ): 女性骨盤: 疾患概念と画像診断. 臨床画像 2004 ; 120 ( 12 ): 1440 ( 112 )-1447 ( 119 ) .

##### (3) 研究報告書:

- 1) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>3)</sup>, Shimizu H<sup>3)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Okihama Y<sup>2)</sup>, Hosone M, Shimizu K<sup>4)</sup>, Kawanami O<sup>4)</sup>, Tajiri T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, <sup>4)</sup> Second Department of Surgery, <sup>5)</sup> First Department of Surgery ): Comparative Study between DNA Copy Number Aberrations Determined by Quan-

titative Microsatellite Analysis and Clinical Outcome in Patients with Stomach Cancer . Clinical Cancer Research 2004 ; 10 ( 9 ) : pp3013-3019 .

( 4 ) 症例報告 :

- 1) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Matsubara M<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Maeda S, Sugisaki Y<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup> Department of Orthopedic Surgery , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology , <sup>3)</sup> Second Department of Pathology ) : Fine Needle Aspiration Cytology of Primary Epithelioid Sarcoma : A Report of 2 Cases . ACTA CYTOLOGICA 2004 ; 48 ( 3 ) : 391-396 .
- 2) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 山王直子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 病理学第2 ) : 術中迅速診断に細胞診および免疫染色が有用であった膠芽腫 ( 肥細胞型 ) の1例 . 日本臨床細胞学会誌 2004 ; 43 ( 5 ) : 331-334 .
- 3) 磯部宏昭, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 山王直子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 病理学第2 ) : 術中迅速細胞診が有用であった毛様細胞性細胞腫の1例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2005 ; 44 ( 2 ) : 69-71 .
- 4) 玉井英世<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 黒川 顯<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 第二病院救命救急部 ) : スティーブンス・ジョンソン症候群から長期経過をたどり診療に苦慮した血球貪食症候群の1例 . Ther. Res 2005 ; 26 ( 3 ) : 417-422 .

学会発表

( 1 ) 特別講演 :

- 1) Maeda S, Egami K<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Graduate School of Medicine, Surgery for Organ Function and Biological Regulation , <sup>3)</sup> Department of Pathology ) : Bilateral breast tumor . 2nd Asian Breast Diseases Association ( Hong Kong ), 2004 . 8 .
- 2) Maeda S : How to make a correct diagnosis on breast tumors . : A proposal as a cytopathologist . National Breast Cancer Training Program Meeting ( Thailand ), 2004 . 8 .
- 3) Maeda S : FNA Technique in Breast Cancer . National Breast Cancer Training Program Meeting ( Thailand ), 2004 . 8 .
- 4) Maeda S : Interesting Cases in Breast Cytology . National Breast Cancer Training Program Meeting ( Thailand ), 2004 . 8 .
- 5) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ) : Rapid diagnosis by cytology and histology when necessary using immunostaining . XXV Congress of the International Academy of Pathology ( Australia ), 2004 . 10 .
- 6) 前田昭太郎 : 乳腺穿刺吸引細胞診の有用性と問題点 . 平成16年度 ( 第1回 ) 細胞診従事者講習会 , 2004 . 11 .

( 2 ) 招待講演 :

- 1) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ) : How to make a correct diagnosis on soft tissue tumors by fine needle aspiration cytology. A proposal as a cytopathologist . XV International Congress of Cytology ( Santiago ), 2004 . 4 .
- 2) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Yanagida Y, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ) : Comparative study on method of smear preparation in FNA cytology . Diagnostic Cytopathology Workshop ( Singapore ), 2004 . 6 .
- 3) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Hando K, Azuma K, Yanagida Y, Yokoyama M, Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ) : FNA cytology on Breast Tumor : The utility and the cautionary important points on di-



agnosis . 11th Thai-Japanese Workshop ( Thailand ), 2005 . 1 .

(3) シンポジウム :

- 1) Katayama H , Maeda S , Hosone M , Yokoyama M<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): The current status of cytotechnology manpower in Japan : Will Japanese cytotechnologists play an important role in the program of technical assistance overseas? . 第45回日本臨床細胞学会総会 : アジアフォーラム , 2004 . 7 .
- 2) 横山宗伯<sup>1)</sup> , 松原美幸<sup>2)</sup> , 前田昭太郎 , 細根 勝 , 片山博徳 , 北川泰之<sup>3)</sup> , 杉崎祐一<sup>2)</sup> , 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 , <sup>2)</sup> 付属病院病理部 , <sup>3)</sup> 整形外科 ): 穿刺吸引細胞診を軟部腫瘍診療にどう活用するか? : 軟部腫瘍細胞診を一般化するために . 第45回日本臨床細胞学会総会 , 2004 . 7 .
- 3) 清水秀樹<sup>1)</sup> , 森 修<sup>1)</sup> , 小黒辰夫<sup>1)</sup> , 大秋美治<sup>1)</sup> , 内藤善哉<sup>2)</sup> , 杉崎祐一<sup>3)</sup> , 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部 , <sup>2)</sup> 病理学第2 , <sup>3)</sup> 付属病院病理部 ): 浸潤性星細胞の細胞像 : びまん性浸潤部を中心に . 第45回日本臨床細胞学会総会 , 2004 . 7 .
- 4) 細根 勝 , 前田昭太郎 , 片山博徳 , 磯部宏昭 , 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): リンパ節の穿刺吸引細胞診 ( FNAC ): 悪性リンパ腫のFNACとその今日的意義 . 第45回日本臨床細胞学会総会 , 2004 . 7 .
- 5) 柳田裕美 , 前田昭太郎 , 原 博 , 細根 勝 , 片山博徳 , 磯部宏昭 , 阿部久美子 , 日吾美栄子 , 江上 格<sup>1)</sup> , 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 , <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 乳腺穿刺吸引細胞診の標本作製 ( 吹き出し法 , はがし法 , すり合わせ法 , 圧挫法 ) の検討 . 第43回日本臨床細胞学会秋期大会 , 2004 . 11 .

(4) ワークショップ :

- 1) 片山博徳 , 前田昭太郎 , 細根 勝 , 松本光司<sup>1)</sup> , 川本雅司<sup>2)</sup> , 内藤善哉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部 , <sup>2)</sup> 病理学第1 , <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 肺大細胞神経内分泌癌の細胞像と鑑別診断 . 第43回日本臨床細胞学会秋期大会 , 2004 . 11 .

(5) 一般講演 :

- 1) Liu A<sup>1)</sup> , Maeda S , Hosone M , Azuma K , Katayama H , Suzuki S<sup>2)</sup> , Sugisaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for EM Researches , <sup>2)</sup> Department of Surgical , Tama-Nagayama Hospital ): Gastrointestinal stromal tumors ( GISTs ): an ultrastructural and immunohistochemical study of eight cases . 8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy ( 8APEM ) ( Kanazawa , Japan ), 2004 . 6 .
- 2) Liu A. M. <sup>1)</sup> , Sugisaki Y<sup>1)</sup> , Hosone M , Namimatsu S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for EM Researches ): Anaplastic Large Cell Lymphoma of 3 cases. A comparative study of flow cytometry analysis, immunohistochemistry and electron microscopy . 13th Annual Scientific meeting of HKIAP, Hong Kong, IAP ( Hong Kong ), 2004 . 11 .
- 3) Hosone M , Maeda S , Katayama H , Liu A<sup>1)</sup> , Sugisaki Y<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for EM Researches , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): HHV-8 ( - ) primary effusion lymphoma ( PEL ) of left pleural cavity showing lymphoplasmacytic morphology with an indolent clinical course . 13th Annual Scientific meeting of HKIAP, Hong Kong, IAP ( Hong Kong ), 2004 . 11 .
- 4) Suzuki S<sup>1)</sup> , Egami K<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Fukuhara M<sup>1)</sup> , Masuda G<sup>2)</sup> , Matsuhisa T<sup>2)</sup> , Okihama Y<sup>2)</sup> , Matsuda T<sup>2)</sup> , Hosone M , Liu A , Maeda S , Tajiri T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> First Department of Surgery ): Assessment of clinicopathological findings and clinical outcome in patients with GIST and EGIST . The 19th ISDS ( Yokohama ), 2004 . 12 .
- 5) Handou K , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Azuma K , Isobe H , Yanagida Y , Kawano K , Akiyama H , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): Correlation with biological markers, cytological features and prognosis in invasive breast cancer : first report . The 11th Thai-Japanese workshop in Diagnostic Cytopathology ( Thailand ), 2005 . 1 .
- 6) Yanagida Y , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Azuma K , Handou K , Hirata T<sup>1)</sup> , Yokoyama M<sup>2)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Chest Surgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Three

cases of lung tumor diagnosed only by intraoperative rapid cytology . The 11th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Thailand ), 2005 . 1 .

- 7) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Hando K, Azuma K, Yanagida Y, Egami K<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology): A Case of Large-Cell Neuroendocrinal Carcinoma of the Lung . The 11th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Thailand ), 2005 . 1 .
- 8) 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 腸間膜原発巨大脂肪肉腫の1例 . 第793回外科集談会, 2004 . 6 .
- 9) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第2): 放射線誘発性が推定される脳原発骨肉腫の1例 . 第93回日本病理学会総会, 2004 . 6 .
- 10) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 高齢者の胸水中に発生し, 緩徐な臨床経過を示したリンパ形質細胞性リンパ腫 (LPL): Primary Effusion Lymphoma (PEL) の範疇か . 第93回日本病理学会総会, 2004 . 6 .
- 11) 秋山裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 川野記代子, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 体腔液細胞診陽性例における原発巣推定の為の免疫組織学的検討: Cytokeratin7/20, NapsinA, Villinによるアプローチ . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 12) 椋 清美, 前田昭太郎, 細根 勝, 劉 愛民, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 秋山裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 剖検時迅速細胞診断が有用であった剖検例 . 第51回日本臨床検査医学会総会, 2004 . 9 .
- 13) 椋 清美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 秋山裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 剖検時における迅速細胞診断の有用性 . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 14) 柳田裕美, 前田昭太郎, 原 博, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 阿部久美子, 日吾美栄子, 横山 正<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 乳腺穿刺吸引細胞診における標本作製方法による細胞所見の比較検討 . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 15) 前田昭太郎, 柳田裕美, 細根 勝, 片山博徳, 江上 格<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 松島忠治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学附属多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理学第2, <sup>3)</sup>平成立石病院外科): 迅速細胞診にて診断し得た非定型抗酸菌症の1例 . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 16) 三田俊二<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>附属多摩永山病院女性診療科・産科): 上皮性卵巣癌における予後因子としてのMIB-1抗体の有用性について . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 17) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 秋山裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 附属多摩永山病院病理部におけるリスクマネージメントについて: 診断材料の受け付けに関して . 第72回日本医科大学医学会総会, 2004 . 9 .
- 18) 松田 健<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>外科学第1): C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の3例 . DDW-Japan 2004 第12回日本消化器関連学会, 2004 . 10 .
- 19) 秋山裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 川野記代子, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 体腔液細胞診陽性例における原発巣推定の為の免疫組織学的検討 . 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004 . 11 .
- 20) 秋山裕美, 前田昭太郎, 片山博徳: 悪性顆粒細胞腫の1例 . 平成16年度(第1回)細胞診従事者講習会, 2004 . 11 .
- 21) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科, <sup>3)</sup>病理学第2): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の免疫組織化学及び電顕的検索 . 第36回日本臨床電子顕微鏡学会, 2004 . 11 .

- 22) 東 敬子, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>2)</sup>, 山本英希<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科, <sup>3)</sup>病理学第2): 神経内分泌の特徴を有する肺大細胞癌: LCNECとLCCNDとの区別. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会, 2004. 11.
- 23) 礮部宏昭, 細根 勝, 前田昭太郎, 原 博, 片山博徳, 柳田裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 秋山裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): フローサイトメトリー併用・FNA材料から推定診断し得たリンパ形質細胞性リンパ腫の1例. 第43回日本臨床細胞学会秋期大会, 2004. 11.
- 24) 片山博徳, 秋山裕美, 前田昭太郎: 肺大細胞神経内分泌癌の1例. 平成16年度(第1回)細胞診従事者講習会, 2004. 11.
- (6) 要望講演:
- 1) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 江上 格<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 藤井信人<sup>4)</sup>, 中井章人<sup>5)</sup>, 富山俊一<sup>6)</sup>, 内藤善哉<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同呼吸器外科, <sup>3)</sup>同脳神経外科, <sup>4)</sup>同整形外科, <sup>5)</sup>同女性診療科・産科, <sup>6)</sup>同耳鼻咽喉科, <sup>7)</sup>病理学第2): 臨床に呼応した迅速細胞診のあり方. 第45回日本臨床細胞学会総会, 2004. 7.
- 2) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 礮部宏昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): ベッドサイドでの血液細胞診: 臨床と病理の架け橋を目指す一つの試み. 第45回日本臨床細胞学会総会, 2004. 7.

## [ 多摩永山病院中央検査室 ]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法および迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つつ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 久保田稔, 横田裕行<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 直江康孝<sup>3)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 二宮宣文<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>第二病院救命救急部, <sup>3)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 短潜時体性感覚誘発電位 (SSEP) の脳死診断における有用性. 脳死・脳蘇生 2004; 16(1): 57-61.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 羽場和美<sup>1)</sup>, 岩瀬絵利子<sup>1)</sup>, 山本裕之<sup>1)</sup>, 緋田雅美<sup>1)</sup>, 久保田稔, 加地正人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 院内におけるBLS・AEDの浸透. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.

## [ 多摩永山病院薬剤科 ]

### 研究概要

当薬剤科として、患者中心としたチーム医療の一員を目指し、薬物の適正使用、患者QOLの向上および薬物治療の安全管理などにおいて研究を行っている。

その中で、薬剤師による抗がん剤の混注業務の有用性と安全管理をについて報告した。女性診療科とは共同でがん化学療法時の患者への服薬指導について、さらに内科および薬科大学との共同で患者QOLの向上することを目標としてまた薬物の適正使用を推進するために研究、報告した。

今後ともこれらの研究を通し患者中心とした医療の一躍を担うことのできる薬剤科として、努力していきたいと考えている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 村田和也：長期投与における薬学的管理：アレルギー疾病．薬局 2004；97-104．

### 著書

- 1) 村田和也，西澤健司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院薬剤科)：〔共著〕薬剤師のための輸液・栄養療法(伊東明彦)，2004；薬事日報社．

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 男鹿宏和，畝本賜男，前田國光，村田和也：院外処方せん全面移行に伴う諸問題への対策．第34回学術大会 関東ブロック，2004．8．
- 2) 稲葉育広，椎野元裕，村田和也：外来化学療法支援のための昆虫業務の導入．第34回学術大会 関東ブロック，2004．8．
- 3) 堀川佳津美，伊藤淳雄，村田和也，横田明重<sup>1)</sup>，中井章人<sup>1)</sup>，越野立夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科)：当院女性診療科におけるがん化学療法時の薬剤管理指導業務の効率化：がん化学療法ワークシートの有用性．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 4) 堀川佳津美，伊藤淳雄，村田和也，横田明重<sup>1)</sup>，中井章人<sup>1)</sup>，越野立夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科)：当院婦人科における薬剤管理指導業務の標準化および効率化の試み．第14回日本医療薬学会年会，2004．10．
- 5) 村田和也：東京都における退院時服薬説明(指導)書を利用した医療機関薬剤部(科)と薬局の連携に関する調査(平成15年度 東京都委託「医療機関と薬局の連携推進事業」)．第37回 日本薬剤師会学術大会，2004．10．
- 6) 西端こずえ<sup>1)</sup>，新 博次<sup>2)</sup>，小谷英太郎<sup>2)</sup>，村田和也，加賀谷肇<sup>1)</sup>，竹内幸一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>済生会横浜市南部病院薬剤部，<sup>2)</sup>日本医科大学附属多摩永山病院内科・循環器内科，<sup>3)</sup>明治薬科大学臨床薬学専攻大学院)：ワルファリンの有害事象に対するPT(INR)変動の実態調査と検討．第14回日本医療薬学会年会，2004．10．
- 7) 富岡勝世，村田和也，新 博次<sup>1)</sup>，小谷英太郎<sup>1)</sup>，藤中祐美子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科，<sup>2)</sup>日産厚生会玉川病院薬剤科)：薬剤性QT延長に関するホームページの解説．日本薬学会第125年会，2005．3．
- 8) 勝亦秀樹<sup>1)</sup>，森川正子<sup>1)</sup>，寺澤孝明<sup>1)</sup>，田寺 長<sup>2)</sup>，雪吹周生<sup>2)</sup>，草間芳樹<sup>2)</sup>，新 博次<sup>2)</sup>，村田和也(<sup>1)</sup>東京薬科大学，<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科)：循環器疾患患者のQOLに対する 遮断薬の有用性．日本薬学会第125年会，2005．3．
- 9) 郡司孝弥<sup>1)</sup>，森川正子<sup>1)</sup>，寺澤孝明<sup>1)</sup>，田寺 長<sup>2)</sup>，雪吹周生<sup>2)</sup>，草間芳樹<sup>2)</sup>，新 博次<sup>2)</sup>，村田和也(<sup>1)</sup>東京薬科大学，<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科)：メタボリックシンドローム患者のQOL評価．日本薬学会第125年会，2005．3．

## [ 多摩永山病院看護部 ]

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 吉田温子, 酒井和子, 三宅秀彦, 佐々木茂, 横田明重, 越野立夫, 中井章人：高度会陰裂傷発生に関するリスク因子の検討．第22回東京母性衛生学会, 2004．5．
- 2) 曽根真美, 市川友美, 榎本聡美：性格的要因とエラー発生との関連．日本臨床救急医学会, 2004．5．
- 3) 石川秀一：中心静脈カテーテルにおけるインラインフィルター使用の妥当性．第54回日本病院学会, 2004．7．
- 4) 佐藤友美子, 窪ちなつ, 菅原洋子：卒後2年目看護師の生活習慣病患者における情報収集の視点：ゴードンの情報収集の枠組みを活用して．第35回日本看護学会（看護教育）, 2004．8．
- 5) 清水直美, 吉田宣子, 本田修子：母親の食意識, 食行動が及ぼす持ち込み食への影響．第35回日本看護学会（小児看護）, 2004．9．
- 6) 伊波早乃, 杉田みゆき, 関川陽子, 森山純子：二交替勤務における夜勤帯での食事についての実態調査：食事と勤務終了時に感じる身体の不調に焦点を当てて．多摩南地区看護研究発表, 2005．2．
- 7) 阿式正敏, 山本裕之, 石川秀一：ドクターアンビュラス運営における看護師の役割と今後の課題．日本救急医学会関東地方会, 2005．2．

## [ 多摩永山病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

#### 1. 医療従事者の放射線防護について

当院で行っている医師・看護師等の医療従事者対象の放射線防護講習について、講習方法・講習後の意識等あらゆる角度から検討を行った。

#### 2. 放射線科の危機管理について

放射線科でヨードショック等の緊急事態が発生した場合、その場の放射線科スタッフが緊急医療チームとしてスムーズに機能するために必要なことについて検討を行った。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 笹沼和智, 高橋克幸, 織田 宏, 池田隆志, 濱口雄慈, 森 克彦：医療従事者の放射線防護講習．日本放射線技術学会 第60回総会学術大会, 2004．4．
- 2) 高橋克幸, 笹沼和智, 織田 宏, 池田隆志, 濱口雄慈, 森 克幸：放射線防護講習における実習の重要性．日本放射線技術学会 第60回総会学術大会, 2004．4．
- 3) 池田隆志, 笹沼和智, 織田 宏, 高橋克幸, 濱口雄慈, 森 克幸：放射線科の危機管理 造影剤の副作用に対する緊急蘇生シミュレーション．日本放射線技術学会 第60回総会学術大会, 2004．4．
- 4) 高橋克幸, 笹沼和智, 織田 宏, 池田隆志, 濱口雄慈, 森 克彦：IVRにおける放射線障害予防のための講習．

日本放射線技術学会 東京部会 秋季学術大会，2004．10．

- 5) 織田 宏，笹沼和智，池田隆志，高橋克幸，濱口雄慈，森 克彦：放射線被ばくに対する意識調査 放射線技師学校学生・新人看護師・新人医師アンケートより．日本放射線技術学会 東京部会 秋季学術大会，2004．10．
- 6) 池田隆志，笹沼和智，織田 宏，高橋克幸，濱口雄慈，森 克彦：放射線科の危機管理 放射線科スタッフの救命講習受講について．日本放射線技術学会 東京部会 秋季学術大会，2004．10．

## 23. 千葉北総病院付置施設等

### [ 千葉北総病院内科 ]

#### 研究概要

内科各領域を網羅する臨床的研究を積極的に行っている。そのため、研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、内分泌および呼吸器疾患と新たに血液内科が加わりほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では、虚血性心疾患が中心、心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である。また、心不全や不整脈の研究も行っている。

肝臓では、肝機能障害の患者に対し、各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断および肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。

神経では、CT, MRI 検査による各種筋疾患の経時変化、治療効果の検討および電気生理検査による中枢、末梢神経疾患の定量的評価、検討を行っている。

腎臓では、蛋白尿から、急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、大腸癌と血液疾患の関連、食道蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

内分泌では、甲状腺を中心にFGSとの関連を研究している。

呼吸器では、肺癌に対する併用療法、および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析、検討を行っている。

血液では各種貧血、血小板減少症、造血器腫瘍（急性白血病を除く）などの診療および、臨床的検討を行っている。造血器腫瘍では成田赤十字病院血液腫瘍科と連携している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mizuno K, The Japanese  $\beta$ -blockers and Calcium Antagonists Myocardial Infarction (JBCMI) I: Comparison of the Effects of Beta Blockers and Calcium Antagonists on Cardiovascular Events After Acute Myocardial Infarction in Japanese Subjects. The American Journal of Cardiology 2004; 93 (8): 969-973.
- 2) Mizuno K, Nakamura H<sup>1)</sup>, Ohashi Y<sup>2)</sup>, Kaburagi T<sup>3)</sup>, Kitabatake A<sup>4)</sup>, Tochihiro T<sup>5)</sup>, Hosoda S<sup>6)</sup>, The Just Study I<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> 三越厚生財団, <sup>2)</sup> Dept. of Epidemiology and Biostatistics, School of Health Sciences and Nursing Faculty of Medicine, Univ. of Tokyo, <sup>3)</sup> Kaburagi Medical Clinic, <sup>4)</sup> 北海道大学心臓血管内科, <sup>5)</sup> 相模原共同病院, <sup>6)</sup> 榊原記念病院, <sup>7)</sup> The Just Study Investigator ): A Randomized Open-Label, Comparative Study of Simvastatin Plus Diet Versus Diet Alone on Angiographic Retardation of Coronary Atherosclerosis in Adult Japanese Patients: Japanese Utilization of Simvastatin Therapy (JUST) Study. Clinical Therapeutics 2004; 26 (6): 878-886.
- 3) Sano J, Inami S, Ohba T, Sakai S, Takano T<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> 内科学第1): Effect of Green Intake on the Development of Coronary Artery Disease. Circulation Journal 2004; 68 (7): 665-670.
- 4) Hata N<sup>1)</sup>, Matsumori A<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T, Shinada T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Tokuyama K, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室 ): Hepatocyte Growth Factor and Cardiovascular Thrombosis in Pa-

- tients Admitted to the Intensive Care Unit . Circulation Journal 2004 ; 68 ( 7 ) : 645-649 .
- 5) Tokai Y<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Takanao M<sup>1)</sup>, Mifune T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Ohba T , Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Acute Myocardial Infarction due to Simultaneous Occlusion of Two Main Coronary Arteries in a Patient with Advanced Gastric Cancer . Int J Angiol 2004 ; 127-130 .
  - 6) Management Of Elevated Cholesterol In The Prevention G<sup>1)</sup>, Mizuno Kyoichi ( <sup>1)</sup> Management of Elevated Cholesterol in the Prevention Group ): Design and Baseline Characteristics of a Study of Primary Prevention of Coronary Events with Pravastatin Among Japanese with Mildly Elevated Cholesterol Levels . Circulation Journal 2004 ; 68 ( 9 ) : 860-867 .
  - 7) Shigenobu I , Kentaro O , Takano M , Takagi G , Sakai S , Sano J , Mizuno K : Effect of Statins on Circulating Oxidized Low-density Lipoprotein in Patients with Hypercholesterolemia . Japanese Heart Journal 2004 ; 45 ( 6 ) : 969-975 .
  - 8) Kawabe J , Okumura S , MCL , Sadoshima J , Ishikawa Y : Translocation of caveolin regulates stretch-induced activity in vascular smooth muscle cells . Am J Physiol Heart Circ Physiol 2004 ; 286 : 1845-1852 .
  - 9) Okumura S , Fujii H , Inokuchi N , Watanabe M , Nishino T , Okazaki T : Molecular cloning of three adult rat beta-globin gene promoters . Biochim Biophys Acta 2004 ; 1678 : 145-149 .
  - 10) Iwamoto T , Iwatsubo K , Okumura S , Hashimoto Y , Tssunematsu T , Toya Y , Herve D , Umemura S , Ishikawa Y : Disruption of type 5 adenylyl cyclase negates the developmental increase in G<sub>o</sub> expression in the striatum . FEBS Lett 2004 ; 564 : 153-156 .
  - 11) Takano M , Inami S , Ishibashi F , Okamatsu K , Seimiya K , Ohba T , Sakai S , Mizuno K : Angiographic Follow-Up Study of Coronary Ruptured Plaques in Nonculprit Lesions . Journal of the American College of Cardiology 2005 ; 45 ( 5 ) : 654-658 .
  - 12) Jang IK-K<sup>1)</sup>, Tearney Guillermo J<sup>1)</sup>, MacNeill B<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Moselewski F<sup>1)</sup>, Iftima N<sup>1)</sup>, Shishkov M<sup>1)</sup>, Houser S<sup>1)</sup>, Aretz HT<sup>1)</sup>, Halpern Elkan F<sup>1)</sup>, Bouma Brett E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Massachusetts General Hospital ): In Vivo Characterization of Coronary Atherosclerotic Plaque by Use of Optical Coherence Tomography . Circulation 2005 ; 111 ( 12 ) : 1551-1555 .
  - 13) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup>日本医科大学内科学第4): 慢性閉塞性肺疾患患者のADLの指標としての血漿乳酸値の検討 . 臨床呼吸生理 2004 ; 36 ( 1 ) .
  - 14) 田近研一郎, 小林宣明, 稲見茂信, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一: Tc-HMDP 骨シンチグラフィの心筋集積の原因が前立腺癌と考えられた1例 . 日本冠疾患学会雑誌 2004 ; 10 ( 3 ) : 212-215 .
  - 15) 小林 剛<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 関田祥久, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 難治性咽頭潰瘍を伴った腸管ペーチェット病の1例 . Prog Dig Endosc 2004 ; 65 ( 2 ) : 94-95 .
  - 16) 石崎聡之<sup>1)</sup>, 高橋光平<sup>2)</sup>, 宮原祐徹<sup>2)</sup>, 内藤久士<sup>2)</sup>, 形本静夫<sup>2)</sup>, 佐野純子, 水野杏一, 青木純一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小山工業高等専門学校, <sup>2)</sup>順天堂大学スポーツ健康科学部運動生理学研究室): クレアチン摂取は高齢者における低強度の筋力トレーニング効果を高める . ( 財 ) 明治安田厚生事業団第20回健康医科学研究助成論文集 2005 ; 14-20 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 岡松健太郎, 水野杏一: 冠動脈血管内視鏡検査 . Clinical Engineering 2004 ; 15 ( 2 ) : 165-171 .
  - 2) 水野杏一: 動脈硬化症に対する画像診断の現況 . 動脈硬化症に対する画像診断の現況 2004 ; 4180 : 1-4 .



- 3) 水野杏一：血管内視鏡で何が分かるか．心臓 2004；36(6)：481-484．
  - 4) 水野杏一：画像による動脈硬化の評価はどこまで可能になったか．Future Forum Japan Journal 2004；No. 3：11-13．
  - 5) 酒井俊太，水野杏一：血管内視鏡による急性冠症候群責任病異変の観察．Ischemic Heart Disease (IHD) Frontier (医薬ジャーナル社) 2004；5(5)：61-65．
  - 6) 水野杏一：Vulnerable plaqueの診断と治療．Japanese Journal of Cardiovascular Catheter Therapeutics 2004；4(2)：164-173．
  - 7) 水野杏一：長時間作用型硝酸薬の現状．Therapeutic Research 2004；25(7)：1363-1383．
  - 8) 岡松健太郎，水野杏一：血管内視鏡による不安定プラークの診断．医学のあゆみ 2004；210(6)：571-577．
  - 9) 水野杏一：虚血性心疾患における血管内視鏡の進歩．Radiology Frontier 2004；7(3)：227-235．
  - 10) 水野杏一：血管内視鏡．臨床検査 2004；48(11)：1421-1427．
  - 11) 水野杏一：動脈硬化巣の臨床から診る形態学的解析 - 最近の知見．Athero-thrombosis 2004；7(3)：6-10．
  - 12) 日野光紀：肺癆に伴う呼吸器感染症の病態と治療．呼吸器科 2004；4(3)：191-199．
  - 13) 岸田輝幸：単純・X線/CT-これを見落としてはいけない：腹部単純X-Pの再認識．消化器の臨床 2004；7(3)：286-288．
  - 14) 水野杏一：血管内視鏡．カレントセラピー 2005；23(2)：70-74．
  - 15) 江本直也：糖尿病は誰が診る？：糖尿病病診連携構築における地域特異的問題と普遍的問題．日医大医会誌 2005；1(1)：6-11．
- (3) 症例報告：
- 1) 江本直也：糖尿病病診連携システム導入時の問題点．日本医師会雑誌 2005；133(4)：481-484．

## 著書

### (1) 綜説：

- 1) 水野杏一：急性冠症候群の診療に関するガイドライン(2002)．今日の治療指針，2005；pp1536-1541．
- 1) 水野杏一：〔自著〕第13章画像診断の進歩．心臓病：診断と治療の最前線(細田瑛一・篠山重威・北村惣一郎)，2004；pp284-288，先端医療技術研究所．
- 2) 水野杏一：〔自著〕血管内視鏡で何を診断できるか．1急性冠症候群の臨床(山口 徹)，2005；pp112-116，中山書店．
- 3) 水野杏一：〔自著〕急性冠症候群の概念とその病態．新・心臓病診療プラクティス 冠動脈疾患を診る(木村一雄・土師一夫)，2005；pp46-52，文光堂．
- 4) 日野光紀：〔共著〕びまん性汎細気管支炎/びまん性気管支拡張症．今日の治療指針2005年度版，2005；医学書院．

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 水野杏一：Vulnerable Plaque(不安定プラーク)の診断：特に画像を中心にして．第97回日本循環器学会九州地方会，2004．12．

### (2) シンポジウム：

- 1) 水野杏一：血管内視鏡．第15回日本新血管画像動態学会，2005．1．
- 2) 高野雅充，清宮康嗣，三船俊英，田近研一郎，稲見茂信，岡松健太郎，大場崇芳，川口直美，酒井俊太，野村敦宣，佐野純子，水野杏一：冠動脈内視鏡からみたプラークの安定化：一時的変化．第10回日本血管内治療学会，2004．6．

- 3) 清宮康嗣, 高野雅充, 酒井俊太, 田近研一郎, 稲見茂信, 岡松健太郎, 大場崇芳, 川口直美, 野村敦宣, 奥村敏, 佐野純子, 水野杏一: 冠動脈内視鏡からみたプラークの安定化: 経時的变化. 第18回日本心臓血管内視鏡学会, 2004. 10.
- 4) 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 川口直美, 野村敦宣, 酒井俊太, 奥村敏, 佐野純子, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 小谷一夫<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>日本医科大学千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>第一化学薬品(株): プラークの色調とMDA - LDLの関係についての検討. 第18回日本心臓血管内視鏡学会, 2004. 10.
- 5) 稲見茂信, 田近研一郎, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): アンジオテンシンII受容体拮抗薬(ARB)あるいはアンジオテンシン変換酵素阻害薬(ACE-I)は冠動脈プラークの崩壊を制御する: 血管内視鏡での検討. 第18回日本心臓血管内視鏡学会, 2004. 10.
- 6) 大場崇芳, 水野杏一, 酒井俊太, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): ステント留置後の亜急性冠閉塞部位を血管内視鏡で観察し得た1例. 第18回日本心臓血管内視鏡学会, 2004. 10.
- 7) 高野雅充, 清宮康嗣, 木股伸恒, 富田和憲, 村上大介, 田近研一郎, 稲見茂信, 大場崇芳, 横山真也<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): エバンスブルーを用いた生体染色による冠攣縮部の内皮障害の同定. 第18回日本心臓血管内視鏡学会, 2004. 10.
- 8) 大場崇敬, 水野杏一, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 軽中等度糖尿病患者におけるIVUSガイド下のステント療法の効果. 第18回日本心冠疾患学会, 2004. 12.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 高野雅充, 村上大介, 小川紅, 田近研一郎, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 大場崇芳, 川口直美, 野村敦宣, 酒井俊太, 佐野純子, 奥村敏, 水野杏一: 血管内視鏡による無症候性プラーク破綻の検出ならびに不安定プラークの経過の検討. 第18回日本心冠疾患学会, 2004. 12.
- (4) ランチョンセミナー:
- 1) 水野杏一: 不安定プラーク(Vulnerable plaque)はPCIで安定化をもたらされるか?. 第4回日本心血管カテーテル治療学会, 2004. 9.
- (5) プレナリーセッション:
- 1) Seino Y<sup>1)</sup>, Ogawa A<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Fukushima M<sup>1)</sup>, Ogawa K<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Takano T, Okamatsu K, Takano M, Sakai S, Mizuno K<sup>(1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室): Multi-biomarker Approach Stratifies Vulnerable Plaque with Sub-occlusive Thrombus, Minor Myocardial Damage, and Ischemic Insult in Patients with Acute Coronary Syndrome. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Tokyo), 2005. 3.
- (6) 一般講演:
- 1) Okumura S, Tomita K, Murakami D, Ogawa B, Tajika K, Tokuyama K, Inam S, Takano M, Seimiya K, Ohba T, Kawaguchi N, Nomura A, Mizuno K, Takano T<sup>1)</sup>, Tsunematsu T<sup>2)</sup>, Ishikawa Yoshihiro<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第1, <sup>2)</sup>横浜市立大学付属病院生理機能): Effects of Chronic Beta-Adrenergic Receptor Stimulation in Type 5 Adenylyl Cyclase-Null Mice. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Tokyo), 2005. 3.
- 2) Okamatsu K, Inami S, Seimiya K, Yokoyama S, Ohba T, Sakai S, Shinada T, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): When Plaque Disruption Does Lead to an Acute Coronary. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Tokyo), 2005. 3.
- 3) 田村秀人<sup>1)</sup>, 横瀬紀夫, 中村恭子<sup>1)</sup>, 塩井由美子<sup>1)</sup>, 橋美紀子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup>, 檀和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内

- 科学第3): 急性骨髄性白血病 (AML) 細胞における補助刺激分子 B7-2 と B7-H2 (ICOS ligand) の発現と臨床意義. 第101回日本内科学会講演会, 2004. 4.
- 4) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup>日本医科大学内科学第4): 日常診療に於ける慢性閉塞性肺疾患患者の physical status 把握に有用な指標の検討. 第44回呼吸器学会総会, 2004. 4.
- 5) 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup>付属病院第4内科): 体重減少からみた慢性閉塞性肺疾患患者の physical status の検討. 第44回呼吸器学会総会, 2004. 4.
- 6) 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科学第4): 進行非小細胞肺癌未治療例に対する CBDCA+PTX+UFT 併用療法の Phase 1, 2 study. 第44回呼吸器学会総会, 2004. 4.
- 7) 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科学第4): IRESSA® (Gefitinib) 投与時の DLST 検査と各種副作用との関連について. 第44回呼吸器学会総会, 2004. 4.
- 8) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 永田和弘<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 京野昭二<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科, <sup>3)</sup>外科学第1): *H. Pylori* 感染がもたらす大腸癌の危険性. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 9) 大場崇敬, 水野杏一, 酒井俊太, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): スtent留置後の亜急性冠閉塞部位を血管内視鏡で観察し得た1例. 第10回日本血管内治療学会, 2004. 6.
- 10) 小林 剛<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 関田祥久, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 難治性咽頭潰瘍を伴った腸管ペーチェット病の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 6.
- 11) 小俣雅稔, 木田厚瑞<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): COPDにおける気道可逆性試験とQOLの関連性に関する研究. COPD研究会, 2004. 7.
- 12) 山田 隆<sup>1)</sup>, 山口博樹<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>1)</sup>, 田野崎栄<sup>1)</sup>, 横瀬紀夫, 田近賢二<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup>, 猪口孝一<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 当科における真性多血症の臨床検討. 第66回日本血液学会・第46回日本臨床血液学会合同総会, 2004. 8.
- 13) 葛 伸一<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 小斉平聖治<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科学第4, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 多発結節影を呈し胸腔鏡下生検にて診断した肺 MALT lymphoma の1例. 第161回日本呼吸器学会関東地方会, 2004. 9.
- 14) 小斉平聖治<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター): 嚢胞性脳転移病巣を呈し, 組織診断に苦慮した肺癌の1例. 第17回東葛肺癌研究会, 2004. 9.
- 15) 富田和憲, 酒井俊太, 小林信明, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 川口直美, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一: 経皮の心室中隔焼灼術 (PTSMA) 施行後3ヶ月に心室細動を発症した閉塞性肥大型心筋症の1例. 第193回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 9.
- 16) 永田和弘<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 佐藤 順<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 山門 進<sup>1)</sup>,

- 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 急性GVHD腸炎に対する大腸内視鏡検査所見の検討. 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 2004. 10.
- 17) 木股伸恒, 大場崇芳, 酒井俊太, 山本真功, 富田和憲, 村上大介, 稲見茂信, 田近研一郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 水野杏一: 血管内視鏡を用いたCTO病変治療の1例. 第25回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2004. 10.
- 18) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup>日本医科大学内科学第4): 当施設に於けるドップラー心臓超音波を用いた肺高血圧, 及び肺性心の評価の検討. 臨床超音波研究集会, 2004. 11.
- 19) 大岩健満<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 蔵原美鈴<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 平松久弥子<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 茂木 孝<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 功刀しのぶ<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>病理学第1): びまん性嚢胞性変化を呈したmulticentric Castleman disease (MCD)の1例. 第162回日本呼吸器学会関東地方会, 2004. 11.
- 20) 豊川 優<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科学第4): 経過中に皮膚腺病を合併し治療に難渋した肺結核の1症例. 第162回日本呼吸器学会関東地方会, 2004. 11.
- 21) 富田和憲, 高野雅充, 酒井俊太, 村上大介, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 水野杏一: 冠動脈内からみたブラークの安定化. 日本医科大学医学会第114回例会, 2004. 11.
- 22) 大岩健満<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 蔵原美鈴<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 平松久弥子<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 茂木 孝<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 功刀しのぶ<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>病理学第1): びまん性嚢胞性変化を呈したmulticentric Castleman disease (MCD)の1例. 第146回日本結核病学会関東支部会, 2004. 11.
- 23) 豊川 優<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科学第4): 経過中に皮膚腺病を合併し治療に難渋した肺結核の1症例. 第146回日本結核病学会関東支部会, 2004. 11.
- 24) 関田祥久, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 山門 進<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 高濃度酸素療法が著効した多発性筋炎合併腸管気腫性嚢胞症の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 25) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 関田祥久, 岸田輝幸(<sup>1)</sup>内科学第3): 外傷性遅発性小腸狭窄に対し, ダブルバルーン式小腸内視鏡を用いて内視鏡的バルーン拡張術を施行し軽快した1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.
- 26) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 京野昭二<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌, 大腸腺腫と*Helicobacter pylori*感染との関係に対する検討. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 12.
- 27) 関田祥久, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 琴寄 誠, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉澤雅史, 山門 進<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): C型肝炎ウイルスと大腸腫瘍の関連性についての検討. 第46回日本消化器病学会大会, 2004. 12.
- 28) 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 佐藤 順<sup>1)</sup>, 山門 進<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 生理学的, 血液学的検討による内視鏡的経肛門腸管減圧術(CRBD)の有効性の評価. 第46回日本消化器

病学会大会，2004．12．

- 29) 酒井俊太，稲見茂信，木股仲恒，富田和憲，田近研一郎，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，川口直美，野村敦宣，奥村 敏，佐野純子，水野杏一：血管内視鏡によりDistal protection device下に冠動脈インターベンションを行った亜急性心筋梗塞の1例．第194回日本循環器学会関東甲信越地方会，2004．12．
- 30) 田近研一郎，小川 紅，村上大介，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，川口直美，野村敦宣，佐野純子，奥村 敏，水野杏一：冠動脈疾患における肥満と炎症性マーカー，インスリン抵抗性についての検討．第18回日本心冠疾患学会，2004．12．
- 31) 上鶴里央子<sup>1)</sup>，田中庸介<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，北村和広<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>内科学第4)：異なった経過を辿った肺癌消化管転移の二症例．第113肺癌学会地方会，2004．
- 32) 田近研一郎，富田和憲，村上大介，徳山権一，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，川口直美，野村敦宣，酒井俊太，奥村 敏，今泉孝敬<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室)：冠動脈内視鏡によるプラークの色調と血清MDA=LDLの関係についての検討．第15回日本心血管画像動態学会，2005．1．
- 33) 村上大介，富田和憲，小川 紅，田近研一郎，徳山権一，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，川口直美，野村敦宣，酒井俊太，奥村 敏，水野杏一：冠動脈内視鏡による無症候性プラーク破綻の経過観察．第15回日本新血管画像動態学会，2005．1．
- 34) 野村敦宣，川口直美，木股仲恒，菊池有史，富田和憲，小川 紅，村上大介，田近研一郎，徳山権一，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，奥村 敏，水野杏一：甲状腺機能更新症に関連して発生した徐脈頻脈症候群が甲状腺剤投与で改善した1例．第195回日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．2．

(7) Fire Side Session：

- 1) Takano M，Murakami D，Ogawa B，Tajika K，Okamoto K，Inami S，Seimiya K，Ohba T，Yokoyama S<sup>1)</sup>，Sakai S，Imaizumi T<sup>1)</sup>，Hata N<sup>1)</sup>，Kawaguchi N，Nomura A，Okumura S，Mizuno K (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室)：Angioscopic Follow-Up Study of Coronary Ruptured Plaques in Non-Culprit Lesions．The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Tokyo)，2005．3．
- 2) Sakai S，Okamoto K，Takagi K<sup>1)</sup>，Tokuyama K，Inami S，Seimiya K，Takano M，Ohba T，Yokoyama S<sup>2)</sup>，Kawaguchi N，Imaizumi T<sup>2)</sup>，Hata N<sup>2)</sup>，Mizuno K (<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>千葉北総病院集中治療室)：The Relation Between No-Reflow Phenomenon and Thrombus Characteristics in Patients with Acute Coronary Syndrome．The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Tokyo)，2005．3．

(8) ポスター：

- 1) 高野雅充：光干渉断層装置 (Optic Coherence Tomography)：OCTによる冠動脈プラークの組織診断．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 2) 目黒真喜子<sup>1)</sup>，三谷真実江<sup>1)</sup>，町田幸雄<sup>1)</sup>，水野杏一 (<sup>1)</sup>千葉北総病院医学検査部中央検査室生理機能センター)：Internet Explorerを用いた心電図・呼吸機能検査結果参照システムの導入．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 3) 木村裕子<sup>1)</sup>，野本剛史<sup>1)</sup>，水野杏一 (<sup>1)</sup>千葉北総病院医学検査部中央検査室生理機能センター)：当院の頸動脈超音波検査における異常所見の傾向分析：特に脈波伝播．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．

(9) 奨学賞受賞記念講演：

- 1) 高野雅充：無症候性冠動脈プラーク破綻の臨床的意義．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．

(10) 内科ビデオライブ：

- 1) 大場崇芳：我が国における薬剤溶出ステントの使用上の問題点，pitfall．第18回日本心冠疾患学会，2004．12．

## [ 千葉北総病院集中治療室 ]

### 研究概要

急性冠症候群（急性心筋梗塞，不安定狭心症），重症うっ血性心不全，肺血栓塞栓症，解離性大動脈瘤ならびに DIC，SIRS，ARDSなどの重症疾患の集中管理を行い，最新かつ安定した治療法の確立を目指し研究を重ねた．

#### (1) 人工補助装置

呼吸器，血液浄化法，IABP，PCPSなどの補助装置をフルに駆使している．必要に応じ他診療科との連携もスムーズに行える環境にあり，千葉県における循環器ならびに多臓器不全患者，血液浄化法に関する研究の拠点として活動している．

#### (2) 急性冠症候群

冠動脈内視鏡，血管内エコーを活用し，新しい治療戦略の確立と治療法の選択基準の確立に努めている．また，本疾患に関わるサイトカインについての研究にも着手し発表を積み重ねている．循環器関連の学会において急性冠症候群の治療戦略ならびに病態についての報告を数多く行った．

さらに本疾患の早期治療開始に不可欠な病院前遅延を短縮するためにドクターヘリを用いることの有用性について，内外の学会で発表した．

#### (3) 肺血栓塞栓症

画像診断部門，臨床検査部門の協力を得て，本症の急性期病態把握と最新かつ有効な治療法の確立を提唱できる全国でも筆頭の施設である．現在，本疾患に対する一時的ならびに永久下大静脈フィルター装着を含むカテーテル治療の有用性を検討し，日本集中治療学会などで提言を続けている．

#### (4) 急性大動脈解離

豊富な症例数をもとに発表を重ねている．特に合併症としての胸水貯留のメカニズムについて研究を続けている．動脈解離症例の長期予後についての検討を行っている．

#### (5) 院内外での ACLSならびに BLS 啓蒙活動

救急疾患の初期治療の基本である BLSならびに ACLS について，職員研修，千葉県医師会ならびに住民に対する講習会を開催し，救急患者への取り組みについて啓蒙を続けている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hata N, Matsumori A<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T, Shinada T, Yoshida H, Tokuyama K, Imaizumi T, Mizuno K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Hepatocyte Growth Factor and Cardiovascular Thrombosis in Patients Admitted to the Intensive Care Unit . Circulation J 2004 ; 68 ( 7 ): 645-649 .
- 2) Imaizumi T, Hata N, Kobayashi N, Yokoyama S, Shinada T, Tokuyama K, Ishikawa M, Shiiba K, Matsumoto H<sup>1)</sup>, Takuhiro K<sup>1)</sup>, Mashiko K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital ): Early Access to Patients with Life-threatening Cardiovascular Disease by an Air Ambulance Service . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 5 ): 352-356 .

(2) 綜説：

- 1) 小室一成<sup>1)</sup>, 清水光行<sup>2)</sup>, 畑 典武, 石橋 巖<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学,<sup>2)</sup>慈恵医大柏病院循環器内科,<sup>3)</sup>千葉県救急医療センター第一診療科): 急性心不全の新しい治療戦略(臓器保護という考え方). Medical Tribune南関東版 2005 ; 1-4 .

(3) 症例報告：

- 1) Kanazawa H, Hata N, Yamamoto E, Shinada T, Yokoyama S, Ohba T, Imaizumi T, Ohaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital): Recurrent Myocarditis of Unknown Etiology . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (4): 292-296 .
- 2) Tokita Y, Yokoyama S, Hata N, Takano M<sup>1)</sup>, Mifune T, Shinada T, Ohba T, Imaizumi T, Ishikawa N<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Department of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup>Department of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital): Acute Myocardial Infarction due to Simultaneous Occlusion of Two Main Coronary Arteries in a Patient with Advanced Gastric Cancer . Int J Angiol 2004 ; 13 (3): 127-130 .
- 3) 横山真也, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 中村純子, 松下洋子, 神谷仁孝, 畑 典武, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): PMX - DHP・CHDFが有効と考えられたARDS, DICを併発した重症急性膵炎の1例. Jpn J Crit Care Endotoxemia 2004 ; 8 (1): 124-128 .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 椎葉邦人: 診療所に準備しておきたい循環器薬とその使い方 高血圧治療. 第5回印旛循環器カンファランス, 2004. 10 .
- 2) 畑 典武: 心血管疾患における血液浄化療法. 第4回北総・常磐透析血管病変研究会, 2004. 11 .
- 3) 畑 典武: 心不全治療の実際(急性期から慢性期). 八日市場市匝瑳郡医師会学術講演会, 2004. 11 .
- 4) 畑 典武: 心不全の治療(急性期と慢性期). 野田市医師会学術講演会, 2005. 2 .

(2) 教育講演：

- 1) 横山真也: 血管内視鏡の定量化. 第2回心臓血管内視鏡講習会, 2004. 10 .

(3) シンポジウム：

- 1) 岡村健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): PercuSurge System による血栓吸引の効果. 冠動脈血栓とTIMI Frame Countsとの関係から. 第95回日本シネアンジオ研究会, 2004. 6 .
- 2) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 軽中等度糖尿病患者におけるIVUSガイド下のステント療法の効果. 第18回日本冠疾患学会学術集会, 2004. 12 .

(4) 一般講演：

- 1) Hata N, Yokoyama S, Imaizumi T, Shinada T, Tokuyama K, Ishikawa M, Shiiba K, Matsumori A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine): Hepatocyte Growth Factor and Cardiovascular Thrombosis in Patients Admitted to the Intensive Care Unit . European Society of Cardiology Congress 2004 ( Munich ), 2004 . 8 .
- 2) Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Ishikawa M, Shiiba K, Matsumoto H<sup>1)</sup>, Mashiko K<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Tokuyama K, Kobayashi N (<sup>1)</sup>Department of Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital): Air ambulance system in the treatment of acute coronary syndrome . Cardiovascular and Interventional Radiology 2004 ( Barcelona ), 2004 . 9 .

- 3) Takano M<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Ogawa B<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Sakai S<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Hata N, Kawaguchi N<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Okumura S<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital ): Angiographic Follow-Up Study of Coronary Riptured plaques in Non-Culprit Lesions . The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2005 . 3 .
- 4) Sakai S<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Kawaguchi N<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Okumura S<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital ): The Relation Between No-Reflow Phenomenon and Thrombus Characteristics in Patients with Acute Coronary Syndrome . The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2005 . 3 .
- 5) Okamatsu K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Shinada T, Imaizumi T, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): What Plaque Disruption Does Lead to an Acute Coronary Syndrome . The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2005 . 3 .
- 6) Shinada T, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Maruyama M<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Yashima M<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>First Derartment of Internal Medicine ): Inhibition of the reverse mode of Na<sup>+</sup>/Ca<sup>2+</sup> exchange by KB-R7943 augments arrhythmogenesis in the canine heart during rapid heart rates . The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2005 . 3 .
- 7) Ohara T<sup>1)</sup>, Yashima M<sup>1)</sup>, Li T<sup>1)</sup>, Shinada T, Maruyama M<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>First Derartment of Internal Medicine, Nippon Medical School ): The effects of catecholamine sensitive focal activity to the wavefront dynamics during ventricular fibrillation . The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2005 . 3 .
- 8) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 今泉孝敬, 畑 典武 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): スtent留置後の亜急性冠閉塞部位を血管内視鏡で観察し得た1例 . 第10回血管内治療学会 , 2004 . 6 .
- 9) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): Distal Protect Device の有用性 . 冠動脈血栓とTIMI Frame Countsとの関係から . 第44回六甲カルディアックセミナー , 2004 . 8 .
- 10) 白壁章宏, 横山真也, 今泉孝敬, 徳山権一, 石川昌弘, 椎葉邦人, 品田卓郎, 今城麻美, 荻野まり子, 中村俊一, 望月正孝, 井内亜美, 畑 典武 : PTA後の急性動脈閉塞による合併症を回避し得た1例 . 第18回千葉県重症患者管理研究会 , 2004 . 9 .
- 11) 富田和憲<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 徳山権一, 品田卓郎, 横山真也, 今泉孝敬, 畑 典武, 高山守正<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科学第1 ): 経皮的心室中隔焼灼術 ( PTMSA ) 施行後3ヶ月に心室細動を発症した閉塞性肥大型心筋症の1例 . 第193回日本循環器学会関東甲信越地方会 , 2004 . 9 .
- 12) 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 奥村敏<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 小谷一夫<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>第一化学薬品 ): プラークの色調とMDA - LDLの関係についての検討 . 第18回日本心臓血管内視鏡学会総会 , 2004 . 10 .
- 13) 稲見茂信<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): アンギオテンシンII受容体拮抗薬 ( ARB ) あるいはアンギオテンシン変換酵素阻害薬 ( ACE - I ) は冠動脈プラークの崩壊を抑制する . 血管内視鏡での検討 . 第18回日本心臓血管内視鏡学会総会 , 2004 . 10 .



- 14) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 今泉孝敬, 畑 典武<sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院内科)</sup>: スtent留置後の亜急性冠閉塞部位を血管内視鏡で観察し得た1例. 第18回日本心臓血管内視鏡学会総会, 2004. 10.
- 15) 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 木俣伸恒<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也, 畑 典武, 水野杏一<sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院内科)</sup>: エバンスブルーを用いた生体染色による冠攣縮部の内皮障害の同定. 第18回日本心臓血管内視鏡学会総会, 2004. 10.
- 16) 富田和憲<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 横山真也, 今泉孝敬, 畑 典武<sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院内科)</sup>: 経皮的心室中隔焼灼術 (PTMSA) 施行後3ヶ月に心室細動を発症した閉塞性肥大型心筋症の1例. 第25回循環器合同カンファランス, 2004. 10.
- 17) 田近研一郎<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮弘嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 奥村 敏<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 小谷一夫<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院内科)</sup>: 冠動脈内視鏡によるプラークの色調と血清 MDA - LDL の関係についての検討. 第15回日本心臓血管画像動態学会, 2005. 1.
- 18) 揖斐孝之, 松野邦彦, 横山真也, 鈴木雄一郎, 椎葉邦人, 石川昌弘, 品田卓郎, 今泉孝敬, 畑 典武, 山下裕正<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院胸部心臓血管呼吸器外科)</sup>: IE との鑑別を要した乳頭筋断裂合併 AMI の1例. 第195回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 2.
- 19) 横山真也, 鈴木浩臣, 北村由梨, 斉藤友香<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院泌尿器科)</sup>: IL - 6 が異常高値を示し, Toxic Shock Syndrome が疑われた1例. 第9回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2005. 2.

## [ 千葉北総病院リハビリテーション科 ]

### 研究概要

頭部外傷患者の認知機能障害に対し, 急性期から詳細な評価と急性期認知リハビリの内容, 効果を検討する. 頭部外傷の認知リハビリの有効な時期に関する報告は少なく, 特に急性期から認知リハビリが奏効すれば, 早期社会復帰に貢献できる. さらに長期経過した認知障害者への認知リハビリテーションの効果も検討する.

筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し, 麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって, さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの電気刺激を行った. 脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において, 手関節伸展, 手指伸展促通と物品把持移動からなる訓練を施行し, 訓練前後での手関節, 手指関節の可動域, 被験筋の root mean square (RMS), 巧緻性の変化を計測した. 手指関節可動域, 手根伸筋のRMS, 巧緻動作の改善が認められた. 筋電比例式電気刺激は, きめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり, 筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される.

アルツハイマー病患者において感覚入力刺激に対応する運動誘発電位にて cortico-cortical inhibition を検討する. 健常人では電気刺激・磁気刺激感覚が23~24msで60%程度の cortico-cortical inhibition が認められるが, アルツハイマー病患者では抑制は20%程度にとどまり, 重度であると抑制はほとんど認められなくなる. コリン作動薬の投与によってこの cortico-cortical inhibition の低下に改善が認められるか検討を行う.

脳の可塑性を検討する基礎的検討として, 124チャンネルの脳磁図を用いて手関節運動時の脳神経活動の局在, 運動準備電位との関連を検討する.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 綜説：

- 1) 原 行弘：リハビリテーション機器；エルゴメーター．総合リハビリテーション 2004；32：665-670．
- 2) 原 行弘：排便障害の治療．総合リハビリテーション 2005；33：121-126．
- 3) 原 行弘：脳卒中亜急性期の失禁．臨床リハビリテーション 2005；14：254-259．

#### (2) 症例報告：

- 1) 岡村陽子，原 行弘：発症後10年以上経過した慢性期患者への認知リハビリテーションの効果．高次脳機能研究 2005；25：17-25．

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Hara Y<sup>1)</sup>, Mimura Y<sup>2)</sup>, Tujiuchi K<sup>3)</sup>：Power assisted therapeutic electrical stimulation to improve hemiparetic hand function．Japanese-Korean Joint Conference on rehabilitation Medicine (Kyoto), 2004．4．
- 2) 原 行弘，三村聡男，辻内和人：Short latency afferent inhibition (SLAI) によるアルツハイマー病の評価．第41回日本リハビリテーション医学会学術集会，2004．6．
- 3) 有田元英<sup>1)</sup>，原 行弘<sup>(1)</sup> 有田内科リハビリテーション科クリニック)：筋電計を用いた脈波計測装置と評価表の外来患者への応用．第41回日本リハビリテーション医学会学術集会，2004．6．
- 4) 三村聡男，辻内和人，原 行弘：排便障害患者における筋電図バイオフィードバックを用いた機能訓練方法について．第41回日本リハビリテーション医学会学術集会，2004．6．
- 5) 松井伸子，三村聡男，原 行弘，小塚和豊：足部変形を呈した片麻痺例に対するdouble AFO療法．第20回日本義肢装具学会学術大会，2004．10．
- 6) 原 行弘，三村聡男，辻内和人：Short latency afferent inhibition (SLAI) によるアルツハイマー病の評価(第2報)．第34回日本臨床神経生理学会学術大会，2004．11．
- 7) 三村聡男，辻内和人，原 行弘：痙性上肢における装具を用いた手指手関節持続伸張の効果．第34回日本臨床神経生理学会学術大会，2004．11．
- 8) 三村聡男，辻内和人，原 行弘：脊髄炎後の便秘禁患者における筋電図バイオフィードバックを用いた排便リハビリテーション．第39回日本脊髄障害医学会，2004．11．
- 9) 泉川幸恵，三村聡男，原 行弘，小塚和豊：長期にわたる痙性片麻痺に対する痙縮減弱リハビリテーション．第10回千葉県理学療法士学会，2005．2．
- 10) 吉田真一，三村聡男，原 行弘，小塚和豊：脳卒中急性期における座位保持能力の意義．第10回千葉県理学療法士学会，2005．2．

## [ 千葉北総病院病理部 ]

### 研究概要

臨床各科の協力のもと、腫瘍性病変を中心とした各種疾患の臨床病理学的検討を実施継続中である。特に、乳腺腫瘍や脳腫瘍では、日常業務として実施してきた免疫染色や迅速診断から得られた所見の集積および解析より、新たな知見も得られてきており、その一部を報告した。今後さらに症例数の増加および対象の拡大を検討中である。

#### 1) 女性器腫瘍

女性診療科，放射線科の協力のもとに，子宮，卵巣などの女性生殖器に発生する腫瘍性疾患の形態学的，細胞生物学的特性につき，臨床的，画像診断学的所見を合わせ検索を進めている。従来からの子宮頸癌に対する子宮温存療法

に関する効果予知判定や治療に伴う形態学的変化について検討も継続中である。

#### 2) 消化管腫瘍

外科の協力により大腸癌，GISTなどの消化管腫瘍に関する臨床病理学的検討を進行中である。特に，GISTに関しては症例数の増加に加え，臨床病理学的所見の結果を解析中である。

#### 3) 乳腺腫瘍

外科の協力により乳癌治療薬 Herceptin の適応症例の選択に用いる検査法 Hercep Test を院内で継続実施中である。検索症例が蓄積されていく中，その染色性や染色様式の特異的な群を組織，細胞診断学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的に検討中であり，その中から得られた知見を論文としてまとめ報告した。

#### 4) 脳腫瘍

脳神経外科の協力により，脳腫瘍の術中迅速診断に際し作製してきた圧挫細胞診検体の集積および解析により，神経膠腫を中心とする腫瘍性病変の進展様式や範囲の理解に有用な多くの知見が得られ報告した。

5) アルツハイマー病を中心とする中枢神経変性疾患の病態および発症機構の解析を第二内科，第二病理などとの共同研究として進めている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kurosu K<sup>1)</sup>, Weiden MD<sup>1)</sup>, Takiguchi Y<sup>1)</sup>, Rom WN<sup>1)</sup>, Yumoto N, Jaishree J<sup>1)</sup>, Nakata K<sup>1)</sup>, Kasahara Y<sup>1)</sup>, Tanabe N<sup>1)</sup>, Tatsumi K<sup>1)</sup>, Mikata A<sup>1)</sup>, Kiriya T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Respiriology, Graduate School of Medicine, Chiba University ): bcl-6 mutations in pulmonary lymphoproliferative disorders : demonstration of an aberrant immunological reaction in HIV-related lymphoid interstitial pneumonia . J Immunol 2004 ; 172 ( 11 ): 7116-7122 .
- 2) Okada S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Inoue K<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>3)</sup>, Kato T<sup>4)</sup>, Kumazaki T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>3)</sup> Dept. of Radiology, Teikyo University Mizonokuchi Hospital , <sup>4)</sup> Dept. of Gynecology, Cancer Institute Hospital , <sup>5)</sup> Dept. of Radiology ): Calcifications in Mucinous and Serous Cystic Ovarian Tumors . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 1 ): 29-33 .
- 3) Uchikoba T<sup>1)</sup>, Horiuchi K<sup>1)</sup>, Oka F<sup>1)</sup>, Sato M<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology ): Diagnosing the Location of Carcinoma in situ ( CIS ) of the Urinary Bladder Using Pirarubicin Hydrochloride . Urologia Internationalis 2005 ; 74 ( 3 ): 235-239 .

#### (2) 症例報告：

- 1) Yokoi K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kyouno S<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Shirakawa T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Yamashita K<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>2)</sup> First Dept. of Surgery ): High Efficacy of Imatinib for Recurrent Gastrointestinal Stromal Tumor in the Jejunum : A Case Report . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 2 ): 114-119 .
- 2) Yoshino N<sup>1)</sup>, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Maruyama Y<sup>1)</sup>, Ogasawara H<sup>1)</sup>, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup> Dept. of Thoracic Surgery, Chiba Hokusoh Hospital ): Paraganglioma of the Posterior Mediastinum Diagnosed by Immunohistochemical Staining . The Japanese journal of Thoracic and Surgery 2004 ; 52 ( 4 ): 217-220 .
- 3) Tokita Y<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Mifune T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>3)</sup>, Tanaka N<sup>3)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup> Dept. of Intensive Care Unit, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Internal Medicine, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>3)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital ): Acute Myocardial Infarction due to Simultaneous Occlusion of Two Main Coronary Arteries in a Patient with Advanced Gastric

- Cancer : A Case Report . International Journal of Angiology 2004 ; 13 ( 3 ): 127-130 .
- 4) Kanazawa H<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup>Dept. of Intensive Care Unit, Chiba-Hokuso Hospital ): Reccurent Myocarditis of Unknown Etiology . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 4 ): 292-296 .
- 5) Goto Y<sup>1)</sup>, Ohaki Y , Ibaraki N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Ophthalmology, Chiba Hokusoh Hospital ): A Clinicopathologic Case Report of Inflammatory Pseudotumors Involving the Conjunctiva and Lung . Jpn J Ophthalmol 2004 ; 48 ( 6 ): 573-577 .
- 6) Mori O , Yamazaki M<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>2)</sup>, Komiyama T<sup>2)</sup>, Ohaki Y , Katayama Y<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Neurology , <sup>2)</sup>Dept. of Neurology, Hatsuishi Hospital , <sup>3)</sup>Second Dept. of Pathology ): A Pre-senile Case of Limbic Encephalitis and Cerebellar Degeneration, with Subacute Onset of Progressive Dementia . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ): 412-416 .

## 学会発表

### ( 1 ) 追加分一般講演 :

- 1) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinnji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Ishiwata T<sup>3)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup>First Dept. of Surgery , <sup>3)</sup>Second Dept. of Pathology ): Correlation between lumican expression and intestinal metaplasia in human Gastric cancer . 11th United European Gastroenterology Week ( Madrid ( Spain ) ), 2003 . 11 .
- 2) Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinnji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup>First Dept. of Surgery , <sup>3)</sup>Second Dept. of Pathology ): Expression of type IV collagen and matrix metalloproteinase-9( MMP-9 ) in gastric cancer . 11th United European Gastroenterology Week( Madrid ( Spain ) ), 2003 . 11 .
- 3) 上原隆志<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 楢戸律子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 大秋美治, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科学第4 ): 顕微鏡的多発性血管炎とChurg-Strauss症候群の呼吸器症状・合併症 . 第43回呼吸器学会総会, 2003 . 4 .
- 4) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 寺西宣央<sup>2)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2 ): 胃癌におけるMMP-9, IV型コラーゲンの発現 . 第103回日本外科学会総会, 2003 . 6 .
- 5) 高橋由至<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 大秋美治, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>外科学第1 ): 胃癌におけるルミカン発現の意義 . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 6) 岡田 進<sup>1)</sup>, 大秋美治, 井上幸平<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科 ): AFPの著明な高値を示した卵巣腫瘍の検討 . 第31回日本磁気共鳴医学会大会, 2003 . 9 .
- 7) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 寺西宣央<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 石渡俊之<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2 ): 早期大腸癌におけるLumicanの発現 . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 8) 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 石渡俊之<sup>3)</sup>, 大秋美治, 小泉岐博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2 ):

大腸癌肝転移症例における MMP-9 と Lumican の発現 . 第 62 回日本癌学会総会 , 2003 . 9 .

- 9) 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 大秋美治, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第 1 ): GIST22 例の臨床病理学的検討 . 第 45 回日本消化器病学会大会, 2003 . 10 .
  - 10) 上原隆志<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 大秋美治, 斉藤浩一<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 樋戸律子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科 ): 開胸肺生検を待機中に急速進行性糸球体腎炎を呈した PR3-ANCA 陰性の Wegener 肉芽腫症の 1 例 . 第 13 回千葉膠原病セミナー , 2003 . 10 .
  - 11) 内木場拓史<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 大秋美治, 西村泰司<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科, <sup>3)</sup> 付属病院泌尿器科 ): pirarubicin hydrochloride ( THP ) を用いた膀胱上皮内癌の局所診断法 . 17th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL , 2003 . 11 .
  - 12) 樋戸律子<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野靖<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科 ): 一時的に自然縮小を認めた肺扁平上皮癌疑いの 1 例 . 第 16 回東葛肺癌研究会 , 2004 . 1 .
  - 13) 小倉順子<sup>1)</sup>, 岡田進<sup>1)</sup>, 井上幸平<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>1)</sup>, 大秋美治, 川俣博志<sup>1)</sup>, 河村堯<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 同女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科 ): 悪性腫瘍を伴った類皮嚢胞の検討 . 第 29 回千葉 MR 研究会 , 2004 . 2 .
  - 14) 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 中川道子<sup>1)</sup>, 馬場直美<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 小木三郎<sup>1)</sup>, 五十嵐健治<sup>1)</sup>, 若月雅美<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 河村堯<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院女性診療科・産科 ): 外陰部「 Mammary-like gland carcinoma 」 . 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成 15 年度冬期学術講演会 , 2004 . 2 .
  - 15) 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 印出佑介<sup>1)</sup>, 小木三郎<sup>1)</sup>, 五十嵐健治<sup>1)</sup>, 若月雅美<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 河村堯<sup>1)</sup>, 新井悟, 森修, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院女性診療科・産科 ): 診断が困難であった卵管癌の 1 例について . 日本医科大学医学会第 112 回例会 , 2004 . 2 .
  - 16) 瀧美健一郎<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 樋戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野靖<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院呼吸器センター ): 多発結節影を呈し胸腔鏡下生検にて診断した肺 MALT Lymphoma の 1 例 . 日本医科大学医学会第 112 回例会 , 2004 . 2 .
  - 17) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第 1 ): ダグラス窩膿瘍を形成した S 状結腸癌の 1 例 . 第 40 回日本腹部救急医学会総会 , 2004 . 3 .
  - 18) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 工藤善徳<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>2)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第 1 ): 肺癌小腸転移穿孔による汎発性腹膜炎の 1 例 . 第 40 回日本腹部救急医学会総会 , 2004 . 3 .
- ( 2 ) 教育講演 :
- 1) 清水秀樹, 森修 : 細胞検査士のための脳腫瘍細胞診 . 第 7 回千葉県北西部病理細胞診研究会 , 2004 . 10 .
  - 2) 清水秀樹, 森修 : 浸潤性星細胞腫における画像と細胞診 . 第 4 回千葉県東葛地区細胞診研究会 , 2004 . 10 .
- ( 3 ) シンポジウム :
- 1) 清水秀樹, 森修, 小黒辰夫, 大秋美治, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第 2, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 浸潤性星細胞腫の細胞像 : びまん性浸潤部を中心に . 第 45 回日本臨床細胞学会 , 2004 . 7 .
- ( 4 ) ワークショップ :
- 1) 清水秀樹, 森修, 大秋美治, 小黒辰夫, 小林士郎<sup>1)</sup>, 岡田進<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同放射線科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 術中迅速診断における浸潤性星細胞腫の画像と細胞診 . 第 43 回日本臨床細胞学会秋期大会 , 2004 . 11 .

(5) 一般講演 :

- 1) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>2)</sup>, Yamashita K<sup>2)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shirakawa T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> First Dept. of Sugery ): Expression of Emmprin, matrix metalloproteinase-9 and type IV collagen in colorectal cancer with/without liver metastasis . 12th United European Gastroenterology Week ( Prague. Czech Republic ), 2004 . 9 .
- 2) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>2)</sup>, Sato S<sup>2)</sup>, Inoue K<sup>2)</sup>, Egawa S<sup>1)</sup>, Oguro T , Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Dept. of Central Institute for Electron Microscopic Researches ): Ultrastructural study of human chromosomes by transmission electron microscopy . 第36回日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2004 . 11 .
- 3) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 石渡俊之<sup>3)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup> 外科学第1 , <sup>3)</sup> 病理学第2 ): ヒト胃癌におけるルミカンの発現と腸上皮化生 . 第104回日本外科学会定期学術集会 , 2004 . 4 .
- 4) 井上幸平<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 大秋美治, 隈崎達夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科 , <sup>2)</sup> 同外科 , <sup>3)</sup> 付属病院放射線科 ): 横隔膜を下方に圧排し, 腹部を中心に存在した solitary fibrous tumor の1例 . 第425回日本医学放射線学会関東地方会 , 2004 . 6 .
- 5) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊之<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 大秋美治, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>3)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup> 病理学第2 , <sup>3)</sup> 外科学第1 ): 大腸癌肝転移症例における EMMPRIN , MMP-9 , IV型コラーゲンの発現 . 第63回日本癌学会学術総会 , 2004 . 9 .
- 6) 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 大秋美治, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 腋窩リンパ節転移にて発症, 経過観察中に原発巣が明らかとなった乳腺アポクリン癌の1例 . 第66回日本臨床外科学会総会 , 2004 . 10 .
- 7) 三枝順子, 小黒辰夫, 大秋美治, 森 修, 新井 悟, 赤坂久美, 京野昭二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 ): Hercep Test において特異な染色様式を示す原発性乳癌の組織学的, 免疫組織学的, 電顕的検討 . 第36回 日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2004 . 11 .
- 8) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup> 外科学第1 , <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 大腸癌肝転移症例における EMMPRIN , MMP-9 , IV型コラーゲンの発現 . 第59回日本大腸肛門病学会総会 , 2004 . 11 .
- 9) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高橋秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 大秋美治, 内藤善哉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討 . 第59回日本大腸肛門病学会総会 , 2004 . 11 .
- 10) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 吐血によって発症した胃GISTの2例 . 第41回日本腹部救急医学会総会 , 2005 . 3 .

## [ 千葉北総病院中央検査室 ]

### 研究概要

今年度は重要課題である病院機能評価の受審計画に伴ない、学術研究面と臨床支援体制のさらなる充実と共に環境整備や管理体制の見直し等、広範囲に渡り活発な活動が行なわれた。

今年度の主な概要は次の通りである。臨床化学分野では全自動分析器による尿中物質の分析、高感度CRPの症例別適応性の検索、臨床血液学分野ではAPTT試薬に関する臨床的検討、自動化に伴うFDP値のプロゾーン現象の解析、臨床免疫学分野では遺伝子解析に関する現状と期待について、臨床微生物分野では院内検出菌におけるプロファイル化の試み、細菌感染時におけるプロカルシトニンの測定について、臨床生理学分野では心電図・呼吸器検査結果の参照システムの構築と利用、頸動脈超音波検査における異常所見の傾向分析、超音波検査士を5名が認定取得、輸血学分野では抗Fyb抗体の検出、認定輸血検査技師を1名が追加取得、救急医学分野では心筋マーカー（トロポニンT）による腎臓機能への関連性、血液製剤の（1 3）-D-glucanへの影響、乱用薬物の動向、管理面ではDPC対応とFMS方式の利用、空港クリニックにおける検査内容の充実、個人情報保護法案に基づく対応を模索、ISO15189（臨床検査室の質と適合能力に対する特定要求事項）を機軸とした検査室品質マネジメントシステムの試みの他、院内清浄度チェックによる継続的活動等、継続課題を含め今年度も幅広い領域において活発な活動が行なわれた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>2)</sup>, 野本剛史, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部, <sup>2)</sup> 救急医学): 心筋マ - カ - (心筋トロポニンT, ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白) と腎機能の関連性について. 日本集中治療医学会雑誌 2004 ; 11 (3): 185-191 .

##### (2) 研究報告書：

- 1) Mochizuki T<sup>1)</sup>, Okamoto N, Yagishita T, Takuhiro K<sup>1)</sup>, Mashiko K<sup>1)</sup>, Ogawa F<sup>1)</sup>, Tosaka N<sup>1)</sup>, Kurokawa A<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 救急医学): Analysis of Antimicrobial Resistance for Staphylococcus aureus Strains by Whonet 5 : Microbiology Laboratory Database Software . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 (5): pp345-351 .
- 2) 鳴海武長<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 野本剛史(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部): 血液製剤による血中(1 3)-D-glucanへの影響. 医学検査 2005 ; 54 (3): pp202-207 .

#### 著書

- 1) 野本剛史：〔分担〕オピエ - ト . 血液・尿化学検査・免疫学的検査：その数値をどう読むか，2004；pp469-471，日本臨床社．
- 2) 町田幸雄：〔共著〕検体検査を中心とした検査室における個人情報保護ガイドライン．日臨技ガイドライン策定委員会 Ver 1.01，2005；（社）日本臨床衛生検査技師会．
- 3) 町田幸雄：〔共著〕検査室における個人情報保護管理システム＜手引書＞．日臨技ガイドライン策定委員会，2005；（社）日本臨床衛生検査技師会．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 日ノ澤進一郎<sup>1)</sup>, 福田節子<sup>1)</sup>, 野本剛史, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部): 汎用CRP測定試薬による高感

度CRP測定適応の可能性．第53回日本医学検査学会，2004．5．

(2) 一般講演：

- 1) 石渡統夫，稲川美実，飯野幸永<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部)：抗Fyb抗体についての検討(第一報)．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 2) 柴田泰史<sup>1)</sup>，野本剛史，久志本成樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部，<sup>2)</sup> 救急医学)：細菌感染症におけるプロカルシトニン測定の意義．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 3) 影山憲貴<sup>1)</sup>，高木 豊<sup>1)</sup>，野本剛史，里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部)：Coagrex800によるFDP測定試薬を用いたプロゾ-ンチェックの検討．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 4) 鳴海武長<sup>1)</sup>，野本剛史，里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部)：血液製剤の(1 3)-D-glucanへの影響．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 5) 三橋 太<sup>1)</sup>，小林紘士<sup>1)</sup>，石野三智男<sup>1)</sup>，中村祐三<sup>1)</sup>，野本剛史(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部)：全自動尿分析装置US-3100Rの評価．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 6) 中村祐三<sup>1)</sup>，野本剛史，里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部)：診療報酬改定に伴うDPCへの対応とFMS運営改善効果について．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 7) 野本剛史，中村祐三<sup>1)</sup>，橋本政子<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部)：遺伝子解析による現状と今後への期待．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 8) 高木 豊<sup>1)</sup>，影山憲貴<sup>1)</sup>，野本剛史，里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部)：合成リン脂質とウサギ脳由来リン脂質を用いたAPTT測定試薬による凝固過程の反応プロファイルの検討．第53回日本医学検査学会，2004．5．
- 9) 岡本直人，大崎恵理子，柳下照子，野本剛史：WHONETによる院内検出菌プロファイルの試み．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 10) 目黒真喜子，三谷真実江，町田幸雄，亀山雅弥，野本剛史，水野杏一：Internet Explorerを用いた心電図・呼吸機能検査結果参照システムの導入．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 11) 木村裕子，野本剛史，水野杏一：当院の頸動脈超音波検査における異常所見の傾向分析：特に脈波伝播速度検査所見との関連を含めて．第72回日本医科大学医学会総会，2004．9．
- 12) 町田幸雄：ISO 15189を軸とした検査室品質マネジメントシステムについて．東京都臨床衛生検査技師会 公衆衛生・情報処理研究班合同学会，2005．1．

## [ 千葉北総病院薬剤科 ]

### 研究概要

調剤室内の浮遊粉塵量に関する研究を行った．

### 研究業績

#### 論文

(1) 綜説：

- 1) 浜田康次：パーキンソン病治療薬(ピ・シフロール錠)：届かなかったノーベル賞．レシピ 2004；3(2)：59-61．
- 2) 浜田康次：S. T. E. P. S. (ステップス)．日本病院薬剤師会雑誌 2004；40(6)：696-696．
- 3) 浜田康次：経口糖尿病薬(グルファスト錠)：薬の運命も万事塞翁が馬．レシピ 2004；3(3)：61-63．
- 4) 浜田康次：骨粗鬆症治療薬(エピスタ錠)：ウナギの肝から骨の薬．レシピ 2004；3(4)：59-61．
- 5) 浜田康次：NR．スコレ 2004；2-2．
- 6) 浜田康次：アドボカシー(advocacy)．日本病院薬剤師会雑誌 2004；40(12)：1567-1567．



- 7) 浜田康次：薬業分業．MIL 2004；17：10-10．
- 8) 浜田康次：デザイナーズフーズ．スコレ 2004；2-2．
- 9) 浜田康次：眼科用抗菌薬（ガチフロ点眼液）：クレオパトラのアイシャドー．レシピ 2005；4（1）：55-57．
- 10) 浜田康次：SERM（サーム）．日本病院薬剤師会雑誌 2005；41（2）：207-207．
- 11) 浜田康次：24時間体制．MIL 2005；17：15-15．
- 12) 浜田康次：TLO．スコレ 2005；2-2．

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 大野雅美：注射薬調剤．千葉県病院薬剤師会 基礎実務研修会，2004．9．

### (2) 一般講演：

- 1) 伊藤義樹，片岡博邦，吉澤雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：IFN投与により一度陰性化した患者が陽性化した症例．第34回関東ブロック学術大会，2004．8．
- 2) 小峰千鶴<sup>1)</sup>，伊藤義樹，中山 健，実川東洋，相良由里子(<sup>1)</sup>船橋二和病院)：医薬品の客観的評価の取り組みⅣ．第34回関東ブロック学術大会，2004．8．
- 3) 大野雅美，稲本正之，中山 健，片岡博邦：注射オーダリングシステムを利用したリスク対策及び薬品管理．第34回関東ブロック学術大会，2004．8．
- 4) 森本恵子<sup>1)</sup>，小林大介<sup>1)</sup>，森本擁憲<sup>1)</sup>，若松修也<sup>2)</sup>，浜田康次，吉澤一己，片岡博邦(<sup>1)</sup>城西大学，<sup>2)</sup>ツインライフ)：調剤室内浮遊粉塵量に及ぼす散剤調剤頻度および集塵機の影響．日本薬学会第125年会，2005．3．
- 5) 大江洋一<sup>1)</sup>，加賀谷肇<sup>1)</sup>，望月眞弓<sup>2)</sup>，吉岡ゆう子<sup>3)</sup>，増原慶壮<sup>4)</sup>，中島 守<sup>5)</sup>，浜田康次(<sup>1)</sup>横浜市南部病院，<sup>2)</sup>北里大学薬学部，<sup>3)</sup>ネオフィスト研究所，<sup>4)</sup>聖マリアンナ大学病院，<sup>5)</sup>エーザイ(株))：21世紀の病院薬剤師業務の新たな展開に向けて(第4報)「医療の質と薬剤師に関する学術講演会」による卒後教育を開催して．日本薬学会第125年会，2005．3．
- 6) 伊藤義樹，片岡博邦：炎症性腸疾患患者に対する薬剤管理指導業務の取り組み．日本薬学会第125年会，2005．3．

## [ 千葉北総病院中央画像検査室 ]

### 研究概要

中央画像検査室では，診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから，それぞれの画像検査についての研究を進めている．

一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている．

透視撮影部門では，上部消化管造影法や心因性嚥下障害の診断技術について各診療科との連携を行っている．

MRI検査部門では，基礎臨床における研究を継続して行っている．今年度は基礎検討としてフィルター処理による頭部血管画像の画質の向上化，血液通過時間と各種撮像パラメータがMRI及ぼす影響についての報告が行われた．臨床面では新しい撮像法における脳腫瘍の造影効果に関して，また内耳の高分解能撮影法など多岐にわたる研究を進めている．

RI検査部門では，SPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて，脳神経系についても行っている．

放射線治療部門では，放射線治療計画におけるウエッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている．

CT 検査部門では3D-CT の信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 渡辺典男：股関節と肩関節単純撮影の実際 臨床技術講座．日本放射線技術学会，2004．4．
- 2) 丸山智之：基本的な撮影技術の考え方 応用技術講座．日本放射線技術学会，2004．4．
- 3) 松丸和弘：MDCT の基礎と検査内容 MDCT のより良い利用法．日本放射線技術学会 東京部会秋季学会，2004．10．
- 4) 菊地一郎：CT における脳血管障害としてCT 検査が果たす役割．FS (フォーシーズンズ) フォーラム，2004．11．

#### (2) シンポジウム：

- 1) 松丸和弘：MDCT 画像作成技術．MDCT 技術シンポジウム，2004．9．

#### (3) ワークショップ：

- 1) 丸山智之：一般撮影に於ける安全管理，放射線技術部門の安全管理の現状と対策．日本放射線技術学会，2004．4．

#### (4) 一般講演：

- 1) 中村亜矢，加藤丈司，富里謙一，阿部雅志，仲田佳宏，渡辺典男，川村義彦：フィルター処理による画像の変化：頭部血管における検討．日本放射線技術学会，2004．4．
- 2) 加藤丈司，富里謙一，中村亜矢，阿部雅志，仲田佳宏，渡辺典男，川村義彦：T<sup>1</sup>強調型FLAIR法における脳腫瘍の造影効果に関する検討．日本放射線技術学会，2004．4．
- 3) 丸山智之，渡辺典男，高岡慎市，田村 京，三輪宗史，川村義彦，岡田 進：ノイズ抑制処理を用いたCR 画像の検討．日本放射線技術学会，2004．4．
- 4) 河原崎昇，菅沼一男，高岡慎市，田村 京，仲田佳広，川村義彦：楔フィルタ使用時における非対称照射野での出力係数の測定．日本放射線技術学会，2004．4．
- 5) 仲田佳宏，加藤丈司，富里謙一，中村亜矢，阿部雅志，渡辺典男，川村義彦：3D-Fast Recovery Fast Spin echo 法と3D-Fast Spin echo 法との比較検討．日本放射線技術学会東京部会春季大会，2004．5．
- 6) 中野 徹，松丸和弘，菊地一郎，三輪宗史，川村義彦：4列MD-CTを用いた心電同期再構成における最適スキャンタイムの検討．日本放射線技術学会，2004．5．
- 7) 丸山智之，渡辺典男，高岡慎市，三輪宗史，川村義彦，岡田 進：信号の周波数帯域におけるノイズ抑制処理の検討．日本放射線技術学会，2004．10．
- 8) 結城聖子，加藤丈司，仲田佳宏，阿部雅志，中村亜矢，富里謙一，渡辺典男，川村義彦：T<sup>1</sup>強調型FLAIR法における頭部画像コントラスト．千葉MR研究会，2005．2．
- 9) 加藤丈司，結城聖子，仲田佳宏，阿部雅志，中村亜矢，富里謙一，渡辺典男，川村義彦：Magnetization Transfer Contrast 併用時における血液通過時間と最適Flip Angleについて．千葉MR研究会，2005．2．

## [ 千葉北総病院歯科 ]

### 研究概要

当歯科では、歯科治療における歯周治療への応用として、炭酸ガスレーザー、Nd-YGAレーザー、半導体レーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究や臨床の効果についての研究を行っている。

歯周組織再生療法の応用では、各種移植材を用いた検討およびヒト初期胎盤由来因子やヒト骨髄由来因子の成長因子を用いた再生療法についての研究。

歯周病原細菌に対する各種抗菌剤の効果についての研究。

交通外傷におけるインプラント治療への長期応用についての研究。

有病者や身体障害者における口腔衛生管理に対する研究などを行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 久野彰子<sup>1)</sup>、佐藤 聡<sup>1)</sup>、鴨井久博、高柳和明<sup>1)</sup>、伊藤明代<sup>2)</sup>、伊藤太一<sup>2)</sup>、渋川義宏<sup>2)</sup>、山田 了<sup>2)</sup>、鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座、<sup>2)</sup>東京歯科大学歯科保存学第2講座): アスコルビン酸ナトリウム配合歯磨剤の歯周炎に対する臨床効果。日本歯周病学会誌 2004 ; 46 ( 2 ) : 137-142 .
- 2) 小川智久<sup>1)</sup>、鴨井久博、浅木信安<sup>1)</sup>、浅木英理<sup>1)</sup>、澤田麻子<sup>1)</sup>、上牧左右子<sup>2)</sup>、吉田康弘<sup>3)</sup>、鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座、<sup>2)</sup>ウェルテック株式会社、<sup>3)</sup>ピアス株式会社): OIM加水分解コンキオリン配合歯磨剤の歯肉修復効果について。日本歯科人間ドック学会誌 2004 ; 4 ( 1 ) : 19-23 .
- 3) 吉田昌弘<sup>1)</sup>、鴨井久博、佐藤 聡<sup>1)</sup>、鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): イヌ露出歯根面の被覆法における血小板由来因子の応用。日本歯周病学会誌 2004 ; 46 ( 4 ) : 294-305 .

#### 著書

- 1) 鴨井久博：〔自著〕歯肉 歯槽粘膜形成術から歯周形成外科への推移とその考え方。ザ・クインテッセンス、2004 ; pp157-163, クインテッセンス出版。
- 2) 鴨井久博：〔翻訳〕歯肉の遺伝性出血性毛細血管拡張に対する新しいレーザー治療：症例報告。Int. J. Periodont. Rest. Dent. Japan, 2004 ; pp84-89, クインテッセンス出版。
- 3) 鴨井久博：〔翻訳〕歯槽堤欠損の予防および解剖学的形態の再建：外科的アプローチの総括。Int. J. Periodont. Rest. Dent. Japan, 2004 ; pp30-39, クインテッセンス出版。

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 小川智久<sup>1)</sup>、鴨井久博、久野彰子<sup>1)</sup>、佐藤悦子<sup>1)</sup>、新井貴子<sup>1)</sup>、鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): ポピドンヨード含嗽が口腔内細菌におよぼす影響。第47回春季日本歯周病学会学術大会, 2004 . 4 .
- 2) 佐藤悦子<sup>1)</sup>、鴨井久博、本山聖子<sup>1)</sup>、遊佐純子<sup>1)</sup>、鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 歯周組織由来培養細胞のNd-YAGレーザー照射の効果について。第47回春季日本歯周病学会学術大会, 2004 . 4 .
- 3) 榎本慶子<sup>1)</sup>、鴨井久博、佐藤 聡<sup>1)</sup>、鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 高出力半導体レーザーが歯周ポケットにおよぼす影響。第47回春季日本歯周病学会学術大会, 2004 . 4 .
- 4) 佐藤 聡<sup>1)</sup>、榎本慶子<sup>1)</sup>、鴨井久博、酒井信夫<sup>2)</sup>、鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座、<sup>2)</sup>同小児・矯正科): 成人矯正(慢性辺縁性歯周炎患者)に対する歯周治療への対応。日本歯科保存学会2004年度春季学会, 2004 . 6 .

- 5) 鴨井久博, 榎本慶子<sup>1)</sup>, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 小川智久<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 口腔軟組織, 硬組織に対する高出力半導体レーザーの評価. 日本歯科保存学会 2004 年度春季学会, 2004. 6.
- 6) 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 石川 博<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学解剖学講座第2): ヒト初期胎盤由来因子/アテロコラーゲン複合体の歯周組織再生に及ぼす影響. 第47回秋季歯周病学会学術大会, 2004. 10.
- 7) 和崎佳子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 再生療法を応用した歯周治療. 第47回秋季歯周病学会学術大会, 2004. 10.
- 8) 佐藤悦子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 本山聖子<sup>1)</sup>, 那須優則<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup>同共同利用研究センター): ヒト歯周組織由来培養細胞に対する半導体レーザー照射の効果について. 日本歯科保存学会 2004 年度秋季学会, 2004. 11.

## [ 千葉北総病院看護部 ]

### 研究概要

本年度の院内での研究発表(2005年2月19日)は, 14演題であった. 内容的には, 各専門領域の臨床での疑問を解決するための試みを研究のテーマとしていた.

<テーマ>

- 1) 当院における分娩期の産痛緩和とリラクゼーション導入の検討
- 2) 産褥早期に乳房ケア外来を訪れた褥婦のニーズとその支援
- 3) プリパレーションを活用した危険行動回避のための検討
- 4) 緩和医療におけるチーム医療についての現状とあり方
- 5) 緩和ケアに関する知識・意識の現状調査と結果と現状分析をもとに実施した学習会の評価
- 6) 社会復帰が遅延している脊髄損傷患者への介入
- 7) 交通事故により救命救急センターへ緊急入院した患者の入院初期における言動の変化
- 8) 心疾患患者の再入院となる要因とそれに関連したライフスタイルの変化との関係
- 9) 低流量酸素療法における非加湿を試みて
- 10) silent aspiration による肺炎を予防するための試み
- 11) アブノモニター装置方法の改善を試みて
- 12) 胃癌手術患者における術後合併症発生の術前リスク評価
- 13) パークベンチポジションにおける耐圧分散
- 14) 絶対安静におけるウレタンを用いた腰背部痛緩和へのアプローチ

院外での研究発表は, 9件行なった.

### 研究業績

#### 論文

(1) 研究報告書:

- 1) 植草 恵: 幼児の脳波検査前処置におけるアロマテラピーを用いた睡眠導入の有効性. 日本看護学会論文集: 小児看護 2005; pp119-121.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 高松久恵, 山口千加, 半田幸恵, 深海智子, 豊田紋子, 根本広子, 有泉楽子: silent aspiration による肺炎を予防するための試み. 第13回意識障害学会, 2004. 7.
- 2) 増淵美恵子: 自由診療における看護ケア価格の検討: 産褥期乳房ケア外来におけるケアの内容と価格の選好調査. 第8回日本看護管理学会, 2004. 8.
- 3) 増子美樹, 菅原光子, 秋元正宇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 非侵襲的陽圧換気療法のマスクの長期装着により鼻部に皮膚潰瘍を生じた症例. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 4) 柏村めぐみ, 菅原光子, 秋元正宇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 下肢ギブスシーネ固定における踵部の褥瘡発生率. 第6回日本褥瘡学会, 2004. 9.
- 5) 植草 恵: 幼児の脳波前処置におけるアロマテラピーを用いた睡眠導入の有効性. 第35回日本看護学会, 2004. 9.
- 6) 橋本美奈子, 二俣美鶴, 大森章代, 後藤誠子: ドクターヘリにおける効率的な情報収集について: ドクターヘリ患者搬送表を改善して. 第11回日本航空医療学会, 2004. 11.
- 7) 篠田朋美, 岡沢有希子, 加藤美和子, 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科): SCUを併設する脳神経センターにおける専門看護の試み. 第10回脳神経外科救急学会, 2005. 1.
- 8) 沼野美沙子, 佐々尚美, 佐藤瑞樹, 待鳥久美, 橋本礼子, 矢萩英子: 一般内科病棟における緩和ケアと疼痛緩和チームとの関わり. 第5回千葉緩和医療研究会, 2005. 2.
- 9) 山下敬語, 神菌和剛, 谷村利行, 横山千鶴: ICU/CCUにおけるせん妄発症の要因調査: 日本版NCSを用いて. 第55回日本救急医学会関東地方会, 2005. 2.

## 〔 4 〕 付 置 研 究 施 設

# 1. 老人病研究所

## [ 病理学部門 ]

### 研究概要

細胞膜受容体 protease-activated receptor ( PAR ) と気道粘液由来セリンプロテアーゼである human airway trypsin-like protease ( HAT ) の関連を尋常性乾癬皮膚で検索した ( 皮膚科の岩切 ). その結果, HAT が PAR2 を活性化し IL-8 を遊離することで尋常性乾癬が発現悪化することから HAT 活性を抑えることでその治療ができるとの報告を impact factor の高い J. Invest. Dermatol ( 2004 年 ) に発表した . 間質性肺炎の usual interstitial pneumonia ( UIP ) と nonspecific interstitial pneumonia ( NSIP ) と比較し, リウマチ肺の発現に血清凝固因子が重要な役割を果たす可能性を探索中である . 途中経過をワシントン DC にある Armed Forces Institute of Pathology ( AFIP ) で立原と金恩京が詳細に発表し多くの論点を整理した . ハルビン医科大学留学生 ( 蕪占峰 ) と松岡 ( リウマチ科 ) は, 金恩京の指導でマウスとラットを用いて肺塞栓血栓症と ARDS 誘発を試み, 前者には関節リウマチ様病態の出現を必要とすること, 後者には抗アポトーシス作用を機能させることで生存率を高める事実を見出しその治療法を試みている . ガジザデを中心とした肺腺癌, 食道癌, 胃癌などの cDNA マイクロアレイ法による解析が軌道に乗り肺癌, 食道癌の予後判定に貴重な情報を提供することが出来た ( 鈴木: Clin Cancer Res 2004 多摩永山外科, 坊: JNMS 2004 ). 形成外科の土佐はケロイド癍痕の電子線を照射がケロイド癍痕中の線維芽細胞の IL-6 放出を抑制する機序を証明し J Invest Dermatol に報告した ( 2005 年 4 月発刊 ).

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Iwakiri K, Ghazizadeh M, Jin E, Fujiwara M, Takemura T<sup>1)</sup>, Takezaki Shin-I<sup>2)</sup>, Kawana S<sup>3)</sup>, Yasuoka S<sup>4)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup>Department of Surgical Pathology, Nippon Red Cross Center Hospital, <sup>2)</sup>Department of Dermatology, Nippon Medical School Second Hospital, <sup>3)</sup>Department of Dermatology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup>Department of Nursing, School of Medical Sciences, University of Tokushima ): Human airway trypsin-like protease induces PAR-2 mediated IL-8 Release in psoriasis vulgaris . J Invest Dermatol 2004 ; 122 ( 4 ): 937-944 .
- 2) Komazaki T<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>, Terada Y<sup>1)</sup>, Yabe A<sup>1)</sup>, Jin E, Kawanami O, Konishi N<sup>2)</sup>, Moriyama Y<sup>3)</sup>, Naka T<sup>4)</sup>, Kishimoto T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Nara Medical University, <sup>3)</sup>Center for Digestive Diseases, Nippon Medical School, <sup>4)</sup>Department of Medicine III, Osaka University Medical School ): Hypermethylation-associated inactivation of the SOCS-1 gene, a JAK/STAT inhibitor, in human pancreatic cancers . Jpn J Clin Oncol 2004 ; 34 ( 4 ): 191-194 .
- 3) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Shimizu H, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>, Okihama Y<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Shimizu K<sup>4)</sup>, Kawanami O, Tajiri T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>4)</sup>Second Department of Surgery, Nippon Medical School, <sup>5)</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School ): Comparative study between DNA copy number aberrations determined by quantitative microsatellite analysis and clinical outcome in patients with stomach cancer . Clinical Cancer Research

2004 ; 10 ( 9 ) : 3013-3019 .

- 4) Hirata T<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Okino K<sup>1)</sup>, Harada A<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Nagahata T<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>2)</sup>, Haraguchi S<sup>2)</sup>, Jin E, Kawanami O, Shimizu K<sup>2)</sup>, Mitsuru E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Department of Biological Regulation and Regenerative Surgery ): Amplification, up-regulation and over-expression of C3G ( CRK SH3 domain-binding guanine nucleotide-releasing factor ) in non-small cell lung cancers . J Hum Genet 2004 ; 49 ( 6 ) : 290-295 .
- 5) Bo H, Ghazizadeh M, Shimizu H, Kurihara Y<sup>1)</sup>, Egawa S, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Center for Digestive Diseases, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine ): Effect of ionizing irradiation on human esophageal cancer cell lines by cDNA microarray gene expression analysis . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 3 ) : 172-180 .
- 6) Dai W<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Namimatsu S<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> First Department of Pathology, Nippon Medical School ): A new antigen retrieval method using citraconic anhydride for immunoelectron microscopy : localization of surfactant pro-protein C ( proSP-C ) in the type II alveolar epithelial cells . J Submicrosc Cytol Pathol 2004 ; 36 ( 3-4 ) : 219-224 .

#### 学会発表

##### ( 1 ) 一般講演 :

- 1) Jin E, Tachihara A, Matsuoka T, Nakatani C, Taniuchi N, Takemura T<sup>1)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Department of Surgical Pathology, Nippon Red Cross Center Hospital ): Unique pro-angiogenic properties expressed in alveolar capillaries of rheumatoid lung, but not in normal UIP or NSIP lungs .ATS meeting( Orlando, USA ), 2004 . 5 .
- 2) Fujiwara M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O : Activation of protease-activated receptor 4 induces actin formation in pulmonary endothelial cells . ATS meeting ( Orlando, USA ), 2004 . 5 .
- 3) Tachihara A, Jin E, Matsuoka T, Kawanami O, Yoshino S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism ): Angiogenetic and immunohistochemical properties of endothelial cells in alveolar wall capillaries in rheumatoid arthritis, usual and nonspecific interstitial pneumonias ACR/ARHP . 68th Annual Scientific Meeting ( San Antonio, Texas, USA ), 2004 . 10 .
- 4) Ghazizadeh M, Tosa M, Shimizu H, Egawa S, Hirai T<sup>1)</sup>, Thomas MG<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>3)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine I, University Medical Center, University of Ulm, Germany , <sup>3)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Tokyo ): Increased expression of SERPINE2 ( protease nexin I ) in keloid . 第93回日本病理学会 , 2004 . 6 .
- 5) Ghazizadeh M, 清水 一, 枝川聖子, 小西英喜<sup>1)</sup>, Thomas MG<sup>2)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院産婦人科 , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine I, University Medical Center, University of Ulm ): Characterization of protease nexin 1 ( PN-1 ) in human ovarian carcinomas . 第63回日本癌学会 , 2004 . 9 .
- 6) Ghazizadeh M, Sakai Y<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Egawa S, Oguro T<sup>2)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology ): Ultrastructural Study of human chromosomes by transmission electron microscopy . 第36回日本臨床電子顕微鏡学会 , 2004 . 11 .
- 7) Jin E, Nakatani C, Matsuoka T, Taniuchi N, Takizawa Y, Jin Z, Takemura T<sup>1)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Department of Surgical Pathology, Nippon Red Cross Center Hospital ): Stepwise-alteration of immunohisto-



chemical properties and a synergistic factor for alveolar capillary angiogenesis in primary adenocarcinoma of lung. 第1回日本血管生物医学会, 2004. 11.

- 8) 清水 一, 福田剛明<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド, 枝川聖子, 鈴木利光<sup>1)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>福島県立医科大学医学部病理学第二講座 ): 抗癌剤耐性白血病細胞株への Wnt/apoptosis-signal の関与について. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
- 9) 松岡利明, 金 恩京, 瀧澤優子, 谷内七三子, 川並汪一: 肺血栓塞栓の動物モデル作成の試み: 血栓と内皮細胞の形態的特長. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
- 10) 中谷千瑞子, 金 恩京, 瀧澤優子, 川並汪一: 肺癌における肺胞毛細血管と周皮細胞の3次元解析. 第93回日本病理学会, 2004. 6.
- 11) 清水 一, ガジザデモハマッド, 鈴木成治<sup>1)</sup>, トーマスグレス<sup>2)</sup>, 鈴木利光<sup>3)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>Department of internal medicine I, University Medical Center, University of Ulm, Germany, <sup>3)</sup>福島県立医科大学医学部病理学第二講座 ): 卵巣癌細胞株における Protease nexin 1 の役割. 第63回日本癌学会, 2004. 9.
- 12) 並松茂樹<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, ガジザデ モハマッド, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ): 無水シトラコン酸 (CCA) による抗原賦活化: 抗原賦活時における加熱処理は抗原を失活させるか. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会, 2004. 11.

## [ 生化学部門 ]

### 研究概要

現在進行中の主な研究テーマは、ミトコンドリアをターゲットとした細胞死抑制強化蛋白質を用いた蛋白質導入治療法の開発、脳神経変性疾患や老化におけるミトコンドリアと酸化ストレスの役割、ミトコンドリア遺伝子の体細胞変異と癌、老化、疾患の関連、ミトコンドリアと核のクロストークの分子機構、ミトコンドリア脳筋症の分子機構と治療法の開発、ミトコンドリアと細胞分化との関連などである。いずれも基本的な生命現象からはじまって、臨床への応用へと向かっている。

とくに、顕著な結果としては、ミトコンドリアDNA (mtDNA) の変異と癌化の関連が明らかになった点である。従来から、大部分の癌細胞にはmtDNAの変異が認められているが、mtDNAの変異が癌の二次的結果なのか、原因のひとつであるかが不明であった。

当研究室で開発されたサイブリド法を用いて、mtDNAの変異は癌の促進に働くことをはじめて明らかにした。

細胞死抑制機構でも大きな進歩があった。従来アポトーシスとネクローシスは別であると考えられてきたが、当研究室で開発したFNK蛋白質がアポトーシスとネクローシスの双方を抑制することから、アポトーシスとネクローシスは連続的なものであり、双方を抑制することが可能であることを明らかにした。アポトーシスとネクローシスが混在していることが多いので、FNK蛋白質を用いて、実際の応用へ道が開けそうである。

本年度のトピックスは、脳梗塞の遺伝的危険因子を明らかにできたことである。長寿医療研究センターとの共同研究で、アルコール脱水素酵素2遺伝子の多型が脳梗塞の危険因子となることを明らかにした。この結果は、朝日、読売、毎日、日経、東京、神奈川新聞各紙にて報道された。特に、東京新聞では一面、神奈川新聞では一面トップにて扱われ、社会的関心の大きさを示唆した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Suzuki Y, Nishimaki K, Taniyama M<sup>1)</sup>, Muramatsu T<sup>2)</sup>, Atsumi Y<sup>3)</sup>, Matsuoka K<sup>3)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Fujigaoka Hosp., Showa Univ. , <sup>2)</sup>Dept. Neuropsychiatry, Keio Univ. , <sup>3)</sup>Saiseikai Centl. Hosp. ): Lipoma and ophthalmoplegia in mitochondrial diabetes associated with small heteroplasmy level of 3243 tRNA( Leu( UUR )) mutation. *Diabetes Res. Clin. Pract* 2004 ; 63 ( 3 ): 225-229 .
- 2) Ohta S, Ohsawa I, Kamino K, Ando F<sup>1)</sup>, Shimokata H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Epidemiol., Natl. Inst. Longevity Sci. ): Mitochondrial ALDH2 deficiency as an oxidative stress. *Ann. N. Y. Acad. Sci* 2004 ; 1011 : 36-44 .
- 3) Nomiyama T<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Piao L<sup>2)</sup>, Hattori M<sup>3)</sup>, Uchino H<sup>1)</sup>, Watada H<sup>1)</sup>, Kawamori R<sup>2)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept. Med., Metabolism and Endocrinl., Juntendo Univ. , <sup>2)</sup>Dept. Endocrinol., The Affiliated Hosp. Yanbian Univ. , <sup>3)</sup>Dept. Neurol., Juntendo Univ. ): Accumulation of Somatic Mutation in Mitochondrial DNA and Atherosclerosis in Diabetic Patients. *Ann. N. Y. Acad. Sci* 2004 ; 1011 : 193-204 .
- 4) Mikami T, Sumida S<sup>1)</sup>, Ishibashi Y, Ohta S ( <sup>1)</sup>Lab. Exercise Physiol. Biochem., Osaka Gakuin Univ. ): Endurance exercise training inhibits activity of plasma GOT and liver caspase-3 of mice [correction of rats] exposed to stress by induction of heat shock protein 70. *J. Appl. Physiol* 2004 ; 96 ( 5 ): 1776-1781 .
- 5) Suzuki Y, Atsumi Y<sup>1)</sup>, Matsuoka K<sup>1)</sup>, Nishimaki K, Ohta S, Taniyama M<sup>2)</sup>, Muramatsu T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Saiseikai Ctr. Hosp. , <sup>2)</sup>Fujigaoka Hosp., Showa Univ. , <sup>3)</sup>Dept. Neuropsychiatry, Keio Univ. ): Acute metabolic cataract as a first manifestation of diabetes mellitus in a 12-year-old girl. *Diabetologia* 2004 ; 47 ( 3 ): 592-593 .
- 6) Suzuki Y, Taniyama M<sup>1)</sup>, Muramatsu T<sup>2)</sup>, Higuchi S<sup>3)</sup>, Ohta S, Atsumi Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Fujigaoka Hosp., Showa

- Univ. , <sup>2)</sup> Dept. Neuropsychiatry, Keio Univ. , <sup>3)</sup> Natl. Inst. Alcoholism, Kurihama Natl. Hosp. , <sup>4)</sup> Saiseikai Ctr. Hosp. ) : ALDH2/ADH2 polymorphism associated with vasculopathy and neuropathy in type 2 Diabetes . Alcohol Clin. Exp. Res 2004 ; 28 ( 8 Suppl Proceedings ): 111S-116S .
- 7) Kirino Y<sup>1,2)</sup>, Yasukawa T<sup>1,4)</sup>, Ohta S , Akira S<sup>3)</sup>, Ishihara K<sup>3)</sup>, Watanabe K<sup>1,2,4,5)</sup>, Suzuki T<sup>1,2)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. Chem. Biotechnol. , Grad. Sch. Engin. , Univ. Tokyo , <sup>2)</sup> Dept. Integrated Biosci. , Grad. Sch. Frontier Sci. , Univ. Tokyo , <sup>3)</sup> Dept. of Obstet. and Gynecol. , <sup>4)</sup> Med. Res. Council, Dunn Human Nutrition Unit, Cambridge , <sup>5)</sup> BIRC, Natl. Inst. Advanced Indus. Sci. Technol. ) : Codon-specific translational defect caused by a wobble modification deficiency in mutant tRNA from a human mitochondrial disease . Proc. Natl. Acad. Sci. USA 2004 ; 101 ( 42 ): 15070-15075 .
- 8) Tanaka M<sup>1,5)</sup>, Cabrera VM<sup>2)</sup>, Gonzalez AM<sup>2)</sup>, Larruga JM<sup>2)</sup>, Takeyasu T<sup>1,3)</sup>, Fuku N<sup>1,4)</sup>, Guo LJ<sup>1,3)</sup>, Hirose R<sup>1)</sup>, Fujita Y<sup>1)</sup>, Kurata M<sup>1)</sup>, Shinoda K<sup>5)</sup>, Umetsu K<sup>6)</sup>, Yamada Y<sup>1,7)</sup>, Oshida Y<sup>3)</sup>, Sato Y<sup>3)</sup>, Hattori N<sup>8)</sup>, Mizuno Y<sup>8)</sup>, Arai Y<sup>10)</sup>, Hirose N<sup>10)</sup>, Ohta S, Ogawa O<sup>9)</sup>, Tanaka Y<sup>9)</sup>, Kawamori R<sup>9)</sup>, Shamoto-Nagai M<sup>1,4,11)</sup>, Maruyama W<sup>11)</sup>, Shimokata H<sup>12)</sup>, Suzuki R<sup>13)</sup>, Shimodaira H<sup>13)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. Gene Therapy, Gifu Intl. Inst. Biotechnol. , <sup>2)</sup> Dept. Genetics, Fac. Biol. , Univ. La Laguna , <sup>3)</sup> Dept. Sports Med. , Grad. Sch. Med. , Nagoya Univ. , <sup>4)</sup> Japan Sci. and Technol. Agency, Kawaguchi, , <sup>5)</sup> Dept. Anthropol. , Natl. Sci. Museum, Tokyo , <sup>6)</sup> Dept. Forensic Med. , Yamagata Univ. Sch. Med. , <sup>7)</sup> Dept. Human Functional Genomics, Life Sci. Res. Ctr. , Mie Univ. , <sup>8)</sup> Dept. Neurol. , Metabolism Endocrinol. , Juntendo Univ. Sch. Med. , <sup>9)</sup> Dept. Med. , Metabolism and Endocrinology, Juntendo Univ. Sch. Med. , <sup>10)</sup> Dept. Geriatric Med. , Keio Univ. Sch. Med. , <sup>11)</sup> Laboratory of Biochem. Metabolism, Dept. Basic Gerontol. , Natl. Inst. for Longevity Sci. , <sup>12)</sup> Dept. Epidemiol, Natl. Inst. for Longevity Sci. , <sup>13)</sup> Dept. Mathematical and Computing Sci. , Tokyo Inst. Technol. ) : Mitochondrial Genome Variation in Eastern Asia and the Peopling of Japan . Genome Res 2004 ; 14 (( 10A )): 1832-1850 .
- 9) Suzuki Y , Fujisawa M<sup>1)</sup>, Ando F<sup>1)</sup>, Niino N<sup>1)</sup>, Ohsawa I , Shimokata H<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Natl. Ctr. Geriatrics Gerontol. ) : Alcohol dehydrogenase 2 variant is associated with cerebral infarction and lacunae . Neurology 2004 ; 63 ( 9 ): 1711-1713 .
- 10) Ohsawa I , Nishimura T<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Satoh M<sup>1)</sup>, Matsuzawa I<sup>1)</sup>, Hamasaki T<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. of Urol. ) : Detection of urine survivin in 40 patients with bladder cancer . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 6 ): 379-383 .
- 11) Suzuki Y , Atsumi Y<sup>1)</sup>, Matsuoka K<sup>1)</sup>, Nishimaki K , Ohta S , Taniyama M<sup>2)</sup>, Muramatsu T<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> Saiseikai Ctr. Hosp. , <sup>2)</sup> Fujigaoka Hosp. , Showa Univ. , <sup>3)</sup> Dept. of Neuropsychiatry, Keio Univ. ) : Mitochondrial tRNA ( Leu ( UUR )) mutation at position 3243 detected in patients with type 1 diabetes . Diabetes Res. Clin. Pract 2005 ; 67 ( 1 ): 92-94 .
- 12) Shidara Y<sup>1)</sup>, Yamagata K , Kanamori T , Nakano K<sup>2)</sup>, Kwong JQ<sup>3)</sup>, Manfredi G<sup>3)</sup>, Oda H<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathol. , Tokyo Women's Med. Univ. , Sch. Med. , <sup>2)</sup> Dept. of Pediatrics, Tokyo Women's Med. Univ. , Sch. Med. , <sup>3)</sup> Dept. of Neurol. Neurosci. , Weill Med. Coll. Coenell Univ. ) : Positive Contribution of Pathogenic Mutations in the Mitochondrial Genome to the Promotion of Cancer by Prevention from Apoptosis . Cancer Res 2005 ; 65 ( 5 ): 1655-1663 .
- 13) Miyasaka K<sup>1)</sup>, Kawanami T<sup>2)</sup>, Shimokata H<sup>3)</sup>, Ohta S , Funakoshi A<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. of Clinical Physiol. , Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol. , <sup>2)</sup> Dept. Gastroenterol. , Natl. Kyushu Cancer Center , <sup>3)</sup> Dept. of Epidemiol. , Natl. Inst. Longevity Sci. ) : Inactive aldehyde dehydrogenase-2 increased the risk of pancreatic cancer among smokers in a Japanese male population . Pancreas 2005 ; 30 ( 2 ): 95-98 .
- 14) Asoh S , Mori T , Nagai S , Yamagata K , Nishimaki K , Miyato Y , Shidara Y<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathol.,

Tokyo Women's Med. Univ., Sch. of Med. ): Zonal necrosis prevented by transduction of the artificial anti-death FNK protein . Cell Death Differ 2005 ; 12 ( 4 ): 384-394 .

- 15) Sudo K , Asoh S , Ohsawa I , Ozaki D , Yamagata K , Ito H<sup>1)</sup> , Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept. of Orthopedic Surgery ): The anti-cell death FNK protein protects cells from death induced by freezing and thawing . Biochem. Biophys. Res. Commun 2005 ; 330 ( 3 ): 850-856 .
- 16) Uematsu M , Ohsawa I , Aokage T , Nishimaki K , Matsumoto K<sup>1)</sup> , Takahashi H<sup>2)</sup> , Asoh S , Teramoto A<sup>2)</sup> , Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathol. Second Hosp. , <sup>2)</sup>Dept. of Neurosurg. ): Prognostic significance of the immunohistochemical index of surviving in glioma : A comparative study with the MIB-1 index . J. Neuro-Oncology 2005 ; 72 ( 3 ): 231-238 .
- 17) Yasukawa T<sup>1,6)</sup> , Kirino Y<sup>1,2)</sup> , Ishii N , Lehtinen SK<sup>3)</sup> , Jacobs HT<sup>3)</sup> , Makifuchi T<sup>4)</sup> , Fukuhara N<sup>5)</sup> , Ohta S , Suzuki T<sup>1,2)</sup> , Watanabe K<sup>1,2,7)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Chem. Biotechnol. , Grad. Sch. Engin. , Univ. , <sup>2)</sup>Dept. Integrated Biosci. , Grad. Sch. Frontier Sci. , Univ. Tokyo , <sup>3)</sup>Inst. Med. Technol. and Tampere Univ. Hosp. , Finland , <sup>4)</sup>Noto General Hosp. , Ishikawa, Dept. Clinical Res. , <sup>5)</sup>Urol. , Nagoya Univ. Grad. Sch. Med. , <sup>6)</sup>Med. Res. Council, Dunn Human Nutrition Unit, Cambridge , <sup>7)</sup>BIRC, Natl. Inst. Advanced Indus. Sci. Technol. ): Wobble modification deficiency in mutant tRNAs in patients with mitochondrial diseases . FEBS Lett 2005 ; 579 ( 13 ): 2948-2952 .

## 著 書

- 1) 太田成男 : [ 分担 ] ミトコンドリア : 最新トピックス . 週刊医学のあゆみ ( 藤田勝治 ) , 2004 ; pp989-989 , 医歯薬出版 .
- 2) 麻生定光 , 太田成男 : [ 共著 ] 細胞内タンパク質導入によるアポトーシス制御 . 生化学 , 2004 ; pp654-658 , 生化学会 .
- 3) 太田成男 , 麻生定光 : [ 共著 ] 細胞死抑制強化タンパク質の細胞内への直接導入による細胞死の抑制 . 遺伝子医学 MOOK ( 田畑泰彦 ) , 2004 ; pp53-59 , メディカルドゥ .
- 4) 桂研一郎<sup>1)</sup> , 太田成男 , 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第2 ) : [ 共著 ] 脳梗塞への新しい蛋白治療の応用 . BRAIN RESCUE ( 横田裕行 ) , 2005 ; pp3-5 , メディカルレビュー .
- 5) 太田成男 : [ 自著 ] ミトコンドリア病 その特徴 , 遺伝 , ヘテロプラズミー , 閾値効果 . 臨床検査 , 2005 ; pp9-15 , 医学書院 .
- 6) 大澤郁朗 , 太田成男 : [ 共著 ] ミトコンドリア . 酸化ストレスナビゲーター ( 倉林正彦 , 山岸昌一 ) , 2005 ; pp52-53 , メディカルレビュー .
- 7) 桂研一郎<sup>1)</sup> , 太田成男 , 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第2 ) : [ 共著 ] 脳梗塞への蛋白治療の応用 . 神経治療学 , 2005 ; pp219-223 , 日本神経治療学会 .

## 学会発表

### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) Ohta S : Truncated product of the bifunctional DLST gene involved in the assembly of the mitochondrial respiratory complexes and associated with Alzheimeris disease . Euromit 6 ( Nijmegen, the Netherlands ) , 2004 . 6 .
- 2) 太田成男 , 麻生定光 : 細胞死抑制活性強化蛋白質 FNK の細胞内導入治療の開発 . 第13回日本アポトーシス研究会学術集会 , 2004 . 7 .

### ( 2 ) 招待講演 :

- 1) Ohta S : The Contribution of Mutations In The Mitochondrial Genome To The Promotion of Cancer . The Second Scientific Meeting of Asian Society for Mitochondrial Research and Medicine ( Taipei, Taiwan ) , 2004 . 4 .

- 2) 太田成男：ミトコンドリア異常症の治療戦略．第47回日本先天代謝異常学会，2004．11．
- 3) 太田成男：ミトコンドリアとは何か：生命を駆動するミトコンドリア．第25回遺伝カウンセリングリフレッシュセミナー，2005．1．
- 4) 太田成男：アルコール代謝関連遺伝子の個人差と病気のなりやすさ．第85春季日本化学会，2005．3．

(3) ワークショップ：

- 1) 太良修平，石井徳恵，大澤郁朗，麻生定光，宮本正章<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)：アポトーシス抑制活性化因子PTD-FNKは細胞死を抑制することにより血管様構造の形成を促進させる．第77回日本生化学会大会，2004．10．
- 2) 太田成男，設楽雄次郎<sup>1)</sup>，小田秀明<sup>1)</sup>，水谷 聡，宮戸靖幸(<sup>1)</sup>東京女子医大・病理)：腫瘍増殖速度に対するミトコンドリアDNA変異の直接寄与．第27回日本分子生物学会，2004．12．
- 3) 麻生定光，大澤郁朗，森 隆<sup>1)</sup>，桂研一郎<sup>2)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>，太田成男(<sup>1)</sup>埼玉医科大・医療セ，<sup>2)</sup>日本医科大学・内科学第2)：3次構造を基に分子設計された細胞死抑制活性化蛋白質FNKによるタンパク質導入治療．第27回日本分子生物学会，2004．12．

(4) 一般講演：

- 1) Kamimura N, Asoh S, Munakata K<sup>1)</sup>, Goto Y<sup>1)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>Dept. of Mental Retardation Birth Defect Res., Natl. Inst. Neurosci. ): MIDAS, a nuclear gene product is involved in the total volume of mitochondria in response to mitochondrial dysfunction. Euromit 6 (Nijmegen, the Netherlands), 2004. 6.
- 2) Ohsawa I, Nishimaki K, Nukina T, Ohta S: Deficiency in a mitochondrial aldehyde dehydrogenase promotes oxidative stress and the onset of Alzheimer's disease. The 9th International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders (Philadelphia, USA), 2004. 7.
- 3) 水谷 聡，宮戸靖幸，設楽雄次郎<sup>1)</sup>，山縣久美，太田成男(<sup>1)</sup>東京女子医大・病理)：ミトコンドリアゲノム変異に伴うヒト癌細胞のアポトーシス誘導能および抗癌剤感受性の低下．第13回日本アポトーシス研究会学術集会，2004. 7.
- 4) 須藤賢太郎，尾崎大也，山縣久美，麻生定光，伊藤博元<sup>1)</sup>，太田成男(<sup>1)</sup>整形外科学)：細胞死抑制活性化因子FNK蛋白質導入によるヒト軟骨組織の凍結再融合による細胞死の抑制．第13回日本アポトーシス研究会学術集会，2004. 7.
- 5) 大澤郁朗，石井徳恵，太田成男：siRNAを用いたジヒドロリポアミド・サクシニル転移酵素の発現抑制による神経細胞分化の促進．第6回日本RNA学会，2004. 8.
- 6) 山縣久美，桐野洋平<sup>1)</sup>，鈴木 勉<sup>1)</sup>，杉本 泉<sup>1)</sup>，安川武宏，林 純一<sup>2)</sup>，渡辺公綱<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大院・新領域・先端生命，<sup>2)</sup>筑波大・生物科学)：核遺伝子変異による変異ミトコンドリアtRNAの塩基修飾の回復．第6回日本RNA学会，2004. 8.
- 7) 鈴木悠子，大澤郁朗，西槇貴代美，太田成男：ミトコンドリア・アルデヒド脱水素酵素欠損による大脳皮質神経細胞死の促進．第77回日本生化学会大会，2004. 10.
- 8) 大澤郁朗，石井徳恵，西槇貴代美，太田成男：エネルギー代謝抑制による神経分化の促進と細胞死の阻害．第27回日本分子生物学会，2004. 12.
- 9) 上村尚美，麻生定光，太田成男：核遺伝子産物MIDASによるミトコンドリアの増殖とsiRNAによるその抑制．第27回日本分子生物学会，2004. 12.
- 10) 西槇貴代美，大澤郁朗，小平恵理，太田成男：ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素欠損トランスジェニックマウスにおける酸化ストレスの蓄積はビタミンEの摂取により軽減する．第27回日本分子生物学会，2004. 12.
- 11) 山縣久美，桐野洋平<sup>1)</sup>，鈴木 勉<sup>1)</sup>，杉本 泉，安川武宏，林 純一<sup>2)</sup>，渡辺公綱<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大院・新領域・先端生命，<sup>2)</sup>筑波大・生物科学)：核遺伝子の抑制変異によるミトコンドリアtRNAの塩基修飾回復と塩基修飾に関与する酵素遺伝子分離の試み．第27回日本分子生物学会，2004. 12.

- 12) 荒川正行, 安武正弘<sup>1)</sup>, 麻生定光, 宮本正章<sup>1)</sup>, 大坪春美<sup>1)</sup>, 太良修平, 高木 元<sup>1)</sup>, 高木郁代<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): 細胞死抑制活性強化蛋白質 FNK の細胞内導入によるラット摘出心虚血再灌流モデルにおける心筋梗塞サイズ抑制効果 . 第27回日本分子生物学会, 2004 . 12 .
- 13) 麻生定光, 森 隆<sup>1)</sup>, 永井信也, 山縣久美, 西槇貴代美, 宮戸靖幸, 太田成男 ( <sup>1)</sup>埼玉医科大・医療セ ): ミトコンドリアにターゲットする細胞死抑制活性強化蛋白質PTD-FNK による四塩化炭素誘導壊死の抑制 : 毒性肝障害の軽減効果 . 第4回日本ミトコンドリア研究会年会, 2004 . 12 .
- 14) 大澤郁朗, 石井徳恵, 西槇貴代美, 太田成男 : 中枢神経細胞の分化促進と細胞死抑制におけるエネルギー代謝低下の必要性 . 第4回日本ミトコンドリア研究会年会, 2004 . 12 .
- 15) 水谷 聡, 宮戸靖幸, 設楽雄次郎<sup>1)</sup>, 山縣久美, 太田成男 ( <sup>1)</sup>東京女子医大・病理 ): ミトコンドリアDNA 変異に伴うヒト癌細胞の抗癌剤抵抗性の獲得 . 第4回日本ミトコンドリア研究会年会, 2004 . 12 .

## [ 免疫部門 ]

### 研究概要

p53によるアポトーシス誘導機構をさらに詳細に解析する目的でp53の誘導遺伝子の同定を進め、新規標的遺伝子#130を同定した。#130は、N末にBTBドメインを有し、C端にKelchリピートが存在する。解析の結果、#130は複合体型ユビキチンリガーゼのサブユニットであるcullin3と結合すること、細胞に強制発現させると、p53標的遺伝子であるNoxaやPUMAのアポトーシス誘導作用を増強するように働いた。次に、#130が分解する基質を同定する目的で、yeast two-hybridにより#130と結合する分子#130BP-1を同定した。#130BP-1は実際に#130と結合し、#130依存性にユビキチン化を受けて分解されることを見出すと共に、同じ構造をもつ#190もp53誘導性遺伝子として同定した。これらの結果から、p53は多くのタンパクを誘導するとともに、幾つかの特異的なタンパクを分解することでその機能を発揮させているという新たな知見を得た。

さらにp53による癌抑制機構および癌化におけるp53自身への抑制機構の解析を進め、胃癌、肺癌、膵臓癌等多くの癌細胞で恒常的に活性が亢進していることが最近明らかとなったHedgehogシグナルがp53の分解を促進する現象を初めて発見した。同時に、白血病、リンパ腫や乳癌を代表例として多くの癌で活性が亢進していることが報告されているNF- $\kappa$ Bがp53の転写活性を抑制すること、この両者に競合的に結合する分子を同定し、この分子が両転写因子の相互抑制作用に関与することを推測させる結果を得た。同時に、転写因子NF- $\kappa$ Bの活性がp53によって制御されていること、p53の機能が無くなるとNF- $\kappa$ Bの活性が上昇し、そのことが癌化に重要であることを明らかにした。これらの結果は、p53を介する癌化の抑制の新たな機構を明らかにすることができたと考えている。

### 研究業績

#### 学会発表

[ 2003 年度追加分 ]

#### シンポジウム：

- 1) 田中信之：Regulation of tumor suppressor p53 protein during oncogenesis . Nagasaki Symposium on the Nuclear System to Decipher Operation Code ( DECODE ) for Biological Responses ( Nagasaki ), 2004 . 2 .

#### (1) シンポジウム：

- 1) 鎌田(川内)敬子, 田中信之：Molecular mechanism underlying cross talk between NF- $\kappa$ B and p53 . JBS International Symposium in 2005 "New Frontier of Transcription Research" ( Kusatsu ), 2005 . 1 .

#### (2) 一般講演：

- 1) 阿部芳憲, 飛梅 圭, 佐藤(織田)恵理, 田中信之：Hedgehogシグナル伝達経路とp53のクロストーク．第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 2) 佐藤(織田)恵理, 上原郁野, 安藤 大, 八木修一郎, 田中信之：新規p53誘導遺伝子の機能解析．第63回日本癌学会学術総会, 2004 . 9 .
- 3) 阿部芳憲, 飛梅 圭, 佐藤(織田)恵理, 田中信之：Hedgehogシグナルによるp53抑制機構．第27回日本分子生物学会年会, 2004 . 12 .
- 4) 浅野由ミ, 阿部芳憲, 上原郁野, 佐藤(織田)恵理, 田中信之：Wntシグナルによるp53の転写誘導活性増強の分子機構．第27回日本分子生物学会年会, 2004 . 12 .
- 5) 鎌田(川内)敬子, 佐藤(織田)恵理, 田中信之：NF- $\kappa$ Bとp53のシグナルクロストークの分子機構．第27回日本分子生物学会年会, 2004 . 12 .
- 6) 飛梅 圭, 中嶋 亘, 浅野由ミ, 阿部芳憲, 佐藤(織田)恵理, 田中信之：anti-apoptotic Bcl-2ファミリー分

子 Mcl-1 のミトコンドリア移行によるミトコンドリア依存性アポトーシスの制御．第 27 回日本分子生物学会年会，2004．12．

7) 上原郁野，佐藤（織田）恵理，安藤 大，八木修立郎，田中信之，p53 の新規誘導遺伝子の機能解析：p53 の新規誘導遺伝子の機能解析．第 27 回日本分子生物学会年会，2004．12．

8) 中嶋 巨，飛梅 圭，浅野由ミ，阿部芳憲，佐藤（織田）恵理，田中信之：Bax のミトコンドリア移行を人工的に制御するシステムを用いた Bax 依存性アポトーシスの解析．第 27 回日本分子生物学会年会，2004．12．



## [ 疫学部門 ]

### 研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明を目指し、ホルモンを対象として生理学的研究を行う。

#### I. corticotropin-releasing factor (CRF) と urocortin の生理作用に関する研究

CRF の生理作用は多様であり、CRF 受容体のクローニング、新たな内因性リガンド urocortin の発見などによって、CRF の機能や病態との関連の解明が進んだ。CRF, urocortin の生理的意義について研究している。

- 1) 視床下部の CRF 受容体 (CRFR1) 遺伝子発現調節：マウスとラットでは、視床下部室傍核における CRFR-1 遺伝子発現調節が異なることを明らかにした。

#### II. 成長ホルモン (GH) の分泌調節機構と生理作用

GH の分泌パターンは超日リズムを形成する。GH は諸種の生理作用を持つが、詳細は不明である。この超日リズムの発現機構と意義を解明し、その生理作用を明らかとするため研究を行っている。

- 1) GH のオートフィードバック機構と視床下部 GH 受容体を介する細胞内シグナル伝達に関する研究：GH は視床下部細胞では、STAT5b を活性化し、SOCS3 を発現誘導することがわかった。
- 2) GH によって短時間で発現誘導される遺伝子の同定：肝細胞において GH によって短時間で発現誘導される遺伝子を検索し、新たに同定した遺伝子のうち 2 個は糖尿病との関連が示唆された。

#### III. 三量体 G 蛋白質を介する細胞内シグナル伝達活性化機構の研究

- 1) G12 サブファミリーを介する細胞内シグナル伝達機構の解析：G12 と低分子量 G タンパク質という 2 つの分子スイッチを直接コントロールし、細胞膜上でシグナルを双方向性に制御する RGS-RhoGEF の活性化機序の一端を解明した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Imaki T, Naruse M<sup>1)</sup>, Takano K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Natl Hosp. , <sup>2)</sup> Dept. of Medicine, Tokyo Women's Medical Univ. ): Adrenocortical hyperplasia associated with ACTH-dependent Cushing's syndrome : comparison of the size of adrenal glands with clinical and endocrinological data . Endocr J 2004 ; 51 ( 1 ): 89-95 .
- 2) Kasagi Y, Tokita R, Nakata T, Imaki T, Minami S : Human growth hormone induces SOCS3 and CIS mRNA increase in the hypothalamic neurons of hypophysectomized rats . Endocr J 2004 ; 51 ( 2 ): 145-154 .
- 3) Chikada N<sup>1)</sup>, Imaki T, Hotta M<sup>1)</sup>, Sato K<sup>1)</sup>, Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Medicine, Tokyo Women's Medical Univ. ): An assessment of bone mineral density in patients with Addison's disease and isolated ACTH deficiency treated with glucocorticoid . Endocr J 2004 ; 51 ( 3 ): 355-360 .
- 4) Tanabe A<sup>1)</sup>, Naruse M<sup>2)</sup>, Hara Y<sup>1)</sup>, Sato A<sup>1)</sup>, Tsuchiya K<sup>1)</sup>, Nishikawa T<sup>1)</sup>, Imaki T, Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Medicine, Tokyo Women's Medical Univ. , <sup>2)</sup> Kyoto Natl Hosp. ): Aldosterone antagonist facilitates the cardioprotective effects of angiotensin receptor blockers in hypertensive rats . J. Hypertens 2004 ; 22 ( 5 ): 1017-1023 .
- 5) Nakamura S<sup>1)</sup>, Kreutz B<sup>1)</sup>, Tanabe S<sup>1)</sup>, Suzuki N, Kozasa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pharmacology, Univ. of Illinois College of Medicine ): Critical role of lysine 204 in switch 1 region of Ga13 for regulation of p115RhoGEF and Leukemia-Associated RhoGEF . Molecular Pharmacology 2004 ; 66 : 1029-1034 .

6) Tanabe S<sup>1)</sup>, Kreutz B<sup>1)</sup>, Suzuki N, Kozasa T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Pharmacology, Univ. of Illinois College of Medicine): Regulation of RGS-RhoGEFs by Ga12 and Ga13 proteins. Methods in enzymology 2004; 390: 285-294.

(2) 総説:

- 1) 今城俊浩, 田辺晶代<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内, <sup>2)</sup>国立京都医療センター): 病態と疾患からみたナトリウム利尿ペプチド: 副腎疾患. 日本臨床, 臨床分子内分秘学1 2004; (増刊号): 124-126.
- 2) 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>2)</sup>, 長田太助<sup>1)</sup>, 今城俊浩(<sup>1)</sup>国立京都医療センター, <sup>2)</sup>東京女子医大2内): ウロテンシンIIの発見と意義. 日本臨床, 臨床分子内分秘学1 2004; (増刊号): 685-693.
- 3) 今城俊浩, 田辺晶代<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内, <sup>2)</sup>国立京都医療センター): ウロテンシン, 特論: ウロテンシンの臨床応用の展望. 日本臨床, 臨床分子内分秘学1 2004; (増刊号): 730-734.
- 4) 今城俊浩, 田辺晶代<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内, <sup>2)</sup>国立京都医療センター): ウロテンシン, 特論: ウロテンシン関連ペプチド: ウロコルチン. 日本臨床, 臨床分子内分秘学1 2004; (増刊号): 735-740.

著書

- 1) 今城俊浩, 成瀬光栄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立京都医療センター): [共著] 汎下垂体機能低下症 グルココルチコイド補充療法. 臨床に直結する内分泌・代謝疾患治療のエビデンス, 2004; pp20-21, 文光堂.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Tanabe A<sup>1)</sup>, Naruse M<sup>2)</sup>, Shimamoto M<sup>1)</sup>, Imaki T(<sup>1)</sup>Dept. of Medicine, Tokyo Women's Medical Univ., <sup>2)</sup>Kyoto Natl Hosp.): Cardioprotective Effects of AT1 Receptor Blocker and Non-Pressure Dose of Selective Aldosterone Receptor Antagonist in Hypertensive Rats. 86th Annual Meeting of Endocrine Society, 2004. 6.
- 2) Suzuki N, Tanabe S<sup>1)</sup>, Kozasa T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Pharmacology, Univ. of Illinois College of Medicine): Ga13 activates leukemia-associated RhoGEF directly through its DH/PH domain. 第77回日本生化学大会, 2004. 10.
- 3) 千田 大<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 須田俊宏<sup>2)</sup>, 岩倉洋一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大医科研ヒト疾患モデルセンター, <sup>2)</sup>弘前大3内): IL-1によるHPA axisの活性化の分子機構. 第69回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会, 2004. 6.
- 4) 今城俊浩, 勝又晴美, 田中知恵, 笠木陽子, 須田俊宏<sup>1)</sup>, 南 史朗(<sup>1)</sup>弘前大3内): グルココルチコイドはマウス, ラットの視床下部室傍核(PVN)のcorticotropin-releasing factor type-1(CRFR-1)遺伝子発現を抑制する. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 5) 笠木陽子, 勝又晴美, 南 史朗, 須田俊宏<sup>1)</sup>, 今城俊浩(<sup>1)</sup>弘前大3内): CRFにより発現が誘導される新たな遺伝子の検索. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 6) 島本芳子<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>1)</sup>, 立木美香<sup>1)</sup>, 渡辺大輔<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内, <sup>2)</sup>国立京都医療センター): ウロテンシンIIの慢性持続投与が心血管系におよぼす影響. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 7) 田辺晶代<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>2)</sup>, 島本芳子<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>1)</sup>, 立木美香<sup>1)</sup>, 渡辺大輔<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内, <sup>2)</sup>国立京都医療センター): 高血圧において選択的アルドステロン拮抗薬とAT1拮抗薬の併用が心保護作用におよぼす影響. 第77回日本内分泌学会学術総会, 2004. 6.
- 8) 緒方清行<sup>1)</sup>, 佐藤千香子, 兵働英也<sup>1)</sup>, 塩井由美子<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>, 吉田弥太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第3, <sup>2)</sup>武田総合病院血液内科): 骨髄異形成症候群の芽球形質に関する研究: 骨髄中の芽球比率との関連について. 第66回日本血液学会/第46回日本臨床血液学会, 2004. 9.
- 9) 鈴木信周, 時田玲子, 今城俊浩, 南 史朗: IGF-1受容体とそれに結合するRho活性化因子のラット脳内局在. 第31回日本神経内分泌学会, 2004. 10.

- 10) 時田玲子, 勝又晴美, 田中知恵, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>2)</sup>, 南 史朗, 今城俊浩 ( <sup>1)</sup> 国立京都医療センター, <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 ): Aldosterone 脳室内投与後のラット脳内 c-fos mRNA 発現分布 . 第31回日本神経内分泌学会, 2004 . 10 .
- 11) 今城俊浩, 勝又晴美, 田中知恵, 千田 大<sup>1)</sup>, 岩倉洋一郎<sup>1)</sup>, 南 史朗 ( <sup>1)</sup> 東大医科研ヒト疾患モデルセンター ): Interleukin ( IL ) -1 による視床下部下垂体副腎 ( HPA ) 系の賦活化の機序 : IL-1 ノックアウトマウスを用いた検討 . 第31回日本神経内分泌学会, 2004 . 10 .
- 12) 勝又晴美, 田中知恵, 宮田麻理子<sup>1)</sup>, 南 史朗, 今城俊浩 ( <sup>1)</sup> 生理学研究所 ): ラット坐骨神経部分結紮による慢性ストレスモデルでの視床下部下垂体副腎系の機能亢進の機序 : グルココルチコイドの関与 . 第31回日本神経内分泌学会, 2004 . 10 .
- 13) 今城俊浩, 勝又晴美, 田中知恵, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>2)</sup>, 時田玲子, 南 史朗 ( <sup>1)</sup> 国立京都医療センター, <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 ): Aldosterone 脳室内投与後のラット脳内 c-fos mRNA 発現分布 . 第8回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 2004 . 11 .
- 14) 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>2)</sup>, 島本芳子<sup>2)</sup>, 立木美香<sup>2)</sup>, 高木佐知子<sup>2)</sup>, 今城俊浩, 瀬田公一<sup>1)</sup>, 長田太助<sup>1)</sup>, 高野加寿恵<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立京都医療センター, <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 ): 高血圧における選択的アルドステロン拮抗薬エプレレノンと非選択的アルドステロン拮抗薬スピロラクトンの心保護作用の比較 . 第8回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 2004 . 11 .
- 15) 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>2)</sup>, 島本芳子<sup>2)</sup>, 立木美香<sup>2)</sup>, 瀬田公一<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>2)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>2)</sup>, 長田太助<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立京都医療センター, <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 ): 選択的アルドステロン拮抗薬エプレレノンによる心臓リモデリング効果 . 第8回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 2004 . 11 .
- 16) 田辺晶代<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>1)</sup>, 島本芳子<sup>1)</sup>, 立木美香<sup>1)</sup>, 長田太助<sup>2)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医大2内, <sup>2)</sup> 国立京都医療センター ): コルチゾールによる心病変に関する臨床的, 分子生物学的検討 . 第8回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 2004 . 11 .
- 17) 千田 大<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 須田俊宏<sup>2)</sup>, 岩倉洋一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東大医科研, <sup>2)</sup> 弘前大3内 ): IL-1 による HPA axis 活性化の分子機構 . 第27回日本分子生物学会, 2004 . 12 .

## [ 分子生物学部門 ]

### 研究概要

本研究室では遺伝子多型解析, マイクロアレイ遺伝子発現解析といったゲノム解析を主たるアプローチ方法として common disease, 癌の発症要因, 発症機序の解明をめざしている.

#### 1. 癌とマイクロアレイ遺伝子発現解析

乳癌, 甲状腺癌, 脳腫瘍, 肺癌を対象として研究を行っている. マイクロアレイを使用して腫瘍特異的に発現異常を呈している遺伝子をスクリーニングし, それを基にした発展的検討を行っている. 乳癌においては種々の遺伝子学的予後マーカーを開発し, 特許申請中の事項もある. 甲状腺癌においては乳頭癌, 未分化癌における発現解析を行い, それぞれの癌種に特異的な関連遺伝子を見出している. さらには発現情報に基づいた新規遺伝子も同定し, 種々の機能解析を遂行している. 脳腫瘍の発現解析では新規腫瘍マーカーの候補を見出している. 肺癌に関しては重複癌の遺伝子マーカーの候補を発見し, 現在検証作業を精力的に行っている.

#### 2. 骨粗鬆症感受性遺伝子の同定

高齢化社会を迎える我が国においては, 骨粗鬆症の遺伝的要因の解明は21世紀医療の重要課題である. ヒトゲノムに存在する多数の一塩基置換多型を用いた相関解析を多段階スクリーニングで行なうことにより骨粗鬆症の遺伝的要因の解明をすすめている.

#### 3. ヒトゲノムの多様性と自然選択の関わり

ヒトの疾患と自然選択の関わりは鎌状赤血球貧血症とマラリアの関連がよく知られているが, ヒトの進化, 歴史においてはさらに多くの事例が存在するものと予想される. ヒトゲノムの多様性を解析することにより, 自然選択の影響を受けている遺伝子を明らかにすることができる. これまでに本態性高血圧感受性遺伝子アンジオテンシノーゲン遺伝子, およびA型肝炎ウイルスレセプターHAVCR1遺伝子と自然選択の関わりを報告してきたが, このような事例を積み重ねていくことにより, ヒトの進化を理解するための一助になるものと考えられる.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Yoneyama T<sup>1)</sup>, Kasuya H<sup>1)</sup>, Onda H<sup>1)</sup>, Akagawa H<sup>1)</sup>, Hashiguchi K<sup>2)</sup>, Nakajima T, Hori T<sup>1)</sup>, Inoue I<sup>3)</sup>  
(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Women's Medical University, <sup>2)</sup> Maternal and Perinatal Center, Tokyo Women's Medical University, <sup>3)</sup> Division of Genetic Diagnosis, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo): Collagen type I alpha2 (COL1A2) is the susceptible gene for intracranial aneurysms. Stroke 2004; 35 (2): 443-448.
- 2) Nakajima T, Wooding S<sup>1)</sup>, Sakagami T<sup>2)</sup>, Emi M, Tokunaga K<sup>3)</sup>, Tamiya G<sup>4)</sup>, Ishigami T<sup>5)</sup>, Umemura S<sup>5)</sup>, Munkhbat B<sup>6)</sup>, Jin F<sup>7)</sup>, Guan-Jun J<sup>8)</sup>, Hayasaka I<sup>9)</sup>, Ishida T<sup>10)</sup>, Saitou N<sup>11)</sup>, Pavelka K<sup>12)</sup>, Lalouel JM<sup>1)</sup>, Jorde LB<sup>1)</sup>, Inoue I<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Human Genetics, University of Utah Health Sciences Center, <sup>2)</sup> Division of Genetic Diagnosis, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo, <sup>3)</sup> Department of Human Genetics, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, <sup>4)</sup> Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine, <sup>5)</sup> Internal Medicine, Yokohama City University, <sup>6)</sup> Department of Physiology, National Medical University of Mongolia, <sup>7)</sup> Institute of Genetics, Chinese Academy of Science, <sup>8)</sup> Red Cross Blood Center of Harbin, <sup>9)</sup> Kumamoto Primates Park, Sanwa Kagaku Kenkyusho Co. Ltd, <sup>10)</sup> Unit of Human Biology and Genetics, School of Science, University of Tokyo, <sup>11)</sup> Laboratory of Evolutionary Genetics, National Institute of Genetics, <sup>12)</sup> Institute of Rheumatology): Natural selection and population history in the human angiotensinogen gene (AGT): 736 complete AGT sequences in chromosomes from

around the world . Am J Hum Genet 2004 ; 74 ( 5 ) : 898-916 .

- 3) Sakagami T<sup>1)</sup>, Witherspoon DJ<sup>2)</sup>, Nakajima T , Jinnai N<sup>3)</sup>, Wooding S<sup>2)</sup>, Jorde LB<sup>2)</sup>, Hasegawa T<sup>1)</sup>, Suzuki E<sup>1)</sup>, Gejyo F<sup>1)</sup>, Inoue I<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Internal Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University , <sup>2)</sup> Department of Human Genetics, University of Utah Health Sciences Center , <sup>3)</sup> Division of Genetic Diagnosis, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo ): Local adaptation and population differentiation at the interleukin 13 and interleukin 4 loci . Genes and Immunity 2004 ; 5 ( 5 ) : 389-397 .
- 4) Ishikawa C<sup>1)</sup>, Ozaki H<sup>2)</sup>, Nakajima T , Ishii T<sup>3)</sup>, Kanai S<sup>3)</sup>, Anjo S<sup>1)</sup>, Shirai K<sup>2)</sup>, Inoue I<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Clinical Pharmaceutics, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Toho University , <sup>2)</sup> Internal Medicine, Sakura Hospital, School of Medicine, Toho University , <sup>3)</sup> Department of Pharmacy, Faculty of Medicine, Sakura Hospital, Toho University , <sup>4)</sup> Division of Genetic Diagnosis, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo ): A frameshift variant of CYP2C8 was identified in a patient who suffered from rhabdomyolysis after administration of cerivastatin . J Human Genet 2004 ; 49 ( 10 ) : 582-585 .
- 5) Jinnai N<sup>1)</sup>, Sakagami T<sup>1)</sup>, Sekigawa T<sup>1)</sup>, Kakiyama M<sup>1)</sup>, Nakajima T , Yoshida K<sup>1)</sup>, Goto S<sup>1)</sup>, Hasegawa T<sup>2)</sup>, Koshino T<sup>3)</sup>, Hasegawa Y<sup>4)</sup>, Inoue H<sup>5)</sup>, Suzuki N<sup>2)</sup>, Sano Y<sup>6)</sup>, Inoue I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Genetic Diagnosis, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo , <sup>2)</sup> Division of Respiratory Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University , <sup>3)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, Graduate School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine, School of Medicine, Nagoya University, Nagoya , <sup>5)</sup> Research Institute for Diseases of the Chest, Faculty of Medicine, Kyushu University , <sup>6)</sup> Department of Allergy and Respiratory Medicine, Doai Memorial Hospital ): Polymorphisms in the prostaglandin E2 receptor subtype 2 gene confer susceptibility to aspirin-intolerant asthma : a candidate gene approach . Hum Mol Genet 2004 ; 13 ( 24 ) : 3203-3217 .
- 6) Yoneyama T<sup>1)</sup>, Kasuya H<sup>1)</sup>, Akagawa H<sup>1)</sup>, Onda H<sup>1)</sup>, Nakajima T , Hori T<sup>1)</sup>, Inoue I<sup>3)</sup>, Lee JC<sup>2)</sup>, Yang TK<sup>2)</sup>, Kim CJ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Women ' s Medical University , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Chonbuk National University , <sup>3)</sup> Division of Genetic Diagnosis, Institute of Medical Science, University of Tokyo ): Absence of Alpha-1 Antitrypsin Deficiency Alleles ( S and Z ) in Japanese and Korean Patients with Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage . Stroke 2004 ; 35 ( 12 ) : e376-e378 .
- 7) Onda M , Emi M , Yoshida A<sup>1)</sup>, Miyamoto S , Akaishi J , Asaka S , Mizutani K , Shimizu K<sup>2)</sup>, Nagahama M<sup>3)</sup>, Ito K<sup>3)</sup>, Tanaka T<sup>4)</sup>, Tsunoda T<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Kanagawa cancer center , <sup>2)</sup> Department of Surgery II, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Ito Hospital , <sup>4)</sup> Riken ): Comprehensive gene expression profiling of anaplastic thyroid cancers with cDNA microarray of 25, 344 genes . Endocrine-Related Cancer 2004 ; 11 ( 4 ) : 843-854 .
- 8) Fujita Y , Ezura Y , Bujo H<sup>1)</sup>, Nakajima T , Takahashi K<sup>2)</sup>, Kamimura K<sup>2)</sup>, Iino Y , Katayama Y , Saito Y<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Departments of Genome Research and Clinical Application, and, of Clinical Cell Biology, Chiba University Graduate School , <sup>2)</sup> Awa Medical Association Hospital ): Association of nucleotide variations in the apolipoprotein B48 receptor gene ( APOB48R ) with hypercholesterolemia . J Human Genet 2005 ; 50 ( 4 ) : 203-209 .

## (2) 総説 :

- 1) 音田正光 , 長幡武光 , 江見 充 : 多型性DNA マーカーによる乳癌の予後診断 . 乳癌の最新医療 2004 ; 69-71 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Onda M : Novel Molecular Prognostic Index for 5-years Prognosis of Breast Cancer . Annual meeting of American Association for Cancer Reserach ( Orland , FL , USA ) , 2004 . 3 .
- 2) 中島敏晶 : 世界の16集団における本態性高血圧感受性遺伝子アンジオテンシノーゲン遺伝子の連鎖不平衡 , ハプロタイプ解析 . 日本人類遺伝学会 , 2004 . 10 .

## [ 生体応答学部門 ]

### 研究概要

1. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で、慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究している。とくに自律神経の関連から検討している。従来は予想されていても実証できなかった交感神経神経の1Hz以下のゆらぎに高血圧、腎血流に関わる成分があることを発見した。このゆらぎは圧受容体反射とは独立であることを相互情報量解析で明らかにした。さらに、この遅い周期の交感神経活動が低次元カオスを起こして、心拍変動の1/fゆらぎを起こしていることも明らかにした。これにより武者らが心拍変動の1/fゆらぎを先駆的に報告して以来謎であったその機序が明らかにされた。高血圧の薬物療法は単に抹消血管を拡張させるだけではなく、中枢性に過度に興奮している交感神経系を抑制させる必要があると考え、その新しい枠組みを考案する予定である。
2. ラット延髄の交感神経の中核と想定される核の活動電位が自律的に興奮しているかどうかを非線形解析から明らかにする予定である。
3. ある現象がカオスかどうかを判定するのはむずかしい問題で、さまざまな検出方法が提案されている。筆者もこの問題に精力的に取り組んでいる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Osaka M, Watanabe M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Biomedical and Life Sciences, Glasgow University ): A modified Chua circuit simulates 1/f-fluctuation of heartbeat interval. International Journal of Bifurcation and Chaos 2004 ; 14 : 3449-3457 .
- 2) 大波敏子<sup>1)</sup>, 熊谷裕生<sup>1)</sup>, 佐方克史<sup>1)</sup>, 大坂元久, 滝本千恵<sup>1)</sup>, 飯ヶ谷嘉門<sup>1)</sup>, 猿田亨男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶応義塾大学医学部腎臓内科 ): アンジオテンシンII受容体遮断薬およびCa拮抗薬の慢性経口投与は、高血圧ラットの循環調節の高い線形性を低下させ、低い非線形性を亢進させる。循環制御 2004 ; 25 : 158-168 .

#### 著書

- 1) 大坂元久：〔分担〕人体のゆらぎと健康：ときめきは活性のサイン。多様性の起源と維持のメカニズム（吉田善章編集），2004；pp48-66，国際高等研究所学術出版。

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 大波敏子<sup>1)</sup>, 熊谷裕生<sup>1)</sup>, 滝本千恵<sup>1)</sup>, 佐方克史<sup>1)</sup>, 飯ヶ谷嘉門<sup>1)</sup>, 大坂元久, 猿田亨男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶応義塾大学医学部腎臓内科 ): 新しいカルシウム拮抗薬アゼルニジピンは、有意な降圧にもかかわらず高血圧自然発症ラットの心拍数と腎交感神経活動を抑制する。第27回日本高血圧学会総会，2004。10。
- 2) 大坂元久：心拍数の1/fゆらぎはChuaのカオス電気回路を応用して再現可能である。第41回日本臨床生理学会総会生体カオス研究会，2004。10。

〔 5 〕 そ の 他

# 1. 教育推進室

## 研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来3年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともに研究および業務内容は拡大しつつある。学外における医学教育に関するワークショップおよびセミナーに参加し新しい教育技法の理解、修得に努めている。

今年度は、Faculty Development (FD)の一環として第1回日本医科大学医学教育セミナー(新任・昇任教員のためのFD研修会)を開催した。また、教育活動・改革の方向性を明らかにするために、学生教育委員会との隔月の教育カンファランスを開催し学生の意見を集約している。平成16年1月より実施している学生による授業評価トライアルは中間・後期解析結果を報告した。これらの評価結果は教員に直ちにフィードバックされ、授業改善に結びつき、今年度より本施行になった。

一方新しい学習環境として、学生・研修医が様々な医療手技を体得するシミュレーション器具を取り揃えた臨床技能実習室(Clinical Simulation Laboratory)の来年度開設の準備を行った。また、教育推進室の中に模擬患者養成委員会を立ち上げ、本学独自の模擬患者を養成する制度を導入し臨床医学教育への活用を計画している。

学内の医学教育への具体的な活動内容については以下に列記する。

- (1) カリキュラム, 特に臨床系コース講義の評価と有機的な調整
- (2) 学生・教員を対象としたBSLに関するアンケート調査とその分析
- (3) 学生による授業評価の実施と解析
- (4) 医師国家試験対策
- (5) 総合試験制度の確立と運用
- (6) モデル・コア・カリキュラムと共用試験への対応
- (7) 医学教育の関する講演会の主催等のFD活動
- (8) 学長主催の医学教育セミナーの共催, 学内講演会と公開討論会の企画・立案
- (9) 学生教育委員会との教育カンファランス
- (10) 臨床技能実習室(Clinical Simulation Laboratory)の開設準備
- (11) 模擬患者養成委員会の立ち上げと模擬患者の養成

## 研究業績

### 論文

(1) 原著:

- 1) Yoshimura A, Gemma A<sup>1)</sup>, Kataoka K<sup>1)</sup>, Hosoya Y<sup>1)</sup>, Noro R<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Kokubo Y<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>4th Dept. Int Med): Mutational analysis of the macrophage scavenger receptor 1 (MSR1) gene in primary lung cancer. J Nippon Med Sch 2004; 71(2): 99-104.
- 2) Yoshimura A, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Fumimoto H<sup>1)</sup>, Fujiki Y<sup>2)</sup>, Eremenco S<sup>3)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>4th Dept. Int Med, <sup>2)</sup>Dep Resp Med, Saitama Med School, <sup>3)</sup>Evanston Northwestern Healthcare and Northwestern Univ): Cross-cultural validation of the Japanese Functional Assessment of Cancer Therapy-Anemia (FACT-An). J Nippon Med Sch 2004; 71(5): 314-322.
- 3) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 足立好司<sup>2)</sup>, 荒牧琢己, 清水一雄<sup>3)</sup>, 檀和夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>脳神経外科学, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>内科学第3): 医学部在学中の試験と医師国家試験の成績比較. 医学教育 2004; 35(4): 281-285.



- 4) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>3)</sup>, 荒牧琢己, 志村俊郎, 檀 和夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>脳神経外科学, <sup>4)</sup>内科学第3): 共用試験CBTとの比較による第4学年総合試験の評価. 医学教育 2004; 35(5): 331-336.

(2) 綜説:

- 1) Shimura T, Mori M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Sapporo Medical University School of Medicine): Series introduction: Recent topics in neurological disease. Med Electron Microsc 2004; 37: 199-199.
- 2) 吉村明修, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): 特発性肺線維症と肺癌. 日本医事新報 2004; 4206: 18-24.
- 3) 吉村明修: 比較的まれな腫瘍の診断と治療 II 細気管支肺胞上皮癌. 癌と化学療法 2004; 31(3): 318-321.
- 4) 吉村明修: 第3章 治療 化学療法の副作用間質性肺炎の現状と対策. 医学のあゆみ 別冊 2004; 415-418.
- 5) 吉村明修, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): ゲフィチニブ(イレッサ)に関する諸問題 ゲフィチニブに学ぶ: 医療者の立場から. 血液・腫瘍科 2004; 48(6): 598-602.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 宮下次廣<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 臨床医学教育の発展と課題(臨床教育の効用と課題: 法学と医学の比較検討). 早稲田大学臨床法学教育研究所主催, 2004. 7.
- 2) 志村俊郎, 清水一雄<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>放射線医学, <sup>3)</sup>脳神経外科): シンポジウム本学における医学教育モデル・コア・カリキュラムの導入状況と問題点. 第36回日本医学教育学会総会, 2004. 9.

(2) 一般講演:

- 1) Oyama K<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Tahara S<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Shimura T, Teramoto A<sup>1)</sup>: Management of Pituitary Incidentalomas. The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Ho Chi Minh City, Vietnam), 2004. 9.
- 2) 伊藤高司<sup>1)</sup>, 渡部 昇<sup>1)</sup>, 滋野恭子<sup>1)</sup>, 奥重秀彦<sup>1)</sup>, 殿崎正明<sup>2)</sup>, 佐久間康夫<sup>3)</sup>, 志村俊郎(<sup>1)</sup>情報科学センター, <sup>2)</sup>中央図書館, <sup>3)</sup>生理学第1): マルチメディアビデオシステムの運営. 第36回日本医学教育学会総会, 2004. 7.
- 3) 伊藤高司<sup>1)</sup>, 滋野恭子<sup>1)</sup>, 渡部 昇<sup>1)</sup>, 志村俊郎(<sup>1)</sup>情報科学センター): Webベース教育支援システムの導入と評価. 第36回日本医学教育学会総会, 2004. 7.
- 4) 高柳和江<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>医療管理学, <sup>2)</sup>内科学第2): 医療面接の評価者の教育について. 第36回日本医学教育学会総会, 2004. 7.
- 5) 阿曾亮子, 廣田 薫<sup>1)</sup>, 大橋和史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>ワクチン療法研究施設, <sup>2)</sup>薬理学): 医学生自身が被験者となる臨床薬理学実習の教育効果: 腎臓に作用する薬物を用いた作用(薬効)評価と安全性. 第25回日本臨床薬理学会年会, 2004. 9.
- 6) 阿曾亮子, 廣田 薫<sup>1)</sup>, 大橋和史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>ワクチン療法研究施設, <sup>2)</sup>薬理学): 日本医科大学付属4病院薬物治験審査委員会(IRB)年間報告(平成15年度). 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 7) 吉村明修, 志村俊郎, 国信浩洋<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 明楽重夫<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>4)</sup>, 宮下次廣<sup>5)</sup>, 後藤 忠<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>ドイツ語, <sup>2)</sup>解剖学第1, <sup>3)</sup>産婦人科学, <sup>4)</sup>外科学第2, <sup>5)</sup>放射線医学): 学生による授業評価トライアル中間解析結果. 第72回日本医科大学医学会総会, 2004. 9.
- 8) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 荒牧琢己, 志村俊郎, 檀 和夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>脳神経外科学, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>内科学第3): 共用試験CBTトライアルと学内総合試験の成績相関: 日本医科大学における2年間の経験. 第36回日本医学教育学会総会, 2004. 9.
- 9) 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 吉村明修, 山本保博<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 宮下次廣<sup>4)</sup>, 新田 隆<sup>3)</sup>, 後藤 忠<sup>5)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>放射線医学, <sup>5)</sup>解剖学第1): 本学の卒前・後の

救急医学教育における脳卒中カリキュラムの検討：私立医科大学のシラバスと対比して．第63回社団法人日本脳神経外科学会総会，2004．10．

- 10) 折茂英生<sup>1)</sup>，志村俊郎，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 日本の医学部・医科大学における栄養学教育：全国アンケート調査より．第26回臨床栄養学会，2004．10．
- 11) 後藤 忠<sup>1)</sup>，石川朋子<sup>1)</sup>，羅 善順<sup>1)</sup>，森 美貴<sup>1)</sup>，瀧澤敬美<sup>1)</sup>，志村俊郎，瀧澤俊広<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第1): 日本医科大学における分子解剖学全授業のアンケート調査．第110回解剖学会総会，2005．3．

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成 16 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究代表者	所属・職	決定額： 千円	研究課題
特定領域研究(2)		池島三与子	生化学第二・講師	4,000	MutS ヘテロダイマーによるミスマッチ認識機構の解析
"		西野 武士	医科生物化学・大学院教授	3,800	金属が関与するセンサーとスイッチのケミカルバイオロジー
"		西野 武士	医科生物化学・大学院教授	13,800	活性酸素種による遺伝子発現誘導の分子基盤
"		江見 充	分子生物学・大学院教授	12,200	体系的遺伝子異常解析に基づく乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断法の開発
"		島田 隆	分子遺伝医学・大学院教授	11,000	HIV ベクターの開発 グループ1CD1 トランスジェニックマウスを用いた結核菌感染防御生体反応の解析
"		田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	4,600	p53 による癌抑制機構及び癌化に伴って p53 を抑制する機構の解析
"		佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	24,000	自己脂質および細菌脂質に対応する, CD1 依存性獲得免疫システムの構築基盤の解明
基盤研究(A)(2)	一般	西野 武士	医科生物化学・大学院教授	5,200	ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析
基盤研究(B)(2)	一般	佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	3,000	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明
"	"	島田 隆	分子遺伝医学・大学院教授	3,400	エストロゲン反応性に見られる脳の性差の細胞生理学基盤の解明
"	"	百束 比古	形態機能再生再建医学(形成外科学)・大学院教授	1,700	遺伝子導入及び幹細胞移植技術を応用した遺伝性神変性疾患の治療法の開発
"	"	太田 久彦	医療管理学・講師	3,800	ケロイド及び肥厚性瘢痕の分子病態と制御遺伝子の解明 無瘢痕外科治療をめざし
"	"	大久保善朗	精神行動医学・大学院教授	3,400	アウトカム評価による脳卒中治療品質の改善のための介入策の研究・開発
"	"	寺本 明	神経病態解析学・大学院教授	1,900	CD1・脂質抗原提示系に着目した, 新しい抗結核ワクチンの開発
"	"	八木 聡明	頭頸部・感覚器科学・大学院教授	3,400	統合失調症の進行性増悪課程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究
"	"	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	5,300	低酸素刺激による下垂体腺腫の出血機序の分子生物学的解明
"	"	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	5,400	体系的遺伝子多型の探索と連鎖不平衡解析に基づく骨粗鬆症の感受性遺伝子の同定と解析
"	"	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	5,400	前庭性眼振はリスティングの法則に従うか
"	"	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	5,400	癌抑制転写因子 p53 によるアポトーシスの制御を介した癌抑制機構の解析

	"	"	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	7,400	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による脳梗塞治療法の開発
	"	"	瀧澤 俊広	機能形態学・大学院教授	4,600	胎盤における IgG 輸送の鍵となる型 Fc 受容体を含む新しい細胞内小器官の解析
基盤研究(CX1)	一般		宮本 正章	内科学第一・助教授	700	スーパーアポトーシス抑制因子PTD-FNK 蛋白を用いたバイオ人工臓の開発
	"	"	隈崎 達夫	臨床放射線医学・大学院教授	2,500	シルクセリンによるスーパーハイブリッド徐放薬物伝達システム開発の基盤研究
基盤研究(CX2)	一般		岡 敦子	生物学・教授	800	消化管上皮の再構築に関わる結合組織由来因子の機能的解析
	"	"	吾妻安良太	内科学第四・講師	800	インターフェロン 及び の間質性肺炎・肺線維症の細胞内抑制機序に関する研究
	"	"	麻生 定光	生化学部門・助教授	800	アポトーシス抑制蛋白質改良型の投与による虚血性神経細胞死抑制と治療への適用
	"	"	緒方 清行	内科学第三・助教授	700	骨髄異形成症候群芽球の生物学的特性の解明(新規な芽球精製法を用いた解析)
	"	"	芝崎 保	生体統御科学・大学院教授	700	GH 分泌惹起物質受容体発現抑制トランスジェニックラットを用いた同受容体の機能解明
	"	"	高橋 弘	脳神経外科学・教授	1,000	DNA マイクロアレイによるインターフェロン抗脳腫瘍効果に果たすシグナル伝達の解析
	"	"	吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	800	GFP 遺伝子導入ヒトグリオーマ細胞を用いた脳腫瘍モデルでの抗微小管剤の研究
	"	"	山口 文雄	脳神経外科学・講師	700	神経膠細胞の腫瘍化における FGFR2 の機能解明
	"	"	大山 健一	脳神経外科学・助手	600	脳下垂体腫瘍における各種視床下部ホルモン受容体発現の解析
	"	"	金 徹	麻酔科学・助手	700	呼吸性末梢受容体(頸動脈小体)における酸素感知機構の解明
	"	"	大久保公裕	耳鼻咽喉科学・助教授	700	Explant Culture を用いた鼻アレルギー過敏性亢進の制御法の開発
	"	"	野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	1,100	線維芽細胞の慢性副鼻腔炎における炎症を誘導する細胞としての重要性の解明
	"	"	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・講師	900	COCH 遺伝子プロモーターを用いた新たな内耳特異的遺伝子治療法の開発
	"	"	水野 博司	形成外科学・講師	600	脂肪由来間葉系幹細胞(仮称)による3次元大型脂肪組織の再生構築
	"	"	大澤 郁朗	生化学部門・講師	900	アポトーシス抑制蛋白サバイビンの脳神経細胞生存維持における役割
	"	"	Parhar. S. Ishwar	生理学第一・講師	1,000	脳内移動型および非移動型 GnRH ニューロンにおける新規遺伝子の単離
	"	"	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	900	パーフォリンノックアウトマウスを用いる有機リン農薬による免疫機能低下の機序の検討

	"	"	林田真喜子	法医学・助手	800	脳死判定と薬物に関する臨床法 医中毒学的アプローチ
	"	"	石渡 俊行	病理学第二・助教授	700	線維芽細胞増殖因子(FGF)7と FGF-10による臍組織再生誘導 の研究
	"	"	清野 精彦	内科学第一・助教授	1,200	Fabry病に対するAAVベク ターを用いた酵素補充遺伝子治 療
	"	"	平山 悦之	内科学第一・助手	1,500	マウス胚性幹細胞から再生され た心筋の電気生理学的検討
基盤研究(C)(2)	一般		弦間 昭彦	内科学第四・助教授	1,500	樹立したヒト肺癌高転移株高転 移能の解明と関連分子を用いた 診断治療法の開発
	"	"	内海 甲一	内科学第二・助手	1,200	ファブリー病における腎不全発 症進展の病態解明と酵素補充療 法の評価法の開発
	"	"	神谷 達司	内科学第二・講師	1,400	PARPを介するアポトーシスに よる神経細胞死のメカニズムの 解明
	"	"	山崎 峰雄	内科学第二・助手	1,200	皮質基底核変性症と進行性核上 性麻痺の比較臨床分子病理学的 研究
	"	"	及川 眞一	内科学第三・教授	1,600	新しい糖尿病発症機序とその治 療：酸化変性リポ蛋白のインス リン分泌障害とその解除
	"	"	亀谷 純	内科学第三・講師	1,400	下垂体グレリンの生理的意義
	"	"	猪口 孝一	内科学第三・助教授	800	Gap-Rac, CalB等領域機能解析 と各サブタイプ Bcr/Abl Tgマ ウス
	"	"	檀 和夫	病能制御腫瘍内科学・大学 院教授	900	MLL/AF4の癌化メカニズムと 分子標的薬の開発
	"	"	永島 正一	リウマチ科・助教授	1,100	血管新生抑制遺伝子導入による 関節リウマチ遺伝子治療の基礎 的研究
	"	"	中島 敦夫	リウマチ科・助教授	1,300	自己免疫疾患における免疫抑制 性分子の機能解析とその制御
	"	"	丸 栄一	生理学第二・助教授	1,100	欠神発作の発生における過分極 賦活型チャンネルの役割に関する 実験的研究
	"	"	渡邊 淳	生化学第二・助手	1,100	神経型 Gaucher 病治療に向けた 膜透過ペプチド融合酵素による 脳内移行性の解析
	"	"	川名 誠司	皮膚粘膜病態学・大学院教 授	1,500	毛周期の制御にCRHの果たす 役割の解明 CRHノックアウト マウスを用いて
	"	"	山岡 淳一	皮膚科学・講師	1,100	レドックス動態解析による皮膚 炎症発症メカニズムの解明
	"	"	田島 廣之	放射線医学・教授	500	致死的深部静脈血栓症に対する 血栓溶解破砕吸引療法の基本並 びに臨床応用に関する研究
	"	"	保坂 純郎	放射線医学・講師	800	下肢静脈瘤に対するインターベ ンション血管閉塞療法の基礎的 検討と臨床応用法の確立
	"	"	林 宏光	放射線医学・助教授	300	異種造影剤の直接混合による配 合変化とその同時投与が腎機能 に与える影響に関する研究

		石原 圭一	放射線医学・講師	700	糖尿病性心筋症ラットを用いた Tc-99mMIBI 洗い出し率に関する研究
		清水 一雄	機能制御再生外科学・大学院教授	1,300	内分泌頸部外科における整容面を重視した低侵襲手術の確立
		内藤 善哉	統御機構病理学・大学院教授	900	膝癌，随伴性膝炎における Lumican の役割と応用
		横室 茂樹	外科学第一・助手	1,000	胆管癌治療に対するサイトカイン IL-6，HGF，TGFB1 の応用
		北村 晶	麻酔科学・講師	1,600	シングルチャネル解析からみた麻酔薬のイオンチャネルへの作用と臨床効果への考察
基盤研究(C)(2)	一般	小林 徳行	麻酔科学・助手	1,200	肺低酸素感受機構におけるカリウムチャネルの役割の解明
		中井 章人	産婦人科学・助教授	900	脳神経発達障害におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割に関する研究
		米山 剛一	産婦人科学・講師	1,100	血管新生抑制因子エンドスタチンを用いた卵巣癌遺伝子治療への戦略
		米山 芳雄	産婦人科学・助教授	1,500	アデノシン代謝が閉経後の血小板 P-selectin 発現におよぼす影響
		Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科学・講師	1,300	Genechip を用いた鼻アレルギー・鼻茸における肥満細胞の新たな役割の解析
		土佐眞美子	形成外科学・助手	1,200	ケロイド発生における Wnt シグナル分子機構の解明と新しい分子標的治療に関する研究
		村上 正洋	形成外科学・講師	800	皮下脂肪由来組織幹細胞の分化制御による軟骨組織生体内立体再生
		二宮 宣文	救急医学・助教授	700	エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおける内因性カンナビノイドの関与
		原 行弘	リハビリ・助教授	2,700	片麻痺に対するハイブリッド・パワーアシスト治療的電気刺激
		高市 真一	生物学・助教授	1,000	カロテノイド成分・遺伝子から見た光合成細菌からシアノバクテリアへの進化
		加藤 昌克	生理学第一・助教授	2,200	GnRH ニューロンにおける GABA 作用とニューロステロイドによる修飾
		木山 裕子	生理学第一・講師	1,300	ゲノム構築から捉えた発生段階特異的ヒト・グロビン鎖合成スイッチング機構の解析
		佐藤(折笠)千登世	生理学第一・助手	1,100	脳部位特異的に発現するエストロゲン受容体サブタイプの遺伝子発現と機能
		鈴木 秀典	神経情報科学・大学院教授	1,500	新規気分障害治療薬開発を志向した霊長類中枢タキキニン作動性神経伝達に関する研究
		川田 智之	環境医学・大学院教授	3,300	携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究
		仁平 信	法医学・助教授	1,200	アルコール・覚醒剤複合中毒における死後経過時間と薬物濃度の関連

	"	"	坂本 長逸	内科学第三・教授	2,100	消化管における COX2 を介した heregulin 発現と erbB2 リン酸化の役割
	"	"	奥村 敏	内科学第一・助手	1,000	アデニル酸シクラーゼサブタイプによる心機能調節とその選択的抑制薬による心不全治療
	"	"	白杵 二郎	内科学第四・講師	1,000	Smad タンパクの細胞内導入による肺線維化の制御
	"	"	福田 悠	解剖人体病理学・大学院教授	2,600	特発性間質性肺炎における線維芽細胞増殖因子 (FGF)10,7 の役割
基盤研究(CX2)	一般		片山 泰朗	神経・腎病態内科学・大学院教授	2,400	超軽微低体温 (35 ) の神経保護作用のメカニズムの解析 生存シグナル増強作用
	"	"	小川 俊一	小児科学・助教授	2,100	交感神経の血管トーン血管再構築におよぼす効果と除神経による影響
	"	"	上砂 光裕	小児科学・講師	900	プロテインチップを用いた川崎病の原因蛋白質, 冠動脈病変発症に関わる蛋白質の探求
	"	"	今城 俊浩	疫学部門・助教授	1,800	慢性疼痛ストレスの病態に關与する新規遺伝子のクローニング
	"	"	渡辺 昌則	消化器病センター・講師	800	線維芽細胞増殖因子受容体 KGFR の遺伝子発現制御による大腸癌分子標的治療の可能性
	"	"	木山 輝郎	外科学第一・講師	2,000	胃切除後の身体構成変動におけるグレリンの病態意義
	"	"	鈴木 成治	消化器, 乳腺, 一般, 呼吸器, 血管外科・助手	1,000	胃癌組織の定量的 PCR 法を用いた特定分子標的領域 DNA コピー数の迅速定量法の開発
	"	"	吉田 寛	外科学第一・講師	1,700	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝線維化および再生に及ぼす影響
	"	"	田尻 孝	臓器病態制御外科学・大学院教授	2,200	マウス TGF レセプターターゲット RNAi による慢性肝障害の遺伝子治療
	"	"	工藤 光洋	病理学第二・助手	1,000	-細胞への分化能を有する脾内外の progenitor cell の同定とその応用
	"	"	菅野 重人	外科学第二・講師	1,500	虚血心筋における不整脈発生のメカニズム
	"	"	新田 隆	外科学第二・助教授	2,300	左心房容量負荷モデルにおける肺静脈の電気生理学的特性
	"	"	輪嶋善一郎	麻酔科学・講師	2,300	喫煙者・慢性閉塞性肺疾患に対する至適麻酔法の検討 周術期予後を改善させるために
	"	"	中西 一浩	麻酔科学・講師	2,400	虚血再灌流時における炎症性メディエーターと心機能障害との関連
	"	"	西村 泰司	外科治療学 (泌尿器外科学)・大学院教授	1,800	ホルモン不応性前立腺癌増殖に対する Cdc25 蛋白質の役割の究明
	"	"	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	1,800	胎児脳および冠微小循環障害におけるアデノシンによる虚血部位のサルベージ
	"	"	渡邊 健一	耳鼻咽喉科学・講師	1,500	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による新たな内耳保護治療法の開発



	"	相田 瑞恵	耳鼻咽喉科学・助手	2,000	鼻茸の発生機序における T 細胞の新たな機能の解析
	"	岩切 致	形成外科学・助手	1,800	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発
萌芽研究		川並 汪一	分子細胞構造学・大学院教授	1,000	ヒト気道 肺胞上皮系における幹細胞の免疫組織学的同定と分離培養
	"	佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	2,300	逆行性標識タンパク質特異的発現を利用した GnRH 分泌調節回路の可視化
	"	右田 真	小児科学・助教授	1,200	造血幹細胞の生着のメカニズムの解明
萌芽研究		横田 裕行	救急医学・助教授	1,000	ポテンシャルドナーを増やすための電気生理学的検査を用いた脳死判定に関する研究
	"	竹下 俊行	女性生殖発達病態学・大学院教授	1,300	自己抗原解析を中心とした子宮内膜症の病態プロテオミクス
	"	瀧澤 俊広	機能形態学・大学院教授	1,900	胎盤における IgG 輸送機構の鍵となる Fc 受容体のディファレンシャル解析
若手研究 (B)		高野 仁司	内科学第一・助手	900	経皮的 iNOS 遺伝子治療による心筋梗塞塞縮小効果の研究
	"	井村 純	皮膚科学・助手	800	新生児・アトピー性皮膚炎バリアー機構における Cohort 調査
	"	眞野あすか	生理学第二・助手	800	不安調節機構におけるニューロステロイド及び不安関連神経ペプチドの役割の解析
	"	中村 恭子	内科学第三・助手	500	微小残存白血病細胞 (MRD) の生物学的特性 (MRD の質と白血病再発との関連)
	"	田村 秀人	内科学第三・助手	400	白血病における新規の補助刺激分子 B7-H1, B7-H2, B7-H3 の発現と機能
	"	平井 恭二	外科学第二・助手	500	ヒト非小細胞肺癌における ALCAM/CD166 の発現の意義について
	"	中嶋 祐作	整形外科科学・助手	800	ヒト骨軟部悪性腫瘍の永久保存と抗癌剤感受性試験の確立及びその臨床応用
	"	斉藤 明彦	耳鼻咽喉科学・助手	1,000	外リンパ特異的蛋白を用いた新しい外リンパ瘻診断法の開発
	"	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・講師	700	ヒト舌筋の機能解剖学および機能生理学的研究
	"	濱田 知宏	生理学第一・助手	1,000	雌性行動神経回路を構成し可視化した視床下部ニューロンに対するエストロジェンの作用
	"	岩崎 俊雄	生化学第一・講師	900	超好熱菌の新規呼吸鎖複合体 II のサブユニット会合に伴う機能変換
	"	佐藤(織田) 恵理	免疫部門・講師	1,700	細胞周期制御の破綻時における p53 によるアポトーシス誘導機構の解析
	"	宮内 靖史	内科学第一・助手	800	高齢ラットにおける肺静脈心筋細胞異常自動能発生のメカニズムの解明
	"	功刀しのぶ	病理学第一・助手	900	MMP-2 欠損型マウスを用いた創傷治癒過程における肺胞上及遊走機序の解明

"	田村 秀樹	内科学第三・助手	1,600	摂食関連ペプチドによる成長ホルモンの分泌調節
"	田野崎 栄	内科学第三・助手	800	C/EBP の造白血病機能解析：ヒト試料および遺伝子改変マウスを用いて
"	川瀬里衣子	産婦人科学・助手	1,300	更年期障害患者に対する至適栄養・運動処方指針の開発
"	酒主 敦子	耳鼻咽喉科学・助手	1,400	好酸球性中耳炎における好酸球浸潤機序の解明
"	森 幸子	耳鼻咽喉科学・助手	1,300	鼻アレルギーにおけるマトリックスメタロプロテアーゼの新たな役割
若手研究(B)	新藤 晋	耳鼻咽喉科学・助手	1,100	新たな内耳疾患予防・治療法 HSP 誘導剤による内耳保護作用の検討
"	堀 純子	眼科学・助教授	1,300	角膜移植における抗原提示細胞の機能解析と不活性化抗原提示細胞の移入による免疫調節
"	松井 洋法	眼科学・助手	2,000	正常ラットと糖尿病モデルラットの網膜から採取した毛細血管細胞の研究
"	飛梅 圭	免疫部門・講師	1,600	アポトーシス促進 Bc1-2 分子 Bax のミトコンドリア移行制御機構の解明
"	西川 純恵	英語・助手	800	対照修辞学に立脚した日本人向け英文ライティング教授法とモデル教材開発のための研究
"	松村 智裕	生化学第一・助手	1,400	モリブデン酵素の活性化を調節する新規タンパク質の反応機構
"	上村 尚美	生化学部門・助手	1,200	核遺伝子産物 MIDAS によるミトコンドリア増殖機構の解明
"	清家 正博	内科学第四・講師	2,700	肺癌治療におけるゲフィチニブ感受性予測法の開発
"	中山 智子	病理学第一・助手	2,100	特発性間質性肺炎における転写因子 foxF1 と MMP/TIMP の検討
"	山口 博樹	内科学第三・助手	2,600	骨髄不応性疾患におけるテロメラーゼ複合体遺伝子群の塩基配列変異の関連性について
"	初鹿野見春	小児科学・助手	1,500	妊婦の受動・能動喫煙に起因する子宮内胎児発育抑制のメカニズム
"	河野美乃里	皮膚科学・助手	1,800	毛包における神経内分泌ペプチドの発現部位とその働きを解明する
"	下田 貴子	皮膚科学・助手	1,500	ストレス負荷による皮膚肥満細胞脱顆粒現象の病態の解明
"	堺 則康	皮膚科学・講師	1,800	RNA 干渉を利用した常染色体優性遺伝性皮膚疾患に対する遺伝子治療
"	二神 綾子	皮膚科学・講師	1,800	ケロイド発生における COX-2 発現の役割および COX-2 特異的阻害剤の効果
"	根本 崇宏	生理学第二・助手	1,500	神経性食欲不振症における中枢神経系機能異常への神経細胞オートファジー関与の解明
"	舘野 周	精神医学・助手	1,300	PET・SPECT を用いたうつ病の認知機能及び末梢性ベンゾジアゼピン受容体の研究

"	市川 和雄	放射線医学・助手	900	フラットパネルディテクタ検出型コーンビームCTの物理特性に関する基礎的研究
"	中條 秀信	放射線医学・助手	1,600	心筋SPECTおよびCT冠動脈造影を用いた三次元画像統合アプリケーションの開発
"	吉野 雅則	消化器病センター・助手	800	線維芽細胞増殖因子受容体KGFRのmRNAレベルでの阻害による大腸癌分子標的治療
"	大森 裕也	外科学第二・助手	600	光学的マッピングを用いた左心房容量負荷心房細動モデルの電気生理学的検討
若手研究(B)	金 景成	脳神経外科学・助手	1,200	下垂体腺腫における低酸素関連因子によるVEGF発現調節に関する研究
"	田原 重志	脳神経外科学・助手	1,900	下垂体腺腫におけるPPARの発現と下垂体の機能分化に関わる転写因子との関連
"	金 恩京	病理部門・講師	2,000	関節リウマチ肺における血管内皮細胞の役割とトロロピンの関与
"	黒瀬 圭輔	産婦人科学・助手	2,000	子宮内膜癌発癌過程における腫瘍上皮細胞および間質細胞の遺伝学的変化の解析
"	小原澤英彰	眼科学・講師	1,300	糖尿病網膜症での新生血管発生の予防法の開発

2. 平成16年度文部科学省研究費補助金(分担研究)の採択・交付状況

研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研究課題名
1 仁平 信 法医学	基盤研究B(1)	影浦 光義 福岡大学医学部	薬物毒鑑定の精度管理、信頼性確保のための戦略研究
2 太田 成男 老人病研究所	特定領域研究	林 純一 筑波大学生物科学系	ミトコンドリア tDNA 遺伝子突然変異に導入マウスの病態解析と遺伝子治療
			補助金合計額 6,100,000 円

3. 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金(主任研究・分担研究)の交付状況

研究者・所属	主任 分担	研究事業名・主任研究者・所属	研究課題名
1 Ishwar S. Parhar 生理学第一	分担	化学物質リスク研究事業 井上 達・国立医薬品食品衛生研究所	内分泌かく乱化学物質の主体影響メカニズム
2 芝崎 保 生理学第二	主任	難治性疾患克服研究	中枢性摂食異常症に関する調査研究
3 芝崎 保 生理学第二	分担	長寿科学総合研究 寒川賢治・国立循環器病センター	高齢者のソマトポーズとエネルギー代謝に及ぼす新規ホルモンレリンの役割と臨床
4 福田 悠 病理学第一	分担	難治性疾患克服研究 貫和敏博・東北大加齢医学研	びまん性肺炎患調査研究
5 及川 真一 内科学第三	分担	難治性疾患克服研究 齋藤 康・千葉大学大学院医学研究科	原発性高脂血症に関する調査研究
6 及川 真一 内科学第三	分担	長寿科学総合研究 井藤英喜・東京都多摩老人医療センター	高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較試験
7 及川 真一 内科学第三	分担	循環器疾患等総合研究 山田信博・筑波大学院人間総合科学研究科	糖尿病における血管合併症の発症予防と進展抑制に関する研究
8 工藤 翔二 内科学第四	主任	難治性疾患克服研究	突発性間質性肺炎の画的治療法に関する臨床研究
9 吉村 明修 内科学第四	分担	第3次対がん総合戦略研究事業	革新的な診断技術を用いたこれからの肺癌検診手法の確立に関する研究
10 吾妻安良太 内科学第四	分担	難治性疾患克服研究 貫和敏博・東北大加齢医学研	びまん性肺炎患調査研究
11 福永 慶隆 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業 三池輝久・熊本大学医学部	引きこもりにつながる小児慢性疲労、不登校の治療・予防に関する臨床的研究
12 福永 慶隆 小児科学	分担	特定疾患対策研究事業 宮脇利男・富山医科薬科大学医学部	原発性免疫不全症候群に関する調査研究
13 大木由加志 小児科学	分担	小児疾患臨床研究事業 松浦信夫・聖徳大学人文学部	小児2型糖尿病に対する経口血糖降下薬治療のエビデンスの確立
14 大久保善朗 精神医学	主任	こころの健康科学研究事業	神経伝達機能イメージングを用いた機能性精神疾患の治療効果の客観的評価法および診断法の確立に関する研究
15 寺本 明 脳神経外科	分担	難治性疾患克服研究 千原和夫・神戸大学医学部	間脳下垂体機能障害に関する調査研究
16 寺本 明 脳神経外科	分担	がん研究助成金 塚田俊彦・国立がんセンター	難治性内分泌腫瘍の最適な治療法の確立に関する研究
17 朝倉 啓文 産婦人科学	分担	子供家庭総合 橋本武夫・聖マリアンナ医科大学	妊娠出産の快適正確確保のための諸問題の研究

18	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	主任	免疫アレルギー疾患予防・治療	花粉症のQOLから見た各種治療法の評価と新しい基礎的研究
19	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	分担	免疫アレルギー疾患予防・治療 岡本美孝・千葉大学医学部	小児アレルギー性鼻炎の成人への移行を阻止するための治療法の確立に関する研究
20	池園 哲郎 耳鼻咽喉科学	分担	難治性疾患克服研究 高橋正紘・東海大学医学部	前庭機能異常に関する調査研究
21	池園 哲郎 耳鼻咽喉科学	主任	感覚器障害研究事業	内耳プロテオーム解析を応用した外リンパ瘻の新たな診断法の開発・治療指針の作成
22	大庭 建三 付属病院老人科	分担	長寿科学総合研究事業 井藤英善・東京都多摩老人医療センター	高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較試験
23	山本 保博 救急医学	主任	振興・再興感染症研究事業	国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究
24	山本 保博 救急医学	分担	特別研究事業 柳川 洋・埼玉県立大学	東北北陸等での急性脳症多発事例にかかわる研究
25	横田 裕行 救急医学	主任	ヒトゲノム・再生医療等研究事業	臓器提供施設内における脳死判定に関する研究
26	横田 裕行 救急医学	主任	ヒトゲノム・再生医療等研究事業	脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究
27	益子 邦洋 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業 島崎修次・杏林大学医学部	救命救急センターにおける避け得た外傷死の実態とその要因調査のための研究
28	益子 邦洋 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業 小濱啓次・川崎医科大学	ドクターヘリの実態と評価に関する研究
29	太田 成男 老人病研究所	分担	長寿医療研究委託事業 下方浩史・国立長寿医療センター	疫学研究による老年病発症予測に関する縦断的研究
30	太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患研究委託事業 清水輝夫・帝京大学医学部	筋ジストロフィーに関連する疾患の病態解明と治療法の開発に関する研究
				補助金合計額 222,540,000 円

#### 4. 平成16年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況

研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1 Ishwar S. Parhar 生理学第一	笹川科学研究助成	研究助成	レーザーキャプチャーマイクロダイセクション法を用いた単一GnRHニューロンにおけるGnRH受容体遺伝子の発現解析
2 芝崎 保 生理学第二	(財)喫煙科学研究財団	研究助成	コチチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討
3 真野あすか 生理学第二	成長科学協会	自由課題研究	中枢神経系及び末梢組織のグレリン及びその受容体のエネルギー代謝調節機構における役割の解明
4 川田 智之 衛生学・公衆衛生学	喫煙科学研究財団	研究助成	喫煙者における臨床検査値の特徴に関する研究
5 李 卿 衛生学・公衆衛生学	農林水産省	委託研究	森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明
6 廣畑 泰久 中央電子顕微鏡研究施設	三菱化学技術研究センター	研究助成	医学生物計試料の電顕観察における前処理技術

7	奥村 敏 千葉北総病院内科	木村記念循環器財団	研究助成	心臓特異的発現を示す 5 型アデニル酸シクラーゼの自律神経にはたす役割
8	奥村 敏 千葉北総病院内科	竹田科学振興財団	研究助成	心不全発症における 5 型アデニル酸シクラーゼの自律神経にはたす役割と新しい心不全薬の開発
9	片山 泰朗 内科学第二	国立循環器病センター	研究委託	MRI による脳虚血急性期治療の評価法の開発、超急性期虚血性脳血管障害に対する非侵襲的診断・モニタリングシステムに関する研究
10	永島 正一 付属病院リウマチ科	骨粗鬆症財団	研究助成	骨組織共存下における関節リウマチ滑膜細胞の研究
11	工藤 翔二 内科学第四	喫煙科学研究財団	研究助成	突発性肺線維症における発癌機序の研究
12	工藤 翔二 内科学第四	東京都健康局 (特殊疾病専門研究)	研究助成	都内呼吸器系 5 疾患認定患者の実態調査に関する研究
13	工藤 翔二 内科学第四	環境再生保全機構 第 6 期大気汚染による健康影響に関する総合的研究	研究助成	気管支喘息等の発症・増悪リスクとしての環境要因の寄与の程度に関する研究
14	木田 厚瑞 内科学第四	環境再生保全機構	研究助成	高齢の COPD 患者の早期診断、早期治療による発症予防のための地域連携の進め方
15	黒瀬 圭輔 産婦人科学	神澤医学研究振興財団	研究助成	発癌過程における腫瘍上皮細胞および間質細胞の遺伝学的変化
16	大庭 建三 付属病院老人科	日本動脈硬化予防研究基金	研究助成	高齢者高血圧コホート研究
17	鈴木 達也 付属病院老人科	日本漢方医学研究所	研究助成	高齢者痴呆に対する釣藤散及び牛車腎気丸の認知機能に対する改善効果の検討
18	伊藤 博元 整形外科	高橋産業経済研究所	研究助成	自家細胞を用いた骨再生・再建における微弱電磁波の研究
19	益子 邦洋 救急医学	消防防災科学技術研究推進制度	委託研究	ヘリコプター救急体制構築による交通事故死者削減効果に関する研究
20	田中 信之 老人病研究所	車輛競技公益資金記念財団	研究助成	癌抑制因子 p53 の新たな細胞抑制機構の解析
21	田中 信之 老人病研究所	三菱財団	研究助成	タンパク質分解系による癌化及び癌抑制の制御機構の解析
22	田中 信之 老人病研究所	(財)病態代謝研究会	研究助成	p53 及び Bc1-2 ファミリー分子による癌化の抑制機構の解析
				研究助成金額合計 87,400,000 円

5.平成16年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成16年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
科学研究費補助金			
交付金額		310,800	310,800
私立大学教育研究高度化推進特別補助（文部科学省執行分）			
大学院高度化推進特別経費			
1 大学院整備重点化経費			
教育研究拠点大学院重点経費		415,922	415,922
研究科特別経費			
研究科分	33,000	27,000	60,000
学生分	11,900	11,900	23,800
研究科共同研究経費			
特別研究学生経費		708	708
外国人研究員等特別招聘経費			
短期	217	217	434
長期			
2 ティーチング・アシスタント経費	5,200	4,200	9,400
3 教育研究機能活性化特別経費		5,900	5,900
学術研究推進特別経費			
1 学術研究高度化推進経費			
ハイテク・フロンティア等経費			
ハイテク・リサーチ・センター整備事業	43,700	43,700	87,400
学術フロンティア推進事業	48,800	48,700	97,500
産学連携研究推進経費	20,000	20,000	40,000
共同研究経費			
新技術開発研究	8,500	11,500	20,000
2 特許化推進経費			
3 リサーチ・アシスタント，ポスト・ドクター等支援経費			
リサーチ・アシスタント，ポスト・ドクター			
リサーチ・アシスタント	32,000	35,200	67,200
ポスト・ドクター	12,550	13,700	26,250
大学教育高度化推進特別経費			
高等教育研究改革推進経費	13,465	9,000	22,465
1 教育・学習方法等改善支援経費			
多元的評価	847	500	1,347
2 教養教育改革推進経費			
3 海外研修派遣	1,365	1,362	2,727
4 国際シンポジウム開催			
5 国際化教育			
外国人教員による教育		900	900
高度情報化推進特別経費			
1 情報通信設備（借入）	2,827	2,800	5,627
2 教育学術情報ネットワーク			
教育学術情報ネットワーク	59,338	48,500	107,838

3	教育学術コンテンツ			
	教育研究用ソフトウェア	17,640	14,200	31,840
	教育学術情報データベース等の開発	13,150	13,100	26,250
4	教育研究情報利用経費	8,058	6,100	14,158
	合計	332,557	735,109	1,067,666
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）				
	生涯学習推進特別経費			
	個性化推進特別経費			
	大学院基盤整備経費		119,484	119,484
	少人数教育の推進		6,000	6,000
	外国人留学生の受入れ		2,395	2,395
	研究施設	31,759	31,600	63,359
	大型設備等	506,059	14,800	520,859
	合計	537,818	174,279	712,097
私立大学等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）				
教育研究装置整備費補助				
	研究装置	92,108	92,107	184,215
	教育装置	23,363	23,362	46,725
	研究設備	8,383	11,067	19,450
	合計	123,854	126,536	250,390
未来開拓学術研究費（文部科学省研究振興局振興企画課）				
	未来開拓学術研究費		67,000	67,000
タンパク 3000 プロジェクト（文部科学省産学連携等研究費）				
	タンパク 3000 プロジェクト		14,000	14,000



6. 平成16年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
瀧澤 俊広	解剖学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	胎盤におけるIgG輸送の鍵となる型Fc受容体を含む新しい細胞内小器官の解析		
瀧澤 俊広	解剖学第一	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	胎盤におけるIgG輸送機構の鍵となるFc受容体のディファレンシャル解析		
佐久間康夫	生理学第一	代表	科学研究費補助金 特定領域研究(2)	ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析		
西野 武士	生化学第一	代表	科学研究費補助金 特定領域研究(2)	金属が関与するセンサーとスイッチのケミカルバイオロジー	太田 成男	老人病研究所細胞生物学
西野 武士	生化学第一	代表	科学研究費補助金 特定領域研究(2)	活性酸素種による遺伝子発現誘導の分子基盤		
西野 武士	生化学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(A)(2)	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明		
西野 武士	生化学第一	分担	文部科学省産学連携 研究推進事業(ハイ オ・ベンチャー研究 開発拠点整備事業)	蛋白質立体構造を基盤とした治療薬のデザインと開発	太田 成男	老人病研究所細胞生物学
岩崎 俊雄	生化学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	超好熱菌の新規呼吸鎖複合体のサブユニット会合に伴う機能変換		
松村 智裕	生化学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	モリブデン酵素の活性化を調節する新規タンパク質の反応機構		
西野 武士	生化学第一	分担	文部科学省タンパク 3000プロジェクト	ヒト培養細胞を用いた発生・分化に伴い変動する蛋白質の結晶化と構造解析	田之倉 優	東京大学大学院農学生命科学研究科
島田 隆	生化学第二	代表	科学研究費補助金 特定領域研究(2)	HIVベクターの開発		
島田 隆	生化学第二	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	遺伝子導入及び幹細胞移植技術を応用した遺伝性神経変性疾患の治療法の開発		
渡邊 淳	生化学第二	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	神経型 Gaucher 病治療に向けた膜透過ペプチド融合酵素による脳内移行性の解析		
池島三与子	生化学第二	代表	科学研究費補助金 特定領域研究(2)	MutSヘテロダイマーによるミスマッチ認識機構の解析		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
島田 隆	生化学第二	分担	厚生労働省科研費補助金	先天性代謝異常に対する幹細胞治療法の開発：MLDマウスの細胞遺伝子治療(脂肪組織由来間葉系幹細胞による細胞治療の可能性について)	梅澤 明弘	国立成育医療センター 研究所生殖医療研究部
島田 隆	生化学第二	分担	厚生労働省科研費補助金	難治性疾患克服研究事業：ライソソーム病(フアブリー病含む)に関する調査研究	衛藤 義勝	東京慈恵会医科大学
鈴木 秀典	薬理学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	新規気分障害治療薬開発を志向した霊長類中枢タキキニン作用性神経伝達に関する研究		
鈴木 秀典	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	統合失調症の進行性増悪過程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究	大久保善朗	精神神経科
鈴木 秀典	薬理学	代表	協和発酵工業株式会社	GDNF関連分子を標的とした神経因性疼痛治療薬開発の基礎的研究		
中山 智子	病理学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	特発性間質性肺炎における転写因子FoxF1とMMP/TIMPの検討		
福田 悠	病理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	特発性間質性肺炎における線維芽細胞増殖因子(FGF)10,17の役割		
福田 悠	病理学第一	分担	厚生労働省科研費補助金	Microdissectionとreal time PCR法を用いた間質性肺炎肺組織におけるFoxf1, FGF-10, FGF-R, MMP-1,7の発現についての検討	貴和 敏博	東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野
石渡 俊行	病理学第二	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	線維芽細胞増殖因子(FGF)7とFGF-10による膵組織再生誘導の研究		
内藤 善哉	病理学第二	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	膵癌・随伴性膵炎におけるLumicanの役割と応用		
工藤 光洋	病理学第二	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	細胞への分化能を有する膵内外のprogenitor cellの同定とその応用		
中澤 南堂	病理学第二	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	ケロイド及び肥厚性瘢痕の分子病態と抑制遺伝子の解明 無瘢痕外科治療をめざして	百束 比古	形成外科学
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	厚生労働省科研費補助金	粘膜組織における感染伝播とCTLを主体とした感染制御の解明に関する研究	佐多徹太郎	国立感染症研究センター
川田 智之	衛生学・公衆衛生学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
稲垣 若山 李 李 勝又 川田	衛生学・公衆衛生学	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	携帯型活動検出器を用いた老人 ホーム入所者の睡眠に関する研究	川田 智之	衛生学・公衆衛生学
川田 智之	衛生学・公衆衛生学	代表	喫煙科学研究財団研究 助成金 特定研究	喫煙者における臨床検査値の特徴 に関する研究：非喫煙者、喫煙者、 禁煙者における血液検査値の統計 学的比較検討	川田 智之	衛生学・公衆衛生学
稲垣 勝又	衛生学・公衆衛生学	分担	喫煙科学研究財団研究 助成金 特定研究	喫煙者における臨床検査値の特徴 に関する研究：非喫煙者、喫煙者、 禁煙者における血液検査値の統計 学的比較検討	川田 智之	衛生学・公衆衛生学
李 卿	衛生学・公衆衛生学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	パーオキシソームアウトマウス を用いる有機リン農薬による免疫 機能低下の機序の検討	李 卿	衛生学・公衆衛生学
川田 永原	衛生学・公衆衛生学	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	パーオキシソームアウトマウス を用いる有機リン農薬による免疫 機能低下の機序の検討	李 卿	衛生学・公衆衛生学
大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学	代表	財団法人総合健康推 進財団一般研究奨励 助成	老化と血中アディポネクチン：老化 による動脈硬化性疾患発症におけ るアディポネクチンの関与	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学
川田 稲垣 勝又 李	衛生学・公衆衛生学	分担	財団法人総合健康推 進財団一般研究奨励 助成	老化と血中アディポネクチン：老化 による動脈硬化性疾患発症におけ るアディポネクチンの関与	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学
李 卿	衛生学・公衆衛生学	代表	農林水産省高度化学 業研究	森林系環境要素がもたらす人の生 理的効果の解明	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学
川田 智之	衛生学・公衆衛生学	代表	農林水産省高度化学 業研究	森林系環境要素がもたらす人の生 理的効果の解明	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学
林田真喜子	法医学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	脳死判定と薬物に関する臨床法医学 中毒学的アプローチ	影浦 光義	福岡大学医学部法医学 教室
仁平 信	法医学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	アルコール・覚醒剤複合中毒におけ る死後経過時間と薬物濃度の関連	影浦 光義	福岡大学医学部法医学 教室
仁平 信	法医学	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)	薬毒物鑑定精度管理・信頼性確保 のための戦略研究	影浦 光義	福岡大学医学部法医学 教室
平川 慶子	法医学	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	多臓器不全発生に關与する脂質メ タボリズムの解明	小池 薫	東北大学・大学院医学 系研究科

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
長谷場 健	法医学	代表	アサヒビル株式会社	酒類の熟成が生体に与える影響		
広畑 泰久	中央電子顕微鏡研究施設	代表	(株)三菱化学技術研究所センター	医学系生体試料の電子顕微鏡観察における前処理技術		
大庭 建三	内科学第一・付属病院老人科	分担	厚生労働省長寿科学総合研究事業	高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較研究	井藤 英喜	多摩老人医療センター
大庭 建三	内科学第一・付属病院老人科	分担	公益信託日本動脈硬化予防研究基金	高齢者高血圧コホート研究 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度、高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS)	大内 尉義	東京大学老年病学
鈴木 達也	内科学第一・付属病院老人科	代表	財団法人日本漢方医学研究所	高齢者痴呆に対する釣藤散及び牛車腎気丸の認知機能に対する改善効果の検討；2重盲検ランダム化比較試験による検討	鎌倉 史郎	国立循環器病センター
新 博次	内科学第一・多摩永山病院内科、循環器内科	分担	厚生労働省科研費補助金	無症候群 Brugada 症候群の予後に関する研究 (多施設共同継続研究)	鎌倉 史郎	国立循環器病センター
新 博次	内科学第一・多摩永山病院内科、循環器内科	分担	厚生労働省科研費補助金	重篤な循環器系副作用 (QT 延長症候群) の症例情報の収集・評価及びそれに基づく併用薬剤等のリスク因子の解明に関する研究	鎌倉 史郎	国立循環器病センター
山崎 峰雄	内科学第二・付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)	分担	平成16年度長寿科学総合研究事業	軽度認知障害の前方視的・後方視的研究	村山 繁雄	東京都老人総合研究所
片山 泰朗, 五十嵐博中	内科学第二・付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)	分担	平成14年度循環器病研究委託費 14 公	超急性期虚血性脳血管障害に対する非侵襲的診断・モニタリングシステムに関する研究	織田 信一	国立循環器病センター 運営局
片山 泰朗	内科学第二・付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2)	超軽微低体温 (35 ) の神経保護作用のメカニズムの解明：生存シグナル増強作用		
神谷 達司	内科学第二・付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2)	PARP を介するアポトーシスによる神経死のメカニズムの解明		
山崎 峰雄	内科学第二・付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2)	皮質基底核変性症と進行性核上性麻痺の比較：臨床分子病理学的研究		
内海 甲一	内科学第二・付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2)	アブリー病における腎不全発症進展の病態解明と酵素補充療法の評価法の開発		
永島 正一	内科学第二・付属病院リウマチ科	代表	骨粗鬆財団	骨組織共存下における関節リウマチ滑膜細胞の破骨細胞への分化・誘導と骨破壊機序の解明		
永島 正一	内科学第二・付属病院リウマチ科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2)	血管新生抑制遺伝子導入による関節リウマチ遺伝子治療の基礎的研究		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
中島 敦夫	内科学第二・付属病院リウマチ科		科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	自己免疫疾患における免疫抑制性分子の機能解析とその制御	宮坂 信之	東京医科歯科大学
中島 敦夫	内科学第二・付属病院リウマチ科	分担	厚生労働省科学研究費補助金 免疫アレルギ一疾患予防・治療研究事業	関節リウマチ治療における新規生物製剤の治療方針の作成およびその検証に関する研究		
檀 和夫	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	MLL/AF4の癌化メカニズムと分子標的薬の開発		
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科研費補助金	原発性高脂血症に関する調査研究	斉藤 康	千葉大学大学院
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科研費補助金	高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較試験	井藤 英喜	多摩老人医療センター
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科研費補助金	糖尿病における血管合併症の発症予防と進展抑制に関する研究	山田 信博	筑波大学大学院
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	新しい糖尿病発症機序とその治療: 酸化変性リポ蛋白のインスリン分泌障害とその解除	宮澤 陽夫	東北大学
田村 秀人	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	白血病における新規の補助刺激因子B7-H1, B7-H2, B7-H3の発現と機能		
緒方 清行	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	骨髄異形成症候群芽球の生物学的特性の解明(新規な芽球精製法を用いた解析)		
坂本 長逸	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	消化管におけるCOX2を介したheregulin発現とerbB2リン酸化の役割		
緒方 清行	内科学第三・付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	キリンビール株式会社	骨髄異形成症候群芽球の幹細胞の分化		
伊藤 敬雄	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	平成16年度 厚生労働科学研究費	こころの健康科学研究事業	保坂 隆	東海大学医学部教授
伊藤 敬雄	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	平成16年度 厚生労働省科研費補助金	職場における過労死・自殺の予防に関する研究	櫻井 治彦	中央労働火災防止協会 労働衛生調査分析センター

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
館野 周	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	平成16年度文部科学省科学研究費課題名 PET・SPECTを用いたうつ病の認知機能及び未梢性ベンゾジアゼピン受容体の研究		
大久保善朗	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任	厚生労働省科研究費補助金	神経伝達機能イメージングを用いた機能的な精神疾患の治療効果の客観的評価法および診断法の確立に関する研究		
大久保善朗	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	統合失調症の進行性増悪過程に関する脳形態および脳機能画を用いた前方視研究		
大久保善朗	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	財団法人先進医薬研究振興財団研究助成	抗精神病薬による維持療法時のドーパミンD2受容体占有率の検討		
大久保善朗	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研究費補助金	統合失調症の基本障害に基づいた診断装置の実用化	小島 卓也	日本大学
大久保善朗	精神医学・付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	長春科学振興財団・こころの健康科学研究推進事業	ドーパミンアゴニストを生体で画像化するためのPET用放射性リガンドの開発		
福永 慶隆	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科研究費補助金	引きこもりに繋がる小児慢性疲労、不登校の治療・予防に関する臨床的研究	三池 輝久	熊本大学医学部
福永 慶隆	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科研究費補助金	原発性免疫不全症候群に関する研究	宮脇 利夫	富山医科薬科大学医学部
林 宏光	放射線医学・付属病院放射線科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	異種造影剤の直接混合による配合変化とその同時投与が腎機能に与える影響に関する研究		
隈崎 達夫	放射線医学・付属病院放射線科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	シルクセリシンによるスパーハイブリット徐放薬物伝達システム開発の基盤研究		
村田 智	放射線医学・付属病院放射線科	分担	厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)	がん治療のための革新的新技術の開発研究	野村 和弘	国立がんセンター
村田 智	放射線医学・付属病院放射線科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	難治がんの総合的な対策に関する研究	野村 和弘	国立がんセンター
二神 綾子	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	ケロイド発生におけるCyclooxygenase(COX)2発現の役割およびCOX-2特異的阻害剤の効果		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
川名 誠司	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	毛周期の制御にCRHの果たす役割の解明 CRHノックアウトマウスを用いて		
山岡 淳一	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	レドックス動態解析による皮膚炎症発症メカニズムの解明		
井村 純	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	新生児・アトピー性皮膚病ハリアー機構におけるCohort調査		
河野美乃里	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	毛包における神経内分泌ペプチドの発現部位とその働きを解明する		
堺 則康	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	RNA干渉を利用した常染色体遺伝性皮膚疾患に対する遺伝子治療		
下田 貴子	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	ストレス負荷による皮膚肥満細胞脱顆粒現象の病態の解明		
吉田 寛	外科学第一・付属病院第1外科 (消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝線維化および再生に及ぼす影響	吉田 寛	外科学第一
田尻 孝 秋丸 琥甫 真々田裕宏 合 信彦 松倉 則夫	外科学第一・付属病院第1外科 (消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝線維化および再生に及ぼす影響	吉田 寛	外科学第一
木山 輝郎	外科学第一・付属病院第1外科 (消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表	厚生労働省がん研究 助成金(15.5)	発がん機序に基づいた胃がんの予防に関する研究	斉藤 大三	国立がんセンター中央 病院内視鏡部
田尻 孝	外科学第一・付属病院第1外科 (消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	胃切除後の身体構成変動におけるグレリンの病態意義		
秋丸 琥甫 有馬 保生 吉田 横室 横室 茂樹	外科学第一・付属病院第1外科 (消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(1)	マウスTGFレセプターターゲットRNAiによる慢性肝障害の遺伝子治療		
秋丸 琥甫 有馬 保生 吉田 横室 横室 茂樹	外科学第一・付属病院第1外科 (消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(1)	マウスTGFレセプターターゲットRNAiによる慢性肝障害の遺伝子治療	田尻 孝	外科学第一
鈴木 成治	外科学第一・多摩永山病院外科 (消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	胆管癌治療に対するサイトカインIL-6, HGF, TGFβ1の応用 胃癌組織の定量的PCR法を用いた特定分子標的領域DNAコピー数の迅速定量法の開発		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
江上格 笹島耕二 川並汪一 Mohammad Ghazizadeh, 渡邊秀裕, 細根勝	外科学第一・多摩永山病院外科 (消化器外科・乳腺外科・ 一般外科)	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	胃癌組織の定量的PCR法を用いた 特定分子標的領域DNAコピー数の 迅速定量法の開発	鈴木 成治	多摩永山病院外科
菅野重人, 石井庸介, 大森裕也, 川瀬康裕 新田 隆	外科学第二・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科); 千葉北総病院胸 部・心臓血管・呼吸器外科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	左心房容量負荷モデルにおける肺 静脈の電気生理学的特性	新田 隆	外科学第二
菅野重人	外科学第二・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科); 千葉北総病院胸 部・心臓血管・呼吸器外科	分担	厚生労働省科研費補 助金	不整脈死の予知と予防ガイドライン	相澤 義房	新潟大学
菅野重人	外科学第二・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科); 千葉北総病院胸 部・心臓血管・呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	虚血心筋における不整脈発生のメ カニズム		
大森 裕也	外科学第二・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科); 千葉北総病院胸 部・心臓血管・呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	光学的マッピングを用いた左心房 容量負荷心房細胞モジュールの電気生 理学的検討		
窪倉 浩俊	外科学第二・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科); 千葉北総病院胸 部・心臓血管・呼吸器外科	代表	平成16年度 丸山 記念助成金	CD40-CD40 Ligand を用いた肺癌術 後における Adjuvant 療法の有効性 の検討		
鈴木 成治	外科学第二・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科); 千葉北総病院胸 部・心臓血管・呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	胃癌組織の定量的PCR法を用いた 特定分子標的領域DNAコピー数の 迅速定量法の開発		
寺本 明	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	低酸素刺激による下垂体腺腫の出 血機序の分子生物学的解明		
吉田 大蔵	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	低酸素刺激による下垂体腺腫の出 血機序の分子生物学解明	寺本 明	脳神経外科学
大山 健一	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	脳下垂体腫瘍における各種視床下 部ホルモン受容体発現の解析		
山口 文雄	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	神経膠細胞の腫瘍化における FGFR2の機能解明		



研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
吉田 大蔵	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	GFP遺伝子導入ヒトグリオーマ細胞を用いた脳腫瘍モデルでの微小管阻害剤の抗浸潤効果	千原 和夫	神戸大学医学部内分泌代謝・神経・血液腫瘍内科
高橋 弘	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	DNAマイクロナレイによるインターフェロン抗脳腫瘍効果に果たすシグナル伝達の解析		
金 景成	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	下垂体腺腫における低酸素関連因子によるVEGF発現調節に関する研究		
田原 重志	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	下垂体腺腫におけるPPARの発現と下垂体の機能分化に関する転写因子との関連		
寺本 明	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	脳下垂体機能障害に関する調査研究	千原 和夫	神戸大学医学部内分泌代謝・神経・血液腫瘍内科
喜多村孝幸	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	片頭痛の具体的な医療手順に関する調査研究	坂井 文彦	北里大学医学部神経内科
金 景成	脳神経外科科学・付属病院脳神経外科	代表	日本脳神経財団	下垂体腺腫における低酸素関連因子によるVEGF発現調節に関する研究		
高橋 弘	脳神経外科科学・第二病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	DNAマイクロナレイによるインターフェロン抗脳腫瘍効果に果たすシグナル伝達の解析		
吉田 大蔵	脳神経外科科学・第二病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	GFP遺伝子導入細胞を用いた脳腫瘍モデルでの抗微小管剤の研究	寺本 明	脳神経外科科学
吉田 大蔵	脳神経外科科学・第二病院脳神経外科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	低酸素刺激による下垂体腺腫の出血機序の分子生物学解明		
中嶋 祐作	整形外科科学・付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	ヒト骨軟部悪性腫瘍の永久保存と抗糖剤感受性試験の確立及びその臨床応用		
谷内 良成, 奥田 直貴, 横田 秀彦, 横田 明重	産婦人科学・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	脳神経発達障害におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割に関する研究	中井 章人	産婦人科学
Pawankar R	耳鼻咽喉科科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	Sir Dorab Tata Asia Pacific Research Grant	A multicentre hospital based study to determine the prevalence of persistent allergic rhinitis and its quality of life in Asia		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
八木 聡明	耳鼻咽喉科学・付属病 院耳鼻咽喉科・第二 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻 咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	前庭性眼振はリス テイングの法則に 従うか		
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付 属病院耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科・第 二耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻 咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(1)	Explant culture を用いた鼻粘膜ア レルギー反応過敏 性亢進の制御法の 開発の研究		
相田 瑞恵	耳鼻咽喉科学・付 属病院耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科・第 二耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻 咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	美茸の発生活機序 における T 細胞 の新たな機能の解 析		
渡邊 健一	耳鼻咽喉科学・付 属病院耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科・第 二耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻 咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	細胞死抑制強化蛋 白質の細胞内導 入による新たな内 耳保護治療法の 開発		
野中 学	耳鼻咽喉科学・付 属病院耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科・第 二耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻 咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	線維芽細胞の慢性 副鼻腔炎における 炎症を誘導する細 胞としての重要な 性の解明		
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・付 属病院耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科・第 二耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻 咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	COOH 遺伝子プロ モーターを用いた 新たな内耳特異的 遺伝子治療法の 開発		
Pawankar R	耳鼻咽喉科学・付 属病院耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科・第 二耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻 咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	Genechip を用いた 鼻アレルギー・鼻 茸における肥満細 胞の新たな役割の 解析		
齋藤 明彦	耳鼻咽喉科学・付 属病院耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科・第 二耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻 咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	外リンパ特異的蛋 白質を用いた新 しい外リンパ嚢診 断法の開発		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
三枝 英人	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ヒト舌筋の機能解剖学のおよび機能生理学的研究		
酒主 敦子	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	好酸球性中耳炎における好酸球浸潤機序の解明		
森 幸子	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	鼻アレルギーにおけるマトリックスメタプロテアーゼの新たな役割		
新藤 晋	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	新たな内耳疾患予防・治療法 HSP 誘導剤による内耳保護作用の検討		
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	主任	厚生労働省科研費補助金	花粉症の QOL による治療法の評価と新しい治療法の基礎的研究		
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	小児アレルギー性鼻炎の成人への移行を阻止するための治療法の確立に関する研究	岡本 美孝	千葉大学
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	厚生労働省科学研究費 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班	高橋 正紘	東海大学医学部耳鼻咽喉科
後藤 穰	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	花粉症の QOL による治療法の評価と新しい治療法の基礎的研究	大久保公裕	耳鼻咽喉科学

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
堀 純子	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	角膜移植における抗原提示細胞の機能解析と不活性化抗原提示細胞の移入による免疫調節		
松井 洋法	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	正常ラットと糖尿病モデルラットの網膜から採取した毛細血管の研究		
小原澤英彰	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	糖尿病網膜症での新生血管発生の予防法の開発		
横田 裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニク	主任	厚生労働科学研究費補助金	平成16年度厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」；分担研究；「臓器提供施設内における脳死判定に関する研究」		
山本 保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニク	主任	厚生労働科学研究費補助金	平成16年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」	柳川 洋	埼玉県立大学
山本 保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニク	分担	厚生労働科学研究費補助金	平成16年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働特別研究「東北北陸等での急性脳症多発事例にかかわる研究」；分担研究「救急医学的分析」	柳川 洋	埼玉県立大学
久志本成樹	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニク	分担	厚生労働科学研究費補助金	平成16年度厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」；分担研究「臓器提供施設での提供手続き円滑化に関する研究」	横田 裕行	救急医学
川井 真	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニク	分担	厚生労働科学研究費補助金	平成16年度厚生労働科学研究費補助金新興・再生感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」；分担研究「2005年日本国際博覧会における発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」	山本 保博	救急医学

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働科学研究費補助金	救命救急センターにおける避け得た外傷の実態とその要因調査のための研究(分担)「データベース作成のための基礎的検討」	島崎 修次	
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働科学研究費補助金	新たな救急医療施設のあり方と病前救護体制の評価に関する研究(分担)「ドクターヘリの実態と評価に関する研究」	小濱 啓次	
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	日本私立学校振興・共進事業団、私立大等経常費補助金特別補助「高等教育研究改革推進経費」	Patient safetyの向上を目指したダイナミックシミュレーション医学教育システムの開発		
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	消防防災科学技術研究推進制度委託研究	ヘリコプター救急体制構築による交通事故死者数削減効果に関する研究	益子 邦洋	特定非営利活動法人救急ヘリ病院ネットワーク
百束 比古	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(B)(2)	ケロイド及び肥厚性癬痕の分子病態と抑制遺伝子の解明-無癬痕外科治療をめざして		
水野 博司	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪由来間葉系幹細胞(仮称)による3次元大型脂肪組織の再生構築		
村上 正洋	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	皮下脂肪由来組織間細胞の分化制御による軟骨組織生体内立体再生		
岩切 致	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		
村上 正洋	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(B)(2)	ケロイド及び肥厚性癬痕の分子病態と抑制遺伝子の解明-無癬痕外科治療をめざして	百束 比古	形成外科学
水野 博司	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪由来間葉系幹細胞(仮称)による3次元大型脂肪組織の再生構築	水野 博司	形成外科学
伊吾田 眞一	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	ケロイド発生におけるWntシグナル分子機構の解明と新しい分子標的治療に関する研究	土佐 眞美子	第二病院形成外科
百束 比古	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	皮下脂肪由来組織間細胞の分化制御による軟骨組織生体内立体再生	村上 正洋	形成外科学
平井 隆	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発	岩切 致	形成外科学
水野 博司	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		
河原 諭史	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		
赤石 比古	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		
水野 博司	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		
百束 比古	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		
村上 正洋	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		
百束 比古	形成外科学・付属病院形成外科・美容外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)(2)	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発		

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
土佐眞美子	形成外科学・第二病院形成外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	ケロイド発生におけるWntシグナル分子機構の解明と新しい分子標的治療に関する研究		
吉野 雅則	第二病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	線維芽細胞増殖因子受容体 KGFR の mRNA レベルでの阻害による大腸癌分子標的治療		
興村 敏	千葉北総病院内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	アデニル酸シクラーゼサブタイプによる心機能調節とその選択的抑制薬による心不全治療		
興村 敏	千葉北総病院内科	代表	木村記念循環器財 団・ファイザー製薬	心臓特異的発現を示す5型アデニル酸シクラーゼの自律神経に果たす役割		
興村 敏	千葉北総病院内科	代表	武田科学振興財団 報彰基金研究奨励	心不全発症における5型アデニル酸シクラーゼの役割と新しい心不全治療薬の開発	山岸 正和	国立循環器病センター 心臓血管内科
水野 杏一	千葉北総病院内科	分担	厚生労働省科 研費補助金 循環器疾患等 総合研究事業 H16- 循環器(生習)011	「動脈不安定粥腫の同定とその効果的破綻予防,治療法の開発に関する多施設共同研究」(161260)分担研究「血管内超音波法開発研究及び症例登録」		
水野 杏一	千葉北総病院内科	分担	厚生労働省科 研費補助金 平成16年度 循環器病研究委 託費 15公5	「動脈不安定プラークの機能画像診断法の臨床実用化に関する研究」分担研究課題「血管内視鏡による冠動脈不安定プラークの画像診断に関する研究」	内藤 博昭	国立循環器病センター 放射線診療部
原 行弘	千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	片麻痺に対するハイブリッド・パワースラスト治療的電気刺激		
川並 汪一	老人病研究所・病理学部門	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	ヒト気道 肺胞上皮系における幹細胞の免疫組織学的同定と分離培養		
金 恩京	老人病研究所・病理学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	閉節リウマチ肺における血管内皮細胞の役割とトロロヒンの関与		
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	文部科学省産学連携 研究推進事業(ハイ オベンチャー研究開 発拠点整備事業)	蛋白質立体構造を基盤とした治療薬のデザインと開発		
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による脳硬塞治療法の開発		
麻生 定光	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)	アポトーシス抑制蛋白質改良型の投与による虚血性神経細胞死抑制と治療への適用		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大澤 郁朗	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基礎研究(C)(2)	アポトーシス抑制蛋白サイバリン の脳神経細胞維持における役割		
上村 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	核遺伝子産物MIDASによるミトコ ンドリア増殖機構の解明	林 純一	筑波大学生物科学系
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	科学研究費補助金 特定領域研究(1)	ミトコンドリア tRNA 疾患の病態 モデル	清水 輝夫	帝京大学医学部神経内 科学
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 精神・ 神経疾患研究委託費 事業	筋ジストロフィーに関連する疾患 の病態解明と治療法の開発に関す る研究	下方 浩史	国立長寿医療センター 疫学研究部
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 長寿医 療研究委託事業	分子疫学研究による老年病発症予 測に関する縦断的研究	江見 充	老人病研究所分子生物学
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	文部科学省 私立大 学学術フロンティア 推進事業	多因子性疾患の遺伝要因解明・学際 的共同研究プロジェクト		
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	株式会社ブルー・ マーカーユリー	中性含酸素還元水の生理作用の解 明とその応用開発に関する研究		
今城 俊浩	老人病研究所・疫学部門	代表	科学研究費補助金 基礎研究(C)(2)	慢性疼痛ストレスの病態に關与す る新規遺伝子のクローニング		
今城 俊浩	老人病研究所・疫学部門	代表	明治製菓(株)	初代培養系における CRF 遊離量の 測定		

7. 平成16年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
西野武士	生化学第一	第38回日本痛風・核酸代謝学会 学会賞	キサンチン脱水素酵素の構造と機能に関する研究：desulfo型酵素の存在とその分離法精製法確立と生理・病態的意義	日本痛風・核酸代謝学会	2005	2
小川 令	生化学第二	2004年度形成外科学会学術奨励ジュニア賞 基礎研究部門	GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪組織由来幹細胞から骨・軟骨・脂肪細胞への分化誘導実験系の確立	日本形成外科学会	2005	3
野呂頼嘉彦, 大脇敦子, 新谷英滋, 熊谷憲博, 高橋秀実, 青砥泰二, 園部一成 <sup>1)</sup> , 篠山明宏 <sup>1)</sup> (1)村属病院中央検査部細菌)	微生物学・免疫学	第72回日本医科大学医学総会優秀演題賞	緑膿菌DNA型別解析におけるRAPD法の有用性	日本医科大学医学会	2004	9
山崎峰雄	内科学第二・付属病院第2内科(神経内科, 腎臓内科)	平成16年度博慈会老人病研究所優秀論文賞	The duration of illness the final neuropathological in patients with Alzheimer's disease	博慈会老人病研究所	2004	2
水越元気, 桂研一郎, 片山泰朗	内科学第二・付属病院第2内科(神経内科, 腎臓内科)	第72回日本医科大学医学総会優秀演題賞	脳梗塞の重症度および予後を反映する、新しい検査マーカーの提唱	日本医科大学医学会	2004	9
山崎峰雄	内科学第二・付属病院第2内科(神経内科, 腎臓内科)	平成16年度日本医科大学医学奨学賞	非アルツハイマー型老年痴呆の分子病理学的研究：とくにタウオバチーの病態解明を中心に	日本医科大学医学会	2004	9
田野崎栄	内科学第三・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会同時開催優秀演題	臍帯血移植後ドナー細胞由来のモノクローマともなった骨髄増殖性疾患を発症した1例	日本血液学会・日本臨床血液学会	2004	9
田村秀樹	内科学第三・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	第4回日本神経内分泌学会若手研究奨励賞	Newropaptide WはGHRH細胞を介しGH分泌を抑制する	日本内分泌学会	2004	10
岩切勝彦	内科学第三・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	第9回GERD award, 特別奨励賞	一過性LES弛緩は胃食道逆流の主メカニズムであるが、逆流性食道炎発症の原因ではない	GERD 研究会	2004	11



受賞者	所属	受賞学術賞名	受賞研究・論文	授賞団体	年	月
北村由梨	内科学第三・付属病院 第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	第4回日本内分泌学会 関東甲信越支部学術集 会研修医部門優秀演題 賞	副腎静脈サンプリングで 両側からのコルチゾール 産生を確認したPPNAD の症例	日本内分泌学会	2005	2
Tanaka S, Mitsui K, Tatsuguchi A, Fujimori S, Gudis K, Sakamoto C	内科学第三・付属病 院第3内科(血液内 科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	Video Award	Double-balloon endo- scopy: a novel endo- scopic technique for the treatment of small intes- tinal diseases	The 4th Japan-Korea Joint Symposium on Gastrointestinal Endo- scopy (Seoul, Korea)	2005	3
Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Ehara A, Kobayashi T, Sekita Y, Seo T, Yonezawa M, Nagata K, Shibata Y, Fujimori S, Kishida T, Gudis K, Sakamoto C	内科学第三・付属病 院第3内科(血液内 科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	Poster Award	Benefits of Double-Bal- loon Enteroscopy in Oc- cult Gastrointestinal Bleedings	The 4th Japan-Korea Joint Symposium on Gastrointestinal Endo- scopy (Seoul, Korea)	2005	3
島 義雄 <sup>1)</sup> , 西巻 滋 <sup>2)</sup> , 藤田敦士 <sup>1)</sup> , 馬場千晶 <sup>1)</sup> , ( <sup>1)</sup> 豊飾赤十字産院小児 科, <sup>2)</sup> 横浜市大小児科)	小児科学・付属病院 小児科・第二病院小 児科・多摩永山病院 小児科・千葉北総病 院小児科	日本未熟児新生児学会 賞	Fetal inflammatory re- sponse syndrome (FIRS) と早産羊水過少との関係	日本未熟児新生児学会	2004	12
黒瀬厚成	放射線医学・第二病 院放射線科	平成16年度研究奨励 賞技術新人賞 放射線 撮影分野(MR部門)	強制反転法を用いたT2 強調画像とT1強調画像 同時収集法の基礎的検討	日本放射線技術学会	2005	4
吉田 寛	外科学第一・付属病 院第1外科(消化器外 科, 乳腺外科, 移植 外科, 一般外科)	第30回日本医科大学 同窓会医学研究助成賞	肝線維化と再生に対する 脾静脈血行動態の影響	日本医科大学同窓会	2004	5
平田知己	外科学第二・付属病 院第2外科(内分泌外 科, 心臓血管外科, 呼吸器外科)・千葉北 総病院胸部・心臓血 管・呼吸器外科	日本胸部外科学会総会 優秀学術集会演題賞	IP合併肺癌の術後急性憎 悪におけるリスクファク ターの解析	日本胸部外科学会	2004	10
吉田大蔵 <sup>1)</sup> , 金 景成, 鱒波正博, 寺本 明( <sup>1)</sup> 第 二病院脳神経外科)	脳神経外科学・付属 病院脳神経外科	第63回日本脳神経外 科総会 優秀ポスター賞	ヒト下垂体腺腫細胞 HP75における hypoxia- inducible factor 1-alpha による apoptosis 回避機 構	第63回日本脳神経外 科学会総会事務局	2004	10

受賞者	所属	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
吉田大蔵 <sup>1)</sup> 、金景成 <sup>1)</sup> 、 鱧波正博 <sup>2)</sup> 、寺本明 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病 院脳神経外科、 <sup>2)</sup> 帝京 大学溝口病院) Yagi T	脳神経外科学・第二 病院脳神経外科	優秀ポスター賞	ヒト下垂体腺腫細胞 HP75 における hypoxia- inducible factor 1-alpha による apoptosis 回避機 構	社団法人 日本脳神経 外科学会	2004	6
三枝英人	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	Hallpike-Nylen Medal  日本気管食道科学会奨 励賞(気道部門)	前庭基礎研究に対して  如何に正しく披裂軟骨脱 臼症を診断するか?	Baranay Society  日本気管食道科学会	2004	8  11
Pawankar R	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	Indian Academy of Allergy Society's Oration Award	Research Achievements in Upper Airway Allergy	Indian Academy of Al- lergy	2004	12
堀 純子	眼科学・付属病院眼 科・第二病院眼科・ 多摩永山病院眼科	学術奨励賞	角膜移植の免疫特権：拒 絶を回避する角膜組織の 開発	日本角膜学会	2005	2
小川 令	形成外科学・付属病 院形成外科・美容外 科	2004年度形成外科学 会学術奨励ジュニア賞 基礎研究部門	GFPトランスジェニック マウスを用いた脂肪組織 由来幹細胞から骨・軟骨・ 脂肪細胞への分化誘導実 験系の確立	日本形成外科学会	2004	3
柳田裕美、原 博、 細根 勝、片山博徳、 磯部宏昭、阿部久美子、 日吾美栄子、横山 正 <sup>1)</sup> 、 二見良平 <sup>1)</sup> 、江上 格 <sup>1)</sup> 、 内藤善哉 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山 病院外科、 <sup>2)</sup> 病理学第2)	多摩永山病院病理部	第72回日本医科大学 医学会総会優秀演題賞	乳腺穿刺吸引細胞診にお ける標本作製方法による 細胞所見の比較検討	日本医科大学医学会	2004	9

受賞者	所屬	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
Yanagida Y, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Azuma K, Handou K, Hirata T, Yokoyama M, Naito Z	多摩永山病院病理部	優秀演題賞	Three cases of lung tumor diagnosed only by intraoperative rapid cytology	タイ細胞学会, 日本臨床細胞学会	2005	1
Handou K, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Azuma K, Isobe H, Yanagida Y, Kawano K, Akiyama H, Naito Z	多摩永山病院病理部	優秀演題賞	Correlation with biological markers, cytological features and prognosis in invasive breast cancer- first report-	タイ細胞学会, 日本臨床細胞学会	2005	1
笹沼和智, 織田 宏, 池田隆志, 高橋克幸, 濱口雄慈, 森 克彦 奥村 敬	多摩永山病院放射線科技師室 千葉北総病院内科	平成 16 年度日本放射線技術学会 東京部会学術奨励賞 第 9 回 ファイザー循環器病研究助成「自律神経と高血圧」研究発表会 優秀賞	放射線被ばくに関する教育的啓蒙活動に関する一連の研究 心臓特異的発現を示す 5 型アデニル酸シクラーゼの自律神経にはたす役割	日本放射線技術学会 東京部会 木村記念循環器財団 ファイザー株式会社	2005 2004	5 12

8. 平成16年度知的財産一覧(特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
渡部 録二, 武藤三千代, 和野好司, 西野 武士	スポーツ科学 生化学第一	マルチメジャーおよびそのシステム キサンチン酸化還元酵素変異体	P2003 17130 (2003/1/27) 特願 2004 108118 (2004/3/31) 特願 2004 133827	P2004 223120A (2004/8/12)		渡部 録二
小川 令, 水野博司, 百束比古, 島田 隆	生化学第二	脂肪組織由来幹細胞からの骨髄を形成するための組成物およびその方法	特願 2004 248364 号 (2004/8/27) 特 2005 071452 (2005/3/14)			ニプロ株式会社 (代表者 佐野 賢)
細井 孝之, 五関正江, 折茂英生, 鈴木隆雄, 折茂 肇	生化学第二	骨密度予測方法および遺伝子多型分析用試薬キット	特願 2004 348055 (2002/11/29)	特開 2004 184103 (2004/7/2)		信和化工株式会社, 国立 大学法人 豊橋技術科学大 学, 学校法人 日本医科大 学
和田啓男, 神野清勝, 齋戸美弘, 大野耀吉, 林田真喜子	法医学	薬物の簡易分析方法	特願 2004 28266 (2004/2/4)			三菱化学ピーシーエール
緒方清行	内科学第三・付属病 院第3内科(血液内 科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	骨髄異形成症候群の検査方法	特願 2004 227395 (2004/8/4)			学校法人 日本医科大学
緒方清行	内科学第三・付属病 院第3内科(血液内 科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	骨髄異形成症候群の検査方法	特願 2002 257928 (2002/9/3)		3665048 (2005/4/8)	学校法人 日本医科大学
緒方清行	内科学第三・付属病 院第3内科(血液内 科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	骨髄異形成症候群の診断キット及び治療剤	特願 2005 02251 (2005/1/28)			学校法人 日本医科大学 株式会社 ラジオアイソ トープ研究所
隈崎 達夫, 三原一正, 堀 慶一	放射線医学・付属病 院放射線科	搬送システム, および医療情報サーバー	2004 317819 (2004/11/1)			学校法人 日本医科大学 株式会社 第一ラジオアイ ソトープ研究所
水村 直	放射線医学・付属病 院放射線科	画像データの領域分類 解析システム				
山本 彰, 細谷徹夫, 市川勝久	放射線医学・第二病 院放射線科	生体臓器の臓器壁の運動解析装置及び方法 cardioGRAF				

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
水口義昭，三嶋拓也， 横室茂樹，田尻 孝， 瀧澤俊宏	外科学第一・付属病 院第1外科(消化器外 科，乳腺外科，移植 外科，一般外科)	ヒトチミジル酸合成酵 素に対するRNAiとし て作用するRNA配列	特願 2004 68081 (2004/3/10)			学校法人日本医科大学
水口義昭，三嶋拓也， 横室茂樹，田尻 孝， 瀧澤俊宏	外科学第一・付属病 院第1外科(消化器外 科，乳腺外科，移植 外科，一般外科)	TGF 1レセプター 型に対するRNAiとし て作用するRNA配列	特願 2004 068151 (2004/3/10)			学校法人日本医科大学
野手洋治(多摩永山病 院脳神経外科) 中島武彦(ペンタック 入株式会社)	脳神経外科学・付属 病院脳神経外科	骨補填材	第 105172 号 (1997/4/7)	特開平 10 33578 (1998/2/10)	第 3548376 号 (2004/4/23)	野手洋治(多摩永山病院 脳神経外科)ペンタック 入株式会社
野手洋治，中島武彦	脳神経外科学・多摩 永山病院脳神経外科	骨補填剤	105172 (1997/4/7)		3548376 (2004/4/23)	ペンタックス株式会社
Kaseki H, Inagaki N, Inoue T	産婦人科学・第二病 院女性診療科・産科	Ring For Preventing Prolapse Of uterus And Urinary Bradder And Ring For Pre- venting Prolapse of Uterus And Rectum	10/283/072 (2002/10/30)	US 2004/0084054A1 (2004/5/6)	Int.Cl.7 A61F 5/48; A61F, U.S.C.I.128/885; 128/830 (2002/6/14)	Mukaiyama S
八木聰明，阿部 聡， 西辻順一	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	計測装置およびその方 法	特願平 09 311958 号 (1997/11/13)	特開平 11 137524 (1999/5/25)	特許第 3634598 (2005/1/7)	アレイ株式会社
池園哲郎，八木聰明， 大森 彬	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	外リンパ腫の検出方法	特願 2003 182860 (2003/6/26)			学校法人日本医科大学， 三菱化学株式会社
小川 令，水野博司， 百束比古，島田 隆	形成外科学・付属病 院形成外科・美容外 科	脂肪組織由来幹細胞か らの骨髄を形成するた めの組成物およびその 方法	特願 2004 133827 (2004/4/28)			学校法人日本医科大学

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
並松茂樹	付属病院病理部	抗原賦活化法及びその 抗原賦活剤	特願 2001 160424 (P2001 160424) (2001/5/29)	特開 2002 350430 (P2002 350430A) (2002/12/4)		並松茂樹
太田成男，麻生定光， 上村尚美	老人病研究所・生化 学部門	細胞死抑制/活性化タ ンパク質 FNK を用い た脱毛の防止	2005_071501 (2005/3/14)			学校法人日本医科大学
太田成男，麻生定光	老人病研究所・生化 学部門	細胞死抑制/活性化蛋 白質 FNK を用いた音 響外傷治療剤	2005_104212 (2005/3/31)	(2004/10/7)		学校法人日本医科大学
太田成男	老人病研究所・生化 学部門	DLST 遺伝子の遺伝子 多型を用いた骨粗鬆症 の発症リスクの予測	2004_508 (2004/1/5)			学校法人日本医科大学
太田成男，麻生定光	老人病研究所・生化 学部門	癌に特異的に作用する 細胞死誘導融合遺伝子 及びその遺伝子産物 CELL DEATH-IN- DUCING FUSED GENE ACTING SPE- CIFICALLY ON CANCER AND GENE PRODUCT THEREOF	PCT/JP2004/ 003956 (2004/3/23)	WO2004/085653 A1 (2004/10/7)		学校法人日本医科大学
太田成男，鈴木吉彦， 下方浩史，安藤富士子， 国立長寿医療センター 総長・東洋紡績(株)	老人病研究所・生化 学部門	血管障害性が関与する 疾患の易罹患性の判定 方法	2004_265760 (2004/9/13)			三枝国際特許事務所

## あ と が き

平成17年4月に第3期科学技術基本計画の重要政策（中間取りまとめ）が文部科学省から公表された。本計画では、人材、基礎研究、イノベーション、基幹技術、国際、の5つの戦略が重点項目として掲げられている。基礎研究戦略は、自由発想研究と政策目的研究の2つを柱とし、研究者の自由な発想に基づく研究は、科学の発展とイノベーションの創出の源泉であると明確に謳っている。このことは、本来、知の創造の場である大学におけるオリジナルな研究の大切さを再確認したものであり、全く同感である。本業績集においても、2004年度の原著論文数は約1,800件、その中で英文論文の割合は38%であり、年々国際的な発信が増えている。これらの数字から、本学においても個々の研究者あるいは研究グループが新たな知の蓄積を行うべく、切磋琢磨している現況が読み取れる。一方、5つの戦略の1つとして、イノベーション戦略が掲げられている。これは論文発表にとどまらず、連続的にイノベーションを支援し、研究成果をしっかりと社会還元することを目指したものである。今回の業績集から、申請した知的財産が報告されるようになった。知的財産に関しては本法人知的財産・ベンチャー育成（TLO）センターのご支援を受けて行われているが、2004年度の掲載件数は25件であった。知の創造にとどまらず、その活用に向けた社会的な要請は益々強いものになっていくと考えられる。その点で、より目に見える形の成果として、本学知的財産の今後が期待される。

一見、毎年同じ様に編纂を繰り返されると思われがちな業績集の中にも、確実に研究自体とそれを取り巻く状況の変化は反映されているようである。大きな潮流の中で、ある面、流れを受け入れながらも、粛々と個性溢れる仕事を続けていきたいものである。創造的基礎研究にせよ、社会還元的成果にせよ、突然表われるものではなく、地道な実験や臨床データの集積から生まれるものである点に変わりはないと考えている。

最後に研究業績入力ホームページ作成にご協力いただきました情報科学センター伊藤高司先生、渡部昇先生、また、実際の編纂をしていただいた大学院課担当各位に謝意を表します。

研究委員会委員長 鈴木 秀典

平成18年 1 月 25 日 印 刷

平成18年 1 月 31 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 委 員 会

〒113 8602 東京都文京区千駄木 1 1 5

T E L 03 ( 3822 ) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114 0024 東京都北区西ヶ原 3 46 10

T E L 03 ( 3910 ) 4 3 1 1 5